加越能文庫解説目録

下　巻

金沢市立図書館

序

加越能文庫の解説目録の編さん事業は，昭和50年３月発刊の上巻にはじまり，この度の書名索引を附した，本下巻の発刊により，昭和39年から同41年に亘って作成した稿本「加越能文庫目録」上・中・下および補遺をあわせ，この一連の計画が一応の完了を見ることになりました。

かえり見ますと，昭和23年に本市の懇望によって，加賀藩内外の得難い典籍の宝庫を受け継ぐ，前田育徳会尊経閣文庫から，郷土の一級資料として寄贈を受けて以来，その目録の編さんが焦眉の問題として喧伝されて，なお33年の長い歳月の詳査を要しようやく今日を迎えることができましたのは，各界の暖かいご支援に恵まれた賜と感慨無量のものがあります。

この間，一方では，昭和47年から加越能文庫のマイクロフイルム作成に着手し，資料保存の万全化と閲覧および複写の便利化を目指し，第一次計画の完了を，昭和61年度に置いて，順次実施中であります。又本図書館創設の建物も50年を経て時代の変遷と老朽化には抗し難く，新時代に対応できる図書館の建設に対する要望は，昭和54年に新館の開館によって果されました。

加越能文庫を中心とした近世文書・資料の恒久保存の書庫や閲覧の施設なども完備して，面目を一新し，調査研究のために，一層良い環境を，ご提供できるようになりました。

今後地方史の研究者および全国の歴史研究者の方々には，本目録および上巻と併せて，その研鑽の一助に加えられ，充分なご活用によって文化の向上に貢献されることと，これを基に更に関連資料の研究が進められることを期待する次第であります。

なお，この加越能文庫解説目録に緒を付けられた，金沢大学の下出積與先生，篤学を以て，加越能文庫の整理につくされながら志し半ばで亡くなられた伊藤茂氏，さらに同氏と共に本目録上巻を完成され，引続き本目録を献身的なご努力によって完成に導かれた金沢大学の高沢裕一先生はじめ，多くの諸先生方のご労苦に対し，深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

昭和56年３月

金沢市教育委員会

教育長　桑　田　良　夫

凡　例

1　本目録は，金沢市立図書館が所蔵する加越能文庫（記号＝特16）の解説目録で，既刊の稿本目録を再検討し，必要に応じて細目と略解を加えたものである。

2　資料を内容に即して０～９に大区分し，上巻にはそのうち，０総記，１藩主，２藩制，３藩士の四項を，下巻には，４政務，５軍事・藩学，６藩治，７産業，８学問，９文芸と補遺を収載した。

3　大区分を，さらにそれぞれ０～９に小区分した。小区分は，資料の分量に応じてさらに細区分し，適宜，記号を伴わない小見出しを付した。

4　細区分内の配列は，内容の年代順あるいは五十音順，同一内容では，原本・副本・複写本・抄本の順を原則としたが，時に変更を加えたところもある。

5　特16.31—藩士のうち，明治初年金沢藩臣の「先祖由緒并一類附帳」は上巻の巻末に，特16.88—本草・医薬のうち「庶物類纂」の細目は下巻の647頁以降に別載した。

6　記述はカード形式による分類順とし，第１行　標目（ゴジック活字），第２行　編著者名，第３行　出版事項，第４行　対照事項，第５行以下　註記・解説とした。

7　標目（題名）の左の数字は資料の一連番号を示し，右の数字は資料の請求記号である。

8　標目は資料の題名（書名・文書名）で，無題のものに付した題名，または原題を省略あるいは補ったものには〔　〕を付し，原題名を註記欄に記入した。

9　編著者は，編集者または原著者を示し，（　）内は別名・通称・雅号などである。

10　出版事項は自筆・手写の別，筆者（版本については出版者），手写または出版年（西暦）とした。

11　対照事項は，形態，数量，法量，装釘などを示すものである。形態は，冊子，合綴，仮綴，巻子絵図などに区別，数量は，冊子で１冊のものは墨付丁数を，２冊以上のものは冊数のみとした。文書は通数，絵図は枚数を記した。法量はたての寸法をセンチメートルで表わし，小数点以下は２捨３入した。ただし，特殊な形のもの，または絵図はタテ×ヨコの寸法をとった。また，包紙，袋，箱に入ったものはその旨を記入した。

12　註記欄には，資料の原題，内題，別名，旧蔵者，内容年代，叢書・合綴書の細目，内容の略解などをいれた。

13　欄内の①②……は冊次を示すもので，乾坤，天地人などの巻次は省略した場合がある。

14　現在までに刊行されている資料については，努めてこれを記入した。

15　使用した字体は，概ね原題に従ったが，適宜当用漢字を用い，また，「扣」や「𠮟」などは，それぞれ「控」「ヨリ」などとした。

16　書名（題名）索引は，目録下巻の巻末に収載した。

17　既刊の目録における題名で変更されたものが若干あり，旧書名でも検索できるようにした。

分類表

	0 総記	1 藩主	2 藩制	3 藩士	4 政務
0	図書・書誌・図書館	系譜	領知	知行	総記
1	目録・索引	年譜	勤役	家格・系譜	年寄・家老・若年寄方
2	百科辞書・節用集	事蹟	参勤	相続・縁組	近侍御用
3	叢書・全集	交際	法令	規式・勤仕	組支配
4	新聞	作法・生活	公儀状・建白	家伝・旧記・列伝	公事方
5	雑記	出行	御親輪	屋敷	諸場等
6		吉凶	職制	家事・陪臣	横目方
7		御書	勤方制規	私文書	火消方
8		城館	藩史	私記録	財政
9		支藩	支藩・預所	支藩	

5 軍事 藩学	6 藩治	7 産業	8 学問	9 文芸	補遺
軍役	総記	産業一般	宗教・哲学	総記	
戦役	寺社方	農業	武学	詩歌	
出張	町方	林業	歴史	小説・文章	
軍務・調練	郡方	漁・猟業	官職・典故	随筆・風刺	
武具	改作方	製塩業	地誌	日本語	
施設	土地・貢租	鉱業	法政・経済	彫刻・工芸	
海防	戸口・身分	製造業	教育・社会	書画	
藩学	災害・治安・救恤	金融・商業	和算・天文・気象	歌舞・音曲	
	支藩・預所	陸運	本草・医薬	遊芸・行楽	
		水運	建築		

目　次

特16. 4　政　　務

特 16.40　総　　記 …… 1

勤方例記・旧例
覚　留　類
毎日帳書抜
役務日記
建言・意見書

特 16.41　年寄・家老・若年寄方 ……25

勤方例規
触達・覚留類
政務日記

特 16.42　近侍御用 ……56

近　　習
御付御用
奏者方
御名代
御使方
使　　番

特 16.43　組支配 ……72

人　持　組
城代・城番
（金沢・小松城代）
（小松城番）
諸　　組
（馬廻組）
（御番方）
（小将組）
（番頭・物頭）
（その他）

特 16.44　公事方 ……87

触達・勤方覚留類
（公事場）

（盗賊改方・喧嘩追掛者役）
御刑法帳類
仕置例規
（旧例）
（一件記録・文書）
牢帳類
特 16.45 諸場等 …… 100
普請方
作事方
会所
割場
細工所
江戸詰
京都詰
式台・道中長柄
奥納戸・台所方・御膳方
廐方・鷹方・餌指方
特 16.46 横目方 …… 110
特 16.47 火消方 …… 116
特 16.48 財政 …… 125
触達・勤方覚留類
（算用場）
（御勝手方）
（倹約方）
廻米・払米
貨幣
収支
諸役所収支・勘定・買物
家中扶持・貸付・借知
領内貸付・取立
借財・調達金
預所

特16. 5 軍事・藩学

特 16.50 軍役 …… 156
軍役

軍　　装

特 16.51　戦　　役 …… 163

末森の役
大聖寺・浅井畷の役
大坂の役
北越戦争

特 16.52　出　　張 …… 176

総　　記
飛州出張
葉原出張
長州出張
上洛・出府・守衛
糧道方

特 16.53　軍務・調練 …… 187

軍制・軍法
備立・人馬積
警　　衛
調　　練

特 16.54　武　　具 …… 195

特 16.55　施　　設 …… 199

弾薬所
鋳造・製鉄所
的場・角場

特 16.56　海　　防 …… 203

献策・触留
注進・風説
測　　量
警　　固

特 16.57　藩　　学 …… 210

管理・運営
師範・講師
講義・稽古
施　　設
富山・大聖寺藩

特16．6　藩　　治

特 16.60　総　　記 …… 218

町　況・村　況
（町方）
（郡方）
（浦方）
町　名・村　名
（金沢町名）
（村名）
町絵図・郡村絵図
（町絵図）
（絵図作成調理）
（郡絵図）
（村絵図）
（浦方絵図）

特 16.61　寺　社　方 …… 234

寺　社　方
（勤方覚留類）
（役務記録）
寺　社　制　規
寺　院・神　社
（寺社書上帳類）
（寺号・社格等）
寺　誌・社　誌
僧　職・神　職
教　　義
仏　事・神　事
堂　舎・境　内
寺　社　領
寺　社　経　営

特 16.62　町　　方 …… 281

町奉行勤方覚留
町　方　制　規
町　方　記　録
町　役　人
貢　　租
御用地・請　地

町人由緒・旧記

特 16.63 郡　　方 …… 296

郡奉行勤方覚留
郡 方 定 書
御　用　留
浦方定書・御用留類
郡方役人勤方
郡方役人由緒・任免

特 16.64 改　作　方 …… 323

改作奉行勤方覚留
改作方御用留

特 16.65 土 地・貢 租 …… 331

総　　記
高辻帳・村御印
（高辻帳）
（村御印）
検 地・歩 刈
新 開・変 地
（新開）
（変地・引高）
草高・定納・小物成・夫銀・万雑
（草高・定納）
（小物成・夫銀・万雑）
収納・御蔵・蔵宿
（収納）
（御蔵）
（蔵宿）
川 除・用 水
持　　高
田 地 割

特 16.66 戸 口・身 分 …… 370

人 口・家 数
扶 持 人
褒　　賞

特 16.67 災害・治安・救恤 …… 373

火　　事
地　　震

飢饉・疾病
一揆・騒優
御小屋

特 16.68 支藩・預所 …… 378

富山藩
大聖寺藩
預所

特16. 7 産業

特 16.70 産業一般 …… 383

産物調査
産物仕法

特 16.71 農業 …… 390

農業技術
農産
畜産

特 16.72 林業 …… 393

植付・伐採
山論

特 16.73 漁・猟業 …… 401

漁業
捕鳥

特 16.74 製塩業 …… 404

特 16.75 鉱業 …… 405

鉱山
硫黄・石灰・呉須

特 16.76 製造業 …… 409

特 16.77 金融・商業 …… 412

金融
物価
商業

特 16.78 陸運 …… 414

道路・里程

関所・宿駅・人足

特 16.79 水　　運 …… 422

出　入　津
難　　船
運 河 計 画

特16. 8 学　　問

特 16.80 宗 教・哲 学 …… 424

総　　記
神　　道
仏　　教
儒　　学
国　　学
倫 理・道 徳

特 16.81 武　　学 …… 430

軍 学 書
戦 史・戦陣訓
軍 役・陣 備
城　　取
城　　図
武　　術
（弓術）
（鳴弦・蟇目）
（刀・槍術）
（馬術）
（火術）
（水学）
（平法）
武　　具
（弓矢）
（刀槍）
（甲冑）
（火器）
（その他）
海　　防
洋 式 軍 制

特 16.82 歴　　史 …… 496
総記・通史
(日本史)
(外国史)
(雑史)
文書・記録
(文書)
(記録)
軍記・家記
系図・家譜
(武家)
(武家以外)
伝　　記
(武家)
(武家以外)
特 16.83 官職・典故 …… 528
朝廷・公家
武鑑・官職
武家典礼
特 16.84 地　　誌 …… 537
地誌一般
(領内)
(領外)
城跡・城図
(領内)
(領外)
漂流記
特 16.85 法政・経済 …… 558
政治論
法　　規
政情・民情
外　　交
経　　済
特 16.86 教育・社会 …… 591
教　　育
生活・礼法

奇談・仇討・犯罪
特 16.87 和算・天文・気象 …… 596
算法・測量
暦
気象・地震
特 16.88 本草・医薬 …… 598
本草
医・薬
特 16.89 建築 …… 601

特16. 9 文芸

特 16.90 総記 …… 603
特 16.91 詩歌 …… 605
歌論・詩歌集
詩
和歌・連歌
俳句
今様
狂歌・風俗歌
特 16.92 小説・文章 …… 612
小説
文章
特 16.93 随筆・風刺 …… 615
随筆・日記・紀行
風刺・滑稽
特 16.94 日本語 …… 619
特 16.95 彫刻・工芸 …… 620
木工・家具什器
石工
鍛冶
陶冶
染織
漆工・箔工

特 16.96 書　　画…… 623
書　画　論
書　　道
絵画・銘・篆刻
特 16.97 歌　舞・音　曲…… 626
音　曲・舞　踊
能
謡　曲・狂　言
特 16.98 遊　芸・行　楽…… 633
茶　道・香　道
料　理・将　棋
蹴鞠・相撲・狩
補　　遺…… 636
庶　物　類　纂　細　目…… 647
書　名　索　引……*1～158*

特16.4 政　　務

特16.40 総　　記

勤方例規・旧　例

3910 覚書　16.40—1

24丁　8×18cm

前田貞醇旧蔵。寛文～明和期に旧例をとり，不時寄合，遺書，式日，飛脚歩，喧嘩変死，出奔人，乱心殺害，出火類焼，普請鳴物，月切，駕籠乗用，御赦，看病，公私年忌法事の項目に分けて記した袖中録。

3911 寛文五年諸事覚書　16.40—2

手写　寛文5年(1665)

5丁　12.5×18.5cm

中川典克旧蔵。役人割り，江戸御供人の日用扈方に関する令(寛文5年3月10日)，忌引日数の覚，町廻り横目の御門通行についての書留め。旧書名「諸事覚書」。

3912 御書校合立合之儀ニ付被仰出之写　16.40—3

3丁　24.5cm

中川典克旧蔵。公儀へ提出する公文書の格について寛政5年の取捌き方規定。

3913 御勤方等留　16.40—4

前田織江著

自筆　寛政8年(1796)

37丁　12×18cm

前田道益旧蔵。織江は道済（路博）であろう。当時は小松城番。これは藩公一族への進物，御精進日，江戸表の御装束，公義御祥月などを覚書したもの。

3914 文化雑記　16.40—5

前田家編輯方手写　明治年間

5冊　23.5cm

文化年間を中心とし，寛政5年(1793)～文政3年(1820)にわたる諸事例の記録。

①御弘，御判物頂戴，諸事御礼并御規式，当座御礼，出仕并不時登城，服附

②列方，御出一件等，御城中御巡見，御城中見分，御発駕御待請，伺公蹲踞，飛騨守様御幽城等，諸方御使者，御家中使者，御奉書，御書頂戴，経書講釈，誓詞一件

③御親翰等，言上，被仰出一件，御歩横目御横目足軽

④火事，諸方出産，一類御預并立会，御歩横目見届，触出，喧嘩，検使，御城中病人，乱心口論等，紛失物等，乗用并杖

⑤張文等，雑。

3915 諸事見聞雑録　16.40—6

手写

50丁　14×20cm

金沢より京・江戸参勤道中之日振，享和3年相改候御扶持之留，池田数馬御中ニ而持銃紛失に付届書付，御領国所より温泉江金沢より道程など雑多な役所関係の規定，旧例集。巻頭に53項の目次あり。

3916 諸願目録書抜　16.40—7

手写

94丁　24.5cm

表紙に朱字で「三冊之内」とあり。内容は，文化4年(1807)～慶応元年(1865)にわたる。役義并御番御免願，諸願雑，医者願，出家願，十村願に区分してある。

3917 諸方へ返書等之抜書　16.40—8

成瀬正敦手写　文政9年(1826)

2冊　12×18cm

成瀬正居旧蔵。「御用番請送之事」以下50の項よりなり，各職務并治安関係の請届書式・事例を記す。2冊目は追加分で，「此追加小幡氏より借用之本ニ而記ス」とあり。

3918 諸向へ返書等之抜書　16.40—9

手写　文化5年(1808)

58丁　25cm

富田権六郎旧蔵。表紙付記「此書山崎様より御借用写之」・「諸方之返書等抜書弐冊本多氏より忍備読合候処此帳同意ニ付不写之残一冊写取為追加」とあり。

3919　両支配諸方紙面大概　16.40—10
織田某手写　天保11年(1840)
49丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。41項よりなる書式の規定集。

3920　御書之覚留　16.40—11
35丁　14×20cm
臼井憲成旧蔵。内容は，公文書の書式例集で公義，大奥，諸方，内輪，家中などに分けて「御書方」の旧例を挙げている。

3921　覚帳六種　16.40—12
前田家編輯方手写　明治年間
152丁　23.5cm
内容は「三之御丸旧例書集覚書帳」「御使番代心得一巻」「江戸御小屋故障取捌等帳」「御規式之節御場所へ罷出御仮屋ニ於テ御祝頂戴之人々」「御番引書付」「嘉永四年亥三月御供人帳」。

3922　諸雑留　16.40—13
前田貞事（図書）著
自筆
85丁　11×17.5cm
前田貞醇旧蔵。御祥月附，御参詣御日取等之儀被仰渡，御寺御参詣等一巻など35項目の備忘留書。

3923　懐中必用辨　16.40—14
18丁　17.5×11cm
横山隆太旧蔵。公辺御忌日等，御家御日柄，同御忌日等など35項目より成る袖中備忘録。

3924　諸願申渡之留　16.40—15
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　25cm
縁組願，養子願，嫡子願，役義御免願，代番願，髪惣結願，髪剃落願，後住願，知行所割替願，御屋敷願などに対し，月番より許可を申渡した者の名前を列記してある。
旧書名「縁組養子等申渡之写」。

3925　〔御印物調候節之伺紙面〕　16.40—16
手写
1通　17cm
藩主の印物の所持者が報告書に印物の名宛人を「亡父　某」とすべきか「故　某」とすべきかを問い合せたもの。

覚　留　類

3926　公用雑纂録　16.40—17
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
本多政以旧蔵。万治以降，延享年間までの御用留類の抜書。上下2冊。内容に整序性は見られない。

3927　日記・残編五種　16.40—18
前田家編輯方手写　明治年間
132丁　23cm
内容は①寛文元年・2年日帳　②御横目方抜書之内(延宝6年～元禄2年前田直躬手記)　③天和2年多賀留記　④正徳5年日次抜書（前田直躬延享2年手写）　⑤元文3年当座覚書(前田直躬著）の5種。

3928　〔覚書〕　16.40—19
手写
39丁　24cm
寛文～文政期にわたる役務に関する留帳類の抜書。

3929　〔幕府・諸侯に関する言上〕覚　16.40—20
〔延宝3年(1675)〕
巻子1　25cm
報告事項の22項目を書上げたもので，加賀藩に関係がある幕府の政務についてのものが多い。閏4月は内容から延宝3年(1675)と推定できる。
旧書名「公儀に対しての覚書」。

3930　雑録備考抄附録　16.40—21
前田家編輯方編
明治年間
13冊　23.5cm
延宝期以降の藩庁関係その他諸種の史料から抜萃して編輯したもの。なお，庄田九兵衛(正守)は奥村氏の家臣であったが綱紀に仕え，和歌を

よくした。宝永5年没72才。

①元禄元年庄田九兵衛等手合日記之内
延宝6年正月ヨリ江戸へ言上之書状留帳之内
延宝6年年寄共手合日記之内
延宝7年年寄共申送帳之内
延宝7年3月ヨリ同8年7月迄江戸へ言上状留之内

②（同上）
延宝8年7月ヨリ9月迄状留之内
天和元年日記之内
天和2年庄田九兵衛等手合日記之内

③（同上）
天和3年正月ヨリ庄田九兵衛等手合日記之内
天和3年閏5月ヨリ庄田九兵衛等手合日記之内
天和4年正月ヨリ4月迄庄田九兵衛等手合日記之内

④貞享3年正月ヨリ5月迄日帳之内
貞享3年6月ヨリ12月日帳之内
延宝4年庄田九兵衛等手合日記之内
貞享5年庄田九兵衛等手合日記之内

⑤（同上）
元禄元年7月10日以後追補
元禄3年5月ヨリ6月まで木原勘左衛門・鰐源左衛門手合日記之内
元禄3年7月8日木原勘左衛門・鰐源左衛門手合日記之内
元禄3年9月10日木原勘左衛門・鰐源左衛門手合日記之内
元禄4年8月より庄田九兵衛・小川弥五左衛門・三上庄左衛門等手合江戸言上状留之内
元禄5年正月江戸言上状留之内
元禄6年2月ヨリ6月迄庄田九兵衛等手合状留之内
元禄6年7月ヨリ12月庄田九兵衛等手合状留之内

⑥（同上）
元禄7年状留之内
元禄9年庄田九兵衛等手合留帳之内
元禄11年庄田九兵衛等手合留状之内
元禄12年庄田九兵衛等同前留帳之内
元禄13年庄田九兵衛等手合留帳之内
元禄14年庄田九兵衛等手合留帳之内
元禄15年庄田九兵衛等手合留帳之内

⑦（同上）
元禄16年庄田九兵衛等手合留帳之内
元禄16年7月ヨリ江戸へ之状留之内
元禄16年7月ヨリ宝永元年迄庄田九兵衛等手合留帳之内
元禄16年7月15日ヨリ12月29日迄小川七右衛門，久能猪左衛門手合御在江戸日記之内
右同年と見へ而上書無之帳之内
未7月25日ヨリ申ノ7月26日御帰迄御在江戸諸事留帳加藤長助・大窪九右衛門と上書有之帳之内

⑧（同上）
元禄16年・同17年於江戸御馬方覚帳，小川七右衛門・加藤長助加ル上書と有之帳之内
元禄16年・17年於江戸買上之鞍共箱蓋之内書付之留アリ
宝永元年7月丹羽遠江守様へ御用儀ニ付御家来被指遣候留，久能猪左衛門と上書有之帳
於金沢木村渕進家来之儀ニ付公事場ヨリ申来一巻と上書有之帳之内
宝永2年7月ヨリ12月迄於江戸久能猪左衛門・瀬尾平進日記之内
宝永2年7月ヨリ御在江戸諸事留帳，久能猪左衛門・瀬尾平進と上書有之帳之内
宝永2年7月ヨリ御在江戸御近習中へ被仰出品々其外諸事留，久能猪左衛門・瀬尾平進と上書有之帳之内
宝永2年7月ヨリ御在江戸中諸事留帳，加藤長助・高山宮内と上書有之帳之内
宝永3年2月3日山岸団丞家来市内於江戸欠落一巻并立帰一巻禁籠之時分品々留有之と上書有之帳之内
宝永3年6月御帰国一巻伺之留帳，久能猪左衛門・加藤長助・高山宮内と上書有之帳之内
宝永4年7月御道中日記，久能猪左衛門・庄田作輔と上書有之帳之内
宝永4年7月25日ヨリ12月迄久能猪左衛門・庄田作輔日記之内
宝永4年若火事之刻御行列附并御定書等被仰出之帳，久能猪左衛門・庄田作輔と上書有之帳之内

⑨宝永4年火事方之帳
宝永4年7月ヨリ同5年・同6年御真筆并御加筆御請之留附諸事覚之留帳，久能猪左衛門

・庄田作輔と上書有之帳之内
宝永４年・同５年・同６年諸事留帳，久能猪左衛門・庄田作輔と上書有之帳之内
宝永８年４月16日ヨリ同27日迄十一泊御道中日記，瀬尾平進・庄田作輔を上書有之帳之内
正徳元年４月27日ヨリ瀬尾平進・庄田作輔手合江戸日記之内
⑩（同上）
宝永８年在江戸中定書と上書有之帳
宝永８年辛卯・正徳２壬辰御在江戸諸事留帳，瀬尾平進・庄田作輔と上書有之帳之内
正徳元年辛卯11月４日ヨリ御紋尉一巻，庄田作輔・鶴見辜進と上書有之帳之内
正徳２年正月ヨリ４月14日迄瀬尾平進・庄田作輔手合江戸日記之内
正徳２年４月江戸御帰御道中日記，瀬尾平進・庄田作輔と上書有之帳之内
享保17年７月18日ヨリ瀬尾弥五左衛門・庄田作左衛門手合於江戸日記之内
享保21年瀬尾弥五左衛門・庄田作左衛門手合江戸万留帳之内
元文元年道中定書
元文元年道中勤方定
元文元年近習廻道中勤方覚
⑪元文元年在江戸中定書
元文元年在江戸役附
元文元年近習廻在江戸役附
元文元年７月19日ヨリ同年12月迄於江戸瀬尾弥五左衛門・庄田作左衛門手合状留之内
延享元年御婚礼御用江戸御用諸事留帳，斉藤与右衛門・村田五左衛門と上書有之帳之内
延享元年道中勤方
延享元年４月15日ヨリ５月20日迄御婚礼御用御在江戸中日記，村田五左衛門と上書有之帳之内
延享元年従４月15日至５月21日御婚礼御用御在江戸日記と上書有之帳之内
延享２年６月江戸方留帳，瀬尾弥五左衛門・庄田作左衛門と上書有之帳之内
⑫（同上）
延享２年７月道中勤方之帳
延享２年７月近習之者等道中勤方帳
延享２年７月在江戸定
延享２年７月在江戸中定役之外兼役等之帳
延享２年７月28日ヨリ８月17日迄御在江戸日記と上書有之帳之内
延享３年12月ヨリ同４年２月迄御在江戸中瀬尾弥左衛門・村田五左衛門日記之内
寛延２年２月22日ヨリ江戸日記と上書有之帳之内
享保９年納戸役手前ニ有之衣類方日記之内
享保11年之頃規式附之帳取次役手前ニ有上書，来年頭規式之覚
文久３年衣類方日記之内
文久４年衣類方日記之内
寛保元年衣類方日記之内
寛保３年衣類方日記之内
延享２年衣類方日記之内
延享３年衣類方日記之内
⑬（同上）
延享４年３月ヨリ衣類方日記之内
寛延元年衣類方日記之内
寛延３年衣類方日記之内
宝暦元年衣類方日記之内
宝暦２年衣類方日記之内
宝暦３年衣類方日記之内
宝暦４年３月23日より衣類方日記之内
宝暦５年衣類方日記之内
宝暦６年衣類方日記之内
宝暦７年衣類方日記之内
宝暦８年衣類方日記之内
宝暦９年衣類方日記之内
元文元年執次役日記之内
元文２年８月と見へて薄墨帳之貼紙一葉左之ことし
元文２年と見ゆる執次役日記之内
元文５年執次役日記之内。

3931　御年表　　16.40—22
手写
２冊　23cm
高畠氏所蔵の写。天和４年(貞享元年1684)～元文元年(1736)の役向きのこと，法令・火災などについて記録したもの。年月日順に項目的に簡略に記述している。

3932　吉田文右衛門訴状一件　　16.40—23
手写

81丁　23cm
貞享4年(1687)11月28日，浪人吉田文右衛門が江戸筋違橋の辺で御側衆中宛に奉公願いの訴状を出した一件の記録。
旧書名「吉田訴状一件」。

3933　小松重堅訴訟之記　16.40—24
手写
30丁　23.5cm
元禄9年(1696)正月15日，江戸の浪人小松重堅が5代藩主綱紀に金助町で召抱方懇願の直訴を行なった一件。

3934　小松助右衛門訴状一件留　16.40—25
手写　安政3年(1856)
33丁　24cm
前田栄次郎旧蔵。有馬中務大輔浪人小松助右衛門重賢が元禄9年正月15日御登城の時江戸金助町で仕官を願う訴状を上げようとした一件の記録。

3935　〔覚書〕　16.40—26
手写　元禄9～10年(1696～97)
42丁　12×18cm
前田貞醇旧蔵。外題は「丙子(元禄9年)十二月下聞合，丁丑(同10年)正月分」。江戸における幕府，諸大名の役人，交際，出火，病気など政務上の留記。

3936　元禄寛政間手記　16.40—27
横山政和編
手写
90丁　23.5cm
内容
○元禄至宝永不破為儀先代之手記
○享保7年横山蔵人政寛書抜
○寛政5年前同人雑帳
○享保3年已降横山蔵人政孝覚帳
○享保19年至元文2年前田土佐守自覚
○前田直行先代之記録
○寛政11年覚書。
旧書名「手記」。

3937　〔成瀬内匠書状〕　16.40—28
成瀬当栄著
正徳6年(1716)
1通　31cm
4月18日付，大野木舎人宛。湯治先より藩主へ「かたこの実」なばを献じたことに対する藩主書状に添えたもの。成瀬当栄は当時定番頭。

3938　御定目拝見相済候人々覚帳　16.40—29
11丁　11.5×18cm
御徒横目，賄方与力，御料理頭の役を持つ人々の名が享保9年(1724)～万延元年(1860)にわたって月日を記載して書きつがれている。

3939　覚聞書　16.40—30
手写　享保16年(1731)
4丁　12×17.5cm
近江領のこと，町人借用米値段，足軽，会所銀，上使，御普請会所のことなどについての覚書を集めたもの。

3940　諸事被仰出等記　16.40—31
17冊　20cm
藩庁からの令達を日次に記録したもの。とくに家中の人事について詳しい。筆者，役職は不詳である。
①諸事被仰出等記8　延享4年8月～寛延元年12月
②　〃　9　寛延2年正月～3年12月
③諸事被仰出日記10　〃　4年正月～12月
④諸事被仰出等日記11　宝暦2年正月～3年5月
⑤　〃　12　〃　3年5月～10月
⑥御当代諸事被仰出記13　〃　3年10月～4年12月
⑦諸事被仰出日記14　〃　5年正月～11月
⑧　〃　15　〃　6年正月～7年8月
⑨御入国以来被仰出日記16　宝暦7年～8年
⑩諸事被仰出日記17　宝暦9年
⑪　〃　18　〃　10年
⑫　〃　19　〃　11年
⑬　〃　20　〃　12年
⑭　〃　21　〃　13年

⑮諸事被仰出日記22　宝暦14年
⑯　〃　23　明和2～3年
⑰　〃　24　〃　4年～5年。

3941　謙徳公御代日記　16.40—32
手写
72丁　23.5cm
内容は，寛延4年(1751)～宝暦3年(1753)の藩当局の主要事項(吉凶，交際，とくに人事など)の年代記。謙徳公は8代重熙。弘化4年(1847)写本の写。

3942　御親翰留　16.40—33
不破浚明(和平)編
自筆　明和9年(1772)
39丁　24cm
不破順命旧蔵。漢字の読み方，字義などについての藩主との往復書簡の留。

3943　懐秘要略　16.40—34
手写
43丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。天明元年(1781)～文政元年(1818)の付札物類を集めたもの。内容は公事場関係が主で，郡方支配，学校方なども含む。

3944　御親翰留　16.40—35
高畠厚定編
寛政3～4年(1791～92)
29丁　11×16.5cm
高畠眸旧蔵。高畠五郎兵衛が金沢町奉行職の外に，惣様人品善悪，役職に選任すべき人物，役人の評判などについて下問する旨を申付られ，度々の下問に答えたことの留書。

3945　御親翰留　16.40—36
高畠厚定編
寛政6年(1794)
1丁　12×17.5cm
高畠眸旧蔵。遠所平士役に取立てるべき候補者の人品についての下問とそれに対する返答。

3946　〔奥村氏〕雑覚書　16.40—37
手写　寛政12年(1800)～享和2年(1802)
8丁　23cm
奥村栄滋所蔵の写。親翰の返書例，1人扶持，判物・印物頂戴人の代理人について，公儀御城米船来着の江戸への報告など旧例のほか，享和2年町在等御調達銀高，享和2年御収納米高大綱などを含む。
旧書名「雑覚書」。

3947　〔板倉伝右衛門廻状〕　16.40—38
板倉伝右衛門手写
2通　15cm
文化4年(1807)御親翰を以て被仰出につき。正月24日付，正月28日付の2通。
旧書名「御親翰を以仰出之趣演述覚書写」。

3948　御請御届紙面留帳　16.40—39
手写
162丁　25.5cm
横山隆起旧蔵。文化13年(1816)～天保5年(1834)のもので，横山蔵人関係の御用上の書類を収載している。蔵人は政孝(1万石)。享和元年相続。文化元年火消役，同8年再役。天保元年より慶寧の御用主付をつとめた。同7年没。

3949　文政年間諸事留　16.40—40
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(260丁)　25cm
文政年間の公用記録(被仰出之覚，御親翰之留，御用留類や見聞志)より抄写したものを綴り合せてある。家中の生活規式，また郡方仕法についての記録が多い。
旧書名「諸事留」。

3950　諸事留帳　16.40—41
手写
14丁　21cm
巳年・戌年の不作，川上芝居禁止，百歳の者に鳥目施与のことなどがみえるので，斉泰の天保期の施政について記していることがわかる。

3951　遺書調方ニ付年寄中被仰聞趣　16.40—42
遠藤数馬著
手写
2丁　24cm

遠藤数馬高環が天保8年遺書文面の簡略化の指示に従い自分の遺書を御用番に問合せて書直したことを記してある。

3952　御触案　　16.40—43
手写
巻子仮綴1(16丁)　16.5cm
早川随勝旧蔵。江戸西丸炎上につき借知，指上金，鳴物禁止，文武稽古，江戸城本丸普請の公儀触，会所銀貸高，天保14年御用金のことなどの御触書を収めている。

3953　〔赤井直喜手録〕　　16.40—44
赤井直喜著
自筆
3冊　12×18cm
①「定番御番頭当用雑誌」　番頭の支配上の規式の留
②「備忽忘」　安政3年(1856) 8月の日附あり。内容は，安政元年の算用場并大坂金銀銭打込払決算，安政2年正月残額の総借財調理，江戸大坂借財調理，半納召米并御払米，東丸金蔵立金調理，安政2年家中知行高，同年家中扶持高，領国中町在并寺庵等調理，金沢(家中)銀貸方之覚などの留
③(表紙欠，前欠)　安政4年2月～同5年2月28日迄の日次公務覚書。
直喜(なおひろ)は，禄300石。当時の役職についていえば，安政3年3月御先手物頭，金谷御広式御用，同年8月6日御勝手方御用，同4年3月4日御次銀主附，同年12月11日御留守居物頭，万延元年(1860) 6月二の丸御広式御省略方主附。
旧書名「定番御番頭当用雑誌等」。

3954　〔御触写〕　　16.40—45
手写
1通　15.5cm
早川随勝旧蔵。内容は元治元年(1864)の触。御忌日ニ付触と京都宿所についての触との両通の写。

3955　〔法令案文意見書〕　　16.40—46
1通　24cm
法令の文章について添削すべき箇所をメモしたもの。

3956　〔締り項目覚〕　　16.40—47
1通　12cm
中川典克旧蔵。風俗，役人，学校等に関する取締り事項の箇条書き。
旧書名「御触項目」。

3957　言上書概記　　16.40—48
前田家編輯方手写　明治年間
56丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，藩主へ報告した政務事項を，月日ごとに項目的に記したもの。

3958　〔役人附・番割等の覚〕　　16.40—49
仮綴3(25通)　12～28cm
中川典克旧蔵。馬廻頭などの役人附，江戸御供人役割，御用番の番割，銀子拝領人名などの役務関係書類綴。
旧書名「御歩行横目足軽被下銀之覚等」。

3959　覚書　　16.40—50
成瀬某著
手写
18丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。内容はつぎの11項目。御知行格式等之内書抜，借牢者一件，急度取捌并御扶持方小払渡ケ条書，町夫之御定，御領国中所々御蔵所，諸郡組数，御領国中所々御塩蔵所，三刕七木御定，歩入定，御領国中高札所，書状案文。

3960　中川式部宛達状　　16.40—51
1通　17cm
8月27日付，中川式部宛，登城御目見の通知。
旧書名「玉井勘解由達書」。

3961　〔成瀬監物申達状〕　　16.40—52
1通　35cm
前田貞醇旧蔵。2月16日付前田図書宛。藩主より御腰の雁1つ下賜につき。
旧書名「成瀬監物書状」。

3962 〔届書等綴〕 16.40—53
手写
4通 16cm
不破順命旧蔵。忌明出勤の届，藩士の居宅焼失につき借知半減御用捨の年限延期許可状，割場横目呼出状など。
旧書名「伊藤主殿書翰外」。

3963 〔有沢才右衛門御親翰請書調筆につき口上書〕 16.40—54
有沢才右衛門著
自筆
1通 16cm
4月2日付。御親翰請書の執筆・清書が病気のため遅れ，清書が拙いことについて記す。
旧書名「有沢才右衛門口上書」。

3964 留帳鈔録 16.40—55
前田家編輯方手写 明治年間
24丁 24.5cm
数種のものを合せたもので，内容は特定されていない。
旧書名「岡島忠四郎書簡等」。

3965 於京都御認上ニ成候御国情之写 16.40—56
手写
1通 23.5cm
前田恒敬旧蔵。王政復古，朝廷恭順の意を表したものの書き写し。

3966 京師・御国へ之御用状聚 16.40—57
明治元・2年(1868・69)
仮綴1(2冊・161通) 25cm
明治元年・2年(1868・69)にかかる海軍御天覧の事など御用状留。

3967 維新以来御達等 16.40—58
前田家編輯方編
明治年間
82丁 23.5cm
内題「御記録焼失ニ付維新以来御達等謄写可指出御達ニ付而之調也」。内容は明治元年～4年。

3968 陸原惟厚備忘録 16.40—59
陸原慎太郎惟厚著
手写
2冊 26.5cm
明治初年の金沢藩などの制度・財政に関する記録。第1冊は目次なく第2冊は目次あり。惟厚は明治元年加賀藩の貢士，ついで金沢藩少参事となる。
①明治改元の詔，東京行幸供奉人，月給規則，加越能三州惣御物成。明治元年御米図り，明治元年中御算用場御土蔵金銭入払，明治元年12月引替所調理銭札，明治2年8月従前国用惣会計書出候写，明治2年3月惣草高調理，明治2年9月五ヶ年平均収税書出之写，人口戸籍調理，明治2年春御家中知行并人員調調理，明治2年7月御家中給知之面々惣人員理，御改革ニ付御親翰写暨官へ御届之品々等留之内抜萃，藩士従前之給禄，正雑租税惣高，金沢町惣人数，士族中惣屋舗数，明治元年同2年分御蔵入惣本勘米，三州御支配地通用楮幣高，その他
②金沢藩改革目，従前国用総会計大綱，士族卒族等人口戸数等調帳，支配地人口戸数帳，社寺人口戸数等調帳，兵隊役員等調帳，船数調帳，公廨入費等取調，旧金沢藩札新貨比較通解表，給禄十分一除金仕法書。
旧書名「備忘録」。

3969 押留 16.40—60
執政席等編
3冊 24.5cm
金沢藩の公式帳簿。
①明治2年3月「押留 執政席」 通用金の支出，書類の発信，受付などを日次に記録したもの
②明治2年正月，同3年「割符押留 割符所」発・受した書類を写し取って綴ったもの
③辛未9月「押留 前田家用弁方」 書状2通と覚1項目。

3970 御用申送帳 16.40—61
明治2年(1869)
602丁 24cm
「御間詰」の役人，脇本，山本，松田，磯松が

書留めた公用書類綴。9月～12月の間の，ほとんど人事関係の内容である。

3971　御家政向御改革黜陟帳　16.40—62
御家令席編
385丁　24cm
明治2年(1869)～同4年(1871)の金沢藩の各種職務任免・移動辞令集。黜陟とは官位を上げ下げする意。

3972　定押留　16.40—63
金沢藩財用方編
329丁　24cm
事務通達類の留で，明治2年(1869)10月～同5年(1872)。しかし，それに綴り足して明治7年以降15年まで及んでいる。

3973　問遣方来書　16.40—64
金沢藩公務方編
明治3年(1870)
79丁　25cm
金沢藩問遣方の公式帳簿で，正月から6月迄の来書を写し，また現物を綴じ込んである。当時問遣方は神保権大属・坪内少属の2人が勤めていた。

3974　問遣方往書　16.40—65
金沢藩公務方編
明治3年(1870)
135丁　24.5cm
金沢藩の公式帳簿で，問遣方の正月から閏10月にいたる発送文書などを書留めてある。

3975　〔金沢藩知事賀正状控〕　16.40—66
手写
1通　43×57.5cm　袋入
金沢藩知事前田慶寧の賀詞を記した竪紙。
旧書名「恭敏公賀正書控」。

3976　御書留　16.40—67
金沢藩書佐方編
手写
87丁　24cm
金沢藩知事から他の藩知事，公卿，寺院，知人への書簡留で，内容はほとんどが季節の挨拶。日付は明治2年(1869)12月～同4年(1870)8月の間のもの。

3977　〔明治四年雑録〕　16.40—68
116丁　25cm
明治4年(1871)正月～9月の公文書写。

3978　諸事旧記等抜萃　16.40—69
前田矩正編
自筆　天保11年(1840)
16丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容は変死人取捌，殺生方などの旧記抜書。矩正は，寺社奉行兼公事場奉行を勤め，天保11年6月11日若年寄となった。

毎日帳書抜

3979　毎日帳早繰書抜　16.40—70
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。内題「毎日帳書抜早繰等内書抜」。正徳年中～文政年中の分を項目的に記すが，年代は順不同。

3980　毎日帳書抜　16.40—71
手写
9冊　24cm
全13冊のうち9冊分。内容は宝暦元年(1751)～文化4年(1807)分の抜書で次号のような索引風よりも詳しく写し取ってある。
①最初に欠本の一冊(表紙と出奔の項1丁分)を綴じ込んである。完本の方の内容はつぎのごとし。諸頭諸役人，御横目，小松，御預地，収納方，御普請役
②年頭御礼人等都而御礼人且献上物等
③御書等，御判御印物，出仕等，御能御拝領之品御披御弘，御鷹野等都而御出
④寺社方，公事場方
⑤年寄中諸事，御家老中若年寄
⑥(諸願之部)縁組，養子等，役義等御免代番，惣結等願名替，出家願，御屋敷願等，御暇願看病願，他国江子弟召連願，他国通路
⑦転役等吉事之部

⑧拝領物，孝心奇特賞
⑨御慶事等。

3981　毎日帳書抜　　16.40—72
手写
8冊　25cm
項目分類をして編集してあり，索引風に作られている。内容年代は主に寛政～弘化期。分類項目はつぎのとおり。
①御成，御登城等御出，御女義様方御出，御一門様方御出，上使，御内書御奉書并暑寒入初雪日蝕等，公儀御書付，御書御意，品有之御使者，御指控御伺，御両家様等御指控等御伺，御法事御代香等御忌日等，年号改元
②御出入，寺社家，御札等上候義，御無心等，被下物，拝借，買上物，御勝手方・借知，御扶持方，御知行米等之内深川御米等ニ而被下候義，御家来等他国御せわニ相成候ニ付御挨拶
③御目見，諸御礼，着服行粧，御作法，忌御免等，誓詞，乗用，行歩月代名替湯治等，御暇，御家中之人々対面通路先祖墓詣等，御貸小屋，御門方，御貸人，判印鑑，過書
④禁裡，公儀御慶事并雑，同御凶事，御家御慶事，同御凶事，同雑，富山御慶事等，大聖寺同，富山御凶事，大聖寺同，富山大聖寺雑，御一門様方御慶事等，同御凶事，御一門様方雑
⑤火事，地震雷鳴水変等，盗賊博奕等，捨子行倒人等，出奔同立帰御門外ニ而病気之者，悪事有之御国出奔之者召捕方等，喧嘩自害等，公事場方，公義より御呼出之者，公義江御届方雑，御普請方
⑥諸頭諸役人等，跡目転役被召出御加恩等，組入組除，江戸町人等御扶持被下，閉門等御咎，御国へ御返之者，不念，軽き者不調法等，御雇，御合力等并八丈嶋，江戸町人等，定府之者厄介人，引越，死去人，掘出物并拾取物
⑦年寄中御家老中等諸事，同拝領物等，同御庭拝見御能拝見，同主付之事，献上物，御屋敷中御定之類，御中屋敷，御下屋敷，始記，一統申渡方，雑
⑧普請鳴物遠慮之事，附年寄中死去之部。

3982　毎日帳書抜　　16.40—73
手写
3冊　24cm
文政12年(1829)～嘉永6年(1853)分の8冊の内3冊。
①転役跡目配知等，拝領物，孝心奇特，御省略等，行粧，御雇見習，御普請役，遺書，町人
②火事等，変死等，手討等，出奔，御預人勤番，死去人，長病
③雑。

3983　毎日帳書抜　　16.40—74
手写
6冊　23cm
安政元年(1854)～慶応2年(1866)分の8冊のうち6冊。
①火事等，変死等検使，手討等，出奔，御預人勤番等，死去人并忌御免，長病等，御無心
②不念御咎
③御礼人，出仕等御弘，御能拝見等御鷹野等御出，着服，御使者，諸御礼，座列，御書并御意，御奉書，誓詞
④縁組養子，御屋舗願等，御暇願等，名替等，他国通路等，他国江子弟等召連願，軽者江遣候悴引揚等，駕籠乗用，代番，剃髪等，出家并医者願
⑤転役跡目等，拝領物他方より送物等，為冥加指上物并孝心奇特等，御省略等御借知諸士風俗，行粧，御雇，御普請役，遺書，町人等他国分共十村并御舘入，御咎人普請等，御郡方并当町遠所町方
⑥雑。

役　務　日　記

3984　葛巻昌興日記　　16.40—75
葛巻昌興(藤原高俊・大野木高俊)著
自筆　延宝5年(1677)～元禄5年(1692)
27冊　23.5cm
別名「葛巻権佐日記」「葛巻昌興筆記」。公務に関する私日記。昌興（多門，権佐，高俊，昌信）は，延宝元年(1673)綱紀の近侍となり新知250石を受け，同5年(1677)150石を増，天和2年(1682)奥小将にうつり，貞享元年(1684)150石を加え，元禄3年(1690)近侍し300石をうけて計850石，元禄6年(1693)綱紀の馬廻

頭半田惣兵衛への処置の過酷さを諫めて知行召放，能登へ流され，罪を赦されたが帰らず宝永2年(1705)配所で没す。50才。

①一　丁巳日記　(延宝5年正月～12月)
②二　戊午日記　(〃　6年正月～12月)
③三　己未日記　(〃　7年正月～4月)
　延宝己未日記(〃　4月～12月)
④四　延宝8年記(〃　8年正月～4月)
⑤五　〃　(〃　8年5月～6月)
⑥六　日録　(〃　8年7月～8月)
⑦七　〃　(〃　8年閏8月～9月)
⑧八　〃　(〃　8年10月～12月)
⑨九　〃　(〃　9年正月～4月中旬)
⑩十　〃　(〃　9年4月～6月)
⑪十一　〃　(〃　9年7月～10月中旬)
⑫十二　〃　(天和元年10月中旬～12月)
⑬十三　〃　(〃　元年正月～4月9日)
⑭十四　〃　(天和2年4月10日～6月20日)
⑮十五　〃　(〃　2年6月21日～12月30日)
⑯十六　〃　(天和3年)
⑰十七　〃　(〃　4年正月～12月)
⑱十八　貞享2年日記(正月～12月)
⑲十九　貞享3年日録(正月～4月)
⑳二十　〃　(5月～12月)
㉑二十一　貞享4年日記(正月～12月)
㉒二十二　貞享5年日録(〃)
㉓二十三　元禄2年日記(〃)
㉔二十四　元禄3年日記(〃)
㉕二十五　元禄4年日記(〃)
㉖二十六　元禄5年日記(正月～7月29日)
㉗二十六　〃　(7月晦日～12月)

旧書名「日記」。

3985　関屋政知覚書類聚　16.40—76

前田家編輯方手写　明治年間

2冊　23.5cm

日下部周所蔵の写。乾坤2冊。内容年代は延宝～享保期。

①1御親翰を以被仰出等并御定暨御年寄衆被仰渡品
2年頭御礼之次第并御目見一巻御礼銭之事
3諸事願之品并同被仰出御礼相勤一巻御年寄衆江申上候品
4御家中役出銀并会所銀御貸銀等御普請会所役人一巻暨御算用場江之紙面
5侍帳人渡帳宗門改一巻附御精進日諸場式日
②6御番一巻同御帳暨煩人病死遺言遺物之事附忌懸り
7他国より浪人等たより罷越候時之事
8閉門并遠慮被仰付人之事
9侍御預流刑并家屋敷被召上事
10喧嘩討捨自害手討并検使之事
11賊一巻禁牢殺害闕所之事
12捨子倒者并おとし物有之時之事
13家来等欠落一巻
14公事場等より家来召文并家来奉公構之事
15雑之部。

関屋政知は延宝5年綱紀に仕え350石，享保16年没85才。

旧書名「覚書類聚」。

3986　中川長定覚書　16.40—77

中川長定著

194冊　24cm

中川典克旧蔵。著者は，通称式部，元禄13年(1700)遺知5000石をつぎ同16年定火消，享保元年7月2日家老兼若年寄となる。後加判に補し，14年閏9月13日若年寄を，20年12月13日家老を指除かれ，元文4年(1739)没65才。これは正徳6年(1716)から享保14年(1729)までの日記形式の詳細な記録である。

①享保元年7月　②享保元年7月
③　〃　7・8・9月　④　〃　9月
⑤　〃　10月　⑥　〃　11月
⑦　〃　12月　⑧　2年正月
⑨　2年2月　⑩　〃　3月
⑪　〃　4月　⑫　〃　5月
⑬　〃　6月　⑭　〃　7月
⑮　〃　8月　⑯　〃　9月
⑰　〃　10月　⑱　〃　11月
⑲　〃　12月　⑳　3年正月
㉑　3年2月　㉒　〃　3月
㉓　〃　4月　㉔　〃　5月
㉕　〃　6月　㉖　〃　7月
㉗　〃　8月　㉘　〃　9月
㉙　〃　10月　㉚　〃　閏10月
㉛　〃　11月　㉜　〃　12月
㉝　4年正月　㉞　4年2月

㉟享保4年3月　㊱享保4年4月
㊲　〃 5月　㊳　〃 6月
㊴　〃 7月　㊵　〃 8月
㊶　〃 9月　㊷　〃 10月
㊸　〃 11月　㊹　〃 12月
㊺　5年正月　㊻　5年2月
㊼　〃 3月　㊽　〃 4月
㊾　〃 5月　㊿　〃 6月
(51)　〃 7月　(52)　〃 8月
(53)　〃 9月　(54)　〃 10月
(55)　〃 11月　(56)　〃 12月
(57)　6年正月　(58)　6年2月
(59)　〃 3月　(60)　〃 4月
(61)　〃 5月　(62)　〃 6月
(63)　〃 7月　(64)　〃 閏7月
(65)　〃 8月　(66)　〃 9月
(67)　〃 10月　(68)　〃 11月
(69)　〃 12月　(70)　7年正月
(71)　7年2月　(72)　〃 3月
(73)　〃 4月　(74)　〃 5月
(75)　〃 6月　(76)　〃 7月
(77)　〃 8月　(78)　〃 9月
(79)　〃 10月　(80)　〃 11月
(81)　〃 12月　(82)　8年正月　金沢
(83)　8年正月　江戸　(84)　〃 2月
(85)　〃 3月　(86)　〃 4月
(87)　〃 5月　(88)　〃 10月
(89)　〃 11月　(90)　〃 12月
(91)　5年10月より，6年正月より，7年正月より，8年正月
(92)　9年正月　(93)　9年2月
(94)　〃 3月　(95)　〃 4月
(96)　〃 閏4月　(97)　〃 5月
(98)　〃 6月　(99)　〃 7月
(100)　〃 8月　(101)　〃 9月
(102)　〃 10月
(103)　〃 10月22日より廻箱控帳
(104)　〃 11月廻箱之控帳
(105)　〃 12月廻箱等控帳
(106)　〃 10月22日よりの留帳廻箱之外11月も有12月も有
(107)　10年正月　(108)　10年2月
(109)　〃 4月　(110)　〃 5月
(111)　〃 6月　(112)　〃 7月
(113)享保10年8月　(114)享保10年9月
(115)　〃 10月　(116)　〃 11月
(117)　〃 12月　(118)　〃 正・2・3月
(119)　〃 3月　(120)　〃 4月
(121)　〃 5月　(122)　〃 6月
(123)　〃 7月　(124)　〃 8月
(125)　〃 9月　(126)　〃 10月
(127)　〃 11月　(128)　〃 12月
(129)　11年正月　(130)　11年2月
(131)　〃 3月　(132)　〃 4月
(133)　〃 5月　(134)　〃 6月
(135)　〃 7月　(136)　〃 8月
(137)　〃 8月24日より9月
(138)　〃 10・11月　(139)　〃 12月
(140)　12年正月　(141)　12年閏正月
(142)　〃 2月　(143)　〃 3・4月
(144)　〃 4月表方御家老方諸事覚
(145)　〃 4月若年老方諸事覚
(146)　〃 5月　(147)　〃 5月
(148)　〃 6月　(149)　〃 6月
(150)　〃 7月　(151)　〃 7月
(152)　〃 8月　(153)　〃 8月
(154)　〃 9月　(155)　〃 9月
(156)　〃 10月　(157)　〃 10月
(158)　〃 11月　(159)　〃 11月
(160)　〃 12月　(161)　〃 12月
(162)　〃 正月廻箱等控
(163)　〃 閏正月　(164)　〃 2月
(165)　〃 3月4月6月迄
(166)　13年正月　(167)　13年2月
(168)　〃 3月　(169)　〃 4月
(170)　〃 5月　(171)　〃 6月
(172)　〃 7月　(173)　〃 8月18日迄
(174)　〃 8月18日～9月
(175)　〃 10・11月　(176)　〃 12月
(177)　14年正・2月
(178)　〃 3・4月10日迄
(179)　〃 4・5・6・7月
(180)　〃 8・9・閏9月
(181)　〃 10・11・12月
(182)　15年正・2・3・4月
(183)　〃 5・6・7・8月
(184)　〃 9・10・11・12月
(185)　16年正・2・3・4月

(186)享保16年5・6・7・8・9・10・11・12月
(187) 17年正・2・3・4・5・閏5月
(188) 〃 6・7月6日迄
(189) 〃 7・8・9・10・11・12月
(190) 18年正月
(191) 〃 9・10・11・12月
(192) 19年正・2・3・4・5・6・7月6日迄
(193) 〃 7月7日より12月迄
(194) 20年正月より12月迄。

3987 〔大野木克寛〕日記　16.40—78
大野木克寛著
享保元年(1716)～宝暦4年(1754)
32冊　24cm
大野木克征旧蔵。公務に関する私日記。大野木克寛は通称左膳，隼人，新蔵。享保元年6月召出され，新知300石を受け大小将となる。享保11年（1726）遺知1650石を襲ぎ，同14年～16年小松城番，同16年～宝暦4年奏者番を勤め，宝暦4年(1754)没56才。したがって，これは，その役職にあった全期間を通じての日記である。
①享保元年日記
②享保二年日記
③享保三年日記
④享保四年日記
⑤享保五年日記
⑥享保六年日記（同7年～8年）
⑦享保九年日記
⑧享保十年日記
⑨享保十一年日記
⑩年譜雑録（享保12～16年）
⑪享保十七年雑録（同17年～19年）
⑫享保二十年日記
⑬享保二十一年日記
⑭元文二年日記
⑮元文三年日記
⑯元文四年日記
⑰元文五年日記
⑱元文六年日記
⑲寛保二年日記
⑳寛保三年日記
㉑寛保四年日記
㉒延享二年日記（正月朔日～8月14日）
㉓延享二年日記（8月15日～12月29日）
㉔延享三年日記
㉕延享四年日記
㉖延享五年日記
㉗寛延二年日記
㉘寛延三年日記
㉙寛延四年日記
㉚宝暦二年日記
㉛宝暦三年日記
㉜宝暦四年日記。
旧書名「日記」。

3988 諸事留　16.40—79
手写
49丁　24cm
内容は，明和3年正月～7月と明和2年9月～10月の，ごく項目的な公務日記。また「奥村本武備之内大阪陣日次抜書」，「夏御陣御軍役御定」（大坂陣について諸本引用文を日次にメモしたもので，不完全な下書）。紙背は先祖由緒一類附帳。

3989 袂草　16.40—80
富田織人著
手写
2冊　14×19.5cm
富田権六郎旧蔵。筆者織人は貞章，2400石，天明3年10月相続，同5年5月御算用場奉行，同年御近習御用，寛政元年3月没，35才。
①天明元年，2年の役務日記や雑覚書を記す。
②天明4～7年の春秋打銀，役銀高，御造営人足，賃金の上納また闕字や用語の考証を記す。

3990 〔高畠厚定職事日記〕　16.40—81
高畠厚定著
天明4年(1784)～文化5年(1808)
116冊　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。高畠厚定(五郎兵衛)の経歴は，安永8年10月新川御郡奉行，天明7年7月宮腰町奉行，同8年2月御馬廻，作事奉行，寛政元年9月物頭並にて兼務，同年12月御先弓筒足軽頭兼盗賊改方奉行，同3年4月御先弓頭兼町奉行，同7年11月御馬廻頭にて兼，同9年4月宗

門奉行加人，同11年３月倹約奉行，享和元年10月本役指除指控，享和３年７月今石勤等支配。文化元年５月御馬廻頭兼公事場奉行，同５年４月御城御造営方主附を兼，同７年９月25日没，58才(「諸頭系譜」による)。

①天明四歳日記帳之内旧記目録
②日記　天明４年正月～３月11日
③〃　３月11日～４月８日
④御用日記　４月９日～５月12日
⑤日記帳　５月13日～29日
⑥新川御郡奉行相勤節日記帳
６月～同月16日
⑦〃　６月16日～７月７日
⑧御用日記　７月７日～８月９日
⑨日記　８月10日～９月16日
⑩日記帳　９月17日～10月28日
⑪〃　10月28日～12月21日
⑫〃　12月21日～29日
⑬日記　天明５年正月１日～25日
⑭日記帳　正月25日～２月25日
⑮〃　２月26日～３月19日
⑯〃　３月20日～４月10日
⑰〃　４月10日～29日
⑱〃　５月１日～６月１日
⑲〃　６月２日～７月10日
⑳〃　７月11日～９月21日
㉑日記　９月22日～10月13日
㉒日記帳　10月14日～11月24日
㉓日記　11月25日～12月晦日
㉔天明五歳日記帳ノ内旧記ニ相成分留
㉕日記　天明６年正月１日～２月晦日
㉖〃　３月１日～４月４日
㉗〃　４月５日～５月11日
㉘〃　５月12日～６月21日
㉙〃　10月12日～閏10月晦日
㉚〃　11月１日～12月晦日
㉛〃　天明７年正月１日～４月13日
㉜〃　４月14日～７月３日
㉝御作事奉行相勤ル節職事日記
天明８年４月６日～６月23日
㉞〃　６月23日～９月17日
㉟〃　11月22日～12月14日
㊱〃　天明９年２月６日～晦日
㊲〃　３月１日～４月７日
㊳〃　寛政元年４月８日～５月16日
㊴〃　５月17日～閏６月22日
㊵〃　閏６月22日～９月３日
㊶職事日記　９月８日～10月22日
㊷〃　10月23日～12月17日
㊸盗賊改方職事日記
安政２年正月16日～２月18日
㊹〃　４月１日～７日
㊺職事日記　11月１日～９日
㊻金沢町奉行職事日記
寛政３年５月29日～６月４日
㊼職事日記　11月１日～12日
㊽小松町奉行欠人代り当分相勤節職事日記
寛政５年７月29日～８月11日
㊾職事日記　寛政６年７月16日～23日
㊿町奉行職事日記　８月16日～10月26日
(51)職事日記　寛政７年２月29日～３月25日
(52)御馬廻組頭職事日記
寛政８年正月１日～２日
(53)〃　２月１日～４月17日
(54)御馬廻組頭御用番方職事日記
３月29日～４月晦日，７月晦日～８月21日
(55)御馬廻組頭職事日記４月18日～７月４日
(56)〃　７月17日～８月29日
(57)御馬廻組頭御用番方職事日記
８月21日～29日，11月晦日
(58)御馬廻組頭職事日記９月１日～10月29日
(59)〃　寛政９年正月１日～２月22日
(60)御馬廻組頭御用番方職事日記
３月晦日～４月６日
(61)宗門奉行兼帯職事日記
４月７日～５月23日
(62)御馬廻組頭相勤候節職事日記
７月13日～閏７月１日
(63)御馬廻組頭御用番方職事日記
７月29日～閏７月８日
(64)〃　８月13日～15日
(65)〃　寛政10年正月１日～２月20日
(66)御馬廻組頭御用番職事日記
正月29日～２月１日
(67)御馬廻頭相勤ル節職事日記
２月21日～４月27日

㊽御馬廻御用番方職事日記
5月晦日～6月18日，11晦日～12月3日
㊾御馬廻組頭相勤ル節職事日記
6月朔日～10月22日
㊿宗門改方職事日記
寛政11年正月6日～2月晦日
(51)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
2月17日～4月16日
(52)御倹約奉行相勤ル節職事日記
7月20日～10月21日
(53)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
4月17日～5月18日
(54)　〃　4月17日～5月1日
(55)　〃　7月15日～10月23日
(56)　〃　10月24日～12月10日
(57)　〃　寛政12年正月1日～13日
(58)御客方御奏者方支配方御取次方御使方職事日記　10月1日～11月3日
(59)職事日記　享和元年4月23日～6月12日
(60)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
8月15日～10月1日
(61)今石勤等支配職事日記
享和3年7月21日～晦日
(62)(無表紙)　8月1日～28日
(63)今石勤等支配職事日記
8月29日～10月7日
(64)職事日記　10月8日
(65)　〃　11月11日～12月10日
(66)　〃　文化元年4月3日～17日
(67)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
5月7日～7月13日
(68)　〃　文化2年正月1日～2月6日
(69)公事場奉行相勤ル節職事日記
正月1日～2月6日
(70)職事日記　2月6日～3月29日
(71)公事場奉行相勤ル節職事日記
4月1日～21日
(72)　〃　4月21日～7月29日
(73)　〃　8月1日～閏8月14日
(74)　〃　閏8月15日～12月20日
(75)　〃　文化3年正月1日～3月13日
(76)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
正月1日～2月12日
(77)公事場奉行相勤ル節職事日記
3月13日～6月29日
(78)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
4月27日～6月12日
(79)公事場奉行相勤ル節職事日記
6月29日～7月13日
(80)　〃　7月13日～29日
(101)　〃　文化4年正月1日～3月晦日
(102)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
正月1日～3月3日
(103)職事日記　3月4日～15日
(104)公事場方職事日記　4月1日～7月29日
(105)公事場奉行相勤ル節職事日記
8月1日～9月19日
(106)　〃　9月23日～12月29日
(107)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
9月23日～11月14日
(108)公事場奉行相勤ル節職事日記
文化5年正月1日～4月18日
(109)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
正月1日～3月14日
(110)　〃　文化6年正月1日～14日
(111)　〃　6月1日～24日
(112)公事場奉行相勤節職事日記
8月1日～10月5日
(113)　〃　文化7年正月10日～3月13日
(114)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
正月1日～2月28日
(115)公事場奉行相勤ル節職事日記
8月1日～25日
(116)御馬廻組頭相勤ル節職事日記
8月1日～8日。
旧書名「職事日記」。

3991　懐秘要略　16.40—82
富田貞行(外記)著
18冊　14×19cm
富田権六郎旧蔵。文化，文政期の公私にわたる記録。内容は，日記を主として旧記書留，覚書など雑多に入交っている。役務関係が多く，一部学芸に関するメモも含まれている。富田貞行は人持組2400石，履歴は享和元年11月定火消，文化元年11月小松御城番，同9年4月御奏者番，同13年3月今石勤勤等支配，同14年9月公

事場奉行，文政２年12月寺社奉行，文政９年４月若年寄，天保13年月７月９日没。以下，各冊について執筆された年次（推定を含む）を判明するかぎりで示す。
①（享和３～文化９年）
②（文化８，９年）
③不明（旧記書留）
④文化７年７月より
⑤文化元年11月より
⑥文化４年正月より
⑦文化５閏６月より（７年まで）
⑧文化９年（同７，８年旧記留帳）
⑨文化12年10月より
⑩文化14年９月より
⑪文化14年12月より
⑫文政元年９月より
⑬文政元年12月より（享和・文化期の付札物類）
⑭文政２年12月より（寺社奉行役中）
⑮文政９年４月より
⑯文政９年４月より
⑰文政９年11月より（若年寄方願方一件）
⑱文政11年８月より（村上甚吉郎 壱件），天保２年９月より，他に不明（２冊）を合綴。

3992　成瀬掃部留記　　16.40—83
成瀬掃部著
前田家編輯方手写　明治年間
10冊　23cm
成瀬吉勝所蔵の写。内容年代，文化８年(1811)～嘉永３年(1850)。成瀬掃部は当職（まさとも）はじめ内蔵助，文化14年９月13日定火消，文政８年８月公事場奉行，文政９年８月13日御家老兼勝手方，天保７年御免，嘉永３年８月８日御家老帰役，安政５年３月４日隠居。
①文化８年９月より，両支配諸方掛合留帳（文化９月正月），年寄中等直懸合等覚書（同年３月），諸席懸合等覚（文化９年７月）。両支配御用覚（同年12月）
②文化９年12月より10年正月，文化10年，諸席懸合御用銀（文化11年７月），諸席懸合帳（文化12年３月）
③主付中諸事留（文政９年９月15～29日），諸事留（文政９年12月１～15日），諸事留（文政10年），御家老方諸事手留（３月16日），雑記（文政10年）
④御家老方手留（文政11年春），江戸御留守詰諸事留（文政11年６月）
⑤江戸御留守詰聞合（文政11年６月），文政11年10月16日，御勝手方手留（文政11年）
⑥御家老方（文政12年正月），江戸御家老方手留，御家老方（文政12年４月），御勝手方（同年６月）
⑦御家老方（文政13年）
⑧御家老方（天保２年），11月４日
⑨天保３年７月朔日，御勝手方（天保５年11月），天保４年分江戸御払調理帳（同年同月），天保５年
⑩御勝手方（天保６年６月），御勝手方（同年３月１日），御勝手方（同年９月），諸事留（同年８月），嘉永３年９月朔日。
旧書名「留記」。

3993　秘閣　　16.40—84
有沢貞庸著
自筆
11冊　12×18cm
有沢貞庸が，役務に関係した旧記類を記録したものであるが，役務に関係しないと思われるものもあって，内容は雑多である。またしたがって年次を追った記述もあり，そうでない記述もある。貞庸は寛政２年，父貞幹の遺知450石をつぎ馬廻となる。同５年逼塞を命ぜられ享和２年御免，文化元年９月御近習番，同５年12月御使番，同13年11月近習頭・先筒頭，文政７年９月持筒大組頭・近習御用，天保８年正月隠居。
第１冊と第６冊を欠く。
①二　文化13年11月２日～文政５年正月
②三　文政５年～８年８月
③四　文政９年７月～天保４年
④五　文政12年～天保２年
⑤七　元禄～寛保期
⑥八　明和・安永期
⑦九　（内題）寛政９年７月「勤録」，「勤私録」（有沢有貞），有貞は近習頭で７月１日物頭並となる。
⑧十　文化・天保期
⑨十一元禄～文政期
⑩十二正保～文化期

⑪十三文政6年など。

3994 〔公私心覚〕　16.40—85

加藤三郎左衛門著

自筆　天保15年(1844)～文久3年(1863)

21冊　12×18cm

著者の名は軌度，400石，安政5年5月15日200石加増，天保15年当時御持弓頭，前田慶寧の御附御小将頭，嘉永5年7月6日御馬廻頭となり，御近習御用も勤む。安政2年定番頭並となり，近習御用は元のごとし，慶応2年より一時思召に応ぜず役義指控を命ぜられたがやがて帰役し，慶応4年4月1日隠居した。撲翁と称した。

①公私心覚　天保15年4月朔日～12月30日
②公私日録　弘化2年9月6日～12月28日
③公私日記　弘化4年正月朔日～9月11日
④公私日記　嘉永3年正月朔日～8月28日
⑤公私心覚当座留　嘉永4年5月朔日～12月28日
⑥日記草稿壱　嘉永5年7月6日～同6年正月晦日（但後欠のため5年8月28日迄）
⑦日記草稿二　嘉永6年正月晦日～9月6日
⑧公私心覚三　嘉永6年8月28日～12月晦日（但後欠のため11月2日迄）
⑨公私心覚四　嘉永7年正月朔日～7月27日
⑩公私心覚五　嘉永7年7月28日～安政2年3月13日
⑪公私日記六　安政2年3月13日～8月7日
⑫公私日記七　安政2年8月8日～12月29日
⑬公私日記八　安政3年正月朔日～5月18日（但後欠につき3月13日迄）
⑭公私日記九　安政3年5月19日～12月晦日
⑮公私心覚拾一　安政5年3月朔日～12月晦日
⑯公私心覚拾二　安政6年正月朔日～10月14日
⑰公私心覚十三　安政6年10月15日～万延元年4月16日
⑱公私心覚十四　万延元年4月16日～文久元年4月10日
⑲公私心覚十五　文久元年5月朔日～同2年9月晦日
⑳公私心覚十六　文久2年10月朔日～同3年10月晦日
㉑公私心覚十七　文久3年11月朔日～元治2年4月朔日。

旧書名「公私日録」。

3995 御用方手留目録　16.40—86

5冊　23cm

巻5～巻14のみ。次号の「御用方手留」36冊，巻41～100の目次。

①巻5—次号の巻41～47（第①冊～⑤前半）嘉永6年4月5日～安政2年3月13日
6—　48～52（⑤後半～⑦）安政2年3月15日～同3年9月5日
②　7—　53～61（⑧～⑭前半）安政3年9月6日～同5年12月晦日
8—　62～71（⑭後半～⑲前半）安政6年正月1日～文久元年10月6日
③　9—　72～78（⑲後半～㉓）文久元年10月10日～同3年6月22日
10—　79～82（㉔～㉗）文久3年6月23日～元治元年7月晦日
④　11—　83～89（㉘～㉛）元治元年8月1日～慶応3年9月14日
12—　90～95（㉜～㉞）慶応3年9月15日～明治2年5月9日
⑤　13—　96～98（㉟～㊱前半）明治2年5月10日～同4年9月4日
14—　99～100(㊱後半)明治4年9月より。

3996 御用方手留　16.40—87

前田家編輯方手写　明治年間

36冊　23cm

奥村助右衛門(河内守)栄通の記録。栄通は1万7000石。弘化3年7月より人持組頭，同4年より金沢城代。安政3年3月筑前守様御付御用，同年12月年寄役などの重職にあり，元治元年慶寧上洛に供し，仙洞御所を守ったが，10月19日に兼役一切を指除き遠慮を仰付られ，慶応元年8月に遠慮御免，明治元年12月執政，同2年退老，10年没66才。

①巻41　嘉永6年4月5日～7月29日
②　42　　8月1日～12月晦日
③　43　嘉永7年正月1日～4月晦日
44　　5月1日～7月晦日
④　45　　閏7月1日～11月9日

46　11月10日～安政2年正月15日
⑤ 47　安政2年正月16日～3月13日
48　3月15日～8月13日
⑥ 49　8月15日～同3年正月6日
50　安政3年正月7日～3月29日
⑦ 51　4月1日～6月10日
52　6月11日～9月5日
⑧ 53　9月6日～12月晦日
⑨ 54　安政4年正月1日～3月24日
⑩ 55　3月25日～閏5月21日
⑪ 56　閏5月22日～9月晦日
⑫ 57　10月1日～同5年正月7日
58　安政5年正月8日～4月5日
⑬ 59　4月6日～6月29日
60　7月1日～10月10日
⑭ 61　10月11日～12月晦日
62　安政6年正月1日～4月15日
⑮ 63　4月16日～7月29日
64　8月1日～12月4日
⑯ 65　12月7日～万延元年閏3月22日
66　万延元年閏3月23日～6月10日
⑰ 67　6月11日～9月晦日
68　10月1日～12月晦日
⑱ 69　万延2年正月1日～2月晦日
70　文久元年3月1日～6月晦日
⑲ 71　7月1日～10月7日
72　10月10日～同2年正月28日
⑳ 73　文久2年2月1日～5月10日
74　5月11日～8月6日
㉑ 75　8月7日～10月10日
76　10月11日～12月29日
㉒ 77　文久3年正月1日～3月3日
㉓ 78　3月12日～6月22日
㉔ 79　6月23日～10月5日
㉕ 80　10月6日～同4年正月29日
㉖ 81　文久4年2月1日～5月24日
㉗ 82　元治元年5月25日～7月晦日
㉘ 83　8月1日～同2年4月16日
㉙ 84　慶応元年4月19日～12月28日
85　慶応2年正月1日～4月24日
㉚ 86　4月26日～8月2日
87　8月4日～12月29日
㉛ 88　慶応3年正月1日～4月22日
89　4月23日～9月14日
㉜ 90　9月15日～12月21日
91　12月22日～同4年3月8日
㉝ 92　慶応4年3月9日～6月14日
93　6月15日～9月29日
㉞ 94　明治元年10月1日～12月29日
95　明治2年正月1日～5月9日
㉟ 96　5月10日～9月22日
97　9月27日～10月10日
㊱ 98　明治3年10月17日～同4年9月4日
99　明治4年9月～同7年5月
100　明治7年5月～12月。

3997　御用方手留　第四十二巻　16.40—88
前田家編輯方手写　明治年間
92丁　24cm
前号に同じ。第42巻嘉永6年(1853)8月朔日より同12月晦日迄の記。

3998　御用方手留附録目次　16.40—89
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
内容年代は,嘉永6年(1853)～明治元年(1868)。次号の「御用方手留附録」の目次。第1冊は,その第6巻（第4冊目）までを,第2冊は第11巻（第7冊前半）までの分を,第3冊は第12巻第7冊後半）の分をのせている。

3999　御用方手留附録　16.40—90
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23cm
奥村河内守栄通の手留で,役向きの往返書状,書取,風説書などを編輯している。全12巻。
①巻1　安政5年～万延元年
2　文久元年～同年8月
② 3　8月～同2年10月
③ 4　文久2年10月～同3年4月
④ 5　文久3年5月～7月3日
6　7月～9月20日
⑤ 7　10月～同4年3月
8　文久4年2月～7月
⑥ 9　元治元年7月～9月
10　9月～同2年8月
⑦ 11　慶応2年5月～同4年9月

12　明治元年9月～同3年6月。

4000　御用方手留附録　16.40—91
前田家編輯方手写　明治年間
56丁　24cm
前号の3巻に同じ。

4001　御手留抄　16.40—92
前田家編輯方手写　明治年間
12冊　24.5cm
明治2年(1869)～同4年(1871)の金沢藩役人某の政務日記の抄記。
①明治2年11月7日～29日
②　12月2日～28日
③明治3年正月4日～2月晦日
④　3月2日～4月29日
⑤　5月2日～6月晦日
⑥　7月2日～8月29日
⑦　9月2日～晦日
⑧　10月2日～閏10月29日
⑨　11月2日～29日
⑩　11月晦日～12月28日
⑪明治4年正月4日～2月28日
⑫　3月2日～7月18日。

4002　〔横山隆平〕日記　16.40—93
横山隆平著
自筆　明治2～7年(1869～74)
5冊　24cm
横山隆起旧蔵。著者は老臣横山家11代。
①明治2年12月3日～同3年12月29日
②明治4年正月元日～同年12月晦日
③明治5年正月元日～同年12月朔日
④明治6年正月元日～同年12月31日
⑤明治7年正月元日～同年12月30日。
旧書名「日記」。

建　言・意見書

4003　献言類　16.40—94
手写
53丁　24cm
岡田棣旧蔵。元文元年(1736)大地新八郎の意見書，奥村丹後守御勝手方御用人々へ申渡存意書，嘉永5年某意見書，高沢忠順意見書，「南面論」(文政10年)。

4004　〔財政難渋に付意見書写〕　16.40—95
手写
24cm
富田権六郎旧蔵。筆者，宛所不記であるが，大槻内蔵允の財政策を批判して，悪しき点4つを挙げ，また家中，寺社の風規の緩み，冗費など数点を指摘している。

4005　泰君へ上書之写　16.40—96
脇田尚方手写　天保8年(1837)
10丁　24cm
成立年代について尚方は天明の御改法以前の富田好礼(彦左衛門)らの上書と推定している。泰君は10代重教(泰雲公)。

4006　〔御勝手方銀子調達存意書〕　16.40—97
手写
1通　16cm
御勝手方御用の意見書。前田家に凶事があり物入りであったが，大坂廻米が少く，江戸入用を賄えないことから種々述べ，町在からの借銀を提案している。文中に御勝手方杉野善三郎(多助，盟)の名あり。寛政4年11月24日～7年12月28日の間，同職にあった。
旧書名「大阪表にて調達銀并廻米覚」。

4007　意見書纂　16.40—98
前田家編輯方編
明治年間
4冊　23cm
意見書，建言，上書などを収録したもの。内容は以下のとおり。
①管蠡私考秘録，笠間九兵衛等意見書(寛政5年6月23日)，笠間九兵衛一存之趣内密之覚書(寛政7年8月)，山本又九郎上書(文政3年10月)，越の僻(前田万之助知故著，横山政和旧蔵)
②三州交易出入大略(文政7年，渡辺蓉旧蔵)，遊所歌舞妓等御尋之御請(同人旧蔵)，燈下録(天保6年)，人撰論(津田平次右衛門著)，寤悶草，芝山平右衛門心付之趣(嘉永5年閏

2月），近藤兵作書取，御郡方万雑云々
③鈴木藤作言上書附八陣覚書，上書(安政4年，岡田助右衛門），愚僻言（安政5年），物価論（内藤誠左衛門著，渡辺蕃旧蔵），菅波勘右衛門上書，心付之趣申上候趣意書（文久2年，明王院著），菅野三太郎建言書（文久3年），狩谷金作心附之趣申上候写（元治元年），御引返之義ニ付大隅守江云々
④憂天私言（福田敬業著），三好弥左衛門建白（明治2年，渡辺蕃旧蔵），管見書（明治2年，中山守衛著），建言（明治2年，鵜野屋村安成寺元秀），杞憂独言（慶応4年，小松町中斎屋丈太郎，渡辺蕃旧蔵），囲碁之弊申上候覚書（五十嵐孫作，森可参旧蔵），大伴建言書（越中草奔医大伴敬蔵著，高畠定辟旧蔵），某上書（渡辺蕃旧蔵），不破富太郎与大野木源蔵書翰。

4008　正文雑記　　16.40—99
手写
14丁　24cm
岡田棣旧蔵。内容は以下のとおり。
○遊所歌舞伎等御尋之御請（申二月）
○三州交易出入大略
○銭相場の大略
○銀子申立之濫觴之大概
○通用銀遊銀之御請（申六月）。

4009　村松標左衛門上申書　　16.40—100
村松標左衛門著
手写
131丁　23.5cm
内容は，文政3年(1820)「農話」および天保5年(1834)「村松標左衛門ヨリ村井豊後守江上申書」，著者は羽咋郡町居村の豪農，本草学者，天保12年(1841)没79才。
刊本，若林喜三郎著「加賀藩農政史の研究」下巻に収載。

4010　時宜考　　16.40—101
手写
35丁　12×18cm
文政3年(1820)成立。御勝手方難渋の濫觴とその対策についての意見書。「御符合図帳」を併せる。

4011　燕台上疏類編　　16.40—102
手写
2冊　23cm
内容項目は，①寺島蔵人上書，岩田伝左衛門申上書，石黒半兵衛上書，山本中務上書，関沢六左衛門上書，千羽甫左衛門上書
②大地新八郎上書，米価愚按論，墨守論，高沢筆記，老婆餅煮物，原黄蛭與真斉書。

4012　奥村栄実言上書　　16.40—103
奥村栄実著
自筆
40冊　23cm
全て奥村丹後守と署名あり，したがって文政7年(1824)12月30日以降。以下，括弧内は書出し部分の特徴を示す。
①8月3日（御勝手向差支えに付云々）
②9月4日　御請之趣等
③2月18日　御請之趣
④酉8月13日　御渡之品ニ付愚意之荒増
⑤9月9日夜（此表銭支之儀云々）
⑥9月28日（下々人気穏ニ相成云々）
⑦10月4日（今度半知御借上云々）
⑧12月23日　御請之箇条
⑨11月13日（此表之様子人気も次第ニ落付云々）
⑩11月27日夜（此表人気等之様子云々）
⑪10月23日　御請之箇条
⑫3月4日（御郡方作得米少ゆるぎ付キ申躰云々）
⑬3月13日（米価之儀云々）
⑭4月3日（御算用場向御米御かね大ニ指支云々）
⑮4月28日（天気相云々）
⑯5月23日（御領国中用米之儀云々）
⑰6月15日（御家中半知借上云々）
⑱6月23日（御家中半知被仰渡以後之様子云々）
⑲7月9日（御家中町在借銀返弁方云々）
⑳7月18日（金沢町方人気静り之躰云々）
㉑7月23日　御請之箇条
㉒2月9日（此度御親翰之趣云々）

㉓3月1日（家中知行借上方金議之趣云々）
㉔5月4日（御政事方ニ付追々被仰出云々）
㉕ ―― 書抜
㉖9月23日（御横目之内たるく相見へ候云々）
㉗正月9日（昨日被仰出一通熟覧云々）
㉘正月15日（昨日之御親翰下書拝見云々）
㉙10月28日夜（御発駕後相替儀無御座云々）
㉚11月28日（御郡方之儀名越彦右衛門内密申聞云々）
㉛12月29日（御算用場奉行へ心得方申聞云々）
㉜2月17日夜（此度東海道通り御帰国云々）
㉝2月25日（東海道御通行御治定ニ付云々）
㉞6月9日 就御尋御請之趣
㉟11月21日（司馬温公伝家集之内書抜）
㊱申11月28日 御尋之儀ニ付重而御請
㊲12月21日（唐山歴代求言之詔勅調候云々）
㊳3月13日 御請之趣等
㊴6月 （御倹約之儀被仰付候様申上云々）
㊵9月20日（今年之作躰悪敷も無之云々）。

4013 奥村栄実言上状　　16.40—104

奥村栄実著
自筆
59通　18cm

藩侯への意見具申，内報，添状類。奥村丹後守と署名あり。従って文政7年12月30日以降のもの。

①丑正月25日 御用番被仰出の儀猶予願
②丑正月29日 松平織人を新川郡方御用任命延引すべき旨答申
③丑2月27日 林源太郎の事につき答申
④丑4月14日 石野右近役儀御断につき答申
⑤丑6月4日 平野知太夫役儀御断につき答申
⑥丑8月3日 国元真竜院様の様子，今年の作躰等につき書状
⑦丑8月3日 篠島権之助の事につき答申
⑧丑9月4日 御親翰至来等につき書状
⑨丑9月4日 篠島権之助の事につき答申
⑩丑9月5日 大坂御調達一件につき申上
⑪寅正月24日 家中難渋取扱，薪炭値下げ，御定書条目の詮議等につき書状
⑫寅2月18日 御親翰御請につき添状
⑬酉9月9日 銭支の様子につき添状
⑭酉9月28日 銭払底の儀などにつき書状
⑮酉10月4日 別冊提出につき添状
⑯酉10月23日 銭指支につき御親翰請書の添状
⑰酉11月13日 御親翰の御意につき返状
⑱酉11月28日 来春御書立，年寄共茶事のこと，并に上田作之丞来宅の風説等につき書状
⑲酉11月28日 来春御帰城之上政事様替り可仕との浮説等につき書状
⑳酉12月23日 御親翰御請につき添状
㉑酉正月10日 御親翰御請，言路を開くにつき人撰方など書状
㉒酉正月10日 広瀬平丞の事につき書状
㉓酉3月4日 別帳指出のこと，美作守のことにつき書状
㉔酉3月13日 別帳指出につき添状
㉕酉4月3日 御親翰，借知の詮議等につき書状
㉖酉4月28日 別帳相調候につき添状
㉗酉5月23日 平士以下迄心付之旨書上物，御親翰御請，気候の事につき書状
㉘酉6月15日 別冊指上につき添状
㉙酉6月23日 平士以下心付の紙面披見につき書状
㉚酉7月9日 別冊指上につき添状
㉛酉7月18日 上田作之丞門人の狂歌につき添状
㉜酉7月23日 御親翰御請別帳指上につき添状
㉝酉7月23日 今度町奉行へ申渡方（質屋仕法）につき書状
㉞戌4月18日 心付之趣（年寄共へ之御覚書，人持諸頭への御覚書ニ付年寄共への御添書，人持諸頭へ被仰渡候御覚書）につき言上書
㉟戌9月23日 別冊指上につき添状
㊱戌10月2日 年寄共子弟学校へ罷出方金儀決着につき書状
㊲戌11月29日 大年寄勤方書抜指上につき添状
㊳戌12月17日 被仰渡候一冊返却につき添状
㊴亥正月9日 別紙御親翰御請指上につき添状
㊵亥正月15日 御親翰御請別冊に指上につき添状
㊶亥10月28日 別帳指上につき添状
㊷亥11月28日 御親翰御請別冊指上并御家中一入難渋につき書状
㊸亥12月29日 今度御昇進につき書状
㊹子3月13日 御親翰御請別冊指上につき添状

㊺申6月9日　御親翰御尋の返書別帳に指上につき添状
㊻子2月25日　此表の様子別冊に指上につき添状
㊼子3月19日　御帰国に東海道通行の儀につき書状
㊽子6月14日　帳冊写指上につき添状
㊾申4月27日　御覧に入れ候一冊の内容につき補足として学校教導方，人材仕立，大赦，女向衣類，武備のことにつき言上書
㊿申6月28日　賞罰の儀につき言上書（大学衍義補巻24の抜萃文を付す）
(51)申7月2日　衆人一致に相成候仕向方如何并に家中拝領の縮緬着用の儀につき言上書
(52)申7月29日　寺島蔵人の成瀬掃部方へ近頃罷越不申訳合につき，先達而相違の儀を申上候につき言上書
(53)申7月晦日　御親翰につき人気落付不申儀，寺島蔵人手前の儀に候はば見切るべき旨言上書
(54)申10月25日　郡方等小盗人多きにつき先刻御請申上の趣不行届につき断り状
(55)申11月28日　衆人一致仕候事につき心付別帳指上并に愚意言上書
(56)5月8日　御米埋合せ方の儀，別紙指上につき添状
(57)2月　長又三郎，前田万之助勤方の底意につき言上書
(58)（日付なし）御家中御救方，江戸表御借銀仕法方，人材御仕立方につき言上書
(59)5月　当年御借知被仰渡の時期につき言上書（ただし署名を欠く）。
旧書名「奥村栄実書翰」。

4014　奥村栄実言上書　　16.40—105
奥村栄実著
前田家編輯方手写　明治年間
9冊　23.5cm
内容はつぎのとおり。
①天保7年　愚意之趣可調上草稿
②天保7年　言上書等
③天保8年正月～6月　言上書等
④天保8年7月～10月　言上書等
⑤天保8年10月～12月　言上書等
⑥天保9年　言上書等
⑦天保10・11年　言上書等
⑧天保12・13年　言上書等
⑨年月不詳分　言上書等
旧書名「言上書」。

4015　奥村栄実意見書　　16.40—106
奥村栄実(丹後守)著
手写
3冊　24cm
①の外題「愚意之趣可調上草案」(天保7年)，
②の外題「卑意書記候一冊」(同9年正月)
③の外題「年寄共等へ相達候書取写」(同11年6月)。

4016　南面論草稿　　16.40—107
上田耕(作之丞)著
手写
17丁　24cm
文政10年(1827)の夏成立。「南面論」「時處位」「権」「役人・運上」「驕倹」「北面」の各項からなる。時・処・位の三つの点を備えた施策の必要を，藩の政治上の問題とからませて説いたもの。
旧書名「南面論」。

4017　成業問答　　16.40—108
上田耕著
手写
20丁　25cm
天保8年(1837)烏有老人との問答に擬して国政を論じたもの。

4018　竜郊君上書　　16.40—109
上田耕著
手写
37丁　24cm
嘉永3～4年(1850～51)に有馬湯治と称して西遊ののち上書したもので，西国諸藩の動勢を報告している。
旧書名「上書」。

4019　鎖窓談・心付之趣申達候控　　16.40—110
渡辺等(新蔵)著

手写
72丁　23.5cm
鎖窓談は天保７年(1836)成立。軍備に関する意見を述べた草稿。心付之趣申達候控の内容は，天保７年(1836)～同13年(1842)勝手方省略，物価方，海運交易，借知，郡方仕法等についての意見書を集めたもの。
旧書名「鎖窓談等」。

4020　田川上書　16.40—111
田川才佐著
手写
58丁　23cm
田川才佐は堀川餌指町居住の浪人。天保８年６月および同年８月付の意見書で，町付足軽又は町肝煎から町奉行所へ上げたもの，内容は主に庶民の困窮にかかわる経済の諸問題や風俗のことについて述べている。

4021　〔不破武太夫上書〕　16.40—112
不破武太夫著
自筆　天保８年(1837)
１通　16cm
役人の勤め方について，同役中で新古の差なくまた跡目相続の年限によらず和順に勤めるべきことを言上している。

4022　大島希軒上書等　16.40—113
大島希軒(維直)著
前田家編輯方手写　明治年間
46丁　23cm
内容は，常平倉・社倉・義倉に関する上書，題賛，校正御用言上留，書簡３通。
旧書名「上書等」。

4023　生駒勘右衛門覚書　16.40—114
手写
１通　16cm
端裏書に「辛丑七月七日出之」とあり。御勝手方難渋につき省略の仕法を立て，家中一統半知借上げを提案している。辛丑は天保12年か，また勘右衛門は当時出銀奉行であった義知か。

4024　建白書藁　16.40—115
前田家編輯方手写　明治年間
101丁　23cm
嘉永６年(1853)～明治２年(1869)の建言を集めたもの。内容は堀半左衛門建白草稿(５種)，加藤甚左衛門上書等，豊島安三郎建白草稿(２通)，山崎伝太郎上書草稿，三好弥左衛門建白。
旧書名「建白稿」。

4025　永山亥軒上書　16.40—116
永山平八(平太)著
前田家編輯方手写　明治年間
130丁　23.5cm
嘉永６年(1853)～明治８年(1875)における藩および太政官への上書で，貢士御用記録，列藩貢士合盟条約，諸藩貢士姓名など。巻首に目録あり。

4026　華夷十辨　16.40—117
西坂衷著
安政５年(1858)
26丁　27cm
西坂衷は加賀藩士で儒者として明倫堂助教等を勤めた。洋学排斥，攘夷論を説く。大橋訥庵，江尻簸山の序あり。

4027　〔公武合体之義につき覚〕　16.40—118
３丁　24cm
藩政に関する意見書。
旧書名「公武合併之儀について覚」。

4028　〔豊島毅建白草藁〕　16.40—119
豊島安三郎(毅)著
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴１（23丁）　28.5×20cm
内容は，豊島権少属由緒帳抄，文久２年(1862)７月壬戌歳建白草藁，明治元年(1868)２月戊辰歳建白草藁，文久３年癸亥建白主意，明治28年９月豊島捨松の父毅の伝記。

4029　近藤兵作上書稿　16.40—120
近藤兵作(信行)著
自筆　文久２～３年(1862～63)
112丁　24cm

内容は，文久２年(1863)上書稿，文久３年上書稿，雑記，交易大十露盤，独語虎の巻，土著論并仕法書，江戸表銭相場。近藤兵作は頭並180石，勝手方御用，改作奉行産物方御用を勤め，また軍艦奉行，慶応３年隠居。

4030　近藤兵作上書稿　　16.40—121
近藤兵作(信行)著
前田家編輯方手写　明治年間
75丁　23cm
内容は，前号と同じ。
旧書名「上書稿」。

4031　佐藤儀左衛門上書　　16.40—122
佐藤儀左衛門(元知)著
手写
36丁　23.5cm
原本成立は文政３年(1820)。佐藤元知は今枝氏の与力，兵学，心学者。内容は，伝言録，伝言録追加紙面，伝言録添紙面，御勝手方主附宛差出候ヶ条書。
旧書名「上書」。

4032　撥寅趣意書写　　16.40—123
手写
１通　27.5cm
赤座甚七郎所蔵の写。元治元年(1864)12月武田伊賀守正生より永原甚七郎(孝知)宛書状。永原は500石，初め大小将組に属し馬奉行，嘉永６年(1853)作事奉行，馬廻番頭，次いで頭並，元治２年300石加増，明治２年学政寮及び軍政寮副知事，参事となった。明治６年１月14日没61才。

4033　小川靖斉上疏　　16.40—124
小川幸三(靖斉・忠篤)著
藤田維正手写　元治元年(1864)
48丁　27cm
万延元年(1860)～文久３年(1863)の上書，書簡，通知等を収録したもの。
旧書名「上疏」。

4034　三州国政に関する対策書　　16.40—125
宇野直作著
手写
10丁　24cm
外国船渡来の状況から加賀藩・幕府関係についての上書。

4035　〔能州在番之儀に付意見書〕　　16.40—126
村井又兵衛著
手写
１通　24cm
海岸警固の在番の中止を訴えたもの。５月付。
旧書名「能州在番所等之儀ニ付覚書」。

4036　御蔵入米等仕法書　　16.40—127
手写
９丁　24cm
加賀藩の御蔵入収納高，現銀上納高に対して支出中勘を計算し，士庶の邪曲，人気の悪いことを指摘して，兵乱，一揆等の際に備える対策の必要を述べている。

4037　本町地子町地子銀並御役服制縮方　　16.40—128
久保九兵衛著
22丁　24cm
藩財政窮乏を解決するための一施策を述べた意見書。町人に対する旧来の運上，口銭を停止し，代りに分限役銀を課して，役銀の多少により格式を与え，もって藩財政の補填をはかる旨を述べている。久保九兵衛は三輪仙大夫組足軽。

4038　小林伝右衛門・石田勇左衛門指上紙面写　　16.40—129
手写
１通　13cm
子６月５日付，小林伝右衛門の下厩の３人等軽き者の扶持・給銀について納得できず詮議致しかねる旨言上書。６月５日付，石田勇左衛門の軽き者給銀につき難渋至極にて迷惑していることなどを訴えた存意書。
旧書名「小林伝介・石田勇左衛門書状写」。

4039　〔風俗之儀等に付申上書〕　　16.40—130
手写
９丁　24cm

風俗の義につき心付を書上げたもの，戊3月付定番頭，5月付御馬廻頭，戊6月付御小将頭より上げたもの。
旧書名「風俗之儀等御定ニ付申上書」。

4040 御達申候書取 16.40—131
前田家編輯方手写 明治年間
8丁 25cm
「奥村栄通手留」の写。定番頭・銃隊馬廻頭，同並より王政復古に際して意見を述べたもの。

4041 岩原恒六心附書 16.40—132
岩原恒六著
自筆 明治元年(1868)
巻子1 16.5cm
辰11月8日付，会議所宛。恒六は所口御馬廻役。会議所は輿論を聞き下情を上達するれために明治元年9月に設置された。内容は潟，川の切通しなど開発問題，銃隊など軍制，役料などの職制，その他についての意見書。会議所の付札あり。

特16.41 年寄・家老・若年寄方

勤方例規

4042 御用番記 16.41—1
手写
111丁 11.5×18cm
御用番の勤め方について，享保～弘化年間の例を引くなどしてまとめたもの。目次は以下のとおり。
他行并御寺方拝参事，御法事拝参，御祝儀等広式江出方，公事場出座，支配末類御礼の年寄中末類御礼，跡目申渡，新番頭以下会所銀，御弘，御発駕等御機嫌伺登城，御用番始而勤，被召候人々誘引，年寄中御供被仰渡，御法事御奉行被仰渡，年寄中七手次第，御用見習御居間書院，年寄中時宜等，年寄中判印鑑等，御親翰御請，月番加判御免等之人々，着座，年寄中休日等，年寄中仲間招請，御一門様御凶事指当取捌，年寄中等江戸往来献上物，元日廻物等，御用番支配之者与力家来欠落，年寄中縁組被仰渡，列座申渡ニ加判無之御家老，御封印包紙，御家老隠居病死，小松御城等見分，御用番見習御広式江出方，金谷御門往来，年寄中知行所附，年寄中指控等之節宛所等，御城代行歩等，御家老中廻り物披見方，御用番出席無之日伺書名前等，伺書之返下候節御用番不罷出候へハ御請助之名前，出仕御礼御判物等年頭御役替之人々被召次第等，御打初出方，御宮御参詣服御改，出席退出刻限等，御発駕御帰国出方，御用番始忌中指合等，御用番中外出，年寄中婚礼闕座，年寄中年回欠座，年寄中病後行歩，年寄中看病引等，御参勤御暇御書拝戴，年頭御書拝戴，御縁組御転住等御書拝戴，宿継御奉書至来，暑気等御奉書拝見，御参勤御時節御奉書拝見，火事，装束等，御能并御鷹之鳥拝領等。

4043 永井丕陣覚書 16.41—2
永井丕陣著
前田家編輯方手写 明治年間
7冊 23.5cm
内容年代は元禄～安政期。奥村栄滋所蔵の写。年寄役御用番の勤方に関する詳細な覚書。第1冊巻頭に90項目余の目次あり。

4044 年寄中席旧記抜書 16.41—3
前田家編輯方手写 明治年間
47丁 23cm
横山隆平所蔵の写。内容項目は次の19項目。出仕御礼御判物等年頭御役替之人々被召次第，御打初出方，御宮御参詣服御改，出席退出刻限等，御発駕御帰国出方，御用番始忌中指合等，御用番中外出，年寄中年回欠座，年寄中病後行歩，年寄中看病引等，御参勤御暇御書拝戴，年頭御書拝戴，御縁組御転任等御書拝戴，宿継御奉書到来，暑寒等御奉書拝見，御参勤御時節御奉書拝見，火事，装束等。

4045 年寄中等判印鑑 16.41—4
1帖 22cm
嘉永6年（1853）より明治2年（1869）にいたる13人分の年寄役の印判と花押を載せている。

4046 御家老方取捌等諸事覚之帳 16.41—5
手写

9丁　24cm
内容は，享保9年(1724)10月10日御前にて被仰渡の家老中勤方9項目と，「御家老方九品御書立勤方之内」として，各項目についての取捌き方を覚え書きしたもの。

4047　御家老方九品御審出等諸事留帳之内抜書　16.41—6
前田織江（路博・道済）編
自筆　寛政9年(1797)
52丁　12×18.5cm
前田道益旧蔵。家老の職掌についての記録。

4048　今枝近義ニ申聞覚書　16.41—7
手写
1通　35cm
3月12日付の家老，用人の勤方についての覚書。署名なし。今枝民部近義は，承応元年より綱紀の御付御用，のち御家老を兼ねた。延宝3年隠居，同6年没，69才。

4049　御家老前録書抜　16.41—8
横山政和手写　明治17年(1884)
20丁　24cm
「御家老前録」からの横山家に関する部分の抜書で，横山蔵人正従，蔵人政寛，図書政孝，蔵人政和について御家老役勤務当時の履歴，進退を記した下書。

4050　若年寄方古例抜書　16.41—9
成瀬種徳(監物)編
自筆　寛政3年(1797)
53丁　19cm
成瀬正居旧蔵。内容は，万治元年(1658)～天明6年(1786)の間（年次不同）にわたっている。監物は当時は御奏者番。

4051　若年寄方諸事頭書抜書　16.41—10
前田矩正(式部)著
100丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容項目は，御細工所，三十人方，表御納戸，御馬方，御鷹方，御茶堂方。

4052　若年寄方年頭御先立等覚　16.41—11
前田矩正(式部)手写　天保11年(1840)
19丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。表紙に，原本は前田知周（修理）自記と注記あり。内容は，文化14年正月1日～2月1日。知周は家老で文化6年3月～文政5年の間若年寄を兼務した。手写した矩正は天保11年6月より若年寄となった。

4053　若年寄方年頭御先立等覚　16.41—12
前田知周著
成瀬正敦手写　嘉永元年(1848)
19丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。表紙注記に原本は前田知周自記とあり。また天保11年7月前田矩正手写本の写とあり。即ち，前号の写本とみられる。

4054　若年寄御先立覚書　16.41—13
織田某著
17丁　11.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。御礼の儀式や御寺参詣の時などの若年寄が先立ちする役目についての覚書。

4055　若老方覚書　16.41—14
手写
25丁　18×13cm
前田栄次郎旧蔵。内容年代，享保元年(1716)～明和6年(1769)。若年寄役その他家老役などの任免，勤務上の動向などを日次に項目的に載せている。

4056　御家老方執筆へ申渡控　16.41—15
手写　天保8年(1837)
1通　16cm
執筆方の役人が他人との面会や他の役人との内談，また音物を慎しむことを申渡している。
旧書名「御家老執筆へ此趣申渡控」。

4057　〔執筆心得方の覚〕　16.41—16
中川某著
自筆
1通　16.5cm
年寄中執筆が作った案文に御家老方執筆もこれに準ずるべく朱字で改訂を加えてある。朱字は

酉7月付。
旧書名「御家老方執筆へ申渡候品」。

触達・覚留類

4058 万跡書帳 16.41—17
手写
2冊 23cm
寛永20年(1643)当時の，おそらく奥村因幡関係の，公用状類を収録。①は1月より7月迄。②は8月より12月迄。因幡は易英，寛永元年より家老役，同21年11月21日没，74才。

4059 御用小紙類写 16.41—18
前田家編輯方手写 明治年間
126丁 23.5cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，元禄頃の御用書状などで，とくに前田備前宛のものが目立つ。前田備前貞親は，貞享3年(1686)より若年寄。元禄4年(1691)より家老役なので，いずれもその職務の記録と思われる。

4060 内帳抜書 16.41—19
前田家編輯方手写 明治年間
87丁 23.5cm
内容年代は，元禄3年(1690)6月～同4年3月。収録文書は主に家中の人事に関するもので，横山筑後，多賀信澄の署名のものが多い。横山筑後(志摩)正房は，当時家老役。多賀信澄直方は若年寄役。

4061 〔御親翰請書〕 16.41—20
手写
1通 17cm
藩主から本多安房守へ賜った親翰に対する前田備前・村井出雲・前田対馬・横山左右衛門の請書。3月24日付。署名人から推して内容年代は元禄期か。

4062 伺書御指令留 16.41—21
手写
3冊 23cm
内題「宝永中伺書御指令留」。藩主の御親翰，御加筆の書類などを収載したもの。①甲申年(宝永元年) 8月18日～11月9日②11月9日～同2年4月11日③宝永元年12月27日～同2年4月9日。

4063 越後屋敷ニ而口上ニテ申達候覚書 16.41—22
10丁 12×18.5cm
享保8年(1723)11月16日より9年3月15日までの政務取捌き留。越後屋敷は元禄10～宝暦6年の間，藩主在府の時に年寄以下が政務を議した場所。

4064 折懸包上書 16.41—23
手写
7丁 11.5×17.5cm
享保11年(1726)本多安房守等より藩主へ養子縁組等願につき詮議の趣を言上したもの。

4065 〔享保十九・二十年覚書〕 16.41—24
手写
4通 17cm
前田貞発旧蔵。御用部屋日録の端本。

4066 〔前田外記宛来状〕 16.41—25
巻子2 17cm
前田貞醇旧蔵。書状を継紙したもの。内容に大槻内蔵允のことがみえるので，外記は貞幹(中務)。元文5年7月若年寄見習，寛保2年正月本役，延享2年閏12月家老，寛延2年6月没。また前田図書発信の書状あり。図書貞直は父で，延享元年5月没。
旧書名「前田外記宛書翰」。

4067 〔延享元年・二年状留之内〕 16.41—26
手写
3丁 24cm
前田土佐守(直躬)の月番，加判御免に関連する内容。

4068 〔前田駿河守指紙〕 16.41—27
1通 17.5cm
12月25日付，中川多仲宛。12月25日付，布上下にて登城の呼出し状。文中にある横山大膳と考

え合せて，駿河守は孝昌，大膳は隆達，多仲は奇忠で，宝暦5～7年頃と推定される。
旧書名「前田駿河守達書」。

4069　於奥書院年寄中等へ御判物被下候節之絵図　16.41—28
横山引馬著
自筆　宝暦7年(1757)
絵図1枚　22×24cm
横山勇太郎旧蔵。列席者の位置の指図。

4070　〔泰雲院様御親翰等御用番中抜萃〕　16.41—29
手写　文政6年(1823)
巻子1　15.5cm　包紙
包紙「泰雲院様御親翰之御請等且御加筆之拝写等」。泰雲院は10代重教。
旧書名「御用番手記抜萃」。

4071　御留守中之儀伺之品　16.41—30
明和8年(1771)
9丁　24.5cm
前田貞醇旧蔵。前田修理よりの7月28日付伺紙面2通と日付不記の同様紙面1通の写。修理は知定，明和2年9月より家老，その間同7年7月より小松城代，同8年9月没43才。

4072　御内用之品御親翰等之留　16.41—31
2冊　23.5cm
明和・安永・天明期の，主として11代藩主治脩と年寄役村井又兵衛長穹(ながたか)との公務に関する往返文書その他の留書。

4073　〔覚抜書〕　16.41—32
奥村栄通手写
43丁　11×17cm
前欠。奥村栄通は年寄役。明和頃より万延までの人事関係などの記事を収録している。
旧書名「御勝手方申渡控」。

4074　〔御留守中之儀伺等之一巻〕　16.41—33
松平大弐・前田図書著
手写
15丁　24cm
前田貞醇旧蔵。表題「安永六年四月十一日江戸御発駕ニ付 御留守中之儀伺等之一巻」。前田図書(貞一)，松平大弐(玄蕃，康済)関係書類。両人とも当時家老役。
旧書名「江戸御留守中之儀伺等之一巻」。

4075　〔河内守様・内匠様御名御判物等奉頂戴覚書等〕　16.41—34
二木助次手写　明治23年(1890)
9丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。河内守様内匠様御名御判物等奉頂戴，大津御登米裁許被為仰付相勤候御印物等奉拝領，巡見御上使様宮腰へ御出御尋之趣御答書御奉行所へ御届申上候控よりなる。河内守は奥村尚寛(安永6年叙任)。

4076　〔払銀図リ等綴〕　16.41—35
前田家編輯方編
明治年間
59丁　25cm
年寄役前田土佐守(直方)関係の公用文書を集めたものと思われ，内容は村井又兵衛との書簡，算用場奉行生駒右膳直敬・佐藤勘兵衛直寛の書状，天明7年惣払高中勘図，同年及8年江戸不時入用高，恒川七兵衛(寿年，天明8年～寛政2年宮腰町奉行)の書状(寛政元)及び宮腰浦廻米懸り物訳書，宮腰町小物成，尾張中納言宗春隠居・逝去年月日の件，勝興寺内存の件など。
旧書名「御貯用米銀之覚等雑綴」。

4077　〔諸雑留〕　16.41—36
手写
仮綴1(6通)　24cm
前田貞醇旧蔵。事務上の連絡，覚書で，御奉書到来のこと，又左様の実名を利博と称すること(10代重教の子斉敬が利博と称したのは寛政2年11月2日)，土佐守殿被仰渡の覚書，年寄中月番等相勤方につき御直被仰渡の覚など。仮りにここに収む。

4078　御内用一件留　16.41—37
文化2年(1805)
118丁　24cm
「屋漏堂」の蔵書印あり。内容は村井又兵衛(長

世)，奥村左京(質直)の関係のものが多い。

4079 御留守中之義御発駕前奉伺品々并申渡候留 16.41—38
前田純孝著
横山政孝手写 文化14年(1817)
15丁 12×17.5cm
横山政和旧蔵。内容年代は，文化3年(1806)。前田兵部(内記)純孝は当時家老役兼若年寄役。

4080 御供道中心得等 16.41—39
前田修理(知周)著
手写
2通 17cm
中川典克旧蔵。筆者は家老役。①は文化3年頃，②は文化12年(1815)。ともに前田修理知周の覚書の抜萃で，側御用人などの執務や作法などの雑然とした内容。

4081 御留守中之儀御発駕前奉伺品々并申渡候留 16.41—40
前田織江著
自筆 文化13年(1816)
17丁 24cm
横山政和旧蔵。織江は路博，当時家老役。

4082 御家老方隠密之留 16.41—41
前田織江著
自筆
32丁 12×18.5cm
前田道益旧蔵。内容は，文政元年(1818)～同5年の御親翰と，その家老請書など。

4083 御家老覚書 16.41—42
前田権佐等著
手写
巻子1 16cm
8月24日付。以下の7人の連署によって家老役であること，および年代が文政元年8月～同4年12月の間であることがわかる。前田権佐(恒固)，前田内記(兵部純孝)，前田修理(知周)，前田中務(貞道)，前田織江(路博)，横山蔵人(図書政孝)，今枝民部(直寛，文政元年8月15日就任，同4年12月22日没)。

4084 〔表方にて示談之趣并奥之間之様子等之覚書〕 16.41—43
前田家編輯方手写 明治年間
22丁 25cm
横山政和所蔵の写。文政元年(1818)から同7年(1824)にわたる。産物方役所，十村禁牢能州送り，12代藩主斉広近習の勤方などを含む。
旧書名「表方ニテ示談之趣并奥之間之様子等之覚留帳」。

4085 御内御用留 16.41—44
前田家編輯方手写 明治年間
60丁 23cm
九里覚右衛門所蔵の写。文政2年(1819)正月から3月にいたる年寄役前田土佐守(直時)との政治向きの往返書状の留。

4086 村井豊後守殿御渡之御覚書〔等〕 16.41—45
津田宇兵衛手写 文政6年(1823)
3通 16cm 包紙
村井豊後守は当時御用番。①寺社奉行等，定番頭等宛の家中咎人との交際につき縮り方申渡，②10月付，組支配不行状の風聞につき縮り方申渡，③癸未(文政6年)10月付，諸奉行人，下役不正なきよう申渡。

4087 藤田平兵衛を以申上置控 16.41—46
前田家編輯方手写 明治年間
4丁 25cm
文政7年(1824)斉広が没した際の家老役の意見書および閏8月3日付代替りの御親翰写。藤田平兵衛(安処)は当時御近習御用。

4088 御住居見分出役名前 16.41—47
前田貞事手写 文政10年(1827)
12丁 23cm
前田貞醇旧蔵。「文政十年十月十日廻り箱之内江戸来状之拝紙帳冊」。

4089 御政事向ニ付言上書 16.41—48
手写
6丁 24cm
奥村栄実旧蔵。12月16日付，本多播磨守等，年

寄，家老クラス８名連署で，御勝手向の儀につき御親翰が出されたことに対して，別存なき旨の言上書。文政～天保初年か。

4090 〔日記〕 16.41—49
手写
76丁 12×18cm
前欠。御用向往返状の留。内容中に天保２年(1831)の年記が見える。内容から家老席あたりの記録とみられる。

4091 触留 16.41—50
手写
２冊 23cm
乾坤２冊。天保８年(1837)４月～弘化元年(1844)の諸役又は諸士への触・通知を記録したもの。

4092 村井長貞覚書 16.41—51
村井長貞著
自筆 天保９年(1838)
10丁 18.5×13cm
靱負長貞は当時年寄役見習。靱負宛の書状や覚書。
旧書名「覚書」。

4093 廻箱披見覚帳 16.41—52
手写
38丁 12×18cm
天保９年(1838)２月15日より４月５日迄。

4094 姫君様へ御口上書 16.41—53
天保９年(1838)
１通 15.5cm 包紙
中川典克旧蔵。中川八郎右衛門関係の７月付，真竜院様御国にて湯治の件。真竜院は斉広の正室。天保９年(1838)８月湯治願を出して金沢へ入った。中川八郎右衛門(典義)は家老で就国に御供した。

4095 廻箱中緊要留 16.41—54
手写
12丁 16.5×12cm
天保10年(1839)９月６日より11月25日迄。

4096 小松御泊 16.41—55
前田家編輯方手写 明治年間
19丁 25.5cm
戸水信義所蔵の写。内容は嘉永元年(1848)。前田美作守（孝本，前田長種９代，18,500石知行）以下132人小松泊付。孝本は天保２年12月より美作守と称す。安政３年９月没。

4097 表方示談物覚 16.41—56
横山政和編
嘉永７年(1854)～安政３年(1856)
22丁 11.5×17.5cm
年寄役横山政和（蔵人）の覚政務覚書。内容は，嘉永７年（1854）家内婦女の衣服制限規定，安政２年（1855）海防方主付大積り書，安政３年（1856）御軍制御改革に付愚按書等。

4098 表方示談物覚 16.41—57
前田家編輯方手写 明治年間
24丁 23.5cm
前号の写。目次を付す，以下のとおり。
嘉永７年(1854)家内着服之義被仰出ニ付伺之件等，安政２年御軍制御改革之被仰出ニ付僉義之件等，右ニ付横山蔵人存意書，安政３年８月御内用方ヨリ指出御軍政之義ニ付僉義書。

4099 奥之間示談物等覚書 16.41—58
横山政和(蔵人)編
自筆
69丁 12×18cm
政和は当時年寄役。内容は，安政３年(1856)～文久３年(1863)。御家老一人可被仰付ニ付人撰之件，安政５年12月29日亜米利加一件ニ付不時御登城御意見御尋之上意有之件等江戸年寄中等申来紙面，御帰国御暇被仰出趣等金沢年寄中等へ被仰下御親翰写，御名代御礼之節足袋用候義飛騨守様御留守居へ承合之件，筑前守様正四位御昇進之節口宣案，筑前守御親翰横山遠江守へ被成下候件等，御領国内開港之有無外国奉行へ聞番ヨリ承合候趣等，御馬役風儀不宜義ニ付於江戸表被成下御親翰，狩谷判平組替之儀ニ付横山蔵人存意書等，御領国へ異国船渡来之節取捌方之義ニ付伺書，長州蒸気船一覧ニ付テ蒸気船御買入之義船将人撰之義等存意之趣横山蔵人ヨ

リ青山将監へ申遣紙面及青山返書，御軍艦御買入ニ付御金繰之義等横山外記ヨリ横山蔵人へ之紙面及蔵人返書，御上京之義券兵活法之義船将岡田助右衛門被仰付之義船御買揚之義等ニ付横山蔵人ヨリ青山将監へ再返書。
旧書名「奥之間示談物等品々覚書」。

4100 奥之間示談物等品々覚書 16.41—59
横山政和編
前田家編集方手写 明治年間
56丁 23.5cm
前号の写し。

4101 御留守中之儀御発駕前率爾品々并申渡候留 16.41—60
本多播磨守・横山蔵人著
手写
25丁 24cm
横山政和旧蔵。安政5年(1858)4月。播磨守は年寄の政均，蔵人は家老の政和であろう。

4102 御用番方出紙面写 16.41—61
前田家編輯方手写 明治年間
41丁 23.5cm
内容は，安政5年(1858)11月御筒在高しらへ，御馬御入用高調理，安政4年分弓鉄中り御褒美之件，安政6年御献上品御進物品等覚，同年正月9日御城下町家焼失之御届等，同年4月魚津近海等変異有之段達書等，同年9月新川郡常願寺川筋井戸減水之届，万延元年5月五穀成就之折祷致候寺々へ被下方之件，安政6年越中猪谷村降雹届，万延元年石動山天平寺立山岩峅寺へ祈祷料被下件，同年6月御在合金等調理書，同年7月越前大野福井府中等百姓騒立候風説之趣達書并美濃八幡表風聞書取，万延元年5月能美郡大杉上村久兵衛処刑之義伺書，同年7月24日江戸大風雨及異人富士山へ登山之由等江戸三度棟取ヨリ達書，同年8月非人小屋へ被下衣服代請取方之義達紙面，同年9月加越作体見聞之趣達書，同2年菅式部局ヨリ御両様へ寿杯御贈進之紙面，文久元年正月金沢中牧町焼出家数等届，同年御救粥被下人数等調理書，同年金沢近辺梨畑取払之義ニ付達書，同年6月渡辺佐太夫於経武館騎射稽古願之件并騎射由来書，同2年5月ヨリ8月ニ至ル疱瘡病死人数調理。

4103 執筆回状留 16.41—62
5冊 24.5cm
横山隆起旧蔵。安政5年(1858)～明治2年(1869)。
①安政5年正月～万延2年12月
②文久2年正月～ 同 年12月
③文久3年正月～元治2年正月
④元治2年正月～慶応2年12月
⑤慶応3年正月～明治2年7月。

4104 奥村栄通集記 16.41—63
前田家編輯方手写 明治年間
81丁 23.5cm
安政6年(1859)～慶応3年(1867)の御親翰・触，存寄書，風聞書などの留。9項目の目次は巻頭付箋にあり。

4105 富山御用諸事留 16.41—64
横山政和著
前田家編輯方手写 明治年間
105丁 23cm
内容年代は万延元年(1860)～文久元年(1861)。横山蔵人政和(家老)が富山御用主附となり富山藩の政事向き監督のため富山へ派遣された際の記録。内容は，富山御用諸事留上（万延元年8月26日 ～ 12月晦日），富山御用諸事留下（文久元年正月元日～3月26日），富山表覚書（万延元年9月～文久元年3月）。

4106 触留帳 16.41—65
59丁 23cm
文久2年(1862)5月よりの帳と，慶応2年～同4年の帳とを含む。諸役又は諸組宛の触達留。

4107 御内々御尋之品等控 16.41—66
横山政和編
自筆
36丁 12×18cm
政和は家老役，一時兼小松城代。文久3年(1863)～元治元年(1864)の軍事，海防，内政に関する藩主の諮問に対する意見など。

4108　御内々御尋并申上候品等覚　16.41—67
横山政和著
自筆
49丁　12×18cm
慶応2年(1866)～明治2年(1869))の藩主の諮問に対する意見など。政和は家老，明治元年執政となる。

4109　横山政和・前田晋・横山隆淑手留抜萃　16.41—68
手写
26丁　25cm
内容は，慶応3年6月～4年5月(1867～8)。京都警衛，預地私領打込，王政復古，戊辰の役参戦など重要事項の書抜。

4110　御家政向諸事留　16.41—69
手写　明治2～3年(1869～70)
164丁　24cm
横山隆起旧蔵。金沢藩治下の公文書の留帳で，横山大参事(政和)関係が主である。家来の任免，転宅，兵器，学事，救恤など諸種の文書を含む。

4111　奥村丹後守殿家中へ申渡ノ写　16.41—70
手写
8丁　24cm
家中士風及勝手向心得書。

4112　御用部屋へ可遣分　16.41—71
手写
1通　15.5cm
中川典克旧蔵。倹約実施についての事務通知の覚。年代は宝暦以降。
旧書名「御用部屋へ遣べき覚」。

4113　〔申送状〕　16.41—72
1通　16cm
6日付，役務引継ぎの覚書。

4114　御次問合小紙写　16.41—73
前田家編輯方手写　明治年間
57丁　23cm
横山政和所蔵の写。内題「御献賜之御刀等其外之儀ニ付御次問合記来候品々等」。

4115　〔鳥獣殺生方達書〕　16.41—74
手写
1通　25cm
中川典克旧蔵。戊午2月19日付，奥村伊予・横山志摩より奥村因幡宛。粟ヶ崎近辺の鳥殺生禁止のことを再び申渡したもの。
旧書名「鳥獣殺生方法度書」。

4116　年寄中等へ可及御示談箇条　16.41—75
奥村栄実著
自筆
6丁　24.5cm
御定書の作成について調べ方を申付られたので意見を上申したもの。
旧書名「可及御示談箇条」。

4117　月番廻状等写　16.41—76
5丁　14×40.5cm
前田貞醇旧蔵。中将様道中の様子伝達書留。

政　務　日　記

4118　古今一巻帳目録　16.41—77
年寄中席編
手写
78丁　24cm
内容は，明暦3年(1657)～明治2年(1869)にわたる。

4119　留帳抜書　16.41—78
手写
164丁　23cm
若年寄席の記録か。内容は，万治元年(1658)～文化12年(1815)。

4120　御家老方旧記抜書　16.41—79
前田織江路博(道斉)編
自筆　寛政10年(1798)
39丁　12×18cm
前田道益旧蔵。内容年代は，延宝3年(1675)～貞享3年(1686)。

4121　御在国覚書　16.41—80
手写

2冊　24cm

前田貞醇旧蔵。表紙署名津田玄蕃の肩書に「天和三年二月二十一日ヨリ加」とあり，この日に若年寄に就いている。下記の署名人も当時若年寄である。

①延宝8年9月22日～天和元年3月25日，表紙の署名は奥村伊予・奥村兵部

②天和2年7月25日～3年4月2日，表紙の署名は津田玄蕃，奥村兵部。

4122　御家老方旧記五種　16.41—81

前田家編輯方手写　明治年間

2冊　23.5cm

前田鎌太郎所蔵の写。

①御家老方旧記抜書（貞享～延享）（無題），（文化7年）〔御武具方関係〕

②（御家老日記）（万延元年正月～同2年正月）御在国中日記（万延2年2月）御家老諸事留帳（文久元年2月）。

4123　前田貞親手記　16.41—82

前田貞親著

前田家編輯方手写　明治年間

65冊　23.5cm

前田備前貞親は貞享3年11月13日若年寄，元禄4年6月28日～宝永2年10月15日死去まで家老，その間元禄16年小松城代となる。

①貞享3年(1686)11月14日～11月晦日
②貞享3年12月　③貞享4年正月
④同年2月　⑤同年3月1日～14日
⑥同年3月15日～27日　⑦同年4月
⑧同年5月　⑨同年6月
⑩同年7月　⑪同年8月
⑫同年9月　⑬同年10～11月
⑭同年12月　⑮貞享5年正月～2月
⑯同年3月　⑰同年4月
⑱同年5月　⑲同年6月1日～15日
15日～29日，「覚書」（貞享5年6月～元禄2年3月）　⑳貞享5年7～8月
㉑同年9月　㉒同年10月
㉓同年(元禄元年)11月　㉔元禄元年12月
㉕元禄2年正月　㉖同年閏正月
㉗同年2月　㉘同年3月
㉙同年3月29日～3年12月
㉚元禄4年正月～12月　㉛元禄5年正月～8年7月
㉜元禄8年7月～9月
㉝同年7月～10年2月　㉞元禄10年閏2月
㉟同年3月　㊱同年4月
㊲同年5月　㊳同年6月～10月
㊴同年11月　㊵同年12月
㊶元禄11年正～2月　㊷同年3～5月
㊸同年6～8月　㊹同年10月
㊺元禄12年正月～2月21日
㊻同年2月21日～3月　㊼同年4～5月
㊽同年6月1日～12日　㊾同年6月13日～7月
㊿同年9月　(51)同年10月(欠閏9月)
(52)同年7月～12月　(53)元禄13年正月
(54)同年2月～9月　(55)同年4月
(56)同年7月　(57)同年10月，12月（不完）　(58)元禄14年2月
(59)同年3月1日～19日　(60)同年3月20日～晦日
(61)同年4月，6～7月　(62)同年9月
(63)同年10月　(64)同年11月
(65)同年12月，元禄14年，15年控之内抜書。

4124　留帳鈔録　16.41—83

前田家編輯方編

明治年間

7冊　23.5cm

前田貞醇所蔵本を写し編集したもの。若年寄，家老，年寄役，その他の御用留の抜書。

①「留帳之内抜書（貞享三丙寅十一月ヨリ貞親若年寄役之内覚書并御家老役以後之覚書モ少々末ニ記之也，元禄十年五月廿六日ニ至ル）」

②「留帳之内抜書（貞親若年寄役并御家老役以後之覚入交記之也，元禄八ヨリ十四ニ至ル）」

③「貞享四年五月ヨリ同五年五月迄，江戸分万留帳之内抜書」
「享保五庚子歳十一月ヨリ同八癸卯歳五月マテト在之御親翰帳之内左ニ記所ハ壬寅年」
「享保七年，年中御献上物之品」
「御家老方取捌等諸事覚之帳（享保9年）」
「五月小，御用番伊与守(年寄奥村有輝)云々（享保9年）」

④「当用取捌覚入交記之御家老方取捌等諸事覚書」

「年寄中御家老之中并執筆等ヨリ紙面之控（享保18～元文6年）」
「御在国表連判印控（享保19年正月11日ヨリ）」
⑤「年寄中御家老中并執筆等遣取紙面控（元文4年正月ヨリ）」
「肥前守様御入国以来之留帳之内抜書（宝暦7年8月19日ヨリ）」
「明和六年二月十七日江戸毎日帳之内」
「年寄中御家老中并執筆等ヨリ紙面控附廻状等遣取之控（明和8年3月）」
「安永四年，若火事ニ而御城下風下之節御帳大工等御城下江罷出候御達壱巻留」
⑥「天明三年五月，御収納高等米銀并諸渡り定銀江戸京大坂御仕送り銀高外ニ地他国御借銀高茂有之」
「天明四年　御発駕前御用」
「天明四年　御道中日記」
「天明八年　御米入払しらへ帳」
⑦「寛政三年三月ヨリ同四年三月マテ，御入用大綱図」
「当公御入国ヨリ被仰出之趣覚帳（享和2年～4年，前田中務貞道筆）」
「当御在国ヨリ被仰出之趣覚帳（文化元年～5年，前田中務貞道筆）」
（無表題）（文化元年5月）
「奉達御内聴品等控（文化7年12月，本多勘解由等四人連署）」
「前々淀之御算用遂方今般被仰渡等写（文化10年11月）」
「当時御弓矢方御鉄砲方年中役細工高（文化12年）」
「御弓打等年中役細工員数帳（文化13年）」
「御弓矢御鉄砲方年中役細工覚（寛政9年）」
「御用留諸事（文政元年8月15日ヨリ前田貞道）」
「御附人持被仰付候ニ付御附頭当時取捌（文政2年）」
「江戸出府一件并道中泊附等留帳（文政3年前田中務）」
「備後守様御高直始終御内用一巻覚書（文政4年）」
「今枝民部病中御尋之義ニ付被仰出之趣覚書（文政4年）」
「天保二年六月十五日廻り物之内」
「執筆心得方ヶ条書ヘ指図之帳冊写（天保八年前田図書貞事）」。
旧書名「留帳之内抜書」。

4125　前田貞親手留書抜　　16.41—84
前田貞親(備前守)著
手写
51丁　24cm
横山隆起旧蔵。内容は，貞享3年(1686)11月～4年4月。貞親は貞享3年11月13日より若年寄。

4126　若年寄留帳　　16.41—85
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　24cm
①貞享3年11月～同4年3月留帳之内抜書
②若年寄方留帳之内（享保13～18年）
若年寄方御用仮帳（前田図書，元文3年，特16.41—102に同じ）
③若年寄方御用控帳（特16.41—102に同じ）
御留守中若年寄方継立控抜書(元文5年11,12月)
佐渡守様御居間方御切米御扶持方控（寛保3年）等
若年寄方諸（当分前田外記，延享4年正月）
④御留守中（延享4年）
日記（元文5年，前田外記見習之内覚書）
若年寄御先立覚書（織田主税覚書之内）。

4127　〔前田直躬・孝行書抜之内写〕　　16.41—86
手写
1通　16cm
内容は，貞享3年(1686)当時の前田土佐守直躬および前田美作守孝行の記録中の記事についての簡単なメモ。
旧書名「前田直躬書抜之内写」。

4128　〔日記〕　　16.41—87
前田家編輯方手写　明治年間
13冊　23cm
御家老方の留帳。諸種の日記を集録してある。各冊の表題は以下のとおり。
①「貞享三年日記」（内訳「従御前出与力同心

知格式御書面之留帳」）
②「元文五年日記」
③「寛保元年日記」
④「寛保二年日記」
⑤「寛保三年日記」
⑥「延享二年日記」
⑦「明和四・六年日記」
⑧「明和五・七年日記」
⑨「明和八・九年若年寄方日記」
⑩「天明二・八年日記」
⑪「天明六・七年日記」
⑫「天明八年日記」
⑬「享和元・文化二年日記」
旧書名「藩政日記」。

4129 御用番方留帳 16.41—88
29冊 23.5cm
簡略だがまとめられた内容を持つ。
①貞享5年(1688) ②元禄2年
③元禄3年 ④同 4年
⑤同 5年 ⑥同 6年
⑦同 7年 ⑧同 8年
⑨同 9年 ⑩同 10年
⑪同 11年 ⑫同 12年
⑬同 13年 ⑭同 14年
⑮同 15年正月～4月25日
⑯同 年4月26日～6月
⑰同 年7月～12月 ⑱同 16年
⑲同 17年 ⑳宝永2年
㉑宝永3年 ㉒同 4年
㉓同 5年正月～4月 ㉔同 5年5月～10月
㉕同 年11月～12月 ㉖同 6年正月～8月
㉗同 年9月～12月 ㉘同 7年正月～7月
㉙同 年8月～12月（表紙に「元禄八」とあるは誤り）。

4130 諸事覚書 16.41—89
元禄4年(1691)
38丁 25cm
元禄4年正月中の政務日記。家老役横山筑後(正房)，若年寄多賀(信濃直方)あたりの記録。
内容は多岐にわたるが，元日の儀式，お慶様胎毒の様子，坂野忠兵衛不念の仕合（雑煮に砂入り），御雇乳へ被下物1ヶ年の図り，宜しき弓のこと，お豊様母(保寿院)来3月産月につき御親翰，軍役割，練楯，「軍役考異」，(綱紀の)御様躰（腰痛，痔病，痲病，歯痛，頬痛など）とその治療，喧嘩奉行など。

4131 横山・多賀手覚 16.41—90
手写
12丁 24cm
元禄4年(1691)10月の政務記録。多賀は信濃直方，当時若年寄。

4132 前田貞親覚書 16.41—91
前田貞親(備前)著
前田家編輯方手写 明治年間
65丁 23.5cm
前田貞醇所蔵の写。元禄8年(1695)7月～11月の日記。貞親は当時家老役。
旧書名「覚書」。

4133 奥村壱岐覚書 16.41—92
手写
49丁 23.5cm
元禄8年7月6日御発駕より9年8月11日御帰城までの日次記。奥村壱岐は惠輝（やすてる）で当時家老役。

4134 御用所日記抄 16.41—93
手写
2冊 23.5cm
乾坤2冊。内題は，①「元禄十二年ヨリ享保十年マテ御在府中迄御用所日記書抜」 ②「安永九年ヨリ文化八年マテ御在府御留守共御用所日記書抜」。いずれも項目的にごく簡略に記されている。

4135 前田修理御用日記 16.41—94
前田知頼(修理)著
横山政和手写
3冊 23.5cm
前田知頼は宝永2年5月25日～同4年6月29日まで若年寄役，その後元文4年12月24日隠居まで家老役，寛保2年2月没。
①在江戸御用留等（宝永2年5月25日～7月3日）

御留守中御用并雑事等日記（宝永２年７月４日～９月24日）
江戸旅行日記（宝永２年９月25日発～同３年８月11日着）
在江戸中御用并雑事等日記（宝永２年10月７日～12月29日，同３年正月～２月29日，同年３月１日～29日）
②在江戸御用等日記(宝永３年６月１日～29日，同年７月１日～晦日）
於御国御用等日記(宝永３年８月11日～晦日，９月１日～29日，10月１日～晦日，11月１日～晦日）
御次御用之外御書等の控（宝永３年）
③御用等日記（宝永４年正月～４月，７月）
越後屋敷御用之控（宝永５年正月）
江戸御使之義品々控（宝永６年７月12日～９月３日）
江戸御用等日記（宝永７年９月７日～晦日）
旧書名「御用日記」。

4136　御用番日記帳　　16.41—95
手写
８冊　23cm
簡略だが，まとめられた内容を持つ。
①宝永８年正月～８月
②正徳元年９月～12月
③正徳２年正月～６月
④　同年　７月～12月
⑤正徳３年正月～５月
⑥　同年　６月～12月
⑦正徳４年正月～６月
⑧　同年　７月～12月。

4137　正徳享保間江戸日記　　16.41—96
手写
88丁　23cm
本多政以所蔵の写。正徳２年(1712)７月～享保４年(1719)３月の項目的な政務日記。
旧書名「江戸日記」。

4138　表方留抜書　　16.41—97
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴１(89丁)　25cm
副題「御在府中日記之内」。明和９年(1772)写本の写。内容は元禄～享保期にわたるが大部分は享保８年・９年のもの。

4139　江戸御留守詰日記　　16.41—98
前田知周(修理)著
手写
３冊　23cm
表題「江戸詰日記」。①享保２年(1802)10月　②同年11月　③同年12月の分。前田知周は当時家老役。

4140　若年寄方諸事控　　16.41—99
中川長定(式部)著
26冊　24cm
中川典克旧蔵。表題は「若年寄方控帳御際方御馬方御道具諸事控置」「若年寄兼役諸事控」。中川式部長定は当時若年寄。
①享保11年正月　②　同年　２月
③　同年　３月　④　同年　４月
⑤　同年　５月　⑥　同年　６月
⑦　同年　７月　⑧　同年　８月
⑨　同年　９月　⑩　同年　10月
⑪　同年　11月　⑫　同年　12月
⑬享保13年正月　⑭　同年　２月
⑮　同年　３月　⑯　同年　４月
⑰　同年　５月　⑱　同年　６月
⑲　同年　７月　⑳　同年　８月
㉑　同年　９月，10月　㉒　同年　11月，12月
㉓享保14年正月，２月　㉔　同年　３月，４月
㉕　同年　４月～７月　㉖　同年　８月～10月

4141　前田貞直手記　　16.41—100
前田貞直著
前田家編輯方手写　明治年間
19冊　23cm
前田中務(のち図書)貞直は享保18年10月15日～延享元年５月21日死去まで家老役。
内題「御家老方御用等控帳」など。
①享保18年(1733)10月～12月
②享保19年正月～２月
③　同年　３月～５月
④　同年　６月～12月
⑤享保20年正月～９月７日

⑥ 同年　9月7日～12月
⑦享保21年正月～4月
⑧ 同年　4月25日～9月
⑨ 同年　(元文元年)10月～元文2年正月
⑩元文2年正月～9月
⑪ 同年　9月～12月
⑫元文3年正月～3月
⑬ 同年　3月～7月
⑭ 同年　7月～12月，元文4年正月～9月
⑮元文4年9月～12月
⑯元文5年正月～2月
⑰ 同年　2月～7月
⑱ 同年　7月～12月，元文6年正月～8月
⑲寛保元年9月～寛保2年正月。

4142 前田貞直筆記　16.41—101
前田貞直著
前田家編輯方手写　明治年間
10冊　23.5cm
内題は「表向御用披見物等控」「御用留帳」「江戸毎日帳」など。
①享保19年(1734)正月～7月
同年　7月6日～12月
②享保20年正月～9月
同年　9月7日～12月
享保21年正月～7月
元文元年7月7日～9月
③ 同年　10月7日～12月
④ 同年　10月23日～12月
⑤元文2年9月～12月
元文3年正月～7月
同年　7月6日～12月
元文4年正月～9月
同年　9月～12月
⑥元文5年正月～7月
同年　7月～12月
⑦元文6年正月～9月
寛保元年9月4日～11月
寛保2年正月～7月
⑧ 同年　7月～8月
⑨ 同年　8月晦日～12月
⑩寛保3年正月～3月
同年　閏4月～8月。

4143 若年寄方御用留　16.41—102
前田図書等著
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，若年寄方御用仮帳(元文3年8月14日～9月4日)，若年寄方御用控帳(元文5年閏7月1日～8月28日)，の二種。前者は前田図書の署名で「前田大学(知雄)忌中に付当分相勤候自分之覚」と注記あり。後者は元文5年7月1日若年寄見習になった前田外記貞幹の著であろう。

4144 江戸御家老方留　16.41—103
横山蔵人正従編
手写
36丁　23cm
内容は，元文5年(1740)8月～寛保4年(1744)。

4145 御在府毎日帳二種　16.41—104
前田家編輯方手写　明治年間
79丁　23cm
内容は，元文3年(1738)7月18日～29日の家老役本多頼母(政恒)，玉井市正(貞衛)の毎日帳，同5年7月18～12月29日の同じく家老役横山蔵人(正従)・玉井市正(貞衛)の毎日帳の2種を収載。

4146 〔年寄席日記下書〕　16.41—105
手写
5冊　12×36cm
前田貞醇旧蔵。日記の下書や抜書類。
①元文4年(1739)12月～寛保2年4月
②天明8年(1788)3月～12月
③文化6年(1809)5月～11月
④文政元年(1818)8月15日～9月15日
⑤文政元年8月～12月。
旧書名「御用番日記」。

4147 寛保宝暦間覚書　16.41—106
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
横山政和所蔵の写。年寄又は家老役と思われる人の簡略な出仕日記。内題「覚書」。
①寛保元年(1741)～延享2年

②延享3年～宝暦9年(1759)。

4148　御留守中留　　16.41—107
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　25cm
①御留守留　延享元年(1744)7月～9月
②御留守中留　延享元年10月～12月
③　〃　延享2年正月分
〃　延享2年2月
覚書　若年寄中　延享2年5月6日～6月26日。

4149　御留守中留　　16.41—108
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　26cm
延享2年(1745)3月分，4月1日～5月6日分。

4150　前田貞幹手記　　16.41—109
前田貞幹著
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
前田外記（中務）貞幹は貞重系前田氏で，7000石。元文5年7月1日若年寄見習，寛保2年正月13日本役，延享2年閏12月18日家老，寛延2年6月24日没，29才。
①江戸表方状留(延享3年4月～7月)
②於江府表方留（同年6月～9月）
③　〃　（同年10月～12月）
④江戸御用留帳略書(同年4月15日～6月9日)
御家老方（同年9月～12月）
⑤覚書（延享4年8月～12月）
若年寄方御入国前諸事御用留・御入国御道中覚書（延享4年)。

4151　表方留　　16.41—110
99丁　12×17.5cm
内題「御表方日記」。前田貞醇旧蔵。内容は，延享3年（1746）4月・5月。江戸在府中の政務日記。内容から著者は前田外記貞幹と推定できる。当時，家老役。

4152　公私覚書　　16.41—111
前田外記著
手写
11丁　24cm
前田貞醇旧蔵。内容は，延享4年(1747)，1月～8月中の江戸における覚書。前田外記は貞幹。当時，家老役。

4153　中川日記　　16.41—112
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
中川典克所蔵の写。第1冊は4月24日～閏6月20日迄。第2冊は正月21日～2月29日，第3冊は6月3日～12月13日の公務に関する日記で，内容から第1冊は宝暦元年(1751)，第2，3冊は同2年と推定できる。第4冊は「正月殿中御作法廻状之写」と内題あり，江戸城での将軍の諸大名謁見を記す。手写人はこれを「宝暦九・十年頃」と推定している。なお，筆者は当時家老であった中川惟忠(長裕)と推定できる。

4154　御親翰并御請控　　16.41—113
14丁　12×18cm
中川典克旧蔵。日次御用手留。閏6月があり，また御預地御用役拓植義太夫死去の件の記事があるなどにより，宝暦元年(1751)であることが知られる。著者は前田大炊と推定される。当時(延享4年～宝暦3年)家老役の孝昌であろう。

4155　本多政行道中日記　　16.41—114
小谷円右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　23cm
戸水信義所蔵の写。内容は，宝暦4年(1754)家老の本多政行(安房守)が藩侯重教(泰雲公)家督につき江戸へ行った際の道中日記及び江戸表での日記。同年2月15日～8月。

4156　〔前田直躬〕覚書写　　16.41—115
前田直躬著
手写
16丁　24cm
内容は，宝暦3年(1753)。表紙に「謙徳院様御逝去之節江戸表へ罷越候節少々覚書」と注記あり。4月13日より8月5日迄の記事及び「帰府道中行列其外少々覚書」より成る。直躬は当時年寄役(加判月番)。

旧書名「覚書」。

4157 覚留帳 16.41—116
宝暦9年(1759)
11丁 12×17cm
正月朔日より閏7月17日迄の日記帳。著者は同年7月18日に長九郎左衛門と共に御用加判御用番を仰付られている。

4158 〔年寄席日記〕 16.41—117
年寄席編
手写
12冊 11.5×18cm
年寄席の執筆人たちの筆になる記録の写。年寄村井長穹関係書類であろう。
①御在国 宝暦9年(1759)閏7月18日～12月
②御在国 宝暦9年9月 (御用番村井靱負)
③御在国 宝暦10年正月～12月
④御在国 宝暦10年9月 (御用番村井靱負)
⑤御在国 宝暦11年正月，2月，4月
⑥御在国 宝暦11年3月 (御用番村井又兵衛)
⑦御在国 宝暦11年9月 (御用番村井又兵衛)
⑧御在府 宝暦12年正月，5月
⑨御在国 宝暦13年4月 (御用番村井又兵衛)
⑩御在国 宝暦13年5月～12月 (村井又兵衛)
⑪御在国 宝暦14年正月～3月
⑫御在府 宝暦14年4月～閏12月。
旧書名「御用番日記」。

4159 奥村家老日記 16.41—118
奥村栄通編
前田家編輯方手写 明治年間
3冊 24cm
①尚寛君御代・家老共手合日記之内抜書 (明和2年～享和3年)
②諦観君御代・ 〃 (文化元年～文政10年)
③諦観君心光君御代・ 〃 (文政11年～天保15年)。

4160 年寄役日記 16.41—119
村井又兵衛長穹著
自筆
13冊 12.5×18cm・14×20cm
①御在府 明和2年(1765)正月～2月
② 〃 同年 3月(御用番)，5月
③ 〃 同年 8月
④ 〃 明和4年正月～6月11日
⑤御在国 同年 6月16日～8月5日
⑥ (不記) 明和6年5月
⑦ (〃) 同年 8月
⑧ (〃) 明和7年6月～7月
⑨ (〃) 天明5年12月 (御用番)
⑩ (〃) 天明6年7月，12月 (〃)
⑪ (〃) 天明7年6月 (〃)
⑫ (〃) 天明8年2月 (〃)
⑬ (〃) 同年 8月 (〃)。
旧書名「御用番日記」。

4161 前田貞一手記 16.41—120
前田貞一著
前田家編輯方手写 明治年間
188丁 27.5×17cm
前田図書貞一は明和8年(1771)3月22日家老役となる。また同年8月18日在江戸若年寄を兼ねた。内容は次のとおり。
覚書 (明和8年3月22日～8月18日)
表方控 (同年8月29日～12月30日)
御家老方 (同年8月29日～9月11日)。

4162 頭書日記 16.41—121
前田家編輯方手写 明治年間
97丁 23.5cm
御用番の日記。御用番はすなわち月番。巻一を欠く。巻二は明和9年 (1772)，巻三は安永2年 (1773)。

4163 〔年寄席日記〕 16.41—122
手写
4冊 12×18cm・18×12cm
年寄役の日記。村井又兵衛(長穹)関係と思われる。
①安永2年(1773)10月11日～12月17日
②安永3年6月1日～8月25日
③安永4年正月1日～4月11日
④安永6年11月1日～晦日 (御用番又兵衛)。
なお①，②の表題「御用番日記」は後筆で，誤っている。

旧書名「御用番日記」。

4164　御用留帳　　16.41—123
手写
94丁　18×12cm
前田栄次郎旧蔵。天明6年(1786)正月～9月の日次留帳。

4165　〔日記等抜書〕　　16.41—124
手写
9冊　12×34cm
①寛政3年(1791)～文化13年の抜書。村井又兵衛関係の記事
②天保13年7月，村井雄二郎長在関係の往返状留
③天保15年正月～12月，同上
④弘化3年正月～7月，同上
⑤嘉永元年4月～同2年2月，村井又兵衛関係の記事。
⑥嘉永5年4月～8月，同上
⑦嘉永7年4月～安政2年2月，同上
⑧文久元年正月～12月，同上
⑨文久2年正月，同上。
旧書名「御用番日記」。

4166　御用番中御城へ罷出指引等之覚　　16.41—125
富田外記手写　文政3年(1820)
18丁　12.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。内容は，寛政4年(1792)2月，同年12月，同6年正月の各「御用番中覚書」。

4167　寛政文化間日記　　16.41—126
嘉会軒著
3冊　13×20cm
御用番のごく項目的な日記。①寛政5年(1793)5月～同12年12月　②寛政13年正月～文化4年12月　③文化5年正月～文化11年11月。嘉会軒は当時年寄役の村井又兵衛長祥(長世)か。
奥村左京(貞直)

4168　政寛覚書　　16.41—127
横山政寛著・横山政和編
横山政和自筆　安政4年(1857)
3冊　12×18cm
横山政寛は寛政5年5月15日御家老役となり，同年12月29日年寄中御用加判，同6年正月年寄中打込御勝手御用，同12年4月1日御勝手方日並御用，享和元年正月没32才。
①「御家老方勤向等品々政寛覚書（天明期，寛政5年)」
②「寛政六年政寛覚書」
③「寛政十二年政寛覚書」。

4169　政寛覚書　　16.41—128
横山政寛著・横山政和編
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
①寛政5年5月19日～6月10日の政務日記と同年の御家老方等覚帳，同年12月の御家老方留帳
②寛政6年正月～12月の諸事覚書
③寛政7年～10年諸事覚書
④寛政12年の諸事覚書。
②は前号の②，④は前号の③の写。

4170　御用番覚書　　16.41—129
村井長世(又兵衛)著
自筆　寛政6～7年(1794～95)
6冊　12×18cm
又兵衛長世(長祥)は年寄役。いずれも御用番月の記録。表題「御留守覚書」「日記」「御留守日記」。
①寛政6年5月1日～18日
②　〃　5月19日～29日
③　〃　11月
④寛政7年2月
⑤　〃　7年7月1日～19日
⑥　〃　7年7月20日～29日
旧書名「御留守覚書」。

4171　〔横山氏日記〕　　16.41—130
手写
23冊　24cm
横山政和旧蔵。政務関係の日次記。記録された寛政7年(1795)～安政3年(1856)は，政寛，政孝，政和の代にわたっている。いずれも各代が家老役就任中にあたる。すなわち政寛は寛政5年より享和元年没迄，政孝は文化13年4月18日

より天保7年没迄，政和(まさとも)は嘉永6年より家老役をつとめた。したがって下記のうち①～⑤は政寛の代。⑥～⑳は政孝の代，㉑～㉓は政和の代にあたる。

①日記　寛政7年10月朔日～同8年4月6日
②御留主諸事　同8年4月6日～10月29日
③御留主諸事　同8年11月朔日～同9年4月29日
④日記　同9年4月15日～同10年4月4日
⑤日記　同11年5月18日～12月29日
⑥日記　文化13年4月18日～12月晦日
⑦日記　同14年正月元日～9月26日
⑧日記　同年10月9日～同15年2月28日
⑨日記　同15年3月10日～12月晦日
⑩日記　文政2年正月元日～12月29日
⑪日記　同3年正月元日～12月30日
⑫日記　同4年正月朔日～12月晦日
⑬日記　同5年正月元日～12月16日
⑭日記　同7年4月4日～12月晦日
⑮日記　同8年正月元日～3月13日
⑯日記　同9年4月11日～12月29日
⑰日記　同10年正月元日～3月13日
⑱日記　文政11年4月18日～6月晦日
⑲日記　同年7月朔日～12月29日
⑳日記　同12年正月元日～3月14日
㉑覚書　安政2年3月27日～5月2日
㉒日記上　同3年4月16日～8月晦日
㉓日記下　同年9月朔日～4月6日。

4172　御在国日記　16.41—131
村井又兵衛編
手写
69丁　24cm
寛政8年（1796）正月中の年寄役御用番村井又兵衛長世（長祥）の政務上の日記。

4173　〔村井長世日記〕　16.41—132
屋漏堂主人著
自筆　寛政9年(1797)
5冊　19.5cm
表題は「日記」。公私雑交の日次記。屋漏堂を村井長道とする説があるが，長道は天保7年(1836)40才で没しているので，この場合年代が合わない。その父長世(年寄役)と考えられる。
①寛政8年7月（村井又兵衛）。
②寛政9年2月（屋漏堂主人）
③　〃　5月（　〃　）
④　〃　7月（　〃　）
⑤寛政10年10月（村井又兵衛）。
旧書名「日記」。

4174　江府詰中諸事覚帳　16.41—133
横山政寛(蔵人)著
手写
92丁　23cm
表題「江戸詰中覚帳」。内容は，寛政10年(1798)4月～12月。政寛は当時家老役。

4175　江戸詰中諸事略留　16.41—134
前田道済編
自筆
2冊　11.5×17.5cm
前田織江路博(道済)は当時家老役。
①寛政11年(1799)5月1日～12月晦日
②同12年正月～4月21日。

4176　御家老方若年寄方日記之内抜書　16.41—135
前田道済(織江)著
6冊　12×18cm
前田道益旧蔵。
①寛政9年(1797)閏7月15日～同10年4月4日
②寛政11年5月18日～同12年4月25日
③享和2年3月1日～8月12日
④享和2年8月25日～12月29日
⑤享和3年正月～9月13日
⑥文化元年4月2日～2年3月11日。

4177　備忘小識　16.41—136
奥村尚寛著
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　23cm
内容は，寛政12年(1800)3月23日～享和2年(1802)3月12日。表紙に「御用方之義諸記録ニ不載品之覚なり」と注記あり。奥村河内守尚寛は当時年寄役。

4178　御家老方御密用覚　　16.41—137
前田路博(織江)著
34丁　12×18cm
前田道益旧蔵。内容は享和2年(1802)10月～文化3年(1806)9月。

4179　御用留帳　　16.41—138
成瀬種徳(監物・正脩)著
自筆　享和3年(1803)
40丁　12.5×20.5cm
成瀬正居旧蔵。閏正月29日～4月29日の役務日記。著者は寛政3年公事場奉行，同年算用場奉行，同8年斉広御部屋附を経て享和3年2月朔日若年寄となる。文化元年正月没，44才。

4180　〔成瀬種徳〕日記　　16.41—139
成瀬監物著
自筆　享和3年(1803)
88丁　12.5×18cm
成瀬正居旧蔵。
5月1日より9月13日御発駕迄の若年寄役としての日記。
旧書名「日記」。

4181　〔御家老方諸事覚書〕　　16.41—140
前田道済(織江)著
自筆　文化2～14年(1805～17)
21冊　12×18cm
前田道益旧蔵。
①文化2年　御留守中諸事覚書（3月）
②文化3年　御家老方御発駕迄諸事覚書（3月～4年3月）
③文化4年　御家老方御留守中諸事覚書（3月～5年3月）
④文化5年　江戸御留守詰諸事覚書（3月～8月）
⑤文化5年　〃　（9月～12月）
⑥文化6年　御在国御家老方諸事日記（7月～12月）
⑦文化7年　御在国御家老方諸事覚書（正月～5月）
⑧文化7年　〃　（6月～12月）
⑨文化8年　御発駕迄御家老方諸事覚（正月～3月）
⑩文化8年　御家老方御留守諸事覚書（3月～12月）
⑪文化9年　御家老方御留守中諸事覚書（正月～3月）
⑫文化9年　江戸御留守中諸事留帳（3月～7月）
⑬文化9年　〃　（8月～12月）
⑭文化10年　江戸御留守中諸事留帳（正月～4月）
⑮文化10年　御在国諸事留帳（5月～9月）
⑯文化11年　御在国諸事覚書（4月～12月）
⑰文化12年　〃　（正月～4月）
⑱文化12年　御留守中諸事覚書（9月～13年正月）
⑲文化13年　江戸御留守中諸事留帳（3月～7月）
⑳文化13年　江戸御留守中諸事覚書（8月～12月）
㉑文化14年　江戸御留守諸事覚書（正月～4月）。

4182　江戸急発足大概　　16.41—141
村井長世(又兵衛)著
自筆　文化2年(1805)
36丁　12×18cm
急御用にて江戸出府に関する9月13日～28日の記録。長世は年寄役で当時は金沢城代を勤む。

4183　御在国留帳　　16.41—142
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　24cm
文化6年(1809)正月元日の記事からはじまるが，飛び飛びに抜き写してある。

4184　前田修理覚書二種　　16.41—143
前田家編輯方手写　明治年間
28丁　23.5cm
成瀬吉勝所蔵の写。　内容は，前田修理手留之内成瀬掃部抜書，文化6年交代ニ而江戸御留守詰覚書。前者は公務上の備忘録。なお成瀬掃部は当職(家老)。後者は正月24日～4月16日の前

田修理知周(当時家老役兼若年寄)の公務記録。

4185 御家老方諸事之分迄書抜 16.41—144
早川随房編
67丁 24.5cm
早川随勝旧蔵。内容は，文化8年(1811)～同13年(1816)。項目的に記してある。

4186 職事録 16.41—145
前田孝始著
文化8年(1811)
5丁 12×18cm
前田栄次郎旧蔵。孝始は文化8年3月10日より若年寄役となった。その日付より22日まで及び6月16日の日記。

4187 日々御用留 16.41—146
前田孝始著
6冊 12×18cm
前田栄次郎旧蔵。前田式部孝始は文化8年若年寄，文政元年隠居。
①日々御用留（文化9年7月ヨリ12月）
②御用留（文化11年正月）
③御用日記（文化12年正月～9月）
④日々御用自記(文化13年3月27日～12月28日)
⑤日々御用留（文化14年正月～9月）
⑥ 〃 （文化15年2月～12月)。

4188 〔文化十年日記抄〕 16.41—147
手写
23丁 24cm
早川随勝旧蔵。文化10年(1813)正月～9月及び文化5年3月～閏6月の簡略な役務日記。御馬・御鷹・御細工方関係の記録。当時若年寄役の前田式部(孝始)，前田掃部(孝亮)の達書などを収めている。

4189 御用留并私用留 16.41—148
前田孝始(式部)著
自筆 文化11年(1814)
19丁 12×18cm
前田栄次郎旧蔵。文化11年正月～4月。当時孝始は若年寄役。
旧書名「御用番中留」。

4190 聞合之品諸事留帳 16.41—149
中川八郎右衛門(顕忠)著
自筆 文化11年(1814)
31丁 12×17.5cm
中川典克旧蔵。文化11年11月6日中川清六郎(顕忠)が家老役に任命された時からの政務の日次覚書。顕忠(あきただ)は，天明5年遡知の3分の1をつぎ，同8年本高5,000石に復し，寛政4年定火消，享和元年寺社奉行兼公事場奉行を経て，家老役となる。文化12年10月6日没，42才。

4191 加判并江戸御留守詰被仰付候日より諸事聞合覚書 16.41—150
中川顕忠著
自筆
8丁 12×17.5cm
中川典克旧蔵。文化12年(1815)正月27日付。3月29日までの日記。八郎右衛門顕忠は当時家老役。

4192 御家老方并若年寄方御用諸事留 16.41—151
中川顕忠著
自筆
34丁 12×18cm
中川典克旧蔵。文化12年(1815)5月10日～7月6日の御用留。

4193 〔中川顕忠〕日記 16.41—152
中川八郎右衛門著
自筆
29丁 12.5×36cm
中川典克旧蔵。文化12年(1815)5月14日～9月5日迄の日記。
旧書名「日記」。

4194 〔中川顕忠〕日記 16.41—153
中川顕忠著
自筆 文化12年(1815)
11丁 12×17cm
中川典克旧蔵。家老として在江戸中の日記。
8月1日より23日迄の分。
旧書名「日記」。

4195　御用番方并御城方御用之覚　　16.41—154
前田家編輯方手写　明治年間
9冊　23cm
年寄役奥村助右衛門為賀(栄実)関係の書類らしい。
①文化12年(1815)8月～11月，13年4月～5月15日
②文化13年5月16日～29日，9月5日～29日，12月9日～文化14年2月2日
③文化14年2月3日～6月26日
④同年6月27日～9月25日，10月10日～11日
⑤文化15年3月14日～5月11日
第6冊以下の表題は「御用番方御城方御勝手方御用之覚」
⑥文政元年5月12日～6月11日
⑦文政元年6月12日～29日
⑧　同年　6月晦日～8月4日
⑨　同年　8月5日～11月20日。

4196　諸事留帳　　16.41—155
横山政孝著
前田家編輯方手写　明治年間
52冊　23.5cm
横山政和所蔵の写。政孝(図書，のち蔵人)は，文化13年(1816)4月18日より家老役を勤め，天保元年7月27日より筑前守(慶寧)御用主附も兼ね，同7年正月14日没。
内題は「覚帳」「覚書」「諸事留」「諸事留帳」。
①②　文化13年4月17日～12月晦日
③　文化14年正月～3月21日
④⑤　文化14年4月3日～5月29日
⑥⑦　文化14年6月1日～7月29日
⑧⑨　文化14年8月1日～10月8日
⑩⑪　文化14年10月9日～12月29日
⑫～⑭文化15年正月元日～3月24日
⑮～⑰文化15年4月7日～12月晦日
⑱⑲　文政2年正月～12月
⑳～㉒文政3年正月元日～3月晦日
㉓㉔　文政4年正月～12月
㉕～㉗文政5年正月～12月
㉘㉙　文政6年正月～12月
㉚～㉜文政7年正月～12月
㉝㉞　文政8年正月～12月
㉟～㊳文政9年正月～12月
㊴㊵　文政10年正月～12月
㊶㊷　文政11年正月～12月
㊸　文政12年正月～13年6月21日
㊹～㊻文政13年7月27日～天保2年3月26日
㊼㊽　天保2年3月27日～4年3月27日
㊾～㊿天保4年3月27日～5年2月3日
(51)　天保5年2月4日～6年10月27日。

4197　〔御家老方覚書〕　　16.41—156
横山政孝著
自筆
21冊　11.5×17.5cm
横山氏旧蔵。表方御家老方・若年寄方の留書。また天保元年以降は筑前守様（慶寧）御附御用を勤む。
①文化13年(1816)
②～⑤同　年14(1817)
⑥⑦同　15年(1818)
⑧文政2年(1819)
⑨同　3年(1820)
⑩同　4年(1821)
⑪同　5年(1822)
⑫同　6年(1823)
⑬同　7年(1824)
⑭同　8年(1825)
⑮同　9年(1826)
⑯同　10年(1827)
⑰同　11年(1828)
⑱同　12年(1829)
⑲同　13年(1830)～天保2年(1831)
⑳天保2年(1831)
㉑天保5年(1834)。

4198　御在府中覚　　16.41—157
奥村助右衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23cm
奥村栄滋所蔵の写。内容は，文化14年(1817)10月12日～29日，江戸在府中の奥村栄実の公務日記。栄実は当時年寄見習役か。

4199　官私随筆　　16.41—158
奥村栄実著
自筆　文政元年(1818)

37丁　11×17cm
文政元年11月29日～同2年2月25日まで。

4200　官私随筆　16.41—159
奥村栄実著
前田家編輯方手写　明治年間
17冊　23cm
前号の手写本であるが，その欠けた部分を知ることができる。なお，内容は16.41—173へつづく。
第1冊
①文政元年11月29日～同2年2月25日
②同2年2月26日～6月7日
③同年6月8日～9月8日
第2冊
④同年9月9日～同年11月4日
⑤同年11月4日～12月29日
⑥同3年正月朔日～4月8日
第3冊
⑦同年4月13日～7月10日
⑧同年7月11日～10月8日
第4冊
⑨同年10月10日～12月29日
⑩同4年4月朔日～6月29日
⑪同年7月朔日～9月23日
第5冊
⑫同年9月23日～12月18日
⑬同年12月22日～同5年閏正月19日
⑭同5年閏正月23日～2月29日
第6冊
⑮同年3月朔日～5月5日
⑯同年5月9日～10月10日
⑰同年10月12日～12月朔日
第7冊
⑱同年12月5日～12月晦日
⑲同6年正月朔日～4月25日
第8冊
⑳同年4月25日～8月11日
㉑同年8月22日～同7年2月19日
第9冊
㉒同7年2月24日～4月16日
㉓同年4月16日～5月8日
㉔同年5月8日～7月5日
第10冊
㉕同年7月6日～8月14日
㉖同年8月14日～12月晦日
第11冊
㉗同8年正月朔日～4月9日
㉘同年4月15日～8月14日
第12冊
㉙同年8月15日～同9年2月9日
㉚同9年2月11日～7月10日
第13冊
㉛同年7月11日～同10年正月朔日
㉜同10年正月2日～4月11日
㉝同年4月11日～8月25日
第14冊
㉞同年9月朔日～12月8日
㉟同年12月8日～同11年2月19日
第15冊
㊱同11年2月19日～6月19日
㊲同年6月24日～8月16日
第16冊
㊳同年8月17日～同12年正月16日
㊴同12年正月17日～6月21日
第17冊
㊵同年6月25日～11月23日
㊶同年11月24日～同13年8月15日。

4201　御用番方并御城方御勝手向御用之覚抄　16.41—160
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　25cm
文政元年(1818)分からの抜き書。

4202　諸事覚書　16.41—161
前田織江著
12冊　12×18cm
前田道益旧蔵。前田織江は路博・道済。寛政9年閏7月家老となり，同時に斉広様御用主附となる。文政6年若年寄を兼ね，同13年8月隠居，翌月没。
①御在国諸事日記略留　文政2年正月～12月
②御在国諸事覚書略記　文政3年正月～12月
③諸事覚書　文政4年正月～12月
④御在国諸事覚書略記　文政5年正月～10月6日

⑤江戸詰中諸事覚書　文政５年10月19日～12月12日
⑥御留守諸事覚書　文政６年正月～12月
⑦御留守四月四日御入国諸事留帳略記　文政７年正月～12月
⑧諸事留日記　文政８年正月～12月
⑨諸事覚書　文政10年正月～12月
⑩　〃　文政11年正月～12月
⑪　〃　文政12年正月～３月14日
⑫　〃　文政13年正月～(5月)。

4203　御在国中日記　16.41—162
手写
６冊　23cm
前田貞醇旧蔵。文政４年(1821)９月～５年閏正月の年寄役の公務日記。①文政４年９月，②同年10月，③同年11月，④同年12月，⑤⑥文政５年正月。

4204　日省記　道　16.41—163
村井長世著
21冊・２通　12×18cm・17.5×13.5cm・16cm
村井又兵衛(豊後守)長世(長祥)は，寛政２年遺知をつぎ，寛政５年正月人持組頭となる。文政10年10月没。
長道
①文政４年(辛巳)正月１日～18日
②同年　正月19日～２月10日
③同年　２月10日～晦日
④同年　３月１日～10日（御用番）
⑤同年　３月11日～22日（〃）
⑥同年　３月23日～29日（〃）
⑦同年　４月１日～22日
⑧同年　４月23日～５月14日
⑨同年　５月15日～６月７日
⑩同年　６月８日～７月３日
⑪同年　８月６日～９月１日
⑫同年　10月１日～23日（御用番）
⑬同年　10月23日～12月22日
⑭同年　12月26日・27日
⑮文政５年３月１日～17日（御用番）
⑯同年　３月18日～６月13日
⑰同年　８月１日～19日（御用番）
⑱同年　８月19日～９月８日（〃）
⑲文政６年２月（御用番）
⑳同年　11月（〃）
㉑文政７年８月（〃）
㉒（一紙）文政辛巳８月２日付御書到来御請之下物窺之写
㉓（一紙）文政辛巳８月16日付御書到来御請之下物窺之写。
旧書名「御用番日省記」。

4205　村井家雑録　16.41—164
手写
仮綴１(100丁)　24cm
数種の政務記録の下書や断片を合せたもの。内容年代は文政５年正月～12月，安政５年正月～12月，また天保７年～12年の断片的な記録。

4206　御家老方御留守諸事之内抜書　16.41—165
前田織江編
22丁　12×18cm
前田道益旧蔵。文政５年(1822)11月より12月迄のことを記す。前田織江路博は寛政９年より家老で斉広様御用主附。

4207　御用番中心覚留帳　16.41—166
成瀬某手写
12冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。
①文政10年３月　②同年　６月
③同年　８月　④同年　11月
⑤文政11年３月　⑥同年　７月
⑦同年　11月～12月15日
⑧文政12年３月
⑨同年　７月～８月15日
⑩同年　11月16日～12月15日
⑪文政13年３月
⑫同年　７月。

4208　御家老方諸事写　16.41—167
前田図書手写
19丁　24cm
前田貞醇旧蔵。文政11年(1828)４月18日～29日の政務日記。前田図書貞事は当時家老役。

4209 御在国中日記写 16.41—168
前田図書手写
2冊 24cm
①文政11年4月18日～29日
② 同年 5月1日～10日。

4210 〔本多播磨守御用番覚書〕 16.41—169
本多政和著
前田家編輯方手写 明治年間
8冊 23cm
御用番の時の記録。本多播磨守政和は文政11年12月28日～弘化4年9月5日没（35才）まで年寄役。また文政13年12月15日～天保11年9月1日金沢城代を勤めた(その後も再勤)。
①文政12年正月1日～19日
②文政12年正月20日～29日
③文政13年2月1日～29日
④文政13年12月1日～30日
⑤天保5年12月1日～15日
⑥天保7年9月1日～14日
⑦天保9年4月20日～晦日
⑧天保9年11月18日29～日。
旧書名「本多播磨守御在国覚書」。

4211 本多政和覚書 16.41—170
本多政和著
前田家編輯方手写 明治年間
3冊 23cm
本多政和は当時年寄役。
①御用番月之外覚書（文政12年6月4日～12月晦日）
②覚書（御用番，文政12年7月16日～29日）
③覚書（文政13年4月1日～晦日）。

4212 本多政和覚書 16.41—171
前田家編輯方手写 明治年間
32冊 23cm
文政12年(1829)～天保12年(1841)の政務日記。政和(播磨守)は年寄役。内題は「覚書」。主に月番の時のものが多い。
①文政12年7月1日～15日，同年11月
②文政13年正月～7月（御用番月之外覚書）
③ 同年 8月～11月，附，文政13年3月学校方覚書
④天保2年3月
⑤ 同年 8月
⑥ 同年 12月
⑦ 同年 正月～11月（御用番月之外覚書）
⑧天保3年3月
⑨ 同年 5月1日～19日
⑩ 同年 7月20日～30日
⑪ 同年 正月～12月（月番之外）
⑫天保4年正月，同年5月
⑬同年8月15日～5年5月3日（御用番月之外覚書）
⑭ 同年 9月
⑮天保5年4月，同年7月1日～18日
⑯ 同年 7月19日～29日，同年12月16日～22日
⑰ 同年 5月5日～8月6日（御用番月之外覚書）
⑱天保6年3月1日～17日，同年同月18日～晦日
⑲ 同年 6月～閏7月，同年11月
⑳ 同年 正月～12月（御用番月之外覚書）
㉑天保7年2月，同年5月16日～晦日
㉒天保5年正月，天保7年2月6日～晦日
㉓天保7年7月1日～17日，同年同月18日～晦日，同年9月15日～晦日
㉔ 同年 正月～6月10日，同年6月11日～8年2月10日（いずれも御用番之外）
㉕天保8年正月，同年5月
㉖ 同年 9月，同年2月11日～11月12日（月番之外覚書）
㉗天保9年正月，同年4月1日～19日
㉘ 同年 9月，同年11月1日～17日
㉙天保10年3月～同年6月
㉚ 同年 9月，同年12月
㉛天保11年3月，同年8月，同年12月
㉜天保12年5月，同年11月。

4213 〔年寄方留書〕 16.41—172
12丁 12×17.5cm
表紙に，御用番前田内匠とあるのは誤りか。内容は，文政13年(1830)閏3月，天保7年5～7月の日次の留書。筆跡から村井長貞自筆か。
旧書名「御用番前田内匠留書」。

4214　官私随筆　　16.41—173

奥村栄実著

自筆　文政13年(1830)～天保14年(1843)

40冊　11×17cm

奥村栄滋旧蔵。奥村栄実の公務関係の公私雑記。内容は特16.41—159よりつづき，死去(8月9日)の約半月前まで。

①文政13年8月晦日～天保2年3月11日
②天保2年3月12日～10月5日
③　同年　10月6日～11月5日
④　同年　11月6日～12月30日
⑤天保3年正月朔日～5月5日
⑥　同年　5月6日～11月15日
⑦　同年　11月16日～同4年正月29日
⑧天保4年2月朔日～7月18日
⑨　同年　7月18日～同5年4月25日
⑩同　5年4月25日～10月晦日
⑪　同年　11月朔日～同6年正月22日
⑫同　6年正月23日～4月8日
⑬　同年　4月9日～7月29日
⑭　同年　8月朔日～同7年4月6日
⑮同　7年4月7日～6月22日
⑯　同年　6月23日～12月
⑰同　8年正月～同9年7月朔日，他1通添付
⑱同　9年7月2日～同10年12月
⑲　同11年正月～6月13日
⑳　同年　6月14日～8月26日
㉑　同年　8月27日～11月22日
㉒　同年　11月23日～同12年閏正月7日
㉓同　12年閏正月8日～3月3日
㉔　同年　3月4日～4月5日
㉕　同年　4月6日～5月13日
㉖　同年　5月14日～6月17日
㉗　同年　6月18日～8月10日
㉘　同年　8月11日～10月10日
㉙　同年　10月11日～12月15日
㉚　同年　12月16日～同13年2月11日
㉛同　13年2月12日～4月9日
㉜　同年　4月10日～5月15日
㉝　同年　5月16日～6月10日
㉞　同年　6月11日～7月18日
㉟　同年　7月19日～10月4日
㊱　同年　10月4日～12月7日
㊲　同年　12月8日～同14年2月朔日
㊳同　14年2月2日～3月18日
㊴　同年　3月19日～6月3日
㊵　同年　6月4日～(7月23日)。

4215　〔御家老方諸事〕　　16.41—174

中川某著

手写

146丁　24.5cm

文政13年(1830)8月11日～29日の家老方の記録。家老役中川氏は，8月29日就任の中川八郎右衛門典義であろう。

旧書名「諸事」。

4216　〔聞合之品諸事留帳〕　　16.41—175

中川〔典義〕著

自筆

115丁　12×18cm

中川典克旧蔵。中川八郎右衛門が家老役に任ぜられた文政13年(1830)8月29日より翌天保2年3月13日迄の役務日記。

4217　御家老方諸事留　　16.41—176

中川八郎右衛門典義著

自筆

9冊　12×18cm

中川典克旧蔵。八郎右衛門は文政13年8月29日より家老役。

①文政13年9月～10月
②　〃　11月～12月
③天保2年正月～3月13日
④　〃　3月13日～5月
⑤　〃　6月～8月
⑥　〃　9月～11月
⑦　〃　12月～3年2月
⑧天保3年3月～4月15日
⑨　〃　4月15日～6月。

4218　御在国中日記　　16.41—177

中川某著

手写

2冊　12×18cm

表紙の「中川」は中川典義であろう。筆記人は家老席執筆か。八郎右衛門は文政13年8月29日

付で，寺社奉行から家老に転役した。
①文政13年(1830) 8月～12月
②天保2年正月8日～3月13日。

4219 御家老方等諸事留 16.41—178
中川典義著
自筆
29冊 12×18cm
中川典克旧蔵。家老役典義は弘化3年12月19日若年寄を兼務。安政5年3月4日隠居。慶応3年正月15日没。表題は「御家老方御用諸事留帳」「御家老方等諸事留」「御家老方等」「江戸詰中御用諸事留」「御家老方等手留」など。
①天保2年3月14日～3年4月14日
②天保3年4月15日～4年3月14日
③天保4年3月15日～5年4月24日
④天保5年4月25日～6年3月14日
⑤天保6年3月14日～7年4月6日
⑥天保7年4月7日～8年2月27日
⑦天保8年2月27日～9年4月6日
⑧天保9年4月6日～10年8月11日
⑨天保10年8月11日～11年5月5日
⑩天保11年5月6日～12年4月11日
⑪天保12年4月11日～13年3月18日
⑫天保13年3月18日～14年正月2日
⑬天保14年正月1日～12月29日
⑭天保15年正月1日～弘化2年3月27日
⑮弘化2年3月28日～3年5月3日
⑯弘化3年5月3日～4年3月13日
⑰弘化4年3月13日～嘉永元年4月6日
⑱嘉永元年4月6日～2年3月23日
⑲嘉永2年3月24日～3年4月24日
⑳嘉永3年4月25日～4年3月13日
㉑嘉永4年3月13日～5年4月6日
㉒嘉永5年4月6日～6年12月
㉓嘉永6年正月～6月
㉔ 〃 7月～7年4月16日
㉕嘉永7年4月16日～安政2年3月13日
㉖安政2年3月14日～3年4月15日
㉗安政3年4月16日～9月
㉘ 〃 10月～4年4月6日
㉙安政4年4月7日～5年3月4日隠居。

4220 政務留 16.41—179
村井長貞著
自筆 天保7年(1836)
2冊 12×18cm・20cm
村井靱負長貞は村井長道の末期養子となり，天保7年7月13日遣知1万6569石余を受け，9月11日より年寄中御用見習となった。
①天保7年5月10日～7月12日留
②天保7年7月27日～9年6月政務留。

4221 村井長貞日記 16.41—180
村井長貞著
自筆 天保7～12年(1836～41)
26冊 12×17.5cm・20cm
村井靱負長貞は天保7年9月11日年寄中御用見習に任ぜられ，同11年9月1日金沢城代となり，同13年6月3日没，31才。表題は特記以外は「日記」。
①天保7年7月～11月
② 〃 9月～12月
③天保8年正月～2月
④天保9年6月
⑤ 〃 〃
⑥ 〃 7月
⑦ 〃 10月～11月27日
⑧ 〃 11月27日～12月
⑨天保10年正月～2月
⑩ 〃 3月～4月
⑪ 〃 5月
⑫ 〃 6月～7月
⑬ 〃 8月～10月
⑭ 〃 11月～12月
⑮天保11年正月～3月
⑯ 〃 4月～6月
⑰天保11年5月～9月
⑱ 〃 7月（御用番）
⑲ 〃 8月～12月
⑳ 〃 10月「御城方日記」
㉑ 〃 11月
㉒天保12年正月～5月「御城方日記」
㉓ 〃 6月～12月「 〃 」
㉔ 〃 正月～12月（御用番月を除く）
㉕ 〃 4月（御用番）

㉖　〃　10月（　〃　）。
旧書名「日記」。

4222　御用番中心覚留　16.41—181
成瀬某手写
20丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。天保7年(1836)12月分。

4223　雑記　16.41—182
3冊　12×17.5cm
著者は貞之助と称する人らしい。
①天保7年(1836)11月1日～12月10日
②　〃　12月11日～28日
③天保8年正月～5月。

4224　〔村井長貞〕覚書　16.41—183
村井長貞著
自筆
20丁　12×18cm
文中に，寺島蔵人配流（天保7年），丁酉（天保8年）の年号，また筆者が靱負と改名したとあるので筆者は村井長貞。天保7年7月遊知をつぐ。同年9月11日御用見習，同9年閏4月加判となる。
旧書名「覚書」。

4225　年寄中取捌候御用聞書　16.41—184
天保8年(1837)
11丁　19cm
筆跡から村井長貞の自筆と推定される。正月，2月，11月，12月のとびとびの記録。

4226　御家老方諸事　16.41—185
前田知故(万之助)編
天保8年(1837)
33丁　11.5×17.5cm
前田貞醇旧蔵。天保8年8月分。知故は同月16～晦日の間の主附。

4227　〔雑記〕　16.41—186
33丁　13×18cm
表紙及び表題はのちに付したもの。表題に「御用番前田内匠」とあるのは誤りか。天保8年(1837)11月～同9年閏4月までの日記。読書した書名，枚数など私的な記事も含んで，項目的に生活を記録している。筆者は家老に申渡しをする立場なので年寄役か。また筆跡から村井長貞か。
旧書名「御用番前田内匠雑記」。

4228　御用番月之外覚書　16.41—187
本多政和著
手写
2冊　24cm
内容は，①天保8年(1837)11月15日～12月6日の分　②同11年正月の分。

4229　越後屋舗式日留　16.41—188
村井長貞著
自筆　天保8～9年(1837～38)
19丁　11.5×18cm
御用日記。越後屋敷は金沢城内にあり，藩主が江戸在府の間，年寄以下はここで政務をとった。のち一時二之丸で執務したが，文化8年(1811)から再びここに移った。

4230　毎日記　16.41—189
村井長貞著
自筆　天保9年(1838)
26丁　11.5×17.5cm
4月6日より12月までの政務日記。長貞は，天保9年閏4月より加判。

4231　〔日記〕　16.41—190
14丁　18.5×13cm
10月1日～11月21日の記録。大聖寺藩主前田利極(駿河守)の記事があるなどにより天保9年(1838)であろう。

4232　〔村井長貞〕日記并学校方示談之品覚書　16.41—191
村井長貞著
自筆
4丁　20cm
表紙に「天保九戊年十二月廿六日ヨリ晦日迄」とあり，筆跡より村井長貞であることがわかる。長貞は当時家老役(加判)。内容は，奉行役人任免，知行高増減，改作方復元詮議等につい

て記す。
旧書名「日記并学校方示談之品覚書」。

4233 〔村井長貞〕日記 16.41—192
村井靱負著
自筆 天保10年(1839)
9丁 11.5×17.5cm
表書に「天保十亥年正月ヨリ八月十一日御発駕マテ」とあり。
旧書名「日記」。

4234 村井長貞・長在覚書 16.41—193
53丁 24cm
長貞(靱負)の分は天保10年2月17日～13年(1839～1842)。長貞の末期嫡子長在(雄二郎)の分は天保15年(1844)。
旧書名「村井長貞・長在年譜」。

4235 若年寄方覚書 16.41—194
前田矩正(式部)著
47丁 12×18cm
前田栄次郎旧蔵。天保11年(1840)6月～安政5年5月に及ぶが，それ以前の旧記からの抜書もあり。矩正は天保11年6月11日より若年寄，兼寺社奉行。

4236 若年寄方御用留 16.41—195
前田矩正(式部)編
36冊 12×18cm
前田栄次郎旧蔵。前田式部矩正は天保11年6月11日～嘉永6年8月29日まで若年寄。その後家老役となり，文久2年閏8月21日隠居まで若年寄を兼務。表題は「若年寄方主附留并日記」「若年寄方主附中等留」「若年寄方御用留」。
①天保11年6月16日～8月25日
② 〃 8月25日～11月15日
③ 〃 11月15日～12月晦日
④天保12年正月1日～2月10日
⑤ 〃 2月11日～5月8日
⑥ 〃 5月8日～8月28日
⑦ 〃 8月29日～12月29日
⑧天保13年正月4日～4月8日
⑨ 〃 4月9日～5月29日
⑩ 〃 5月29日～7月28日
⑪ 〃 7月28日～10月25日
⑫ 〃 10月26日～12月22日
⑬ 〃 12月23日～14年2月30日
⑭天保14年3月1日～5月19日
⑮ 〃 5月19日～7月23日
⑯ 〃 7月25日～9月19日
⑰ 〃 9月20日～12月29日
⑱天保15年正月1日～5月2日
⑲ 〃 5月3日～(弘化元年)12月晦日
⑳弘化2年正月1日～3月19日
㉑ 〃 3月28日～6月29日
㉒ 〃 7月1日～12月29日
㉓弘化3年正月1日～5月23日
㉔ 〃 5月24日～8月22日
㉕ 〃 8月23日～12月29日
㉖弘化4年正月1日～3月13日
㉗ 〃 3月15日～同5年4月10日
㉘嘉永元年4月10日～9月14日
㉙ 〃 9月14日～同2年2月4日
㉚嘉永2年2月5日～10月16日
㉛ 〃 10月21日～12月29日
㉜嘉永3年7月13日～同4年3月13日
㉝嘉永4年3月16日～12月28日
㉞嘉永5年正月1日～11月4日
㉟嘉永5年11月15日～同6年2月22日
㊱嘉永6年2月23日～9月5日。

4237 〔覚書〕 16.41—196
手写 天保11年(1840)
20丁 12×18cm
村井長貞著か。前後欠。11月4日より12月3日まで。

4238 〔年寄席日記〕 16.41—197
120丁 12.5×18cm
天保11年12月4日～同12年4月10日の年寄席の日記。
旧書名「御用番日記」。

4239 若年寄方諸雑 16.41—198
富田貞行著
自筆 天保12年(1841)
43丁 12×18cm
富田権六郎旧蔵。天保期の留帳抜書。当時富田

姓の若年寄は外記貞行（文政９年４月～天保13年７月９日没まで在職）。

4240　〔年寄方留書〕　16.41—199
7丁　18×13cm
表題に「前田内匠御用番」とあるのは誤り。後に付した題名か。筆跡から村井長貞自筆か。内容は，御用部屋関係の記録で，正月～３月分。冒頭に今村幸蔵を会所奉行本役に任命の記事あることなどから天保13年(1842)であることがわかる。
旧書名「御用番前田内匠日記」。

4241　〔年寄方留書〕　16.41—200
9丁　18×13cm
表紙に「御用番前田内匠」の留書とあるが誤り。村井長貞自筆か。正月～３月の記事であるが，大田小助を定番頭定番頭に任じた件などから天保13年(1842)であることがわかる。
旧書名「御用番前田内匠留書」。

4242　留帳　16.41—201
30丁　18×13cm
４月１日～14日の年寄役の日記。この時は村井靱負が月番であった。年代は，記事中，たとえば志村平之丞の宗門奉行から定番頭への転任などから，天保13年(1842)と知られる。したがって靱負は長貞。筆跡も長貞自筆か。

4243　御用番方毎日書立書抜　16.41—202
前田家編輯方手写　明治年間
４冊　23.5cm
①弘化元年(1844)２月17日～嘉永６年９月２日
②安政元年４月17日～文久２年８月26日
③文久２年閏８月２日～文久３年４月26日
④文久３年５月５日～慶応３年12月25日。
旧書名「毎日書立書抜」。

4244　御用番方毎日書立書抜　16.41—203
前田家編輯方手写　明治年間
４冊　23.5cm
内容は前号に同じ。

4245　官事拙筆　16.41—204
奥村栄通著
前田家編輯方手写　明治年間
24冊　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。著者は老臣奥村氏宗家13代。弘化元年(1844)11月２日遺知１万７千石を受けて家督を相続したが，この記録はその日より起筆している。年寄役としての記録。
第１冊
①弘化元年11月２日～同２年３月28日
②同　２年４月朔日～４月25日
第２冊
③　同年　５月朔日～７月晦日
第３冊
④　同年　８月朔日～10月29日
⑤　同年　11月朔日～12月28日
第４冊
⑥同　３年正月朔日～４月29日
⑦　同年　５月朔日～閏５月29日
第５冊
⑧　同年　６月朔日～９月晦日
⑨　同年　10月朔日～12月29日
第６冊
⑩　同４年正月朔日～３月13日
⑪　同年　３月14日～５月29日
第７冊
⑫　同年　６月朔日～11月15日
⑬　同年　11月16日～12月晦日
第８冊
⑭　同５年正月朔日～４月５日
⑮　同年　４月６日～６月20日
第９冊
⑯嘉永元年６月21日～閏８月29日
⑰　同年　９月朔日～11月15日
第10冊
⑱　同年　11月16日～同２年２月29日
⑲同　２年３月朔日～４月29日
第11冊
⑳　同年　閏４月朔日～５月晦日
㉑　同年　６月朔日～８月29日
第12冊
㉒　同年　９月朔日～11月22日，尚別記の分を附す

㉓ 同年　11月23日～同3年正月12日
第13冊
㉔同　3年正月13日～3月14日
㉕ 同年　3月15日～4月24日
第14冊
㉖ 同年　4月25日～7月29日
㉗ 同年　8月朔日～9月29日
第15冊
㉘ 同年　10月朔日～12月晦日
㉙ 同4年正月朔日～2月晦日
第16冊
㉚ 同年　3月朔日～5月5日
㉛ 同年　5月6日～6月25日
第17冊
㉜ 同年　6月26日～9月15日
㉝ 同年　9月16日～12月19日
第18冊
㉞ 同年　12月20日～同5年2月29日
第19冊
㉟ 同5年閏2月朔日～4月5日
第20冊
㊱ 同年　4月6日～6月22日
第21冊
㊲ 同年　6月23日～8月29日
第22冊
㊳ 同年　9月朔日～12月14日
第23冊
㊴ 同年　12月15日～同6年2月14日
第24冊
㊵同　6年2月15日―4月4日。

4246 前田孝事日記　16.41―205
前田孝事著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
孝事は弘化2年(1845) 3月18日家老役となった。この日記は3月17日よりはじまっている。①は7月26日迄　②8月1日～12月28日　③弘化3年正月16日～4月17日，および巻末に前田孝友所蔵の写「寛延二年十一月御家老役被仰渡候節ヨリ之覚書」を付す。
旧書名「日記」。

4247 若年寄方御用心覚留　16.41―206
成瀬正敦編
自筆
51丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。弘化4年(1847) 8月11日～同5年11月13日。

4248 日省記　16.41―207
村井長在著
21冊　12×18cm・18×12cm
村井又兵衛長在は天保13年遺知をつぎ，嘉永3年12月御用方加判，同4年11月月番御用，同5年4月人持組頭，安政5年5月月番免除，元治元年7月月番加判如元。
①嘉永3年(1850)12月
②嘉永5年正月（初て御用番）
③嘉永7年3月
④ 同年　閏7月（御用番）
⑤安政3年正月
⑥ 同年　9月（御用番長在）
⑦ 同年　12月（　〃　）
⑧安政4年4月（　〃　）
⑨ 同年　9月（　〃　）
⑩万延元年正月～6月
⑪ 同年　7月～12月
⑫万延2年3月～4月
⑬文久元年7月～9月
⑭文久2年正月～3月
⑮ 同年　4月～5月
⑯ 同年　6月～7月
⑰ 同年　8月～閏8月
⑱ 同年　9月
⑲ 同年　10月～12月
⑳ 同年　（内容は，本多政長等の故人の経歴覚，御仕置の類の書留）
㉑元治元年4月。
旧書名「御用番日省記」。

4249 式日留　16.41―208
10丁　12×17cm
嘉永4年(1851) 5月朔日～6月28日の年寄役方の留書。

4250　式日等御用留　16.41—209
村井長在著
自筆　嘉永4年(1851)
42丁　18.5×12.5cm
7月1日～12月18日の留。

4251　〔御用番日記抄〕　16.41—210
手写
3丁　12×33cm
嘉永6～7年(1853～54)，前田斉泰の江戸参勤及在府中日記。

4252　諸事留帳　16.41—211
横山政和著
自筆
14冊　12×18cm
横山政和は，嘉永6年8月21日付で家老役となり，文久3年6月4日～慶応2年8月21日小松城代，元治元年4月10日～慶応4年6月4日富山御用主附，慶応4年平生方事務・御軍事方兼，明治元年12月28日執政となる。
①嘉永6年(1853)8月28日～安政元年12月晦日
②安政2年正月元日～4月17日・4月18日～12月28日
③同　3年正月1日～12月晦日
④同　4年正月1日～12月晦日
⑤同　5年正月1日～12月晦日
⑥同　6年正月1日～12月29日
⑦同　7年正月1日～年暮
⑧万延2年正月1日～12月28日
⑩文久3年正月1日～12月29日
⑫元治2年正月～12月
⑭慶応3年正月1日～12月晦日
⑮同　4年正月1日～12月29日
⑯明治2年正月1日～年暮
⑰同　3年正月1日～閏10月19日。
(⑨，⑪，⑬を欠く)

4253　諸事留帳　16.41—212
横山政和著
前田編輯家方手写　明治年間
18冊　23.5cm
前号の写本。
①嘉永6年8月～安政元年2月
②安政元年3月～12月
③同　2年正月～4月
④　同年　4月～12月
⑤同　3年3月～12月
⑥同　4年正月～12月
⑦同　5年正月～12月
⑧同　6年正月～12月
⑨同　7年正月～12月
⑩万延2年正月～12月
⑪文久2年正月～12月
⑫同　3年正月～12月
⑬元治元年正月～慶応元年12月
⑭慶応2年正月～6月21日
⑮同　2年7月～12月
⑯同　3年正月～12月
⑰明治元年正月～12月
⑱同　2年正月～3年閏10月。

4254　〔横山政和〕覚書　16.41—213
横山政和著
自筆
58丁　12×18cm
内容年代は嘉永6年(1853)～明治元年(1868)。
横山政次郎政和が嘉永6年家老役となった時から明治元年までの政務記録抜書。
旧書名「覚書」。

4255　御在府中諸事留　16.41—214
御用所編
嘉永6年(1853)
99丁　24cm
内容は，9月16日～同7年4月4日の日次記。

4256　御家老手留　16.41—215
前田矩正(式部)著
2冊　12×18cm・18×12cm
前田栄次郎旧蔵。
①嘉永6年9月16日～同7年4月
②安政2年正月21日～同3年6月27日。

4257　〔成瀬正敦〕日記　16.41—216
成瀬正敦著
自筆　嘉永6年(1853)
12丁　12.5×18cm

成瀬正居旧蔵。嘉永6年10月1日～17日までの政務日記。正敦は人持組2500石。弘化4年（1847）5月より若年寄役となり，御近習御用を勤めた。
旧書名「日記」。

4258 毎日袖裏記 16.41—217
村井長在著
7丁 12×18cm
嘉永7年(1854)11月1日～8日の年寄役村井又兵衛(長在)の記録。
旧書名「御用番毎日袖裏記」。

4259 諸事留帳 16.41—218
横山政和編
前田家編輯方手写 明治年間
46丁 23cm
表方御家老方の御用留。安政2年(1855)2月晦日～安政5年7月4日。

4260 諸事留帳 16.41—219
横山政和編
手写
82丁 23.5cm
安政3年(1856)9月4日～同7年8月1日の家老役の御用留。

4261 御在府日記 16.41—220
手写
2冊 11×17.5cm
筆者は確定できない(前田土佐守直信か)が，年寄役の日記である。
①安政7年(万延元)正月晦日～閏3月晦日
②同年4月1日～5月29日。

4262 〔中川八郎右衛門〕覚書 16.41—221
中川八郎右衛門著
自筆 安政7年(1860)～万延2年(1861)
100丁 12×18cm
中川典克旧蔵。表紙に「弐」の番号あり。中川八郎右衛門の政務の日次覚書。内容は，安政7年正月朔日～万延2年12月28日。中川八郎右衛門は安政5年に家老を隠居した典義か。
旧書名「覚書」。

4263 御家老方留帳 16.41—222
前田家編輯方手写 明治年間
101丁 23cm
横山政和所蔵の写。内容は，万延元年(1860)～慶応元年(1865)にわたる。

4264 覚帳 16.41—223
村井長在(又兵衛)編
自筆 万延2年(1861)
25丁 12×18cm
万延2年正月，2月の年寄役の政務記録。

4265 日省記 16.41—224
手写
2冊 11×18cm・14.5×20.5cm
年寄役の日次覚記。①文久3年(1863)の元旦にはじまり4月に終る日記 ②は元治元年5月にはじまり6月29日に終るが，安永7年12月28日の記録1丁あり。

4266 公私日録 16.41—225
松平大弐(康正)著
前田家編輯方手写 明治年間
2冊 23.5cm
松平大弐が文久3年(1863)2月10日家老役に任ぜられて以後の政務日記。①文久3年2月8日～12月30日 ②文久4年正月1日～6月25日。

4267 御用留帳 16.41—226
村井長在(又兵衛)編
元治元年(1864)
64丁 13×18cm
元治元年11月分の御用番の御用留で，長在は当時年寄役。なお，同月24日に筑前守(慶寧)様御用主付と多慶若様(利嗣)御用主付の当分兼帯を命ぜられた。

4268 御用番諸事留 16.41—227
手写
27丁 14.5×20.5cm
御用番の勤め方についての覚書と，御用番三左衛門の7月1日～11日の日記その他から成っている。年寄で三左衛門と名乗る者は，横山隆平で，元治元年7月28日より人持組頭となる。

4269　御用留　　16.41—228

手写

43丁　24cm

渡辺庸旧蔵。「五」のみ。明治2年(1869)正月～9月12日迄の渡辺佐大夫，渡辺閑蔵（両者は同一人か）関係の政務記録の写。佐大夫は当時執政席支配の役人，知行150石。

特16.42　近　侍　御　用

近　　習

4270　松雲院様御近習向留帳抜萃　　16.42—1

多賀直方編

手写

22冊　23.5cm

多賀信澄直方は，寛文6年（1666）前田綱紀(松雲公)の奥小将となり，新知300石，以後加増して4000石に至り，貞享3年遺知2000石を合わせて6000石となって11月13日若年寄となった。元禄10年7月11日蟄居，享保14年12月13日御免，同16年致仕。本書は項目別に編集してあり，以下その大項目を示す。小項目は各巻頭にあり。

上編

①年頭御規式等，上使，御献上

②御登城，鶴御披，御能御拝見等，軽料理被下候事，御屏風御拝領，御招請

③一柳監物殿預

④御軍装等，高山在番

⑤久丸様御誕生

⑥御子様方御宮参御髪置等

⑦御恭様御婚礼

⑧御法事等，御親翰御定書

⑨御財用向，御勝方，御門方并御番所，火消

⑩江戸御屋敷，江戸御上屋敷御移徙，御参勤御帰国并御他出，御露路方

下編

⑪御広式方，おミる殿死去一件

⑫公事場，盗賊改方，服制

⑬御知行方，御判物頂戴，人馬帳，居屋敷方

⑭年寄中等，御家来叙爵

⑮人撰，御家来被召出一件

⑯定番頭，間番，奥小将等，三十人頭

⑰御書物方，御細工方

⑱与力方，御徒方，足軽方，坊主方

⑲御立入衆，稲若水被召出等，自他国寺方検校勾当，他国町人，職人已下帯刀

⑳御咎，葛巻権佐一件，喧嘩等

㉑御郡方，飢饉等御手当

㉒雑事。

4271　諸事覚書　　16.42—2

手写

5丁　25cm

表紙は寛文4年(1664)10月5日とあるが，内容は同5年2月，3月に及んでいる。当時の政務政令について，何くれとなくメモしたものである。御次廻り役あたりの記録か。

4272　〔松雲院様御近習中村典膳覚書之写〕　16.42—3

中村克正(典膳)著

手写

63丁　23.5cm

中村典膳重好(のち克正)は元禄5年(1692)，14才で前田綱紀(松雲公)に召出された。同11年奥小将となり，以後昇進する。内題は「松雲院様御近習御取次相勤中村典膳覚書之写」。内容は，元禄5年12月～同8年9月。

旧書名「覚書」。

4273　〔松雲院様御近習中村典膳覚書之写〕　16.42—4

中村克正(典膳)著

手写

74丁　23.5cm

前号に同じ。

4274　中村典膳覚書　　16.42—5

葛巻新蔵著

手写

69丁　24cm

内題「松雲院様御近習御取次相勤中村典膳覚書之写」。前田直行所蔵の写。元禄5年（1692）より同8年(1695)にかかる御近習取次日記。葛巻新蔵著「元禄雑記」元禄5・6年分，「元禄雑記」1～10巻からの抄録。

4275 〔成瀬市正留記之抄〕 16.42—6
手写
7丁 24cm
成瀬正居旧蔵。内題「成瀬市正生直御近習御執次役，元禄十年被命月者六月頃欤，奥奏者 宝永二年五月廿五日被命正徳五年三月去，勤務中留記之内」。

4276 〔御近習取次ノ者へ被遊御渡候御口書写等〕 16.42—7
手写
4丁 24cm
前田貞醇旧蔵。内容は，元禄，寛保期のことを記す。表題の記事のほか児小将作法，長瀬新八のこと，前田信濃守より聞書などを記録している。青地礼幹(俊新斎)の筆と思われる。

4277 諸事留帳 16.42—8
孝溥著
手写
50丁 15.5×17cm
富田権六郎旧蔵。正徳2年(1712)正月～同4年4月政務上の日次覚書。表紙に「孝溥」の署があり。当時御近習番であった富田孝房（600石）の記録か。

4278 遠田日記 16.42—9
遠田勘右衛門(自省)著
手写
12冊 23.5cm
第1巻の前書きに，嘉永3年恒川登寿が写した際のこの日記に対する説明あり。本書はその写。遠田自省は正徳3年遺知350石をつぎ，藩主吉徳の御部屋附大小将組に加わり，享保2年その番頭になり，同4年御側小将番頭，同9年御持弓頭・加増200石，同10年組頭並，同12年定番頭，元文5年人持組・加増500石で御近習となる。延享2年吉徳没後宗辰の近習となる。さらに重熙の近習となり，同4年隠居(78才)，寛延3年12月没(81才)。
第1冊①享保3年(1718)～7年
第2冊②享保8，9年，③同10年
第3冊④同11年，⑤同12年
第4冊⑥同13年，⑦同14年
第5冊⑧同15，16年
第6冊⑨同17，18年
第7冊⑩同19年，⑪同20年
第8冊⑫同21年，⑬元文2年
第9冊⑭元文3，4年，⑮同5年
第10冊⑯同6年，⑰寛保2年，⑱同3年
第11冊⑲寛保4年，⑳延享2年
第12冊㉑延享3，4年，㉒同5年，㉓寛延2，3年 附 享保中勤方日記略抄。

4279 御在国中御用留 16.42—10
手写
94丁 24cm
富田権六郎旧蔵。内容，延享2年(1745)4月22日～同3年12月1日。

4280 御用留帳 16.42—11
延享3年(1746)
11丁 22cm
富田権六郎旧蔵。富田次太夫関係の役向留帳。次太夫は貞武。延享2年閏12月より寛延2年5月まで御近習御用を勤めた。延享3年正月～3月の記録。

4281 御用留帳 16.42—12
延享3年(1746)
35丁 24.5cm
延享3年1月～2月の御近習御用を勤める子供の人選に関する一件書類の書留。

4282 自分留帳 16.42—13
富田貞武著
12丁 22cm
富田権六郎旧蔵。江戸着府の延享3年(1746)3月21日より4月6日迄の日次覚書。筆者は富田次太夫(貞武)で，この時総姫（吉徳の娘，延享3年4月2日富山侯前田利幸に嫁す）婚礼の節，貝桶引渡の役を勤めている。貞武は1600石人持組。当時は御近習頭。

4283 当分御用留帳 16.42—14
延享3年(1746)
3丁 24cm
富田権六郎旧蔵。延享3年7月～8月の留帳

で，吉徳の子勢之助の馬拝領，上使のこと，近習役召出などの記事があるので，いずれ近侍役の記録であろう。
旧書名「御用留帳」。

4284　勤方日記　16.42—15
生白堂著
13丁　24cm
富田権六郎旧蔵。内容年代，延享4年(1747)5月13日～5年2月27日の(吉徳の)近習御用の記録。著者は御近習御用6人のうちであるが，富田次太夫貞武か。

4285　賺徳公御代内留　16.42—16
有沢貞幹著
6冊　12×18cm
延享4，5年(1747，48)の近習番・御使番としての役用日記。兵学御用も勤む。第1冊は延享4年5月16日より起筆。同21日に近習番を仰付られている。第2冊は同年7，8月。第3冊は9～11月。第4冊表題「備忘」は12月。第5冊は延享5年1～3月。第6冊表題「備忘」は5～7月で5月朔日に御使番を仰付けられている。なお賺徳公は8代藩主重熙。

4286　加州御次日記　16.42—17
手写
38丁　23cm
簡略に編集した記録で，宝暦元年(1751)～安永8年(1779)にわたる。「御次」は御次の間で近侍の家臣が交番入直した。

4287　覚書　16.42—18
富田貞直著
2冊　24cm
富田権六郎旧蔵。第1冊は明和6年(1769)7月11日家督相続拝命の日より安永5年5月まで。第2冊は安永6年4月23日より同7年11月11日まで。項目的な記述の役務関係日記。筆者は貞武の子，富田貞直である。2100石，明和9年より魚住在住，安永3年7月御近習御用，天明3年6月没，55才。本書の内容も御近習御用役向きの記事が多い。

4288　覚書　16.42—19
手写
10丁　24cm
早川随勝旧蔵。内容は，安永2年(1773)～文化5年(1808)にわたる。表紙貼紙に「御次しらべ物書類」とあり。進物，料理，芸料等の下行等のことを記した下書書類。

4289　〔富田外記内状草案等〕　16.42—20
11+通　19cm
富田権六郎旧蔵。富田外記は貞直。安永3年6月より御近習御用，天明3年6月没，55才。年代の知れるものでは安永7年(1778)～天明元年(1781)。

4290　御在国御用留　16.42—21
富田織人貞章著
自筆
7丁　14.5×20.5cm
富田権六郎旧蔵。内容，天明5年(1785)11月～同6年3月。貞章は当時近習御用。

4291　〔富田織人宛来状綴〕　16.~~41~~42—22
仮綴1(34通)　16.5cm
富田権六郎旧蔵。役用の来状綴りで日付は10月・11月分のみ。富田織人貞章の御用部屋（天明5年9月17日～寛政元年3月16日没35才）の時期か。

4292　応斎雑函内留　16.42—23
有沢貞腑著
自筆
13冊　12×18cm
文化2年(1805)～5年にわたる御近習番・御使番としての公私雑記。貞腑は通称数馬。才右衛門，450石。当時は御近習番を勤め，文化5年12月27日より御使番兼務となった。
①文化2年3月～3年3月，江戸在府
②文化3年3月～4年3月，在金沢
③文化4年3月～5年3月，在江戸
④文化4年6月，在江戸
⑤文化5年3月～12月，在金沢
⑥文化5年12月～11年4月，在江戸・金沢
⑦文化8年3月～9年3月，在江府

⑧文化9年3月～12月，在金沢
⑨文化10年正月～9月，在金沢
⑩文化10年9月～11年4月，在江戸
⑪文化13年正月～11月
⑫文化14年正月～3月
⑬文化15年正月～12月，在江戸・金沢・当時は御先手物頭・御近習頭兼帯。

4293　質疑　16.42—24
有沢貞庸著
自筆
7冊　6×17.5cm・18×13cm
寛政・享和・文化期の備忘雑記。応斎尻函の下書きにあたるもののようで，反古紙の裏を用いている。内容は雑多であるが，役務の関係の記事を含むのでここにおく。

4294　高臥棄日積録　16.42—25
有沢貞庸著
自筆　文政6年(1823)
2冊　21cm
内題「内留」。その拾弐(文政6年5月～9月)，拾参(同年10月)の分。御先手物頭・御近習頭兼帯役としての江戸における公務日次覚書。

4295　日積録　拾五畢　16.42—26
有沢貞庸著
自筆　文政7年(1824)
40丁　12×18cm
表紙附記「文政七甲申歳，自四月五日至九月晦日，御先手物頭御近習頭兼帯，拾五冊を以全之」とあり。

4296　文政天保間諸事要用雑記　16.42—27
大野織人著
前田家編輯方手写　明治年間
9冊　23.5cm
御近習御用役人の記録。全12冊のうち，第1本，第3本，第11本を欠く。大野織人定能は，660石。本書の内容年代に関しては，文政11年2月11日江戸にて御使番・表小将御近習御用となり，町奉行の時以外は御用部屋に勤めた，その間，文政13年12月17日表小将番頭，同5年11月26日先筒頭，同7年12月19日御歩頭，同10年2月1日町奉行，同11年9月1日組頭並。
第1冊②御在国記　文政11年(1828)4月～天保元年12月（御使番御近習御用，表小将番頭）
第2冊④御在府記　附御触紙面，天保2年正月～同3年4月2日（表小将番頭，御近習御用奥取次）
第3冊⑤御在国記　天保3年4月2日～同年9月14日（同上）
第4冊⑥御在国記　附御触等留，天保3年9月15日～同4年3月13日（同上）
第5冊⑦御留守中記　附御触等留，天保4年3月14日～同5年4月24日（表小将番頭，近習御用）
第6冊⑧御在国記　附御触等留，天保5年4月25日～同6年3月（表小将，御近習御用，11月26日先筒頭）
第7冊⑨御在府兼役方記　天保6年3月～同7年3月（先筒頭，御近習御用）
第8冊⑩御在国兼役方記　元保7年4月～同8年2月（先筒頭，御近習御用，12月19日御歩頭）
第9冊⑫御在国兼役方等記　天保9年4月6日～同10年正月（御歩頭，御近習御用，奥御取次兼帯）。
旧書名「諸事要用雑記」。

4297　諸雑　16.42—28
石野英之編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
石野英之は雅楽助と称し，1550石。文政11年より御近習御用を勤めた。その役方記録。①諸雑壱・金沢之部，文政11年(1828)12月1日～同12年4月6日　②諸雑弐・江戸之部，文政12年4月6日～6月14日。

4298　〔成瀬正敦日記〕　16.42—29
成瀬正敦著
自筆
29冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。主税正敦は寺社奉行から天保8年正月29日近習御用となり，同9年3月4日筑

前守様（慶寧）御附を兼帯し，同15年5月11日御判物御用を勤め，弘化4年5月19日於江戸年寄・近習御用是迄の通りとなり，嘉永6年10月21日没した。

①御在国心覚留帳　天保8年(1837)正月～2月27日
②御留守雑記　同年2月28日～同9年4月5日
③御在国日記　天保9年4月6日～12月晦日
④　〃　天保10年正月1日～8月10日
⑤御在府日記　同年8月26日～12月29日
⑥　〃　天保11年正月1日～4月13日
⑦若殿様御座所并御広式内御補理御用主附就被仰付候心覚留　天保10年11月18日～同11年9月15日
⑧御在国日記　天保11年9月29日～12月晦日
⑨　〃　天保12年正月1日～4月11日
⑩御留守日記　同年4月12日～同13年3月29日
⑪御在国日記　天保13年4月1日～12月27日
⑫　〃　天保14年正月1日～12月25日
⑬　〃　天保15年正月～12月
⑭　〃　弘化2年正月～3月25日
⑮御在府日記　同年4月～7月中頃
⑯　〃　同年7月16日～12月29日
⑰　〃　弘化3年正月～4月11日
⑱御在国日記　同年5月～同4年正月21日
⑲筑前守様御婚礼方御用主附被仰付候ニ付心覚留　弘化3年6月17日～同4年6月1日
⑳御留守日記　弘化4年6月14日～12月29日
㉑　〃　弘化5年正月～4月5日
㉒御在国日記　同年4月6日～8月29日
㉓　〃　嘉永元年9月1日～同2年3月21日
㉔御在府日記　嘉永2年4月10日～閏4月12日
㉕御在国日記　嘉永3年4月25日～同4年3月13日
㉖御留守日記　嘉永4年3月14日～同5年4月5日
㉗御在国日記　嘉永5年4月6日～12月
㉘　〃　嘉永6年正月～6月11日
㉙日記　同年8月29日。

→旧書名「御在国日記」。

← ㉚ 16.41—216
嘉永6年10月～

4299　諸事要用雑記　16.42—30

大野織人著

自筆　天保11年(1840)～嘉永4年(1851)

18冊　12×18cm

筆者は当時，組頭並・御近習御用を勤めた。第14以下，第20を欠いて第32までの18冊。なお副題は第14～28は「成瀬主税等席御用」，第29以下は「御近習御用席」とあるが，同一の役席である。以下各冊の内容年代を示す。

第1冊14　天保11年8月晦日～同12年4月10日，但後欠にて天保11年11月3日迄
第2冊15　同12年正月9日～同年6月16日
第3冊16　同年6月17日～同年11月15日
第4冊17　同年11月16日～同13年4月朔日
第5冊18　同13年4月朔日～同年10月21日
第6冊19　同年10月22日～同14年5月9日
第7冊21　同15年3月朔日～弘化2年4月21日
第8冊22　同年4月22日～同3年5月5日
第9冊23　同年5月6日～同年12月19日
第10冊24　同年12月20日～同4年5月11日
第11冊25　同4年5月12日～同年9月晦日
第12冊26　同年10月1日～同5年4月6日
第13冊27　嘉永元年4月6日～同年12月29日
第14冊28　同2年正月朔日～同年閏4月16日
第15冊29　同年閏4月17日～同3年正月24日
第16冊30　同3年正月25日～同年8月15日
第17冊31　同年8月16日～同4年3月26日
第18冊32　同4年3月26日～同年8月4日。

4300　諸事要用日記　16.42—31

大村肴次郎致知著

自筆

7冊　12×18cm

大村肴次郎致知は弘化2年2月御小将頭となり，同4年正月14日馬廻頭，嘉永4年3月1日定番頭並，同7月定番頭となるが，その間を通じて御近習御用であった。嘉永5年4月14日に御判物御用を命ぜられている。

①成瀬主税等席御用日記　弘化4年(1847)3月28日より
②成瀬主税御席御用日記　弘化4年11月25日より
③成瀬主税等席御用諸事要用日記　嘉永4年3

月14日より
④成瀬主税等席御用諸事要用日記　嘉永6年3月7日より
⑤篠原監物等席御用諸事要用日記　嘉永7年正月より
⑥篠原監物諸事要用日記　安政2年正月より
⑦監物等席諸事要用日記　安政3年正月朔日より。
なお，成瀬主税正敦は弘化4年5月19日若年寄，於江戸御近習御用，嘉永6年10月21日没。篠原監物精一は嘉永6年10月22日御近習御用・嘉永7年7月18日若年寄兼役，安政3年8月7日御免。
旧書名「日記」。

4301　御留守中大村肴次郎等席御用兼帯就被仰付候当座心覚留　16.42—32
加藤軌度(三郎左衛門)著
67丁　12×18cm
内容は，嘉永4年(1851)11月15日～同5年4月6日。加藤三郎左衛門は，筑前守様附御小将頭で，この覚帳の初日の11月15日付で御留守中御用部屋兼帯となった。大村肴次郎は致知，450石。

4302　〔御用部屋日記〕　16.42—33
手写
160丁　12.5×18cm
前欠。嘉永5年(1852)8月～同6月正月。前号と同筆。当時近習御用の大村肴次郎致知の筆記か。
旧書名「御用番日記」。

4303　〔御用部屋日記〕　16.42—34
手写
119丁　12.5×18cm
前欠本・端本。「壬子」(嘉永5年—1852)12月，安政3年3月～5月。
旧書名「御用番日記」。

4304　〔御用部屋日記〕　16.42—35
手写
100丁　12.5×18cm
前欠。嘉永6年(1853)11月3日～12月晦日。筆跡は前々号に同じ。
旧書名「御用番日記」。

4305　御在府中詰被仰付候一件　16.42—36
有沢貞正(新右衛門)著
自筆　安政4年(1857)
14丁　12×18cm
新右衛門は当時馬廻・御近習番。

4306　諸事心覚　16.42—37
有沢貞正著
自筆　文久4年(1864)
96丁　12×18cm
貞正は当時御表小将横目・御近習御用を勤めていた。「御次内急病人出来，駕籠乗用相返候節之義御城代ヨリ被仰渡候事」など92項目収載。

4307　御近習御土蔵入葛籠之内入之覚　16.42—38
手写
7丁　12×24cm
書冊の目録その他覚書。

4308　御取次方御返翰案文帳　16.42—39
手写
7丁　24cm
署名は省略してあり「土谷等四人」。宛先は，松岡斎宮太夫，紫野芳春院，堤長門，福井土佐，常照院，野口源太左衛門，原田逸之進，高野天徳院等。

御　付　御　用

4309　御請之面印判之儀奉伺　16.42—40
手写
巻子1　23.5cm
中川典克旧蔵。某年7月19日に御夜詰の外記が藩主へ伺ったことの内容を記す。借銀や大横目へ被仰渡頭書に関する件など。なお大横目は万治元年～延宝8年の間置かれた職名。

4310　元禄六年より同九年迄被仰出之趣留帳　16.42—41
40丁　24cm
富田権六郎旧蔵。内容は，元禄11年(1698)まで

及んでいる。表紙に駒井与兵衛(直寛)，由比新五郎(賢勝)，林十郎左衛門(政僧)，遠田勘右衛門(重員)，不破平兵衛，冨田甚五右衛門(重貞)，庄田五左衛門(孝溥)，金子安左衛門，前波瀬兵衛，人見十兵衛(忠友)の名が記されており，このうち庄田，金子を除くほかは，当時，勝次郎(のち6代吉徳)の「御抱守」役であったことが知られている。

4311　親物并被仰出且又言上等留之内　16.42—42
24丁　24cm
富田権六郎旧蔵。内容は，元禄10年(1697)8月～正徳6年閏2月の永井織部(正長)・藤田内蔵允(安勝)の伺書，言上書など。藤田内蔵允(安勝)は100石より昇進して2000石に昇る。中小将才許より御歩頭(延宝3)をへて定番頭となる。宝永6年人持組・吉徳御附御用，享保7年致仕，同9年11月没，85才。永井織部(正良)は延宝3年御徒頭兼中小将番頭，のち定番頭(元禄5年頃)をへて宝永6年2500石，人持組，吉徳御附となる。享保5年10月没，78才。

4312　近衛様御守殿等松平薩摩守殿より被仰付候様子見分之儀等留　16.42—43
藤田内蔵允・永井織部著
手写
127丁　24cm
表紙に「二冊之内」とあり。その1冊分。内容年代は，元禄17年(1704)～宝永3年(1706)。

4313　藤懸頼善手記　16.42—44
藤懸頼善(庫太)著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
乾坤2冊。藤懸庫太は500石。嘉永3年5月表小将横目，同4年3月奥取次加人，安政3年5月表小将番頭，同年10月奥小将番頭を兼，同6年御先手物頭といった経歴を持つ。内容も近侍御用に関する元禄～嘉永年間の旧例等の覚え書き。

4314　御供日記　16.42—45
有沢永貞著
自筆　正徳元～3年(1711～13)
6冊　11.5cm
在江戸中の御用日記。永貞は当時，吉徳の御部屋物頭。
①正徳初之巻・前（宝永8年正月1日～6月29日）
②正徳初之巻・下（正徳元年7月1日～12月晦日）
③上　（正徳2年正月1日～4月29日）
④中　（同年　5月1日～8月30日）
⑤下　（同年　9月1日～12月29日）
⑥上　（正徳3年正月1日～9月20日）

4315　勤方覚記　16.42—46
71丁　15×20cm
富田権六郎旧蔵。内容は，藩侯および家族の動向，交際，また家中役人の呼出し，下問の件などを記している。いずれ御側御用の記録であるが，正徳3年(1713)7月～享保4年(1719)2月にわたっており，当時では富田織人重貞（宝永5年吉治公御附，享保2年兼御用人）が著者に擬せられるか。

4316　金谷御屋舗諸事覚書　16.42—47
前田道済著
自筆
25丁　11×18cm
前田道益旧蔵。寛政8年(1796)10月10日～11月9日迄の日記。内容は，亀万千代(斉広)が叔父の11代治脩の養子なるについての件。著者道済(みちなり)は路博とも称し，人持組6000石，奏者番，小松城番を経て，寛政8年10月10日筑前守(斉広)御附となり，翌9年閏7月15日家老となる。家老就任と同時に御附御用主附となった。

4317　北之御居宅諸事留抜書　16.42—48
前田道済編
自筆
40丁　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。寛政9年(1797)正月1日から21日迄の本郷邸における御用の日次覚書。12代斉広の元服・命名なども見え，2月9日の任官も付記されている。

4318 金谷御殿出席日記　16.42—49
前田織江著
自筆　寛政９年(1797)
80丁　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。寛政９年３月９日より閏７月14日迄の政務日記。織江は当時，世嗣筑前守(斉広)御附御用を勤む。

4319 筑前守様御用留　16.42—50
年寄中席編
手写　寛政９年(1797)
51丁　23cm
前田道益旧蔵。内容は，筑前守(斉広)御附御用方の寛政９年４月～閏７月11日の御用留。

4320 筑前守様御用留抜書　16.42—51
前田織江著
自筆
５冊　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。織江路博は寛政９年閏７月15日より家老・斉広御付御用主附。
①寛政９年(1797)閏７月１日～９月29日
②寛政９年10月１日～12月晦日
③寛政10年正月１日～３月29日
④寛政10年４月１日～６月29日
⑤寛政10年７月１日～12月29日。

4321 江戸諸事旧記之内抜書　16.42—52
前田織江著
自筆　寛政11年(1799)
49丁　12×18cm
前田道益旧蔵。織江は当時，斉広御用主附を勤む。

4322 御附方御用自分留　16.42—53
手写
84丁　23.5cm
内容は，勝千代(前田斉泰)御附御用役の文化15年(1818)正月１日～３月10日の日記。

4323 留帳等抜萃　16.42—54
加藤三郎左衛門軌度編
手写
109丁　12×18cm
筑前守様(慶寧)御附御用の役として寛政～天保期の旧例を書留め，また勤務の記録を書留めている。

4324 御附方御用留　16.42—55
横山政孝著
60丁　11.5×17.5cm
内容は，文政12年(1829)６月～天保３年(1832)２月。政孝は当時家老役。文政12年６月より江戸御留守留，また天保元年７月27日より天保７年正月14日没まで筑前守(慶寧)御用主附を勤めた。

4325 犬千代様御用留写　16.42—56
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23cm
内題「犬千代様御用諸事留之内写」。犬千代は前田慶寧。奥村栄通が写したものの写本。
①天保元年(1830)11月22日～同８年12月９日
②天保９年(1838)２月26日～同14年12月19日。

4326 犬千代丸様御用諸事留　16.42—57
前田家編輯方手写　明治年間
88丁　23cm
横山山城守，横山蔵人，前田図書の諸事留の写。内容年代は，天保３年(1832)正月～５月。上記３人は当時犬千代丸(慶寧)の御用主付。

4327 御用留　16.42—58
渡辺佐大夫著
自筆
46丁　24.5cm
渡辺庸旧蔵。内容は，天保12年(1841)～嘉永元年(1848)の御用留である。渡辺佐大夫は組外組100石，天保13年５月より嘉永元年８月迄溶姫様御住居番を勤めた。

4328 筑前守様御用留写　16.42—59
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
５冊　23cm
筑前守は慶寧。栄通は安政３年３月28日江戸御在府中の御用をつとめ，万延元年11月18日当御

用主附となり，元治元年10月19日遠慮を仰付られた(のち再勤)。
①弘化元年(1844)正月4日～安政元年2月28日
②安政元年3月10日～安政4年12月29日
③安政5年正月1日～文久元年10月5日
④文久元年10月6日～文久2年9月22日
⑤文久2年9月26日～元治元年4月15日。

4329　御附御用部屋日記抄　　16.42—60
大野木克正著
自筆
159丁　12×18cm
大野木克征旧蔵。内容は，弘化2年(1845)9月～安政2年(1855)正月。克正(外三郎)，源蔵は12才の時前田慶寧(犬千代)の側小将となり，嘉永7年2月26日御附大小将横目，安政4年御附御大小将番頭となり，以後累進したが元治の変で遠島に処せられた。
旧書名「御用部屋日記抄」。

4330　江戸日記　　16.42—61
富田儀右衛門(一孝)著
自筆　弘化3年(1846)
150丁　12×17cm
弘化3年7月～10月迄の筑前守(慶寧)様御婚礼御用主付としての政務日記。著者は，350石，天保11年8月より筑前守御附御小将頭。

4331　藤田左衛門手留　　16.42—62
藤田左衛門(安定)著
手写
21丁　12×18cm
内容は，嘉永2年(1849)4月から9月にかけて藩主の動静について日記風に記録。安政6年(1859)10月18日～29日の間の日記，弘化4年(1847)4月御結納，御入輿之節御作法。著者安定は人持組1500石，天保3年家督をつぎ，嘉永2年2月公事場奉行，同4年3月筑前守(慶寧)御用を勤めた。

4332　御通抜御用留并雑記　　16.42—63
渡辺佐太夫著
手写　嘉永3年(1850)
18丁　24cm
渡辺甫旧蔵。著者は当時，溶姫の御住居付御用達を勤む。嘉永2年10月より翌3月21日までの公務留。

4333　〔藤田左衛門〕日記　　16.42—64
藤田左衛門(安定)著
自筆　嘉永4年(1851)～万延元年(1860)
3冊　12×17.5cm
筆者は，筑前守(慶寧)の御用御附頭。日次の手留。
①(無題)　嘉永4年7月20日～9月3日，同年10月12日～11月18日，同年11月18日～12月朔日
②「日記」　万延元年閏3月11日～8月18日
③「日記」　万延元年8月19日～12月29日。
旧書名「日記」。

4334　留書　　16.42—65
藤田求馬著
自筆
42丁　12×17.5cm
内容は，嘉永5年(1852)2月24日～4月19日，嘉永7年正月1日，2日。藤田左衛門(求馬)安定は当時筑前守様(慶寧)御附御用。

4335　筑前守様御用方被仰付候以来私記　　16.42—66
前田矩正著
自筆　嘉永6年(1853)
32丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。嘉永6年(1853)11月に筑前守様御用主付を拝命してから安政2年(1855)正月までの公用日記。

4336　大野木日記抜萃　　16.42—67
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
内題「筑前守様御附御用奉務中大野木良之助日記抜萃」。
①安政2年～同3年
②安政4年
③安政5年
④安政6年～万延元年。
大野木良之助は克貞。安政2年10月11日筑前守様御附となる。筑前守は14代慶寧。

4337 諸事留　16.42—68
大野木克貞(良之助)著
59丁　12×18.5cm
大野木克征旧蔵。安政2年(1855)10月～万延元年（1860)。大野木克貞は安政2年10月12日より筑前守様(慶寧)御附頭を勤む。人持1650石。万延元年7月17日没，48才。

4338 筑前守様御用諸事留　16.42—69
横山政和(蔵人)編
安政5～6年(1858～59)
5冊　23cm
横山政和旧蔵。筑前守様(前田慶寧)御附御用方の公式記録。政和は当時家老役，また第1冊表紙に並記されている前田式部(矩正)は，家老役兼筑前守様御附御用であった。
①安政5年3月25日～5月晦日（在府)
②安政5年6月1日～9月晦日（在府)
③安政5年10月1日～12月晦日（在府)
④安政6年正月1日～4月29日（在府)
⑤安政6年5月1日～9月24日（在府)。

4339 〔藤田求馬手留〕　16.42—70
藤田求馬(安定)著
自筆　万延元年(1860)
33丁　12×34cm
政務の日次留書。万延元年8月2日より9月20日迄の分。安定は嘉永4年3月より文久3年10月まで慶寧の御部屋住之内御附御用を勤めた。のち寺社奉行を経て元治元年8月若年寄となり，9月御付御用を兼帯，慶寧家督(慶応2年)後，近習御用を勤め慶応4年隠居。明治2年没。

4340 〔藤田求馬〕日記　16.42—71
藤田求馬(安定)著
自筆　文久3年(1863)
92丁　18×12cm
文久3年（1863）2月28日～3月21日，同年(1863)8月7日～11月17日の公務の日次覚書。旧書名「日記」。

4341 新製御附方諸事雑録　16.42—72
前田某著
手写　慶応元年(1865)
79丁　12×18cm
野村氏旧蔵。幕末期旧記の抜書で28項目よりなる。

4342 慶応二年日誌　16.42—73
44丁　12×18.5cm
「含馨堂」の罫紙を用いている。慶応2年3月～4月の江戸における公務日次記。筆者は当時慶寧および多慶若様御附御用を勤めた。村井長在か。

4343 御附方手留　16.42—74
前田内蔵太著
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　23cm
筆者は慶応4年6月13日付で多慶若様(利嗣)御近習御用，相公様御近習御用兼帯を命ぜられているから前田内蔵太である。9月初旬までの日記。

奏　者　方

4344 御奏者方記録　16.42—75
手写
4冊　23cm
前田貞醇旧蔵。御奏者方記録を編集して各項目ごとに年代順に旧例を収む。その旧例は元禄～文化期にわたっている。
①出仕等之部
御目見人并御礼所等之部
諸寺庵登城之部
②備後守様御登城并御両家様御使者
他国御使等
御飛脚等
③諸御礼之部
献上物之部
④御門方之部
御文庫之部
御進物所之部
雑之部。

4345 御奏者方旧記抜萃　16.42—76
前田家編輯方手写　明治年間

84丁　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，御判物頂戴之部，年頭等品々御作法之部，披露并唱之部，伺公并躋踞出方之部，衣服之部，御法事之部で，挙例は元禄～文化期。

4346　〔不破彦三等口上書〕　16.42—77
不破彦三・岡嶋市郎兵衛著
1通　16cm
中川采女宛。与力石原茂左衛門病死の件，10月17日付。不破・岡島が同役なのは元禄4～9年寺社奉行，貞享2～3年（推定）奏者番であるが，内容からみて奏者番関係か。

4347　〔御奏者所留帳之内抜書〕　16.42—78
前田路博(織江)手写
40丁　12×17.5cm
前田道益旧蔵。外題「享保九年以来御奏者所留帳之内早速可相考品年号等抜書帳」。内容は，享保9年（1724）～同19年（1734）。前田織江路博は，寛政4年11月4日～同6年正月の間奏者番を勤む。

4348　御奏者所張出之条々留　16.42—79
富田外記手写　文化12年(1815)
23丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容年代は，宝暦9年(1759)～文化12年(1815)。外記貞行は文化9年4月～同13年3月奏者番。

4349　御奏者所張出之条々留　16.42—80
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　24cm
前号の前半部分の写。

4350　御進物所・御奏者所勤方之覚　16.42—81
5丁　24.5cm
成瀬正居旧蔵。表題は「御進物所勤方之覚」。明和8年(1771)12月の御進物所勤方の条文及び癸卯2年の御奏者所の勤方条文を記す。

4351　御奏者所留書勤方帳　16.42—82
土谷忠蔵等編
手写
4丁　24cm
成瀬正居旧蔵。明和8年(1771)12月及び天明3年(1783)2月の御奏者所留書役(与力)の勤方書上写。

4352　御奏者所日記抜書　16.42—83
成瀬左近正脩手写
23丁　14×10cm
成瀬正居旧蔵。内容は，寛政2年(1790)6月15日～7月3日。左近は寛政2年6月15日より奏者番を勤めた。

4353　御奏者方廻状留帳　16.42—84
成瀬正脩手写　寛政2～3年(1790～91)
2冊　26cm
成瀬正居旧蔵。成瀬左近正脩（種徳，監物，左京，人持組，2500石）は，寛政2年6月15日小松城番より御奏者番となり，寛政4年9月1日算用場奉行となっている。内容は，第1冊寛政2年7月1日より，第2冊寛政3年4月18日より。

4354　御奏者所留帳　16.42—85
寛政3年(1791)
4冊　12×17.5cm
成瀬正居旧蔵。おそらく奏者所留書役の筆記になるもの。
①寛政3年3月29日～4月13日
②　同年　4月14日～5月26日
③　同年　5月27日～8月2日
④　同年　8月1日～10月23日。

4355　御奏者方留帳抜書　16.42—86
6冊　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。
①寛政3年(1791)4月～12月
②寛政4年正月～3月
③寛政5年4月～6月
④　同年　7月～10月
⑤　同年　11月～12月
⑥寛政6年正月1日。

4356　〔御奏者所留帳〕　16.42—87
寛政3年(1791)

3丁　12×36cm
寛政3年5月26日～6月1日の分。
旧書名「御奏者番覚書」。

4357 御奏者方覚書　16.42—88
前田路博(織江)著
自筆
19丁　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。旧例，作法書などの留。織江路博は寛政4～6年御奏者番を勤む。

4358 御奏者方日記　16.42—89
手写
26丁　23.5cm
成瀬正居旧蔵。享和2年(1802) 8月25日～9月。

4359 御奏者所旧記之内　16.42—90
富田某手写
126丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容は，文化5年(1808)正月～8月。おそらく富田外記貞行の手写。

4360 〔御奏者方留帳写〕　16.42—91
手写
71丁　23cm
文化5年(1808) 6月2日～同10年(1813)12月の奏者番方の記録写。
旧書名「御奏者方留書」。

4361 金谷文庫巡見之留　16.42—92
手写〔文化7年〕
12丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。原題「文化七年八月三田村紋左衛門等金谷御文庫巡見之留」。三田村紋左衛門(定保)，石野雅楽助(英之)が御奏者番に就任した際，金谷文庫辺を巡見する件についての事務文書類。両人の奏者番就任は文化7年8月1日付。

4362 御奏者番留帳　16.42—93
115丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。御用往返状の留。4月9日～文化13年(1816) 2月付。富田外記貞行関係の内容で，おそらく，その家来の筆記になると思われる。貞行は文化9年4月10日～13年3月まで奏者番を勤めた。

4363 奏者方覚書　16.42—94
手写
48丁　14×19.5cm
富田権六郎旧蔵。内容は，つぎの28項目。献上品々，御礼銭員数，巳三月被仰出，御礼申上品々大意，御判物御印物被下節并所附，御貸銀上済，初而御目見，代番願，出仕，装束，列，三之一之者，宗門方并改宗，他国者偶居，御関所過書，他国詰人心得，御家中子共他国并御領国遠方江罷越候義，他国御使，駕籠乗用，名改，惣詰，湯治，行歩，杖願，看病願，疱瘡病人有之節指控，服穢并忌中判形，殺生触之内，雑類。

4364 御奏者方諸事心得　16.42—95
手写
24丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。内容は，謙徳院様被仰出，年頭在江戸ノ人献上目六日付ノ事，御門勤番物頭引人有之節加番等之事，御判物等被下候節ノ進退，御進物才許引人有之節番割，唱ノ事。

4365 御奏者番諸事留帳之内要用之ケ条抜書　16.42—96
手写
34丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容は御用番ヨリ談之品等，寺社奉行ヨリ申来品々，御用部屋等ヨリ申来品々，同役ヨリ申越品等并留書等，御横目等ヨリ申越品々。

御　名　代

4366 御寺方御名代勤方覚　16.42—97
前田織江(路博)手写　寛政6年(1794)
30丁　11×18cm
前田道益旧蔵。前田織江は寛政6年(1794)当時小松城番。勤方に関する覚書で，内容には，御名代御焼香一巻，盆中地廻御吉方一巻，瑞龍寺御名代一巻を含む。

4367　〔御寺方御名代役前田図書〕覚書　16.42—98
前田貞事著
自筆　文政6年(1823)
22丁　11.5×17.5cm
文政6年7月11日家督相続より12月晦日迄。そのうちに御寺御名代勤方についての記事あり，貞事の肩書に「十二月廿五日御寺方御名代役」とあり。
旧書名「覚書」。

4368　御寺方御名代勤方帳　16.42—99
前田図書貞事手写　文政6年(1823)
10丁　12×18cm
御寺方名代役の勤方についての覚書。前田式部矩正が文政2年(1819)小松城番任命時から書写し追記してきたものをさらに書写したもの。

4369　御寺方御名代役勤方留帳　16.42—100
前田図書(貞事)著
自筆　文政7～9年(1824～26)
15丁　12×18cm
前田貞醇旧蔵。文政6年(1823)12月御寺方名代役に任命された著者がその勤方について書き留めた覚之書。

4370　御寺方御名代勤方帳　16.42—101
前田図書編
手写　安政5年(1858)
21丁　24cm
文政9年(1826)に前田才記ら4人が，藩侯名代で高岡瑞龍寺，繁久寺，金沢小立野宝円寺，天徳院，経王寺，如来寺，野田山など各菩提所を参詣したときの記録。

4371　富山表へ御名代之御使被仰付候一件　16.42—102
青山将監(知次)著
中川典義手写
23丁　12×18cm
中川典克旧蔵。富山侯疝邪等につき，見届のため，名代として家老兼若年寄で御近習役の青山知次が遣わされた時の記録。内容は，天保6年(1835)閏7月23日～9月11日。
旧書名「富山表へ御名代之御使一件」。

4372　富山表へ御名代之御使被仰付候一件　16.42—103
青山将監(知次)著
天保6年(1835)
27丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。前号と同文。
旧書名「富山表へ御名代之御使一件」。

4373　御寺方御名代留帳　16.42—104
前田貞発(図書)手写　安政5年(1858)
16丁　24cm
前田貞醇旧蔵。前田将監恒風手写本の写。

4374　御寺方御名代心覚帳　16.42—105
前田貞発(図書)手写　安政5年(1858)
20丁　24cm
前田将監恒風手写本の写。

4375　〔雲巌和尚へ名代指越状〕　16.42—106
1通　20cm
旧書名「雲巌和尚へ名代参詣之達」。

御　使　方

4376　二条様へ御使御返答口上控　16.42—107
元禄14年(1701)
100丁　24cm
表紙の貼紙に「事苑本末之内」とあり。最初に原九左衛門の報告書が載っているが，九左衛門は元昭（当時，880石，馬廻頭）であろう。

4377　御使方　16.42—108
手写
46丁　7.5×18cm
渡辺庸旧蔵。宝永6年(1709)，正徳3，5年(1713，15)，享保3年(1718)以降，元文4年(1739)にいたる藩主の使者としての事例の記録。

4378　御使一巻装束等之覚　16.42—109
手写
34丁　17.5×7cm
富田権六郎旧蔵。内容年代，享保4年(1719)～同6年(1721)。

4379　御使一件四種　16.42—110
前田家編輯方手写　明治年間
72丁　23.5cm
「寛延元年禁裡御麻疹御酒湯御祝儀御献上京都御使之覚書」「寛政十御使等覚・横山政寛手記」「文政十年御広式江年頭御使等相勤候取捌一件横山政孝手留」「安政三年御名代之留」の4種よりなる。

4380　江戸御使御用覚書　16.42—111
前田貞発手写
14丁　24cm
前田貞醇旧蔵。宝暦7年(1757)7月13日御入部御祝の御使者拝命より9月15日までを記す。

4381　〔江戸御使一巻覚書之写〕　16.42—112
手写
8丁　12×18cm
前田貞醇旧蔵。外題は「御使一巻覚書之写と書記帳面控　控抜書」。表紙注記に「宝暦七年丑八月江戸御使被仰渡候付勤方聞合之帳面控」とあり。
旧書名「御使一巻覚書之写」。

4382　〔中将様等へ御使者一巻〕　16.42—113
前田貞一(図書)著
1通　24cm
9月1日拝命，10月16日付の報告書。中将様，御前様，浄珠院様，暢姫様に逢っている。浄珠院は6代吉徳の側室，暢(のぶ)姫は吉徳の子で宝暦13年以後の名乗。中将様は退隠した重教か。前田図書貞一は明和8年より家老兼若年寄。
旧書名「浄珠院様御使者之件」。

4383　御入国御使一巻　16.42—114
明和8年(1771)
39丁　23.5cm
前田図書が6月29日御入国御使を仰付られ，10月までの記録。図書は貞一で，この年3月22日より家老役。

4384　江戸御使御用覚書　16.42—115
前田貞発手写
23丁　24cm
前田貞醇旧蔵。明和8年(1771)6月晦日，御入国御祝の御使者拝命より10月19日迄の記録。

4385　江戸御使進物等一巻　16.42—116
手写
11丁　24cm
前田貞醇旧蔵。明和8年(1771)江戸で殿中御使御用など勤め，帰着の者達への諸報償書上。

4386　日光御使一巻　16.42—117
三宅正直(権左衛門)編
自筆　安永2年(1773)
21丁　24.5cm
横浜宣徳旧蔵。三宅正直(権左衛門)が，11代藩主治脩の左近衛権中将転任(安永元年12月)に際して日光御使を命ぜられ，安永2年正月15日から22日に勤めた記録一件。正直は当時御小将頭で御用部屋(近習)に勤めた。

4387　大聖寺御使一巻　16.42—118
横浜善左衛門著
40丁　25cm
横浜宣徳旧蔵。天明2年(1782)4月22日拝命・天明6年3月5日拝命の2回分の記録。善左衛門玄英は当時定番頭並で御近習御用。

4388　〔江戸出府御使人之手先へ申渡覚〕　16.42—119
手写
1通　16cm
江戸表御使人より使役足軽へ贈物の儀に付一件留。文化元年(1804)，同5，7年役方日記の内より書抜。

4389　〔不破紋左衛門御使書〕　16.42—120
巻子5　24cm　包紙
不破順命旧蔵。真龍院様御使書など。紋左衛門は有親で馬廻組，1000石，文政11年より聞番，天保13年小将頭，同14年宗門奉行を経て，経武館督学を勤めた。また，天保15年3月8日～嘉永5年12月14日および安政3年7月4日～同5年8月没(61才)の間，馬廻組頭役を勤む。真龍院は斉広の正室。
旧書名「真龍院様御使書」。

4390 〔不破紋左衛門口上書控〕 16.42—121
不破紋左衛門著
手写
巻子1　24.5cm
不破順命旧蔵。8月19日付，暑気見舞状に対する公辺への御礼の使者につき，筑前守様，東御前様へ口上を申上げた件の報告。不破紋左衛門は有親。人見昌之進（忠進）と同道しているので，天保期小将頭役の頃のものか。

4391 暑気御尋御奉書御礼御使一巻 16.42—122
不破紋左衛門著
自筆　嘉永5年(1852)
21丁　24cm
不破順命旧蔵。嘉永5年5月29日拝命，6月19日金沢発足，7月2日江戸着の御使者の件の報告書。紋左衛門は有親。

4392 〔御使一巻書類〕 16.42—123
不破紋左衛門著
自筆
2冊・17通・仮綴9　袋入
17.5×12cm・15～18.5cm・14cm
不破順命旧蔵。内容は御使者としての口上書の写。蒂閣への「勤順」。袋には，馬廻役不破紋左衛門，弘化元年12月晦日発足，翌2年2月17日帰着の「御使一巻」とあり。

4393 他国御使之事〔等〕 16.42—124
手写
21丁　24cm
加藤里路旧蔵。
内容には，他国御使被仰付候節一巻（他国御使道中仕立等についての先例集），火事之節之事，同列衆家筋之事（内題「仙石庄左衛門並列等之事」），嫡子服之事を含む。

4394 御使書控 16.42—125
手写
巻子1　24cm
前田貞醇旧蔵。前田図書が江戸城へ御使として赴いた際の進物，口上等についての詳細な報告書の控。
旧書名「江戸御使書控」。

4395 〔前田図書書状〕 16.42—126
前田図書著
自筆
2通　17cm
成瀬監物宛返状。御使相済につき報告。

4396 〔公辺御使之儀に付達書等〕 16.42—127
3通　17cm
前田貞醇旧蔵。①2月16日付，前田図書貞一より成瀬監物宛，御鷹の鳶拝領被仰付の達書写 ②9月4日付，前田図書より本多安房等12名宛，公辺御使勤務につき通知 ③10月18日付，奥村主水より御入国の使者目見につき報告。

4397 〔不破紋左衛門紙面〕 16.42—128
不破紋左衛門著
1通　16cm　包紙
不破順命旧蔵。辰12月6日付，前田近江守宛，御使者拝命請書。
旧書名「不破紋左衛門願書」。

4398 〔献上物につき内意伺〕 16.42—129
手写
1通　16cm
使者新蔵の口上留。辛巳12月晦日の日付。

4399 〔使者指出方案内状〕 16.42—130
2通　15cm　包紙
不破順命旧蔵。8月17日，2月朔日付の2通。いずれも不破紋左衛門宛の使者指出方案内状。指出人は岩田内蔵助か。
旧書名「岩田内蔵助達書」。

使　　番

4400 〔御使番日記〕 16.42—131
貞享2～3年(1685～86)
38丁　17.5×12cm
表紙欠。貞享2年11月～同3年閏3月の日記で，毎日の天気と朝番・昼番・泊番・非番の区別を記し，自分の行動を書きとめている。
旧書名「御用番日記」。

4401　〔御中屋敷辺火事に付御使番等へ被仰出候御触〕　16.42—132
手写
1通　16cm
宝暦2年(1752)正月朔日に江戸の中屋敷火事につき。正月6日付。

4402　宝暦六年郡廻秘記　16.42—133
志村五郎左衛門(識行)著
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23cm
内題「宝暦六年御使番より御郡廻被仰付候節之秘記」。不破順命所蔵の写。不破本は不破和平による安永6年（1777）の写本。著者志村識行(のりゆき)は宝暦6年(1756)当時250石，表小将奥取次役を勤めていた。内容は同年5月，内々の御用として郡廻を命ぜられた4人のうちの1人として越中の往還，海手筋を担当し，豊凶，札遣通用，民情を調査した際の留書。
旧書名「郡廻秘記」。

4403　御使番代方等　16.42—134
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　25cm
内容は，宝暦～天保期の旧記の抜書。

4404　〔御使番取次書類〕　16.42—135
富田次太夫著
自筆
50通　25cm
富田権六郎旧蔵。御使番で富田次太夫なる者は貞武であろう。享保9年8月11日～同16年12月27日在職。
旧書名「御使番富田次太夫取次書類」。

4405　年中雑記　16.42—136
富田貞武著
2冊　23.5cm
富田権六郎旧蔵。①享保9年(1724)7月22日～10月18日　②享保10年4月4日～9月13日。第2冊の表紙に「貞武」と署名がある。家督相続以前の21，22才の時で，享保9年8月11日御奥小将から御使番になった。当時は扶持200石。

4406　〔富田彌六御使書控〕　16.42—137
手写　享保11年(1726)
巻子1　14cm
富田権六郎旧蔵。富田弥六は貞武，当時は御使番。御使の報告書を継紙したもの。
旧書名「御使番富田彌六覚書」。

4407　〔御使番代一巻〕　16.42—138
手写　文政11年(1828)
32丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。外題「御使番代一巻　一ノ手御集奉行　三ノ手御使番方」。内容は，享保～文政期の旧記抜書。

4408　〔御使番勤方帳〕　16.42—139
岡田主税著
手写
8丁　26.5cm
高畠定辟旧蔵。表紙に「明和三年六月廿八日相勤ル，前田三左衛門殿京都江罷越候ニ付被下物御使相勤候一巻」「明和八年御国江戸表勤方帳」とあり。岡田主税は宝暦11年正月より先弓筒足軽頭，明和7年3月又は10月より御異風才許であったが，それ以前，側小将を経て延享2年8月晦日より宝暦11年正月まで御使番であった。
旧書名「御国江戸表勤方帳」。

4409　御使番日記　16.42—140
有沢貞幹著
自筆　明和7年(1770)
106丁　17.5×12cm
端本。前欠。本文中毎日の天候で明和7年とわかる。4月～8月ごろの日記。朝番・夕番などの勤番を記し，その日の行動や見聞を書きとめている。筆者も本文中より有沢才右衛門(貞幹)とわかる。
旧書名「御用番日記」。

4410　坂井甚九郎自分留　16.42—141
坂井甚九郎著
前田家編輯方手写　明治年間
98丁　23.5cm
坂井直政所蔵の写。甚九郎は御使番，450石。内容年代，文政10年(1827)2月15日～同11年。

巻末に文政13年「御使番方当用抜書」（坂井直政所蔵の写）を収む。

4411　早打御使之節掛之覚　16.42—142
横山隆諏手写　寛政3年(1791)
2丁　12×18cm
横山勇太郎旧蔵。早打御使を命ぜられた時に早速手配・用意する品々の覚書。

4412　久能吉太夫江戸表へ早打御使一巻　16.42—143
手写
29丁　11.5×17.5cm
高畠定辟旧蔵。寛政7年(1795)7月1日～8月8日の早打御使久能吉大夫立政(当時御使番)の報告書写。表紙に「高畠所持」とあり。高畠源右衛門政人(200石)関係文書。政人は寛政元年6月～7年10月観樹公（斉敬，佐渡守）御抱守。ただし，斉敬は寛政7年6月晦日に18才で死去した。

4413　早打御使覚書　16.42—144
横山隆諏手写　寛政7年(1795)
4丁　12×18cm
横山勇太郎旧蔵。近習類・御使番の久能吉太夫が佐渡守様病気見舞の使者として出立の時，7月1日の記事。

4414　廻状等留　16.42—145
手写
20丁　24cm
天保12，13年御使番関係の内容。

4415　御使番方諸事心得方等自分留　16.42—146
高畠定辟手写
41丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。内容目録14項。火事方一通之心得，自分之覚，御鷹野等御出之節心得，自分心得之条々，御貸馬願，侍中居屋敷内出火之節心得，組屋敷内見分之心得，御人数ニ指添申事，御城内外御出之節言上方等，御出馬等心得，学校江出座中火事之心得，諸事心得抜書，御弘等ニ而登城之内出火之心得，御留守中勤方。高畠善左衛門定辟は慶応元年8月14日，同4年2月26日の間御使番であった。

4416　御番頭覚書　16.42—147
39丁　21.5cm
子4月7日～12月27日。江戸における御使関係の記事が多い。

特16.43　組　支　配

人　持　組

4417　一見備忘編　16.43—1
横山敬容著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
内容は，寛文～元禄期の諸種の旧記抜書。

4418　〔村井長堅覚書〕　16.43—2
村井主膳(長堅)著
自筆　享保10年(1725)
56丁　12×18cm
表紙に，「弐冊之内」とあるが他の1冊を欠く。10月～12月までの日次の政務覚書。文中にみえる主膳，太炊は各々村井長堅，前田孝資で，この年12月18日一緒に人持組頭に任ぜられている。
旧書名「覚書」。

4419　〔村井長堅〕覚書　16.43—3
手写　享保15年(1730)
37丁　12×17cm
人持組頭村井主膳長堅の享保15年正月朔日～12月29日までの日次政務日記。
旧書名「覚書」。

4420　諸事覚書　16.43—4
延享3年(1746)
42丁　21.5cm
早川随勝旧蔵。人持組頭の組支配に関する例規を享保期までの事例を挙げて記している。

4421　覚留帳　16.43—5
宝暦8年(1758)
11丁　20cm
宝暦8年正月1日～12月28日の簡略な人持組頭

の役務日記。著者は宝暦8年7月7日年寄中御用見習を命ぜられている。

4422　城中御用日録　16.43—6
富田貞章著
自筆
巻子1　16cm
富田権六郎旧蔵。内容年代，天明3年(1783)10月28日～同4年4月10日。冒頭に父外記の遺知相続を許されたことを記す。したがって，富田織人貞章とわかる。亡父は貞直。以下とびとびの日付になっている。

4423　御内用一件留　16.43—7
文化2年(1805)
88丁　23.5cm
村井又兵衛(長祥のち長世)と奥村左京(賀直)関係の書類留。内容は，文化2年8月～10月。両人は当時共に人持組頭。

4424　御役儀方諸事留　16.43—8
天保5～6年(1834～35)
86丁　23.5cm
横山隆起旧蔵。横山蔵人関係の公務上の往返紙面写。蔵人は政和。天保5年家督をつぐ。

4425　雑用記　16.43—9
前田矩正(式部)手写
67丁　23cm
前田栄次郎旧蔵。組頭の組下支配に関する要綱(書式・手続など)40項目を記している。矩正は3000石，文政元年家をつぎ，小松城番，寺社奉行，公事場奉行を経て天保11年若年寄，嘉永6年家老役，文久2年隠居・没。

4426　御請御届紙面等留　16.43—10
手写
113丁　24.5cm
横山隆起旧蔵。嘉永6年(1853)～明治2年(1869)の横山蔵人より提出した家臣も含めた人事異動（出生，縁組，任免，欠勤，湯治，拝領等々）の届。また請書綴り。

4427　月切留　16.43—11
安政5年(1858)
10丁　12×18cm
家中の士の死去，相続，縁組などの人事に関する事務の覚書。当時人持組頭であった村井又兵衛(長在)関係のものらしい。

4428　組用等覚帳　16.43—12
村井長在著
自筆　安政6年(1859)
10丁　12×18cm
長在(ながあきら)は村井氏11代。天保13年遺知をつぐ。人持組頭。安政6年1年間の公務日次覚。

4429　〔本多周防守伺書〕　16.43—13
手写
2通　16cm×24.5cm
①11月3日付，由比覚左衛門人夫請取高につき伺　②11月14日付，無息の子弟へ貸人の件につき伺。
旧書名「本多周防守之書附」。

4430　〔本多政長書状〕　16.43—14
本多政長(安房守)著
自筆
2通　17cm
有沢小太郎宛夫銀切手の件と中川采女宛姪の縁組許可の件。

4431　〔村井又兵衛書状〕　16.43—15
村井又兵衛著
手写
巻子1　16cm　包紙
組下藤田左衛門の拝領銀の件につき，横山山城守宛，8月14日付。

4432　〔小幡忠左衛門悴豹三張文之事〕　16.43—16
1通　16cm
御勝手向難渋の儀につき心付張文をした小幡豹三の処分につき，外出指解の旨を頭である志村平之丞宛に達している。

4433　組頭へ内々口遠ニ而申聞候趣　16.43—17
手写
1通　16cm
中川典克旧蔵。寅2月付。諸士風俗につき演述の覚。

4434　〔二の丸へ材木入申に付手形〕　16.43—18
手写
2通　17cm
中川典克旧蔵。①亥11月13日付小幡宮内より，②11月20日付笹原織部・寺西若狭より，それぞれ二の丸作事用の材木を入れることについての案内状。二の丸人持衆中宛。
旧書名「二之丸へ材木入申候書付」。

4435　〔前田佐渡書状〕　16.43—19
前田孝貞著
自筆
1通　17cm
中川典克旧蔵。中川式部宛。中川式部は長定か。

城代・城番

（金沢・小松城代）

4436　〔小幡宮内申渡書〕　16.43—20
小幡宮内著
自筆
1通　17cm
正月28日付，前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。城内の道具調査のため歩目付を会所へ呼出した内容。宛名は大横目で，その就任年代から推して，宮内は長次。寛文4年(1664)6月金沢城代をやめ隠居している。
旧書名「小幡宮内口上書」。

4437　御城代方覚書　16.43—21
奥村尚寛編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
奥村栄滋所蔵の写。金沢城代関係について寛文期の旧記から編集したもの。奥村河内守尚寛は，寛政9年～享和2年(1797～1802)金沢城代を勤めた。

4438　御城代方覚書　16.43—22
奥村尚寛編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
前号に同じ。

4439　小松御城方旧記抜書　16.43—23
手写
13丁　26cm
高畠定辟旧蔵。小松城代関係記録で，内容年代は，延宝8年(1680)～元禄9年(1696)。

4440　小松御城代被遊付諸事御用之品控留帳　16.43—24
手写
56丁　23cm
前田貞醇旧蔵。内容年代，元禄16年(1703)7月11日～宝永元年(1704)の往返状の留。ちょうどこの時期に前田備前貞親が小松城代（元禄16年～宝永2年10月15日没）を勤めている。

4441　小松御城代方旧記抜書　16.43—25
横山蔵人(政和)手写　文久3年(1863)
18丁　12×18cm
延宝～元禄期の小松城代関係の記録。横山蔵人政和は文久3年6月4日当役再起から慶応2年8月21日(当役指止)まで小松城代であった。

4442　小松之儀ニ付御用番方留帳書抜　16.43—26
横山政和手写　文久3年(1863)
37丁　12×18cm

4443　小松御城代方諸事覚　16.43—27
横山政和編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
①巻一　文久3年6月3日～9月11日
巻二　文久3年9月12日～元治元年8月12日
②巻三　元治元年8月13日～慶応元年6月25日
巻四　慶応元年7月4日～同2年4月6日
巻五　慶応2年4月12日～8月21日。

4444 〔小松御城代方御用古き反古之内書抜〕 16.43—28

横山政和手写　文久3年(1863)

22丁　12×18cm

外題「小松御城代方御用　前田無尽庵老方古き反古之内書抜」。

4445 小松御城代方旧記抜書 16.43—29

横山政和手写　元治2年(1865)

40丁　12×18cm

内容目次は小松御城御巡見御作法書，小松御通行ニ付紙面品々，塩桶一件，前田図書所持絵図之目録，御座之間御書院名目，御櫓并二階御亭巨細書，御堀舟路明人夫，向野塩硝蔵小松御作事所ニ而御修覆，御門通抜之押，護国院様御逝去ニ付御縮方申渡留，升形御門石場損候名目之事，前田修理知定御城代被仰付候義，前田兵部御城代之砌御城御諚之御作法書。

4446 小松御城代之時分之留記 16.43—30

手写

15丁　24.5cm

内容は，城代の守る条々，誓紙，兵粮支度方など。

(小松城番)

4447 小松御城御用留帳之内抜書 16.43—31

手写

47丁　23.5cm

前田貞醇旧蔵。小松城番の御用留の抜書。内容は，延宝7年(1679)～享保10年(1725)にわたる。

4448 小松城番覚書 16.43—32

前田家編輯方手写　明治年間

2冊　24cm

前田貞醇所蔵の写。

①延宝7年より(明和8年迄)小松御城番交代等覚書

②小松御城中掃除小者給銀等(宝永2年)，諸事留帳(宝永2年)，文化6年7年小松御城番方御用并火消方御用留帳。

4449 小松御城番覚書 16.43—33

前田家編輯方手写　明治年間

38丁　23.5cm

前田貞醇所蔵の写。内容は，前号の第1本に同じで，延宝7年(1679)～明和8年(1771)の小松城番交代等の覚書。

4450 小松御本丸旧記抜書 16.43—34

成瀬正居編

前田家編輯方手写　明治年間

5冊　23.5cm

小松御城番方の旧記抜書。

①巻一　延宝7年～元禄6年

巻二　元禄7年～宝永5年

②巻三　宝永6年～享保元年

巻四　享保2年～9年

③巻五　享保10年～18年

巻六　享保19年～延享元年

④巻七　延享2年～寛延元年

巻八　寛延2年～宝暦3年

⑤巻九　宝暦9年～明和8年

巻十　天明4年～寛政元，同9年

附，御親翰等写，小松御城御間等取調書。

4451 小松御城番方御本丸旧記抜書 16.43—35

成瀬正居編

自筆　安政3～4年(1856～57)

4冊　12×18cm

成瀬正居旧蔵。ごく項目的に記されている。成瀬主税正居は，安政3年(1856)7月26日～同4年9月小松城番。内容年代は下記のごとし。

①延宝7年～宝永5年

②宝永6年～宝暦3年

③宝暦4年～享和2年

④文化元年～安政4年。

4452 小松城記録二十三種 16.43—36

前田家編輯方手写　明治年間

5冊　23.5cm

元禄16年(1703)～慶応3年(1867)にわたる小松城勤務関係文書を蒐集してある。

①元禄16年小松御城付足軽中葭島居番人御切米高役付歳附帳，小松御城方旧記抜書，延享3年10月小松御城方之儀ニ付被仰出等，小松御

城番旧記書抜，宝暦５年小松城廊廻等書出之帳，天明３年小松御城御土蔵ニ入御武具等之覚
②小松御城御警衛帳書抜，前田無尽庵方古き反古之内書抜，徹妙院様御在城中之節之小松武鑑，小松御城中御定，小松御城番勤方帳
③文久３年小松之義ニ付御用番方留帳書抜，古き押紙面之内御巡見之分書抜，小松御城御門格等抜，小松御城二御丸御番所より取揚候古き押紙面之写
④小松御馬廻并自分知行高役付歳附帳，小松御城臨時御人配心組覚書，小松御城番早繰等書抜，小松御城代方旧記書抜
⑤小松御城附足軽并葭島居番人妻子等人数帳，支配人知行高歳付帳，中納言様小松御城御巡見一巻，小松御城方雑助余記（渡辺佐太夫心附書・射手御番所名目・御城附与力衆議物書立等・御馬廻御人増等詮議物書立等・御馬廻人数しらへ書・津田善六郎申聞之趣）。
（ただし以上の目次には，短かい文書・記録は省かれている）。

4453　小松より越後屋舗へ来状留帳　　16.43—37
前田家編輯方手写　明治年間
８丁　24cm
表紙朱書「前田貞先代手記ノ写ナリ」とあり。元禄16年(1703)10月，小松御城惣構薮之内伐取者召捕之事等の留帳。

4454　小松御城番覗書　　16.43—38
前田修理・葛巻十右衛門著
自筆
７通　16cm
いずれも前田備前宛。修理知頓と十右衛門重広は小松城番，備前貞親は小松城代。小松城附足軽の人事その他についての伺書類。３人の勤務時期から推定して，元禄16年～宝永２年５月の間のもの。
旧書名「小松御城番上申書」。

4455　〔小松城代留帳旧記に付返書〕　　16.43—39
１通　17cm
小松城代備前殿（前田貞親，在職元禄16～宝永２年10月15日没）の指示に関する下僚の返書。
旧書名「小松城代口上書」。

4456　〔小松城番前田市正等書状〕　　16.43—40
前田市正・岡嶋内膳著
３通　17cm　包紙
前田市正・岡嶋内膳連署状。①９月10日付，小松城中損所につき報告　②10月28日付，小松町奉行新任につき請書　③12月３日付，小松御城附足軽小頭新任につき達書。①②は前田備前宛。市正(虎之助)季隆，内膳一定がともに小松城番であったのは元禄17年～宝永４年の期間である。

4457　〔前田近江守達書〕　　16.43—41
〔享保８年(1723)〕
１通　17.5cm
癸卯２月22日付で奥村内記より前田近江守宛に，前田中務より病気につき小松城番免除の伺いが出され，それを了承した旨前田近江守が，前田中務に伝えれたもの。前田中務貞直の小松城番御免は享保８(癸卯)年であり，したがって近江守は直堅と考えられる。

4458　小松御城御用留帳之内抜書　　16.43—42
前田家編輯方手写　明治年間
86丁　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。享保10年(1725)３月～明和８年(1771)３月にわたる小松城番の記録。

4459　高畠左門留帳　　16.43—43
高畠左門著
手写
10冊　23cm
高畠定胖旧蔵。高畠左門定延の役務日記。著者は大小将を経て寛延元年８月23日～宝暦８年２月28日小松御馬廻番頭を勤めた。700石，宝暦10年７月没，71才。本書の内容は寛延元年９月より始まっている。
① 寛延元年(1748)　② 寛延２年
③ 寛延３年　④ 寛延４年
⑤ 宝暦２年　⑥ 宝暦３年
⑦ 宝暦４年正月～６月
⑧ 同年　７月～12月
⑨ 宝暦５年正月～５月

⑩　同年　6月～12月。
旧書名「留帳」。

4460 〔御親翰并御請之写等〕　16.43—44
高畠左門定延手写
自筆
44丁　24cm
高畠定辟旧蔵。表題「御親翰并御請之写，奉達御内聴候写，御勝手方江相達候写，御城代江相達候写」。内容は，貞享以降のものであるが，小松城番関係が多い。

4461 御国目附衆小松表へ御越に付諸事御用留帳　16.43—45
宝暦5年(1755)
68丁　23.5cm
高畠定辟旧蔵。小松御馬廻御番頭の役方記録。当時，高畠左門定延(700石)と村田吉左衛門景福(700石)が勤めていた。

4462 覚書　16.43—46
前田数馬著
自筆　明和9年(1772)
8丁　12×17.5cm
前田栄次郎旧蔵。小松城番の御用儀および心得方についての覚書。前田数馬豊虎は明和8年11月～安永4年6月の間，小松城番を勤めた。
旧書名「小松御城番心得覚書」。

4463 〔篠嶋左京紙面等写〕　16.43—47
篠嶋左京著
手写
10丁　13×15.5cm
成瀬正居旧蔵。内容年代，天明2寅年(1782)3月2日～4月の篠島左京清一発信公文書類の写。左京はこの年3月11日付で小松城番に就いた。

4464 小松御用方覚書　16.43—48
22丁　8×17.5cm
成瀬正居旧蔵。内容は，取捌方留書。天明5年(1785)か。

4465 小松御城御用方諸事心覚留帳　16.43—49
成瀬左近著
自筆　天明5～6年(1785～86)
16丁　24cm
成瀬正居旧蔵。成瀬左近(左京)正喬が天明5年(1785)11月26日付で小松御城番に任ぜられた時から，翌年3月までの留帳。

4466 〔小松御城番勤方覚帳〕　16.43—50
成瀬左近著
成瀬正居手写
5丁　12.5×36.5cm
成瀬正居旧蔵。内容は，成瀬左近正喬が小松城番を勤めた期間天明5年(1785)～寛政2年(1790)の勤方覚書。

4467 小松詰之節之留記　16.43—51
7丁　13×35cm
成瀬正居旧蔵。内容は，天明6年（成瀬左近正喬が小松城番当時)。

4468 御改法ニ付金谷於御殿石野主殿助ヲ以相窺候品々言上等之趣写置　16.43—52
手写　天明6年(1786)
2丁　12×36cm
成瀬正居旧蔵。天明6年正月～3月の石野主殿助への聞合せ，および3月23日付前田主殿助・成瀬左近の上書の写。内容は，小松城足軽火事羽織，城番人々御貸家修覆のことなど。前田主殿助(実種)・成瀬左近(正喬)は小松城番。石野主殿助(寛氏)は御近習御用。

4469 小松城御堀并町夫留　16.43—53
手写
81丁　24.5cm
内容は，天明7年(1787)～慶応2年(1866)にわたる。小松作事所方の編集か。
旧書名「御堀并町夫留」。

4470 小松御城番方旧記抜書　16.43—54
前田路博(織江)著
手写　寛政6年(1794)
2冊　11.5×17.5cm
前田道益旧蔵。内容は，小松御城中御定書，小

松御城番勤方帳など勤方に関する旧記からの集成。前田織江は寛政6年正月～同9年閏7月の間小松城番。

4471　小松御城番一巻承合覚　16.43—55
手写
27丁　12×17.5cm
前田道益旧蔵。内容は，小松城番の御用取捌方。前号と同筆なので前田織江の記録か。

4472　小松御用方留帳　16.43—56
富田外記編
127丁　25cm
富田権六郎旧蔵。文化元年(1804)11月18日～同9年5月14日までの小松城番方の往返状の留。富田外記貞行は文化元年11月19日小松城番に就き，文化9年4月10日御褒者番となる。

4473　於小松御用方留帳　16.43—57
39丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。次号と同筆。文化2年(1805)7月～同3年3月までの記録。

4474　小松御在番中御用留帳　16.43—58
前波宗右衛門著
38丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。前波宗右衛門は富田外記（貞行）の家来。外記が小松城番(文化元年～9年)であった時の勤務の記録。内容は，文化5年(1808)3月～同9年(1812)3月。

4475　御在府日記　16.43—59
前田中務著
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　25cm
文化8年（1811)。前田中務貞道は当時小松城番。

4476　所々御門定　16.43—60
前田織江編
手写
33丁　24cm
小松城の各御門番所における番人の心得を記したもの。天保5年(1834)までのもの。

4477　小松御城番方雑記　16.43—61
成瀬正居著
自筆　安政3年(1856)
37丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。正居が小松城番当時の覚書で番方，定日，町奉行・小松作事奉行・武具奉行・三の丸番頭の歴代，塩硝蔵の筒薬の箱数，その他諸種の記事を含む。

4478　小松御城番御用方留日記　16.43—62
成瀬正居著
自筆
60丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。内容は，安政3年(1856)7月26日～同4年9月11日。

4479　小松覚書　16.43—63
前田貞発編
7丁　12×18.5cm
前田貞醇旧蔵。前田図書貞発が，旧い記録から編した覚書。貞発は万延2年正月～元治元年3月の間小松城番。

4480　小松御城文化録　16.43—64
大野木良之助編
手写　嘉永4年(1851)
2冊　23.5cm
大野木家旧蔵。小松城番の諸向取捌き方の記事。大野木良之助克貞は，嘉永4年正月～同7年2月の間小松御城番を勤めた。目録は以下のとおり。
①「小松御城文化録」
2月朔日其年順先々御城番達方等之事，3月14日発足より小松旅宿迄之心得方等之事，3月15日登城交代其外御用番等江達方之事，御城番取捌3月より3月迄常例等之事，御祝詞状調方其外年寄衆へ達方等之事，二之御丸押紙面等之振合之事，御番頭江申達候品々之事，御算用場向取捌之事，御武具奉行御作事奉行戻手合之事，御省略所御副印物調方之事，御横目所達方之事，宗門奉行手合之事，月才許小頭等江申渡候品々之事，町奉行手合之事
②「小松御城文化続録」

小松御城諸旧記早繰，小松御城番勤方帳等，小松御門方御定，小松御番頭等江之紙面之振等，茶湯御暇之例。

4481　小松御城番方遠留　16.43—65
成瀬正居著
自筆
23丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。内容は，安政3，4年(1856，1857)。

4482　小松城番年代等四種　16.43—66
前田家編輯方手写　明治年間
58丁　23.5cm
内容は，小松御城番等年代，前田直堅ヨリ前田貞親へ申遣覚書，御親翰拝写等，前田土佐守義ニ付伺書草案。

4483　小松御城代御城番旧記覚書　16.43—67
前田貞発手写
3丁　21cm
前田貞醇旧蔵。

諸　組

4484　〔組支配者之行跡心得に付被仰出之書立〕　16.43—68
天明5年(1785)
1通　17cm　包紙
行跡心得の善悪を，時を待たず申上げるべき旨，御用番長大隅守より諸頭へ申渡した書立。旧書名「組支配者之行跡心得ニ付被仰出候書立」。

4485　雑目録　16.43—69
120丁　24cm
「諸頭等へ申渡留書抜」と副題あり。文化5年(1808)～嘉永元年(1848)。諸触令の項目を列記している。

4486　〔火之用心遠書請書〕　16.43—70
1通　17cm
中川典克旧蔵。諸組頭よりの請書。

4487　組頭記簿　16.43—71
手写
99丁　23.5cm
原本(不詳)の乾の巻にあたると付札あり。組頭役務上の届・願類の旧例集。全55項目で巻頭に目次あり。享保～寛政期の事例を収めている。

(馬　廻　組)

4488　御馬廻組記録抜萃　16.43—72
手写
3冊　24cm
高畠定辟旧蔵。内題「御馬廻組頭御用番記録抜萃共三冊，并当職人記録中可為故事者摘出附之」。各冊に目次あり。
①寛文元年(1661)～元禄10年(1697)　165項目
②元禄11年～宝永5年(1708)　127項目
③宝永6年～享保8年(1723)　143項目。

4489　御馬廻古例抜書　16.43—73
手写
55丁　18.5×13cm
高畠定辟旧蔵。寛文元年(1661)～享保12年(1727)までの旧例集。

4490　御馬廻頭旧記・手留　16.43—74
高畠厚定著
自筆
6冊　12×18cm
高畠定辟旧蔵。厚定は宝暦12年遺知700石をつぎ御馬廻に列し，寛政元年(1789)に馬廻頭となった。文化7年9月没。
①宝暦年中御馬廻頭旧記
②御馬廻頭旧記
③宝暦年中旧記　御馬廻頭御用留之内
④御馬廻頭旧記
⑤御馬廻頭手留　天明元年より安永7年
⑥御馬廻頭手帳　文化2年8月より。

4491　定番頭覚抜書　16.43—75
24丁　13×35cm
高畠定辟旧蔵。内容は，宝暦・天明期を中心とした日記で，享保期から寛政期までに及んでいる。

4492　御馬廻頭留記　16.43—76
前田家編輯方手写　明治年間
44冊　23cm
坂井直昌所蔵の写。役務に関する旧例集で，内容年代は明和4年(1767)～嘉永6年(1853)にわたっている。

4493　〔御親翰に付廻状并請書写〕　16.43—77
2通　16.5cm　包紙
明和9年(1772)7月11日馬廻頭への御親翰につき7月13日付の馬廻頭より各番頭等への廻状および7月18日付請書写。7月11日は藩主治脩の金沢出立の前々日にあたる。
旧書名「御親翰御請控」。

4494　組用留記抜書　16.43—78
手写
7冊　23.5cm
組支配関係の旧例を略記したもの。一之部から十之部までに分けられている。事例は明和・安永期から嘉永まで。

4495　〔馬廻頭留帳〕　16.43—79
手写
34丁　12×18cm
表紙なし。後欠。組内の者の人事についての篠原勘左衛門の届，伺類とその返書。「陸田孫六自害仕損一類へ御預之事」以下安永6丁酉年，同7年のもの。篠原茂承は当時馬廻頭，1000石。旧書名「政務に関する諸届，諸達」。

4496　安永天明間御用留　16.43—80
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23cm
内容年代は，安永8年(1779)～天明6年(1786)。内題「御用内留」。内容は，家中の士の役職任免関係が主である。著者は不詳であるが，中村左兵衛(敏子，650石)の署名が多くみられる。左兵衛は安永7年12月25日馬廻頭に任じ，同9年6月(4月とも)宗門奉行を勤め，天明6年8月15日定番頭に転じた。以上から本書は馬廻頭の御用留か。

4497　中将様御手自被渡下候御書立　16.43—81
4通　17cm　包紙
①天明5年10月15日「於金谷松之御間御手柄御意之上御渡御書立之通也」(北藩の署名あり，伴七兵衛の端書)
②天明5年10月18日「石野主殿助を以被渡下候御書立壱通」(伴七兵衛の端書)
③天明5年10月，北藩の署名のある書立
④　③の写。
中将様は重教であろう。伴七兵衛は資明，天明5年7～10月は定番馬廻番頭，明和～安永期に大かね奉行の経歴あり。
旧書名「家中倹約方等御書立」。

4498　御馬廻組頭内密留　16.43—82
高畠(菅原)厚定著
自筆　寛政7年(1795)
5丁　11.5×17cm
高畠定辟旧蔵。寛政7年11月5日より12月中の，大小将に推せんすべき者の追加分の書上げ。

4499　御馬廻頭内廻状留　16.43—83
高畠厚定著
自筆　寛政8年(1796)
5丁　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。役人任命のための候補者名を記す。
旧書名「御馬廻頭相勤候節内廻状留」。

4500　組頭溜手帳　16.43—84
高畠厚定著
自筆　寛政9年(1797)
29丁　12×17cm
高畠定辟旧蔵。寛政9年4月15日～7月24日の役方手留で11項より成る。編者は馬廻組頭，またこの年4月7日付で宗門奉行になっている。

4501　御馬廻頭内密御用留　16.43—85
高畠厚定著
自筆　寛政9年(1797)
3丁　11×17cm
高畠定辟旧蔵。
旧書名「御馬廻頭相勤之節内密御用留」。

4502 御馬廻頭密事御用留　16.43—86
高畠厚定著
自筆　寛政10年(1798)～享和元年(1801)。
4冊　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。
①寛政9年　御馬廻組頭内密留
②寛政10年　御馬廻頭相勤ル節密事御用留
③寛政11年　密事留
④享保元年　内密御用留。
旧書名「御馬廻組頭内密留」。

4503 〔御馬廻頭〕相組預ル御用留　16.43—87
高畠厚定(五郎兵衛)著
自筆　寛政12年(1800)
12丁　12×17cm
高畠定辟旧蔵。江守平馬が2月7日に定番頭に任じたためにその組を預ることになった際の引継関係文書の留。

4504 組頭席留帳抜書　16.43—88
手写　享和3年(1803)
92丁　12×18cm
横山勇太郎旧蔵。組頭溜日記帳のうち，安永4年(1775)5月～天明3年(1783)正月の分から，当番の取捌方に関するものを主に年月順に抜書したもの。抜書は武田喜左衛門が行ない，本書はそれを写したもの。巻頭に90項の目次あり。

4505 御親翰留其外密事壁内廻状留　16.43—89
高畠厚定著
自筆　文化元年(1804)
61丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。著者が馬廻頭，公事場奉行兼帯を勤めていた文化元年7月～同3年4月の日次留書。

4506 御親翰并言上其外内密留　16.43—90
高畠厚定編
自筆　文化3年(1806)
13丁　11.5×17.5cm
高畠定辟旧蔵。厚定は当時，馬廻頭，公事場奉行兼帯。

4507 〔諸士風俗に付被仰出候覚書〕　16.43—91
坂倉伝右衛門著
文化4年(1807)
1通　15cm　包紙
諸士風俗が緩んでいるとひして改めて馬廻組頭へ仰渡された。坂倉は御用番。

4508 諸事自分留　16.43—92
不破紋左衛門(有親)著
自筆　天保15年(1844)
11丁　23cm
不破順命旧蔵。原題は「御馬廻頭就被仰付組用等当座諸事自分留」とあり，表紙署名の肩書に「九里歩代被仰付」とあり，又，表紙右上に「天保十五甲辰年三月八日ヨリ」とあるが，この日九里歩の後任として馬廻頭となった。当時1000石。なお，同月21日に宗門奉行に就くが，それ以前までの記録。

4509 町廻御定書写　16.43—93
手写
8丁　12×17cm
横山隆太旧蔵。寄合より御馬廻組頭中に宛てたものの写しで，火の用心の見廻りの心得を記したもの。

4510 御馬廻頭旧記　16.43—94
高畠厚定著
自筆
63丁　22cm
高畠定辟旧蔵。勤方についての留。

(御　番　方)

4511 事品要略　16.43—95
藤田某著
手写
2冊　12.5×18cm
藤田与七郎旧蔵。内容年代は，元禄4年(1691)～文化11年(1814)。金沢城御番関係の諸規則。旧例を書留めている。各冊巻頭に目次あり。

4512 〔御番所宝永・安永留書〕　16.43—96
手写

6丁　24cm
表紙は「石之事」とあるが最初の項目を採ったもので，番所通行に関する留書。
旧書名「宝永・安永留書」。

4513　三之丸御番方壱巻　16.43—97
横山某編
手写
82丁　17.5×13.5cm
横山隆太旧蔵。下巻のみ。以下の項目に大別して，享保～享和期の旧例を挙げている。巡見上使等之事，御奉書并御飛脚等到来之節之事，不時取捌旧記，御番所作法，於御番所急病人有之節取捌方，火事方壱巻，御門格，鰮御披，御番方ニ付御番人より直ニ御城代江御達可申趣ニ付松原善左衛門殿ヨリ之紙面，御着城之節御使者人持組相勤候ニ付両挟箱可相通之事。

4514　御番方手帳　16.43—98
前田家編輯方手写　明治年間
58丁　23cm
安井顕比所蔵および横地秀三所蔵の写。内容年代は，安永7年(1778)。安井本の部分は番所，泊番に関する定書，勤方制規。横地本の部分は例規集。

4515　金谷御門御番所留帳写　16.43—99
元僻手写
48丁　8×18cm
横山隆太旧蔵。天明期の事例を収めている。

4516　三ノ御丸御番方手帳　16.43—100
中川某著
享和3年(1803)
29丁　7.5×18cm
横山隆太旧蔵。御門番方関係の御定，制規，旧例などを書留めた袖中録。

4517　〔御本丸等城内御番之次第〕　16.43—101
文化3年(1806)
20丁　7×18cm
本丸，薪丸，東之丸，河北御門，石川御門の番組の構成と人名を記したもの。

4518　御門番近例鈔　16.43—102
手写
79丁　23.5cm
内題「御番方不念并掛合等之品近例抄書」。内容は，金沢城の門番方に関する旧例集。16項目(巻頭に目次あり)。内容年代は，文政2年(1819)～天保11年(1840)。

4519　御作事方御門御往来之御面々等　16.43—103
文政9年(1826)
4丁　11.5×18cm
横山政和旧蔵。前田大和守他50名。

4520　御門方留帳　16.43—104
割場編
明治2年(1869)
46丁　25cm
江戸藩邸の番所勤番方に関する書類留。

4521　〔御城門縮に付達〕　16.43—105
1通　16cm
申12月付。石川門の通行取しまりがみだりになっているについての件。

4522　〔御門往来許可依頼状〕　10.43—106
1通　16cm
子2月9日付，前田図書署名，二ノ丸御馬廻番人衆宛。手医師呼寄につき。
旧書名「本丸御門往来許可証」。

4523　〔印鑑見合に及ばず城中御門往来通抜の家来名書出状〕　16.43—107
2通　20cm
前田図書より二之丸御馬廻御番人衆宛，亥9月27日付，亥9月15日付。該当の家来の名を列記してある。
旧書名「前田図書印鑑指出書」。

4524　〔下城之節河北門駕籠居所之図〕　16.43—108
絵図1枚　40×28cm
前田恒敬旧蔵。
旧書名「河北御門下城之節駕籠居所之図」。

（小　将　組）

4525 〔万覚〕 16.43—109
横山志摩(正房)著
自筆　寛文4年(1664)
2冊　24cm
志摩正房は4500石，近習，中小将番頭を経て当時は中小将組頭を勤む。のち若年寄，家老となる。
①「万覚」寛文4年正月朔日～5月26日
②「万留帳」同年5月29日～12月28日。
旧書名「万留帳」「俚諺譜」。

4526 万留帳〔抜書〕 16.43—110
横山志摩(正房)著
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　25cm
内容は前号②の抜書。

4527 御小小姓御用之覚 16.43—111
寛文4年(1664)
10丁　25cm
寛文4年6月から翌5年10月迄の時折の覚書。

4528 御大小将組定書等覚 16.43—112
手写
18丁　12×18.5cm
高畠定辟旧蔵。天和2年(1682)11月2日綱利の大小将組頭中宛定書。同月同日大小将出立并軍役之事，11月6日付「覚」(大小将組頭宛)，壬戌11月6日，御大小将中年頭御礼之事，その他，旗，馬印などを編輯記録している。
旧書名「御馬廻頭密事御用留」。

4529 〔元禄雑記〕 16.43—113
葛巻新蔵著
自筆　元禄5～14年(1692～1701)
12冊　13×7.5cm
大野木克征旧蔵。葛巻新蔵ははじめ俊資，宝永7年改姓して大野木克明という。前田綱紀の奥小将となり，当時は850石～1150石，泰雲公(10代重教)奥小将番頭，元禄12年6月27日より先筒組足軽頭となる。日次留書であるが，日付は飛んでいる。各冊の表紙に「葛巻新蔵」と署名あり。題名は以下のとおり。
①元禄5年同6年雑記
②日用雑記
③元禄7年雑記
④元禄7年雑記
（註，③と④は同文であるが，③は正月2日迄，④は正月21日迄を記載。）
⑤元禄7年雑記
⑥元禄7年雑記
⑦元禄7年雑記
⑧元禄7年同8年雑記
⑨元禄8年雑記
⑩元禄8年同9年雑記
⑪元禄9年同10年雑記
⑫日記抜書，元禄8年，同11年，同12年，同13年，同14年，同15年。
旧書名「雑記」。

4530 雑記 16.43—114
葛巻新蔵著
手写
3冊　27cm
上中下3冊。当時奥小将を勤めた葛巻新蔵克明の記録で，本書はその抄記。
①元禄5年同6年雑記，元禄7年雑記（5月7日迄）
②元禄7年雑記（5月8日～10月）
元禄7年同8年雑記（8月迄）
③元禄8年同9年雑記（9月より8月初迄）。

4531 御大小将方江戸留抜書 16.43—115
2冊　12×18cm
高畠定辟旧蔵。第1冊に第六迄の目次54項目があるが，第一，第二の2冊のみ。第1冊に「和田」と署名あり。いずれも元文5年(1740)～延享3年(1746)の事例を項目別に分類した留帳抜書。

4532 三輪氏日記頭書 16.43—116
前田家編輯方手写　明治年間
84丁　23cm
三輪允明所蔵の写。巻二～四を収む（巻一は

欠)。巻之二は宝暦元年～3年，巻之三，四は宝暦3年。筆者は三輪允明（ただあきら）と推定できる。允明は給知1000石，御小将頭，御持弓頭を勤めた。

4533　御小将頭当用抜書　16.43—117
横山引馬編
自筆
114丁　12×18cm
小将頭役の支配方旧例集。天明～寛政期の例多し。

4534　江戸一巻触留等　16.43—118
横山隆諏(引馬)著
自筆　寛政6年(1794)
27丁　24cm
横山勇太郎旧蔵。引馬は当時表小将。正月～6月の分。

4535　備忘録　16.43—119
横山引馬(隆諏)著
自筆　文化10～11年(1813～14)
13丁　12×18cm
横山勇太郎旧蔵。文化10年正月1日から2月1日までの日記，および文化11年中の覚。隆諏(たかこと)は組頭並，500石。文化9年より御小将頭を勤む。文政2年12月没，56才。

4536　江戸日記　16.43—120
横山隆諏(引馬)著
自筆　文化12年(1815)
32丁　12.5×18cm
9月27日～翌13年2月17日。引馬は当時御小将頭，兼学校方御用。

4537　御内用方留　16.43—121
有沢師貞著
自筆
11丁　12×18cm
文政9年(1826)～同12年(1829)のもの。師貞は文政8年10月より表小将を勤めていた。

4538　御側小将留帳抜書　16.43—122
手写
2冊　23cm
①弘化3年(1846)～4年
②嘉永元年(1848)～4年。

4539　組用類聚　16.43—123
大野織人著
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
仁義礼智信5冊のうち第4冊(智)を欠く。旧例集。著者は名を定能といい660石，文政11年2月11日江戸にて表小将御近習御用となり，町奉行の時以外は，御用部屋に勤めた。第1冊(仁)は被仰付之類，第2冊(義)は願之類，第3冊(礼)は異変之類，第5冊(信)は雑之部に分類編さんしてある。各冊に目次あり。

4540　御給事役雑記　16.43—124
手写
56丁　24cm
高畠定辟旧蔵。外題は「御大小将勤向」。給仕役の知っておくべき規式を集成したもの。目次は御座敷名目，御客御席附御官名御紋御知行高，御客御目通ニ而手附候御面々，御茶台ニ而御茶出之御面々，御料理出ル次第付方，御菓子出ル次第付仕方，麺類出ル次第，上使并御一門様方御出ニ而御盃事有之節御銚子之事，三献之次第，嶋台，御給事雑事(小目録あり，略す)。

(番頭・物頭)

4541　公儀覚書帳　16.43—125
64丁　24cm
寛永20年(1643)11月16日綱利(5代綱紀)誕生より寛文12年12月晦日までの間の，おそらく番頭・物頭クラスの者による役用記録からの抜書。藩主の動向，領内の主要事項も記載している。

4542　組外御番頭留記　16.43—126
手写
2冊　23.5cm
内題「組外御番頭要用記」。番頭の組支配のため

の役用旧例集。第1冊は全60項目で巻頭に目次あり。第2冊は全75項目で巻頭に目次あり，そのうち第1～第56項までは第1冊と同文。事例は，年代の知れるかぎりで延宝～明和期のもの。

4543　新番方留帳　　16.43—127
前田家編輯方手写　明治年間
38丁　23cm
三浦氏蔵。「新番方旧記」の文化4年の写本からの書抜。内容は，宝永2年（1705）～明和4年（1767）。

4544　御親翰并御請書写　　16.43—128
手写
3通　17cm　包紙
寛政元年(1789)年のもの。定番馬廻番頭宛に6月19日付で改作奉行に相応の者を推せんするように命じ，それに対する請書2通（6月19日，同22日付）。

4545　御歩方旧記　　16.43—129
文政7年(1824)
81丁　11.5×17cm
野村信由旧蔵。御歩組の諸制規，職制，組支配の旧例集。内容は，享保～文政期の事例。

4546　水上儀一覚書　　16.43—130
水上喜八郎儀一(のりかず)著
前田家編輯方手写　明治年間
158丁　23.5cm
内題は慶応2年5月「御先手物頭被仰付諸事心覚留物頭並砲隊物頭等云々」。慶応2年5月10日先手物頭に任ぜられて以後，明治2年までの役務留記。関係の旧例も集めている。上京出張，北越戦争従軍の記録もあり。
旧書名「覚書」。

4547　御用留　　16.43—131
高田省吾著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
別名「高田省吾手記」。乾坤2冊。高田省吾は新兵御番頭。①慶応元年5月～12月　②慶応2年正月～同4年正月。

4548　京都詰中御用留　　16.43—132
高田省吾著
手写
2冊　23.5cm
①○京都為御守衛急出立新兵御番頭詰中御用日記（慶応2年4～5月）
○京都為御守衛詰中御用留(同年6月～12月)
○京都詰中并金沢御用番之内御用留中要々抜書（同年5月中旬～12月）
②○京都為御守衛長大隅守殿上京指添急発足新兵御番頭高田省吾詰中一件（同年6月～12月）。

4549　砲隊物頭就被仰付候諸事留　　16.43—133
手写
10丁　24cm
砲隊物頭武田蔵人に代り高田省吾が砲隊物頭に仰付られた一件留。慶応4年(1868)4月27日より閏4月22日迄。

4550　杉本成章日誌　　16.43—134
杉本成章著
明治2年(1869)
107丁　23cm
成章(しげのり)は当時美和介。はじめ慶寧に近侍し，のち大小将横目，北越戦争で功あり，明治元年12月28日中隊頭となる。明治2年9月20日より10月29日までの日記。

（そ　の　他）

4551　貞享三年日記　　16.43—135
前田家編輯方手写　明沼年間
15丁　24.5cm
貞享3年(1686)6月5日～7月21日の御射手異風関係の公用日記の写。

4552　〔延享等記録〕抜書　　16.43—136
手写

51丁　23.5cm
延享期三十人組頭の御用留抜粋，同定書の写，寛政２年三十人組の御定書写，諸事御供方被仰渡等旧記。ちなみに三十人組は藩主の御手廻りの小者で延宝５年30人１組で５組を置く。その組頭を三十人頭とも称した。鎗持，草履取，挟箱持などが役目であった。

4553　御居間先奥御納戸御土蔵後之方破有之三十人頭達之一件　16.43—137
富田某著
自筆　天保２年(1831)
55丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。天保２年９月８日土蔵に賊入一件につき三十人組の者の勤方について調査，吟味が行なわれ，処罰された。

4554　三十人頭一件　16.43—138
前田家編輯方手写　明治年間
３冊　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。三十人組の支配に関する記録集。

4555　江戸御広式御用組足軽取捌壱巻　16.43—139
高畠安定著
自筆　天保12年(1841)
64丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。組足軽縁組願，組足軽養子願，組足軽学校江出座願など，組足軽支配に関する諸措置の例をあげた記録。巻頭に35項目の目次あり。

4556　松台遺墨　16.43—140
金谷義光著
自筆
12冊　12×18cm
金谷孔彰旧蔵。
①御先手之部(上)，御先手在役中日記
②　〃　(中)，御先手旧記抜書，同臨時三組急発足，江戸近海御手当，嘉永６年同御手当方代合，同御手当方根調理，同達紙面等調理，飛州高山在番之記，嘉永７年正月アメリカ渡来出張陣中日記
③　〃　(下)，非常之分組足軽常変取捌留
④御持弓頭之部(陰)，御持弓方日記
⑤　〃　(陽)，御持方年中定例，同毎年触出之留，同的当褒美，同調練一件，御先三品之留
⑥乾，御台場出来ニ付三州海岸巡見録
⑦坤，台場記事方寸記録
⑧一，御近習頭中日記１・２
⑨二，　〃　３・４
⑩三，　〃　５・６
⑪四，　〃　７・８
⑫五，　〃　９・10・11。

4557　諸事覚書　16.43—141
手写
36丁　23.5cm
内表紙に「文久二壬戌歳ヨリ」とあり。文久～慶応年間の足軽組関係の役務関係記録。警固，行列御供，出張，その他触書類などを留めている。

4558　与力方之留帳　16.43—142
中川式部(長定)手写
８冊　24cm
中川典克旧蔵。与力の先祖由緒一類附帳を集録し，また与力支配方の日次覚を記す。著者長定は当時若年寄，家老役にあった。
①与力方之留帳　享保９，10年
②与力方之留帳　享保11，12年
③与力方之留帳　享保12～15年５月
④与力控帳　享保15年５月より
⑤与力方帳　享保16，17年
⑥与力方控帳　享保18年
⑦与力方控帳　享保19年
⑧与力方控　享保20年。

4559　〔享保十一年与力方帳抜書〕　16.43—143
手写
１通　24cm
与力知による召出方について。

特16.44 公　事　方

触達・勤方覚留類

(公　事　場)

4560 〔公事場達書写等〕 16.44—1
手写
23丁　24cm
皮多所持の利長等判物の写(天正以降)，延宝7年(1679)皮多勤方には公事場達書，元文・文政年間皮多出入に付定書等を収録。

4561 請状之事 16.44—2
1通　16cm
中川典克旧蔵。万治4年(1661)家中奉公人の請人証文の雛形。

4562 〔奉公人の〕掟 16.44—3
手写
1通　24.5cm
延宝7年(1679)公事場奉行松平玄蕃他2名からの武家奉公人規定厳守の触書。

4563 〔御尋者に付組中請書〕 16.44—4
1通　16cm
中川典克旧蔵。元禄9年(1696)。公事場奉行よりの達書に対する中川采女組の請書。
旧書名「御尋者について吟味方御達」。

4564 〔赤地金襴織物質入・売買縮り触并に請書〕 16.44—5
手写
巻子1　24cm
元禄10年6月16日の赤地金襴織物の打敗またはきれを質入，売買したものは公事場へ届出るべき旨，公事場奉行より能州郡奉行宛の(盗難品の)品触と，能登奥郡の各十村よりの請書を継紙したもの。
旧書名「緞物規式御触」。

4565 公事場関係達書 16.44—6
2通　17cm
中川典克旧蔵。①己卯(元禄12年)閏9月11日付，縊殺死体検使につき触書及請書　②酉6月付，村方より公事場へ上げる願書の宛名の形式につき申渡。

4566 幻住院様廿五回御忌ニ付赦可被仰付哉之者 16.44—7
手写
5丁　24cm
前田貞醇旧蔵。幻住院は5代藩主綱紀の第一子千代松。延宝3年(1675)6月15日没，2才。したがってその25回忌は元禄12年己卯(1699)。大赦候補人を書上げた伺書。

4567 公事場御用品々覚 16.44—8
手写
7冊　12×18cm　袋入
前田栄次郎旧蔵。標目は袋に記載のもの。各冊の表題は次のとおり。
①安永6年7月石川郡松任町亀屋三郎兵衛於宅出羽国庄内三日町鈴木清次与申者之妻致変死候ニ付翌年3月酒井左衛門尉様ヨリ其節之検使之者等江被下物有之留帳
②安永7年11月惣持寺一件年寄衆江達紙面控(署名前田)
③安永10年ヨリ，於公事場吟味無之中将様ヨリ被仰出ニ而御刑法申付候一巻控(署名数馬)
④天明元年5月，役筋之儀ニ付中将様ヨリ被成下候御書出両通并御請之控
⑤被仰出之品并御年寄衆御申談ニ而調出候旧例且又例無之品同役僉儀之上相達候趣竪御刑法之義ニ付調出候御日柄之次第等品々控(延享3年～天明4の旧例)
⑥(天明6年)御改法後被仰出候品々留帳
⑦定番御馬廻篠田余太夫一件於公事場御吟味方ニ付隠密言上方控(文政12年2月留之写，署名前田式部矩正)。

4568 諸事覚書 16.44—9
前田豊処(数馬)著
自筆　安永7～8年(1778～79)
22丁　11.5×18cm
安永7年正月より8年2月までの公務を主とした日記。著者は当時公事場奉行。

4569　公事場御用廻状留帳　16.44—10
手写
69丁　24cm
成瀬正居旧蔵。寛政3年(1791)10月より翌4年5月にかけての廻状を書留めてある。署名は当時公事場奉行であった前田内蔵太(政敬)のものが多く，その前任者前田主殿助（実種，3年12月27日指除）のものもある。

4570　公事場留書より年寄衆へ指出帳　16.44—11
手写
54丁　12×17.5cm
内題「御内談帳」。寛政6年(1794)公事場の取捌方につき公事場留書を調べて書抜いたものを年寄衆へ提出し，付札を付けて戻されたもの。2月提出3月に戻りの分と3分提出4月戻りの分とからなる。

4571　〔公事場留書より書出候留〕　16.44—12
2冊　24cm
乾坤の2冊。①「寛政六年於公事場留書ヨリ相しらへ書出候趣引請段々遂僉儀二月廿七日年寄衆江帳面指出置候所三月十八日夫々被仰出候趣此帳面附札ニ而被相渡候事」　②「寛政六年三月十八日被仰渡之趣に付重而伺候趣留并被仰出之品附札ニ而被相渡右附札之留其外箚箇番號割符方江申渡候趣留帳」。

4572　検使方箇条書　16.44—13
手写
22丁　24cm
多田六蔵所蔵の写。変死人等検使取捌方に付，寛政6年(1794)公事場よりの箇条達書等。

4573　毎月死刑拷問并禁牢吟味控方覚牒　16.44—14
享和3年(1803)
27丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。年間の公儀，御家代々の忌日を書上げて，死刑・拷問を控える日，吟味も控える日などに分けて印をつけてある。

4574　御刑法者書上等留　16.44—15
高畠厚定著
自筆　文化元年(1804)
33丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。高畠厚定は当時公事場奉行。年寄の長甲斐守(連愛)又は村井又兵衛(長世)が公事場へ出席して吟味した裁判についての報告文を書留めたもの。

4575　吟味落着年寄聞届相済書上下留　16.44—16
高畠厚定著
自筆　文化元年(1804)
17丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。厚定は当時公事場奉行。

4576　公事場方　16.44—17
19丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。文化3年(1806)当時の公事取さばきに際しての先例調査などの書留。筆跡から高畠厚定自筆か。

4577　公事場御用方記臆　16.44—18
高畠〔厚定〕著
自筆
20丁　13×18cm
高畠定辟旧蔵。寅年3月中の役務記録で，欠落，欠落者立帰り，御預所の者焼死一件，魚津牢屋にて縊死一件などの書留。高畠は厚定（文化元年5月～同7年9月公事場奉行），したがって寅年は文化3年(1806)と思われる。

4578　公事場方旧記　16.44—19
7丁　11.5×18cm
高畠定辟旧蔵。内容は，文化5年(1808)の火事之節牢屋方等之儀ニ付改而申渡之事，三ヶ所掛り医者及老年為代セかれ御用申渡候事。筆跡から高畠厚定自筆か。

4579　公事場御用書上并達方之留　16.44—20
文化6年(1809)
6丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。内題「大衆免新町医師養斎於飛州不届一件公義ヨリ御下知申渡御受之事」。金子詐欺事件。筆跡から高畠厚定自筆か。

4580　〔御刑法并公事場吟味之義伺書〕　16.44—21
中川清六郎等著

手写
1通　16cm
重科に処せられるべき者を公事場で吟味するよう下知を求めた内願状。伊藤惟純・奥野氏令・永原孝吉・中川顕忠の連名で申12月14日付。この4人が同時に公事奉行であった期間は文化9年4月～11年11月であるから申年は文化9年。

4581 〔公事場締り方御親翰并御請書之写〕 16.44—22
文政元年(1818)
3通　17cm　袋入
富田権六郎旧蔵。御親翰は公事場奉行宛，8月25日付。役職の心得肝要のことを述べている。請書は青山将監(知次)，富田外記(貞行)，藤田求馬(安処)，辻平之亟(彰信)の署名，8月25日付。
旧書名「御親翰并御請書」。

4582 〔公事場取捌方僉議〕 16.44—23
富田貞行編・富田貞詳補
手写
88丁　12×17.5cm
外題は「寛政六年僉儀ニ而取捌方相改候以後追々僉義を以向後之事相極候趣此帳ニ記置可申候事」で，さらに朱字で「貞行公文化十四年九月より文政二年迄御勤，安政三年十二月より貞詳在役，依之文政二年後附札物等書入ル」とあり，公事場奉行富田外記貞行の改正作業を記したものに，公事場奉行富田織人貞詳が書入れたもの。
旧書名「取捌方相改候以後追々僉義を以向後之事相極候趣此帳ニ記置可申候事」。

4583 公事場旧記抜書 16.44—24
手写　文政9年(1826)
45丁　12×19cm
成瀬正居旧蔵。文政9年正月朔日～2月29日の公事場奉行の役務日記。御用番は正月は奥村弾正，2月は成瀬内蔵助(当職)。

4584 〔吟味未決言上書〕 16.44—25
前田矩正(式部)著
手写
46丁　24cm
前田栄次郎旧蔵。表題「文政十歳五月，赦被仰出候附吟味未決ニ而言上控」。公事場奉行連判で年寄中へ宛てた報告の写。前田矩正は当時公事場奉行。

4585 〔小者落人給銀に付指紙〕 16.44—26
奥野主馬佐著
2通　16cm
巳6月12日付，奥野主馬佐より横山義六郎宛。欠落した小者の給銀を公事場で日割返銀支給の指紙と，書式相違につき差戻しの指紙。主馬佐は氏敦。文政9～天保9年および天保13～嘉永元年公事場奉行。横山義六郎は元儁か(天保6年迄普請奉行)。その間の巳年は天保4年(1833)。
旧書名「小者欠落人ニ付達書」。

4586 公事場方御用記簿 16.44—27
手写
42丁　9×20cm
富田権六郎旧蔵。公事場での勤方の細則，慣習などを記す。吟味之節口上等之覚，当座取捌心覚，病欠・出奔などの届書，検使乞返書，牢死届への返書などの旧例書式を書留めている。成立年代は天保以降。

4587 公事場諸事留 16.44—28
手写
51丁　12×18cm
嘉永6年(1853)の記事が多く，なかに同年2月17日公事場より出火一件もある。

4588 公事場御用留下帳 16.44—29
富田織人編
手写　安政5年(1858)
102丁　23.5cm
富田権六郎旧蔵。富田織人(貞詳)は当時公事場奉行。安政5年5月中の執務記録。

4589 公事方覚帳 16.44—30
大野木克征等手写　慶応2年(1866)
58丁　24cm
大野木克征旧蔵。60項目（巻初に目次あり）の公事方事務取扱要領。

4590 〔公事場諸事覚留〕 16.44—31
公事場編
50丁　24cm
原題「諸事覚書」。富田権六郎旧蔵。式日并出仕断之節紙面之事以下，牢舎人逆上躰病之節取捌之事まで30項目よりなる治安・刑事関係定書や覚書。

4591 〔公事場にて決裁の覚〕 16.44—32
1通　25cm
中川典克旧蔵。後欠。3月21日付，裁判評議の記録。
旧書名「科人に付口上書」。

4592 〔御刑法者被仰出に付調べ書〕 16.44—33
1通　17cm
差出人横山大和守等の書判あり。前田土佐守・津田玄蕃宛，2月16日付。藩侯一門の法事等に際して大赦の旧例について下問に答えたもの。
旧書名「公事場御刑法者仰出書」。

4593 〔公事場に付意見書〕 16.44—34
手写
1通　16cm
中川典克旧蔵。5月付，前田大炊宛。4人の者(氏名不詳)より公事場の格式，網規の弛緩について意見を述べている。なお，奥書注記に関屋市右衛門留帳，宝永7年10月15日に関連記事があるとしている。
旧書名「公事場等へ達書」。

4594 〔御尋者人相書写〕 16.44—35
手写
1通　16cm
慶応元年(1865)下総香取郡川頭村百姓喜兵衛の倅喜助の人相書。長大隅守・本多播磨守より薄井季良・早川徳三郎宛。

4595 男女奉公人縮方之儀今般於公事場相極候触状等覚 16.44—36
手写
9丁　24.5cm
小木貞正旧蔵。御家中，町方，寺社方等において召使う一季居奉公人の取持人に関するもの。奉公人縮方，取持人勤方，取持人方氏名等を記す。

4596 公事場方留 16.44—37
高畠厚定手写
40丁　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。主に書式の旧例，規則を書留めたもの。

4597 上ル御帳 16.44—38
柴田久右衛門著
自筆
10丁　24cm
鉄砲之者の検地時の非法，作事所蔵番人の盗み等の詮義を記したもの。

4598 公事場足軽引足知上願 16.44—39
1通　17cm
公事場足軽武部宇兵衛他2名。
旧書名「吟味未決者書付」。

4599 公事場割符之儀単笥番迄内分承り候書立之控 16.44—40
手写
1通　16cm
中川典克旧蔵。公事場単笥番の事務上の疑義について。

(盗賊改方・喧嘩追掛者役)

4600 〔喧嘩追掛者役覚書〕 16.44—41
手写
17丁　26.5cm
高畠定辟旧蔵。元禄4年，喧咄追掛者役以後一年代り相勤につき勤様書，喧咄追掛者役人喧咄の沙汰につき覚書。寛文6年初めて喧咄追掛者役被仰付御定書写并窺紙面および申渡覚書を収録。

4601 盗賊改方御奉行所より被仰渡候者 16.44—42
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25cm
岡部勇作所蔵の写。能登口郡の十村が安永年間の盗賊改方より発せられた触書等を書留めたも

の。

4602 御親翰并言上留　16.44—43
高畠厚定著
5冊　12×18cm
高畠辟旧蔵。寛政元年(1789)より同3年の分。盗賊改方奉行より年寄衆宛の裁許窺い書。
①寛政元年12月～同2年3月
②同2年3月～6月
③同2年7月～11月
④同3年1月～2月
⑤同3年4月。

4603 盗賊改方日記　16.44—44
高畠厚定著
手写　寛政2～3年(1790～91)
3冊　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。厚定は当時盗賊改奉行。
①寛政2年4月17日～5月22日
②同年5月24日～6月26日
③同3年正月元日～2月16日。

4604 於加州改方咎申付候罪軽重并賊物取捌方等留　16.44—45
手写　元治元年(1864)
9丁　12×17.5cm
大野木克征旧蔵。文化元年(1804)盗賊改方取扱いの罪人規定を中心に，その後の付札を記す。

4605 〔富田心覚〕　16.44—46
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25cm
文政元年(1818)盗賊改方奉行紙面及びそれに関する公事場奉行(富田外記貞行他)の紙面の写。
旧書名「富田心得」。

4606 家事一件帳　16.44—47
25丁　12×17.5cm
天保9年(1838)正月12日～5月28日までにわたるが，内容は，乗輿にすれ合った家中の者との掛合い一件や家来の不行状などの件，また関連する旧例を記し，改方の職務についても記している。筆者は村井靱負(長貞)か。内容から，暫くここに収める。

4607 〔喧嘩口論之刻之掟〕　16.44—48
手写　1通
1通　32cm
巳3月11日付，家中法令(5ヵ条)。

4608 〔家中屋敷内外にて喧嘩有之節之掟〕　16.44—49
1通　33cm
喧嘩現場への出入を禁じたもの。亥4月25日付。
旧書名「屋敷内外にて喧咄有之節之掟」。

御刑法帳類

4609 旧条記　16.44—50
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
加賀藩家中の犯罪や処罰例規集。元文3年(1738)頃までを収めている。
①主人之類(13項目)
②家従之類(23項目)，雑類(16項目)
③御仕置之類(19項目)。
なお，別本を底本として石川県図書館協会の刊本「旧条記」(昭和8年)がある。ただし③が上，①が中，②が下巻になっている。

4610 組頭衆日記　16.44—51
手写
3冊　24cm
成瀬正居旧蔵。外題に「共六」とあり6冊本の一部。石川県図書館協会刊「旧条記」の類本で，同文ではないが，同似の構成を持っている。「旧条記」巻上の後半(「一類江御預者死去」以下)，巻中の前半(「夫婦同日自害」まで)，巻下の後半(「家来返銀遅滞」以下)にあたる。万治～享保期の旧例を編さんした刑事・警察犯例集というべきもの。

4611 厳秘録　16.44—52
手写
3冊　24cm
上中下3冊。家中の士の犯科に対する公事場の例規集。上巻巻頭に290項目の目次あり。

4612　富永翁秘録　16.44—53
手写
2冊　25cm
小木貞正旧蔵。御仕置之類28項について享保期迄の事例を挙げている。表紙は「富永翁秘録急節用」上・下。巻頭の目次は以下のとおり。
御預ケ者，切腹人，刎首，流刑，在郷，御追放，一類江御預者同病死并自分縮仕置候死去，閉門同御免，逼塞蟄居遠慮人門前捨子，逼塞蟄居遠慮御免，親類凶事ニ付遠慮有無，指控御免，役儀御指除，御暇被下者，御知行被召放者，喧咄自害，変死妻子親族，夫婦同日自害，主従同時変死，足軽小者変死検使公事場ヨリ出ル，乱心，溺死，自害人等有之検使ニ罷越心得，打擲ニ而死去，手討，立退人，逐電人，訴訟人，切支丹類族之者変死付家来。

4613　秘要抜萃　16.44—54
2冊　23cm
家中の者の御仕置，事故の際の組頭等の心得・処理方を記す。寛文年間の定や，元禄より享保年間の事例を付す。
①御仕置之類
②主人之類。

4614　刑法沿革誌稿　16.44—55
戸水信義著
自筆
42丁　25cm
加賀藩の刑法に関する著述。総論，事蹟に分れ，総論では刑罰の種類，変遷を概述し，事蹟では天正期利家による処罰例，慶長・元和の定書の要約を記している。

4615　刑法志稿　16.44—56
戸水信義著
自筆
17丁　25cm
天正より慶長20年までの刑法を主にして，年代順に法制を概述している。

4616　寛政度御刑法帳　16.44—57
手写
3冊　23cm
上中下3冊。内容は，刑罰をきめる際の判例とするため，寛政年間に旧例を集録して，これに対する刑が示されている。
①子を殺候者共，捨子仕者共，子を強ク折檻等仕者共，捨馬仕候者共，追落仕候者共，人殺之者共，人を殺賊仕候者共
②御蔵御米賊，土蔵を破品物盗取候者，土蔵江賊ニ入候者共，賊仕候者共，馬盗人，密通之者共，似せ金仕者共，死刑御宥免之所重而悪事仕候者共，男子殺害之伺
③博奕宿仕者共，博奕仕候者共，苗字持候者於江戸等欠落人仕立帰之者，苗字持於御当地欠落仕其後立帰候者共，小者於江戸欠落仕立帰之者共，於御当地欠落仕立帰候者共，欠落仕立帰候上其儀押隠流浪仕又者脇江奉公ニ在付候者共，女出合宿等仕候者并出合候男女盛出家破戒之者共。
刊本，服藤弘司「御刑法帳」(「金沢法学」10の2)
旧書名「御刑法帳」。

4617　御刑法抜書　16.44—58
手写　寛政2年(1790)
44丁　12×17.5cm
富田権六郎旧蔵。寛政2年に年寄衆へ提出した帳面の下帳の写。釜煎・火罪の者から永御預の者まで，24種の刑罰につき，実例を示し，処罰された者，犯罪事実，判決を要約して記している。

4618　〔御刑法御尋に付書上控〕　16.44—59
手写
3通　16cm　包紙
富田権六郎旧蔵。藩主からの下問に答えて作成した刑法の大綱書上帳の控。①刑法先例についての書上げ，文化6年(1809)　②③処刑についての基準内容書上げ，寛政3年(1791)，人見吉左衛門宛。
旧書名「刑法について調書控」。

4619　太梁院様御尋に付公事場奉行答書　16.44—60
富田某編
手写
巻子1　16cm　袋入

富田権六郎旧蔵。寛政3年(1791)原本成立。太梁院は第11代藩主治脩。刑罰の規定について記す。
旧書名「太梁院様御尋ニ付公事場奉行答申書控」。

4620 公事方手留　16.44—61
手写
26丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。拷問，流刑，磔，闕所，牢屋一件，預人の処置規則。御刑法方心覚。ためし，盗物取扱，盗人，欠落，欠落人受人，行衛尋などの実務上の規則，心得を書留めてある。成立年代は寛政以降。

4621 公事場御刑法之品々　16.44—62
高畠厚定(五郎兵衛)編
手写　文化元年(1804)
17丁　25cm
高畠定辟旧蔵。刑罰の種類と，その解説をしている。文化元年(1804)に御次へ指上げた帳面を写したもの。
刊本，服藤弘司「公事場御刑法之品々」(「金沢法学」12の1・2合併号)

4622 公事場御刑法之品々　16.44—63
高畠五郎兵衛編
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　25cm
前号に同じ。

4623 文政度御刑法帳　16.44—64
手写
3冊　23cm
上中下3冊。内容は，刑罰を定める際の判例にするため作られた「寛政度御刑法帳」と同一内容を示すもの。
旧書名「御刑法帳」。

4624 公事場御用諸記抜萃　16.44—65
成瀬手写　文政9年(1826)
14丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。刑罰の軽重の基準について旧記を抜書きしたもの。

4625 御仕置之類　16.44—66
前田家編輯方手写　明治年間
41丁　24cm
石田権次郎所蔵の写。家中の者の処罰について，その種類ごとの取捌き方例規を実例を交えて記している。

4626 金秘録　16.44—67
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。喧嘩，自害，変死等につきその取扱いを記す。乾は「主人之類」坤は「家従の類」にわけた旧例集。

4627 捕縄諸型　16.44—68
手写
13丁　24cm
原題「諸刑雛形」。捕縄の型を図示したもので，人の紙形を貼り，それに黒系の細ひもをかけて型を示してある。巻尾に，この雛形の図は口伝の縄であるとして天明4年，享和3年，安政5年の相伝者の署名がある。

仕　置　例　規

(旧　例)

4628 加賀藩刑事記録索引　16.44—69
前田家編輯方編
明治年間
64丁　24cm
慶長より弘化年間に至るまで罪状等の別に事例を書上げたもの。袖裏雑記等の出典も記す。

4629 御仕置留十種　16.44—70
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
①人持中へ御預人之記(承応～文化)
能州島の内へ流刑人一件抜書(附公事場奉行留)
長家の臣浦野氏等逆心ニ付万聞書(寛文7年1667)
御預遊女調理一件(元禄3年(1690)鳳珠両郡)
②杉本九十郎喧嘩一件(宝永5年(1708))

言上書付留帳（寛政３年1791）
毛利太兵衛御預替并切腹一件二種
不破富太郎等御仕置被仰渡（元治元年1864）
御賞罰記（元治元年12月）。

4630　小松町検使留記　16.44—71
前田家編輯方手写　明治年間
18冊　23.5cm
①公事場検使疵附人等之部
②　〃
③　〃
④所検使溺死之部
⑤　〃
⑥　〃
⑦　〃
⑧　〃
⑨所検使縊死之部
⑩　〃
⑪　〃
⑫　〃
⑬所検使焼死部
所検使他殺部
⑭所検使変死部
⑮所検使自害仕損部
⑯所検使相対死之部
⑰於他所変死之部
⑱於他所溺死等之部。
刊本「小松史・史料篇下・小松旧記第弐部」。

4631　赦過宥罪　16.44—72
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
元禄年間から宝暦年間にいたる間の加越能三州の各種犯罪刑罰例を集成。

4632　一巻帳大概　16.44—73
奥村尚寛編
手写
39丁　24cm
貞享～享保間の家中等の吟味処分に関する記録。

4633　享保元文年間諸事留　16.44—74
手写
105丁　24cm
波部金八郎旧蔵。享保20年(1735)から元文６年(1741)までにわたる家中の罪科（乱心，離婚，自害），奉公人の欠落，入牢，犯罪など66項目の旧例を収録したもの。
旧書名「藩内諸事留」。

4634　〔享保天明間家中喧嘩刃傷控〕　16.44—75
手写
１通　15cm
死傷者の出た大喧嘩７件について年月と氏名と傷の程度を記す。

4635　異変頭留　16.44—76
手写
92丁　23.5cm
検使方関係の御定抜書と，明和より文化年間の検使事例。同様の安永より文化年間の検使事例を集録した「異変聞集」を収む。

4636　公事場御用番附渡文庫之内留帳等抜書　16.44—77
成瀬某手写
６丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。安永～文化の旧例の書抜。

4637　検使方一件　16.44—78
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。「寛政六年相改候検使格」をはじめ天明５年(1785)から安政４年(1857)に至る間の藩内の検使例51件を集録。
①天明５年～文政元年(1818)の29件
②文化２年(1805)～安政４年の22件。

4638　心得方数件　16.44—79
手写
57丁　23cm
寛政年間(1789～1800)の家中における出奔，家来欠落，盗物，自害等に対する処理事例を収録。

4639　〔祭礼・法事警固等留帳〕　16.44—80
高畠五郎兵衛著
自筆　寛政２年(1790)
37丁　13.5cm

寛政２年長谷観音祭礼之節御固罷遣候一巻，寺中祭礼之節御固罷遣候一巻帳，御刑法者在之節為検使御用罷遣候一巻，文照院様御法事之節御寺御門御固一巻帳。御先手物頭直組前隊帳よりなる。
旧書名「長谷観音祭礼之節御固罷出候一巻等」。

4640　長谷観音祭礼御固等留　16.44—81
有沢某手写
44丁　17cm
坂井氏所蔵の写。内容は，長谷観音祭礼一巻留帳，寺中佐那武明神祭礼能ニ付罷出候覚帳，因幡鳥取御使一巻，他国御使并早打御使心得帳，吉田茂平高山藤右衛門喧嘩追懸者役相勤申内喧嘩之沙汰ニ而罷出候覚書且又牧彦右衛門相勤候内同事，磔被仰付者検使ニ罷出候留，寛保２壬戌年10月19日御老中方御招請之節御白洲奉行相勤候留帳。
旧書名「長谷観音祭礼一巻留帳等」。

4641　〔長谷観音祭礼御固等留〕　16.44—82
岡田某手写
48丁　19cm
表題は有沢貞庸筆「武道雑談集四十」とある。内容は前号に同じ。すなわち長谷観音祭礼一巻留帳，寺中佐那武明神祭礼能ニ付罷出候覚帳，因幡鳥取御使一巻，他国御使并早打御使心得帳，吉田茂平高山藤右衛門且又牧彦左衛門喧咄追懸役相勤申内覚書，磔被仰付者検使ニ罷出候留，寛保２御老中方御招請之節御白洲奉行相勤候留帳。
旧書名「武道雑談集」。

4642　検使取捌先例後鑑　16.44—83
前田家編輯方手写　明治年間
131丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。検使の先例20件を収載。加賀国における主として享和～文化期に至る事例。

4643　諸刑詮議書留　16.44—84
手写
２冊　23cm
乾坤２冊。坂井直昌所蔵の写。享和３年(1803)～天保10年(1839)の家中(組内)の犯罪に対する詮議内容と刑罰について年代順に配列した記録。①享和３年～文政３年　②文政５年～天保10年。

4644　検使方旧記　16.44—85
手写
２冊　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。検使方の旧例を編集したもの。内容年代は，享和３年(1803)～文化２年(1805)。

4645　検使方　16.44—86
手写
21丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。検使方の文化元年(1804)～同３年(1806)の旧例抜書。

4646　検使方先例　16.44—87
高畠定辟著
手写　安政６年(1859)
127　42丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。文化，文政期の検使方旧例集。

4647　〔御歩並以上身柄之先例等留〕　16.44—88
成瀬某著
手写　文政10年(1827)
19丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。徒以上の者の犯罪などについて処置例を示したもの。

4648　御同心見届次第　16.44—89
片岡孫作手写
３冊　23cm
金沢町同心関係の記録。町人又は町地の出奔，行倒人，傷害，焼死，自殺，殺人，変死体などの届書の留帳。年代明記のうち多くは天保であるが，一部宝暦以降を含んでいる。

4649　能州方当用雑記　16.44—90
手写　元治元年(1864)
48丁　12×18cm
野村寛旧蔵。公事方に関するものを中心に32項を書留めている。

（一件記録・文書）

4650　吟味人預り状　16.44—91
手写
1通　25cm
中川典克旧蔵。寛文6年(1666)のもの。石川郡福留村間兵衛よりの吟味者10人の預り状。
旧書名「吟味見届書」。

4651　野村五郎兵衛等書状　16.44—92
野村五郎兵衛等著
自筆
1通　34cm
公事場奉行野村五郎兵衛等3名より中川采女宛。元禄6年(1693)既に欠落，逃亡の罪で斬罪決定のあった中川采女の草履取が，瑞陽院法事により死刑を赦免された旨を伝えたもの。
旧書名「野村五郎兵衛等書翰」。

4652　〔訴人取捌方の覚書〕　16.44—93
手写
1通　16cm
中川典克旧蔵。宝永7年(1710)に生じた事例に関連しての覚書。
旧書名「公事場へ之達書」。

4653　吉村金左衛門手負一件　16.44—94
手写
5丁　24cm
横山政和所蔵の写。享保9年(1724)江戸詰の横山刑部組同心吉村金左衛門が，乱心の割場小者に切懸られた事件について。

4654　能州真脇村枝郷姫村弥右衛門等江戸表へ御召に付諸事留　16.44—95
手写
15丁　23.5cm
明和3年(1766)真脇村弥右衛門が難船の品を入手したかどで捕えられれ，同4年江戸で追放となった一件。

4655　御親翰言上控留　16.44—96
11丁　18cm
横山隆幹旧蔵。明和8年(1771)の江州今津村甚右衛門一件落着および能美郡若杉村兵助組八日市町三日市町の秋綿詮義についての理非答申書。

4656　〔三引村肝煎誤り書等〕　16.44—97
手写
2通　24cm
三引村は鹿島郡に属す。三引村内の変死人取扱いをめぐるもの。安永7年(1778)。
①三引村肝煎より栄春院他宛
②笠師村喜八郎より郡奉行宛。
旧書名「笠師村喜八郎口上書等」。

4657　清水伊太夫刃傷始終取調留帳　16.44—98
13丁　26cm
天明6年(1786)の記。清水伊太夫，服部三七へ刃傷一件留。

4658　沖辰右衛門一件控　16.44—99
手写
1通　15.5cm
宮田権六郎旧蔵。天明8年(1788)沖辰右衛門変死に関して，粟ヶ崎村住民の拷問陳述について。公事場奉行品川主殿等4名の書上げ。

4659　三明杢右衛門変死諸事留帳　16.44—100
8丁　26cm
寛政元年(1789)における横山蔵人家臣三明杢右左門の自害一件について。

4660　変死人一件覚書　16.44—101
45丁　24cm
前田貞醇旧蔵。寛政2年(1790)家来小者の妻事故死，同3年家来足軽妻自害，同6年家中倒人の3件について検使等の記録。

4661　同心高島喜兵衛雇置候女居宅井戸入相果夫々取調方留帳　16.44—102
3丁　26cm
寛政5年(1793)の一件留。

4662　〔松本左源太一件覚書〕　16.44—103
16丁　24cm

寛政12年(1800)の調方一件。原題「松本左源太一件，寛政十二庚申歳三月十一日覚書」。

4663　氷見町鍛冶屋忠右衛門并同人抱合之者口書控　16.44—104

文化14年(1817)
16丁　26cm
富田権六郎旧蔵。今石勘御奉行所宛。組合頭の公金に関する不届一件。

4664　瀬川安右衛門，吉江平兵衛家来小者ニ疵付候ニ付検使等一巻　16.44—105

手写
6丁　26cm
文政2年(1819)における本組与力吉江平兵衛の小者仁三郎が中小将組瀬川安右衛門に疵付られた一件の検使記録。

4665　御咎之留書等　16.44—106

手写　天保6年(1835)
6通　15cm
いずれも天保6年のもので，家中の士の処罰申渡し覚の写。

4666　〔武山太次兵衛，久木綱之丞殺害一件留〕　16.44—107

手写
7丁　21cm
外題「組外武山治部左衛門嫡子太次兵衛浪人者久木綱之丞ヲ及殺害候節検使方一件留」。横山隆太旧蔵。天保7年(1836)の事件。

4667　引懸者留　16.44—108

手写　安政3年(1856)
15丁　23cm
富田権六郎旧蔵。天保期能美郡殺害人乞食伊三郎一件他について，検使方及び入牢手続等を記録したもの。「安政三年十二月　本多様より御借用写」とある。

4668　〔御預弥助一件調書〕　16.44—109

2通　15.5cm・24cm　袋入
横山隆太旧蔵。弘化2年(1845)，横山義六郎家来小者弥助の喧嘩一件について。弥助の口書と御預宥免の公事場覚書。

4669　〔定番御歩並小原順之助切害之節検死口書等控〕　16.44—110

吉村市太夫等著
仮綴1(2冊・1通)　12.5×34.5cm・16.5cm　袋入
横山隆太旧蔵。元治元年(1864)。袋書「定番御歩並小原順之助御長前往来ニ而切害之節検使口答口書等控」。届書および検使書等一件留書。

4670　〔切捨人検使覚書〕　16.44—111

手写
仮綴1(6通)　16cm
元治元年(1864)成立。定御歩並小原順之助が斬られた事件。

4671　横山義六郎家来磯田半右衛門妻変死一件　16.44—112

仮綴1(14通)　16～24cm
中村平八郎・松川小兵衛宛変死届書等一件綴。
藩政後期。
旧書名「横山義六郎家来磯田半右衛門妻変死届等」。

4672　武藤甚助・角尾三右衛門口上書　16.44—113

手写
2通　24cm
中川典克旧蔵。武藤甚助が角尾三右衛門と羽織の裏地について争い，打果さんとして切り合い未遂事件の両人口書，正月21日付。藩政後期のもの。
旧書名「武藤甚助等口上之覚」。

4673　本多従五位殺害一件　16.44—114

手写
18丁　24.5cm
明治2年(1869)8月，本多政均が山辺沖太郎・井口義平に刺殺された一件及び同月，土谷茂助自殺に付，検死方一件を記す。

4674　〔磔申渡方覚〕　16.44—115

1通　16cm
中川典克旧蔵。石川郡泉野村領内中条屋小兵衛

悴への申渡。

4675 〔割場附小者吉郎右衛門妻変死一件〕 16.44—116
4通 16cm・24cm
①戌10月7日付，小者小頭よりの変死届書 ②同日付，本多求馬佐より金森吉左衛門宛，変死断書受取之覚 ③10月8日付，小頭より検使模様ニ付申上書 ④同日付，吉郎右衛門口上書。
落政末期。
旧書名「割場附小者之妻縊死ニ付達書」。

4676 〔河地三弥口上書写〕 16.44—117
手写
1通 25cm
中川典克旧蔵。人殺傷につき口上書。正月5日付，松本次郎右衛門・長谷川大吉宛。
旧書名「科人に付口上書」。

4677 〔鶴見長十郎切懸之件調書〕 16.44—118
前田大炊・前田中務著
手写
巻子1 23cm
鶴見長十郎による池田某の小者切懸り一件についての書上。

4678 〔安宅舟に乗合敦賀へ罷越一件篭舎申付状〕 16.44—119
手写
巻子1 31cm
中川典克旧蔵。今江村の者を舟で敦賀へ運んだ一件。
旧書名「安宅村船頭新四郎等覚」。

4679 〔博奕宿いたし候者禁牢に付伺〕 16.44—120
1通 15.5cm
博奕宿致す者の処置伺書。

4680 〔木綿屋彦兵衛一件〕 16.44—121
3丁 12.5×36.5cm
金沢観音町木綿屋彦兵衛が賭の借金を強喝した一件。

牢　帳　類

4681 流刑人一巻 16.44—122
前田家編輯方手写 明治年間
35丁 23cm
当麻彦太郎所蔵の写。寛永より宝暦年間，家臣の能登島流刑事例を収録。

4682 寛文三年牢舎人帳之内抜書 16.44—123
手写
1通 12cm
白山百姓と申分をした足軽が1人は牢死，1人は御国追放になったことを書抜いている。
旧書名「牢舎人帳之内抜書」。

4683 〔穿鑿人名附〕 16.44—124
手写
1通 25cm
中川典克旧蔵。評議すべき穿さく人等の書上げ。寛文期頃のもの。

4684 遠塞・蟄居・遠慮・流刑等之者 16.44—125
7丁 12×18cm
中川典克旧蔵。元禄より享保年間の事例を列挙。

4685 禁牢等申付留帳 16.44—126
高畠厚定編
寛政3年(1791)
4丁 12×16.5cm
高畠定睦旧蔵。厚定は当時盗賊改奉行。寛政3年正月～3月に盗賊，放火，乱行，博奕，出合宿などによって禁牢にした者の名を記している。

4686 当用申送帳 16.44—127
藤田求馬著
〔寛政4年(1792)〕
2冊 18×13.5cm
成瀬正居旧蔵。子閏2月29日付と子5月付の2冊。いずれも禁牢，出牢人名などを記した事務引継書。成瀬左近宛。藤田（安貞），成瀬（種徳・経徳）とも公事場奉行で，寛政3年12月より同4年8月迄同時に在職した。したがって閏2

月は寛政4年と推定される。

4687　当用申贈牒　16.44—128
前田内蔵太著
寛政4年(1792)
10丁　18×12cm
成瀬正居旧蔵。成瀬左近宛の禁牢人等の名前およびその糺方についての事務引継帳。内蔵太は孝敬。左近は経徳(種徳)。いずれも当時は公事場奉行であった。

4688　当用申贈帳　16.44—129
成瀬左近著
手写　寛政4年(1792)
13丁　18×13cm
成瀬正居旧蔵。子8月晦日付，品川主殿宛。禁牢者名等を記して役務を引きついでいる。成瀬左近種徳は寛政4年(子年)9月1日付で，公事場奉行から算用場奉行に転ずる。ただし，後任の公事場奉行は品川主殿ではない（当時寺社奉行)。

4689　牢帳　16.44—130
15丁　15.5×20cm
成瀬正居旧蔵。「亥八月改之」とあり。永牢，配所，年限，禁牢，預等の項に分け，各御刑法者ごとに処置の年月などを記した付箋を貼り付けてある。ただし一部剝落あり。処置された年代は文化年中。

4690　吟味者名書并年寄衆聞届名出之記　16.44—131
高畠厚定編
21丁　11×18cm
高畠定辟旧蔵。文化3年(1806)のもの。8月より12月の日付順に，吟味者の名前，罪状，判決，宥免等を記したもの。

4691　牢帳札・御用番聞届物　16.44—132
仮綴5　20cm
成瀬正敦旧蔵。正敦は文政9(1826)～13年，天保5～8年(1837)の間公事場奉行。
①牢帳相済候分札入(文政9年8月～天保元年)「此数七百七拾枚」
②牢帳札入（天保5年8月～12月）「在九十枚斗」
③牢帳札入（天保7年正月より）「五十八枚」
以上①～③は包袋入り
④（御用番へ聞届の罪人名前覚）1綴12通。近例の判決（刑の種類）等を書き加えてある
⑤（御用番へ聞届の罪人名前覚）1綴24通。

4692　公事場御刑法者言上書等留　16.44—133
成瀬主税編
5冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。公事場奉行より年寄衆へ宛てた裁許窺い書。
①文政9年8月～12月
②同　10年正月～閏6月
③同　10年7月～12月
④同　11年正月～6月
⑤同　11年7月～12月。

4693　吟味方留帳　16.44—134
成瀬正敦編
文政9年(1826)～天保7年(1836)
8冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。成瀬主税正敦は，文政9年8月17日公事場奉行となり，同13年9月御算用場奉行へ転じたが，天保5年8月7日帰役し，同8年正月29日御用部屋へ転出している。公事場において，正敦ほかの役人たちが吟味した者の名前，その嫌疑内容などを項目的に記載した日次記録。
①文政9年8月18日～同年12月26日
②同10年正月13日～12月
③同11年正月～12月
④同12年正月～12月
⑤同13年正月～9月18日（9月20日御算用場奉行被仰付)
⑥天保5年8月13日～12月
⑦同6年正月～12月
⑧同7年正月～6月。

4694　牢帳　16.44—135
13丁　15×22cm
成瀬正居旧蔵。内容は，永牢者，配所者，永預，十五ヶ月者，十ヶ月者，日数者，死刑者，禁牢者に項を分け，御刑法者ごとに名と処置の年月

を記した付箋を貼り付けてある。ただし一部剝脱あり。明和～天保の処刑者が記載されいている。

4695　牢帳　　16.44—136
成瀬某著
自筆
19丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。永牢者，十五ヶ月者，十ヶ月者など刑の種別に囚人名を記載。囚人の引請年月は天保7年迄なので，著者は公事場奉行成瀬主税正敦(文政9～13年，再役天保5～8年正月)であろう。

4696　咎人帳　　16.44—137
手写
57丁　24cm
富田権六郎旧蔵。嘉永元年(1848)より同4年(1851)迄の，魚津役所における咎人一覧。

4697　吟味者口書頭書留帳　　16.44—138
富田織人編
123丁　24cm
富田権六郎旧蔵。安政4年(1857)成立。公事場奉行御用番の吟味記録。富田織人は貞詳。安政3年12月～文久3年2月没の間公事場奉行。

4698　吟味者口書頭書下留帳　　16.44—139
富田織人編
48丁　24cm
富田権六郎旧蔵。安政5年(1858)のもの。

4699　公事場吟味覚　　16.44—140
1通　16cm
中川典克旧蔵。罪人たちの吟味，出牢などの詮議についての引つぎ覚。

4700　〔吟味未決者書上等〕　　16.44—141
3通　17cm
中川典克旧蔵。内容は，吟味未決者書上，聞届者言上之覚，罪人罪科披見留。
旧書名「吟味未決者書付」。

特16.45　諸　場　等

普　請　方

4701　〔御普請役御定等之帳〕　　16.45—1
手写
26丁　23cm
中川典克旧蔵。内題は享保13年(1728)「御家中御普請役相勤候御定等之帳」。内容は，万治3年以降の関係する定書を集めて書上げた書類。浅加作左衛門(敬郷，1000石)，江守助丞(攸同，1300石)，山森藤右衛門(直和，1500石)の署名がある。3人はともに当時の普請奉行。

4702　御普請役並格例部類寄之帳　　16.45—2
堀三郎左衛門善政編
手写
54丁　24cm
脇田氏旧蔵。堀三郎左衛門善政(善勝の誤か)の序文あり。三郎左衛門は先手物頭，200石であったが，文化9年7月14日，藩侯の思召しで御普請会所御用を仰付られ，同14年9月まで勤めた。
旧書名「御普請役御定並格例部類寄之帳」。

4703　御普請奉行諸事留　　16.45—3
片岡孫作手写
57丁　23cm
天保期の例も含む留書。

4704　御普請奉行勤方留　　16.45—4
手写　慶応元年(1865)
41丁　12×18cm
本保政徳旧蔵。普請奉行の職務として基本的な事柄を化政期前後の旧例に依りながら書き留めたもの。普請奉行は本保孫八郎(馬廻，450石)で慶応元年閏5月12日加人，同年8月本役となる。本書は6月の日付になっている。

4705　〔御普請会所宛願紙面等〕　　16.45—5
手写
仮綴1(28通)　18cm
金沢町内又は近傍村地に関する用水普請，崩地

修理，上ヶ地の地子地願，御用地拝領など一紙文書の綴り。

4706 〔藩用大石運送願〕 16.45—6
手写
2丁 24cm
井上如苞旧蔵。表題「願書写 御取上無之由」。「十露盤地車」が運送中に破損した事件につき再命願。小沢一仙の弟より御石垣方役人中宛。旧書名「御取上無之由願書写」。

作　事　方

4707 旧記・御作事方留帳 16.45—7
手写
14丁 13×18cm
高畠定睦旧蔵。貞享～享保期の留帳からの写。旧書名「旧記」。

4708 〔二条様御殿地御地形平均井土堀仮小屋垣等御入用帳〕 16.45—8
斎藤市丞・横山喜太夫著
8丁 22.5cm
原題「宝永四年十月より同五年五月迄之内二條様御殿地御地形平均井土堀仮小屋仮垣等仕并同所ニ而御木作始其外大坂より積登申御材木三条御屋敷御小屋之内へ積入廻り仮圍仕同御屋舗之内御貸小屋仮仕切等仕申御入用帳」。

4709 〔二条様御普請一件留〕 16.45—9
67丁 24.5cm
表紙・表題を欠くが，二条様御普請の一件書類で，宝永4，5年(1707～8)にわたる。大坂の大工大西平右衛門と藤田内蔵允・永井織郎，とくに藤田との往返書類が大部分を占めている。藤田内蔵允(安勝，当時，定番頭，1500石)の記録か。

4710 二条様御作事惣御入用一紙帳 16.45—10
大西平右衛門著
正徳2年(1712)
24丁 24cm
二条様の御所，奥向御殿，御学文所，御物見御文庫などの作事，入用の中勘見積り帳。原九左衛門，岡田助右衛門宛。

4711 公儀御作事御普請方御役人附覚書帳 16.45—11
享保6年(1721)
12丁 24.5cm
作事方の諸役人の名前と履歴を書上げたもの。その役名は御作事奉行，大工頭，下御奉行，御大工頭見習，御被官，同組頭，御被官勘定役，定御普請方同心，同小頭，大棟梁，御手大工，同小頭，御小普請御奉行，御小普請方役，御小普請改役，同目付役，御小普請方手代，同組頭，小普請常棟梁。

4712 外作事勤方帳 16.45—12
手写
13丁 12×17.5cm
高畠定睦旧蔵。外作事奉行の勤め方についての書上げで，天明8年(1788)正月4日付，6人の奉行の連名になっている。

4713 御親翰留 16.45—13
高畠厚定著
天明8年(1788)
3丁 11.5×17.5cm
高畠睦旧蔵。厚定が作事奉行の時のもの。

4714 御造営方日並記 16.45—14
高畠厚定著
自筆 文化6～7年(1809～10)
15冊 11.5×18cm
高畠定睦旧蔵。金沢城御造営の主附（文化5年4月13日より）であった厚定の詳細な役務日記。なお厚定は同年9月没，58才。
①文化6年正月元日～晦日
② 同年 2月朔日～26日
③ 同年 2月27日～3月5日
④ 同年 4月朔日～11日
⑤ 同年 5月朔日～18日
⑥ 同年 6月朔日～29日
⑦ 同年 7月朔日～16日
⑧ 同年 8月朔日～14日
⑨ 同年 9月朔日～18日
⑩ 同年 10月朔日～19日
⑪ 同年 11月朔日～5日

⑫文化6年12月朔日～29日
⑬文化7年正月4日～3月12日
⑭　同年　4月18日～5月27日
⑮　同年　6月朔日～23日。

4715　世子御座所普請方御用主附一件　16.45—15
大野定能著
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　23.5cm
外題「世子御座所一件」。天保15年（1844）11月～弘化2年(1845)8月に，世子慶寧が金沢入りする時のために，金谷御殿の増改築をした折の御用主附大野織人定能の役用覚書。慶寧は弘化2年9月6日金谷御殿入り。
旧書名「世子御座所一件」。

4716　御普請入用金　16.45—16
商法局編
2冊　23cm
①慶応3年(1867)　②明治2年(1869)のもの。
板囲，土蔵の普請入用の帳面。

4717　加越能三州御蔵橋等御入用調理帳　16.45—17
御作事所編
手写　明治元年(1868)
11丁　24cm
町，郡奉行および遠所奉行支配ごとに御蔵，橋，高札場，関所，牢屋，御貸家の経費を調べ，また所々の「冥加普請」（地元の自普請）の橋，蔵，高札場などを書上げている。

4718　加越能三州御蔵橋社寺修覆等御入用一ケ年分調理帳　16.45—18
営修局編
手写　明治2年(1869)
13丁　24cm
内題「加越能三州御蔵橋并社寺方等御修覆御入用壱ケ年分調理帳」。各郡宰支配の分，金沢市中社寺修覆銭，金沢市中用水水門普請方の見積り計算書。

4719　御領国中寺社御普請所并御収納蔵御貸家覚書　16.45—19
手写
20丁　24cm
内容は，「御貸家之覚」「三ケ国寺社方破損修理之覚」「能州外浦御蔵数」「能州内浦御蔵数」「越中砺波射水郡御蔵」「新川郡所々御蔵」「河北郡所々御蔵」「能美郡所々御蔵并石川郡共」「小松外構并今江村御収納蔵御塩蔵」。

4720　異人館土蔵・商社建上ケ其外留帳　16.45—20
4丁　24cm
異人館及び土蔵4ヵ所などの建築費書上げ。

会　　所

4721　万皮入払帳　16.45—21
手写
3丁　24.3cm
富山，大聖寺両藩の分立に伴い，能美・江沼両郡および婦負・新川両郡の寛永17，18年(1640，41)分の上納皮の枚数を家高に比例して割付けた覚。午(寛永19年)3月15日，3月20日付，署名は瀬川五郎兵衛・岩松弥兵衛。

4722　上納革日印帳　16.45—22
明治2年(1869)
8丁　24.5cm
牛馬なめし皮の種類別に上納すべき分，した分を記載している。

4723　〔御会所御用留〕　16.45—23
前田家編輯方手写　明治年間
116丁　23.5cm
寛政6年(1794)～文政2年(1819)の一丸（宮腰屋）甚六の御用留。巻頭に81項目の目録あり。主に藩用の呉服太物御用を勤めた留書。表題に「金沢町会所御用留」とあるのは誤り。「御会所」の御用留。会所は藩侯および内廷用の物品出納，幕府等への進献等を取扱う藩の役所。
旧書名「金沢町会所御用留」。

4724　会所御用留　16.45—24
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
文政2年(1819)～天保11年(1840)の一丸（宮腰屋）甚六の御用留。内容は，諸御用，産物銀上

納，その他諸願等を含む。
①文政2～9年(1819～26)　②文政9～天保5年(1826～34)　③天保5～11年(1834～40)。

4725　海津駅より運送之諸品請取覚　16.45—25
会所編
5丁　12×34.5cm
味噌，塩，梅干，高提灯，白米，漬物などの荷類，日付を記す。「子十二月より」とあり。

割　場

4726　割場留帳抜書　16.45—26
手写
67丁　24cm
内容は，貞享～安政期の旧例を書留めたもので，とくに項目分類はしていない。

4727　詮儀方早繰　16.45—27
棟取所編
190丁　24cm
棟取所旧蔵。嘉永3年(1850)～慶応4年(1868)の割場公文書についての日次の目録。

4728　割場旧記　16.45—28
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　24cm
安政頃までの割場小者などに関する来歴，役筋のことなどを叙述している。小倉太作由緒一類附帳も収む。

4729　江戸辻番一巻　16.45—29
手写
12丁　24cm
明治2年(1869)諸藩邸の辻番所に従前通り番人を差出すように指令があり，割場付足軽をして相勤めさせたときの記録。

4730　御手役者并御用聞町人一件　16.45—30
明治2年(1869)
169丁　24cm
割場旧蔵。明治2年(1869)4月～同4年(1871)8月までの書類綴。

細　工　所

4731　御用内留帳　16.45—31
有沢武貞著
自筆
57冊　12×18cm
有沢森右衛門武貞は享保9年(1724)8月11日～同19年3月8日御細工奉行を勤めた。その間の役方記録。ただし一部欠巻あり。
①御用覚書　享保9年8月11日～同10年3月
②御用内留　享保9年在江戸覚書
③自分留書　享保9年8月11日～10月19日
④御用内留帳　享保10年6月～8月
⑤　〃　〃　8月～10月
⑥　〃　〃　10月～12月
⑦　〃　〃　12月～同11年2月
⑧　〃　享保11年2月中
⑨　〃　〃　4月中
⑩　〃　〃　4月下旬
⑪　〃　〃　5月
⑫　〃　〃　5月～6月初
⑬　〃　〃　6月～7月21日
⑭　〃　〃　7月～8月6日
⑮　〃　〃　8月
⑯　〃　〃　11月～12月
⑰　〃　享保12年正月～閏正月中旬
⑱　〃　〃　閏正月～2月中旬
⑲　〃　〃　2月～3月中旬
⑳　〃　〃　3月19日～4月15日
㉑　〃　〃　4月15日～5月中旬
㉒　〃　〃　5月17日～6月17日
㉓　〃　〃　7月23日～9月17日
㉔　〃　〃　9月18日～11月26日
㉕　〃　〃　11月27日～12月晦日
㉖　〃　享保13年正月元日～2月3日
㉗　〃　〃　2月3日～2月29日
㉘　〃　〃　3月1日～3月晦日
㉙　〃　〃　4月24日～6月9日
㉚　〃　〃　7月13日～9月晦日
㉛　〃　〃　10月1日～12月晦日
㉜　〃　享保14年正月元日～4月17日
㉝　〃　〃　4月18日～6月3日
㉞　〃　〃　7月9日～8月19日

㉟　〃　〃　8月24日～9月7日
㊱　〃　〃　9月8日～10月8日
㊲　〃　〃　10月8日～12月8日
㊳　〃　〃　12月7日～12月29日
㊴　〃　享保15年正月1日～正月晦日
㊵　〃　〃　2月1日～3月26日
㊶　〃　〃　3月27日～4月27日
㊷　〃　〃　5月15日昼過～6月5日
㊸　〃　〃　8月9日～8月24日
㊹　〃　享保16年3月中旬～8月16日
㊺　〃　〃　8月22日～11月29日
㊻相願候趣亦達御内聴候品之内留　享保16年10～11月
㊼小頭欠人奉願ニ付小頭之儀前御代ヨリ被仰出之儀相しらへ申候一冊　享保16年
㊽御用内留帳　享保16年11月半～同17年2月4日
㊾　〃　享保16年11月17日～同18年
㊿　〃　享保17年2月4日～3月晦日
(51)　〃　〃　3月29日～6月3日
(52)　〃　春田具足屋等之願　享保17年
(53)　〃　享保17年6月2日～11月14日
(54)　〃　〃　11月～同18年2月20日
(55)　〃　享保18年2月22日～6月2日
(56)　〃　〃　6月2日～10月6日
(57)　〃　享保19年正月元日～3月8日。

4732　覚書　16.45—32
10-~~9~~丁　12×17cm
享保13年(1728)同14年の役務記録。著者は瀬川長左衛門久浮（320石，同13年2月27日より御細工奉行）か。

4733　御細工者小頭願并御用勤御内聴　16.45—33
有沢致貞(惣蔵)著
自筆
17丁　11.5×17cm
享保15～16年(1730～31)。

4734　内留　16.45—34
有沢致貞(惣蔵)著
自筆
4冊　11.5×16.5cm
御細工者の様子についての折々の内報を書留めたもの。当時の御細工奉行有沢惣蔵らから若年寄宛，また遠田勘右衛門宛，大槻内蔵允宛。なお，有沢惣蔵（200石）は享保19年3月8日より延享4年5月まで御細工奉行。
①享保19年3月～同21年4月
②享保21年5月～元文5年6月
③元文5年閏7月～同6年6月
④寛保2年11月～延享2年5月。

4735　留帳　16.45—35
有沢致貞(惣蔵)著
2冊　11×17cm
①「第一」とある冊，享保19年3月～12月
②「第三」とある冊，享保21年5月～7月。

4736　御細工所御用内留　16.45—36
有沢貞幹(才右衛門)著
自筆　宝暦4～5年(1754～55)
3冊　12×18cm
①宝暦4年4月28日～9月22日
②宝暦4年10月1日～12月28日
③宝暦5年正月1日～3月10日。
貞幹（300石）は当時御細工奉行。

4737　〔日記〕　16.45—37
120丁　18×12.5cm
前・後欠。有沢才右衛門（貞幹），岡田是助（正巳）が細工奉行当時の癸巳年正月～3月の御用日記。才右衛門は宝暦4年～安永3年5月，是助は明和8年10月28日～天明2年在役したので年代は安永2癸巳年(1773)。また筆跡から有沢貞幹自筆とみとめられる。

4738　〔日記〕　16.45—38
19丁　18×12.5cm
前欠の端本。公私日記。筆跡は有沢才右衛門貞幹と推定される。年代，役職不詳だが，同役中に岡田の名あり，細工奉行か。

江　戸　詰

4739　江戸御式台仲間勤方申送帳　16.45—39
手写
6冊　21cm
高畠定辟旧蔵。
①延宝3年11月～享保5年10月
②享保6～8年
③享保9～11年
④享保12～14年
⑤享保15～17年
⑥享保18～20年。

4740　江戸御留守居伺等留帳　16.45—40
手写
4冊　23cm
江戸御留守居，御用人，その他の関係文書の写からなる。
①○御在国中於江戸相勤申品々当季相伺被仰出候帳（菊池弥八郎，井上勘左門関係書類。両人は元禄5年3月～8年12月の間御用人として同役にあった）
○元禄三季江戸御留守御用相勤候格を以当季勤様奉伺候（菊池十六郎，伴源兵衛，西尾忠三郎関係書類，「壬申」（元禄5年）のもの。当時伴長安，西尾長道は御用人）
○宝永6年伺帳面二冊之写（御家老役本多図書関係）
○寺西市正等三人之内云々以付札被仰渡候帳（享保12年，江戸御留主居役関係）
○水野和泉守殿江御内用御頼之趣ニ付云々（享保12年，御用人関係）
②○享保12季3月江戸御留守中之儀ニ付奉伺候品々（江戸御留守居役，御用人関係）
○享保12年6月17日前田将監ヨリ被相渡候申送帳（御用人関係）
○御奉書一巻（享保12年，江戸御留守居，御用人関係）
○享保13年2月2日江戸ヨリ罷帰候已後御用覚帳（前田勘解由，2月～5月の記事。勘解由孝和は同年6月迄，江戸御留守居役）
○御道具之儀ニ付主殿言上之状等留（享保14年4月。主殿は品川雅武で当時江戸御留守居役）
③○御留守中御臨方御用留帳（享保16年。当時江戸御留守居役前田将監恒篤関係書類）
○江戸ヨリ一振迄御領分附
○御留守居方御用留（寛保元年，当役青木新兵衛直之関係書類）
○御留守居方留帳（寛延3年）
④○御発駕之節御作法附
○支配方御用留下帳（宝暦3年）。

4741　〔宝永年中廻状等之写〕　16.45—41
8冊　27cm
宝永5年(1708)12月～6年(1709)12月までの江戸邸における役務記録。
①宝永5年12月～同6年正月
②同6年2月
③同年3月，4月
④同年5月，6月
⑤同年7月，8月
⑥同年9月，10月
⑦同年11月，12月
⑧同年12月～同6年12月。

4742　御守殿一巻　16.45—42
手写
52丁　23cm
内題「御守殿毀材木傳通院江被遣候義戸田山城守殿江被仰達候義并御役人衆江聞番等より承合候紙面之写」。文中に出る清泰院は光高正室，光現院は吉徳の正室(享保5年9月20日没)。5月～10月の記事。なお丑年で閏7月があるので享保6年と推定される。

4743　御留守居方御用留　16.45—43
手写　文久3年(1863)
21丁　14.5×20cm
中川典克旧蔵。江戸藩邸における留守居の作法を記す。表題肩書「寛保元酉八月より」と「寛延三年午八月」のものを収め，文久3年に朱字を加えてある。

4744　御留守居詰御用留　16.45—44
手写
5冊　23.5cm

内題「御留守詰御用品々留帳」。
①宝暦7年(1757)7月28日～9月中
②同年10月1日～12月中
③宝暦8年正月1日～3月中
④同年4月1日～6月中
⑤同年7月1日～8月中。
内容から著者は当時の江戸御留主居役前田内蔵助孝倩と推定される。

4745　御中屋敷諸事記　16.45—45
前田家編輯方手写　明治年間
114丁　23cm
安永～文政期の江戸中屋敷の記録で，詰人や小者の管理事務に関する記録を集めたもの。「此書片岡孫作より写出す」と付札あり。

4746　江戸毎日書立書抜　16.45—46
前田家編輯方手写　明治年間
70丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。内容年代，文化元年(1804)～同13年(1816)。奥村左京正直（当時年寄役）関係書類とみられる。なお，編集方法が次号と同じなので奥村栄通が編者か。

4747　江戸毎日書立書抜　16.45—47
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
①文政4年6月24日～天保2年12月晦日
②天保3年正月5日～同14年9月26日
③嘉永6年正月12日～安政2年11月24日
④安政2年11月22日～同3年8月26日
⑤安政3年8月26日～同5年3月26日。

4748　江戸状留　16.45—48
祐筆方編
手写
29丁　11.5×16.5cm
内容は，文化2年(1805)9月～11月。

4749　江戸状留書抜　16.45—49
3冊　24.5cm
内容年代は文化5年(1808)～天保11年(1840)。「七冊之内」とあるが3冊のみ。内容項目は，第1冊①御咎指控，②不念等，③軽者咎，④出奔，⑤変死
第2冊①禁裏，②公義，③御家，④御法事等，⑤堂上方．⑥富山・大聖寺・七日市，⑦御公様方，⑧年寄中，⑨御家老中等，⑩普請鳴物遠慮
第3冊　雑。

4750　役向日記　16.45—50
中川典惇著
自筆　文久3年(1863)～元治元年(1864)
3冊　12×18cm
中川典克旧蔵。中川典惇は文久3年正月6日「江戸御留守居并御用人」役設置の際に就任，元治元年12月8日御免。
①諸事覚　文久3年2月より
②役向日記　文久4年
③役向覚書　元治元年3月29日より。

4751　江戸毎日帳早繰　16.45—51
前田家編輯方手写　明治年間
66丁　23cm
奥村栄滋所蔵の写。内題「於江戸毎日帳等書抜早繰留内書抜」。内容は，「上使」「御慶事」以下「雑」まで42項に分け，各項に年月日を附していくつかの事例を索引的に記している。事例は元禄期も含むが，主に中期以降。

京　都　詰

4752　京都御用相勤申節之日記　16.45—52
高畠厚定著
自筆
2冊　20.5cm
高畠定辟旧蔵。京都における公務の日次覚書。
①安永5年(1776)7月21日～同月29日
②8月朔日～同月29日。

4753　京都詰中内状等留　16.45—53
松平康正(大弐)著
前田家編輯方手写　明治年間
49丁　23.5cm
内容は，文久4年(1864)2月～5月。康正は当時筑前守様(慶寧)御用主附。

4754 松平大弐留帳等　16.45—54
前田家編輯方手写　明治年間
81丁　23cm
内容は，「京都詰中諸事留帳」（文久4年）「斉泰・慶寧両公建白」「京都大変異聞録」。

4755 藤懸某等書翰写　16.45—55
手写
巻子1　16cm
御用番よりの用務など。京都における諸報告で，文中には松平大弐の名もみえて，幕末期のもの。

4756 京都御用状等内写　16.45—56
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。奥村栄通の手留。内容は，元治元年6月～10月。
①上巻　「京都詰中御用状等之内并聞番言上紙面等之内写」
②下巻　同上，「京都詰中於御国表御用番等より触渡状之内写」
栄通はこの年前田慶寧上洛に供奉し，禁門の変に際して仙洞御所を警衛した。

4757 〔諸事御用留帳〕　16.45—57
手写
72丁　25cm
安井頭比旧蔵。表題「今度御上京之節大砲被遣候ニ付御供被仰付候右一件留記。京都御守衛一件ニ付六月七日発足当日より日記。長州発向一件并美濃路共元治二年二月廿日金沢江引揚迄但水府浪士一件。廿三日御道具返上書控葉原跡調理方一件」。内容は，元治元～2年(1864～65)。

4758 京都詰中手留　16.45—58
前田孝錫(内蔵太)著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
①慶応元年(1865)6月～10月17日の手記
②　〃　10月22日～同2年正月
③　〃　3年7月～同4年2月。
旧書名「京都詰中日記」。

4759 〔草間列五郎，隠密御用之者探索之計策に付書付〕　16.45—59
5丁　24cm
原題「草間列五郎儀隠密御用相勤居候者を探索可致計策之意内合相聞候　廉申上候書付」。京都における千種家々来賀川一馬に所司代家来三浦七兵衛密談の件，箔に馬糞取交の事等箔屋長兵衛に相糺書付。未7月25日付。
旧書名「草間列五郎儀隠密御用相勤居候者ヲ探索云々書付」

4760 〔草間列五郎，九条殿家来探索之趣書付〕　16.45—60
21丁　24cm
原題「草間列五郎儀九条殿御家来を探索いたし候手続手先之者相糺候趣申上候　書付」。九条殿諸太夫信濃小路民部少輔，御近習嶋田左近等の気質・身上・所業等探索の書付。
旧書名「草間列五郎儀九条殿御家来ヲ探索致候云々書付」。

4761 草間列五郎ニ引合有之候池田大学妻相糺候趣等申上候書付　16.45—61
11丁　24cm
京都の儒医池田大学妻田鶴に相糺書。梁川星巌・梅田源次郎等儒者探索に付。

4762 砂川健次郎・平塚飄斎儀土屋采女正殿家来大久保要ニ男杢之助ニ引合之廉申上候書付　16.45—62
8丁　24cm
砂川健次郎と粟田御殿の内に懇意の者の有無等に付京都探索方書付。

式台・道中長柄

4763 御式台等諸事留帳抜書　16.45—63
33丁　20.5cm
高畠定辟旧蔵。内容は御式台取次に関する延宝3年(1675)～享保6年(1721)の規則の写。

4764 御式台申送帳等　16.45—64
高畠成行堂編
手写
5冊　21.5cm

高畠定辟旧蔵。
①御式台申送帳　元文元年正月より
②　〃　元文2年正月より
③　〃　寛保3年正月より
④御供方御式台言送書抜　元禄11年～寛政13年
⑤御式台手帳　延享3寅年改。

4765 〔江戸急御用道中人馬指支一件〕　16.45—65
横浜善左衛門著
39丁　23cm
横浜宣徳旧蔵。表題「寛政八年十月指急候御用ニ付江戸表江発足之砌道中中仙道追分宿等人馬指支候ニ付御届ニおよひ候所道中御奉行根岸肥前守殿江御呼出一件留」。善左衛門玄英は当時定番頭並，御近習御用。
旧書名「指急候御用ニ付江戸表へ発足ノ砌云々」。

4766 御長柄奉行勤方覚　16.45—66
手写
62丁　23cm
表題・旧書名は「使番方留記」であるが内容はちがう。文化3年(1806)改田政成手写本の写。政成は当時御使番であった。内容は，御道中御長柄奉行勤方で，御発駕可申渡品々等，享保元年御参勤，同3年御参勤，同9年御帰国，同9年御参勤御長柄奉行勤方を収録している。

4767 道中奉行心得書　16.45—67
岡田助右衛門著
手写
20丁　21cm
別名「瓢顕雑録」。岡田助右衛門が道中奉行の所望に任せて上洛道中の心得を記した5通の文章の写。時期は幕末。

奥納戸・台所方・御膳方

4768 奥御納戸方手帳　16.45—68
横山引馬手写　寛政6年(1794)
28丁　12×17.5cm
内題「於金沢御発駕前奥御納戸兼帯被仰渡候者心附可申品々」。横山勇太郎旧蔵。安永7年の写本の写。役務内容の詳細を記す。

4769 御台所方留　16.45—69
手写
60丁　23cm
前田貞醇旧蔵。安永2年御家老方席留帳からの写本の写。内容は，元禄10年(1697)～同13年。

4770 〔台所奉行へ御親翰写并請書控〕　16.45—70
2通　16cm　包紙　袋入
2通とも3月13日付。台所入用綿密詮議のことにつき，横目の報告によって藩主より台所奉行安見瀬兵衛に問合せがあり，同日それに答えたもの。嘉永6年に岡田隼人，同喜内が整理の際に作成した袋によって安永2年と知られるので，安見瀬兵衛は勝貞，200石，明和9年正月28日より安永9年6月まで台所奉行であった。
旧書名「御親翰写并御請控」。

4771 御膳方年中行事旧記　16.45—71
巻子1　24cm　包紙
正月元日より12月晦日まで，御膳方が行なう仕事の項目を日付順に全て書上げている。

4772 御膳方年中行事旧記一巻　16.45—72
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25.5cm
前号と同内容。「御蔵書之内」と付箋あり，また「明治二三年ノ頃」と推定している。

厩方・鷹方・餌指方

4773 御厩方旧記　16.45—73
近藤篤之手写
8冊　23cm
御厩方役所の記録を集成したもので，当然，厩方職掌に関するものが多い。旧例の年代は，とくに安永・天明期に属するものが多い。ただし第8冊は文政以降のものが多い。

4774 相州御鷹場聞書　16.45—74
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　24cm
前田光高が相州に拝領した鷹場について。「相州御鷹場御拝領以後段々相極申帳」とあり，内容は，寛永8年～同18年(1631～41)。

4775 武州相州御鷹場之由来并村名附　16.45—75
手写
5丁　24cm
前田式部矩正所蔵の写。光高の代に武州，相州に鷹場拝領由来と鷹場所の村名を記す。

4776 御馬方・御鷹方附御飼鳥方　16.45—76
今枝主水著
自筆　享保11年(1726)
9丁　24cm
中川典克旧蔵。主水恒明は当時若年寄役。6月1日～29日の役務日記。
旧書名「御馬方並御鷹方御用」。

4777 御鷹方諸事控帳　16.45—77
中川式部著
自筆
4冊　24cm
中川典克旧蔵。中川式部長定は当時若年寄役。第4冊の表題を標目とした。
①享保8年10月～11月
②享保9年正月～8月
③　〃　9月～12月
④享保10年正月～4月。
旧書名「御鷹方御用控帳」。

4778 御鷹野之節御行列帳　16.45—78
手写
9丁　8×17cm
藤田与七郎旧蔵。明和8年(1771)の際の供ぞろえを書上げている。

4779 能美郡・越中筋御鷹野日記并御道書　16.45—79
手写
16丁　12×18cm
内容は，安永5年(1776)。

4780 御鷹野御行列帳　16.45—80
手写
7丁　8×18cm
横山勇太郎旧蔵。内容は，天明2年(1782)。

4781 〔日記〕　16.45—81
手写
142丁　18×12.5cm
前欠。内容は，御鷹方の巳7月～12月の日記。巳年は文中から安永4年以降の巳年であるので天明5年か（寛政9巳年は閏7月の有無の点で合致しない）。

4782 御鷹野御行列帳　16.45—82
手写
6丁　8×18cm
横山勇太郎旧蔵。内容は，寛政5年(1793)。

4783 御鷹野御行列　16.45—83
手写
5丁　36×12cm
富田権六郎旧蔵。内容は，文政7年(1824)。

4784 〔御鷹帳并御馬毛附帳〕　16.45—84
手写
9丁　12×18cm
前田道益旧蔵。内容は，文政7年(1824)，拝領鷹書上げ，および馬の産地，毛色，年の書上げ。

4785 御鷹野御供一件　16.45—85
前田式部手写　天保11年(1840)
16丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容は，文政9年(1826)。

4786 殺生方一件　16.45—86
富田某編
天保5年(1834)
10丁　11.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。内容は，天保5年(1834)9月の，石川・河北両郡御鷹場，留場への殺生人入込み禁止条項と，家中風俗の儀につき殺生の申達などを収録。

4787 口達之覚　16.45—87
富田某著
天保9年(1838)
8丁　24cm
富田権六郎旧蔵。月番作州（前田美作守孝本）よりの下問に対し，御鷹留場の場所について旧例を示しながら報告している。

4788　今度御改之御鷹場一件留〔等〕　16.45—88
手写
36丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容は，天保12年～嘉永元年(1841～48)の鷹場を書上げている。

4789　石川河北両郡御鷹場色分図　16.45—89
前田式部著
自筆　天保13年(1842)
絵図3枚　彩色　24×26cm
前田栄次郎旧蔵。手取川から犀川，犀川から浅野川下流，河北潟の地域における御留場，札場，御免場に色分けしている。

4790　御鷹野中納言様御同道御出之節御行列附　16.45—90
手写
6丁　34×12cm
広瀬知良旧蔵。内容は，文久2年(1862)。

4791　〔御鷹方御用留帳抜書〕　16.45—91
手写
13丁　24.5cm
越中国鷹場における文久4年(1864)の藩主の鷹狩。

4792　小松辺迄御鷹野御行列帳　16.45—92
手写
8丁　12×36cm
前田栄次郎旧蔵。

4793　御鷹方御縮之儀に付年寄中附札之紙面写上申帳　16.45—93
手写
6丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。

4794　御餌指方旧記　16.45—94
五十嵐某著
手写
4丁　24.5cm
安永3年(1774)11月及び同9年5月付，餌指方の郡方出張に関する箇条書の写。

4795　御餌指一件留　16.45—95
手写
5丁　24cm
天保7年(1836)成立。餌指方役人が郡方へ出張の節の規則を諸郡へ令した3通の写。

特16.46　横　目　方

4796　〔届書類〕　16.46—1
仮綴13(209通)　27cm
第1，第2綴は寛永期のもので，中川八郎右衛門(宮内)宛の請取証文などが多い。八郎右衛門は重勝(5000石，明暦2年没)。第3綴は寛永8年御使衆余荷割符覚，第4綴以下は中川八郎右衛門（長種）等に宛てたものが多く，大横目役関係書類で，万治以降延宝期に至る横目役人の復命書，出張，欠勤届など。

4797　書付之跡書　16.46—2
中川長種(八郎右衛門)著
自筆
51丁　24.5cm
中川典克旧蔵。大横目役の記録。内容は，万治3年（1660），寛文2年（1662）の年記がある。また前半は中川と津田源右衛門(重長)の連署，後半は中川，津田と玉井市正(貞清)の連署である。中川，津田は共に万治元年に就任し延宝8年11月28日に隠居した。玉井は寛文2年に就任したことがわかつている。

4798　御横目書付留帳　16.46—3
手写
39丁　24.5cm
中川典克旧蔵。大横目中川八郎右衛門(長種)に宛てた万治3年(1660)6月～8月中の横目役の報告書類の記録。

4799　〔小西吉左衛門届書〕　16.46—4
自筆　万治4年(1661)
3通　25cm
いずれも5月13日付。いとこの留守中，その妻子を裁許するよう依頼を受けた旨を組頭へ届けた2通と，組頭より大横目宛の添書。
旧書名「火事ニ付小西吉左衛門書等」。

4800　江戸へ罷越御小性火事之砌頼置候人付之帳　16 46—5
万治4年(1661)
10丁　24cm
中川典克旧蔵。在江戸中，留守を依頼した組内の者の名を記し，組頭より大横目へ届出た帳面。

4801　諸事跡書　16.46—6
中川長種著
自筆
2冊　24cm
中川典克旧蔵。大横目の役方記録。
①寛文4年～6年　②寛文6年～7年。

4802　横目方旧記　16.46—7
手写
110丁　23cm
寛文～宝暦期の旧例を収録。内容は，大別して御印物等，大横目諸場勤向等，喧嘩　御預者閉門等，検使　御歩横目見届，類族并切支丹，御歩横目等指引，ウワ野金谷御歩横目指引，言上，野廻，誓詞，乗用行歩等之事，御供一巻之事，服付之事，火事装束之事，御城中御定之事，御礼列，出仕申談等，当用之事，訴状人之事，雑之類，江戸御供人数并長柄之傘。以上の各項についての細目は巻頭の目次にあり。

4803　〔前田七郎兵衛書状〕　16.46—8
前田七郎兵衛直玄著
1通　15cm
2月21日付，中川八郎左衛門宛。横目晒紙見届の件。前田直玄は寛文7年より，中川八郎右衛門長種は万治元年より大目付で，直玄は寛文9年8月没，長種は延宝8年11月28日隠居しているので，寛文7年～9年のものか。

4804　〔布山新八口上書〕　16.46—9
布山新八著
自筆
1通　28cm
中川典克旧蔵。亥8月27日付，前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。宛名の2人は大横目。その在役期間は万治・寛文・延宝（1658～1680）である。

4805　行山新右衛門書状　16.46—10
行山新右衛門著
自筆
1通　33×46cm
前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。京都からの報告。

4806　〔江戸当番御小姓に付口上書〕　16.46—11
平井次郎兵衛著
1通　25cm
正月14日付，前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。江戸の小姓不足の件につき。
旧書名「当番御小姓について口上書」。

4807　〔堀与左衛門届書〕　16.46—12
1通　29cm　包紙
江戸へ出張中，知人へ私宅見廻りを頼んだ旨の組頭宛届書と組頭より大横目3人宛の添状を継合せたもの。日付は丑8月6日。大横目の在任期間から推して丑年は延宝元年。
旧書名「火事ニ付堀与佐衛門書等」。

4808　〔中川八郎右衛門書状等〕　16.46—13
中川八郎右衛門等著
自筆
仮綴1（8通）　18cm
中川八郎右衛門・津田源右衛門・玉井市正連署状5通その他より成る。3人連署のことから，大横目役であった中川長種，津田重辰，玉井貞清であることがわかり，3人同時に在役の時期は寛文2年～延宝8年11月であった（ただし寛文3年5月24日より多賀左近直定が加わる）。

4809　公儀御用留書　16.46—14
130丁　23.5cm
寛文8年(1668)から延宝2年(1674)にいたる大横目役の記録。主に中川八郎右衛門，津田源右衛門，多賀左近直定の公務関係の書状の留帳。

4810　〔中川八郎右衛門留書〕　16.46—15
中川八郎右衛門著
手写

91丁　24cm
中川典克旧蔵。延宝2年(1674)～同7年(1679)大横目役中川長種の留書。
旧書名「留書」。

4811　大坂廻米等留書　16.46—16
手写
10丁　23cm
中川典克旧蔵。大坂及び京都廻米に関する御条数書。卯年9月付，大横目宛。大横目の3人の就任年代から，この定書は寛文3年または延宝3年である。

4812　書付留帳・江戸　16.46—17
中川八郎右衛門著
自筆　延宝7～8年(1679～80)
14丁　25cm
中川典克旧蔵。当時大横目役であった中川八郎右衛門長種の江戸屋敷方についての報告書集。

4813　〔横目勤方〕　16.46—18
仮綴1（11通）　24cm
中川典克旧蔵。署名人は，中川八郎右衛門，多賀右近，津田源右衛門等。
①3月21日付，式日，御用日等の定　②3月28日付，勤方につき伺書　③27日付，事務につき問合せ状　④丑3月15日付，横目役勤方の定書　⑤3月29日付，御小将横目ほか役所附横目勤方定書　⑥5月27日付，越中廻り横目勤方定書　⑦巳8月3日領国廻り横目勤方定書　⑧能州廻り横目勤方定書　⑨横目勤方定書下書　⑩同左　⑪横目勤方定書下書。
旧書名「達書之覚」。

4814　〔前田対馬申遣状〕　16.~~45~~46—19
1通　18cm
中川典克旧蔵。8月8日付，中川八郎右衛門宛。長柄御小人指持方につき。
旧書名「長柄御小人ニ関シ前田対馬之書」。

4815　〔御巣鷹仕立に付達書〕　16.46—20
1通　16.5cm
6月1日付，前田対馬，奥村因幡より中川八郎右衛門宛。鷹使い禁止の場所について。

4816　〔御巣鷹仕立に付御触〕　16.46—21
手写
1通　24cm
6月2日付，中川八郎右衛門より鷹づかい禁止場所につき触。前号の達書を受けたもの。

4817　〔御巣鷹三ケ所停止之書〕　16.46—22
手写
1通　23cm
6月1日付，中川八郎右衛門，津田源右衛門より中島河原，倉辺野，徳光野で禁止する旨，本多安房等46人の組頭に宛てたもの。

4818　〔山蔵縫殿助書状〕　16.46—23
山蔵縫殿助著
1通　33cm
中川典克旧蔵。5月17日付，中川八郎右衛門宛。巣鷹の件。

4819　〔横山新左衛門書状〕　16.46—24
横山新左衛門著
1通　16.5cm
5月17日付，中川八郎右衛門宛。鷹のことなどにつき。

4820　〔加須屋伝兵衛等書状〕　16.46—25
加須屋伝兵衛・和田小右衛門著
自筆
1通　16cm
加須屋伝兵衛，和田小右衛門より中川八郎右衛門，多賀左近，津田源右衛門宛。7月7日付。藩主の鷹狩り先より，日程についての通知。

4821　〔長屋十太夫書状〕　16.46—26
長屋十太夫著
自筆
1通　16cm
中川典克旧蔵。中川八郎右衛門宛。御鷹取進上報告書。

4822　〔大横目書状等写〕　16.46—27
手写
1通　15cm
中川典克旧蔵。11月8日付，御鷹野獅子狩，御

留守御屋敷替等の儀に付。中川・多賀より津田源右衛門宛。

4823 〔山田伝丞・倉知久兵衛書状〕 16.46—28
山田伝丞・倉知久兵衛著
自筆
4通 14.5cm
中川八郎右衛門，津田源右衛門宛。収納米，米値段，大坂城代番衆列名など。

4824 〔御蔵米払方に付報告書〕 16.46—29
吉田惣兵衛・渡辺源七著
自筆
1通 16cm
大横目津田源右衛門，中川八郎右衛門宛。10月29日付。おそらく大坂の状況を報告したもの。
旧書名「吉田惣兵衛書翰」。

4825 〔近藤小左衛門等書状〕 16.46—30
自筆
3通 16cm
○7月4日付，近藤小左衛門より中川八郎右衛門宛，町人金屋庄右衛門船買請の義に付書状
○10月6日付，閏□月18日付，近藤小左衛門・牧久兵衛より中川八郎右衛門・玉井市正・津田源右衛門宛，御払米相場等に付書状（2通）。
旧書名「近藤小左衛門書翰」。

4826 〔横山大和守等書状〕 16.46—31
自筆
1通 17cm
4月15日付，横山大和守・西尾隼人より中川八郎右衛門宛。御家督并御転任の義に付返書。
旧書名「横山大和守口上書」

4827 〔吉田惣兵衛等書状〕 16.46—32
吉田惣兵衛・渡辺源七著
自筆
1通 16cm
2月29日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。西国筋，大坂町中などにつき横目の近況報告。

4828 〔御城之内七拾間長屋御馬道具紛失一件〕 16.46—33
1通 24.5cm
中川典克旧蔵。12月13日付，中川八郎右衛門の長屋内盗難状況の書上などに付書状の写。

4829 〔武藤平左衛門等書状〕 16.46—34
武藤平左衛門・堀田伊右衛門著
自筆
3通 15cm
いずれも中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。3月14日付，3月28日付，4月朔日付，払米値段等に付。
旧書名「堀田伊右衛門・武藤平左衛門書翰」。

4830 〔松原安兵衛書状〕 16.46—35
松原安兵衛著
自筆
3通 29.5cm
4月25日付，5月3日付，7月30日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。7月の1通は近藤小左衛門と連署。廻米・払米等に付。

4831 〔山本弥二右衛門書状〕 16.46—36
山本弥二右衛門著
自筆
3通 25.5cm
正月4日付（2通），4月16日，中川八郎右衛門・玉井市正・津田源右衛門宛。八条姫君様御作事所見廻等に付。

4832 〔山本弥二右衛門書状〕 16.46—37
山本弥二右衛門著
自筆
1通 13.5cm
正月16日付，玉井市正・津田源右衛門・中川八郎右衛門宛。来状受取等の返状。

4833 〔伊藤甚右衛門書状〕 16.46—38
伊藤甚右衛門著
自筆
1通 15cm
3月26日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。御番帳調替の件。

4834 〔堀彌右衛門書状〕 16.46—39
1通 15cm
3月20日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。八条姫屋敷の焼け錫・銅・鉄を御払いの件。

4835 〔松木盗伐見届書〕 16.46—40
牧久兵衛・高橋義兵衛・品川孫七著
自筆
1通 25cm
中川典克旧蔵。子12月19日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門宛。松木盗伐人の義山御奉行より届に付，横目見届書。

4836 火事之刻非番出向之達 16.46—41
中川長種等著
自筆
2通 16cm
10月22日付，堀田伊右衛門等宛。同日付，嶋田十太夫等宛。大横目3人(中川長種，玉井貞清，津田重辰）連署で配下へ廻達したもの。大横目3人がともに在任した期間は寛文2年～延宝8年。
旧書名「火事の刻非番之達」。

4837 〔火事御番之割〕 16.46—42
手写
3通 25cm
中川典克旧蔵。火消番半月交代割。御小姓横目8人の城中火事番割。火事その他の番割定。
旧書名「火事御番之覚」。

4838 〔中川八郎右衛門等書状〕 16.46—43
1通 16.5cm
7月9日付，中川八郎右衛門，津田源右衛門より不破彦三，富田治郎右衛門宛。当年拝借方につき。
旧書名「中川八郎右衛門・津田源右衛門連署状」。

4839 〔馬大豆渡し手形〕 16.46—44
1通 17cm
正月16日付，中川八郎右衛門・津田源右衛門・玉井市正(大目付)より倉知久兵衛宛。
旧書名「馬大豆相渡ニ付申達」。

4840 〔中川八郎右衛門申渡状〕 16.46—45
中川長種著
自筆
11通 19cm
中川典克旧蔵。鉄砲打，家中奉公人，衣類法度，小姓中定書，御巣鷹，年切奉公人給銀などに関する大横目の申渡。
旧書名「中川八郎右衛門長種書翰」。

4841 〔富士祭例見物停止之廻状〕 16.46—46
中川八郎右衛門著
1通 18cm
中川典克旧蔵。5月27日付，中川八郎右衛門より堀孫之助等7人宛。いずれも「奉」と返事を記している。
旧書名「富士祭例見物停止之達」。

4842 〔中川八郎右衛門申渡状〕 16.46—47
中川長種(八郎右衛門)著
11通 17cm
中川典克旧蔵。奉公人出替の定書，御鷹の事，かぶきたる躰停止，富士祭ニ罷越事停止，御広式御用才許の事，煩ニ付御横目役赦免状など大横目役関係。
旧書名「中川八郎右衛門書翰」。

4843 〔公事場吟味書上〕 16.46—48
中川八郎右衛門著
1通 25cm
中川典克旧蔵。国元の八郎右衛門より公事場で吟味のあった件を項目的に書上げた報告の控。
旧書名「公事場言上書」。

4844 〔中川八郎右衛門書状〕 16.46—49
1通 15cm
閏5月17日付，津田源右衛門・多賀左近宛。明日出仕の案内状。閏月と人名により寛文4年で，3人（中川長種，津田重辰，多賀直定）とも大横目役。

4845 〔喧嘩にて死人吟味に付呼出状〕 16.46—50
中川八郎右衛門著

1通　17cm
3月14日付，神保八左衛門等3人宛。当番につき出勤するよう呼出し状。
旧書名「死人吟味方達書」。

4846 〔前田又勝・村井藤十郎乗物行に付伺〕　16.46—51
中川八郎右衛門著
自筆
1通　16cm
玉井市正・津田源右衛門宛。登城の節の乗物に付。

4847 〔中川八郎右衛門口上書〕　16.46—52
自筆
巻子1　24cm
中川典克旧蔵。浪人進藤丈信所持の書き物を返却しない件につき報告したもの。

4848 〔御膳所御徒横目に付口上書〕　16.46—53
手写
2通　26cm
中川典克旧蔵。中川八郎右衛門関係の届書下書。

4849 〔永原土佐守書状〕　16.46—54
永原土佐守著
自筆
1通　29cm
中川典克旧蔵。6月9日付，中川八郎右衛門宛。江戸へ証人送りの余荷金子に付御礼，持病見舞等。
旧書名「永原孝治書翰」。

4850 〔不破五郎兵衛等口上書〕　16.46—55
不破五郎兵衛・東方安右衛門著
1通　16.5cm
2月8日付，中川八郎右衛門宛。米の値段に付。

4851 〔堀弥右衛門書状〕　16.46—56
堀弥右衛門著
自筆
4通　15cm
中川典克旧蔵。中川八郎右衛門宛。大坂・大津新屋敷作事状況の報告等に付。

4852 〔宮崎弥左衛門書状〕　16.46—57
宮崎弥左衛門著
自筆
1通　18cm
中川八郎右衛門宛。米相場に付。

4853 〔大坂御屋敷勤方存寄言上書〕　16.46—58
有山七郎左衛門著
自筆
1通　28cm
中川典克旧蔵。亥3月29日付，中川八郎右衛門宛。大坂御払米銀・相場等についての報告書。
旧書名「大阪払米について口上書」。

4854 〔前田七郎兵衛書状〕　16.46—59
前田直玄(七郎兵衛)著
3通　15cm・30.5cm
中川典克旧蔵。2月21日付，3月4日付，3月9日付，中川八郎右衛門宛。敦賀派遣等の横目役の人事に付。
旧書名「前田七郎兵衛直玄書翰」・「藤田七郎兵衛書翰」。

4855 〔中川八郎右衛門宛書状〕　16.46—60
1通　30cm
中川典克旧蔵。8月14日付。

4856 〔牧久兵衛等書状〕　16.46—61
牧久兵衛・近藤小左衛門著
自筆
1通　16cm
3月25日付，玉井市正等(後欠)宛。御払米，米相場などにつき。

4857 〔御横目方伺等之書抜〕　16.46—62
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　24cm
表題「元禄九年八月より年寄中席江御横目相詰候節御横目方伺等之書抜」。

4858 御横目方留帳　16.46—63
前田家編輯方手写　明治年間

45丁　25cm
小木貞正所蔵の写。内容年代，明和8年(1771)～天明5年(1785)。番割，城中廻，野廻，御供御用，処刑人，検使，喧嘩，火事，御膳所，御寺詰等々の役目について記す。

4859　奥御横目方覚　16.46—64
横山隆誨(引馬)手写　寛政9年(1797)
14丁　8×18cm
横山勇太郎旧蔵。山口氏所蔵の写。内容は，寛政3年12月，同7年12月等の日記留。

4860　奥御横目方覚　16.46—65
横山引馬(隆誨)著
自筆　寛政9～10年(1797～98)
38丁　12×18.5cm
横山勇太郎旧蔵。著者は500石，寛政9年7月2日より同12年2月7日に御使者となるまで表小将横目，奥小将横目兼帯を勤む。

4861　〔御触等諸事自分留〕　16.46—66
不破有親著
文政9年(1826)
17丁　24.5cm
不破順命旧蔵。表題・旧書名「在江戸中御奥小将横目在勤之内御触等諸事自分留」。3月8日～8月迄。

4862　御横目公事場へ出役并言上古等手留　16.46—67
大屋近義著
手写　天保3年(1832)
17丁　21cm
高畠定辟旧蔵。公事場付横目役の役務に関する規則を記す。

4863　御在国中御横目方雑記　16.46—68
高畠安定手写　天保7年(1836)
83丁　11×18cm
高畠定辟旧蔵。横目役の職務について89項目を載せている。事例は宝暦～寛政期。

4864　御役儀中執筆廻状留　16.46—69
手写
349丁　24cm
横山隆起旧蔵。内容は，嘉永6年(1853)～安政4年(1857)の横目役関係書類の留帳。

4865　御用部屋見聞留　16.46—70
大野木某著
手写　安政2～3年(1855～56)
1冊　44cm　12.5×18.5cm
大野木克征旧蔵。日次の覚留。安政2年10月～3年12月10日に及ぶ。著者は大野木外三郎克正(嘉永7年より慶寧御附の大小将横目を勤む)か。

4866　〔西坂猪之助書紙〕　16.46—71
西坂猪之助著
自筆
1通　25cm
中川典克旧蔵。6月21日付，窪田九郎兵衛宛。西坂と本多安房守家来と申分の噂につき覚えなき旨書紙。
旧書名「西坂猪之助書翰」。

4867　〔中村七丞等書状〕　16.46—72
中村七丞・牧久兵衛著
自筆
1通　15cm
中川典克旧蔵。8月15日付，村田平兵衛宛。作事所での盗賊に牢舎申付のこと。
旧書名「中村七丞書翰」。

特16.47　火　消　方

4868　火事方武州本郷屋敷御祭場図　16.47—1
手写
絵図1枚　97×64cm
端裏に「火消町廻之儀ニ付延宝五年同十二月板倉市正殿江被遣候絵図之写」とあり。北は江戸本郷屋敷から南は上屋敷，筋違橋まで，西は本郷の通り，東は上野黒門を範囲とする絵図。

4869　火事御定　16.47—2
早川随勝手写　嘉永5年(1852)
28丁　12×18cm
早川随勝旧蔵。内容は，天和元年(1681)以降天

保期までの火事に関する定書を火消方留帳その他から書抜きしたもの。ただし，全文を写していない場合もある。

4870　火消方被仰出留　16.47—3
奥村兵部編
横山蔵人手写　文化15年(1818)
60丁　23cm
横山政和旧蔵。内題は「方々御屋敷之内若出火之刻公義火消衆ニ御断可申入儀其外上野并御請取場へ罷出火消之儀被仰出留」。公儀より諸大名火消，定番火消への天和元年(1681)以降の達書の留。

4871　〔御城番衆近火之定書〕　16.47—4
手写
1通　30cm
中川典克旧蔵。前田佐渡より二の丸人持番衆・足軽頭番衆宛，辛未3月29日付。元禄4辛未年・佐渡は孝貞か。
旧書名「御城当番近火之定書」。

4872　御中屋敷近辺若火事之刻御定　16.47—5
奥村伊予編
手写
82丁　23cm
横山政和旧蔵。表紙に元禄17年(宝永元年1704)2月18日御改とあり。

4873　〔火事方覚書等〕　16.47—6
手写
35丁　11×17cm
表題なし。内容は，元禄から享和にかけての，火事の際の合図・出動についての規定。その他，病気，御屋敷中の変死，門前捨子等について記す。

4874　〔中屋敷近辺火事之刻御定書一巻〕　16.47—7
横山某手写　文化15年(1818)
8丁　24cm
横山政和旧蔵。原題・旧書名は，宝永2年8月「御中屋舗近辺若火事之刻御定書一巻」。内容は，元禄17年2月の御書出を写し，付箋で注記し，役人名なども一部付箋で訂正している。

4875　江戸火事御定書　16.47—8
横山某手写　文化15年(1818)
21丁　24cm
横山政和旧蔵，内容は，宝永7年(1710)閏8月の江戸屋敷その他遠近の火事の際の定書。

4876　火事御定書　16.47—9
手写
22丁　23cm
内容は，前号に同じ。

4877　火事之節御定書之写　16.47—10
手写
24丁　12×18cm
内容は，前号に同じ。

4878　〔火事御出役御定書抜書控〕　16.47—11
横山某手写　文化15年(1818)
5丁　24cm
表題「宝永七年火事御定書御出之後御先代被仰出候火事方之一巻抜書指上候控」。横山政和旧蔵。内容は，宝永7年(1710)～享保8年(1723)の被仰出，書出，日帳の書抜き。

4879　火事方　16.47—12
横山某手写
92丁　12×18cm
横山政和旧蔵。内容は，宝永から享和期にかけての江戸における火事方の日記，御定，行列付，諸規定などの記録の抜粋。

4880　火事方　16.47—13
前田家編輯方手写　明治年間
120丁　24cm
内容は，前号に同じ。

4881　〔火事之節指出人数被仰渡趣等〕　16.47—14
横山某手写　文化15年(1818)
4丁　24cm
表題「火事之節御人数被指出候儀従公儀被仰渡等之趣等」。横山政和旧蔵。内容は，享保4年(1719)6月，幕府から増火消，増人数を申付けられたことを記す。

4882　御在国中火事之節御定　16.47—15
手写
7丁　8×17.5cm
中川典克旧蔵。内容は，享保5年(1720)藩主在国中の場合の持場，職務など記す。

4883　火事方旧記　16.47—16
野村信精手写　寛政12年(1800)
43丁　12×17.5cm
内容は，享保7年(1722)から延享4年(1747)にわたる火事の際の出勤規定。野村源兵衛信精は当時大小将番頭を勤めていた。

4884　於天徳院御法事之節火消方御勤留帳　16.47—17
成頼当隆(伊織・内蔵助)著
享保9年(1724)
4丁　24cm
成頼正居旧蔵。豊照院13回忌法要の時天徳院火消役を勤めていた著者の勤方覚書。

4885　天徳院・宝円寺・如来寺請取之人々心得之趣御横目中へ相達候紙面　16.47—18
手写
4丁　23.5cm
成頼正居旧蔵。御寺火消役の位牌の守護についての達書の写し。享保10年(1725)のもの。

4886　御寺請取火消心得之覚書　16.47—19
前田左門著
手写
9丁　24cm
成頼正居旧蔵。内容は，前田左門の経験としての御寺請取火消の職務について享保10年(1725)に記した覚書。この左門は孝和であろう。

4887　〔火事之節定〕　16.47—20
手写
4通　24cm
中川典克旧蔵。
①火事之節定(御姫様等御供人)未4月12日付，奥村因幡署名(写)
②享保10年11月，追加(城端町役人宛)，(申3月27日付篠島豊前の氷見・城端町宛，火消道具等についての定を再触している)
③卯4月8日付，火事之節定(江戸屋敷近所火事の場合)
④卯4月8日付，上野近所火事之刻火消道具為持可罷出人々。

4888　火消役勤方之覚書　16.47—21
手写
11丁　24cm
成瀬正居旧蔵。内容は，享保11年(1726)6月付，火消方同役中として勤方について申談じてとりきめた内容。

4889　火事方留帳　16.47—22
富田貞章著
自筆　享保11年(1726)
12丁　12×18.5cm
富田権六旧蔵。内容は，御使番として貞章が書留めたもの。

4890　〔火事方覚書并御参勤御道中御供之面々勤方等〕　16.47—23
手写
69丁　11.5×17.5cm
○享保11丙午年火事方覚書
○享保11丙午年拍子木之次第
○享保11丙午年火事之節御定書
○享保11年8月御参勤御道中御供之面々勤方
○享保9年御入国初而御参勤之時分御道中船渡場御行列相渡候次第。

4891　火消御同役中より御案内所附等覚書　16.47—24
享保11～13年(1726～28)
20丁　12×36cm
成瀬正居旧蔵。内容は，金沢において出火の知らせを受けた際の縄持出や出役等についての日記。いずれもたいした火事ではなく出役していない。

4892　御在国中火事之節御定　16.47—25
手写
5丁　8×17cm
中川典克旧蔵。内容は，享保12年(1727)の藩主在国中の場合における，持場，職務などを記す。

4893 金沢火事方覚書　16.47—26
手写
27丁　8×18cm
横山勇太郎旧蔵。内容は，享保12年(1727)から同20年(1735)にわたる。但し後欠。

4894 江戸火事御行列等　16.47—27
前田勘解由編
前田家編輯方手写　明治年間
46丁　23cm
前田普所蔵の写。成立は享保15年(1730)。内容は，江戸城火災の節に出役する行列の定（紋所付），宝永7年火事御定書，その他「覚」を収載。

4895 御用留　16.47—28
成瀬当延著
自筆　享保15年(1730)
19丁　32×23cm
成瀬正居旧蔵。成瀬内蔵助当延の政務日誌（享保15年3月）の下書きで，藩主の動静がうかがわれる。当延は当時7000石，享保14年～寛延4年の間定火消役。宝暦3年没，31才。

4896 火消番勤方覚帳写　~~19—47~~—29　16.47
御横目所編
手写　寛政2年(1790)
14丁　24cm
寛政2年7月，横目役所が火消方の振合について以前と相違があるかどうかを調べる目的で作成した帳面で，内容は，享保17年(1732)の火消番勤方覚帳，火消番勤方心得之覚と宝暦7年(1757)の勤方心得を記載している。

4897 火消番勤方覚書　16.47—30
手写
39丁　8×18cm
中川典克旧蔵。内容は，享保から天明にかけての火消番勤方，火消方出役報告と御在国火事御定等を留めたもの。

4898 火事御行列附　16.47—31
広瀬某手写
1帖　15cm
広瀬知良旧蔵。内容は，行列附および意口才許に関する享保，寛政の定など。

4899 火事御行列御中屋舗ニ而建所絵図　16.47—32
武田杢左衛門著
自筆　延享2年(1745)
絵図1枚　58×48cm
中川典克旧蔵。江戸中屋敷での人員配置の指図。

4900 〔火事之節可罷出手向に付被仰出覚〕　16.47—33
手写
1通　16×10cm
内容は，江戸屋敷の防火につき，一の手へ出役の家老に故障があった際の配備について，寛延2年(1749)の規定を修正している。
旧書名「火事之節一ノ手へ罷出候御家老故障之節云々」。

4901 火事御行列附之内　16.47—34
手写
6丁　24cm
中川典克旧蔵。内容は，寛延4年(1751)改の行列二番組のみを記す。

4902 〔火事之節申談之留〕　16.47—35
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25cm
表題「火事之節四ノ手へ罷出候人々申談之留」。宝暦14年(1764)4月12日付。

4903 御国ニ而火事御行列并御定書覚書　16.47—36
横山引馬手写　寛政9年(1797)
28丁　18×7.5cm
横山勇太郎旧蔵。内容は，明和8年(1771)8月の定。城中火災に際しての藩主行列供廻，城中火災の節定書，その他主要な場所，地域の火災の際の覚書など。

4904 火事御行列附　16.47—37
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，明和8年(1771)の紋所入り行列附。

4905　中将様御隠居以後火事御行列附　16.47—38
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
前田貞醇所蔵の写。5月7日付。中将様は10代藩主重教。この年4月23日に致仕したとあり，したがって内容は，明和8年(1771)。

4906　金谷御殿近辺火事之節定書　16.47—39
手写　安永5年(1776)
7丁　24cm
横山政和旧蔵。「青山将監留帳之写」とあり。乙未六月付の定および別紙之写。

4907　〔火事之節新請取所絵図回状写〕　16.47—40
戸田治兵衛手写　安永7年(1778)
1枚　24×36cm
高畠定辟旧蔵。戸田治兵衛組・佐々木孫兵衛組の配置場所指図。
旧書名「火事之節警備之回状写」。

4908　火事之節四之手御行列建方絵図　16.47—41
恵和手写　寛政8年(1796)
絵図1枚　47×36cm
御広式，御式台廻りの人数建場の指図。

4909　火事之節御中屋敷御人数建方図　16.47—42
手写
絵図1枚　31×34cm
江戸中屋敷の区画の間数，名称などを記し，広式，板橋口御門などの建場についての指図。端裏に「先ヨリ所持，恵和(印)」とあり。

4910　火消方覚書　16.47—43
成瀬某手写
16丁　24cm
成瀬正居旧蔵。内容は，寛政10年(1798)4月及び11月に火事場向き勤方について火消役から御用番へ提出した帳面の案文で，清帳に記載しなかった文言も載せている。

4911　火事御行列附　16.47—44
18丁　11.5×18cm
横山政和旧蔵。内容は，明和8年行列附に貼紙朱書した寛政10年(1798)の行列附，その他。

4912　火消勤方諸事留帳　16.47—45
手写
63丁　24cm
横山政和旧蔵。内容は，「火消勤方諸事留帳」「定火消役勤方心得覚帳」「火消方届紙面等調形」「高岡瑞竜寺出張火消方覚」を含む。寛政10年(1798)から享和3年(1803)にわたる記録で，文化期の事例を付紙している。

4913　相公様火事御行列建場絵図　16.47—46
横山逢誨(引馬)著
自筆
絵図4枚　28×40cm　包紙
横山勇太郎旧蔵。人員配置の指図。
①相公様火事御行列中ノ口御門外建場絵図
②相公様火事御行列奥ノ口建場之絵図（24×36cm）
③加賀守様御在国中相公様火事御行列御中屋敷建場之絵図（28×41cm）
④相公様火事御行列御中屋敷建場之絵図(128×40cm)。
引馬は当時御使番であった。したがって寛政12年2月7日～享和2年4月12日の間のことである。相公は11代治脩。

4914　定火消御用方留帳　16.47—47
享和元年(1801)
137丁　24cm
富田権六郎旧蔵。定火消方の公的な記録帳簿。享和元年11月11日～子年(文化元年)11月19日の往返公文書を写している。署名又は宛所に富田外記名が多いが，外記貞行は享和元年11月11日に定火消となり，文化元年11月19日に小松城番へ転じた人である。

4915　火事手建場中之口御門前図　16.47—48
手写
絵図1枚　36×24cm
別名「享和二年(1802)三月ヨリ相公様火事手建場中之口御門前絵図」。

4916　火消方届紙面等調形　16.47—49
手写
21丁　24cm

富田権六郎旧蔵。内容は，享和3年(1803)火消役の届紙面の雛形。

4917　火消方届紙面等調形　16.47—50
火消役編
手写
17丁　24cm
横山政和旧蔵。内容は，享和3年(1803)の定火消役届紙面の雛形。前号とほぼ同内容。

4918　御請紙面等留　16.47—51
52丁　26cm
横山隆起旧蔵。内容年代，享和3年(1803)～文化10年(1813)役職の任免，転役，処罰など人事に関する指紙類の留書。横山政孝(多門，図書)の書類。政孝は当時定火消，御仏殿請取火消を勤む。

4919　火消方役一件　16.47—52
横山某手写　文政2年(1819)
10丁　24cm
横山政和旧蔵。内容は，享和3年(1803)から文化11年(1814)にかけての江戸における火消使役と定役の勤方を記す。

4920　繩持召仕方等相改候帳　16.47—53
多賀左近編
手写　文化元年（1804)
14丁　24cm
横山政和旧蔵。表題の但書として「但，公事場ニ而被仰渡等之留」とあり。内容は，文化元年2月繩持のしまり方について公事場奉行より火消役一統への通知，火消役より繩持共への縮方申渡の定・覚・心得・宛行方の定。

4921　〔繩持共以後召仕方等之写〕　16.47—54
手写
13丁　24cm
横山政和旧蔵。表題「文化元年子二月　今般於公事場繩持共江改而御縮方申渡有之以後召仕方等之定」。前号と殆んど同内容。
旧書名「今般於公事場繩持共へ改テ御縮方申渡有之以後召仕方等之定」。

4922　御在国中火事之節御定　16.47—55
手写　文化3年(1806)
7丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容は，城内・城外（天徳院，宝円寺）の火事の節，主要場所への役人配置。

4923　御留守中火事之節御定　16.47—56
手写
7丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容は，文化8年(1811)3月の定。金沢城の各持場と職務分担，その心得について記す。

4924　御近隣火消仕法帳　16.47—57
御勝手方編
手写
11丁　23cm
宇野富良旧蔵。割場奉行が御省略につき文化8年(1811)に火消方詮議の件で最初に指出した案，および「火消方御道具等直段附帳」。

4925　火消御道具所仕法帳　16.47—58
御勝手方編
手写　文化8年(1811)
11丁　23cm
宇野富良旧蔵。内容は，火消道具方才許が廃止になり，割場奉行の取捌きになった際，新たに仕法を立て，火消道具取替費用等（火事入用を除いて）1ヵ年分を見積った勝手方の書類。

4926　〔御算用場近火之節心得〕　16.47—59
巻子1　16cm
文化13年(1816)2月2日算用場小頭より貞享元年の旧例の再触，および己未正月付の覚その他を書留めている。

4927　蓮池上之御殿等請取火消勤方帳　16.47—60
御用所手写
9丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容は，文政2年(1819)，同3年(1820)，同5年(1822)に前田土佐守より，蓮池上御殿，金沢町，金沢城内各火消方に対する達書。宛名の成瀬内蔵助，本多主水はいずれも定火消役。

旧書名「火消方達書写」。

4928　留帳　16.47—61
前田貞事著
自筆　文政7～9年(1824～26)
2冊　12×18cm
前田貞醇旧蔵。前田貞事は通称図書。文政6年(1823) 7000石をつぎ，同7年～9年は定火消。その公私にわたる日記。
「留帳」①文政7年正月～12月
「留帳」②文政8年正月～9年6月。
旧書名「前田貞事留帳」。

4929　定火消方覚帳　16.47—62
前田貞事著
自筆　文政7～9年(1824～26)
10丁　11.5×17cm
前田貞醇旧蔵。文政7年3月1日～文政9年4月12日の日記。その期間，貞事は定火消役で，4月12日付で御仏殿別当屋敷火消に転じ，同月29日付で小松御城番になった。

4930　〔真龍院様等近火之節御立退行列附等〕　16.47—63
手写　天保元年(1830)
13丁　18×13cm
横山政和旧蔵。真龍院(12代斉広正室隆)，犬千代丸(13代斉泰の幼名)，鈔(かた)姫(斉広女)，青操院(10代重教の側室安)の立退，建込の行列附。
旧書名「真龍院様等御近火之節御立退御建込行列附等」。

4931　御近火之節御立退御建込御行列附　16.47—64
手写
15丁　12×18cm
横山政和旧蔵。犬千代丸様，釣次郎様に関するもの。犬千代(14代藩主慶寧)，釣次郎は共に13代斉泰の子。

4932　御留守中火事之節御定　16.47—65
手写
巻子1　24cm
前田恒敬旧蔵。内容は，天保2年(1831)3月の定。金沢城の各持場と職務分担，その心得について記す。

4933　八丁内火消御人数押出ケ所之図　16.47—66
前田貞事手写　天保3年(1832)
絵図1枚　67×95cm
前田貞醇旧蔵。江戸本郷屋敷を中心とした町絵図に，朱書で押出建物，進ミ建場の場所を指図したもの。

4934　御留守中御馬配并御人払帳　16.47—67
富田某手写　天保5年(1834)
4丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。内容は，上屋敷の火災時における馬配，人払および平生日の人払より成る。

4935　当時御近所火消方御行列附　16.47—68
横山某手写　安政元年(1854)
8丁　33.5×12cm
横山政和旧蔵。天保13年4月中川某の写本を安政元年12月に写したもの。

4936　定火消方覚帳　16.47—69
手写　天保14年(1843)
91丁　11.5×17cm
富田権六郎旧蔵。内容は，火消役心得方，届紙面等調形，火消役勤方，高岡出張，縄持勤方公事場定，縄奉行自分心附。

4937　火消方心得抜書　16.47—70
成瀬正居手写　嘉永7年(1854)
19丁　11.5×17cm
成瀬正居が定火消役となった時に生駒氏蔵本を写したもの。内容は，天保13年(1842)における火消方心覚で，御用番への届紙面，組頭への届紙面など36項を記す。

4938　定火消勤方帳　16.47—71
横山隆章手写　弘化3年(1846)
35丁　24cm
横山政和旧蔵。前田織江所蔵本を書写したもの。内容は，文政7年(1824)の火消役勤方帳，定火消役心得留帳より成るが，天保期のことを記した付紙がある。

4939 御留守中火事御定　16.47—72
手写
巻子1　16cm
横山勇太郎旧蔵。内容は，弘化4年(1847)の定。各持場と職務分担，その心得について定めている。

4940 〔火事之節御定〕　16.47—73
早川随勝著
自筆
12丁　12×18cm
早川随勝旧蔵。嘉永元年(1848)4月「御在国中火事之節御定」，嘉永4年3月「御留守中火事御定」。を収む。城中，城外の役人・組配置(主要持場人名書き)。
旧書名「御在国中火事之節御定等」。

4941 宝円寺請取火消方留帳　16.47—74
松平数馬編
手写　嘉永5年(1852)
25丁　12×18cm
横山政和旧蔵。松平数馬が7冊本から抜書したものの写。表紙に朱字で「寺西蔵人様也」とある。

4942 火消方御触等留帳抜書　16.47—75
成瀬正居手写　嘉永7年(1854)
18丁　24cm
成瀬正居旧蔵。内容は，嘉永6年(1853)2月に年寄席御用番大膳殿より出火の節，消防方の手配等の心得について委しく書面を指出すよう定火消へ指示があり，一件書類を抜書したもの。成瀬正居は嘉永7年8月5日より定火消役となった。

4943 〔消防方詮議一件留〕　16.47—76
成瀬正居手写
17丁　24cm
表題「消防方之儀御用番より尋之趣有之同役詮議之趣答方等一件留」。内容は，嘉永6年(1853)2月～3月。

4944 〔今般従御上被仰渡之趣覚〕　16.47—77
成瀬正居手写　嘉永7年(1854)
5丁　12×17.5cm
成瀬正居旧蔵。表題は嘉永6年丑3月「今般従御上被仰渡之趣有之候ニ付改而被仰渡候覚」で，正居と署名あり。嘉永7年8月に写したもの。正居は同年同月5日に定火消になっている。

4945 伝通院・広徳寺近辺火事之節御位牌除并取次方心得秘録　16.47—78
横山隆弘著
手写　安政2年(1855)
29丁　12×17.5cm
横山勇太郎旧蔵。江戸伝通院，広徳院火災の節，前田家関係位牌退却の心得，段取等を記す。

4946 〔鳶小頭詮議振覚書〕　16.47—79
横山某編
手写　安政2年(1855)
13丁　25cm
表題・旧書名「江戸表ニ而鳶小頭申付候節金義振覚書」。横山政和旧蔵。内容は，鳶小頭の病気に付小頭変更，任命の件などを記す。

4947 火事之節御留守中御定　16.47—80
手写
6丁　25cm
横山政和旧蔵。内容は，明治2年(1869)職制改正の際の定書で，金沢城，各所の持場について記す。

4948 御抱鳶御仕法書　16.47—81
手写
5丁　25cm
御抱鳶38人の月給額を計算した伺書。丑6月付，割場宛。

4949 多慶若様火事之節御行列附　16.47—82
手写
4丁　36×12cm
多慶若は14代慶寧の子前田利嗣(安政5年生)。

4950 〔火事之節心覚〕　16.47—83
手写
3丁　12×34cm

前田貞醇旧蔵。儀礼上の細かな注意事項を覚え書したもの。

4951 〔火事之節罷出申覚〕 16.47—84
手写
6通 25cm
中川典克旧蔵。内容は，火事の節の役職人による配置と心得を記す。
① 火事之時分罷出申覚（金沢城関係）
② 覚（卯11月10日被仰出の申渡。江戸屋敷関係）
③（2通）火事之節御城并火本へ可罷出覚（金沢城の場合，横目役の出役を指示）
④ 覚（未4月12日付奥村因幡署名の写，江戸屋敷関係）
⑤ 覚（2月日付，御歩横目中宛，火事場へ出役の際の心得）。

4952 定火消役古来より相勤候人々之覚 16.47—85
前田家編輯方手写 明治年間
17丁 25cm
成瀬吉勝所蔵の写。内容は，定火消を勤めた人の名と年代の記録。「火事之砌金谷御文庫江罷出候御定之事」を含む。

4953 御近火之節役所等へ罷出候人数帳 16.47—86
手写
12丁 12×18cm
金沢城における定。各々の詰めるべき持場，役割を記す（御供人，一の手の者は省いてある）。

4954 火事之節定 16.47—87
手写
巻子1 24cm
中川典克旧蔵。内容は，江戸屋敷出火，近火の場合における持場別の人名や役名を定めている。

4955 〔火消方記録〕 16.47—88
前田家編輯方手写 明治年間
60丁 26cm
内容は，火消方に関する記事の抜書集で，江戸火消方規定と火事之刻御定，喧嘩之節御定などを記す。

4956 〔江戸御屋敷〕火事之節御行列寄場之絵図 16.47—89
絵図1枚 彩色 71.5×101.5cm
出動場所を定めたもの。

4957 火消御用自分覚書 16.47—90
有沢貞庸著
自筆
24丁 17.5×12cm
内容は，火消足軽一手合（人数，出立，諸道具）と火事場心得等。

4958 御宮請取火消請取所控 16.47—91
手写
12丁 24cm
横山政和旧蔵。御宮請取火消は城内東照宮の消防方に当るもの。一人役で万石以上の人持を任ずる。内容は，請取火消就任の案内，巡見，役向きの手はず，役引の節等を記す。

4959 火事御行列建方 16.47—92
手写
絵図1枚 33×24cm
島田孝郷旧蔵。内容は，御玄関での藩主を中心とした行列建方の指図。

4960 火事之節御前様御立退御行列 16.47—93
前田家編輯方手写 明治年間
9丁 24cm
入江治左衛門所蔵の写。内容は，「御前様」の場合の行列附および規定集。

4961 於御当地若火事之節御出馬被遊候刻御行列 16.47—94
前田家編輯方手写 明治年間
4丁 24cm
前田貞醇所蔵の写。火事のため藩主出馬の際の行列順序を記す。

4962 壱弐参火事御行列附 16.47—95
前田家編輯方手写 明治年間
6丁 24cm
前田貞醇所蔵の写。紋所入りの行列附。

4963 〔火消方行列附〕 16.47—96
手写
8丁　36×12cm
横山政和旧蔵。内容は，火消方行列の順序など。

4964 加勢火消中一手行列 16.47—97
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。総人数632人の行列附。

4965 加勢火消中一手行列 16.47—98
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。火消中行列配置図。

4966 一二三之手御人数合紋并板相図之事 16.47—99
11丁　11.5×18.5cm
今川氏旧蔵。江戸での火災時の板相図の説明，及び藩主出役のとき家臣の役どころと合紋，人数について。

4967 一二三之手御人数合紋并板相図之事 16.47—100
手写
13丁　12×18cm
前号に同じ。

4968 一三四之手御備建場之図 16.47—101
絵図1枚　29×40cm
中川典克旧蔵。江戸上屋敷での一の手，三の手，四の手の簡単な配置図。

4969 〔江戸〕上屋敷ニテ一二三四之手御行列建場之図 16.47—102
横山引馬著
絵図1枚　47.5×71cm
横山勇太郎旧蔵。御広式周辺，一の手より四の手までの配置，人高。

4970 上野火消裁許与力二組之内先一組行列 16.47—103
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24cm
配列及び道具等を記す。

4971 上野近所火事之刻罷越人図 16.47—104
手写
1通　35.5cm
中川典克旧蔵。未四月付。足軽・小者250人の番割，火消道具裁許を見積っている。

4972 上野并御近隣火消等 16.47—105
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。火消役物頭，藩主在府中の消火心得等を記す。

4973 〔火事之節人数立場之図〕 16.47—106
手写
絵図1枚　56×70cm
江戸屋敷の場合。
旧書名「火事人夫立場之図」。

4974 〔聖堂并学校請取所控〕 16.47—107
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
横山政和所蔵の写。聖堂并学校請取火消役の留書。

4975 〔御城中焼金具等拾様〕 16.47—108
手写
1通　18cm
中川典克旧蔵。火災跡に繩張して交代で拾い集める作業についての示達。
旧書名「火事一件書類」。

特16.48 財　　政

触達・勤方覚留類

(算　用　場)

4976 堂形蔵入写 16.48—1
手写
2丁　24cm
寛永14年(1637)の定，および明和・安永・天明の町年寄に対する褒状を記す。

4977　御算用場御定書等　　16.48—2
前田家編輯方手写　明治年間
101丁　23.5cm
主に承応～延宝期の算用場に関係する定書集。与力知行の定，算用場職務の定，検地の定，廻来浜出し，枡廻しの定，召米・下行米の定，他国御供役被下銀の当り，他国御使路銀馬銀，御国使の駄賃・宿賃，早飛脚御褒美の定，寄鯨割付の定，給人知行米の蔵本の定，領国中町方宿方家数（年限不知）など諸種の定書を収めている。

4978　〔出銀御定〕　　16.48—3
井上正忠手写　文久2年(1862)
52丁　23.5cm
井上如苞旧蔵。内題は「出銀御定他国詰御扶持方御定」。内容は，万治2年（1659）～安政3年（1856）の定書集で，出銀御定（万治2），他国古来御扶持方人馬御定，享和三年相改候御扶持方帳写，他国中勘御扶持方代并乗馬飼料代之事，於江戸増銀之事，御使追帰他国路銀，他国御使馬銀御定，他国馬銀片道分，他国馬銀御定，宿賃銀，御医者駕籠舁代，飛脚御定，その他を集録。

4979　新京升についての触　　16.48—4
寛文10年(1670)
1通　28.5cm
戌(寛文10年)7月26日付奥村因幡，前田対馬，横山左衛門，長九郎左衛門，本多安房より津田宇右衛門，岡嶋五兵衛宛の達書と8月20日付御算用場より中川采女，前田八郎兵衛宛の奥書。新京升の使用とそれにともなう納所・貸米の扱いについての触。

4980　古量図説　　16.48—5
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　23cm
各種の古升類（古升，瓶判升，承応升，晴明判ノ升，新京升等）の図，印判，寸法，所蔵者について記す。

4981　御算用場隠密方留　　16.48—6
前田家編輯方手写　明治年間
71丁　23.5cm
御算用場支配下の，奉行以下諸役人の名前などとその職務内容を書き上げたもの。役人名からみて，内容年代は天和～元禄初期か。

4982　御勝手向大要雑録　　16.48—7
手写
29丁　24cm
内容は，先例等を写したもので，「御算用場内自分留帳之書抜」以下，天和～天保期にわたる14項目。巻頭に目次あり。

4983　〔御勝手方御蔵許共懸合一件等〕　　16.48—8
手写
34丁　12×18cm
前田道益旧蔵。内容は，御算用場奉行の留帳，御勝手方御蔵許共懸合一件(享和2年1802)，御収納米御取候諸代官方之儀ニ付算用場奉行紙面写，加越能定小物成(天明7年1787)，七木之事(天和3年の留抜書)。

4984　〔家中借銀高書上候様申渡書〕　　16.48—9
手写
2通　17cm
①御徒並以上の面々の元禄14年以来の借銀高，諸色買懸銀高，借米并米質ニて借銀分を書上げるよう申渡している。年代は享保5年以後
②夏中の飯米其外入用を所持し，指支えなき人々を書出すよう申渡書。
旧書名「借銀高等ニ付覚書」。

4985　御算用場覚書　　16.48—10
手写　享保3年(1718)
36丁　14×20cm
富田権六郎旧蔵。内容目次は，御郡中御林等所附，御領国所々御高札場，御扶持人并平十村被仰付候年限，御扶持人并山廻同断，新田裁許同断，御領国中御郡境，御領国町方宿方家数，能州出船所，酒造米高，三ケ国并江州高付，畝反町歩斗代，御郡々七木，白山下御公領村附，改作相談日所，於京都江戸被遣米高，御算用場奉行代々名付，御蔵宿船数許名付，江戸為替人名付，江戸御蔵宿付，御領地村々寺号，同家数人数牛馬改，土方采女殿領分所附，同慶長11年以

来御私領御代官付，御領地方役人付。

4986 〔佐渡守様御出府之節御道筋縮方達書等〕 16.48—11

算用場編

2通　23cm

富田権六郎旧蔵。亥2月付，①御用番前田土佐守より横山兵庫（長元），奥野主水（氏展），松原善右衛門（一脩）宛　②御算用場より富田次太夫等17人宛廻状。なお横山兵庫等3人が算用場奉行としてともに在職した期間は寛保2年（1742）5月～延享3年（1746）正月である。

4987 諸借財書上并御貸附等被仰渡 16.48—12

前田家編輯方手写　明治年間

26丁　24cm

昌披問答の抜書の外，宝暦5年(1755)の銀札貸渡，明和8年(1771)借銀等書上，天明5年(1785)質商売停止，寛政9年(1797)銀子貸渡，寛政11年(1799)震災による借知返付，享和2年(1802)借知借米返付，文政7年(1824)仕法調達銀の貸付等の布達を収録。

4988 御算用場奉行中自分留 16.48—13

富田貞章(織人)著

自筆　天明5年(1785)

8丁　14×20cm

富田権六郎旧蔵。5月13日～17日の算用場奉行富田織人の公用留。5月13日は算用場奉行に遠田自通，長屋要人が任命された日。

4989 御算用場御用番中自分留 16.48—14

富田貞章(織人)著

自筆　天明5年(1785)

25丁　24cm

富田権六郎旧蔵。富田織人関係の6月晦日～7月25日の公用留。織人は，当時算用場奉行。

4990 御算用場旧記抜書 16.48—15

成瀬某編

自筆

57丁　18×12cm

成瀬正居旧蔵。内容は，主に算用場職務取捌方等について，天明5年(1785)～寛政4年(1792)の旧例52項目を写したもの。筆者は寛政5年算用場奉行となった成瀬種徳か。

4991 天明年間等御定書 16.48—16

手写

25丁　24cm

寄合所より勘定所へ宛てた天明9年(1789)正月付，職務内容に関する2つの御定および天保6年(1835)12月の追加御定を載せている。

4992 御勝手方等へ御達申候品々留帳 16.48—17

成瀬左近著

自筆　寛政4～5年(1792～93)

46丁　11.5×17.5cm

成瀬正居旧蔵。成瀬左近種徳は当時算用場奉行。同職の中川正甫，小寺惟孝と連署での意見言上覚，収納米入払の覚，その他の役務文書を書留めてある。

4993 〔御算用場諸事御用留帳〕 16.48—18

成瀬種徳著

自筆　寛政4～8年(1792～96)

21冊　12×18cm

成瀬正居旧蔵。成瀬左近種徳の算用場奉行勤務中の留帳。左近は寛政4年9月1日～8年10月10日の間算用場奉行であった。

①寛政4年9月1日～10月29日
②同年10月，11月
③同年11月15日～12月18日
④寛政5年正月1日～3月28日
⑤同年4月1日～7月21日
⑥同年4月1日～27日
⑦同年7月18日～8月9日
⑧同年8月12日～9月3日
⑨同年9月5日～10月6日
⑩同年10月8日～12月20日
⑪同年12月22日～29日
⑫寛政6年正月1日～5月26日
⑬同年4月1日～5月9日
⑭同年4月1日～9月13日
⑮同年正月
⑯同年9月13日～26日
⑰同年10月1日～12月28日
⑱寛政7年正月4日～11月3日

⑲同年11月～同8年10月9日
⑳寛政4年7月～11月初
㉑雑記（寛政6年か）。

4994　御祝翰并言上品々留帳　16.48—19
成瀬左近種徳著
自筆　寛政5～6年(1793～94)
2冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。①寛政5年6月～11月　②同年11月～6年4月。成瀬左近(種徳)，中川四郎左衛門(正甫)，笠間九兵衛(定懋)の3人から御勝手方へ提出した意見，財用見積りなどの書類の留。3人は当時算用場奉行。

4995　〔御用番并御勝手方より御渡之覚書等〕　16.48—20
成瀬種徳著
自筆　寛政5～6年(1793～94)
3冊　11.5×18cm・18.5×13.5cm
成瀬正居旧蔵。成瀬左近種徳の算用場奉行当時の記録。
①御用番并御勝手ヨリ御渡之覚書等留帳（寛政5年11月～同6年2月）
②御用番并御勝手方ヨリ御渡之覚書等且御達申品々留帳（寛政6年2月～5月）
③御用番并御勝手方ヨリ御渡之覚書且御達申品々留帳。

4996　御用番ヨリ御渡之品々并御達申品々諸事留帳　16.48—21
成瀬種徳著
自筆　寛政7年(1795)
78丁　11.5×18cm
成瀬正居旧蔵。内容は正月～9月。種徳(左近)は当時算用場奉行。

4997　御算用場御用番宅ニ而取捌抜萃　16.48—22
本保全昌編
自筆
42丁　12×18cm
本保政徳旧蔵。算用場の取捌方についての主に化政期の旧記抜書37項目。本保平太夫全昌は馬廻頭のち定番頭。300石のち150石加増。安政3年4月28日～文久2年12月6日隠居まで算用場奉行を勤めた。

4998　〔仕法調達銀取捌方内存書〕　16.48—23
手写
2通　16cm　包紙
辛巳(文政4年)3月14日付，御仕法調達銀主付木梨左衛(有慶)，竹田彦六郎(忠直)より人見吉左衛門(忠貞)等3人宛。調達銀取捌方についての意見書および3月21日付の人見吉左衛門等の添紙面。
旧書名「調達銀について仰渡され候紙面之写」。

4999　〔御算用場諸事留帳〕　16.48—24
成瀬正敦著
自筆　文政13年(1830)・天保4年(1833)・天保5年(1834)
3冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。成瀬主税正敦の算用場奉行在職中（天保元年9月20日～8年正月29日）の留帳の一部。
①文政13年9月20日～12月晦日
②天保4年正月～12月
③天保5年正月～8月。

5000　〔成瀬正敦〕雑記　16.48—25
成瀬正敦著
自筆
3冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。当時算用場奉行を勤めた正敦の留書。3冊とも表題は「雑記」。①文政13年9月9日より　②天保2辛卯4月より　③天保3年壬辰正月より。内容は，藩の財政収支，国方，江戸，京都，大坂方の蔵米，銀高，塩高，非人小屋人数などを記し，また日次の留書もある。
旧書名「雑記」。

5001　御用番中心覚留　16.48—26
成瀬正敦著
自筆　天保8年(1837)
9丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。成瀬主税正敦は当時算用場奉行。正月1日～15日の分。
旧書名「酉正月御用番中心覚留帳」。

5002 〔一統へ可申渡趣等〕 16.48—27
手写
仮綴1(5通) 16cm
①酉2月 「一統へ可申渡趣」(省略方申渡)
②閏4月 去年半知借上之残高之内を可貸渡申渡
③閏4月 半知借上の申渡
④閏4月 奥村内膳より半知借上の申渡
⑤閏4月 「覚」(半知借上)
この閏4月は西の丸御普請手伝の年であることがわかるので天保9年(1838)。酉2月は凶作の翌年(天保8年か)。
旧書名「一統へ可申渡趣覚書」。

5003 御算用場奉行へ内々申談候趣覚書等写 16.48—28
手写
15丁 23cm
子7月付。算用場奉行への訓達を書留めたもの。算盤上の符号を目当にするだけでなく，下々の困窮を救い国を富ませること，人和を得ることの必要などを説いている。ほかに，理財三等図，当座之覚頭書(財用之根本たるべき項目)，および奉行より不審の趣が出されたのに対する答の大要を記している。なお文中享保13年より「百余年」後のこととわかるので，子年は天保11年(1840)か。

5004 出役日記 16.48—29
早川某著
自筆 天保14～15年(1843～44)
15丁 23cm
早川随勝旧蔵。勘定所などへの天保14年11月～15年10月の出役記録。筆者早川氏は天保元年12月15日～嘉永元年5月6日(坊主頭へ転任)の間御算用者小頭を勤めた早川与八郎か。

5005 〔諸士難渋に付御取扱の旨被仰出覚〕 16.48—30
手写
1通 16.5cm
安政3年(1856)7月。三組頭宛。
旧書名「諸士難渋ニ付仰出」。

5006 〔御借知割合等定〕 16.48—31
手写
仮綴1(8通) 23cm
早川随勝旧蔵。
①丙寅(慶応2年)3月 被仰渡写(借知)・御借知割合書
②文久元年6月(倹約方につき衣類等之儀被仰出之趣)
③8月(家中難渋人へ貸渡銀之割合書)
④(嘉永3年)10月(前田近江守借知并役料知借上之内一作下方被仰出之趣申渡) ⑤の添書にあたる
⑤嘉永3年10月 御借知等一作被返下候割合書
⑥6月11日(奥村内膳，半知借上の申渡書)
⑦6月(知行借上の割合書)
⑧6月(役料借上の割合書)。
旧書名「御借地等定」。

5007 御両家様御調達金此方様御引請御調達証文留 16.48—32
棟取所編
17丁 23.5cm
慶応3年(1867)7月～4年閏4月分を留めている。

5008 〔算用場通知状等〕 16.48—33
慶応4年(1868)
仮綴1(13通) 16.5cm
算用場の通知状類の綴りで，御蔵米の附出し，払方，下役人の出張命令，家中の土の転勤，閉門御免等で上り知解除の通知などを含む。
旧書名「御収納米等覚」。

5009 皆銀役仕法帳 16.48—34
手写
9丁 24cm
成瀬正居旧蔵。午6月付。役知1000石以上は従来1歩人役，2歩銀役，3歩皆銀役と定まっていたが，それを改正して1歩人役を銀納とする仕法書。

5010 借知之事等覚書 16.48—35
手写
仮綴1(12通) 16cm
内容は多様であるが，財政関係が多いのでここへ置く。①寅2月，算用場奉行，物価方等之覚

②元和2年10月3日，煙草作禁止の幕令写　③金沢城本丸等の奥行・幅の書上　④可申上置箇条心覚　⑤11月23日算用場奉行より改作方につき申聞候覚　⑥風俗倹約等之箇条心覚　⑦心覚箇条　⑧借知200石以下之米高書上　⑨借知之割　⑩借知総高書上　⑪天保13年米を以取扱候借財凡見図り　⑫学校へ罷出度人々の事その他。
旧書名「物価方之事等覚書」。

5011　〔下禄難渋人救恤に付被仰出書〕　16.48—36
巻子1　17cm
下禄難渋の家士に対し貸銀を行うため，組頭へ組内難渋の者の交名書の提出を命じたもの。
旧書名「町中銀子調達方ニ付被仰出候書立」。

5012　定納口米等七項写　16.48—37
手写
8丁　24cm
定納口米，夫銀夫米，普請役，出銀，大工日傭手間料，男女切米給銀，牛馬飼料の由来・算出法を解説。末尾に永禄2年(1559)年貢収納古法に関する文書写あり。

5013　越中記等三種　16.48—38
前田家編輯方手写　明治年間
31丁　23.5cm
○越中記抜書
○加越能諸事考（夫米夫銀，家中普請役，出銀，奉公人給銀等について）
○御家中御普請役之事。
旧書名「越中記抜書等」。

5014　〔家中へ御貸銀に付達書等〕　16.48—39
手写
2通　16cm
○8月付，長大隅守より家中難渋人へ貸渡の申渡
○8月付，御貸渡之割合。
旧書名「藩士へ御貸銀について達書等」。

5015　十村等御扶持一件　16.48—40
手写
34丁　27cm
十村はじめ諸役扶持米，給銭の書上，士族兵隊給俸定則，明暦2年以後手上高手上免書上を収録。明治2年(1869)のもの。

5016　〔二条様へ為御合力被進候金子之一件〕　16.48—41
手写
6通　18cm　包紙
①4月26日付，二条殿へ金子進上の件
②4月27日付，奥村内記・前田修理と玉井勘解由との往返書状（継紙）
③未5月1日付，追而書
④5月1日付，玉井勘解由覚書
⑤5月3日付，同人覚書
⑥5月8日付，金子の箱取出方につき書面。

5017　〔三条様へ御助力金に付廻状留〕　16.48—42
手写
2通　17cm
中川典克旧蔵。前田主税より村井又兵衛，津田玄蕃等への廻状の留書。
旧書名「三条様へ之御助力金覚」。

5018　御収納正米書出し　16.48—43
3丁・1通　12×36cm・12.5cm
知行米を書出したもの2種。冊子は俸禄5000石（内，与力知1000石）の場合の収納米を計算している。一紙のものは「御収納正米」と題し米301石1斗を村別に書いている。
旧書名「御収納正米等覚書」。

5019　御用番等へ為見候書取写　16.48—44
手写
1通　16cm
「張文帳面之内」とあり。米高値時の対応策書上。

5020　〔算用場覚書等〕　16.48—45
8通　16.5cm
算用場関係の通知文書，覚書など。新知の高の割付通知，表具師手間料，御用看問屋送りの件，女中部屋へ行灯・五徳相渡す覚，御料理被下候時御歩小頭席の件など。

5021　〔御米払之目録に付書状〕　16.48—46
吉田惣兵衛・渡部源七著
自筆
1通　16cm
吉田，渡部の提出した払米目録（計算）と算用場奉行からの目録と相違があった件につき。2月15日付。
旧書名「御米払之目録ニ付吉田惣兵衛書状」。

5022　泊町太兵衛口上書　16.48—47
1通　23cm
子10月2日付，算用場宛。金沢参着が遅れた理由を届けたもの。

5023　御長持指札調之件　16.48—48
久田屋作・松本耕次著
明治3年(1870)
1通　16cm
長持指札（調方）準備につき廻漕方宛のもの。

（御勝手方）

5024　御勝手方御用年寄中等前録　16.48—49
手写
9丁　12×17.5cm
享保17年(1732)～文政元年(1818)にわたる。御勝手方御用（倹約方御用も含む）を仰付られた年寄役の名簿。任命の日付も記す。
旧書名「御勝手方年寄中等前録」。

5025　御勝手方御用　16.48—50
玉井市正貞衛著
自筆
5冊　23cm
前田道益旧蔵。玉井貞衛は当時家老兼世子宗辰御附。享保17年正月16日御勝手方御用を命ぜられている。
①享保17年(1732)金沢御留守御勝手方御用
②享保17年正月16日～7月6日，御在国御勝手方御用
③享保18年正月～8月，金沢御留守御勝手方御用
④享保19年，御在国（従7月6日金沢御留守）御勝手方御用
⑤享保20年，金沢御留守御勝手方御用。

5026　御勝手方御内用控　16.48—51
村井長穹(又兵衛)著
明和8年(1771)
12丁　12×18cm
年寄役の長穹が5月11日付で勝手方惣主付を命ぜられた時の記録。明和8年5月～7月に及ぶ。

5027　土佐守仰出之覚　16.48—52
8丁　12×18cm
内容は，安永10年(1781)2月の，御勝手方への御親翰の件と，町方調達仕法書。土佐守は年寄役前田直方。

5028　御勝手方諸事覚書　16.48—53
前田織江著
自筆　文化元年(1804)
66丁　13×18cm
前田道益旧蔵。織江は路博で，当時家老役。内容は，文化元年6月25日より12月28日までの公務留書。

5029　御勝手方諸事覚書　16.48—54
前田織江著
自筆　文化2～3年(1805～06)
51丁　12×18cm
前田道益旧蔵。家老役前田路博の記録。

5030　御算用場奉行等へ申渡候控　16.48—55
御勝手方編
文化7年(1810)
14丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。米の量，値段，町会所仕送り銀の訳，備用米貸渡し，諸場諸役所入用銀請取高書上，諸場諸役所の諸物値段・作料書出しなどにつき問合せ，報告を命じた書類の記録。

5031　〔御勝手方留書〕　16.48—56
御勝手方編
手写　文化7年(1810)
9丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。酉年正月より3月の入払本勘指

引，古詰人・御供人数書上，変地引免仕法ニ付達書を収む。
旧書名「御入用中勘等且古詰人高并諸郡前々変地場所引免立帰之年銀等」。

5032　諸返上打込被仰付候義ニ付御算用場奉行紙面等控　16.48—57
文化７年(1810)
７丁　23cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。家中拝借銀の返納仕法替に関するもの。

5033　越後屋敷之義ニ付間違之趣有之御勝手方ヨリ御用番へ掛合之一件　16.48—58
御勝手方編
手写
３丁　23cm
宇野富良旧蔵。内容は，文化７年(1810)12月，金沢城内越後屋敷（宝暦６年焼失）の再建費用について。

5034　江戸表御借金利下ケ一件　16.48—59
４丁・１通　24cm・22.5cm　袋入
宇野富良旧蔵。御勝手方の書類。
○文化８年７月，江戸表御借金利下ケ之儀申渡候御請写（芹川六兵衛その他の会所宛請書）
○未７月付（上と同文）。

5035　〔御会所向指出紙面留〕　16.48—60
御勝手方編
手写　文化９年(1812)
２丁　12×18cm
宇野富良旧蔵。外題は「会所向等御入用誠精倹儀之義重而申渡候ニ付向々ヨリ指出候紙面留」。内容は，達書２通の写。

5036　本多政礼御勝手方覚書　16.48—61
本多政礼著
前田家編輯方手写　明治年間
５冊　23cm
内題は「御勝手方覚書」。本多安房守政礼は年寄役，文化13年４月15日に横山山城守隆盛（文化13年閏８月27日没）とともに御勝手方御用主付を命ぜられた。
①文化13年４月～12月
②文化14年正月～２月
③同年３月～８月16月
④同年８月17日～12月
⑤文化15年正月～７月。
旧書名「本多政礼覚書」。

5037　御勝手方覚書　16.48—62
手写
43丁　24.5cm
文化13年12月の政務日記。表紙に「本多安房守」とあり，年寄役本多政礼にあたる。

5038　御勝手方覚書　16.48—63
手写
３丁　24cm
本多政以所蔵の写。表紙に「本多播磨守」とあり，政和にあたる。当時年寄役。文政13年（1830）３月と５月分の簡単な日記。３月４日付で御勝手方御用を命ぜられている。

5039　御勝手方心覚　16.48—64
中川典義著
自筆
２冊　12×18cm
①天保６年(1835)～天保10年「御勝手方心覚」
②弘化２年４月～嘉永６年(1853)７月「御勝手方御用心覚」。
典義は文政13年以来家老役。弘化３年12月19日より若年寄を兼務。

5040　御勝手向大要雑録　16.48—65
前田家編輯方手写　明治年間
３冊　23cm
奥村栄滋所蔵の写。
①先例等，御判物写等
②御勝手向大要雑録御図リ帳等ノ一，御図り帳等ノ二
③御勝手方ノ儀ニ付諸志付之儀書出候紙面等之内後勘ニ可備品書抜，御勝手之儀ニ付諸役人心付之趣書出候大要（天保12年）。
なお①②に細目の目次がある。内容は，天保13年までのもの。

5041 〔上納取立方通知状〕 16.48—66
御勝手方編
手写
1通 15cm
御借財方役所を廃止し，上納取立方と改めた旨の某役所小頭中宛の通知状，未8月18日付。
旧書名「上納取立方達」。

（倹　約　方）

5042 行状并倹約御書出蜜拝借書上云々 16.48—67
手写
79丁 27cm
巻頭に54項目の目次あり。承応3年(1654)～宝暦10年(1760)にわたる家中への行状，倹約，拝借銀，銀札貸渡，知行借上などの申渡を集録したもの。

5043 〔家中倹約に付定書〕 16.48—68
手写
2通 25cm
中川典克旧蔵。寛文8年7月6日付の家中諸士へ倹約の主旨の定書。
旧書名「御番衆申渡覚等」。

5044 倹約御定書之御請 16.48—69
手写
5丁 24cm
寛文8年(1668)7月6日付の家中の衣類，家作，振廻などについての定・書立5点を収む。
原本は横山志摩の署名あり。

5045 〔倹約に付縮方定〕 16.48—70
手写
2通 25cm
①寛文8年(1668)7月6日付の家中倹約令
②巳3月19日付，家作，饗応などの禁制。

5046 〔倹約被仰出覚等〕 16.48—71
手写
2通 24.5cm・28cm
中川典克旧蔵。
①寛文8年7月6日「定」(家中の衣類，家作，饗応，贈答などについての規制)
②申2月（倹約の将軍上意についての書立)。

5047 〔質素倹約之儀に付被仰出候達書〕 16.48—72
手写
3通 34cm 包紙
①享保10年(1725)8月26日付，家中へ納戸銀貸渡の書出写
②享保11年3月7日付，家中困窮に付，江戸詰人の従者減少，衣類等華美無用などの書出写
③7月6日付，当春江戸火事に付，家作等諸事簡略の定書写。

5048 御触之写 16.48—73
手写
6丁 24cm
横山政和旧蔵。内容は，享保14年(1729)の御家中面々倹約之事などを収む。

5049 御倹約方御年寄衆へ指出紙面之控 16.48—74
前田家編輯方手写 明治年間
6丁 24cm
享保19年(1734)6月，元文2年(1737)10月に年寄衆へ提出した意見など。

5050 御倹約に付江戸詰之人々徒者減少之儀被仰出覚書写 16.48—75
手写 延享3年(1746)
7丁 24cm
成瀬正居旧蔵。丙寅3月付の3カ条の申達と同月付「江戸詰人当分」の知行高別人数の規定。

5051 御倹約一巻御触之写 16.48—76
手写
25丁 24cm
富田権六郎旧蔵。内容は，延享3年(1746)の倹約方に関する一連の御触の写。

5052 〔家中之人々風儀に付御達〕 16.48—77
手写
1通 25cm
庚午10月28日付，家中の風儀，倹約についての御書立。庚午は寛延3年(1750)である。

5053　〔倹約申渡写〕　16.48—78
手写
1通　16cm
内容は，宝暦4年(1754)12月付，御勝手方難渋につき御入用減少を詮議するよう申渡したもの。

5054　御勝手方之儀ニ付被仰出書　16.48—79
21丁　24cm
当年より五ヶ年間格別御省略の主旨と詮議方につき申渡し。同じ題名の同似内容のもの2点を収む。文中に辰八月付，前田土佐守，長甲斐守，前田伊勢守の署名がみえ，この3人が共に年寄であった期間は享和3年12月18日～文化9年12月15日なので辰年は~~文化5年~~文政3年（斉広襲封の年）。

5055　倹約之義被仰出之写　16.48—80
手写
44丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。内容は，文政3年(1820)～天保7年(1836)の被仰出および関係文書を収む。

5056　来春御馬乗初并御謡初之節御差略方詮議之一件
若年寄方編　16.48—81
文政11年(1828)
29丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。今般格外の御省略につき，人馬数，出費などの節約計画。
旧書名「御馬乗初并御謡初之節御省略方詮議之一件」。

5057　御家老方・若年寄方御省略ニ付簡易ニ可相成品々等大綱しらへ　16.48—82
富田某著
天保3年(1832)
9丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。公用に使う料紙や文書の扱い方の節約方法について記している。

5058　〔倹約方御達添書写〕　16.48—83
手写
1通　17cm
不破順命旧蔵。江戸城西ノ丸手伝普請につき借知を申付けた際（天保9年）の閏4月6日付，勝手方諸事倹約についての達書。

5059　御縮方触留抄　16.48—84
手写
9丁　24cm
幕府の奢侈禁止令と，それを受けた天保12年12月の加賀藩の倹約方達書。寅6月8日算用場よりの油種魚の油移出縮り令，戌8月晦日加賀藩の江戸鉄炮遣禁止令，午7月20日及年月不詳の金沢町への倹約方触書。

5060　〔御触書立写〕　16.48—85
手写
22丁　24cm
内容は，天保14年(1843)の倹約令。嘉永元年(1848)の諸役人江申聞候趣，御借財向御手当方，安政2年(1855)地震について屋敷損所等の覚，諸士風俗につき達請書，その他。

5061　〔省略方申渡并借財向御手当方図り〕　16.48—86
戊申〔嘉永元年(1848)〕
5丁　24cm
御勝手向難渋につき省略方の長大隅守申渡状と御借財向御手当方の図りとからなる。
旧書名「諸役人へ申渡方儀ニ付別紙写」。

5062　〔倹約御触書写〕　16.48—87
手写
1通　12cm
内容は，安政3年(1856)2月の海防方物入り，江戸表変事破損による倹約，支払繰延についての触。
旧書名「御触書写」。

5063　〔倹約方達書〕　16.48—88
安政3年(1856)
2通　15cm　包紙
海防方の物入，去年江戸表大地震にて三御屋敷修理に莫大の入費が要るため，政務の倹約を命じたもので，①御親翰写　②村井又兵衛の書立。いずれも神谷治部の手写と思われる。
旧書名「倹約方御達」。

5064　御倹約筋奉行勤方心得　16.48—89
手写
9丁　26cm
高畠定辟旧蔵。倹約に対する考え方を説き，その中で倹約方の実務的な心得も述べている。

5065　〔倹約之儀に付達書〕　16.48—90
手写
1通　17cm
中川典克旧蔵。7月8日付，家中倹約につき，年寄，家老役への申聞の覚。

5066　〔江戸表御省略方に付心付之趣申達〕　16.48—91
手写
4丁　24cm
中川典克旧蔵。江戸表の御客方，御供御使役の者が御省略方御用兼帯を勤め，答申したもの。御国使者，江戸諸人の風俗，音信物等につき意見を述べている。
旧書名「於江戸表御省略方等之義云々」。

廻　米・払　米

5067　大坂御払米一件　16.48—92
手写　明治17年(1884)
47丁　23.5cm
内題「大坂御払米一件定書帳等」。享保5年(1720)以後，文化期迄の大坂廻米史料18点(目次あり)を収む。天保15年の写本の写。

5068　御廻米御雇舟船頭請合証文并運賃極写帳　16.48—93
手写
12丁　11.5×18cm
成瀬正居旧蔵。内容は，享保16年(1731)の御廻米の運賃米・銀の極。

5069　大坂播磨屋宇兵衛御廻米一巻覚　16.48—94
手写
6丁　24cm
真館与四郎所蔵の写。内容は，延享4年(1747)大坂の納宿播磨屋宇兵衛の廻米請合に関する3通の証文類を収む。

5070　船方掟帳　16.48—95
手写
8丁　12×18cm
文化10年(1813)12月中村宅左衛門・寺嶋蔵人より山田屋市右衛門・泉屋次郎左衛門・木屋又三郎宛に出されたもの。大坂廻米等の廻船方について定めている。

5071　大坂浜役勤方并覚留帳　16.48—96
手写　文久2年(1862)
64丁　12×18cm
井上如苞旧蔵。井上正忠の蔵印あり。内容は，勤方に関する諸規定集で，御用罷越刻限束等覚，入米・蔵廻の取捌き，廻俵の定，指米割合，懸廻し受取方，買手方・普請方の覚，御雇船着船後蔵納迄の諸入用，定例為登米，定入之品覚，登送状の覚，船方掟帳。また末尾に文政12年8月高橋氏詰の節の「覚帳」写などを収録している。

5072　御廻米出船等留帳　16.48—97
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵（天保9年写本）の写。内容は出船方覚書帳など天保9年までの諸種の廻米関係記録を収録したもの。

5073　〔寺井御蔵米川下造用等書上帳〕　16.48—98
手写
3丁　24cm
外題は「嘉永七年寅五月，当年大坂為御登米寺井御蔵御米川下造用等書上申帳」　本吉御蔵日用頭又次郎。
旧書名「大阪為御登米寺非御蔵御米川下造用等書上申帳」。

5074　〔越前国廻米欠請負升廻仕用帳〕　16.48—99
廻船御用達茑屋久兵衛代平三郎著
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24cm
真館与四郎所蔵の写。卯正月廻船御用達茑屋久兵衛代平三郎の書上げ。内題「越前国江戸大坂御廻米欠請負船頭受取方并廻着之上相渡候致方之覚」。

旧書名「越前国欠請負升廻仕用帳」。

5075　〔御払米代勘定帳類〕　16.48—100
明治２年(1869)
４冊・２通　24.5cm　袋入
①御払米代本勘帳　巳(明治２)３月晦日，佐野屋久太郎
②（産物方へ過銀上納の覚）巳３月20日，佐野屋久太郎
③御払御米代等惣勘定書上申帳　明治２年３月，地頭町村平八
④（給人米払代銀の覚）巳３月，松任屋忠兵衛（金沢十間町）
⑤御払米代銭附帳　明治２年３月，佐野屋久太郎
⑥御払米決算帳　巳７月。
旧書名「御払米代本勘帳」。

貨　　幣

5076　銀座一件　16.48—101
前田家編輯方手写　明治年間
87丁　23cm
目次は下記のとおり。
○古来ヨリ銀座勤方并銀座旧記（寛永４～安永元年，森下森八所蔵の写）
○銀座定書一巻追而得与可相調理（万治３～享保４年，森下森八所蔵の写）
○銀座濫觴等，天秤座四ヶ所惣賃指上申御帳面目録（寛永元年），御分国中朱染紙封之分（寛永18年），銀座江相渡り候本多安房守様等御定書写(元禄８年)（片岡孫作取出の写）
○銀座代々（元和５～安政７年）
○安永４年乙未７月御尋ニ付町年寄次郎兵衛へ差出候書（先年ヨリ銀座相勤候人々，元和５～安永４年，追加寛政３年まで）
○金府宝鈔一年民乱記（宝暦６年８月，池田貫平所蔵の写）
○銀仲札と正銀引替座御仕法一件（天保４年２月，岡部七左衛門所蔵の写）
○銀座勤方帳（天保９年10月，金屋彦四郎所蔵の写）。

5077　貨幣大概　16.48—102
前田家編輯方手写　明治年間
77丁　23.5cm
○慶長金銀吹替ヨリ元文元年文字金銀吹替迄ノ大概相場ノ覚書
○銀替御引替等旧記（正徳６～元文２年）
○宝暦６年銀札治乱抜萃（原題「銀札日記」加州宮腰龍文堂官康著）
○於千葉秋（内容は宝暦６年銀札騒動を扱う）
○銀座御定書等（寛永４～安永元年）
○後藤四郎兵衛分銅相改候仕法之写并相渡候紙面之写（宝暦８年）
○古銀為引替銀座相回候一巻（宝暦９年）。

5078　三州銀座入払留　16.48—103
前田家編輯方手写　明治年間
128丁　23.5cm
明暦３年(1657)から享保19年(1734)までの加越能三州の銀座の各年分の収支算用状を収録。
旧書名「加越能三州銀座入払留」。

5079　〔古金銀引替令等請書〕　16.48—104
巻子１　17cm
中川典克旧蔵。
○丁丑(元禄10年1697)４月13日付，古金銀引替の触と組頭連署請書。
○丑６月付，新金弐朱判通用の触と組頭連署請書。
○閏８月２日付，金沢町古着・古金買縮りの触と組頭連署の請書。
○閏８月２日付，同上の触と大工その他の連署請書。
○閏８月２日付，同上の触と野崎弥兵衛等４名の請書。
旧書名「古金銀新金銀引替に関する触書」。

5080　古銀座留帳抜書　16.48—105
前田家編輯方手写　明治年間
45丁　23.5cm
森下森八所蔵の写。内容は，元禄16年(1703)～享保３年(1718)の記事。

5081　朱封銀引替記　16.48—106
森田平次手写

25丁　23.5cm
内容は，享保16年(1731)金沢城附金15万両を幕府が借用につき上方へ登せた件，およびその朱封銀を丁銀豆板と引替えた件についての記録で，朱封銀引替記，朱封銀引替勘定帳より成る。

5082　〔銀札貸渡之覚〕　16.48—107
手写
1通　24cm
今度銀札発行につき家中へ貸渡の触。10月付。宝暦5年(1755)のもの。
旧書名「御貸銀之覚」。

5083　宝暦五年留帳　16.48—108
町年寄八左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
宝暦5年(1755)の金沢で銀札遣いが行なわれた際，正銀引替の主附に任ぜられた町年寄八左衛門の覚書。

5084　〔銀鈔指止めに付達書〕　16.48—109
手写
2通　17cm
宝暦6年(1756)銀札発行停止の際のもの。
○丙子7月25日付，銀札指止の触
○丙子7月25日付，銀札指止および御召米の触
旧書名「御領国通用銀ニ付御達」。

5085　銀座諸事覚書　16.48—110
前田家編輯方手写　明治年間
119丁　23.5cm
森下屋所蔵の写。宝暦11年(1761)9月森下屋八左衛門が銀座役を任命されてから，明和5年(1768)までの役方覚書。

5086　三州銀座諸入用書　16.48—111
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　24cm
元文元年(1736)から明和8年(1771)までの各年分の加越能三州の銀座の諸入用書。金沢・六ケ所銀座の封賃銀高に対して，扶持銀・銀見給銀・諸入用の払方の銀高を書上げている。正徳元～5年(1711～15)分も収録。「三州銀座入払留」(特16.48—103)に続くもの。

5087　銀座等封賃銀留　16.48—112
前田家編輯方手写　明治年間
69丁　23.5cm
内題「安永四年ヨリ天保十四年迄金沢両銀座并遠所六ケ所封賃銀請払之事」とあり，安永4年(1775)より天保14年(1843)までの各年分の請払状を収録。遠所六ケ所は小松，七尾，宇出津，今石動，高岡，魚津の銀座。

5088　古判金潰引替之儀等雑留　16.48—113
御勝手方編
手写　文化7年(1810)
8丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方蔵印あり。内容は，閏11月4日に判金潰引替に関する古文書3通を提出した際の留書で，内容は，鴻池吉左衛門より手代権蔵へ渡した覚書(霜月21日付)及びその返書(11月22日付)，後藤勘兵衛より鴻池吉左衛門宛の覚書(11月22日付)。

5089　銀札并災事記　16.48—114
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24.5cm
「一丸諸事記」からの抜粋。内容年代は，文政6年(1823)～明治2年(1869)。

5090　〔箱館通宝通用に付触〕　16.48—115
手写
3通　16.5cm
閏5月付の公儀触および別紙の写。箱館通宝は安政3年(1856)に発行。閏5月から安政4年の触であることがわかる。
旧書名「箱館通宝之定」。

5091　〔銀手形御取扱一件〕　16.48—116
手写
1通　15cm
払米10万石又は9万石の代銀を銀手形と引替える2つの案を記した内々の意見書。

5092　御引替所御仕法　16.48—117
手写

10丁　12×17.5cm
家中，百姓町人への手形銀貸付などについての御引替所の仕法書，および申～巳年の10年間の各年出納総計と午年に改訂した総計を記している。

5093　金銀品位価附表　16.48—118
1枚　53×24cm
享保金等16種類の金貸と古南鐐銀等7種類の銀貨について，惣目形，正味金銀目形，潰シ値段，引替相場，双替見競を表示したもの。

収　　支

5094　御入用銀中勘等両種　16.48—119
手写
46丁　23.5cm
内容は，御領国江戸京大坂御入用中勘図（延享4年，1747），御入用銀大概書（天明8・9年，1788・1789）。

5095　御入用壱ケ年分大概御図方帳　16.48—120
田辺是頼手写
25丁　12.5×17.5cm
宝暦4年(1754)7月原本成立。内容は「惣御入用中勘図」「毎歳御取箇銀納大概図り」「御要脚図目録」「宝暦六年ニ御倹約之義就被仰渡候諸役人中より指出候紙面写」「御倹約方土佐守殿より御渡御紙面」。

5096　御貯用銀并格別御詰米入払之覚帳　16.48—121
手写
5丁　16×23cm
成瀬正居旧蔵。内容年代は，天明8年(1788)，寛政元年(1789)。「申年ヨリ酉三月迄江戸表御仕送り大坂より之手繰之趣中勘図り」(申10月)，「御貯用米銀之覚」，「御詰米入払御次江書上候帳面之写」(天明8年10月，12月算用場提出)，「別段御詰米入払之覚」(寛政元年)。

5097　御在府・御留守壱ケ年分江戸御入用大概書　16.48—122
11丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。天明8年(1788)のもの。
旧書名「江戸御入用大概書」。

5098　御入用帳付札之写　16.48—123
8丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方蔵印あり。天明9年(1789)正月～12月分。酉正月付，山口小左衛門，田辺五郎より前田土佐守，洋田修理宛。

5099　江戸御入用入払本勘指引覚　16.48—124
御勝手方編
3丁　23cm
宇野富良旧蔵。天明9年(1789)正月付，天明8年分の収支計算書。

5100　〔御勝手御払方大綱図〕　16.48—125
7丁　24.5cm
前田貞醇旧蔵。寛政2年(1790)7月付で勝手方の入用不足を勝手方（村松は御算用者小頭）より算用場奉行へ，さらに年寄（前田図書は家老兼若年寄）へ進達した書類写で，来3月までの三都入用・国元入用の中勘図りも載せている。

5101　御米図帳　16.48—126
御米所編
寛政5年(1793)
5丁　23cm
成瀬正居旧蔵。寛政5年収納米入払報告書。

5102　御勝手方御図り書　16.48—127
手写　文化7年(1810)
18丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の書類で，「土州ヨリ借用写也」また「笠間清兵衛ヨリ写候」ともある。土州(土佐守)蔵本を写した笠間本の写本か。内容は，1カ年の入用図りで，乙卯2月付。おそらく寛政7乙卯年か。

5103　雑記　16.48—128
寛政8年(1796)
26丁　12.5×18cm
成瀬正居旧蔵。扶持米，御米入払，三都入用図り，金沢入用，また寛政6年蓮米積などを記した算用場関係の覚書。当時の算用場奉行の1人

成瀬左近種徳の記録か。

5104　御米并御入用御符合図帳　16.48—129
享和3年(1803)
25丁　12×18cm
前田道益旧蔵。内容は，御米図大概，三都御入用図，金沢御入用図，大坂御借銀仕法，大坂調達銀年々御返済方覚。

5105　御かね入払凡図　16.48—130
文化9年(1812)
11丁　12×18cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の書類，文化9年(1812)3月付の12月迄の入払見積り書。

5106　御在府中臨時不時御入用書抜　16.48—131
江戸会所編
23丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。内容は，文化4年(1807)4月より5年3月迄の月ごとの入用項目を記載している。

5107　御帰国御入用しらべ帳　16.48—132
3丁　24cm
宇野富良旧蔵。文化5年(1808)のもの。入用合332貫466匁8分8厘。

5108　〔江戸御入用中勘図帳〕　16.48—133
江戸会所編
文化7年(1810)
2冊　23.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。
①「文化七年正月ヨリ同年三月迄御入用中勘図帳」
②（文化7）「当四月ヨリ同六月迄御入用中勘図帳」。
旧書名「御入用中勘図帳」。

5109　〔江戸御入用中勘図帳〕　16.48—134
江戸会所編著
文化7年(1810)
11丁　23cm
宇野富良旧蔵。表題「午七月ヨリ同九月迄江戸御入用中勘図帳」。午5月付で江戸会所より算用場へ宛てた各月別の支出見積り書。御勝手方の帳面。

5110　御図方之覚　16.48—135
辻・具足屋・辰巳屋著
手写
13丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。文化7年(1810)6月付で，同年5月～12月分の江戸入用について支出大略を見積り，不足銀3744貫匁余のうち1000貫文の御国より振替を願ったもの。

5111　御米図帳　16.48—136
文化7年(1810)
2冊　23.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の書類。
①文化7年12月26日「御米図」。朱字で「来未ノ春大坂御廻米等正実図り，林弥四郎等ヨリ出之」とあり
②「文化七年分御米図帳」。朱字で「当暮御米図段々僉議之上前々与調方致相違候，以後此通相図申筈之由御算用場奉行申聞」とあり。

5112　御図方之覚　16.48—137
9丁　24cm
原題「当未年中凡御図方之覚」。宇野富良旧蔵。文化8年(1811)の江戸御仕分等御金入払積り書。

5113　〔御参府以来臨時不時御入用調帳〕　16.48—138
25丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。文化8年(1811)8月付。内容は3月～10月の月別に項目，金額を記し，ついで「未十一月中臨時渡りしらへ帳」「未十二月中臨時不時御入用しらへ帳」「申正月中臨時不時御入用しらへ帳」を収む。

5114　御図方之覚　16.48—139
5丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。文化8年(1811)6月～9年5月迄の入銀，内払を大まかに見積ったもの。江戸入用分であろう。

5115 〔御入用中勘図帳〕 16.48—140
江戸会所編
2冊 23cm
原題「御在府未七月より同九月迄御入用中勘図帳」。宇野富良旧蔵。文化8年(1811)7月～9月迄の江戸会所必要経費の見積り書。御算用場宛。

5116 〔御払高等調理入御覧候控等〕 16.48—141
手写
3冊 12×18cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。
①御払高等調理入御覧候控
②御払高等調理入御覧候後御払方等調理書控
③（文化9年）正月江越金御在高等大概調理入御覧候控
①②は文化8年(1811)12月17日に戸田与一郎が提出したものの控。与一郎は勝具，当時組頭並500石，御近習御用　③は9年正月4日提出の控。

5117 〔江戸御入用中勘図帳〕 16.48—142
江戸会所編
5丁 12×17.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。表題は，「申四月ヨリ同六月 迄御入用中勘図帳」（文化9年—1812)。
旧書名「御入用中勘図帳」。

5118 御在府中御入用中勘図帳 16.48—143
8丁 12×17cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。文化9年(1812)2月作成。同年9月より10年3月迄の入用見積りで，定式の御入用・定式同様の不時御入用并臨時不時御入用に分けている。
旧書名「御在府中御入用勘図帳」。

5119 御留守中御入用中勘図帳 16.48—144
7丁 12×17cm 袋入
宇野富良旧蔵。御勝手方蔵印あり。文化9年(1812)4月～10年8月迄17か月間一括の入用大概の見積り書。

5120 御留守中御入用中勘図月割 16.48—145
2丁 12×17cm
宇野富良旧蔵。御勝手方蔵印あり。文化9年(1812)4月～10年8月迄，月毎の総計を記載している。

5121 御在府中御入用中勘月割 16.48—146
1丁 12×17cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。内容は，文化9年(1812)2月作成。同年9月より10年3月迄の入用総高を月別に見積ったもの。

5122 文政年中御符合之御詮議ニテ諸向減銀調帳 16.48—147
御符合所編
前田家編輯方手写　明治年間
14丁 25cm
成瀬氏所蔵の写。内容は，文化14年より文政2年迄3ヵ年平均入用高。文政8年より減方詮議の品々，減方無之分・詮議中之ケ所などを調べ書上げたもの。

5123 〔御算用場米高図り書写〕 16.48—148
村井某著
手写
5丁 12×18cm
内容は「文政八年乙酉十一月廿四日御算用場より左之品出之」，「酉十一月并苛図来三月迄当座無理弁之凡図」。いずれも算用場提出の財政見積り書。
旧書名「御算用場留書」。

5124 御勝手〔方〕調理帳 16.48—149
御勘定奉行編
安政3年(1856)
16丁 24.5cm
内容は，銀高の書上げで，「御上納等壱ケ年分惣出高」「祠堂銀」「別段御調達銀無御拠分」「当時御定之分」「御収納方」（米高）の項目に分れている。

5125 〔御図り書〕 16.48—150
手写
2通 16.5cm

①26万6400石の内から家中，改作方等への支出，借財返済を指引きした計算
②地盤方への支出等を指引きした計算。

5126　総物成高并公廨入費藩債高等調理帳　16.48—151
金沢藩編
明治4年(1871)
14丁　23.5cm
内容は「甲子ヨリ戊辰迄五ヶ年平均高」（物成総高とその項目別入費の届書)。「旧領地租税録」（元治元年より明治元年迄の五カ年平均を正租納高，雑租納高に分けて記す)。

5127　昨辰年等御入費部分調理　16.48—152
理財局編
手写
15丁　24.5cm
岡田梁旧蔵。辰年は明治元年(1868)。その総入用高と，学政軍政寮向，民政会計寮向，家知事向，刑獄寮の部分の入費大綱，辰年一作の諸払，地廻・東京・大坂の借財を記し，また定式御払方中勘積りを記している。

5128　明治二年分歳入租税等調理　16.48—153
手写
19丁　24.5cm
郡ごとの高，定納口米，小物成，諸助成米，貸米，御蔵町蔵数，村数の集計を記す。
旧書名「歳入租税等調理」。

5129　御財用常度分配等仕法大綱　16.48—154
理財局編
手写
4丁　24.5cm
内容は，明治2年5月作成の「御入箇出納分配之仕法」。

諸役所収支・勘定・買物

5130　〔御土蔵金銀入払帳〕　16.48—155
手写
7丁　27cm
成瀬正居旧蔵。享保11年（1726）～延享4年(1747)。原題「御土蔵ヨリ御出被遊候金銀之内大坂ニ而為御登米払代銀之内を以御土蔵江納返可申分入并御国江相越候員数記候帳」。

5131　御祝儀御能并御家中振舞御入用覚　16.48—156
1通　15cm
宇野富良旧蔵。内容は，延享5年(1748)2月晦日付で提出した入用大概の見積り書。
旧書名「御祝儀御能并御家中御振舞御入用留」。

5132　深川御蔵米調べ帳　16.48—157
文化8年(1811)
3丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。文化7年分，江戸深川御蔵米の入払い覚。

5133　御作事方不時御入用銀請払帳　16.48—158
御作事所編
文化8年(1811)
5丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。文化7年正月～10月の請払の報告(8年正月付)。建物・樋・下水などの修覆費や法事の費用などを書上げている。

5134　御定銀不足等之義ニ付御作事奉行紙面并右図り書写　16.48—159
御作事所編
手写　文化8年(1811)
9丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の書類。金谷佐大夫より本多勘解由宛，未11月付の申達書，および未10月付，作事所提出の「未年分御定銀月割請払大概」より成る。

5135　御作事御定銀減方大綱　16.48—160
文化8年(1811)
2冊　24.5cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。2冊は同内容。作事所管轄の町方大工雇手間料，鳶雇賃銀，日用雇賃銀について各々1割引の額と御入用高を比較して御定銀の減し方を見積っている。

5136　〔割場御用定入に付奉行紙面写〕　16.48—161
割場奉行著

手写　文化８年(1811)
5丁　12×18cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。正月～12月の指定めの買揃物代金，足軽小者詰高減少に付，その代銀の書上。８月20日付割場奉行神保又三郎・羽田要人より本多勘解由宛。
外題・旧書名「割場御用指定リ請取候定入之義ニ付右奉行紙面写」。羽田要人は寛政12年～文化10年，神保又三郎は文化７～10年に割場奉行であった。

5137　割場御貸衣類減之方調帳　16.48—162
割場奉行著
手写
9丁　23cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。足軽，小者，御供方着用の貸衣類の節約方詮議の報告書。未５月付（文化８年か）神保又三郎・羽田要人より本多勘解由宛。

5138　足軽小者并蠟燭料紙等減方帳　16.48—163
文化８年(1811)
7丁　24cm
宇野富良旧蔵。割場より書上げた入用減し方の帳面で，御在府時の足軽・小者の詰人高減少，紙，蠟燭，箒の減少分を計算したもの。御勝手方の所蔵印がある。

5139　〔御台所御入用銀高帳〕　16.48—164
享和４年(1804)
２冊　24.5cm　袋入
宇野富良旧蔵。御勝手方の蔵印あり。２冊で揃。享和４年正月に仕法を改めた時の帳面写。
①御参勤年正月ヨリ12月迄ノ12ヶ月分御台所御入用銀高帳
②御留守年正月ヨリ12月迄12ヶ月分御台所御入用銀高帳。
いずれも各月ごとの支出予算を書出している。

5140　〔御参勤年御台所御入用図り銀高帳〕　16.48—165
文化８年(1811)
19丁　24cm
宇野富良旧蔵。御台所年中入用の見積り書で，正月より12月迄，月ごとに支出項目を挙げて大よその銀高を記している。
旧書名「御参勤年御台所御入用御図リ銀高帳」。

5141　御留守年御台所御入用図り銀帳　16.48—166
文化８年(1811)
17丁　24cm
宇野富良旧蔵。原題「御留守年正月より十二月迄十二ヶ月分 御台所御入用図り銀帳」。文化８年９月付。入用図りを改めた時のもの。

5142　当春以来御細工所御用品々代銀しらべ帳　16.48—167
14丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。年代不詳，３～７月中御細工所で購入した材料等の品物の代銀を書上げたもの。「御国より到来等之品ニ付直段相知ス分」との記載あり。
旧書名「御細工所御用品々代銀しらべ帳」。

5143　〔御廐御入用中勘図り〕　16.48—168
手写　文化８年(1811)
２丁　11.5×17cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。文化８年10月15日より来年３月迄の見積り。

5144　諸色御入用高帳　16.48—169
山本久甫・石橋円水編
手写　文化８年(1811)
5丁　24cm
宇野富良旧蔵。文化８年「当春御待請ヨリ七月迄」の入用品書上げ。品物は炭，灯油，紙，筆，蠟燭，布，たばこ，手水柄杓等々。

5145　御在府中諸色御入用高帳　16.48—170
山本久甫・石橋円水編
手写　文化８年(1811)
6丁　23cm
宇野富良旧蔵。御仕着，紙，筆墨，蠟燭，炭，燈油，たばこ，きせる，桶，柄杓，水瓶，茶碗，火鉢，下駄，草履，草箒等の品々の数量と代金を書上げている。

5146 御用部屋為御用御買上物帳　16.48—171
買手所編
11丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。文化8年(1811)4月～7月分を記す。

5147 御用部屋等へ御買上物書抜　16.48—172
買手所編
15丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。文化8年(1811)8月～11月分を記す。

5148 御用部屋御次御買上物調帳　16.48—173
買手所編
9丁　22.5cm
宇野富良旧蔵。文化8年(1811)12月分，同9年正月分を記す。

5149 江戸表并金沢共諸向雑巾等渡り方調理　16.48—174
文化8年(1811)
4丁　12×18cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。

5150 〔瑛姫様并因幡守様等御出之節惣入用高〕　16.48—175
文化8年(1811)
2冊　12.5×18cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。9月22日瑛姫，10月18日因幡守等が御出の節の入用高を書上げている。2冊の内容は同一であるが，うち1冊は「御上へ指上控」で，末尾文言と11月13日の日付がある。
旧書名「瑛姫様御出之節等惣御入用高控」。

5151 松平阿波守殿等御出之節諸向御入用留　16.48—176
手写
1丁　12×18cm
宇野富良旧蔵。文化9年(1812)2月22日付。御勝手方の帳面。

5152 溶姫君様御住居定式一ケ年分御入用御省略取調帳　16.48—177
溶姫様御用人著
手写
6丁　12×18cm
中川典克旧蔵。内容年代は，天保14年(1843)，溶姫は第13代斉泰の正室。

5153 証文留　16.48—178
諸色所編
自筆　嘉永5年(1852)
61丁　24cm
嘉永5年(1852)～明治2年(1869)の算用場の銀子受取，銀子相渡証文類を写した帳面。

5154 諸切手留帳　16.48—179
御台所編
自筆
350丁　23cm
横山隆起旧蔵。文久4年(1864)～慶応4年(1868)の買物の切手を写して記載してある。

5155 金銀払帳　16.48—180
諸事御用方編
元治元年(1864)
2冊　12×34.5cm
旅宿賃，船雇賃，船積賃，人足雇賃，飛脚賃，蠟燭買上代などの支払い帳簿。両冊はほぼ同内容であるが，下帳と清書の別のため，合計の項目の書き方がちがう。

5156 〔陸蒸気器械類註文約定書写并目録〕　16.48—181
佐野鼎著
手写
2冊　24cm
前田貞醇旧蔵。ポルトガル商人ロレイロとの約定書，製鉄器械大凡値付目録他。慶応2年(1866)原本成立。
旧書名「長崎に於て陸蒸気機械類註文ニ付云々」。

5157 〔艦船修理につきロレイロの書簡〕　16.48—182
ジ・ロレイロ著　田川謙之訳
手写

7丁　24cm
安井頴比旧蔵。慶応2年(1866)の書簡2通。御艦シテヲフヘン号修理等に関するもの。関沢明清宛。明清(あききよ)は，壮猶館で蘭学を学び，文久年中選抜されて江戸へ留学して，江川太郎左衛門，村田蔵六に従う，ついで長崎へも行き，慶応2年藩命でロンドンへ留学，3年後帰国，明治2年致遠館技師，のち内務省，農商務省技師を歴任，水産の保護奨励に力あり，のち自ら漁船を指揮して金華山沖で，わが国で最初に抹香鯨を捕える。明治30年没，55才。
旧書名「ロレイロより関沢明清への書簡」。

5158　〔御城方御内用銀請取状〕　16.48—183
早川磯之丞等著
慶応3年(1867)
1通　24cm
宛名は伊藤友次郎。

5159　御入用金請払帳　16.48—184
糀道方編
慶応3年(1867)
9丁　24cm
慶応3年正月～8月の請払帳。

5160　産物金入払帳　16.48—185
加賀藩長崎店編
慶応3年(1867)
61丁　24cm
内容は，明治元年10月分までについて，まず入方，つぎに渡し方を記載している。

5161　金銀入払帳　16.48—186
大坂加州産物方編
118丁　24cm
慶応3年(1867)～明治元年(1868)にわたり，日付順に入金，渡し金を記した帳簿。

5162　卯年為登荷物払代金勘定帳　16.48—187
大坂加州商法局編
8丁　24.5cm
卯年は慶応3年(1867)。南部大豆，南部〆粕，干鰯，越後大豆，高崎米，南部花折昆布，鯡粕等の売払代金と諸費用を書上げている。

5163　卯年大坂ヨリ下シ荷物控　16.48—188
大坂加州商法局編
3丁　24cm
卯年は慶応3年(1867)。大坂加州商法局が買入れた綿，大嶋黒砂糖，白砂糖，美濃結城嶋代金および運賃を記す。

5164　箱館ニ而啓明丸御船等へ御取替金書上帳　16.48—189
川島村次郎右衛門著
自筆
3丁　24cm
慶応3年(1867)12月，川嶋村次郎右衛門より，産物方宛。慶応2，3年の啓明丸にかかる諸払代金を御下シ米代金などと差引することを求めたもの。川嶋村は穴水か。

5165　去卯年江差表御米代等残金上納方仕訳帳
川島村次郎右衛門著　16.48—190
自筆
2丁　24cm
慶応4年(1868)6月付，次郎右衛門が箱館で作成し朝倉元輔宛に指出した帳面で，貸付金，延売米代を書上げ，差引上納分を計算したもの。
旧書名「江差表御米代等残金上納方仕訳帳」。

5166　去卯年箱館表残金上納方書上帳　16.48—191
川島村次郎右衛門著
自筆
3丁　24cm
慶応4年(1868)6月付，川島村次郎右衛門より朝倉元輔宛書上げ。猪山様御渡金，穂足内御役所へ売上米代金等収入と筒鯡買入代金等支出の明細を記す。
旧書名「去卯年箱館表残金上納方書上帳」。

5167　松前表総勘定帳　16.48—192
川島村次郎右衛門著
自筆
合綴1(13冊)　87丁　24cm　袋入
①卯年分御かね帳写（川島村次郎右衛門箱館店方并江指戻物買入方等之覚）
②秋味等仕切写書上帳（慶応4年4月，浜田屋兵右衛門より中橋次郎右衛門宛，駿相丸文助

宛，勢至丸孫三郎宛）
③去卯年箱館表残金上納方書上帳（慶応4年6月，川島村次郎右衛門より朝倉元輔宛）
④勢至丸買仕切書控帳（明治元年7月，勢至丸次助より中橋次郎右衛門宛，奥書川嶋村次郎右衛門より商法局宛）
⑤勢至丸諸入用之控帳（同上）
⑥卯年冬箱館買入秋味勢至丸売仕切控帳（同上）
⑦卯年分松前表江御廻米売捌代残り金勘定帳（明治元年8月）
⑧穂足内ニ而買請胴鯡等仕切写帳（明治元年12月）
⑨穂足内下シ米売仕切写帳（明治元年12月）
⑩穂足内買入胴鯡等仕訳帳（明治元年12月）
⑪江指表より筒鯡積為登船長宝丸与四蔵難船仕候ニ付御達方往返雑用等書上帳（明治2年5月，川島村次郎右衛門より商法局宛）
⑫所口越中屋邦喜丸為積登自分買鯡代銀仕訳帳（明治2年7月，差出・宛所同上）
⑬明治3年午6月書上帳数控。

5168　江差表御下シ米代金等惣勘定帳　16.48—193
川島村次郎右衛門代八右衛門・新左衛門著
自筆
5丁　24.5cm
明治元年(1868)12月，御産物方宛の書上げ。下し米売払代金とそれの払い方として筒鯡等の買入代金，懸り物，下し米運賃等の内訳を記す。

5169　〔御渡米江差表にて売払仕切表書上帳〕　16.48—194
川島村次郎右衛門代八右衛門・新左衛門著
自筆
5丁　24cm
原題「御渡米三千石之内八百五拾石江差表ニテ売払仕切表書上帳」。明治元年(1868)12月付。

5170　江差表ニ而胴鯡等買入仕切表写書上帳　16.48—195
川島村次郎右衛門代八右衛門・新左衛門著
自筆
7丁　24.5cm
明治元年(1868)12月，御産物方宛の書上げ。筒鯡，鯡〆粕，笹目の買入代金，諸掛り物を記す。

5171　箱館表秋味代金差引帳　16.48—196
勢至丸次助著
自筆
3丁　25cm
明治元年(1868)7月付，勢至丸次助より中橋次郎右衛門宛書上げ。奥書は川島村次郎右衛門より商法局宛。箱館中橋店よりの預り金に対し勢至丸買代金・秋味買付仕切金等の差引勘定書。

5172　於箱館表船代金荷物代金等預覚帳　16.48—197
勢至丸次助著
自筆
2丁　24cm
慶応4年(1868)7月付，勢至丸次助より中橋次郎右衛門宛書上げ。慶応3年11月船買入代金，荷物代金を箱館店太兵衛より請取ったことを記す。末尾に川島村次郎右衛門より商法局宛の奥書あり。

5173　松前表総勘定書上帳　16.48—198
川島村次郎右衛門著
自筆
2冊　25cm
明治2年(1869)5月付，川島村次郎右衛門よりの商法局宛書上げで，明治元年分の御下米売捌代金等に対する筒鯡等購入代金等の払いを記載。他の1冊は同文の控。

5174　松前表御下シ米売捌并筒鯡等買入方総勘定帳
川島村次郎右衛門著　16.48—199
自筆
合綴1（6冊）　44丁　24.5cm　袋入
①去辰年八右衛門松前下り雑用書上帳（明治2年5月，川島村次郎右衛門より商法局宛）
②去辰年松前表御下シ米三千石売捌方書上帳（明治2年5月，差出，宛所同上）
③穂足内御詰合宇津木頬母様御出ニ付御賄諸雑用書上帳（明治2年5月，同上）
④去辰年御下シ米運賃并筒鯡等諸懸り物払方書上帳（明治2年5月，同上）
⑤次郎右衛門京廻り帰国雑用書上帳（明治2年5月，同上）
⑥去辰年次郎右衛門松前下り并福山城下等往返諸雑用書上帳（明治2年5月，同上）。

5175　御下シ米運賃并筒鯡諸懸り物等払方書上帳　16.48—200
川島村次郎右衛門著
自筆
5丁　24cm
明治2年(1869)5月の書上げ。箱館・江指表等への御下し米運賃，スツツ・イワナイ等よりの積登り筒鯡諸懸り物等の金額の書上げ。

5176　松前表御下シ米三千石売捌方書上帳　16.48—201
川島村次郎右衛門著
自筆
5丁　24.5cm
明治2年(1869)5月の書上げ。明治元年分の売捌先，代金を記す。

5177　松前表筒鯡等買入方書上帳　16.48—202
川島村次郎右衛門著
自筆
4丁　24.5cm
明治2年(1869)5月の書上げ。筒鯡・鯡〆粕・笹目等の購入先・代金を記す。

5178　前慶寿丸与三右衛門指引尻上納仕訳書上帳等　16.48—203
川島村次郎右衛門著
自筆
10丁　24.5cm
標目のものと「讃州坂出ニ而買入下り物江指ニ而売捌書上帳」，「讃州坂出ニ而買入下リ物江指ニ而売捌筒鯡買入方書上帳」を収む。明治2年(1869)5月，商法局宛に提出された。

5179　御米代荷物積登目欠弁金取立書上帳　16.48—204
川島村次郎右衛門著
自筆
4丁　24.5cm
原題「去辰年神力丸幾太郎等福山阿部屋伝次郎御米代荷物積登目欠弁金取立書上帳」。明治2年(1869)5月，川島村次郎右衛門が商法局宛に書上げたもの。内容は福山城下阿部屋伝次郎が御米代の方に穂足内で鯡等を受取り，神力丸等で福山城下へ積登したところ，目欠になったので弁金を取立て上納することを記す。

5180　渡銀調理帳　16.48—205
産物方編
自筆　慶応4年(1868)
227丁　24cm
産物・購入品別や商人別，学校・撫育方の役所別，商船や軍艦別などの項目に分けて渡し方を記載している。

5181　暫時預り金入払留〔等〕　16.48—206
加州御米方等編
明治元年(1868)
1丁・2通　12×36cm・16cm・18cm
いずれも「ケット」代の勘定覚で加州御米方の入払留(長帳)と加州産物方役方宛の書出し(2通)。

5182　諸品暫時貸借留　16.48—207
加州産物方編
明治元年(1868)
4丁　25cm
ケット，角寒天の代金を記す。

5183　寒天一条下書　16.48—208
5丁　23cm
寒天の代金上納を記載している。

5184　調理銀帳　16.48—209
大坂加州産物所編
慶応4年(1868)
300丁　24cm
金銭出納の根帳で，金銭の種類や相手別に項目を分けて記載している。

5185　金銭入払帳　16.48—210
大坂加州産物方編
自筆
22丁　24cm
辰(明治元年—1868)10月10日より同晦日迄の正金・札金の収支を記す。

5186　辰閏四月中入払帳　16.48—211
4丁　24cm
「辰閏四月」は明治元年(1688)。辰5月付。
旧書名「入払帳」。

5187 金銭出入算用帳　16.48—212
明治元年(1868)
2冊　24.5cm
①11月分　②12月分。金銭出納帳簿。繰越高を記し，ついで出納を記載するが，日付が前後する例があり，月毎に総収支計算をしている。原簿の下帳か。なお，正金と金札を書き分けている。

5188 御筒代金等出入勘定帳　16.48—213
大阪加州商法局編
11丁　24cm
明治元年(1868)7月より2年7月までの大坂での出納計算簿。

5189 金銭入払帳　16.48—214
金沢藩理財局編
明治2年(1869)
149丁　24.5cm
明治2年7月～9月の間の金子出納の原簿。7月1日現在の繰越高を記し，ついで出納の金額(両目記載)，日付，用途と渡し先を記載して割印を押し，その日ごとに小計を記入している。

5190 金銭入払帳　16.48—215
京都加州産物方編
明治2年(1869)
86丁　24.5cm
明治2年正月～11月分の収支の原簿。

5191 大阪渡銀調理帳　16.48—216
産物方編
明治2年(1869)
45丁　24.5cm
産物方の根帳。内容項目は，商社貸附，利足，打金，渡為替，御財用方，商会根金，七歩金，御買揚御払などに分れている。

5192 御勝手方へ引送り并取替金帳　16.48—217
明治2年(1869)
7丁　25.5×17.5cm
惣指引帳。金札，正金を注記して計算している。

5193 西京御かね出入勘定帳　16.48—218
京都商法局編
58丁　24.5cm
明治2年(1869)6月12日～12月中の出納簿。為替会社出入，御国におゐて引当貸附銭京ニ而返上入，為替御国ニ而振込京渡り，引当等貸附金渡御国ニおゐて返上之分等を記す。

5194 油銭根帳　16.48—219
御仕法方編
21丁　24.5cm
金沢城内等の各役所別の油，炭炭の渡し高など。明治2年頃。

5195 壱歩銀・正金・金札利足会計書上納之分　16.48—220
大阪金沢為替所編
12丁　23.5cm
大阪の金沢為替所より通商方御役所宛の利足正金札上納分の書上げ。明治3年(1870)6月～閏10月分。
旧書名「壱歩銀・正金・金札利足会計書上納之分留書」。

5196 諸事記　16.48—221
金沢藩御財用方編
明治4～5年(1871～72)
420丁　24cm
公用の紙面，証文等諸種のもの118項目を写し記載したもの。その中に廻漕会社の「御定駄賃帳」「早便御定賃銭帳」「御荷物賃銭帳」類の原本も綴じ込んである。出張，運賃関係が多いがまた家禄関係・貸付関係のものもある。

5197 御献上御進物等壱ケ年凡図り書　16.48—222
11丁　12×18cm
前田貞醇旧蔵。江戸・京都・大坂における諸方への献上物概数，値段積り書。

5198 御次為御用神戸蔵人等より取揚候品々調帳　16.48—223
手写
11丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。表紙に「当四月ヨリ同七月迄」

とあり，各月別に諸道具，諸品の値段を記載してある。神戸蔵人は周盛（斉泰の近習，御側用人）か。

5199　御次為御用神戸蔵人より取揚候品々調帳〔別帳〕　16.48—224
手写
7丁　23.5cm
宇野富良旧蔵。表紙に「但別帳之分，御能方ニ候哉」と注記あり。4月より7月迄，月別に品物の値段を記す。

5200　理財局通三口分控　16.48—225
手写
7丁　24cm
内容は，平生出入之通，別御金出入通，新金引替方通の三口に分けて記す。

5201　〔繰越銀等覚〕　16.48—226
手写
4通　16cm
酉7月，申10月付などの藩用米銀の収納計算覚。
旧書名「借銀等覚」。

5202　御勝手方より引送り請取金帳　16.48—227
大坂加州商法局編
1丁　23cm
正金，金札の請取状。

5203　会計局持南京米代指引帳　16.48—228
手写
6丁　24cm
利足出入勘定，雑用金割符ロ。

5204　〔通用銀請取覚〕　16.48—229
伊藤権五郎著
自筆
1通　24cm
亥10月5日付，横山義門宛。

家中扶持・貸付・借知

5205　〔返上銀請取状等〕　16.48—230
6通　24～31.5cm　包紙
①正保3年8月29日　有賀縫殿助宛，路銀駄賃等算用状（黒印状）
②宝暦3年6月4日　所々御蔵古米斗立入用算用状（御算用場印）
③安政5年11月20日　御歩並・御小人頭借上銀請取状（御算用場印）
④文久元年8月21日　打込返上銀請取状（諸方御土蔵印，横山義門宛）
⑤慶応2年3月　調達仕法銀之内借用銀取立請取状（町会所仕法銀方印）
⑥明治2年3月12日　正金八千両送り状（御算用場印，前田源左衛門宛）。
旧書名「借用銀請取書等」。

5206　拝借皆済案内状写　16.48—231
手写
1通　15cm
中村助左衛門等3人が皆済したことの案内状。巳12月25日付，津田次郎右衛門(清長)，服部左源太(可治)，津田源三郎(長政)より中川八郎右衛門(長種)，津田源右衛門(重辰)宛。すなわち定番馬廻番頭より大横目宛。内容年代は，寛文4年～延宝4年の間と推定できる。
旧書名「皆済状」。

5207　〔拝借除知米代銀等返納状〕　16.48—232
中川采女著
自筆　元禄4年(1691)
1通　25cm
元禄4年12月4日付，家木又八，野尻七左衛門宛。
旧書名「除知米代銀之書附」。

5208　〔御算用場御印之物〕　16.48—233
1通　17cm　包紙
9月25日有沢武貞死去につき，当年半収納の定書。未10月2日付，有沢小太郎宛。武貞の没年は元文4年(1739)。
旧書名「御算用場達書」。

5209 〔家中御貸米・指上米・借知等覚〕 16.48—234
手写
8丁 24cm
内容年代は，享保10年(1725)～天保9年(1838)。

5210 御家老若年寄支配方借銀等并除知米之控 16.48—235
手写 享保11年(1726)
22丁 24cm
中川典克旧蔵。内容は，御貸銀所で調べた上納銀，借銀，買懸銀高を家中の人別に記載したもの，「支配除知米蔵所附帳」，安田梅雪の先祖并一類付帳。

5211 〔御寺方等祠堂銭借請申証文帳等〕 16.48—236
御算用場編
寛政10年(1798)
2冊 24cm
宝円寺，瑞龍寺，天徳院等の祠堂銭を算用場借上銀の名目で家中へ貸付けた分について。
①御寺方等祠堂銭借請申証文帳
②御寺方等祠堂金銀借請証文帳。

5212 寛政十年詰人高しらへ帳 16.48—237
文化8年(1811)
21丁 12×17cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。内容年代は，寛政10年(1798)。江戸詰の侍，足軽の人数，馬数をしらべ，その渡り高を計算したもの。
旧書名「詰人高知らべ帳」。

5213 江府中金銀銭〔入払帳〕 16.48—238
黄翟著
自筆 文政12～～13年(1829～30)
32丁 12×18cm
文政12年2月～13年3月迄の個人（家来3人を持ち，その給金も含む）の出納帳で，金銀入払部，銭入払部に分けて記入している。

5214 〔会所銀御貸渡高并他国御使金高等〕 16.48—239
手写
7丁 11.5×17.5cm
横山政和旧蔵。原題「天保十二辛丑三月相改候会所銀御貸渡高并他国御使金高等」。ちなみに，会所銀とは，参勤御供，江戸詰，領外御使，地廻りなどの時に会所より借用する銀子を言う。

5215 交代之節被下方 16.48—240
山崎勘左衛門等著
手写
6丁 24cm
前田貞醇旧蔵。8月付，前田図書宛。「交代之節被下方」「御表向之人々」の2項に分けて手当削減額を見積ったもの。署名人の山崎勘右衛門(隆礼)，篠島権之助(長亮)，富田儀右衛門(一孝)，河野四郎右衛門(通成)は天保頃の筑前守様(慶寧)御付御用の役人。
旧書名「御帰国御供并交代ニテ罷帰候節被下方覚書」。

5216 諸例留 16.48—241
算用方編
手写
107丁 25cm
算用方旧蔵。嘉永4年(1851)～明治3年(1870)の通日用賃銀，足軽の年中御切米，年中役料米，小者の年中御給銀などの文書綴。

5217 御納戸銀勘定帳 16.48—242
寺尾右膳等著
自筆 明治2年(1869)
5丁 23.5cm
納戸銀の子8月越高，近習の人々へ貸附銀利足等を収入とし，貸附銀残高等を支出とした請払勘定帳。

5218 拝借銀証文写 16.48—243
太田安之丞著
手写
1通 24cm
慶応3年(1867)の奥御納戸宛の50カ年賦拝借銀証文。太田安之丞は割場奉行支配の御歩並，切米40俵取。
旧書名「拝借銀覚写」。

5219 会所支配御扶持方御給金相渡帳 16.48—244
手写 慶応4年(1868)
14丁 24cm

内容は，会所支配御扶持方御給金相渡帳，於大坂御合力米并御扶持方米相渡申帳より成る。前者は寺西乙三郎より前田土佐守(直信)宛。後者は北川寛兵衛・榊原三郎兵衛の署名あり。

5220　御扶持方代乗馬飼料代等改　16.48—245
手写
9丁　18×12cm
他国詰人の扶持方などの改正方詮議。

5221　〔西京・東京等御扶持方之覚〕　16.48—246
手写
10丁　24.5cm
西京・大津・大坂・東京に分けて，合計107人分（町人，職人，その他）の扶持方を書上げた案文。表紙朱書によれば，この案は採用されず，「会所支配与於大坂御合力米与申弐冊本文ニ相成候事」とある。

5222　〔川口常吉歎願書〕　16.48—247
川口常吉著
自筆　明治4年(1871)
1通　27cm　包紙
金沢県御用弁掛宛。加賀藩の風聞探索周旋の勤めをしていた常吉が，その後金沢藩より賄料を受けていたが，今般の御改革でも扶助をしてほしいと願ったもの。

領内貸付・取　立

5223　引越御貸米五拾ケ年賦日印帳　16.48—248
諸方所編
134丁　24cm
宝暦4年(1754)～安政元年(1854)の，引越した百姓に対する貸米の年賦返済台帳。

5224　奥郡御貸米五拾ケ年賦日印帳　16.48—249
諸方所編
262丁　24cm
宝暦8年(1758)～明治2年(1869)のもの。

5225　寛政六年以来諸郡御貸米調理〔等〕　16.48—250
改作所編
合綴1（2冊）　33×22cm
租税課旧蔵。「寛政六年以来諸郡御貸米調理」と「諸郡御貸米願高覚」とを合綴。いずれも表形式に記載し，横欄は年代別，縦欄は郡別として米高を記入し，調理帳は寛政6年(1794)より天保4年(1833)迄，願高覚は文政12年(1829)より文久2年(1862)までを記載。
旧書名「諸郡御貸米調理」。

5226　砺波・射水・新川貸附根帳　16.48—251
〔諸方所〕編
自筆
66丁　24.5cm
年賦貸付銀の種類別に，その返上方を文政6年(1823)～明治2年(1869)にわたって記す。

5227　能州四郡延払米取立根帳　16.48—252
御米所編
自筆　文政7年(1824)
88丁　24cm
「但米返上之分」とあり。内容は，文政6年(1823)～明治2年(1869)にわたる。

5228　能州四郡延払米取立根帳　16.48—253
御米所編
自筆　文政7年(1824)
104丁　24cm
「但代銀返上之分」とあり。内容は，文政7年(1824)～明治元年(1868)にわたる。

5229　越中三郡延払米取立根帳　16.48—254
御米所編
84丁　24cm
内容は，砺波・射水・新川3郡の新開，作損等への貸附米返上の記録。文政6年(1823)から明治2年(1869)までにわたる。

5230　能美郡御貸米日印帳　16.48—255
諸方所編
自筆
152丁　24.5cm
内容は，各種の貸米，貸銀の返上分を記入した根帳で，天保11年(1840)～明治2年(1869)にわたる。

5231 河北郡御貸米五拾ケ年賦日印帳　16.48—256
諸方所編
自筆
180丁　24cm
表紙に「三拾ケ年賦」と付記もあり。天保11年(1840)～明治2年(1869)の分を年代と村別に項目を分けて貸付高とその返上方を記入している。

5232 河北郡御貸米日印帳　16.48—257
諸方所著
229丁　24cm
表紙に「拾五ケ年賦，弐拾ケ年賦も在之」とあり，内容は，前号と同様で，天保11年(1840)～明治2年(1869)にわたる。

5233 口郡御貸米日印帳　16.48—258
諸方所編
自筆
210丁　24cm
貸米の対象・種類別に項目を立て，貸高とその返上方を記入しており，天保11年(1840)～明治元年(1868)にわたっている。

5234 砺波郡御貸米五拾ケ年賦日印帳　16.48—259
諸方所編
自筆
206丁　24cm
貸付の種類別に，その返上方を記したもので，天保11年(1840)～明治2年(1869)にわたる。

5235 一作上納根帳　16.48—260
諸色所編
自筆
79丁　24cm
嘉永3年(1850)～明治2年(1869)の諸種の貸渡銀につき，その返納方を記帳している。

5236 町方貸附根帳　16.48—261
諸色所編
万延元年(1860)
100丁　23cm
金沢町の町人約90人毎に，年賦貸附銀の元金，利足の入方を記載した根帳。

5237 能州四郡貸附根帳　16.48—262
諸方所編
自筆　万延元年
132丁　24cm
「六冊之内」とあり，貼紙に「払米等類」とあり。内容は，万延元年(1860)～明治元年(1868)にわたり，貸付金ごとにその返納額を記入している。

5238 砺波・射水貸附根帳　16.48—263
諸色所編
自筆
106丁　24cm
貸付人(村)別に貸金の返上方を万延元年(1860)～明治元年(1868)にわたって記入している。

5239 〔御城方御貯用銀貸附残り元根帳〕　16.48—264
25丁　24cm
前欠。奥書に卯12月28日付，山森数馬より算用場宛の引送りの文言がある。数馬は馬廻1500石の幕末の人か。

5240 〔江州御領分拝借銀等請取状〕　16.48—265
御算用場編
仮綴1(43通)　25cm
内容年代，文久3年(1863)～慶応3年(1867)。
拝借銀返納，冥加銀等の請取状。
旧書名「江州御領分冥加金請取状等」。

5241 江州今津村肝煎長五郎等願書　16.48—266
明治元年(1868)
1通　25cm
今津御役所宛の拝借金返納に関する願書。

5242 拝借金皆済状等　16.48—267
今津村長五郎等著
明治元年・3年(1868・1870)
仮綴1(6通)　24cm
今津村肝煎より今津御役所宛の拝借金皆済状。西京・金沢廻漕方飛脚賃銭書上等をこより綴したもの。

5243 御貸米等書上帳　16.48—268
今津村肝煎新兵衛・同庄左衛門著

自筆　明治３年(1870)
7丁　25cm
元治元年(1864)～明治２年(1869)までの今津村分の貸米返上高，下行米高等の書上げ。今津御役局宛。

5244　御貸米等書上帳　16.48—269
中村町組合頭次郎八・同吉兵衛著
自筆　明治３年(1870)
3丁　25cm
内容は，前号と同種の中村町分。今津御役局宛。

5245　御貸米等書上帳　16.48—270
弘川村肝煎新兵衛等著
自筆　明治３年(1870)
5丁　24cm
内容は，前号と同種。

5246　〔江州今津村拝借銀等覚〕　16.48—271
手写
3通　16cm
今津村の拝借銀返済猶予願，貸米願についての覚，および11月20日付御算用場より改作奉行宛の今津詰足軽の扶持代返上の通知。
旧書名「江州今津村拝借銀ニ付達書」。

借　財・調達金

5247　〔御借入銀調達に付口上書控〕　16.48—272
手写
1通　16cm
丑８月(成瀬正居の考証では寛政５年1793)，借入銀合3,200貫目の調達見込，米値段との関係を記す。
旧書名「御借入銀ニ付口上書」。

5248　〔高野山祠堂金御借用之儀に付詮議留帳〕　16.48—273
成瀬種徳編
寛政７年(1795)
6丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。表題，寛政７年10月「高野山祠堂金御借用可有之ニ付僉儀之趣并御勝手方之人々僉儀之趣等留帳」。藩から50万両借用する場合の，算用場奉行よりの支出，返済の計算見積り。成瀬左近種徳は当時の算用場奉行。

5249　証券写　16.48—274
御算用場編
手写
6丁　24cm
戊午(寛政10年—1798)正月の算用場の書類。内容は，宝暦５年，明和８年書上げの領内寺院の祠堂金銀につき，引足銀，増利足の分を支払うことを伝えたもの。宛所の前田修理は知周，前田内蔵太は孝親，品川主殿は景武で，いずれも当時寺社奉行。

5250　御借金御仕法書等三種　16.48—275
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23.5cm
次の三種を収む。
○大坂旧借済方仕法留，江戸表右同断并新御借金，享和３年10月御仕法一件（木梨の署名）
○御出納拾ヶ年平均図り（天保４年）
○簡見考（天保５年９月）
木梨は左兵衛有慶。享和３年当時は改作奉行兼御勝手方御用。

5251　御算用場奉行懸合之紙面写　16.48—276
江上清左衛門著
手写
巻子１　16cm
宇野富良旧蔵。内題は「御算用場奉行へ指出候紙面写」。江上清左衛門より勝尾半左衛門，九里幸左衛門，辻平之丞宛の財用調達に関する書状３通。６月８日付，６月12日付，６月25日付。江上清左衛門は保校，御馬廻200石，寛政，享和の頃から改作奉行，定検地奉行，御勝手方御用を兼務した。文化８年12月23日大坂に於て没，49才。
旧書名「御算用奉行懸合紙面写」。

5252　大坂表先納等之義ニ付岡田又兵衛等紙面之写　16.48—277
御勝手方手写　文化７年(1810)
15丁　24cm
宇野富良旧蔵。大坂表先納方年賦につき被仰渡

の件につき，岡田又兵衛等４人の意見と見積りを認めたもの。卯９月10日付，10月４日付。岡田等４名が同職にあるのは改作奉行で，宝暦６年５月～同14年２月の間が一緒。また宛所の富永数馬等３人が同職なのは御用部屋で，宝暦８年２月～10年11月が一緒。従ってこの原本は宝暦９卯年の成立か。

5253　新古御借金残高并御当借金しらへ帳　16.48—278
江戸会所編
文化８年(1811)
７丁　12×17.5cm
宇野富良旧蔵。未11月付，江戸会所の書上。内容項目は，新古御年賦金，為替敗金之覚，御当借金之覚。

5254　〔大坂御調達方仕法に付申談方紙面之写〕　16.48—279
手写　文化８年(1811)
４丁　24cm
宇野富良旧蔵。内容年代は，文化８年(1811)。本多勘解由宛の村井又兵衛(年寄)紙面，年寄中宛の御算用場紙面。
旧書名「大坂御調達方仕法之義ニ付村井又兵衛等紙面之写」。

5255　大坂詰人江上清左衛門より来状并奥継返書控　16.48—280
御勝手方編
文化８年(1811)
８丁　24.5cm
宇野富良旧蔵。内容年代，文化８年(1811)。大坂詰人江上清左衛門より本多勘解由宛の大坂での銀子調達に関する書状２通（６月28日付，７月12日付）および返書の写。勘解由は政養，当時家老兼若年寄。

5256　内密御図書等之写　16.48—281
手写
13丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。文化８年(1811)７月の，大坂の辰巳屋平三郎の内存意見書で，内容は，藩の大坂借銀返済方につき暫時延引の図り書および廻米代銀の支払い方についての図り書，当年の御凌ぎ方の図り書など。辰巳屋は具足屋，鴻池屋と共に銀子貸主。

5257　大坂御借財根帳　16.48—282
御勝手方編
155丁　24cm
御勝手方の帳簿。内容は，嘉永４年(1851)～慶応３年(1867)にわたり，項目は御家督之株，平利三ノ一之株，淀利足之株など30に分れて，各々に返済の規定と実際を記載している。

5258　御算用場奉行より指出候惣御借財高等調理帳之写　16.48—283
奥村栄通手写　安政６年(1859)
14丁　11×17cm
内容は「惣御借財安政六未年正月江越残元高調理帳写」(地廻・江戸・大坂別)。「安政五戊午年正月ヨリ十二月迄小払渡調理帳写」。「安政五戊午年正月ヨリ十二月迄御算用場并大坂金銀銭打込入払決算帳写」。「安政四丁巳年江戸入払帳写」。「安政四丁巳新方御土蔵上納しらへ帳写」。

5259　御調達根帳　16.48—284
元治元年(1864)
111丁　24.5cm
３冊のうち１冊のみ。調達銀を出した人名別に利足，年賦などを記載している。
旧書名「御調達銀根帳」。

5260　京都御借財根帳　16.48—285
御勝手方編
自筆　元治２年(1865)
10丁　25cm
借入先別に項目を立ててある。

5261　〔御調達金覚〕　16.48—286
手写
仮綴１(195丁)　24cm
前欠。万延元年(1860)～慶応元年(1865)。江戸・大坂・国元からの調達金，借用金証文又はその写の綴。

5262　西京御調達金証書写　16.48—287
手写

13丁　25cm
金沢藩会計係旧蔵。内容は，万延元年(1860)～明治4年(1871)の藩の借債としての為替金受取・返納手形の写。

5263　別口御縮高代銀御算用場へ御預リ御証文等留帳　16.48—288
手写
33丁　24cm
収納分を改作奉行より勝手方を通じて算用場が借りたもの。内容年代は，万延元年(1860)～明治4年(1871)。

5264　諸向御借入根帳　16.48—289
諸色所編
自筆
2冊　24cm
藩債の根帳で，内容は，①文久2年～慶応4年の借入先（支払先）別に支払い等を記す　②明治2年改高について同4年までの支払い方を記す。

5265　浜方先納口并御家督之口共無利足年賦返済根帳　16.48—290
手写
22丁　24cm
慶応4年(1868)。米中買に対して米代銀之内先納の銀子を納めさせ，引当切米を渡し，来8月中に勘定を遂げるという規定による銀子の勘定帳。天保7年以来の分を計算している。

5266　証文写追而御届可申者交名　16.48—291
手写
8丁　24cm
明治元年(1868)，2年の大坂商人からの古い借金証文の写および七尾県・新川県・他管の部で調査中の証文のリスト。

5267　御用銀上納帳　16.48—292
手写
24丁　24.5cm　天明6年
成瀬正居旧蔵。午6月付。領内町・在の上納者名とその銀高を載せている。

5268　献上金交名帳　16.48—293
手写
21丁　12×36cm
金貨(両)又は銭貨(貫文)で献上した有姓の人々の名簿。献金の目的は不詳。

5269　御家中より指上銀調等　16.48—294
手写
3通　16cm
家中より窮民救方へ指上銀の願，その許可，銀高しらべの覚。

5270　〔調達金利足引下げ願〕　16.48—295
青地伊三郎著
自筆
1通　18cm
辰7月付，算用場宛に，自分の提供した調達金の利足を引下げて御奉公としたい旨を願ったもの。
旧書名「調達金利足ニ付願書」。

5271　御借上金之義ニ付陳情　16.48—296
五十嵐政雄著
手写
5丁　24.5cm
大正5年(1916)，富山県西砺波郡内島村五十嵐政雄より，文化7年の御内用御借上金とその利足を書上げ，償還方を陳情した書類。

預　　所

5272　〔高畠五郎兵衛届書〕　16.48—297
高畠五郎兵衛著
自筆
1通　16cm
横山中務，野村勘兵衛宛。9月21日付。幕府領黒島村での四十物前銀の件につき報告書。宛名は算用場奉行か。両人は正徳3年～享保9年，共に同職にあった。中務は長元，勘兵衛は重成。
旧書名「高畠五郎兵衛口上書」。

5273　宝暦元年御預所御勘定目録　16.48—298
瀬川久右衛門著
宝暦2年(1752)

6丁　24cm
富田権六郎旧蔵。能登の預り所の分（高1万4265石775合7勺）。瀬川久右衛門（豊章250石）は当時御預地御用を勤む。御勘定所宛。
旧書名「未年御勘定目録」。

5274 〔能登国御預所御廻米小廻賃掛リ候村々米高帳控〕　16.48—299
手写
3丁　24cm
寛保2年(1742)。福島左兵衛より御勘定所宛。幕府へ指出したものの控。内容は，安部屋湊，大町湊へ附出した米高とその運賃を村別に書上げてある。
旧書名「能登国御預所御廻米村五里之外小廻賃掛り候村々米高帳」。

5275 村々五拾ケ年賦返上根帳　16.48—300
御預所出納掛編
自筆
188丁　24.5cm
「米銭貸渡帳四冊之内」とあり。また「高山県より引送り分」とあり。能登預り所の村別に項目を立て，安政6年(1859)～明治4年(1871)の各年上納銀高を記したもの。

特16.5 軍事・藩学

特16.50 軍役

軍役

5276 兵賦考略 16.50—1
〔奥村〕栄実著
文政9年（1826）
2冊 27cm
①太閤記所載出軍乃令——「天正十八年関東陣軍役」・「文禄元年朝鮮陣軍役」，江戸軍役御定——「元和二年御定」・「後年御改乃御定二通り・附御扶持方覚」・「慶安二年御定」
②「元和二年本藩軍役御定」よりなる。

5277 兵賦考略 16.50—2
奥村栄実著
前田家編輯方手写 明治年間
38丁 23cm
前号と同じ。

5278 武備 16.50—3
手写
5丁 24cm
大坂の陣に際しての軍役・軍法定めを収録したもの。慶長19年（1614）10月13日の軍令は「加賀藩史料」2編P243に所収。

5279 慶長軍役遺事 16.50—4
前田家編輯方手写 明治年間
仮綴1（70丁） 24.5cm
巻一，二，「軍役人数」巻三「月俸配当附軍役定書」，追考よりなる。貞享元年（1684），村田景慶より慶長の旧録36通（佐久間三左衛門筆記等）が献ぜられ編されたもの。

5280 〔権現様・利常様・光高様御軍役之覚〕 16.50—5
1通 34cm
中川豊克旧蔵。「権現様御軍役之覚」と「利常様光高様御軍役之覚」より成る。知行高別の武具割書上げ。

5281 御軍役次第等 16.50—6
前田家編輯方編
明治年間
64丁 23.5cm
付箋に「片岡孫作写」とあり。
内容は「御軍役次第」（以玉井勘解由所持之本写之）寛永10年（1633），「加賀知行御軍役覚」（同上）元和2年（1616），「定」（同上）（刊本「加賀藩御定書」前編），「大坂御陣大筒之御定」（同上）〔元和元年（1615）〕，「加賀御軍役」（以野村五郎兵衛所持之書付写之），「覚」（同上）軍役に関する覚書。〔寛永元年〕（1624）〕，「覚」（同上）同上・寛永10年（1633），「御旗本御軍役之次第」（以不破平左衛門本写之）寛永10年，「加賀知行御軍役之覚」（同上），「能登越中知行御軍役ノ覚」（同上）元和2年（1616），「大坂御陣大筒之定」（同上），「軍法」（同上）慶長20年（1615）前田利光発布の軍令，「加賀藩史料」第2編所収，「七手御先弓筒頭合印廿一組」（同上），「御先手頭系録」（同上）。

5282 〔御軍役御定等写〕 16.50—7
手写
20丁 23.5cm
原題「元和弐年御軍役御定，万治三年御武道具御書付，延宝弐年御軍用御親翰并御請写」。元和2年9月11日付加賀知行御軍役之覚，能登越中知行御軍役之覚など。

5283 利常公御定御軍器 16.50—8
手写
32丁 23cm
横山政和旧蔵。元和2年（1616）被仰出御軍役。人持組頭七軍以下御定軍役武備定。

5284 〔御親翰帳之内書抜・御軍役〕 16.50—9
7丁 12×17cm
原題「御親翰帳之内書抜且御親翰御請之書抜」。寛文12年（1672）より延宝5年（1677）迄御軍役の趣。高徳院殿以来相伝の御定，弓鉄炮頭役料之事等よりなる。

5285　御親翰之写　16.50—10
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24cm
表紙に「延宝三年（1675）御軍用，御親翰之写，前田直行方ノ留記ナリ」とあり。内容は前号に同じ。

5286　御定書写　16.50—11
富田重貞手写
9丁　6.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。天和2年（1682）11月2日発布の大小将組軍役に関する定書の写し。大小将組江戸表供番・詰番に関する覚書（貞享2年カ）。大小将組頭馬幟及び番頭指物等に関する元禄2年（1689）3月27日の覚書の写し。刊本「加賀藩御定書」後編。

5287　〔大小将組軍役等之定〕　16.50—12
1通　16.5cm
富田権六郎旧蔵。
○「定」大小将一組の人数定等。天和2年（1682），大小将組頭中宛
○「大小将組出立并軍役之事」天和2年，大小将組頭中宛
○「覚」大小将指物等に付，大小将頭中宛
○「御大小将中年頭御礼之事」。
刊本「加賀藩御定書」後編。

5288　軍役内習　16.50—13
手写
29丁　24.5cm
天和3年（1683），江戸表出張の者留守方の事。給知の者軍役の事，嘉永5年（1852），生熊采右衛門組等組分けの事，嘉永6年（1853），四分半役御定，明治元・2年（1868・69），北越戦々功者褒美目録よりなる。

5289　一備軍役　16.50—14
2冊　22.5cm
今枝氏旧蔵。
①「人器・全備」
天和4年（1684）成立。「軍役人数諸役付之覚」「侍大将自分悴者諸役付」「大将自分諸道具」等軍役諸積書
②「軍器」
元禄9年（1696）成立。「備定諸道具」「侍大将自分諸道具」「普請道具」等一備軍用雑器積書。

5290　軍役内帳　16.50—15
前田家編輯方手写　明治年間
67丁　23.5cm
原題「元禄三庚午年六月ヨリ同四辛未年三月マテ内帳之内抜書」。前田貞醇所蔵の写。
安永5年（1776）成立で横山筑後等御用のため留帳改めの時の内帳。

5291　備定人数諸道具之積　16.50—16
有沢致貞著
正徳6年（1716）
8丁　24cm
前田貞醇旧蔵。「七千石人数積」「備定諸道具」から成り，7千石相当の軍役人数，諸武具について考証し書出したもの。

5292　軍役古今通解　16.50—17
有沢武貞著
脇田尚方手写　天保6～7年（1835～36）
8冊　23.5cm
脇田尚保旧蔵。原本成立は享保2年（1717）。
序跋「軍役古今通解自序」「凡例」「軍役古今通解引用之書」「軍役古今通解目録」「軍役古今通解跋」
①「古今軍役通考」「井田丘役日本ノ田地ニ合セテノ積」「日本軍役当法考」「軍勢士農相ル当法考」「役軍器知行高次第当法本元」「当時之知行人数持様考」
②「加陽御軍役私考」「元和二年九月十一日被仰出御軍役」「加陽御軍役通考品々」「加陽御軍役人数高等ノ考」「加陽御軍役起ル所ノ考」「加陽御軍役大中小身当法加減之差」「小身者軍役当法通考」「一万石以上軍役加減当法考」「江戸御軍役之書考」「加陽御軍役人馬高割当法考」「加陽御軍役諸器人高大概」
③「加陽御軍役私考通計」「人夫小荷駄積論之事」「加陽大筒之鉄炮知行当考」「馬一疋入用人四人＝向フ積考并牛一疋ハ人二人ノ入用ノ考」「加陽普請役之考」「与力知軍役之事」

「役料知或役附之者 等之考」「加陽御定江戸詰人高之割考」「飛州高山之城在番人数割考」「江戸詰等馬銀 宿賃銀之考」「加陽御家中知行取春秋出銀考」「江戸扶持方并軍食出様考」
④加陽御軍役実記少々ヲ得ル弁并村田家実書同弁，神尾家実書同弁」
⑤「加陽知行高割軍 役当務私考」「役料知軍役人積」「役附之者有之 時役料知 ト合セテ人高并夫馬積」「徒以下人夫之積」
⑥「軍役人割小役附道具拵度量之弁」「軍役人数小割仕様」「与力足軽入交ル人数小割」「軍器積仕様」「小身者軍器積」「中身役器役騎馬ヲ出ス者軍器積」「大身軍器軍役与 力足軽相交自分ノ馬上等 ノ積仕様」「足軽一組軍器之積」「侍一組軍器之積」
⑦「軍器畢竟備立戦法ヲ基トスル弁」「此軍役積ニ兵船度量ヲ不弁事」「軍役治世 之考并陣場度量之事」。
「日本経済大典」第10巻に載録。

5293　軍役内考　16.50—18
有沢武貞著
手写　安永２年（1773）
23丁　23cm
表紙付箋「加藤恒君所蔵ノ同書ニハ標題ニ飛騨の高山はやり歌 ト記セリ安永二年ノ 写本也」。
享保３年（1718）原本成立。２千石以下の者の軍役人数・役器積書等馬廻リ組頭を対象として記したもの。

5294　軍役内考　16.50—19
田辺正己等著
２冊　24cm
①「二百石軍役内考」享保３年（1718）兼松定位手写　②天明４年（1784）田辺正己著「三百万軍役考」。軍役図りで役当りの人馬・諸具の数量内考書。

5295　全昌武貞問答　16.50—20
富永全昌・有沢武貞編
手写
55丁　23cm
享保20年（1735）原本成立。富永全昌の軍役・軍装に関する質問に有沢武貞が答えたもの。武貞の答えは朱筆でしめす。武貞の覚書４通からなる。

5296　覚　書　16.50—21
富永全昌・有沢武貞著
手写
２冊　24cm
岡田棣旧蔵。原本成立は享保20年（1735）。「全昌武貞問答」と同内容。「四冊之内」とあるのは，武貞の覚書４通からなっていることによる。末尾の宛所は「遠□(田か)数馬」となっている。

5297　軍役内考　16.50—22
富永全昌・有沢武貞著
手写
11丁　24cm
「全昌武貞問答」の一部。

5298　御国御軍役之儀御定云々　16.50—23
手写
14丁　24cm
前書抜「御身代当り之人馬軍器等御しらべ御心寄之為め書記可申由御所望に付不顧推参相調申候」とあり。内容年代，元文５年（1740）。

5299　〔軍役御定〕　16.50—24
手写　文化元年（1804）
12丁　13×18cm
原題「御定・飛州一巻」。高畠定辟旧蔵。
○三州合一四分半役当法（人高割，夫馬高之割等）
○惣軍一統御定之事
○御旗本組出立一統之御定之事
○御馬廻十二組出立并相仰之事
○御馬廻一組御備定役者之事よりなる。

5300　〔軍役に関する願書〕　16.50—25
仙石帯刀等著
１通　16cm　包紙
加藤里路旧蔵。御軍役の役当り武器等用意方に付，仙石帯刀等12名より篠原織部他宛願書。

5301 〔軍役之儀相伺候控〕 16.50—26
天保14年（1843）
2通 16cm 包紙
加藤里路旧蔵。包紙表題「天保十四年卯八月，御軍役之儀今般相伺候」とあり。
①軍役用意方御尋書，寺社奉行三人様宛。末尾に「右卯八月廿三日支配頭まで相達置行之事」とある
②末尾に「右万延元年十一月神善宿之節示談相極候事」とあり，寄合の定日及び服装のとりきめに関する覚書。

5302 御知行当り御軍役内考 16.50—27
上坂平治著
自筆 弘化4年（1847）
13丁 22.5cm
前田貞醇旧蔵。知行高7千石の務むべき軍役について，その軍役小割・算用の私算を著者自らが示したもの。

5303 御軍役品々集書 16.50—28
前田貞事手写 嘉永3年（1850）
55丁 23cm
前田貞醇旧蔵。「人持六番組内習」鈴木藤作旧蔵のものを竹田氏が手写し，嘉永3年（1850）前田貞事が再手写したもの。「軍役当務内習」有沢致貞の竹田氏知行の軍役書控写を嘉永3年（1850）前田貞事が手写したもの。「調練之定」・大野木良之助「目印等之廉図」・「前田将監江組頭より申談等」よりなる。

5304 一組軍役内考覚書 16.50—29
横山政和著
手写
29丁 24.5cm
表紙添書「横山政和方記録ナリ，外ニ絵図添」。異国船防備，一組人高，横山政次郎自分留等，嘉永3年（1850）から安政3年（1856）に至る軍事・軍役関係の日記体諸留。

5305 〔御軍役之儀ニ付各心得方一件〕 16.50—30
手写
13丁 23.5cm
原題「御家老方へ被仰出御軍役之儀ニ付各心得方一件」。嘉永6年（1853），浦賀表へ黒船渡来につき出府一件。

5306 〔御軍役之儀相伺候書取并控等〕 16.50—31
6通 16.5cm 包紙
原題「嘉永六年七月御軍役之儀相伺候書取并控等入，留帳相添」。加藤里路旧蔵。
①神谷治部他12名より前田内蔵助他2名宛，軍役用意方御尋書
②同上控書
③異国船渡来の節の御軍役方伺書
④指物・兵粮等項目書
⑤軍役関係諸帳目録
⑥黒鳴在番の者共心得方に付達書。

5307 〔軍役相伺候ニ付知行附交名帳〕 16.50—32
神谷治部・辻多門編
嘉永6年（1853）
13丁 24.5cm
加藤里路旧蔵。原題「今般御軍役相伺候ニ付同席共知行附交名帳」。
神谷治部・加藤図書・富永数馬・志村直七郎・前田求馬・前田五郎左衛門・前田新之亟・長采男（采女か）・小塚八右衛門・青木新兵衛・横浜善左衛門・小野木主税・辻多門の人高上下，人夫，夫馬，乗馬，鑓数書上。上記13名は寄合組。

5308 〔御軍役之儀重而相伺候留并懸合一件〕 16.50—33
神谷治部編
手写
15丁 12×17cm
加藤里路旧蔵。原題「嘉永六丑年御軍役之義重而相伺候留并懸合一件」。嘉永6年（1853），海辺防備に関する，神谷治部等の願書をはじめとする軍役割計上留。

5309 役高陣列略記 16.50—34
富田貞詳著
嘉永7年（1854）
3冊 24cm 袋入
富田権六郎旧蔵。①役高之外同陣富田多三郎出立略記 ②役高之外同陣富田権六郎出立略記

③役高陣列略記よりなる。

5310 〔軍役雑録〕 16.50—35
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　25cm
「松雲公御夜話」「前田家雑録」「寸錦雑誌」等の軍役関係記事を抄出したもの。他に軍法に関する羽柴秀吉らの朱印状の写も収録。

5311 公儀軍役覚 16.50—36
巻子1　24cm
中川典克旧蔵。鉄炮，持筒，騎馬以下惣人数212人の軍役人数の書上げ。

5312 御軍役定 16.50—37
6丁　27cm
「御先手陰陽二備」「御旅本配置之図」等よりなり，各備・配置毎に人員積りを附す。

軍　装

5313 軍器積 16.50—38
寛文3年（1663）
17丁　12×18.5cm
軍器寄帳，騎馬，中小姓若党等持荷積。

5314 御軍役之儀被仰出之留 16.50—39
手写
80丁　24cm
安永2年（1773）「飛州騒動一巻之内御定書等」，同「御軍粧等之儀奉窺品等御親翰御加筆之留」，「人持軍装定」，延宝3年（1675）「御親翰帳之内覚」からなる。

5315 三十人頭指物之儀覚書 16.50—40
手写
1通　24cm
中川典克旧蔵。元禄3年（1690）出口弥市左衛門・青山甚五兵衛三十人組頭就任に付，指物渡一件覚。

5316 〔新番頭組中共軍粧留帳抜書〕 16.50—41
佐々木左門等著
水原清左衛門・青地藤太夫手写　元禄10年（1697）
巻子1　17cm　包紙
巻首に「元禄十年丁丑五月朔日ヨリ同十二月晦日迄留帳抜書」とあり。指物・羽織・具足等に付申上書，達等留帳抜書。

5317 新番組軍装御定〔等〕 16.50—42
有沢才右衛門著
自筆
仮綴1（3通）　16cm
①新番組羽織の事
②新番組出立の儀に付書状
③新番組羽織の事。

5318 持弓持筒之儀控 16.50—43
前田家編輯方編
明治年間
102丁　24cm
享保10年（1725）・天明元年（1781）・明治期と順次手写。延宝3年（1675）指預鉄炮袋等軍装定等の控。

5319 御馬廻組軍装図解 16.50—44
有沢武貞著
手写
18丁　25cm
横山政和旧蔵。内容年代は享保17年（1732）。御馬廻組12隊の軍装図解。なお別冊として，御軍装御条目書，御馬廻頭江被仰出書，酔韜秘策ありと記す。

5320 御馬廻組軍装之図解 16.50—45
有沢武貞著
手写
10丁　24cm
横山政和旧蔵。前号の別冊図解編。表紙朱書「元本之上書ニハ御馬廻之分軍装略図解。右者享保十七壬子年（1732）五月有沢森右衛門考ト有之」。

5321 御持方足軽大小十組之与力指物覚書 16.50—46
有沢森右衛門（武貞）・瀬川長左衛門著
手写
1通　24cm

中川典克旧蔵。郡弥兵衛組他，江戸御供の組々指物等目印紋定めに付，伺書。中川式部宛。

5322 天珠公御内御用自分留　16.50—47
宝暦3年（1753）
47丁　12×18cm
天珠公は第9代藩主前田重靖。軍装関係の記事を内容とする役方日記。表紙の署名が判然としないが，著者は当時武具奉行加人有沢盛貞か。

5323 賀陽御軍相　16.50—48
手写　文化4年（1807）
23丁　13.5×20.5cm
旗・纏・馬印等定書写。

5324 〔御定軍役武備図解〕　16.50—49
巻子1　19cm
武者奉行以下各組弓前立物・役旗・馬表等図解及各具軍役分担数書。
旧書名「馬表・吹上・小旗等図解」。

5325 先公御代々御定御陣御家中諸武具備考　16.50—50
手写
26丁　23.5cm
人持組頭七軍以下御定軍役武備定。

5326 御馬廻御軍装并人馬割御定之内抜粋　16.50—51
御馬廻頭編
手写
13丁　24cm
文政9年（1826），異国船打払方ニ付馬廻頭組軍装書上。人馬割并役器高等御定。

5327 当藩実制　16.50—52
脇田尚方手写　文政10年（1827）
18丁　23cm
別名「御軍装集覧」。脇田尚保旧蔵。定番頭以下の諸役の指物，合紋等を記す。

5328 御先手弓筒二十一組合紋帳　16.50—53
奥村栄実著
自筆　文政10年（1827）
11丁　27cm
先手弓筒二十一組合紋書。組々合紋配当書。

5329 村井家軍器定　16.50—54
竹下利兵衛著
享和3年（1803）
8丁　24.5cm
加賀藩老臣村井家の旗指物，紋様などの定，雑兵出立鎧印之事，惣足軽出立，歩行壁足軽小頭出立，小将組出立，中小将組出立，騎馬之士出立よりなる。

5330 軍粧方筆記　16.50—55
村井長在編
108丁　12×18.5cm
嘉永4年（1851）「軍粧方之儀ニ付窺之趣写留」。海防・軍役・軍粧の義窺并返答留。

5331 〔軍粧方之儀伺留〕　16.50—56
横山遠江守編
手写
2冊　23cm
原題「軍粧方之義ニ付窺之趣等留」。内容年代①嘉永4年（1851）～6年（1853）②嘉永7年（1854）～万延元年（1860）。異国船徘徊に付御領国海防方の軍装伺等。

5332 御軍装方一件留　16.50—57
成瀬正居編
自筆　嘉永6年（1853）・文久3年（1863）
10丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。嘉永6年（1853）御親翰并御請之写等。

5333 紋槍雛形　16.50—58
嘉永7年（1854）
22丁　7.5×17.5cm
横山政和旧蔵。千石以上の士の槍，纏の型，家紋などを記す。家紋等図の部分は木版，氏名等は墨書。

5334 筑前守様御軍装方書抜　16.50—59
横山政和編
手写
22丁　24cm
内題「筑前守様御軍装一巻書抜」。「式部御後備へ罷出候事」，「御先備別手ニ相成候義も可有之

旨等之事」等15項，安政5年（1858）横山政和書放。

5335　旗本組出立一統之定　16.50—60
手写
通1　16cm　包紙
包紙表題「御旗本出立一統之御定書，先達而相伺候ニ付安政三丙辰年（1856）十月十五日於御城山崎七郎右衛門より神谷治部受取之」。鎗・羽織・弓・役旗等の定，「惣而旗指物等製法定尺於細工所可決之也」とあり。

5336　御軍装調理書　16.50—61
成瀬正居編
自筆　文久元年（1861）
46丁　24cm
成瀬正居旧蔵。「備手組之次第」「行列」「出立」「御武器」「組退之人々数図」等の項よりなる。知行高50石～200石の軍役数および指物・馬印・羽織などの軍装に関し記す。

5337　御軍装方諸事留　16.50—62
寺尾太郎兵衛等編
文久3年（1863）～元治元年（1864）
63丁　24cm
編者の3名，御軍装方主附兼帯となる8月8日よりの御軍装方日誌。

5338　〔軍装図解〕　16.50—63
7冊　31×20cm　箱入
①御軍装御用意物御図解（上）②御軍装御用意物御図解（中）③御軍装御用意物御図解（下）④御軍装荷懺御図解（上）⑤御軍装荷懺御図解（下）⑥御軍装自分拵御図解⑦御軍装御貯用物御図解。箱書「御軍装図解，御内密御用」として大本7冊，小本1冊と記されているが小本1冊は不明。

5339　随筆軍装之事　16.50—64
9丁　10.5×17.5cm
前田栄次郎旧蔵。役旗制式・軍役数等覚。
旧書名「随筆軍装之書」。

5340　御軍装方目録　16.50—65
7丁　23.5cm
藩主，藩士の軍役に関する資料の目録。御軍装方，同御省之品，元方納可被仰付分，軍書，集書目録からなる。

5341　軍役内考秘書　16.50—66
37丁　24.5cm
横山政和旧蔵。「御横目御使番御軍装御定」にはじまり，各役職に応じて軍装（指物，羽織等々）の基準を記したもの。

5342　惣御軍粧御条目　16.50—67
手写
47丁　23cm
脇田尚保旧蔵。御親翰を以て下げ渡の御軍装御定留。

5343　御馬廻頭馬印等　16.50—68
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。御馬廻頭他各役馬印等の地合寸法製方并軍役定。

5344　先手弓筒二十一組合紋帳・同組々配当書　16.50—69
前田家編輯方手写　明治年間
4丁・図1枚　25.5cm・50.6×44.5cm　包紙
前田土佐守組等人持組七軍の改正相紋帳，内容年代は文政10年（1827）。

5345　陣羽織図　16.50—70
巻子1　28cm
中川典克旧蔵。84種の陣羽織の形・色彩・紋の図柄が記されている。

5346　〔組別定紋図〕　16.50—71
1枚　23×39.5cm
前田土佐守組等人持組七軍合紋書。

5347　指物合印等之定　16.50—72
123丁　27cm
御奥小将指物之麾・役旗之麾等，各役の指物・羽織等の色，寸法規定。

5348 諸旗指物等之図　16.50—73
107丁　24cm
横山政和旧蔵。定番頭馬験以下指物・馬印等図解。

特16.51 戦　　役

末森の役

5349 末守記　16.51—1
岡本慶雲著
手写
48丁　27cm
旧佐々成政家臣岡本慶雲が越前藩士長見右衛門尉に送ったもの。「加州越中取合の様子日記にまかせ書付申候」とあり。

5350 末森記　16.51—2
岡本慶雲著
55丁　24cm
前号に同じ。

5351 末森記　16.51—3
64丁　24cm
別名「利家利長記」。前号に同じ。

5352 末森記　16.51—4
岡本慶雲著
手写
45丁　24cm
全文振仮名付き。末森合戦軍記。前号に同じ。

5353 末森記　16.51—5
岡本慶雲著
前田家編輯方手写　明治年間
56丁　23cm
前号に同じ。

5354 加越能軍記　16.51—6
岡本慶雲著
前田家編輯方手写　明治年間
41丁　23.5cm
別名「末森記」。村松修平所蔵の写。前号に同じ。

5355 能州末森記　16.51—7
岡本慶雲著
手写
52丁　15×18.5cm
今枝氏旧蔵。附「江州志津嶽合戦聞書」。奥書に「此書村井家ニテ編タルト云」とあり。

5356 能州末森御城の事　16.51—8
13丁　24.5cm
横山隆幹旧蔵。「末森記」を底本とした要約記。附「越中利波郡木舟大地しんの事」。

5357 末森後詰始末抜書　16.51—9
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　24cm
末森合戦の顚末を中心として，天正13年(1585)利長が越中三郡を賜うところまでを記す。

5358 末森御後巻始末　16.51—10
25丁　23 5cm
久徳猷行旧蔵。末森戦記。

5359 紀末森赴援事　16.51—11
永山近彰著
前田家編輯方手写　明治年間
23丁　24.5cm
末森赴援書巻目録。末森役将士年令考，高徳公事蹟大略からなる。

5360 〔加賀越中境諸城里程図〕　16.51—12
手写
絵図1枚　35×47cm
天正12・13年（1584・85）頃，佐々成政と対陣した時の加賀，越中境の諸城までの距離を，津幡の小城山を基点として記す。旧書名「加賀越中境取出里程図」。

5361 能州末森城跡之図　16.51—13
脇田尚方著
自筆　文政12年（1829）
絵図1枚　彩色　28×39 5cm
脇田尚保旧蔵。俯瞰図。

5362 〔末森古城之図〕 16.51—14
絵図1枚　彩色　55×70cm
原題「羽喰郡末森古城之図」。末森城郭跡図。

5363 〔末森後詰之図〕 16.51—15
絵図1枚　彩色　30×70cm
原題「能州後詰之図但末守」。高畠定辟旧蔵。佐々・神保・前田利家の各陣位置を記す。

5364 〔末森合戦絵図〕 16.51—16
絵図1枚　彩色　41×69cm
当時の地形に引合せて違いがある旨の注記がある。

5365 末森古図 16.51—17
絵図1枚　彩色　46×105cm
前田貞醇旧蔵。

5366 末森図 16.51—18
絵図1枚　彩色　24×36cm
末森城と周辺絵図。

5367 末森問答 16.51—19
維貞手写
14丁　23cm
別名「末森評」。巻末「予此本ヲ写テヨリ年アリ今玆更ニ一本ヲ得タリ因テ校正シテ朱ヲ加フ者也，天保八年九月廿八日，維貞」軍学的見地からの末森合戦問答書。

5368 能州末森并大坂御陣覚書 16.51—20
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24cm
前田直行所蔵の写。末森合戦以来の功労者書上等末森合戦，大返陣諸覚書。

大聖寺・浅井畷の役

5369 山口記 16.51—21
今枝直方手写
37丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。慶長5年（1600）8月前田利長が山口宗永を大聖寺城に攻め亡ぼした始末記。

5370 山口記 16.51—22
手写
43丁　24cm
別名「菅家要録」。

5371 山口記 16.51—23
手写　明治19年（1886）
44丁　23cm
藩士岸秀実所蔵の写。

5372 〔菅家要録〕 16.51—24
58丁　27cm
原題「菅家要禄大正寺浅井縄手軍記」。別名「山口記」。慶長3年（1598）豊臣秀吉薨去より慶長19年（1614）前田利長薨去までを，大正寺城山口宗永との戦役を中心に記す。

5373 大正持御陣覚書 16.51—25
手写
14丁　23cm
青地順行所蔵の写。前田利長の大聖寺城攻略について記す。

5374 大聖寺陣覚書 16.51—26
手写
13丁　23cm
脇田尚保旧蔵。前号に同じ。他説もあわせ付す。

5375 大正持軍記 16.51—27
13丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。前号に同じ。

5376 大正寺・浅井表聞書 16.51—28
関屋政春著　有沢永貞編
今枝直方手写　元禄15年（1702）
22丁　20cm
今枝氏旧蔵。巻末「右一部ハ関屋政春カ古老トモニ聞テ侄也弟子ナル有沢俊貞ニ語ケルヲ有沢自筆ヲ以書記テ政春ニ見セケルニ政春自筆ニテ此彼加筆セシ本ヲ有沢秘蔵シ置テ予ニ貸乞仍染白毫写之…」とあり。

5 377　浅井畷聞書　16.51—29
24頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。浅井合戦記，附那谷寺并御幸塚由来之事，小松近辺所々由来之事よりなる。

5378　加州浅井繩手覚書　16.51—30
成田半右衛門著
手写
6丁　25cm
青地順行所蔵の写。正保4年（1647）丹羽氏の臣として浅井の役に従軍した成田半右衛門より安彦左馬助に父左馬助の戦功を書き送ったもの。

5379　〔浅井畷合戦之容子書付〕　16.51—31
若杉村八郎兵衛著
自筆　寛政9年（1797）
1通　25cm
付箋「慶長五年庚子八月九日能美郡浅井繩手ニ而御合戦之容子承伝候趣等同郡十村若杉村八郎兵衛書付寛政九年丁巳十月四日御郡奉行宮崎蔵人差上御留置」。

5380　能美江沼退治聞書　16.51—32
森田平次手写
126丁　23cm
大聖寺，浅井畷二役を中心とした聞書。利長公従大坂帰国之事より利長公御隠居御督之事まで14項よりなる。

5381　浅井繩手合戦略記　16.51—33
津田道賢著
元治2年（1865）
20丁　24cm
早崎信太郎旧蔵。序文抜「関ケ原合戦略譜ハ永貞師ノ選フ所タリ故ニ是ヲ本トシ牧忠輔ノ筆記ヲ加エ予見聞ノ趣ヲ其侭ニ記シ猶愚評ヲ挙テ浅井繩手合戦見聞略記ト題シ置者也」。

5382　西台渉筆　16.51—34
前田家編輯方手写　明治年間
73丁　23cm
斯波蒂旧蔵。大聖寺役，陵大聖寺，公低南越俄然帰軍，浅井畷苦撃，浪速役并法令よりなる。

5383　小松軍談　16.51—35
36丁　20cm
丹羽軍側からの浅井繩手戦始末記録。内容は，利長と長重結恨之事，小松篭城之事，南部・長原喧咄之事，小松要害之事付山口玄蕃事，利長攻大聖寺付長重後巻之事，小松勢蒸付出口女房之事，浅井畷合戦之事，和睦之事からなる。

5384　五武志　16.51—36
有沢永貞編　今枝直方増補
手写
12丁　20cm
別名「浅井繩手迫合略志」。小松軍談等，諸浅井畷合戦記の中より抜萃編纂。

5385　丹羽家譜伝・大聖寺浅井畷之戦　16.51—37
手写
2冊　24.5cm
2冊とも同じ内容，前半は「丹羽家譜伝」として大聖寺，浅井畷の戦について記述，後半は「丹羽家譜伝古案」として関連文書の写を収む。内1冊は津田直温旧蔵のもの。

5386　浅井畷合戦之記　16.51—38
前田家編輯方手写　明治明治年間
7丁　23.5cm
「軍功夜話抜書」。巻首抜「加州小松浅井畷の合戦諸書ニ記といへとも誤り多し我成田助九郎ニ逢ひ直談を聞しによって爰ニ記す」。

5387　浅井畷合戦記纂　16.51—39
前田家編輯方編
明治年間
25丁　23cm
丹羽加賀守奉納軍記，浅井畷合戦覚書（大領村藤右衛門家伝），浅井畷戦没九士之碑（平安皆川愿撰），加州浅井戦図覚書（牧忠輔著）よりなる。

5388　浅井畷古戦場之図　16.51—40
手写
絵図1枚　彩色　25×18cm
安井顕比旧蔵。古戦場周辺の図。

5389 〔浅井畷合戦に関する図等〕 16.51—41
絵図3枚　彩色　95×106cm
①加州浅井図并覚書
②小松浅井縄手之図（26.5×74.5cm），鳴田孝郷旧蔵
③浅井縄手合戦地図（69×97cm），高畠定陣旧蔵。

5390 浅井縄手之図 16.51—42
絵図1枚　彩色　48.5×73cm
前田貞醇旧蔵。

5391 〔浅井縄手辺図〕 16.51—43
絵図1枚　彩色　34×43.5cm　袋入
原題「能美江沼浅井縄手辺図」。脇田尚方旧蔵。袋書に「国事秘笈絵図部」とあり。

5392 浅井縄手小林秀備等墓所之図 16.51—44
手写　寛政6年（1794）
絵図1枚　25×37cm
伊子文章旧蔵。墓碑名考を付す。

大　坂　の　役

5393 大坂御陣御軍制集書 16.51—45
手写
30丁　23.5cm
別名「慶長十九年以後御軍制集書」。脇田尚保旧蔵。
内容は，御領国所々城代并役付之事，利光大君御軍制拾五箇条之事，大坂御陣之刻諸士出鉄砲之事，同所打死之衆交名，大坂表御出動御備定之事，同日帳之写，三州軍御定，御軍粧御定少々并(大)坂表戦死名前少々。

5394 大坂陣軍法聞書 16.51—46
手写　文化12年（1815）
30丁　23cm
内題「慶長十九甲寅季摂州大阪江利光公御出勢之聞書并藤原氏武備聞書」。

5395 大坂御陣御軍法聞書 16.51—47
久徳尚善手写　天保4年（1833）
16丁　24cm
中納言利常公大坂御出勢之事，御出陣軍役御定，御軍法之定，摂州大坂表にて働有之面々からなる。

5396 慶元大坂御陣記 16.51—48
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　23cm
別名「慶長元和摂州大坂御陣黄門公御進発之記」。加藤里路所蔵の写。利光公御軍制十五箇条之事，以下8項からなる。

5397 大坂御陣御役附 16.51—49
32丁　12×18cm
慶長19年（1614）10月大坂御陣御役付，御軍法之定，元和元年（1615）5月大坂御陣御役附，同年御陣大筒之御定，慶長19年12月4日於大坂討死，元和元年5月7日討死，加州知行御軍役，能州越中知行御軍役，寛永4年（1627）侍帳在之御羽織之者，台徳院様御代之時軍法。

5398 大坂御陣御役附雑記 16.51—50
平手信敏手写　弘化4年（1847）
31丁　23cm
慶長19年（1614）10月大坂御陣御役付，御軍法之定，慶長20年（1615）5月大坂御陣御役付，御陣大筒之御定等留書からなる。

5399 大坂両度御出馬雑録 16.51—51
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　23cm
前田貞醇所蔵の写。御役付，軍法定。

5400 大坂御陣之時御定集書 16.51—52
不破一弘編
自筆
35丁　23.5cm
前号に同じ。附大坂冬の陣出陣日記。

5401 大坂夏御陣御備 16.51—53
手写
4枚　30×43cm
①大坂夏御陣御備但横山氏家来松山覚書之趣
②中川典克旧蔵。御馬廻一組之備但青地蔵人・神尾主殿等咄

③御旗本御備立。右藤田内蔵允物語之由，青地蔵人の咄
④先手人持六組備立。同上。

5402　大坂夏御陣之図　16.51—54
絵図1枚　彩色　80×116cm
脇田尚保旧蔵。東軍布陣を中心とする。

5403　大坂冬御陣図　16.51—55
絵図1枚　彩色　123×111cm
脇田尚方旧蔵。

5404　〔大坂冬陣加州長如庵一手陣取之図〕　16.51—56
絵図1枚　40.5×28.5cm
原題「摂州大坂冬陣加州ノ先手長如庵一手陣取之図」。如庵は連竜のこと。

5405　大坂御陣の書附大聖寺御陣　16.51—57
西尾隼人著
青山悳次手写　安政3年（1856）
44丁　24cm
西尾隼人所蔵本の写。青山徳次旧蔵。横目役西尾隼人の戦況報告。

5406　青地牛之助物語　16.51—58
手写
11丁　23.5cm
内題「大坂御陣後御尋ニ付申上候写・青地牛之助物語」。篠原織部より浅香左京宛，寛永8年（1631）10月20日付の武功書。太山五郎左衛門より藤田喜八郎宛，慶安5年（1652）6月付の関東表従軍の見聞記。横山大膳の大坂冬の陣出陣の口上書および書付を収む。

5407　〔大坂御陣覚書〕　16.51—59
横山如雲著
2通　30.5cm
原題「慶長十九年大坂落城以後元和元年開元五月大坂表夏陣之覚」。
付箋「大坂陣一巻横山如雲覚書」・「慶長十九年大坂落城以後云」。

5408　大坂冬陣加陽日記　16.51—60
手写
17丁　23.5cm
内題「大坂日帳」。大坂冬の陣の発端，10月14日金沢出陣から翌年2月帰陣迄の日次記，元和二年「御家中又侍於大坂岡山表鑓高名御穿鑿被成褒美被下者共書上」等よりなる。

5409　加府大坂陣日記　16.51—61
15丁　23.5cm
今枝氏旧蔵。前号に同じ。
大坂冬の陣に際し，慶長19年（1614）10月14日金沢出陣より，翌年2月6日金沢帰着までの日記。

5410　加府大坂陣日記　16.51—62
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　24cm
別名「大坂冬陣加陽日記」。今枝直規所蔵の写。前号に同じであるが多少削除部分あり。

5411　大坂冬陣加陽日記　16.51—63
24丁　23cm
前号と同内容であるが，若干字句の相違がある。ともに「加府大坂陣日記」に増補したものであるが，この方は，夏陣後の褒美者一覧を欠いている。

5412　大坂御陣覚書　16.51—64
手写
7丁　23cm
表題「大坂表夏陣之覚」。別名「松山助右衛門覚書」。巻末「右此書面は横山山城守家来松山助右衛門寛文之初頃就御尋申上候由也。本保氏家伝旧書之由」。利常の岡山口布陣の様子を記す。及び「御頭書之写」として大坂御陣御備の問答書からなる。

5413　大坂表御陣之覚　16.51—65
15丁　22.5cm
前号に同じ。

5414　大坂表夏陣之覚　16.51—66
12丁　26.5cm
前号に同じ。

5415　大坂表夏陣之覚　16.51—67
手写
5丁　23cm
前号の抜書。

5416　大坂覚書并浅井畷合戦雑記・長家由緒書写　16.51—68
佐々木道求著
手写
24丁　17×24.5cm
内題「寛文九年従加賀守様佐々木道求ニ大坂一巻御尋ニ付申上ル覚書」
大坂の陣の経緯と前田氏の参加，浅井畷の合戦，長家の由緒について記す。

5417　佐々木氏大坂物語　16.51—69
佐々木道求著
手写
14丁　27cm
内題「寛文九年佐々木氏大坂物語」。今枝氏旧蔵。慶長5年（1600）関ヶ原合戦より，慶長20年（1615）秀頼自害までを記す。前号「大坂覚書」と同内容。

5418　大坂陣之書　16.51—70
手写
12丁　23.5cm
配陣，戦闘報告。戦死者供養のための寄進状等大坂両陣前後の書。

5419　大坂陣聞書　16.51—71
青地礼幹編
貞享元年（1684）
20丁　24cm
古老衆の物語，覚書等よりなる大坂の陣における前田氏の陣立・軍法・戦況・功名人などの覚書。

5420　大坂両御陣賀陽侯御陣日次之覚　16.51—72
有沢永貞著
手写　享和2年（1802）
11丁　12×18cm
中川典克旧蔵。原本成立宝永5年（1708）。慶長19・20年（1614，15）大坂冬・夏両陣に際し金沢出陣から帰陣までの日次記。

5421　〔大坂冬夏陣加賀藩戦死者法号〕　16.51—73
手写
1枚　16×58cm
慶長19年（1614）より元和元年（1615）に渡る40名の法名書。

5422　大坂褒美帳　16.51—74
今枝某手写　寛文11年（1671）
9頁　15.5×18.5cm
内題は「元和元年五月大坂御陣之刻倍臣御褒美之覚」。今枝氏旧蔵。巻末「右者慶長廿年五月七日於摂州大坂城責之節加州兼肥前守前田利常公之陪臣等手柄之者共賜褒禄之覚書也」。

5423　大坂御陣働帳　16.51—75
横山某編
34丁　23cm
元和3年（1617）大坂の役の際の軍功書上。斎藤内蔵亟他42名及び新座の侍等交名書。

5424　大坂陣之節御家中功名覚帳　16.51—76
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　23.5cm
河瀬某（奥村栄滋家臣）旧蔵。末尾に「大坂両御陣賀州の士討死之衆様子承伝候通覚書」（6丁）を付す。これは享保12年に有沢武貞の書き改めたものの写。
旧書名「大阪陣功名覚帳」。

5425　大坂両度御陣御軍粧并高名等之人々交名　16.51—77
手写
36丁　24.5cm
御陣定，出陣人名，戦死者，褒賞者など。

5426　亀田大隅守武勇事并感状等　16.51—78
手写
23丁　24cm
青地采女旧蔵。亀田大隅守武勇事并感状・利家様江秀吉公ヨリ御感状・利家様より大坂於御陣高名仕又侍ニ御褒美帳之写よりなる。

5427 大坂表働之様子面々書付抄　16.51—79
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（225丁）　24.5cm
大坂の役における功名，首帳働きの様子申上書。

5428 大坂陣討死覚書　16.51—80
手写
10丁　23.5cm
内題「大坂陣戦死之様子承伝覚書」。巻首「大坂両御陣加州之士討死之衆様子承伝之通覚書」。

5429 〔大坂御陣首帳并討死交名記〕　16.51—81
手写　明和3年（1766）
22丁　20.5cm
原題「大坂御陣之節家中諸士討捕首帳并討死人交名記」。筆者政在とあり。

5430 大坂陣討死子孫考　16.51—82
有沢武貞著
手写
7丁　23cm
内題「大坂両御陣討死之士子孫有無」。巻首「大坂両御陣賀州之士討死之衆子孫有無相考候覚」。原本成立享保12年（1727）。

5431 〔利波郡本領村太兵衛先祖物語有増書付之覚〕　16.51—83
藤江兵助著
手写
1通　26cm
原題「延宝六年七月利波郡本領村百姓太兵衛と申者来り御先祖隼人様ニ御奉公申上候次第物語有増書付之覚」。大野木克征旧蔵。
隼人本領村入部の慶長18年（1613）より大坂の役を中心に記す。

北越戦争

5432 軍事御達書　16.51—84
金沢藩編
明治元～2年（1868～69）
2冊　24cm
王政復古以降，北陸道総督等よりの諸達・軍令及び戊辰戦役関係諸留。

5433 北越戦争軍事御届書　16.51—85
金沢藩編
110丁　23.5cm
旧預地・加賀藩所有軍艦・越後等出兵人員並戦死人等諸届書。

5434 〔北越出兵に関する達書〕　16.51—86
4冊　24cm
①越後出兵ニ付諸願諸届留，崎田小左衛門
②御達帳，水上喜八郎
③越後鯨波駅ニテ戦争ニ付御達書，高畠猪太夫
④横地秀之進出陣申渡状等。

5435 〔若松在陣参謀之通達等〕　16.51—87
明治元年（1868）
仮綴1（4通）　18～21.5cm
○栃尾本営より，宿陣所等の規則達。8月7日
○若松在陣参謀より，坂下宿光照寺義不審ニ付達書。11月28日
○若松在陣参謀より，百姓家に無心申懸る者有に付取締達。11月
○坂下駅旧藩会議所詰より，坂下駅警護・管理の儀に付伺書。

5436 〔北越戦争御酒料之件達書〕　16.51—88
小出嶋出帳会計方著
1通　18cm
大本営の達に付，酒料御勘定の件通知。加州小荷駄方宛。

5437 戦争風説等　16.51—89
手写
55丁　24cm
慶応4年（1868）原本成立。北越・奥州等各地・各藩の動向諸説等，探索の者の報告並触・聞書留。

5438 越路廼争　16.51—90
前田家編輯方編
明治年間
42丁　24cm
越後筋戦役に関する注進・届紙面及び館林藩等

諸藩よりの戦況届書の写留。

5439　越後路戦争注進聞取書　16.51—91
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　24cm
慶応4年（1868），下谷池端仲町自身番屋え張札之写，高柳村弥六越後出張先より御郡所御達書之内等戦争注進書。見取絵図2枚添。

5440　越後筋風説書　16.51—92
前田家編輯方編
明治年間
80丁　23cm
慶応4年（1868）北越戦争に参加した藩士の口書，覚書を収む。折込み絵図6枚。

5441　〔北越戦争関係書目〕　16.51—93
横山大参事著
2通　16cm
○越後筋風説書等13冊差出覚，庚午6月22日，横山大参事より御記録方宛
○河内国出張一巻等2冊差出覚，庚午10月27日横山大参事より御記録方宛。

5442　志良根のつの久美　16.51—94
手写
31丁　23cm
渡辺甫旧蔵。軍事諸留書。

5443　加賀藩北越軍事輯録　16.51—95
前田家編輯方編
明治年間
7冊・絵図17枚　24cm・27×77cm
例言抜「諸記録ニ拠リ諸隊ノ戦状ヲ合叙シ以テ本藩兵全部ノ進退終始ヲ詳ラカニシ名ケテ北越戦記ト曰フ以其要覧ニ備フ」とあり。
①朝令・朝命・上申・上報　②各隊戦状　③陣中録事，支給軍資　④出征兵員，死傷人員　⑤賞功慰労，弔祭戦死　⑥録上戦功の項よりなる　⑦附録　北越戦記・加賀藩北征軍戦地図。
＜戦地図＞
⑧閏4月27日越後国刈羽郡鯨波駅戦地之図（27×77cm）
⑨5月6日越後国刈羽郡中田口戦地之図（27×69cm）
⑩5月16日ヨリ官軍長岡城ヲ攻メ19日竟ニ之ヲ陥シイル本藩銃兵小川隊砲兵水上隊及ヒ薩長高田三藩兵戦地之図（39×54.5cm）
⑪5月25日26日越後国赤返駒込杉沢文納人面諸村戦地之図（27×71cm）
⑫5月28日越後国三嶋郡嶋崎村北野村宮崎隊戦地之図（39×54.5cm）
⑬6月朔日2日越後国古志郡下塩村戦地之図（27.5×58cm）
⑭6月2日越後国三嶋郡崎口戦地之図（39×27.5cm）
⑮6月8日越後国古志郡森立嶺戦場之図（38.5×53.5cm）
⑯6月19日官軍山田駅ヲ攻ム本藩斉藤隊水上隊支藩富山宮崎隊及ヒ薩長松代高田藩兵海陸並ヒニ進撃之図（27.5×39cm）
⑰6月21日22日越後国南蒲原郡大口村方面戦地之図・6月21日22日越後国古志郡福嶋稲葉等諸村戦地之図（27.5×39cm）
⑱6月24日越後国三嶋郡久田村笠山宮崎水野隊及ヒ乙茂村田辺張諸村杉本隊戦地之図（27×38.5cm）
⑲7月朔日越後国古志郡一貝荷頃薬師山半蔵金等諸村戦地之図（欠）
⑳7月24日夜賊兵長岡城下ヲ襲フ官軍諸隊防戦地之図（27.5×39cm）
㉑7月24日夜越後国古志郡十二潟村及南蒲原郡灰嶋坪根大口大曲戸押切諸村戦地之図（27×39cm）
㉒越後国古志郡十二潟村簸輪隊戦地之図（27×39.5cm）
㉓7月29日官軍大挙長岡ヲ攻メ之ヲ回復ス途中各処戦地之図（27.5×58.5cm）
㉔8月朔日2日官軍大挙進撃越後国三嶋郡小嶋谷日之浦乙茂馬草高月嶋崎等諸村戦場之図（39×54.5cm）。旧書名「北越戦記」。

5444　加賀藩北越軍事輯録　16.51—96
手写
6冊　24.5cm
2巻に安田松太郎，3・4巻に古川，5巻に中村の名がみえ手写者と思われる。例言に「諸記録ニ拠リ諸隊ノ戦状ヲ合叙シ以テ本藩兵全部ノ

進退終始ヲ詳ラカニシ名ケテ北越戦記と曰フ以テ其要覧ニ備フ」とあり。（特16.51－95）に同。

5445　北越戦記　16.51—97
手写
76丁　25cm
原題「北越戦記・加賀藩北越軍事輯録附録」。（特16.51—95）の⑦に同。

5446　〔加賀藩北越軍事輯録附属戦地図写真〕　16.51—98
23枚　15×21cm
（特16.51—95）附図の原図17枚を写したものと思われる。

5447　慶応出陣記　16.51—99
斯波蕃編
前田家編輯方手写　明治年間
27丁　23cm
斯波蕃所蔵の写。「出兵守衛一件」等を底本とする慶応4年（1868）越後出陣記。

5448　北越戦記　16.51—100
陸裔猶著
明治11年（1878）
116丁　23.5cm
表紙付箋「右明治十一年諸届書等ニ拠リ起稿セシモノ也」。北越戦従軍の斉藤好仁隊以下の各隊毎に金沢出陣より帰陣までの戦歴を記す。

5449　越後出兵書類抜萃　16.51—101
前田家編輯方編
明治年間
3冊　24cm
軍令状，戦状届書，御達書など，戦功御届書。明治元年正月から11月まで，日付順に収む。
①明治元年（1868）1月より
②　〃　7月より
③　〃　8月より。

5450　北越出師書類抄録　16.51—102
前田家編輯方編
明治年間
8冊　24cm
小川隊北越出兵録，御親翰留，出兵守衛一件などからの抄録。
①明治元年4月閏4月②同年5月③同年6月④同年7月⑤同年8月⑥同年9～10月⑦同年11月～明治2年3月⑧明治元年4月～明治2年6月

5451　〔北越出陣中戦争概況〕　16.51—103
明治元～4年（1868～71）
25冊　24cm
①北越出陣中戦争概略。小川仙之助
②越後路等出陣中巨細書。大田小又助
③三番瓶門戦争等始終日記。左島新平・塚本進太郎
④出軍中大綱書并戦争時之監軍方等へ相達候働書等写。金子篤太郎
⑤手合并附属働之次第概記。今井久太郎
⑥下越後戦争行状書。村上喜一郎
⑦明治元年西坂丙四郎越後路出陣中戦争行状書。村上喜一郎
⑧北越筋戦争行状書。林顕三
⑨越後出兵中戦争等模様書。蔡輪知大夫
⑩出張中戦争等次第書。原余四郎
⑪陣中模様書。河合好
⑫弐番瓶門始終戦争書。斯波一郎
⑬陣中模様書。岩上茂樹
⑭北越戦争行状書。水上喜太郎
⑮戦争書。杉浦善左衛門
⑯壱番瓶門戦争模様書。大屋和左藤門・近藤束馬
⑰戦争書。杉本美和介
⑱先年越後筋戦争行状書。山本鉄馬
⑲水上喜八郎隊司令官村沢友男越後路出陣中戦争行状書。村沢友男
⑳戦争行状記。中西太郎左衛門
㉑津田道賢隊越羽戦争行状概記
㉒大屋甚左衛門等戦争行状書
㉓出陣中戦争等之様子并手合一紀戦功等帳。田辺仙三郎
㉔出陣中日記。津田十之進
㉕慶応辰年閏四月越後路ニ而斉藤与兵衛等組戦争有之聞書留。横山。

5452　北越出陣中御用方心控〔等〕　16.51—104
井上忠左衛門著

明治元年（1868）
合綴1（4冊）　12×34cm～15×35cm
「北越出陣中御用方心控」「春日於免男手合吹谷村出張交名帳」「越後出陣中日記」「越後出陣中井上忠左衛門心覚」よりなる。

5453　北越戦争各隊戦状　16.51—105
金沢藩編
105丁　24cm
北越戦出陣各隊別戦状書上。

5454　北越各隊戦状手控御届控　16.51—106
明治4年（1871）
400丁　24cm
内題「太政官ヨリ軍功撰之儀御書取御渡ニ付重而調方被仰渡書上ケ候分，手合之者戦功書」。高畠猪太夫隊等北越戦争従軍33隊の戦争報告書。

5455　北越戦争戦状御届書　16.51—107
金沢藩編
63丁　24cm
鯨波駅の戦い等の死傷者姓名共書添え。北陸道鎮撫御総督府宛御届書。

5456　越後戦況等届書　16.51—108
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　23cm
北越鎮圧軍の鯨波戦争の戦況書等。

5457　北越戦争長岡城乗取　16.51—109
明治元年（1868）
1通　16cm
長岡城合戦留記。

5458　〔越後出張日記〕　16.51—110
金岡勝亮著
手写　明治15年（1882）
2冊　24.5cm
①慶応4年（1868）閏4月23日より5月26日「越後高田より松留村柏崎坂田村宮本駅等出張日誌」
②慶応4年5月27日より8月18日「越後与板所々病院出張日誌」。付箋に「原書ハ利岡様御邸ヲ経テ御借用相成写出来候事」とあり。金岡勝亮は富山藩士。

5459　〔維新後戦争日記〕　16.51—111
4丁　25cm
井上如苞旧蔵。（明治元年）7月25日・29日の長岡の状況等を記す。

5460　出兵守衛一件并追加　16.51—112
前田家編輯方編
明治年間
21冊　23.5cm
小川清太・神保三馬調書抜書。
①北越出兵ニ関スル諸事日記之内抜書
②　同　上　（下）
③北越為鎮圧出兵戦争一件留抜書
④津田玄蕃隊北越戦争日記抜書
明治二年御上京御供中隊御東幸供奉隊割交名
御東幸御供并御守衛ニ関スル一件抜書
⑤　同　上　（下）
⑥御供并御守衛ニ関スル一件
⑦東幸御守衛ニ関スル一件抜書
御出馬等御行列附概略
⑧軍中諺美
⑨～⑬仮留
⑭・⑮仮留日記
⑯日誌
⑰東京御守衛一件
＜追加＞
⑱越後鯨波中田口長岡戦争模様鑑軍方等并諸隊長ヨリ御届書写抜書。但略絵図共
⑲北越江出兵隊長今井久太郎隊割交名并附属交名等及ヒ戦死手負抜書
⑳北越出兵歩横目勝尾源太夫所持日記抜書。
但津田玄蕃殿今枝民部津田権五郎中西太郎左衛門江附属中之分
㉑宮崎久兵衛隊交名并隊中除金渡方等記。

5461　小川清太実歴話稿　16.51—113
前田家編輯方編
明治年間
3冊　23.5cm
①第1回，明治26年8月14日月曜午前8時本邸

波ノ間ニ会ス者小川清太郎及ヒ野口之布・安井顕比・岡田棣4人ナリ加藤恒氏折々参席筆記者永山近彰午後零時20分頃畢
第2回，明治26年8月19日土曜午後1時ヲ期シ根岸邸ニ会スル者前ノ如シ只石崎謙ヲ増スノミ此日加藤氏後レテ至ル九時ニ散ス
②第3回，8月21日，第4回，8月22日午後波ノ間ニ於テ小川清太談話出席者前回ノ如シ石崎謙筆，第5回，8月23日午前8時ヨリ12時ニ至ル会者小川清太・加藤恒・野口之布・安井顕比・岡田棣ナリ斯波藩後シテ至ル石崎謙筆記前田恒敬戦地ノ図ヲ製スル為メ出席
③第6回，8月24日小川清太話会者昨日ノ如シ唯安井今朝中風ヲ発シ欠席スルノミ
第7回，8月25日午前8時ヨリ小川清太話シ石崎謙筆記午後加藤恒・斯波蕃・野口之布・岡田棣参席石崎筆記スル事午前ノ如シ5時退出，第8回，8月26日午前8時ヨリ正午ニ至ル小川清太明治ノ初東京御守護ノ事ヲ本郷邸浪ノ間ニテ話ス加藤恒・野口之布・岡田棣出席シ石崎謙筆記ス，補遺8月31日・9月13日，永山近彰筆記。

5462　戦争等巨細録　16.51—114
今枝民部著
明治元年（1868）
82丁　23cm
今枝民部率いる附属砲隊の今町・大芦村・十二潟での戦いの模様等巨細記録。

5463　北越戦争等巨細録　16.51—115
今枝民部編
前田家編輯方手写　明治年間
74丁　23cm
大芦村・十二潟戦争等出勤者・戦死者共巨細届書。

5464　〔小川隊北越出兵軍人交名表并戦闘図〕　16.51—116
後藤昔植著　市川金右衛門画
明治15年（1882）
1枚　119×114cm
後藤昔植著「加州藩小川隊並北越出兵軍人交名表」及戦記。市川金右衛門画「越後国古志郡長岡城及ヒ椽尾迄，戦門地図」。

5465　〔小川仙之助隊戦場之図〕　16.51—117
絵図6枚　彩色　55×82cm
①明治元年自5月24日至5月25日越後国古志郡駒込赤坂加州藩小川仙之助隊戦場之図
②明治元年自5月26日至5月27日越後国古志郡杉沢文納人面加州藩小川仙之助隊戦場之図（55×100cm）
③明治元年6月2日越後国刈羽郡北野村口進撃加州銃隊物頭近藤新左衛門金子篤太郎両隊同12日乙茂村ニ於テ同杉本美和介等諸隊戦場之図（79×110cm）
④明治元年6月19日越後国三島郡山田村ヲ焼払ヒ攻撃セント海陸談シテ富山御加勢割場隊宮崎久兵衛手合戦場之図（55×79cm）
⑤明治元年七月朔日越後国古志郡一ノ貝加州藩小川仙之助隊戦後之図（55×80cm）
⑥明治元年6月24日越後国刈羽郡久田村口字爺ケ山ニ於テ加州富山御加勢割場隊宮崎久兵衛水野徳三郎両手合同日乙茂村ニ於テ銃隊頭杉本美和介等諸隊戦場之図（79×100cm）。

5466　越後鎮圧為官軍出兵各隊戦争実検書　16.51—118
御横目高橋往来・御使番成田外鐵助編
559丁　22.5cm
慶応4年（1868）
閏4月28日の鯨波戦争から7月朔日の十二潟戦争迄24の戦争にかかわる実検調理報告書。

5467　越後鎮圧為官軍出兵私附属実効書　16.51—119
高橋往来編
76丁　23cm
御歩横目神田辰之助他22名及御抱鳶并人夫等戦功書。

5468　越後鎮圧為官軍初発出兵各隊陪臣等級并人夫交名書　16.51—120
高橋往来・成田外鐵助編
2冊　22.5cm
越後鎮圧の戦功書。陪臣・人夫に分け，陪臣には戦功により上・中・下等の等級を付す。

5469　越後鎮圧為官軍初発出兵各隊等級調理書　16.51—121
高橋往来・成田外鐵助編
2冊　22cm
越後鎮圧軍の小川仙之助隊等10隊個々に戦功により1～6等，上・中・下等に等級を附す。

5470　越後鎮圧為官軍初発出兵各隊等級調理書　16.51—122
高橋往来・成田外鐵助編
165丁　22cm
小川仙之助隊他の各隊毎に働きに応じ甲乙・個人には戦歴等により第1等～6等，上・中・下等の等級を付す。

5471　〔北越出兵附属実効書〕　16.51—123
7冊　24.5cm
①越後鎮圧為官軍出兵私附属実効書。高橋往来
②③越後鎮圧為官軍出兵私手合等実効書。成田外鐵助
④分捕之品覚書。杉浦善左衛門
⑤降参人名書。杉浦善左衛門
⑥越後国於島崎分捕等交名帳。田辺仙三郎
⑦戦争実効書。近藤新左衛門。

5472　〔北越出兵諸調理并記録〕　16.51—124
前田家編輯方手写　明治年間
8冊　23.5cm
①北越出兵小川仙之助隊戦争之節支用之弾薬受払調理書写
②明治元年戊辰5月越後国与板村等へ出兵割場隊春日於兎男手合交名并戦争調書
③明治元年越後国鯨波島崎山田三ケ所戦場模様御歩横目広瀬嘉大夫監察之概略聞書
④戊辰之役北越出兵御歩横目勝尾源大夫出兵中日記抜書
⑤明治元戊辰年6月24日越後国刈羽郡久田村口字爺ケ山ニ於テ富山御加勢割場隊宮崎久兵衛水野徳三郎両手合同日乙茂村ニ於テ銃隊物頭杉本美和介隊戦争模様概略調書・戦場絵図面添
⑥明治元戊辰年6月2日越後刈羽郡北野村口進撃銃隊物頭近藤新左衛門金子篤太郎両隊同12日乙茂ニ於テ杉本美和介隊等戦争模様概略調書・戦場絵図面添
⑦戊辰之役奥州筋へ出張隊長堀悌四郎割場附足軽召連会藩人降伏者護送東京軍務官へ引渡タル一件等同人日記抜書
⑧戊辰之役北越出兵各隊負傷者交名調理書。

5473　戦士招魂祭祝詞　16.51—125
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25.5cm
明治元年（1868）に越後の役の戦死者を卯辰山に弔したときのものと思われる。

5474　御総督府へ御届書留　16.51—126
手写　明治15年（1882）
29丁　24cm
前田利同（富山藩13代）所蔵の写。慶応4年（1868）5月～10月にかかる富山藩より北越戦に従軍の各隊戦況等諸届書。

5475　越後出兵ニ付留　16.51—127
手写　明治16年（1883）
2冊　24.5cm
前田利同（富山藩13代）所蔵の北越戦争関係史料の写。

5476　越中富山ヨリ越後高田発向之行列　16.51—128
40丁　9×24.5cm
鉄砲・長物などの行列づけ。北越戦争の際の記録か。

5477　北越戦争各隊出戦表　16.51—129
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　25cm
出戦月日・出戦者名・出戦内容表。

5478　小川隊北越出兵録　16.51—130
4冊　23cm
本文3巻，附録1巻よりなる。本文は1巻「京都ニ於テ銃隊物頭小川仙之助蔟輪知太夫両人へ北国筋鎮圧御用トシテ出兵命セラレタル件」より3巻「北越へ出陣七月廿五日以前ノ人員書出シタル件」まで197項と附録の北越出兵交名書，雇医音波鸞鶴届書写からなる。

5479　衮輪隊北越出兵録　16.51—131
前田家編輯方編
明治年間
2冊　23cm
①「戊辰四月廿日京都ニ於テ北国筋鎮圧御用トシテ出張命令セラレタル件」，以下「明治二年正月衮輪并手合一合ヘ其賞功トシテ拝領物ノ件」まで68頁よりなる
②附録として小隊司令役武部幸之助以下の戦歴を各個記す。

5480　互繁舞閑当止芽　16.51—132
手写
9丁　24cm
渡辺甫旧蔵。慶応4年（1868）正月，銃隊御馬廻組の出陣に関する留書の写。

5481　小川隊北越出兵録附録附属砲隊交名書　16.51—133
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
小川隊の附属として中田口戦争，長岡表等に出陣した者達の交名書。

5482　〔横地秀之進北越出兵一件綴〕　16.51—134
仮綴1（24通）　23cm
①明治31年，編輯参考の為借用の手紙返却通知。前田家編輯方より横地秀三宛
②割場附小者共奥州筋長々出陣に付金子遣覚
③雇医師石川元立儀越後筋出陣に付金子下渡目録
④横地秀之進等凱陣に付御料理等頂戴書
⑤高木監察吏等奥州筋出陣に付金子下渡目録
⑥横地秀之進誘引書
⑦横地秀之進宛金子分割書
⑧横地秀之進儀奥州筋出陣に付金子下渡目録
⑨卒族森田猪之助奥州筋出陣に付金子下渡書
⑩長少参事家来石黒権平等奥州筋出陣に付金子下渡書
⑪割場附小者嘉助義奥州筋出陣の節尽力致に付金子下渡書
⑫薬種并進退の儀新発田より通達に付書状，河田弘蔵より横地秀之進宛
⑬兵議所移転に付通知。民政局より加州隊長御中宛
⑭出庁申付書。士族長より横地秀之進宛
⑮横地秀之進以下凱陣の者共出頭申付書。前田土佐守より横地秀之進宛
⑯村上・江坂等新発田迄出頭に付同行方書状。河田弘蔵より横地秀之進宛
⑰不破彦三より申渡の義に付一札。赤座甚七郎等より横地秀之進宛
⑱横地秀之進越後出陣令書
⑲山村甚之助他兵卒司令役にて出陣の義に付詮儀通知
⑳横地秀之進等官軍として出陣大義に付思召書
㉑長九郎左衛門家来関本弥三丞他凱陣に付二の御丸に出頭の旨通知
㉒若松御預人請取書。高田藩村野権平等より加州御藩横地秀之進・山村甚之助宛
㉓召捕の諸荷物請取書。民政局より加州津田十之進宛
㉔慶応四年（1868），雑用金等請取相渡覚。

5483　〔北越〕出兵総人員高　16.51—135
手写　明治元年（1868）
199丁　24cm
附，「戦死并手負性名録」。
明治元年（1868）春中よりの出兵人高，戦死并手負性名書。越後新発田在陣中軍本陣調。

5484　〔越後より凱陣之面々へ御意等調一巻〕　16.51—136
明治元年（1868）
170丁　24cm
原題「越後筋より凱陣之面々江御意并御料理等被下ニ付しらへ一件」。北越戦争従軍者への藩主より慰労，戦傷者手当等の名列等諸記録。

5485　御披露状留　16.51—137
手写　明治2～5年（1869～72）
19丁　26cm
横山隆起旧蔵。越後戦争の従軍披露，藩庁への叙勲披露などに関する陪臣や藩士の藩に対する報告書の写。

5486　諸事記之内抄　16.51—138
前田家編輯方編

明治年間
78丁　25cm
賞典のことについての旧金沢県の文書を集めており，「賞典禄取調帳」「北越戦争有功之士族卒等江給与取調帳」「士族小川清太 等給与方伺」「賞典禄分与取調帳」「御賞典米分与高」その他願書類などよりなる。

5487　御家禄方調書之内抜萃　16.51—139
手写
55丁　25cm
慶応3年（1867）10月より明治元年（1868）11月に至る北越戦争を中心とする。軍事御届調書。御家録方は明治2年（1869）慶寧により設置されたものである。

5488　〔越後出陣中減禄之者覚〕　16.51—140
1通　16cm
出陣の際懈怠の者共5名減禄書上。

5489　奥羽越出陣之人々賞罰之しらべ一件　16.51—141
明治2年（1869）
78丁　24cm
出張人々戦功調理・等級定。

5490　奥羽越出陣之人々賞罰之しらべ一件　16.51—142
手写　明治2年（1869）
85丁　24cm
奥羽越凱陣の者共の戦功等級定による恩賞人名簿及び罰人詮議書。

5491　北越之役戦死者墳墓明細表　16.51—143
手写
9丁　27cm
隊士の墓所々在地を記す。
戦死者を所属隊列に戦死の模様・埋葬地・位・氏名の順に表記。

5492　戊辰北越之役戦死人等墳墓明細表　16.51—144
19丁　27cm
死亡理由・役名・姓名・年令・墳墓創立年月墓石名明細表。

5493　北越戦死者墳墓箇所絵図　16.51—145
絵図1冊（11丁）　彩色　40×28cm
越後国頸城郡高田春日町（現，上越市）真宗長徳寺ほか，北越戦々死者埋葬地絵図。

5494　陣中銘心録　16.51—146
後藤孝成（昔植）著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
原本成立は明治14年（1881）。加賀藩後藤孝成の北越戦，西南戦争従軍記。序文抜「子孫ニ談セント欲シ乃チ此編自録私記スル以所ナリ」とあり。孝成は人持組伊藤平方衛門家来。

特16.52　出　張

総　記

5495　〔丹南・京都・芸州・越前敦賀出張一件〕　16.52—1
金沢藩編
手写
43丁　24cm
丹南出張は文久3年（1863）和州の浪士鎮静のため。京都出張は元治元年（1864）長州出兵の件。芸州出張も元治元年長州征伐。越前出張は元治元年水戸浪士進入の件。

5496　〔幕末御守衛出陣調書〕　16.52—2
手写
150丁　24cm
原題「御守衛等，橋本出張，徴兵等大坂出陣，京変等出陣，越後等出張，芸州等出張，浦賀異国騒乱調書元家来寄」。御守衛等のため出陣の元家来衆名寄書。

5497　出張等之人々被下方等留　16.52—3
手写
716丁　23.5cm
築地内異変，水戸浪士，長州征伐，京都変事などの軍事出張の者への金子下賜に関する帳簿。

5498　武田友信書類写　16.52—4
武田友信著

前田家編輯方手写　明治年間
11冊・絵図7枚　23cm・34.5×34cm
著者は，大小将を経て元治元年（1864）11月20日頭並となり，臨時大筒奉行長州討手の長大隅守へ指添えられ大筒頭に加わる。同2年2月27日壮猶館御筒奉行并弾薬方兼大小砲稽古方，慶応3年6月18日物頭並・御先手大筒頭，同年10月20日砲隊物頭，同4年4月26日大筒方御歩頭。
①道中詰中等之覚帳（安政4年3月），日記（安政5年正月元日より信精）
②衆人必附之趣留帳（元治2年10月友信所持）
能州一覧道中日記等（慶応2年4月）
諸事留（寅10月以来武田）
③諸事留記（慶応3年6月）
道中日記（慶応3年12月12日友信）
卯十一月御上京ニ付彼地御模様ニ寄出発足被仰渡候節一件（卯12月）
④江州路出張諸事留
〔無題（加越両州御鷹場云々）〕（戊辰年）
組用諸事留（慶応4年4月武田）
⑤武田書類之内・一陣出兵人員等早繰
大砲等請取帳（明治元年9月大筒方御歩頭）
〔武田蔵人往復書翰数通〕
⑥武田金三郎日記元治元年6月7日より友信御築地内戦争荒増
〔無題（当六月長州藩士家老云々）〕
諸事申送帳（元治元年8月11日より大筒方）
⑦諸事御用留（元治元年6月より大筒方）
⑧今度御上京之大砲被遣候ニ付御供被仰付右一件留記
諸事留（慶応元丑2月）
御道具返上書控（丑3月葉原跡調理方）
⑨長州発向一件并美濃路出張共
⑩金龍院様御視翰并御諸写（武田友信）
御中屋敷火消方相勤候節心得等
〔無題（極秘村上良蔵え云々）〕
⑪元治元年御守衛御用跡調理留帳（元治2年2月）
大砲御荷物運送御貯用金受算帳
○附絵図（武田蔵人）
⑫西福寺境内図
⑬敦賀郡泉村永厳寺（34.5×35.5cm）
⑭来迎寺宿坊十二軒（25×34.5cm）
⑮永建寺塔中七軒（24×36cm）
⑯越前敦上嶋寺町本妙寺（32.5×36cm）
⑰越前敦賀上嶋寺町本勝寺（24×36cm）
⑱敦賀嶋寺町長遠寺図（24×36cm）。

5499　〔諸国警衛出兵持場人数記〕　16.52—5
前田利嗣編
明治10年（1877）
25丁　28×20cm
原題「去ル子以来諸国警衛出兵特場人数記」。
巻首「元治元年（1864）甲子ヨリ明治二年己巳ニ至ル旧金沢藩諸国警衛出兵持場等調書」。

飛　州　出　張

5500　〔飛州一件奏達書〕　16.52—6
桑名金右衛門著
自筆　安永2年（1773）
巻子1　16cm
飛騨国百姓が高山陣屋へ強訴した飛州騒動に付いての騒動経緯・動向等調査報告書。
旧書名「飛州御田地ニ付奉達書」。

5501　〔水越八郎左衛門返書〕　16.52—7
水越八郎左衛門・三宅権左衛門著
自筆　安永2年（1773）
1通　16.5cm
富田権六郎旧蔵。飛州騒動について御用番から魚津在番の富田外記宛の返書。
旧書名「水越八郎左衛門口上書」。

5502　飛州表之儀ニ付魚津表ニ於テ御用番様等へ御文通留帳　16.52—8
手写　安永2年（1773）
19丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。越中魚津在番富田外記貞直の藩への報告書等留。

5503　安永飛州高山御代官所へ百姓共乱妨一件　16.52—9
脇田尚方手写　弘化2年（1845）
24丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。安永2年（1773）飛騨国高山陣屋強訴の経過と鎮圧軍の構成などを記す。

旧書名「高山御代官所へ百姓共乱妨一件」。

5504 〔飛州百姓騒動一件につき天正寺村弥三右衛門注進書〕 16.52—10
手写
1通 15.5cm
富田権六郎旧蔵。飛州騒動の原因・発端についての報告書。安永2年（1773）11月。

5505 飛州騒動ニ付野村源兵衛一組用意之留帳抜書 16.52—11
手写 文化7年（1810）
11丁 23.5cm
波辺金八郎旧蔵。飛州騒動の為出張する富山藩助勢の準備方一件留帳。

5506 富山一ノ手御人数〔等〕 16.52—12
手写
7丁 12×35.5cm
富田権六郎旧蔵。安永2年（1773）飛州騒動に出動した富山藩兵の構成記録。

5507 飛州騒動ニ付言上紙面并小紙等写 16.52—13
手写
30丁 24.5cm
富田権六郎旧蔵。飛州騒動について安永2年（1773）11月23日～12月19日にわたる富山藩の動勢を報告したもの。

5508 飛州一巻出府之上言上紙面控 16.52—14
手写
41丁 11.5×17.5cm
前号の写。

5509 御先手物頭安永飛州御手当一件留 16.52—15
脇田尚方手写 文政12年（1829）
29丁 23cm
脇田尚保旧蔵。安永2年（1773）飛騨国百姓の強訴を鎮圧するため，加賀藩が準備した援軍についての留書。筒，弓の2組により構成され，各組の構成員及び人数，全体の装備，行列の順序などを詳細に記す。

5510 〔飛州騒動加勢御馬廻一組御内しらべ書物之写等〕 16.52—16
富田某手写
99丁 11cm×17cm
原題「飛州騒動ニ付御加勢御馬廻一組御内しらへ書物之写并慶長二十年大坂御陣御軍役御定書之写」富田権六郎旧蔵。

5511 飛州一巻ニ付諸事覚帳 16.52—17
手写
19丁 23.5cm
脇田尚保旧蔵。六冊之内「飛州一巻ニ付諸事覚帳」・「組中武具願控帳」よりなり，出陣の際の諸事に関する規定，武具調達願の覚などを記す。

葉　原　出　張

5512 旭桜雑志 16.52—18
永原甚七郎等編
5冊 24cm
水戸浪士が筑波山に挙兵してから京都へ上るために行動した元治元年（1864）～同2年（1865）の日記を集録したもの。

5513 旭桜雑誌 16.52—19
永原甚七郎等編
5冊 21.5cm
前号に同じ。

5514 葉役日録 16.52—20
永原甚七郎等編
手写
2冊 22cm
葉原事件日録。「葉原事件抄録」（16.52—23）1・4巻と同一。巻末に「葉原等出張ニ付此書編集ニ携リ候面々」として監軍永原甚七郎，兵士頭不破亮三郎他12名の名が記されている。

5515 葉役日録 16.52—21
永原甚七郎等編
2冊 24cm
前号に同じ。

5516　蕋役日録　　16.52—22
永原甚七郎等編
2冊　24cm
前号と同本であるが，明治16年の訂正附札がある。

5517　葉原事件抄録　　16.52—23
前田家編輯方編
明治年間
7冊　25cm
別名「蕋役日録」・「葉役始末」・「葉役集書」。序文「元治元年（1864）甲子冬敦賀本陣に一冊を設けて出京以来之事件を記し戯に題して神武不殺日記とす…(以下略)」とあり。内容年代は元治元年（1864）～慶応元年（1865）及び明治元・3・15年（1868・1870・1882）に渡る。赤井直喜葉原記・武田友信書類・加藤三郎左衛門公私日記・奥村栄通手記等の抄録集。

5518　葉原出張筆記　　16.52—24
武田友信著
前田家編輯方手写　明治22年
3冊　23.5cm
別名「武田友信葉原出張筆記」慶応元年(1865)
①浪士始末書・浪士名書并武器等調理帳
②甲子7月以来出張人御褒美願并浪士武器配当方および丑7月御褒美被下方共留記
③葉原駅出張惣人数高并公辺御役人引合方御人数引揚之節等雑記
③の巻末に「右武田友信金三郎葉原出張筆記三本岸秀美ヲ介シテ借リ受ケ写ス」と朱書あり。

5519　〔葉原記〕　　16.52—25
赤井直喜著
前田家編輯方手写　明治22年（1889）
6冊　23cm
内題「赤井直喜葉原記」。第1冊～第5冊までが赤井直喜一代記の内巻5～9を収録，第6冊には敦賀附録巻1として浪士人数調書収録。第1冊巻首に「右ハ直喜一代記之内より葉原の役ニ係るもののみを借り得て写し赤井直喜葉原記と名つけたる也」と朱書あり。

5520　葉原一件覚書　　16.52—26
永原甚七郎等著
手写
10丁　24cm
横山勇太郎旧蔵。水戸浪士が加賀藩に投降した際の覚書。永原は馬廻頭兼町番役でこの出張に監軍を勤め翌年300石加増された。

5521　南越陣記　　16.52—27
前田家編輯方編
明治年間
4冊　24cm
「蕋役日録」を基とし，赤井直喜・武田友信手記等をもって水戸浪士一件を体系的に再編纂したもの。

5522　南越陣記　　16.52—28
前田家編輯方編
2冊　25cm
前号の本文のみを記したもの。

5523　敦賀表出張中諸事御用留　　16.52—29
前田家編輯方手写　明治年間
98丁　23cm
元治元年（1864）敦賀表出張中諸事御用留・会所雑記・兵粮方雑記・敦賀陣払之記よりなる水戸浪士一件留。

5524　〔葉原出張之節之覚書・江州出張兵糧方留〕　　16.52—30
仮綴9（~~55~~54通）　15～32cm
①越前敦賀町人小宮山伝右衛門等へ御扶持被下候ニ付篠原勘六殿より杉野陸原両人宛書面。同断ニ付会所奉行へ被仰渡候覚写。同断ニ付音地左盛より杉野陸原両人宛之書面乙丑2月。計3通
②酒井若狭守殿家老以下へ御挨拶方取調理書4通。同断被下方御品物等高山領清八より永原甚七郎迄指出候覚書。計5通
③打它弁次郎より杉野陸原両人宛之書面。小宮山伝右衛門より同上。小宮山伝右衛門木綿屋鹿七連名同上。木綿屋鹿七より杉野宛書面。同人より陸原宛書面3通。計7通附箋には打它弁次郎書面3通と記されているが2通は欠

④小宮山伝右衛門等請書案，丑２月。敦賀陣払ニ付永原等ヨリノ回章。西願寺等拝領金請書２通，子12月。計４通

⑤御買揚品代金請取証書。蒲団等御借上ゲ代金請取証書。人足賃金計算書。同請取証書。飛脚賃金請取証書等13通。黒川良平より永原甚七郎宛，外科道具代金拝借願。元治元・２年。計14通

⑥味噌代金等請取書。兵糧焚出に付拝領金請書。被下金請書３通。元治元・２年。計５通

⑦旅籠代金請取書。元治２年。９通

⑧兵糧焚出ノ事ニ付近江屋清吉請書。武田甚次郎より陸原慎太郎へ玉薬引送覚書。陸原慎太郎より玉薬御鉄砲所へ上之候ニ付於同所請取覚書。同人より御提灯等割場御道具所へ上之候ニ付田内文太郎請取覚書。元治元年～慶応元年。計４通

⑨御扶持被下の義に付打它弁次郎口上書，慶応元年。御宿勤の町役人へ被下金割合書等２通。計４通。

各綴毎に史料内容が記された付箋が付いているが，付箋記載事項と史料綴に差異あり。

5525　江州出張兵粮方留　16.52—31

前田家編輯方編

明治年間

２冊　23cm

元治元年（1864）～同２年（1865）にかかる水戸浪士一件により敦賀出張の兵粮方の達書等，前号書状等留。

5526　京都守備一件の書状　16.52—32

織田市蔵著

手写

３丁　24cm

水戸浪士降伏に付，敦賀表織田市蔵より瀧川播磨守・由比図書宛書状及川村恵十郎会津様ニ而承り候次第御届。

5527　越前浪士一件　16.52—33

手写

８丁　24cm

改方手合 清水平右衛門 申明之趣，葉原周辺絵図，浪士人数高等覚からなる水戸浪士一件留。

旧書名「越後浪士一件」

5528　〔葉原一件并略図〕　16.52—34

石黒魚淵著

仮綴３・絵図１枚　17.5×12cm・23cm・24×36cm

葉原件石黒魚淵等指出書類

①石黒魚淵旧蔵。前田将監より赤井伝右衛門宛常野賊脱走徒鎮圧に付沙汰書等。

②葉原一件口達書，明治15年。

③葉原一件口達覚　〃

④越前葉原等略図。

5529　浪士一件ニ付請書　16.52—35

有沢新右衛門著

１通　15.5cm

水浪士一件に付，飛驒守様御加勢出陣により拝領目録の請書。本多播磨守宛。

5530　〔浪士一件加勢に付仰出書〕　16.52—36

手写

１通　18cm

水戸浪士一件の節，大聖寺藩加勢のため出陣に付，御赤飯等頂戴申渡書。

旧書名「前田飛驒守へ仰出写」。

5531　大聖寺へ御加勢一件抜書　16.52—37

小松御城代方編

手写

23丁　12×18cm

副題「越前路出張之人々兵糧之等義も少々記之」元治元年（1864）。水戸浪士上洛の件に付小松御城代方記録。

5532　〔大聖寺へ御加勢一件抜書〕　16.52—38

前田家編輯方手写　明治年間

15丁　24cm

原題「大聖寺へ御加勢一件抜書・越前路出張之人々兵粮等之義も少々記之」。水戸浪士一件に付，横山蔵人等宛諸書状留。

長　州　出　張

5533　〔長州征伐御進発之達〕　16.52—39
1通　16.5cm
長州藩再征に付，進発の通知。

5534　諸事御用留帳及長州発向一件　16.52—40
手写
73丁　25cm
安井顕比旧蔵。
○元治元年（1864）6月より諸事御用留帳，大砲方，為御守衛御用発足之節より堀川并二条出張清和院御国長州討手用意方直ニ美濃路出張迄記ス
○元治元年（1864）8月11日より，諸事申送り帳大筒方
○長州発向一件并美濃路出張共，門前銃卒惣人数・注進書。

5535　長州征伐配備図　16.52—41
手写
絵図1枚　24×34cm
山口新城の幕軍包囲陣配置図。

5536　長州征伐討手懸り口図　16.52—42
手写
絵図1枚　28×40cm
伝奏衆より到来の討手配陣図写。

5537　岡田氏征長日記之写　16.52—43
前田家編輯方手写　明治年間
61丁　23.5cm
内題「元治元年十一月十二月・為長州追討京都建仁寺より御人数出張之節途中等ニ而之岡田助右衛門手当之日記等之写」。奥村栄滋所蔵の写。
旧書名「征長日記之写」。

5538　石州一件　16.52—44
手写
50丁　27cm
長州征伐に付兵粮方一件。慶応元年（1868），陸原慎太郎「去子年石見江被遣候兵粮米等於彼地運送方御入用金請払調理書」よりなる。

5539　発機丸航海日記　16.52—45
安井顕比著
116丁　23.5cm
原題「航海日記」。安井顕比旧蔵。文久3年（1863）12月所口出帆より，兵庫港碇泊をへて元治元年（1864）3月に至る航海日記で，航行里数・方位・風方・晴雨・寒暖・蒸気が日毎克明に記されている。

5540　跡戻り記　16.52—46
手写
30丁　25cm
井上如苞旧蔵。前半は須磨浦古跡記，後半は長州征伐のため出航した加賀藩有汽船発機丸の文久3年12月（1864）より慶応元年6月（1865）に至る航行記録。

5541　発機丸航海記　16.52—47
沢田直温著
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25cm
内題「発機丸航海大略并諸港見聞」。沢田直温旧蔵。文久3年（1863）12月所口出帆よりの発機丸航海手記。

上洛・出府・守衛

5542　〔文久二・三年等覚書〕　16.52—48
手写
1通　15.5cm
文久2年(1862) 6月から文久3年(1863) 3月までの朝廷・幕府をめぐる加賀藩の状況記録。元治の変に関係す。
旧書名「文久二年等覚書」。

5543　御上洛御行列附　16.52—49
手写　文久2年（1862）
14丁　8×18cm
小木貞正旧蔵。江戸・京都間の行列及御休屋，御本陣書。

5544　御上京御参内之御首尾等　16.52—50
手写
12丁　12×17.5cm

前田恒敬旧蔵。成立年文久３年（1863）。
斉泰の上京後の参内の様子を記す。

5545　御上京一件等記録写　16.52—51
２通　15.5cm　袋入
①文久３年（1863）６月至元治元年（1864）２月記録。幕府よりの前田斉泰出府命令一件
②元治元年（1864）８月御上京一件。
元治元年８月，御上京一件・江戸御出府一件・右御出府御引延引一件・京都為御警衛御在京一件。元治２年(1865)正月，御出府一件。慶応元年（1865）３月，東海道通り御上京一件。同年四月，京都為御警衛一先御国許江御引取一件・同御上京一件・同御帰国一件。同年８月，臨時御上京一件。

5546　恭敏公御東行可否一件　16.52—52
前田家編輯方編
明治年間
80丁　24.5cm
「御用方手留附録五ノ抄」・「成瀬氏所蔵旧記抄」等の抄録。幕府より慶寧に対する出府命令に対する一件留。

5547　〔御上京御守衛并長州征伐一件〕　16.52—53
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴１（99丁）　25cm
御用方手留附録（文久３年），御家録方調書抄（慶応３年），御用人勤向手帳の抄，横山氏記録などよりの編纂書。

5548　出陣之節御条目等　16.52—54
元治元年（1864）
11丁　23.5cm
京都御守衛に指遣に付条目，鐘貝太鼓之制法起請文前書，法度書，長州御征伐ニ付条々前々留

5549　御上京御出府〔等記録〕　16.52—55
手写
199丁　24cm
内容年代は元治元年(1864)・慶応元年（1865）上京・出府関係一件諸留。

5550　京都守衛雑記　16.52—56
前田家編輯方編
明治年間
２冊　23cm
横山政和所蔵の写。①「清和院御門御番割巡邏日割等」②従元治元年（1864）６月至慶応元年（1865）６月「京都御守衛要用書抜巡邏一件末々附」。

5551　〔京都御警衛出張等之荒増〕　16.52—57
奥村栄通著
自筆
仮綴１（２通）　16cm
○御記録編輯等御触に付先年於京都変事の節御所御警衛出張等荒増書御達状
○元治元年（1864）金沢発駕より京都着後の警衛の様子書。

5552　京都大変長州一条風評書　16.52—58
手写
３丁　24cm
元治元年（1864），禁門の変の時の各藩，京の町の様子を記す。

5553　恭敏公御退去一件書類　16.52—59
前田家編輯方編
明治年間
67丁　25cm
加藤三郎左衛門「公私日記」，「御親翰留ノ抄」，「御用方手留附録八ノ抄」等の抄録。文久４年（1864）松平大弐上洛より，元治２年（1865）にかかる禁門の変一件書類留。

5554　〔長州一件覚書〕　16.52—60
手写
仮綴２（12→19通）　12～19.5cm
蛤御門の変に関するもので，①は御目付神保伯耆守殿御届写ほか８通　②は４国連合艦隊下関砲撃の様子書ほか８通。
2

5555　奥村栄通存意書　16.52—61
奥村栄通著
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　23cm

内題「極秘愚存心付之趣筆記」。著者は，奥村宗家13代，元治元年（1864）前田慶寧上洛の際これに供奉し，変乱に兵を率いて仙洞御所を守るに尽力した時の考えを著したもの。
旧書名「存意書」。

5556　江州海津迄御内御使として御出の節御内用帳　16.52—62
手写
38丁　24cm
南部太郎吉所蔵の写。元治元年（1864）禁門の変後7月27日より8月17日に至る慶寧の海津逗留中の動向を記す。附「江州於海津駅松平大弐様御切腹ニ付検使一件」。

5557　〔禁闕御守衛ニ付御沙汰写〕　16.52—63
手写
1通　16cm
禁門の変に際し，加賀藩兵等禁裏守衛の功を賞せられる。

5558　〔禁門の変に付胡乱之者可召捕達書〕　16.52—64
手写
1通　15.5cm
元治元年（1864）8月朔日付前田弾番署名，長藩脱走者の発見・捕縛令。
旧書名「胡乱之者召捕ニ付達」。

5559　〔京都引取ニ付筑前守様へ被渡候書付写〕　16.52—65
手写
1通　15cm
禁門の変の際，筑前守（慶寧）の行動に関し，上京の上御詫申たき願の許可状。

5560　江戸御出府一件　16.52—66
手写
14丁　12×18cm
元治の変後，斉泰が幕府に陳謝のため出府したときの出府準備の記録。

5561　〔京都御守衛諸事覚書〕　16.52—67
横山政和編
自筆　元治2年（1865）
31丁　12×18cm
原題「京都御守衛ニ罷登候ニ付諸事覚書」。
元治2年（1865）正月より慶応元年（1865）6月迄。

5562　京都御守衛覚書　16.52—68
横山政和編
手写
32丁　23cm
内題「京都御守衛ニ罷登候ニ付諸事覚書」。
元治2年（1865）正月より慶応元年6月に至る。

5563　清和院御門御固御人数配大略　16.52—69
元治2年（1865）
絵図1枚　35.5×47.5cm
加賀藩兵が京都清和院御所警固に当ったときの配置図。

5564　清和院御門御固御人数配大略　16.52—70
元治2年（1865）
絵図1枚　35.5×47.5cm
前田恒敬旧蔵。京都警衛非常の節，人数建ヶ所極絵図。

5565　〔斉泰侯御上洛之覚書〕　16.52—71
手写
18丁　14×20cm
京都守衛のため慶応元年（1865）閏6月13日京都到着以来の在京記録。

5566　御上京中日記　16.52—72
手写
108丁　23.5cm
藩主前田斉泰が禁裡守護のため京都に入った慶応元年（1865）閏5月13日より，帰国すべく京を発する同年7月9日までの日々の記録。

5567　御上洛御供之面々　16.52—73
手写
1通　16cm
慶応元年（1865）藩主上洛の際の供人数の身分別内訳を列挙したもの。

5568 御上洛御供之面々等抄　16.52—74
前田家編輯方編
明治年間
5丁　25cm
巻頭朱記「成瀬覚書抄」とあり。

5569 御上京御供人帳　16.52—75
慶応元年（1865）
35丁　12×18cm
慶応元年（1865）藩主上洛の際の御供人名・数録。

5570 新兵組前録　16.52—76
慶応元～3年（1865～67）
38丁　12.5×18cm
小木貞正旧蔵。禁裏守衛のため慶応元年（1865）5月に編成された新兵組6組編成交名書。

5571 新兵組総名列帳　16.52—77
前田家編輯方手写　明治年間
39丁　23.5cm
内容年代は慶応元年（1865）。外題「新兵組名列並前録」。新兵組総名列帳，新兵組御雇前録よりなる。

5572 京都御守衛御備向御内定御絵図　16.52—78
慶応元年（1865）
絵図1枚　37×25cm
禁裏南御門・日之御門外警衛の為，上洛の横山蔵人以下の御備内定絵図。

5573 御在京中御守衛御備御人配絵図　16.52—79
慶応元年（1865）
絵図2枚　81×36cm
横山政和等手写による。先備・中備・後備からなる備立図。

5574 京都御守衛御人数配絵図　16.52—80
手写
絵図1枚　24×36cm　袋入
「図書発足之砌於御国被渡下候絵図」とあり。

5575 赤心報国録　16.52—81
手写　慶応2年（1866）
4丁　13×35cm
渡辺甫旧蔵。慶応2年（1866）正月藩命で京都出立に際し，藩士渡辺甫が奉行人をつれて出立する際の供人数，持物，兵糧などの仕度を記載

5576 京師御守衛御人数銃隊御編制ニ付諸事留　16.52—82
手写
21丁　24cm
内容年代は慶応3年（1867）。
○京都詰合人之御人高を以銃陣ニ編制心付
○京都御守衛御人高
○京都御守衛詰非常御手配方詮義之趣
○御親翰に付野戦砲隊・散兵隊等編制書上
○臨時出張之定。

5577 於京都御届等品々　16.52—83
横山政和編
手写
24丁　24cm
慶応3年（1863）12月～明治元年（1868）6月京都守衛関係書状類留。

5578 京都一件帳抜書　16.52—84
奥村栄通著
前田家編輯方手写　明治年間
93丁　23cm
内題「奥村栄通手留・京都一件帳之内抜書」。奥村栄滋所蔵の写。慶応4年（1868）2月～4月にかかる鳥羽・伏見の戦以降の京都等の諸情勢を留める。

5579 〔京都御守衛之達書〕　16.52—85
浅田順之助・清水平蔵著
1通　16cm
6月9日付，京都より申来りの将軍家動向等書面。

5580 〔上京ニ付〕口上之大意　16.52—86
4丁　21cm
京都守衛に際し，上京方・留守方の取締向の心付を記す。

5581 〔京都御守衛〕御条目　16.52—87
手写
1通　36cm
京都守衛に付19ヶ条よりなる心得，法度条目。

5582 〔京都〕建仁寺図　16.52—88
絵図1枚　40×28cm
渡辺甫旧蔵。加賀藩御借上方丈七ヶ寺等を記す。

5583 京都御守衛要用書抜　16.52—89
41丁　11.5×17.5cm
副題「巡邏一件末ニ附」。前田恒敬旧蔵。
図書江被渡下候品々・清和院御門御持場筑前守様被蒙仰候義・筑前守様へ京都御警衛被仰付置候所改而中納言様江被為御蒙候御義・御条目等臨時取揃方等々よりなる。

5584 三公御上京日記　16.52—90
赤井・藤懸頼善編
前田家編輯方手写　明治年間
84丁　23.5cm
○慶応4年温敬公御上京中日記2種
○慶応4年7月利嗣公御上京御供人帳
○明治2年恭敏公御上京御道中日記。

5585 〔金沢より到来書留〕　16.52—91
手写
95丁　24.5cm
明治元年（1868）より同4年（1871）に至る将軍判物，天皇武州行幸，大宮御所警衛兵員，在京諸藩の勤番などの留。

5586 御上京帳　16.52—92
公儀方編
明治2年（1869）
118丁　25.5cm
明治元年（1868）12月の前田慶寧上洛届以下，在京中諸記録留等。

5587 恭敏公御上京一件　16.52—93
手写
68丁　23.5cm
内題「知事様御上京一件」。御参内等御行列について明治元年（1868）12月から2年正月までの記録。恭敏公は第14代藩主慶寧。

5588 〔少将様初而上京道中日記并供人帳〕　16.52—94
前田内蔵方（孝錫）編
135丁　24cm
原題「少将様初而御上京御往来御道中日記幷御供人帳等」。表紙添書「明治元戊辰歳七月七日金沢御発駕，同廿二日京都御着，明治二巳己歳二月十一日京都御発駕大坂等御巡覧，同廿九日金沢御着」。前田利嗣の上京道中日記。

5589 〔東京御守衛出張之諸隊長並兵隊交名等抜書附録〕　16.52—95
前田家編輯方編
明治年間
60丁　23.5cm
外題「従明治二年四月至同四年十二月為東京御守衛出張之諸隊長共出張順兵隊交名等抜書附録」。内題「東京御守衛一件調理附録」。

5590 〔御警衛等抜書〕　16.52—96
手写
163丁　23cm
原題「明治2年ヨリ同四年マテ御警衛等抜書」
第一条，明治2年(1869)正月御上京の事から，東幸中の事，東京到着後のこと等が75ヶ条に渡り記されている。

5591 出兵守衛一件抄　16.52—97
前田家編輯方編
明治2～3年（1869～70）
2冊　23.5cm
明治元年（1868）～4年（1871）にかかる加賀藩兵が東京で町の治安に任じていた際の，政府や東京府役所の通達等。

5592 軍務官布達写　16.52—98
1通　16.5cm
明治2年（1869），加賀藩兵隊100人もって東海道六郷川より品川駅迄の巡邏取締を命ぜられる。

5593　中隊頭輿輪知大夫品川県大森村等へ出張中日記抜書　16.52—99
前田家編輯方編
明治年間
34丁　23.5cm
巻首に「中隊頭輿輪知大夫御上京御供ニ而東京詰中大森村等へ出張杉本美和介ト交代シ出張中ノ日記抜書」とあり。加賀藩兵東海道筋警衛関係。

5594　知事様御上京御道中日記　16.52—100
丹羽鳴吉・笠間小源太著
明治2年（1869）
51丁　24cm
前田慶寧の上洛につき，出発の明治2年(1869)正月18日より京都着の同月29日迄の道中日記。

5595　知事様東京御再幸供奉後駆御道中略記　16.52—101
藤懸十郎兵衛編
手写
34丁　24.5cm
明治2年（1869）前田慶寧・天皇の東幸に供奉して，3月7日京都発駕より東京到着の同28日に至る日記。

5596　知事様御供奉御道中日記　16.52—102
丹羽鳴吉著
明治2年（1869）
18丁　24cm
明治2年（1869）3月7日。天皇の東幸に供奉した前田慶寧一行の京都より江戸迄の道中日記

5597　旧金沢藩兵警衛出張持場等調書　16.52—103
手写
41丁　25cm
明治10年（1877）修史館長宛の警衛出兵人数等調書。目録に「元治元年ヨリ明治二年マテ藩金沢藩ヨリ諸国警衛出兵持場等調書草稿」，及び江戸邸調書として「本藩暦譜ヨリ抜萃」・「江戸邸沿革森田平次開申書」とあるも，これは欠。

糧　道　方

5598　敦賀并海津より運送之兵粮米請払帳　16.52—104
2冊　12.5×34cm
「敦賀并海津より運送之兵粮米請払帳」と「敦賀等ヨリ運送潰物等越坂ニ而請払帳」。いずれも越坂村へ運送している。

5599　敦賀糧道方御用御算用帳　16.52—105
佐久間久佐等著
手写
10丁　24cm
慶応3年（1867）正月より4月に渡る糧道方惣御入用請払帳。御算用場宛。

5600　〔敦賀表出役惣入用金請払帳〕　16.52—106
井上忠左衛門等著
手写
10丁・3通　24cm
原題「慶応三年正月より四月迄佐久間久佐等糧道方為御用敦賀表江出役および御呼寄者等惣御入用金請払帳」。他に御長持等代金覚。
旧書名「糧道方為御用敦賀表へ出役等御入用金請払帳」。

5601　糧道方御用出役中諸雑用内輪書上帳　16.52—107
荒木平助等著
慶応3年（1867）
4丁　24cm
糧道方御用の者の宿泊賃・食賃など雑費書上。総〆33両3歩1朱。糧道方御役所宛。

5602　糧道方ニ付敦賀等へ御出役中小遣等諸雑用金書上申帳　16.52—108
荒木平助等著
慶応3年（1867）
3丁　24.5cm
糧道方出役中小遣等諸雑用金調理下渡願書。佐久間久佐等宛。

5603　糧道方出役中宿料等御渡金請払書上申帳　10.52—109
荒木平助等著

慶応３年（1867）
２冊　12×36cm・24×18cm
①青鳴村五郎兵衛他21名に対する日懸料銀等請払書上
②繩張人料銀等請払指引書差上に付不足銀御渡方願，佐久間久佐他宛。

5604　測量方為御用繩張人等敦賀等へ罷越候料銀等請取帳　16.52—110
25丁　24cm
井上如苞旧蔵。慶応３年（1867）越中砺波郡荒木平助等より糧道方御役所宛。

5605　糧道方御用ニ付御入用金巨細書上帳　16.52—111
荒木平助等著
慶応３年（1867）
15丁　24cm
糧道方御用の見図り人日懸料・旅籠代等調理書。佐久間久佐他宛。

5606　糧道方一件　16.52—112
60丁　24cm
慶応３年（1867），敦賀より京都までの糧道御開に付，測量方并御入用方一件留。

特16.53　軍　務・調　練

軍　制・軍　法

5607　武蔵国越生報恩寺禁札写　16.53—1
手写
１通　32cm
天正18年（1590）関東陣の時の利家禁制。

5608　〔軍法法度書写〕　16.53—2
手写
巻子１　32cm
中川典克旧蔵。付札に「家康公諸大将へ被相渡候法度書写，奥ニ慶長元年丙申九月十一日付あり」とあり。軍法書・禁制書・口伝ニ渡ス弐拾壱ケ条之事・陣おしの次第・陣取之小屋わり之事（天正16年）などから成り，曲淵宗立斉他５名より今村八兵衛・今村源右衛門宛。

5609　本藩微妙公御軍制等条々　16.53—3
手写
40丁　27cm
青地采女旧蔵。慶長20年(1615)の御旗本軍法，慶長19年（1614）大阪陣の際の領国中城代，軍中役人，大筒鉄砲の数，鎗合，大阪両陣の首帳，戦死人，陪臣にして鎗高名の褒美をえた者，同陣ののぼり，指物等，陣立，元和２年（1616）および寛永10年(1633)の軍役などを記す。

5610　軍役に関する制規　16.53—4
41丁　23.5cm
「法度」・「首実検之作法」・「勝閧之作法」・「御感状ノ古案」・「計策文」・「条々」・「鐘貝太鼓の制法」・「陣衒」・「相詞」・「首牒の支」・「手負証文」・「誓詞」を収む。軍紀及び出陣心得一般に関することを，古来以来の制法の雛形を示し，それに解説を付すかたちで編集。

5611　御領内防備之為上書　16.53—5
横山大膳等著
手写
42丁　22cm
安永２年（1773）の軍制整備を基とした軍制改革，再整備の上書。

5612　〔御親翰拝写示達下書〕　16.53—6
手写
２通　17cm
○軍制の銃陣編制化につき
○銃陣編制化により，鎗剣修行など衰えに付，勉励・節約・武備の充実などにつき。

5613　〔本多播磨守添状〕　16.53—7
１通　16cm
10月５日付，村井又兵衛宛。軍制についての御親翰の趣に関し，引直し書取の件。
旧書名「本多播磨守書翰」。

5614　〔村井又兵衛口上書控〕　16.53—8
手写
１通　16cm
加賀藩軍制に西洋兵器の導入に関する御親翰へ

の上書，子4月11日付。

5615 〔軍制に関する達書〕 16.53—9
手写
2通 18cm
軍制に関し，本邦の軍法を本とし，且西洋器械をとり入れるべき旨の達，村井又兵衛宛。
旧書名「軍制之義ニ付申渡書」。

5616 内密問答書 16.53—10
有沢貞固著
手写
39丁 23cm
嘉永4年（1851）原本成立。「此書嘉永四年有沢沢右衛門貞固之著述ナリ是ニ答フル内密問答附録ト題セル岡田先生之撰述スル一巻アリ合セ見ルヘシ」としてそのあとに一巻が続く。鉄砲を主体とする洋式兵制採用の可否について論ずる。

5617 御軍制御改正之義ニ付愚存書 16.53—11
山脇治右衛門
安政4年（1857）
17丁 24cm
朝廷の御評論による軍制改正の義につき，西洋流軍制導入賛成の立場よりの，25ケ条からなる意見書。

5618 〔軍備ニ付達書〕 16.53—12
1通 24cm
西洋流軍制の横行に対し皇国の兵法をもってあたるべきを説く。

5619 〔西洋之軍制採用に反対意見書〕 16.53—13
1通 15.5cm
旧書名「西洋之軍制ニ付意見書」。

5620 〔西洋軍制採用の風潮に付達書〕 16.53—14
1通 18cm
軍制そのものよりも，国内一致の武勇・忠義の精神の必要性を説く。

5621 西洋火術之儀ニ付心附之趣御内達書 16.53—15
手写
14丁 24.5cm
巻首に「西洋流御挙用壮猶館等被為建置候御趣意奉恐察候儀乍如何左条ニ申上候」とあり，西洋火術の導入に関し，その安易な採用をいましめつつ，兵器の新たな導入には軍隊編成にも深慮すべきことを上申したもの。海岸御手当人の組編成の私案も提示し，その詮議を要望している。亥9月の日付あり。

5622 西洋火術之義ニ付心得之趣御内達書 16.53—16
前田家編輯方手写 明治年間
21丁 25cm
巻首に「金谷与十郎心附書欤」と朱書がある。与十郎は，名は健尚，御先弓頭200石。
同じく「西洋流御挙用壮猶館等被為建直候御趣意奉恐察候儀乍如何左条ニ申上候」とあり。前号に同じ。

5623 鐘貝太鼓制法 16.53—17
13丁 11.5×18cm
「陣屋より打出る作法」等鐘や螺・太鼓による信号の応答定，附文久3年（1863）元日より9日までの勤務日記。

5624 砲術之義ニ付達 16.53—18
中島興山著
1通 16×18cm 包紙
早川徳三宛。砲術新流採用に付申渡の覚。
「長防戦争新流之利器実地経験」から今後新流に改め，現在では専ら砲戦となるので，一同に鉄砲を用いること，との御座における決定を達する。

備立・人馬積

5625 〔御旗本御備立図〕 16.53—19
絵図4枚 26×40cm
○大阪夏御陣御備，但横山氏家来松山覚書之趣
○御馬廻一組之備，但青地蔵人神尾主殿等咄
○御旗本御備立，藤田内蔵允物語之由青地蔵人咄
○人持組備立，同上，中川典克旧蔵。

5626 合戦備押　16.53—20
手写
14丁　12×36cm
横山政和記録の写。合戦に際しての各軍制，人員，装備等の配置を記載する。

5627 小身者出陣人馬積〔附小身者出立諸道具〕　16.53—21
有沢永貞編
手写　延宝9年（1681）
13丁　16.5×18.5cm
諸士の戦時に供連れする奉公人々数と奉公人の持物につき記す。

5628 有沢私考　16.53—22
有沢永貞著
手写
2冊　22cm　帙入
1～3巻・追加よりなる。元禄10年（1697）の序文あり。永貞の加賀藩における御備定・御国政についての意見書。

5629 当藩分兵護国秘典　16.53—23
有沢武貞著
手写
9丁　24cm
享保17年（1732）三州御固場所人数配，非常時人数配当方内密治定書。

5630 当藩分兵護国秘典　16.53—24
有沢武貞編
前田貞発手写　文久2年（1862）
11丁　23cm
前田貞醇旧蔵。副題「三州御固場所人数配当」。奥付「右者先年已来度々奉達御聴候趣ヲ以テ自然非常之節御人数御配当御内密御治定之処如件，有沢森右衛門，享保十七年五月」とあり。

5631 三州御固場所人数配　16.53—25
手写
2冊　24cm
外題「当藩分兵護国秘典」。御固ケ所31ケ所。570騎に子弟を加え700余騎の場所人数配置書。

5632 加陽備考　16.53—26
有沢永貞著
自筆　宝永5年（1708）
72丁　27cm
内題「加陽御備定」。加陽御備定の始源等につき，大坂の陣の御備見聞をもって記す。

5633 加陽備考　16.53—27
有沢永貞著
手写
73丁　27cm
内題「加陽御備定」。横山政和旧蔵。大坂両陣における加賀藩兵の配備その他を記したもの。宝永5年（1708）成立。前号に同じ。

5634 加陽御備定　16.53—28
有沢永貞著
72丁　27.5×20cm
別名「加陽備考」。前号に同じ。

5635 組分之儀ニ付伺紙面写　16.53—29
手写
4丁　24cm
横山政和旧蔵。松雲院様御代，宝永7年(1710)十二組御馬廻組分の儀，謙徳院御代，寛延4年（1751）組分の儀等伺書写。

5636 当家御座備図　16.53—30
手写
巻子1　31cm　包紙
陣立人員配置図，巻末に軍役規定あり。

5637 〔証器団扇采幣免状〕　16.53—31
手写
1通　18cm
馬廻頭・小将頭・先手物頭・横目・使番に対して出された采幣免状の写。

5638 中将様御親翰并御請控　16.53—32
有沢才右衛門編
天明5年（1785）
2通　16cm　包紙
軍の大勢に付き，異朝周礼之法，異朝軍役の法により軍の構成，人員について述べる。

5639　軍用人馬出銀等図り　16.53—33
仮綴1（15通）　8～16cm
○知行米廻米図り覚
○御家中軍用御手当為御貸渡之詮義書
○借財書上御貸渡仕法
○米価御払等に付覚
○「出張出銀之義に付口上書」
増田九兵衛より八郎右衛門・御近習家中宛
○諸役御仕法相改りに付達書
○御領・他領出銀・兵糧相違書
○百万石四歩半役，人馬数書上
○才川々上等割場覚
○御手当方足軽不足数積書
○割場・江戸詰・大阪詰等人高書上
○御蔵許・御蔵建の義覚
○浦山村御旅屋等書上
○玉薬奉行，上煮塩硝在高覚
○玉薬奉行，筒薬・口薬員数覚。

5640　〔出陣人馬兵粮等覚 書式〕　16.53—34
1通　23.5cm
中川典克旧蔵。給人召連人馬構成，人馬兵粮等積覚の雛形。

5641　侍五十騎一備ノ積　16.53—35
1通　22cm
五十騎一備の人員構成積書。

5642　御当家御備立之図　16.53—36
野村信由手写　天保13年（1842）
絵図2枚　56×40cm・62×28cm　袋入
野村氏旧蔵。袋書「天保十三年八月茨木氏ヨリ借用書写畢毛頭不許他見」。

5643　〔御当家御備立図〕　16.53—37
絵図3枚　34×24cm～48×36cm
○御当家御備立図
○御持筒奥村善右衛門組他備立図
○大炮隊等備立図。

5644　奥村内膳殿并組中御先手共備立之図〔他〕　16.53—38
手写　安政2年（1855）
絵図4枚　24×36cm～36×47.5cm
前田恒敬旧蔵　①奥村内膳殿并組中御先手共備立之図　②駒井頼母他筒・弓備立之図　③④左右備立之図（2枚）

5645　長大隅守組備立内考略図　16.53—39
絵図1枚　113×116cm
「此ノ図ハ大隅守殿一組ノ備立図考略図ニシテ其役高ハ諸将ノ本高ヲ以テ有沢武貞師ノ軍役通解ヲ本トシテ四分役高ヲ以記ス……」とあり。

5646　村井又兵衛組備立図　16.53—40
絵図1枚　35.5×24cm

5647　横山遠江守組備立ノ図　16.53—41
絵図2枚　69.5×47.5cm・95.5×71cm
富田権六郎旧蔵。

5648　〔当家〕野戦筒可指加ニ付備先見斗家老心得次第　16.53—42
本多図書著
手写
1枚　36×48.5cm
先手物頭・馬廻組等陣及び野戦筒配備図。家老本多図書。

5649　〔御備立につき鈴木藤作意見書〕　16.53—43
鈴木藤作著
自筆
1通　16cm　包紙
鈴木藤作は嘉永3，4年（1850，51）に作事奉行・御武具奉行など歴任。
旧書名「八陣覚書」。

5650　御備押并御行列等　16.53—44
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
40丁・巻子1・1枚　23cm・24.5cm・45.5×79cm
奥村栄滋所蔵の写。○御備押并御行列等目録旗本備押之次第，御出馬之節御行列大概，臨時御登城之節御行列，芝増上寺大門前出張人数書，芝増上寺大門前出張人数行列附○嘉永7年（1854）旗本備押之次第之附図○御備押并御行列等之附図。

5651　筑前守様江戸表ニおいて臨時御備図等品々　16.53—45
横山政和手写　安政5年（1858）
32丁　24cm
○嘉永5年（1852）「筑前守様御在府御手当」○嘉永6年（1853）「筑前守様 御在府 御急事御備」○嘉永7年（1854）「御在府御備図并前田式部矩正手留」。奥書に「右三品慥冊安政五年四月於江戸表前田式部矩正ヨリ備用之五月廿二日清書之畢」とあり。

5652　小松御城御人数配御内定〔図等〕　16.53—46
手写　文久3年（1863）慶応2年（1866）
絵図3枚　彩色　24×37cm
「松雲院御代小松御城御人数配御内定」文久3年（1863）写，横山政和旧蔵「小松御城御人配大要亀図」，「慶応年間小松御城御人数配御内定」慶応2年（1866）横山蔵人写。
旧書名「小松御城御人数配御内定」。

5653　御備押之次第　16.53—47
手写
3丁　24cm
備立と人数，指揮系統について記す。

5654　〔歩砲大隊人員〕　16.53—48
手写
8丁　24cm
外題「歩砲大隊人数」。内題「歩兵一大隊人員」。歩兵，砲兵大隊構成・人員書上。

5655　出馬之節行列之大概　16.53—49
手写
23丁　16.5×7.5cm
近藤篤之旧蔵。大名出陣の行列附。「但押様之次第必此通ニモ不可有，唯大様之趣也，是ニ而惣人数図リ并武器之調理ナスヘキ事也」の副書あり。

5656　御出馬之節御行列之大概　16.53—50
18丁　18×12cm
表紙に「是を以惣人数之積并武器等之調理迄なすへき書」とあり。

5657　御出張行軍之次第　16.53—51
20丁　18×12.5cm
先払足軽より五番小隊，四番小隊の順に最後備の日用頭野村次右衛門までの行軍配列を氏名入で記す。

5658　臨時出馬之節行列之次第　16.53—52
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　25cm
横山政和所蔵の写。慶応元年（1865）横山政和写を編輯方再手写。先備行列之次第・中備行列之次第・後備行列之次第よりなる。

5659　臨時御出張之節御組中へ御談置等之ケ条書　16.53—53
4丁　11.5×32.5cm
臨時出陣の際の詰取極確認事項書。

5660　御門外御行列建場之図　16.53—54
島田常保著
絵図1枚　67×85cm　袋入
島田孝郷旧蔵。原題「総軍并御旗本御備之図」。式台前の配備及び御門外の配備図。

警　衛

5661　〔御城御警衛方御達〕　16.53—55
安政2年（1855）
1通　16cm　包紙
原題「安政二乙卯年三月十六日御城方江被呼立横山遠江守殿御渡候書取」。加藤里路旧蔵。
海防手当の為，人数出張の節，残りの人々御城警衛の旨達。

5662　〔御城向御警衛御手配〕　16.53—56
手写　安政2年（1855）
5丁　24cm
原題「御留守中近海江御人数出張御城向御警衛御手配」。横山隆康旧蔵。御城警備組入数配書。

5663　御城并市中近海御手配内考　16.53—57
手写
2冊　25cm
○御城内，惣構に喬木繁茂の義に付申上書。

○御城并市中近海御手配内考。各所人数配に関し，各々の固場・人数配に付き理由説明。
旧書名「愚考物追加草稿」。

5664　御留守中近海へ御人数出張後御城向御警衛御手配　16.53—58
手写
5丁　24cm
横山隆康旧蔵。二御丸柳之間他警衛ケ所・人数配書。

5665　臨時御屋敷内御直御用一件留　16.53—59
中黒卯八郎編
前田家編輯方編手写　明治年間
10丁　24.5cm
中黒善全所蔵の写。内容年代は元治元年（1864）。御屋敷内臨時の節，南馬場御固の小頭以下書上など。

調　練

5666　大組御持筒足軽鉄砲指南役　16.53—60
仮綴1（5通）　16.5cm
延宝8年（1680）～天明4年（1784）の指南役書上など。

5667　〔松原杢右衛門勤功之書上等〕　16.53—61
手写
1通　15cm
中川典克旧蔵。他ニ元禄14年（1701）より宝永6年（1709）迄9ケ年弓稽古的中など。

5668　御前的等覚書　16.53—62
島田常保手写
14丁　12×17cm
島田孝郷旧蔵。延享4年（1747）7月，前田重熙射的競技御覧における的中本数ならびに人名の記録。

5669　〔大的皆中之書付〕　16.53—63
天明2年（1782）
1枚　32×45cm

5670　重教公大御的御中附　16.53—64
天明3年（1783）
1通　18cm　包紙
重教公は10代藩主。包紙は有沢才右衛門筆。

5671　騎射中日記　16.53—65
天明6年（1786）
1通　17cm　包紙
前田貞醇旧蔵。2月9～11日，3日間の騎射命中数記録。

5672　〔教千代様御弓初等作法書〕　16.53—66
神尾一通手写　文政2年（1819）
5丁　12×18cm
表題「天明八年二月教千代様御弓初并御具足御召初御作法書一巻」。神尾直躬旧蔵。田辺群吾所蔵の写。教千代は10代重教の子，安永7年（1778）生。18才で没。

5673　泰雲公騎射番附等　16.53—67
前田家編輯方手写　明治年間
99丁　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。軍事に関する御親翰等。

5674　乗馬御覧之次第　16.53—68
1通　24cm　包紙
横山蔵人宛。
寛政3年(1791)，乗場略図，乗様之事を記す。

5675　弓初并乗初之節之絵図　16.53—69
絵図3枚　24.5×35.5cm・24.5×36cm
47.5×48cm
「犬千代」の弓初・乗初の指図。前田貞発旧蔵。
○御馬見所図○御馬通行路図
○御居間書院御弓持等控図。

5676　〔草鹿相勤候人々名書〕　16.53—70
寛政12年（1800）
1枚・名札18枚　21×15cm・6×1.5cm
寛政12年4月17日金谷御殿の庭前で草鹿の礼式が行われた時の射手の番附。石野主殿助ほか18人の名札を附してある。

5677 〔矢代的稽古之節前後自分覚書〕 16.53—71
島田常保著
12丁　12×19cm
島田孝郷旧蔵。原題「文化二年四月吉田彦兵衛殿於的場矢代的稽古之節前後自分覚書」。矢代人数・弓小屋図，矢代的中り付等よりなる。

5678 人持頭分堂形於御馬場乗馬被仰付候一件始終留 16.53—72
富田某編
110丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。天保3・5年（1832・34）に第13代藩主斉泰が藩士の調馬を観覧した時の記録。

5679 武芸出情人御覧一巻 16.53—73
手写
2冊　12×18cm
中川典克旧蔵。天保9年（1838），嘉永2年（1849）の武芸御覧人交名并業付等書上。

5680 馬術師範等拝領物之覚 16.53—74
2通　15.5cm
○奥村丹後守家永島休楽他馬術・剣術師範の者白銀等拝領物覚
○八島龍助他剣術・弓術師範の者白銀等拝領物覚。
旧書名「西丸御普請御手伝御用相勤之人々へ拝領物之覚」。

5681 〔於打木浜小川家火術御覧等之次第〕 16.53—75
4丁　12×36cm
早川随勝旧蔵。嘉永元年・2年（1848・49）の打木浜における火術御覧打順等次第。

5682 筑前守様御歩水練御覧之節御仮屋等絵図 16.53—76
嘉永2年（1849）
絵図1枚　28×40cm
小屋淵での水練御覧の施設図。

5683 調練躰容 16.53—77
7丁　24cm
横山政和旧蔵。嘉永3年（1850），前田斉泰御覧の打木浜調練の際の調練定。

5684 〔調練御覧等記録〕 16.53—78
仮綴1（15丁）　13×35cm　包紙
包紙「岡田氏取調草稿品々」とあり。嘉永3年（1850）より文久3年（1863）にかけての鉄砲等調練御覧日時記，京都・江戸御供の人々年時・人名書等，明治元年（1868）に至る諸覚綴。

5685 人持組調練私考 16.53—79
新敬近著
嘉永5年（1852）
12丁　24cm
横山政和旧蔵。嘉永の外国船来航に対処するため，調練方につき記す。

5686 弓炮三隊操練図式 16.53—80
脇田尚方著
嘉永5年（1852）
8丁　24cm
横山政和旧蔵。調練作法及陣屋前蹴出ニテ備畳図等操練図。奥書「右此年嘉永五年二月三家之需ニ応シテ書記シ了」。

5687 〔於竹沢蓮池御大小将備押之次第〕 16.53—81
7丁　24.5cm
原題「嘉永六癸丑三月晦日於竹沢蓮池御大小将備押之次第」。横山政和旧蔵。前田斉泰臨観の竹沢調練場における大小将の備押等書上。

5688 〔武芸御覧ニ付交名等帳〕 16.53—82
手写
17丁　23.5cm
嘉永6・7年（1853・54）人持組の武芸を披露した人々の交名。
原題「人持組武芸御覧ニ付交名等帳」。表紙に「嘉永六年七月廿五日半分御覧残り半分ハ同七年五月七日ニ御覧」とあり。

5689 調練四十くらが里 16.53—83
手写
合綴1（2冊）　24cm
○嘉永6年（1853）御廻組頭大橋作之進海防御手当組ニ付於打木浜ニ調練軍装・陣取図等

○嘉永6年（1853）組々人々備立等調練一件ニ付申談之仮留。

5690　火矢打申覚　16.53—84
中川八郎右衛門著
1通　26cm
中川典克旧蔵。打木浜における火矢の試射町間見届の報告。

5691　浜調練方心得書　16.53—85
有沢小十郎手写
7丁　17.5×12.5cm
「浜調練ニ付向茂着束覚・浜調練ニ付役器之割」などよりなる宇津木ケ浜・専光寺出村における軍事調練に際しての諸準備計画書，村縫殿右衛門よって命じられたもの。

5692　小笠原殿手合騎戦調練覚書　16.53—86
1通　17cm
早川随勝旧蔵。安政4年（1857）9月9日の小笠原殿騎戦調練について見物覚書。

5693　流鏑馬并調練等記　16.53—87
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
50丁・1枚・絵図4枚　23.5cm　包紙
<冊子>
①○於御庭御馬場小笠原家門弟之流鏑馬等御覧名書等
○安政4年9月於東都鳳山下曽根殿門弟西洋流調練之次第
○小笠原家門弟騎戦調練之図
<附図>②安政4年9月下旬於東都鳳山下曽根殿門弟西洋流調練，御老若方御見留有之図其大概（25×155cm）
③安政4歳9月丁未鳳山調練第3之図（38.5×55cm）
④安政4年9月9日於東都麹町騎射場小笠原家門弟騎戦調練之次第書并絵図等（24.5×152.5cm）
⑤小笠原門弟騎戦調練之図（24.5×34cm）
⑥騎射番附（40×28cm）。

5694　高嶋流砲術稽古業書等　16.53—88
小川権之助著
自筆　安政4年（1857）
4冊　14×40cm
①・②・③「於大森村地先丁打場高嶋流砲術稽古業書」。安政4年（1857）11月7日～9日に加賀藩士が武州大森村で行った砲術稽古者名簿。
④「西洋炮術業書」。「浜御庭於海手上覧，八月廿五日」とあり。1番船～7番船よりの炮術訓練の銃種・炮術者名簿。

5695　筑前守様騎射御覧ニ付諸事留　16.53—89
渡辺佐太夫編
手写
45丁　24.5cm
渡辺甫旧蔵。内容年代は文久2年（1862）4月。

5696　〔打木浜調練御備立之図〕　16.53—90
文久3年（1863）
絵図1枚　彩色　35×75cm
原題「文久三年四月廿日於打木浜御備押御調練被遊候節御備建之図」藤田与七郎旧蔵。

5697　本藩雑記　16.53—91
39丁　24.5cm
文久3年（1863）軍艦操練所訓練，参内，調練（於打木浜），軍制，幕末状勢などを記す。

5698　御旗本御備押絵図等　16.53—92
手写
2冊・絵図3枚　18×6cm・12×36cm・16×18.5cm～24×48cm　袋入
野村良旧蔵。袋の上書に「文久四癸亥四月廿日於打木浜御調練被遊候節，御旗本御備押絵図等入」とあるが，文久4年は同3年（1863）の誤り。斉泰が旗本備押の調練を行なった時のもの。御旗本御備押之次第，鐘貝大鼓之製法（以上冊子），御備立御絵図，御合印2枚（以上絵図）。御備立絵絵図は藩士名を附す。御合印は火事の節の袖印。

5699　割場稽古所ニテ焔硝爆発之留書　16.53—93
手写

1通　15cm
打場において稽古の時，焔硝に火移り一件見聞記。

5700　御鉄砲打初御規式作法図　16.53—94
手写
絵図1枚　24×41.5cm
御鉄砲打所絵図，道具，人員の配置図。

5701　〔剣術鎗術形等御覧目録〕　16.53—95
10丁　12×18cm
御大小将組・御膳奉行・奥納戸奉行・御近習番・御馬廻組等の武術試技者書上。

5702　〔中村与次右衛門鴻打の結果に付報告〕　16.53—96
三輪豊右衛門著
1通　25cm
9月10日付（年代不詳）三輪豊右衛門より中川八郎右衛門宛報告。御異風組中村与次右衛門が津幡口太田村の裏で鴻打の結果，玉数3ツ中2ツ当った書上げ。旧書名「中村与次右衛門鴻打之事」。

5703　〔境村御用地代り地引高願〕　16.53—97
肝煎九郎右衛門等著
慶応4年（1868）
1通　24cm
越中境村，炮術稽古所御用地に付，同村村役人よりの引高願書。
旧書名「境村肝煎九郎右衛門等願書」。

5704　調練場新建絵図　16.53—98
絵図1枚　27×78cm

5705　〔操練所御用地図面〕　16.53—99
手写　明治元年（1868）
絵図1枚　54×66cm
原題「荻生村領内操練所御用地図面」。文久4年，明治元年竿入田畑歩調理。
旧書名「操練所御地面図」。

5706　調練御備建ノ図　16.53—100
絵図1枚　51.5×52.5cm
調練時の人，組の配置図。

5707　英新式天覧私記　16.53—101
南保太郎吉著
前田家編輯方手写　明治年間
54丁　24cm
南保太郎吉所蔵の写。明治3年（1870）4月17日駒場野において英式練兵のもようを明治天皇の天覧をうけた記録。南保太郎吉は金沢藩士，この時第二連隊第四大隊六番小隊の小隊長を勤めた。

特15.54　武　　具

5708　〔堂形於御馬場乗馬六具拵附〕　16.54—1
手写
18丁　12×18.5cm
前田恒敬旧蔵。表紙に「後八月廿四日堂形於御馬場六具ニ而乗馬御覧ニ付罷出候人々着用之六具拵附」とあり，津田玄蕃他13名の籠手・脇当などの六具拵書上。

5709　御鉄砲出来并御修覆筒直段極帳　16.54—2
手写
22丁　24cm
内容年代，慶安4年(1651)～享保20年(1735)鉄砲出来并御修覆物等細工人々に申渡の儀詮儀に付細工人書状等。御修覆筒直段極之事。豊嶋流異風筒金具仕足物直段附など。

5710　〔御家中武具ニ付玉井勘解由殿御申渡御口上覚書写〕　16.54—3
手写
4丁　24cm
原題「御家中武具之儀に付元禄十三年庚辰十二月廿八日玉井勘解由殿御申渡御口上之御覚書之写」。武具規定が混乱してきているため武具御定の再編の達。

5711　〔行山新右衛門口上書〕　16.54—4
行山新右衛門著
自筆
1通　24.5cm
中川典克旧蔵。武具庫をあけて武具を搬出した

際の報告書。中川八郎右衛門，前田七郎兵衛宛。

5712　小松御城附御武具并御弓御鉄砲其外品々残物之帳　16.54—5
御武具奉行中村喜三右衛門・岡部藤右衛門編
手写
8丁　12×18cm
中川典克旧蔵。文中に「元禄八年三月廿一日より享保九年十二月晦日迄請払御算用相極残物新入共附札仕損物等帳面ニ記上之申候」等とあり。

5713　御持弓御持筒之儀ニ付控　16.54—6
前田家編輯方手写　明治年間
60丁　23.5cm
横山隆平先代の手記。享保10年（1725）3月写の手写。弓・筒の管理方留記。

5714　御召料注文〔ニ付達書〕　16.54—7
津田伝八郎・有沢森右衛門著
享保11年（1726）
1通　24cm
御鎧・御錣・御頬・御籠手・御佩楯・御靏当・御陣羽織など具足仕様注文書。中川式部宛。

5715　御うつぼの覚　16.54—8
1通　29cm
中川典克旧蔵。中川八郎右衛門宛。注文の空穂五本の装備，代金渡方等につき覚。

5716　〔御鞍鎧等御用目録〕　16.54—9
中川式部著
自筆
1通　17cm
中川典克旧蔵。武具奉行宛。内容年代，享保期。

5717　役方密談　16.54—10
今枝直方著
自筆　享保12年（1727）
30丁　19.5cm
弓方之談，武器方之談，魚津之永原ト贈答，鎗数物拵ノ聞書，鎗研之品書面，使有沢氏尋田中氏諸書之談，使有沢氏尋叔父執筆等之談合七種よりなる聞書。弓の破損，武具修覆などについての加賀藩の先例などを記す。

5718　御武具方留帳之内抜書　16.54—11
手写
5丁　24cm
前田貞醇旧蔵。宝暦5年（1755）～明和4年（1767）御武具方御用留帳。表紙添書「但宝暦八年十一月より翌九年三月迄之留帳之分焼出候由」とあり。

5719　兵器集纂　16.54—12
有沢貞幹著
自筆　宝暦5年（1755）
51丁　12×18.5cm
御用番奥村主水（陸振）より内々に御尋に付，家中所持の武具数その他所見等を記す。

5720　小川七太夫覚書　16.54—13
小川七太夫等著
手写
2冊　24cm
御火矢方御筒修理入用銀之義ニ付申上之覚及び増銀願書上。小川氏は代々火方御用を勤めた。

5721　武具馬具道具帳　16.54—14
永原藤左衛門等編
前田家編輯方手写　明治年間
58丁　23.5cm
中川典克旧蔵。内題「宝暦十年御武具馬具御道具帳」，宝暦10年（1760）「別囲御武具馬具御道具帳」，同年「御道具外物帳」。

5722　〔御弓矢奉行覚書〕　16.54—15
根来三左衛門編
手写
4丁　24cm
宝暦10年（1760）～天明6年（1786）にかかる，「御弓矢新出来方御入用銀渡り方之覚」「御鉄砲方御入用銀覚」「御弓矢新出来方御入用銀ニ応シ出来高図リ」等よりなる。

5723 〔御鉄砲奉行覚書〕 16.54—16
7丁 24cm
鉄砲奉行の鉄砲新出来入用銀高の覚など。内容年代は明和～寛政期。

5724 御家老方取捌等諸事覚書 16.54—17
前田織江著
自筆 寛政9年（1797）
18丁 12×18cm
前田道益旧蔵。享保9年（1724）与力方等勤方覚，御武具出来方御入用銀渡方之大低，御道具御土蔵調理等覚書。

5725 〔軍装御定〕自分拵之分 16.54—18
文化4年（1807）
9丁 12.5×18cm
「右軍装御定自分拵之分於御細工所相頼候者江出来可遣分」の書上。

5726 〔今枝民部殿より頼之弓出来之覚書〕 16.54—19
手写
1通 15cm
文化14年(1817)，今枝民部注文の弓三張出来に付，吉田茂育より名判等相伝の事。

5727 異風之序 16.54—20
4丁 14×19cm
異風のいわれについて記述。異風とは短砲のこと。

5728 異風之御鉄砲刀ためし覚 16.54—21
野村忠兵衛著
手写
1通 24cm
中川典克旧蔵。鉄炮刀ためし見届吟味届書。野村忠兵衛は御細工奉行。中川八郎右衛門等宛。旧書名「異風之御鉄砲ためし覚」。

5729 硫黄相改申覚 16.54—22
渡辺弥平著
自筆
1通 24.5cm
福嶋少太夫預りの硫黄改書。中川八郎右衛門宛。

5730 敬之御箪笥御入方目録 16.54—23
文政2年（1819）
4丁 24cm
有沢氏旧蔵。「平壱番御長持入」とあり。敬の箪笥調理平壱番長持に入れ替えの節，四・五の引出し入方の軍書関係書物目録。

5731 御武具土蔵格式帳 16.54—24
吉田良左衛門等編
手写 文政7年（1824）
48丁 22cm
外題「御武具所格帳等」。脇田尚保旧蔵。
御武具土蔵格式帳・相封御道具番附・佐渡守様御道中御供御武具覚・若殿様今般御用之御旅行御道具目録・表小将御番頭等御軍装方之部・久世平助金森猪之助杉浦庄兵衛より指上候武器由来書写・宝暦5年御親翰留など。

5732 御武具所御道具留 16.54—25
御武具所編
脇田尚方手写 天保15年（1844）
62丁 24cm
脇田尚保旧蔵。内容年代，天保11年（1840）。「直御預御道具帳」，「別囲御道具帳」，「御武具馬具御道具帳」武具所収蔵の諸道具の記録。

5733 御武具奉行口達之覚 16.54—26
冨田九内・村上与一著
手写 弘化2年（1845）
8丁 24cm
横山政和旧蔵。武具検分に際し，甲陽軍鑑をもって足軽の鉄甲等について述べたもの。

5734 御武具銀志らべ書 16.54—27
中川某編
弘化4年（1847）
8丁 12×18cm
中川典克旧蔵。文化7年（1810）よりの御武具銀入払覚。

5735 御武具奉行手合御土蔵等書上 16.54—28
手写
1通 23cm
御武具奉行・玉薬奉行手合の土蔵所在及び焼失

以前の土蔵数・所在の書上。
旧書名「御武具奉行手合御土蔵二ケ所等」。

5736 〔加州少将殿馬記録等〕 16.54—29
10通 15cm
①弘化3年（1846）馬注文書
②馬名・馬種・年令等書上
③非醫に付紙面・夜光之事口伝
④口伝大極意，側にて既有之候時手覚
⑤嘉永元年（1848）乗料大痛療治の事
⑥宗対馬守に朝鮮馬所望の事等
⑦，⑧弘化3年（1846）加賀少将，馬注文書
⑨弘化3年（1846）馬具等入用の品々書上
⑩既等の義に付書状。

5737 武具渡方品目帳 16.54—30
脇田伊世幾著
前田図書貞事手写 嘉永3年（1850）
4丁 12×35.5cm
前田貞醇旧蔵。給人・歩士などへの武具渡控。

5738 口郡矢篦竹御薮所見分仕詮議之趣書上申帳 16.54—31
能登部下村一楽・吉田村恒右衛門編
手写
9丁 24cm
内容年代は嘉永4年（1851）。口郡村々矢篦竹薮見分により，御用に立たない箇所の詮義調理書。
旧書名「口郡矢篦竹御薮所見分仕詮議書上申帳」。

5739 続潜告私記（二） 16.54—32
有沢師貞編
46丁 12×18cm
内容年代は嘉永4年（1851）～6年（1853）御軍装物品々調べ。筑前守様御召の御胴等御品附目録・備後守様御召料御具足の細工者書上・嘉永5年居合等稽古御覧書上等。

5740 〔小松御城御土蔵入御武具員数等〕 16.54—33
前田矩正手写 安政5年（1858）
7丁 24cm
原題「小松御城御土蔵入御武具員数小松御貯用弓抱矢玉薬数 但小道具員数鉛御貯 用員数共記」。
前田栄次郎旧蔵。御土蔵奉行が御土蔵の道具類を虫干の時一覧した道具類書上。

5741 御用留帳 16.54—34
手写
18丁 18×12cm
前田栄次郎旧蔵。内容は安政5年7月，筒薬塩硝の数量調べ，見積りなど。

5742 御土蔵入等御武器具数帳 16.54—35
安政6年（1859）
15丁 23cm
成瀬正居旧蔵。武具土蔵の武器諸道具の員数を記載。

5743 〔御鉄砲所調方就任に付演述之写〕 16.54—36
手写
1通 15.5cm
文久3年（1863）御鉄砲所御鉄砲調方御用主附就任演述の写。
旧書名「御鉄砲所ニ付達書写」。

5744 御鉄砲所御用日記 16.54—37
成瀬正居著
自筆 元治元年（1864）
2冊 12×18cm
成瀬正居旧蔵。
①文久4年（1864）2月より元治御改元
②元治元年（1864）11月より12月。

5745 御鉄砲所大筒并尺筒員数留 16.54—38
成瀬正居著
5丁 12×18cm
成瀬正居旧蔵。御家老方，御城方などより御渡の鉄砲等員数書上。

5746 御武具方 16.54—39
武具所編
手写 元治元年（1864）
13丁 18×12cm
前田恒敬旧蔵。武具土蔵見分の節，足軽具足等金物・革物・古製・新製・濫觴年限等調理書。

5747 〔短エンピールド等購入之〕覚等　16.54—40
金谷与十郎著
手写
12丁　24cm
○慶応元年（1865），金谷与十郎の短エンピールド銃千挺買入契約覚
○ゼロウレイロよりのシテヲフヘンカウ号について伺書簡等。

5748 〔火縄打筒鉄砲御指留につき代銀上納銀年賦返上根帳〕　16.54—41
加賀藩諸方所著
慶応2・3年（1866・67）
2冊　24cm
①慶応2年「火縄打筒三細工御指留ニ付万延元年より前銀渡り細工方相淀候筒等代銀并慶応二年御鉄炮御指止半出来等上納銀同三年より弐万ケ年賦上□」
②慶応3年「火縄打筒三細工御指留ニ付前銀渡り細工方相淀候筒等代并慶応二年御鉄炮御指止半出来等上納銀打込同四年より三拾ケ年賦返上根帳」。
旧書名「火縄打筒三細工御指留ニヨル前銀等年賦返上根帳」。

5749 飼料方　16.54—42
3丁　24cm
表紙に「馬飼料書」の付札あり。佛蘭西流騎兵御馬飼育書。手入・飼料・道中飼方について記す。

5750 〔栗毛口伝書解〕　16.54—43
手写
1通　16cm　包紙
羽州栗毛馬御召に付，栗毛の口伝。

5751 〔馬之名〕　16.54—44
手写
1通　16cm
栗毛馬等の口伝書。

特16.55 施　　設

弾　薬　所

5752 塩硝御蔵御絵図　16.55—1
天保3年（1832）
絵図1枚　彩色　81×158cm
塩焔御蔵（土清水）敷地図。

5753 〔土清水製薬所御用地分間打立縄入之図〕　16.55—2
慶応4年（1868）
絵図1枚　58×83cm
原題「石川郡涌波村并大桑村領之内土清水製薬所御用地分間打立縄入之図」。

5754 〔土清水等御蔵筒薬在高調〕　16.55—3
玉薬奉行著
1通　16cm
土清水等三ケ所御蔵の所有筒薬・口薬高書上。

5755 〔土清水製薬所絵図面写〕　16.55—4
手写
絵図1枚　彩色　33×23cm
原題「土清水製薬所先達テ御検査之節御絵図面写」官地，堀川，道，大桑村領，三山平蔵開拓地等を記す。

5756 〔土清水村旧製薬所絵図〕　16.55—5
絵図4枚　77×79.5cm～83×80cm
原題「加賀国石川郡土清水村旧製薬所絵図」。
旧製薬所用地歩数絵図，屋敷絵図，用地絵図。

5757 土清水製薬所等敷地図面　16.55—6
手写
10丁　24×18cm
下田上村薬合所，鈴見鋳造場・試験場・弾薬所等敷地図。

5758 〔土清水製薬所御囲内御用地起返入費賃書上書〕　16.55—7
大桑村奥野次郎兵衛等著
明治7年（1874）

1通　24cm
製薬所御用地起返入費見込御届書。

5759　土清水旧製薬所囲内歩数記　16.55—8
手写
4丁　12×18cm
大桑村領用地・官地ノ内開，洒波村領分歩数記

5760　土清水製薬所用地歩数調等　16.55—9
手写
仮綴2（13通）　12～15.5cm
三山平造開墾地歩数・土清水旧製薬所御用地打立歩数・土清水旧製薬所西堀切之外ト往来筋之空地・製薬所官地反別・土清水旧製薬所之内官地奉還方切分之反別等。

5761　上野新村領等之内弾薬所縄入之図　16.55—10
慶応2年（1866）
絵図1枚　彩色　40×69.5cm

5762　弾薬所御囲内御上水取入新江筋分間絵図　16.55—11
慶応2年（1866）
絵図1枚　彩色　40×112cm
石川郡上野新村付近。

5763　〔上野新村領等弾薬所新江筋潰地打立帳等〕　16.55—12
慶応3～4年（1867～68）
2冊　12×17.5cm
慶応3年「上野新村領牛坂村領之内弾薬所御用水江筋等潰地打立帳」，慶応4年「石川郡鞍月組上野新村領之内弾薬所増御用地打立帳」御達之証控。

5764　上野新村領弾薬所増御用地打立帳并絵図　16.55—13
手写　慶応4年（1868）
5冊　12×18cm　絵図5枚　彩色　39×56～45.5×108.5cm
○慶応2年「上野新村領牛坂村領之内弾薬所地立打立帳」（3冊），慶応3年「弾薬所江筋潰地打立帳」，「上野新村領之内弾薬所火薬所入御土蔵建ヶ所御用地」，＜絵図＞慶応2年「弾薬所御地取分間絵図」・「弾薬所御地取絵図」，慶応3年「上野新村領等新弾薬所御用水江筋等潰地打立絵図」，慶応4年「上野新村領之内弾薬所火薬入御蔵建箇所御用地打立絵図」・「上野新村領之内弾薬所火薬入御蔵建箇所御用地打立絵図」。

5765　〔上野新村旧弾薬所并牛坂村旧試検場絵図〕　16.55—14
手写
絵図1枚　53×223cm
原題「加賀国第三区石川郡上野新村旧弾薬所并牛坂村旧試検場絵図」。明治6年（1873）期の旧弾薬所・試検場・製薬所及び用水・道路絵図附，旧弾薬所・試検所面積書。

5766　〔笠舞村・上野新村御用地引高願〕　16.55—15
笠舞村組合頭五兵衛等著
自筆　慶応4年（1868）
1通　24cm
笠舞村・上野新村領内御用地分引高願状2通継立。上野新村弾薬所増御用地等
旧書名「笠舞村組合頭五兵衛等願書」。

5767　〔小柳土清水製薬所御用地詮議之件〕　16.55—16
石川郡御扶持人等著
手写　田辺次郎吉
巻子1　16.5cm
○石川郡御扶持人より御改作所宛，小柳・土清水両御製薬所打込に付，引高・合盛米御渡願。
○製薬所に相成潰地歩数・償米等書上覚等。

5768　〔小柳火薬御土蔵番所ニ付篠島左平等達書〕　16.55—17
篠島左平等著
石川郡手写
仮綴1（4通）　16.5cm
○7月21日小柳火薬御土蔵門際に足軽番所出来に付，引高の義達書。篠島左平より前田弾番宛
○辰7月同番所用地の義に付達書。改作奉行より
○辰6月同番所建設要望書。製薬奉行より

○製薬所硝石土蔵用地の山役銭用捨通知。

5769 〔小柳製薬所合盛米ニ付口上書〕 16.55—18
小柳村肝煎吉郎右衛門等著
自筆
2通 24cm
土清水・小柳両製薬所建立のため，村方よりの用地御用とその引高に関するもの。
①小柳村肝煎等答書
②涌波村組合頭等答書。

5770 小柳村製薬所御土蔵御用地日御子村領御松林地元打立分間絵図 16.55—19
慶応4年（1868）
絵図1枚 56×108cm

5771 牛首村領弾薬所御用水新江筋潰地打立帳 16.55—20
手写 慶応3年（1867）
10丁 12×18cm
内容年代は慶応3年（1867）。23番迄の縦横打立帳控。

5772 〔牛首村領土清水村領弾薬所御用水新江筋之内抜物打立帳〕 16.55—21
手写 慶応3年（1867）
4丁 12×18cm
原題「牛首村并土清水村領弾薬所御用水新江筋之内抜物 打立書上申帳」。内容年代は慶応3年（1867）。20番迄の用水，道などの打立帳控。

5773 〔土清水製薬所内開墾地払下ニ付〕三山平造指出之絵図 16.55—22
明治7年（1874）
絵図1枚 70×73cm
地積書上げ。

5774 〔土清水製薬所内開墾地払下願絵図〕 16.55—23
明治7年（1874）
絵図2枚 彩色 38×51.5cm・39×41.5cm
原題「加賀国石川郡字土清水旧製薬所内三山平造開墾地同人払下願之絵図」2枚は同一内容。

5775 〔田上火薬御土蔵道造之件〕 16.55—24
仮綴1（3通） 16.5cm
①弾薬奉行より，上田上仮橋毎に出水に付，橋懸・従来道作直し願
②改作奉行より，田上領火薬御土蔵道造直し，同所橋懸の義に付達
③篠島左平より前田弾番宛，河北郡田上村領火薬御土蔵道造直伺義の義に付達。

5776 〔田上火薬土蔵道造直并前橋懸ニ付口上書〕 16.55—25
明治元年（1868）
1通 24.5cm
河北郡上田上村肝煎等より十村宛。
旧書名「鈴見製薬所橋懸ニ付口上書」。

5777 〔下田上村塩硝蔵地所分間絵図〕 16.55—26
手写 明治6年（1873）
絵図1枚 28.5×38.5cm
原題「加賀国第十五区河北郡下田上村塩硝蔵地所分間絵図」。附，官地・竿除地・下田上村潰地反別書上。

5778 〔野田村火薬庫地所絵図〕 16.55—27
手写 明治6年（1873）
絵図2枚 33.5×42・39.5×55.5cm
原題「加賀国第三区石川郡野田村火薬庫地所絵図」

5779 野田村火薬庫敷地図 16.55—28
手写
仮綴1（1通・絵図2枚） 15.5cm・27.5×39.5cm
附，野田村・泉村地内字塩硝蔵山歩数書上。

5780 輪島河井町領字矢田ケ谷内ニテ火薬入等御土蔵地元見取絵図 16.55—29
手写
絵図1枚 40.5×38.5cm
本多衛政邸所蔵の写。文久3年（1863）河井町家建ヨリ七丁計，海岸ヨリ拾丁計の字矢田ケ谷内御土蔵地面取図。

5781　旧金沢藩元鋳造所外六ケ所地取調　16.55—30
石川県地券係編
明治6年（1873）
10丁　12×18cm
鈴見村旧鋳造所・上野新村旧弾薬所・土清水村旧製薬所・小柳村元火薬製薬所并火薬庫・大豆田村西柵場・野田村火薬庫の跡地・潰地の高，反別調書。

鋳　造・製　鉄　所

5782　〔鈴見鋳造場用水江筋切替ニ付潰地歩数打立帳并絵図面〕　16.55—31
石川郡・河北郡御扶持人編
文久3年（1863）
7冊・絵図3枚　12×7.5・39.5×56.5
28×79cm　袋入
原題「御鋳造場御用水新江筋堀立被仰付候ニ付潰地歩数打立帳并絵図面」①文久3年「石川郡牛坂村領鈴見御鋳造場御用水新江筋堀立被仰候ニ付潰地歩数打立帳」②同年「河北郡若松村領鈴見御鋳造場御用水新江筋堀立被仰候ニ付潰地歩数打立帳」③文久3年「河北郡若松村領鈴見御鋳造場御用水新江筋堀立被仰付候ニ付潰地歩数之内抜物打立帳」④文久4年「鈴見村領御鋳造場切広地元打立帳」⑤同年「鈴見村領御鋳造場切広地元之内抜物打立帳」⑥元治元年「鋳造場切広地元打立帳」⑦同年「御鋳造場御切広地元之内重而不用ニ相成候地元打立帳」＜絵図＞⑧文久3年「鈴見御鋳造場御用水石川郡牛坂村領河北郡若松村領江筋切替ニ付潰地分間絵図」⑨文久4年「鋳造場切広地元図」，「御切広地元絵図」⑩元治元年「御鋳造場御切広地元絵図」。

5783　御算用場達書等　16.55—32
手写
7通　17cm
（鈴見村）製造所火作場等作事，同所御囲歩増，砺波郡十村借銭願，同郡十村御米川下中止願，小松八日市と三日市境明地の請地願など。

5784　〔鈴見村鋳造所合盛米ニ付口上書〕　16.55—33
鈴見村組合頭宇右衛門等著
自筆　慶応4年（1868）
2通　24cm
村内に鋳造所建立のための用地御用を命ぜられた際のもの。
①水車懸，合盛米に関する答書
②大工小屋仮設に関する答書。
旧書名「鈴見村製薬所合盛米ニ付口上書」。

5785　〔鈴見村旧鋳造所潰地絵図〕　16.55—34
明治6年（1873）
絵図1枚　33×162.5cm
原題「加賀国第十五区河北郡鈴見村旧鋳造所潰地絵図」。附，鋳造場・道路并江敷反別書。

5786　〔矢田村製鉄所之達書等〕　16.55—35
武部村与四助等著
自筆　慶応4年（1868）
1通・巻子1　16cm・16.5cm
①武部村与四助より御改作所宛，製鉄所取立予定地内における当作荒起の義に付伺書
②篠島左平より前田将監宛，製鉄所用地中の田地に関し定納口米御償届。宮田利左衛門等より御軍艦方宛，矢田新村領御軍艦方役所絵図面歩数書指出通知及び①の写など。

5787　〔矢田村製鉄所合盛米ニ付願〕　16.55—36
矢田村肝煎六右衛門等著
自筆　慶応4年（1868）
1通　24cm
製鉄所内舟揚場に付，地貸賃償方詮義願及び合盛米一作御償御渡方願書。武部村与四助宛。

5788　〔矢田村製鉄所一件〕　16.55—37
真館与四助編
前田家編輯方手写　明治年間
148丁　23cm
内題「矢田村領等ニ而製鉄所御用地被仰付候一件」。真館氏所蔵の写。慶応3年（1867）～明治2年（1869）の鹿島郡矢田村製鉄所御用地関係の記録。末尾に「矢田村領等ニ而陸蒸気場御用地附添地面魚絵図」を載せる。

的　場・角　場

5789　泰雲院様御時代的場出来之節下絵図　16.55—38
手写
絵図1枚　24×151cm
前田貞醇旧蔵。的場作製下絵図。

5790　弓術御覧所絵図　16.55—39
手写　天保10年（1839）
絵図2枚　彩色　15.7×49.5cm・26×92cm

5791　海防方御席ヨリ為御詮儀御尋ニ付絵図御達申候写　16.55—40
手写　安政3年（1856）
仮綴1（絵図46枚）　24×36cm
浅野川岸等角場絵図。

5792　〔卯辰山辺ニテ角場地所詮義之件〕　16.55—41
御作事所等著
2通　15.5・17cm
①沢村恒右衛門より村井又兵衛宛，卯辰山辺角場地所之義ニ付改作奉行達の通知。改作奉行より，卯辰山辺角場の儀に付合盛米村方へ渡すべく達
②御作事所より，卯辰山角場普請差支に付，鈴見村預，南馬場に変換詮義願。

5793　〔卯辰山角場地所ニ付田井村肝煎答書〕　16.55—42
田井村肝煎孫右衛門・組合頭次平著
自筆
1通　24cm
角場用地の田畑・山地に付，合盛米などの償方答書。田辺次郎吉・御扶持人衆宛，田井村領用地絵図附。
旧書名「田井村肝煎孫右衛門願書」。

5794　堀川角場等見取之図　16.55—43
慶応4年（1868）
絵図1枚　彩色　40×83.5cm
堀川在来の角場及び周辺武家屋敷・組屋敷見図

5795　〔堀川角場一件書類〕　16.55—44
慶応4年（1868）
仮綴1（13通・絵図1枚）17～24・24×36cm
堀川角場を五拾間角場とする件につき詮義一件書類。

5796　堀川角場絵図　16.55—45
絵図1枚　80.5×72.5cm
前号に関連。堀川角場拡張計画図。

5797　〔於角場怪我人人高并痛所附〕　16.55—46
手写
1通　15cm
原題「当廿五日 追分 於角場怪我人 人高并 痛所付」後欠。鉄砲の射的場における武士の怪我人名と，打痛，やけど，怪我個所を記載。

5798　諸角場御詮議物留帳　16.55—47
御屋鋪方編
手写　明治3年（1870）
49丁　24cm
元角場地絵図面御渡引高并合盛償渡等ニ相成候ヶ所調理書。

特16.56　海　　防

献　策・触　留

5799　〔文化年間〕書物留　16.56—1
前田家編輯方編
明治年間
2冊　23.5cm
能登の十村組（武部組）を中心とした能登における文化2年（1805）より同7年（1810）にわたる海防関係等の諸留帳。①御貸鉄炮并御郡之内所持仕来候鉄炮書上申帳・鉄炮打候者名前書上申帳・浦筋海立浅深等書上申帳・牛馬数并舟数書上申帳・異国船漂着之体見付候ハヽ海辺筋御郡中村々ヨリ人歩走集所等書上申帳・外浦筋之内羽咋郡笹波村領云々　②異国船漂着之砌外浦筋御出張可有御座所々心付書上ケ申帳・駒主名前等書記申帳・古城跡等書上申帳・能州四郡おろしや船漂着之筋心得方等覚書・鎚風指シラベ帳・医者并諸職人書記申帳・海辺村々之義船

稼之者云々・子浦駅へ村方ヨリ詰人馬等・異国船漂流之時分心得方申渡覚書・異国船漂流之義ニ付御内々御用一件袋中ニ有之書面等拾壱通之写・本田并十村帳入定免新開一免下御図免新開草高定納口米書出表。旧書名「書物留」。

5800　異国船手当一件　16.56—2
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23.5cm
異国船の松前辺渡来等により出された，文化4年・5年の御馬廻頭へ海防心得被仰渡一件及び天保3年より弘化2年迄の同件よりなる。

5801　〔異国船御手当ニ付達〕　16.56—3
1通　16cm
異国船御手当方の遠所在住者難渋に付配慮方達

5802　〔近海御手当ニ付御達〕　16.56—4
手写
3丁　24cm
近海御手当伺方等に付達留。

5803　御親翰写　16.56—5
手写　嘉永4年（1851）
1通　17.5cm　包紙
富田権六郎旧蔵。役義出立・諸具用意に付，富田織人宛。

5804　異国船ニ付御親翰写　16.56—6
手写
3丁　24cm
領国海防方申付御親翰。年寄衆宛。

5805　異国船ニ付御親翰写　16.56—7
手写
3丁　24cm
斉泰より奥村助右衛門宛。能州筋海岸異国船手当方申付書。同御親翰請書等。

5806　〔海防ニ付御意書等〕　16.56—8
手写
仮綴1（4通）　12×17cm
①軍制に関する御親翰御意書　②奥村助右衛門より亜墨利加船浦賀渡来の義に付動揺のないよう申渡書　③海防方等過分物入に付検約方申渡書　④村井又兵衛より英国人城下通行に付注意書。

5807　浦賀表へ異国船渡来ニ付被仰出之趣等留　16.56—9
中川典義手写　嘉永6年（1853）
25丁　12.5×18cm
中川典克旧蔵。異国船渡来・軍役などに関する今枝内記ほかの書状類留。

5808　御親翰　16.56—10
中川典義編
手写
7丁　12×18cm
中川典克旧蔵。嘉永6年（1853）前田斉泰が年寄中に海防の要務に関して意見を徴したもの。

5809　異国船ニ付御親翰写　16.56—11
手写
4丁　24cm
中納言（斉泰）より村井又兵衛宛。能州筋海岸異国船手当方申付書，同御親翰請書等。

5810　異国船渡来海防方仰出之儀ニ付伺書　16.56—12
村井又兵衛等著
手写
1通　24cm
海岸防備の上意に付，意見及伺書。

5811　岡田助右衛門心附書写　16.56—13
岡田助右衛門著
手写
16丁　23.5cm
海防御手当方心附意見書。
旧書名「岡田助右衛門心得書写」。

5812　海防方愚考　16.56—14
前田外記著
6丁　24.5cm
村井又兵衛宛，家中調練方等に付試案書上。

5813　〔国辺防備ニ付上意仰渡之覚〕　16.56—15
村井又兵衛等著

自筆　嘉永6年（1853）
1通　16.5cm
亜墨利加書翰に対する建議を老中より求められたのに対して家中でとりかわされた一件書状。11月3日村井又兵衛より横山遠江守他6名宛。11月23日長大隅守より村井又兵衛他2名宛。12月8日村井又兵衛他2名より横山遠江守他6名宛の3件よりなる。

5814　〔英船渡来之節伏木放生津浦心得書〕　16.56—16
斎藤庄五郎等著
手写
2丁　24cm
斎藤庄五郎等より御郡奉行・御改作奉行宛。猟船の用意方・見物人整理等について記す。
旧書名「英船渡来之節伏木・放生津云々」。

5815　海防基元　16.56—17
南保大六一友著
文久2年（1862）
12丁　24cm
攘夷の立場から海防の強化・軍装改革等について述べた五ケ条からなる意見書。

5816　御触留帳　16.56—18
手写　文久3年（1863）
5丁　23.5cm
横山隆太旧蔵。海防臨時の節・銃卒稽古出役等につき触の留。

注　進・風　説

5817　異国船等雑記　16.56—19
嘉永3年（1850）
36丁　24cm
内題「嘉永三庚戌歳異国船雑記」。榊原氏旧蔵。異国船致来，発見等に関する江戸・能州よりの注進等風説書。

5818　異国船見聞録　16.56—20
手写
47丁　24cm
榊原氏旧蔵。嘉永6年（1853），ペリーの浦賀来航・ロシア使節の長崎来航に関する見聞記。泉沢弥太郎の報告書を収録したもの。泉沢弥太郎の報告相手は加賀藩士であり，弥太郎も加賀藩士か。

5819　異国船渡来一件　16.56—21
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。
①嘉永6～安政元年（1853～54）浦賀表異国船渡来一件ニ付江戸表ヨリ御用状等之写
②安政元～3年（1854～56）異国船浦賀及大坂等へ渡来ニ付江戸表ヨリ御用状等之写。

5820　異国船一件　16.56—22
手写
101丁　23cm
嘉永6年8月4日米船渡来之件ニ付御上書写同年長崎へ魯船渡来ニ付応接之件，安政元年正月米艦浦賀へ渡来之件，同年米艦渡来之節金沢人上田清三郎見聞書，浦賀町中へ触2通，浦賀等御固之諸家ヨリ達書，香山栄左衛門咄，立石得十郎咄，御横目方松井永井等浦賀表ヨリ見聞之趣重役へ達紙面，中黒六左衛門ヨリ細川家御固之様子等申上候書取，米船へ被下品書付，堀織部為御用松前へ被遣書立，御横目方加納等神奈川ヨリ見聞之趣紙面，異船防禦方虚飾ヲ棄実用ヲ主トスヘキ旨等御固之諸家等へ触，亜米利加船水桶之図，里見亥三郎出張先ヨリ之紙面，御横目方ヨリ紙面之写，米国ヨリ献上品等目録并同国へ被下品等目録写，安政元年2月10日横浜ニテ米人饗応之節之献立。からなり，神奈川表に止宿し，情報収集を行っていた加賀藩士加納源太郎・木村甚七の報告書を中心に収録。

5821　亜船風説聞書　16.56—23
手写
71丁　23.5cm
別名「横目足軽従神奈川之届写」。榊原氏旧蔵。嘉永7年(1854)浦賀等之美船渡来の折，御横目足軽及び浦賀町人懸塚屋権七よりの届の写。横目足軽として加納弥太郎・木村甚七の名あり。

5822 〔異国船来航・京都風説等〕 16.56—24
仮綴1（11通） 14～16cm
○豆州下田表在留アメリカ官吏出府之義達
○相州浦沖ニ異国船漂着之風評申上書など。

5823 英船方為御内御用上方へ罷越候雑用書上申帳 16.56—25
粟崎中嶋屋太郎治・同所永屋庄三郎著
自筆 文久元年（1861）
15丁 24cm
粟崎村肝煎の太郎治等が英船渡来の様子を上方筋へ探りに出た時の宿泊賃等の雑用銀書上帳。得能覚兵衛・石崎市右衛門宛。

5824 〔英船渡来之節伏木肝煎彦五郎等書状〕 16.56—26
伏木肝煎彦五郎等著
自筆
仮綴1（9通） 16cm
異国船渡来による越後等の風聞・様子の注進書状綴。伏木肝煎彦五郎より得能覚兵衛・石崎市右衛門宛5通。石崎市右衛門より御改作御奉行所宛4通。

5825 異国船雑記 16.56—27
37丁 24cm
佐渡沖にて異国船遭遇の届書等，異国船関係諸留。

5826 神奈川沖に於ける英船之状勢報告写 16.56—28
鈴木七郎著
手写
1通 15cm
御聞番方使役鈴木七郎の報告書。文久3年（1863）5月9日の神奈川沖における英船の状勢，神奈川辺の見聞，および5月7日・8日の幕府・英船の状況を報告。鈴木七郎は加賀藩士，安政元年から聞番方使役を勤める。

5827 極内聞合之趣書上申帳 16.56—29
野々市村三郎兵衛著
自筆 安政5年（1858）
3丁 24cm
外国奉行通行に付，越前并若狭筋取扱内聞，世上の様子など注進申上書。

測　量

5828 加州能州海岸村々海立丁間等見取絵図 16.56--30
文久元年（1861）手写
絵図5枚 28.5×354cm
高畠定辟旧蔵。村毎の海岸線の距離，沿海の水深等を記したもの。
①石川郡（嘉永2年調理）
②河北郡（28.5×120cm）
③羽咋郡（28.5×237cm）
④鹿島郡（28.5×411cm）
⑤鳳至珠州両郡（嘉永3年調理，28.5×683cm）
旧書名「加州能州海岸村々村建等見取絵図」。

5829 三州海辺図断草稿 16.56—31
40丁 11×17.5cm
横山隆幹旧蔵。三州沿岸諸村の海辺里数と村況を記す。

5830 英国人為測量御領海可致渡来旨等被仰渡一件 16.56—32
改作所編
文久元年（1861）
4冊 24.5cm
①英吉利船渡来ニ付御手当方御人配方達等。②英国海岸測量之義御指許ニ付御領海江渡来測量等之節海岸筋御手配方等御算用場より詮議之趣御達ニ相成候留写シ ③英国人江海岸測量御指許相成御領海江茂可罷越旨被仰渡候一件 ④英国人渡来可致義ニ付役所より場達等之留。

5831 英船為測量可致渡来ニ付僉議方一件 16.56—33
加賀藩改作所編
手写 文久元年（1861）
9冊・仮綴1（6通） 24.5cm・12～16cm
○英船海路測量之節海辺村々出役割等書上申帳（能美郡，石川郡，河北郡分三冊），英船測量方ニ渡来之節組々海辺村々取縮方等ニ出役手合并浦方之内ニ而用意之船数書上申帳（口郡），英船為測量方御領海江渡来之砌取縮方等役付并手当仕置候船数書上申帳（奥郡），英船海路為測量渡来ニ付海辺筋役付書上申帳（射水郡），

英船測量として渡来之節御注進方并公義御役人衆江請答方等奉伺帳，英船海路測量方ニ付手当方心得奉伺帳（合綴・諸郡分），海路為測量英船沖合江相見江候節臨時馳廻方御用之海岸村々書上，海岸出張所并見廻村々割之覚。＜以上冊子＞

御改作御奉行所御出役御手合江附候御扶持人等書上，（石崎市右衛門より御郡御扶持人・組御才許中宛，英船測量方に付村々取縮達），（夷船測量之節海岸御備向・御手当方様子等覚），（応答方・食品等手当方猟船等覚），（北村与十郎他10名より御郡所宛出張所人足数・石炭補給等指図書），（能美郡御役所詰・臨時出役等役附極書）。＜以上仮綴6通＞。

5832　英船方為御内御用越後路へ罷越候雑用書上申帳　16.56—34

伏木太田屋彦五郎・高松米屋左一郎著

文久元年（1861）

13丁　24cm

巻末「右英国船渡来之様子等内分聞合方為御用越後国新潟等江罷越候雑用銀書上之申候」。

5833　〔英国測量船所口入港一件留〕　16.56—35

手写

1通　35.5×24cm

慶応3年（1867）5月26日より6月2日にわたる英国測量船来航一件留。

5834　能州島之地海中測量図　16.56—36

絵図1枚　彩色　73×60cm

横山政和旧蔵。七尾湾各所の海深測量図。

5835　〔改作奉行等達書〕　16.56—37

3通　17cm

①主付改作奉行「能州所口等国絵図記載ニ付差出方書状」

②主付改作奉行「外国奉行湊々見分ニ付湊絵図差方書状」

③御算用場より主付改作奉行中宛。「外国奉行等湊々見分ニ付御領国海岸并湊絵図御用ニ付達」。

5836　〔加賀藩領湊之絵図ニ付御達〕　16.56—38

改作奉行著

手写

1通　17cm

幕府外国奉行の湊見分に際し，提出する藩内の湊絵図の書き方についての達書。

5837　〔鹿嶋郡鳳至郡海岸測量方之届書〕　16.56—39

会田常次郎等著

1通　16cm

御普請役会田常次郎他沖良村沖合等，測量の件手代よりの聞書。

警　　固

5838　臨時出張之節指物等相伺候ニ付被仰渡候等　16.56—40

2通　16cm　包紙

加藤里路旧蔵。海防方御用に関するもので，海辺への臨時出張の際の指物・羽織等の細目通達及海防方御席御用人名書。

5839　異国船御手当御用人馬受取覚　16.56—41

文政13年（1830）

10丁　13.5×36cm

成瀬正居旧蔵。異国船御手当に付，臨時出張出銀受取，人夫・夫馬受取書等覚。

5840　異国船御手当方御用申談之写　16.56—42

山崎勘左衛門著

手写

8丁　24cm

早川随勝旧蔵。九番組御馬廻出立御定・知行高人馬数并役器御定・出張之節子第方之儀に付定等覚書。

5841　江戸表御手当方御内習御備等抜粋　16.56—43

弘化3年（1846）～慶応2年（1866）

80丁　24cm

弘化3年（1846）江戸近海御備方人数書より慶応元年（1865）上京御供人数の事までの海防関係等。

5842　江戸近海御手当方　16.56—44
4冊・3通・絵図2枚　14×20cm・16cm
40.5×27.5cm　包紙
①江戸近海手当方人数積
②割場へ可被御出人馬高
③御武器御用意員数
④詰人急速可被仰付人馬。
⑤江戸近海御手当方調理の義伺書
⑥　〃　臨時人数指出の義に付申渡書
⑦嘉永3年（1850）急事御手当・備の義に付調理書。以上3通「奉伺御品入」とある包紙入
⑧・⑨備立図。以上絵図2枚。

5843　異国船并海防等書類　16.56—45
前田家編輯方編
明治年間
3冊　23cm
内容年代，嘉永3年(1850)～文久2年(1862)。
①異国船渡来ニ付出張方被仰出候留等・軍装帳・領国海岸江戸近海江異国船渡来之節云々・御台場拾壱ヶ所新規御普請御仕様杭木布丸太岩石積り御勘定方より御渡写取・御尋ニ付意見書一御内写物　②江戸近海へ異船渡来出張等記聞・異国船羽根田沖江乗入候ニ付為御手当壱番手芝増上寺江出張之節行列・出陣之節御条目等・内状等留・海防方伺之儀等一件　③海辺御手当方ニ付心得方申渡之覚・異国船御手当方一件書抜・海防方御用書抜・異国船御手当方等臨時蒙仰候節心得方内密調理方・於栗ヶ崎浜調練之次第・宇津木浜調練一巻。

5844　〔異国船渡来について御手当方願書〕　16.56—46
神谷治部等著
手写
巻子1　17cm
加藤里路旧蔵。異国船渡来による臨時出張の節，御手当方について伺及願状。神谷治部他12名連署。

5845　〔異船渡来之節〕行列之大概　16.56—47
横山政和蔵人編
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　25.5cm
原題「行列之大概」。嘉永7年（1854）異船渡来の時の行列の次第を，安政5年（1858）横山政和が編纂したもの。

5846　海防方御手当就被仰付候諸事留　16.56—48
手写
20丁　23cm
加藤里路旧蔵。安政2年（1855），神谷治部等三州海岸警備の為臨時出張被仰付一件留。臨時出張人馬人員数帳雛形・旗本組立一統之定等附。

5847　異国船御手当御雇御用諸事留　16.56—49
榊原郁太郎編
手写　安政4年（1857）
14丁　24cm
能州海岸御手当方御用御勤に付諸準備方，人夫・馬雇等留。

5848　〔所口砲台為御用出役之件〕　16.56—50
杉本作左衛門等著
仮綴1（4通）　16.5cm
○杉本作左衛門より，所口砲台方御用に付測量方出役依頼　○同，所口砲台方御用に付奥口両郡絵図・射水郡絵図借用依頼。等

5849　臨時出張之節人馬請取帳　16.56—51
神子田孫三郎・津田平兵衛著
万延元年（1860）
13丁　24cm
成瀬正居旧蔵。成瀬主税宛。奥書「右私共并組魚津御馬廻之人々暨子第等出張之節人馬請取高如此御座候以上」とあり。

5850　〔越中筋持場臨時出張ニ付諸事覚書〕　16.56—52
8丁　24.5cm
臨時出張の節人夫・夫馬・与力等につき覚書。旧書名「臨時出張ニ付御達」。

5851　臨時出張人高員数帳　16.56—53
成瀬主税著
文久元年（1861）
14丁　24cm

成瀬正居旧蔵。魚津町馬廻等出張の節，徴集人夫，夫馬数書上。御算用場宛。

5852　海防方一件　16.56—54
加藤又八郎義成編
前田家編輯方手写　明治年間
149丁　23.5cm
「文久二年十二月ヨリ文久三年三月中海防方一件ニ付夫馬出方之義等御達ニ付能州諸郡調書及伺方一件并銃卒御取立之件等」。

5853　〔海防方〕留帳書抜　16.56—55
手写
4通　16cm
○文久3年（1863），横山義門より奥村内膳宛，海辺御手当方臨時出張人馬等請取高上書
○町附足軽共新流砲術稽古に付御筒御渡願
○横山義門より前田土佐守他宛。海岸御手当方出張により支配所縮方不行届に付指図願
○前田上佐守他海防方御名書。

5854　越中下飯野村字新浜在番達物等留帳　16.56—56
富田織人編
手写
4丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。嘉永7年（1854）越中新浜在番となった富田織人による達書等の留。

5855　越中下飯野村字新浜在番達物等留帳　16.56—57
嘉永7年（1857）
19丁　12×18cm
大野木克征旧蔵。嘉永6年9月3日異国船御手当のため，下飯野村字新浜に在番が置かれ嘉永7年4月14日富田織人真詳（人持組2400石）が任命された。その際の達書等の記録。

5856　越中下飯野村字新浜在番留　16.56—58
大野木将人・横山斎宮編
手写
5丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。文久2年（1862）期の新浜在番留。

5857　越中新川郡新浜泊両地在番中留　16.56—59
大野木克親著
手写
66丁　23cm
文久2年5月～3年9月の覚書。下飯田村字新浜在番は海防任務のため嘉永6年9月より能登の富木在番（のち地頭町在番）とともに設けられたもので，当時の在番役が大野木将人克親（1650石），また，文久2年12月5日付で泊在番に転任している。

5858　泊在番御用日記　16.56—60
成瀬正居著
自筆
7丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。文久2年（1862）12月4日より文久3年（1863）1月13日までのもの。次号と対の記録。

5859　泊在番御用達留　16.56—61
成瀬正居著
自筆　文久2年（1862）
16丁　12×18.5cm
12月5日付で，横山斎宮（従英），大野木将人（克親）とともに就任した時から12月までの御用達の留。前号と対の記録。

5860　多賀氏留記　16.56—62
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　23cm
内容は，越中生地在番中諸事留帳（元治元年），同心御扈之者云々等写9通（慶応元年），越後筋騒々敷ニ付鶴来表江臨時急出張ニ付諸事留帳（慶応4年），御歩足軽触帳(明治2年，多賀左近家来清波五郎左衛門編），附 元治元年7月伴八矢京都へ急発足被命候節留記。

5861　輪島在住心覚留帳　16.56—63
大野木克親著
手写
63丁　23cm
輪島在住は嘉永7年8月4日に設置されたが，大野木将人克親（1650石）の在職は文久4年3月1日～慶応4年7月22日で引続いて公事場奉

行に転するが，この覚書は任命の日より慶応4年7月15日迄。

特16.57　藩　学

管　理・運　営

5862　学校御触等留　16.57—1
手写
33丁　24cm
内容年代は寛政4年（1792）2月～10月。明倫堂・経武館開設にともなう定書，諮沙汰書類を収録。

5863　学校御定写　16.57—2
手写
3丁　24cm
内容年代は寛政4年（1792）。藩学校に掲示された定書の写。「加賀藩史料」10編　346P所載。

5864　加州金沢学校張紙之写　16.57—3
手写
7丁　24.5cm
横山政和旧蔵。前号に同じ。

5865　〔学校并武学校御開ニ付御作法之次第〕　16.57—4
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　24.5cm
原題「来月二日学校并武学校御開ニ付御作法之次第」。前田貞醇所蔵の写。内容年代，寛政4年（1792）。明倫堂・経武館開設にあたって両校修学の作法を定めたもの。「加賀藩史料」10編所載。

5866　学校方覚書　16.57—5
前田家編輯方手写　明治年間
52丁　23cm
内容年代，寛政4年(1792)～文政2年(1819)。寛政4年，明倫堂及び経武館開設から享和3年（1803）の学制改革に至る定書，両学校運営に関する諸令達の書出。

5867　学校方雑纂　16.57—6
前田家編輯方編
手写
2冊　23.5cm
内容年代，寛政4年（1792）～明治3年（1870）。
①学校方覚書，北藩秘鑑抜粋，入学生出席等格，白鹿洞書院掲示・付明倫堂掲示・言板寸法，入学生学的，始而学則被仰出条々・明倫堂経武館御規則，寛政4年明倫堂御造営ニ付棟札之写，天保10年11年中，御横目所御沙汰書写
②自寛政4年2月至明治3年12月，御触留帳之内学校方一巻書抜，両学校方御蔵板方御用要文集并両学校方万覚帳両冊之書抜，万留帳并手留両冊之書抜。
以上を収録する。奥村栄滋・田中正義・小幡和平・成瀬居・不破清太夫・有岡益友の所蔵本を抽出編集したもの。

5868　〔学校記〕　16.57—7
加藤豊房編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5～26.5cm
原題「加藤豊房留記」。内容年代は天明6年（1786）～明治元年（1868）。天保7年（1836）明倫堂の読師に任ぜられ，のち訓導・助教を経て教授兼侍読にすすんだ加藤豊房の留書で，学校御定之写，武学校御定之写，生徒学向修業之程則，学校御仕法御修補帳等々より成る。

5869　明倫堂類表　16.57—8
文化2～14年（1805～17）
13丁　25cm
明倫堂運営事務の取扱い方に関する藩庁よりの諸通達を「被仰出類」「被仰渡類」「御達物類」等に分類，年次的に編集したもの。

5870　学校御定等　16.57—9
岩原恵編
天保6年（1835）
75丁　23.5cm
岩原性一旧蔵。
○学校御定等，御留野并殺生方等，火事御定等

御倹約ニ付被仰出等，婚礼，家作振舞音信等より成る。藩庁よりの諸通達の留書。

5871　学校方被仰出之写等　16.57—10
大島桃年等著
手写
71丁　23.5cm
○学校方之義ニ付被仰出之写
○学校之義ニ付大島継直（忠蔵）等上書
○御学挙御修補ニ付大島（桃年）心付
○試業弁書始末
○天保8年学校私考（大島桃年上申書）
○天保9年御仕法帳追加（　〃　）
○大島清太（桃年）生徒教育。
明倫堂助教の大島継直・桃年父子の学制に関する上申書および天保10年の学制修補に関する事項が主なものである。

5872　〔今般被仰渡候御規制之内御改有之度御ケ条〕　16.57—11
11丁　12.5×33.5cm
天保10年（1839）学政修補の諸規定に対し，その一部修正を願いでたもので「生徒列之事」「諸組会読江教授罷出候事」にはじまる大島清太（桃年）意見書の他，学校運営に関する修正案を収録する。

5873　学校に関する達書　16.57—12
手写
14丁　23.5cm
本多政以所蔵の写。天保の学政修補に関する藩庁からの諸令達をあつめたもの。

5874　明倫堂御規制　16.57—13
手写　天保10年（1839）
8丁　23.5cm
天保10年（1839）学政修補時の明倫堂に関する諸規則。「加賀藩史料」15編所載。

5875　小松習学所勤方帳　16.57—14
手写
35丁　23.5cm
内題「小松習学所勤方附見廻り方心覚」。
内容年代，弘化4年（1847）～嘉永3年（1850）。小松西町所在集義堂（別称習学所）の運営・勤務に関する雑留書。金沢より同所への見廻御用（明倫堂助教の出講）関係が中心。

5876　金沢学校創立記　16.57—15
森田平次（良見）著
嘉永7年（1854）
32丁　23.5cm
「小立野学校草創之図」47×62.5折込み。
寛政4年金沢文武両学校御創立之事，同諸事作法之事，同入塾之事，同稽古日割之事，天保7年両学校仕法替被仰付事，同明倫堂御規制，備考江戸学問所規制など。

5877　経武館・壮猶館トノ関係　16.57—16
14丁　24cm
経武館・壮猶館の性格・機構などをもって両者を比較。後半部に無名英傑伝として桜井文平等につき記す。

5878　壮猶館御用隠密達留　16.57—17
成瀬正居著
安政元～3年（1854～56）
44丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。加賀藩の洋式学校壮猶館の館則・被下方・勤方・薬合方（塩硝）等の項に分けて記す。

5879　壮猶館御用達留　16.57—18
成瀬正居著
安政2年（1855）
63丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。御筒玉之部，人之部，金銀之部作事之部，御入之部，諸道具之部，稽古方之部御入留，塩硝等之部，御蔵出之部，浜之部よりなる。

5880　壮猶館御用日記　16.57—19
成瀬正居著
安政2～3年（1855～56）
2冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。①安政2年（1855）3月～12月御用日記　②安政3年（1856）正月～7月御用日記。

5881　火矢方役所壮猶館へ打込被仰付候一件　16.57—20
手写　安政4年（1857）
26丁　24cm
横山政和旧蔵。安政4年火矢方役所を壮猶館に合併一件留。

5882　〔斉勇館規則〕　16.57—21
刊
5丁　23.5cm
原題「坂府兵学校御規則ニ模擬シ相定候大綱」。小木貞正旧蔵。通則・禁制・罰法・日則・入塾之節心得より成る。斉勇館とは明治3年（1870），城内二ノ丸に開設された士官養成のための学校である。

5883　教育沿革史　16.57—22
石川県編
前田家編輯方手写　明治年間
11~~10~~冊　23cm
外題「教育史料」。
①石川県令岩村高俊上文部省書，旧加賀藩立学校取調書(上)
②旧加賀藩立学校取調書(下)
③布令諭達等留(上)
④布令諭達等留(下)
⑤学況一斑(上)
⑥学況一斑(中)——大島忠蔵意見書
⑦学況一斑(下)——長井長吉等覚書
⑧蔵書目録(上)
⑨蔵書目録(下)——附明倫堂経武館図十張
⑩旧加賀藩立壮猶館并醫学校取調要項
⑪~~の~~「道済館取調要項」~~は矢本~~。
石川県が明治16年の文部省達により編纂したもの。

5884　石川県教育沿革史料中異同の件取調書　16.57—23
戸水信義著
明治19年（1886）
10丁　23.5cm
前号「石川県教育沿革史料」中の「士族卒ノ子弟教育方法中」など12項に関する史実との相違点書上。

5885　学校沿革取調書　16.57—24
手写
135丁（図表3枚）　23.5cm
加藤恒・成瀬正居所蔵の留記類より抽出編纂したもので，天保の修補以降明治3年頃までの学校沿革関係史料。とりわけ明治3年設置の中学西校・東校の学則にくわしく，最後尾には明倫堂所蔵書目録が掲載されている。

5886　学況沿革　16.57—25
前田家編輯方手写　明治年間
103丁　23cm
明治20年（1887），文部省へ提出の旧藩学校沿革関係史料の編纂の際作成されたものの写しで「学校沿革」と「学況沿革考拠書類」よりなる。

5887　学況沿革考拠書　16.57—26
手写
2冊　23cm
「学況沿革」作成のため参考にすべく編集されたもので，主に「政隣記」から抜書。

師　範・講　師

5888　文武師範人紙面写等　16.57—27
前田家編輯方手写　明治年間
76丁　23.5cm
内容年代は寛政3年（1791）～寛政4年（1792）。御家中文武芸能師範等仕候人々指出候紙面之写，学校之義ニ付御朱印之写并触留書，学校役所御用方留帳，学校御開ニ付御作法留，学校諸事御触等留帳，学校役人出方，学校向留帳より成る。
明倫堂・経武館開設当時の関係史料。

5889　陸原之淳留記　16.57—28
寛政6年（1794）
2冊　26.5cm
①国学元旦聖祭儀注，釈菜儀注草案，学官職掌生徒初見式，生徒并試業人料帳，士列以上試業細目，明倫堂御書総目
②明倫堂御規制，経武館御規制，両学校御仕法調理帳，両学校御修補節目之しらべ，学校諸

役人進退記，学校御仕法御修補帳，従学心得之事，入学生出席方等格，

陸原之淳は越中今石動の人，京，江戸で苦学して帰郷し，のち明倫堂助教，教授となり，藩侯の侍読を兼ねた。嘉永5年隠居。

5890　馬術師範人等乗馬御覧之次第　16.57—29

手写

10丁　23cm

内題「於武学校馬術御覧之次第」。文政8年（1825）旧記ノ抄。

5891　〔明倫堂役料之覚〕　16.57—30

天保10年（1839）

1通　15.5cm

明倫堂教授広瀬順九郎以下7名の役料を列記した覚書。

5892　読師役向雑記等　16.57—31

手写

40丁　23.5cm

天保10年（1839）藩学校の読師の勤方などについて記す。

当病等ニ而役所見合候紙面文段，筆滞節書付文段，同出勤之節書付文段，役所日振替之事，控之節見合候事，看病引書付文段，忌引之節書付文段，役所引之事，控相止候節見合有之席割之事，御書物番之事，毎月御書物出納日之事，弁書之事，毎戯拝領被仰付候節之事，年頭於御次拝領有之節之事，学校内杖用候節之事，駕籠参用之節之事，学校御囲之内無息之面々無僕ニ而高足之節御年寄衆江出合候節之事，文政七年御出有之候節之事，文政九年御出有之候節之事，文政十一年御出有之候節之事，有録の人々拝領銀相止候事，両学校出座人衣服之義被仰出候事，素読生へ教諭方ヨリ相渡候覚書写，両学校江初而出座人達紙面案文，読師中被仰出之一件，学校頭江被仰出候読師勤方一件，教授助教等役列之件等。

5893　〔明倫堂訓導等〕　16.57—32

5丁　12×17.5cm

明倫堂の訓導以下学校横目に至る拝命者を一覧したもの。天保10年（1839）頃のものか。

5894　藩の学校日記　16.57—33

13丁　12×17.5cm

冒頭朱書きに「墨ノ分天保十一子年，朱ノ分同十二丑年」とあり，学校への出退，受講の内容が記されている。

5895　学校方日記　16.57—34

嘉永7年（1854）

31丁　12×18cm

内容年代，嘉永7年（1854）6月～7月。学校主附村井又兵衛，横山大膳の勤方日記。経武館関係の記事が中心である。

5896　旧金沢藩諸師範人姓氏録　16.57—35

3丁　24cm

内題「於経武館諸師範人隔月稽古割」。

月毎の武芸教授科目と師範名表。

講　義・稽　古

5897　二之御丸講書録　16.57—36

前田家編輯方手写　明治年間

35丁　26.5cm

二の丸において，天明6年3月より毎月8・23日に経書講釈を行い諸頭に聴聞させたという記録から始っており，文政7年（1824）から天保6年（1835）迄の毎月の講釈者と内容について記している。

5898　騎射願書　16.57—37

渡辺喜内著

自筆　文化7年（1810）

8丁　23cm

渡辺庸旧蔵。渡辺喜内より横山引馬等（学校頭）宛，騎射についての歴史的変遷を述べたあと，学校における騎射稽古の採用を願い出たものの草稿。

5899　稽古之次第書　16.57—38

安達周蔵著

4丁　24cm

稽古の忌日，軍学関係講義の内容手順などを記す。有数馬宛（有沢数馬貞庸か）。

5900 〔就学政修補稽古定等〕 16.57—39
前田家編輯方編
明治年間
58丁　23.5cm
内容年代は天保10年（1839）～明治2年（1869）。
○御学政御修補ニ付文武稽古方之御定
○（天保10年）8月2日付，経武館掲示の定書
○天保15年9月，句読師等稽古仕法書
○嘉永元年11月，今般就被仰渡心付之趣書記候条々（大島桃年上申書）
○私議（　〃　）
○入学生礼節条目（　〃　）
○嘉永4年，武芸師範人名帳
○大島忠蔵学校等之義ニ付書面
○規則下案并心付之趣（明治2年）。

5901 大学説聞書・論語講説・孟子講説 16.57—40
陸原之淳著
4冊　12×18cm
明倫堂教授陸原之淳講義録。
①陸原先生大学説聞書
②陸原先生論語講説
③陸原先生孟子講説巻一
④　〃　巻二。
陸原之淳は天保2年(1831)明倫堂助教となり，のち教授となる。

5902 〔明倫堂経武館記録〕 16.57—41
手写
24丁・1通　24cm・16cm
学校運営に関する法令（前欠）。「明倫堂稽古割」「経武館稽古割」，および奥村内膳書状写。

5903 加藤豊房大学講案 16.57—42
加藤豊房著
手写
22丁　23cm
嘉永7年（1854）明倫堂における「大学」講義案。

5904 〔壮猶館へ稽古ニ罷出候人々届方等〕 16.57—43
里見右門等編
4通　15.5cm
①壮猶館御横目紙面に付申談べく旨。定番頭宛
②海防方不破彦三書状通達につき。山崎忠兵衛より所口御馬廻御番頭衆中宛　③壮猶館江稽古ニ罷出候人々届方。壮猶館御横目里見右門より前田内蔵太宛　④銃卒取立方につき。

5905 壮猶館砲術稽古書 16.57—44
安政3年（1856）
仮綴1（5通）　12～15.5cm
①安政元年（1856）成瀬主税・横山内蔵助より前田美作守宛，壮猶館鉄砲方・玉薬貯用等に付申上書
②大小の筒打方稽古に付願書
③指引人・兵士・御歩人名書
④御国御軍艦発機丸御船印
⑤長谷川源右衛門，天保15年（1844）日記。

5906 小松修道館定 16.57—45
手写
4丁　24cm
安政年間に能美郡小松に設置された修道館の文久3年（1863）当時の稽古定日定書。「文学出座等定書之事」「武芸出座定之事」「弓術砲術出座定書之事」「箇条書之事」より成る。
「石川県教育史」第1巻に所載。

5907 壮猶館規則留抜萃 16.57—46
成瀬正居編
手写　文久4年（1864）
13丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。御親翰答書等壮猶館主附中等の意見書及壮猶館稽古方規則。

5908 壮猶館御用雑記 16.57—47
成瀬正居著
文久4年（1864）
27丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。銃卒員数調理，火器員数等銃卒の配置・概要の留。

5909 壮猶館雑記 16.57—48
成瀬正居著
44丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。銃砲類の稽古，鋳造，員数等に

ついて記す。

5910　壮猶館大筒員数留并弾数　16.57—49
成瀬正居著
文久期（1861～1863）
13丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。迎砲之部，忽砲之部，臼砲之部小野戦筒之部よりなる。

5911　壮猶館大砲弾丁　16.57—50
手写
2丁　23cm
成瀬正居旧蔵。廿四斤迦砲他13種の大砲の矢倉角度・丁着・装薬数書上。

5912　〔壮猶館并御鉄砲所御用日記〕　16.57—51
成瀬正居著
元治2年（1865）
21丁　12×18cm
内題「元治二乙丑年日記」。成瀬正居旧蔵。正月元日より2月14日にわたる御用日記。

5913　〔砲術稽古ニ付伺書〕　16.57—52
1通　16.5cm
二春流砲術の稽古を学校へ合併する件につき意見を上げたもの。

施　　設

5914　〔新井白蛾講釈之図〕　16.57—53
絵図2枚　18×25cm
寛政元（1789）～文化15年（1818）「右三十年来之事」の付書あり。「御居間之図」等。

5915　御上棟御規式　16.57—54
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　24cm
寛政4年（1792）のもの。御上棟規式，規式役人等について記す。付図として学校（明倫堂）御開に付拝領物，聖像祭壇飾あり。

5916　御上棟御規式御用之品々　16.57—55
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　24cm
井上庄右衛門が御用之品々を書き上げたもの

5917　滝之御間講釈御聴聞等之節之絵図　16.57—56
前田貞事手写　文政13年（1830）
絵図1枚　28×30cm
原題「於滝之御間経書講釈御聴聞等之節絵図」富田氏所蔵の写。前田貞醇旧蔵。講主，御座，聴聞人等の位置の指図。

5918　雄飛館大砲方渡絵図　16.57—57
絵図2枚　21×34cm・24×36cm
雄飛館は壮猶館の前身。御簡等納ケ所・連子窓等の見取図。

5919　金沢藩学校絵図　16.57—58
絵図1枚　彩色　36×48cm
図中に聖堂らしきものがみえることから，文政5年（1822）仙石町への学校移転以前の見取図か。

5920　学校図并表　16.57—59
絵図1冊（10枚・表1枚）　28×40cm
○天保9年（1838）学校図但御建物地形図
○　同　学校図但御建物
○学校御広間絵図（2枚）
○学校御間取図
○御修補以前素読試業図
○天保10年（1839）修補後素読試業図
○筑前守様句読師会読度江御出御聴聞之節図写
○御玄関前出向之節図
○経武館射付御覧候処図
○土列以上一統試業年庚図
以上，明倫堂・経武館両校建物差図。

5921　〔両学校絵図〕　16.57—60
絵図1枚　87×75.5cm
明倫堂，経武館の差図。文政5年以降のものか

5922　学校惣囲絵図　16.57—61
絵図1枚　108×98cm　包紙
高畠定辟旧蔵。現兼六園西南部に設置された明倫堂，経武館構内絵図。

5923 〔武学校之図〕 16.57—62
絵図1枚 53×42cm
横山勇太郎旧蔵。経武館の見取図。

5924 〔学校へ御出之節絵図〕 16.57—63
富田外記著
文政7年（1824）
絵図1枚 38.5×36cm
「文政七年九月二日両学校江御出之節御先立之絵図」とあり13代藩主前田斉泰の両学校視察の際の図。

5925 勝千代様両学校へ御出之節御次第 16.57—64
手写
3丁 24.5×18cm
前田貞醇旧蔵。勝千代は13代藩主前田斉泰。前田斉泰が明倫堂・経武館両学校を観覧する際の諸士伺公に関するもの11ケ条，文政7年（1824）9月か。

5926 〔学校へ御出之節伺公所図〕 16.57—65
前田貞事手写 文政9年（1826）
絵図2枚 40.5×36cm・28.5×41cm 袋入
前田貞醇旧蔵。袋書の付記に「文政九丙戌歳八月廿四日富田氏ヨリ借写置物也貞事」とあり。
①「学校江御出之節絵図」
②「於武学校射場江御出之節御先立之図」。

5927 〔両学校へ御出之節先立之図〕 16.57—66
前田矩正手写 天保13年（1842）
絵図1枚 38×53.5cm 袋入
前田栄次郎旧蔵。「文政七年九月二日両学校江御出之節御先立之絵図」とあり。

5928 〔両学校へ御出之節御先立之図〕 16.57—67
中川典義編
手写 弘化2年（1845）
絵図2枚 52.5×71cm・62×77cm
中川典克旧蔵。2枚共同内容。
絵図端裏に朱書き「弘化二年九月廿二日筑前守様両学校江御出之御都合書加置」とあり。天保13年（1842）手写本に，弘化2（1845）年9月22日藩主前田慶寧両学校観察の時の次第を書加えたもの。

5929 〔経武館射場へ御出之節御先立落所并伺公所図〕 16.57—68
前田矩正等著
弘化3年（1846）
絵図3枚 24×36cm～27×38.5cm
旧書名「経武館射場へ御出之節御先立之図」・「経武館射場へ御先立并伺公所図」。

富　山・大聖寺藩

5930 広徳館絵図 16.57—69
絵図1枚 36.5×48cm
富山藩々校広徳館の差図。広徳館は安永2年（1773），富山城外廓内に開設されたもので，富山藩の藩校のはじまりといわれる。

5931 広徳館内柔術稽古所絵図 16.57—70
絵図1枚 27×39cm
柔術稽古場・西ノ稽古場・師範休息所を図示する。

5932 富山藩学制沿革 16.57—71
手写
24丁 24cm
○旧富山藩学制沿革取調要目，旧富山藩立学校取調要項，共立義塾々則ノ概略，旧富山藩江戸藩邸内ノ学校等ニ係ル件，広徳館釈菜之順序大略，奠供略図及供物書上からなる。

5933 〔旧富山藩学制〕 16.57—72
前田家編輯方手写 明治年間
13丁 24cm
明治24年（1891）7月1日～7月5日の「富山日報」紙上の藩学記事の抜粋。
内容は，旧富山藩の学制・士族卒の子弟教育方法および藩学校であった広徳館の沿革・教則等々が主である。

5934 沿革書輯 16.57—73
江沼教育会等編
前田家編輯方手写 明治年間
2冊 23cm
内題「利鬯君御所蔵沿革書輯」。
①「旧大聖寺藩学制沿革概略（付図6枚）」。文

部省ヨリ調ニ付，とあり調人は江沼教育会による。時習館・重心館・有備館・達材舎・温知舎・董正館・啓蒙舎・家塾寺子屋等の設置事情・教則

②「江沼郡捕鴨沿革略（付図5枚）」。柳元老院議官より依頼ニ付，とあり明治22年金子鉄三・野尻保調査による。

附，中巻として「水産沿革」の項が総目次に見えるが，「此ノ中巻ハ余リ紙数モ少キニ由リ製本ヲ命セス水産ノ書類ヘ綴メ置ク」と朱書あり。

特16.6 藩　　治

特16.60 総　　記

町況・村況

(町　　方)

国　え

5935 御用御目付衆之御答帳　16.60—1
宝暦5年（1755）
20丁　12×17cm
金沢・小松城之事，町方郷中惣人数，廻船所持之者人数，領内名産，運上物，温泉，江戸大坂廻船湊，市場，寺社数，その他領内事情を記載。

5936 片岡孫作筆録　16.60—2
前田家編輯方手写　明治年間
67丁　23.5cm
内容は屋敷地拝領町役地子銀御赦免人々（元禄14），元禄9年改之金沢町名，家数，金沢通町筋丁割等の町方記録のほか，改作方，郡方の御定書などを含む。

5937 改作初年号等　16.60—3
前田直躬編
手写
11丁　24cm
改作初年号の他，御知行高高辻帳之覚，御領国中町方宿方家数等を収む。

5938 加賀国金沢区地誌・石川郡村誌　16.60—4
大屋愷敞等編
明治13年（1880）
15冊　23.5cm
皇国地誌の一部で，金沢市内の町名，沿革，気候，地勢，風俗，貢祖，戸数，人口，山，川，堀，社寺，学校，諸官庁，会社，公共施設，物産，民業などを記し，石川郡については，疆域，幅員，管轄沿革，里程，地勢，地味，税地，無税地，飛地，字地，貢祖，戸数，人数，川，社，物産，民業等を記す。刊本「石川県史資料」(1)，(2)に収録。
①金沢区地誌
②　〃
③石川郡村誌　中奥郷25村
④同　中村郷26村
⑤同　山島郷18村
⑥同　山島郷14村
⑦同　長屋荘11村・笠間郷7村
⑧同　富樫郷17村
⑨同　〃　19村
⑩同　〃　17村
⑪同　押野荘3村・横江郷15村・五箇荘5村　米丸郷6村
⑫同　大野荘24村
⑬同　戸板郷13村・鞍月荘16村
⑭同　犀川荘18村・石浦荘7村
⑮同　湯涌荘13村・金浦郷5村。

5939 御ケ条書を以御尋之品々書上申帳　16.60—5
安政5年（1858）
11丁　24cm
石川郡本吉町(現美川町)の草高，家数，人数，舟数，入津品々，里程等の町柄書上。本吉町役人より本吉町奉行に宛てたもの。

5940 松任町間数打立之内引物書抜帳　16.60—6
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　24.5cm
寛政7年（1795）写の手写。明暦3年（1657）町間改めた際の，小路，川，火除等引物した場所の抜書。

5941 松任町人口戸数等明細書　16.60—7
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　24.5cm
青木篤太郎所蔵の写。明治4年（1871）の松任町の人口，戸数，藩蔵，高，地子銭地，役立商売，役員并給料，分課交名，借債，所方切紙幣，貯用銭，明治3年（1870）12月中の決算，本町散町地方打割万雑去年半季分，附属ヶ所今町去年掛銭を記す。

（郡　　方）

5942　御郡方有増覚書　　16.60—8
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
①藩治一般にかかる諸記録。領内古城跡の記事の他，加賀，富山両藩領内組別村名書上，射水郡郷庄付を収む
②射水郡村々草高書上，砺波郡村々草高・免相・新開草高等書上，加賀藩領村数書上を収む。

5943　御廻道筋覚書（能美郡）　　16.60—9
18丁　12×17cm
安政5年(1858)5月13代斉泰が東海道廻りで帰国した際，能美郡の廻道通行に備えての覚書。能美郡の租税高・村数・人別・牛馬・御蔵・名所・旧跡等について記す。

5944　今江組巨細掌記　　16.60—10
寛政4年（1792）
124丁　11.5×17.5cm
法師善五郎旧蔵。内題「組方掌」で，大町氏の携帯にかかるもの。能美郡今江組17ケ村高免等巨細の他，同組内の新開高，畠高，村役人歴代，御印物・高札の写，温泉，寺社・祭礼等について項目別に記す。

5945　上河内組村々巨細書　　16.60—11
前田家編輯方手写　明治年間
74丁　23.5cm
青木篤太郎所蔵の写。白山，三宮，八幡，中嶋，吉野，佐良，瀬波，市原，木滑，木滑新，中宮，倉谷，二又，見定，日尾，各村の文化9年（1821）調理の明細を記す。

5946　御廻道筋覚書（石川郡）　　16.60—12
37丁　12×17cm
安井頴比旧蔵。安政5年(1858)5月斉泰の石川郡内の廻道通行に備えての覚書。石川郡内の租税高・村数・牛馬・御蔵・用水，90才以上・孝貞の者の名，名所，旧跡等について記す。

5947　加賀石川郡宿町記　　16.60—13
大屋愷啟等編
明治16年（1888）
87丁　23.5cm
皇国地誌の一部をなすもので，石川郡の宿町として，金石，松任，美川，鶴来，野々市，柏野，水島をあげ，それぞれ，位置，戸数，人口，貢祖，山，川，森林，道路，港，神社仏閣，諸役所，産業等を記す。刊本「石川県史資料」(2)に収録。

5948　津幡由来書　　16.60—14
森田平次（良見）編
16丁　24cm
加州河北郡津幡四ケ町并宿建ニ被仰付一件（慶長より承応年間），同村御旅屋守少右衛門由緒并ニ扶持高拝領被仰付一件，同郡神谷内村領三ツ屋之事を収む。

5949　口郡組々下調　　16.60—15
前田家編輯方手写　明治年間
33丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。内題「口郡組々割替下タしらへ」口郡の各組別に村々の草高，人数を書上げたもの。

5950　川水源流末橋々名所旧跡等調理廻状等留　　16.60—16
荻谷村七左衛門・相神村弥五郎編
手写
33丁　24cm
宝暦13年（1763）算用場より，羽咋・鹿島両郡の名所，旧跡等書上げを命ぜられたのに際し，七左衛門等より村々へ出された，書上げ方廻状や質問状等を収む。

5951　村鑑帳　　16.60—17
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
真館氏所蔵の写。内題「天明六年鹿嶋郡之内武部村弥兵衛組村鑑帳」で，同年，御改法により指上げを命ぜられたもの。
①　蟻ケ原村，二宮村，武部村，石塚村，久乃木村，坪川村，西村，今羽坂村，東江村，新

庄村，川田村，三階村，廿九日村，若林村，飯川村
② 江曽村，中狭村，八田村，国下村，千野村，多根村，古府村，藤野村，古屋敷村，竹町村，小池川原村，古城村，矢田村，万行村，佐野村，殿村，沢野村，麻生村，須能村，菅沢村

5952 〔射水・砺波・新川〕三御郡しらべ 16.60—18
6丁 12×36cm
富田権六郎旧蔵。各郡浦方，宿等での治安，塩方縮，年貢収納等在方一般の取締見廻の節の見聞覚書。荒尾作左衛門より外記宛。

5953 城端古文書写 16.60—19
前田家編輯方編
明治年間
86丁 23.5cm
戸長役場文書，善徳寺文書，荒木文平家文書，鳥越徳音家文書，桜井良察家文書，牧弥一郎家文書，小原家譜を収む。

5954 泊町沿革史料 16.60—20
刊
16丁 24cm
第2編のみ，小沢助左衛門旧蔵。金森小太郎所蔵文書，金森精函所蔵の文政年間「御田地割出来時」の図を載す。

（浦　　方）

5955 御国絵図船路之覚書 16.60—21
1通 25cm
加賀堀切湊，安宅湊，本吉湊，宮腰湊，能登阿部屋湊，福浦間，五十洲間，河井湊，三崎間，立壁間，小木間，宇出津間，越中氷見間，伏木湊，岩瀬湊，水橋湊，滑川湊，小津湊，赤川湊について，立地，規模，他湊との距離等を記す。正保4年（1647）の幕府への書上げの際のものか。

5956 加越能湊々高数等取調書 16.60—22
手写
45丁 24cm
原題「加賀越中能登湊々高数等調理ケ条書」。越中東岩瀬，伏木，能登所口，宇出津，輪島，福浦，加賀金石，本吉，安宅の諸港について，草高，人数，入津・出津の品々，各地への里数，廻船石数と所持者，産物等を記す。安政5年（1858）三浦八郎左衛門・名越春三郎よりの書上げ。

5957 加越能諸湊家数人数等調 16.60—23
9冊 24cm
新川郡東岩瀬，射水郡伏木，鹿島郡所口，凪至郡宇出津，輪島，羽咋郡福浦，石川郡宮腰，本吉，能美郡安宅分。前号とほぼ同内容

5958 加越能海岸港取調書写 16.60—24
手写
16丁 25cm
越中東岩瀬，伏木，能登所口，輪嶋，福浦，加賀宮腰，本吉，安宅の各港について，立地，家数，地船数，出入船数，問屋，移入，移出産物，廻米量，漁業，陸路，海上里程を記す。

5959 越中能登加賀海岸宿村家数人数等取調理書 16.60—25
手写
16丁 24cm
三浦八郎左衛門・名越春三郎よりの書上げ。越中新川郡境以下32ヶ所について家数，人数，寺院数，砲台の有無を記す。

5960 加賀国海岸宿村家数人数等取調理書 16.60—26
手写
22丁 25cm
家数，人数，寺院数，砲台有無の書上げ。

5961 御廻道筋并御見渡ニ相成候村々高免家数調理帳 16.60—27
安政5年（1858）
6丁 11×17cm
能美郡及び「小松町地方拾ヶ所」の分。

5962 宮腰草高并家数人別および他国より入津之品々等相調理書上申帳 16.60—28
安政5年（1858）

21丁　24cm
宮腰肝煎次右衛門等より宮腰町奉行所へ宛てたもの。寺庵名，船数及び持主名前等も記す。

5963　〔河北郡〕海辺村々家数人数等書上帳　16.60—29
安政6年（1859）
7丁　24cm
荒木平助等十村より改作奉行所宛。家数，人数，寺院，台場有無の書上げ。

5964　能登国外浦海岸宿村家数人数等取調理書　16.60—30
手写　〔安政5年〕
53丁　25cm
珠洲・鳳至・羽咋郡外浦村々家数，人数，寺院，砲台有無の書上げ。
旧書名「能登国外浦海岸宿村家人数等調理書」

5965　〔口郡〕海辺村々家数人数等書上帳　16.60—31
安政6年（1859）
40丁　24.5cm
石崎市右衛門等十村より改作奉行所宛。家数，人数，寺院，台場有無の書上げ。

5966　〔奥郡〕海辺村々家数人数等書上帳　16.60—32
安政6年（1859）
53丁　24cm
得能覚兵衛等十村より改作奉行所宛。家数，人数，寺院，台場有無の書上げ。

5967　福浦村高并家数人数等御尋之品々書上申帳　16.60—33
安政5年（1858）
7丁　24cm
石崎市右衛門等十村より改作奉行宛。家数，人数の他，入津船数，入津品ほか，産業一般，地理的位置についての書上げ。

5968　〔鳳至郡宇出津町村高等相調理書上申帳〕　16.60—34
宇出津村肝煎藤右衛門等著
安政5年（1858）
9丁　24.5cm
原題「村高等相調理書上申帳」。内容同前。宇出津町肝煎藤右衛門等より改作奉行所宛。

5969　輪島町村高并産物之品々等書上申帳　16.60—35
安政5年（1858）
14丁　24cm
河井町組合頭与三次等より改作奉行所宛。村高，家数，寺院，人数，潤懸り船数，他国より入津之品々，産物，海陸里程，持船，竹木積出品数，船問屋等記載。

5970　〔射水郡〕海辺村々家数人数等書上帳　16.60—36
安政6年（1859）
16丁　24.5cm
斉藤庄五郎等十村より改作奉行所宛。家数，人数，寺院，台場有無の書上げ。

5971　伏木放生津家数等相調理書上申帳　16.60—37
手写　〔安政5年〕
2冊　24cm
家数，寺院，入津品々，舟数等を記す。2冊はほぼ同内容だが，但書が少し異る。

5972　〔新川郡〕海辺村々家数人数等書上帳　16.60—38
安政6年（1859）
29丁　24cm
家数，人数，寺院，台場有無の書上げ。伊東彦四郎等十村より改作奉行宛。

5973　湊村高家数等書上可申旨被仰渡候ニ付取調理書上申帳　16.60—39
安政5年（1858）
7丁　24cm
新川郡東岩瀬について，家数，寺院，入津品々，舟数等を記す。東岩瀬浦方肝煎権吉等より新川御郡所宛。旧書名「湊村高家数等書上被仰渡候ニ付御調理書上申帳」。

5974　湊ケ所家数人数等御調理ニ付書上申帳　16.60—40
安政5年（1858）
2冊　24cm
内容同前。
①新川郡上条組西水橋の分。西水橋肝煎織之助等より改作奉行所宛
②同組東水橋の分。東水橋肝煎権之助等より改作奉行所宛。

5975 〔滑川宿浦家数等調〕　16.60—41
〔安政5年〕
2通　15・24cm
①岩城七郎兵衛より改作奉行所宛の家数，人数，寺院，台場有無の書上げ
②滑川肝煎九郎三郎等よりの宿方，浦方別家数，人数書上げ。

5976 〔越中新川郡境町・宮崎村・泊町・生地村家数人数調〕　16.60—42
手写　〔安政5年〕
仮綴1(5丁)　24cm
泊町役人より差出。境村等の家数，人数，寺院，台場有無について記す。

5977 〔魚津町〕御台場等御尋ニ付書上申帳　16.60—43
安政5年（1858）
2丁　24cm
越中魚津町の御台場の有無，家数，人数，寺院明細を記載。海岸御見分方主附魚津町米屋小右衛門等より魚津町奉行所宛。外国奉行巡見のため書上げを命じた達書1通を付す。

5978 外国御奉行所御通行ニ付御台場等書上申帳　16.60—44
安政5年（1858）
2丁　24cm
内容同前。氷見町年寄黒谷屋久左衛門等より今石動奉行所宛。

5979 〔絵図指出につき添状〕　16.60—45
1通　16cm
外国奉行通行の道筋絵図，海岸絵図などを提出した時の添状。11月17日付，角谷与市郎等より河合十郎左衛門等宛。
旧書名「角谷与一郎等口上書」。

町名・村名

（金沢町名）

5980 金府町名　16.60—46
成瀬正敦手写　天保7年（1836）
6丁　8×18.5cm
成瀬正吉旧蔵。金沢の町名をイロハ寄にして記載。

5981 金沢市中町名寄　16.60—47
手写
8丁　24cm
富田権六郎旧蔵。金沢町域を11に分け，それぞれに含まれる町名を記す。
旧書名「金沢町名寄」。

5982 〔城下町金沢方位書〕　16.60—48
1枚　40×28cm
金沢城を中心に東西南北の方位に町名を分類し記したもの。

5983 金城風相分野之図　16.60—49
1枚　38×39cm
渡辺甫旧蔵。金沢城を中心に東西南北の方位にある町名を記したもの。

5984 金沢方角之図　16.60—50
絵図1枚　36×35cm
金沢城を中心に8つの方位について，各々の町名及び軒数，辻桶の配置数等を記したもの。

（村名）

5985 加越能村名記　16.60—51
前田家編輯方編
明治年間
69丁　23.5cm
国別，十村組別に区分し，村名にふりがなを記す。

5986 加越能村名記　16.60—52
手写
35丁　11.5×18cm
三州各郡の十村組別に村名を記したもの。越中は砺波郡の一部のみ。

5987 加越能同名村々帳　16.60—53
手写
12丁　25cm
森可参旧蔵。三州各郡内の同名の村々とその草

高を書上げたもの。藩政前期のもの。

5988 〔村名付申新開所之覚〕 16.60—54
巻子1　24cm
原題「寛文四年より貞享元年迄村名付申新開所之覚」定免の村32ケ村と見図免の村37ケ村とを区別して記す。

5989 〔村名付申新開所之覚〕 16.60—55
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　25cm
「貞享元年（1684）以来村名付申新開之覚」，「寛文四年（1661）より貞享元年迄村名付申新開所之覚」。を収む。旧書名「村名付新開所之覚」。

5990 貞享元年以来村名付申新開所之覚 16.60—56
1通　24cm
能美郡，砺波郡，射水郡，新川郡の分で，定免の村8ケ村，見図免の村23ケ村に分けて記載。

5991 村名由来 16.60—57
前田家編輯方編
明治年間
60丁　23cm
石川・河北・能美郡由来帳（以上，能美郡犬丸村北村与平所蔵の写），元禄14年（1701）鳳至・珠洲郡村名由来帳（北村愛三郎所蔵の写），貞享元年（1684）砺波郡村々由緒書上申帳（金屋本江村金右衛門所蔵の写）より成る。

5992 石川河北能美郡由来帳 16.60—58
手写
21丁　23.5cm
本多政以所蔵の写。宝永元年（1704）原本成立。村々由来書上の命のもとに各郡十村中より提出された由来帳を長瀬淵兵衛と永原権亟がまとめたもの。

5993 石川河北能美郡由来帳 16.60—59
手写
25丁　11.5×18cm
安井顕比旧蔵。前号に同じ。

5994 羽咋郡十村組々イロハ寄村名帳 16.60—60
小畠友種著
寛政10年（1798）
10丁　8×18.5cm
羽咋郡の村々をイロハ順に列記し，各々が属する十村組名を付記したもの。

5995 〔調理遣有之村々仕立帳〕 16.60—61
8丁　24.5cm
享和3年（1803）及び天保5年（1834）に枝江村子村等調査の際の誤りを訂正したもので，凪至郡及び新川郡の分。旧書名「享和三年名附帳御書出云々仕立帳」。

5996 能美郡村々之内垣内分り居申村々字等書記申帳 16.60—62
文化6年（1809）
4丁　12×36cm
能美郡西俣村等32ケ村の垣内名書上げ。

5997 新川郡郷庄附村名書上申帳 16.60—63
文化7年（1810）
30丁　24cm
山室郷はじめ郷庄別1216ケ村のふりがな付村名書上げ。

5998 〔新川郡かね山一村建ニ付定書并領絵図〕 16.60—64
天保2～3年（1831～32）
8通・絵図8枚　彩色　26cm・67×109cm
①新川郡山室組吉金村領絵図，付吉野かね山之者共一村建被付ニ付取極一札（26cm）
②新川郡山室組長棟村領絵図（137×217cm），付長棟かね山一村建ニ付取極一札（26cm）
③新川郡加積組虎谷村領絵図（151×194.5cm）付虎谷村一村建ニ付取極一札（24cm）
④新川郡加積組下田村領絵図（66×111cm），付下田村一村建ニ付取極一札（24.5cm）
⑤新川郡加積組河原波村領絵図（76×118.5cm）付河原波かね山一村建ニ付取極一札(24.5cm)
⑥新川郡布施組松倉村絵図(150×222cm)，付板倉かね山の儀一村建ニ付取極一札（24.5cm）
⑦新川郡島組亀谷村領絵図（107.5×157cm），付亀谷村一村立ニ付絵図面添書（25cm）

⑧新川郡島組新町村領絵図（62.5×108cm），付新町村一村立ニ付取極一札（26cm）。
旧書名「金銀銅山八村分界精図」。

5999 〔村名替願〕 16.60—65
手写
1通 24cm
能美郡山上組，灯台笹・明嶋村に関するもの。
天保10年（1839）10月付。
旧書名「灯台笹村等寄肝煎三郎兵衛書付写」。

6000 〔一村建ニ付舟場島と名唱願〕 16.60—66
手写
1通 24cm
天保10年（1839）2月付，能美郡山上組上清水・下清水・田子嶋3ヶ村合併に関するもの。
旧書名「上清水村等寄肝煎三郎兵衛書付写」。

6001 〔田子島村・与九郎嶋村御高打込壱村願〕 16.60—67
手写
1通 24cm
天保10年（1839）2月付，両村は能美郡山上組の新開村。旧書名「田子島村等寄肝煎清七等書付写」。

6002 〔諸郡一村建并村名唱替調理〕 16.60—68
24丁 24.5cm
原題「天保五年より同十四年七月迄一村建村々并村名唱替調理」。各村々についてその経緯，高，免等調理書。加能越三ヶ国について記す。

6003 〔能美郡古田唱替并新開一村立等書上帳〕 16.60—69
天保14年（1843）
2丁 24.5cm
原題「天保五年以来古田唱替并新開一村立等書上申帳」。石黒源丞等より改作奉行所宛。
旧書名「能美郡古田唱替并新開一村立等書上帳」。

6004 〔石川郡古田村名唱替等書上申帳〕 16.60—70
天保14年（1843）
3丁 24.5cm
原題「天保五年以来古田村名唱替等書上申帳」。運上嶋村，地黄煎村，十一屋村の3件を記載。広瀬太郎左衛門等より改作奉行所宛。

6005 〔能州口郡一村建高免年号等相調理書出申帳〕 16.60—71
天保14年（1843）
9丁 24.5cm
原題「天保五年以来一村建高免年号等相調理書出申帳」。

6006 〔砺波郡新開一村立高免年号等相調書出申帳〕 16.60—72
天保14年（1843）
9丁 24.5cm
原題「天保五年以来新開一村立高免年号等相しらべ書出申帳」。

6007 〔射水郡新開一村立高免年号等相調書出申帳〕 16.60—73
天保14年（1843）
5丁 24cm
原題「天保五年以来新開一村立高免年号等相しらべ書出申帳」。

6008 〔新川郡古田唱替并新開一村立等書上申帳〕 16.60—74
天保14年（1843）
2丁 24cm
原題「天保五年以来古田唱替并新開一村立等書上申帳」宝田宗兵衛等より改作奉行所宛。

6009 天保九年以来一村建村々調理帳 16.60—75
文久2年（1862）
5冊 12×36cm
能美郡4ヶ村，石川郡3ヶ村及び口郡15ヶ村，砺波郡42ヶ村，射水郡19ヶ村，新川郡31ヶ村について記す。

6010 天保九年以来諸郡一村建村々調理帳 16.60—76
手写
2冊・1通 24cm・12×36cm・16cm袋入
①文久2年3月絵図方御用高木村藤右衛門よりの藩領全体，115ヶ村についての書上げに北

村与十郎等が調理の上，改作奉行に提出したもの
②同年２月付，①の案文。
以上冊子の他、書状は天保９年以来一村建村調理の儀達方廻文。得能覚兵衛・石崎市右衛門より諸郡御扶持人宛。

6011　天保九年以来諸郡一村建村々調理帳　16.60—77
手写
10丁　24cm
内容は前号①に同じ。
旧書名「諸郡一村建村々調理帳」。

6012　〔天保九年以来一村建之村調理一件〕　16.60—78
仮綴１（４通）　16cm
得能覚兵衛等よりの調理方復命書廻文及び石川郡山嶋組運上嶋村，河北郡，奥郡答申書。
旧書名「一村建村々之儀ニ付達書等」。

6013　〔天保九年以来射水郡一村建之村調理一件〕　16.60—79
仮綴１（４通）　15.5cm
調理に関する高木村藤右衛門と得能覚兵衛等の往仮書状等を収む。
旧書名「一村建村々之儀ニ付達書等」。

6014　加越郡名　16.60—80
佐渡脩五郎手写　嘉永元年（1848）
76丁　24cm
能州を除く「加越村名録」の写。富田景周編「三州志図譜加賀村籍巻之一」を附す。

6015　能登国口郡奥郡組々村名帳　16.60—81
手写　慶応元年（1865）
２冊　24cm
十村組ごとの村名を記したもの。①口郡組々名帳　②奥郡組々名帳。

6016　〔嶋新村と改名一村建之願〕　16.60—82
〔明治元年（1868)〕
１通　24cm
本保孫八郎・井口善三郎より御算用場宛，付許可状。嶋村は砺波郡宮嶋組に属す。

6017　江州今津弘河御領の件　16.60—83
前田家編輯方手写　明治年間
39丁　24cm
「温故集録，廿六之抄」より加賀藩江州領地に関するものの抜書き。貞享３年（1686）今津甚四郎由緒書，明和８年（1771）書上の今津甚右衛門家伝文書写，貞享３年今津・弘川両村肝煎由緒書を収む。

6018　江州今津領由来記　16.60—84
森田平次手写　天保14年（1843）
70丁　23.5cm
湯浅祇庸所蔵の写。元禄４年（1595）豊太閤御印書写，富田景周著「近江国邑田考」，森田平次著「同追考」，今津甚右衛門由緒書，明和８年（1771）今津甚右衛門よりの御印之物等写指上申帳，同追加を収む。

町絵図・郡村絵図

（町絵図）

6019　加賀国金沢之絵図　16.60—85
手写
絵図１枚　彩色　381×344.5cm
寛文８年（1668）４月公儀絵図奉行所へ渡した城下図の写しと考えられる。「侍屋敷」・「町屋敷」の記入があり所謂正保図の画法で描かれている。

6020　加賀国金沢之絵図　16.60—86
手写
絵図１枚　彩色　361.5×344cm
前号と同じ。

6021　賀州金沢城下町割正極之図　16.60—87
有沢武貞著
自筆　享保20年（1735）
絵図１枚　彩色　88×99cm
高畠定眸旧蔵。「賀州金沢城下町割正極之大図」を１分10間（6000分の１）に縮小した図。25種類の彩色によって，侍屋敷地，寺社地，本町，地子地，百姓地，川，堀，道，城惣構等を示す。「日本の古地図」(12)金沢・名古屋に収載。

6022　〔金沢城下町之図〕　16.60—88
手写
絵図1枚　彩色　332.5×201cm
文化文政期頃の城下町図。藩士名が記入されている。

6023　〔金沢図〕　16.60—89
手写　文政4年（1821）
絵図32枚　315×316cm
内題「御普請会所，侍屋舗等間数附」。侍屋敷，同請地，寺社の敷地及び一部の町屋・百姓屋の間数を記入した普請会所用の地図であるが，作図貼合せ共に未完成である。文政年間の頃のものと考えられ，藩士名は記入されているが，町屋敷については本町と地子の区別のみを記す。
①本町通り（片町，香林坊，堤町辺），十間町，河原町，西馬場，大豆田，三社一帯
②香林坊ヨリ宮ノ前，本町通ノ東側（①の中ノ細図）（156×109cm）
③小立野（石引町ノ南側），下石引町，鷹匠町，出羽町，二十人町（190×135cm）
④天徳院，波着寺，如来寺，経王寺，上野新町，ガメ坂（155×180cm）
⑤八坂，材木町，横山町，成瀬町，田非，橋場町（266×200cm）
⑥尻垂坂，公事場（152×91cm）
⑦浅野川大橋，卯辰ノ寺々，大樋町端（335×252cm）
⑧彦三通（56×78cm）
⑨上安江，長田，三社，広岡，田丸町，英町，鍛治八幡（284×225cm）
⑩高巌寺（三社，長町，古道ノ一部）（56×40cm）
⑪不詳部分（未完成）（109×78cm）
⑫長町一番丁辺（56×89cm）
⑬長町三社辺（80×56cm）
⑭長町一番丁（80×28cm）
⑮並木町・児玉小路（55×61cm）
⑯石屋小路，図書橋辺（55×40cm）
⑰本多磐松屋敷辺（54×67cm）
⑱不詳部分（未完成）（82×80cm）
⑲不詳部分（未完成）（41×28cm）
⑳地黄煎町新図（120×55cm）
㉑安江木町辺（118×107cm）
㉒照円寺，西本願寺，岩根町辺（80×81cm）
㉓横安江町（60×58cm）
㉔長町六番丁（29×60cm）
㉕不詳部分（78×28cm）
㉖長町四・五番丁（56×40cm）
㉗寺町，妙法寺，舜昌寺辺（59×36cm）
㉘味噌蔵町辺（41×39cm）
㉙不詳部分（未完成）（55×44cm）
㉚堀昌庵辺（未完成）（111×41cm）
㉛石引町辺（24×17cm）
㉜大手町，殿町，今町，尾張町（112×83cm）。

6024　金沢城下町割之大図　16.60—90
文政4年（1821）
絵図1枚　彩色　287×287cm
城を中心に金沢の中央部のみの絵図で，色分けで侍屋敷地，町屋敷地等を区分する。有沢武貞の絵図の系統をひくものといわれている。

6025　諸方調理御絵図　16.60—91
302 ~~994~~丁　24cm
天保元年（1830）から安政6年（1859）に至る間の金沢城下の侍屋敷地，町人居住地，用水などの絵図を収録。部分的に彩色。

6026　角家調理絵図　16.60—92
319丁　24cm
安政元年（1854）から慶応3年（1867）の金沢の角家を調査したもので，道路巾，角家の居住者，家の大きさなどを記入している。各部分に願人として町人名の記載がある。

6027　〔金沢城下堀川口之図〕　16.60—93
手写
絵図1枚　29×70cm
金沢の西北部分図で，浅野川に流入する堀川沿いの武家屋敷図。

6028　〔石浦町近辺之図〕　16.60—94
絵図1枚　24×35.5cm
高畠定辟旧蔵。金沢の石浦町，仙石町付近の侍屋敷を示す。

6029　〔馬場崎町近辺図〕　16.60—95
手写
絵図1枚　70×70cm
嘉永3年（1850）以後のもの。空地の坪数を記入する。

6030　〔御門前西町より袋町までの絵図〕　16.60—96
明治3年（1870）
絵図1枚　24×103cm
標題にある地域内の溝と橋の寸法及び普請にかかる御入用銭を記す。

6031　〔品川町辺弐拾番組地絵図〕　16.60—97
絵図1枚　29.5×35.5cm
金沢城下，田町，品川町，板前町附近の図。

6032　〔金沢田町通附近図〕　16.60—98
手写
絵図1枚　35×66cm
田町通，品川町辺の明治期の街路図。
旧書名「元学校附組地絵図」。

6033　小松御城中并町共地割之絵図　16.60—99
手写
絵図1枚　彩色　212×274.5cm
寛文7年（1667）原本成立。特16.18—76と同じ系統の図。

6034　加賀国小松絵図　16.60—100
手写
絵図1枚　彩色　106×134cm
前田貞醇旧蔵。前号を縮小した絵図。
旧書名「小松絵図」。

6035　〔小松絵図〕　16.60—101
手写
絵図1枚　183×318cm
前田貞醇旧蔵。侍屋敷地と町地を区分している。寛政13年（1801）以前の図と考えられる。

6036　小松御城図并町割　16.60—102
牧忠輔著
金谷武英手写　文化11年（1814）
絵図1枚　彩色　28.5×49.5cm
牧忠輔は，寛政3年（1791）小松御番頭，文化10年（1813）没。

6037　小松御城図　16.60—103
牧忠輔著
脇田尚方手写　文政13年（1830）
絵図1枚　彩色　41×56cm
表題に「御城下町割付」と注記。図面には「天保4年（1833）初夏朔日得善図再正之　金岱」とある。

6038　小松城等絵図　16.60—104
手写
絵図1枚　彩色　34×50.5cm
表題に「従三位前田慶寧」とあり，前号とほぼ同じ。ただし金岱の修正が施される以前の，牧忠輔の作成したものの写し。

6039　小松総絵図　16.60—105
手写　文久3年（1863）
絵図1枚　彩色　104.5×169.5cm
小松城及び町割図。修道館がみえるところから，安政4年（1857）以降に成立したもの。

6040　〔小松城下絵図〕　16.60—106
手写
絵図1枚　彩色　35.5×68cm
前田貞醇旧蔵。藩政後期のもの。

6041　〔小松御城地并町中等絵図〕　16.60—107
手写
絵図1枚　彩色　48.5×36.5cm
前田貞醇旧蔵。侍屋敷には藩士の姓が入っている。藩政後期のもの。

6042　石川郡本吉図　16.60—108
脇田尚方手写　文政10年（1827）
絵図1枚　彩色　34×46cm
石川郡本吉町（現美川町）における寺院，町会所，藩蔵の位置，町年寄等，町役人の居宅を示す。

6043　〔石川郡〕本吉絵図　16.60—109
絵図2枚　彩色　27.5×39cm・17×63cm

安井顕比旧蔵。①本吉の御通筋，本陣，藩蔵，御台場等の図　②本吉を中心に隣村，山などの絵図。隣村等への見通しの方向を附す。

6044　本吉絵図　16.60—110
絵図1枚　彩色　27.5×38.5cm
前号①と同じ

6045　宮腰御舟小屋絵図　16.60—111
手写　安政6年（1859）
絵図3枚　26.5×38cm～47×72cm
（うち1枚彩色）。藩主専用の舟小屋の間数，位置の図。

6046　所口町奉行斉藤中務支配所絵図　16.60—112
絵図1枚　彩色　81×131cm
浜，磯際より家屋までの間数，海中深度等海岸域を中心とした絵図。

6047　能登国第1区七尾町見取絵図　16.60—113
手写　明治6年（1873）
絵図1枚　彩色　57×108cm
無税地，地子地，村々地，海，川，山，里中道を示す。町名の記入がある。

6048　〔高岡市街全図附城下概説〕　16.60—114
絵図1枚・1通　彩色　121×119cm・17cm
色別に拝領地，寺社地，町屋敷地等を示す。明和から安永年間に成立したものと推定される。「城下概説」では，町名，家数，寺社数，町中人数等を記す。刊本「江戸時代図誌」北陸道(2)，富山文庫(12)「越中の絵図」に収載。

6049　〔射水郡高岡町総絵図〕　16.60—115
絵図1枚　彩色　101×120cm
町名，町域，道，江筋等を記す。高岡町地のほか，横田村等の9ヶ村領内にある高岡町分も区分して記入されている。

6050　高岡町見取図　16.60—116
井上二十郎手写
33丁　彩色　23cm
明治6年（1873）作成の町別町域図。屋敷地，田，畠，道等を色別に示す。

6051　魚津町惣絵図　16.60—117
富田貞詳手写　嘉永2年（1849）
絵図1枚　68×78.5cm
富田権六郎旧蔵。藩蔵を中心に町名，道，川，江筋を記し，寺社及びその宗派，侍屋敷地等を記入している。

（絵図作成調理）

6052　領内浦方絵図面抜書　16.60—118
手写
巻子1　16.5cm
元禄期，幕府指出しの絵図面の記載を抜書したもの。安宅，本吉，宮腰，川尻，福浦，輪島，三崎，立壁，小木，宇出津，氷見，伏木，岩瀬，水橋，魚津の各港の位置，泊船の状況等を記す。

6053　砺波郡之内往来筋村間道程附帳　16.60—119
文化7年（1810）
12丁　24cm
国絵図作成のための書上。内嶋村孫作等より改作奉行所宛。

6054　射水郡絵図之儀御答書　16.60—120
手写
76丁　23cm
○射水郡絵図面ニ書入可仕所々品無之書入難仕分書記上申帳（文化7年五十里村庄右衛門）
○射水郡絵図面之内住還道筋等橋ヶ所并御付札を以御尋之品々且又氷見唐嶋并海辺船路等之訳別帳を以御尋之趣相調理書上申帳（文化12年中川村善左衛門，加納村兵衛）を収む。

6055　能登国地理誌　16.60—121
前田家編輯方編
明治年間
6冊　23cm
第1冊～5冊は元禄12年（1699）～14年，文化10年（1813）～12年の御郡絵図作成に当っての書上げを中心に編纂したもの。往還，上使道，郷村名及び村名由来，橋，神社，宿場，海深，古城館，不審箇所御尋ニ付答書等を記す。①～③は口郡の分であるが　③の産物書上に奥郡の

分を含む　④・⑤は奥郡の記載。⑥は能登四郡の名所旧跡，村別寺社書上等の他，享保6年（1721）公領海境争論，元文元年（1736）能州船朝鮮漂着一件，寛政9年（1797）加賀藩領民無人島漂着一件を載せる。

6056　〔御郡絵図面能越境里数丁間不同等御尋之品相調理書上申帳〕　16.60—122

文化13年（1816）

3丁　24cm

原題「文化十三年子四月御郡絵図面能越境里数丁間不同等御尋之品相調理書上申帳」。射水郡中川村善左衛門等より改作奉行所宛。

6057　新川郡御絵図面御付札之趣御答書上申帳　16.60—123

文化13年（1816）

8丁　12×36cm

新川郡絵図の内，付札部分34ケ所についての説明書。

6058　三州地理雑誌　16.60—124

加賀藩絵図方役所編

森田平次手写

20冊　23.5cm

「御絵図方留記」ともいわれ，幕府に進達する領内の絵図を作製するため，郡方から地形，旧跡，産物等を書上げさせたもの。

①「御絵図不審之所々，加州江沼郡之分」
「文政五年江沼郡村々産物之品々書上申帳」
「山代薬王寺由緒書」
「御絵図不審之所々，加州能美郡之分」
「文(化)政五年能美郡村々郷分」
「文化十三年能美郡村名垣内名相違相しらべ書上申帳」
「能美郡村々之内村渡り道程附帳」
「文化六年能美郡御絵図御附札之趣承合申分覚書」

②「文化十四年能美郡御公領境御書抜御絵図ニ御附札を以御尋之趣相しらべ書上申帳」
「文化十五年能美郡小松石部神社山王社由来帳」
「文政五年能美郡諸産物品々書上申帳」
「文化十二年能美郡橋々字等相しらへ申帳」

③「文化六年江沼郡村名かな付帳」
「御絵図不審之所々，加州石川郡之分」
「文化六年石川郡郷庄村付村帳」
「石川郡諸村之内枝村垣内」
「文化六年石川郡絵図之中御附札等之訳書上申帳」
「文化十一年石川郡御尋ニ付絵図之内御答書」
「文化十三年石川郡之内古城跡書上申帳」
「石川郡之内おもだち申川橋帳」
「享保十七年石川郡水島村源兵衛島村下柏野村江被為下置候御印写書上申帳」

④「御絵図不審之所々加州河北郡之分」
「文化五年河北郡惣村名附并郷庄付等書上申帳」
「文化十三年河北郡城跡并垣内書上申帳」
「文化五年御付札之趣書上申帳」
「加州河北郡之内御絵図不審之所々」
「文化七年河北郡御絵図御尋之趣書上申帳」

⑤「文化十二年能登四郡古城跡館跡書上申帳」
「文化六年鳳至珠洲両御郡絵図面ニ雑記品々并郷庄村附等書上申帳」
「鳳至珠洲両御郡郷庄村々」
「能州土方領村名」

⑥「砺波郡御絵図之面御付札を以御尋之趣書上申帳」
「文政五年砺波郡産物之品々書上申帳」

⑦「越中今石動埴生駅立記」
「天明五年五ケ山両組紙屋名前しらへ帳」
「天明五年五ケ山両組去年出来皮楮書上帳」
「五ケ山焔焔出来之次第書上申帳」
「文政五年 射水郡 産物稲名等 相調理書上 申帳」

⑧「文化十四年富山御領婦負郡村名郷庄仮名附ニ而書上申帳」
「婦負郡新川郡枝村記帳」
「東岩瀬西岩瀬猟場争論之義ニ付詮議書」

⑨「文化十四年御直封領国絵図書付」
「御国絵図以後為御用延宝五年絵図就被仰付諸事調様并書付等記申帳」

⑩「加越能山川記」

⑪「加越能之内替義共郡々致吟味書上申帳」
「加越能之内珍舗事共算用場江御尋ニ付書上ル写」

「御領地方由来書帳　能登図」
⑫「三州古城跡」
⑬「文政九年三州海辺不審之覚」
「三州地名由来記」
⑭「延宝元年三月三ケ国替儀共御穿鑿ニ付御算用場ニ而取集覚書」
「能美江沼古城志」
⑮「越中高岡関野社伝来」
「享保二年砺波郡福野村藤吉同所ニ吹場相願鋳物仕義ニ付始終之書通書上申帳」
「加越能三州御修理地神社仏閣并御寄附之社寺領高」
「加越能三州諸郡町立并宿駅家数等」
⑯「宝暦五年御国目附松平頼母殿大河内善兵衛殿御越之節諸事御尋御答書之写」
「能登国四郡中御預所村名書　石高付」
「加越能三ケ国宿駅御定之馬数」
「微妙院様御逝去後三ケ国改作方之儀御穿鑿更ニ改作方被仰出一件」
「享保十六年二俣道往来一巻」
⑰「能登幕府領御預所村々高訳等巨細書」
「宝永元年能登一覧記」
⑱「金沢城下ヨリ越中国境川迄名所道程」
「越中国所々御制札場等其外産物等種々聞合方道中留」
「御木神社来由等詳細記」
「加州石川郡倉谷銀山之事」
⑲「絵図為取替相成事」
「文化八年先祖由緒書上申帳」
⑳「享保六年十二月九日奥村内記殿以御紙面を春出船奉行相勤答之旨被仰渡委曲別帳ニ記」
「享保七年，享保五年御収納御詰古米同六年御収納新米越中伏木浦ヨリ江戸大坂江為積登申出船御算用帳」。

6059　河北郡七組之内御絵図面相洩申村々并相違之ケ所等書上申帳　16.60—125

天保7年（1836）
138丁　24cm
元禄絵図と比較し，その後の村建，絵図との相違ケ所等について記す。得能覚兵衛等より絵図方役所宛。

6060　婦負郡并新川郡之内御絵図面懸紙を以相改候目録　16.60—126

手写
30丁　33×22cm
同上内容。天保8年（1837），山本五兵衛等より篠原織部等宛。

6061　〔加越能之内〕数ケ村入会新開地所書上申帳　16.60—127

天保8年（1837）
10冊　24cm
①能美　②石川　③河北　④羽咋　⑤鹿嶋　⑥凪至　⑦珠洲　⑧砺波　⑨射水　⑩新川の郡別に，御絵図方御役所宛の書上げ。

6062　能登国数ケ村請之新田地所書載之候目録　16.60—128

天保8年（1837）
6丁　24.5cm

6063　〔加越能三ケ国〕変地其外相改之候目録　16.60—129

天保8年（1837）
3冊　24cm
元禄絵図作成以後の道・川・村名の変化，新村建等について，絵図修正上の諸事項を記す。
旧書名「加賀国変地其外相改之候目録」，「越中国変地其外相改之候目録」，「能登国変地其外相改之候目録」。

6064　変地帳仕立　16.60—130

天保8年（1837）
12冊　24cm
郡別に新村建，退転村など村の変更，家建などについて記す。
①江沼②能美③石川④河北⑤羽咋⑥鹿島⑦凪至⑧珠洲⑨新川⑩婦負⑪砺波⑫射水。

6065　越中三郡絵図橋付札云々　16.60—131

3丁　23.5cm
射水，婦負，新川各郡に対し，既成の橋帳及び郡絵図修正のため，橋名，不審ケ所，村名，城跡，郡境等を付札，別帳により明らかにすべきことを命じたもの。

（郡　絵　図）

6066　〔能美絵図〕　16.60—132
絵図1枚　彩色　152×400cm
高畠定辟旧蔵。各村を郷別に色分けで記載。

6067　〔石川郡絵図〕　16.60—133
絵図1枚　彩色　146×205cm
高畠定辟旧蔵。各村を郷庄別に色分けで記載。道，川等を記入。

6068　加州河北郡図　16.60—134
脇田尚方手写　文政9年（1826）
絵図1枚　彩色　71×130cm　袋入
脇田氏旧蔵。各村を郷庄別に色分けで記載。旧書名「河北郡図」。

6069　〔河北郡絵図〕　16.60—135
絵図1枚　彩色　119×108cm
高畠定辟旧蔵。各村を郷庄別に色分けで記載。

6070　〔能登国羽咋郡鹿嶋郡之図〕　16.60—136
絵図1枚　彩色　148×195cm
高畠定辟旧蔵。各村を郷庄別に，いろはの合印で示す。街道，諸道が特に明記されている。

6071　〔能州鹿島郡之図〕　16.60—137
絵図1枚　彩色　65×60cm
原題「能州諸所絵図　能州鹿島郡之図」羽咋郡も含む。各村々を庄・保・郷・院別及び御預り他の別を記す。

6072　〔能州鹿島郡嶋之内図〕　16.60—138
絵図1枚　彩色　55×41cm
原題「能州諸所絵図　鹿島郡嶋之内図」能登島地図。村名，道を記す。

6073　〔能登国鳳至郡・珠州郡之図〕　16.60—139
絵図1枚　彩色　175×270cm
高畠定辟旧蔵。いろは合印で郷庄別に村々を記す。御預地23ケ村を含む。

6074　〔能州奥郡之図〕　16.60—140
絵図1枚　彩色　75×86cm
原題「能州諸所絵図　奥郡ノ図ナリ」。郷庄別に村々を記載。

6075　〔越中砺波射水郷分図〕　16.60—141
手写
絵図1枚　彩色　55×125cm
高畠定辟旧蔵。各村を十村組に色分けで示す。

6076　〔砺波郡見取絵図〕　16.60—142
絵図1枚　彩色　147×220cm
村名，寺社領，川，用水，道筋等を記載。

6077　〔射水郡分間絵図〕　16.60—143
絵図1枚　彩色　55cm×61
原題「射水郡一町五厘分限絵図」。射水郡の城跡，寺社，蔵所，道，川，山地，町支配所，組別の村名等を記す。

6078　〔新川郡組分図〕　16.60—144
絵図1枚　彩色　153×183cm
高畠定辟旧蔵。十村組別に村々を記す。富山領村も含む。

6079　〔新川郡図〕　16.60—145
絵図1枚　彩色　160×148cm
高畠定辟旧蔵。山間部を中心に，山名，渓谷名等を記載。

6080　〔新川郡絵図〕　16.60—146
絵図1枚　彩色　63×47cm
金丸孔彰旧蔵。山名，渓谷名等，山間部を中心に描く。

6081　〔新川郡之図〕　16.60—147
手写
絵図1枚　彩色　81×76cm
石田太左衛門所蔵の写。山，川，主要道の他，産物，土質等も記す。

（村　絵　図）

6082　〔今江・柴山潟絵図〕　16.60—148
　窪田次右衛門著
　絵図１枚　彩色　35×48cm
　今江・柴山潟の岸辺の地形，村名，大聖寺領境等を記す。

6083　〔能美郡今江木場両湖辺村落図〕　16.60—149
　手写　天和３年（1683）
　絵図１枚　136×136cm
　前田貞醇旧蔵。「万治三年（1660），飛驒守様御替知之刻判形相調取かわし申絵図之写」とある。大聖寺藩主代替りに際し，知行替となった村々の境界をしるしたもの。

6084　加州徳橘郷三十ケ村等図　16.60—150
　絵図１枚　彩色　60×64cm
　徳橘30ケ村，苗代14ケ村，板津43ケ村，山上57ケ村，軽海54ケ村，粟津24ケ村，御公領18ケ村の各郷村名，河川を記載。

6085　〔若原村領絵図〕　16.60—151
　巻子１　28cm
　能美郡若原村のもので，飛地字山田の絵図を含む。旧書名「若原村預飛地絵図」。

6086　〔能美郡絵図〕　16.60—152
　絵図10枚　彩色　48×72cm
　①安宅村，安宅新村と江沼郡日末村領界図
　②木場潟周辺大聖寺藩界図（59.5×107cm）
　③江沼郡，御公領界図（53.5×72cm）
　④御公領界，尾小屋，西俣村御口留所図（71×48cm）
　⑤瀬波町村領内，谷図（142.5×54cm）
　⑥白山川，尾谷川，河内川，中川筋流入谷図（59.5×36cm）
　⑦白山川流入谷，木滑，河原山御関所周辺図（59.5×36cm）
　⑧大日川流域，阿手関所周辺図（53.5×48cm）
　⑨御公領界，川原山関所周辺図（141×60cm）
　⑩倉谷村周辺谷図（71.5×36cm）。

6087　〔加州鹿嶋之図〕　16.60—153
　手写
　絵図１枚　彩色　17×40cm
　原題「鹿嶋図」。安井顕比旧蔵。

6088　〔加州石立浜之図〕　16.60—154
　手写
　絵図１枚　彩色　17×40cm
　原題「石立浜之図」。安井顕比旧蔵。巡見用のもので，海岸見分の御腰掛所を中心に描いたもの。以下８点は同一書法。

6089　〔加州石立村絵図〕　16.60—155
　手写
　絵図２枚　彩色　17×39.5cm・27.5×28.5cm
　原題「石立村絵図」。安井顕比旧蔵。展望視野の各部角度が記されている。

6090　〔加州笠間村絵図〕　16.60—156
　手写
　絵図１枚　彩色　28×39cm
　原題「笠間村絵図」。安井顕比旧蔵。御小休所，御通道等を記す。

6091　〔加州平加之図〕　16.60—157
　手写
　絵図１枚　彩色　17×39cm
　原題「平加図」。安井顕比旧蔵。柏野・福留村周辺図。

6092　〔加州松任絵図〕　16.60—158
　手写
　絵図１枚　彩色　28×38cm
　原題「松任絵図」。安井顕比旧蔵。御本陣，御通道等を中心に街道，古城，藩蔵を示す。松任は町方であるが，前後の号と同一の書法なのでここにおく。

6093　〔加州宮保之図〕　16.60—159
　手写
　絵図１枚　彩色　17×39cm
　原題「宮保図」。安井顕比旧蔵。

6094 〔加州北安田村絵図〕 16.60—160
手写
絵図1枚　彩色　28×39cm
原題「北安田村絵図」。安井顕比旧蔵。御通道を中心に記す。

6095 〔加州北安田村絵図〕 16.60—161
絵図1枚　彩色　28×38cm
前号と同一。
旧書名「北安田村絵図」。

6096 鞍月庄十六ケ村等之図 16.60—162
絵図1枚　彩色　43×60cm
村々を郷庄区分により記す。

6097 〔河北郡〕太田・中条村之図 16.60—163
絵図2枚　彩色　76×56cm・111×146cm
地番表示図。

6098 〔河北郡〕潟端新村全図 16.60—164
絵図2枚　53.5×77cm・39×54cm
1枚は新開状況を，1枚は地番を表示したもの。

6099 〔羽咋郡梨谷小山村古絵図之写〕 16.60—165
手写
絵図1枚　62×142cm
梨谷小山戸長役場旧蔵。田，畠，新田ケ所等を記す。

6100 〔鹿島郡須曽村絵図〕 16.60—166
絵図1枚　彩色　35×46cm
原題「能州諸所絵図」。鹿島郡能登島の須曽村と須曽村から対岸を臨んだ絵図。須曽村内は塩浜，道路等を詳細に記す。以下3点は同一書法。

6101 〔鹿島郡須曽村八景之図〕 16.60—167
絵図1枚　彩色　36×47cm
原題「能州諸所絵図」。「能州鹿嶋郡嶋須曽村々図也同八景」と記す。村内各施設，網場，村高等を記す。

6102 〔鹿島郡田尻村絵図〕 16.60—168
絵図1枚　彩色　36×48cm
能登嶋田ノ尻村，久木村絵図。村の来歴等の書入れがある。

6103 能登国鹿嶋郡小栗村領地巨細仕絵図 16.60—169
絵図1枚　彩色　40×83cm　袋入
田・畠の名称，字名，居村等を記す。
旧書名「能登国鹿島郡小栗村領地絵図」。

6104 輪嶋総略絵図 16.60—170
手写　文久3年（1863）
絵図1枚　49.5×56cm
高畠定辟旧蔵。町名，小路名，寺社，藩蔵等を記す。

6105 城端町絵図 16.60—171
絵図1枚　彩色　38×62cm
高畠定辟旧蔵。色分けで川，道，家，屋敷地，蔵囲，町囲地等を示し，寺社名，町名等を記す。

6106 越中砺波郡五ケ山々中絵図 16.60—172
絵図1枚　彩色　28×39.5cm
金谷孔彰旧蔵。五ケ山を中心に福光，城端，八尾辺までの川筋，本道，間道と主な村名を記す。

6107 越中婦負郡野積谷地絵図 16.60—173
手写
絵図1枚　彩色　109×77cm
岡本昭倣所蔵の写。新川郡，婦負郡，野積谷の各村を色分けで示す。寺社，用水，道，川，論地山等を記す。

6108 〔新川郡沼保村彦四郎元組舟見村等領絵図〕 16.60—174
文化8年（1811）
絵図1枚　彩色　154×312cm
原題「新川郡沼保村彦四郎元組　舟見村，明日村，栗虫村，下若林村，桑畑新村領絵図」。

6109 〔越中国宮崎浦図〕 16.60—175
絵図1枚　28×66.5cm
高畠定辟旧蔵。境関所より宮崎明神山，泊町までを描く。

（浦方絵図）

6110　三州海岸測量之図　16.60—176
1帖　彩色　26cm
内題「加能越三州海辺筋村建等分間絵図」加賀藩内各地における，海岸より30丁までの海深測量図。海岸部の村名，道なども記す。

6111　能登国鹿島郡七尾港絵図　16.60—177
絵図1枚　彩色　37×53cm
七尾湾周辺の図。湾内の海深を記す。
旧書名「能登国七尾港絵図」。

6112　〔能州海岸図〕　16.60—178
手写
絵図1枚　彩色　28×80cm
「海辺巨細しらへ方被仰渡，堀松平蔵，本江村六郎右衛門主付，於堀松相調候ニ付，当組浦方分如此書記，文化四年八月十七日ニ遣ス」。七尾～大田村～大野木村に至る海岸の図。

6113　〔能州奥郡海岸図〕　16.60—179
文化14年（1817）
絵図1枚　68×80cm
鹿嶋郡村々海岸図。

6114　能州筋海岸村々丁間海立浅深調理　16.60—180
改作所著
16丁　24cm
羽咋・鳳至・珠洲郡等海岸の村々より海中30丁の距離までの海深調理書。
旧書名「能州筋海岸村々丁間海立浅深調理書」。

6115　氷見浦等大船寄り方書付并絵図　16.60—181
6通・絵図1枚　15～24cm・35×48cm
包紙・袋入
寛政10年（1798）各湊の大船の船掛り場所および深さを調査した際の各湊才許役人からの書上げ。①氷見浦　②氷見浦絵図　③能州預所27か所　④宮腰浦　⑤本吉浦　⑥安宅浦　⑦場所不明（当所御旅屋下）。
旧書名「氷見浦等大船寄り方書付并図」。

6116　〔射水郡海岸図〕　16.60—182
絵図1枚　彩色　69×102.5cm
婦負郡打出村から越能境までの海岸の村，地形の状況，水深，渡海船の往来海路，佐渡等各地への方位等を記す。

特16.61　寺　社　方

寺　社　方

（勤方覚留類）

6117　寺社奉行支配濫觴　16.61—1
有賀寛兵衛手写　嘉永5年（1852）
7丁　24cm
原本は嘉永2年（1849）～同7年（1854）まで寺社奉行を勤めた前田内蔵助所蔵。藩政初期以来の寺社奉行の役柄・支配内容の変遷をまとめたもの。

6118　寺社方早引　16.61—2
手写
2冊　12×18cm
富田権六郎旧蔵。
①諸札定文之部，旧例等之部，御法名之部，諸宗触頭之部，奥書裏書物之部，御副印物之部，御札目録之部，他国来状之部，後住願御達方之部，御暇願御達方之部，所替願御達方之部，御寺領等之部，御礼一巻之部
②山号之部，宝円寺独竜和尚隠居并仏山和尚後住一件，宝円寺仏山和尚遷化并俊鳳和尚後住一件，天徳院義宣和尚隠居并保竜和尚後住一件，天徳院雄道和尚遷化并恵剛和尚後住一件，瑞龍寺達観和尚遷化并活湛和尚後住一件，瑞龍寺活湛和尚隠居并大亮和尚後住一件，泰雲院様十七回御忌勤書，九拾歳者等之被仰出旧記，御法事之節御参詣御作法，三州七木之定，五役者名書，寺社方取次勤方之覚，明知代官勤方之覚，寺社御奉行勤方之覚，武家諸法度。

6119　寺社方等勤方覚書　16.61—3
手写
20丁　24cm

中川典克旧蔵。伊藤内膳，本多主水，山崎庄兵衛よりの寺社方及び支配方勤役の大概を書上げたものの写し。原本成立は享保19年（1734）。
○寺社方等勤方之覚
○支配方之覚。

6120　寺社方并支配方勤方之覚　16.61—4
手写
53丁　12×18cm
中川典克旧蔵。
○寺社方勤方之覚
○支配方勤方之覚，明和8年（1771）
○寺社方取次勤方之覚，明和8年（1771）
○寺社御奉行中支配方取次役勤方，明和8年（1771）。

6121　寺社方等勤方覚書　16.61—5
前田兵部〔等〕著　玉井勘解由〔等〕校補
30丁　12×18cm
中川典克旧蔵。享和2年（1802）に寺社奉行であった前田兵部，中川清六郎，品川主殿が作成した原本を，文政7年（1824）に玉井勘解由，多賀予一右衛門，富田外記の三寺社奉行が朱書により修正加筆したもの。

6122　寺社方旧記抜書　16.61—6
手写
93丁　23.5cm
成瀬氏旧蔵。寺社方の記録を書抜いたもの。享和～文化年間の記録が多い。

6123　〔寺社奉行役留〕　16.61—7
前田孝始(式部)著
自筆
9丁　15×18cm
原題「寺社奉行 被仰付 誓詞仕廻 当日ヨリ 之役留」。前田栄次郎旧蔵。文化元・2年(1804・05)のもの。
旧書名「寺社奉行被仰付誓詞仮留」。

6124　御用番中留　16.61—8
前田孝始(式部)著
自筆　文化6年（1809）
19丁　12.5×18cm
前田栄次郎旧蔵。孝始は文化元年11月1日より同8年3月10日まで寺社奉行，文化6年12月の御用番の時の記録。

6125　寺社方心覚帳　16.61—9
手写　文化12年（1815）
14丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。寺社奉行としての心覚帳。

6126　寺社御奉行御式台取次御定等　16.61—10
手写　文政3年（1820）
12丁　23.5cm
富田権六郎旧蔵。

6127　寺社奉行并寺社方支配方取次与力勤方帳　16.61—11
手写
2冊　12×18cm
①天保7年（1836）成瀬正敦手写
②元治元年(1864) 前田貞発手写。
いづれも「附与力明知代官勤方帳」あり。原本は文政7年（1824）成立。旧書名「寺社奉行并寺社方支配方取次与力附与力明知代寺社奉行等勤方帳」。

6128　寺社方旧記抜書　16.61—12
成瀬正敦手写　天保7年（1836）
~~2冊~~ ~~48丁~~　12×18cm
成瀬正敦が天保7年（1836）寺社奉行に就任した頃書き抜いたもの。寺社方旧記等書抜，支配方旧記等書抜を含む。

6129　寺社御奉行御式台取次御定　16.61—13
文政8年（1825）
5丁　23cm
富田権六郎旧蔵。藩主謁見の際の式台における取次の位置を定めたもの。
旧書名「御式台取次御定」。

6130　御用番中雑記私録　16.61—14
前田矩正著
自筆　文政9年（1826）
22丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。矩正は文政9年4月29日より寺社奉行，同年8月17日より公事場奉行を兼，天保11年6月若年寄となる。これは，5月29日寺社奉行の御用番をつとめた際の7月1日迄の

記録。

6131　寺社奉行勤方諸雑　16.61—15
中川典義編
手写　文政12年（1829）
43丁　11×17cm
中川典克旧蔵。種々の覚書を再編集したもの。

6132　〔寺社奉行心覚留帳〕　16.61—16
成瀬正敦著
自筆　天保7年（1836）
28丁　12×18cm
原題「寺社奉行被仰付候節之心覚留帳」。
成瀬正善旧蔵。天保7年（1836）6月より7月までのもの。

6133　寺社方等御用番中心覚留帳　16.61—17
成瀬正敦著
自筆　天保7年（1836）
40丁　12×18cm
正敦が天保7年（1836）寺社奉行に就任した年の御用番の記録。

6134　寺社方御用日記　16.61—18
成瀬正居著
文久3年（1863）
145丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。文久3年正月から1年間の寺社奉行の職務日記。

6135　寺社方御用日記　16.61—19
成瀬正居(主税)編
~~文久3年~~　~~120丁~~　12×18cm
文久4年（1864）から元治2年（1865）までのもの。

6136　〔捨子一件等留書〕　16.61—20
450丁　24cm
捨子一件，行衛尋一件，稼御定一件，出奔並立帰一件，送状出方一件，他国遠所拵一件，勤字一件，弟子勘当一件，など，享保13年（1728）～元治元年（1864）寺社方関係の留書。

6137　寺社方留帳之内神社向抜萃　16.61—21
手写
83丁　24cm
慶応2年（1866）より明治2年（1869）までの神社関係の記録抜粋。

6138　寺社方〔記録〕　16.61—22
寺社方編
336丁　24.5cm
寺社奉行所において慶応3年（1867）4月より同4年（明治元年）（1868）11月まで取扱った42件の関係文書をまとめたもの。簡単な業務目録が添付されている。

6139　寺院方諸事留　16.61—23
民政所編
明治3年（1870）
522丁　24.5cm
明治2年（1869）12月～3年（1870）10月，金沢藩民政所が扱った寺社方関係文書を決裁順に編集したもの。内容は多岐に渡り，民政所による格式寺院の直支配移管関係文書，神式葬祭の届出，住持職関係，祠堂銭貸借，寺領支配，旅行の届出，祈祷の届など約300件の書類。決裁は朱で加筆。

6140　〔寺社方記録〕雑之部　16.61—24
手写
111丁　24.5cm
御鎮守御用一件，宝円寺勝手一件，加能越神社帳江戸表へ被遣候一件など。

（役務記録）

6141　日蓮宗僧侶上京留　16.61—25
手写
45丁　23cm
内題「日蓮宗出京之儀ニ付段々留控」日蓮宗僧侶の法衣着用の件につき幕府寺社奉行迄談合留記。宝永5年（1708）より同7年までのもの。

6142　寺庵違失之趣御糺方御箇条抜書　16.61—26
前田家編輯方手写　明治年間

2冊　25cm
寺社御印物等写の内，
①寺庵違失之趣御糺方御箇条抜書，寛政9年（1797）杉木
②寺庵違失之趣被仰渡御請帳，寛政9年（1797）石割組。

6143　天台宗寺院神護寺式台往来旧記〔等〕　16.61—27
手写　安政7年（1860）
34丁　24cm
○「天台宗寺院神護寺式台往来旧記」安永7年（1778）
○「井波 瑞泉寺 城端 善徳寺 無住中月番名列旧記」元文元年（1736）より文化元年（1804）までのもの。最後に付された万延2年（1861）朱注の文書はのちに追加されたものか
○「能州惣持寺後見芳春院於江戸表関三ヶ寺与坐列旧記」宝暦年中のもの
○「高岡繁久寺諸願 瑞龍寺之手を離し申付願方」寛政4年（1792）のもの
○「伝燈寺与配下寺庵座席願」元文5年（1740）のもの。

6144　〔社寺領・御扶持高等ニ付伺書〕　16.61—28
諸郡御扶持人〔等〕著
明治3年（1870）
4丁　24.5cm
租税局宛。社寺領及び十村扶持高等が停止されるにあたり，山林，未進地，社寺領の内百姓持高分等についての伺書。

6145　加州小松八幡宮并能州羽喰郡一ノ宮由緒　16.61—29
手写
5丁　25cm
廻国上使による能州一宮及び小松八幡宮参詣の時，各祠官より寺社奉行へ提出された報告書。表題に「由緒」とあるも参詣記録と称すべきもの。元禄9年（1696）～享保8年（1723）までのもの。

6146　白山長吏同所神主諸事集合一件等　16.61—30
手写
85丁　24cm
○「白山長吏同所神主諸事集合一件」天明4年（1784）白山本社鰐口の詮儀に関する神主と寺社奉行の往復文書
○「白山社頭御修覆之節御作事所役人止宿之義神主ト村方懸合一件」天明3年（1783）から寛政7年（1795）までの，白山村，白山神主と寺社奉行の往復文書。

6147　新川郡岩峅寺等身分支配方之義ニ付心附之趣御内達物控　16.61—31
手写
8丁　24cm
金谷孔彰旧蔵。立山岩峅寺・芦峅寺の身分支配方の件について，両寺より寺社奉行・郡奉行の両支配を不服とする訴えがあり，嘉永6年（1853）と万延元年（1860）の両度にわたって裁定が行なわれ，両支配の維持継続が申し渡された。本書は，当時新川郡奉行の1人として関係した金谷孔彰（与十郎）が，天正16年（1588）から寛政元年（1789）に至る関係文書を挙げて考証を加え，嘉永6年（1853）と万延元年（1860）の裁決書の写を添えて，問題の顚末を算用場へ報告した文書の控。
旧書名「岩峅寺等身分支配方に付御内達物控」。

6148　立山衆徒支配一件　16.61—32
手写
2冊・絵図2枚　23cm・46.5×51cm
92×59.5cm
原題「立山岩峅寺芦峅寺衆徒身分等重而寺社奉行支配被仰付候一件」。附「立山衆徒支配一件立山絵図」。

6149　〔高辻様御通行一件等十一種〕　16.61—33
296丁　25cm
○高辻様御行一件，明和7年（1770）
○五条大納言様等御使者旧記，宝暦2年（1752）
○本願寺文章弘旧記，寛政12年（1800），文化2年（1805），安政2年（1855）
○東西本願寺使僧被指向候一件
○東本願寺拝領材木仙共飯米等旧記，寛政2年（1790）
○東末寺為修理之本山ヨリ勧化願一件，明和元年（1764）

○京都法華宗妙顕寺等通行旧記，嘉永5年（1852）
○永平寺通行一件，天保11年（1840）
○東門跡御国通行一件，文政4年(1821)，弘化4年（1847）
○京都知恩院宮御使僧御国通行一件，天保2年（1831）
○滝谷妙成寺配下寺庵へ為巡説代僧相廻候一件，寛政9年（1797）～天保12年（1841）。

6150　他国来状一件　16.61—34
手写
139丁　23cm
加賀藩が本領以外の地で祈祷所・菩提所として関係をもった寺社との往復文書を編纂したもの。内容は次のとおり。
○東西本願寺来状，文化3年（1806）以来幕末に至るもの
○年始来状等
○京都詰人江之渡書
○5月9月御札上ケ来状
○毎歳10月長床坊来状并返書
○暑寒来状
○芳春院役者替り
○他国寺院等往返紙面抜書，寛政9年（1797）～安政7年（1860）に至るもの。

6151　上方諸寺院捜索書　16.61—35
10丁　23.5cm
前田家の事蹟調査のため山本源右衛門が調査したとされ，主として京都などの諸寺院についての書上げ写。

6152　桂香院口上覚　16.61—36
明治3年（1870）
1通　24.5cm
江戸下谷にある桂香院から金沢藩公用所宛。灯籠の預り状。

寺　社　制　規

6153　虚無僧掟　16.61—37
手写
10丁　24cm
河合氏旧蔵。内容は次の通り。
○幕府寺社奉行が虚無僧本寺へ宛てた定書　慶長19年（1614）
○普化宗各派の沿革略記
○福正寺より門弟宛ての宗具書　宝暦10年(1760)
○虚無僧門弟の往来手形
○明暗寺より各派寺院への掟書　宝暦10年(1760)。

6154　宗門之儀ニ付御定　16.61—38
手写
10丁　23cm
万治2年（1659）より宝暦4年（1754）までの法令17通を集めたもの。

6155　不受不施宗旨之義ニ付旧類　16.61—39
中川八郎右衛門著
寛文9年（1669）
6通　26cm
中川典克旧蔵
①不受不施派制禁状写
②不受不施宗門改ニ付中川八郎右衛門請状
③不受不施派制禁ニ付中川八郎右衛門請状
④③の案
⑤②の写
⑥③の請状写。

6156　〔切支丹類族調〕　16.61—40
前田家編輯方編
明治年間
12丁　25cm
関屋政知覚書の抜萃。別名「切支丹詮議書類」。信者の死去の際の報告書の書式及び元禄10年（169）～同15年（1702）と貞享4年（1687）の例を載せている。

6157　寺庵方御触二種　16.61—41
前田家編輯方手写　明治年間
73丁　23.5cm
○妙成寺所蔵寺庵方御触，享保・宝暦期
○阿岸本誓寺事務方自往古御掟控，藩政初期。旧書名「寺庵御触」。

6158 〔曹洞一宗寺院へ教諭触達書之写〕 16.61—42
手写
7丁 12×18cm
富田権六郎旧蔵。原題「曹洞一宗祖規濫行ニ相成候儀ニ付寛政二年九月十八日従公儀関三刹江被仰達同年十二月日本中一宗寺院ニ教諭触達書之写」。幕府からの布達を関三刹（大中寺・龍穏寺・総寧寺）が曹洞宗加賀藩触頭宝円寺と天徳院に触達したものの写。
旧書名「従公義関三刹へ被仰達并日本中寺院へ教諭触達書」。

6159 寺社方被仰出之御掟写 16.61—43
手写
5丁 24cm
前田修理（知周）が寛政2年（1790）に寺社奉行となった時にまとめたものの写し。

6160 寺社方并支配方御条目 16.61—44
手写
34丁 24cm
○寺社方并支配方御条目，寛政4年（1792）
藩政初期より天明5年（1785）頃までの法令を集成したもの
○御条目等帳，享和2年（1802）
寛政4年の分に書き洩らした条目を追記したもの。

6161 寺社方御条目帳 16.61—45
成瀬正敦手写 天保7年（1836）
23丁 12×18cm
成瀬正居旧蔵。寛政4年（1792）原本成立。内容は藩政初期より明和期までの寺社方関係法令の集成。成瀬正敦は天保7年（1836）寺社奉行就任。

6162 寺社方御条目帳 16.61—46
富田外記（貞行）手写
2冊 11.5×17.5cm
①寺社方御条目帳之写，藩政初期から明和期までの寺社方関係法令の集成
②諸事心覚，改宗寺替・逼塞閉門・寺社修理等に関する記録と服忌令
富田外記は，文政2年（1819）より9年（1826）まで寺社奉行。

6163 御制札旧記・下馬札旧記・釣鐘鋳直旧記 16.61—47
寺社方編
手写
254丁 24cm
加賀藩領内の寺社に対する禁制，下馬札及び梵鐘鋳直しの調査記録。文政7年（1824）改の分。

6164 御触之写 16.61—48
手写
5丁 23.5cm
天保13年（1842）倹約等御触の写。
旧書名「社寺御奉行所御尋等八種」。

6165 〔頭寺心得之旨触状〕 16.61—49
手写
1通 16cm
中川典克旧蔵。寺社奉行より真宗の触頭寺院に送った覚書。
旧書名「頭寺心得書」。

6166 寺社方御礼帳 16.61—50
宝暦7年（1757）
4丁 12×18cm
成瀬正居旧蔵。藩主重教入国時拝賀の際の拝閲名列，献上物の目録。

6167 寺社方年頭御礼次第 16.61—51
宝暦10年（1760）
4丁 12×18cm
成瀬正居旧蔵。藩主への年頭拝賀の次第。

6168 寺社方年頭御礼次第 16.61—52
2冊 9.5×18cm
横山政和旧蔵。藩主への年頭拝賀の次第と名列。
①寺社方年頭御礼次第，文化7年（1810）
②寺社方御礼名書。

6169 寺社方年頭御礼次第 16.61—53
文政7年（1824）

6丁　8×18cm
成瀬正居旧蔵。外題「心覚留帳」。藩主の年頭礼の際の寺院の献上物の並べ方についての寺社奉行の覚え。

6170　寺社方年頭等御礼次第帳　16.61—54
2冊　12×17.5cm
富田権六郎旧蔵。
①寺社方年頭御礼次第帳，文政7年（1824）富田外記編
②寺社方年頭御礼，慶応2年（1866）。

寺　院　・　神　社

（寺社書上帳類）

6171　三州寺号帳　16.61—55
手写
143丁　23.5cm
簡単な沿革を記入した加越能三国の寺院名簿であるが，神社も一部含む。曹洞宗（加越能），臨済宗（加），天台宗（加越能），真言宗（加越能），浄土宗（加越能），時宗（加越），日蓮宗（加越能），浄土真宗西方（加越能），浄土真宗東方（加越能），御預地寺庵，加州大聖寺々庵之分(真言宗・浄土宗・日蓮宗・浄土真宗)，富山御領之内寺庵（真言宗・禅宗・浄土宗・天台宗・時宗・日蓮宗・浄土真宗），神社(加越能の一部)。
刊本「加越能寺社由来」上巻に収録。

6172　加州能州越中寺社方并山伏等惣帳　16.61—56
手写
69丁　23cm
加賀藩領内の寺社台帳。浄土真宗両派を除く各宗派寺院及び神主並びに山伏を組合別に寺号・社号・所在地・寺社領の有無を記す。天明年中（1781～89）以前に成立。一部に朱書の加筆訂正が見られる。

6173　三州寺社牒　16.61—57
前田家編輯方手写　明治年間
72丁　23.5cm
加越能三国の寺社帳。禅宗（曹洞・臨済），天台宗，天台律宗，真言宗，浄土宗，時宗，日蓮宗，浄土真宗東西と山伏，神社神主まで含む。

6174　〔寺号改旧記〕　16.61—58
寺社方編
手写
150丁　24.5cm
加越能三国の寺庵・神社の寺号・社号・神主名の変更に関する天明年中（1781～1788）より幕末までの記録。

6175　御国寺社附　16.61—59
2冊　18.5×12cm
今枝氏旧蔵。加越能三国の真宗東西本願寺派及び，社僧，神主，山伏の寺号と社号などを記したもの。貞享2年（1685）の寺社改めの頃のものと思われる。
①西方一向宗として307ケ寺，宮寺并神主として166人，山伏として触頭5ケ寺に触下256人を記載
②東方一向宗として触頭8ケ寺と触下709ケ寺を記載

6176　御領国山伏調帳　16.61—60
手写
23丁　12.5×18cm
貞享2年（1685）の由来書付帳から，院坊号，住所，地目，創設年，本尊の項目を抜書きした名簿。元禄元年（1688）の寺社奉行不破彦三・岡島市郎兵衛による加筆が朱書されている。

6177　〔寺号帳〕　16.61—61
総持寺等編
24冊　23.5cm
①総持寺山内寺院所附帳（総持寺役局）　文政4年（1821）
②加能両国当寺配下寺院改帳(天徳院・宝円寺)　文政3年（1820）
③配下寺号帳（瑞龍寺）　文政3年（1820）
④寺院号所附御改帳（国泰寺）　文政6年（1823）
⑤禅宗済下寺号所附帳（伝燈寺）　文政3年（1820）
⑥加越能浄土宗寺号帳（如来寺）　文政3年（1820）

⑦寺号帳（玉泉寺）　文政３年（1820）
⑧妙成寺触下寺庵寺号所附帳
文政３年（1820）
⑨天台宗西養寺配下寺号帳　文政３年（1820）
⑩天台律宗寺号帳（西方寺）文政３年（1820）
⑪寺号書上帳（神護寺）　文政３年（1820）
⑫寺号所附知行高帳（天台梅林院）
文政３年（1820）
⑬能州真言寺院号郡所附帳（波着寺）
文政３年（1820）
⑭能州真言帳外之寺院号郡所附帳（波着寺）
文政３年（1820）
⑮能州御預地寺院号郡所附帳（波着寺）
文政３年（1820）
⑯寺号帳（明王院）　文政３年（1820）
⑰越中真言寺院号郡所附帳（波着寺）
（当時宝集寺触下）　文政３年（1820）
⑱寺院号帳（宝幢寺）
⑲寺号帳（観音院）　文政３年（1820）
⑳寺社号所附知行高帳（真言宗白山長吏）
文政３年（1820）
㉑寺号帳（長福院）　文政３年（1820）
㉒石動山寺号帳　文政３年（1820）
㉓御社領并坊数帳（天台宗立山岩峅寺）
文政３年（1820）
㉔交名帳（天台宗立山芦峅寺）
文政３年（1820）。

6178　一向宗寺号帳　16.61—62
文政３年（1820）
146丁　23.5cm
寺社奉行所による文政３年の寺社改め。各触頭寺院より触下寺院の寺号・所附の書上げ。一部明治２年（1869）までの加筆修正あり。下記の15種を編集したもの。
○金沢西末寺并触下寺号帳，表書に「触下寺庵所附帳照円寺」とある
○伏木勝興寺与力寺庵帳
○伏木勝興寺与力寺帳外帳入寺庵帳
○松波松岡寺并配下寺号帳，表書に「寺号并地名等書上申帳　松波松岡寺」とある
○府中（所口）光徳寺并配下寺号帳
○金沢善福寺・瑞泉寺并配下寺号帳
○金沢東末寺并配下寺号帳
○金沢専光寺并隠居所等寺号帳
○小松本蓮寺并触下寺号帳，表書に「当寺触下寺号所附書上帳　小松細工町本蓮寺」とある
○津幡弘願寺寺号帳，表書に「就御改書上申寺号帳　津幡弘願寺」とある
○井波瑞泉寺・城端善徳寺并配下寺号帳
○府中（所口）長福寺并触下寺号帳
○羽咋本念寺并配下寺号帳
○阿岸本誓寺并触下寺号帳，表書に「凪至郡寺号所附帳　阿岸本誓寺」とある
○鵜飼妙巌寺并触下寺号帳。

6179　三州寺庵志　16.61—63
手写
２冊　23.5cm
脇田尚保旧蔵。宗派別の寺院名簿。
①越中—向宗，加州—向宗，能州—向宗
②加州禅宗，能州禅宗，越中禅宗，加州天台宗，越中天台宗，加州真言宗，能州真言宗，越中真言宗，加州浄土宗，越中浄土宗，能州浄土宗，能州日蓮宗，加州日蓮宗，越中日蓮宗。

6180　加越能三州諸宗寺号イロハ早繰牒　16.61—64
前田家編輯方手写　明治年間
119丁　25cm
加賀藩領内に所在する各宗派の寺院について寺号の頭字をイロハ順に並べて，宗派と所在地を調べられるようにした手引書。弘化２年(1845)成立。

6181　退転之寺并高持僧名改一件　16.61—65
手写
84丁　23cm
○退転寺院改，寛保２年（1742）能州鹿島郡良川村山田寺と明和７年（1770）能州羽咋郡徳田村安養寺之内３ヶ寺の２件。
○高持寺社についての改め帳，享和元年(1801)の高方仕法以来の布達と能登・越中の関係寺社の記録を収録したもの。編纂者による朱書が加えられている。

6182　加越能三州神号帳　　16.61—66
願行寺・宝来寺編
天保6年（1835）
44丁　23.5cm
加越能三国の社人のいない小社の祭神と所在地を書きあげたもの。幕府による宝暦年中の寺社改めで取り上げられなかったものを加賀藩が天保6年（1835）に調査し，集録したもの。
刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。
○「加州神号帳」
○「能州神号帳」
○「越中神号帳」。

6183　金沢藩管轄中式内神社調帳　　16.61—67
手写
15丁　24cm
加越能三国の式内社102座についての調査書。

6184　加賀国神社録　　16.61—68
手写
96丁　23.5cm
文政10年（1827）～天保2年（1831）の間の加賀藩による神社改めの際，神主頭から書上げられたものの写し。333社の神号，所在地，祭礼期日を記す。

6185　寺院明細帳　　16.61—69
手写
2冊　~~1冊~~　23.5cm
明治9～10年（1876～77）頃の寺院明細帳の写で，加賀国真宗寺院の分。319カ寺について本末関係，開創年次，住職，境内地，檀家数を記す。

6186　郷村社明細帳　　16.61—70
手写
127丁　26cm
明治9年（1876）11月に各社より書上げられた神社明細帳。地域は旧江沼郡のうち能美郡界付近。

6187　〔管内寺院取調書〕　　16.61—71
手写
26丁　24.5cm
明治3年金沢藩より民部省宛の管内寺院取調書で，能州の曹洞宗寺院を書き上げたもの。
永光寺，良玄寺，龍門寺，徳林寺，長齢寺
徳翁寺，宝塔寺，霊泉寺，泉龍寺，海門寺
最勝寺，恵限寺，栄芳寺，徳雲寺，亀源寺
悦叟寺，東嶺寺，大覚寺，瑞源寺，大龍寺
仙台庵，全翁寺，宗源寺，大蓮寺，洞光寺
台光寺，長雲寺，洞雲寺，最安寺，太盛院
万年寺，広福寺，徳昌寺，常椿寺，海前寺
蔵福院，満福寺，宝光院，涌全寺，金峰寺
永禅寺，千光寺，天崇寺，昌樹寺，法恩寺
守禅庵，本光寺，曹源寺，海蔵寺，光現寺
智徳寺，聖光寺，霊泉寺，蓮江寺，龍護寺
道興寺，宗泉寺，豊財院，長松寺，泉龍寺。
以上54ケ寺について，所在地，住職名，境内地，檀家数，山林屋敷地など元朱印地の有無などの項目を記す。
旧書名「永光寺関係記録」。

6188　社号御調理ニ付被為仰渡御条目　　16.61—72
岩尾阿波編
手写　文政13年（1830）
8丁　24cm
宝暦年中の社号改めを手本として社号調査の梗概をまとめたもの。岩尾阿波は凪至郡穴水の大町にある辺津姫神社神主。

6189　越中村々寺庵等書上　　16.61—73
手写
巻子1　17cm
越中国内の寺院の所在地について，寺社帳に不分明なものを元禄9年（1696）より享保8年（1723）頃調査した寺社奉行の報告。

6190　持宮等争論一巻　　16.61—74
手写
119丁　23.5cm
○新川郡魚津神明諏訪両社社家一件
延享2年（1745）
○上日寺争論一件　文化13年（1816）
○砺波郡七社村長岡八幡宮別当職一件
文政4年（1821）
○同所芹川村明運寺一件　文政4年（1821）
○高岡木町先宮一件　文政5年（1822）

○新川郡日中村日置神社祭礼一件
文政５年（1822）
○山伏頭医王寺持宮上野村八幡社一件
宝暦７年（1757）
○砺波郡石堤村氏神一件　寛政13年（1801）
○射水郡小杉村法福寺観音鎮守八幡宮一件
享和２年（1802）
○河北郡苅安村百姓持宮一件
天明３年（1783）
○砺波郡高宮村法船寺持宮一件
寛政12年（1800）
○松波村神主等持宮懸合一件
寛政12年（1800）
○土御門家より越中陰陽家詮議一件
延享２年（1745）。

6191　神社号等調理方主附一件〔等〕　16.61—75
手写
72丁　24.5cm
○神社号等調理方主付一件，文政13年（1830）～弘化３年（1846）
○御尋者并割場御改法一件，天明５年（1785）～寛政11年（1799）。嘉永４年（1851）の「割場御道具渡り方之儀ニ付御横目所披見物写」を含む
○宝円寺・天徳院取次勤方等御省略不被書出候一件并寺庵数等之事，寛政元年（1789）及び享和３年（1803）のもの
○為諸人五穀成就等并都而触付一件，明和～文政年間のもの
○井波瑞泉寺配下与力寺格并同寺於旅屋死亡人取置方一件，文化４年（1807）～文化６年（1809）
○城端ニ而悪捕ル一件，享保17年（1732）
○川砂利取候一件，寛政４年（1792）。

6192　持宮決済之分　16.61—76
明治２～３年（1869～70）
仮綴１（81丁）　24.5cm
神仏分離に伴なう神主の兼勤，神社の改称，引移などの書類簿。

6193　富山御領諸寺庵帳　16.61—77
11丁　12×18cm
富山藩領内の宗派別寺号帳。禅宗，天台宗，真言宗，浄土宗，日蓮宗，時宗，真宗仏光寺派，浄土真宗東方，浄土真宗西方，御領内惣社人才許，御領内山伏才許。

6194　寺院御印拝領地等記　16.61—78
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23.5cm
富山藩領内の寺社関係記録。
○御郡寺院拝領地之事，享保10年（1725）
○御郡神社并神主之事　越中国神社御書上，宝暦10年（1760）
○御郡保庄郷名乗之事
○御郡宗旨寺院数之事
○加賀様御代附并富山様之御代々附之御事
○慶長18年諸寺院江十五ヶ条被仰出之写。

（寺号・社格等）

6195　〔本能寺・本興寺末寺之由来調べ覚書〕　16.61—79
天和２年（1682）
７丁　25cm
日蓮宗の京都本能寺と尼ケ崎本興寺の間に起った，金沢の承証寺・妙久寺・本光寺の３ケ寺をどちらの末寺と認めるかの相論についての覚え書。
旧書名「本能寺本興寺等末寺之儀ニ付寺社奉行ヨリ由来覚書」。

6196　高厳寺名ニ付口上書　16.61—80
１通　16.5cm
高厳寺は金沢宮腰（現金石）の臨済宗寺院。寺号の疑問に寺社奉行が答えたもの。元禄12年（1699）頃のものか。

6197　大乗寺永平寺懸合一件　16.61—81
手写
129丁　23cm
三衣問題に関する記録。享和元年（1801）より翌２年（1802）までのもの。

6198　卯辰山招魂社設立之件　16.61—82
手写

1通　16cm
北越戦争の加賀藩戦没者の招魂社設立について藩主の意向を受けた寺社奉行が定番頭に命じた明治元年（1868）の文書の写し。刊本「加賀藩史料」藩末編下巻に収録。

6199　尾山神社社格一件　16.61—83
前田家編輯方手写　明治年間
52丁　23cm
尾山神社を県社から別格官幣社に格上げしようとする，祠官，信徒，氏子などによる請願書等を集めたもの。明治16年1月に石川県令へ提出されたものから，明治24年7月に石川県知事へ提出されたものまで，書状や歴代藩主の事蹟を列記したものを含めて14通が収められている。

6200　白山諸雑事記　16.61—84
澄意法印編
森田平次手写
90丁　23.5cm
白山宮の嶺上神祠，本宮の旧址，七社の次第，神階・神銘・神宝・坊官・宮主等の記録。
編者は寛文6年（1666）～享保10年（1725）白山惣長吏。刊本「白山史料集」上巻に収録。

6201　〔下白山ニ付口上書〕　16.61—85
惣長吏等著
正徳元年（1711）
巻子1　17cm
下白山の社号の意義，読み方などについて，惣長吏から寺社奉行へ報告した文書6通を継いだもの。刊本「白山史料集」上巻に収録。

6202　白山太神宮社号書上帳　16.61—86
白山東神主著
自筆　宝暦10年（1760）
2丁　25cm
建部采男旧蔵。宝暦9年（1759）に幕府が全国に命じた神社取調の一環として藩が提出を命じたもの。社人の存在する神社の社号，神号を書きあげている。

6203　〔石川郡成村行善寺由緒書〕　16.61—87
巻子1　25cm
行善寺は日蓮宗，妙成寺触下の寺。当寺を「なるノ行善寺」又は「安田村行善寺」と2通りに称する理由を寺社奉行が問いただしたもの。文書6通を継いでいる。

6204　能州寺院鎮守持宮書上帳　16.61—88
波着寺編
文政7年（1824）
173丁　24cm
能州真言宗各寺の持宮（鎮守社）祭神についての報告書46通を綴り，触頭波着寺が添書をもって寺社奉行所へ提出したもの。

6205　〔羽咋郡願正寺之件〕　16.61—89
15丁　24cm
富田権六郎旧蔵。文政3年（1820）願正寺下寺，信光寺離末につき願届書。

6206　穴水辺津比咩神社位記　16.61—90
手写
巻子1　27.5cm
関左次馬旧蔵。正一位を賜った位記の写し。辺津比咩神社は能登鳳至郡穴水町大町に鎮座する産神社。文化4年（1807）原本成立。

6207　〔国泰寺伝燈寺争論一件〕　16.61—91
手写
巻子1　24cm
伝灯寺を法灯派と主張する越中国泰寺が寺社奉行に訴えて退けられた事件の関連文書6通の写し。元禄10年（1697）より同11年（1698）までのもの（越）
旧書名「中西田国泰寺并加州伝燈寺」。

6208　立山争論落着一件　16.61—92
文化15年（1818）
28丁　23cm
内題「立山岩峅寺芦峅寺争論一件於公事場落着申渡候一巻」また「文化十四年ヨリ同十五年八月落着」。立山権現の称号に関する岩峅寺と芦峅寺の争論の顚末について寺社奉行所の覚書を中心に編集したもの。

6209　石堤村氏神出入書類　16.61—93
常勝院常貞著
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　23.5cm
越中砺波郡赤丸村皆月操所蔵の写。宝暦10年（1760）より明和2年（1765）に至る間の越中砺波郡石堤村氏神の所属についての訴訟一件。山伏寺鞍馬寺と同郡月野谷村神主清水因幡の争いで，聖護院からの尋問に答えて編集されたもの。

6210　越前高瀬宝円寺由緒書　16.61—94
手写
22丁　24cm
越前高瀬宝円寺再興についての文久3年(1863)より慶応3年（1867）までの往復文書の写し。宝円寺は利家が越前府中在城時代から関係あり。次の5通の文書を書写。第1通は文久3年（1863）越前高瀬宝円寺と金沢小立野宝円寺からの高瀬宝円寺再興歎願書2通を含む寺社奉行成瀬主税の前田土佐守直信宛の取次書。第2通は同じく成瀬主税の奥村伊予守宛取次書。第3通は文久3年（1863）の高瀬宝円寺からの歎願書を含む寺社奉行兼公事場奉行品川左門武好の長大隅守連恭宛取次書。第4通は文久4年（1864）寺社奉行より高瀬宝円寺への下達書。第5通は慶応3年（1867）の再三にわたる高瀬宝円寺から寺社奉行宛の再興歎願書。

寺誌・社誌

6211　加越能社寺来歴　16.61—95
前田家編輯方手写　明治年間
75丁　23.5cm
内題「延宝弐年社寺由来書」,「延宝年中加越能社寺来歴」。延宝2年（1674）の加賀藩による寺社改めで書き上げられたものの写。収録された寺社は，前田家一門の菩提所，祈祷所，外護所として保護を受けていた。刊本「加越能寺社由来」上巻に「延宝年中加越能社寺来歴」として収録。

6212　御領国神社来歴　16.61—96
貞享2年（1685）
巻子1　27cm
加賀藩より社領を与えられて保護された祈祷所，外護所にあたる神社と，山伏頭の由緒書上を集成したもの。寺社奉行不破彦三，富田治部左衛門宛。八幡宮（加州卯辰），佐那武大明神（加州寺中），春日大明神（加州山上），小浜神社（加州黒津船），八幡宮（越中埴生），稲荷大明神（越中高岡），下白山（加州），三崎金分高座（能州），一宮（能州），石動山（能州），神明（能州），願行寺，蓮花院，天道寺，乾貞寺医王寺のもの。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6213　神社由来等四種　16.61—97
手写
45丁　23cm
内容は次のとおり。
- ○「白山比咩神社宝剣銘并額面」
- ○「春日神社由来記」高井大和著　文化3年（1806）の由来帳
- ○「神田神社及摂社別宮末社記」を含む
- ○「鳳至比古神社由来并宝物記」　文化14年（1817）のもの。

6214　加越能神社考草稿　16.61—98
44丁　24cm
- ○「越中能登神社考」　延喜式に記載されている越中国34社と能登国43社の略縁起
- ○「加越能神社考」　下記の加越能14社の略縁起。

加州白山宮，越中加久美神社，同関野神社，加州河北郡下野間神社，同石川郡神田神社，同石川郡大威徳社，同石川郡鷲森神社，越中朝日山山王権現并泉村天神社，加州金沢真福院聖観音像，同金沢顕照院山王，能州赤蔵山大権現，加州金沢野町長久山千手大士，同金沢円教寺庚申。

6215　〔諸寺願出之件令達目録〕　16.61—99
天徳院住僧某編
手写
79丁　25cm
曹洞宗触頭天徳院の令達文書の目録の写し。4代住持祖聯の代，享保元年（1716）～15年（1730）の分14巻，5代良因の代，享保15年（173

0）～寛保２年（1742）の分20巻，６代宗孝の代，寛保２年～寛延３年（1750）の分14巻と永光寺・大乗寺等の分１巻。

6216　金沢寺院由来　16.61—100
前田家編輯方手写　明治年間
90丁　23.5cm
金沢小立野宝円寺が編集した寛延２年（1749）の加州能州曹洞宗寺院由来書上帳の写し。内表紙に「原書ニ宝円寺什具」とある。

6217　曹洞宗寺院来歴　16.61—101
前田家編輯方手写　明治年間
104丁　23cm
文化３年（1806）の由緒書上の写し。
○触頭宝円寺・天徳院の由緒書上
○加州触下寺庵由来帳，60ヶ寺の由緒書上
○金沢宝円寺天徳院触下能州寺庵由来帳，58ヶ寺の由緒書上。

6218　寺院来歴　16.61—102
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23cm
○日蓮宗寺院来歴，文化３年（1806）の由緒書上の写。妙成寺触下26ヶ寺の分
○浄土宗寺院来歴，天明６年（1786）の由緒書上の写。如来寺触下25ヶ寺の分。

6219　寺庵由来　16.61—103
前田家編輯方手写　明治年間
77丁　23.5cm
○山城国愛宕郡東紫竹大門村芳春院明細帳，原本は明治16年（1883）成立
○能州宝蔵寺縁起并系図，原本は元文４年（1739）成立
○石動山古縁起・新縁起并宝暦由来・寛政由来，新縁起は原本承応３年（1654）成立。宝暦由来は宝暦５年（1755）の由緒書上，寛政由来は寛政９年（1797）の由緒書上の写し
○不動山霊山寺草創由来，原本は鳳至郡端穂村国分直方旧蔵
○穴水町弘誓寺由緒，明治18年（1885）の明細帳の写し
○明千寺村明泉寺由来　年次不詳
○文久元年永平寺総持寺衣体争論落着一件，原本は文久元年（1861）成立
○珠洲郡樋原村妙厳寺記録抜書
○越中高岡片原町日蓮宗八品派本光寺由来。

6220　寺社由来并古蹟　16.61—104
前田家編輯方手写　明治年間
119丁　23.5cm
○寺社由来并古蹟
○宝銭騒乱之記，宝暦６年（1756）
○神社仏閣員数等之部。

6221　加越能地理志料・社寺部　16.61—105
手写
２冊　24cm
内題「加越能三ヶ国地理志料」弐・参。副題「御領社家寺院来歴抜萃　但貞享二年就御尋書出候分」。社寺の来歴縁起を中心とした地誌。
①○大乗寺所蔵之古文書
○新架犀橋記（水南潜夫著）
○八幡宮由来
○広塚之来歴
○味智神縁起
○佐那武御納之品
○その他
②「御領国社家寺院来歴一箱之内抜萃」貞享２年（1685）諸寺由来書の内からの要抜。

6222　寺庵由来書等写　16.61—106
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
①○金沢泉野寺町宝集寺由来書　安政３年（1856）の由緒書上。
○万松山鐘銘　奥村栄滋所蔵の写し
○松山寺御造営一巻留，横山隆平所蔵の写
○松山寺境内歩高一巻，横山隆平所蔵の写。文政３年（1820）成立
○融山院由来帳，天明６年（1786）の由緒書上
○神護寺御仏殿并別当屋敷請取留抜書，横山政和所蔵の写
○石川郡金川庄善福寺縁起并文書　年次不詳
②○天徳院御造営御普請毎日諸職人人足払帳，

原本は明和6年（1769）成立
○天徳院方丈志願祠堂銀証文相改借請帳，原本は寛政10年（1798）成立
○大乗寺替地願証文并由緒書控
○大円寺文書
○伝灯寺御印物，寺領所附の写。

6223　法華宗寺院由来〔等〕　16.61—107
44丁　23.5cm
○「貞享二年寺院由来書」
○「卯辰寺院組合附」
○「天明三年女犯破戒寺院再建願一件」。

6224　御寺由来抜書　16.61—108
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25cm
曹洞宗鶴林寺・大乗寺，祇陀寺などの由緒抜き書き。

6225　祇陀寺由来等調書　16.61—109
手写
巻子1　17cm
端裏に「寺社来歴　辛巳」とあり，原本は元禄14年（1701）成立。祇陀寺（現在金沢市寺町）の由緒の疑問ついての寺社奉行所による調査文書の写を16通継いだもの。

6226　〔松月禅寺〕由緒伝説記　16.61—110
手写
8丁　24cm
松月寺は金沢市寺町の曹洞宗。元文2年(1737)に焼失するまでの由緒をまとめたもの。

6227　大乗寺旧記　16.61—111
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
大乗寺所蔵文書の写し。
①○古文書
○永平八世建撕和尚記
○白山大権現縁起
○道元和尚硯記
○瑩山老和尚置文
○大乗護国禅寺中興碑
○真禅和尚之法蛾
○徹通和尚像開眼記
○本山掛合一件記録，永平寺との三衣問題に関するもので，年代は寛政10年（1798）9月より翌11年（1799）4月まで
○丈室宝物長持秘器品目
②○古規則一件留記，内容・年代ともに第1冊の本山掛合一件記録に同じ。
○卍山和尚墨跡
○示紹瑾長老
○将軍御講談大乗寺拝聴之覚書
○本多政敏居士書。

6228　加州大乗寺来歴　16.61—112
巻子1　24cm
住職が江戸幕府の招きで出府した際の顛末を書き留めたもの。「加州大乗寺来歴」「加州大乗寺由緒」「一夜書写忍岐集来由」「所蔵中世文書写」を載す。

6229　大乗寺由緒略記　16.61—113
密山(道顕)編
手写
4丁　24cm
元禄16年（1703）に29代住持密山が寺社奉行へ提出した由緒書。

6230　大乗寺由緒略記　16.61—114
密山(道顕)編
今枝直方手写　宝永6年（1709）
6丁　20cm
元禄16年（1703）手写のものの写。
旧書名「松樹林大乗寺由来」。

6231　桃雲寺文書写　16.61—115
手写
42丁　23.5cm
桃雲寺は金沢市野田にあり，瀋祖の墓守役の寺。所蔵文書および寛延2年（1749）「桃雲寺由来書写」を収む。

6232　玉泉寺由緒書上帳　16.61—116
手写
6丁　24.7cm
明治2年（1869）原本成立。内題「玉泉寺由来

書」。玉泉寺は金沢市野町３丁目の時宗寺院。

6233　玉泉寺天満宮由来　　16.61—117
玉泉寺編
手写
２丁　24.5cm
玉泉寺の天満宮の由来書。

6234　石浦郷社来歴考　　16.61—118
森田平次著
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　23.5cm
著者が石浦神社へ献納したものの写で，三宅恒（立軒）の序文あり。「此一冊ハ愚著ト雖金沢城地之産土神殊ニ城地等ノ来歴聊地志ノ御参考ニモ可相成ト為写差上候」の著者捺印自筆の付箋がついている。

6235　金沢安江神社由緒調査書　　16.61—119
厚見正秀著
大正６年（1917）
19丁　26cm
厚見正秀は安江神社の社司。

6236　加賀一州式内社校正愚論　　16.61—120
森田平次著
庶務課社寺方手写　明治29年（1896）
43丁　24cm
明治５年（1872）原本成立。加賀国の延喜式内社42社（江沼郡11社，能美郡８社，石川郡10社，河北郡13社）の所在地，由緒等について論じたもの。

6237　〔加賀国所々天神社由来調書〕　　16.61—121
巻子１　16cm
寺社方の由来帳では詳細不明の天神社についての疑問に対し，寺社奉行伊藤平右衛門と竹田五郎左衛門が調査し，貞享２年（1685）の由緒書上等を引用して答えたもの。元禄12年（1699）～正徳４年（1714）の間に成立。
旧書名「加賀国天神社由来」。

6238　大聖寺実性院由緒　　16.61—122
手写
３丁　25cm
宝永７年（1710）の由緒書に住持の沿革を加えたもの。実性院は大聖寺藩祖前田利治の菩提寺。刊本「加越能寺社由来」上巻に収録。

6239　医王精舎観世音菩薩霊像記　　16.61—123
僧無隠著
寛延３年（1750）
巻子１　32cm
医王精舎は江沼郡山中温泉にある真言宗医王寺のこと。当時安置していたと思われる観音像の由来について説明したもの。

6240　江沼郡敷地天神縁記　　16.61—124
大江知言著
文化11年（1814）
４丁　25.5cm
別名「敷地天神社記」。敷地天神とは，延喜式神名帳にいう菅生石部神社で，現在その社号を名乗っている。

6241　小松宮寺御書等之留　　16.61—125
成瀬正居著
自筆　安政４年（1857）
11丁　12×18cm
著者は安政３年（1856）７月より翌年３月まで小松城番として小松に赴任。その間に参詣した小松近辺の寺社の什宝物を観察し記録したもの。

6242　〔小松〕梯天神霊験記　　16.61—126
梅林能智手写
17丁　24cm
小松梯天神社蔵本の写し。旧書名「梯天神霊験記」。

6243　小松稲荷五穀寺略系譜　　16.61—127
葆光院祐信著
９丁　24.5cm
稲荷五穀寺（五穀寺稲荷社）は小松泥町にあったもの。本山派山伏として寺号を称したが，明治初期復飾し，菟島神社となった。
旧書名「小松五穀寺稲荷社略系譜」。

6244　〔多太神社相殿五社之代々記録〕　16.61—128
手写
1通　40cm
境内相殿五社の由緒をまとめ，慶安2年(1649)の利常制札写を付したもの。

6245　小松梅林院天満宮宝物之記　16.61—129
巻子1　15cm
宝物目録。梅林院は梯天満宮の社僧の塔頭。

6246　小松八幡社三白鳥大長刀由来書　16.61—130
古曽部宮司著
自筆　明治3年（1870）
巻子1　24cm
社祠方宛。前田光高より寄進された大長刀の由来を述べたもの。

6247　白山比咩神社古文書　16.61—131
手写
仮綴1（58通）・巻子9　28.5cm
白山比咩神社に所蔵する中世古文書を影写したもの。影写時期は明治以後。各文書の端裏に朱筆による標題・年号が付され，刊本「白山比咩神社文献集」の目次の標題と一致する。
①中世古文書を中心とする影写本58通
②荘厳講短冊5通の影写本
③同上　4通の影写本
④同上　1通の影写本
⑤同上　1通の影写本
⑥一味同心起請文の影写本
⑦講衆一同契約起請文の影写本
⑧承仕起請文の影写本
⑨申状の影写本
⑩過失書の影写本。
刊本「白山比咩神社叢書」・「白山比咩神社文献集」・「白山史料集」上巻に収録。

6248　〔白山比咩神社記録〕　16.61—132
2冊　24.5cm・27.5×20cm
白山比咩神社所蔵文書の写し。
①「白山本宮神主職次第」及び「上道氏次第」
②「古文書写」手写
③「綸旨写等」手写
④「白山太神宮遷宮例之旧記」　建部八十男所蔵本の写し。天保15年（1844）手写
⑤「白山比咩神社古文書宝物等目録」明治19年（1886）南部祇知等3人編集の草稿
⑥「国幣小社白山比咩神社紀考証」明治12年（1879）荒地春樹著
⑦「加州白山下十六邑ノ公領並尾添・荒谷ノ二邑ト江州ニ於テ海津・中村二邑ト換ル事」別名「白山下御公領等之覚書」・「白山下御公領地私考」田辺政己著。文化11年（1814）原本成立。手写。
以上のうち①②③⑤⑦は刊本「白山史料集」上巻に収録。
⑧「越前与加賀国白山公事」別名「加州白山覚書」白山所属争論に関する記録。手写
⑨「白山神主宮守等書上申帳」（外題）手写
⑩「加州白山神職三神直所持御判物等之内写」明治3年手写。（「諸方書上御書写并由緒書」のうち）
⑪「御書御印物等覚」明治3年（1870）三神直手写。（「諸方書上御書写并由緒書」のうち）
⑫「洋々為等差定」（外題）手写
⑬白山長吏及び神主中宛て折紙等写，手写
⑭「長吏之来由等」（外題）手写
⑮「長吏神主掛合一件」（外題）手写
⑯「白山由来記」（外題）手写
⑰「由来記」（外題）手写
⑱「白山比咩神社祭神問答」祢宜神保立雄著。明治13年（1880）原本成立。手写
⑲「旧神職伝来之記」（外題）手写
⑳「御社領知御目見御尋之儀答写」（外題）手写
㉑「上棟日時并儀式事」手写。至徳元年の記事。表紙に「是ハ荘厳講録ニ附属スヘキモノ也」と朱注がある
㉒「白山宮庄厳講中記録」手写
㉓「白山荒御前御遷宮御入用帳」（外題）宝暦13年（1763）のものの手写
㉔「白山正遷宮御入用帳」（外題）正徳4年（1714）のものの手写
㉕「白山比咩神社祭式」（外題）編輯方手写
㉖「白山神祠ニ関スル書類」（外題）編輯方手写。横山政和所蔵本の写。
以上のうち㉑㉒は刊本「白山史料集」上巻に収録。

6249　白山記録十七種　　16.61—133

前田家編輯方手写　明治20年（1887）

85丁　24.5cm

別名「白山一件書類」。白山比咩神社所蔵文書の写し。

○「藤原氏系図，一名守部氏系図」

○「泰澄筆之写」

○「白山太神宮服忌令」

◎「岡田豊前守殿より十一月廿一日之日付ニ而始而来書状之写」寛文6年（1666）

◎「寛文六年十一月廿一日岡田豊前守殿へ遣目六之留」寛文6年（1666）12月26日

◎横山外記罷帰刻豊前守殿より御渡候頭書之写

◎「豊前守殿返事之内一所ニ包込参候別紙之写」寛文6年（1666）

◎「横山外記江戸へ持参仕候時分覚書之表豊猛殿御尋之趣并返答申候覚書之写」

◎「石川郡木滑村高之内越前領瀬戸村より出作之義ニ付豊前殿御指図之通為念覚書付，重而豊前殿江横山外記持参懸御目候覚書之写」

◎「能美郡之高辻豊前殿御聞有之度之旨，横山外記方迄豊前殿より被越候手紙之写」

◎「能美郡高辻豊前殿御尋ニ付書付致持参候控」

◎「豊前殿より横山外記ニ仕相渡候頭書之内，尾添村之高書付豊前殿江懸御目候様ニ脇田九兵衛ニ外記申置，外記罷帰候已後豊前殿江右之書付九兵衛懸御目候写」

◎「横山外記罷帰以後正月十八日之日付ニ而，岡田豊前守殿江御書被遣候，豊前殿返事之写」

○「横山外記罷帰候已後正月十八日之日付ニ而豊前殿江前田対馬・奥村因幡方より返書遣候ニ付豊前殿より之返事之写」

◎「二月十三日之日付ニ而対馬・因幡方ヨリ遣候再報到来之由，豊前殿より之返事写」寛文7年（1667）

◎「白山一巻ニ付，公辺江御達方等発端之書付微妙院様より日清ニ御預被遊候分」

◎「白山比咩神社旧記」建部采男所蔵の写し

○「寛永二年白山神主より，由来御尋ニ付申上書」建部瑞雄所蔵の写

○「宝暦十年白山東神主より，御尋ニ付申上書」建部采男所蔵の写。

以上のうち，◎印は刊本「白山史料集」上巻に収録。

6250　白山記録十種　　16.61—134

手写

115丁　23.5cm

白山比咩神社所蔵の文書記録の写し。

◎白山大権現縁起

◎木曽願書写

◎衆徒牒状録

◎真柄太刀筐之記并太刀之考

◎年代記并由緒

◎御垂跡由来

○登白嶽賦

◎建部石見控帳之内

◎女人登白山記并祭歌

○石川郡三宮村志

以上のうち，◎印は刊本「白山史料集」上巻に収録。

6251　白山太神宮服忌令　　16.61—135

下白山惣長吏著

天和元年（1681）　手写

巻子1　28cm

朱書で「難助叢書」の端裏書があり，白山宮社家に伝わる写しに寺社奉行の求めに応じた添書を付けている。

6252　白山之縁起　　16.61—136

孟春手写　天保12年（1841）

5丁　23cm

原題「白山泰澄大師縁起」。元禄12年（1699）の澄恵手写の写。

6253　白山祠文書　　16.61—137

手写

91丁　27cm

○「白山本宮同禅頂御出現次第」白山長吏所蔵の写

○「白山比咩神廟記」津田鳳卿著。享和元年（1801）田中斟清寫手写。白山比咩神社所蔵本の写し

◎「加賀国石川郡三宮古記」白山比咩神社所蔵本の写し

◎「加賀国石川郡三宮古記考」富田景周著。原本文化12年（1815）成立。手写
◎「白山之記」白山比咩神社所蔵本の写し。
以上のうち◎印は刊本「白山史料集」上巻に収録。

6254　白山記考証　16.61—138
森田平次著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
森田氏所蔵の写。著者が白山比咩神社蔵の「白山記」を実地について考証して注釈したもの。第1冊は上巻，第2冊は中・下巻。
刊本「白山比咩神社叢書」第一輯に収録。

6255　白山比咩神社旧記　16.61—139
前田家編輯方手写　明治年間
112丁　23cm
○「白山争論記抜萃」
○「寛延弐年二月由来御改帳」
○「白山比咩神社改正社記」神保祢宜修撰ノ分
○「御社用并公用留帳」慶応2年（1866）神主建部右馬輔の控え。

6256　〔白山比咩神社神主〕三神多宮旧記　16.61—140
手写　明治年間
18丁　23cm
神主三神多宮が白山比咩神社に残る古文書，古記録から書き写したものの写し。祠堂銀米利足渡方達，寺社号所附知行高帳，白山社頭破損所覚等写留など。天明6～7年（1786～87）原本成立。旧書名「三神多宮旧記」。

6257　白山太神宮由来書　16.61—141
白山神主著
手写
2丁　25cm
建部瑞雄旧蔵。寛延2年（1749）原本成立。寛延2年の寺社改めの際の由緒書上げの草稿。

6258　白山比咩神社縁起　16.61—142
10丁　24cm
白山村建部采男旧蔵。

6259　泰澄鏡之巻写　16.61—143
手写
巻子1　28cm
白山比咩神社宮司横山政和旧蔵。養老元年（717）泰澄が白山に登って神霊の出現を見た次第を記したという文書の写し。

6260　大永之神書　16.61—144
手写
巻子1　28cm
巻首欠。白山の神霊の託宣，白山七社，六所王子等の次第を記す。刊本「白山比咩神社文献集」，「白山史料集」上巻に収録。

6261　白山村建部瑞雄より差出候旧書類　16.61—145
手写
巻子1・仮綴1（5通）　17cm・24cm
内容は御巡見，御供米，祈祷，神職跡式，槻木風損関係など。建部瑞雄は白山比咩神社社家。

6262　尾添村ニ有之系図　16.61—146
手写・
1枚　34×95cm　包紙
包紙に朱書で「住辻原村藤原氏系図，守部氏ノ系図ト云ヒ伝フル分」とある。藤原鎌足に発し房前，冬嗣の系を経て途中不明，冬嗣7代の後胤式部太夫兼政の系統で「住辻原村建武兵乱没落」と記され，その後は欠。

6263　廣岡山王社略記　16.61—147
顕證密院祥元著
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
平岡栄三郎所蔵の写。外題「廣岡山王社略縁記」とあり，源平盛衰記の平岡野を前田利常が広岡と改めたとある。安永9年（1780）成立。旧書名「石川郡広岡山王縁起」。

6264　石川郡徳用村八幡宮縁起等　16.61—148
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
○石川郡徳用村八幡宮縁起
○光松山八幡宮御縁起之略
○光松山八幡宮御縁起　同之巻。

6265　佐那武神社古文類聚　　16.61—149
森田平次編
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
大野湊神社に蔵する古文書・記録類を編纂したもの。安政3年（1856）狩谷前枝による序文の写が第1冊に付されている。
①後醍醐天皇之綸旨，国公之御判印御書類，境内御制札，献上目録御副印物
②当社縁記類，御社領由来書，両神主由来書，同略系図
③御神事能興行奉書類，同興行由来書，舞台造営一件，産子桟敷割
④臨時御祈祷奉書類等，6月15日神事一件，江戸御目附衆社参一件，御子様方御社参一件
⑤神社御修理一件，神具御寄附并御造替等，神主行事御条目等，同叙位任官等。

6266　佐那武明神文書写　　16.61—150
手写
巻子1　16cm
○慶長9年（1604）前田利長判物写
○天正14年（1586）正月22日前田利家判物写
利家判物に列記された村名は，刊本「加能古文書」所収「佐那武神社古文類聚」本より下記の10ケ村多い。「黒田村・寺中村・普正寺村・二津寺村・桜田村・中村・袋畠村・笹塚村・新村・鷺森村」。

6267　佐那武社縁起　　16.61—151
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　23.5cm
大野湊神社所蔵の写。
○「大野湊神社縁起」享保14年（1729）神主河崎英通著
○「信田屏風記」享保元年（1716）神主河崎秀憲著
○「笈捜追加之記」享保2年（1717）馬渕友之進高定編
○神主河崎定勝による解説。

6268　加賀国加賀郡小浜神社記　　16.61—152
斎藤政隣編
天保3年（1832）
25丁　24cm
小浜神社は現在河北郡内灘町大根布に鎮座するもの。本社の神号・由緒のほか，神主斎藤氏配下の小社についても記載する。

6269　〔能州気多神社記録集〕　　16.61—153
手写
47丁　24cm
気多神社に所蔵される中世～近世初期の文書の写し，内容は次の通り。
○訴状2通
○縁起
○一宮社務職御年貢米銭帳
○綸旨・条目・禁制・寄進状等
いずれも刊本「気多神社文献集」及び「史料纂集（古文書編）気多神社文書」に収録。

6270　旧気多社宮司桜井家文書　　16.61—154
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
桜井基長所蔵の写。貞享2年（1685）寺社改めのとき提出されたものの写か。
①○「利家様御印物」
○「御状忝奉存候仍一宮云々等七通」
○「関東目案之写」
○「能州一ノ宮大宮司家譲状之写六通」
○一宮惣分目帳案，享禄4年（1531）
○一宮惣分目神役米注文案，大永6年（1526）
○桜井基威注進状，天正6年（1578）
○慶長3年（1598）以来日記，慶長14年（1609）までのもの
○一宮社官名称等，慶安3年（1650）
○近世文書及び中世文書写等
②○「気多社禁制条目」
○気多社縁通起など。
刊本「史料纂集（古文書編）気多神社文書」参照。

6271　気多神社古文書　　16.61—155
前田家編輯方手写　明治16年（1883）
93丁　23.5cm
明治8年（1875）に内務省，石川県に提出した「古文書宝物影本并其目録」の控をもとに，そ

の後追加補訂し石川県へ提出したものの控。

6272 〔羽咋本念寺文書写〕 16.61—156
前田家編輯方手写　明治年間
25丁　24cm
羽咋本念寺は浄土真宗大谷派。

6273 伊須流岐比古神社由緒等三種 16.61—157
明治3年（1870）
合綴1（3冊）　24.5cm
①能登国伊須流岐比古神社由緒
②御先代様御印物等写
③御当家様仁和寺家御往復書翰写。

6274 酒井永光寺文書 16.61—158
手写
57丁　26.5cm
永光寺所蔵の写。附「永光寺文書」。永光寺は羽咋郡酒井町にある曹洞宗の名刹。鎌倉期より江戸初期までの文書の写。刊本「曹洞宗古文書」に大部分収録

6275 酒井永光寺文書 16.61—159
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23cm
岡部氏所蔵の写。
○延享四年永光寺等第一巻
○永光寺詩歌
○永光寺ト酒井村ト山境争論一件留，宝暦10年（1760）。

6276 〔永光寺古文書写〕 16.61—160
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　25cm
飯川氏，義綱，憲祐，義元，統連，信盛等の判物11通の写し。

6277 伝燈餘光 16.61—161
釈日塔編
手写　明治14年（1881）
49丁　23cm
外題「伝燈余録」。宝暦12年（1762）の序あり。羽咋滝谷妙成寺第27代心地院日塔により編纂された原本の上巻を写したもの。金栄山妙成寺略縁記，寒福山経王寺略縁記などを含む。

6278 〔能州府中盥泉寺由緒〕 16.61—162
手写
巻子1　34cm
盥泉寺は七尾市の曹洞宗寺院。天保13年（1842）に，境内地について藩主印物等を添えて報告したもの。

6279 宝塔寺由来 16.61—163
手写
1通　24cm
天保14年（1843）の寺社改めの際，寺社奉行へ提出された由緒書上の写。宝塔寺は鹿島郡藤橋（現七尾市）の曹洞宗寺院。

6280 庸夫俚談 16.61—164
水野三春著
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
二宮村神主船木氏所蔵の写。能登余喜比古神社の縁起を記す。著者は羽咋郡神代の神代神社神主。神道を研究し国学和歌を学ぶ。文久2年（1862）没63才。

6281 鹿島郡向田村鰀目村四社旧記書上申帳 16.61—165
手写　元治元年（1864）
17丁　24.5cm
天明2年（1782）成立。能登鹿島郡向田村（能登島）神主船木伯耆守が加賀藩へ提出したものの写し。

6282 総持寺古文書 16.61—166
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
①○「惣持寺旧記」　筒井成孝所蔵の写し。元和元年（1615）より寛文7年（1667）までの法度掟などの写し
○「惣持寺古文書二冊之内」　星野保五郎所蔵の写し
②「惣持寺古文書二冊之内」。

6283 総持寺三衣一件 16.61—167
手写
4冊　23cm

総持寺と越前永平寺との間に起った三衣問題に関する総持寺側の記録。安政6年（1859）から文久2年（1862）までのもの。

6284　総持寺三衣一件抄録　16.61—168
前田家編輯方手写　明治年間
84丁　24cm
総持寺と越前永平寺との三衣問題に関する記録の抄録。引用文献は次の4点。
諸事要用日記　安政2年（1855）大村肴次郎
穏楽斎随意集　〃　5年（1858）
惣持寺三衣一件　一〜四安政7年（1860）〜文久元年（1861）
公私心覚　文久元年（1861）加藤。

6285　〔能登国鳳至郡〕六合大社旧記　16.61—169
堀河長門編
手写
6丁　24cm
諸橋郷本江村に鎮座する六合大社由緒。

6286　〔鳳至郡金川宮記録〕　16.61—170
手写
42丁　24cm
「金川宮記　全」と貞享元年（1684）編の「鎭河宮書物」とを収む。金川宮は鳳至郡道下にあり。
○「金川宮記」　金川宮の縁起。天保2年（1831），吉田茂喬の跋と師田祐吉の序が附されている
○「鎭河宮書物」　金川宮の支配をめぐる別当寺宝泉寺と社人四柳信濃守の相論に関する文書を編集したもの。

6287　〔重蔵神社記録〕　16.61—171
輪島市河井町編
明治5年（1872）
80丁　28×20cm
戸籍帳に届けた「重蔵社」と明細帳に届けた「鳳至比古神社」の称号についての争論の裁決を求めるため七尾県へ提出したもの。
○「鳳至比古神社号争論旧録」第1号，第2号
○「重蔵神社年中行事略記」。

6288　須須神社古文書　16.61—172
前田家編輯方手写　明治年間
79丁　23cm
須須神社所蔵文書の写し。須須神社は珠洲市寺家町鎮座。

6289　安居寺古文書并旧記写　16.61—173
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23.5cm
○「安居寺古文書写」天文5年（1536）の最勝寺寺領安堵状を含む慶長16年（1611）より明和8年（1771）までの古文書と銘文の写
○「弥勒山安居寺旧記写」明治4年（1871）写
○「天明五年本堂仏具廻等御修覆被仰付候控書」過去の修覆についての旧記控を寺社奉行所へ書上げたもの。
安居寺は，富山県東砺波郡福野町安居にあり真言宗。

6290　瑞泉寺記録　16.61—174
手写
87丁　23cm
越中井波瑞泉寺所蔵の写し。
○瑞泉寺由来記
○瑞泉寺略縁起
○瑞泉寺代々の系図
○賢心御物語
○誠心院殿御入院の砌御本山より寺院役人同行等へ被仰渡の事
○加越闘諍記写
○賢心作意書。

6291　〔越中国砺波郡高瀬神社明細等〕　16.61—175
藤井幸麻呂著
手写　明治18年（1885）
18丁　24cm
著者は高瀬神社祠官。高瀬神社は明治6年(1873)県社に指定されていたが，あらためて社格を国弊社に格上げしようとして，由緒の考証等を挙げて富山県に歎願したもの。
○高瀬神社明細○同神社考○同神社考追加○同神社考附録○同神社々格願○同神社見取絵図。

6292 〔高岡山瑞龍閣記等〕 16.61—176
富田景周著
自筆　寛政11年（1799）・享和元年（1801）
18丁・絵図2枚　28cm・82×136cm
63×122cm
①「高岡山瑞龍閣記」越中高岡瑞龍寺の沿革と境内の景観を記したもの。寛政11年（1799）に成立したが，享和元年（1801）に瑞龍寺活潔の求めにより「瑞龍公伝略」を加えた。瑞龍寺は越中高岡の曹洞宗寺院で，前田利長の菩提寺。
②高崗城并瑞龍寺絵図
③高岡街并客館図。

6293 越中国高岡山瑞龍閣記 16.61—177
富田景周著
寛政11年（1799）
15丁　26.5cm
高岡瑞龍寺建立の沿革と境内の景観を記したもの。付録として享和元年（1801）に記した「二世瑞龍公伝略」あり。

6294 瑞龍寺関係文書抜書 16.61—178
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　25cm
諸記録類より高岡瑞龍寺関係の記事を集成したもの。

6295 〔高岡瑞龍寺文書之取調〕 16.61—179
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　25cm
瑞龍寺（曹洞宗）の創建伝説についての調査報告。

6296 〔越中氷見上日寺由緒留書之写〕 16.61—180
1通　25cm
富田権六郎旧蔵。上日寺は天台宗。
原題「上日寺往古ヨリ伝来候留書之写」。

6297 〔射水郡勝興寺明細帳〕 16.61—181
手写
合綴1（3冊）　24cm
山谷氏所蔵の写。
①射水郡之内 古国府 勝興寺 明細帳，天明6年（1786）
②同上，山谷雄斎手写　天保11年（1840）
③勝興寺光昌院云々。

6298 上新川郡最勝寺宝物并蜷川家由来書 16.61—182
小鍛治秀道著
自筆
3丁　24cm
明治初期のもの。最勝寺は現在富山市蜷川町にある曹洞宗寺院。

6299 〔越中国境町宮々由来につき書上〕 16.61—183
正徳元年（1711）
巻子1　24cm
越中砺波郡境町の寺社の由来について関所奉行横山七郎大夫が，肝煎や護国寺に命じて書上げさせた文書を継いだもの。
旧書名「越中護国寺由来書」。

6300 芳春寺記録 16.61—184
手写　大正5年（1916）
30丁　24cm
越前国高瀬村宝円寺下寺芳春寺由来など。

6301 曹沢寺由来之覚 16.61—185
僧雪聞（曹沢寺住職）著
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　33cm
寺社奉行宛の由緒書上げ。曹沢寺は近江国今津村の曹洞宗寺院。今津村は文禄4年（1595）以来前田家の領地で，利家夫人芳春院より曹沢寺に茶湯料米が寄進されていた。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。
旧書名「曹沢寺縁起」。

6302 曹沢寺由来之覚等 16.61—186
僧雪聞著
自筆　元禄16年（1703）
巻子1　32cm
①僧雪聞書状
②曹沢寺由来之覚
③曹沢寺文書目録
④曹沢寺文書写。
以上，寺社奉行宛に提出した由緒書上げ。
旧書名「曹沢寺雪聞書状等」。

6303　竹生嶋花王院由来書外　　16.61—187
元禄16年（1703）
巻子1　31cm
竹生嶋花王院は近江国真言宗で加賀藩の祈祷所。藩主の書状についての寺社奉行の問合せに答えた2通の書状を継ぎ，寺社奉行が添紙を付したもの。
旧書名「竹生嶋花王院書状外」。

6304　竹生嶋花王院縁起　　16.61—188
僧祐栄著
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　25.5cm
寺社奉行富田治部左衛門，不破彦三宛由緒書上げ。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6305　法童坊縁起　　16.61—189
僧孝紀編
自筆　貞享3年（1686）
1通　31.5cm
寺社奉行宛て由緒書上げ。法童坊は京都石清水八幡宮の別当社僧で，加賀藩の祈祷所。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6306　紫野芳春院縁起　　16.61—190
芳春院宥峰編
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　31.5cm
寺社奉行宛て由緒書上げ。芳春院は京都大徳寺塔頭の1つで，利家夫人芳春院の建立にかかる。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6307　芳春院振古録　　16.61—191
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23.5cm
京都大徳寺塔中芳春院は延享3年（1746）から翌年にかけて記録類を編集し，振古録として2部作成し加賀藩へ1部納入した。内容は延宝3年（1675），貞享年中，正徳年中，に藩へ提出された位牌などの目録類を編集し，これに延享3～4年（1746～1747）の記事を載せている。

6308　尾州荒子村観音寺由緒書　　16.61—192
文政11年（1828）
17丁　25cm
尾張荒子村観音寺が，加賀藩の菩提寺として取立を願出た時に，観音寺と藩の間に往来した文書の写し。他に「奥村因幡家来覚書」「浄海山観音寺古記録抜粋」を収む。

6309　前田通念寺由緒等　　16.61—193
前田家編輯方手写　明治年間
64丁　23.5cm
○「濃州通念寺由緒帳」
○「前田山通念寺旧記写」
○「前田半三郎旧記」
○「越前国南条郡池田村前田又左衛門由緒」
○「由良播磨守より指越候由緒書」。

6310　熱田神宮御師松岡斎宮太夫由緒　　16.61—194
松岡斎宮太夫著
貞享3年（1686）
巻子1　27cm
尾州熱田松岡斎宮太夫より寺社奉行不破彦三，富田治部左衛門宛。貞享3年（1686）寺社由緒改と一連のもので利家・利長等御書の存否問合せの返答も含む。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6311　伊勢内宮御師堤大夫由緒　　16.61—195
堤太夫盛尹著
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　36cm
御師堤太夫より寺社奉行不破彦三，富田治部左衛門宛。貞享3年（1686）に行なわれた寺社由緒改に関連するもの。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。

6312　〔伊勢御師等指上申御印物写等〕　　16.61—196
手写
巻子1　39cm
伊勢内宮御師堤刑部が目録に添えて藩主の印物など5通の写を継立てて寺社奉行に提出した折紙，及び同御師福井土佐が藩主の印物や寺社奉行からの書状など5通の写を添えて寺社奉行に指出した折紙。原題「伊勢御神領被付候由来書」。元禄12年（1699）頃成立か。
○堤刑部折紙（寺社奉行宛）
○堤刑部覚書

○前田利勝印物写，天正14年（1586）
○前田利光印物写，慶長20年（1615）
○前田利長印物写
○前田利光印物写（折紙）
○岡田長右衛門等連署折紙写，文禄4年(1595)
○福井土佐折紙（寺社奉行宛）
○福井与左衛門書状写（寺社奉行宛）
○不破彦三等連署折紙写
○福井土佐覚書写，貞享3年（1686）
○前田利光印物写，元和3年（1617）
○前田綱紀印物写，寛文4年（1664）。
旧書名「瑞龍院・高徳院様等ヨリ堤源介へ被下候御判物等写并堤刑部・福井土佐紙面」。

6313 〔酬恩庵関係文書一巻〕 16.61—197
巻子1　30cm
酬恩庵は山城国綴喜郡薪村にある臨済宗大徳寺派の古刹で，加賀藩の位牌安置所。
外題に「酬恩庵并江州曽沢寺由来一巻」（端裏貼紙）とあるが内容に曽沢寺関係のものはない。
○酬恩庵宗桂書状（竹田五郎左衛門・伊藤平右衛門宛）
○前田利常酬恩常住料寄進状写（慶安3年）
○酬恩庵宗浚書状（高山藤右衛門・永原忠兵衛宛）
○酬恩庵由来書
○酬恩庵由緒酬恩庵宗浚実印　加賀藩京都屋敷高山藤右衛門，永原忠兵衛宛（元禄6年）
○酬恩庵寄進状調替ニ付横山式部・笹原織部書状写。
旧書名「酬恩庵宗桂書状」。

6314 酬恩庵由来 16.61—198
僧宗琛著
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　32.5cm
酬恩庵宗琛より不破彦三等宛由緒書上。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。
旧書名「酬恩庵縁起」。

6315 〔長床坊縁起〕 16.61—199
圭海著
自筆　貞享3年（1686）
1通　31cm
長床坊は京都愛宕山愛宕神社の僧坊の一つで加賀藩の祈祷所。貞享3年の領国外の寺社改めの際，寺社奉行へ提出された由緒書上。

6316 北野天満宮御宝剣御箱等御図り書 16.61—200
蒔絵師与左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
著者は五十嵐長左衛門門下の蒔絵師。北野天満宮へ納めた刀剣の鞘，箱の仕上げについての記録，代金を記す。藩主前田斉泰が北野天満宮に奉納した宝剣箱の見積書。

6317 天満宮宝剣箱書文字・折紙題誤等写 16.61—201
7枚　11.5×87.5cm
享和2年（1802）及び嘉永5年（1852）奉納の宝剣と箱書等の写。加賀藩主前田治脩と前田斉泰が北野天満宮に奉納した宝剣箱の箱書のひな型。
旧書名「天満宮宝剣絵図等」。

6318 高野山天徳院由来之覚 16.61—202
僧龍賢著
自筆　貞享3年（1686）
巻子1　26cm
寺社奉行不破彦三，富田治部左衛門宛。高野山天徳院は利常夫人が元和8年（1622）逝去した時，その遺骨の一部を高野山に納めて寺としたもの。加賀藩の菩提所。貞年3年（1686）の領国外寺社改めの一環として提出を命じられたもの。刊本「加越能寺社由来」下巻に収録。
旧書名「高野山天徳院縁起」。

6319 高野山天徳院由来等縷記 16.61—203
天徳院代僧花蔵院編
自筆　文化7年（1810）
43丁　27cm
文化7年（1810）加賀藩の求めに応じて提出された由来書。

6320 上野常照院由来・金沢東照宮起立之元由 16.61—204
常照院著

貞享３年（1686）
巻子１　25cm
常照院は，江戸上野の寛永寺内に前田家が寄進建立した天台寺院。金沢東照宮は寛永寺東照宮から金沢城内北ノ丸の地に勧請されたもので，明治維新後城内から尾山町に移転し，尾崎神社と改称した。刊本「加越能寺社由来」下巻に所収。
旧書名「上野常照院由来」。

6321　東叡山常照院由来等　16.61—205
仮綴１（９通）　17～27cm
①「東叡山常照院由来」常照院より不破彦三・富田治部左衛門宛，貞永３年（1686）の由緒書上の写し
②常照院御知行被遣の年号に付一札，正月16日野村勘兵衛・湯原主膳より前田美作守宛
③常照院根元・筋目に付申上添書，正月20日前田美作守
④常照院継目願等及御札方に付伺書，正月９日前田美作守
⑤上野常照院御知行由来に付申上書，正月11日
⑥寺社方由来書指出の義に付一札，正月13日永原左京より前田美作守宛
⑦公方様御参詣日・場所等に付御報書，３月28日
⑧常照院寺領所附之事，「明暦三年十二月増免被下候所附仕立申留之内」と朱書あり
⑨常照院知行所付之事，寛永17年（1640）。
⑥の裏に「東叡山常照院江被下置候知行由来等之儀御尋ニ付寺社奉行より書記指上候紙面并常照院書状并願紙面等九通」と貼紙がある。

僧職・神職

6322　〔羽咋郡神職〕先祖由緒并一類附帳　16.61—206
明治３・６年（1870・73）
23冊　24cm
内題「旧神職由緒帳」。
①一宮気多神社神職調理帳　明治６年（1873）
②東間村手速比咩神社神職酒井良万侶　明治３年（1870）
③矢駄村加茂下上社神職田中政秀　〃
④神代村神代神社神職水野春建　〃
⑤一宮気多神社神職亀山長一郎　〃
⑥一宮気多神社神職亀山久麿　〃
⑦山崎村天神社・河原村神明社神職高崎知教〃
⑧瀬戸町村瀬戸比古社神職瀬戸祐教　〃
⑨笹波村藤掛社神職平田勝伊　〃
⑩八幡村八幡宮・小室村諸岡比古神社・相神村相見神社神職曽原昌貫　〃
⑪散田村天神社神職金山金道　〃
⑫三日町村住吉大明神神職長生佐登臣　〃
⑬大福寺村六所宮神職福山茂麿　〃
⑭直海村瀬戸比古神社神職素都益貞　〃
⑮荻谷村志乎神社神職渡辺正直　〃
⑯大崎村意富志麻社神職岩尾信広　〃
⑰末吉村山王社神職吉井美作　〃
⑱子浦村志乎神社神職志尾数馬　〃
⑲菅原村天満宮神職菅野直人　〃
⑳藤瀬村藤津比古神社神職尾沢清長　〃
㉑百浦村百沼比古神社神主宮谷信一　〃
㉒羽咋村羽咋神社神職宮谷国平　〃
㉓大念寺新村秋葉社神職荻勝信　明治３年。
旧書名「羽咋郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6323　〔鹿島郡石動山社家先祖由来并一類附帳〕　16.61—207
明治３年（1870）
34冊　24cm
石動山の社家や神仏分離に伴い復飾した石動山社僧などが社祠方へ提出した先祖由緒并一類附帳。付箋に旧院坊号を記している。
①石動山「元大善院」柴田馴人
②石動山「元祐定院」児玉東馬
③石動山「元安養院」藤島大武
④石動山「元大徳坊」徳野貢
⑤石動山「元月光坊」柴田加治馬
⑥石動山松岡司馬
⑦石動山金子俊治
⑧石動山「元仏頂院」西尾菊二
⑨石動山「元宝達坊」長崎初弥
⑩石動山「元心王院」竹戸要人
⑪石動山「元乗照院」鈴木辰次
⑫石動山「元普門院」守多門
⑬石動山岡部清記
⑭石動山「元戒定院」渡辺達馬
⑮石動山「元福知院」星野冨久治
⑯石動山「元成福院」岡崎清馬

⑰石動山「元千手院」月見里大治
⑱石動山「元性空坊」広田由記
⑲石動山「元宝池院」宝地幾代治
⑳石動山「元仏蔵坊」岡崎環
㉑石動山「元東林院」林守人
㉒石動山「元道住坊」日出山求馬
㉓石動山「元顕実坊」岡部三奇
㉔石動山清水従五位
㉕石動山「元旧観坊」豊崎青海
㉖石動山「元来迎院」林一学
㉗石動山「元阿弥陀院」大西昇平
㉘石動山「元妙法院」星野平馬
㉙石動山清水従五位（宣平）
㉚石動山「元釈迦院」管神代
㉛大津村八幡宮小柳従五位（正枝）
㉜向田村伊夜比咩神社船木従五位（連吉）
㉝笠師村菅忍比咩神社井田従五位（定城）
㉞矢田村神明両社星沢関野真。
旧書名「鹿島郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6324　〔鹿島郡石動山社家等先祖由諸并一類附帳〕
16.61—208
明治3年（1870）
27冊　24cm
①石動山「元東蔵院」守井関治
②石動山「元重蔵院」児玉重蔵
③石動山「元花王院」岡部司馬
④石動山「元妙高院」高沢笋
⑤石動山「元三蔵坊」広田左膳
⑥石動山「元宝珠院」浅野数馬
⑦石動山「元行住院」渡辺玄策
⑧石動山「元五智院」松岡采男
⑨石動山「元妙蔵院」広瀬達二
⑩石動山「元延命院」西尾知多利
⑪二宮村天日陰日咩神社舟木新従五位（清連）
⑫石動山「元大宝院」岡崎矢貫
⑬石動山「元中央院」岡山関平
⑭石動山「元花蔵院」星野花喜
⑮府中村神明社松尾森馬
⑯宮前村玖麻加夫都阿良加志比古神社清水従五位（享）
⑰小島村愛宕社舟木隆佐久
⑱羽坂村鳥屋比古神社高木従五位（政直）
⑲豊田町村荒石比古神社安田従五位（政恭）
⑳山崎村阿良加志比古神社大畠従五位（義貞）
㉑石動山大森従五位（重老）
㉒田鶴浜村住吉神社大森従五位（証治）
㉓府中村能府地主山王大弁大森従五位（重明）
㉔矢田村天満宮大森従五位（定毫）
㉕庵村伊掛社伊掛耕造
㉖飯川村若宮八幡宮野村新従五位（清胤）
㉗能登部下村能登比咩神社宮田従五位（房光）。
旧書名「鹿島郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6325　〔鳳至郡神職〕先祖由緒并一類附帳　16.61—209
明治3年（1870）
26冊　24cm
①時国村石倉比古神社神職瀬野従五位忠貞
②七海村白山宮神職宮沢越後時宗
③明千寺村五社宮神職杉山勇丸
④平野村八幡宮・平野社神職大森伊賀時賢
⑤東村石瀬比古神社神職大滝伊波登貞清
⑥沖波村神目伊豆岐比古神社神職四柳杢之介
⑦鹿島村鹿島宮神職東四柳従五位政信
⑧甲村加夫刀比古神職大橋従五位久盛
⑨七海村白山宮神職宮沢筑後時貞
⑩前波村神目伊豆岐比古神社神職堀川山城秀近
⑪市ノ坂村八幡宮神職細川和泉宗久
⑫三田村神明宮神職中川伊勢真澄
⑬山田村八幡宮神職堀内和泉定業
⑭皆月村日吉社神職番場備前政継
⑮穴水大町村辺津比咩神社神職関越後政尚
⑯鵜川村天満宮神職梅田豊後連鰭
⑰中居村神杉伊豆牟比咩神社神職神杉尾張茂穂
⑱別所谷村神明社神職引持龍男
⑲仁行村本江村入合神杉伊豆牟比咩神社神職山崎従五位時宗
⑳房田村白山宮森駿河征則
㉑門前村櫛比諸岡神社神職四柳栄男
㉒大野村五社宮神職水上高蔵
㉓輪島町重蔵神社神職能門従五位重連
㉔輪島鳳至町神職浅井清之亟則定
㉕道下町石瀬彦神社神職四柳従五位吉岬
㉖別所谷村八幡社神職帯壁伊勢清忠。
旧書名「鳳至郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6326　〔鳳至郡神職〕先祖由緒并一類附帳　16.61—210
明治3年（1870）

9冊　24.5cm
①別所谷村神明社引持弓之亟一矢
②鹿波村八幡社神職森川伊勢政冨
③宇出津町酒垂宮神職加藤従五位常彦
④穴水川崎村美麻奈比古神社神職四柳三河秀定
⑤里村住吉宮神職中川里見直則
⑥谷内村榊原北代比古神社六社大明神神職鷲嶽出羽定俊
⑦中居南村奥津比咩神社神職四柳遠江頼次
⑧宇出津白山社神職棚木従五位雅枝
⑨大沢村諍浦神社神職宮崎従五位千行。
旧書名「鳳至郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6327　〔珠洲郡神職〕先祖由緒并一類附帳　16.61—211
明治3年（1870）
11冊　24.5cm
①三崎村須々神社猿女鈴雄
②三崎村須々神社高山勝見
③真脇村高倉神社高原従五位
④広国村加志波良比古神社橘従五位
⑤松波村神明社松本大肥隆明
⑥経念村古麻志比古神社青木助之充
⑦寺社村気多社水島石見
⑧鹿野村天満宮森井長門
⑨南方村柳田社桜井従五位
⑩正院村桜井従五位
⑪飯田村春日社葛原従五位。
旧書名「珠洲郡寺社先祖由緒并一類付帳」。

6328　〔珠洲郡長橋村亀山神職〕先祖由緒并一類附帳　16.61—212
亀山則一著
明治3年（1870）
9丁　24cm

6329　弐拾参ケ寺後住帳　16.61—213
手写
315丁　24cm
加越能三州の触頭23ケ寺が取りついでいる触下寺院の後住届伺書。寛文3年（1663）より安永9年（1780）までのもの。

6330　〔再後住旧記・後見後住旧記等〕　16.61—214
手写
2冊　24cm
触下の寺社の跡職相続に関する記録。文政7年（1824）改の分。

6331　後住願一件　16.61—215
手写
307丁　23.5cm
文政7年（1824）より廃藩まで。各宗派寺院及び神主・山伏で触頭及び寺社領を与えられているものの跡職相続に関する記録。

6332　神主跡職願帳　16.61—216
手写
232丁　23.5cm
寛文4年（1664）～文政13年（1830）の神職相続願を寺社奉行所で集録書写したもの。

6333　〔社家継目ならびに社号等願書控〕　16.61—217
273丁　23.5cm
文政8年（1825）から慶応3年（1867）のもの。神主職継目，官位昇進，社号等の件につき，寺社奉行より京都への取次を鈴鹿氏に依頼した文書を集めたもの。取次人鈴鹿氏からの返事を朱書している。
表題及び旧書名「寺社御貸米日印帳」。

6334　〔神主職願・御許状写〕　16.61—218
上田蔵多等編
手写
合綴1（3冊）　24.5cm
上田蔵多は当時金沢犀川天満宮神主で，加越能三州の触頭神職。
①神祇官神主職御許容状御請黙名連印公用方江指出控（12丁）
②神祇官願書留控加州能州越中等五拾五通，明治元年（1868）（17丁）
③三州復飾神職分神祇官御許状写，明治元年（1868）（28丁）。

6335　復飾山伏社職復帰願之儀神祇官え添翰留　16.61—219
明治元年（1868）
30丁　24cm
復飾人55人分（加賀31人，能登7人，越中17

人)。

6336　神佛混淆調理方留帳　16.61—220
明治2年（1869）
2冊　24cm
神仏分離の実施に伴う僧侶・修験の復飾，神仏習合の廃止に対する申し立てなどに関する文書。明治元年（1868）10月より翌2年（1869）10月までのもの。

6337　〔民政寮宛伺願書綴〕　16.61—221
明治2年（1869）
29丁　24cm
○「亀山久麿朝廷江御礼献上方一件」
○「天野道之輔同役願一件」
○「東末寺御七昼夜繰上願一件」
○「敷波村本泉寺地中看司一件」
○「石動山等初穂米集方一件」。
旧書名「東末寺御七昼夜繰上願一件等」。

6338　本化別頭佛祖統紀抄　16.61—222
前田家編輯方編
明治年間
23丁　24cm
加越能3ヶ国日蓮宗にゆかりの僧侶の伝記を抄出したもの。刊本「日蓮宗企書」に収録。

6339　蓮心寺住持手前不届之条々　16.61—223
手写
巻子1　30cm
蓮心寺は金沢並木町にあった日蓮宗寺院。延宝3年（1675）以来滝谷妙成寺日俊と抗争し，延宝5年（1677）藩の裁断によって住持追放，寺の破却を命じられた。

6340　滝谷妙成寺隠居日俊手前不届之条々　16.61—224
1通　30cm
日俊は妙成寺18代住持。妙成寺を檀那寺とする藩士家族の葬儀の問題で金沢並木町蓮心寺と争い，両者とも処分。本文書は延宝3年（1675）から同5年（1677）の間に成立した蓮心寺住職妙源院の訴状か。

6341　天徳院雄道和尚被及大病御医者被下并遷化取捌一件　16.61—225
富田貞直（外記）編
天明7年（1787）
16丁　13×20.5cm
富田権六郎旧蔵。天徳院14代府貫雄道の遷化に関する天徳院と寺社奉行所の往復文書。

6342　〔宝円寺大牛和尚法系調理書〕　16.61—226
富田景煥著
手写
3丁　24cm
富田権六郎旧蔵。宝円寺住持を継ぐ予定の一統大牛和尚の法系についての文政3年（1820）天徳院詰取火消富田景煥らの報告書の控。
旧書名「宝円寺後席大牛和尚法系ニ付調理報告書」。

6343　御墓坊渡辺道清・岩崎裕玄・河合珎斉跡式願一件　16.61—227
89丁　24.5cm
金沢小立野天徳院内にある第4代藩主墓所の墓守僧の相続願を集めたもの。天保11年（1840）～明治2年（1869）までのもの。

6344　香林寺天苗一件　16.61—228
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　23.5cm
香林寺は金沢泉野の曹洞宗寺院。住僧天苗の女犯破戒事件についての記録。

6345　〔卯辰全性寺思玄院口上書写〕　16.61—229
思玄院編
手写
巻子1　16cm
富田権六郎旧蔵。全性寺は金沢市東山2丁目の日蓮宗寺院。

6346　白山長吏同神主中跡職等帳　16.61—230
手写
110丁　24cm
白山宮の長吏と神主職の跡職の相続等に関する寺社方の関係文書の写し。天和3年（1683）から安永5年（1776）までのうち，貞享2年（16

85）から元禄4年（1691）までの分と元禄8年（1695）9月から宝永元年（1704）までの分が欠落している。刊本「白山史料集」上巻に収録。

6347　石動山衆徒中後住帳　　16.61—231
手写
255丁　24cm
石動山の院坊や触頭波着寺から藩寺社奉行への後住願と，寺社奉行より藩老中への御達状などの控え。寛文4年（1664）から安永9年(1780)のもの。

6348　関佐次馬由緒　　16.61—232
手写
23丁　24cm
凪至郡穴水町大町の辺津姫神社の神主家の由緒書。明治14～15年（1881～82）頃のものか。

6349　〔黒島村名願寺了伝僉議一巻〕　　16.61—233
巻子2　18.5cm
名願寺は当時加賀藩預地であった黒島村（現在凪至郡門前町）の真宗大谷派寺院。黒島村永法寺の養子に迎えられようとした了伝についての詮議について。寛延から宝暦初(1748～1752頃)までのもの。①の紙背に村井主膳長堅，本多安房守政行，大音喜六郎，奥村左京隆振，長九郎左衛門善連など重臣から同じく家老前田大炊孝昌，西尾隼人克明宛の，藩主病気快癒についての書状がある。
②は，前田対馬守ほか8名から前田勘解由，西尾隼人宛。

6350　総持寺五院紫衣之事　　16.61—234
宝円寺編
自筆
巻子1　18cm
総持寺の紫衣着用についての寺社奉行からの問合わせに，触頭宝円寺が答えた文書2通。

6351　〔惣持寺住番ニ付調書〕　　16.61—235
芳春院凪山編
自筆　元禄12年（1699）
巻子1　28cm
総持寺五院の代々の住番僧について元禄8年（1695）より元禄12年（1699）までの分を寺社奉行に報告したもの。芳春院は五院の一つ妙高庵の塔頭。

6352　〔惣持寺輪番等口上書〕　　16.61—236
昌泉寺編
自筆
巻子1　17.5cm
寺社奉行伊藤内膳の質問について塔頭の1つ昌泉寺が答えた口上書。

6353　〔惣持寺五院現住之次第〕　　16.61—237
松巌寺編
1通　16cm
総持寺の五院が幕府及び藩への年頭礼を輪番制によって勤めていることの口上書。

6354　〔総持寺寺役ニ付覚書〕　　16.61—238
1通　17cm
総持寺寺役を勤める五院の由来について述べたもの。

6355　勝興寺後住御内意ニ付書状　　16.61—239
延享2年（1745）
1通　17cm　包紙
樋口次郎右衛門より野呂要人宛。11代治脩が幼時に越中古国府勝興寺住持に定った（延享3年4月）件に関するものか。樋口次郎右衛門兼僻は御用部屋御小将頭。
旧書名「勝興寺後住ニ付書翰」。

6356　勝興寺証文　　16.61—240
手写
10丁　23cm
越中古国府勝興寺（浄土真宗東方）の住職常栄の死去に伴う与息長丸の剃髪に関する文書。

6357　光昌院使僧名附　　16.61—241
高岡正厳寺編
1通　15cm
使僧を勤めた浄土真宗西方の寺院7ケ寺の名簿。

6358 常照院亮潤書状 16.61—242
常照院亮潤著
自筆
1通 37cm
前田美作守宛，12月13日付。日光御門主より常照院住職任命を受けたについての書状。

6359 僧官条目 16.61—243
油小路隆真著
今枝直方手写 宝永2年（1705）
4丁 27cm
僧の官位，諸宗の僧位に付き23ケ条にまとめたもの。

6360 能化職覚書 16.61—244
5丁 23cm
中川典克旧蔵。能化職は，浄土真宗本願寺派に設けられた教学の職。代々の能化職についた僧侶の功績についての覚書。
旧書名「覚書」。

教　義

6361 永原左京書翰 16.61—245
手写 正徳2年（1712）
1通 17cm
真言宗新義派御尋ニ付調査報告。青木与右衛門宛。永原左京は寺社奉行。

6362 二十二箇条濫觴記 16.61—246
中川顕忠著
手写 文化元年（1804）
28丁 24cm
中川典克旧蔵。一向宗において，宝暦年中越前国で十却秘事の曲法門を説くものがあり，その詮義に関する記事。

6363 社寺御奉行所御尋等覚書 16.61—247
勝興寺編
手写
8丁 24.5cm
「文化二年十一月越中古国府勝興寺関東寺社御奉行脇坂中務太輔殿江御呼出宗旨安心之趣御詮議之砌此覚書勝興寺家司原田逸進本郷御屋敷江持参」と朱書あり。
旧書名「社寺御奉行所御尋等八種」。

6364 御内達趣意書 16.61—248
手写 文化3年（1806）
18丁 24cm
浄土真宗本願寺派における異安心をめぐる論争（三業惑乱）の問題で，越中における古義派と新義派の対立抗争の顚末について，古義派に属する善巧寺が記録したもの。この件に関して寺社奉行所へ提出された文書の控（「御役所へ指上候控」）が次号にある。

6365 御役所へ指上候控 16.61—249
手写
26丁 23.5cm
中川典克旧蔵。浄土真宗本願寺における三業惑乱に関して，寺社奉行所へ提出された報告の控と思われる。

6366 与力寺一統法義縮りについて覚 16.61—250
1丁 12×18cm
中川典克旧蔵。浄土真宗本願寺派の異安心問題について越中勝興寺より内達を受けた寺社奉行の覚書。

6367 相承安心正義御役所へ指上候控 16.61—251
手写
4丁 23cm
中川典克旧蔵。浄土真宗における安心正義（異安心問題）についての注釈。

6368 〔正巌寺邪儀ニ付〕口上之覚 16.61—252
手写
6丁 24cm
中川典克旧蔵。公事場 寺社奉行 宛。延宝2年（1674）原本成立。浄土真宗の異安心問題についての口上書の写し。

6369 改派旧記・院林村常願寺改派一件 16.61—253
手写
295丁 24cm
文政7年（1824）改の分で，享保8年（1723）より以降，慶応2年（1866）までの追加あり。

加賀藩領内の浄土真宗寺院における転派（大谷派から本願寺派又は本願寺派から大谷派）に関する記録。後半に越中砺波郡院林村常願寺の転派に対する井波瑞泉寺（東方）の異儀をめぐって，触頭勝興寺（西方），西本願寺役僧，寺社奉行，瑞泉寺，常願寺の間で交された文書を集めた記録を収める。
旧書名「改派旧記」。

6370　宗旨寺替之儀ニ付被仰出留　16.61—254
手写
19丁　12×18cm
中川典克旧蔵。宗旨寺替の件に関する忘備録。安永4年（1775）寺社奉行に就任した中川八郎右衛門寄忠のものと思われる。

6371　永平寺祖規再興願書等写　16.61—255
永平寺等編
手写
10丁　12×17.5cm
富田権六郎旧蔵。
○祖規再興願書，寛政9年（1797）7月
○御公文，享和元年（1801）
○御宣示，享和3年（1803）。
旧書名「祖規再興願書等写」。

6372　永平寺玄透禅師寄加州大乗寺書　16.61—256
寛政11年（1799）
11丁　12×18cm
原題「永平寺玄透禅師因事寄加州大乗寺書」。
富田権六郎旧蔵。永平寺50代玄透より大乗寺住持愚禅和尚に寄せた書。

6373　寺院御答書等　16.61—257
4通　24cm
①十三間町妙源寺僧大玄之儀御尋ニ付答書並専光寺添書
②鹿島郡土川村忍性寺法話指留ニ付請書並長福寺添書，弘化2年（1845）
③土川村忍性寺法話内講仕ニ付答書並長福寺添書，嘉永7年（1854）
④岩峅寺衆徒中より高円称念寺宝物弘通ニ付請書。

仏事・神事

6374　御祈禱御札等旧記外　16.61—258
手写
732丁　24cm
○御祈祷御札等旧記，宝永4年（1707）～慶応4年（1868）の間の藩主の祈祷の記録
○御弓初等御日取旧記，天明5年（1785）～慶応4年（1868）の間の藩主の子弟の弓初入輿などの際の日取，方角等の占いの記録
○墨一件，元文4年（1739），寺中佐那武社に墨箱を寄附した際の関係文書の写。

6375　自他国寺庵宝物并法談願旧記　16.61—259
手写
535丁　24cm
加越能の領内及び他国にある藩の菩提所，外護所，祈祷所などの寺庵による宝物公開及び法会・再建等の願についての元禄8年（1695）より慶応4年（1868）までの記録。

6376　開帳旧記・宝物弘通旧記　16.61—260
手写
524丁　24.5cm
享保14年（1729）以降の加越能三国の寺社の開帳，宝物，仏事神事などの記録。慶応元年（1865）までの追加あり。

6377　寺社家開帳等并臨時之神事願　16.61—261
手写
310丁　23.5cm
○平寺開帳
○山伏頭開帳願
○三七日開帳願
○□□□開帳之部
○年忌開扉之部
○臨時祭礼等之部
○天満宮等年忌
○北野天満宮九百年忌
○開帳中等故障之部
○平寺開帳日延付札物
○平神主臨時之神事願
○頭神主臨時之神事願
○年忌臨時之神事并慶賀神事

○田井天満宮年忌神事
○平神主臨時之神事日延付札。

6378 〔祭礼旧記等〕 16.61—262
手写
669丁 24cm
文政７年（1824）改の分で，享保15年（1730）以降幕末までの記録。
○祭礼旧記
○神主慎中祭礼旧記
○御遠慮中祭礼旧記
○同仏事旧記
○踊狂言等旧記
○産子争論。

6379 加賀睿日山少彦名命廟碑 16.61—263
２丁 24cm
寛政12年（1800）成立した碑の銘文の写。

6380 〔東照宮二百回忌御法会ニ付神護寺門前等往来指留達〕 16.61—264
１通 15.5cm
中川典克旧蔵。文化12年（1815）東照宮（徳川家康）二百回忌を金沢神護寺で執行した時の通行規制達。

6381 法生会講式・隋意会并法幢・法事会地願等一件
手写 16.61—265
117丁 24.5cm
文政７年（1824）原本成立。曹洞宗触頭天徳院及宝円寺より寺社奉行へ提出された文書を編集したもの。

6382 〔卯辰山招魂社〕祭文 16.61—266
６丁 24cm
卯辰山招魂社における鎮魂の祭典に用いられた祭文。
旧書名「卯辰山天満宮祭文」。

6383 菅生石部神社御願神事抄 16.61—267
前田家編輯方手写 明治年間
２丁 24cm
いわゆる「竹割り祭り」の由来について記したもの。

6384 白山太神宮奉加帳写 16.61—268
手写
10通 28cm
天正14年（1586）～文久２年（1862）の間の白山比咩神社に対する前田家代々の奉加帳の写し。
①天正14年（1586）利家
②年代不明 利家
③年代不明 利長
④慶長11年（1606）利長
⑤同年 女房
⑥慶長18年（1613）玉泉院など
⑦慶長20年（1615）利光
⑧寛永20年（1643）利光 光高
⑨寛文元年（1661）綱利
⑩文久２年（1862）斉泰。

6385 白山衆徒牒状録 16.61—269
森田平次手写 嘉永元年（1848）
24丁 24cm
小倉屋太右衛門旧蔵。白山宮諸坊で荘厳講執行の際に衆徒を招集した牒状の写で，康永３年９月12日～文和３年12月24日勧進の46通。白山宮荘厳講中記録の料紙の紙背に用いられていたのを森田平次が解冊書写したもの。別名「荘厳講所廻状」。刊本「白山比咩神社文献集」及び「白山史料集」上巻に収録。

6386 〔観音寺中祭礼ニ付申渡等留〕 16.61—270
手写
323丁 24.5cm
石川郡寺中村の長谷観音祭礼（４月１日・２日）と寺中佐那武明神の祭礼及び能興行（４月15日）についての藩からの申渡文書を集めたもの。奉行・横目・警固足軽の派遣に関する連絡文書が多い。

6387 〔石動山知識廻之儀ニ付云々〕 16.61—271
手写 天明４年（1784）
12丁 24cm
原題「石動山知識廻之儀ニ付御算用場より相渡り候紙面等之写」
享保15年（1730）宝暦３年（1753）天明４年（1784）の記録。末尾に越中二上山養老寺知識

廻の関係文書（天明４年）を載せる。

6388　〔羽咋遠津姫社〕勧進録　　16.61—272
手写
5丁　24cm
長浦界兵衛旧蔵。嘉永７年（1854）及び安政５年（1858）の航海安全祈祷書の写し。

6389　喜多志神事考　　16.61—273
森田平次著
手写
合綴１（２冊）　24cm
①原題「木多師神事考」。羽咋郡神代神社の「喜多志神事」について，製塩と神事との記録をたどりながら考証したもの。神代神社神主水野三春が序文を書いている。
②「能登神代神社順考祭奠式跋」。

6390　宇賀祭之考　　16.61—274
源三春著
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　23.5cm
水野春建所蔵の写。能登国において11月晦日に稲荷社でおこなわれる宇賀祭と宇賀神についての考察。

6391　井波瑞泉寺太子講一件　　16.61—275
手写
110丁　24.5cm
天保10年（1839）より安政７年（1860）までの瑞泉寺太子講再興に関する寺社奉行宛記録。

6392　入院法語等　　16.61—276
前田家編輯方編
明治年間
37丁　23.5cm
末尾に「武州路桂香院鐘銘」を載せる。
旧書名「高岡山瑞龍禅寺入院開堂法語等」

6393　〔高岡称念寺願書〕　　16.61—277
称念寺編
自筆　天保10年（1839）
巻子１　25cm
称念寺は越中高岡の浄土真宗本願寺派。寺社奉行所へ立山宝物弘通方について願い出たもの。

6394　松原神社祝詞　　16.61—278
巻子１　19.5cm
松原神社は，越前気比神宮の末社。

6395　三宝院聖護院御門主御入峰一件　　16.61—279
手写
52丁　25cm
内題「三宝院御門主文化元年御入峰一件聖護院御門主文化三年御入峰一件」。三宝院門主及び聖護院門主か和州大峯山に入峯修業に付き加賀藩領内の当山派及び本山派山伏に通牒願等一件留。

6396　〔天龍寺住持書翰〕　　16.61—280
天保７年（1836）
１通　17.5cm　包紙
包紙「天保七年五月十日昼九ツ時御渡，天龍寺様御親翰」とあり。埋葬の儀等につき。

6397　御仏殿等口上書　　16.61—281
理性院編
１通　17.5cm　包紙
寺社奉行所宛。江戸の将軍家代々の廟所仏殿についての報告。

6398　靖国神社五十年祭一件　　16.61—282
手写
4丁　23cm
1863年禁門の変に討死した旧加賀藩，長州，土佐，久留米，鳥取，福岡藩等の志士500名の忠霊祭執行のため参同者呼びかけと入場券配布についての趣意書。

堂　舎　・　境　内

6399　〔御添印帳之内ヨリ抜出之部〕　　16.61—283
手写　文政７年（1824）・嘉永４年（1851）
２冊　24.5cm
明和３年（1766）から嘉永４年（1851）に至る寺社奉行と作事所，御勝手所，算用場，会所などとの交換文書。各寺社より提出された建造物，什宝物類の修覆願，人足賃銭の支払願など

の写を添えて寺社奉行が，各役所へ取り次いだ文書と，支出された金銭の請取書を集めたもの。

6400　寺社奉行留記　16.61—284
手写
506丁　24.5cm
寺社の作事費用に関する書類の写をまとめたもの。寛政2年（1790）より文久2年（1862）までのもの。

6401　加州寺社御普請所　16.61—285
手写　天保4年（1833）
26丁　24.5cm
白山宮，寺中社，黒津船小浜神社，伝灯寺，長楽寺の修理に関する記録。

6402　御宮絵図　16.61—286
片岡知周（三大夫）著
絵図1枚　40×28cm
金沢城内北の丸の地に造営された東照宮の図。金沢東照宮は寛永20年（1643）江戸上野の寛永寺内の東照宮から勧請され遷座が執行された。片岡三大夫知周は延享3年（1746）外作事奉行に任命され，宝暦4年（1754）没。

6403　御宮之図　16.61—287
絵図1枚　25.5×36.5cm
金沢城内東照宮の図。

6404　御宮御参詣伺公所図　16.61—288
絵図1枚　36×24cm
中川典克旧蔵。本社と拝殿を別に記し御供所が付属しているが，金沢城内の東照宮かと思われる。

6405　神護寺絵図　16.61—289
片岡知周（助左衛門）著
絵図1枚　28×39.5cm
片岡助左衛門知周は，文化9年（1812）より文政7年（1824）まで御使番を勤めた。

6406　〔宝円寺由緒〕口演書　16.61—290
宝円寺編
5丁　24cm
天徳院の霊徳殿を宝円寺内に移築するための費用を藩に願い出たもの。下司堂の記載があり年代は宝暦9年（1759）以前と思われる。

6407　宝円寺絵図　16.61—291
富田外記手写　文化12年（1815）
絵図1枚　72×195.5cm　袋入
富田権六郎旧蔵。11代藩主治脩の法要に際し急ぎ書写した建物の間取図。

6408　如来寺絵図　16.61—292
富田外記著
文政7年（1824）
絵図1枚　44.5×55.5cm
藩主前田斉泰の入国後，初参詣の際作成された建物間取図。

6409　如来寺絵図　16.61—293
前田貞事著
手写　文政13年（1830）
絵図1枚　50×56cm
前田貞醇旧蔵。文政7年(1824)斉泰初参詣図。

6410　如来寺境内絵図　16.61—294
明治6年（1873）
絵図1枚　彩色　40×41cm
太政官布告の上地命令により作成されたもの。上地の部分は薄紅色。

6411　天徳院御造営一件　16.61—295
前田家編輯方手写　明治年間
107丁　23cm
○明和6年（1769）「御普請諸職人等仕拂記」，同年の6～7月の分と8月の分の2種を含む
○文政元年（1818）「御霊堂御再建諸記」。

6412　〔天徳院開山堂普請方に付調理書〕　16.61—296
手写
13丁　25cm
天徳院開山堂再建につき同格の他の寺院へ開山堂普請方法（自普請か否か）を問合せたもの。文政7年（1824）原本成立。
表題・旧書名「宝円寺・天徳院・瑞龍寺・玉泉

寺開山堂一件」

6413　天徳院絵図　　16.61—297
絵図4枚　彩色　91×150cm
天徳院は金沢小立野，曹洞宗。前田家菩提所。
①改築のための作図と思われ，一部朱書
②法要執行の際の幕張図か（71.5×53cm）
③明治6年（1873）頃の上地関係図，境内と墓地以外の持地に薄紅色（56×83cm）
④寺域の繩張図（27.5×38.5cm）。

6414　天徳院境内絵図　　16.61—298
明治6年（1873）
絵図1枚　彩色　55×117.5cm
太政官布告の上地命令に従って作成されたもの。境内と墓地以外の持地が上地とされ，薄紅色で彩色されている。

宝円寺
6415　~~天徳院~~絵図　　16.61—299
絵図1枚　79×163cm
藩主の法要執行の際の部屋割等を見取図に朱書したもの。

6416　〔泉野寺町妙立寺門附替一件綴〕　　16.61—300
慶応3年（1867）
6通　16.5～24cm
妙立寺は日蓮宗，妙成寺触下。門の修繕に関する文書。
◎門の付替え工事と地子地借用の件に関する文書4通
○普請奉行宛寺社奉行津田玄蕃書状
○前田弾蕃宛山崎縫殿書状
○妙成寺の添書を付した妙立寺の願書
○門付替計画図
◎門口の付替後も従前の門を通用口として使用することを願い出た文書2通
○普請奉行宛寺社奉行津田玄蕃書状
○触頭妙成寺の添書を付した妙立寺の願状。
旧書名「泉野寺町妙立寺願書等」。

6417　経王寺境内絵図　　16.61—301
手写　明治6年（1873）
絵図1枚　彩色　40×45.5cm
経王寺は金沢市小立野，日蓮宗。

6418　桃雲寺絵図　　16.61—302
絵図3枚　彩色　72×49cm
桃雲寺は金沢野田の曹洞宗寺院で，前田家菩提所の1つ。
①建物間取図，法要の際の幕張を朱書
②及び③境内区分略絵図，太政官布告の上地命令に基づき作成されたもの。境内地と墓地以外が上地とされ，薄紅色（明治7年・27.5×39cm・27.5×39.5cm）。

6419　桃雲寺山絵図　　16.61—303
明治7年（1874）
絵図1枚　彩色　40×56cm
旧藩の寄附地を示したもので，田，畑，山，新・旧埋葬地が彩色で区分される。

6420　〔社頭の図〕　　16.61—304
絵図1枚　彩色　27.5×117.5cm
卯辰神社（天満宮）か，豊国神社のもの。
旧書名「卯辰山招魂社絵図」

6421　卯辰山招魂所実測図　　16.61—305
絵図1枚　83×56cm
卯辰山招魂所（招魂社）は石川護国神社の前身で，明治元年（1868）創建され，明治3年（1870）卯辰神社の下に石碑等が建立された。

6422　卯辰山招魂社図　　16.61—306
写真1枚　14×20cm
招魂社は明治元年（1868）奥羽北越戦争の戦没藩兵を祀るため創建。本図は同3年に建立された本殿の絵図を写真複製したもの。

6423　大乗寺并東光院絵図　　16.61—307
安政2年（1855）
絵図2枚　94×37cm・48×37cm
①「大乗寺絵図」前田貞醇旧蔵。参詣路を朱書
②「安政二年九月十九日筑前守様東光院江御立寄御用絵図」東光院は大乗寺の塔頭。
旧書名「東光院絵図」。

6424　高徳院瑞龍院石龕并墓図　　16.61—308
絵図2枚　58×74cm

高徳院（前田利家）と瑞龍院（前田利長）の墓石宝篋印塔とその石龕を写生したもの。
①石龕図
②墓石図。

6425　下白山本社近辺略図　16.61—309
絵図1枚　45×59cm
下白山本社は現在の白山比咩神社。本社・拝殿のほか本地堂・釣鐘堂・不動堂・禅師堂などが見える。

6426　白山比咩神社并摂末社明細図書　16.61—310
宮司愛発春樹著
明治14年（1881）
2冊・絵図26枚　彩色　27.5cm・81×77cm
神社明細帳作成にあわせて県へ提出されたもの。
①目録・附録　2丁
②明細図書　44丁　27cm
③白山比咩神社甲図
④白山比咩神社乙図（54×112cm）
⑤同奥宮白山嶺上図（54.5×78cm）
⑥同摂社金剣神社甲図（54.5×78cm）
⑦同摂社金剣神社乙図（54.5×79cm）
⑧同摂社笥笠中宮神社甲図（40×55cm）
⑨同摂社笥笠中宮神社乙図（39×55cm）
⑩同摂社佐羅早松神社甲図（40×55cm）
⑪同摂社佐羅早松神社乙図（39×55cm）
⑫同摂社岩本神社甲図（39×54.5cm）
⑬同摂社岩本社神乙図（39×54.5cm）
⑭同摂社白山別宮神社甲図（39.5×55cm）
⑮同摂社白山別宮神社乙図（39×55cm）
⑯同末社火御子神社甲図（39×55cm）
⑰同末社火御子神社乙図（39×55cm）
⑱同末社加宝神社甲図（39×55cm）
⑲同末社加宝神社乙図（39.5×55cm）
⑳同末社八幡社甲図（39×55cm）
㉑同末社八幡社乙図（38×54cm）
㉒同末社住吉神社甲図（39×55cm）
㉓同末社和佐谷神社甲図（39×55cm）
㉔同末社和佐谷神社乙図（39×55cm）
㉕同末社弓原神社甲図（38×54cm）
㉖同末社弓原神社乙図（38×54cm）
㉗同末社志津原神社甲図（39×55cm）
㉘同末社志津原神社乙図（39.5×55cm）。

6427　白山奥宮社地ノ図　16.61—311
明治19年（1886）
絵図1枚　55×98cm
市ノ瀬口から山頂に至る境内地図。未完成であるためか，尾添口からの参道の記載がない。

6428　河北郡薬師村本興寺絵図　16.61—312
絵図2枚　36.5×50.5cm・24×52cm
本興寺は日蓮宗寺院で，現在金沢市薬師町。寺社奉行の巡検の際作成されたものと思われ，朱書により説明が加えられている。
①薬師本興寺図
②薬師村本興寺5月18日御出御用図。

6429　御葺替遷宮旧記　16.61—313
手写
14丁　24.5cm
表紙に「寛政元年ヨリ文政六年迄文政七年改之」とあり。能州一宮，石動山天平寺，能州三崎高座宮，卯辰八幡社の遷宮及び修覆に必要な経費等について，寺社奉行所が算用場・御勝手方等へ提出した文書を集めたもの。

6430　磐衝別命御墓所［確定願一件］　16.61—314
手写
22丁　24cm
明治12年～15年（1879～1882）川崎和三郎所蔵の写。羽咋市羽咋神社所在の小丘を磐衝別命の墓所として確定の申告をしたが，実地検分の結果却下されたもの。
旧書名「磐衝別命御墓所一件」。

6431　惣持寺鎮守図　16.61—315
絵図1枚　彩色　70×80cm
前田貞醇旧蔵。本社・拝殿を中心に別当屋敷及び御供田等を記す。

6432　［高座宮・金分宮遷宮修覆御入用物帳］　16.61—316
高勝寺・三崎大宮司編
手写　文久2年（1862）
2冊　24cm

須々神社の高座・金分二社の修覆について寺社奉行所へ提出された報告書。
①高座宮御本地堂御修覆物御入用物帳，文久２年（1862）
②高座宮并金分宮下遷宮奉願上候ニ付御神輿等御入用之品々書上申帳，文久２年（1862）。

6433　瑞龍寺之図　16.61—317
絵図１枚　55×72cm
瑞龍寺は越中高岡の曹洞宗寺院。伽藍及び各塔頭の間取り図を含む全境内図。

6434　大岩山不動堂材木帳　16.61—318
棟梁八右衛門・三郎次郎著
承応２年（1653）
49丁　22.5cm
八右衛門は金沢，三郎次郎は富山の大工。越中新川郡大岩山不動堂の本社・拝殿・廊下を建立した際の材木帳。

6435　大岩山不動堂入用帳　16.61—319
永井左門・堀田三郎右衛門共著
自筆　承応２・３年（1653·54）
75丁　23cm
大工より提出された「大岩山不動堂材木帳」に基づいて作成されたもの。新算用場宛。
○「大岩山不動堂御作事入用銀請払算用帳」
○「新川郡大岩山不動堂御建立被為成諸事入用之帳」。

6436　芦峅寺絵図　16.61—320
絵図６枚　55.5×77.5cm
立山中宮姥堂芦峅寺のすべての建造物を記した絵図。

6437　〔高野山天徳院〕口達書　16.61—321
天徳院代僧花蔵院編
手写
20丁　24.5cm
文化４年（1807）原本成立。安永３年（1774）に焼失した坊舎の再建願。

6438　紫野芳春院寺中之図　16.61—322
絵図１枚　78×108cm
京都紫野大徳寺内芳春院敷地屋敷配置図。万治元年（1658）か。芳春院は前田家菩提寺。

6439　紫野芳春院様御脇堂御再建諸職人図り書留　16.61—323
手写
40丁　24cm
原本成立。文化12年（1815）。京都大徳寺塔中の１つ芳春院の脇堂再建建についての工事見積もり書を編集したもの。

6440　酬恩庵歎願書附化縁簿　16.61—324
酬恩庵住職　田辺宗晋等著
手写
20丁　24cm
酬恩庵は京都府綴喜郡薪村臨済宗で前田家外護所。前田利嗣御家令，宮内卿徳大寺実則宛等写留。
○堂宇営膳之儀ニ付懇願書，明治19年（1886）
○同庵由緒書
○前田家御歴代御牌面書
○酬恩庵境内略図
○堂宇営繕之儀ニ付歎願書２通明治17年(1884)
明治16年（1883）
○修繕方法書
○酬恩庵修善ニ付化縁簿。

6441　上野御宮之裏通并御霊屋絵図　16.61—325
絵図２枚　28×40.5cm
片岡助左衛門（知周）旧蔵。上野御宮とは江戸上野の東叡山寛永寺のこと。
○上野御宮之裏通絵図，寛延３年（1750）御参詣之節，御供数等之義諸事定終図
○上野御霊屋絵図。

6442　上野御宮裏通ノ絵図　16.61—326
中村正体著
絵図１枚　29×36.5cm
寛延３年（1750）参詣の経路図。

6443　上野御廟絵図　16.61—327
高畠厚定手写　寛政12年（1800）
絵図５枚　彩色　75×80.5cm
①上野御廟絵図

②上野御供所図，高畠定辟旧蔵。寛政12年写（67×63cm）
③上野御廟等絵図（50×37cm）
④上野図，畠定辟旧蔵　「田辺氏ヨリ借用写，菅原厚定所持」とあり（39×50cm）
⑤上野図，横山勇太郎旧蔵（51×60cm）。

6444　上野御霊屋絵図　16.61—328
中村正体著
自筆
絵図1枚　37×22cm
参詣の経路図。

6445　紅葉山御供絵図　16.61—329
絵図1枚　彩色　28×40cm
江戸城内紅葉山の御宮（東照宮），御霊屋および供の控所等を描く。

6446　紅葉山之図　16.61—330
高畠定辟著
手写
絵図1枚　24×36cm
高畠定辟旧蔵。江戸城内の東照宮，御霊屋等を描く。

6447　御廟伝通院絵図　16.61—331
手写　天保2年（1831）
絵図1枚　36×50cm
高畠定辟旧蔵。宝暦より文政年間の御法事，御参詣時の註記を付す。伝通院は江戸の前田家廟所。
旧書名「伝通院御廟所絵図」。

6448　伝通院御廟所〔絵図〕　16.61—332
絵図1枚　25×37cm

6449　増上寺御仏殿惣御門并鷹之御門絵図　16.61—333
大工黒田甚七・大西平左衛門手写
元禄7年（1694）
絵図2枚　36×41cm
起絵図。増上寺は江戸芝にあり。
①惣御門起絵図
②鷹之御門起絵図。

6450　〔増上寺等諸社寺之図〕　16.61—334
絵図5枚　彩色　24×36cm
①山王絵図
②上野御宮絵図，寛延3年（1750）参詣の経路を記す（37×48cm）
③増上寺絵図，享保16年（1731）参詣の経路図（48×47cm）
④上野御宮絵図（37×48cm）
⑤増上寺絵図（36×48cm）。

6451　増上寺御廟所等之絵図　16.61—335
絵図1枚　106×64cm
各霊堂の位置図。参詣道筋を朱書。

6452　〔江戸山王并増上寺等絵図〕　16.61—336
手写　文久3年（1863）
絵図9枚　彩色　袋入　39×53.5cm
大浦信行旧蔵
①山王社御先代御下乗并御供残之図
②増上寺御下乗等之図（28×40cm）
③増上寺御仏殿桂昌院様御仏殿江茂御参詣被遊内通御道筋之図，享保16年（1731）7月14日（39×53.5cm）
④上野寛永寺境内之図（53.5×58cm）
⑤伝通院絵図，享保16年（1731）7月14日御参詣之節（39×54cm）
⑥江戸城大手之絵図（39×54cm）
⑦同西丸下并横梗口下馬等之絵図（39×80.5cm）
⑧同西丸大手御鎚等落シケ所弘化四年五月十五日建替等承合取定メ絵図出来置之図（28×40cm）
⑨老中外様門前御箱先御供先立之図（28×39.5cm）。

6453　日光・増上寺・上野・聖堂御宝蔵絵図　16.61—337
手写　元禄6年（1693）
巻子1　23cm
端裏に「日光増上寺上野聖堂御宝蔵御蔵元禄六年八月九日御大工安田八郎右衛門大西平右衛門手筋を以絵図才覚写之」とあり。
○日光御仏殿御宝蔵
○増上寺権現様御宮御蔵
○増上寺台徳院様御仏殿御蔵

○上野権現様御宮御蔵
○上野大猷院様御仏殿御蔵
○上野厳有院様御仏殿御宝蔵
○同御蔵
○聖堂御蔵。

6454　東叡山之図　16.61—338
手写
絵図2枚　彩色　27.5×40cm・38×55cm
いずれも上野東叡山寛永寺の図
①東叡山之図，「高田氏ヨリ借用写之，菅原厚定所持」とあり
②上野之図，田辺直慥手写。

6455　東叡山御霊屋之図　16.61—339
絵図3枚　29.5×30cm
高畠定辟旧蔵。
①東叡山御宮裏口之図，寛延3年（1750）参詣の経路図
②東叡山十日二十日御霊屋裏口図，寛延3年（1750）参詣の経路図（24×25.5cm）
③上野御霊屋絵図，文化2年(1805)参詣の経路図。高畠手写，弘化4年(1847)（28×41cm)。

6456　広徳寺惣絵図　16.61—340
手写　文政2年（1819）
絵図1枚　110×112cm
作事方所蔵の写。広徳寺は臨済宗大徳寺派で江戸上野（現在東京都台東区東上野）に所在。前田家菩提所。

6457　玉井勘解由書翰　16.61—341
玉井勘解由著
1通　17cm
中川典克旧蔵。広徳寺客殿の作事に関するもの。玉井勘解由貞宮は文政7年（1824）より同11年（1828）まで寺社奉行。

6458　広徳寺所々一式絵図　16.61—342
慶応3年（1867）
絵図7枚　95×108cm　袋入
①広徳寺及び周辺全図
②同客殿，書院等図（55×63cm）
③同客殿，書院台所等図（54×80.5cm）
④同客殿，書院等図（64×75.5cm）
⑤広徳寺庫裡絵図（53×54cm）
⑥下水埋設図（27×38.5cm）
⑦御霊屋立面図（68×87cm)。

6459　清泰院殿御拝領地絵図　16.61—343
御作事所編
手写
絵図2枚　38×28cm・40×28cm　包紙
拝領は正保2年（1645）頃。付箋に息男桂香院（光高の子万菊丸）早世の時，歎きのあまり清泰院（4代光高夫人，家光の養女）が大猷院（徳川家光）に願って境内地を拝領し，桂香院の法号を寺号とした一宇を建立したとあり，その境内分間図。下谷広徳寺の隣地。文政6・7年の付札あり。

6460　〔下谷桂香院絵図〕　16.61—344
絵図6枚　64×55cm
前田貞醇旧蔵。
①桂香院御作事絵図
②桂香院絵図（28×40cm）
③桂香院略絵図（28×40cm）
④下谷桂香院建坪御絵図（26×45cm）
⑤御結納之節大書院一（41×28cm）
⑥桂香院絵図，（天保3年　64×74cm)。

6461　下谷桂香院門番所修復願絵図　16.61—345
天保5年（1834）
絵図1枚　33.5×47.5cm　袋入
桂香院から本郷御屋敷用人中宛。安永元年（1772）類焼した門番所の再建願に付した絵図。

6462　桂香院類焼前絵図　16.61—346
天保5年（1834）
絵図1枚　彩色　80.5×80cm

6463　桂香院地面調理絵図等　16.61—347
慶応3年（1867）
4通・絵図8枚　15cm・28×21cm　袋入
○桂香院地図調理一件坪数などを書きあげた文書
○桂香院諸絵図土地の見取図など。

6464　桂香院地所絵図　16.61—348
絵図1枚　130.5×128.5cm
桂香院は江戸下谷にあり。

6465　長元寺絵図　16.61—349
慶応3年（1867）
絵図5枚　66×78cm　袋入
①長元寺平面図
②長元寺平面図（49×53cm）
③長元寺平面図（45×53cm）
④長元寺御廟所図（27×38cm）
⑤長元寺御廟所図（25×26cm）。

6466　長元寺絵図　16.61—350
絵図1枚　25×35cm
横山勇太郎旧蔵。

6467　〔法輪寺下賜金願〕　16.61—351
手写　明治20年（1887）
2丁　24cm
法輪寺は，山城国葛野郡上山田村にあり真言宗で利家崇信の寺。寺の再建費・維持費について下賜金を前田家へ願い出た歎願書。
旧書名「法輪寺へ下賜金之義ニ付歎願書」。

寺　社　領

6468　加越能三州寺社方記　16.61—352
手写　延宝3年（1675）
16丁　28×19.5cm
加賀藩の保護を受けていた領内寺社の，寺領と修理に関する記録。

6469　領内寺社拝領屋敷調書　16.61—353
奥村伊予・津田玄蕃著
手写
巻子1　17cm
明暦4年（1658）に屋敷高を村高に加えられた領内寺社についての調査報告。貞享2年(1685)の寺社改めの一環として行なわれた調査と推定できる。14項目について該当する寺社を朱書により列記したもの。

6470　寺社領御判物并御印物帳　16.61—354
竹田五郎左衛門・伊藤平右衛門編
手写
12丁　23cm
原題「御領国寺社方江被附置候寺社領御先代様御判物并御印物等帳」。寺社領を持つ領内寺社の石高と寄進状の目録を書き上げたもの。宝暦13年（1763）成立の写し。
旧書名「寺社領御先代様御判物并御印物帳」。

6471　寺社方御印物写　16.61—355
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　23.5cm
寺社領の知行所附の写を集成したもの。加賀・能登・越中の郡別。

6472　〔御寺領御社領并御祈祷料一件旧記〕　16.61—356
手写　文政年間
306丁　24.5cm
加賀・能登・越中の寺社領の収納，祈祷料，由緒，引免，貸米，神事人夫などの旧記を集めたもの。

6473　加越能三州寺社家惣高并御国寺社領暨御祈祷料　16.61—357
成瀬正敦編
天保7年（1836）
12丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。天保7年（1836）7月寺社奉行に命じられた成瀬正敦（主税）が覚えのために書写したもの。内容は，触頭を務める寺院・社家の目録及び寺社料・祈祷料を藩より与えられた寺社の目録。旧書名「加越能三州寺社家惣高并御国寺社領等」。

6474　寺社御印物等写　16.61—358
前田家編輯方手写　明治年間
73丁　23.5cm
○加越能三ケ国社領寺領被下置候御印等之写
○御寺領高暨寺庵拝領屋敷高相調理書上申帳，天保13年（1842）越中下新川郡のもの
○御寺領高御印写書上申帳，天保13年（1842）越中上新川郡のもの

○寺庵違失之趣御糺方御ケ条抜書，寛政９年（1797）
○寺庵違失之趣被仰渡御請帳，寛政９年(1797)石割組
○新川郡社家歩数等書上帳写，明治２年(1869)
○御社領知収納帳，明治２年（1869）越中国新川郡立山
○雄山神社御神供米社地等書上帳，明治２年（1869)。

6475　諸社寺領等　　16.61—359
手写
10丁　24cm
加賀藩が保護する領内や他国の寺社の領知書き上げ。

6476　〔寺領寺号改帳〕　　16.61—360
手写
12丁　22cm
原題「三箇国寺社方寺領等并御代々御建立被仰付寺号所之改帳」。加越能三州で藩の保護を受けた寺社の寺社領と修築に関する記録。
旧書名「三箇国寺社領并建立修理所控」。

6477　御寺料附御副印帳抜書　　16.61—361
９丁　12×17.5cm
藩領内及び他国において加賀藩より寺社料や祈祷料を与えられている寺社を網羅したもの。

6478　御寺料附御副印帳抜書　　16.61—362
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　25cm
横山政和所蔵の写。

6479　寺料等郷村高書上　　16.61—363
121丁　24cm
内題「加賀国石川郡河北郡，能登国羽咋郡鹿嶋郡凮至郡珠洲郡，越中国砺波郡射水郡婦負郡新川郡，近江国高嶋郡之内寺料等郷村高其外取調帳」。

6480　〔引高引免有之刻足被下寺社領之覚〕　　16.61—364
御知行割所編
17丁　24cm
加賀藩の菩提所，祈祷所，外護所として保護を受けた藩領内及び他国の寺社31件の記録。

6481　御朱印一件〔等〕　　16.61—365
手写
36丁　24.5cm
①御朱印一件，天保８～11年（1837）（1840）寺社領の御朱印改めに関する記録
②雲州僧録出入寺社御奉行所御裁許状写，元禄２年（1689）
③長州海潮寺与亭徳寺等座論寺社御奉行所御裁許状写，延宝５年（1677）
④裁許状写，元禄16年（1703）及び元和６年（1620）
⑤寺社奉行覚書等写。

6482　〔加越能諸寺々領等につき願書〕　　16.61—366
文久２年（1862）～明治３年（1870）
巻子１　24cm
寺領地等に関する９件の文書を継いだもの。
○珠洲郡三崎高勝寺（天台宗）書状，文久２年（1862）高座宮仮殿作事に関する寺社奉行宛礼状
○新川郡寺家村専長寺（真宗大谷派）書状等４通，慶応３年（1867）居屋敷所替について触願勝興寺の添書を付し算用場奉行へ願い出，寺社奉行より重臣宛の書状と人持組頭村井又兵衛の認状を付す
○越中明日山法福寺（真言宗）畑新開願状，明治２年（1869）頭寺宝集寺より民政寮に宛てられたもの
○越中砺波郡八講田村本叡寺（日蓮宗）願状，明治３年（1870），境内薪山の上地について頭寺妙成寺より射水郡治局へ断りを願い出たもの
○珠洲郡築山法住寺（真言宗）願状，明治３年（1870），寺領地の田畠開発について触頭波着寺より民政掛へ願い出たもの
○越中大岩山日石寺（真言宗）願状，明治３年（1870）山林の上地の中止を民政寮へ願い出たもの。
○金沢観音町西源寺（真宗大谷派）願状等，明治３年（1870）火災等による困窮からの救済

を触頭善福寺を通じて市政局へ願い出たもの。市政局の認状を付す

○越中明日村肝煎等書状，明治3年（1870）法福寺による畑新開に差支えなき旨を射水郡御扶持人中を通じて祖税局へ報告したもの

○羽咋郡館開村道興寺（曹洞宗）願状等4通，明治3年（1870）境内未進地の開発について道興寺のほか鹿島郡笠師村大覚寺・羽咋郡堀松村宗泉寺の3ヶ寺が触頭宝円寺・天徳院を通じて郡治局へ願い出，郡治局より祖税局へ聞届の報告を添えたもの。

6483　〔寺領高并社領高村御印高之内外之儀および皆済状相調理書上申帳〕　16.61—367

手写

11丁　24cm

文久2年（1862）原本成立。加賀国能美郡・石川郡，能登国奥郡，越中国砺波郡・射水郡・新川郡の分。

6484　加賀藩領内寺料等郷村高之内山林迄取調帳　16.61—368

金沢藩編

明治初年

45丁　28×20cm

境内地外の山林等の面積，木の本数を調査したもの。加賀・能登・越中及び近江高島郡の45ヶ寺を記載。

6485　〔社領地耕作并御蔵米等願出之件〕　16.61—369

森山喜久麿等著

明治3年（1870）

巻子1　24.5cm

社祠方宛。熊野社（羽咋郡徳田村），小松八幡社，加茂上・下社（羽咋郡矢駄村），菅原天満宮（羽咋郡菅原村），能登一宮社など。旧藩から寄進された社領地停止の布達について，神主たちが耕作の継続を願い出たもの。

6486　旧金沢藩証印物写　16.61—370

手写　明治4年（1871）

7丁　24cm

旧藩より与えられていた朱印地等が，明治4年（1871）廃止され，貢租等納入の状況について吟味が行なわれた際の控え。朱印状の写しについて朱書により報告を加えている。

6487　金沢藩之内社料等郷村高其外取調帳　16.61—371

金沢藩編

手写　明治4年（1871）

44丁　27cm

金沢藩管轄の神社地の収納高について元治元年（1864）頃より6ヶ年平均の現収納高を調査したもの。

6488　〔寺社料之外地子免除之内ニテ私ニ田畑等取開候分之伺帳〕　16.61—372

手写　明治4年（1871）

28丁　24cm

諸郡の里正棟取（扶持人十村）より正租掛へ提出されたものの写し。

6489　〔加賀国寺社旧藩寄附地絵図〕　16.61—373

絵図1冊(14枚)　彩色　28×38.5cm

地租改正に際し境内地や墓地以外の田畑の記載に重点を置いた絵図。

①石川郡野田村地内字桃雲寺山旧藩寄附地絵図

②石川郡野田村地内附桃雲寺旧藩寄附地田畑絵図（金沢市野田町）

③石川郡寺地村大乗寺境内等旧藩寄附地絵図（金沢市長坂町）

④江沼郡弓波村忌波神社境内旧藩寄附地絵図（加賀市弓波町）

⑤江沼郡弓波村忌波神社旧神職吉田稲人邸旧藩寄附地絵図

⑥江沼郡上野村菅原神社旧藩寄附地境内絵図（加賀市上野町）

⑦江沼郡上野村菅原神社旧神職愛野関邸地等旧藩寄附地絵図

⑧江沼郡山代村山代社境内絵図（加賀市山代温泉）

⑨江沼郡山代村山代社旧神職武田繁田地等旧藩寄附地絵図

⑩能美郡小松松任町地方愛宕神社并旧神職愛多地多喜雄邸地等旧藩寄附地絵図（小松市大川町）

⑪能美郡小松三日市町地方日吉神社境内旧藩寄

附地絵図（小松市本折町）
⑫能美郡小松三日市地方日吉神社旧神職橋田政常邸地旧藩寄附地絵図
⑬能美郡上牧村梯神社境内旧藩寄附地絵図（小松市天神町）
⑭能美郡上牧村梯神社旧神職梅林郁太邸地旧藩寄附地絵図。
旧書名「桃雲寺山旧藩寄附絵図等」。

6490 〔本多安房守菩提所大乗寺替地一件〕 16.61—374
手写
26丁　24.5cm
原題「元禄年中安房守依願菩提所大乗寺替地被仰付候趣并文政八年磐松願ニ依而同寺是迄百姓相対請山之分拝領地ニ被　仰付候一件」。元禄5年（1692）頃から起った本多氏の要請による長坂山への大乗寺移転問題の概略とその後の寺地を拝領地化された経過の関係文書を編集したもの。

6491 大聖寺町実性院境内区分略絵図 16.61—375
絵図1枚　彩色　28×64cm
明治4年（1871）の太政官布告の上地命令に従って作成されたもの。実性院の寺領地のうち境内地と墓地を除く山地と畑が上地とされ，上地，境内，墓地の各面積と総面積が記されている。

6492 〔多太神社古曽部神主願書〕 16.61—376
古曽部神主著
自筆　明治3年（1870）
1通　24cm
多太神社は，小松市上本折町。社領地召上，蔵米給付に関して藩庁社祠方へ願い出たもの。

6493 〔小松八幡社社領高相調理書上申帳〕 16.61—377
手写　天保13年（1842）
5丁　24cm
小松八幡（梯天神）社の社領高について，知行所附，打渡状等を引用し，改作奉行所へ報告したもの。
旧書名「能美郡内寺領高相調理書上申帳」。

6494 神社境内上地御払下願絵図 16.61—378
明治6年（1873）
仮綴1（絵図24枚）　27.5×38.5cm
地租改正に伴う神社地等の上地払下げに関する絵図。
①ㇾ比例表
②ㇾ石川郡三宮村白山姫神社地区分略絵図
③ㇾ石川郡白山村元神職居宅地略絵図
~~⑨石川郡白山村元神職三神直居宅地絵図~~
④三宮村元神職三神直居宅地絵図
⑤三宮村元神職三神直居宅地分間略絵図
⑥三宮村地内白山比咩神社々地ノ内山地見取絵図（24×32.5cm）
⑦石川郡白山村元神職邸地絵図
⑧石川郡白山村白山比咩神社旧神職宅地等絵図（27.5×55cm）
⑨石川郡白山村地内元社領御締高絵図（27.5×58.5cm）
⑩石川郡寺中大野湊神社地并河崎沙同常男居宅地共略絵図
⑪石川郡寺中大野湊神社境内絵図
⑫石川郡寺中大野湊神社地等絵図
⑬黒津舟旧地絵図
⑭石川郡五郎島村小浜神社々地并神職斎藤政明宅地等分間略絵図
⑮石川郡五郎嶋小浜神社地并七十六番地所元神職斎藤政明居宅地略絵図
⑯石川郡五郎島村小浜神社并斎藤政明邸地地子免除地絵図
⑰石川郡五郎島小浜神社并斎藤政明邸地地子免除地絵図
⑱石川郡五郎嶋村小浜神社絵図
⑲石川郡五郎嶋小浜神社地并七十六番地所元神職斎藤政明居宅地略絵図
⑳石川郡五郎島村七十六番地所小浜神社境内絵図
㉑石川郡五郎島村七十六番地所小浜神社境内絵図
㉒金沢山之上町三丁目弐拾七番屋敷神田社元神職高井真幸境内区分略絵図（27.5×79.5cm）
㉓金沢山之上町三丁目弐十七番屋敷春日社地并元神職高井真幸居宅地絵図（27.5×77.5cm）
㉔金沢山之上町三丁目弐十七番屋敷春日社地并元神職高井真幸居宅地共略絵図（27.5×77·5

cm)。

6495　頼朝卿・前田利光等御判印物写　16.61—379
十握喬手写　明治9年（1876）
7丁　24cm
第3代藩主利常，倶利加羅明王院，長楽寺宛の社領の所付・安堵状の写。

6496　倶利伽羅村手向神社地十握喬居宅地略絵図　16.61—380
十握喬著
明治7年（1874）
絵図2枚　38.5×34cm・55×39.5cm
寄附地を含む社領全体の見取図と，社地・居宅地周辺の拡大図。

6497　倶利伽羅村手向神社元拝領山分間絵図　16.61—381
明治7年（1874）
絵図1枚　66.5×82cm
旧社領地のうち拝領山付近の拡大図。

6498　〔能登国口郡寺社領石高等〕　16.61—382
天保13年（1842）
5丁　12×35.5cm
寺社領高についての組別の書上帳。朱書で傍点を打ち，判物等の有無を記す。

6499　〔口郡寺庵御印高調理等〕　16.61—383
手写
巻子1　24cm
屋敷地及び田地の御印高調理に対する寺院よりの書上状。天保13年（1842）のもの。
能登部長楽寺（真言宗，現在鹿島郡鹿西町），七尾西念寺・宝憧寺（いずれも浄土宗），酒見村龍護寺（曹洞宗，羽咋郡富来町），菅原村成喜坊・遍照坊（真言宗，羽咋郡志雄町）。
旧書名「口郡寺庵由来等」。

6500　能州寺庵拝領高等調書　16.61—384
巻子1　24cm
未進高等を確認するため，改作奉行が行なった藩主印物等の調査。天保13・14年（1842・43），及び寛延2年（1749）のもの。宗泉寺，成喜坊，遍照坊，妙法寺，西光寺，最勝寺，宕受寺，長令寺，妙観院，養泉寺，改観寺。

6501　社寺へ旧藩寄附地調帳　16.61—385
石川県編
明治8年（1875）
6丁　28×20.5cm
地租改正にあたり，無税地と課税地の見積りを調査報告したもののうち能登国之分。

6502　能登国寺社地子免除地絵図　16.61—386
明治9年（1876）
10冊　28×19cm
地租改正に伴ない，地子免除地について寺社が届け出た絵図を集成したもの。
①能登国第二区小一区鹿島郡小島村の24寺社
②○能登国第三区小二区石動山40社
○能登国第三区小二区鹿島郡所口村の4寺社
○能登国第三区小二区鹿島郡藤橋村宝塔寺
③能登国第三区小二区鹿島郡の井田村・西馬場村・能登部下村・酒井村の5ヶ寺
④○能登国鹿島郡の荻谷・荻島・敫波入会地及び石動山の3社
○羽咋郡滝谷村・一宮寺家村の2社及び鳳至郡鵜島町の2社
○珠洲郡狼煙村・寺家村・森腰・粟津・飯田村・鹿野村・正院村・経念村・黒丸村の8社
○鳳至郡宇出津村・瑞穂村・山田村・中居村の4社と門前村総持寺
⑤羽咋郡敫波村・麦生村・一宮寺家村・菅原村・滝谷村・太田村・羽咋村・白瀬村・飯山村の10ヶ寺・3社
⑥羽咋郡滝谷村妙成寺
⑦羽咋郡滝谷村妙成寺
⑧羽咋郡館開村・堀松村・酒見村・町居村の4ヶ寺
⑨○鳳至郡時国村・門前村・八田村・南村・松波村・鹿野村の7ヶ寺
○珠洲郡真脇村・西方寺村・寺家村・狼煙村の2ヶ寺・3社
⑩鹿島郡中島村・笠師村・吉田村・三引村・伊久留村・田鶴浜村の8ヶ寺。

6503　一宮神事之為鵜田充行状写　16.61—387
手写
2通　36cm
①天正13年（1585）前田利家から気多神社の鵜祭の神事に奉仕するため鵜浦の衛門に与えた田地充行状の写。刊本「加能古文書」に収録
②承応2年（1653）前田利常が，利家の先例にならい鵜浦の右衛門に田地を与えた充行状の写。旧書名「一宮神事鵜田充行状写」。

6504　〔一宮御社領高之内御蔵入等書上申帳〕　16.61—388
桜井友三郎編
自筆　嘉永7年（1854）
5丁　24cm
原題「一宮御社領高之内百姓持高之分寛政八年ヨリ御蔵入ニ被仰付代御所附指引合等書上申帳」。羽咋郡甘田組。

6505　羽咋郡一宮寺家村社領内検地領絵図　16.61—389
絵図1枚　彩色　66×105cm
気多神社の社領高についての内検地の分間図。面積を示す付札が各所につけられている。近世後期のものか。

6506　能登一宮御贄場猟図　16.61—390
絵図1枚　彩色　35×24cm
高畠定辟旧蔵。一ノ宮村及寺家村領内の土地区分図に，海岸部の村猟場と神社の贄猟場を記したもの。

6507　森山熊野社々領ニ付達書　16.61—391
口郡扶持人著
手写
1通　16cm
森山熊野社は羽咋郡徳田村（現羽咋市徳田）で藩政期は真言宗安養寺と称した。内容は明治3年（1870）の社領地停止にあたり，旧社領地の帰属をめぐる問題について，租税局に宛てられた扶持人の達書の写。

6508　森山熊野社差出書類綴　16.61—392
手写
18丁　28×20.5cm
神仏分離に伴ない復飾した羽咋郡徳田村熊野社神主森山喜久磨（元安養寺座主円福院）が旧寺領の配分について衆徒常住院の一乗坊を訴えた明治3年（1870）の訴状の写しと，明治16年（1883）の森山熊野社の明細帳写し。
旧書名「森山泰寛ヨリ差出書類」。

6509　〔永光寺境分間番杭帳〕　16.61—393
手写
5冊　24cm
酒井村永光寺の境内地と，隣接する本江村との地境を示す境塚と番杭の位置・間隔などを逐一書上げたもの。
①「鹿島郡酒井永光寺屋敷囲墓地未進地御取上山境筋并未進地境羽咋郡本江村地崎分間番杭帳」文化元年（1804）
②「鹿島郡酒井村領字奥ケ平御取上山境□同村永光寺未進地境通りおよび円通院屋敷境等羽咋郡本江村地崎分間番杭帳」文化元年(1804)
③「鹿島郡酒井永光寺屋敷囲墓地未進地御取上山境筋分間番杭帳」文化元年（1804）
④⑤鹿島郡酒井永光寺境内除地　文化元年の追加文化4年（1807）2冊。
旧書名「永光寺関係記録」。

6510　口郡霊泉寺・泉龍寺々領之覚書　16.61—394
口郡里正棟取著
巻子1　15.5cm
租税係宛，明治3年（1870）のもの。霊泉寺，泉龍寺はいずれも七尾の曹洞宗寺院。寺領地の租税について申告したもの。

6511　法華宗本行寺等寺地拝領書上帳　16.61—395
天保14年（1843）
7丁　24cm
鹿島郡小島村（現七尾市）の法華宗10ケ寺が屋敷地の未進地となった顛末を報告したもの。
旧書名「本行寺長寿寺等寺地拝領書上帳」。

6512　〔寺社領につき調書〕　16.61—396
矢田組・高田組手代著
2通　15cm
小竹村九兵衛宛。
①鹿島郡矢田組手代書状，府中村泉龍寺，大田

村海門寺（いずれも真宗大谷派）等の年貢未進等について訴えたもの
②高田組手代書状，一青組の寺社領高及び未進高等について訴えたもの。

6513　海門寺々領給付状写　16.61—397
手写
1通　31cm
天正10年（1582）寺領30俵分の給付状の写。
旧書名「海門寺々領付写」。

6514　龍門寺居屋敷寄進状写　16.61—398
手写
1通　24cm
天正13年（1585）前田利家寄進状の写。龍門寺は鹿島郡小島村（現在七尾市）の曹洞宗寺院。

6515　七尾山之寺文書写　16.61—399
手写
2通　12cm
七尾山ノ寺とは鹿島郡小島（現在七尾市）の曹洞宗徳翁寺。
①前田利家居屋敷寄進状写，天正13年（1585）
②前田利光居屋敷諸役免許状写，慶長17年（1612）。

6516　常通寺居屋敷山拝領状写　16.61—400
手写
巻子1　36cm
常通寺は鹿島郡小島に在り，浄土宗。元和9年（1623），算用場奉行奥村源左衛門，寺社奉行篠原織部より住職正誉宛のもの。

6517　総持寺旧記〔等〕　16.61—401
手写
24丁　24cm
①惣持寺旧記，元亨元年（1321）より天文17年（1548）までの土地関係文書の写
②各院持山調理帳写，宝暦7年（1757）_石動山のものか。

6518　公事場裁判状之留　16.61—402
手写
5丁　24cm
時国村岩倉寺と時国村百姓藤右衛・門藤四郎父子との土地争い判決文の控。原本成立は弘化2年（1845）。

6519　〔能州鵜飼妙厳寺寺領一件控〕　16.61—403
手写
巻子1　24.5cm　包紙
妙厳寺扶持高25俵が改作法の際に課税地に扱われた一件。万治2年（1659）の関係文書4通の写を継いだもの。妙厳寺は真宗大谷派寺院。
旧書名「鵜飼妙厳寺書上書控」。

6520　〔須須神社口上書〕　16.61—404
大宮司著
自筆
1通　24cm
寺社奉行宛。神領地内の用水堤普請完成の報告書。

6521　加納村常通寺居屋敷打渡一件　16.61—405
文久元年（1861）
4通　24.5cm
常通寺は，越中射水郡加納村（現在氷見市加納町）の浄土真宗本願寺派。屋敷地の替地にあたり交換された文書。

6522　〔帝龍寺の義御尋に付答書〕　16.61—406
明王院著
自筆　宝永元年（1704）
1通　16cm
明王院触下越中新川郡舟倉村帝龍寺の在所及山王に付答書。明王院より寺社奉行永原左京・伊藤平右衛門宛。帝龍寺由来書付の内。
旧書名「帝龍寺山号ニ付申達書」。

6523　〔領内伊勢神領収納方調理一件〕　16.61—407
手写
巻子1　24cm
原本成立は元禄期ほか。伊勢御師二見大夫が越中砺波郡の神領を毎歳収納しているのにかかわらず，御秡・御札などを上さないことに対して算用場が調査を行なった関係文書を7通継いだもの。
旧書名「伊勢神領ニ付書上書」。

6524　〔竹生嶋花王院宛判物につき調理一件〕　16.61—408
手写
巻子1　16cm
近江竹生嶋花王院に対する寄進米の御印について算用場が近江今津村に問い合わせた文書と，それに対する答書の写し。原本成立は元禄15年（1702）より宝永6年（1709）の間。
旧書名「今津甚四郎書状外」。

6525　八幡法童坊御證文写　16.61—409
法童坊手写
巻子1　40cm
利家・利長・利光等よりの拝領御印，御書等の写書15通。法童坊より寺社奉行伊藤平右衛門・竹田五郎右衛門宛。
旧書名「石清水八幡法童坊由来書」。

寺　社　経　営

6526　祠堂銀古来ノ一件　16.61—410
手写
32丁　24cm
万治3年（1660）～弘化3年（1846）の間の祠堂銀の寄附及び勘定方の文書を編集したもの。宝円寺，天徳院，天神宮，養福院，勝興寺，泉龍寺などの寺社に対する寄附のほか，藩主前田家関係者の回向料調達の場合も見られる。

6527　祠堂銀等元高帳　16.61—411
富田貞行（外記）編
手写　文政7年（1824）
15丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。寺社奉行富田貞行が内々にて各寺院の祠堂銀回転運用を調査した元帳で文政7年（1824）成立。

6528　寺社方門前地願并寺社諸事留　16.61—412
手写
428丁　24cm
門前地における鳥居再建，火除地確保のための門前地町屋の買得，寺屋敷の拡張，溝の付替等，寺社地に隣接する地における作事等に関する詮議の記録。天保2年（1831）より明治3年（1870）までのもの。

6529　神主受領等願添翰留帳　16.61—413
193丁　23.5cm
天保9年（1838）以降明治2年（1869）までの加越能三州の寺社の類焼，焼失，困窮その他に対する貸米と，その返済の記録。

6530　宝円寺勝手仕送一件〔等〕　16.61—414
40丁　24.5cm
○宝円寺勝手仕送一件，文政5年（1822）
○加越能神社帳江戸表江御遣候一件，宝暦11年（1761）
○御落髪等御納一件，安永5年（1776）
○河北郡御門村広勝寺江同人妹引請方一件，寛政10年（1798）～文化13年（1816）
○割場等飛脚一件，寛政7年（1795）
○白山地不足願并倶利迦羅長楽寺落着一件，享保9年（1724）～文化13年（1816）のもの。

6531　松月寺ニ住職仕候霊瑞入牢一件　16.61—415
3丁　13×24cm
富田権六郎旧蔵。松月寺は金沢寺町の曹洞宗寺院。寺院による相対貸付の利足問題から発した事件の顛末を記したもの。

6532　寺社門前町奉行へ引渡方留　16.61—416
64丁　24.5cm
永原左京が寺社奉行の時に寺社門前地が寺社奉行支配から町奉行支配に変更した際の関連文書を集成。

6533　内仏参銭請取　16.61—417
飼田大膳・池尾伊織著
自筆
1通　13cm
申12月付。鉢伏村五右衛門宛。本願寺の請取書。

6534　惣持寺門前之儀ニ付奉願候事　16.61—418
芳春院万喬著
自筆　正徳3年（1713）
巻子1　32.5cm　包紙
総持寺代官星野家旧蔵。総持寺の門前地を郡方支配より寺社方支配へ変更するよう寺社奉行へ提出した願書の控え。

6535 〔総持寺門前諸職人支配方一件〕　16.61—419
芳春院編
明和3年（1766）
24丁　28×20.5cm
総持寺門前の寺領内に居住し耕作する諸職人について，郡方支配と寺社方支配のいずれに帰属すべきものか諸記録を引用して考察を加え，正徳年中の通り，両支配と裁断するよう願い出たもの。
旧書名「能州総持寺内芳春院由緒書」。

6536 澗普請一件歎紙面　16.61—420
専念寺中務編
手写
29丁　24cm
珠洲郡三崎浦の船囲の澗普請について寺家村専念寺が触頭妙厳寺の添書を添えて寺社奉行所に願い出たもの。天保2年（1831）原本成立。

6537 勝興寺〔願書〕　16.61—421
勝興寺家司著
自筆
1通　18cm
門前舟方一件につき，寺社奉行所宛。

6538 南部勧化金之義ニ付奥村伊予守等紙面写　16.61—422
勝手方編
手写
8丁　26cm
宇野富良旧蔵。南部瀧龍松院の勧化金納入についての関係書状の写。内容年代は，宝永元年（1704），正徳6年（1716）。表紙に「御勝手方」の朱印あり。

6539 〔伊勢内宮御師最花銀一件〕　16.61—423
手写
巻子1　16cm
伊勢内宮御師提刑部大夫が，外宮御師福井土佐と最花銀等について差別されている点を申し出た件について算用場との往復文書7通を継いだもの。
旧書名「伊勢内宮御師提刑部大夫之最花銀ニ付書翰」。

特16.62　町　　方

町奉行勤方覚留

6540 〔金沢町奉行旧記〕　16.62—1
12丁　11.5×17.5cm
外題「金沢町奉行」。内題「旧記」。高畠定辟旧蔵。延宝元年（1673）～享保13年（1728）の諸願尋状を収録。

6541 町奉行心得書　16.62—2
14丁　23cm
脇田尚保旧蔵。町奉行の心得について11項の私見を述べたもの。

6542 町奉行手帳　16.62—3
寛政3年（1791）
17丁　12×18.5cm
内題「定式物」。高畠定辟旧蔵。公事場式日初之儀申来ル事等37項にわたる，町奉行土方勘左衛門発給の諸文書覚留。

6543 御親翰留　16.62—4
高畠厚定編
寛政3年（1791）
15丁　12×18cm
高畠辟旧蔵。金沢町奉行に対する町人詮議命令書とそれに対する奉行人の回答を記したもの。高畠厚定は知行700石，寛政3年から同7年に町奉行を勤めた。

6544 町奉行勤方帳　16.62—5
篠原勘左衛門・高畠木工著
38丁　24cm
脇田尚保旧蔵。各種分担任務大概書上。

6545 〔小松町奉行名書帳〕　16.62—6
25丁　12.5×18.5cm
原題「御四代陽広院様御代以来小松町御奉行」。渡部金八郎旧蔵。寛永17年（1640）～慶応元年（1865）に至る小松町奉行名，町下代，安宅町下代，町附足軽小頭等書上帳。旧書名「小松御城番之名書」。

6546 〔小松町下代進書〕 16.62—7
1通 15.5cm
小松城番が前田修理，葛巻十右衛門から前田市正，岡崎内膳へ交替したことについての進書。和田甚丞・山茂弥助より土谷八兵衛，長崎半兵衛宛。

6547 旧記 16.62—8
高畠厚定編
手写
30丁 11.5×16.5cm
高畠定辟旧蔵。内容は，宮腰町散小物成之事，町付 足軽火事羽織町廻 羽織申付候事 など26項目。船手方，大坂登米，浦方，船才許などの項目が多い。厚定は知行700石，天明7年7月27日より宮腰町奉行，その当時の留書か。

6548 〔宮腰町奉行手帳〕 16.62—9
高畠厚定編
37丁 11×17cm
高畠定辟旧蔵。宮腰町奉行所在勤中の役務関係文書の写し（天明～明和年間）。

6549 宮腰町奉行勤方帳 16.62—10
中川外記編
自筆 文政7年（1824）
3丁 24cm
宮腰町奉行の旧来の勤方を調べ上げたもの。中川外記は知行1000石，文政6年（1823）から同11年（1828）に宮腰町奉行を勤めた。

6550 御条目等書上帳 16.62—11
中川外記編
自筆 文政7年（1824）
111丁 23cm
内題「前々被仰出 御条目等 後例可相成品 書上帳」。慶長6年（1601）石川河北浜方地子之事より文政6年（1823）宮腰之者魚振売仕法まで，宮腰町関連の諸法令を収録。

6551 所口町奉行留記 16.62—12
前田家編輯方手写 明治年間
135丁 23cm
文政～弘化年間頃のもの。野村隼人，林源多郎，津田昇，松崎少右衛門，津田修理等所口奉行在役中の留記。

6552 〔所口町奉行上申書綴〕 16.62—13
手写
37通 16cm 包紙
横山隆太旧蔵。異国船手当方，所口町用米，詰米などの文書や，下役人の精勤褒賞願など（他に断簡も含む）。文書の多くは横山義門，高畠善左衛門の署名あり。義門は万延2年～慶応3年，善左衛門は文久4年より所口町奉行を勤めた。
旧書名「所口御詰米并町方等記録」。

6553 〔所口并奥郡関係書類〕 16.62—14
手写
仮綴1（10通） 16cm
○丑12月，横山義門・成田八九郎より家老宛。「御歩清水柳之助義定録ニ被仰付様願書」
○「所口町附 足軽頭 半田源左衛門 他 褒美被下書」
○亥6月，横山義門より前田土佐守他宛。「口郡御蔵所出役方等に付申上書」
○7月「所口詰番の者共御貸小屋の儀願書」
○丑12月，横山義門・成田八九郎より御用番宛。「所口御詰米方并町方御用引越役定番御歩清水柳之助之義定録被仰付様願書」
○2月12日，御算用場より所口御奉行宛。「産物会所指止に付御改の条々書」
○丑5月，島助九郎「珠洲・凧至郡仕法方主附人書上覚」
○丑5月，島助九郎「奥郡借銀之義伺書」
○丑5月「奥郡仕法銀覚」
○「所口諸手合稽古方等書上」。
横山義門は知行800石，万延2年（1861）より慶応3年（1867）に所口町奉行を勤めた。

6554 〔御用向書翰綴〕 16.62—15
仮綴1（14通） 15.5cm
横山義門廻状等書状綴。
○横山義門より高畠善左衛門宛。借用銀，口郡御預地荒地見分の義等につき書状
○横山義門より中村吉三郎宛，忌明に付廻状
○本多幡磨守宛。鵠之地流刑人病気之節医者呼

寄之義ニ付書状
- ○藤野清右衛門より小笹丈左衛門宛。町売米大野醤油直段に付書状
- ○土橋御門当番に付廻状
- ○御用番沢田与三右衛門より土橋御門御番衆宛。筑前守様御着に付上下着用の義達書
- ○玉井藤左衛門より横山義門宛。木滑口留郷在番役に付印鑑可指出通知。
- ○町会所宛。河村八郎右衛門火除町居住届。
- ○横山義門差出。橋爪御門壱番組御番入に付案内廻状
- ○京都御使役・出羽国佐竹右京太夫通行・炭高直のことなど風説書
- ○青山将監京都へ発足，二ノ丸御居間向御土蔵へ賊入之事等風説書
- ○中村吉三郎他より。町廻御組合方角割通知
- ○横山義門他より。同上
- ○三番組町廻方角割。

6555　〔所口町奉行御用書類〕　16.62—16
~~仮綴2(26通)~~　16cm
横山隆太旧蔵。七尾町奉行支配下における町付足軽，町医者，御算用場からの文書，また町奉行から御算用場，年寄衆へ宛てた役務関連文書などを収録。

6556　〔所口町奉行覚書〕　16.62—17
仮綴2(22通)　16cm
七尾町奉行所での役務に関する横山義門関係書状綴。
- ○土方殿勝手向世話方町人忠縄尾弥兵衛任命一件，御算用御用武部貞次郎出府一件等書状
- ○足軽稽古に付異風箇渡し方，居合等稽古に付定書等書状。以上2綴よりなる。

町　方　制　規

6557　町会所御作事会所七尾宮腰御定書写　16.62—18
手写
20丁　25cm
承応，万治，延宝，元禄年間に公布された，金沢・七尾・宮腰での町方関係の定書を集めたもの。

6558　町会所・御作事会所・七尾・宮腰等御定書之写　16.62—19
手写
67丁　11.5×17.5cm
井上如苞旧蔵。前号と同内容の分の他，寄地蔵人による「御定書考索附録」が付され，また正徳年中(1711〜16)の改正部分，及びその後享保7年(1722)までの定を追記している。

6559　〔寺社・山伏・町人等衣類之定〕　16.62—20
巻子1　24.5cm
中川典克旧蔵。丹羽武左衛門ほか34名の連署あり。旧書名「寺社山伏法衣装束定之達書」。

6560　金沢町中御法度之帳　16.62—21
手写
14丁　12×17cm
横山政和旧蔵。町人に対する法度書。万治2・3年(1659・60)，寛文8年(1668)等のものを収録。

6561　金沢町中御法度之帳　16.62—22
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　25cm
杉本弥五郎所蔵の写。前号と同様の法度の外，寛文10年，延宝6年(1678)の法度等を加える。

6562　金沢町方諸法度　16.62—23
手写
21丁　11.5×17.5cm
前田栄次郎旧蔵。寛文8年(1668)7月6日の法令以下，藩政前期の金沢町人の生活規制令15令を収載。いわゆる二日読と言われるもの。

6563　金沢町中法度書等　16.62—24
前田家編輯方手写　明治年間
27丁　23cm
内容は「金沢町中御法度之帳」，「明和七年下博労町々格定書」，「今般御勝手方御省略等之義ニ付云々」，「天保六年町方風俗方等之儀被仰渡ニ付猶又町中心得方之儀申渡候覚書」，「天保十三年今般被仰渡之御触留」，「文久二年公義御改革御触留并富山大聖寺縁組願書留」。

6564　御渡被成御覚書　16.62—25
手写
45丁　20cm
脇田尚保旧蔵。延宝2年(1674)，元禄3年(1690)の覚書として金沢町人の心得（侍への貸銀，町夫の定，町同心料所附など），また町奉行心得を収載。他に町会所に残る3代藩主利常，5代藩主綱紀が金沢町人からの挨拶に対して下した礼状（印書）など83通の写しを収録。

6565　御家中侍町人日用屋候定事等　16.62—26
手写
2丁　24cm
長屋七郎左衛門，里見七左衛門等より本町地子町肝煎宛の町方法度2通を載せる。

6566　毎月二日読　追加　16.62—27
手写　寛政4年(1792)
9丁　11.5×18cm
横山政和旧蔵。町家に対する旧来の毎月二日読みの追加条項を記す。金沢町奉行高畠五郎兵衛，長谷川三右衛門からの申渡書。

6567　町中二日読御定書之内十七ケ条脇書を以慎方等申渡書　16.62—28
手写
5丁　12×17.5cm
横山政和旧蔵。町中二日読のうち，等閑になった17ケ条について，注意すべき点を付札に記す。享和3年，金沢町奉行村木工右衛門，井上井之助からの申渡書。

6568　〔家中・町方風俗等取締触〕　16.62—29
手写
65丁　23cm
原題・旧書名「武家諸法度等」。内容は，文化14年(1817)から安政3年(1856)にわたる家中倹約方や町方風俗方等御触留である。多くは町方へ向けた法規なのでここに収める。巻頭に目次あり。

6569　町方御触写　16.62—30
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23cm
嘉永5・6年(1852・3)両年度分の町方への御触の写し。

6570　〔火事之節定人数配〕　16.62—31
手写
1枚　43×70cm
高畠定辟旧蔵。内容は，金沢城を中心に東西南北に持場を区分し，それぞれの水持の割当て，および火事之節に火事場へ罷出るべき町年寄などの人数を記したもの。

6571　〔能州所口〕後例帳　16.62—32
48丁　23cm
原題「後例帳」。町方，地子方の者他国出の義定，御家中諸給人知行米預置候蔵本御定之定等所口町諸定等を収む。内容年代は寛文より正徳年間。

6572　所口支配向留記　16.62—33
7冊　17.5×12cm
①所口支配向運賃等御定等一件
運賃御定等一件，御領国中宿馬数等一件，御用人馬渡方一件，御定賃銭ニ其所余荷銭共相払通行之人々江人馬渡方等一件，中使一件
②所口支配向旧記用要抜書宗門方等
宗門御改一件，変死人検使方一件，越中境御関所過書一件
③所口町御定書等
④所口町会所出来方等一件
町会所出来方一件，時鐘一件，御算用場内ニ役所相立候一件，能州四郡船奉行被仰付置候ニ付船支配方一件，船往来調方一件，便船切手調方一件
⑤所口支配向御詰米方等御定等一件
御詰米方一件，火消方一件，角場出来方一件，在住被仰付候一件，御郡奉行手合之者借牢一件，町年寄等年頭御礼一件，御入国ニ付町人御礼一件，御家督御入国之節町方江被下方一件，御本復御祝ニ付被下方一件
⑥所口支配向旧記抜書
和倉温泉才許方一件，御入国御祝之節町役人江御能拝見一件，御法事之節氷見屋牛之助拝礼一件

⑦所口町御用宿等御定等一件
御用宿御定等一件，御餌指等止宿方一件，伝馬方御定等一件，御塩方一件。

6573　火消方一件　16.62—34
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　25cm
内容は「故新録」巻八の抄で，所口町の火消方の規定を記し，ついで，享保12年（1727）3月17日と嘉永6年（1853）4月20日の所口火災の時の貸米願・材木拝借願，また類焼につき町役一年御免の件などを記録してある。

町　方　記　録

6574　町会所覚書　16.62—35
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
①利家公御印物等，利常公御印物，松平加賀守様ヨリ保科肥後守様へ之御書状，綱利公ヨリ本多安房守殿へ之御書状，永井伊賀守様へ之御書状，加賀守様ヨリ仙石越前守様へノ御書状，横山左衛門様等ヨリ岡田豊前守様へ之御書状，両新地書算役勤方，天保9年（1838）4月御上使御通ニ付孝子御褒美方書上帳，石川郡森島村并能美郡灯台村之者共ト流木一件ニ付紙面，木津村勘兵衛伯母百三才ニ付素麺経節頂戴一件并談義所村百姓権右衛門母同断，宗門方并寺庵願等但宗門帳調方之事，火事所水之手請取口定，火消中相図之定，金沢町家数并人数高　但安政3年(1856)調，毛利融左衛門蔵宿印紙売出ス一件但印判師平木屋五郎右衛門入牢御宥之事，町方借屋等之家人閉門等之節ハ一類等之内御引取可被成事之先例，闕所道具取捌方之事旧記，山伏送り状，山伏寺証文，送り状等御公事場御定，座頭送り状一件，切支丹之者宅替書付，他役所ヨリ罷出候様申来候而も不罷出事，御門押願，他国他所へ指遣申間敷品々町年寄留帳ニ有之分，寛政9年（1797）寺社奉行ヨリ寺庵方へ被仰渡候ヶ条抜書，浅野川橋掛直之節渡り初之事，犀川浅野川洪水之節請取口人夫出高
②御預ヶ者勤番一件，寛政6年町会所役人給料留帳，御手判申請候小紙，他国者居住願并通切手一件，捨子一巻
③御仕送方吉凶不時入用大図，仕送人貸附帳并入銀書抜，諸事案文留，天保13年寅8月4日町御会所横目所ヨリ当時売捌候品物指出候様申来り云々，附御触書数種。

6575　金沢市中旧記　16.62—36
前田家編輯方編
明治年間
103丁　23.5cm
古案記，町年寄席旧記抜萃，寛文3年卯辰町等地子赦免云々1通，延宝8年馬借一巻御留帳之写，安永元年以降毎年町会所ヨリ書上銀受取申御割符控帳，金沢本町人夫銀等帳，文政10年諸事願書等控，御家中奉公人等定，天保8年若党足軽等縮方之儀今般於公事場相極候触状等覚，安政元年御触留を収録する。

6576　町格　16.62—37
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
町方支配に関する法令等旧例の覚書，及び町人より提出した商売，旅行，相続等の諸願，諸届の旧例，ひな形を収録したもの。第1巻のはじめに，本藩町吏年契，町同心交名を附す。
刊本「藩法集」(4)金沢藩

6577　町方心得　16.62—38
手写
2冊　23cm
金沢町に関するもの。
①町役人名簿
②町人心得方之儀ニ付被仰出之御触（文化13年），町中人別法則箇条書，町中心得方之儀覚（天保6年），町中心得方追加（同年），当町人別法則条書，送状請取帳（嘉永2年），人別送状取遣案文書（安政3年）。

6578　町規秘録　16.62—39
前田家編輯方手写　明治年間
97丁　23cm
家名改願，他国引越願など91項目について，町人より組合頭，肝煎宛願書等のひな形を集成。

6579　諸事留　　16.62—40

前田家編輯方手写　明治年間

71丁　23.5cm

久保あい所蔵の写。主に町方，商売に関する法規類を収む。内容年代は寛文以降，幕末期にいたる。

6580　金沢町方御用留　　16.62—41

前田家編輯方手写　明治年間

95丁　23.5cm

中島氏所蔵の写。内容は天明より天保年間，町人よりの願書・届書の書留が中心で，町人の移動，商売，相続，住宅等に関するものが多い。

6581　両茶屋町一件　　16.62—42

前田家編輯方手写　明治年間

45丁　23cm

額彦四郎所蔵の写。文政３年（1820）より弘化２年（1845）までのもの。文政３年に石坂町と卯辰茶屋町での出合宿許可と，天保２年これを指止められた時の文書を中心に，この間の縮方等を載せる。刊本「芝居と茶屋町」

6582　小松旧記　　16.62—43

前田家編輯方編

明治年間

41冊　23.5cm

①御定と相成候御触之事，町規之事，番所之事，乞食之事，市場記体之事，御率行所御自躰之事，祠堂銀之事

②小物成之事，御参勤并御帰国之事，公儀御凶事之事，茶問屋弐軒＝而年中御役銀指上候事

③難渋人御貸米之事，非常御貸米之事，安宅濶改之事，九十才者御調理之事，尾小屋新土蔵出来等之事，たば粉直売買并本田畑＝作り御停止等之事

④牢屋并牢番之事，御刑法之事，切腹被仰付候事，たもの実油之事，家売買之事，御見廻等献上物之事，御鷹野并御見廻之事，御両家様江町中より御見廻之事，町方御定之事

⑤御調達銀并御返済之事，乱心者之事，鉄砲之事，貧人願之事

⑥道橋之事，久龍橋之事，安宅日末争論并猟師等之事

⑦天秤座并役人之事，銀座之事，御郡懸合之事，御慶事之事，酒造方之事，献上物之事，欠落人并立戻人等之事

⑧公事場御定并借牢之事，十度之中使并於金沢小松宿之事

⑨京都江養子願并他国縁組之事，出火并御切手焼失之事，町附足軽乱心并立替等之事

⑩出来絹等之事，賊一件之事，過書願之事，於他国病死之事

⑪船切手之事，津留之事，升改之事，渡舟之事，諸士通行并松平大和殿通行之節進物等之事，榊原式部太輔殿国替＝付家中通行之節病死等之事

⑫筑前守様小松江御入之事，豆腐御役立等之事，巡見上使等之事，蠟燭目形改并御役銀等之事，諸職人之事

⑬捨子之事，御成番炭汕之事，安宅御蔵番之事，町下代之事

⑭呉座直段之事，喧咄口論之事

⑮銀座彫師誓詞之事，堂上方等通行之事，御法事之事

⑯塩問屋等之事，勘当願等之事，祭礼之事，御年寄衆通行等之事，諸家御使者之事，町規座頭之事

⑰人馬馬之事，馬借并朝鮮御用馬等之事，斃馬之事，拾ひ馬之事

⑱籠舎之事，御高札場番人之事，米屋誓詞之事，御刑罰之事，地謡之事，町年寄之事，肝煎之事，町役人出府雑用之事，御家督被為在寺社江拝領銀等之事

⑲異国船漂着等之部（異国船漂着之節之一件，能州沖異国船漂流一件，隠岐国異国船漂流一件），難船取捌并御船方等之部（安宅町与三次屋平兵衛船朝鮮国江漂流一件，御船遠乗稽古申来一件，湊畑屋市右衛門等船難船一件，安宅水戸先＝而難船一件，安宅船手方御定書等一件，為御登米難船一件，御城米難船一件，越前三国湊より御材木御召寄一件，安宅水戸先＝而難船一件）

⑳倒者并病死人之事

㉑変死之部（自害之事，寄合酒等給打殺事，殞死之事）

㉒遺言之事，医者之事，宿屋之事，奉公人之事

㉓三明野灰御塚之事，町中墓所之事，地子之事并地方之事，日用江戸江御普請御用之事，町夫之事，足軽褒美之事
㉔公義触切支丹之事，宗門改之事，魚屋之事
㉕御宿之事，覗所之事，御能之事，桶屋并桧物師之事，御用菓子之事，干温飩之事
㉖御倹約之事，鞘師之事，御蔵米之事
㉗家数之事，人数食物見図之事，宮寺之事，大工之事，時鐘之事，居住替之事
㉘町会所之事，白山御興之事，寺庵通行之事
㉙小松旧記　二，寛文より天保年間，藩主入町，慶弔等につき覚
㉚小松旧記　ホ，安政より慶応年間，藩主入国，任官等につき覚
㉛小松旧記　ト，綾姫様御引移之部(天明4年)
㉜御城番等掛合之部，御奉行所等之部
㉝大聖寺掛合等之部，町附足軽等之部
㉞小松旧記ヨイ，城代入町の覚，町支配方の覚等
㉟小松旧記　ヘ，小松安宅御定書類写(万治2年～寛文8年)
㊱文政11年御国法御制禁被仰渡等之抜書，安政5年7月於御郡方谷方等申付ニ相成候衆之覚書写并検使取捌一件，酒造等之部
㊲人別取捌等之部，魚問屋等之部
㊳梅林院等祠堂銀一件他43件
㊴小松旧記　ラ，非人・変死人・救人一件等
㊵堂上方通行之部乾
㊶諸家御通行之部，御国目附金沢へ御出被成候部，寺方通行之部。

6583　小松旧記二十六種　　16.62—44
前田家編輯方編
明治年間
13冊　23.5cm
①直姫様御通行之部，御通行等之部，伝馬方等之部，御給人等之部，町年寄之部，御預ヶ屋敷之部，旧記之部
②論所地改手代通行之部，人馬継立等之部，京都中荷持等之部，今江荷物改所等之部，牝馬之部，大聖寺江御引米等之部，天秤座等之部，宿送等之部，旅人病死之部，溺死人之部
③御発駕等之部，御借上米之部，御仕法之部，御調達銀等之部，公儀より御尋等之部，御一門御卒去之部，御入国被下銀等之部
④御触之部，申渡之部，蔵宿等之部
⑤町年寄之部，寺庵方願之部，町医師之部，習字所等之部，御番頭役引等之部
⑥押紙面之部，被仰渡之部，臨時之部，御押書等之部
⑦町方用米等之部，非常御貸米等之部
⑧旧記入交之部，異国船漂着等之部，難船取捌并御船方等之部
⑨渡航海之部，絹道之部，安宅水戸口御普請方之部，渡海船於他国破損之部，海防方之部，株商売之部
⑩他国出等之部，出津入津等之部，米切手等之部，破損船等之部，御詰塩等之部，御領小払等之部
⑪所方産物之部，諸商売株立之部，諸商売方等之部
⑫盗賊取誘等之部，雑之部
⑬揚地道橋等之部，御咎人等之部，非常等之部，御借上金等之部。

6584　小松旧記十種　　16.62—45
前田家編輯方編
明治年間
5冊　23.5cm
小松戸長役場所蔵の写。
①絹判賃等之部，橋場賃銭之部
②金吹直し等之部，諸方御使者之部，為御鷹野被為入候一巻
③遊行上人廻来之部，修験派一件等，善光寺如来一件
④信州善光寺如来云々
⑤虚無僧之部・附盲人等種々，菩願寺ト改名之一巻。

6585　小松遺文　　16.62—46
森田平次（良見）編
自筆　明治20年（1887）
2冊　23.5cm
①小松遺文（上）
微妙公小松在城時代の書状・覚等（寛永～慶安年間）
小松町会所留記抜書（明暦元年～4年）
②小松遺文（下）

寛永６年御年越跡々御吉例之留
寛永19年小松士帳
寛永19年与中年頭之御礼帳（一宮主膳，冨永勘解由左衛門与）
寛永16・17・18年御金山方御帳
慶安弐年之留記
慶安５年能州・珠洲・鳳気至郡惣高村数之寄并見聞仕候在々之様子私存寄書上申御帳（堀彦太夫著）
慶安４年より同５年小松ニ而ききがきの御帳。

6586　関戸覚書　　16.62—47
関戸甚右衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
107丁　23cm
小松町方の記録。
年中行事（寛政９年），馬借銀打除銀入用帳等諸事銀子渡方（文政２年），絹道組合五人等，社倉地面，町会所より被遣候御初尾，町下代山茂弥助等云々，町年寄勤方等，覚書種々，西村六右衛門様等云々を収載。

6587　諸事留帳　　16.62—48
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23.5cm
寛政２年（1790）書写の青木篤太郎所蔵本の写。松任に関する旧記。郡奉行人，町方役人の氏名，租税，諸商売のこと等について記す。

6588　松任町旧記　　16.62—49
前田家編輯方手写　明治年間
105丁　23cm
青木篤太郎所蔵の写。松任町の由来并御用格合等荒増書上申帳之写，松任町役仕ル間数改帳（明暦３年），御役立商売しらへ帳（文化13年）を収む。

6589　松任由来書　　16.62—50
手写　嘉永２年（1849）
20丁　24cm
汲浅諸斎所蔵の写。元禄13年町由来書上，寛文10年松任町御田地惣草高并町中拝領地由来御高御印等を収む。

6590　諸事覚日記　　16.62—51
相河屋次郎兵衛著
手写
33丁　24.5cm
寛文から寛延年間に至る間のもの。御定駄賃之覚，松任町由来，松任若宮八幡宮縁起覚，松任惣草高之覚，松任町人数書上等を収む。

6591　金石町旧記　　16.62—52
前田家編輯方編
明治年間
２冊　23cm
橋長三郎所蔵の写。
①材木船水揚日用賃銀并持拼賃銀書上帳（宝暦11年）
諸商物入津浦口銭取立方被仰渡控（文政元・７年）
御上向書上控帳并要用書（天保10年）
役義被仰付候控帳（天保13年）
②嘉永７年御用留
小物成方御役所へ私存入之義書上候控（嘉永７年）
御冥加金御用金御調達方并救米等指出願書留等（安政５年～）
材木御用留（元治元年）
坂井三郎兵衛神田吉郎右衛門へ被仰渡書写。

6592　七尾町旧記　　16.62—53
前田家編輯方手写　明治年間
78丁　23cm
七尾町戸長役場所蔵の写。内容は，所口町奉行元和元年以降姓名等，為年頭御祝儀自七尾云々，七尾東地子町河うめ出し出来屋敷歩数帳（明暦３年），御人足被仰付云々（寛文５年），人足役ニ付返答書ヲ以申上候云々（寛文５年），元禄享年拾人組高写，長齢寺由来書等，御仕入酒造根元并願書，長谷川等伯系譜，相撲免許状等を収載。

6593　越中国高岡町図之弁　　16.62—54
小川八左衛門（安村）著
手写　明和８年（1771）
36丁　28×20.5cm
高畠眸旧蔵。前田利長が高岡城に移った際の家

臣交名，慶長19年城取りこわしの説話，瑞竜寺の建立，御旅屋の設置，町会所の設置，慶長14年町割之事，家柄町人由緒，他に「城地得失考」，「題臥竜山」を収載。

6594　越中国高岡町図之弁　　16.62—55
小川八左衛門（安村）著
前田家編輯方手写　明治年間
41丁　25cm
前号に同じ。

6595　就御車山御書御印等写并古来より由緒書上申帳　　16.62—56
文化８年（1811）
13丁　24cm
服部氏旧蔵。越中高岡の御車山について，町々の町頭が町会所へ報告したもの。

6596　魚津古今記　　16.62—57
手写
107丁　23cm
天の巻は森田平次が，地の巻は天明８年(1788)本を和田耕蔵敦豪が手写。内容は魚津の歴史。天の巻は古代より始まるが，主に近世の藩支配方の記録。地の巻は「神社仏閣記」・「町名ノ由来之事」の他，町年寄，肝煎，組合頭，十村役等について記す。

6597　〔申渡之覚〕　　16.62—58
１通　17cm
中川典克旧蔵。大横目宛。小津（魚津）町年寄任命についての書状。

町　役　人

6598　町年寄歴名并勤方帳　　16.62—59
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　23cm
慶安４年（1651）より文久２年（1862）の金沢町年寄代々名前，天保３年（1832）散算用聞勤方帳，同９年記録方勤方帳，嘉永５年（1852）町年寄勤方等を収録。

6599　散算用聞役所留帳　　16.62—60
前田家編輯方手写　明治年間
137丁　23cm
森下森八所蔵の写。散算用聞は金沢町会所の役人。内容は散算用聞役所留帳（宝暦11年～文政９年）と散算用聞役処留帳之写（文政９年～天保４年）より成る。大部分は役人の任免・勤方に関するもので，ほかに，役務請書もある。

6600　金沢町肝煎裁許分ケ之図　　16.62—61
絵図１枚　38×19.5cm
岡田棣旧蔵。裁許地域別に，町名と軒数を記したもの。

6601　高岡町年寄役等由来　　16.62—62
11丁　24cm
元和６年（1620）拾人町年寄の名前他，町年寄役勤仕の由緒等について町会所町寄席でまとめたもの。

貢　　租

6602　加越能三州小物成調理　　16.62—63
明治３年（1870）
35丁　24.5cm
小松町，安宅町，湊，本吉町，松任町，金沢町，金石町，今石動町，城端町，高岡町，氷見町，所口町の分。

6603　本町地子町地子銀町役定　　16.62—64
前田家編輯方手写　明治年間
５丁　25cm
横山氏所蔵の写。金沢の本町・地子町の内７ヶ所・地子町からの地子銀高とその内訳，および本町・地子町の内７ヶ所の町名を記す。

6604　本町地子町地子銀町役定　　16.62—65
６丁　12×18cm
前田貞醇旧蔵。金沢本町，地子町よりの地子銀取立と，その支払い内訳を記す。

6605　本町地子町地子銀町役定　　16.62—66
手写
４丁　22cm

金沢本町，地子町での地子銀，町役の内訳けを記し，その懸り高を横目肝煎が書き上げたもの。

6606　地子地判帳　16.62—67
御屋敷方編
230丁　24.5cm
金沢城下各地の上り地，空地を請地した町人，寺庵等からの地子銀上納請書の写し。各請地の面積と地子銀高を記す。内容年代，宝暦9年(1759)～明治3年(1870)。

6607　地子引出来根帳　16.62—68
60冊　24cm
内容年代，寛政12年(1800)から文久3年(1863)。金沢城下の上ケ地，空地の地子算用帳。各年に1冊をもうけ，「出来」，「地子引」，「一作」の3項目に分け，請地面積，請人，地子銀を記している。

6608　地子銀勘定御算用場書替写　16.62—69
手写　文化2年(1805)
164丁　23.5cm
寛政3年(1791)から慶応3年(1867)まで，各年の家中並びに寺庵の金沢散小物成と地子銀の取立高，更に遅滞地子銀の年賦上納銀高等を記す。

6609　地子銀方触紙面留帳　16.62—70
156丁　23.5cm
享和3年(1803)から文化元年(1804)までの藩士の請地地子銀上納及び地子銀遅滞に対する督促について。諸事御用留を附す。

6610　地子銀方留帳　16.62—71
手写
140丁　23.5cm
金沢町における享和3年(1803)から文久3年(1863)に至る間の家中，寺庵などの地子銀の遅滞についての督促および遅滞理由などを記す。

6611　年々地子銀算用一巻　16.62—72
手写
209丁　24cm
内容年代，享和3年(1803)から明治元年(1868)。金沢城下地子地居住の家中及び寺庵からの取立地子銀高，遅滞地子銀高等について各年度の報告の写し。普請会所より算用場宛。

6612　〔宮腰〕高免附之帳　16.62—73
2丁　24cm
天明7年(1787)，本町肝煎平左衛門より宮腰町奉行所宛の書上げ。

6613　御高免并定納口米夫銭等去ル子年迄年々分書上之申帳　16.62—74
明治3年(1870)
16丁　24cm
元治元年(1864)～明治3年(1870)分。金石本町肝煎次右衛門等より加州郡治方宛。民部省へ提出につき調理。

御用地・請地

6614　御用地并相対卸歩数等調理書五種　16.62—75
14丁　13×36cm
①万治2年(1659)より明和6年(1769)に至る，石川郡中村，増泉村，石坂村，泉村，泉野新村，泉野村の御用地及び相対卸地の記録
②弘化2年(1845)，町続村相対卸地元引取方等書上申帳。石川郡富樫組の分
③辰6月，手取川筋の土居，川除に関するもの
④元治元年(1864)租税録と違目しらべ。能美郡の分
⑤同上。射水郡の分。

6615　御貸屋敷并請地判帳　16.62—76
御屋敷方編
270丁　24cm
宝暦10年(1760)～明治3年(1870)の分。請地証文などを綴ったもの。書式はその場所，歩数を記した上，歩数改めを受けて請取ったので，定の地子銀を期限迄に上納することを文言で述べ，書判している。

6616　〔変地願書〕　16.62—77
3通　24cm
上ケ地における地子地への変換願状。2通は，

明和８年（1771）と安永３年（1774）の金沢石坂町宮腰屋与四兵衛等よりのもの，１通は安永６年の木新保新町組合頭よりで，共に町奉行所宛。

6617　畠請證同上書附揃　16.62—78
仮綴１（144通）　11.5～24cm
金沢城下各地の上り地，空地等における畠請証文綴。文化５年（1808）～文政12年（1829）の分。旧書名「畠請願綴」。

6618　〔町続商売方等相調申帳〕　16.62—79
２冊　24cm
原題・旧書名「町続ニ罷在候者商売方等相調申帳」。
①文政２年（1819）石川郡田井村領出町の分で，人別に記す
②文政３年（1820）上野新村領出町，田井村領出町，上安江村領，石浦村領の分で職業別に戸数を記す。

6619　〔上野新村領出町〕家地子商売方調帳　16.62—80
文政２年（1819）
32丁　24.5cm
同所の組合頭伊兵衛から提出したもので，人別に地子米高と職業を記す。
旧書名「家地子商売方調帳」。

6620　請取申御地子米代銀之事　16.62—81
巻子１　25cm
文政11年（1828）から明治２年（1869）の，金沢周辺村々より普請会所へ宛てた，相対下し地の地子米代銀請取書を継立てたもの。

6621　〔越中屋伝兵衛・丹波屋伊平受地願〕　16.62—82
巻子２　11.5～24cm　袋入
袋題「千日町越中屋伝兵衛百姓地受地町会所引請願一巻」。安政４（1857）・５年の町奉行所宛口上書及び絵図等関係書類を継立てたもの。石川郡中村領及び上野村領の請地に関するもの。

6622　〔石川郡田井村相対卸地一件〕　16.62—83
２丁・１通・絵図１枚　12×17.5cm・16cm・27.5×39cm
田井村の水戸という浅野川縁の土地を，金沢の福久屋次郎左衛門へ相対卸地にした際の打立帳と分間絵図及び添状。慶応元年(1865)のもの。
旧書名「石川郡鞍月組田井村之内福久屋次郎左衛門へ相対卸地打立帳等」。

6623　〔相対請地ニ付金浦町口書并絵図〕　16.62—84
１通　絵図１枚　24・24×36cm
慶応４年（1868），組合頭喜兵衛よりの田井村相対請地，町地引請の願書。
旧書名「金浦町組合頭喜兵衛願書」。

6624　〔笠舞村相対卸地ニ付答書〕　16.62—85
１通　24cm
慶応４年（1868），組合頭五兵衛等よりの，町地引請につき差支有無に関する答書。
旧書名「笠舞村組合頭三郎右衛門願書」。

6625　〔大桑村相対請地願一件〕　16.62—86
２通　16cm
①辰６月，近藤兵作よりの，大桑村領内での相対請地の願書
②辰７月，大桑村組合頭よりの，上掲願書に対する差支なき旨答書。
旧書名「近藤兵作願書等」。

6626　〔大桑村請地ニ付口上書添書〕　16.62—87
１通　24cm
近藤兵作の請地につき，辰７日付改作奉行の「大桑村相対請地願一件」の添書。
旧書名「近藤兵作大桑村請地ニ付達書」。

6627　〔大桑村請地願添書〕　16.62—88
手写
１通　16cm
近藤兵作相対受地願の義につき，７月25日付篠島左平より前田弾番宛。戊辰８月付本多播磨守より許可の付箋あり。
旧書名「算用場奉行篠島左平達書」。

6628　〔田井村領に家建願一件〕　16.62—89
田辺次郎吉手写
２通　16cm

相対請地について改作所の詮義に関するもの。
旧書名「改作奉行達書」。

6629 〔田井村領之内町地等ニ御引渡之事につき答書〕 16.62—90
1通 24cm
辰5月，金浦町続地にて町地へ引渡しについて，肝煎孫左衛門・組合頭次平よりの答書。
旧書名「田井村肝煎孫右衛門願書」。

6630 〔相対卸地調理ニ付届書〕 16.62—91
明治2～3年（1869～70）
4通 24cm
明治2（1869）・3年の田井村，泉村，泉野村，泉野新村よりの届書。
旧書名「泉野村・田井村肝煎願書」。

6631 請地〔証文綴〕 16.62—92
仮綴1（230通） 16～25cm
仮綴裏表紙に「請地証文」とある。藩臣の屋敷地，下屋敷地における請地願と，それに関連した達書，届書の綴。安永6年（1777）～慶応3年（1867）の分で，文政5年（1822）の分より略図付。
旧書名「請地請文綴」。

6632 〔地面絵図目録〕 16.62—93
1通 16cm
明治4年（1871），軍事掛卒使役方より金石附足軽并小者小頭宛の御渡地面絵図目録。

6633 〔小松町地請地ニ付願書〕 16.62—94
1通 24cm
明治元年辰5月，組合頭塩原屋平右衛門等より，小松町御会所宛。八日市地子町と三日市地子町境の明地面における請地歩数増加願。
旧書名「小松町組合頭塩原屋平右衛門等願書」。

6634 〔小松町請地ニ付地方組合頭口上書〕 16.62—95
1通 24cm
明治元年辰6月，八日市・三日市地方組合頭より牧野孫七宛答書。前掲請地願書についてのもの。
旧書名「小松八日市町地方組合頭久右衛門等口上書」。

6635 〔小松八日市町等請地願〕 16.62—96
3通 16.5cm
①明治元年（1868）辰6月，牧野孫七より御改作所宛
②辰7月，改作奉行申達書
③辰7月19日，篠島左平より前田弾番宛。明治2年8月の承認の旨符箋あり。

6636 〔押野村十村差出之替歩覚等〕 16.62—97
35丁 25cm
寛文10年（1670）から明和6年（1769）に至る間の記録。押野村太郎右衛門組の内，御用屋敷等のため替地が行われた際の達書。

6637 泉野村等拾九ケ村御用地歩高等覚書 16.62—98
合綴1（2冊） 25cm
文政10年（1827）と天保4年（1833）のもの。地子米代銀高を朱で付記する。2冊は同内容で2冊目には「控」とある。

6638 〔天徳院門前用水替地一件〕 16.62—99
手写
1通 15.5cm
文政8年（1825），御用地に掛ったための替地に関するもの。

6639 〔御地子米代銀請取綴〕 16.62—100
手写
5丁 24cm
文政13年（1830）の上野新村はじめ金沢町近郊村々より算用場宛の4通をまとめたもので，御用地の地子米代銀の請取。

6640 大桑村領御用地打立帳 16.62—101
慶応4年（1868）
7丁 12×18cm
藩の御用地となった村内の地番別面積を記す。

6641 〔卯辰養生所御用地引高願一件〕 16.62—102
巻子1 25cm
慶応4年（1868），河北郡談議所村等よりの願紙

面など3通を継ぐ。
旧書名「卯辰村養生所御用地一件」。

6642 金沢廻御用地村々銭納奉願申帳　16.62—103
明治元年（1868）
6冊　24cm
①石川郡米丸組②石川郡戸板組③石川郡鞍月組④石川郡長坂村ほか⑤河北郡金浦組⑥石川郡泉野村ほか。

6643 〔笠舞村組合頭口上書〕　16.62—104
巻子1　24cm
明治2年（1869），笠舞村内における表方坊主拝領地仰付けに関するもの4通を継ぐ。

6644 〔御用地仰付一件〕　16.62—105
手写
巻子2　16.5cm
①辰6月，能美郡御扶持人より御改作所宛。小松町廻り地の御用地における，引高及び合盛御償米の処理に関する願書
②辰2月，笠舞村領内の御用地仰付，及び，辰4月，笠舞新町続地における釣瓶屋岩吉との相対御地に関するもの。

6645 〔魚津下才許斉藤貞蔵居屋敷拝領引高一件等〕　16.62—106
仮綴1（4通）　16.5cm
関連文書3通の他，小松廻御用地引高ニ付願書1通をつづる。旧書名「改作奉行等達書」。

6646 〔才川中川除町家作川除往来道へ押出一件〕　16.62—107
巻子1　24.5cm　袋入
若松屋爾等町人が，川除往来道の一部を，地子地として家作許可を願ったもの。弘化元年（1844），安政3年（1856）の願書，絵図等10通を継いだもの。旧書名「才川中川除町若松屋爾等儀川除往来道開一件」。

町人由緒・旧記

6647 町人由緒帳　16.62—108
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
①石黒権平，桑名嘉六，家柄町人由緒略書并家列（安政7年），記録方歴代帳，多々良家系図，越前武生住浅井政男先祖由緒帳，越前府中大文字屋伝書
②豆腐屋太右衛門，木越屋佐兵衛，一丸甚六，塩屋太右衛門，俗屋弥三助，鍛冶自助，長浦堺兵衛
③金石中山主計，金石銭屋市郎右衛門。

6648 町人由緒帳　16.62—109
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23cm
①額彦四郎，樫田吉蔵，片岡孫兵衛，金屋九郎兵衛
②中田庄三郎，中山一衛，武蔵規一郎附石黒権平事跡旧記抜書，北村重兵衛，平野屋半助，於江戸表等御扶持等被下候人々名前
③森下屋八左衛門，野口九郎，野村直五郎，三ヶ屋五郎兵衛，喜多村彦左衛門，梅田九栄，疋田屋三右衛門。

6649 家柄町人由緒略書并家列　16.62—110
町年寄編
安政7年（1860）
8丁　24.5cm
額彦四郎他14人の由緒町人の由緒を記す。

6650 金沢家柄町人由緒　16.62—111
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　25cm
金沢の由緒町人について「続漸得雑記」，「御邦諸談」，「当国古今雑談」からの抜粋。

6651 金沢町人家蔵文書　16.62—112
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23.5cm
内容は平野屋半助書類，菊屋八左衛門書類（微妙公御判物写），堂後屋太郎左衛門の書類。

6652 諸事意保栄　16.62—113
浅野屋佐平著
自筆
81丁　24cm

浅野屋佐平は金沢の町人。金沢町会所横目肝煎兼逓送方を勤めて京都を往返，幕末の国勢に意を払った。慶応元年没。本書は，天保９年（1838）より嘉永年間（1848～1853）に至る商売，役職に関する日記。

6653　浅野佐平手留　　16.62—114
浅野屋佐平著
前田家編輯方手写　明治年間
153丁　23cm
「浅野宇佐松所有文書種々」，「御手当人出張中町規伺書」，「記録方勤方帳」を収む。「浅野宇佐松所有文書種々」は下堤町に居住の浅野屋が，横目肝煎(列)，本町肝煎列，魚問屋，伝馬肝煎等を勤めていた時の記録。幕末のもので，宇佐松は佐平の別名。「御手当人出張中町規伺書」では町方居住家中の出張中のことを記し，「記録方勤方帳」では記録方役所の勤方に関して記す。

6654　五十嵐家系　　16.62—115
3丁　23.5cm
五十嵐信斉より他十郎（明治期）に至るまでの由緒書。五十嵐家は，藩の御用蒔絵師。

6655　一丸諸事帳　　16.62—116
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
内題は「一丸諸事記」。一丸（宮腰屋）甚六は竪町で呉服商を営み，度々藩用の呉服太物御用を勤めた。本書はおそらく２代にわたって書きつがれた年代記で，身辺の雑事から藩政の動向まで，克明に記録している。
①宝暦３年（1753）～天保13年（1842），巻頭に①，②の目録あり。御広式御部屋方御用等の任命と藩主一族の誕生，死亡の際の諸覚
②明和年中～文政10年（1827）。目録に「自分口之事」とあり，由緒，得意先，身辺雑事，藩御用等を記す
③天明３年（1783）～天保６年（1835）。巻頭に③，④の目録があり，「世上之事」と記し，世上の諸事件，身辺雑事を記す
④宝暦５年（1755）～天保11年（1840）。③の続きとその補遺，および「宝暦５年巡見上使御届之控」等を収録。
旧書名「諸事帳」。

6656　小倉日記抄　　16.62—117
前田家編輯方手写　明治年間
44丁　23.5cm
金沢下堤町蔵宿小倉屋太右衛門家の日記を森田柿園が抜粋したものの写。小倉屋はもと松任で薬種商を営み，この日記は松任町の組合頭を勤めた伝右衛門とその子八郎左衛門の筆になるもの。元禄９年（1696）～宝暦３年（1753）の災害，触達，物価，諸侯の松任通行等について記す。末尾に小倉家の来歴，系図を載せる。

6657　小倉日記抄　　16.62—118
前田家編輯方手写　明治年間
29丁　23.5cm
前号と同内容。

6658　片岡孫兵衛古文書　　16.62—119
前田家編輯方手写　明治年間
87丁　23.5cm
内容は，利長・利常・光高等の御書など写，おまん様御文御文躰等，加賀藩重臣よりの孫兵衛宛書状，明和８年（1771）５月朔日上使御参内関係記録，慶安４年（1651）の万諸書帳，所蔵品の目録，宝永７年（1710）・正徳２年（1712）の酒仕入帳，年中入払算用，享保14年（1843）遊行上人小松止宿覚書，延享２年（1745）京都医師辻祐安被罷越候留帳など御用留帳よりの抜書を収める。

6659　片岡孫兵衛由緒帳抄　　16.62—120
前田家編輯方手写　明治年間
18丁　23.5cm
文政９年（1826）町奉行所に提出された由緒書。片岡家は屋号を越前屋といい，散算用聞役，町年寄，津出米裁許等を勤めた金沢の家柄商人。
旧書名「片岡孫兵衛古文書」。

6660　亀田氏旧記　　16.62—121
亀田純蔵（鬱集堂勝利）編
前田家編輯方手写　明治年間
13冊　23.5cm

亀田氏は金沢の由緒町人宮竹屋のことで，薬種商を営み，伊右衛門（2～6代），純蔵（7，9代），市次郎（8代）を称した。本旧記は9代純蔵（鰹集堂勝利）が編纂した諸要日記（第2～13冊）に第1冊の亀田備忘録等を加えたもの。諸要日記は明和5年～明治4年（1768～1871）の来客接待，吉凶，年中行事，書簡その他関係文書を書きとめたもの。

①亀田備忘録　宝暦9己卯4月10日嘉陽金府大火之聞書
②諸要記　明和5～安永6年（1768～77）
③諸要日記　安永7～天明8年（1778～88）
④諸要日記　天明9～文化9年（1789～1812）
⑤亀田氏家世春秋（諸用日記第四冊目）享和3～文政2年（1803～1819）
⑥諸要日記　文化10～文政9年（1813～26）
⑦諸要日記　文政9～天保元年（1826～30）
⑧諸要日記　天保2～同　6年（1831～35）
⑨亀田旧記　天保6～弘化2年（1835～45）
⑩（無題）　弘化2～嘉永5年（1845～52）
⑪諸要日記　嘉永6～安政4年（1853～57）
⑫諸要日記　安政5～文久元年（1858～61）
⑬諸要日記　文久2～明治4年（1862～71）。

刊本「日本都市生活史料集成5」城下町篇3に第1～5冊まで収録。

6661　亀田純蔵由緒帳　16.62—122
万延元年（1860）
13丁　24cm
亀田氏（屋号宮竹屋）について，天正年中金沢で商売を始めた初代亀田教正より8代目市次郎までの由緒を記す。純蔵は宮竹屋7代目に当る。

6662　亀田豊善系図　16.62—123
1枚　76.5×24cm
亀田氏（屋号宮竹屋）の系図。教正の父豊善より合計11代の系図を記す。豊善は能美郡宮竹村より天正年中に金沢へ移り，宮竹屋を称し旅人宿本陣を営んだ。

6663　後藤家旧記　16.62—124
後藤覚乗等編
前田家編輯方手写　明治年間
8冊　23.5cm
①先祖由緒書（明治3年），寛永11年（1634）従中納言様拝領仕御米（明暦2年までのもの。覚乗編）
②加賀中納言様被為仰付候御道具覚（元和9年より寛永15年のもの。覚乗編）
③加賀中納言様被仰付候御道具覚（利常の他光高，綱紀，藩重臣のものを含む。寛永より慶安年間に至るもの。覚乗編）
④彫物御用往復書状ノ留メ　附覚乗所持之道具（覚乗編）
⑤御国御土蔵作彫物後藤勘兵衛覚書引合出所由来之覚（延宝6年演乗編のものに宝暦8年玄乗が付記）
⑥第5冊と同内容，玄乗の付記なし
⑦御道具御改控并作附覚帳，彫物御道具御改帳，彫物御道具御改帳控，見改覚（以上宝暦8年のもの，玄乗編），口上之覚
⑧利光公ヨリ毎年御茶拝領ニ付御礼之留メ并ニ小堀遠州茶事之書留メ等（覚乗の時のもの）。

6664　後藤家文書　16.62—125
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
後藤源実所蔵の写。
①御系図（加賀藩主前田家5代までの分），御書（利常御書25通，犬千代御書1通，綱紀御書1通，後藤東乗編），御懇之御書（利光御書10通，光高御書10通，利治御書7通，利次御書3通，東乗編）
②御懇之御書（利常御書12通，犬千代御書4通，利治御書3通，利明御書15通，東乗編）
③御書（利光御書1通，利常御書23通，光高御書12通，東乗編）
④判金分銅等後藤光次書翰（後藤長乗等宛），利光卿彫物御好之真翰
⑤片桐市正且元殿御用状5通（長乗等宛），中納言利光卿御真翰5通，利常卿等御書41通。

6665　伍堂卓爾一世紀事　16.62—126
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23cm
伍堂卓爾の伝記。卓爾は弘化元年（1844）本多播磨守の医師の子として金沢に生まれ，京都・長崎で医学を学び，明治2年（1869）藩命でオ

ランダに赴く。同年藩に帰国し金沢医学館に奉職し，同7年以降陸軍省で勤務，大正7年8月84才没。旧書名「一世記事」。

6666　佐々木四郎左衛門系図并由緒帳　16.62—127
手写
2冊　24cm
「佐々木四郎左衛門系図」1冊と「佐々木四郎左衛門由緒帳」1冊の計2冊より成る。佐々木氏は屋号を乾屋と称し，金沢で薬種業を営んだ由緒町人。

6667　畳屋彌市由緒書　16.62—128
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24.5cm
享保15年（1730）畳屋弥市が提出した由緒書。畳屋は利家時代以来代々の御用畳師。

6668　氷見屋代々へ御墨附御印物之写　16.62—129
手写
巻子1　24cm　包紙
天正10年（1582）氷見屋宛の居屋敷，田地を扶持した利家印物と，天保年間に至るまでの代々の扶持御印物等6通の写し。氷見屋については，天正元年（1573）石動山の衆徒が，温井・三宅両氏とはかり前田利家に反抗したとき，利家は氷見屋善徳の2男性寂坊（石動山入山僧）に衆徒を招き降らせようとしたが露見し，性寂坊は磔刑となったと伝えられる。

6669　〔平野屋半助〕由緒帳　16.62—130
8冊　34.5cm
家柄町人の由緒帳で，寛延4年（1751），明和8年（1771），安永6年（1777），寛政5年（1793），文化3年（1806），文化6年（1809），文化11年（1814），文久元年（1861）のもの。全部で平野屋13代にわたる由緒書。平野屋半助より町奉行所宛。

6670　額氏系図　16.62—131
前田家編輯方手写　明治年間
171丁　23.5cm
○系図一巻
○御墨附御判物御印物并御披露状御用紙面等写
○無役之節御礼列之義ニ付御書立等5通之写。
額氏は藩政時代後期まで金屋姓で，後，額に改姓。藩政初頭には，藩の銀座，天秤座などの役職を勤めた。

6671　中山主計家譜　16.62—132
手写
40丁　25cm
中山主計家は石川郡宮腰において代々町年寄を勤めた。本書には，由緒書上，利家・利常判物の写，廻米・船方等に付年寄中等の紙面（主に寛永頃），貞享3年（1686）6代甚丞書上申浦方御用等勤方之控，勝手向23ヶ年平均出入之覚，その他を収む。

6672　金石庄町丸屋伝四郎方絵図　16.62—133
絵図1枚　彩色　36.5×26.5cm

6673　〔天野屋伝兵衛由緒帳〕　16.62—134
手写
82丁　24cm
原題・旧書名「就御尋書上申由緒帳」。天保3年(1832）の天野屋由緒書。天野屋は高岡の町人で藩の蔵宿等を勤めた。

6674　延享至寛政間日記　16.62—135
手写
2冊　24cm
野尻屋庄三郎所蔵の写。
①上　延享3年～天明3年（1784～1789）
②下　天明4年～寛政元年（1746～1783）。
町人の日記で，国内外の政治的事件，作毛の豊凶，米穀値段，災害等の世相を記す。宝暦6年の城端騒動の記事もある。

特16.63　郡　　方

郡奉行勤方覚留

6675　御郡奉行勤方　16.63—1
手写
9丁　24cm

寛永8年(1631)3月13日三ケ国御郡奉行に宛てた，農政に関する58ケ条。

6676 御郡所年中行事　16.63—2
手写
73丁　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。御郡所の役務を年間を通し書上げたもの。

6677 御郡奉行年中行事　16.63—3
前田家編輯方手写　明治年間
101丁　23.5cm
多田六蔵所蔵の写。御吉事一件以下99項よりなる郡方取捌方・定等の帳。

6678 御郡奉行・改作奉行取捌年中行事　16.63—4
安田布旧著
38丁　12×17.5cm
本保政徳旧蔵。蔵宿願取捌，惣年寄等縁組願，津方願など97項目を収む。

6679 御郡所算筒番方勤方帳　16.63—5
文政5年（1822）
4丁　12×18cm
早川随勝旧蔵。肝煎願裏書之事，皆済ニ付御届等之事，熊木蔵直段聞合之事，御米所江地米直段聞合之事を収む。

6680 今石動郡代格式改覚　16.63—6
33丁　23.5cm
富田権六郎旧蔵。内容年代は寛保2年（1742）～同4年。寛保2年，富田次大夫が今石動氷見城端支配を任命された時の支配方格式よりの抜書。

6681 今石動御用勤方帳　16.63—7
手写　享和3年(1803)
12丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。表紙に「菅原厚定所持」とある。井上勘右衛門の書上げた勤方定書の写し。

6682 御詰米方等格帳　16.63—8
手写
9丁　24cm
早川随勝旧蔵。文政5年（1822）郡方仕法で郡奉行に詰米奉行兼帯を仰付られた際，取捌き格合を郡奉行棟取頭小堀八十太夫政保から算用場へ申達したもの。

6683 御郡方御定ニ可相成品々書上申帳　16.63—9
高沢平次右衛門・篠嶋庄兵衛編
高畠定辟手写　安政6年（1859）
58丁　24cm
高畠定辟旧蔵。明和9年（1772），郡奉行所の格式となるべき御定書，算用場よりの申渡しを旧記のうちより書上げたもの。

6684 〔御郡方天明安政間日記抜書〕　16.63—10
高畠定辟編
8冊　12×18cm
高畠定辟旧蔵。郡方支配に関する文書の書留。①天明日記抜書（27項）②御郡方寛政日記抜書（31項）③御郡方享和日記抜書（17項）④文化日記抜書(23項)⑤文政日記抜書(46項)⑥天保日記抜書(28項)⑦天保日記抜書(62項)⑧安政3年日記抜書（34項）より成る。
旧書名「天明安政間日記抜書」。

6685 旧記帳　16.63—11
高畠厚定著
自筆
5冊　12×18cm
高畠定辟旧蔵。近世中期の郡奉行の記録。富山藩領の記事も含む。

6686 〔御郡奉行へ年寄衆ヨリ被申渡候写等〕　16.63—12
寛政6年（1794）
10丁　12×17.5cm
原題「寛政六年御郡奉行江年寄衆より被申渡候写并右之趣前方公事場江内談有之ニ付相達候紙面之写」。郡方の風紀粛清のための箇条書に関するもの。

6687 張出留　16.63—13
御代官割所編
自筆
16丁　24.5cm
文政2年（1819)～嘉永3年（1850）の御郡方代

官役務記録。

6688 御郡方御仕法被仰付濫觴　16.63—14
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　25cm
文政4年(1821)原本成立。「御収納取治方来歴大略」と，御郡方御仕法について御用部屋よりの口達を載せる。

6689 御郡方御仕法被仰付濫觴并出役所附組名唱　16.63—15
2冊　24cm
①「御郡方御仕法被仰付濫觴」(文政4年)
内容は前号と同一
②「出役所附組名唱」。郡方仕法替に際し，各郡での出役所所在地を記し，組名変更につき新旧の組名を記す。

6690 御郡方御仕法書御請帳并内調理帳　16.63—16
文政4年(1821)
2冊　24cm
①「御郡方御仕法書御請帳」。御ヶ条書「御郡根役所取捌并惣年寄等勤方大綱」に対する諸郡惣年寄及び年寄並からの請書
②「内調理帳」。藩より御郡根役所へ配属する人数・役附及び勤方に関する草案。

6691 御郡方御仕方書御請帳　16.63—17
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　25cm
前号①の写。

6692 御郡方御仕法一件　16.63—18
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　25cm
文政4年(1821) 6月より12月までの郡方御触の抄。能州奥郡の記事を中心とする。

6693 文政四年御郡方仕法ニ付内密僉議之抄　16.63—19
前田家編輯方手写　明治年間
128丁　25cm
御郡奉行による百姓直支配という仕法替えによって行われた諸事詮議の留書。旧書名「内密僉議」。

6694 内調理　16.63—20
手写
21丁　24cm
早川随勝旧蔵。文政4年(1821)十村役指止後の郡方支配について記す。「三州惣年寄等役料」も収む。

6695 御郡方御仕法一件　16.63—21
前田家編輯方手写　明治年間
166丁　23.5cm
田村前名所蔵の写。文政4年(1821)の郡方仕法に関するもの。

6696 御改作御修補被仰付候一巻覚　16.63—22
17丁　12×18cm
前田道益旧蔵。文政4年(1821)御定書追加の他，同年郡方仕法関係文書を収録。

6697 御改作御修補被仰付候一巻覚　16.63—23
26丁　11.5×18cm
前号と同一内容。他に，十村組名変更の覚を附す。

6698 改作所御仕法等一件　16.63—24
横山政孝著
横山政和手写　安政4年(1857)
20丁　12×17.5cm
文政4年(1821)仕法に関するもの。寛政2年(1790)御省略箇条書を附す。

6699 〔改作仕方書〕　16.63—25
仮綴1(22通)　18.5cm
藩政後期の藩内部の書状で，文政4年(1821)改作仕法書類等を収む。

6700 批売稼等願取捌方申渡書　16.63—26
3通　16.5cm
算用場より郡奉行宛。批売・質商売・香具・蠟燭・素麺・紙漉・陶器焼・瓦焼の各稼ぎの譲替・退転願については，郡・改作両奉行で処理する様に布達する。

6701 御巡見方等紙面留　16.63—27
前田家編輯方手写　明治年間

43丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。内題は「魚津郡代御巡見方并所口津田修理殿等御巡見方竝他役所より十村直宛之紙面ニ付御郡所御引合方等一巻」。内容は，天保10（1839）・15年 魚津郡代越中巡見，同11・12年今石動奉行越中巡見，同15年（1844）津田修理能州巡見，弘化4年（1847）多賀数馬能州巡見，嘉永3年（1850）徳山良之助口郡廻村に関するもの。

6702　御内用ニ付黒部奥山へ罷越候日記　16.63—28
武田秀平著
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
天保15年（1844）4月27日～閏4月19日にかけての黒部奥山廻覚書。武田秀平は文化11年（1814）京都より金沢に来て御細工者小頭並となった人物で，天保15年当時は組外。木彫，製陶に秀で友月・民山の号をもつ。

6703　能州御郡奉行勤節見要撮記　16.63—29
高畠定辟編
36丁　15.5×10.5cm
高畠定辟旧蔵。輪島へ出張中に記した寛政～文政年間に至る書留24項目を収む。

6704　三州治農録　16.63—30
槻尾甚七郎編
前田家編輯方手写　明治年間
130丁　23.5cm
槻尾甚七郎は能州口郡奉行。天保8年（1837）～12年に至る公務文書の覚書。

6705　今石動〔留書〕　16.63—31
96丁　14×21cm
富田権六郎旧蔵。内容年代は，享保17年(1732)～寛保2年(1742)，代官の支配方に関する旧記で，享保期の事例が多い。全97項。巻頭に目次がある。

6706　今石動等支配留帳　16.63—32
富田次大夫（貞武）著
前田家編輯方手写　明治年間
74丁　23cm
内容は寛保2年（1742）3月26日～12月。富田貞武（1600石）は同3月27日に今石動等支配役に就任した。
旧書名「今石動氷見城端支配留帳」。

6707　御印紙類写上申帳　16.63—33
手写
34丁　25cm
富田権六郎旧蔵。今石動等支配の管轄下の町立箇所や米蔵についての寛文以前の藩主御印物類を写し集めたもの。

6708　〔今石動関係記〕　16.63—34
16丁　8.5×18cm
富田権六郎旧蔵。今石動の由緒，代官歴代その他越中の町場についての備忘録。

6709　支配方御用留帳　16.63—35
富田次太夫(貞武)著
手写
51丁　9×16cm
富田権六郎旧蔵。内容は寛保3年（1743）正月～12月にわたる今石動等支配役富田次太夫の役務日記。主に公用書類などを書留めてある。

6710　氷見・石動・城端覚書　16.63—36
47丁　7×17.5cm
富田権六郎旧蔵。氷見・石動・城端3町の藩方役所の覚書。巡見行列の覚，町方への達書，役人の任免・交替等について記す。

6711　今石動由来　16.63—37
高畠厚定著
自筆　享和3年（1803）
36丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。町別地子米，町定書等今石動の明細書。高畠厚定は享和3年（1803）より文化元年（1804）に今石動・氷見・城端支配を勤めた。

6712　新川御郡奉行旧記日記之内抜書　16.63—38
手写
2冊　12×17cm
高畠定辟旧蔵。内容年代，元禄～享保期。

①新川御郡奉行旧記日記之内抜書21項目
②同上，29項目。

6713　新川御郡奉行手帳　16.63—39
高畠厚定編
自筆
9冊　11.5×18cm
高畠定辟旧蔵。編者は，安永8年(1779)～天明7年（1787）新川郡奉行。
①定式物「御給銀取之者召抱之事」など50項
②旧記「魚津在住 人門松申来事」など30項
③旧記「他国者入込候儀 并虚無僧等之儀ニ付申来趣之事」など40項
④旧記「先年書上高半分たばこ畠作可 申 之 事」など26項
⑤定式物「新役被仰渡時物夫々届紙面印鑑出候節之事」など45項
⑥定式物「於御貸屋年頭礼請候事」など37項
⑦定式物「正月四日役所初之節并十村御通懸之御礼之儀塩御料理被下節之事」など20項
⑧定式物「かね山才許御貸屋引渡之事」など25項
⑨旧記「中地山村七兵衛薪木呂伐出願并木呂川流時節遠願之事」など16項。

6714　新川郡奉行心覚秘書　16.63—40
高畠厚定編
手写　天明3年（1783）
33丁　12×16.5cm
高畠定辟旧蔵。御印御定御収納高の事以下，改作方に関する19項目を収録。

6715　松平大弐殿御在住之内出雲守様御通之留　16.63—41
手写
1通　16cm
富田権六郎旧蔵。魚津在住役に関する旧例報告状。松平大弐康済は3500石で，その在住は延享3年正月～翌4年5月のこと。なお当時は大膳を名乗っており，大弐と改めるのは後のことである。

6716　〔阿閉善左衛門等覚書〕　16.63—42
自筆
1通　16cm
阿閉善左衛門・山本十左衛門連署の調査報告書で，内容は藩侯の病気，死去，その他に際しての魚津在住役がかかわった旧例として和田采女孟貞（800石，享保元年7月～同9年8月在住）と松平大膳康清（前号参照）当時のことを書上げたもの。

6717　魚津諸事留帳　16.63—43
岡田伊右衛門著
自筆　寛延3年（1750）
55丁　24cm
富田権六郎旧蔵。正月～12月の留で，岡田伊右衛門安貞（1200石）は当時魚津在住役。

6718　魚津御用諸事留帳　16.63—44
手写
102丁　23cm
内容は明和9年（1772）3月～8月の公用留。当時富田外記貞直（2100石）が魚津在住であった。

6719　魚津御用雑記　16.63—45
成瀬正居著
安政4年（1857）
87丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。魚津町奉行等支配方の系譜，支配方留帳からの抜書など，内容は多岐にわたる。成瀬正居は知行高2500石，安政4年(1857)より魚津在住役を勤めた。

6720　〔魚津御用言上留他〕　16.63—46
5冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。3冊は成瀬正居が魚津に在任中，近習頭衆中へ宛てた言上書の留書。内容年代，安政4年(1857)～文久3年(1863)。他の1冊は「及言上候 与力同心調理書留」。残り1冊は永原治兵衛（政張）が元禄より正徳年間，魚津在住役であった時の留書中より抜書したもの。

6721　魚津御用品々　16.63—47
富田某手写
87丁　24cm
富田権六郎旧蔵。坤の巻のみ。内容は文化12年

(1815)～文政２年(1819)にわたる勤方一件留。巻頭に42項の目次あり。

6722　魚津御用留　16.63—48
前田式部孝始編
自筆
42丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。内容は，寛政５年（1783）正月～同16年（1797）11月および同７年～同10年の簡略な抜留書。前田式部（3000石）は当時魚津在住役。

6723　魚津御用勤方心得書　16.63—49
前田孝始編
寛政６年（1794）
４丁　12×17cm
成瀬正吉旧蔵。魚津在住役前田式部の勤方，本役・加役共の心得を記す。

6724　〔魚津御用勤方心得書等〕　16.63—50
前田孝始編
手写　文化14年（1817）
３冊　12×17.5cm・23.5cm　袋入
富田権六郎旧蔵。前田式部孝始が魚津在住役中の寛政６年に提出した書類の写。
①御渡之御旧記抜写
②魚津御用相勤人々歴代
③魚津御用勤方心得書（寛政６年）。

6725　魚津在住前田式部より指上候旧記抜書并勤方　16.63—51
前田孝始編
手写
３冊　12×18cm～27×19.5cm　包紙
前号と同内容。
旧書名「魚津在住日記抜書并勤方」。

6726　前田才記留記　16.63—52
前田才記著
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
成瀬吉勝所蔵の写。内容年代，天保５(1834)・６年魚津大火の記事も含む。前田才記考第は2500石で人持組頭。当時は魚津在住（文政11年12月～天保６年12月）。

6727　魚津御用留　16.63—53
嘉永５年（1852）
45丁　25cm
内容は正月～４月。当時は富田織人貞詳（2400石）が魚津在住（４月晦日迄）であった。その下役（富田御用方）の作成した公用留。

6728　〔御用番等より被相渡候付札物等之留抜書〕　16.63—54
成瀬主税正居著
自筆　安政４(1857)～５年
15丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。内容は魚津在住役関係。成瀬正居（2500石）は安政４年９月11日～文久２年５月17日魚津在住を勤めた。

6729　魚津在住御用方日記　16.63—55
成瀬正居著
自筆
６冊　12×18cm
成瀬正居旧蔵。正居在任全期間の日記。③～⑥の表題は「魚津御用日記」となっている。
①安政４年（1857）９月11日～12月晦日
②安政５年正月～12月
③安政６年正月～12月
④安政７年正月～12月
⑤万延２年（1861）正月～８月26日
⑥文久２年（1862）正月～６月１日。

郡　方　定　書

6730　〔寛文以降〕御定書　16.63—56
前田家編輯方手写　明治年間
122丁　24cm
慶安５年（1652）から寛延２年（1749）の定書達書等。越中新川郡岩瀬御郡所にて保管の分。天保14年（1843）８月十村杉木弥五郎有一が，伊藤氏所蔵のものを書写し，さらに編輯方が手写。
旧書名「御定書」。

6731　城ケ端町御定　16.63—57
手写
3通　24cm
○承応3年（1654），家中収納米について定
○延宝7年(1679)，理休新田物成之事（富田権六郎旧蔵）
○享保10年（1725），商人荷物についての町方御定。

6732　公務旧格録　16.63—58
手写
64丁　23cm
万治2年（1659）以降明治2年に至る郡方への定書を収録。

6733　御郡所向旧記　16.63—59
97丁　11.5×17.5cm
本保政徳旧蔵。寛文～嘉永年間郡方への法令等21項を収む。

6734　御定書写　16.63—60
手写
13丁　24.5cm
道守与次郎旧蔵。三宮村の分。延宝7年(1679)村役人に対する郡方締方についての御定書。

6735　加越能御郡方御定　16.63—61
手写　文化10年（1813）
20丁　23cm
脇田尚保旧蔵。越中砺波郡土生新村肝煎次郎右衛門所蔵の写。貞享4年（1687）御定数書62ケ条他を収める。

6736　城端町旧記　16.63—62
前田家編輯方編
明治年間
89丁　23.5cm
文禄3年（1594)～文久2年（1862)。町方定書や，絹方仕法等を収む。

6737　正月初寄合申渡ケ条請書　16.63—63
手写
13丁　24cm
真館氏所蔵の写。天保9年（1838）正月，郡奉行より能州口郡に宛てた，農事・年貢・治安等の申渡に対する，鹿嶋郡村々肝煎・組合頭の請書。

6738　初寄合申渡ケ条　16.63—64
手写
16丁　24cm
加藤又八郎所蔵の写。安政3年（1856）羽咋村義左衛門を通しての，郡奉行申渡しに対する邑知組村々役人の請書。

6739　御郡廻之節為読聞御ケ条　16.63—65
手写
19丁　12×17.5cm
砺波・射水両郡の郡奉行廻村の際，十村以下諸役人に対するもの。農民生活に関する諸制規。

御　用　留

6740　十村旧記留　16.63—66
西田藤蔵編
前田家編輯方手写　明治年間
45丁　23cm
寛政5年（1793）原本成立。元和～元禄年間を中心に，藩より十村宛触書，十村よりの申達等を収録。

6741　御用大綱抜書　16.63—67
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
内題「御用儀品々大綱抜書留帳」。明暦～文化年間に於ける郡方旧記覚書。①118項目　②161項目，合計279項目を収録。

6742　郡方古例集　16.63—68
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
郡方への触書，十村よりの請書・書上等，183項目に渡って収録。
①万治3年（1660）～享保年間（1716～1735）
②享保年間～安政5年（1858），末尾に補足を付す。

6743　慶安日記追加　16.63—69
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
朱書で「慶安日記ノ追加ナリ是ヨリ下慶応三年ニ至ル慶安日記トモ都合三拾冊」と注あり。郡方への法令，達書を収録。
①真館家所蔵書の写，及び加州郡役所旧記のうち万治年間より寛文4年（1664）までの旧記抜書より成る
②承応～寛延年間のもの。能州郡方の分。

6744　十村旧記等之抄　16.63—70
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　25cm
寛政12年（1800）高方仕法帳，十村旧記，上田旧記，「十村勤方類聚」の抄よりなり，郡方触書等を収む。内容年代，寛文～文政年間。

6745　十村勤方類聚　16.63—71
前田家編輯方手写　明治年間
108丁　23.5cm
十村濫觴之事，以下，寛文～嘉永年間に至る78項目を収録。

6746　御用留抜書　16.63—72
前田家編輯方手写　明治年間
103丁　23.5cm
内容年代，元禄～寛保年間。水損，風損，日損，潰人についての，十村及び奉行所間の書簡及び当時の記録を書抜いたもの。

6747　郡方御触目録　16.63—73
手写
2冊　24cm
文化元年（1804）～弘化4年（1847）の触書を調理し，年別の目録としたもの。
①文化元年～文政12年(1829)
②天保元年(1830)～弘化4年。

6748　郡方御触留帳　16.63—74
前田家編輯方手写　明治年間
21冊　23.5cm
郡奉行所から諸郡内の御扶持人十村・新田才許，山廻役などへ出された触書を収録。このうち，文政10年までは，能州郡奉行からの触書を中心とする。農政に関して「司農典」を補うものとして重要である。
①文化元年(1804)～同2年
②文化3年～同6年
③文化7年～同8年
④文化9年～同10年
⑤文化11年
⑥文化12年～同14年
⑦文政元年(1818)～同2年
⑧文政3年
⑨文政4年
⑩文政5年～同7年
⑪文政8年～同11年
⑫天保元年～同5年
⑬天保6年～同7年
⑭天保8年
⑮天保9年
⑯天保10年
⑰天保11年
⑱天保12年～同13年
⑲天保14年
⑳弘化元年(1844)～同2年
㉑弘化3年～同4年。

6749　諸郡御用留　16.63—75
手写
246丁　23.5cm
慶応元年(1865)，郡・改作奉行と諸郡御扶持人との間で取交された諸文書を中心に収む。

6750　日暦　16.63—76
前田家編輯方手写　明治年間
10冊　23.5cm
慶安4年（1651）から安永2年（1773）の郡方への藩触書と十村よりの書上げを収録。石川郡のものを中心とする。
①慶安・承応・明暦・万治
②寛文
③延宝・天和・貞享
④元禄
⑤宝永・正徳
⑥享保
⑦元文・寛保

⑧延享・寛延
⑨宝暦
⑩明和・安永。

6751　加州郡方旧記　　16.63—77
前田家編輯方手写　明治年間
20冊　23.5cm
内題「延宝至文政加州郡方旧記」。加州郡方に対する藩よりの諸達，十村よりの書上げ・願書等を年代順に収録。
①延宝6年(1678)～宝永7年(1710)　但延宝9年～宝永4年欠
②正徳元年(1711)～同3年
③正徳4年～同5年
④享保元年(1716)～同4年
⑤享保5年～同8年
⑥享保9年～同12年
⑦享保13年～同16年
⑧享保17年～同20年
⑨元文元年(1736)～同5年
⑩寛保元年(1741)～延享2年(1745)
⑪延享3年～寛延3年(1750)
⑫宝暦2年(1752)～同13年　但元年・11年・12年欠
⑬寛政4年(1792)～同5年　但明和元年～寛政3年欠
⑭寛政6年～同7年
⑮寛政8年～同10年
⑯寛政11年～同13年
⑰享和元年(1801)～同4年
⑱文化元年(1804)～同3年　但4年～10年欠
⑲文化11年～同14年
⑳文化15年～文政2年(1819)。

6752　郡方御用留　　16.63—78
手写
9冊　23.5cm
文政10年より嘉永5年に至る郡方に対する触や達書を収録。加州郡方分を中心とする。
①文政10年（1827）
②同 11年
③同 12年
④天保4年（1833）
⑤同 5年
⑥同 6年
⑦同 7年
⑧同 11年
⑨嘉永3年(1850)～同5年。

6753　埴生氏覚書　　16.63—79
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
埴生佐久郎所蔵の写。小松埴生村十村役の覚書。内容年代承応～天明年間。
①新開御書立并増減調留ほか，郡方への御触書等40項を収録
②安宅水戸切人足之覚ほか，48項を収録。

6754　御高御仕法記　　16.63—80
35丁　24cm
埴生佐久郎所蔵の写。郡方変死人等取捌ニ付公事場触，寛政12年（1800）切高縮り方一件，能美郡七木運上願方一件，肝煎願方ニ付書上などを収録。

6755　御堺目為御用苗鳩村久左衛門所々へ差遣申一巻紙面覚書等　　16.63—81
享保15年（1730）
巻子1　1軸通　16～24.5cm　袋入
久左衛門は越中砺波郡御扶持人十村で，木滑・河原山・阿手等御用御堺目筋御縮方御用を勤めた際の覚書等。

6756　鶴来村旧記写　　16.63—82
手写
22丁　24cm
坤之壱のみ。天和～元禄年間，石川郡又七組十村剣村又七の，年貢，貸米，切高など役務関連文書の留書。

6757　十村中橋村久左衛門覚書　　16.63—83
中橋村久左衛門編
手写
18丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。元禄14年（1701）久兵衛十村役拝命一件，正徳2年（1712）石川郡・砺波郡見立はづれ村々騒擾などについての覚書。
旧書名「覚書」。

6758 能州郡方書状二種　16.63—84
手写
78丁　23.5cm
北村愛三郎所蔵の写。享和元年（1801）奉行所へ差出しの「古来御奉行所より之御紙面当時見当り候分書記申候」及び，真館弥兵衛編，天正より寛延年間の「古今万留」を収録。

6759 慶長寛文間書類四種　16.63—85
前田家編輯方手写　明治年間
90丁　23.5cm
慶長14年(1609)6月15日高岡御普請の覚(真館)，慶長15年6月8日なごや千人夫ノおぼへ（真館与四郎)，慶安4年(1651)辛卯年云々(辻章弘)，慶安4年8月15日より寛文5年2月迄御定書等御印之物写（筒井内記）を含む。旧書名「書類四種」。

6760 十村手鑑二種　16.63—86
前田家編輯方手写　明治年間
80丁　23.5cm
真館・多田経村所蔵の写。
○真館氏所蔵手鑑，（明暦より元禄年間，新開，検地等に関するもの）
○多田経村所蔵手鑑（天保9年まで)。

6761 検地図帳等三種　16.63—87
前田家編輯方手写　明治年間
84丁　23.5cm
○元和3年（1617）大沢組御検地打渡帳等（筒井内記）
○万治2年（1659）～元文3年（1738）郡方定書（多田六蔵）
○享保11年（1726）～安永2年（1773）郡方御用留（岡部直造)。

6762 〔復元御潤色之趣并組々年中行事窺并付札留〕　16.63—88
32丁　18×12cm
原題「今般復元御潤色之趣ニ付御窺并組々年中行事御窺申上 御附札を以被仰渡之一件」。天保10（1839)・11年口郡の十村文書及び「定式諸御布達書物等組々年中行事」を収む。
旧書名「復元御潤色之趣并組々年中行事窺申上御附札を以被仰渡之一件」。

6763 司農典　16.63—89
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。寛文元年（1661）から天保15年（1844）までの農村法令を編年体でまとめた重要法令集である。特に羽咋・鹿島郡など能登口郡関係が多い。なお，岡部氏は羽咋郡荻谷に住し，歴代十村役を勤めた。
①寛文～元禄年間
②宝永～宝暦年間
③明和～享和年間
④文化・文政年間
⑤天保元年（1830）～同8年9月
⑥ 同 8年10月～同10年7月
⑦ 同 10年 ～同15年12月。
刊本「藩法集」(4)　金沢藩。

6764 岡部氏御用留　16.63—90
前田家編輯方手写　明治年間
10冊　23.5cm
岡部氏所蔵文書の写で，延宝2年（1674）から文化14年（1817）までの算用場，改作奉行，郡奉行からの布達等を収載。
①延宝　②天和・貞享　③元禄　④宝永・正徳　⑤享保　⑥元文～寛延　⑦宝暦・明和　⑧安永・天明　⑨寛政・享和　⑩文化。

6765 岡部旧記十種　16.63—91
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。
①古来御奉行より御紙面当時見当り候分書記申候，延宝9年（1681）羽咋郡中年々酒造米高書上帳，旧記（元禄年間）
②明和6年（1769）12月より覚書帳（承応～明和年間)，末森之事，安永5年（1776）中将様能州御下向一件留帳，高屋浦皆月浦破損船才許心得方，土方掃部様知行所ニ付他覚，富木町蔵宿之義云々，密啓。
以上10項目を収載。

6766　岡部旧記　16.63—92
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。
①改作方（元禄～寛政年間），心得ニも可相成品々留帳（寛文～寛政年間），若狭賢君御家中へ御書立等之写ほか
②御代官代，宝暦2年（1752）能州小河内村四郎左衛門箱訴状写，文政2年（1819）十村禁牢一件，文政10（1827）・11年願方之趣下々指支之義無之哉之旨ニ付村方ヨリ答書，越中伏木浦等船持共より水主給銀仕法ニ付答書等一件（文政10～13年），御用方・跡敷品々留・風流等留，口郡御郡方御仕法ヶ条書。

6767　堀松相談所留帳　16.63—93
前田家編輯方手写　明治年間
139丁　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。宝永元年（1704）から享保2年（1717）にいたる羽咋郡堀松村の十村相談所の御用留，年間の月次順に記載している。

6768　御郡典　16.63—94
前田家編輯方手写　明治年間
10冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。宝永元年（1704）より天保15年（1844）までの，主に能州口郡を中心とした郡方への触書等約730項目を編年体に収録したもので，「司農典」を補う資料。7巻10冊よりなるが第1巻は欠。刊本「藩法集」(6)　続金沢藩。
①宝永・正徳・享保・元文・寛保・延享・寛延・宝暦
②明和・安永・天明・寛政・享和
③文化
④文政
⑤天保元年～同5年10月
⑥天保5年10月～同8年2月
⑦天保8年2月～同年12月
⑧天保9年10月～同10年
⑨天保11年～同14年5月
⑩天保14年5月～同15年12月。

6769　御用方覚書帳　16.63—95
岡部七左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。明和元年（1764）～安永4年（1775）の役務覚書。
①明和2年～同6年
②明和7年，安永2年，明和元年(1764)分。さらに安永2年～同4年公私覚帳を付す。

6770　邑知潟廻リ之義ニ付江戸御役人御越一件留帳　16.63—96
岡部平右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
26丁　24cm
内容年代は天明2年（1782）。御預所千路村と加賀藩領14ヶ村との潟内新開一件に関するもの。

6771　享和三年御用留　16.63—97
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。享和3年（1803）の，奉行所よりの達書，十村間の書状等，十村の公務文書を収録。
①正月～2月　②2月～8月　③8月～12月。
旧書名「御用留」。

6772　復古方御用留　16.63—98
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。内容年代は文化9年(1812)。
①1月～3月の分　②3月～5月の分。

6773　文政中御用方留帳　16.63—99
岡部七左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
72丁　23.5cm
内題・旧書名「御用方留帳」。文政7年(1824)～同10年（1827）の郡方への法令，布達などを収録。

6774　検使方留記　16.63—100
岡部勇作編

前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
能登口郡の十村役の記録。藩政後期の縊死，心中，溺死，行倒れ，病死など検使記録を項目別に分けて記したもの。

6775　岡部御用留　　16.63—101
前田家編輯方手写　明治年間
40冊　23.5cm
岡部氏所蔵の写。改作所・算用場・郡奉行からの農村法令を中心に収録。司農典を補うもの。
①弘化年中（1844～1847）御郡方御用留
②嘉永元年（1848）～同5年御用留
③嘉永5年9月～同6年内達御用留
④安政元年（1854）～同2年御用留
⑤安政元年～同2年御用日記
⑥安政3年御用留
⑦安政4年正月～6月御用留
⑧安政4年7月～12月御用留
⑨安政5年御用留上
⑩安政5年御用留下
⑪安政6年御用留
⑫安政6年御用留上
⑬安政6年御用留中
⑭安政6年御用留下
⑮万延元年（1860）御用留上
⑯万延元年御用留中
⑰万延元年御用留下
⑱万延元年～慶応元年（1865）雑部御用留
⑲文久元年（1861）御用留上
⑳文久元年御用留中
㉑文久元年御用留下
㉒文久2年御用留上
㉓文久2年御用留中
㉔文久2年御用留下
㉕文久3年御用留上
㉖文久3年御用留中
㉗文久3年御用留下
㉘元治元年（1864）御用留上
㉙元治元年御用留中
㉚元治元年御用留下
㉛慶応元年（1865）御用留
㉜慶応2年～明治元年5月御用留
㉝慶応2年御触留上
㉞慶応2年御触留中
㉟慶応2年御触留下
㊱慶応3年御触留上
㊲慶応3年御触留下
㊳慶応4年御触留上
㊴慶応4年御触留
㊵明治元年（1868）8月以降御用留規則ノ部。

6776　岡部氏小紙留　　16.63—102
前田家編輯方手写　明治年間
11冊　23.5cm
岡部氏所蔵の写。岡部他十村が改作奉行，郡奉行などへ宛てた文書を収録。
①安政3年（1856）6月～同4年5月
②安政4年閏5月～12月
③安政5年
④安政6年
⑤安政7年
⑥万延2年（1861）～文久2年（1862）
⑦文久3年
⑧元治元年（1864）
⑨慶応2年（1866）～同3年
⑩慶応4年
⑪明治2年（1869）。

6777　御触留　　16.63—103
荻谷村（岡部）平右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
押水組才許であった岡部平右衛門が，慶応元年中，役務関係文書を書き留めたもの。
①慶応元年（1865）1月～6月7日まで
②6月8日～10月まで
③11月6日～11月13日まで。

6778　詮議小紙留　　16.63—104
岡部平右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。御扶持人十村岡部平右衛門が，明治2年（1869）4月から9月にかけて，羽咋・鹿島郡治局や勧農局へ提出した役務関係文書の写。

6779 存寄之趣御内奉申上帳　16.63—105
羽咋郡麦生村肝煎権之助著
自筆　明治2年（1869）
11丁　24.5cm
藩よりの国政聴聞に対する上申書。十村役料（鍬役米）廃止，町蔵宿廃止，納手代料米の高などにつき改革案を述べる。

6780 〔郡方〕旧記　16.63—106
手写
71丁　23.5cm
加藤義之所蔵の写。天正年間より幕末に至る，触書，願書，書留等を収録。加藤氏は歴代羽咋郡の十村役を勤めた。旧書名「旧記」。

6781 能州郡方旧記　16.63—107
加藤又八郎編
前田家編輯方手写　明治年間
150丁　23.5cm
天正8年（1580）より天保7年（1836）に至る，能州を中心とした郡方，浦方に関する覚，御触書，農民よりの書上げ等を収録。

6782 加藤覚書　16.63—108
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。
①慶安日記，山方御縮申渡書（享保14年）切高証文他雛形，検使御指向一件（弘化4年），能州社家神木伐木ニ付詮議方一件(嘉永元年)
②検使御指向一件（嘉永4年，同6年，安政5年），郡奉行より引合ケ条ニ付十村返答書（嘉永7年），他国者等検使取捌方帳等。

6783 御条数等写　16.63—109
手写
58丁　23cm
加藤又八郎所蔵の写。内題，「鹿嶋半郡御替地御蔵入ニ相成候節御仕置御条数等御請帳面五冊目録壱通并宗門御改方案紙共写」。郡方法令を中心に収録したもので，年代は万治4年(1661)～延宝4年（1676）。

6784 加藤覚書四種　16.63—110
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。内容年代，寛文～文久年間。
①病人并浪人等都而宿村送等一件
②諸方御土蔵云々
③付札御算用場奉行へ云々
④異船方等。

6785 加藤氏日記　16.63—111
前田家編輯方手写　明治年間
35冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。能州郡方に対する藩からの諸達を収録。
①延宝・天和期（1673～1683）
②貞享・元禄（1684～1703）
③宝永・正徳（1704～1715）
④享保（1716～1735）
⑤元文～宝暦（1736～1763）
⑥明和・安永（1764～1780）
⑦天明（1781～1788）
⑧寛政元年(1789)～同6年
⑨寛政7年～同12年
⑩寛政10年・享和3年（1803）
⑪文政元年(1818)～同3年
⑫文政4年～同12年
⑬天保元年(1830)～同5年
⑭天保6年・同7年
⑮天保8年・同9年
⑯天保10年～同12年
⑰天保13年・同14年
⑱弘化（1844～1847）
⑲嘉永元年(1848)～同3年
⑳嘉永4年
㉑嘉永5年
㉒嘉永6年
㉓安政元年（1854）
㉔安政2年
㉕安政3年・同4年
㉖安政5年・同6年
㉗万延元年（1860）
㉘元治元年（1864）
㉙文久元年（1861）

㉚文久２年
㉛文久３年
㉜慶応元年（1865）
㉝慶応２年
㉞慶応３年
㉟追加，享保５年～明和８年（1720～1771）。

6786　諸事抜書　16.63—112
加藤義左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
６冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。
①諸事御聞届を請候品々等抜書（天保～嘉永年間）
②諸郡品々開規之覚，天保12年（1841）村万造ニ付諸郡伺書及定書，嘉永６年（1853）潤役勤方申渡帳，高方仕法等ニ付覚書（天保年間），天保４年（1833）年中御達物覚，高屋村・皆月村破損船才許心得方，検使方格帳
③在々検地之定，文化８年（1811）他国出御制禁并御留与申品書記申帳，政学海，都而誓詞御前書写
④御郡奉行取扱之品々行事，津出品々・難船等ニ付覚書，捨子・郡方百姓博奕ニ付覚書
⑤第１冊と同内容，但し２項目のみ追加
⑥諸事御聞届を請候品々等抜書（嘉永～明治２年）。第５冊の続篇。

6787　政典雑志　16.63—113
前田家編輯方手写　明治年間
136丁　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。農政についての諸書留集。御用年中行事（天保４年），村方より注進物覚并組主附勤方覚，海潟川船積物潤改人受取申御定口銭覚などを収む。

6788　公務当用記　16.63—114
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。能州口郡年寄の郡方支配のための覚書。天保５年（1834）口郡郷村調理高をはじめ，記事は加越能三ケ国にわたり，宿駅，浦方等のものも含む。

6789　諸事御用留　16.63—115
加藤某編
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
郡方への触書などを集録したものの写。第１冊は嘉永～元治年間の海防方，銃卒方御用が中心，第２冊は天保年間以降の諸商売調理，万雑，新田才許蔭聞役，検使方など種々の内容を含んでいる。

6790　真館覚書九種　16.63—116
前田家編輯方手写　明治年間
121丁　23cm
真館氏所蔵の写。抜書当分留（天正～寛永年間），定十村肝煎之覚等３通，村名由来等十五種，延享３年（1746）覚書帳，寛政元年（1789）百姓頭振15才以上以下云々写，口郡紺方一件有之　袋之内混入之書，世上奢侈変化覚書，天保４年（1833）御修補ニ付御郡詮議物御塩方伺帳并品々伺帳，諸事覚書，の９種を収録。真館氏は鹿島郡武部村で寛文６年（1666）から明治初期まで歴代十村役を勤めた。

6791　真館旧記　16.63—117
前田家編輯方手写　明治年間
３冊　23.5cm
真館氏御用留の写。
①寛永19年（1642）～延宝５年（1677），寛永19年～寛文９年（1669）
②寛永19年～万治元年（1658）
③天和３年（1683）～元禄６年（1693）。

6792　御鳥見之儀ニ付調理書　16.63—118
手写
９丁　24cm
真館与四郎所蔵の写。承応～文化年間，鳥見役関係の十村旧記。

6793　諸書物留　16.63—119
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
真館与四郎所蔵の写。御改作御法御触之事，浦方御高札写之事など明暦より正徳年間の郡方取締方について98項目を収む。

6794　堀出物取扱方等　　16.63—120
手写
4丁　24cm
真館氏所蔵の写。万治3年（1660）より嘉永年間の郡方，浦方への触書を収む。

6795　公用集　　16.63—121
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
真館氏所蔵の写。十村の公務執行に必要な記録298項目をほぼ年代順に収録。
①寛文8年～元禄年間②元禄～享保年間③享保～宝暦年間④宝暦～安永年間⑤元禄・宝永年間盗賊方公用集。

6796　〔真館諸書物留等ノ抄〕　　16.63—122
前田家編輯方手写　明治年間
93丁　25cm
真館諸書物留，真館無名録，真館留帳抜書，真館御触書留，真館覚書九種，村名由来等云々，三州治畧録，尚志軒雑録抄，真館御触留，筒井触留，筒井旧記よりの抜書を収む。内容は十村役関係を主とした種々の触書などで，文政年間を主とし，寛文～天保年間を含む。

6797　真館諸書物留　　16.63—123
前田家編輯方手写　明治年間
11冊　23.5cm
延宝～文化年間の十村の御用留。各冊の内容年代はほぼ次の通り。
①延宝～安永年間②安永～寛政年間③寛政年間④同上⑤寛政～享和年間⑥享和年間⑦享和～文化年間⑧～⑪文化年間。

6798　不慮成儀諸事留帳　　16.63—124
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
真館氏所蔵の写。治安，移動，施設修覆等，民政一般に関し950項目を集録。
①元禄5年（1692）～宝永元年（1704）
②享保12年（1727）～延享元年（1744）
③延享元年～明和9年（1772）。

6799　御普請方出船方一巻留帳　　16.63—125
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　23cm
真館氏所蔵の写。元禄6年（1693）から正徳4年（1714）の川除普請に関する書留，正徳4年出船方御定書ほか，郡方関連の留書。

6800　真館筆記　　16.63—126
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
真館氏所蔵の写。
①万聞書（元禄至寛政），聞書（明和至安永）
②慰書（天明至寛政），不時御用勤伺覚書（天明至享和），金沢詰番中達物等諸事自分覚留帳（天保），山方一件，諸事留（天保）。

6801　公事訴訟之捌　　16.63—127
手写
20丁　23.5cm
真館与四郎所蔵の写。寛保2年（1742）の，公事訴訟の捌，国郡堺之論，奉公人出入ほか，出入関係の条項を記す。

6802　真館諸事留　　16.63—128
前田家編輯方手写　明治年間
129丁　23.5cm
真館与四郎所蔵の写。内容は，天明～寛政年間の十村の御用留。隠田之義ニ付御刑罰，和倉温泉，羽咋鹿島両郡開作人馬など，72項を収録。

6803　真館留帳抜書　　16.63—129
前田家編輯方手写　明治年間
9冊　23.5cm
①寛政中留帳抜書（寛政11・12年）
②享和中留帳抜書（高方を除く）
③文化中留帳抜書（文化元年）
④　同　上　（文化2年～同5年）
⑤　同　上　（文化5年～同10年）
⑥　同　上　（文化10年～同14年）
⑦文政中留帳抜書（文政元年～同2年）
⑧　同　上　（文政2年～同5年）
⑨　同　上　（文政5年～同6年）。

6804　真館御触留抜書　16.63—130
前田家編輯方手写　明治年間
184丁　23cm
内題「文政中御触留抜書」。文政７年（1824）から同12年までの175項目の書留を収む。

6805　十村留帳抜書　16.63—131
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
真館氏所蔵の写。嘉永年間の十村あて触書留を収載。
①嘉永３年～同５年②嘉永５年・６年。

6806　御郡所格合　16.63—132
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23.5cm
真館与四郎所蔵の写。治安・商売・運輸・相場・郡打銀など郡方一般につき98項，及び「追加」として10項を記す。

6807　元禄享保間留記　16.63—133
前田家編輯方手写　明治年間
７冊　23.5cm
国田武信所蔵の写。国田家は鹿島郡の十村を勤めた。本書は鹿島郡を中心に，十村役務に関する，藩よりの触書，農民よりの願書等を収録。
①元禄元年（1688）～同16年
②同上
③元禄11年　前欠
④宝永度抜萃
⑤享保９年（1724）
⑥享保10年（1725）～同20年
⑦御改作方享保元年～20年　内５年欠。

6808　郡方旧記　16.63—134
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
北村愛三郎所蔵の写。内題「宝暦至文化御郡方旧記」。郡支配方に関する書留。

6809　御印物御触物等写　16.63—135
手写
６丁　24cm
奥郡関係の御印物の写で，明暦・寛文年間（1655～1672）のものを収む。文政13年（1830）の書上げ。

6810　多田六蔵旧記　16.63—136
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
多田氏所蔵の写。多田家は鳳至郡の十村，鵜川村居住。
①越中森山岩淵喧咄之一件覚書（文禄元年）
大銀遣申御請帳（宝永５年）
鳳至郡村々肝煎扶持相極帳（延宝４年）
御炭焼上申ニ付御尋ニ申上書
村名之由来并唱様等書記申帳（元禄14年）
宮谷村三郎兵衛ムジナ捕殺候始末（享保20年）
銀札御縮方肝煎等御請帳（宝暦６年）
寛政元年（1789）寅４月巡見上使覚書
木郎組四方寺諸事覚書（文化10年）
帯力御免許御押等一件
②諸誓詞前書集
御塩掛相見勤向木村権三郎殿へ書上候控
山廻役相見方等旧記
百姓頭振等人別縮方御尋之趣書上申帳（安政４年）
天保９年(1838)以来諸郡一村建村々調理帳。

6811　手控抜萃　16.63—137
前田家編輯方手写　明治年間
54丁　23cm
多田氏所蔵の写。安政５年（1858）原本成立。「先代役中御手帳之内抜書」と但し書がある。郡方締方についての覚書。内容年代，慶安～宝永年間（1648～1711）。

6812　御触要用抜書　16.63—138
手写
46丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。天保10年（1839）～弘化４年（1847）の改作奉行・郡奉行・算用場等から諸郡十村へ宛てられた65項目に渡る触書の留。

6813　御用鑑　16.63—139
前田家編輯方手写　明治年間
６冊　23.5cm

多田六蔵所蔵の写。能州を中心に藩奉行所よりの触書を収む。
①嘉永元年（1848）～安政元年（1854）10月
②安政元年9月～同4年11月
③安政5年～文久2年（1862）7月
④文久2年7月～同3年（1863）12月
⑤元治元年（1864）～慶応3年（1867）4月
⑥慶応3年5月～明治元年（1868）12月。

6814　跡式譲高改名願等留　　16.63—140
前田家編輯方手写　明治年間
53丁　23cm
安政4年（1857）以降，明治2年（1869）までの能登百姓の跡式・譲高，改名事例。凪至郡友貞家の留書。

6815　筒井氏旧記　　16.63—141
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　23.5cm
天保7年（1836）筒井成則手写の写で，寛永15年（1638）より元禄16年（1703）までの御触留を収録。筒井氏は，凪至郡大沢村に居住し，代々十村役を勤めた。
①寛永15年，慶安元年（1648）・2年，明暦2年（1656），万治2年（1659）・3年
②寛文3年（1663），同5年，同7年，同9年
③寛文10年～同12年
④延宝元年（1673）～元禄元年（1688）
⑤元禄年中
⑥元禄年中。

6816　筒井氏跡書　　16.63—142
前田家編輯方手写　明治年間
109丁　23.5cm
正保3年万跡書，慶安元年万跡書，承応3年江戸へ罷下ニ付万跡書（以上　大沢内記），慶安元年万跡書（大沢組儀兵衛）。

6817　寛文年中御請留抜書　　16.63—143
手写
23丁　24cm
筒井氏所蔵の写。天保10年（1839）原本成立。寛文6年（1666）より同12年迄のもので，主に藩奉所よりの触書と，それに対する請書を収む。凪至郡大沢村内記の記録中よりの抜書。

6818　元禄以来御請跡留　　16.63—144
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23cm
筒井氏所蔵の写。内容年代，元禄3年（1690）～文政2年(1819)。大沢村権兵衛，内記以下，大沢村の十村，組才許より出された，奉行所宛の請書，返答書，申上書等を収む。
旧書名「御請跡留」。

6819　筒井旧記　　16.63—145
前田家編輯方手写　明治年間
12冊　23.5cm
筒井成孝所蔵の写。宝永2年（1705）より寛政12年（1800）までの御触留を収録。
①宝永（1705～1710）
②正徳（1711～1715）
③享保（1716～1735）
④元文，寛保，延享，寛延（1736～1750）
⑤宝暦元年（1751）～同5年
⑥宝暦5年～同13年
⑦明和元年（1764）～安永元年（1772）
⑧安永2年～天明元年（1781）
⑨天明2年～同8年
⑩寛政元年（1789）～同4年
⑪寛政4年～同7年
⑫寛政8年～同12年。

6820　高谷文書　　16.63—146
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　23cm
内題「珠洲郡高屋村高谷刀祢所蔵古文書写」。刀祢は藩政初期の扶持百姓。寛永16年（1639）人別帳。慶安2年（1649）塩手米并払米請取証文帳，寛永20年（1643）高屋組宗旨人別帳，寛永17年（1640）公儀入用銀配符帳などを収録。

6821　上田源助旧記　　16.63—147
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　25cm
藩内における明暦年間以降藩政後期に至る諸定，諸仕法，諸触など104項を収む。上田源助は珠洲郡折戸の住，家は代々十村役。文政8年

生，博学を以て聞こえた。

6822 御触抜書　16.63—148
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　25cm
上田源助所蔵の写。文政元年（1818）～同4年の郡方関係御触146項目の目録。

6823 明治二年御用留　16.63—149
上田源助編
前田家編輯方手写　明治年間
115丁　23.5cm
金沢藩時代における諸局等より郡方への触達等を収録。旧書名「御用留」。

6824 微妙院様御印物之写上申帳　16.63—150
手写
61丁　24.5cm
貞享3年（1686）微妙院様御印之物上申目録帳（砺波郡御扶持人十村），貞享2年（1685）微妙院様御印之物写上申帳（砺波郡内嶋村孫作），砺波郡内四ヶ村慶長10年水帳写，御郡中江被下御印写并覚書（砺波郡　慶安5年～明暦2年）を収録。
旧書名「微妙院殿御印物写」。

6825 十村留記　16.63—151
前田家編輯方手写　明治年間
142丁　23.5cm
石崎彦太郎所蔵の写。慶長6年（1601）から延宝3年（1675）の年寄，算用場，改作所より十村あて触書留。

6826 内密詮議留　16.63—152
手写
80丁　25cm
石崎氏旧蔵。文政4年（1821）の村方取締，農政法令等の留書。

6827 石崎氏旧記繰出目録　16.63—153
手写
28丁　23.5cm
石崎彦太郎所蔵の写。石崎氏の郡方旧記に関する蔵書の内容目録。

6828 河合覚書　16.63—154
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23.5cm
埴生佐久郎所蔵の写。内容は，領内各郡御判物高，領内組々村数以下，領内郡方の明細，郡方諸定など郡方支配の書留。内容年代，寛永～安永年間。奥書に「右寛政二年（1790）戊二月戸出村又右衛門覚書帳かり候而写取也」とある。

6829 御触大略　16.63—155
前田家編輯方編
明治年間
4冊　23.5cm
内題「砺波郡 木沢源五郎書類目録 但シ 御触大略」。内容別に項目を立て年代順に触の概要を記している。内容年代は宝暦10年（1760）～弘化4年（1847）。木沢氏は，砺波郡中田村に住し，歴代十村役を勤めた。

6830 五ケ山村廻り帳　16.63—156
手写
13丁　24cm
得能通孝所蔵の写。阪上村太兵衛組の分。廻村調理報告書。

6831 五ケ山廻覚帳　16.63—157
手写
8丁　24cm
得能通孝所蔵の写。下梨市介組の分で，桑，うるし，麻，麦，風吹火事後の廻村見分報告書。

6832 三百二条旧記　16.63—158
杉木某編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
越中国新川郡石割村十村杉木氏が，役務上必要な算用場，改作奉行の触達などを収録したもの。内容年代，正保～文化年間。
①1～60項　②61～176項　③177～302項。

6833 杉木氏御用方雑録　16.63—159
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23.5cm
十村役杉木氏が代々役務に関して記録した触書

など。内容年代，承応2年（1653）～明治2年（1869）。

①舞々太夫御印写等（承応2年3月），新川郡御郡奉行被為立岩瀬へ御越之人々名記（万治3年より），水橋浦御印旧記（寛文10年），寛文10年（1670）滑川町御印并慶長寛永承応御印，元禄10年（1697）奥山廻書上之写等（宝暦8年），高方請下之義被仰渡之写，御検地代引免并一作引免之旧記，就引免方変地之義ニ御改作所御書立并右両様御仕法御案文留（天明3年），天明4年（1784）御褒美米被下候一件，御算用者応対方申分之落着被仰渡一件（天明6年午10月）

②極難渋村々御扶持人中江書出申控帳（天明8年），御算用者より殿附之儀ニ付諸事一件（同年），御書立を以被為仰渡候写（寛政元年），流浪者御仕法（寛政3年6月），当作損毛ニ付御見立乞申帳（寛政3年），七木御定濫觴極印入方書上申控（寛政4年），寛政6年七木方之義ニ付御窺申候写，新川郡十村等初一統へ申渡ケ条書（寛政2年），寅之年被仰渡之御定（寛政6年），指障申品々書上申帳（同年），新川郡小屋入御救人帳，奉公人仕法書并座頭巻物写（寛政12年），天保3年（1832）高方仕法書（寛政12年至享和2年）

③秋縮御請御仕法并地不足引免地味劣引免且新開等内検地等御仕法書（享和2年），享和2年（1802）被仰渡候作毛見立一件，御扶持人等不埒之義有之改方へ呼出方被仰渡一件（文化元年），復古方留帳（文化8年），諸鳥殺生一件（文政3年），御仕法ニ付御内密御書立（文政4年），検使方御用相勤候覚書并旧記等（文政5年），御仕法帳（文政5年より），用水方定書（文政6年未4月）

④諸番席ニ而取扱候品々之内後年入用之分覚并旧記写（文政7年），御省略方御触一件（文政8年），上新川郡各村高直段并作徳米有高しらべ帳（年歴不詳），御郡村々之内高直段并作徳米等秘録，御逼迫ニ付諸般御省略一件（天保4年），郡方手帳（天保5年至安政4年），貧民御救粥米割符（天保5年），御領国へ二万石御蓄米被仰付候ニ付惣年寄並等より指上米等一件（天保5年），申分裁断申渡シ并和順相調候義留書（瀬戸焼土一件），作徳米方之義写（天保7年）

⑤当座入用之品々（天保8年より），当御仕法一件（天保10年正月18日より被仰出），上新川郡組分并草高厳役米高書上申帳，諸万造方諸郡相談覚書を以御窺申上御聞届方等一件（天保12年閏正月），村万雑取立方高掛家懸等振取極之儀奉窺申帳（同年），加州御家中列并諸役掛諸奉行附り品々階級等秘密物相記候古典（天保13年），新川郡御郡奉行岩瀬へ御越之人々記候写（寛文至天保），御郡廻り之節御読渡候御定書之写（天保13年），座頭之坊へ祝儀遣し方取極候処座頭共より歎願等落着不致写（天保13年）

⑥草高百石下シ附米之勘定大概解（天保13年），今般御縮高一御郡切御仕法高ニ御渡被下候ニ付心附奉伺帳（天保14年12月），矢筈竹御藪手入方被仰渡候一件（弘化4年），狩人願一件（嘉永元年），御倹約方一件（同年12月）

⑦秋縮御請并皆済御注進書留，両御役所江御内達留，二百二十日廻御請帳，芦峅寺并岩峅寺之外郡役御免状書上之写（安政4年），御作事所御手合橋御郡方へ御引請方被仰渡一件（慶応3年卯6月），御調達金交名帳（慶応4年4月），夫食願之義ニ付御書立（年号未詳），酒造御鑑札并麦酒等留（明治2年）。

6834　杉木氏小留帳　　16.63—160

杉木某編

前田家編輯方手写　明治年間

4冊　23.5cm

十村役代々の旧記留，手帳抜書，御用方抜書などを収録。

①古昔より有之書物ニて旧記ニ可相成分，元禄5年至安永6年等手帳抜書，安永中已来小留帳之内旧記ニ可相成品抜出シ，御用方品々抜書天明2年より至文化14年

②小留帳文政元年至4年，当座留帳文政5年，当座小留帳文政7年より，当座小留帳文政6年より天保8年ニ至ル，達紙面留帳天保6年未9月より至天保14年，旧記天保12年ヨリ不抱年月品々写込

③当座留帳天保12年8月至弘化2年，御用方覚書，旧記ニ相成候品々留帳弘化3年より

④小留帳安政3歳より，官事小録明治2年巳11

月より。

6835　廳事通載　　16.63—161
田正元編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
杉木氏所蔵の写。加越能三州各郡の御触，旧記等を収録。原本は，編者が石川郡役人から借用して数十項目に編集し，寛政2年（1790）に成立したもの。

6836　杉木氏小留帳抄　　16.63—162
前田家編輯方手写　明治年間
25丁　25cm
百姓御定，出津入津，夫食，冥加銀，仕法銀，小物成，小矢部川鮭川役，馬下賃，五ヶ山紙，洩魚，木綿判押等につき触留などの留書。内容年代，は寛政～安政年間。

6837　金沢御城御焼失一件　　16.63—163
杉木有信編
前田家編輯方手写　明治年間
87丁　23.5cm
杉木弥五郎所蔵の写。
○文化5年（1808）辰3月金沢二ノ御丸御殿御焼失一件　附り冥加銀一巻
○文化5年辰3月二ノ御丸御焼失ニ付御冥加銀指上候人々書上申帳（石割村弥六著）
○文化6年己11月御材木御伐出シニ付組々御冥加人足賃割符帳（新川郡御扶持人差出）
○文化6年4月御扶持人等并組下冥加銀上納方書上写（同上）
○文化5年正月15日夜6ツ時頃ヨリ御城中出火有之ニ付御郡所等ヨリ御廻状并人足等指登セ一巻留（杉木著）。

6838　杉木手帳　　16.63—164
杉木有一著
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23.5cm
①嘉永6年（1853）大田組高免等手帳，同年大田組肝煎等名書帳
②島組手帳（文化～安政年間）
③　同　前
④島組村々高免等手帳（明治2年7月）
⑤上条組手帳，上条組村々歩数并惣卸米極内ニてしらべ候帳（天保9年），上条組村々作徳米しらべ帳（天保9年），天保10年組替ニ付上条組加入村名。
⑥村々領付（弘化2年），上条組手帳（明治2年11月），下条組高免等懐中録（嘉永元年12月より）
⑦上条組高免定納等，同組家数人数役人名書等品々，魚躬村等定免新開等。

6839　〔嶋尻村刑部手帳抜書留〕　　16.63—165
高畠厚定手写
4冊　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。①より③の原題「新川郡御扶持人十村嶋尻村刑部明暦年中手帳借用抜書留」，④は「嶋尻村刑部手帳之内抜書」。
①明暦2年（1656）
②同上～万治4年（1661）
③明暦3年～元禄12年（1699）
④承応4年（1655）～延宝4年（1676）
旧書名「御扶持人十村嶋尻村十村刑部手帳抜書留」。

6840　江上村武右衛門手帳抜書　　16.63—166
手写
4丁　12×17.5cm
高畠定辟旧蔵。元禄12年（1699）の手帳よりの抜書。改作奉行より扶持人十村への申渡，十村仲間申定書，十村歩役米取様之事を収む。江上村は新川郡に属する。

6841　諸事覚留帳　　16.63—167
竹内屋四郎兵衛著
前田家編輯方手写　明治年間
114丁　23.5cm
著者が，越中入膳村肝煎となった天明6年（1786）より文政13年（1830）までの村方の記録。外題「天明文政間諸事留」。

6842　桐沢氏旧記　　16.63—168
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm

桐沢三郎所蔵の写。桐沢家は越中滑川に居住して綿屋を称し，寛永2年（1625）以降代々御旅屋を営み，町年寄あるいは相談人を勤め，また，9代目以降は蔵宿・山廻役等も勤めていた。

①御尋ニ付申上書等，家系，御宿一巻，滑川御旅屋御道具相改書上帳，承応3年御屏風御預り送り状等，御会所御奉行渡辺八左衛門様より御預御道具之儀ニ付御紙面等，宝永2年以来御借銀等之義9冊

②享和3年上奥山より相廻り申覚，上奥山御境迄，天保5年9月18日滑川火災之砌私宅御宿類焼ニ付御貸米等被仰付候一巻，宝暦10年滑川綿屋九郎兵衛蔵宿就被仰付連判納得帳五品（享保十年滑川町四分一屋四郎兵衛御蔵宿被為仰付候ニ付連判納得帳を含む），天保10年先祖由緒一類書上申帳，宝暦10年一類付帳，元治2丑年御先手廻島田勝摩御家老山田嘉膳殺害ニ付金沢表公事場ニおいて御糺方御書盤其後本人切腹被仰付候廉々留帳（富山関本昭侭より借用の写）。

6843　天和三年留抜書七木之事　　16.63—169
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　25cm
天和3年（1683）の留の外，享保11年（1726），元禄16年（1703）の抜書によって七木の種類をあげる。

6844　七木の制　　16.63—170
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
新川郡持山持林七木盗伐の節過怠の極（享保18年），七木御定之事，相神村弥伝次改名聞届（戊辰3月）を載せる。

6845　七木御格帳　　16.63—171
前田家編輯方手写　明治年間
23丁　24cm
石田太左衛門所蔵の写。天明6年（1786）「三州七木之覚」，寛文5年（1665）「松山御定書」を始め，寛政4年～慶応元年（1792～1865）の山方関係の法令を収録。

6846　七木ニ係ル文書類　　16.63—172
前田家編輯方手写　明治年間
77丁　25cm
温故集録，加藩慶長以来定書，国事雑抄，加藤氏日記，杉木氏小留帳，七木御定濫觴極印入方書上申控写，新川郡御林山并七木御縮方之儀書上申帳，寛政6年七木方之儀ニ付御窺申候写，国令漫録，横山政寛手記，見聞録，能美農会紀事，御郡廻之節被読渡候御定数書写，能登檜林の起源一説（北国新聞明治44年3月21日掲載），以上諸書よりの抜粋を収録。

6847　御林山薮等字場所丁間書上申帳　　16.63—173
荻谷村（岡部）平右衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
22丁　24cm
天明2年（1782）荻谷村平右衛門組村々の御林山，御林薮の字場所・丁間・樹種を書上げたもの。

6848　能州四郡貯用林御縮方等之儀主附山廻へ申渡仕法帳写　　16.63—174
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
加藤又八郎所蔵の写。文政4年（1821）9月，十村裁許指止により，能州4郡村々貯用林等の七木縮方を宇出津山奉行の外，高松村貞右衛門・鵜川村六右衛門・高屋村専三郎に申付けた際の勤向定書・組分・加人名を記す。

浦方定書・御用留類

6849　浦方御定　　16.63—175
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。元和3年（1617）より文久3年（1863）に至る浦方への触書185項目を収む。これは文久3年能州郡奉行が藩よりの御尋ねにより書上げたもの。刊本「藩法集」(6)・続金沢藩。

6850　浦方御定御高札之御帳　　16.63—176
手写
13丁　24cm

国田武信所蔵の写。寛文6年（1666）浦方御定ほか，寛文年間の浦方・郡方御定等につき，十村，村役人の請書の雛形をしめしたもの。

6851　網方旧記　16.63—177
前田家編輯方手写　明治年間
76丁　23cm
真館氏所蔵の写，天和3年（1683）網方ニ付書上定ほか網方，海境等に関して，弘化年間に至る40項目の書留。

6852　浦方御定書　16.63—178
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。藩から領内諸港に通達した定書の集録である。享保12年（1727）の破損船の取扱規程，正徳6年（1716）の「従御公儀国々浦方に御廻状之趣写上申候帳」などを収めている。

6853　浦方御用留　16.63—179
前田家編輯方手写　明治年間
69丁　23.5cm
岡部氏所蔵の写。澗役銀，御城米船，破船などについて13項を記す。年代は寛政5年（1793）～文政7年（1824）。

6854　伏木湊方ニ付前々旧記　16.63—180
慶応2年（1866）
56丁　24.5cm
文化元年（1804）舟方出入ニ付御奉行所等ヨリ御渡之御裁判状写，伏木川江御国廻并他国出入之商人荷物之覚，伏木湊方ニ附候旧記等之覚書，文化13年（1816）古府村伏木村舟方申分御詮義落着之御書立箇条書写を収録。

6855　伏木湊旧記　16.63—181
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　23.5cm
内題「伏木湊方ニ付前々旧記」。前項と同内容。

6856　安宅浦出船御用勤方覚帳　16.63—182
安井源左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
54丁　23cm
安井顕比所蔵の写。著者が天保3年（1832）1月～7月まで安宅浦出船奉行を勤めたときの記録。

6857　津方一件　16.63—183
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
多田六蔵所蔵の写。嘉永元年（1848）より明治3年（1870）の，能登各津の取締りに関し，算用場，産物方より十村宛の達書等126項目を収録。
①嘉永元年より文久3年　②文久3年より明治3年。

6858　浦方宿方御高札之趣違背仕間敷旨御触　16.63—184
手写
9丁　24cm
真館氏所蔵の写。能登の浦方宿方へ対する生活遵守法令を記す。

6859　津留一巻控　16.63—185
10丁　24cm
富田権六郎旧蔵。算用場における津留についての吟味報告書。領内よりの移出品，他国よりの移入品目書上げを附す。

郡方役人勤方

6860　能州代官十村勤方　16.63—186
前田家編輯方手写　明治年間
74丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。内題「能州分諸代官本役并品々御用勤方帳」。宝永2年（1705）書上げの十村，十村代官等の職務内容を261項記す。

6861　能州十村等勤方帳　16.63—187
前田家編輯方手写　明治年間
76丁　23.5cm
加藤又八所蔵の写。内題「能州十村御扶持人等御代官役其外御用勤方帳」。内容は前号と同じ。

6862　能州十村年中行事　16.63—188
前田家編輯方手写　明治年間
30丁　23.5cm
加藤氏所蔵の写。「十村御用方年中行事」を載せる。内容は幕末。「藩政改革ノ節朱正ノ分」とあり，朱筆で修正したのは明治初期。

6863　十村役雑留　16.63—189
26丁　13.5×18cm
「三ヶ国十村始」ほか，諸事開規之覚をはじめ，十村公務関連の諸事項，文書雛形等を収む。能州の記事が多い。

6864　村肝煎給米并勤方　16.63—190
前田家編輯方手写　明治年間
104丁　23.5cm
越中新川郡の十村杉木家の記録。天保10年（1839）7月上新川郡九組村々肝煎給米書上帳，明治2年（1869）5月村肝煎等勤向書上帳（嶋組）。

6865　〔出張帰国覚〕　16.63—191
手写
1通　24×36cm
酉9月付。石川郡粟崎村肝煎太郎治，庄三郎が若州等へ，射水郡伏木村肝煎彦五郎，河北郡高松村組合頭左一郎が越後路へ行き，帰国した際の届。

6866　町肝煎役向勤方書上申帳　16.63—192
自筆　文化13年（1816）
7丁　24cm
富田権六郎旧蔵。城端町肝煎山本屋東蔵・古道屋吉右衛門より今石動奉行所宛で，城端町肝煎の役義22項を書上げる。

6867　算用聞勤方書上申帳　16.63—193
自筆　文化13年（1816）
2丁　24cm
富田権六郎旧蔵。越中城端町算用聞浜屋又右衛門・高松屋孫兵衛から藩へ出された勤方内容。

6868　十村御目見例書　16.63—194
前田家編輯方手写　明治年間
95丁　23.5cm
寛文3年（1663）～正徳4年（1714）の，十村が城中にて御目見えした際の記録。

6869　郡方役人沿革概略　16.63—195
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　24cm
河合録，岡部代々覚書，改作所旧記，同附録，十村役由来，庁事通載，刑部由緒書，筒井旧記等よりの抜書で，明治3年までの十村以下郡方役人の諸役名，役制を記載。

郡方役人由緒・任免

6870　加能越昌正由緒記　16.63—196
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
内題「高徳院様ヨリ御郡中十村百姓ニ御扶持被下来者共由緒帳」。御扶持人十村が貞享2年（1685）改作奉行宛提出した由緒書を収録。
①吉野村平三郎・佐良村九兵衛・津幡村与右衛門・沢河村田畑兵衛・相神村弥六・中川村太郎右衛門・菅原村行長・土橋村新兵衛・熊来村与一・中鴫村太右衛門・粟蔵村彦三郎・中居村三右衛門・大沢村内記
②諸橋村久四郎・道下村三郎左衛門・鹿磯村藤右衛門・木住村八郎右衛門・大谷村頼兼・若山村延武・狩野村恒方・上戸村真頼・小山村高右近・荒屋村三郎左衛門・皆月村彦。

6871　御扶持百姓由緒　16.63—197
手写
98丁　24cm
貞享3年（1686）から同4年（1687）に各扶持百姓より出された由緒帳を集録し，津田宇右衛門が年寄へ提出したもの。
「高徳院様瑞龍院様御代ヨリ御郡中并江州御知行所百姓之内由緒有之御扶持被下者代々之名并由緒記申帳」，「微妙院様御代慶長承応之頃ヨリ御改作就被仰付御郡中百姓之内御扶持被下者之帳」を収む。
旧書名「御扶持百姓由緒帳二種」。

6872　十村由緒　　16.63—198
前田家編輯方手写　明治年間
25丁　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。内題「高徳院瑞龍院徹妙院様御代々十村由緒」貞享3年（1686）の由緒書上。御供田村又三郎・八日市村五郎右衛門・埴田村五郎兵衛・大熊村瀬兵衛・御所村長次郎・福畠村間兵衛・田井村次郎吉・三階村源五・山岸村新四郎・宮丸村長兵衛・戸出村又右衛門・和泉村彦三郎・田井村弥右衛門・島村六郎右衛門・大白石村三郎右衛門・津幡江村宅助・下条村小右衛門・開発村源内・芦峅村十三郎・舟見村傳十郎・泊村与三右衛門・江上村武右衛門・島尻村刑部・新庄村善太郎からの書上を収録。

6873　加能十村等由緒　　16.63—199
前田家編輯方手写　明治年間
98丁　24cm
前半と後半部分に分かれ，前半部分は内題「高徳院様瑞竜院様徹妙院様御代々十村由緒」，岡部勇作所蔵の写で貞享3年（1686）の由緒書上。前号と同内容。後半部分には，同じく貞享3年の由緒書上で，八日市村五右衛門・埴田村五郎兵衛・吉野村平三郎・佐良村九兵衛・熱野村少兵衛・松任町角屋弥二右衛門・近岡村藤兵衛・津幡村少右衛門・相神村弥六・中川村太郎右衛門・菅原村行長・土橋村新兵衛・中嶋村与一・栗蔵村彦三郎・中居村三右衛門・大沢村権兵衛・諸橋村久四郎・道下村三郎左衛門・鹿磯村次郎三郎・小山村又兵衛・皆月村彦太郎・荒屋村善次・若山村延武・鹿野村恒方・大谷村頼兼・上戸村真頼の分をを収む。

6874　加越能等扶助人由来記　　16.63—200
津田宇右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
貞享3年（1686）扶持人調査の命に基いて提出された由緒書のうち，郡奉行支配下及び近江領内の扶持人の分をまとめたもの。
①加賀，能登の分
②越中，近江の今津・弘川両村分，その他を収める。

6875　十村先祖由緒并一類附帳　　16.63—201
仮綴1（11冊）　24.5cm
珠洲郡松波村栄太郎（安政4年）・押野村三郎宗俊・婦負郡長沢村若林市兵衛（天保11年）・新川郡嶋尻村刑部左衛門（天保4年）・砺波郡中田村木沢源五郎（万延2年）・石川郡村井村水内六三郎（文久元年）・鹿島郡武部村真館弥左衛門（天保8年）・羽咋郡安部屋村津兵衛（天明6年）・珠洲郡鹿野村恒方（元禄12年・元禄16年・寛文10年），及び「天明六年（1786）正月十二日御目見被仰付候十村等名列帳」（真館氏所蔵の写）を収録。
旧書名「諸士並十村等由緒書」。

6876　十村等名書　　16.63—202
35丁　8×17cm
成瀬正居旧蔵。郡別に各々の氏名，年令，扶持，略歴を記載。寛政5年（1793）までの分を記す。

6877　〔十村等名書〕　　16.63—203
手写
1通　15.5cm
文政2年（1819）十村断獄の時のもので，「十村等御扶持被下候人々」，「役儀差除」，「牢揚り屋入」の項目別に十村名を記す。
旧書名「十村等御扶持人名書」。

6878　十村来由等六種　　16.63—204
前田家編輯方手写　明治年間
88丁　23.5cm
杉木氏所蔵の写。加越能三ヶ国十村肝煎等御扶持方御印写，新川郡十村歴代書上申帳，寛政13年（1801）十村身分ニ付書上之写，年寄並苗字御免被仰付候一件（天保5年）。斉木村新左衛門先祖由緒帳，御扶持人等勤方大綱書上帳（明治2年）を収む。

6879　諸郡十村拝領物相記　　16.63—205
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24.5cm
岡部勇作所蔵の写。寛政13年（1801）の書上げで，正保・承応・明暦年間の拝領物について記す。

6880 〔御扶持人十村等御扶持高調帳〕 16.63—206
3丁・19通 24cm・16cm 袋入
袋の上書に「巳四月 御扶持高頂戴之石高等しらへ一巻 諸郡」と記す。各郡よりの扶持高書上げの綴り。

6881 御扶持人十村等御礼人惣列名書 16.63—207
前田家編輯手写 明治年間
22丁 24.5cm
安政6年（1859）作成の荻谷村岡部勇作留の写。加能越三ヶ国257人の人名書上げ。更に十村組等について，「続漸得雑記」等からの抜書を付す。

6882 御扶持被下置候十村等死去仕候刻上之候御印物之覚 16.63—208
手写
14丁 24cm
原本成立は，元禄元年（1688）。人名別に御印之物の通数を記す。さらに，安永5年（1776）より文久3年（1863）の分を朱筆で書加えてある。

6883 御扶持被下置候十村等死去仕候刻上之候御印物之覚 16.63—209
手写
5丁 24cm
安政3年（1856）より慶応4年（1868）までの分。

6884 十村苗字帯刀之儀願書 16.63—210
沢村源三郎等著
前田家編輯方手写 明治年間
10丁 25cm
岡部勇作所蔵の写。寛政13年(1801)原本成立。享保・宝暦・明和に続く名字帯刀御免願。

6885 帯刀御免許御押等一件 16.63—211
前田家編輯方手写 明治年間
26丁 24.5cm
多田六蔵所蔵の写。文政2年（1819）より明治2年（1869）までの，十村等の苗字・帯刀許可，風俗等について，願・達書等を収録。

6886 土屋氏系図并由緒 16.63—212
手写
6丁 23.5cm
片岡孫作所蔵の写。宝暦9年（1759）御供田村十村土屋氏の家伝。

6887 〔能州無組并御扶持人等名書〕 16.63—213
6丁 12×18cm
原題「能州奥口無組并御扶持人等名書」。高畠定辟旧蔵。

6888 能州百姓之内御扶持被下年号・同先免当免物成付帳 16.63—214
7丁 24cm
筒井氏所蔵の写。天保2年（1831）の写本を写したもの。原本は万治年中（1658～60）の成立か。天正年中扶持宛行の分を記す。

6889 能登国十村等由緒 16.63—215
前田家編輯方手写 明治年間
115丁 23.5cm
- 十村歴代帳（文政4年改写 島田左平次編）
- 文政4年6月御郡方御仕法十村役被指止御郡御奉行直御支配年寄役組々主付帳（嘉永6年草稿 多田六蔵所蔵の写）
- 天保10年御郡方復元之御仕法ヲ以十村役名已前之通被仰渡奥郡組才許略歴名（多田編）
- 安政6年8月奥郡御扶持人十村等在役之者并当時無役ニ罷在候者等覚帳（多田編）
- 明治3年4月御先代様御時代関係之品由緒帳之内引抜書上申帳（筒井内記等編）
- 十村并百姓共御様子等有之間所等致所持候者相志らへ書上申帳（文政2年 鳳至珠州両御郡編）。

6890 能登十村略由緒 16.63—216
前田家編輯方手写 明治年間
164丁 23.5cm
内題「安政四年（1857）御改作所書上 御扶持人十村等略由緒」。御扶持人十村2名，御扶持平十村2名，平十村5名，新田才許7名，新田才許列1名，御扶持人山廻5名，平山廻23名，平山廻列1名，無役御扶持人2名，御奉行直支配3名の由緒書上げ。

6891 能登向諸方書上御書写并由緒書　16.63—217
手写　明治3年（1870）
合綴1（15冊）　24.5cm
○代々被下置候御扶持高御印物写（筒井内記等）
○御先代様御時代関係之品由緒帳之内引抜書上申帳（筒井内記等）
○御先代様御書并伝来之古文書等写（道下村孫三郎）
○御先代様御書并伝来之古文書写（真清田三右衛門）
○御先代様方之御書并古文書等伝来之旧記相調理上申帳（粟蔵村彦左衛門）
○御先代様御書等写（本郷三郎左衛門）
○居屋敷高被下之候儀ニ付前田対馬殿等御折紙并伝来之古文書写（木住村八五郎）
○高徳院様御書弐通松雲院様御印皆済状写四通（大野村　彦）
○御先代様御書等写（大谷村頼兼）
○御先代様御書并伝来之古文書等書上申帳（筒井内記）
○御先代様方御書等写（諸橋村久四郎）
○御家録御調理ニ付河北郡井上組森村次右衛門由緒書之表書上申帳
○御扶持拝領仕由緒書上申帳（氷見屋牛之助）
○石動山御書等写
○能州一宮御判物等写（亀山久麿）。
旧書名「諸方書上御書写并由緒書」。

6892 口郡類役由緒　16.63—218
前田家編輯方手写　明治年間
101丁　22.5cm
岡部勇作所蔵の写。内題「安政四年十一月書上帳之表　口郡類役由緒等写」。31名の由緒書。荻谷村岡部勇作・荻谷村岡部七左衛門・上村河合瀬兵衛・上村河合兵右衛門・本江村北村惣助・羽咋村加藤義左衛門・羽咋村加藤又八郎・宿村岡部与一郎・宿村箴右衛門・柳田村新左衛門・柳田村桜井友三郎・武部村真館与四助・杉野屋村土屋勘七・田鶴浜村永江喜太郎・相神村上嶋弥六・能登部下村沢井一楽・北川尻喜多孫平・中嶋村大野勝左衛門・土橋村藤井新兵衛・菅原村国田周作・吉田村長尾恒右衛門・大嶋村大嶋堺兵衛・堀替新村吉野彦助・本江村藤井藤七郎・徳丸村戸部彦左衛門・柳田村柳生久右衛門・高畠村小林小一郎・領家町村小沢藤蔵・芹川村桜井源四郎・杉野屋村宇波伝兵衛・中川村安達丈太郎。

6893 御扶持高之御印物調理帳　16.63—219
口郡役所編
手写　天保14年（1843）
14丁　24cm
能登口郡十村等宛のもので，天正年間以来の分を年月日，宛名書の箇条書で記す。

6894 御扶持高之御印物等写書上申帳　16.63—220
羽咋・鹿島御郡所編
手写　天保14年（1843）
27丁　24cm
能登口郡御扶持人十村等宛のもので，天正年間以来の御印物写し等を収める。

6895 岡部直造由緒書　16.63—221
岡部直造著
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23cm
直造一代の自伝。岡部家は羽咋郡御扶持人十村，直造は明治初年に活躍した人で同12年（1879）に県会議員となり，同15年没，59才。

6896 〔十村役儀指除きに付達書〕　16.63—222
1通　16.5cm
鹿島郡の御扶村人十村北村吉左衛門が，役儀指除，扶持高取揚になったことに関するもの。辰6月2日付，算用場より渡辺・安達宛。
旧書名「御算用場達書」。

6897 諸橋文書　16.63—223
前田家編輯方手写　明治年間
130丁　23cm
鳳至郡沖波村諸橋次郎次家に伝わる古文書を手写したもの。中世文書9点（応永元～永禄6年），天正7点，慶長2点，元和1点，寛永2点，慶安1点等古いものが収録されている。それ以降のものは年貢算用・皆済状等十村役関係のものが多い。

6898　粟倉文書　16.63—224
前田家編輯方手写　明治年間
57丁　23cm
鳳至郡粟蔵村粟蔵藤平方古文書の写し。貞享2年（1685）彦三郎伝来所持御印物之写，延享3年（1746）彦丞由緒書はじめ，御扶持御印物，粟蔵家由緒についての覚書を収める。他に元禄11年（1698）飛騨御用木流失一件についての記事がある。

6899　〔能州本江村三郎右衛門扶持状等能登国文書写〕　16.63—225
手写
10通　15～24cm
3通は本郷友吉郎所蔵文書の写で，宝暦5年（1755）から文化11年（1814）の本郷三郎左衛門宛扶持状。他7通は川島村七海孫七郎所蔵文書の写で，山田村八郎左衛門の御茶湯炭献上に関する書状等。
旧書名「能登古文書写」。

6900　〔折戸村次左衛門〕先祖由緒書上申帳　16.63—226
折戸村次左衛門著
刀祢次左衛門手写　明治18年（1885）
3丁　17.5×12cm
折戸村刀祢次左衛門旧蔵。安政2年（1855）5月書上げの由緒帳の写。次左衛門家は天正の扶持百姓で，十村を勤めた家柄。
旧書名「先祖由緒書上申帳」。

6901　〔砺波郡十村等持傳候御印物等しらべ〕　16.63—227
手写　明治3年（1870）
仮綴1（4冊・16通）　24～35cm　袋入
原題「先年ヨリ十村役等相勤候者其外百姓等之内持傳候御印物写等志らべ」。砺波郡治局へ提出されたもの。下川崎村十左衛門，東保村次郎兵衛，道明村九郎次郎，東五位庄野左衛門，刀利村宗右衛門，金屋岩黒村長左衛門，小神村五右衛門，苗野嶋村十右衛門など。

6902　〔十村相勤候節之御印物等書上申帳〕　16.63—228
浅地村喜左衛門編
明治3年（1870）
34丁　25cm
原題「往古十村相勤候節之御印物等書上申帳」。編者の先祖喜左衛門は慶長年中砺波郡十村を，4代目与次兵衛は承応4年（1655）より寛文年中まで新川郡十村役を勤めていた。寛永より寛文年間に至る相伝の御印物等の写し。

6903　越中新川郡佐伯来歴　16.63—229
森田平次（良見）編
21丁　24cm
山廻役等を勤めた新川郡斉木村新之丞家の文化8年8月付の先祖由緒書上申帳（渡辺多宮，滝口蔵人宛）をとりあげ，立山開基の佐伯氏との関連を簡単に考証した書。

6904　得能家伝記写　16.63—230
得能覚兵衛・得能小四郎編
43丁　24cm
得能通孝旧蔵。原本成立天保15年（1844）。人皇七代大日本根子彦瓊命より説きおこし天保10年（1839）に至る家記。得能氏は代々惣年寄，扶持人十村等を勤めた。表紙に明治19年横山政和による，当書に関する所見が記されている。

6905　〔五ケ山下梨村市助願書等〕　16.63—231
下梨村市助著
自筆　明治3年（1870）
31丁・2通　27.5×20cm・24cm
○高徳院様御等御印書写（天正より寛文年間）
○旧十村市助難渋につき，家柄取続くよう願書（明治3年）
○五ケ山先両組十村歴代書（明治3年）。

6906　今津甚右衛門由緒書　16.63—232
手写
5丁　24cm
今津甚右衛門由緒帳より初代甚右衛門について抜書したもの。初代甚右衛門は，利家の正室芳春院が秀吉から与えられた江州今津・弘川両村の代官を慶長7年(1602)に命ぜられて以降，加賀藩の代官を勤め，寛永18年(1641)に没した。

特16.64 改　作　方

改作奉行勤方覚留

6907 兎雞網　16.64—1
野村寛著
手写
61丁　23cm
内題「東西手引」。内表紙裏に「野村寛曰ク兎雞網旧ト東西手引ト題ス此書ハ，旧加賀藩ノ改作所ノ秘事ヲ載セタルヲ以テ吏員其題名ヲ隠シテ，更メテ卯酉網ト題シ後又卯酉ヲ変シテ兎雞トナセシナリト，寛ハ本ト改作奉行タリ」とある。内容年代，天正14年（1586）～天保9年（1838）。

6908 改作方諸法度　16.64—2
御算用者増田半助編
小林三郎右衛門手写　元禄11年（1698）
24丁　24.5cm
慶長6年（1601）5月17日定書，同7年（1602）3月26日追加，同18年（1613）8月16日新追加，元和10年（1624）2月17日定書，および寛永8年（1631）3月13日三ケ国御法度書を収む。

6909 改作方格帳　16.64—3
手写　文政8年（1825）
83丁　24cm
微妙院様真翰等写，改作奉行より相窺被仰出趣之写，改作方等旧記留記写，改作方定書等之写，於改作方大概格相定置候品々，私共御用相勤品々書上申帳（園田左七，園田左十郎，毛利又太夫，脇田知右衛門等）。

6910 改作方格帳　16.64—4
134丁　24cm
前号に同じ。

6911 改作方格帳　16.64—5
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
前号と同内容で，2冊に分冊して記す。

6912 改作方勤仕帳　16.64—6
2冊　13×19.5cm
富田権六郎旧蔵。
①微妙院様御真翰等之写，改作奉行より相伺被仰渡候趣写（寛文6年　園田左七等13ケ条）於改作所大概格相立置候品々（元禄16年　毛利又太夫等65ケ条）
②改作方等旧記留帳写，改作方御定書等写，寛文9年（1669）園田佐七等勤方，元禄3年（1690）脇田知右衛門等勤方，同年園田左十郎・毛利又太夫勤方。

6913 改作方勤仕帳　16.64—7
前田家編輯方手写　明治年間
67丁　23.5cm
西田氏所蔵の写。内容は，改作方格帳（特16.64—3）のはじめより於改作方大概格相定書置候品々までを収める。

6914 改作奉行役儀之事　16.64—8
90丁　23.5cm
森可参旧蔵。役儀のことと共に，改作奉行に必要な明暦より元禄頃の高方等の諸知識を記載したもの。

6915 高方等御達書　16.64—9
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
収納免相，検地，郡奉行・改作奉行勤方，貸借等に関する達書等を収録。
①文久元年（1861）高方御達書等
②検地方格式等
③延宝8年（1680）歩苅被仰付村々等。

6916 改作奉行勤方等留　16.64—10
前田家編輯方手写　明治年間
84丁　27cm
寛文九年（1669）園田左七等勤方覚書，巳五月笠間源太郎等内作事方勤方書（以上2点横地秀三所蔵の写），宝永6年（1709）定書写，宝暦10年（1760）斗立仮御横目巻（加藤八郎右衛門著），御国目付衆へ御答書（宝暦5年答書　横地秀三所蔵の写）。

6917　公辺触等後来可見合留帳　16.64—11
改作所編
72丁　24cm
明和6年（1769）から天保年間までの幕令と，それに関する藩内部の触・達書等を収む。

6918　改作方之儀ニ付笠間九兵衛一存　16.64—12
手写
8丁　23.5cm
内題「改作方之儀ニ付笠間九兵衛一存之趣調出候内密之覚書」。奥村単滋所蔵の写。寛政7年（1795）8月の改作奉行勤方等につき内密意見書。

6919　改作奉行年中行事　16.64—13
手写
93丁　23.5cm
森可参旧蔵。改作奉行の正月から12月の職務について記載。享和3年（1803）までの勤方記事を引用する。

6920　税歛括要　16.64—14
久田忠左衛門恵迪著
手写
30丁　23cm
本多政以所蔵の写。加賀藩地方支配に関す手引書。

6921　補短集　16.64—15
23丁　23cm
内題に注記して「此書ハ石黒魚淵改作奉行在勤中之手控物ナリ」とあり。内容は，加賀藩地方支配の際に必要と思われる基礎知識について24項目にわたって記している。

6922　改作方其外諸事覚帳　16.64—16
84丁　23cm
富田権六郎旧蔵。改作勤方に必要な基本的事項を収録。

6923　〔改作所諸届雛形〕　16.64—17
82丁　23cm
内容年代，弘化年間～明治2年（1869）まで。

6924　改作方根元之儀取捌方伺状　16.64—18
1通　17cm
取箇，十村処遇他，改作方の内容についての伺。旧名書「改作方之儀根元之処いか様に取捌云々」。

6925　鉄砲之儀ニ付諸郡縮方詮義等留　16.64—19
改作所編
手写
69丁　25cm
天保8年（1837）改の旧例留。内容は，鉄砲改め，威打，修理出など。

6926　小松御城近在七十五ケ村威打願御達村名帳　16.64—20
改作所編
慶応3年（1867）
2丁　24.5cm
威し鉄砲打法度の村名書上。

改作方御用留

6927　河合録　16.64—21
河合祐之著
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　23.5cm
公務の覚書にと改作方の記録を中心に広く法令，旧記を取入れて283項にまとめたもので加賀藩農政経済を知る資料である。
刊本「藩法集」(6)・続金沢藩。

6928　改作雑集録　16.64—22
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　23.5cm
金谷礼彰所蔵の写。農政論，十村政談，慶長15年（1610）から延享元年（1744）の年譜などを雑多に収録。

6929　改作方旧記等三種　16.64—23
前田家編輯方手写　明治年間
81丁　23.5cm
改作方根元旧記類集（内嶋村孫作），御国御改作起本（前田恒敬旧蔵の写），租税略解（金沢県が明治5年に大蔵省へ報告したもの）を収む。

6930 改作根元旧記類集　16.64—24
前田家編輯方手写　明治年間
54丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。越中砺波郡内嶋村の十村孫作家に伝わる改作関係の旧記を集録したもので，内容年代は，慶長2年（1597）～天明元年（1781）。

6931 改作方旧記附録　16.64—25
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23.5cm
①徴妙公御代寛永8年（1631）3月被仰出御ケ条之写，慶安5年（1652）ヨリ寛文5年（1665）マテ被仰出御印書等之写，万治元年（1658）より元禄12年（1699）マテ被仰出改作方之御触達書之写
②改作方覚書
③御算用場表御隠密方留
④勤方帳，御算用場留帳留
⑤検地方格式覚帳。

6932 〔御算用場御書出免違ニ付書状〕　16.64—26
手写
1通　29.5cm
寛永19年（1642）の算用場書出の免違高赦免につき，横山左衛門尉より中川八郎右衛門等宛。

6933 御算用場覚書　16.64—27
高沢平次右衛門（忠順）著
前田式部手写　嘉永6年（1853）
11丁　24cm
「正保二年(1645)分より御算用覚書」とある。正保3年分も含み，年貢収納，払方等に関するもの。

6934 改作方御条目之部　16.64—28
手写
127丁　23cm
徴妙院様親翰等之写をはじめ，承応より元文年間の改作方にかかる204項目を収録。

6935 司農庁壁書　16.64—29
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　24cm
内容は，慶安5年（1652）から天保7年（1836）に渡る，郡方，農政，民政の関係法令を収載。

6936 役所張出し旧記之写　16.64—30
改作所編
手写
61丁　24cm
慶安～天保年間。算用場，改作奉行等よりの達書等を収録。

6937 明暦改作方旧記　16.64—31
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
内題書に朱書で「改作草創ノ留ト申ハ総ニ此二冊相残高沢見出」とある。改作法施行当時の達書，願書等を収む。
①「明暦元年留帳写」
②「明暦二年五月より同三年，同四年三月迄之分留帳写」
刊本「加賀藩改作法の研究」に収録。

6938 田井村次郎吉留帳　16.64—32
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
田井村次郎吉所蔵の写。
①明暦元年
②同2年5月～同4年3月。

6939 御改作草創之節三州十村物語之覚書　16.64—33
今枝民部著
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　23.5cm
万治元年（1658）御改作草創之節三州十村物語之覚書(木沢氏所蔵の写)，御改作記録抜萃，明暦4年御改作草創之節三州切之十村物語開作物石川郡河北郡村数八拾箇村草高附之覚を収録。旧書名「十村物語」。

6940 御改作草創之節三州十村物語之覚書　16.64—34
今枝民部著
手写
9丁　12.5×18cm
森可参旧蔵。原本成立 万治元年（1658）。もと木沢氏所持のもの。御老中宛の覚書。

6941　微妙院様御真翰之写等　16.64—35
手写
15丁　24.5cm
成瀬正居旧蔵。司農関係の「微妙院様御真翰之写」と「改作奉行相窺被仰出候趣之写」(寛文6年)を収録。

6942　改作記録四種　16.64—36
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　23.5cm
「改作初物語」「様子書」「御改作方之儀日翁法印物語聞書之写」「改作草創之刻 三州切之 十村物語」。

6943　理塵集抜萃　16.64—37
手写
62丁　27cm
理塵集は改作法の顚末を記した重要史料。

6944　改作方雑記　16.64—38
前田家編輯方手写　明治年間
41丁　23.5cm
安井顕比所蔵の写。理塵集抜書，検地方算法，測量法略解，税歛括要抜萃（山本新五左衛門編)。

6945　改作所旧記　16.64—39
高沢平次右衛門（忠順）著
前田家編輯方手写　明治年間
18冊　23.5cm
別名「高沢録」。改作所の古い留記のうち，万治元年（1658）から享保7年（1722）の重要な達書など2,600余項を抜萃し，編年体にまとめたもので，加越能三州の農事を知るに極めて主要な書である。
第一巻始めに「高沢平次右衛門輯，福留村六郎左衛門書」とあるは，忠順が抜萃蒐集したものを六郎左衛門が整理し清書したと考えられる。
高沢忠順，通称平次右衛門，号は鶴鳴，宝暦7年（1757）父の遺知450石をつぎ御馬廻，明和6年（1769）能州郡奉行，寛政4年（1792）加州郡奉行，同6年（1794）物頭並御作事奉行を勤め，同11年（1799）1月7日69才歿。
著書には，本書のほか，改作枢要記録（別名高沢税賦考)，金沢事蹟必録，明私筆記，鶴鳴記録，年代摘要などがある。福留村六郎左衛門は，石川郡福留の住人で代々十村役を勤めた。
刊本「改作所旧記」上中下3冊。
各冊内容は，
①万治元年（1658）～3年
②寛文元年（1661）～3年
③寛文4年 ～7年
④寛文8年 ～12年
⑤延宝元年（1673）～4年
⑥延宝5年 ～8年
⑦天和元年（1681）～3年
⑧貞享元年（1684）～4年
⑨元禄元年（1688）～5年
⑩元禄6年 ～10年
⑪元禄11年 ～13年
⑫元禄14年 ～16年
⑬宝永元年（1704）～5年
⑭宝永6年 ～正徳3年（1713）
⑮正徳4年 ～享保3年（1718）
⑯享保4年 ～7年
⑰附録1改作方覚書，同2御国御改作之起本并楠理尽鈔傳受日翁由来，同3改作枢要記録，同4老婆鮹の煮物
⑱同5年代摘要。

6946　改作方其外諸事留　16.64—40
手写
2冊　23.5cm
森可参旧蔵。①寛文4年（1664）～7年（1667）②寛文8年（1668）～12年（1672）で，表紙付箋に「此冊改作所留記第3本一名高沢ト同書也」とあり，改作所旧記の巻3・巻4と同内容である。

6947　改作枢要記録　16.64—41
高沢平次右衛門（忠順）著
前田矩正手写
25丁　23cm
前田栄次郎旧蔵。別名「高沢税賦考」，「改作所旧記」の附録3。藩政初期よりの年貢徴収の沿革，改作法施行の理由，後々財政難に至った事情などを記す。刊本「改作所旧記」下。

6948 高沢録 16.64—42
高沢平次右衛門（忠順）著
手写
30丁 23.5cm
巻頭に前田矩正の賛を附す。前号と同内容。

6949 司農庁年代摘要 16.64—43
97丁 23.5cm
別名「加賀司農庁年代摘要」。万治元年（1658）～寛延元年（特1748），藩の司農関係事例年代記。「改作所旧記」（特16.64—39）下巻附録5年代摘要と同じ。刊本「改作所旧記」下。

6950 加賀司農庁年代摘要 16.64—44
前田家編輯方手写 明治年間
45丁 23cm
万治元年（1658）～貞享3年（1686）において年代別に御触等の項目を列記。高沢忠順著の「年代摘要」中，貞享3年分までと同一。

6951 改作方覚書 16.64—45
手写
38丁 23.5cm
万治・寛文期の触，定書，改作方役人名，十村名，寺領書上，引高等を記す。

6952 〔枡廻横目書付請取に付書状〕 16.64—46
1通 18cm
寛文～延宝初年の改作奉行園田左七等より大横目中川八郎右衛門宛。
旧書名「裁許米ニ付口上書」。

6953 増作食被下控 16.64—47
手写
15丁 24cm
前田貞醇旧蔵。寛文5年（1665）より元禄11年（1698）までの貸米，増作食米の額を郡別に記す。

6954 改作方雑留 16.64—48
4冊 13×19.5cm
①能州御預所村附等
②享保・延享・寛延諸郡申渡控等
③御領国中町方宿方家数等
④寺西半右衛門覚書之内抜書等。
内容年代，寛文より寛延3年（1750）まで。

6955 改作方類聚雑記 16.64—49
2冊 24cm
安井顕比旧蔵。
①「図免之巻」 図免之心得，図り免之節免状調様，元禄6年（1693）新田割合免算用之法等
②「見立之巻」 元禄6年水損 旱損 村数書上の他，寛延元年（1748）までのものを収録。

6956 改作方諸文書覚 16.64—50
手写
25丁 24cm
元禄12年（1699）の算用場・改作奉行と十村間の，触書，願書，注進書等を収録。

6957 ~~3957~~ 改作方御仕方留 16.64—51
33丁 24cm
内題「元禄寛政享和高方申渡」。森可参旧蔵。

6958 改作方旧例 16.64—52
前田家編輯方手写 明治年間
71丁 23.5cm
内題「加越能改作方旧例」。また，「他見無用書御田地之巻 全」，「享保六歳改秘書」とある。収納，検地，新開等改作方全般にわたり73項目を収録。

6959 改作方類聚雑記 16.64—53
合綴1（2冊） 12×18cm
安井顕比旧蔵。
①「見立之巻」 寛延2巳10月射水郡へ見立御用ニ罷出候節召連候御扶持人共へ内々ニ而申渡候趣，見立一巻之覚書等
②「見立之巻」 案文之部，仕立之部より成り，見立の際の免状等調方に関して記す。

6960 改作方公用集 16.64—54
前田家編輯方手写 明治年間
98丁 23.5cm
元文3年（1738）～安永7年（1778）の改作・郡方の触書，達書を収録。

6961　〔小百姓頭振等癖付悪敷罷成候段被仰渡之留〕　16.64—55
手写
15丁　25cm
原題「御改作御奉行所より小百姓頭振等癖付悪敷罷成候段御書立を以時々被仰渡之留」。五十嵐氏旧蔵。宝暦8年（1758）10月，寛政3年（1791）3月，文化11年（1814）9月の諸郡宛改作奉行申渡。
旧書名「御改作奉行より小百姓頭振等癖付悪敷罷成候段被仰渡之留」。

6962　改作始末聞書　16.64—56
武部敏行著
前田家編輯方手写　明治年間
115丁　23.5cm
別名「農政記聞」。上巻49条，下巻86条，追加21条を収録。著者は越中砺波郡の十村。

6963　奥郡御用留帳　16.64—57
前田家編輯方手写　明治年間
109丁　23.5cm
上田源助所蔵の写。内題「鳳至珠洲両郡御用留」。寛政～天保年間の主に冥加銀，御貸米，御償米等の記事を収録。

6964　鳳至郡珠洲郡御用留　16.64—58
上田頭道編
前田家編輯方手写　明治年間
118丁　23.5cm
文政5年（1822）～天保5年（1834）御貸米，御救米，変地御償米等についての留書。

6965　〔多根村等田畠書上帳〕　16.64—59
手写
8丁　24cm
内容年代寛政7年（1795）。多根村肝煎等よりの「多根村与石動山論山谷々ニ御座候御田地田畑共荒所相しらへ書上申帳」及び蟻ケ原村肝煎等よりの「田畠ケ所石訳仕字付書上申帳」を収む。両者とも武部村弥左衛門宛。
旧書名「多根村等田畠荒所書上帳」。

6966　多根村田畑荒地起帰り方御仕法一件　16.64—60
手写
6丁　24cm
真館氏所蔵の写。内容年代，寛政12年（1800）多根村起返り畑歩数場所附覚，荒地起返方御仕入米通等よりなる。

6967　〔鹿嶋郡蟻ケ原村御救米願一巻〕　16.64—61
享和元年（1801）
39丁　24cm
十村武部村四郎大夫より，郡・改作奉行宛の御救米願書及び郡奉行等より算用場宛申書等を収録。蟻ケ原村は石動山との山論未決のため困窮に陥ったもの。なお，石動山との山論に関連した文書も収録する。

6968　御内達紙面等留　16.64—62
荻谷村円次郎編
手写
39丁　23.5cm
新田才許の円次郎が改作奉行へ提出した届書等をまとめたもの。内容年代は，享和3年(1803)～文化11年(1814)で，検地，年貢収納，宗教，農民騒擾等に関するもの。

6969　蓄米始末　16.64—63
前田家編輯方手写　明治年間
185丁　23.5cm
天保5年（1834）仰渡しの蓄米制度に関する諸文書を収録。同8年までのもの。

6970　御根役所留帳抜書　16.64—64
手写
62丁　23cm
真館氏所蔵の写。外題「天保中根役所留」。天保7年（1836）の農政諸事について記録している。根役所は一般に主管する役所(本庁)のことを言うが，ここでは，算用場，改作所であろう。

6971　改作方御仕法留　16.64—65
改作所編
天保9年（1838）
4冊　24cm
森可参旧蔵。①御収納方之部　②地盤方之部

③借財方之部　④高方之部。内容年代，天保８～10年。

6972　改作方御仕法留　16.64—66
手写
２冊　23.5cm
地盤方之部・高方之部の２冊よりなる。
内題「天保八年改作方御仕法留」。高方之部巻首に「石川県地理課ヨリ来ル七冊ノ内河合録ノ附属品ナリ」と朱記あり。

6973　天保八年改作方御仕法留　16.64—67
改作所編
21丁　24cm
表紙に「全四冊之内借財方之部」。と記す，

6974　御仕法復元留等三種　16.64—68
前田家編輯方手写　明治年間
80丁　23.5cm
天保８年（1837）御仕法復元留，天保10年正月ヨリ改作御法復元留抜書，天保８年７月以後高方御仕法被仰渡之趣ニ付十村ヨリ伺指令相調理書上帳を収録。

6975　高方并質方筮諸指引御仕法被仰付候御触等一巻　16.64—69
手写
43丁　24cm
真館氏所蔵の写。内容年代，天保８年（1837）７月。

6976　御用留　16.64—70
加藤又八郎編
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
天保８年（1837）より同15年（1844）の改作方に関する文書。奉行所よりの達書，十村よりの願書等67項目を収録。
①天保８年・９年
②同９年～同15年。

6977　新川郡御縮高一件　16.64—71
前田家編輯方手写　明治年間
66丁　23.5cm
杉木有恒所蔵の写。天保14年（1843）新川郡御縮高ヲ御仕法高ニ被仰付候ニ付仕出シ帳等一件，天保８年高方御仕法御改後村々百姓人別持高御改メ御請帳，御縮高一御郡切御仕法高ニ御渡被下候ニ付類分仕出帳（雛形），御縮高之内諸式申分等ニテ御取揚に相成候分書上申帳（雛形），御縮山書上申帳（雛形），今般御縮高之内御郡々切仕法高云々，天保14年御縮方一郡切御仕法高ニ被仰付候ニ付御書立等一件。

6978　高方御仕法書　16.64—72
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。高方仕法を中心に改作奉行からの達書等を収録。
①天保８年・９年
②天保10年～弘化３年。

6979　籾納返上根帳　16.64—73
改作所編
41丁　23.5cm
天保11年（1840）から嘉永３年（1850）の加賀・能登・越中各郡の，御蓄籾と別除籾，その貸渡と返上の記録。

6980　〔除米ニ付算用場奉行へ達書〕　16.64—74
手写
１通　24cm
奥村栄実旧蔵。天保12年（1841）７月付。

6981　御仕法高御用留　16.64—75
荻谷村長右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
２冊　23.5cm
岡部直造所蔵の写。編者が口郡仕法高仕抹方手伝を拝命した際の関係諸文書を収録。
①嘉永３年（1850）
②同４年（1851）。

6982　毎年弐百十日後御郡御扶持人組々廻村御注進書上留　16.64—76
五十嵐佐次右衛門著
117丁　24.5cm
嘉永４年（1851）～明治４年（1871）のもの。

御改作奉行所宛の砺波郡村々十村廻村縮方覚留。

6983　改作御吉例申渡等　16.64—77
前田家編輯方手写　明治年間
66丁　25cm
安政6年（1859）林省三申渡，安政7年（1860）加藤右門申渡，文久元年（1861）瀬川久右衛門申渡，慶応2年（1866）陸原慎太郎申渡等の他，御用鑑，金石町旧記等からの慶応2年分の抄等を収む。

6984　改作所達留　16.64—78
改作所編
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　23.5cm
内容年代，万延元年（1860）～明治元年（1868）で，改作所御達留の抄録。

6985　御達留　16.64—79
改作所編
65丁　25cm
万延元年（1860）～明治元年（1868）のもの。

6986　地盤方等勘農局へ附候御触等先鑑　16.64—80
手写
7丁　24cm
慶応3年（1867）から明治2年（1869）の改作奉行・勘農局より郡方に宛てた新開等についての達書。

6987　改作要録　16.64—81
60丁　12×18cm
岡田棣旧蔵。三ケ国組々并村数在人高之事，江州御領之由来，検地并内検地之事，十村等始り年号并由来など38項。

6988　〔吉崎村新道切明け箇所申分詮議一件〕　16.64—82
4通　16.5cm　包紙
改作奉行の詮議書状。
旧書名「改作奉行詮議書等四通」。

6989　〔立替籾返納方につき願書〕　16.64—83
巻子1　16cm
加州・能州十村より改作所宛願書等4通の継立。

6990　能美郡白山田村・鵜川村成立仕法居屋敷替等見込書　16.64—84
4丁　24cm
森可参旧蔵。難渋両村の成立仕法について，牧野孫七よりの書上。

6991　〔改作方書類綴〕　16.64—85
仮綴1（22→23通）　16.5cm
改作方と算用場の書類を中心に，村方拝借銭，御救米，川除普請等に関するものを収む。藩政後期のもの。旧書名「借銀願等諸覚書」。

6992　〔改作方伺書〕　16.64—86
巻子1　17cm
藩政後期にかかるもので，宇出津山奉行並所口御代官指止一件，能美郡平十村今江村左源次等無役年寄被仰付一件，五ケ山金納代銀収納仕法変更一件，広瀬欣左衛門等詰米奉行兼帯一件を収む。旧書名「御達書」。

6993　〔遠所蔵米等之義覚〕　16.64—87
9通　16.5cm
①御算用場より改作奉行宛，粮米受取方申渡（閏4月）
②改作奉行より批売方につき伺書（辰7月）
③筒井内記より御改作所宛，種籾買入方願（辰2月）
④南善左衛門等より御改作所宛，大門御蔵縮方下役相立度願（辰2月）
⑤⑥⑦砺波郡御扶持人より改作所宛，中田御蔵川下げにつき願（辰5月，3通）
⑧⑨所々御蔵米川下げ賃願高聞届覚（2通）。

6994　加賀藩税法考　16.64—88
岡野松邱著
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　25cm
北陸新報第5007号（明治25年11月1日）の写。加賀藩の，検地，免，改作法の大要を記述。

特16.65 土 地 ・ 貢 租

総 記

6995 農政 16.65—1
前田家編輯方手写 明治年間
35丁 23cm
農政（御領国斗代之事，越前国斗代之事，立毛毎年見図，越後斗代之事，飛騨国斗代之事，田成畠打之法，畠野栗畠柿木畠新開ニ被仰付歩数之事，高俵詰免之事，物成初之事，一歩苅之事，一歩刈算用仕様，免極リ之覚，御領国斗代之覚，田数名之覚，開地入用図，三ケ国并江州共御知行高高辻帳ニ載ル覚，江州御知行高，江州今津之事，別川運上，五ケ山納所之事，御領国歩高図り，改作被仰付年月，改作入用銀高，前借シ本米高御赦免，改作以前跡貸物，改作已前跡未進，作食米相極年米高，村御印御成替年，郡打銀遣方，郡打銀御納戸銀役銀遣分，御郡中御法度定，運賃定），御領国江戸京大坂御入用中勘図（延享4年8月仕立），一歩苅之事（文化9年8月）を収録。

6996 〔加越能租税資料〕 16.65—2
前田家編輯方手写 明治年間
20丁 25cm
徴古雑抄，東大寺要録，大日本租税志等からの抜書で，中世・近世のものを収む。

6997 租税略解稿本 16.65—3
手写
32丁 24.5cm
加賀藩税制沿革についての簡単な前書のあと，以下の項目についてごく簡略に記述している。壱歩刈之事，火難水難取扱之事，畑成屋舗成之事，手揚高手上免之事，割地之事 米銭振分納所之事，新開之事，高懸物之事，山役之事，抜物之事，検地之事，金納之事，備荒倉之事，俵入之事 口米夫米之事，検見之事，関所田地取扱等之事，肝煎扶持米之事。

6998 御郡方旧記 16.65—4
御郡方編
前田家編輯方手写 明治年間
3冊 23.5cm
①加賀国能美郡内長田村御検地帳（天正19年），新川郡知行所付，元禄13年より安永8年迄年々御詰米高，小物成取立之義ニ付覚書（享保3年），加越能定小物成散小物成用米并酒造米高帳（天明7年）
②羽咋鹿島両郡定散小物成銀取立方書上申帳，御知行平均免被下方士列以上ニ而茂壱免下りを以被下候分等之事，石川郡中里草高五百石計云々，開作内考
③邑知潟諸方より新開願潟水掘抜或ハ新川を掘為引可申旨色々願書上候ニ付水矯見分等被仰渡一件留書（文化14年），高方仕法略記并立毛見立心得書，加越能三州米銀納等并引免方之事，以来作損見立格相極一件并田地割一件（天保9年）。

6999 草高定納夫銀口米并斗代等之訳 16.65—5
11丁 23.5cm
三州における口米，夫銀，一反当草高の由来や算出法等を，他領との比較で解説。

7000 福留村六郎右衛門覚書之写 16.65—6
手写
5丁 24.5cm
「加賀国越中国諸郡田地米ノ図」，「免ト云ハ」の2項よりなる。貫高と石高，小物成，鍬役，口米，河渡免等にもふれている。

7001 検地願帳等六種 16.65—7
前田家編輯方編
明治年間
71丁 23.5cm
羽咋郡梨谷小山村関係文書。
御検地申請度帳（正徳2年），御検地惣高廻引物野帳（正徳3年），高請下シ方仕法書立帳（寛政9年），御高下シ方仕法之追加（寛政10年），山方御仕法ニ付当時取扱方申渡帳（寛政10年），村々肝煎組合頭江申渡惣年寄演述之覚（文政4年）。

7002　三ケ国斗代等覚書　　16.65—8
手写
6丁　24.5cm
富田権六郎旧蔵。三ケ国斗代，知行町間道程，石川郡中里草高五百石斗の中の村にて草高五拾石所持之中百姓持高不残耕作する者農人男女人馬里子給銀こゑ入用の大図を収む。

7003　〔三ケ国〕斗代等之覚　　16.65—9
手写
22丁　23cm
原題「斗代等之覚」。中川典克旧蔵。表紙に，「文化十三年八月安房守改作奉行大村友右衛門江別席之序ニ三州斗代并田地ニ草高免付候義見安調出候様申渡候処此帳面出之」とある。文化9年（1812）「射水郡原田村等歩苅仕立帳」も収む。

7004　三州斗代之覚　　16.65—10
手写
1通　27cm
前号の一部を抄出したもの。

7005　御高方留　　16.65—11
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
上田源助所蔵の写。天保7年（1836）凶作時の諸仕法，切高，歩刈，作徳，田地割等について記す。
①天保8年7月～同9年1月
②天保9年9月～嘉永4年（1851）11月
③天保8年10月～同9年8月。

7006　新開等之件　　16.65—12
明治5年（1872）
巻子1　16cm
新開，免付，用水普請，高辻帳等に関する覚書。

高辻帳・村御印

（高辻帳）

7007　〔加能越三ケ国高辻帳原稿〕　　16.65—13
正保3年（1645）
11冊　24.5cm
高物成帳の原稿で，特16.2藩制のうち郷村高に収載したものの下調理である。
①能美郡 ②石川郡 ③河北郡 ④羽咋郡 ⑤鹿嶋郡 ⑥鳳至郡 ⑦珠州郡 ⑧利波郡 ⑨婦負郡 ⑩中郡・氷見庄⑪下新川郡之内飛騨守様御領分。
旧書名「高辻帳原稿」。

7008　加能両国高物成帳　　16.65—14
手写
8冊　29×21.5cm
正保3年（1646）領内各村の草高を集録したもの。田畠の面積記載を朱筆で訂正し，石高記載としている。
①江沼郡 ②能美郡 ③石川郡 ④河北郡 ⑤羽咋郡 ⑥鹿島郡 ⑦鳳至郡 ⑧珠洲郡。

7009　〔加・越国高物成帳〕　　16.65—15
手写
2冊　25cm
①江沼郡の村別に前田光高，利治の領分別を注記し，その領知総高を記す。「正保三年ニ上ル下帳」とある。
②新川郡の村別に前田光高，利次，利治の領分別を注記し，その領知総高を記す。「正保三年ニ上り帳之下帳」とある。
旧書名「加賀国江沼郡高物成帳」
「越中国新川郡高物成帳」。

7010　〔新田永荒之所抜書〕　　16.65—16
手写
巻子1　24cm
貞享元年（1684）高辻帳の抜書で寛文4年（1664）高辻帳作成以来の新田高，永荒高を加賀，越中，能登の国別に記す。

7011　〔高辻帳ニ付津田宇右衛門上申候紙面之内抜書〕　16.65—17
手写
1通　24cm
貞享元年（1684）高辻帳作成のための退転高処置方法について。

7012　高指引寛文格・貞享格仕立申目録　16.65—18
野村五郎兵衛等編
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
末尾に「元禄十二年（1699）御前へ上ル目録之控書」とあり，高辻帳作成に関するもの。
旧書名「寛文格・貞享格仕立申目録」。

7013　〔郷村高辻仕立方一件〕　16.65—19
21通　24～36.5cm　包紙
包紙「寛文格貞享格仕立申目録見合ニ可相成要用之品」。成立は元禄期，高辻帳作成の際の資料。旧書名「郷村高辻仕立方覚書」。

7014　〔郷村高辻帳ニ付達書〕　16.65—20
手写
巻子1　17cm
本多安房守より横山大和守，西尾隼人宛に高辻帳作成に関して指示したもの，前欠。
旧書名「本多阿房守書翰写」。

7015　郷村帳御指出之節書類　16.65—21
手写
仮綴1（8通）　17～24cm
享保2年（1717），郷村帳書式，提出書類等につき，藩と幕府及び老中間の書状等。

7016　〔郷村帳作成につき達書〕　16.65—22
1通　15cm
河地平左衛門の達書，4月23日付。旧書名「河地平左衛門書状」。

7017　〔高辻帳之儀ニ付紙面等写〕　16.65—23
手写
33丁　25.5cm
原題・旧書名「高辻帳之儀ニ付前田美作守紙面等写」。宇野富良旧蔵。御勝手方に保管された，高辻帳作製事務の留。

（村　御　印）

7018　承応明暦御印写　16.65—24
手写
62丁　23.5cm
文久2年(1862)に，承応・明暦年間村々宛御印書の写し書上げ命によってまとめられたもの。
旧書名「御印写」。

7019　〔加能越三箇国村御印之留〕　16.65—25
手写
9冊　31cm
明暦2年（1656）8月の村御印を集録したもの。
①能美郡
小松八日市町・小松三日市町・小松大文字町・小松中町・小松新町・小松京町・向野・浜田村・須天村・北浅井村・清六村・不動嶋村・沖村・打越村・若杉村・八幡村・漆村・佐々木村・荒木田村・軽海村・一針村・平面村・上小松村・園村・小寺村・本折村・大領中村・大領村・南浅井村・中野村・鍛冶村・鷺ヶ嶋村・浮抑村・安宅村・安宅新村・小嶋村・長崎村・坊丸村・根上り村・大嶋村・下牧村・上牧村・梯村・御館村・犬丸村・蛭川村・松梨村・嶋田村・長野田村・野田村・荒屋村・末信村・向野之内柴山分・山口釜屋村・小長野村・白江村・金屋村・中村・立明寺村祐泉寺村・宇川村・目蔵谷村・鍋谷村・坪野村・牛嶋村・小杉村・河田村・小野村・徳田村・国府村・古浜村・千代村・能美村・大長野村・尾小屋村・吉竹村・岩淵村・桂谷村・原村・下麦ケ口村・西又村・中峠村・上麦ケ口村・嵐村・五国寺村・松谷村・大野村・金平村・沢村・塩原村・松岡村・池之城村・三ツ谷村・布橋村・波佐ら村・観音下村・岩神村・江指村・勘定村・蓮台寺村・三谷村・木場村・津波倉村・小山田村・白山田村・井之口村・日用村・荒谷村・牧口村・西原村・馬場村・那谷村・嶋村・蕨輪村・符津村・矢崎村・今江村・舟津村・猿ケ馬場村・串村・串新村・村松村・松崎村・栗津村・佐見村・日末村・二梨村・千木野村・大杉村・長谷村・

正蓮寺村・本江村・花坂村・波佐谷村・瀬領村・上り江村・打木村・赤瀬村・若原村・河合村・瀬木野村・瀬木野新村・広瀬村・下野村・上野村・三ツ瀬村・二曲村・清水村・神子清水村・五十谷村・柳原村・野地村・相滝村・三坂村・別宮村・渡津村・下吉谷村・上吉谷村・西佐郎村・三ツ屋野村・釜清水村・河原山村・新谷村・仏師ヶ野村・左礫村・尾添村

②羽喰郡

相神村・本江村・領家町・栗山村・稲敷村・里本江村・八幡座主村・中泉村・地頭町・中浜村・飯室村・福浦町・小窪村・篠波村・館開村・荒屋村・草木村・中山村・釈迦堂村・領家七海村・半下村・生神村・地頭七海村・中畠村・谷神村・町居村・三明村・切留村・代田村・広地村・今田村・上野村・日用村・相坂村・八幡村・和田村・源谷村・入釜村・草江村・酒見村・大津村・百浦村・小浦村・楚和村・堀松村・火打谷村・大篠村・矢田村・田原村・長田村・小室村・谷屋村・印内村・大鳥居村・鹿頭村・尾室村・大福寺村・赤住村・栢ノ木村・河川村・尊坊村・灯村・地保村・鵜屋村・大西村・清水今江村・吉田村・田中村・貝田村・江漆村・髙田村・直海村・米町村・梨谷小山村・前浜村・赤崎村・千浦村・風無村・風戸村・日下田村・給分村・徳田村・沢川村・黒川村・鉢野村・箕打村・紺屋村・平床村・二ツ屋村・小館村・所司原村・正友村・三日町・下河合村・新宮村・粟生村・新保村・荻島村・荻谷村・兵庫村・石坂村・粟原村・土橋村・敷田村・荻市村・聖川村・下石村・海老坂村・柳瀬村・中沼村・当熊村・宿村・今浜村・羽喰村・子浦村・東野村・麦生村・小川村・山崎村・中野村・竹生野村・敷波村・森本村・吉野屋村・東間村・河原村・坪山村・北川尻村・大海川尻村・冬野村・瀬戸町村・上河合村・門前村・元女村・夏栗村・米出村・上田出村・上田村・塵浜村・向瀬村・牛首村・押水免田村・吉田村・瓜生村・押水大田村・野寺村・菅原村・一ノ宮村・倉垣村・菅池村・藪野村・神代村・狭谷村・柴垣村・矢駄村・長沢村・吉崎村・滝村・千田村・垣内田村・尾長村・中川村・走入村・千石村・清水原村・見砂村・二口村・石野町村・立開村・杉野屋村・円井村・千代町村・源江村・上江村・三ツ屋村・榻見村・柳田村・上棚村・岩田村・坪野村・福井村・川尻村・矢蔵谷村・宿女村・大笹村・西山村・末吉村・穴口村・館村・二所宮村・米浜村・大坂村・大念寺村・福野村・大田村・神子原村・福水村・白瀬村・若部村・本江村・寺境村・大念寺新村・飯ノ山村・鳥越村・町屋村・大平村・河内村・西谷内村・免田村・藤ノ瀬村・古江村・上畠村

③利波郡

稗嶋村・下蓑町・本領八百村・芹川村・安楽寺村・下向田村・赤丸村・四十万村・上向田村・木舟村・地崎村・柳川村・石王丸村・土屋荒屋敷村・北屋敷村・峯坪野村・宇治村・谷坪野村・岩尾滝村・土屋上野村・荒間村・坂又村・千石村・論田村・峠村・土屋中野村・後谷村・桜町村・矢波村・髙坂村・両輪岩佐村・嶺村・畠中村・餘零子嶋村・田川村・須川村・下屋敷村・法楽寺村・矢波牧村・髙畠村・宮嶋中村・岩崎村・三日市村・馬場村・小野村・岡村・西村・原牧村・渕ヶ谷村・茗荷原村・六郎谷村・大滝村・横谷村・石堤村・栗栖村・二之滝村・西明寺村・原村・菅ヶ原村・花尾村・道坪野村・鳥倉村・舞谷村・沢川村・土屋村・佳例谷村・赤谷村・別所村・栃谷村・石代落合河原村・中村・二つ屋村・青嶋村・宮森村・八拾歩村・石代村・中田村・滝村・東坪野村・芹谷村・徳万村・河内村・頼成村・井栗谷村・安川村・横住村・常国村・今泉村・湯山村・湯谷村・久泉村・柳瀬村・庄金剛寺村・徳市村・上麻生村・増仁村・春日吉江村・石丸村・金屋岩黒村・東保名ヶ原村・栃上村・東保村・落村・池原村・開発村・市之谷村・小牧村・杉谷新村・別所村・前山村・浅谷村・隠尾村・伏木谷村・五之谷村・下山田村・上和田村・下麻生村・西保三ヶ村・中条村・権正寺村・小林村・寺尾村・大田村・祖泉村・三谷村・大窪村・秋元村・増山村・福岡村芹谷野村・水之宮村・新明村・大門村・下中村・砂田村・髙堀村・専勝寺村・縄之内村・小矢部村・深井村・杉木村・七社村・小杉村・金屋開発村・荒屋村

・北高木村・東宮森村・新高屋村・野村嶋村・太郎丸三ケ村・庄下五郎丸村・油田中村・則安嶋村・竹正村・福町・松原上野村・安室村・戸保家村・大辻村・利屋村・墓浦村・岩屋村・杉之木新町・水牧村・南高木村・中神村・庄下館村・新又村・田野尻村・牧寺村・狐嶋村・木之下村・鹿嶋村・千代村・道明村・寄嶋村・西宮森村・飛驒屋村・林村・道林寺村・油田堀之内村・六拾歩村・小矢部嶋新村・金屋新屋敷村・江波村・五社村・油田宮村・軸屋村・地仙村・紺屋嶋村・鷲ケ嶋村・水落村・小神村・油田大坪村・千保村・矢木村・柳原村・小嶋村・三郎丸村・日詰村・坪之内村・茄子嶋村・野花村・松永村・綾子村・長村・松尾村・八伏村・油田町村・石名田村・松崎村・清水明村・岡御所村・蓮沼村・高道村・行兼村・十年明村・苗加村・中野村・東中村・宮丸村・駒方村・高田嶋村・須田村・戸出村・横越村・下老子村・大清水村・柴野十日市村・手洗野村・蔵野町村・荒見崎村・山川村・竹村・頭川村・上蓑村・羽村・江道村・辻村・壱歩弐歩村・小竹村・市之瀬村・夏住村・小伊勢領村・後正寺村・蜂ケ嶋村・矢部四ケ村・光明寺村・境村・五十辺村・油屋村・勝木原村・麻生谷村・江尻村・今市村・稲田之内六家村・狼村・蓑嶋村・上開発村・三ケ村・東石堤村・笹川村・吉住村・柴野内嶋村・北嶋村・篠八口村・四日市村・六家村・佐野村・古戸出村・中之宮村・本保村・下開発村・石塚村・宮腰村・内嶋広谷村・高辻村・月野谷村・八口村・立野町・渡り村・伊勢領村・佐加野村・塔野嶋村・内嶋村・大源寺村・岩坪村・細池村・嶋崎村・下日詰村・中保村・西河原嶋村・今石動町・小矢部嶋分今石動町・城ケ端町利久新田

④利波郡

井波町・河原崎村・北市村・野田村・八塚村・高畠村・七曲村・徳成村・江田弐つ屋村・上見村・舟野新村・利久村・原村・瀬戸村・心観寺村・神成村・池田村・蓮代寺村・谷村・西明村・正谷村・戸板村・西原村・江田殿村・細野村・久戸村・清源寺村・安清村・是安村・松嶋村・蓑谷村・沖村・森清村・信末村・蛇喰村・中尾村・林道村・井口中村・東城寺村・石田村・野口村・雨潴野村・塔尾村・野原村・金戸村・三清村・大鋸屋村・宮後村・池尻村・江田村・東西原村・院宣見村・今里村・山見村・五領村・窪村・山田新村・東石田村・田屋村・利波河村・藤橋村・井之口村・北野三ケ村・鍛冶村・小山村・山田野村・下野村・吉江新村・山田野出村・種瀬戸村・田中殿村・一日市村・土生村・大西村・土生新村・嫁兼村・竹内四ケ村・祖谷村・立野脇村・福光村・田中新屋敷村・重安村・刀利村・臼中村・小院瀬見村・田屋村・吉見村・田中開発村・綱掛村・市之沢村・田中館村・仏道寺村・遊部村・高宮村・荒木村・田中小林村・梅原村・広瀬館村・宗守村・小二又村・小坂村・広谷村・天神村・吉城寺村・才川七村・神宮寺村・吉江中村・田中村・福光新町・高堀之内上野村・高儀村・坪野村・筏村・広安村・高瀬村・三つ屋村・定龍寺村・山本村・田尻村・岩木村・柴田屋村・布袋村・晩田相木村・八幡村・泉村・西正寺村・法林寺村・三日市村・院林村・大堀新村・古軸屋村・小松村・下吉江村・長源寺村・能毛野新村・梅ケ嶋村・高屋村・寺家新屋敷村・松原新村・小又村・土山村・湯谷村・上津村・野尻村・二日町村・百町村・有房村・前田村・焼野村・福野村・鳥越砂子谷村・北川村・松木村・川合田村・中郷村・倉ケ原村・焼野新村・森村・坂本村・桐之木村・年代村・本江村・古上野村・五ケ村・寺家村・高儀新村・胡麻嶋村・神嶋村・不動嶋村・内御堂村・福住村・和沢村・上後丞村・西中村・鷹栖村・経田村・嶋村・八講田村・五郎丸村・末友村・赤倉村・野寺村・高木出村・臼谷村・今寺村・人母村・水嶋村・上次郎嶋村・下次郎嶋村・四日町村・徳生町・蓑輪村・興法寺村・上河崎村・下河崎村・小赤谷村・杉谷内村・平桜村・藤森村・渋江村・高木村・新西嶋村・西之嶋村・石坂出村・高窪村・浅地村・安居村・蟹谷北市村・清水村・内山村・金屋本江村・西河原村・名畑村・平田村・柳田村・石坂新村・下後丞村

⑤射水郡

堀上新村・高場新村・八嶋新村・中野新村・中新村・針山新村・片口村・打出本江村・西

高木村・金屋村・願海寺村・小杉村・東津幡江村・針山後新村・摺出寺村・久々江村・花木新村・穴場新村・長徳寺村・利波新村・石丸村・野寺村・二十六町村・野村・津江村・東老田村・姫野村・四日曽根村・三日曽根村・野々上村・下村・海老江村・久々湊村・荒屋村・二又村・作道村・新明神村・放生津町・法土寺村・三十三ケ村・中老田村・柳瀬村同新村・堀岡新村・放生津新町・古明神村・小白石村・大白石村・殿村津幡江村・上野村・黒川村・三土田町・橋下条村・青井谷村・上牧野村・橋下条新村・北高木村・今開発村・稲積村・中曽根村・高木村・沖塚原村・朴木村・布目村・日宮新村・松木村・大手崎村・鏡宮村・浄土寺村・鷲塚村・大江村・六渡寺村・沖村・今井村・六渡寺新村・戸破村・小杉村・野村新村・高岡廻潴分・掛開発村・領家開発村・十弐町嶋村・石瀬村・角村・江尻村・荻布村・野村・二塚村・大野村・中川村・京田村・赤徳村・下関村・米嶋村・下伏間江村・早川村・四つ屋川原村・西広上村・上関村・鴨嶋村・長慶寺村・北嶋村・上伏間江村・嶋村・下黒田村・拾弐町分・羽広村・波岡村・佐野四ケ村・木津村・横田町・柳嶋村・上黒田村・東藤平蔵村・三女子村・二塚新村・西藤平蔵村・中伏木村・須沢村・能町村・吉久村・下牧野村・北野村・大門村・中野村・二口村・東広上村・開口村・串田村・小林村・新開発村・赤井村・本田村・市之井村・下若林村・南高木村・八塚村・柳田村・蓮花寺村・小泉村・犬内村・円池村・出来田村・竹ケ鼻村・小嶋村・井口本江村・堀内村・上若林村・上条村・浅井下条村・藤牧村・布目沢村・生源寺村・鳥取村・大門新町・百来木村・川口村・宮袋村・寺塚原村・東本江村・円池新村・土合村・若杉村・安吉村・中村・枇杷首村・本開発村・浅井嶋村

⑥氷見庄

角間村・白川村・吉滝村・柿屋村・小滝村・脇方村・胡桃ケ原村・戸津宮村・中村・長坂村・森寺村・七歩壱村・中太村谷口村片海村・国見村・一刎村・宇波村・泊村・阿尾村・新保村・稲積村・小杉村・小窪村・小境村・上余川村・大境村・懸札村・指崎村・谷屋村・論田村・熊無村・北八代村・五十谷村・針木村・磯辺村・下余川村・脇村・姿村・中波村・平村・平沢村・吉岡村・藪田村・加納村・大野新村・中谷内村・下久津呂村・深原村・上久津呂村・上田村・日詰村・鞍骨村・葛葉村・惣領村・栗原村・棚懸村・岩ケ瀬村・布施村・見内村・鍬院村・矢田新村・飯久保村・坪池村・土倉赤羽毛村・三尾村・早借村・庄鍋村・日名田村・老谷村・小久来村・池田村・田江村・仏生寺村・触坂村・柳田村・堀田村・矢之方村・拾弐町村・矢田村・古苻村・伏木村・鞍川村・太田村・蒲田村・田子泉村・神代村・二上村・国分村・下田子村・嶋村・耳浦村・東海老坂村・万尾村・西田村・西海老坂村・守護町村・一之宮村・小竹村・串岡村・園村・上田子村・乱橋村・海津村・朝日村・城光寺村・矢田串岡新村・須田村・泉中尾村・守山町・窪村・川尻村・朴木村・五十里村道重村百橋村板屋村・守護町新村渡り村・氷見町

⑦新川郡

高月村・本郷嶋村・金代村・藤木新村・一本木村・日又村・西芦原新村・朝日村・河原新村・高崎新村・藤木村・大中嶋村・貫田村・中間嶋村・河原毛村・大江千村・河端村・古川村・平榎村・宮条村・町袋村・中野新村・野中新村・野中村・高崎村・野田村・田屋村・宮成新村・宮成村・横越村・嶋村・新保村・針原中村・高来村・畠等村・金泉寺村・辻ケ堂村・下桜木村・上桜木村・恋塚村・伊勢領村・狐塚村・柳寺村・桜木新村・市々江村・円念寺村・水橋中村・水橋館村・小路村・入部町村・入江村・常願寺村・市田袋新村・橋場新村・市田袋村・二杉村・沖村・的場村・市田中村・柴草村・肘崎村・八ツ屋村・番頭名村・金尾新村・利田村・下鉾木村・上鉾木村・西芦原村・大窪新村・竹ケ鼻新村・泊新村・野沢新村・東野新村・福来新村・下新村・野徳新村・道源寺村・瀬戸新村・榎新村・下段村・江崎新村・上瀬戸村・田中蓑浦村・奥田下新村・下富居村・上赤江村・下赤江村・綾田村・粟嶋村・中嶋村・粟田村・犬嶋村・広田上野新村・牧村・城河原村・貝谷村・蓬沢村・折戸村・早月中村・伊折村・円通

寺二つ塚新村・向新庄村・下糸ノ開発村・町新庄村・新庄新町・曽我村・日中村・芦高村・東種村・野町村・中山新村・鋳物師沢新村・女川新村・古海老江村・仏生寺村・上金剛寺村・石正村・池田町・高原上白岩村・上白岩村・中林新村・野口新村・末ノ上野村・坂非沢村・石坂村・長屋村・中村・末ノ若林村・末ノ野田村・石田村・日中上野村・弓ノ谷口村・上国重村・西光寺村・立野村・白髭村・石田新村・小林村・下金剛寺新村・西大森村・末谷口村・米道村・新瀬戸村・池田村・下金剛寺村・下白岩村・伊勢屋村・高野いなり村・三ツ塚新村・弓ノ館村・下田村・沢端新村・蔵本新村・高原ノ八つ屋村・宮路岩峪村・下国重村・伊豆林村・極楽寺村・池田館村・浅生村・清水堂村・新吉嶋村・千石村・金広村・曲渕村・中馬場村・北馬場村・上野村・平塚村・西若林村・石割村・高荒屋村・金尾村・芦見村・半屋村・上末村・栗芦原村・高堂村・新堀村・竹ケ鼻村・中新村・寺坪新村・柴山村・水橋浦・四谷尾村・竹之内村・上川原村・小出村・日水村・中野新村・岩峪寺村・開発村・横沢村・下瀬戸村・二つ屋村・東大森村・塚越村・横田新村・田添村・栃津村・専光寺村・高寺村・海老江村・五郎丸村・前沢新村・沢新村・米沢新村・渕上新村・高木村・小嶋村・東若林新村・上開発村・立泉寺村・稲村・弓ノ館新村・日置村・舟橋村・佐野竹村・若杉村・青出新村・下経田村・上条開発村・上極楽寺村・大松村・野福新村・河原田村・横越村・福田村・泉村・若宮新村・谷浅生村・大沢村・飯坂新村・湯ノ上野村・桧谷村・横江新村・稗田村・下小泉村・赤木村・大塚新村・中青出村・法音寺村・新清水村・久金新村・横大坪新村・太郎右衛門新村・正印新村・名荷谷村・北嶋村・小泉村・弓之荒屋村・久金村・下沢村・田伏村・追分村・神田村・放士ケ瀬村・若宮村・上荒又村・寺家村・竹林村・中野又村・浦田村・三日市村・砂田新村・辻村・上条沖村・米嶋新村・西種村・上経田新村・極楽寺新村・大尾河原村・下荒又村・飯坂村・放士ケ瀬新村・女川村・塩之谷村・二口新村・宮村・若杉新村・上経田村・三ケ村・湯銀子村・北嶋新村・大松新村・正源寺村・堤谷村・沖田新村・荒又村・中塚新村・高塚村・大嶋新村・坪川村・上法音寺村・大窪新村・中河原村・下青出村・正印村・北野新村・須山村・眼目新村・笠木村・領家村・尾兵衛村・辰ノ尾村・魚躬村・栃山新村・栃山中新村・中野嶋新村・二塚新村・浦田新村・坪川新村・寺田中村・江田新村・辻新村・高原村・中之嶋村・北野村・柳原村・法花寺村・浜四屋村・曲渕村・上小泉村・横法音寺村・弓之柿沢村

⑧新川郡

広野村・稲泉寺・中村・滑川町・柿之木新村・横道村・安田村・平塚新村・宮窪村・栃山七口新村・栃山稲泉新村・栃山金屋新村・小寺又新村・下砂子坂新村・大坪新村・森尻新村・四つ屋村・升田村・杉本村・廐原村・高柳村・宮窪新村・弥源寺新村・花子新村・川縁新村・柿沢新村・栃山村・小林村・小森村・道守村・平塚村・住吉村・早月上野村・吉野村・早月川原村・野尻村・大榎村・金屋村・大掛村・竹ケ鼻村・釈泉寺村・眼目村・栗山村・上砂子坂村・下梅沢村・小池村・鏡田村・五位尾村・広野新村・大浦村・森野新村・上嶋新村・野開発村・黒川村・下嶋村・田中村・江上村・斎ノ神新村・広市新村・東福寺村・升方村・護摩堂村・有山村・上市村・出村・廐野村・大坪村・堅田村・鉢村・室山村・蓑輪村・西河原新村・栃山囲新村・斎木村・野嶋村・寺町村・大門村・赤浜村・岩高村・常光寺村・五郎丸村・東江上村・吉浦村・石仏村・江又村・改養寺村・大窪新村・柿沢村・森尻村・田嶋野村・河津村・本江村・中江上村・有金村・上梅沢村・弥市新村・浅生村・江尻村・堀江村・上嶋村・下砂子坂村・柴村・大熊村・四つ屋新村・片地村・太永田村・小菅沼村・岡経田村・北山村・金山谷村・坪野村・持光寺村・石垣新村・石垣村・浜経田村・平沢村・山女村・友道村・稗畠村・宝田村・観音堂村・東山村・江口村・黒沢村・刈安村・鹿熊村・木下新村・布施爪村・古鹿熊村・本江村・小川寺村・正光寺村・黒谷村・東尾崎村・西尾崎村・蛇田村・宮津村・大沢村・湯上村・福平村・斎沢村・本新村・東城村・大谷村・下村木村・青嶋村・三田

村・大光寺村・北中村・上村木村・相木村・吉嶋村・平伝寺村・仏田村・道坂村・横枕村・青柳村・六郎丸村・池谷村・石田新村・大海寺野新村・北鬼江村・長引野新村・生地村・小津町・小津猟師方・仏田又新村・印田新村・生地新村・小津田地方・住吉新村・犬山新村・大菅沼村・袋村・嶋尻村・天神野新村・大屋村・下山新村・横尾村・小杉新村・小摺戸村・新屋村・髙橋村・三枚橋村・春日村・中野口村・舟見野村・椚山村・大家庄村・横水村・野新村・船川新村・藤原新村・神林新村・川仕新村・田ノ又村・前又新村・二つ村・月山新村・蛭谷村・吉原村・舟見村・大平村・平柳村・不動堂村・沼保村・道下村・杉森村・月山村・石谷村・荒川新村・東草野村・金山村・窪田村・山王村・山崎新村・荒又村・山崎村・南保村・西草野村・泊町・堺村・長野村・栗虫村・古黒辺村・篠川村・椚山新村・青沢村・宮崎村・八幡町・横山町・日吉新村・明日村・赤川村・下若林村・下山村・殿村・桑畠新村

⑨新川郡

小谷村・布目村・安養寺村・小中村・羽根新村・野替村・轡田村・西本郷村・二又村・大田薄波村・塩村・荒屋村・寺津村・黒瀬村・新保村・才覚寺村・下黒瀬村・上掛尾村・石洲村・大双嶺村・舟倉村・砂見村・小見村・大清水村・小佐波村・塚原村・最勝寺村・赤田村・袋村・下熊野村・友松村・小糸村・芦生村・篠津村・折谷村・秋ケ嶋村・小坂村・嶋之和田村・経田村・布尻村・胡桃ケ原村・伏木村・辰尾村・瀬戸村・長走村・万願寺村・下山之和田村・本宮村・奥山村・惣在寺村・大利新村・馬瀬村・田中村・下惣領村・原村・仙長原村・八木山村・岩木村・小黒村・塩野村・牛ケ増村・上熊野村・嶋之黒瀬村・大浦村・牧野村・合田村・猪谷村・下掛尾村・今泉村・高田新村・太郎丸村・吉野村・悪王寺村・嶋田村・薄波村・舟渡村・町長村・押上村・東本郷村・杉瀬村・日尾村・中野村・二口村・任海村・八日町村・栗山村・福沢村・宮保村・神道村・今生津村・萩原村・黒崎村・板倉村・桑原村・文珠寺村・上堀村・河内村・江口村・東小又村・牧村・横江村・長瀬村・赤倉村・小原村・千垣村・月岡村・隠土村・才覚木村・石屋村・有峯村・西河原村・芦峅寺・安蔵村・秋吉新村・石金村・手遣村・月岡新村・水須村・西長江村・本郷村・岡田村・稲荷新村・高屋敷村・大場村・流杉村・南八川村・庄主坊村・黒牧村・松倉村・土又各村・谷村・天正寺村・松ノ木村・金屋村・城村・花崎村・大溝呂木村・東長江村中市村・鶴田村・新名村・西小又村・中地山村・町村・経力村・小又村・陀羅尼寺・供養塚村・青柳村・小原屋村・稲荷村・秋吉村・高木村・双代村・窪村・下奥井村・上奥井村・中川原村・清水村・長屋村・奥田上新村・田畠村・新保村・本郷下新村・大泉村・稲野新村・大場新村・手俣新村・庄主坊新村・下堀村・古上野村・奥田村・布市村・西番村・六郎谷村・飯野荒屋村・荒川村・大村・経堂村・中滝村・黒崎村・三室荒屋村・長倉村・蓮花寺村・中田村・日影村・宮村・上富居村・五本榎村・西宮村・道正村・針木村・飯野村・豊田村・三上村・上飯野村・千原崎村・上野村・楠村・横内村・小西村・森村・東岩瀬村・中富居村・目桑村・上滝村・蓮町村・日方江村・田端村・城前村・鍋田村・古寺村・西野新村・米田村・柿木荒屋村・水落村・馬瀬口村・草嶋村・虫谷村・東岩瀬宿並目浦方・下飯野村

7020　加州能美郡村松村物成之事　　16.65—26

手写

1通　24cm

渡辺金八郎旧蔵。明暦2年（1656）8月朔日。旧書名「能美郡村松村々御印写」。

7021　加能越三箇国高物成帳　　16.65—27

手写

35冊　27cm

いわゆる「村御印」の写で各村の草高，免相及び小物成の額を記してある。これは新京枡採用に際して，明暦2年の村御印を寛文10年(1670)に書き替え，再下付された分を郡毎に集録したもの。

①加賀郡

才田村・今町村・二日市村・八幡村・岸川村

・利屋町村・太田村・南中条村・浅野谷村・浅野深谷村・谷山村・榎尾村・俵原村・朝日村・朝日牧村・堅田村・深谷村・四王寺村・福畠村・小野村・桐山村・小池村・鼓ヶ簡村・向山村・千之杉村・神代村・河原市村・不動寺村・薬師村・梨木村・鳴瀬村・正部谷村・宮野村・髙坂村・古屋谷村・清水谷村・東原脇原村・竹又村・土子原村・曲師原村・堀切村・車村・野村・納年村・北方村・牧山村・不室村・柚木村・市之瀬村・小嶺村・荒山村・津幡村・津幡之内加賀爪村・津幡之内清水村・津幡之内庄村・舟橋村・能瀬村・領家村・指江村・狩鹿野村・森村・鉢伏新村・笠嶋新村・宇気村・横山村・笠嶋村・内高松村・長柄村・加茂村・谷内村・見門村・多田村・鉢伏村・上山田村・下山田村・気屋村・谷村・上田名村・余地村・若緑村・下矢田村・上矢田村・中山村・種村・菩提寺村・興津村・小熊村・大熊村・池ヶ原村・八ノ谷村・市之谷村・吉倉村・宇野気新村。

②加賀郡

白尾村・木津村・向粟ヶ崎村・本根布村・大根布村・宮坂村・荒屋村・秋浜村・外日角村・外高松村・内日角村・高松新村・松浜村・太郎兵衛塚村(遠塚村)・北村・大崎村・室村・北中条村・横浜村・中須加村・五反田村・中橋村・川尻村・浅田村・杉瀬村・倉見村・岩崎村・田屋村・七黒村・鳥越村・北村・蓮花寺村・宮田村・鳥屋尾村・籠月村・彦太郎畠村・笠池ヶ原村・莇谷村・大畠村・竹橋村・冨田村・原村・苅安村・越中坂村・坂戸村・上野村・河内村・九折村・倶利伽羅村・倶利伽羅森村・七屋新屋村・七野村・中村・上藤又村・大窪村・北横根村・南横根村・常徳村・相窪村・朝日畑村・明神谷内村・井野河内村・大坪村・別所村・下藤又村・假生村・材木村・琴坂村・北千石村・琴村・上平村・滝下松根村・中尾村・南千谷村・今泉村・上松根村。

③加賀郡

小坂村・柳橋村・法光寺村・横枕村・疋田村・三池村・宮保村・髙柳村・田中村・寺町村・松寺村・磯部村・沖村・浅野中嶋村・浅野村・乙丸村・大衆免村・神宮寺村・談議所村・山上村・卯辰村・鈴見村・角間村・銚子口村・中村・野村・袋村・下荒屋村・浅加屋村・藤六村・東市瀬村・北袋村・上山村・小原村・魚帰村・大菱池村・小菱池村・栃尾村・横谷村・二俣村・小二又村・牧村・伝燈寺村・長屋村・五所村・平下村・町村・石黒又村・板ヶ谷村・若松村・上田上村・神谷内村・古郷寺村・夕日寺村・折谷村・下田上村・百坂村・金市新保村・荒屋村・福久村・千木村・今村・千田村・木越村・大浦村・東蚊ヶ爪村・弥勒縄手村・南森下村・大場村・八田村・忠縄村・北森下村・観法寺村・梅田村・月影村・四坊村・四坊高坂村・吉原村・塚崎村・岩出村・月浦村・下河波村・上河波村・釣部村・中山村・俵等村・小豆沢村・戸室別所村・湯谷ヶ原村・戸室新保村・清水村・南原村・田之嶋村・谷口村・打尾谷村・炭釜村・木之目谷村・平等村。

④能美郡

国府村・宇川村・古浜村・河田村・小杉村・中村・千代村・仏大寺村・能美村・和気村・立明寺村・坪野村・塘田村・牛嶋村・大長野村・祐泉寺村・目蔵谷村・寺畠村・小野村・鍋谷村・白江村・金屋村・吉竹村・勘定村・江指村・金平村・沢村・松岡村・池城村・三ツ谷村・布橋村・塩原村・波佐羅村・観音下村・石神村・西又村・尾小屋村・大野村・五国寺村・松谷村・岩淵村・桂谷村・原村・下麦ケ口村・上麦ケ口村・中峠村・嵐村・与助嶋村・橋村・竹蔵村・岩本村・岩内村・倉重村・北市村・山田村・出口村・徳山村・湯屋村・辰口村・火釜村・来丸村・金剛寺村・川原新保村・下清水村・徳久村・上清水村・宮竹村・三口村・長滝村・莇生村・燈台笹村・大口村・早稲谷村・一ツ屋村・団子嶋村・与九郎嶋村・宮竹新村・三反田村・土室村・橋新村(他，新開5ヶ所分)。

⑤能美郡

寺井村・高堂村・五間堂村・中庄村・福岡村・二口村・野村・印内村・重住村・東任田村・西任田村・赤井村・浜拾六町分・吉原村・朝日村・向川原村・久五郎島村・吉光村・上粟生村・下粟生村・下粟生新村・三道山村・末寺村・和田村・秋常村・高座村・下開発村

・上開発村・三ツ屋村・石子村・湯谷村・佐野村・下八里村・上八里村・館村・正蓮寺村・花坂村・千木野村・本江村・長谷村・波佐谷村・瀬領村・上り江村・打木村・赤瀬村・大杉村・仏師ヶ野村・河原山村・三ツ屋野村・西佐良村・上吉谷村・下吉谷村・釜清水村・別宮村・別宮出村・杉森村・渡津村・左礫村・広瀬村・瀬木野村・瀬木野新村・河合村・下野村・若原村・上野村・三坂村・清水村・二曲村・神子清水村・相滝村・野地村・柳原村・五十谷村・阿手村・数瀬村・三ツ瀬村

⑥能美郡

今江村・猿ヶ馬場村・須天町・矢崎村・符津村・蓮台寺村・三谷村・木場村・津波倉村・小山田村・白山田村・井ノ口村・粟津村・西原村・荒谷村・牧口村・日用村・平面村・軽海村・荒木田村・漆村・八幡村・佐々木村・若杉村・一針村・不動嶋村・清六村・沖村・打越村・園村・小寺村・南浅井村・北浅井村・向本折村・大領中村・船津村・大領村・内浜田村・浜田村・上小松村・小松三日市町・小松八日市町・小松中町・小松竹嶋分・小松細工町・小松大文字町・向野町・小松寺町・小松松任町・小松新町・犬丸村・御館村・梯村・上牧村・下牧村・向野之内柴山分・鷺ヶ島村・鍛冶村・中野村・浮柳村・安宅新村・安宅村・小嶋村・長崎村・坊丸村・根上り村・大嶋村・高坂村・下江村・浜開発村・濁池村・福嶋村・中江村・高堂新村・蛭川村・松梨村・嶋田村・長野田村・荒屋村・野田村・小長野村・末信村・浜村・山口釜屋村・吉原竈屋村。

⑦石川郡

鶴来村・石切小原村・福岡村・江津村・吉岡村・口直海村・中直海村・久保村・吹上村・板尾村・金間村・下折村・内尾村・奥荒屋村・堂村・後谷村・吉野村・佐良村・瀬波村・市ノ原村・木滑村・中宮村・中嶋村・白山村・三ノ宮村・八幡村・山奥四ケ村（日尾・見定・二又・倉谷村）・額谷村・曽谷村・熱野村・小柳村・豊入道村・荒屋村・明嶋村・森嶋村・日御子村・大竹村・額乙丸村・矢比嶋村・日向村・中林村・井ノ口村・清瀬村・上林村・倉ヶ嶽村・明法嶋村・行町村・坪野村・月橋村・寄新保村・知気寺村・下新庄村・道法寺村・三十刈村・吉田漆嶋村・上新庄村・柴木村・七原村・坂尻村・針道村・向嶋村・来同村・藤木村・安養寺村・四十万村。

⑧石川郡

北広岡村・南広岡村・河原三社村・長田村・二口村・若宮村・薬師堂村・淵上村・桜田村・示野中村・示野村・袋畠村・古保村・南篠塚村・北篠塚村・中野村・専光寺村・専光寺新村・下安原村・打木村・二ツ寺村・鷺森村・赤土村・観音堂村・普正寺村・寺中村・北村・若宮出村・二屋村・藤江村・松村・畝田村・無量寺村・戸水村・大友村・戸水極田村・直江村・近岡村・大野村・橘粟崎村・五郎嶋村・上安江村・下安江村・西念新保村・南新保村・二口六町村・諸江村・割出村・三口村・三ツ屋村・大河端村・北間村・須崎村・西蚊ヶ爪村・田井村・牛坂村・牛首村・館村・七曲村・西市瀬村・下谷村・白見村・上原村・羽場村・田子嶋村・湯涌村・上荒屋村・河内村・曲村・上野村・山崎領村・笠舞村・石浦村・三口新村・（栗林跡）・涌波村・末村・下辰巳村・上辰巳村・水淵村・相合谷村・下鴛ヶ原村・上鴛ヶ原村・城力村・熊走村・寺津村・駒帰村・瀬領村・菅池村・娚杉村・畠尾村・天池村・樫見村・小平沢村・大平沢村・国見村・茅原村・中戸村・土清水村。

⑨石川郡

押野村・八日市村・押越村・野代村・二日市村・長池村・矢木荒屋・尾経塚村・横江村・中新保村・八田中村・下福増村・中屋村・上安原村・野村・市川村・矢木村・森戸村・八日市新保村・八日市出村・太郎田村・保古村・糸田村・東力村・黒田村・間明村・高畠村・玉戈村・入江村・大豆田村・御供田村・中村・増泉村・石坂村・泉村・西泉村・米泉村・泉野村・泉野出村・長坂新村・久安村・横川村・有松村・寺地村・円光寺村・伏見新村・山科村・窪村・高尾村・馬替村・大額村・額新保村・粟田新保村・矢作村・三納村・藤平田村・藤平田新村・下林村・位川村・大平寺村・堀内村・田之尻村・蓮花寺村・稲荷村・三日市村・徳用村・田中両村・専福寺村・長竹村・橋爪村・福正寺村・清金村・末松村

・木津村・今西村・住吉村・法嶋村・野田村・大桑村・三小牛村・別所村・蓮花村・山川村・小原村・平栗村・冨樫新保村・野々市村

⑩石川郡

福富村・福永村・源兵衛嶋新村・下柏野村・剣崎村・上嶋田村・館村・乙丸村・上柏野村・手取村・長屋村・荒屋柏野村・四ツ屋村・番田村・安吉村・水嶋村・源兵衛嶋村・内方新保村・蓮池村・宮之保村・流安田村・長嶋村・西米光村・小川村・平和村・上安田村・東米光村・小上村・米永村・末正村・石立村・鹿嶋村・黒瀬村・菅波村・手取新村・五影堂村・見徳寺村・北嶋村・松本村・本吉新村・運上嶋村・宮丸村・平松村・乾垣内村・二口村・椋部村・五部一村・倉光村・橋爪新村・北安田村・番匠垣内村・八田新屋村・八田村・相木村・竹松村・宮永新村・柳町村・上福増村・成村・宮永村・村井村・相川新村・平木村・坊丸村・徳丸村・町村・宮永市村・三浦村・幸明村・徳光村・相川村

⑪羽咋郡

堀松村・清水今江村・吉田村・梨谷小山村・火打谷村・館開村・徳田村・谷屋村・栗山村・末吉村・西山村・米浜村・穴口村・大坂村・館村・福井村・矢駄村・倉垣村・大念寺村・長沢村・大嶋村・福野村・宿女村・坪野村・岩田村・狭谷村・柴垣村・矢蔵谷村・神代村・川尻村・上野村・大津村・小浦村・百浦村・赤住村・二所之宮村・上棚村・安津見村・町村・安部屋村・仏木村・江野村・大念寺新村・滝谷村・羽咋村・飯山村・一宮村・一之宮寺家村・滝村・柳田村・兵庫村・粟原村・土橋村・二口村・立開村・石野町村・三ツ屋村・深江村・吉崎村・円井村・千田村・上江村・垣内田村・尾長村・福見村・若部村・本江村・寺境村(三ヶ村一括)・千代町村・中川村・太田村・杉野屋村・菅原村・白瀬村・薮野村・千石村・菅地村・清水原村・走入村・見砂村・吉野屋村・石坂村・瀬向村・所司原村・塩浜村・千路村・中山村　(他，新開２ヶ所分)。

⑫羽咋郡

沢川村・牛首村・爪生村・上河合村・下河合村・押水大田村・筵打村・黒川村・元女村・八野村・野寺村・瀬戸町村・夏栗村・中沼村・二ツ屋村・大海川尻村・北川尻村・押水免田村・森本村・冬野村・坪山村・紺屋町村・東間村・東野村・中野村・正友村・御館村・三日町村・上田出村・上田村・門前村・山崎村・河原村・吉田村・小川村・米出村・今浜村・麦生村・宿村・竹生野村・敷波村・荻鳧村・荻谷村・柳瀬村・新保村・粟生村・子浦町・荻市村・下り石村・散田村・聖川村・新宮村・当熊村・海老坂村・平庄村・宝達村・代田村・印内村・矢田村・藤瀬村。

⑬羽咋郡

高田村・尾室村・広地村・江添村・大西村・貝田村・田中村・和田村・今田村・八幡村・八幡座主村・飯室村・里本江村・給分村・相坂村・中泉村・草江村・稲敷村・栢木村・大鳥居村・大福寺村・深谷村・前浜村・篠波村・鹿頭村・小窪村・赤崎村・千浦村・風戸村・風無村・酒見村・相神村・中浜村・領家町村・地頭町村・町本江村・地頭七海村・領家七海村・生神村・牛下村・福浦村・三明村・長田村・中畠村・田原村・大篠村・小室村・米町村・直海村・釈迦堂村・中山村・日下田村・町居村・日用村・草木村・谷内神村・荒屋村。

⑭能登郡

良川村・東馬場村・西馬場村・上村・徳丸村・能登部下村・金丸村・鹿嶋路村・金丸出村・下曽祢村・末坂村・一青村・花見月村・川尻村・下村・杉森村・温井村・三階村・町屋村・羽坂村・春木村・瀬戸村・伊久留村・大槻村・高田村・田鶴浜村・新屋村・垣吉村・七原村・吉田村・三引村・舟尾村・奥原村・新保村・石崎村・曽浜村・涌浦村・松百村・津向村・小嶋村・赤浦村・直津村・池崎村・満仁村・半若野村・今羽坂村・新庄村・廿九日村・川田村・三階村・白馬村・細口村・国分村・藤橋村・所口村・酒井村・大町村・四柳村・小金森村・髙畠村・福田村・藤井村・小田中村・久江村・水白村・尾崎村・小竹村・井田村・芹川村・徳前村・浅井村・曽祢村最勝講村・黒氏村・下境村。

⑮能登郡

蛾ヶ原村・二宮村・武部村・石塚村・杣木村

・坪川村・西村・有江村・若林村・飯川村・江曽村・中挟村・八田村・国下村・千野村・多根村・古府村・藤野村・小池川原村・古城村・古屋敷村・竹町村・矢田村・万行村・佐野村・殿村・沢野村・麻生村・須能村・菅沢村・天神川原村・府中村・後畠村・佐味村・大田村・三室村・湯川村・岡村・鵜浦村・白浜村・深見村・大津村・塩津村・笠師村・筆染村・奥吉田村・河崎村・豊田町村・豊田村・土川村・荻屋村・免田村・上畠村・町屋村・鳥越村・大平村・古江村・西谷村・河内村・熊木中嶋村・浜田村・上町村・山戸田村・外原村・横田村・宮前村・小牧村・横見村・長浦村・瀬嵐村・日出ヶ嶋村・野崎村・小浦村・鍛目村・長崎村・鉢ヶ崎村・祖母ヶ浦村・向田村・曲村・見波村・無関村・闇村・通村・田ノ尻村・久木村・半野浦村・別所村・須曽村・佐波村・二穴村。

⑯珠洲郡

羽根村・小浦村・大沢村・真脇村・小木村・市之瀬村・越坂村・新保村・長尾村・白丸村・四方山村・立壁村・九里川尻村・布浦村・清真村・秋吉村・河ヶ谷村・木郎山中村・満泉寺村・国重村・行延村・駒渡村・田代村・馬渡村・恋路村・宗玄村・鵜鳴村・黒丸村・大町泥木村・西方寺村・堂ヶ谷村・下鳥越村・時長村・不動寺村・宮犬村・上村・松波村・法住寺村・弘国村・滝之坊村・姫村・鳥越村・金峯寺村・鵜飼村・南方村・寺社村・北方村・飯田町・鹿野村・熊谷村・本江寺村・小路村・正院村・川尻村・蛸嶋村・雲津村・小泊新村・竹沢村・小泊村・伏見村・高波村・引砂村・宇治村。

⑰珠洲郡

大谷村・馬緤村・笹波村・髙屋村・折戸村・河浦村・狼煙村・狼煙新村・寺家村・粟津村・森腰村・大屋村・小谷村・山中村・杉山村・本村・細屋村・飯塚村・岡田村・岩坂村・唐笠村・広栗村・出田村・鈴内村・経念村・古蔵村・中田村・火宮村・向村・国兼村・内山村・若山村・大坊村・中村・真浦村・仁江村・清水村・片岩村・長橋村・吉ヶ池村・二子村・上正力村・宗末村・黒丸村・南山村・須巻村・白滝村・上山村・北山村。

⑱鳳至郡

菅谷村・柏木村・洲衛村・木原村・麦浦村・樟谷村・伊久留村・七海村・市之坂村・乙ヶ崎村・志賀浦村・此木村・新崎村・波志借村・川尻村・汁谷村・宇留地村・河内村・平野村・鹿路村・小又村・根木村・上野村・曽福村・内浦村・狭石村・地蔵坊村・大田原村・比良村・中居南町・曽山村・木戸村・中居町・鵜川村・明泉寺村・坂尻村・太田川村・前波村・矢波村・谷屋村・八之田村・小塩村・下代村・下七海村・古君村・波並村・諸橋村・甲村・山口村・山中村・木住村・吉谷村・宇加塚村・宇加川村・曽丈村・西安寺村・滝村・山本江村・魚地村・神道村・鶴町村・番頭谷村・竹原村・狙倉村・武連村・三田村・宮谷村・宇出津町・宇出津新町・宇出津山分・藤波村・五郎左衛門分村・山本村・鴨川村・桐畑村・合鹿村・藤之瀬村・中才村・本江村・柳田村・寺分村・鈴ヶ嶺村・五十里村・石井村・小間生村・天坂村・十郎原村・篠川村・国光村・久亀屋村・久田村。

⑲鳳至郡

赤神村・腰細村・大泊村・剣地村・馬場村・館分村・上代村・黒岩村・入山村・滝町村・清沢村・大釜村・木原月村・神明原村・馬渡村・窕村・久川村・中谷村・切挟村・飯川谷村・渡瀬村・池田村・北川村・藤浜村・千代村・是清村・南村・鍛冶屋村・新町分村・椎木村・中田村・二又村・山是清村・江崎村・白禿村・小山村・大切村・猿橋村・小滝村・中尾村・広岡村・館村・本市村・内保村・堀腰村・百成村・鎧川村・桂谷村・大角間村・上中村・越渡村・小石村・上河内村・二又川村・貝吹村・別所村・滝上村・四位村・嶺村・年兼村・本内村・内屋村・細屋村・新保村・漆原村・小泉村・長沢村・空熊村・吠木村・別所谷村・二又村・縄又村・上黒川村・下黒川村・房田村・山本村・永井村・稲屋村・中段村・水守村・釜屋谷村・堀村・光浦村・蕨野村・鵜入村・小池村・下山村・赤崎村・上大沢村・大沢村・東山村・東印内村・西印内村・西山村・金蔵村・河西村・桶戸村・徳成村・東村・徳成谷内村・麦生野村・円山村・長尾村・舞谷村・寺山村・佐野村・真久村

・鈴屋村・粟蔵村・広江村・牛尾村・寺地村・敷戸村・時国村・大川村。

⑳鳳至郡

清水村・勝田村・道下村・鹿磯村・深見村・六郎木村・矢徳荻平村・小杉村・吉浦村・五十洲村・中谷内村・大滝畠中村・鵜山村・百成大角間村・餅田村・皆月村・井守上坂村・薄野村・暮坂村・樽見村・西二又村・池田村・新保村・上村・雑座村・黒杉村・小町村・円山村・宮古場村・浦上村・中之屋村・安代原村・浅生田村・八幡村・田村・髙根尾村・和田村・走出村・鬼屋村・日野尾村・広瀬村・深田村・山辺村・栃木村・谷口村・能納屋村・平村・大町村・荒屋村・長井坂村・原村・地原村・定広村・門前村・稲船村・久手川村・塚田村・河井町鳳至町村・輪嶋町・輪嶋崎村・小伊勢村・二ツ屋村・宅田村・山岸村・杉平村・横地村・石休場村・中尾村・北谷村・山之上村・市之瀬村・西脇村・熊野村・打越村・興徳寺村・渡合村・本江村・中村・仁行村・与路見村・当目村・大箱村・忍村・渋田村・里村・小田屋村・尊利地村・名舟村・白米村・野田村・谷内村・惣領村・大野村

㉑砺波郡

下蕨村・四十万村・稗島村・土屋荒屋敷村・大滝村・本須八百村・木舟村・柳川村・地崎村・岡村・石王丸村・宇治新村・芹川村・坂又村・桜町村・土屋中野村・畠中村・土屋上野村・後谷村・安楽寺村・道坪野村・峯坪野村・谷坪野村・論田村・岩尾滝村・峠村・荒間村・千石村・嘉例谷村・栗栖村・菅ヶ原村・茗荷原村・二之滝村・下屋敷村・森谷村・北屋敷村・高坂村・了輪岩佐村・別所村・原村・原牧村・嶺村・餘零子嶋村・岩崎村・矢波村・矢波牧村・宮嶋中村・横谷村・須川村・法楽寺村・田川村・六郎谷村・小野村・沢川村・渕ヶ谷村・花尾村・栃谷村・西明寺村・上向田村・下向田村・土屋村・鳥倉村・高畠村・馬場村・舞谷村・石堤村・赤丸村・三日市村・西村・土田新村・原牧新村・田中殿村・小坂村・天神村・竹内四ヶ村・田中開発村・山本村・小山村・広瀬館村・祖谷村・香城村・広谷村・才川七村・小二又村・小院宣見村・市之沢村・土生村・土生新村・樋之瀬戸村・嫁兼村・重安村・田屋村・田中館村・吉見村・綱掛村・立野脇村・大西村・山田野出村・吉江新村・田中小林村・高宮村・荒木村・仏道寺村・田中村・吉江中村・遊部村・一日市村・田中新屋敷村・梅原村・宗守村・鍛冶新村・山田野新村・竹林新村・神宮寺村・下野村・刀利村・臼中村・福光新町（他，新開15ヶ所分）。

明和八年五ヶ山両組七十ヶ村御印留帳

籠渡村・嶋村・下梨村・杉尾村・松尾村・田代村・小来栖村・梨谷村・来栖村・中畑村・見座村・相倉村・上梨村・皆葎村・葎嶋村・田向村・猪谷村・小原村・細島村・菅沼村・田ノ下村・中田村・新屋村・上野村・真木村・楮村・成出村・小瀬村・漆谷村・下嶋村・西赤尾村・打越村・桂村・下出村・中江村・高草領村・夏焼村・入谷村・須川村・大嶺嶋村・渡原村・祖山村・障子倉村・城村・新山村・栃原村・下原村・大牧村・重倉村・長崎村・北原村・仙納原村・九里ヶ当村・高沼村・草嶺倉村・押場村・北大豆谷村・南大豆谷村・下百瀬川村・上百瀬川村・下利賀村・下嶋村・岩渕村・細島村・北嶋村・上畠村・坂上村・阿別当村・大勘場村・水無村。

㉒砺波郡

埴生町・石坂新村・道法寺村・松永村・柳田村・蟹谷北市村・八講田村・五郎丸村・内山村・高窪村・人母村・臼谷村・今寺村・末友村・平田村・平桜村・小森谷村・杉谷内村・名畑村・藤森村・渋江村・石坂出村・四日町村・下二郎嶋村・浅地村・高木村・蓑輪村・興法寺村・安居村・上川崎村・下川崎村・清水村・津沢町・新西嶋村・西之嶋村・経田村・西河原村・胡摩嶋村・福住村・上二郎嶋村・嶋村・赤倉村・髙木出村・野寺村・下後丞村・西中村・神嶋村・廐栖村・不動嶋村・上後丞村・水嶋村・内御堂村・和沢村・戸久新村・安養寺新村・廐栖出村・末沢新村・西川原新村・清水村津沢町領・五郎丸村末友村領・中田村・小林村・八十歩村・宮森村・権正寺村・頼成村・徳万村・安川村・三谷村・庄金剛寺村・東保名ヶ原村・落シ村・隠尾村・横住村・湯山村・湯谷村・二ツ屋村・滝村・今泉村・今泉新村・増山村・増山新村・福岡

村芹谷野村・芹谷野新村・芹谷村・池原村・上和田村・上和田新村・池田新村・正権寺村・東坪野村・市之谷村・浅谷村・別所村・栃上村・井栗谷村・寺尾村・五ノ谷村・伏木谷村・河内村・常国村・中野若杉新村・滝新村・小泉新村・嶋新村・下山田村・下山田新村・東保新村・石坂新村・宮新村・宮森新村・福岡新村・中条新村・頼成新村・三合新村・徳方新村・栃上新村・安川新村・下麻生新村・下麻生村・徳市村・春日吉江村・増仁村・上麻生村・石代村・石丸村・地仙村・油田町村・三郎丸村・油田宮村・千保村・大窪村・東保村・石代落合河原村・西部金屋村・西保三ヶ村・西保新村・下中条村・開発村・中村・秋元村・柳瀬新村・柳瀬村・祖泉村・久泉村・太田村・青嶋村・示野新村・金屋岩黒村・小牧村・前山村・杉谷新村。

㉓砺波郡

三清村・森清村・安清村・田屋村・池尻村・宮後村・井口村・北野三ヶ村・北村三ヶ新村・西明村・細野村・蓑谷村・正谷村・理休村・林道村・大鋸屋村・中尾村・上見村・瀬戸村・江田二ツ屋村・江田村・雨潜野村・野原村・八塚村・石田村・東石田村・久戸村・神成村・高畠村・江田殿村・徳成村・利波河村・信末村・是安村・山田新村・野田村・金戸村・野口村・塔尾村・示野新村・原村・西原村・七曲村・北市村・戸坂村・五領村・今里村・河原崎村・谷村・山見村・松嶋村・藤橋村・止観寺村・蓮代寺村・清源寺村・東城寺村・沖村・院宣見村・窪村・池田村・蛇喰村・井口中村・東西原村・井波町・千福新村・新泉沢村・盛新村・福野村・松原新村・長源寺村・高堀之内上野村・利屋村・高儀村・高屋村・専勝寺村・岩屋村・五ヶ村・筏村・北川村・飛騨屋村・古上野村・清水明村・坪野村・繩内村・松原上野村・松崎村・高儀新村・高瀬村・百町村・年代村・野尻野新村・能毛野新村・二日町村・大堀新村・古鞘屋村・小杉村・在房村・寺家村・寺家新屋敷村・上津村・田尻村・野尻村・本江村・柴田屋村・梅ヶ嶋村・三日市村・広安村・院林村・下吉江村・福光村・油屋村・三ツ屋村・布袋村・泉村・岩木村・晩田相木村・前田村・西正寺村・桐木村・森村・川合田村・松木村・坂本村・法林寺村・八幡村・中之江村・小又村・湯谷村・倉ヶ原村・土山村・鳥越砂子谷村・定龍寺村・焼野村・焼野新村（他，新開9ヶ所分）。

㉔砺波郡

八伏村・松尾村・長村・蓮沼村・綾子村・野花村・小矢部村・小矢部嶋新村・寄崎村・福町・水牧村・小神村・茄子嶋村・鷲ヶ嶋村・水落村・金屋本江村・狐嶋村・下中村・砂田村・柳原村・石名田村・道明村・五社村・金屋開発村・西宮森村・七社村・東宮森村・東中村・水之宮村・田野尻村・江波村・荒屋村・北高木村・南高儀村・放寺村・岡御所村・行兼村・千代村・六十歩村・新又村・小嶋村・小杉村・宮丸村・木之下村・十年明村・金屋新屋敷村・日詰村・則安嶋村・油田大坪村・油田堀之内村・林村・紺屋嶋村・杉木村・油田中村・高道村・中神村・杉之木新村・深井村・大辻村・坪之内村・太郎丸三ヶ村・矢木村・庄下館村・大門村・新明村・竹正村・苗加村・鹿嶋村・新高屋村・庄下五郎丸村・中野村・野村嶋村・高堀村・墓浦村・安室村・戸保家村・金屋本江新村・荒屋新村・坪北新村・放寺新村・竹北新村・福久新村・五郎丸新村・立野村・東石堤村・下日詰村・下開発村・柴野内嶋村・渡村・高田嶋村・笹川村・下老子村・壱歩弐歩村・江尻村・上蓑村・蓑嶋村・矢部四ヶ村・小伊勢領村・西川原嶋村・夏住村・中保村・駒方村・小竹村・今市村・三ヶ村・宮腰村・上開発村・須田村・後正寺村・横越村・油屋村・羽村・竹村・光明寺村・六家村・福田之内六家村・大源寺村・佐野村・北嶋村・石塚村・辻村・蔵野町村・荒見崎村・本保村・市之瀬村・狼村・伊勢領村・中之宮村・古戸出村・戸出村・大清水村・吉住村・内嶋村・蜂ヶ嶋村・四日市村・柴野村・柴野十日市村・麻生谷村・篠八口村・五十辺村・江道村・堺村・内嶋広谷村・山川村・勝木原村・八口村・高辻村・月野谷村・手洗野村・細池村・嶋崎村・塔野嶋村・佐加野村・岩坪村・頭川村・（他，新開14ヶ所分）。

㉕射水郡

北野村・大門村・犬内村・枇杷首村・百米木

村・出来田村・井口本江村・蓮花寺村・二口村・土合村・浅井下条村・浅井嶋村・上条村・小泉村・東広上村・串田村・円池新村・布目沢村・藤牧村・堀之内村・中村・東本江村・開口村・市之井村・円池村・上若林村・竹鼻村・柳田村・安吉村・赤井村・本田村・下若林村・本開発村・新開発村・鳥取村・小林村・南高木村・八塚村・小嶋村・中野村・若杉村・寺塚原村・川口村・宮袋村・川口村宮袋村領・生源寺新村・串田新村・土合新村・橋下条村・橋下条新村・日宮新村・三古田町・青井谷村・青井谷新村・上野村・上野新村・浄土寺村・黒河村・黒河新村・大手崎村・鷲塚村・大江村・戸破村・小杉村・今開発村・今井村・沖村・高木村・鏡宮村・布目村・沖塚原村・北高木村・松木村・朴木村・中曽根村・上牧野村・六渡寺村・六渡寺新村・稲積村・野々上村・願海寺村・東老田村・花木新村・中老田村・二俣村・小白石村・小白石村同八講開・西高木村・久々江村・高場新村・堀上新村・東津幡江村・殿村津幡江村・野村津幡江村・片口村・久々湊村・作道村・金屋村・石丸村・姫野村・四日曽根村・三日曽根村・荒屋村・法土寺村・長徳寺村・放生津町・堀岡新村・新明神村・古明神村・海老江村・三拾三ケ村・針山新村・中新村・針山後新村・打出本江村・利波新村・八嶋新村・中野新村・穴場新村・野寺新村・柳瀬村・柳瀬新村・弐拾六町村・摺出寺村・下村・小杉村・大白石村・明神新村・久々江新村・堀口新村・放生津新町。

㉖射水郡

領家開発村・掛開発村・江尻村・荻布村・米嶋村・角村・下牧野村・中伏木村・能町村・石瀬村・野村・野村新村・三女子村・大野村・中川村・鴨嶋村・下関村・上関村・下黒田村・二塚新村・上黒田村・京田村・赤祖父村・深沢村・下伏間江村・上伏間江村・西広上村・西広上新村・西広上村・同新村領・西広上村・拾弐町分・二塚村・東藤平蔵村・十二町嶋村・西藤平蔵村・佐野四ケ村・木津村・嶋村・羽広村・北嶋村・早川村・波岡村・長江新村・長慶寺村・四ツ屋河原村・横田村・吉久村・高岡廻濠分・三ケ新村・加納村・七歩一村・柿屋村・中村・谷屋村・新保村・小窪村・論田村・熊無村・稲積村・下余川村・上余川村・一刎村・懸札村・森寺村・吉滝村・磯部村・針木村・胡桃原村・国見村・小滝村・角間村・指崎村・北八代村・白川村・五十谷村・戸津宮村・長坂村・平沢村・吉岡村・平村・阿尾村・藪田村・小杉村・泊村・宇波村・脇方村・小境村・大境村・姿村・中太村・谷口村片海村・中波村・脇村。

㉗射水郡

蒲田村・神代村・矢ノ方村・堀田村・耳浦村・海津村・川尻村・万尾村・朴木村・泉中尾村・鞍川村・朝日村・十二町村・窪村・園村・柳田村・嶋村・太田村・西田村・乱橋村・田子泉村・下田子村・上田子村・小竹村・国分村・伏木村・古府村・一ノ宮村・串岡村・矢田串岡新村・矢田村・城光寺村・守護町新村・守護町村・二上村・守山町・西海老坂村・東海老坂村・須田村・五十里村百橋村道重村板屋村・惣領村・飯久保村・矢田部村・深原村・布施村・下久津呂村・上久津呂村・粟原村・中谷内村・大野新村・上田村・早借村・田江村・小久米村・日名田村・日詰村・池田村・触坂村・鍬院村・鞍骨村・仏生寺村・赤羽毛村・坪池村・柳懸村・老谷村・見内村・葛葉村・岩ケ瀬村・床鍋村・三尾村。

㉘新川郡

内野新村・平速場新村・北野又新村・四ツ塚村・北野新村・植木新村・大橋新村・沖新村・清水新村・堂林新村・箱根新村・木鎌新村・植木又新村・石塚新村・比丘尼新村・大野新村・中野新村・中野又新村・天池新村・吉田新村・北野村・生地新村・天神新村・北新村・番田新村・石野村・石田川原新村・石田新村・田中新村・田家角内新村・窪田新村・吉田村・高橋新村・沓懸村・下垣内新村・舌山新村・長屋新村・吉城寺村・開発新村・開発村・石田新町村・神谷村・中陳村・朴谷村・尾山村・内生谷村・阿弥陀堂村・釈迦堂村・笠破村・堀切新村・石田村・飯沢村・三日市村・荻生新村・熊野新村・立野新村・栃屋村・浦山村・古御堂村・嘉例沢村・金屋新村・牧野新村・内山村・栃沢村・山田村・田家新村・中新村・中野道村・前沢村・荻生村・

若栗村・植木村・下立村・堀切村・浜石田新村。

㉙新川郡

柳寺村・石正村・下条開発村・小出村・曲渕村・平塚村・北馬場村・石割村・高寺村・専光寺・西光寺村・池田館村・伊勢屋村・市田中村・河原田村・尾兵衛村・上荒又村・下荒又村・放士ヶ瀬新村・久金新村・久金村・田伏村・佐野竹村・中馬場村・神田村・野福新村・大尾川原村・横越村・大塚新村・赤木村・野徳新村・寺田中村新村・日中村・柴山村・高原村・横江新村・竹林村・野町村・東野新村・福来新村・女川新村・野沢新村・下金剛寺新村・日中上野村・福田村・中村・石坂村・末之上野村・長屋村・小林村・宮村・下沢村・中林新村・芦見村・下瀬戸村・瀬戸新村・新瀬戸村・四谷尾村・下白岩村・虫谷村・弓谷口村・上白岩村・高原上白岩村・六郎谷村・目桑村・谷村・長倉村・城前村・岩間開・下荒又村正印新村領・一田中村領・堅田村・鏡田村・魚躬村・市江村・水橋中村・水橋館村・狐塚村・桜木新村・下桜木村・原塚村・伊勢領・小池村・上桜木村・下砂子坂新村・上砂子坂村・下砂子坂村・下青出村・飯坂新村・飯坂村・砂田新村・上条開発村・下経田村・上経田村・上経田新村・小泉村・太郎右衛門新村・江又村・西河原新村・若杉新村・若杉村・正印村・正印新村・稗田村・弓之新屋村・女川村・弓之館村・弓之柿沢村・二口新村・正源寺村・弓之館新村・江田新村・大松新村・大松村・茗荷谷村・塩之谷村・谷浅生村・中野又村・桧谷村・大沢村・西種村・東種村・千石村・三日市村・横法音寺村・横大坪新村・法音寺村・上法音寺村・湯神子村・湯崎野村・堤谷村・須山村・上極楽寺村・限目新村。

㉚新川郡

海老江村・竹ヶ鼻村・高木村・浦田新村・二塚新村・円通寺二塚新村・竹ヶ鼻新村・立野村・古海老江村・横沢村・日水村・野口新村・大窪新村・蔵本新村・浦田村・極楽寺新村・極楽寺村・西若林村・若宮村・米沢新村・中新村・榎新村・下段村・道源寺村・中山新村・鋳物師沢新村・下田村・伊豆林村・栃津村・座主坊新村・仏生寺村・五郎丸村・下国寺村・上国寺村・高野之稲荷村・竹之内村・金尾新村・番頭名村・八ツ屋村・高堂村・二ツ屋村・的場村・小路村・沖村・新堀村・二杉村・常願寺村・開発村・入部町村・塚越村・白髭村・芦島村・上鉾木村・入江村・曽我村・石田村・浅生村・横田新村・上開発村・立泉寺村・上野村・中野新村・横江村・千垣村・芦峪寺村・下鉾木村・石田新村・新吉島村・田添村・橋場新村・西芦原村・前沢新村・舟橋村・東芦原村・黒崎村・高来日方江村・田畑村・大村・中田村・森村・東岩瀬村・西宮村・千原崎村・草嶋村・牧村・蓮町村・犬嶋村・城川原村・広田上野新村・中嶋村・塩田村・米田村・水落村・楠村・下飯野村・針木村・日影村・平榎村・野田村・上野村・東岸瀬宿並同浦方（他，新開１ヶ所分）。

㉛新川郡

赤浜村・堀江村・大永田村・小森村・黒川村・円念寺村・貝谷村・片地村・五位尾村・大坪村・大坪新村・安田村・東福寺村・宝山村・大榎村・栃山中新村・横道村・小寺又新村・平塚村・柴村・大浦村・杉出村・柿木新村・森野新村・野尻村・道寺村・金屋村・栃山金屋新村・小林村・平塚新村・北野村・大窪新村・二塚新村・栗山村・大掛村・栃山囲新村・追分村・北野新村・四ツ屋村・浜四ツ屋村・荒又村・高塚村・坪川村・坪川新村・辰ノ尾村・中河原村・寺家村・滑川町・大嶋新村・住吉村・吉野村・出村・川津村・慶野村・早月川原村・斎木村・弥源寺新村・浅生村・有山村・升方村・早月上野村・吉浦村・升田村・岩高村・三ヶ村・川縁新村・大熊村・蓑輪村・伊折村・蓬沢村・折戸村・早月中村・鉢村・本江村・改養寺村・花子新村・寺町村・石仏村・護摩堂村・大窪新村・笠木村・下嶋村・中村・田中村・高柳村・曲渕村（他，新開２ヶ所分）。

㉜新川郡

三枚橋村・大家庄村・山王村・船見野村・船川新村・桑畠新村・栗虫村・石谷村・下若林村・泊町・大平村・中野口村・横水村・二ツ村・月山新村・下山新村・平柳村・山崎新村・荒川新村・音沢村・河仕新村・前又新村・

篠川村・長野村・大屋村・野新村・下山村・東草野村・宮崎村・西草野村・殿村・金山村・不動堂村・道下村・横尾村・髙橋村・明日村・杉森村・蛭谷村・山崎村・船見村・月山村・窪田村・堺村・沼保村・南保村・船見野之内西中村・船見野之内下林村・船見野之内古畠村・船見野之内横道村・船見野之内二ツ屋村・船見野之内中村・船見野之内愛場村・船見野新村・船見野之内林尻村・船見野之内中沢村・船見野之内嶋迷村・船見野之内下野村・船見野之内今江村・船見野之内中野村・岡開新・目川村・君島村・横山町・八幡町・古川村・青嶋村・臼森村・臼森新村・板屋村・髙堂新村・吉原村・椚山村・蛇沢新村・上野村・日吉新村・椚山新村・青木村・田又村・新屋村・古黒部村・藤原新村・荒又村・下飯野村・小杉新村・春日村・神子沢村・神林新村・篠原新村・五十里村・本村・新村・荒俣村・村椿村・本村・道市村・下飯野新村・上飯野村・小摺戸村・一宿新村・浦山新村・飛鄙村・髙畠新村・髙瀬新村・木根村・木根新村・上飯野新村・柴垣新村・神沢新村・大角井新村・大嶋新村・東狐村・道古新村・入膳村・入膳新村・若栗新村・柴川原新村・福島村・福島新村。

㉝新川郡

五郎丸村・江尻村・森尻村・野嶋村・眠目村・中嶋村・釈泉寺村・竹ヶ鼻村・常光寺村・米嶋新村・広野村・北嶋村・斎神新村・中野嶋新村・栃山新村・栃山稲泉新村・有金村・中塚新村・柳原村・広中新村・栃山村・弥市新村・江上村・広野新村・柿沢新村・野開発村・柿沢村・東江上村・中江上村・稲村・北嶋新村・湯之上野村・田嶋野村・上市村・四ツ屋新村・宮窪新村・沖田新村・栃山七口新村・青出新村・下梅沢村・蒋原村・上小泉村・法花寺・宮窪村・下小泉村・稲泉村・上嶋村・大門村・上嶋新村・領家村・上条沖村・髙月村・上梅沢村・中青出村・森尻新村（他，新開２ヶ所分）。

㉞新川郡

辻ヶ堂村・畠等村・針原横越村・新保村・野中村・宮条村・野中新村・町袋村・針原中村・髙嶋村・宮村・広田新屋村・飯野荒屋村・飯野村・小西村・三上村・金泉寺村・五本杜村・宮成村・田屋村・中野新村・宮成新村・一本木村・柴草村・市田袋村・市田袋新村・肘崎村・池田町村・金尾村・北嶋村・金広村・上川原村・清水堂村・放士ヶ瀬村・新清水村・泉村・若宮新村・辻村・辻新村・東若林新村・下新村・沢端新村・江崎新村・沢新村・渕上新村・坂井沢村・下金剛寺村・上金剛寺村・末ノ野田村・末之若林村・米道村・寺坪新村・末谷口村・上末村・上瀬戸村・池田村・松倉村・小又村・座主坊村・天正寺村・秋吉新村・秋吉村・中河原村・中市村・公文名村・山室江口村・大田本江村・髙屋敷村・横内村・柿木荒屋村・西野新村・流杉村・大場村・石屋村・新名村・長屋村・城村・西番村・三室荒屋村・中瀧村・上瀧村・文珠寺村・黒牧村・梛ヶ原村・布目村・小谷村・砂見村・福沢村・小佐波村・牧野村・舟倉村・日尾村・小黒村・万願寺村・塩野村・瀬戸村・馬瀬村・石渕村・下惣嶺村・小坂村・折谷村・大清水村・大双嶺村・仙長原村・長瀬村・奥山村・東小俣村・西小俣村・手出村・赤倉村・安蔵村・隠土村・小原村・河内村・有峯村・笹津村・牛ヶ増村・芦生村・今生津村・布尻村・町長村・寺津村・薄波村・大田薄波村・吉野村・伏木村・小原村・船渡村・猪谷村。

㉟新川郡

岡経田村・浜経田村・平伝寺村・仏田村・持光寺村・斎沢村・西尾崎村・江口村・青嶋村・吉嶋村・六郎丸村・横枕村・袋村・相木村・上村木村・釈迦堂新村・仏田又新村・北中村・北鬼江村・本新村・下村木村・大海寺野新村・刈安村・印田新村・三田村・本江村・友道村・大光寺村・住吉新村・宮津村・湯上村・鹿熊村・古鹿熊村・金山谷村・観音堂村・宝田村・稗畠村・池谷村・北山村・小菅沼村・坪野村・石垣村・大谷村・大菅沼村・石垣新村・嶋尻村・道坂村・東城村・黒谷村・山女村・平沢村・天神野新村・東尾崎村・木下新村・蛇田村・小川寺村・長引野新村・東山村・貝田新村・青柳村・布施爪村・黒沢村・大沢村・福平村・池ノ尻村・田籾村・生地新村・弐ツ屋新村・北野新村・新開六ヶ村

（弐ツ屋新村・北野新村・石田新村・正光寺新村・立野新村・四ツ屋新村）・西田新村・正光寺村・犬山新村・魚津町田地方・小津町田地方・小津町・大海寺野村・大海寺新村・長引野又新村・山室町村・古寺町・経堂村・東長江村・双代村・荒川村・石金村・西長江村・綾田村・田中蓑浦村・上冨居村・上赤江村・下赤江村・粟嶋村・粟田村・下冨居村・鍋田村・中冨居村・上飯野村・蓮花寺村・町新庄村・川端村・向新庄村・本江嶋村・日又村・貫田村・古川村・西芦原新村・朝日村・川原毛村・中間嶋村・大江千村・嶋村・藤之木村・金代村・藤木新村・河原新村・大中嶋村・高嶋新村・利田村・日置村・半屋村・高原之八ツ屋村・東大森村・高荒屋村・西大森村・三ツ塚新村・泊新村・宮路岩峪村・岩峪寺村・岡田村・松木村・牧村・才覚木村・水須村・中地山村・下山之和田村・小見村・本宮村・原村・新庄新町。

7022　能美郡村御印并当時御物成等相調理書上申帳　16.65—28

天保13年（1842）
7冊　24cm
寛文10年（1670）村御印と天保13年当時の定納・諸役を記し，諸変化を注記する。
①軽海組　②苗代組　③粟津組　④徳橋組
⑤板津組　⑥山上組　⑦北板津組。

7023　石川郡村御印并当時御物成等相調理書上申帳　16.65—29

手写　天保13年（1842）
8冊　24cm
書式は前号と同じ。
①中奥組　②河内組　③富樫組　④戸板組
⑤山嶋組　⑥鞍月組　⑦林組　⑧米丸組。

7024　羽咋郡村々御印写帳　16.65—30

酒見村八三郎編
前田家編輯方手写　明治年間
157丁　23.5cm
真館弥左衛門所蔵の写。寛政6年（1794）の書上げにかかるもので，酒見村八三郎組下村々の寛文10年（1670）村御印の写し。

7025　羽咋郡村御印留　16.65—31

荻谷村長右衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　23.5cm
寛政6年（1794）の書上げにかかるもので，荻谷村長右衛門先組61ヶ村の寛文10年（1670）村御印の写。

7026　土田組村御印写　16.65—32

手写　万延元年（1860）
88丁　23.5cm
梨谷小山村清右衛門所蔵の写。羽咋郡土田組寛文10年（1670）の村御印等。

7027　村御印写　16.65—33

手写
2冊　23.5cm
○「村御印写奥書附札調帳」砺波郡分。享保18年（1733）村御印写提出の際の村毎の奥書と付札事項を収録したもの
○「和田新町作食御蔵ニ御立置候御高札之写」寛文4年（1664）御算用場から出された高札文面を同13年（1673）書上げたもの。

検地・歩刈

7028　定検地方品々留　16.65—34

手写
2冊　23.5cm
安井顕比旧蔵。定検地奉行の勤方に関するもの。
①川除普請の仕法，検地定書等。寛文元年（1661）より安永5年（1776）までの定検地奉行人名を附す
②検地及び川除普請実施に際しての諸文書雛形。

7029　歩苅定免古算解　16.65—35

前田家編輯方手写　明治年間
22丁　23.5cm
原本は文化9年（1812）成立。明暦2年（1656）歩苅定免，壱歩苅算用仕立様，享保10年（1725）壱歩苅，算土工夫之歩苅定免之法，立毛損毛ニ而一作御用捨免歩苅之算法を収載し，青，朱で本文の解，解の解をつけている。

7030　〔検地ニ付書上〕　16.65—36
巻子1　14.5cm
万治年間越中検地における村民の不正等につき書上。西坂猪之助より，中川八郎右衛門・前田七兵衛宛。
旧書名「西坂猪之助書翰」。

7031　定検地格式帳　16.65—37
手写　文政3年（1820）
15丁　12×18cm
寺尾氏旧蔵。享和2年（1802）加賀藩の検地定書，享保11年（1726）関東筋新田検地條目を収む。旧書名「検地格式帳」。

7032　検地方格式覚帳　16.65—38
算用場編
手写
16丁　12×17.5cm
田辺氏旧蔵。享和2年（1802）の定。

7033　定検地方当要　16.65—39
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　23.5cm
享和2年（1802）検地御定書，定検地所勤方之覚を収録。文政4年(1821)までの事項を収む。

7034　内検地一巻等御扶持人勤向大概抄　16.65—40
手写
31丁　24cm
享和2年(1802)改作奉行より諸郡御扶持人宛。内検地に必要な一般知識，書類などをまとめたもの。

7035　検地方格式覚帳　16.65—41
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。享和3年（1803）検地の際の規則，方法などを記す。

7036　作毛見立一巻　16.65—42
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　23cm
真館与四郎所蔵の写。享和年間に申渡しの作毛見立仕法及び文書調え方について記す。

7037　定検地所川除方詮儀之覚　16.65—43
文化7年（1810）
2冊　24cm
宇野富良旧蔵。川除方施策に関する定検地所よりの書上げ。①10月付　②11月付。　②は①に基づく詮議の覚。

7038　歩苅算法捷径　16.65—44
文化11年（1814）
23丁　24cm
岡田棣旧蔵。古法にかかわらず歩苅算法の捷径の法を記したもの。検見歩刈算法，検見歩刈算法求定免之法，立毛損毛ニ而御用捨免歩苅之算法，検見捷法一編ニ而歩苅之法，立毛損毛ニ而一作御用捨免歩苅之算法などについて，それぞれ計算例を示している。

7039　〔御見立格取極申渡帳〕　16.65—45
広瀬又八郎編
手写
12丁　24.5cm
原題「以来見立格取極申渡帳」。一歩苅の古法等を収録。天保9年（1838），諸郡惣年寄，年寄並のため参考とさせたもの。

7040　定検地所旧記要用抜書　16.65—46
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　23.5cm
定検地奉行役所の古記録を抜粋したもの。雑之部18項，検地方之部14項，地廻り両河等之部3項，竹方之部5項，御為一件4項。

7041　三州地方聞書　16.65—47
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23.5cm
猪山成之所蔵の写。藩政中期の検地，免定めに関する格式等覚書。

7042　算法田税録　16.65—48
手写
17丁　23.5cm
岡田棣旧蔵。「算法田税録」上・中・下・付録のうち上のみを写す。歩法・反別・斗代・反別斗代相当，租税取方の5項目について記す。

7043　検地方算法　16.65—49
30丁　23.5cm
安井顕比旧蔵。検地の際の面積算出法について記す。

7044　検地縄張仕様図　16.65—50
高畠厚定著
自筆　天明6年（1786）
絵図1枚　彩色　35×48cm　袋入
高畠定辟旧蔵。縄張と歩数算用の見本図。

7045　検地縄張之図　16.65—51
高畠厚定著
自筆　天明6年（1786）
絵図1枚　彩色　36×51cm
高畠定辟旧蔵。越中東岩瀬における具体例を示す。

7046　〔三州検地出高手上高等書出〕　16.65—52
手写
合綴1（3冊）　24.5cm
加越能三州各郡単位に元禄12年（1699）から正徳5年（1715）までの検地出高・手上高及び定免相極新開高の村別書出。①越中　②能州　③加州の3冊よりなる。

7047　加州能州水くさり御見立御検地帳　16.65—53
山本弥二右衛門編
万治2年（1659）
9丁　24cm
中川典克旧蔵。前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。35ケ村について不納分の打立高等を記す。

7048　能美郡西原村内検地打立并抜物帳　16.65—54
文化9年（1812）
23丁　12×18cm
測量間尺数と歩数の記録。田井村次郎吉，馬場村喜右衛門の調査にかかるもの。

7049　〔能美郡西原村内検地分間領絵図〕　16.65—55
文化9年（1812）
絵図1枚　彩色　25×53cm
原題・旧書名「能美郡今江村源介組西原村内検地分間領絵図」。

7050　能美郡日用村内検地打立并抜物帳　16.65—56
文化9年（1812）
52丁　12×35.5cm
測量間尺数と歩数の記録。田井村次郎吉，馬場村喜右衛門の調査にかかるもの。

7051　〔能美郡日用村内検地領絵図〕　16.65—57
文化9年（1812）
絵図1枚　彩色　47.5×155cm
原題・旧書名「能美郡今江村源介組日用村内検地領絵図」。

7052　〔能美郡日用村惣打立歩の覚〕　16.65—58
2通　12・24cm
惣打立歩と抜物歩，畑折捨歩等の書上。

7053　能美郡本江村内検地壱番六角之中抜物并畠折帳　16.65—59
文化9年（1812）
51丁　12×18cm
田井村次郎吉，馬場村喜右衛門の調査にかかるもの。

7054　能美郡本江村内検地打立并抜物帳　16.65—60
文化9年（1812）
82丁　12×18cm
測量間尺数と歩数の記録。田井村次郎吉，馬場村喜右衛門の調査にかかるもの。

7055　〔能州越中之内野毛地不毛之地箇所附〕　16.65—61
文化14年（1817）
23丁　12.5×18cm
越中三郡及び能登口郡について，見分箇所の書上げ。旧書名「能州越中之内野毛地不毛之地見聞之場所覚書」。

7056　〔能美郡湊村所々打立野帳〕　16.65—62
天保10年（1839）
45冊　12×18cm
①石塚町人家居屋敷打立野帳
②常盤町人家居屋敷打立野帳
③松江町人家居屋敷打立野帳
④冨春町人家居屋敷打立野帳

⑤出村人家居屋敷野帳
⑥浜納屋屋敷打立野帳
⑦岡田之割三番五拾歩割打立野帳
⑧岡田之割四番四拾歩割打立野帳
⑨岡田之割五番四拾歩割打立野帳
⑩岡田之割六番三拾歩割打立野帳
⑪岡田苗代三拾歩割打立野帳
⑫岡田早稲田四拾歩割打立野帳
⑬向嶋田割三番六拾歩割打立野帳
⑭向嶋田割四番五拾歩割打立野帳
⑮吉原境堀田割弐拾五歩割打立野帳
⑯所々割残り田形打立野帳
⑰吉原境畑割壱番四拾歩割打立帳
⑱吉原境畑割弐番四拾歩割打立帳
⑲吉原村境畑割三番三拾歩割打立野帳
⑳吉原境畑割四番弐拾歩割打立野帳
㉑吉原境山ノ下タ畑三拾歩割打立帳
㉒向嶋畑割壱番四拾歩割打立野帳
㉓向嶋畑割弐番四拾歩割打立野帳
㉔向嶋畑割三番四拾歩割打立野帳
㉕向嶋畑四番四拾歩割打立野帳
㉖向嶋畑割五番四拾歩割打立野帳
㉗久保畑々割三番四拾歩割打立野帳
㉘清水屋五兵衛下タ畑打立野帳
㉙川中嶋桑畑百歩割打立野帳
㉚麻畑々割壱番弐拾歩割打立野帳
㉛麻畑々割弐番弐拾歩割打立野帳
㉜麻畑々割三番弐拾歩割打立野帳
㉝牛房割畑壱番三拾歩割三本組打立野帳
㉞牛房畑弐番割三拾歩三本組打立野帳
㉟田形畑壱番弐拾歩割打立野帳
㊱田形畑弐番四拾歩割打立野帳
㊲野畑々割壱番三拾歩割打立野帳
㊳野畑之割弐番弐拾歩割打立野帳
㊴村前砂畑壱番三拾歩割野帳
㊵村前砂畑弐番割弐拾歩割打立野帳
㊶浜畠無年貢場所打立野帳
㊷小兵衛先年分持場所六拾歩弐本組野帳
㊸小兵衛先年分持場所畑四拾歩割打立野帳
㊹所々野毛打立野帳
㊺所々薮地打立野帳。
旧書名
「能美郡湊川中島桑畑百歩割打立野帳」
「能美郡湊久保畑々割三番四拾歩割打立野帳」
「能美郡湊小兵衛先年分持場所野帳」
「能美郡湊牛蒡畑打立野帳」
「能美郡湊清水屋五兵衛下タ畑打立帳」
「能美郡湊人家居屋敷打立野帳」
「能美郡湊出村人家居屋敷野帳」
「能美郡湊所々野毛打立野帳」
「能美郡湊所々薮地打立野帳」
「能美郡湊所々割残り田形打立野帳」
「能美郡湊浜納屋々敷打立野帳」
「能美郡湊浜畠無年貢場所打立野帳」
「能美郡湊向嶋田割打立野帳」
「能美郡湊向嶋畑割打立野帳」
「能美郡湊村前砂畑打立野帳」。

7057　〔野帳・領絵図受取目録〕　16.65—63
1通　17cm
原村・布橋村・本江村等の野帳，絵図受取目録。放寺村彦右衛門より田井村次郎吉宛。
旧書名「彦右衛門受取書」。

7058　口郡村々歩刈手帳　16.65—64
16冊　24cm
各村々について記し，新田は村毎に別記する。
①嘉永4年(1851) ②同5年 ③同6年 ④同7年 ⑤安政2年(1855) ⑥同3年 ⑦同4年 ⑧同5年 ⑨同7年 ⑩万延2年(1861) ⑪文久2年（1862）⑫同3年 ⑬同4年 ⑭元治2年(1865) ⑮慶応2年(1866) ⑯明治2年（1869)。

7059　奥郡村々歩刈手帳　16.65—65
6冊　24cm
前号と同一書式で記載。
①嘉永4年（1851）②安政5年（1858）③文久2年（1862）④元治2年（1865）⑤慶応2年（1866）⑥明治2年（1869)。

7060　〔万治三年越中検地方書類〕　16.65—66
手写
巻子1　25cm
中川典克旧蔵。
○利波郡蓑谷村百姓書上（3月13日付）
○高儀新村十介書上（2月13日付）
○高儀新村書上（2月3日付）
○高儀新村百姓田地返却証文（2月18日付）

○坪野村市兵衛口書上（4月9日付）
○高儀新村十助田地割ニ付口上書（4月9日付）
○射水郡殿村津幡江村追出シ百姓断り書2通（4月5日付）
○利波郡高儀新村百姓返答書（4月9日付）
○検地横目高柳喜平次書上（4月18日付）
○検地ニ付覚書2通（4月18日付）
○検地横目松原安兵衛書上（4月20日付）
○検地横目田辺惣右衛門書上（4月21日付）
○渡辺弥平日捍水損見立并新開高本検地之覚（9月26日付）
○西坂猪助村別検地不足高，請高不足高等書上（10月14日付）
○射水郡検地村々当打立高之覚。
以上を継立てる。
旧書名「万治三年検地書類」。

7061　新川郡高寺村内検地分間之図式　16.65—67
享和3年（1803）
絵図1枚　彩色　139×90cm
高畠定眸旧蔵。竿入地検尺数書入。旧書名「検地割図」。

7062　〔今津甚四郎口上書〕　16.65—68
自筆
1通　16.5cm
近江国今津村・弘川村の慶長7年（1602）検地帳写しについて。今津甚四郎より算用場宛。

7063　江州高嶋郡之内今津村・弘川村・海津之内中村町三ケ所田畠町歩仕立帳　16.65—69
手写
2丁　24cm
享保6年（1721）原本成立。

7064　加賀国越中国諸郡田地米ノ図　16.65—70
手写
2丁　24cm
端本。田地計，検地竿等のことを記す。

新開・変地

（新　　開）

7065　新開詮儀之趣申渡覚　16.65—71
手写
3丁　24cm
加藤氏所蔵の写。享和2年（1802）新開増免等について，改作奉行より諸郡新田才許宛達書。

7066　新田開発御仕法方留　16.65—72
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　24cm
文政5年（1822），天保9年（1838）の仕法等を収録。

7067　新開方御触留　16.65—73
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23.5cm
○嘉永元年以来新開方御触留（多田治）
○新開方御詮議ニ付畑直願出候分詮義方窺等之品々留帳（嘉永年間）。

7068　新田裁許勤向帳　16.65—74
加藤又八郎編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
新田才許役務上の記録61項目。内容年代，安政2年（1855）～慶応元年（1865）。

7069　加州能州新開御検地帳　16.65—75
万治2年（1659）
3丁　24cm
中川典克旧蔵。加州・能州12ケ村の新開地の検地打立高を記す。山本弥二右衛門より前田七郎兵衛・中川八郎右衛門宛。

7070　〔加越新開高覚〕　16.65—76
改作所編
6通　25cm
寛文3年（1663）～元禄12年（1699）。後欠文書を含む。

7071　新開方三種　16.65—77
前田家編輯方手写　明治年間
60丁　23.5cm
○寛文4年（1664）より天和3年（1683）迄新開畠直シ高相記帳　羽咋郡堀松村三郎兵衛組（国田武信所蔵の写）
○文政2年（1819）御尋ニ付新開等之儀心附之程ヶ条書ニ相調奉指上候（岡部勇作所蔵の写）
○文久2年以来新川郡末三ヶ野等開発方一件（岡部勇作所蔵の写）。

7072　〔新田永荒之覚〕　16.65—78
自筆
巻子1　24cm
正徳元年（1711）以降の三州の新田高と永荒高の計算について，横山中務・野村勘兵衛の覚。正月16日付。

7073　〔能美郡若原村領新開内検地手絵図〕　16.65—79
文化9年（1812）
絵図1枚　彩色　27.5×40cm
原題「能美郡若原村領并享保八年新開内検地手絵図」。享保8年（1723）新開場所の図。

7074　河北郡請高新開根帳　16.65—80
租税局編
104丁　24cm
天保9年（1838）以来の新開分について，明治元年（1868）より7年（1874）迄の免率を記載。

7075　〔河北郡新開高免帳〕　16.65—81
3冊　24cm
延宝～明治年間の新開分について，明治元年（1868）より7年（1874）迄の免率を記載。
旧書名「河北郡村高帳」。

7076　井上組川尻村新開願場所申分詮議一件　16.65—82
明治元年～3年（1868～70）
巻子1　24cm
論所は河北潟縁。川尻村組合頭口書等5通を継ぐ。

7077　〔河北郡川尻村新開願〕　16.65—83
明治3年（1870）
巻子1　24cm
川尻村六右衛門等より租税局宛。河北潟の縁。川尻に55,000歩程の新開計画。

7078　〔河北郡川尻村新開場所稲刈込一件口書〕　16.65—84
明治3年（1870）
巻子1　24cm
新田市十郎等宛肝煎伝右衛門等口書，及び新田一二郎・御扶持人衆宛頭振六右衛門等口書。
旧書名「河北郡川尻村新開田刈込一件」。

7079　新開根帳　16.65—85
前田家編輯方手写　明治年間
60丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。天和2年（1682）～文化7年（1810）羽咋郡入野村など40ヶ村図免新開の実例を記す。

7080　能州口郡邑知潟絵図　16.65—86
文化14年（1817）
絵図1枚　彩色　312×210cm
邑知潟干拓のための新開願場所を指示した絵図。邑知潟に注ぐ河川等についても正確に記す。分間図式百間曲尺二寸。

7081　請高新開所之内当年内検地可被仰付ケ所挙伺上帳　16.65—87
口郡御扶持人等編
前田家編輯方　明治年間
3丁　24cm
真館氏所蔵の写。嘉永3年（1850）口郡御扶持人より改作所宛。口郡村々14ヶ所における内検地施行伺書。

7082　〔羽咋郡吉崎村清四郎新開願所詮議等口書一件〕　16.65—88
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　24cm
真館氏所蔵の写。原題「嘉永四・五年吉崎村清四郎新開願所同村弥五兵衛先達而願御聞届見込場所之旨同人申聞双方詮議口書等一件　絵図弐

枚添」。

7083　新開方御用留　16.65—89
荻谷村岡部勇作編
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
岡部勇作所蔵の写。内容年代，安政6年(1859)～慶応元年（1865）
①安政6年・万延元年（1860）・文久2年（1862）新開方調理の際の書上等
②安政6年より万延元年の新開方小紙等留，万延元年一青組舟尾村新開ニ付肝煎へ対シ村方百姓不心服詮義一件
③文久3年・元治元年（1864）・慶応元年新開方調理の際の書上等。

7084　〔鹿島郡〕吉田村平次郎新開願ニ付指構申分一件　16.65—90
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
真館氏所蔵の写。吉田村内での申分について嘉永3年（1850）の文書を収録。

7085　〔古城村荒地起帰シ一件〕　16.65—91
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　24cm
真館氏所蔵の写。原題「古城御林山之内ニ而古城村荒地起帰シ仕度旨ニ而願書付等一件」。内容年代，文政5年（1822）より同8年。古城村は能登鹿島郡に属す。

7086　鳳至・珠洲両御郡極高新開根帳　16.65—92
御代官割所編
149丁　24cm
各新開場所には，安政4年（1857）より明治7年（1874）までの免率を記す。

7087　鳳至・珠洲両御郡定免新開根帳　16.65—93
御代官割所編
12丁　24.5cm
元治元年（1864）定免入となった新開高書上。

7088　山田野新田由来　16.65—94
前田家編輯方手写　明治年間
83丁　23.5cm
石崎彦太郎所蔵の写。内題「山田新田由緒根帳」，山田新田は栃波郡にあり，藩によって植民されてできた村。内容年代寛文12年（1672）～寛政8年（1796）。

7089　〔高岡御廟御見隠林新開願詮義口書等〕　16.65—95
手写
6丁・巻子3・絵図1枚　24cm・15.5～24cm・83×39cm　袋入
原題「高岡御廟御見隠林繁久寺新開願ニ付大野村等よりも新開願出詮義仕候口書等」。越中高岡繁久寺と射水郡大野村・中川村・赤祖父村3ヶ村の新開をめぐる争いに関するもの。
①御廟所御境内領地由緒写（正保3年～万治3年）
②〔大野村肝煎善助ほか願書〕（明治3年）
③高岡繁久寺境内新開願，御扶持高指止に付繁久寺火燈役など24人に旧扶持高作配願
④繁久寺火燈役の者共出作方願許可状，繁久寺新開願に付返書
⑤射水郡二上組大野邑領往古野役地之内瑞龍院殿様御廟所御境内繁久寺居屋敷火燈人掃除者居屋敷等之絵図（明治3年）。

7090　〔御林跡地開発申付書〕　16.65—96
1通　16.5cm
辰2月2日付，砺波郡般若組芹谷野御林および常国村百姓持山林を伐った跡地の開発を命じたもの。算用場より改作奉行宛。
旧書名「御算用場達書」。

7091　富山境新開地之図　16.65—97
享保14年（1729）
絵図2枚　彩色　106×206cm・105×203cm
新川郡神通川と古川間の新開地において，加賀藩領の村と富山藩領の村との領地境極図。

7092　〔神通川古川跡新開境目絵図〕　16.65—98
手写
絵図1枚　彩色　82×159cm
文化3年（1806）5月，東岩瀬往還から河口迄，新しい神通川の西側にあたる地域で，加賀

藩と富山藩の境界を示したもの。裏面に両藩領懸り村々の申分なき旨請書を記す。

7093　〔岩瀬野開之絵図添紙面〕　16.65—99
手写
巻子1　24cm
中川典克旧蔵。西岩瀬村と草嶋村の領境に関する，松田権太夫より中川式部宛詮議報告書。

7094　拾弐貫野新開濫觴　16.65—100
杉木有一編
前田家編輯方手写　明治年間
55丁　23.5cm
内題「布施山御開濫觴一件」。内容年代，天保9年（1838）～嘉永4年（1851），越中新川郡拾弐貫野新開について。

7095　下新川郡十二貫野新開所総絵図　16.65—101
天保10年（1839）
絵図1枚　彩色　113×232cm
未完成のもの。十二貫野村等領図。

7096　新川郡十二貫野宮野両開分間絵図　16.65—102
天保12年（1841）
絵図3枚　彩色　126×234cm　袋入
①野之分　上
②用水筋　中（68×263cm）
③用水筋　下（86.5×166.5cm）。

7097　新川郡十二貫野并宮野両御仕立開分間絵図　16.65—103
天保12年（1841）
絵図1枚　彩色　124×233cm
開地の川・道等書入の分間境図。
旧書名「新川郡十二貫野并宮野両開分間絵図」。

7098　〔新川郡〕十二貫野宮野分間図等　16.65—104
天保13年（1842）
絵図6枚　彩色　27.5×45cm　包紙・帯封
①十二貫野宮野両御仕立開略図，野之図，天
②十二貫野宮野両御仕立開略図，用水筋之図，地　（27.5×83cm）
③浦山村ヨリ布施川マテ十二貫野通等御道筋之図，全（27.5×79.5cm）
④於黒部川舟橋視十二貫野図　（18×83cm）
⑤於片貝川西岸眺望十二貫野図　（18×55cm）
⑥於植木村上之村端見十二貫野図（18×55cm）。

7099　〔新川郡布施山開〕　16.65—105
絵図2枚　彩色　28×40cm
①布施山開略図（金谷孔彰旧蔵）
②新川郡布施山御仕立開略図（安井顕比旧蔵）。
①では新開高を記す。

7100　新開詮議方一件　16.65—106
前田家編輯方手写　明治年間
80丁　23.5cm
杉木有恒旧蔵。嘉永元年（1848）新川郡十村中の記録。

（変地・引高）

7101　御領国水損風損之覚　16.65—107
右筆所編
手写
25丁　25cm
寛文8年（1668）から延宝3年（1675）の風水害の損害について。

7102　御郡方検地永引高物成并年季引免物成等之覚　16.65—108
御勝手方編
12丁　23cm
宇野富良旧蔵。宝永2年（1705）・同4年～同7年分について，加賀・能登・越中の各郡別に記載。

7103　諸郡変地村々之内千石ニ五拾石御定不行届村々御償米仕立帳　16.65—109
天明8年（1788）
2丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。

7104　諸郡変地御償米引免ニ仕立申定納口米并年季を以立帰草高等仕分ケ帳　16.65—110
天明8年（1788）
14丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面。

7105　〔犀川桜畠下立札立替願〕　16.65—111
寛文6年（1666）
1通　24.5cm
法嶋村肝煎太郎兵衛等より川崩地につき立札立替を願い出たもの。

7106　弐拾ケ年御取扱米等書上　16.65—112
6丁　24cm
嘉永5年（1852）～明治4年（1871）能美郡湊村の変地償米，同勢子米，貸米・貸銭などについて記載。

7107　〔村領地引高願〕　16.65—113
慶応4年（1868）
巻子1　24cm
石川郡笠舞村，山崎領，新川郡滑川町，鹿嶋郡矢田新村の御用地についての引高願。
旧書名「村領地引免願」。

7108　〔河北郡第十五区村々変地絵図〕　16.65—114
明治5年（1872）
絵図20枚・1通　彩色　39.5×82cm・24cm
袋入
①加賀国河北郡第十五区三番組下田上村領変地場所縄入之図
②上田上村浅野川筋（28×137cm）
③上田上村姫谷川筋等（39×83cm）
④銚子口村（28×79cm）
⑤中村（67×80cm）
⑥野村（41×78.5cm）
⑦谷口村（28×80cm）
⑧打尾谷村（28×117cm）
⑨平等村（28×157cm）
⑩同四番組下下荒屋村（28×58.5cm）
⑪藤六村（27.5×78cm）
⑫東市瀬村（28×79cm）
⑬北袋村（28×125cm）
⑭平下村（28×138cm）
⑮板ケ谷村（28×53cm）
⑯上山村（55×109cm）
⑰大菱池村（28×79cm）
⑱魚帰村（28×99cm）
⑲俵原村（28×39.5cm）
⑳新谷村（28×141cm）
㉑添書。
もと絵図21枚のところ袋村分を欠く。

7109　変地方一件　16.65—115
真館與四郎編
前田家編輯方手写　明治年間
112丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。安政6年（1859）～慶応元年（1865）の口郡における変地の調理，見分書類，参考上の雛形，また変地村々の償米仕出帳を収録。

7110　〔宇出津新村地所見立頭振屋舗ニ願上云々〕　16.65—116
手写
9丁・絵図2枚　23.5cm・28×37.5cm
多田氏所蔵の写。表書に「寛文十二年子七月廿八日新村地所見立頭振屋舗ニ願上則御入被仰付延宝三年卯五月廿六日絵図之表歩数相究同十一月十二日御印御下之写等，并新町一件書物，外ニ絵図二枚添」と記す。

7111　〔鳳至郡村々引高覚書〕　16.65—117
巻子1　16cm
鵜浦村等21ケ村の引高，見取高等の覚。
旧書名「鳳至郡草高並引免高覚書」。

7112　変地御償米一件　16.65—118
前田家編輯方手写　明治年間
69丁　23.5cm
上新川郡についてのもの。変地御償米願並立帰り方仕出帳（天保10年），変地御償米奉願帳(同12年・13年)，変地御償米割府帳（同年），変地御償米蔵向願等（同14年），変地御償米奉願帳（同14年・15年・弘化3年）を収録。

7113　〔越中常願寺川筋変地之場所見取絵図〕　16.65—119
手写
絵図2枚　彩色　54×119cm・40×70cm
1枚には「安政五年二月廿五日夜大地震ニテ山々動崩レ常願寺川水源淀水同三月十日四月廿六日両度押出シ入川泥置等変地之場所見取絵図」と記す。他の1枚は同内容縮小図。

7114　〔新川郡白岩川水淀之図〕　16.65—120
手写
絵図1枚　彩色　27×39.5cm
高畠定胖旧蔵。高野組等の水淀高も記す。

7115　新川郡高原野等截分全図　16.65—121
万延元年（1860）
絵図1枚　彩色　60×141cm
内題「新川郡高原野等御引揚之地元常願寺川筋自麓地所引越村々等 截分之場所分間絵図」。金谷孔彰旧蔵。

7116　〔新川郡友道村之内屋敷地打渡方延期願〕　16.65—122
肝煎源右衛門等著
慶応4年（1868）
1通　24cm
稲刈取後までの延期願。旧書名「新川郡友道村肝煎源右衛門願書」。

7117　〔居屋敷引高願添書〕　16.65—123
1通　16.5cm
新川郡境村長左衛門等4人の分。
旧書名「小幡和平ロ上書」。

草高・定納・小物成・夫銀・万雑

（草高・定納）

7118　貞享元年四月在高改極り高目録　16.65—124
貞享元年（1684）
巻子2　24.5cm
加賀3郡と越中3郡の組毎の高を列記する。
旧書名「在高改極り高目録」。

7119　貞享元年四月在高改極り高目録　16.65—125
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　25.5cm
前号と同内容。

7120　加能七郡高免　16.65—126
前田家編輯方手写　明治年間
102丁　26.5cm
能美郡苗代組29村・軽海組38村・板津組33村・粟津組38村・徳橋組34村・山上組38村・北板津組39村
石川郡河内組31村・林組39村・山嶋組34村・中奥組37村・富樫組41村・米丸組52村・戸板組41村・鞍月組54村
河北郡金浦組56村・小坂組49村・五箇庄組45村・井上組45村・英組36村・金津組37村
能登口郡押水組42村・邑知組39村・甘田組26村・土田組40村・富来組47村・熊木組42村・一青組46村・島組20村・矢田組41村・上浅井組27村・下浅井組16村
奥郡仁岸組65村・櫛比組60村・大屋組42村・河原田組15村・下町野組44村・若山組28村・正院組17村・直組17村・木郎組26村・上町野組21村・諸橋組26村・南北組50村について草高と免率を記す。

7121　〔諸郡新開御物成増減帳〕　16.65—127
慶応元年（1865）～ 明治4年（1871）
仮綴7　24cm
各郡の新田才許が作成したもの。
○諸郡新開御物成増減帳（慶応元年）
○慶応2年　能美郡・石川郡・河北郡・口郡・奥郡・砺波郡・射水郡・上新川郡・下新川郡新開御物成増減書上申帳
○慶応3年　同上
○慶応4年　同上
○明治2年　同上
○明治3年　同上
○明治4年　同上。

7122　御取箇調理小寄　16.65—128
慶応3年（1867）
34丁　23.5cm
加賀・能登・越中の各郡別に，物成高について記す。

7123　御取箇調理小寄　16.65—129
明治元年（1868）
34丁　24.5cm
前号と同一様式で記載。

7124　諸郡草高定納口米等調理帳　16.65—130
明治２年（1869）
17丁　24.5cm
岡田棣旧蔵。加賀・能登・越中の郡方及び町方について記す。

7125　〔郷村高等下調案文〕　16.65—131
明治２年（1869）
10丁・２通　24cm・15.5cm
明治維新の時，租税決定のため民部省からの命令に基づいて，加賀・能登・越中の元治元年より明治元年又は同２年までの，物成・小物成の書上げが行われたが，これはその様式雛形及び添書。

7126　加能越三国郷村高六ケ年平均　16.65—132
手写
３冊　25～28.5cm
①加賀国能美郡・石川郡・河北郡分
能登国羽咋郡・鹿嶋郡・鳳至郡・珠洲郡分
越中国砺波郡・射水郡・新川郡分
②加賀・能登国分
③越中国分。
子～巳年間（元治元年～明治２年）の物成・小物成書上。

7127　郷村高六ケ年平均帳冊綴　16.65—133
４丁　24cm
金沢藩領，加賀・能登・越中・近江国郷村帳目録。

7128　六ケ年平均郷村高帳下タ調理　16.65—134
明治３年（1870）
55丁　24.5cm
能美郡，河北郡，能登国，砺波郡，新川郡の分及び，能美郡湊，石川郡金石本町地方・金石庄町地方・松任，河北郡卯辰村，砺波郡権正寺村の分を収む。

7129　旧領地租税録　16.65—135
租税局編
明治３年（1870）
５冊　24cm　袋入
①旧領地租税録
②明治元年分三州并江州甕御預所土方領惣草高組数村数等調理帳（明治３年正月）
③明治元年分御取箇并御物成調理書上申帳（明治３年租税局）
④明治二年分御取箇并御物成調理書上申帳（明治３年租税局）
⑤新開御物成増減調理書上帳（明治３年９月民政所租税方）。

7130　羽鹿両郡高免記　16.65—136
前田家編輯方手写　明治年間
113丁　23.5cm
上田源助所蔵の写。羽咋・鹿島郡の十村組別の村々草高，享和２年（1802）までの手上高，引高などを記す。

7131　〔羽咋郡・鹿島郡村高帳〕　16.65—137
７冊　26.5cm
①羽咋郡押水組　②同邑知組　③同土田組　④同富木組　⑤元高山県分　⑥羽咋郡鹿島郡下浅井組　⑦同熊木組
村毎に高と免の内訳を示し，年貢米合計を記す。明治４年（1871）以降の成立。
旧書名「村高帳」。

7132　羽鹿両郡新開一件　16.65—138
荻谷村岡部勇作著
前田家編輯方手写　明治年間
48丁　23.5cm
岡部直造所蔵の写。内題「羽咋鹿島両郡新開所高物成増減帳」。内容年代，天保９年（1838）～元治元年（1864）。

7133　〔能登国郡定免御取箇目録〕　16.65—139
明治３年（1870）
５丁　24cm
明治２年，旧土方領７ケ村の分。
旧書名「能登国羽咋郡鹿嶋郡定免御取箇目録」。

7134　能登国羽咋郡之内郷村高帳　16.65—140
３冊　24.5cm
①上浅井組　②甘田組　③富来組の分を収む。

7135　押水組各村草高并定納口米定　16.65—141
31丁　12×18cm
羽咋郡押水組の分。草高1石高当りの作徳米の算出についても記す。

7136　能登国鹿島郡之内郷村高帳　16.65—142
40丁　24.5cm
下浅井組の分。

7137　凪至郡村々高免記　16.65—143
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23.5cm
上田源助所蔵の写。定納口米，夫銀，小物成，新開高，引高等を記す。文化年間の調理までを記載。

7138　〔珠洲郡下町野組〕郷村高物成調理帳　16.65—144
33丁　24cm

7139　越中三郡高免　16.65—145
前田家編輯方手写　明治年間
129丁　27cm
砺波郡16組696村，射水郡10組331村，上新川郡9組583村，下新川郡7組308村の草高と免率を記す。

7140　〔越中国高帳〕　16.65—146
手写
14丁　12×36cm
砺波郡，射水郡，新川郡について，各郡毎に記す。元治元年（1864）～明治元年（1868）の分。

7141　越中国砺波・射水・新川郡之内郷村高帳　16.65—147
金沢藩編
明治3年（1870）
35丁　24cm
射水郡能町村，小杉新町，砺波郡権正寺村，籠渡村，新川郡辻ヶ堂村，荒川村，東福寺野新田について，元治元年（1864）より明治2年（1869）までの物成高，諸役を記す。越中3郡の総高を付記。

7142　〔砺波郡高物成等調理帳〕　16.65—148
明治2年（1869）
21丁　24cm
原題「高物成等調理」。元治元年（1864）～明治元年（1868）分。

7143　〔砺波郡権正寺村等高増減書上〕　16.65—149
手写
5丁　24cm
権正寺，芹谷野新村，頼成村の引高，手上高等を記す。
旧書名「砺波郡権正寺村等高書上」。

7144　〔射水郡草高等書上〕　16.65—150
宝暦10年（1760）
1通　25cm
草高・手上高・新開高書上。下条村弥四郎より横地忠太左衛門等宛。旧書名「射水郡七組草高等覚」。

7145　射水郡草高等并租税書上帳　16.65—151
明治2年（1869）
24丁　24.5cm
草高，新開高，収納米高，夫銭について，元治元年（1864）より明治元年（1868）までの5ヶ年間の分を記し，1ヶ年平均を算出。

7146　射水郡草高書上帳　16.65—152
前田家編輯方手写　明治年間
62丁　23.5cm
高岡江守六蔵所蔵の写。内題「明治六年(1873)第十七大区村々古高拝領高共明治五年分草高拾石当定納口米歪諸入用米引去手取作徳米書上帳」。「射水郡五十八村草高等書上帳」。

7147　〔新川郡〕古田新開高物成并夫銭定散小物成等調理帳　16.65—153
明治2年（1869）
20丁　24.5cm
元治元年（1864）～明治元年（1868）分。

7148　新川郡嶋組郷村高帳　16.65—154
167丁　24.5cm
新川郡嶋組の下調理。

7149　江州御領今津弘川海津中村町三ケ村御高方帳　16.65—155
手写
18丁　24cm
寛政2年（1790）江州御領収納米勘定書，夫銀・小物成高，今津村町内間数之覚等を収む。

7150　近江国高島郡之内旧領地租税録　16.65—156
12丁　24cm
今津村，弘川村，中村町の元治元年（1864）より明治2年（1869）の租税高及びその平均を記す。

（小物成・夫銀・万雑）

7151　夫銀抄　16.65—157
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　25cm
夫銀の始原に関する諸説と，元和3年（1617）より弘化元年（1844）までの夫銀に関する法令を収録。

7152　御領国之内小物成諸運上之義ニ付紙面之写　16.65—158
御勝手方編
32丁　24cm
宇野富良旧蔵。御勝手方の帳面で，享保年間の諸運上銀増徴に関する詮議書。

7153　〔大工作料之極并小物成〕　16.65—159
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　25cm
1冊は大工作料の極，小物成（魚・材木口銭）のことについて記す。なお表記に朱字で「大工作料ノ事」「享保三年鳩巣書翰ノ中ニアリ」とある。他の1冊は大工作料の極（同内容）のみを収む。仮りにここへ収める。

7154　加越能小物成帳　16.65—160
前田家編輯方手写　明治年間
29丁　23.5cm
「御郡方旧記」(1)からの抄録で，天明6年（1786）各郡の小物成銀高の他，同7年用米並酒造米高，金沢小物成銀高等を記す。

7155　〔散小物成覚〕　16.65—161
明治3年（1870）
仮綴1（18通）　17cm
郡治方・市政方より民政所への小物成納所調理帳提出方報告と小物成収納覚など。

7156　能美郡小物成　16.65—162
河原山村十村十左衛門編
手写
8丁　24cm
明暦3年（1657）原本成立。組下村々の小物成銀納所請合状。

7157　江戸御普請ニ付私組下より出申御役人付帳　16.65—163
手写
8丁　24cm
真館氏所蔵の写。万治元年（1658）閏12月鹿島郡有江村藤右衛門組の帳で，江戸へ徴発された人夫47人の家中での帰属と出入の日限を記す。

7158　与荷米畑山年貢出入訴状写　16.65—164
手写
5丁　24cm
真館氏所蔵の写。元禄3年（1690）鹿島郡庵村浜方と土方領同村山方間の，百姓持高に応じた田畑山平均に関する出入における浜方訴状写。

7159　定小物成并散小物成銀取立之儀ニ付御改作所等御入御紙面之類留一件　16.65—165
荻谷村七左衛門編
手写
7丁　24cm
内容年代，明和9年（1772）。小物成取立主附拝命の際のもの。

7160　〔越中各郡定散小物成銭書上申帳〕　16.65—166
8冊　24.5cm
①元治元年より明治元年迄定散小物成銭書上申帳（砺波郡　明治3年2月）
②同上（射水郡）
③元治元年より明治元年迄5ヶ年分定散小物成調理帳（新川郡　明治3年2月）
④元治元年より明治元年迄5ヶ年分散小物成銭

書上申帳（高岡町　明治３年）
⑤元治元年より明治元年迄５ヶ年分散小物成銭巨細帳（城端分　明治３年２月）
⑥元治元年より明治元年迄５ヶ年分散小物成銭巨細帳（今石動分　明治３年）
⑦元治元年より明治元年迄５ヶ年分散小物成銭巨細帳（氷見分　明治３年２月）
⑧元治元年より明治元年迄５ヶ年分散小物成銭巨細書上申帳（魚津町）。

7161　今石動御地子米并諸役銀等之義書上申帳　16.65—167
文化13年（1816）
5丁　24cm
富田権六郎旧蔵。今石動肝煎油屋十右衛門等より今石動の奉行所宛で，文化12年上納分の書上げ。

7162　氷見町御地子米并諸役銀等之儀書上申帳　16.65—168
文化13年（1816）
6丁　24cm
富田権六郎旧蔵。文化12年，地子米，夫銀，役銀等，氷見町より今石動奉行所への上納高とその内訳を記す。氷見町肝煎の書上げ。

7163　〔射水郡西条組太田村・西田村領茅場役銀地打立帳並絵図〕　16.65—169
嘉永２年（1849）
２冊・絵図２枚　12×18cm　袋入
①太田村領茅場役銀地打立帳
②西田村領打立帳
③絵図（28×94cm）
④絵図（26.5×45cm）。

7164　〔郡万雑組万雑村万雑の内組万雑指止ニ付達〕　16.65—170
手写　嘉永６年（1853）
２丁　24cm
原題・旧書名「御郡方万雑之立方是迄御郡万雑等云々」。真館氏所蔵の写。組万雑廃止につき，奉行所より諸郡宛の達書。

7165　万雑方窺帳　16.65—171
前田家編輯方手写　明治年間
66丁　23cm
加藤又八郎所蔵の写。嘉永７年（1854）及び安政２年（1855）両度の諸郡万雑取極方奉窺帳を収録。

7166　諸郡詮義御郡所御改作所へ窺上候定書　16.65—172
手写
24丁　24cm
加藤又八郎所蔵の写。天保12年（1841）口郡の分。諸万雑高騰に付諸郡御扶持人の相談覚書，村万雑取立方取極帳，肝煎扶持米之定，村々組合頭役料之定ほかを収録。

7167　奥郡御郡万雑書上申帳　16.65—173
筒井内記等著
３冊　24.5cm
慶応４年（1868），明治元年（1868），明治２年の分。御郡万雑へ打立の飛脚賃等調理書。能州御郡所・御改作所等宛。
旧書名「御郡万雑書上申帳」。

7168　奥郡新開方万雑書上申帳　16.65—174
手写
３冊　24cm
①慶応４年（1868）改作所宛　②明治２年（1869）勧農局宛　③明治３年（1870）租税局宛。内容はそれぞれ前年度分の奥郡新開にかかわる万雑諸雑用調理書。

収納・御蔵・蔵宿

（収　　納）

7169　〔凶作ニ付納米吟味方之達書〕　16.65—175
巻子１　17cm
中川典克旧蔵。11月８日付当年悪作に付収納米吟味方の算用場触を11月14日付で野崎弥兵衛が下達したもの。
旧書名「野崎弥兵衛達書」。

7170 〔居すへ御印御成替願〕 16.65—176
1通 24cm
能美郡山方村々の収納米のため下行御印買に関するもの。辰11月付。北村与右衛門等より改作奉行宛。辰11月付の承届の旨付札を付す。
旧書名「北村与右衛門等願書」。

7171 能登奥両郡収納帳 16.65—177
算用場編
承応3年（1654）
6冊 36×24cm
代官の管轄地域別に記す。
①狼煙村七兵衛，上戸北方村真頼，斎藤三右衛門，内田吉左衛門・矢部市右衛門，小伊瀬村八郎左衛門の分
②久世平右衛門・和田平兵衛のの分
③諏訪孫左衛門，山田六右衛門，伴喜右衛門，浦上村兵右衛門の分
④請取奉行，河井六郎兵衛・矢部市右衛門，代官，冨田治太夫の分
⑤城四郎兵衛，大菅八郎右衛門，安藤加右衛門，松宮権右衛門，渡辺宗左衛門・白井太郎右衛門，平井伝兵衛，鵜嶋村与三兵衛の分
⑥近藤治右衛門の分。

7172 〔梨谷小山村年貢皆済状写〕 16.65—178
手写
巻子1 26.5cm
梨谷小山村は能州羽咋郡。寛文10年（1670）の領有別の皆済状3通を継いだもの。改作奉行の裏書を付す。

7173 〔直郷之内西方寺年貢算用状之写并添状〕 16.65—179
16
手写
2通 16・29cm 包紙
算用状は，天正12年（1584）6月15日付，利家の判物。直郷は能登珠洲郡に属す。旧書名「高徳院より西方寺村へ被下御印物写等」。

7174 五箇山両組御納所方等定書 16.65—180
前田家編輯方手写 明治年間
134丁 23.5cm
内容年代は，明暦2年（1656）～安政2年（1855）。越中五箇山志尾谷組・祖山組の村御印の写など。旧書名「五箇山御納所定書」。

7175 五ケ山御納所等覚書 16.65—181
寛保3年（1743）
3丁 12×18.5cm
富田権六郎旧蔵。天正16年（1588）～明暦2年（1656）納所方由来書。

7176 〔江州今津等三ケ村御縮方書類〕 16.65—182
巻子3 16.5cm
早川随勝旧蔵。①10月14日付御収納締方御用任命に付早川徳三郎宛算用場達書 ②10月付水損等に付早川徳三郎より算用場宛申上 ③未10月付早川徳三郎の御縮方勤方請書。

7177 江州高嶋郡今津・弘川両村并海津之内中村町収納帳 16.65—183
手写
5丁 24cm
文政7年（1824）12月付，御算用場より今津甚右衛門宛。

7178 江州御領分諸上納帳并切手留 16.65—184
5冊 24.5cm 袋入
①御貸米御上納帳（慶応3年 今津村）
② 同 上 （ 同上 海津中村町）
③ 同 上 （ 同上 弘川村）
④今津等三村御上納口々帳（慶応3年改）
⑤佐久間久佐等切手 （慶応元・2年，夫銀・拝借銀返済等の切手を収録）。
旧書名「村方諸上納切手留帳」。

7179 鳳至郡輪島・宇出津・中居三ケ所町夫代銀上納日印帳 16.65—185
24丁 24cm
内容年代，寛政6年（1794）～明治元年（1868）銀高と上納月日を記す。

7180 〔夫銭等上納書〕 16.65—186
明治2年（1869）
1通 25cm
今津村肝煎長五郎・庄左衛門より今津御役所

宛。旧書名「夫銀上納書」。

（御　　蔵）

7181　御収納米俵拵等留　16.65—187
前田家編輯方手写　明治年間
79丁　23.5cm
多田六蔵所蔵の写，安政２年（1855）から慶応３年（1867）の収納米の米撰，俵拵に関する算用場，改作奉行と十村等間の諸文書を収録。

7182　〔砺波郡御蔵代官之者注進書〕　16.65—188
明治元年（1868）
１通　24cm
収納米改めについて，石崎市右衛門等よりの報告。旧書名「砺波郡御蔵米注進書」。

7183　蔵米津出等留　16.65—189
前田家編輯方手写　明治年間
３冊　23.5cm
杉木氏（越中十村）所蔵の写。
①御代官分諸事定書（安永２年），才覚米一件（天明３年），御用方聞書，他国津出等御制禁之品々書上帳（寛政元年），升廻之節給人米ト御詰米ト振分方之儀ニ付御郡所ト相見人懸合之写（寛政５年），御代官納方御触写(寛文４，享保９，月11，寛政６年の触)，代官方仕法相改申渡覚帳（文化元年）
②津出津入米等三州一様取捌方（文政４年），御蔵方留帳并御詰米方格帳（文政５年），出津入津一巻（文政６年），御蔵方旧記（天保７年），手上高手上免引免立帰増御物成本勘并春秋夫銀并組高帳不入新開之内定免一免下之株手上免手上高引免立帰リ増御物成〆出帳（天保９年），越中居住之侍代官勤方帳之写（天保13年）
③元禄年中ヨリ御代官出船方御定書之写（弘化２年），新川郡御蔵々絵図（慶応４年）。

7184　〔千路村杢兵衛願状〕　16.65—190
天明４年（1784）
１通　16cm
千路村杢兵衛より槻尾左膳・進土斉宮宛。給人切手米代銀未払に付埒明願書。

7185　御蔵方留帳・御詰米方格帳　16.65—191
手写
10丁　24cm
内容は，文政５年（1822）の大坂為登米出船の際の，御米切手通帳等案文の伺，御米渡り方の節十村に付品々，舛廻之節覚など。

7186　弘化三年諸郡収納蔵等調理帳　16.65—192
手写
合綴１（８冊）　24.5cm　袋入
①諸郡御収納御蔵中出御蔵町蔵調理帳
②御蔵調理之義ニ付尋ニ遣覚
③能美郡御蔵調理
④御収納御蔵所并蔵宿所御塩蔵ヶ所書出申帳（口郡）
⑤御収納御蔵中出御蔵等御支配方等相調理書上申帳（奥郡）
⑥本御蔵并中出御蔵御普請御手合等之儀竪町蔵之儀居蔵出蔵之訳相調理書上申帳（砺波郡）
⑦本御蔵中出御蔵之訳等書上申帳（上新川郡）
⑧所々御収納御蔵本御蔵中出之訳并御支配等之様子相調理書上申帳（下新川郡）。
旧書名「諸郡収納蔵等調理帳」。

7187　〔御収納蔵調理ニ付届書〕　16.65—193
安政３年（1856）
巻子１　24cm
弘化４年（1847）調理後にかかる，御収納蔵の変更についての書上げ。御蔵絵図面と共に提出されたもの。三州各郡よりの書上げ８通を継ぐ。旧書名「御蔵所覚書」。

7188　〔射水郡二口村御収納蔵相建候ニ付引高願〕　16.65—194
慶応４年（1868）
巻子１　24cm
二口村肝煎嘉兵衛等よりの願書。
旧書名「射水郡二口村領引免願」。

7189　〔御蔵米等売附の覚〕　16.65—195
明治２年（1869）
仮綴１（11通）　16.5～24.5cm　袋入

明治2年（1869）2～3月の書上。
①吉久蔵米等代銭書上
②中黒六左衛門知行米等代銭書上
③吉久蔵米等代銭書上
④今浜蔵米等代銭書上
⑤氷見町米等代銭書上
⑥播磨守知行米等売附の覚（佐野屋久太郎より小馬屋平八宛）
⑦氷見町米等売附の覚（同上）
⑧滑川蔵米等売附の覚（佐野屋久太郎より浜岡屋平八宛）
⑨滑川蔵米等出入差引覚（同上）
⑩御買上米三千石代銀佐野屋久太郎より請取相済に付書上（松任屋忠兵衛より福岡屋小右衛門宛）
⑪滑川蔵米売買過銭上納に付書上（地頭町村平八より産物方役所宛）。
旧書名「米売附之覚」。

7190 〔御蔵ニ付紙面〕 16.65—196
5通 15.5cm
能美郡御蔵地支配方覚の他，新規蔵建等について文書を一括する。

7191 能州所々御蔵所絵図 16.65—197
絵図1冊 32×21.5cm
御収納蔵・御塩蔵の図面を集録したもので，さらに明治6年（1873），各村から租税課へ提出した絵図と間数書上が貼付してある。ただし後欠。

7192 〔越中御蔵絵図添紙面〕 16.65—198
7通 15.5cm
元治年間の新御蔵建及び転地調理に関するもの。旧書名「越中御蔵囲地之覚」。

7193 〔越中〕小矢部御蔵御囲地面絵図 16.65—199
元治元年（1864）
絵図1枚 彩色 53×57cm
新御蔵の設置場所，敷地・建物間数を示す。旧来の御蔵等も記入してある。以下特16.65—204まで同一内容。

7194 〔越中〕小矢部御蔵御囲地面絵図 16.65—200
慶応元年（1865）
絵図1枚 彩色 53×56cm
特16.65—199参照。

7195 〔越中〕福光御蔵御囲地面絵図 16.65—201
自筆 元治元年（1864）
絵図1枚 彩色 39×54cm
特16.65—199参照。

7196 〔越中〕福野御蔵御囲地面絵図 16.65—202
元治元年（1864）
絵図1枚 彩色 39.5×45.5cm
特16.65—199参照。

7197 〔越中〕城端御蔵御囲地面絵図 16.65—203
元治元年（1864）
絵図1枚 彩色 28×53cm
特16.65—199参照。

7198 〔越中〕戸出御蔵御囲地面絵図 16.65—204
元治元年（1864）
絵図1枚 彩色 54×65.5cm
特16.65—199参照。

7199 〔越中福野御蔵見取絵図〕 16.65—205
慶応元年（1865）
絵図1枚 47.5×35.5cm
原題「砺波郡井口組福野御蔵見取絵図」。慶応元年建造の新御蔵の場所，間数等を示す。旧来の御蔵等も記入してある。以下特16.65—207まで同一内容。

7200 〔越中〕戸出御蔵御囲地分間絵図 16.65—206
慶応元年（1865）
絵図1枚 彩色 40×55.5cm
特16.65—205参照。

7201 〔越中〕中田御蔵見取絵図 16.65—207
慶応元年（1865）
絵図1枚 彩色 41.5×40cm
特16.65—205参照。

7202　〔越中〕大門新町新御蔵屋敷等略絵図　16.65—208

文久３年（1863）
絵図１枚　彩色　24×36cm
原題「二口村領字樋爪ニテ大門新町新御蔵屋敷等略絵図」。周辺図と共に御蔵地の位置を示す。旧書名「越中二口村領新御蔵屋敷等略絵図」。

（蔵　　宿）

7203　蔵宿要元録　16.65—209

片岡孫作手写
136丁　23cm
寛文２年（1662）～文久３年（1863）の蔵宿定書等を収録。

7204　蔵宿方要用留　16.65—210

手写　明治19年（1886）
28丁　24cm
羽咋郡上棚村徳山三郎所蔵本を農商務省農書編纂掛が写し，それを筆写したもの。寛文２年（1662）～明治元年（1868）の蔵宿吟味人勤方，家中諸給人知行米預り蔵本定等を収む。

7205　蔵宿方要用留　16.65—211

前田家編輯方手写　明治年間
18丁　24cm
県勧業課所蔵の写。前号と同内容。

7206　蔵宿記録抜萃　16.65—212

前田家編輯方手写　明治年間
22丁　25cm
「故新録」の抄。内容は，寛文２年（1662）～天保４年（1833）。

7207　〔高岡蔵宿市姫屋又右衛門願書〕　16.65—213

手写
１通　24cm
享保11年（1726）７月16日付。高岡市姫屋又右衛門より高岡町奉行宛。富山藩より御切手を買入れたが蔵米引渡し遅延につき願書。

7208　〔能州口郡蔵宿覚書〕　16.65—214

前田家編輯方手写　明治年間
４丁　24cm
岡部直造所蔵の写。酉10月付荻谷村長右衛門（羽咋郡十村）の書上げ。口郡等の蔵宿について取扱石高とその代銀，指出代銀等記す。

7209　〔御給人切手買入・現銀払米願等聞届書綴〕　16.65—215

手写
67通　16.5cm
内容年代，明治元年（1868）。
①諸郡万除籾之内摺立欠籾別除籾を以引足願聞届に付案内
②11月石川郡金沢近在村々給人切手にて納所方願（十村より改作奉行宛）
③11月石川郡河内組等山方村々現銀払米願承届書（算用場より改作奉行宛）
④７月河北郡大浦村等へ籾堀川揚場より浅野川々下舟積承届書（同上）
⑤７月河北郡大場村迄籾堀川揚場より浅野川々下舟積承届書（同上）
⑥12月石川郡河内組等・河北郡山方村々不時現銀払米願承届書（同上）
⑦10月高松町米等潟之内舟積承届書（同上）
⑧10月　同　上　（同上）
⑨10月御算用者加州所々御蔵等米改御用のため発足に付案内（同上）
⑩10月今浜町米等潟之内舟積承届書（同上）
⑪10月高松町米潟之内浅野川舟積承届書（同上）
⑫11月石川郡河内組等山方村々現銀払米願承届書（同上）
⑬10月松任蔵米本堂形蔵へ付寄に付達（同上）
⑭12月給人切手算用場印切手振替願承届書（同上）
⑮９月津幡蔵米本堂形蔵へ付寄に付達（同上）
⑯８月河北郡潟縁村々収納米潟之内舟積願（十村より改作所宛）
⑰８月新堂形蔵籾沖村等迄浅野川舟積承届書（算用場より改作奉行宛）
⑱10月慶応３年分河北郡惣預代官分上納不足銭取立に付達（同上）
⑲11月河北郡金浦組等村々現銀払米願承届書（同上）
⑳12月能美郡手取川筋村々等へ不時現銀払米願

六通承届書（同上）
㉑（不明）砺波・射水両郡当春川下長船運賃増願聞届に付案内
㉒10月御算用者越中所々御蔵等米改御用のため発足に付案内（算用場より改作奉行宛）
㉓（不明）戸出御蔵摺立米川下に付千保川増水取入料願聞届に付案内
㉔9月砺波郡町蔵入借知米川下の分縄皮代上納に付達（算用場より改作奉行宛）
㉕10月砺波郡山田組等村々現銀払米願承届書（同上）
㉖10月　同　上　（同上）
㉗10月砺波郡五位組山方村々現銀払米願承届書（同上）
㉘10月砺波郡宮嶋組山方村々現銀払米願承届書（同上）
㉙10月五ヶ山紙漉共飯米并楮代の方へ現銀払米願承届書（同上）
㉚11月杉木蔵収納米の内積余米斗蔵積入願承届書（同上）
㉛11月五ヶ山塩硝代の方へ延払米願承届書（同上）
㉜11月高岡町蔵入借知米の内砺波郡の分川下に付縄皮代上納の達（同上）
㉝8月中田町米伏木村用米として庄川筋舟積承届書（同上）
㉞12月射水郡氷見庄八代組等現銭御払米米価高値に付貸渡願聞届に付案内（同上）
㉟12月射水郡氷見庄山方村々氷見町蔵給人切手と算用場印切手振替願承届書（同上）
㊱11月氷見庄山方村々延払米并現銀払米願承届書（同上）
㊲9月滑川西御蔵虫払に付達（算用場より作事所宛）
㊳9月滑川西御蔵虫払に付仕様書并図り書指出す様依頼（作事所より算用場宛）
㊴8月滑川西御蔵米払切に付虫払願（新川郡御扶持人より改作所宛）
㊵7月舟倉蔵収納米岩瀬蔵へ付寄に付達(同上)
㊶8月滑川西御蔵米払切に付虫払願(㊴と同文)
㊷10月慶応3年分収納米岩瀬浦大坂登せ米の内出船指止に付追升廻相見等御用として役人発足に付案内（算用場より改作奉行宛）
㊸10月魚津御塩蔵等へ弾薬積入願承届書(同上)
㊹12月滑川御蔵虫払入用銭渡し方に付案内
㊺10月御算用者能州御蔵等米改御用のため発足に付案内（算用場より改作奉行宛）
㊻12月奥口両郡元預所村々現銀払米願承届書（同上）
㊼10月慶応3年分収納米口郡内浦大坂追登せ米の内出船指止に付追升廻相見等御用として役人発足に付案内（同上）
㊽10月口郡山方并畑所等村々現銀払米願承届書（同上）
㊾10月口郡富来組浦方等村々現銀払米願承届書（同上）
㊿11月奥郡畠所等村々現銀払米承届書（同上）
(51)11月能美郡軽海組山方村々現銀払米願承届書（同上）
(52)9月慶応3年分収納米今江蔵大坂登せ米の内出船指止に付追升廻相見等御用として役人発足に付案内（同上）
(53)11月別除米籾立替渡し分代銭返上に付渡し月平均値段書上（同上）
(54)11月能美郡軽海組奥山入村々堂形蔵米切手と鶴来蔵米算用場印切手振替願承届書（同上）
(55)11月能美郡山方等村々現銀払米願承届書（同上）
(56)12月源兵衛嶋等五ヶ村へ貸米願聞届に付案内
(57)11月石川・河北両郡山方等村々薪代銭を以御収納致すに付来3月中返上まで貸米願聞届に付案内
(58)日御子村等御用地徴米願聞届に付案内
(59)12月給人切手と算用場印切手振替願承届書（算用場より改作奉行宛）
(60)10月高松町米等潟之内舟積金石本町等へ引取方承届書（同上）
(61)10月羽咋町米等潟之内舟積金石本町等迄引取方承届書（同上）
(62)10月子浦町米等潟之内舟積金石本町等へ引取方承届書（同上）
(63)11月御家中米潟之内舟積等承届書（同上）
(64)8月本吉蔵米等本堂形蔵へ付寄に付達(同上)
(65)7月鶴来蔵米本堂形蔵へ付寄に付達（同上）
(66)9月慶応4年出来今摺米等御膳米御用に付達（同上）
(67)7月本吉蔵米本堂形蔵へ付寄に付達（同上）。旧書名「御給人切手買入・現銀払米願等覚」。

川　除・用　水

7210　越加能川除波除間数　16.65—216
21丁　12×18cm
横山隆太旧蔵。文政4年（1821）横山元儔の控。越中を中心とした村々の川除・波除ケ所・石垣間数を記す。

7211　犀川浅野川々除御普請之様子并私共勤方之帳　16.65—217
手写
189丁　24cm
享保17年（1732），犀川，浅野川の川除才許から御普請奉行へ勤務状況を報告したもの。

7212　能美郡山上組三反田村領目留水除自普請願之場所見取絵図　16.65—218
嘉永元年（1848）
絵図1枚　彩色　27×109cm

7213　加賀国能美郡赤瀬村用水二ケ所并江筋見取絵図　16.65—219
絵図1枚　彩色　24×145cm
字上用水から字上ノ橋までを描く。枠・井堰・板囲等の新調した年代，工費の記入あり。新調年代は明治5～13年（1872～80）。

7214　〔手取川筋村々〕中勘指引帳　16.65—220
慶応4年（1868）
3冊　12×36cm
①辰6月　②辰7月　③辰8月。各月出来銭高の書上げ。

7215　御上水並土清水村領等新江筋見取之図　16.65—221
慶応3年（1867）
絵図1枚　彩色　28×120cm
7月作成のもの。末村より弾薬所迄を記し，大桑村領の新江筋堀立ケ所を示す。
旧書名「寺津用水分間図等」。

7216　寺津用水分間之図　16.65—222
絵図1枚　彩色　25×140cm
用水入口より土清水村堤迄5865間の図。慶応年間頃のもの。旧書名「寺津用水分間図等」。

7217　加賀国石川郡字寺津用水々路先堰等見取略絵図　16.65—223
巻子1　28cm
犀川寺津用水取入口から寺津・駒帰・瀬領・上辰巳・下辰巳・末・土清水村まで近辺の村々，灌漑村々を記す。用水路については，穴掾・先堰・蛇籠・水門・石提等を描き，その合計間数を備考として記す。

7218　大豆田村等用水附替分水願写　16.65—224
手写
10丁　24cm
嘉永3年（1850）。大豆田村肝煎仁左衛門等より大野庄用水からの分水願，及び一件留。

7219　〔石川郡大豆田村等用水附替大野庄用水之内分水一件附絵図〕　16.65—225
5通・絵図2枚　15cm・24×32cm・40×82cm
嘉永3年（1850）大野用水取入れのため塩川町から法船寺町までの堀立てに関して，御普請会所より江筋居住の藩士等への案内状などを収録。

7220　福畠村字古池堤御普請率願上帳　16.65—226
3丁　24cm
慶応3年（1867）6月，河北郡五箇庄組より普請に必要な費用を書上げた普請図り書。

7221　野村新堤御普請率願上帳　16.65—227
慶応3年（1867）
5丁　24cm
野村は河北郡小坂組。普請図り書。

7222　河北潟水戸川形之義ニ付取極書　16.65—228
巻子1　17cm　帯封
慶応4年（1868）4月22日付，庄町と潟縁村々との，川堀等をめぐる出入に関する取極書、算用場より金石町奉行・改作奉行宛。

7223　河北郡河原市用水図　16.65—229
絵図1枚　彩色　53×214cm

薬師村地内，森下川の取入場より加賀爪村地内，津幡川へ落す迄の分水図。

7224　用水方材木代銀等取極書　16.65—230
前田家編輯方手写　明治年間
45丁　23cm
加藤又八郎所蔵の写。口郡について，内容年代は，嘉永5年（1852），安政3年（1856）他。

7225　〔今江村等新川川除ニ付取極書〕　16.65—231
手写
1通　24cm
嘉永4年（1851）羽咋郡今江村・吉田村・堀松村の，川除普請における取極。
旧書名「米町川々除普請願」。

7226　能登国鹿嶋郡武部村二宮村用水出入書附等控　16.65—232
手写
30丁　24cm
岡部勇作所蔵の写。天明3（1783）・4年の武部村と二宮村の用水出入に関する文書。宝永4年（1707）用水出入時の文書も含まれている。

7227　〔能州三崎神領粟津村用水樋修覆ニ付算用場達書等〕　16.65—233
1通　16.5cm
御算用場から前田図書宛，及び中川式部より御算用場宛を継立。旧書名「能州三崎神領知ニ付御算用場達書等」。

7228　用水川除等留七種　16.65—234
前田家編輯方編
明治年間
111丁　23.5cm
○広田針原用水堀替并下沢用水根元定書（寛永9～元禄7年　杉木氏所蔵の写）
○宝暦4年（1754）用水普請之儀被仰渡候写（杉木氏所蔵の写）
○組下村用水懸り等覚帳（杉木氏所蔵の写）
○天保6年（1835）富山御領松木村領より四方迄神通川水吐堀川被仰付候ニ付御詮議方一件，附中嶋村領ニ而堰留申ニ付引合一件（杉木弥助編の写）
○明治元年（1868）新川水下銭上納根帳（定検地所所蔵の写）
○御普請会所手合加越能川除波除所帳（杉木氏所蔵の写）
○川方手帳（杉木氏所蔵の写）。

7229　三日市村等堰之図　16.65—235
絵図1枚　彩色　33×173cm
三日市村は越中砺波郡に属す。

7230　堤并橋数調理帳　16.65—236
前田家編輯方編
明治年間
55丁　23cm
越中婦負郡内の堤（堤数，水請石高），橋（材質，場所）についての調査書。

7231　婦負郡古沢用水地図　16.65—237
巻子1　28cm
岡本昭倫所蔵の写。明治5年（1872）作成図。上瀬村地内で山田川より取入れ。古沢用水の別名は仁右衛門用水。

7232　牛ケ首用水小竹江筋分間杭帳　16.65—238
文化6年（1809）
23丁　24.5cm
牛ケ首用水は，越中婦負・射水両郡にかかる。婦負・射水郡村々肝煎等より高嶋庄右衛門宛の杭立帳。

7233　七ケ用水図り帳　16.65—239
手写
15丁　24cm
文久3年（1863）8月射水郡御扶持人より提出した普請図り書。

7234　水旱川除普請等抜書　16.65—240
手写
105丁　23.5cm
寛政元年（1789）越中新川郡において加賀・富山両藩領にわたる大水害後の川除普請の記録を中心に，それ以前の水旱損の記録も収載。

7235 〔白岩川大曲之場所就直切分間絵図〕 16.65—241
手写
絵図1枚 彩色 40×54.5cm
安政5年（1858）10月新川郡上条組清水堂村領内でわん曲する白岩川の直行つけ替工事の詮議にかかる絵図。旧書名「新川郡清水堂村領縁り白岩川大曲之場所就直切之分間絵図」。

7236 新川郡常願寺川筋水損所等御巡見ニ付道筋等大略見取絵図 16.65—242
絵図1枚 彩色 69×118cm 帯封
安政7年（1860）の巡見にかかるもの。

7237 新川郡常願寺川筋水損所等御巡見ニ付道筋等大略見取絵図 16.65—243
絵図1枚 彩色 37×63cm 帯封
前号を縮小したもの。

7238 新川郡常願寺川筋御普請所分間絵図 16.65—244
杉木有一著
手写
巻子1 彩色 38cm
万延元年（1860）成立。安政5年（1858）水損後の郡奉行引請の普請図。

7239 越中国新川郡常願寺川見取絵図 16.65—245
絵図1枚 彩色 81×156cm
岩峅寺辺より海岸までの川筋，集落，堤防，入川跡，村境などを記載。絵図中，富山藩領部分を富山県と記すところより，明治4年頃のものと考えられる。

7240 新川郡大布施組宮野開領并用水筋絵図 16.65—246
天保9年（1838）
絵図1枚 彩色 97×195cm
用水，江幅，道，家建等見取形書入。射水郡新田裁許高木村藤右衛門等作成の分間堺図。裏面に改作方郡奉行より神保嘉一郎等宛の，堺筋違失なき様達書を記載する。

持高

7241 〔利波郡松原上野村百姓持高書上〕 16.65—247
寛文4年（1664）
1通 22cm
四郎三郎他2名，合計138石余の持高書上げ。肝煎四郎三郎・与合頭長右衛門より加藤治兵衛宛。福光村宗左衛門の奥書がある。
旧書名「利波郡福光村宗左衛門口上書」。

7242 〔利波郡二日町村百姓わけ書上〕 16.65—248
寛文4年（1664）
1通 25cm
加藤次兵衛給分の百姓わけの書上げ。肝煎孫三郎・与合頭伊兵衛より加藤次兵衛宛。福光村宗左衛門の奥書がある。
旧書名「福光村宗左衛門口上書」。

7243 〔質地証文〕 16.65—249
14通 23cm
内容年代，元禄16年（1703），享保元年（1716）2通，元文2年（1737），宝暦7年（1757），同11年，天明3年（1783），同7年，天保5年（1834），同8年，同11年，安政6年（1859），慶応元年（1865），年未詳1通。中坪村等のもの。

7244 〔田地売渡証文〕 16.65—250
正徳5年（1715）
2通 28cm
売主は中坪村市三郎，年貢納入のためのもので，本文書及び後日の書替文書である。
旧書名「売渡証文」。

7245 言上留 16.65—251
前波和兵衛・大塚弥五太夫編
手写
16丁 23cm
石川・能美郡村々の持山を村民が幕府領（白山山麓）の者に勝手に請畠させているということについての調査報告。享保13（1728）～同15年。

7246　御山麓田畑反別改下帳　16.65—252
嘉永6年（1853）
47丁　14×38.5cm
白山麓のもので，地籍ごとに，面積と請人名を記す。

田　地　割

7247　農間雑誌〔絵図共〕　16.65—253
小幡和平著
手写
38丁・絵図1枚　彩色　24cm・79.5×75.5cm
岡田棣旧蔵。田地割の方法について記す。絵図は碁盤割大綱絵図で手写者の増補にかかる。

7248　能美郡湊村御田地割田形閾引番繰毎割番附留帳　16.65—254
天保10年（1839）
28丁　12×36cm
地籍順に入名を書上げたもの。田方の分。

7249　能美郡湊村御田地割畑形閾引番繰毎割番附留帳　16.65—255
天保10年（1839）
27丁　12×36cm
前号と同内容で畠方の分。

7250　能美郡湊村田形閾割過不足指引仕立帳　16.65—256
天保10年（1839）
9丁　12×35cm
字別に田方の分の書上げ。

7251　能美郡湊村畑形閾割過不足指引仕立帳　16.65—257
天保10年（1839）
6丁　12×35cm
字別に畠方の分の書上げ。

7252　能美郡湊村御田地割仕惣歩合盛書上申帳　16.65—258
天保10年（1839）
22丁　24cm
居屋敷地及び字別の田畠の歩数と合盛を書上げたもの。湊御奉行所宛。

7253　能美郡湊村百姓中持高閾組書記申帳　16.65—259
天保10（1839）
6丁　12×35.5cm
村民別に，閾組の所属を記したもの。

特16.66　戸　口・身　分

人　口・家　数

7254　人数家数并牛馬数調理帳　16.66—1
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　24cm
寛政2年（1790）の郡別・町別の数及び寺社門前家数を列挙している。

7255　〔加越能各町戸数寺社等調〕　16.66—2
手写
1通　24cm
加越能各町方76ケ所の総戸数とその内寺社・山伏・百姓等の戸数書上げ。江戸・京への早飛脚の所要日数等を付す。

7256　〔金沢町数人口調〕　16.66—3
手写
1枚　16×35.5cm
戊閏4月町年寄香林坊兵助・亀田市次郎の書上げ。金沢町数，家数，15才以上男女人数と，各町名を記す。

7257　金沢町惣家数等　16.66—4
手写
3丁　24cm
明治2年（1869）の金沢の総家数，人数（町方分），扶持人人数などの書上げ。加藤三郎左衛門より民政寮宛。

7258　御郡方家数人数調理帳　16.66—5
手写　明治2年（1869）
2冊　24cm
岡田棣・森可参旧蔵。加越能各郡別の家数，人数，男女別書上げ。版籍取調のため書上げたも

の。

7259 御郡方人数御縮方申上候帳 16.66—6
手写
30丁 24cm
字野富良旧蔵。御勝手方の帳面。安永2年（1773）石川郡野々市村少左衛門よりの，郡方人数減少についての書上。

7260 城端惣家高人数書上申帳 16.66—7
文化13年（1816）
3丁 24cm
富田権六郎旧蔵。城端町肝煎より今石動奉行所宛。越中城端町の家数，人数について書上げ。

7261 〔新川郡之内大三位組五ケ庄組村々家数人数調〕 16.66—8
手写
10丁 24cm
家数，15才以上男女人数，寺数，山伏，神主数の書上げ。

扶持人

7262 加越能之御領内扶持米給銭等調理高 16.66—9
3丁 24cm
由緒ある旧家の者，88才以上の者等へ藩より下付された扶持米，給銭等の高と人数を加・越・能三州，近江高島郡にわけて書上げたもの。

7263 御給銭〔留〕 16.66—10
4丁 24cm
御給銭を下付されている者の人数と銭高を加賀・能登・越中の国別に，更に能登・越中における拝領地の歩数を記す。

7264 永代御扶持高被下候人々 16.66—11
31丁 24cm
加賀・能登・越中及び近江領の内で扶持を受けている人々と扶持高の書上げ。
旧書名「加賀国永代御扶持高被下候人々」。

7265 御扶持米等被下置候姓名帳 16.66—12
手写
23丁 24cm
原本成立明治3年（1870），加州郡治局の留。
御扶持米の高と，それを受けていた人の姓名書上げ。

7266 御扶持米〔書上書〕 16.66—13
手写
4冊 24cm
町方・村方で，職人，蔵番人，高齢者，銃卒等，扶持米を給付されている人々の書上げ。
①加賀
②越中
③②の一部を写したもの。
④能登。
旧書名「御扶持米等被下置候姓名帳」
「孝心者等扶持米書上」。

7267 金沢藩御扶持人帳 16.66—14
15丁 24cm
金沢藩から扶持を与えられた者の扶持高と氏名を金沢・西京並びに大津町人，越前町人に分けて記載。
旧書名「金沢藩内外御扶持下賜人及扶持高記録」。

7268 金沢町御扶持人 16.66—15
市政局著
明治3年（1870）
23丁 24cm
明治2年民政寮に提出した人高書を人別小割に書上げたもの。金沢で扶持を賜っていた町人，合計488人扶持の201人の名前を列記したもの。

7269 能州四郡御判印物写 16.66—16
手写
30丁 24.5cm
水野春建旧蔵。天正より明暦年間までの御判印物を収録。中井三右衛門はじめ寺社を含む49家に宛てた，扶持宛行状・寄進状。

7270 〔子浦村肝煎勘九郎等口上書〕 16.66—17
2通 24cm

天保13年（1842）羽咋郡子浦村肝煎等より改作奉行所宛。2通は同文。同村鍛冶孫左衛門の屋敷拝領御印物の紛失について口上書。

7271　砺波郡沢川村田畑兵衛願書　16.66—18
明治3年（1870）
1通　15.5cm
拝領山を自分持山にしたい旨の願書。田畑兵衛より砺波郡局宛。

褒　　賞

7272　〔生神村久右衛門孝心之趣書上控〕　16.66—19
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　23.5cm
原題「生神村久右衛門孝心之趣書上候様被仰渡候ニ付御郡所御改作所へ書上申控」。安永3年（1774）書上げ。

7273　生神村肝煎久右衛門前々より之様子書上申帳　16.66—20
安永3年（1774）
7丁　25cm
富田権六郎旧蔵。親孝行，善行等について改作奉行より御用部屋宛の書上。

7274　三州良民言行録　16.66—21
河合良温著
手写　明治16年（1883）
2冊　26.5cm
河合儀兵衛所蔵の写。享和2年（1802）原本成立。
①上　池田市右衛門（大聖寺藩士）他23名の行跡を記載
②下　六郎右衛門（新川郡鉢村百姓）他41名。

7275　孝行人等行状書　16.66—22
大地縫殿左衛門編
手写　文化6年（1809）
51丁　27.5×20cm
藩内の孝行・奇特者の書上げ。文化4年(1807)の命令に基づいて作成されたもの。

7276　廉夫孝子貞婦伝　16.66—23
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　23cm
前半は前号と同じ。後半では，これに洩れた孝行人等を文化8年（1811）長瀬善左衛門が追記している。本書の原本は，渡辺七郎左衛門が文化12年に筆写したもの。なお末尾に享保18年（1733）疫病流行の際の治療法についての触書を書加えている。

7277　孝子伝　16.66—24
20丁　23.5cm
成瀬正居旧蔵。越中国の分で，文化8年(1811)の調査に基づくもの。

7278　孝心者等へ御賞典　16.66—25
手写
11丁　24cm
北村愛三郎旧蔵。文政4年（1821）より文久元年（1861）鳳至郡の分，明治16年（1883）石川郡押野村後藤於菟吉提出の賞状写等，安政3年（1856）より慶応元年（1865）石川郡の分を収録。

7279　越中長棟村肝煎故山崎甚右衛門奇特篤志之儀ニ付請願　16.66—26
手写
8丁　24cm
明治14年（1881）5月，士族田中正義から前田利嗣宛。甚右衛門の履歴，戸籍等写を付す。

7280　貞婦を訪ふ記　16.66—27
榊原守典著
高橋富兄手写　明治18年（1885）
5丁　27cm
能美郡上吉谷村の貞婦長子の記。写者高橋富兄の奥書を付す。

7281　貞婦を訪ふ記　16.66—28
榊原守典著
手写
8丁　24cm
前号と同内容。

7282 淡路守殿領分ニ被建候孝子之碑写 16.66—29
1通 16cm 包紙
越中婦負郡谷村伝四郎孝心の碑。

7283 府下長寿録 16.66—30
森田平次(良見)著
前田家編輯方手写 明治年間
28丁 23.5cm
原本は万延元年(1860)成立。寛文10年(1670)以降の長寿者に関する法令，諸達書などを集めたもの。

7284 金沢長寿録 16.66—31
森田平次(良見)著
自筆 万延元年(1860)
79丁 23.5cm
藩初以来の藩内長寿者をとりあげ，その経歴を記す。

7285 目見以上七拾歳以上之人々並町在扶持遣置候九拾歳以上之人々名書 16.66—32
文化5年(1808)
25丁 12×37cm 包紙・袋入

7286 八拾八歳以上之者御扶持米 16.66—33
9丁 24.5cm
能州分。所口町麩屋孫三郎母くめ他130名書上。

7287 能州御巡見之節御道筋へ罷出候九拾歳以上之人名 16.66—34
巻子1 24.5cm 包紙
各村分を継立てる。

7288 〔上新川郡八拾八歳以上之者扶持宛行名書等〕 16.66—35
7丁 12×36cm
新川郡御蔵番人・卒族等，御扶持人書上げも記す。

7289 越中国泊町長寿一覧 16.66—36
小沢助左衛門編
明治35年(1902)刊
1枚 40×27.5cm 帯封
小沢助左衛門旧蔵。長寿者番付。

7290 〔稀成小児ニ付品々頂戴一件〕 16.66—37
手写
4丁 23.5cm
真館弥左衛門所蔵の写。原題「嘉永三年(1850)十月鹿島郡熊木組白浜村宇左衛門三男巳之助ト申者稀成小児ニ付御広式へ御召出手遊物等品々頂戴被仰付候一件」。

7291 〔北村母米寿祝之札〕 16.66—38
10枚 9×6cm 包紙
米札。

特16.67 災害・治安・救恤

火事

7292 〔火之用心達書請書〕 16.67—1
元禄12年(1699)
1通 15.5cm
中川典克旧蔵。端裏書「火之要心ニ関スル触書」。3月6日付奥村壱岐等年寄中よりの達書に対する村田平兵衛他25名の請書。

7293 火見番所相図之覚 16.67—2
1通 15cm
成瀬正居旧蔵。火事の節板木打方覚。

7294 〔十間町等非常用水一件〕 16.67—3
仮綴1(2通・絵図2枚) 17×24cm
慶応3年(1867)3月，十間町組合頭松任屋忠兵衛等7町組合頭より町奉行所宛の堀捨水拝領願。水入口など絵図付。

7295 〔居宅焼失ニ付仰出書〕 16.67—4
1通 16.5cm
借知返下と松木下付の達書。

7296 火事家御貸米〔定〕 16.67—5
1通 16.5cm
焼失家，潰家，流失家への貸付米高の定。

7297 自他変異記并附録 16.67—6
手写

74丁　23.5cm
天正13年（1585）より宝暦11年（1761）までの火災等の災害を月日順に列挙。附録として，「宝暦九年四月十日加陽金府大火之節聞書」を付す。

7298　〔金沢焼失図〕　16.67—7
絵図1枚　彩色　55×40cm
宝永7年（1710）3月14日暁，卯辰山西養寺の下来教寺より出火による焼失図。焼失範囲を示す。

7299　御奉書御火消御勤留帳　16.67—8
手写
9丁　21cm
藤加崎里路旧蔵。享保16年（1731）3月の小立野の出火をはじめ同18年4月28日の野町出火，同21年4月7日の卯辰蓮乗寺町出火，宝暦14年（1764）6月26日卯辰町出火についての報告記録。

7300　蓮昌寺焼之図　16.67—9
有沢森右衛門著
絵図1枚　彩色　46×57cm
享保21年（1736）蓮昌寺の門前桶屋六郎方より失火し，大火になった際の焼失した地域示す。

7301　宝暦加州火事之記　16.67—10
三輪藤兵衛著
宝暦9年（1759）
3丁　12.5×34.5cm
宝暦9年4月10日の火事に関する記録。頭分以上で類焼の人々書上げを含む。

7302　〔十間町近江町火事等〕　16.67—11
手写
4通　11.5～16.5cm
①十間町・近江町火災
②新町火災
③庄川出水様子大綱
④天保5年（1834）藩士小者争論。

7303　火災地震記録四種　16.67—12
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　23.5cm
○天保6年（1835）越中放生津焼失御貸塩裁許松屋善七等御塩中出蔵類焼ニ付為見分罷越調之覚
○安政5年（1858）2月26日暁大地震ニ而立山大破損届聞取書（折込み絵図28×75cm）
○安政5年4月越中新川郡常願寺川大洪水御届方
○安政5年2月25日夜9ツ半過大地震其後3月10日山崩洪水等にて上新川郡村々大変ニ付早注進書之写并4月26日新川郡出水注進書之写。

7304　〔安政大火類焼しらべ絵図等〕　16.67—13
手写
仮綴1（絵図21枚）・巻子2　41×68cm・12～25cm
○十間町并近江町類焼しらべ絵図。「安政六年正月九日暁七ツ半時より焼出，類焼家数つぶし家共百四拾七軒」とある
○焼灰等仕抹すまし方には肝煎よりの小紙継立
○家作，役所繩張より押出し心得違いに付，誤書小紙継立。
旧書名「安政火災絵図等」。

7305　〔才川町火事届書〕　16.67—14
1通　25cm
中川典克旧蔵。横田吉兵衛より中川八郎右衛門・前田七郎兵衛宛。才川寺町妙賢寺門前の火災。

7306　江戸火事覚書　16.67—15
天和3年（1683）
38丁　16.5×11cm
天和2年（1682）12月28日の大火による江戸藩邸焼失とその善後策及び復旧について，江戸詰藩士の日記風覚書。

7307　江戸火事ノ覚書　16.67—16
手写
22丁　24.5cm
前号の写し。

7308 〔下谷広小路出火御近隣火消言上紙面等一巻〕 16.67—17
22丁 21cm
原題「上野御本坊黒門前下谷広小路出火御近隣火消言上紙面一巻」。高畠定辟旧蔵。元文2年(1737)，江戸下谷出火の一件及び火事場働人名書。

7309 〔下谷広徳寺焼失御達之控絵図〕 16.67—18
手写
絵図1枚 96.5×115.5cm 袋入
袋書「文久三亥年（1863），下谷広徳寺焼失ニ付御達控，御大工役所」。

7310 変事ども抜書 16.67—19
手写
9丁 24cm
元文3年（1738）から元文6年（1741）の，行事，火災，藩士治安等の記録。

地震

7311 北国地震記 16.67—20
森田平次(良見)編
明治19年（1886）
22丁 24cm
天正13年（1585），寛政11年（1799），安政5年（1858）の地震記録を収載。

7312 輪島并近浦津波一件 16.67—21
手写
4丁 23cm
真館氏旧蔵。天保4年（1833）の災害記。

7313 地震度数等 16.67—22
2丁 24cm
安政2年（1855）10月2日より17日までの地震回数の記録。

7314 安政地震山崩一件 16.67—23
前田家編輯方手写 明治年間
2冊 23.5cm
杉木弥五郎所蔵の写。安政5年（1858）2月地震による，新川郡各組（大田組，嶋組，高野組，上条組，下条組）の損害調理書上帳をまとめたもの。

7315 魚津在住言上抄 16.67—24
前田家編輯方手写 明治年間
110丁 25cm
安政5年（1858）の地震による被害の状況等を，当時魚津に在住していた成瀬主税の言上留等より抄録してまとめたもの。

7316 安政洪水変損地一件 16.67—25
前田家編輯方手写 明治年間
3冊 23.5cm
①・②常願寺川奥山入 山抜満水3月10日・4月26日押出泥洪水ニ而非常之変損ニ付願方等一件留（安政5年）。
③変地村々定散小物成銀並諸返上米銀御渡方奉願申帳（安政5年～万延元年）。
旧書名「洪水変損地一件」。

7317 〔安政大地震ニテ常願寺川流域欠壊之図〕 16.67—26
絵図1枚 彩色 40×84cm
安政5年（1858）地震のもの。

7318 安政度江府大地震記 16.67—27
手写
23丁 24cm
安政2年（1855）の地震の際のもの。江戸表よりの御用状抜書，安政2年10月2日東都大地震火事等荒増（多和田八兵衛指越し分の写）を収録。

7319 〔江戸大地震一件〕 16.67—28
22丁 24cm
安政2年（1855）10月江戸表御用状抜書，安政3年（1856）8月江戸大風一件を収録。

飢饉・疾病

7320 饑饉記二種 16.67—29
手写
53丁 23cm
○寛文元禄加越能三州凶作ニ付饑饉之記
○天保饑饉前後日記。

7321　元禄中救恤留　16.67—30
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
内題「元禄季間国民困窮之留」。前田貞醇所蔵の写。
①元禄8年（1695）・9年御領国困窮之儀ニ付被仰出之趣等留帳
②飢人御救之義ニ付被仰出之趣留帳（元禄9年）。

7322　飢人御救之儀ニ付郡方へ被遣候与力共書付　16.67—31
手写
2冊　23.5cm
前田貞醇旧蔵。元禄9年（1696）貧窮人に対する藩の施策について，その実施状況を報告したもの。
①加州・越州郡方
②能州郡方。

7323　元禄九年飢人御救奉行被指立候一件　16.67—32
手写
31丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。原本成立，天保7年（1836）。元禄8年（1695）・9年飢饉の際の，留帳，郡奉行等書上よりの抜書。

7324　飢人御救ニ付境町中吟味帳　16.67—33
267丁　23cm
前田貞醇旧蔵。元禄9年（1696）の記録。高値に対する施策について，加州，射水・新川郡の郡奉行，越中境町，能州七尾の町奉行等よりの書上。

7325　〔凶年之節窮民為救出候願書写〕　16.67—34
3丁　24cm
原題「御預所川島村六右衛門凶年之節窮民為救御預地役所へ銀子指出候節願書之写」川島村は能州鳳至郡に属す。文政13年（1830）のもの。

7326　作難ニ付取治方諸事留　16.67—35
手写
27丁　24cm
真館氏所蔵の写。天保4年（1833）の凶作対処策。

7327　癸巳救荒録　16.67—36
田川才助（保定）著
天保5年（1834）
78丁　23.5cm
平野安人旧蔵。加陽御仁沢の事，疫病治方雪間季材先生の伝，加陽豊年まつりの事，諸国風評などを収録。癸巳は天保4年。

7328　丙申救荒録　16.67—37
田川才助（保定）著
天保10年（1839）
102丁　23.5cm
平野安人旧蔵。「米価等の大抵」を収録。丙申は天保7年。

7329　天保饑饉略留　16.67—38
手写
55丁　23.5cm
内題「天保七・八不熟飢饉略留」。富山岡本昭伝筆写の写。越中を中心とした天保饑饉の様子を記す。

7330　〔常義倉仕法ニ付願書〕　16.67—39
手写
1通　17.5cm
9月付，町年寄越中屋喜兵衛よりの常義倉積立銀の仕法に関する願書。
旧書名「常義倉ニ付願書」

7331　金広日記留　16.67—40
1通　24×35cm
金広日記より文政5年（1822）と天保7年（1836）の痘瘡に関する記事を書抜いたもの。

7332　流行之病気ニ付御触之趣写　16.67—41
3丁　24cm
広瀬知良旧蔵。幕府御触を藩内に伝達したもの。

一揆・騒擾

7333 小松御城番方御本丸旧記之内百姓騒動一件抜書 16.67—42
成瀬正居手写 安政4年（1857）
30丁 12×18cm
成瀬正居旧蔵。正徳2年（1712）から天保7年（1836）の小松，大聖寺藩，越前での百姓騒動8件について記す。

7334 三餘雑志外篇 16.67—43
手写
40丁 24.5cm
岡田棣旧蔵。巻5のみ。内容は「銀鈔始終記」（宝暦6年8月），宝暦5年の銀札発行と金沢町での打こわし騒動について記録。

7335 金沢六家戦 16.67—44
前田家編輯方手写 明治年間
44丁 23.5cm
宝暦6年（1756）4月12日夜金沢町騒擾の顚末。前年の銀札発行に基因したもの。

7336 文化十年惑乱記 16.67—45
2冊 23.5cm
文化10年（1813）の不作に際し，越中での農民の嘆願・暴動と，これに対する藩の対策などを記したもの。
①文化10年9月～10月
②文化10年11月～文化11年8月。

7337 〔新川郡百姓強願一件〕 16.67—46
1通 16cm
高田権六郎旧蔵。凶作のため十村黒崎村安兵衛方へ30～40人ばかりが強訴した一件についての報告書。
旧書名「新川郡黒崎村へ百姓施願一件」。

7338 農民共願書等仮留 16.67—47
手写
21丁 24cm
明治2年（1869）越中新川郡で起きた謂ゆるばんどり騒動の時の記録。小百姓惣代より郡治局等宛の願書2通を収載。

7339 新川郡暴動一件 16.67—48
前田家編輯方手写 明治年間
88丁 23.5cm
○去巳年新川郡暴動一件御詮義方留（明治3年7月 岡部平右衛門編）
○新川郡百姓乱一件，附り口郡上浅井組之内百姓願方一件（明治2年10月 岡部平右衛門編）
○当年格別之難作ニ付上新川郡百姓歎願（明治2年11月）
○難作ニ付新川郡百姓歎願書指出候義ニ付詮義答書（明治2年11月）
この他，明治2年11月・12月の書上げ，達書等を収録。

御小屋

7340 〔非人頭並非人小屋抜書〕 16.67—49
前田家編輯方手写 明治年間
39丁 25cm
寛文から明治の非人小屋などについて，金沢古蹟志，温故集録からの抜書。

7341 非人小屋裁許勤方帳 16.67—50
手写
16丁 24cm
前田貞醇旧蔵。原本成立，天明3年（1783）。裁許，斉田九郎大夫他3名よりの書上げ。

7342 〔非人小屋主付仰付達書〕 16.67—51
手写
1通 16cm
寛政2年（1790），御用番山城殿御渡候御題紙の写。永原大学への非人小屋主付役申渡書。

7343 非人小屋御救方御用方留 16.67—52
手写
4丁 12×18.5cm
成瀬正居旧蔵。非人小屋御救方御用主附を命ぜられた成瀬左近の役務記録。寛政4年（1792）11月・12月の分。

特16.68　支藩・預所

富　山　藩

7344　保郷庄調書　　16.68—1
前田家編輯方手写　明治年間
41丁　23.5cm
享保20年（1735）保郷庄考並に富山藩領内各保郷庄の村々書上，富山藩領婦負郡325ケ村書上，村名変更村々の覚等を収録。

7345　富山町方旧記　　16.68—2
手写
2冊　23.5cm
①享保11年（1726）～宝暦13年（1763）②明和元年（1764）～天明7年（1787）。内容は行政，治安に関するものを中心に150余の事例を記録したもの。

7346　富山町方旧事調理　　16.68—3
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23cm
天保12年（1841）に調べた，府内町90余りの町別由緒，丁数，家数，人数の他，番所，橋，道路等について記したもの。毎年の各地産土神祭日と鎮火祭日を附す。

7347　町役所諸事留抜書　　16.68—4
114丁　23cm
町役所諸事留入用品抜書，明和・天明町役所御用留抜書より成る。富山藩のもので，前者の内容は宝暦10（1760）・11年，後者は明和3年（1766）から弘化4年（1847）に及んでいる。

7348　町吟味所御触留　　16.68—5
前田家編輯方手写　明治年間
12冊　23cm
享保2年（1717）から元治2年（1865）までの旧富山藩町吟味所の御触留。
①巻之一　享保2年～元文4年（1739）
②巻之二　元文5年～宝暦8年（1758）
③巻之三上・下　宝暦9年～安永2年（1773）
④巻之四上　安永3年～天明6年（1786）
⑤巻之四下　天明7年～寛政2年（1790）
⑥巻之五上　寛政3年～同7年
⑦巻之五下　寛政8年～享和元年（1801）
⑧巻之六　享和2年～文化7年（1810）
⑨巻之七　文化8年～文政8年（1825）
⑩巻之八上・下　文政9年～天保10年（1839）
⑪巻之九上・下　天保11年～安政2年（1855）
⑫巻之十上・下　安政3年～元治2年（1865）。

7349　目坐末之艸　　16.68—6
前田家編輯方手写　明治年間
156丁　23cm
富山藩領内，郡奉行支配方についての覚書。野廻り十村肝煎江申渡之覚書之事，宝暦2年（1752）改作奉公人ヲ縮方申渡候事，霊昭院様御葬式等之事，盗賊改方定書御郡方へ触渡之事，江里子并江才許へ申渡書付之事，江才許人江江里子へ申渡書は受状之事，牛ケ首用水開発初り之事，八尾蚕種方江申渡之事，服忌令之事，彼方御領中島村川堰ニ付水吐堀川之事，三宿御郡方へ頼母子之義申渡之事，任海村久太郎屋敷替願之事，御郡所々川除并川筋魚殺生御停止札之事を収録。

7350　富山御郡方定書八種　　16.68—7
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
内題「旧富山藩御郡方定書等八種」。
①明和4年（1767）御郡諸事留，町出作御定書等，御郡縮方条数書。
②天明6年（1786）御改法御達，牛ケ首用水御定書（寛政9年），嘉永以降郡方へ御達書等覚，御田地割納得定書（万延元年），新開等留。

7351　寛政中御郡方留　　16.68—8
前田家編輯方手写　明治年間
100丁　23cm
富山藩郡方の留書。御条目二巻之事，川除用水之儀申渡之事，八幡下渡瀬之儀懸合之事，下乗嶺村源右衛門宅打荒之事，専沢村雪沼ニ而人死亡之事，花房村名兵衛地面拝領之事，駒方御請

状之事，千石町作食蔵出火之事，御扶持人并平十村差別之事，御分知之儀申上候事，新開方之書物之事，御郡所々建札等之事，歩入等之儀ニ付申渡之事，御郡高山川々之事，御郡出火人共御救米願之事，改作方高証文等之事を収録。
旧書名「富山藩郡方留」。

7352　天保中御郡方品々留　16.68—9
前田家編輯方手写　明治年間
120丁　24cm
富山藩郡方の留書。十村植付草修理見分模様書之事，御扶持人十村御収納仕切模様書之事，御本丸御建方材木之事，御改革ニ付石田小右衛門下向等之事，御代替ニ付御条目之義被仰出之事，御代替ニ付御家中等へ被下米之事，御高札之面文言之事，越中与飛州与山論境目之事，御郡神主持高伝馬役之事，亀谷山銅鉛後見銀年賦之事，改革ニ付旅籠町遊女出立催之事，宝暦2年（1752）改革奉公人縮方之事，天保3年（1832）改作奉行人等之義申渡之事，山越義門等被仰出之事を収録。

7353　高并小物成手鑑　16.68—10
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
内題「古高新田高小物成銀等手鑑」。富山藩各村の高・小物成高等について天保4年（1833）までの事項を記す。
①藤瀬組・高堂組
②内山組・井上組・栗山組・野積四谷・拝領地面之部。

7354　変事録　16.68—11
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
内題「町吟味所留之内変事録」。富山町の記録で変死等の吟味を中心に，享保11年（1726）～天保2年（1831）の事件を収録する。
①享保11年～文化13年（1816）
②文化13年～天保2年。

7355　富山水損凶荒留記　16.68—12
前田家編輯方手写　明治年間
72丁　23cm
内題「旧富山藩水損凶荒留記」。
寛政元年（1789）水損御用捨高等書上留，天保凶作ニ付高方御仕法（天保7年～同9年），天明元年（1781）御郡中江御法度之御条目之事を収録。

7356　富山火災留　16.68—13
手写
43丁　23cm
慶長15年（1610）より明治20年（1887）まで11件の火災を列挙し，このうち天保2年（1831）以降の5件について詳細を記す。

7357　富山水風旱留　16.68—14
手写
103丁　23.5cm
元禄16年（1703）～明和8年（1771）の記録。

7358　富山水火史　16.68—15
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25cm
富山日報，明治27年（1894）の記事「富山の水火史」の写。この記事は，富山開市祭発起委員編の「富山沿革誌略」より水火災害項目を抜粋して作成されたもの。

7359　富山市の火災　16.68—16
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25cm
明治28年（1895）の富山市の火災について富山日報の記事を抜粋。江戸期大火についても述べ市民の注意を促したもの。

大　聖　寺　藩

7360　加賀国大聖寺絵図　16.68—17
〔正保4年（1647）〕
絵図1枚　彩色　216×190cm
内題「加賀国大正持絵図」。「松平飛騨守居所」とある。旧書名「加賀国大聖寺古図」。

7361　大聖寺絵図　16.68—18
手写　明治28年（1895）
絵図1枚　彩色　69×113.5cm
前田貞醇所蔵の写。端裏書「天明六（1786）丙

午六月大音氏ヨリ懇借，今枝氏ニテ写一所ニ頼出来也」。大聖寺城下町割詳密図で，居住者の姓・屋号がすべて記入されている。城は外郭のみ。

7362　大聖寺御城下全図　16.68—19
絵図1枚　彩色　79×138.5cm
脇田尚保旧蔵。大聖寺城下の町割図。藩士の姓を記入している。

7363　吉崎鹿嶋絵図　16.68—20
絵図1枚　彩色　97×116cm
蓮如の古蹟地吉崎の対岸にある鹿嶋を中心とした絵図。大聖寺領吉崎（加賀吉崎）・越前吉崎・蓮如山・浜崎・塩屋などを描く。御境榎木・御番所等を描いているところから，鹿嶋の帰属を福井藩と争ったことに関連する絵図と考えられる。

7364　〔飛騨守様分新田高覚〕　16.68—21
手写
1通　24cm
正保3年（1646），寛文4年（1664）の高辻帳記載の新田高の書上控。原本成立は貞享3年（1686）で，津田宇右衛門より加賀藩年寄宛。飛騨守は大聖寺藩主2代前田利明。

7365　那谷寺通夜物語　16.68—22
森田平次(良見)手写
3冊　23cm
大聖寺藩の，正徳2年（1712）10月，大風による凶作に端を発した百姓一揆の顛末を記す。奥書に宝暦12年（1762）大聖寺藩士児玉仁右衛門則忠が筆写した旨を記す。
刊本　郷土シリーズ「那谷寺通夜物語—正徳の百姓一揆史料」，「日本庶民生活史料集成」第6巻・那谷寺通夜物語。

7366　〔大聖寺郡民徼訴一件〕　16.68—23
2丁　25cm
正徳2年（1712）の一揆。10月6日～9日の様子を記す。

預　　所

7367　御預所宗門改覚帳　16.68—24
早川徳三郎著
手写
5丁　12×18cm
文政3年（1820）能州預所の宗門改を任命された，御算用者早川徳三郎の記録。

7368　能登四郡御成箇郷帳　16.68—25
前田式部編
寛延元年（1748）
114丁　24cm
富田権六郎旧蔵。御預所村々の書上げで，幕府勘定所宛。旧書名「能登国御取箇郷帳」。

7369　能登国羽咋郡鹿島郡之内郷村高帳　16.68—26
天明6年（1786）
2冊　32cm
幕府領と加賀藩領の交換の際のもの。幕府勘定所役人，田口五郎左衛門等より松平加賀守御預り所役人宛。
①幕府領より藩領となった村々の目録
②藩領より幕府領となった村々の目録。

7370　〔口郡御預所村々草高帳〕　16.68—27
手写
2丁　23.5cm
戊正月24日の書上げで，藩領より預所となった羽咋郡尊保村等17ケ村，預所より藩領となった羽咋郡千路村等8ケ村について記す。

7371　〔口郡之内御預所と御替村々高辻帳之表書改方届書〕　16.68—28
巻子1・1通　16.5cm
天明5年（1785）能登口郡内での御預所と藩領の入替えに関するもの
①天明7年，松平和泉守・青山大膳亮宛。幕府に対して領知目録改めを願出たもの
②天明6年6月25日，佐藤勘兵衛等より本多安房守・長大隅守宛。入替えに伴う，高辻帳の新田高の増減等について報告したもの。
旧書名「郷村高辻帳仕立方についてロ上書」。

7372 御替村地境田畑等吟味記録 16.68—29
4丁 24cm
成瀬正居旧蔵。天明5年（1785）の能登幕府領と加賀藩領の交換に際してのもので，津田治兵衛の見分報告書。

7373 定例指出物覚 16.68—30
11丁 24cm
早川随勝旧蔵。御勘定所江可指出定例もの覚，能登国之内御預所高国郡村名訳書（天保15年）天保13年寅年御勘定目録を収む。

7374 元御預所高免帳 16.68—31
手写
36丁 24.5cm
前欠。原本成立，天保9年（1838）。本田，新田，見取場に分けて引高，免率等を記す。

7375 能登国村々免状帳 16.68—32
3冊 24cm
御領所の分。
①万延元年（1860）②文久元年（1861）③元治2年（1865）。

7376 〔奥郡元御預所高免蔵入所書上帳〕 16.68—33
慶応3～4年（1867～68）
4冊 24cm
①元御預所村々古田高免御蔵入所等書上申帳
②元御預所村々定免新開所高免御蔵入所等書上申帳
③元御預所村々極高新開所高免御蔵入所等書上申帳
④鳳至・珠洲両御郡元預所村々諸高新開根帳。

7377 〔御預所変地吟味覚書〕 16.68—34
古郡文右衛門編
手写
8丁 27.5×22cm
原題「能登国御蔵入，正保二酉年（1645）以来変地吟味覚書」。原本成立，元禄12年（1699）。国絵図作成の下調査にかかるもの。
旧書名「変地吟味覚書」。

7378 荒所起返等請書帳 16.68—35
天保4年（1833）
7丁 24cm
早川随勝旧蔵。能登預所のもので，起返，立帰，「当巳年より初而立帰」等の場所，「当巳年一作引高申渡候分」に分けて村毎に記載。

7379 〔改作所方書類綴〕 16.68—36
仮綴1（9通） 16cm
非常貯用籾，変地償米，同勢子米，酒造方役銭，十村山廻り等御目見，御用地引高，夫銭などについて明治元年（1868）等の届・伺書類。
旧書名「元御預所村々非常貯用籾ニ付願書等写」。

7380 能登国御預所御物成永定免皆金納置御証文写帳 16.68—37
手写
21丁 23.5cm
早 早川随勝旧蔵。預所の御成箇永定免及び金納の命令に基づいて，文化7年（1810）諸役の金銭換算書が幕府勘定所に出された。本書はこれを天保14年（1843）にまとめたもの。天明7年（1787）羽咋郡千路潟内新開分も含む。

7381 〔能登国御預所御物成皆済目録〕 16.68—38
長屋七郎右衛門著
手写
2冊 24cm
原題「能登国之内御預所去寅御物成皆済目録」「能登国之内御預所去寅皆済目録之内郷帳組訳書」。勘定所宛で，預所の物成，小物成の書上げ。

7382 御年貢取立帳 16.68—39
129丁 24.5cm
能登預所の村々について，万延元年（1860）の本途，諸役高及びその払方を記す。

7383 御年貢金取立触帳 16.68—40
御預所著
91丁 25cm
能登預所62ケ村の明治2年（1869）年貢金高，明治3年（1870）「夫銀并小物成取立触帳」及

び同年の酒造役銭の書上を収む。

7384　〔元御預所村々現銀御払米返納延引願等〕
16.68—41
手写
3通　16cm
①元御預所石崎村増免に当る徴米覚　②元御預所敷波村道橋普請入用に関する覚書　③羽咋郡富来組新入9ヶ村，鹿島郡矢田組新入12ヶ村へ現銀払米返納延期願（辰六月）。
旧書名「羽咋郡富来組新入九ヶ村へ現銀御払米願等」。

7385　御預所村々前々より質田地之義云々等
16.68—42
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
真館氏所蔵の写。預所での質田地，拝借金，替り庄屋についての達書3通を収録。

7386　鹿嶋郡深浦村五兵衛倅与六・三郎一件留
16.68—43
54丁　27cm
文化3年（1806），猪鹿番小屋での焼死一件。

7387　諸事紙面写　16.68—44
手写
21丁　20cm
横山隆幹旧蔵。加賀藩の預地御用に関係する享保7年（1722），明和8・9年の旧記を写したもの。

7388　御預地書類目録　16.68—45
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（2丁）　24cm
能登預地についての旧記・文書類の目録。

特16.7 産　　業

特16.70 産 業 一 般

産　物　調　査

7389 農隙所作村々寄帳　16.70—1
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　24cm
岡部勇作所蔵の写。内題には「耕農之外所作在之村々寄帳」とあり。元禄4～7年（1691～94）加越能三ヵ国の各郡毎に村々の農間余業を書上げたもの。末尾に凪至・珠洲郡の産物と産地を別記す。「国産抄」と同内容。刊本「日本農書全集」第5巻に掲載。

7390 耕農之外所作有之村々寄帳　16.70—2
手写
37丁　24cm
富田権六郎旧蔵。前号と同じもの。

7391 国産抄　16.70—3
前田家編輯方手写　明治年間
23丁　24cm
特16.70—1と同内容。但し末尾に寛政12年（1800）宮永正運の筆写の由来，御国産元禄中上達已後略記附言を記し，巻頭に天保3年（1832）老松架亭主人の自叙を載せる。

7392 御進物御用ニ可成品々難斗御座候ニ付私共組々ニ御座候品々書上申帳　16.70—4
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　24cm
真館氏所蔵の写。正徳元年（1711）羽咋・鹿島両郡の十村より書上げたもの。

7393 能登国産物之内別ニ書出候帳面　16.70—5
高畠金左衛門・行山伝左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　24cm
前田直行所蔵の写。表紙に「産物方より借写之于時享保二十・十二・十四」とあり。苗加村久左衛門が能登へ派遣されて石薬・草木について調査したもので，享保20年（1735）12月に高畠金左衛門・行山伝左衛門が書上げたもの。

7394 産物五穀之分書上申帳　16.70—6
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　24cm
筒井成孝所蔵の写。享保20年（1735）珠洲・凪至郡に関して鹿野村恒方・孫次郎が高田（高畠か）金左衛門・行山伝左衛門宛に書上げたもの。うるあわ，もちあわ，ひへ，きび，大麦，小麦，大豆，小豆，ゑんど，さゝげの類につき品目名のみ列記。

7395 享元塵餘志　16.70—7
手写
18冊　23.5cm
加能郷土辞彙には享保・元文年中に稲生宣義（若水）が庶物類纂を編した時の草稿とあるが宣義は正徳5年（1715）に没しており，本書はその後継者の手によるものか。
①産物加州より不書出品，三ケ国穀類，穀類（イロハ寄），相尋書出候品（享保20，21年石川，能美，河北郡，木類，草類）
②相尋書出候品（魚類，虫類），石川郡滑水・温泉等，越中所々見分仕候書上帳（享保21年5月杉谷文左衛門，内山覚順），越中魚之部
③御領国産薬種書上申帳（享保20年9月鶴来屋平右衛門），方々御進物之品々，御献上并御残被遣候品々（享保20年8月御用所），御領国中産物調御用ニ付紙面之写（享保20年カ）
④五穀之部，五穀之部（能州，加州越中ニ無之分）
⑤五穀之部（加州ニ相洩候分），穀之部
⑥雑穀之部（越中能州分，加州ニ無之分），雑穀之部
⑦菜部，虫部，菓部
⑧介甲部，禽獣部，介貝部
⑨草之類，木部
⑩草部，金石部，鱗部
⑪覚中（内山覚中）方より来ル帳之内草木草菜之分いろは寄并百姓給物之覚魚類いろは寄，相尋候草木等行状覚書（河北郡野瀬村伊兵衛覚候分），御領国在之薬種（享保20年9月鶴来屋平右衛門），三ケ国産物之儀ニ付覚書

⑫大倭本草，穀并菽豆，卵生，能美郡等草之名寄，水禽
⑬山草類
⑭山草類下
⑮草部（湿草類上）
⑯草部（湿草類下）
⑰草部（芳草類）
⑱草部（芳草類）。

7396　郡方産物帳　　16.70—8
9冊　25cm
加賀藩領内加越能三ヵ国の諸郡及び江州今津・海津の産物を記す。元文3年(1738)の書上げ。各巻は，①能美郡　②石川郡　③河北郡　④砺波郡　⑤射水郡　⑥新川郡　⑦羽咋・鹿島郡　⑧鳳至・珠洲郡　⑨江州今津弘川海津之内中村町。各巻とも穀類，菜類，菓類，菌類，辺土百姓給物類，草類，木類，竹類，鳥類，獣類，魚類，螺類，虫類，蛇類，石土水火類に分けて記載。

7397　加賀国産物志　　16.70—9
稲生孝与(稲新助)・内山覚中編　阪元慎校
前田家編輯方手写　明治年間
93丁　23.5cm
森田平次所蔵の写。末尾に文政4年（1821）村井長世（屋漏堂）が田辺平吉より借用して写したことを記す。本文末尾に元文5年（1740）5月高畠金左衛門・行山伝左衛門の署名があり，この両名の書上げを稲・内山が編輯し，後に阪元慎が校正したもの。内容は加賀国の産物を五穀部・菜部・菓部・菌部・海草部・辺土百姓給物・草部・木部・竹部・鳥部・獣部・魚部・螺部・虫部・蛇部・石土水火部にわけ，名称と簡単な解説を記す。

7398　加賀国物産志　　16.70—10
稲生孝与(稲新助)・内山覚中編　阪元慎校
田中芳男手写　明治17年（1884）
82丁　23.5cm
岡田信利所蔵の写。前号と同内容。

7399　産物記四種　　16.70—11
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
①加越能三州郷村産物記（元禄7年書上げ，農隙所作村々寄帳と同一），能登国産物別記（享保20年 高畠金左衛門・行山伝左衛門の書上げ，内題に能登国産物之内別段御尋ニ付取調進達相成控帳とあり）を収録
②加能越産物書上（元文3年書上げ，内題に加賀能登越中三ケ国之諸郡物産石土水火部とあり），越中魚津産物記（元文元年肝煎四郎左衛門・藤右衛門の書上げ，内題に越中魚津浦海猟魚類名目書上帳とあるものと天明5年伊藤権五郎書上げの魚津浦方猟業役銀高等帳面を含む）を収録。

7400　加越能本草調　　16.70—12
前田家編輯方編
明治年間
19丁　24cm
漢名と和名，産出国名を記す。内山覚順所輯本草方言の書写。その他いろは順に草木名を記したものを含む。覚順は稲宣義の2男で，宣義の高弟内山覚仲の養子，天明3年没70才。

7401　能美郡草木之類書上申帳　　16.70—13
今江村源助等著
宝暦14年（1764）
2冊　24cm
安井顕比旧蔵のものと北村与平所蔵の写の2冊。両者とも同文。今江村源助等4名の十村が能美郡内の草木名と産地を記したもの。

7402　鳳至珠洲旧跡物産書上帳六種　　16.70—14
前田家編輯方手写　明治年間
60丁　24cm
筒井氏所蔵の写。外題「鳳珠旧跡物産帳」。
○鳳至郡名所旧跡等書上申帳（宝暦14年3月）
○珠洲郡名所旧跡等書上申帳（　〃　）
○鳳至郡草木類書上申帳（　〃　）
○珠洲郡草木類書上申帳（　〃　）
○珠洲鳳至両郡産物之内他国へ指遣商売仕候品々書上申帳（明和8年11月）
○珠洲鳳至両郡産物之内御領国ニ而商売仕候品々書上申帳（　〃　）。
旧書名「鳳珠旧跡物産書上帳」。

7403　羽喰・鹿島両郡産物書上帳　16.70—15
芹川村兵助著
前田家編輯方手写　明治年間
52丁　23cm
岡部氏所蔵の写。表題は「羽鹿両郡産物帳」。内題「羽咋鹿嶋両御郡諸産物之様子書上申帳」とあり。安永7年（1778）調理方主付に任ぜられた芹川村兵助が羽咋・鹿島両郡11組の産物出来高・通用高を書上げたもの。

7404　加州産物帳　16.70—16
6冊　25cm
「能州産物帳」「越州産物帳」と対をなす。加賀国産物志と配列はほぼ同じであるが，より詳細に記述している。全9冊のうち第5・6・8冊を欠く。①五穀之部（第一冊）　②菜部・菓部・菌部・海草部・辺土百姓給物類（第二冊），③草類上（第三冊）　④草類下（第四冊）　⑤魚部・螺部（第七冊）　⑥石土水火部（第九冊）。欠本の第五・六冊は木部・竹部・鳥部・獣部，第八冊は虫部・蛇部と推定される。

7405　越州産物帳　16.70—17
6冊　25cm
題僉に文化10年（1813）の日付を記す。全8冊のうち第4・5冊を欠く。①五穀部（第一冊）②菜部・菓部・菌部・海草部・辺土百姓給物類（第二冊）　③草部（第三冊）　④魚部・螺部（第六冊）　⑤虫部并蛇類（第七冊）　⑥石土水火部（第八冊）。各産物名と産地・解説を記す。

7406　能州産物帳　16.70—18
6冊　25cm
題僉に文化10年（1813）の日付を記す。全8冊のうち第4・5冊を欠く。①穀部（第一冊），②菜類・菓類・菌類・海草類・百姓給物類（第二冊）　③草部（第三冊）　④魚部・螺部（第六冊）　⑤虫部・蛇類（第七冊）　⑥石土水火部（第八冊）。欠本の第4・5は木部・竹部・鳥部・獣部か。産物の名称と簡単な解説を記す。

7407　能登国物産書上帳　16.70—19
前田家編輯方手写　明治年間
70丁　23cm
表題は「能登物産書上帳」。内容は「安政年五諸役御免之品等書上申帳」，「魚問屋御定帳」，「文化八年他国出御制禁之品々并御算用場御郡御奉行所より御指留之品々書上候様就被仰渡右ニ当リ候御触等抜書」，「文化十年所口町等諸産物壱ヶ年出来高相調理書上申帳」，「能州塩出来納方書」。

7408　〔三州産物改分并蝦夷地産物調理〕　16.70—20
手写
20丁　25cm
岡田棣旧蔵。内容は「三州産物改分調理」（慶応元年（1865）11月，各郡別に物産名と数量をあげ御国用と他国出に内わけている），「蝦夷地取調理書」（地名，土地人数，里程，受負町人名前，運上金人取揚高（品物別惣計），諸雑費，利益高見図り）。
旧書名「三州産物改分調理」。

7409　加越能諸品出産根源録　16.70—21
村松標左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　24cm
化石類，石類，土類，水類，火類に区分し，それぞれの産地名を記す。

7410　三国名物志　16.70—22
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
加越能三カ国に産する動植物の漢名，和名，産地等を記したもの。①は植物　②は動物をそれぞれ和名のイロハ順に記す。

7411　名産之品々帳　16.70—23
手写
3丁　12.5×35cm
能美，石川，河北，鳳至，珠洲，砺波，新川郡の鉱山，石，温泉，製紙，製織，海産物等の産地について記す。

7412　加賀能登之温泉　16.70—24
前田家編輯方編
明治年間
37丁　25cm

和倉温泉，深谷温泉，辰ノ口温泉，大牧温泉，山代温泉，片山津温泉に関して各種資料（明治期雑誌等を含む）を抜すいしたもの。和倉・深谷温泉効能書も綴る。

産　物　仕　法

7413　加能越産物方自記　　16.70—25

村井長寧（又兵衛）編

森田平次（良見・柿園）手写

4冊　24cm

村井長寧は老臣村井氏の第7代。安永7年（1778）5月加越能三州産物方主付となり，産物方政策を推進したが，本書は安永10年（1781）～天明5年（1785）の間の産物方関係史料を収録したもの。

①安永10(天明元)年。塩方の事，革泥障等，坪野石，綿種油，緑子，木綿，鍬柄，松こば板，炭，批板，塩方の事，塩硝直段，鉛直段，塩硝直段，松板，梹板，塩硝，苧かせ，炭，かね山，陶器，能登松，晒布苧かせ，おしろい，駒，魚口銭，漆，囲垣根木，塩一釜焼上高，魚口銭，郡方諸商売，塩方，塩増焚，伐出枝木，塩硝，木呂，山楮皮，鉛，塩運賃定，真松商売，墨，真松商売，布晒，出津入津運上，御林松，植木，伐出枝木，木呂，麻苧紬，墨，封銀賃，八百屋問屋，塩士，砂糖問屋，銅葉，払塩，銅并へにから，竹皮，焚炭，人参，木呂松，鰯

②天明元・2年。塩硝，繻子紋縮緬，梹批板，綿打弦，木呂，雑木川流，塩硝，晒布，松木，材木，人参，松木，灰吹銀，絹布，金山，馬市，松木，苗松植付，漆問屋，鰹節口銭，筵蔵杉苗，藍王，松杉苗植付，堂形松苗植付，繰綿，薪木呂，木履足駄，材木，菜種，商売役銀，綿，長機木綿，松苗植付，護摩木，梹木，苗木植付，塩硝，桑苗植付，桑并茶等植付，桑苗植付，薪木呂，材木，嘉多粉，桑苗，木呂，立山地境，立枯松代銀，漆木，鰹節，塩座，氷見畳表，払塩，漆木，松木，山楮皮，松木，桑苗植付，砂糖，鰯網，金山，鯵網，払塩，鯵網，銅，生塩硝，鳴木綿，菜種

③天明2・3年。鰯大網，桑苗植付，材木，桑苗植付，紅粉染，木綿絞染，たば粉，松苗植付，松木，綿打弦，産物種銀，松木，布晒場，焼炭木呂，雑木御林，杪薪鍛冶炭，鳴木綿，縮布，緞子綸子紗綾，木綿絞，塩手米，材木，槻杉，槻木，鰯網，奥鳴，桑苗植付，払塩，松木，木綿素甕，払松木，塩硝，江豚獏，払塩，木呂，杉苗植付，松木，縮布，桑苗，松苗，並松植付，瓦，椀，材木，金山，焼物陶器，人参，塩，絹機，木綿，江豚猟，銅山，縮布并鉛，素甕，材木，紬，銅，桑葉，縮布，塩，布木綿，箔打，縮緬，塩，綿，鰹節，銀山，鳴木綿，酒造，真鍮銅板金，紋布，絹，縮布，鯵網，材木，金山

④天明4・5年。紙楮，菜種，木綿絞，塩，絹，塩硝，楮，桑苗，材木，松木，羅紗，桑苗，楮，雁緋紙，羅紗，塩，桑種，雁緋紙，銅鉛，木呂，桑畑，金山，鍛冶炭，松木，杉木，産物銀，材木代，桑苗，植松，材木，薪木呂，火縄，材木等，松板，七木，五ヶ紙，五ヶ山楮，並木杉，松植付，御林地，猟魚網役等，塩，紋布，桑苗，御林，灰吹金，猟魚網，絹布判賃，絹，椀，猟魚網船，銅延板，払塩，絹，菜種，灰吹金，村井又兵衛長寧履歴。

刊本「日本塩業大系」資料編近世3に抄載。

7414　布判賃御触等　　16.70—26

前田家編輯方手写　明治年間

19丁　24cm

真館氏所蔵の写。布判賃御触，菜種口銭取立人，魚口銭取立人，他国出干鰯口銭高，胡獏打捕冥加銀，他国出洩楮改人，御塩直段等を収録するが，大部分は口郡綿布判賃に関する史料。天明6年（1786）～文化9年（1812）のもの。

7415　口郡紬方仕法一件　　16.70—27

前田家編輯方手写　明治年間

145丁　23.5cm

真館氏所蔵の写。文化7年（1810）より天保9年（1838）の口郡紬方仕法帳等を収録。

7416　〔紬方御仕法御触渡に付御達〕　　16.70—28

手写

5丁　24cm

「紬方御仕法御触渡ニ付心附之趣左ニ御達奉申上候」。巳正月付，御貸付金主付福岡屋小右衛門等の書上げ。旧書名「紬方御仕法之御達」。

7417　絹御仕入銀利足之内御用捨等之義ニ付御書立を以被為仰渡之御請帳　16.70—29
8丁　24cm
富田権六郎旧蔵。文化13年（1816）絹仕入銀利足の内用捨及び城端町焼失の砌御貸米返上繰下げにつき，城端総町組合頭が今石動奉行に提出した請書。

7418　縮嶋仕法覚書　16.70—30
前田家編輯方手写　明治年間
1丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。羽咋郡土田組，鹿嶋郡西ノ庄組村々に産する縮嶋の仕入銀渡方仕法案。辰3月付。

7419　産物方御用留　16.70—31
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
片岡孫作所蔵の写。文政元年（1818）村井長世が再度産物方主付となって産物方政策を推進したが，本書はこの期の産物方政策に関するもので，文政元年（1818）～天保7年（1836）の記事を収録。
①産物方仕法初発之事　文政元～12年
蚕種紙之事　文政7～10年
②徳丸縮仕法之事　文政3～天保7年
③福野桟留縞之事　文政12～天保7年。

7420　諸浦商物口銭御定帳　16.70—32
前田家編輯方手写　明治年間
56丁　24cm
岡部氏所蔵の写。文政元年（1818）7月の口銭取立高の定，文政7年（1824）3月の追加分，同年9月の八百屋干物等の浦口銭の定を収録。

7421　産物江戸方御用留　16.70—33
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
片岡孫作所蔵の写。表題は「江戸方御用留」。文政10年（1827）～天保8年（1837）に加賀藩産物を江戸へ売捌いた時の御用留。呉服屋棟取役で産物他国引合方主附を勤める一丸甚六が加賀藩産物の江戸移出を提案し，それにより江戸での加賀藩産物売捌会所産物方主附に升屋七左衛門が任命され，小松絹・菅笠・越中五郎丸布などが移出されたことを記す。

7422　〔能登産物諸仕法〕　16.70—34
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　24cm
真館氏所蔵の写。内容は天保5～10年（1834～39）のもので，能登灰射水郡へ積廻仕法一件（戌11月），口郡木綿細かな稼方仕法一件（天保9），羽咋鹿島両郡困窮者産業ニ為在付方御仕法等（天保9，10），徳丸縮御仕入願書付（天保9），屎物御仕入拝借銀願書付（天保10），極貧之者へ取扱米帳（天保5），四ヶ布仕法書下しらべ案（天保10）を含む。
旧書名「能登灰射水郡へ積廻仕法一件等」。

7423　綿商売・批商売・質商売・薬種商売并合薬商売株立運上被仰付候ニ付調理書上一巻　16.70—35
北村与十郎著
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　25cm
北村与平所蔵の写。嘉永3年（1850）表記五品の株立再興に際し，役銀，商売人交名を書上げたもの。能美郡関係，嘉永3・4の書上げ。

7424　産物方・小物成方御土蔵へ御役銀上納仕候口々　16.70—36
手写
13丁　24cm
嘉永5年（1852）射水郡関係のもので産物方の伏木入津口銭，御国廻及び他国売薬出脚等銀取立，また小物成方の放生津浦口銭，八尾行木綿見咎分入札払代銀の半高，射水郡諸産物他国出口銭，浦々地払魚等口銭などの銀高の覚を記載。
旧書名「産物方小物成方諸方御土蔵へ御役銀上納仕候覚書」。

7425　能州開発方上書　16.70—37
25丁　24cm

中川典克旧蔵。安政4年（1857）9月成立。主に奥郡の製塩・山林乱伐の状況について記す。酒株の所在を示す絵図1枚を収録。

7426　産物方御用留　　16.70—38
羽咋村（加藤）義左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　24cm
文久3年(1863)から開始された産物方政策で，口郡産物方御用主付を命ぜられた羽咋村義左衛門の留書。
①文久3・4年　②，③文久4（元治元）年，④元治元・慶応元年　⑤慶応元・2年　⑥慶応2年。

7427　産物方諸事留　　16.70—39
犬丸村啓太郎編
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
北村与平所蔵の写。内題に「御領国産物方御用就被仰付候諸事留」とあり。文久3年（1863～慶応2年（1866）における産物方政策に関するもの。文久3年より諸郡産物方御用主付（能美郡）を命ぜられた犬丸村啓太郎の留書。
①文久3・文久4（元治元）年　②，③文久4（元治元）年　④元治元～慶応2年。

7428　産物方抜書　　16.70—40
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
北村与平所蔵の写。文久3年（1863）～慶応2年（1866）の産物方政策に関するもの。巻頭に25項目の目録があり，次の通り。
①所々産物仕法御聞届并詮義方一巻，所口酒出津，金沢産物会所仕法詮義方，礒天草一巻，瑪瑙石方一巻，畳表方一巻，茶仕法方一巻，縮役等并判押人増方等，同断以来立代人撰御達方，会所懸役人并判押人勤向等被仰渡，所々産物会所取開方ニ付品々伺方，同会所入用之品々出来方伺，他国出口銭取立人之義他出等調理役と改り候義并白印紙受取方入津口銭調理方口銭上納伺
②別小物成銀之名目産物銀と改り候事，口銭高書出方等案文，会所附属方，出津見図り願方，判出来方并押渡方等ニ付品々伺等，縮緬絹紬綿縞子判賃伺方等，地他国出入津方，御指紙月越方，福浦等魚口銭方，苧紬他国出并御口銭取立方等，雑品等出津方，金沢ニ而徳丸縮売捌方。

7429　産物方仕法帳　　16.70—41
121丁　24.5cm
文久3年（1863），元治元年（1864）の各地の産物会所関係の留。

7430　産物方并諸口銭および津方要々留　　16.70—42
手写
55丁　24cm
友貞氏所蔵の写。内容は文久より慶応年間。産物方会所縮り方に関するもので，能州分を中心とする。奥郡に関する御用留。

7431　〔別小物成口銭取立候名目書上帳等〕　　16.70—43
合綴1（20冊・1通）　24.5cm・12×36cm・15.5cm
表題「御小物成方御改作所へ御附属被仰付候ニ付諸郡定散小物成等書上一件」。
①口銭書上帳雛形　②文久3年（1863）別小物成百歩壱等口銭取立候名目書上帳，小松町　③同安宅町　④同湊町　⑤同本吉町　⑥同松任　⑦同宮腰町　⑧同金沢町　⑨同今石動町　⑩同城端　⑪同氷見町　⑫同高岡町　⑬同魚津町　⑭同境町　⑮同所口町　⑯嘉永4年（1851）射水郡四十物他国出口銭・諸魚地払冥加銀産物方請取　⑰嘉永4年産物方御役所へ上納仕候御口銭銀等書上申帳（文久3年口郡）　⑱嘉永4・5年産物方へ上納之口々（文久3年奥郡）　⑲口銭等上納方変更ニ付書上（横帳）　⑳嘉永5年より諸方御土蔵へ上納ニ相成品々(能美郡)　㉑明治元年分高岡町散小物成銀寄帳（同2年)。

7432　越中国別小物成銭調理帳　　16.70—44
商法局著
手写
6丁　24cm
明治2年成立。元治元年（1864）～明治元年（1868）の5カ年分で，商法局より会計寮に宛てたもの。出入口銭，陶器瓦等製造運上銭，魚

口銭，洩物代銭，売薬出脚銭，菅笠口銭，白味銅口銭，損木代銭を書上げる。

7433　要用抜書　16.70—45
285丁　23cm
慶応2年（1866）から明治5年（1872）にかけての生産・流通・貢租関係の法令等を記す。巻頭に次のような69項目の目録を記す。
御管下産物取調理，諸口銭之事，酒造一件，猪谷番人へ申渡方，今江番人へ申渡方，天下一般銭相庭壱両ニ付拾貫文，米穀勝手ニ津留不相成趣，為替会社規則，商法会社規則，為替会社土蔵番人受取方，苧紬一件，喰用牛皮一件，御役革，諸局出納金銭惣て会計局惣括，廻漕方へ従来之町飛脚合併，為替会社等惣棟取帯刀之事，京大坂詰之事，西京詰之事，併年之駒市以来指止之事，江州御支配地通用楮幣指止一件，郵船商船規則ニ付船税之事，海津銅山方御用江州御支配方御用兼務之事，商律改正，商職鑑札等取捌，輸出入品改方通商方管下之事，調理役給料，地税ニ関係之分租税へ引送方，新潟詰伊庭詰役用金之事，商法会社等棟取並旅中一刀帯候様申渡，五ヶ山出来中折紙等向後横堤丁紙屋久兵衛方より納候義，米塩洩津等之分向後通商方にて取啓，新発明之品専売免許之義御達方，士族卒族商売等願会計所へ直ニ可指出様，会計所分課，渡海船役銭取立方，伏木浦詰足軽，松木等御林山租税へ引送方，通商方民政所分課ニ相成候義，庚午閏十月御改革一件，能美郡津波倉村向野領荷物改番所合盛米渡り方一件，諸問屋諸株立廃止一件，職掌書，北海道産物取捌，持高見当為替会社ニおゐて貸付之訳，為替会社高岡所口へ出張聞届，為替会社爾後取締申渡，渡海船七浦ニ不限所持指免候発端，雑税掛へ可引送事務と申条，持高見当為替会社金貸附方，酒枡願心得候大工，里察交名，渡海船等及破損溺死有之届書付戸籍掛りへ可廻事，洩紙過怠法，牛馬売買人進退ニ拠り冥加金区別，為替打金之定，金沢町中稼越中売薬人之事，輸出入品調役，備ヶ所，町人共等扶持方改革，官省事務，為替会社元備金元下ヶ規定，先触調筆方，三府詰等支度料等渡り方，官員免職之節給賜，清濁酒之義施行，合併勧業係并事務，口留所覚，総て税立之品（48，49は欠）。

7434　産物方旧記　16.70—46
前田家編輯方手写　明治年間
143丁　25cm
郡方旧記，御用鑑，筒井触留，筒井旧記，杉木氏小留記等より諸産物に関する触書・覚書を抜き書きしたもの。

7435　御貸附銭証文　16.70—47
清水忠左衛門等著
3丁　24.5cm
明治元年（1868）金沢御門前松原町清水忠左衛門等が蒔絵物類を京都売り捌きのため産物方より借銭した時の請書。

7436　〔産物方証紙〕　16.70—48
手写
23枚　24×9cm
産物方の黒印付用紙。

7437　産物仕入等証書写　16.70—49
手写
51丁　25cm
大聖寺藩関係のもので，文久3年（1863）～明治4年（1871）の産物仕入銀等借用証文の写。

7438　営業税他郡照会　16.70—50
手写
7丁　19cm
早川随勝旧蔵。行商・通運会社に関して他郡からの照会の外，水車・物貨運搬に関する通達，各種営業願・届等を収録。明治13年（1880）鹿島郡役所関係のもの。

7439　石川県勧業博物館創立十年略記　16.70—51
明治16年（1883）刊
29頁　22cm
明治7年（1874）創立の勧業博物館の10年間の沿革と現状を記す。

7440　有栖川宮博物館へ御臨席之次第等　16.70—52
前田家編輯方編
明治年間
27丁　25cm
「有栖川宮博物館へ御臨席之次第」は北陸新報

明治22年6月30日付記事の抄録。他に石川県勧業博物館紀略ノ序（明治26年2月），石川県下宝物記（宮内省臨時全国宝物取調局鑑査掛青山盈敬一行の江沼・能美郡と永光寺における調査状況を記す。北陸新報明治24年6月5・18・19・22日及び北陸自由新聞同年7月13日付の抄録），三州名物往来ノ考（続漸得雑記三一の抜書），能美郡諸営業調査（文化11年諸商売無役之分役立調理帳，天保8年新規株立諸運上并冥加銀指止，嘉永3年能美郡質商人書上申帳）を収録。

特16.71　農　　業

農　業　技　術

7441　耕作私記　　16.71—1
土屋時英（又三郎・義休）著
手写
59丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。自叙に宝永4年(1707)とあり。一之巻年中行事，二之巻新発，田植，中打，穫収，収納蔵入皆済，三之巻苗代，早稲田，表田，物跡田，畠稲，大唐田，四之巻農業考，地利，農業時節，稲拗弁，田畠育，凶年悪作之類，豊年上作之類，五之巻稲之名，田畠蒔植物，農具，雑事，気色之善悪。

7442　耕作私記　　16.71—2
土屋時英著
前田家編輯方手写　明治年間
58丁　23cm
前号と同内容。

7443　私家農業談　　16.71—3
宮永正運（十左衛門）著
前田家編輯方手写　明治年間
97丁　23.5cm
安永7年（1778）成立。宮永正運は越中砺波郡下川崎村の篤農家。目録は，第一巻土地の心得，屎仕込，種子籾，苗代，新発，小割，畷ぬり，植代，植付，大唐植，田に稗植，うせ植，第二巻植田水加減，中打，草修理，刈収，収納蔵入，第三巻稲の名寄，畠稲，麦，小麦，稗，大豆，小豆，粟，黍，蕎麦，胡麻，菜種，大根，燕青，第四巻茄子，瓜，胡瓜，胡蘿蔔，牛(午)蒡，芋，木綿，苧麻，麻，藍，紅華，第五巻茶，菜食，油実，栽木，農食，凶年に飢を助る品，農用，農具，農馬の具，農道具，雑事，農具の図。

7444　年中農事覚書　　16.71—4
手写
14丁　12×18cm
高畠定辟旧蔵。天明5年（1785）11月の日付。水稲作の例。

7445　紅花作り様覚書帳　　16.71—5
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24.5cm
北村与平所蔵の写。天明6年（1786）のもの。紅花の栽培方法と領内で栽培すれば諸国に劣らない量の生産ができるとして，諸国より京都へ登せる駄数とその値段を記す。

7446　耕作大要　　16.71—6
手写
24丁　23cm
高畠(定)辟旧蔵。天明元年（1781）9月成立。融雪後の菜種養修理から年暮までの稲作・雑穀・蔬菜栽培・施肥等の農作業を記す。「近世北陸農業技術史」によれば著者は石川郡福留村の十村六郎左衛門。

7447　農業大綱　　16.71—7
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　23cm
岡部氏所蔵の写。文中に寛政暦云々とあり，化政期頃成立か。三ケ国斗代御定，能州筋三百歩壱反ニ種子籾入用図大凡以下，主に能登地域の稲作技術を記載。農具の図と免を仕立る大法を付け加える。
刊本「金沢大学法文学部論集」史学編22に所収。

7448　菅作之法　　16.71—8
五十嵐小豊次著
前田家編輯方手写　明治年間

7丁　25cm
文化7年(1810)成立。菅の栽培法（苗，植付，肥料，根割，苅干立）を一年目とそれ以降について記し，さらに百歩の入用図りを1年目から5年6年目まで記している。

7449　五十嵐五考并補遺　　16.71—9
五十嵐篤好（小盤次）著　武部敏行補
前田家編輯方手写　明治年間
86丁　23cm
口米・高免・夫銀・着米吉初銀・苗代名義の5項目についての考証を古文書によってなしたもの。天保6年(1835)成立。別名「改作方五考」補遺は弘化3年（1846）武部敏行の手になったもの。

7450　五十嵐五考并補遺　　16.71—10
五十嵐篤好（小盤次）著　武部敏行補
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23cm
前号と同じ。

7451　耕作仕様考　　16.71—11
五十嵐篤好（小盤次）著
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。天保8年（1837）成立。元禄以降の旧記類を交えながら耕作方法を述べる。耕代仕様考伺紙面，御改作御奉行荒起より御出役紙面，古屋様等改作方御相談之御紙面，種籾撰等御紙面，種籾仕抹，種籾池入，種蒔，苗代，荒起，植付。「農政全集」（高岡文化会発行）所収のものと比較すると，植附の後半，用水，虫，屎，刈入，掛干之事を欠く。

7452　開作仕様　　16.71—12
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　24cm
種籾，種池入，苗代，種蒔，苗生出，株かけ，畦の肩おろし，田打，鎌切，鎌万鍬，小割，畦ぬり，むくろもち返し，鋤かやし，屎仕込，田守，畦の物，植代搔，田植，間指，江指，失植，埒打，土虫払，草取，畦の草苅，穂出揃，稲苅，稲干，こき摺の農作業内容と御収納米壱石之御蔵納等入用大概について記す。

7453　作方覚書帳　　16.71—13
田井村次郎吉著
手写
38丁　24cm
富田権六郎旧蔵。巻末に「右加州石川郡田井村十村次郎吉述作，本書写所持之方有之借写之置物也」とあり。稲，大豆，小豆，麻，野菜類等農作物の栽培方法について記す。

7454　養蚕規範　　16.71—14
石黒千尋著
前田家編輯方手写　明治年間
53丁　23.5cm
中黒善全所蔵の写。養蚕技術書。石黒千尋は幕末加賀藩国学者。

農　　産

7455　越中能州葉たばこ口銭銀取立御算用帳　16.71—15
内嶋村佐次右衛門等著
手写
5丁　24cm
宝暦6年（1756）分の算用帳。宝暦8年4月26日付，内嶋村佐次右衛門・大滝村太左衛門・金屋本江村長左衛門より御算用場宛。

7456　養蚕方御触抜書　　16.71—16
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。慶応3年（1867）から明治3年（1870）にいたる間の藩の養蚕奨励の政策を示す。慶応3年，改作奉行が桑畑を未進地とすることによって桑畑の造成を励めようとし，その旨諸郡御扶持人，組裁許中に触れる。明治元年奥郡では，桑植増方の棟取が決められており藩でも林省三等3人が養蚕御取開主付に仰付けられる。この年，養蚕方が設置されており，その下で以後7ヶ年の間に8郡で千万歩の桑畑の造成が計画され，初年度は百万歩の植付面積を予定している。さらに，桑畑を開くための仕入銭を利足付で貸すことにしている。後，商法局付属の養蚕方になるが，明治2年，奥郡におい

てはすでに113万歩余が桑植付未進地として許可されていることが知られる。こうした養蚕方を中心とする触，養蚕方への御扶持人，救許中からの上申等をまとめたものである。

7457 〔桑田開拓之結社願并規則〕　16.71—17
明治6年（1873）刊
15丁　23.5cm
明治6年（1873）旧金沢藩債消却のため貫属給禄十分の一を指出していた資金で桑田開拓会社を組織することになった時の結社願・結社規則・結社大意并事務章程・入費并利得概略表・家禄拾分一元利積金略表および石川県権令内田政風の結社許可告示。布達集の抜粋。
旧書名「桑田開拓会社定款」。

7458 〔御種人参培養方主意書〕　16.71—18
草神邸編
明治初年　刊
1通　18cm
人参培養社中結成に付，会計の大概など主意説明書。

7459 特殊事業誌原稿　16.71—19
9丁　24cm
江沼郡の月津・三木・西谷・勅使・庄の各村と石川郡の上金石町・崎浦村につき，日露戦争中の畑作物の改良，桑園の増植等特殊事業の実施状況について記す。未完原稿，明治末年成立のもの。

畜　　産

7460 〔新川郡へ下置かれ候種馬之子其外駒撰書分帳〕　16.71—20
金子次郎兵衛等著
手写
5丁　24cm
中川典克旧蔵。享保7年（1722）2月の日付。馬の毛色，親の名と飼主の名前，村名が整理されている。原題「松田左兵衛・斎藤市丞支配新川郡之内へ被下置候種馬之子并其外駒共去年書上候内此度相撰可申分撰申ニ不及分且又衆議次第相撰可申分書分之帳」。

7461 耕作馬御仕入御仕法書上帳　16.71—21
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
真館與四郎所蔵の写。内容は天保10年（1839）のもので，耕作馬仕入法の内容と口郡における亥年（天保10年）から8か年間の貸付目算，組毎の貸付希望数を書上げる。

7462 砺波郡開作馬一件　16.71—22
富田某編
9丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。表題は「砺波郡開作馬老件御勝手方示談物」。天保13年（1842）開作馬減少のため砺波郡十村から出された出生馬仕法書上申帳とその詮議のいきさつを記す。

7463 駒方御仕法等留　16.71—23
手写
37丁　24cm
表紙に「勧業課ヨリ来ル原本也」とあり。勧業課旧蔵か。博労御定書，御郡博労詮詞之条々，馬市仕法書，女馬并牛市仕法書等，安政元年（1854）～慶応3年（1867）の触書等の留。

7464 奥州馬之様子留　16.71—24
加納源太郎著
手写
22丁　24cm
横山政和旧蔵。奥州筋へ女馬買上げのため町博労が「2名」派遣された時それに同道した横目足軽加納源太郎の報告書。奥州三春・出羽最上付近の産馬の状況等を記す。卯4月20日付。卯4月は安政2年（1855）か。

7465 種懸生産方仕法一件留　16.71—25
手写
7丁　23.5cm
渡辺庸旧蔵。馬の増産についての仕法目論。巳12月付水原少属・中村権少属より学校宛。巳12月は明治2年（1869）。

7466 壬子雑記之抄　16.71—26
前田家編輯方手写　明治年間
15丁　25cm

博労，馬に関する記事を壬子雑記から抜粋したもの。

7467　〔野々市駒市ニ付郡奉行達書〕　16.71—27
手写
巻子1　16cm
早川随勝旧蔵。野々市駒市に関する加能御郡奉行の駒市開催期間の達2通。卯2月，卯3月付

7468　死馬の説　16.71—28
前田家編輯方編
明治年間
2丁　24cm
死馬の皮や骨の用途について記す。その全ての部分が役立つ事を力説。幕末以降の著か。当時の化学知識を示す。

7469　能登産馬誌　16.71—29
前田家編輯方手写　明治年間
38丁　25cm
明治32年(1899)3月14～25日北国新聞掲載の北陸畜産研究所某氏稿の写。第一期起源及旧蹟，第二期藩制時代に分けて記すが，藩制時代に関しては，種馬下渡法，蕃殖並耕作馬匹貸下法，馬籍及馬匹点検法，優等産駒買上法，馬市法，博労取締，捨馬禁止，産馬地状況について記し，末尾に著名馬種として，虎松馬，梅木馬，鈴の馬，高田馬をあげる。

7470　能登産馬史　16.71—30
6丁　25cm
前田家編輯方による草稿（後欠）。中世以来の能登産馬の沿革について記すが，とくに，加賀藩の産馬保護，統制政策，能登各地の産馬の特質について触れる。

特16.72　林　　業

植　付・伐　採

7471　飛騨山より伐出候材木之儀ニ付紙面之写　16.72—1
御勝手方編
自筆
6丁　24.5cm
宇野富良旧蔵。表紙に御勝手方とある。享保5年（1720），飛州北方山より伐出した運上の材木が越中の高岡木町と大門川原にあり，それを藩が如来寺など2寺の再興のための用材として買上げるに際しての一連の書類。

7472　〔石川・河北両郡用水方材木代銭并運賃等一件〕　16.72—2
仮綴1（25通）　12～24cm
慶応2年（1866）～明治3年（1870）。藩が南部等より買上げた石川・河北両郡用水方材木に関するもので，両郡御扶持人十村が運賃等を含めて値段を決定し，払下げ代金を取集めて上納したもの。
①年代不明　材木代銀書上
②明治2年6月辰年渡り橡代銭取極めたきに付伺（石川・河北郡御扶持人より勧農局宛）
③明治3年8月石川・河北郡用水方材木代銭分納願（差出同上より租税局宛）
④慶応3年12月用水方材木出入等書算に付給銀支払い伺（差出同上）
⑤慶応2年12月　〃　（　〃　）
⑥明治元年7月　〃　（石川・河北御扶持人より御改作所宛）
⑦慶応3年7月　〃　（石川・河北御扶持人より）
⑧明治元年12月石川・河北郡用水方材木代銭猶予願（瀬尾孫左衛門等十村7名より御改作所宛）
⑨明治元年11月橡代銭取極めたきに付伺（石川・河北郡御扶持人より御郡所宛）
⑩明治元年12月用水方材木出入等書算に付給銀支払伺（差出同上より御改作所宛）
⑪年代不明　材木挺数書上
⑫慶応3年5月寅年石川・河北郡用水方材木南部にて御買上分諸入用調理報告并代銀取極めたきに付伺（石川・河北郡御扶持人より御改作所宛）
⑬慶応3年5月石川・河北郡用水方材木代銀上納分郡別書上（　〃　）
⑭慶応3年3月石川・河北郡用水方材木預り主附代人五名任命に付伺（　〃　）

⑮明治元年12月卯年分石川・河北郡用水方材木銭の内中勘銭并に楯代銭請取書（改作奉行より瀬尾孫左衛門・新田市十郎宛）
⑯年代不明　材木挺数書上（後欠）
⑰慶応２年８月向粟崎村本根布屋喜兵衛等草槇角物運賃書差出すに付達書（瀬尾孫左衛門等十村４名より御改作御奉行所宛）
⑱慶応３年９月南部より買上材木運賃銀請取書（改作奉行より喜多市十郎，広瀬太兵衛宛）
⑲慶応３年７月石川・河北郡用水方材木代銀請取書（〃）
⑳慶応３年９月　〃　（〃）
㉑明治２年12月石川・河北郡用水方材木代銀卯年分本勘銭請取書（租税局より瀬尾孫左衛門・木沢源五郎宛）
㉒明治３年８月石川・河北郡用水方材木代銭中勘并に楯代銭請取書（〃）
㉓明治２年６月去辰年石川・河北郡用水方材木南部にて御買揚分諸入用調理報告并代銭取極めたきに付伺（石川・河北郡御扶持人より勧農局宛）
㉔慶応３年８月向粟崎村本根布屋喜兵衛等草槇角物運賃書差出すに付達書（広瀬太兵衛等十村７名より御改作御奉行所宛）
㉕明治元年２月石川・河北郡用水方材木南部にて御買上分諸入用費調理報告并代銭取極めたきに付伺（石川・河北郡御扶持人より御改作所宛）。
旧書名「材木代銭並運賃等願書一綴」。

7473　石動山伐木願之絵図　16.72—3
絵図１枚　48×66.5cm
石動山下蜿ヶ原村百姓が垣根の松・杉・栗の伐り渡しを願出た時の絵図。

7474　加越能三州漆掻取事　16.72—4
前田家編輯方編
明治年間
11丁　24.5cm
国事雑抄，真館留帳からの抜書。国事雑抄からの分は，宝暦４年（1754）の浅野川川除町箕屋八兵衛の漆掻子棟取願。真館留帳からの分は，寛政12年（1800）の３通の文書で，いずれも漆が越前等の他国の者によって，山々で直接買い集められ，金沢では払底，高値となって営業に差支えると困難を訴え，急速な締方を要望する，塗師・漆商売人より町奉行所への願書

7475　漆苗蒔立雑用書上申帳　16.72—5
前田家編輯方手写　明治年間
５丁　24.5cm
能美郡より文化13年（1816）御改作御奉行所に宛てたものの写。漆種の蒔立を仰せ付けられた能美郡の御館村源右衛門などが，藩に雑用銀の支給を願うに際してその内訳を書上げる。

7476　漆苗并楮等一件三種　16.72—6
前田家編輯方手写　明治年間
98丁　23cm
真館氏所蔵の写。原題「漆苗并楮等一件」。「漆苗植付方等仕法書」（嘉永３年），「漆苗植付方并漆掻等仕法方一件」（嘉永３年），「漆木植付方等仕法帳」（嘉永４年），「楮方都而一件」（嘉永５年）を収録。

7477　櫨苗植付方　16.72—7
前田家編輯方手写　明治年間
９丁　25cm
寅５月櫨苗植付方に付十村からの書上げに対する詮議の内容と，同月小川屋与兵衛等３人が改作奉行に出した願書を収録。文化以降のもの。

7478　口奥〔両郡〕御林伐木等一件　16.72—8
前田家編輯方手写　明治年間
130丁　23cm
加藤又八郎所蔵の写。原題「口奥御林伐木等一件留」。「口奥御林伐木并御林薮仕立方等一件留」（慶応３年４月）と「羽咋郡直海村御林山伐木之分御払代銀等指引仕書上申帳」（慶応４年４月）からなる。慶応３年（1867）４月改作奉行より北村吉左衛門，羽咋村義左衛門が能州奥口共伐木方御用，御林薮仕立方主附に任命されたが，その在職中の留帳。内容年代は慶応２年から慶応４年９月まで。

7479　〔松木枝葉取下し達書〕　16.72—9
手写
１通　17cm

松木目廻四尺長四間の積をもって末木枝葉の下し方の達書。

7480　江沼郡之内十八箇村松山凡歩数并概略之画図　16.72—10

手写

合綴1（28丁・絵図18枚）　24cm・24×30cm

松山の字名，歩数，位置を示す。18か村は大聖寺藩領の大菅波，小菅波，作見，富塚，尾中，片山津，黒崎，高尾，深田，小塩辻，宮地，小塩，塩浜，野田，極楽寺，岡，敷地，山田。

山　　論

7481　〔石動山関係書類綴〕　16.72—11

手写

13冊　25cm

①石動山と麓村之山出入初発書物留　寛永21年（1644）～延宝2年（1674）

②石動山と二宮村山出入りの留書　延宝2・3年（1674・75）

③石動山と蟻ケ原村山論之儀ニ付云々　寛政6年（1794）

④石動山論地掛り村々当夏遂見分候品等書記申帳　寛政7年（1795）

⑤石動山神職鈴木辰次明後廿五日東京出立云々　明治3年（1870）

⑥石動山と近辺村落の論争一件　寛政5年（1793）～9年（1797）

⑦石動山衆徒中より山論畏有之旨書付出候一巻　宝永2年（1705）

⑧石動山出入一巻　享保3年（1718）

⑨石動山論所一巻留　寛政6年（1794）

⑩石動山論所一件云々　寛政9年（1797）

⑪二宮村等石動山へ対シ論書一巻　元禄11年（1698）

⑫石動山論所一巻　寛文11年（1671）

⑬石動山と能州越中麓村々論山初発等夫々留帳　寛文11年（1671）。

7482　〔石動山領山林伐荒しに付衆徒訴状〕　16.72—12

手写

1通　25cm

寛文11年（1671），村々により石動山領の山林伐荒を衆徒が触頭明王院等へ訴えたものを，触頭が寺社奉行へ取り次いだ文書の写し。

旧書名「石動山々境ニ付口上書」。

7483　〔石動山々境ニ付口上書〕　16.72—13

二宮村肝煎等著

手写

1通　24cm

寛文11年（1671），石動山山境について相違ないことを二宮村，多根村，武部村より郡奉行へ書き上げた連判書の写。

7484　〔石動山と多根村山境ニ付口上書〕　16.72—14

多根村肝煎等著

自筆　寛文11年（1671）

1通　24cm

石動山と多根村の山境について絵図面に相違のない旨を郡奉行へ提出したものの写。

旧書名「石動山々境ニ付口上書」。

7485　〔石動山麓村々七木伐取論争一巻〕　16.72—15

手写

6丁・1通　24.5cm

延宝2年（1674）石動山と二宮村の七木伐取論争についての関係文書をまとめたもの。一紙文書は寛文11年（1671）の山境論争の文書の一部で，石動山麓の十村名と山麓七口を書上げる。

旧書名「石動山論所一巻」。

7486　〔石動山々境相論ニ付達書〕　16.72—16

岡嶋市郎兵衛等著

手写

1通　24cm

天平寺山目代宛。延宝3年（1675）。石動山と二宮村との山堺相論について藩より石動山への申渡書の写。

7487　〔石動山麓村々山境論所一巻〕　16.72—17

武部村弥左衛門・芹川村兵衛著

自筆　元禄10年（1697）

2通　25cm　袋入

石動山と麓村々の山境争論について算用場からの申渡しに対し，十村より郡奉行へ提出された請書。

旧書名「石動山と麓村々と山境諍一巻」。

7488　〔石動山論所ニ付口上書〕　16.72—18
武部村弥左衛門著
手写
1通　23cm
宝永2年（1705），石動山から多根村を訴えた論地箇所を十村弥左衛門が多用を理由に未だ見分していないことを報告する。

7489　〔石動山山境論所ニ付書翰〕　16.72—19
伊藤平右衛門・永原左京著
1通　17cm
石動山と多根村の山境争論について寺社奉行より郡奉行への沙汰書。前号に関し十村弥左衛門の処置を詰責する。宝永2年（1705）か。

7490　石動山争議一件　16.72—20
13袋（~~3~~ 1冊・~~132~~ 137通 ~~5枚~~）15.5～25cm 箱入
1，石動山争議一件ニ付二宮村肝煎等口上書等（元禄11年（1698）12通　23cm　仮綴）
①二宮村・多根村・武部村から公事場奉行宛の口上書　②公事場奉行所の留書　③山境吟味ニ付達
2，石動山境界相論ニ付公事場奉行覚書（1通15cm）享保3年（1718）頃のものか。
3，二宮村役人請書，享保3年（1718）1通
4，石動山と多根村論地一件，元文3～4年（1738～9）4通　24.5cm　仮綴
①論地における死骸の預置について，多根村役人より十村を通じて能州郡奉行への口上書写　②論地について多根村役人より十村を通じて能州郡奉行への口上書　③石動山より寺社奉行への口上書写，④②の写し
5，二宮村と石動山へ之道筋，石動山と二宮村と論所一件，寛延4年(1751)　4通　24.5cm　仮綴
①石動山往還路の普請について能州郡奉行より十村武部跡組才許中島村与一への達書　②，③中島村与一より能州郡奉行宛　④二宮村役人より十村を通じて能州郡奉行宛の口上書
6，論所ニ猪鹿入候ニ付下刈一件，宝暦7年（1757）　3通　24.5cm　仮綴
①石動山より寺社奉行所宛の下刈告発状写
②，③石動山より寺社奉行所宛の訴状写
7，石動山天平寺祠堂銀借用返済一件等，寛政3～4年（1791～92）　5通　24.5cm　仮綴
①寺社奉行菊地大学より同役楫喜左衛門宛書状写　②菊地大学より算用場宛書状写　③高田村権六などより能州郡奉行宛に，石動山往還道普請に必要な道具及びその代金等を書き上げたもの　④，⑤石動山より寺社奉行所へ祠堂銀返済について訴状
8，石動山論地蟻ヶ原村百姓畑菜種苅取一件，寛政7年（1795）　2通　24cm　仮綴
①十村より郡奉行及び改作奉行宛の報告書写　②蟻ヶ原村役人より十村を通じて郡奉行及び改作奉行へ菜種苅取を願い出た写
9，石動山論地蟻ヶ原村百姓伐木一件，寛政7～8年（1795～96）4通と1冊　25cm　仮綴
①寺社奉行菊地大学より公事場奉行前田大炊宛書状の写　②石動山太宮坊看司道任坊より寺社奉行所への口上書写　③石動山天平寺より寺社奉行所への口上書写　④猪鹿除垣竹拝領に付十村武部村弥左衛門より寺社奉行宛申上状，蟻ヶ原村からの訴状を添付　⑤天平寺より寺社奉行所宛の百姓伐木並びに焼畑の目録（冊子）
10，蟻ヶ原垣根之木に付今度捌一件，寛政5～8年（1793～96）　7通　24.5cm　仮綴
①寺社奉行両人より算用場宛書状写（前欠）　②十村武部村弥左衛門より郡奉行所・改作奉行所宛，菜種苅取について蟻ヶ原村の口上書。③寺社奉行神保・楫両人より算用場宛，百姓古屋敷跡の垣根の木伐り取りについての覚書写　④十村より両寺社奉行宛，垣根の木についての口上書　⑤，⑥，⑦両寺社奉行より算用場宛，垣根の木についての覚書
11，石動山論所一件ニ付寺社奉行中川某書状（1通　15.5cm）
12，石動山山境争論由来（1通　16cm）仮綴
13，①石動山山境争論ニ付能州郡奉行今井源六郎・生駒伝助書状（1通　23.5cm）元禄10年（1697）か。
②石動山論山ニ付能州郡奉行楫喜左衛門等書状，算用場宛2通，長九郎左衛門宛1通（3通　16cm）
③蟻ヶ原村・二宮村・多根村田畠論山ニ付十

村武部村弥左衛門書状，能州郡奉行宛（1通 15.5cm）
④石動山一件ニ付某書状（1通15.5cm）
⑤石動山天平寺と麓村々と先年以来争論一件ニ付能州郡奉行梶喜左衛門等書状，算用場宛（1通 15.5cm）
⑥石動山山境争論ニ付来歴覚（1通 15.5cm）
⑦慶安四年以来石動山論所関係書類目録（1通 15cm）
⑧石動山神領地定境ニ付天平寺口達書写，寺社奉行宛（2通 24.5cm）
⑨石動山山境争論ニ付能州郡奉行等書状，長九郎左衛門宛，寛政7年(1795)（1通 15.5cm）
⑩石動山天平寺と麓村々と先年以来争論一件，算用場宛，⑪と同じ（1通 16cm）
⑪石動山天平寺と麓村々と先年以来争論一件，能州郡奉行梶喜左衛門等より算用場宛，寛政7年(1795)（1通 16cm）
⑫石動山出入一件ニ付寺社奉行前田内蔵太孝親書状，算用場奉行中川四郎左衛門宛，寛政7年（1795）（1通 16cm）
⑬石動山大宮坊願書写，寺社奉行中川八郎右衛門等3名宛，天明4年(1784)（1通 24cm）
⑭石動山麓村々十村書上並ニ石動山登山口書上（1通 24cm）
⑮石動山と山出入ニ付御郡廻生駒伝助等書状，十村武部村弥左衛門宛（1通 23.5cm）
⑯石動山と多根村と論所ニ付十村武部村弥左衛門書状（1通 23cm）
⑰石動山と二宮村新開論地ニ付絵図確認書享保3年（1718）（2通 24cm）
⑱多根村と石動山と諍論ニ付石動山口上書写（1通 24cm）
⑲石動山下馬札相建候儀に付武部村弥左衛門書状，能州郡奉行宛，享保17年（1732）（袋入 1通 24cm）
⑳茂兵衛居屋敷跡なしの木ニ付蟻ケ原村肝煎次郎兵衛歎願書（十村本江村惣助宛）（能州郡奉行神保縫殿右衛門等二名宛）（1通 15.5cm）
㉑蟻ケ原村御貸米ニ付十村本江村惣助礼状，能州郡奉行神保縫殿右衛門等2名宛（1通 15.5cm）
㉒蟻ケ原村竹木并萱芒類伐苅ニ付本江村惣助願書，能州郡奉行神保縫殿右衛門宛（1通 15.5cm）
㉓芹川村荒山城跡柴苅ニ付同村肝煎中屋等口上書，芹川先組才許十村鵜川村政右衛門奥書，能州郡奉行神保縫殿右衛門宛，寛政10年（1798）か（1通 24cm）
㉔石動山神領定境等ニ付能州郡奉行神保縫殿右衛門等書付，寛政12年（1800）（2通 24cm）
㉕石動山論山ニ付二宮村肝煎圓右衛門等口上書，武部先組才許本江村惣助奥書，能州郡奉行神保縫殿右衛門宛，寛政10年（1798）（1通 24.5cm）
㉖能州酒井村御林山枯松永光寺指図にて伐取ニ付酒井村肝煎与三兵衛等口上書，芹川先組才許鵜川村政右衛門等奥書，能州郡奉行神保縫殿右衛門等宛，寛政10年（1798）（1通 24cm）
㉗石動山奥院槻大木ニ付芹川村兵衛等書状写（折紙1通 24.5cm）
㉘石動山山境争論ニ付寺社奉行伊藤平右衛門書状，御郡廻今井源六郎等宛（2通 17cm）
㉙石動山奥院槻大木ニ付御郡廻生駒伝助等口上書写（1通 17cm）
㉚石動山山境論地ニ付寺社奉行伊藤平右衛門等書状，御郡廻生駒伝助等宛（1通 17cm）
㉛石動山論地縮方ニ付二宮村肝煎匡左衛門等請願書，御郡廻り生駒伝助等宛，元禄16年（1703）（1通 23cm）
㉜蟻ケ原村領畑菜種盗取ニ付蟻ケ原村肝煎次郎兵衛等口上書写，武部村弥左衛門奥書，能州郡奉行神保縫殿右衛門等宛（1通 24cm）
㉝石動山論地伐木ニ付二宮村肝煎彦兵衛等口上書，同武部村肝煎与右衛門等口上書，武部村弥三次添書，能州郡奉行不破次郎太夫等宛。宝暦7年（1757）（1通 24cm）
㉞蟻ケ原村領畑菜種ニ付石動山天平寺使僧海旭等口上書写，能州郡奉行神保縫殿右衛門等宛（1通 24cm）
㉟石動山衆徒中耕作山稼妨申ニ付蟻ケ原村肝煎次郎兵衛等口上書写，武部村弥左衛門奥

書，能州郡奉行神保縫殿右衛門等宛。寛政7年（1795）（2通　24cm）

㊱蟻ヶ原村ニ作置候菜種刈取ニ付石動山天平寺使僧大雲等口上書写，能州郡奉行神保縫殿右衛門宛（1通　24cm）

㊲石動山使僧菜種盗取ニ付石動山衆徒良智坊口上書写，能州郡奉行神保縫殿右衛門等宛（1通　24cm）

㊳石動山論地伐木ニ付書付写，㉝の写，端裏に「石動論地伐木」とある（1通　24.5cm）

㊴石動山山境論地縮方ニ付寺社奉行伊藤平右衛門等口達書写，御郡廻り生駒伝助等奥書，後欠（1通　24cm）

㊵石動山山境ニ付能州郡廻生駒伝助等書状，寺社奉行伊藤平右衛門宛（1通　16cm）

㊶石動山山境ニ付能州郡廻生駒伝助等書付，寺社奉行伊藤平右衛門宛（1通　24cm）

㊷石動山と射水郡角間村と論所山々伐木ニ付石動山大宮坊看司東林院等覚書，寺社奉行所宛（1通　24cm）

㊸多根村紋兵衛盗伐候朴木等ニ付能州郡奉行村井安左衛門等書付写，寺社奉行本多主水宛，元文4年（1739）のものか（1通　24.5cm）

㊹石動山論所ニ付能州郡奉行不破忠大夫等書付写，寺社奉行山崎庄兵衛宛（1通　24.5cm）

㊺石動山神前戸帳盗取ニ付能州御郡廻生駒伝助等書付写，公事場奉行宛（1通　23.5cm）

㊻石動山神前戸帳盗取一件。元禄9年(1696)（仮綴　14通　24cm）

㊼石動山山地新開願ニ付石動山神職佐藤敬三等三名歎願書，社奉方宛，明治3年のものか，（1通　24cm），端裏の付紙に「石動山一件，追て土地反別御決議之上何欤可詮義之事。租税僉議可相渡候」とある

㊽石動山神前戸帳盗取一件。元禄9年(1696)（仮綴　11通　24.5cm）

㊾石動山境内地伐木の訴えに付蟻ヶ原村肝煎次郎兵衛等口上書，十村武部村弥左衛門宛（1通　24cm），端裏の付紙に「蟻ヶ原村役人口上書」とある

㊿蟻ヶ原村ヨリ里方へ売木仕義ニ付二宮村肝煎彦兵衛等口上書，十村武部村弥左衛門宛（1通　24.5cm）　㊾に関連するもの，端裏の付紙に「蟻ヶ原役人口上書五通之内，二宮村役人口上書，丑四月五日」とある

(51)蟻ヶ原村より木を買候に付久乃木村文蔵口上書，十村武部村弥左衛門宛（2通　24cm）　㊾に関連するもの，端裏の付紙にそれぞれ「蟻ヶ原役人口上書五通之内，久乃木村文蔵口上書，丑四月十日」「蟻ヶ原村役人口上書五通之内，久乃木村文蔵口上書　丑五月廿八日」とある

(52)石動山境内焼畑ニ付蟻ヶ原村肝煎次郎兵衛等口上書，十村武部村弥左衛門宛（1通　24.5cm），端裏の付紙に「蟻ヶ原村役人口上書」とある

(53)石動山論地縮方ニ付二宮村・多根村・武部村等村役人請状，御郡廻今井源六郎等宛。元禄14年（1通　23.5cm）

(54)石動山論地林之下苅ニ付越中射水郡奉行千秋三郎大夫等書状写，算用場宛（1通　16cm），端裏に「石動山論所林伐候儀　千秋三郎大夫等紙面之写」とある

(55)多根村紋兵衛盗伐候朴木ニ付能州郡奉行村井安左衛門等達状，武部村弥左衛門宛（1通　25cm）

(56)多根村紋兵衛朴木盗伐ニ付能州郡奉行村井安左衛門等書状。伊藤内膳宛（1通　25cm）

(57)天平寺退治の砌寺屋敷跡等の義ニ付覚書（1通　16cm）　端裏に「寛政十三年武部村四郎右衛門へ為致内見候処，此覚書為見候也」とある。

(58)石動山論地山境縮方ニ付石動山寺役波着寺口上書写，寺社奉行竹田五郎右衛門殿宛（1通　16cm）

(59)射水郡村々と石動山と論所に付覚書（1通　24cm）

(60)石動山論地下苅ニ付寺社奉行前田主殿助書状写（射水郡奉行千秋三郎大夫等宛）及び二宮村と石動山と論所ニ付横山中務・野村勘兵衛書状写（永原左京等三名宛）（2通　16cm）

(61)石動山知識米御預所村々取扱ニ付十村武部村弥兵衛廻状写，武部村弥左衛門等四名宛（1通　24.5cm）

(62)石動山知識回施入米指出ニ付寺社奉行横山又五郎添状写，算用場宛（1通　16cm）

㊸石動山知識米・施入米ニ付能州郡奉行進士斎宮・槻尾左膳書状，算用場宛（1通　16.5cm）
㊹石動山大宮坊看司東林院知識回之義ニ付能州郡奉行進士斎宮・槻尾左膳書状，能州口郡十村中宛（1通　17cm）
㊺石動山論地ニ付付箋・書状断簡等（5通　24cm）。

7491　〔利波郡浅地村神明田調書〕　16.72—21
手写
1通　24cm
浅地村神領（7反）拝領の御印について，寛文4年（1664）勢州山田御師二見大夫代官二見三之丞及び元禄5年（1692）同松下助右衛門よりの算用場宛答書。

7492　〔石動山盗木一件ニ付書翰〕　16.72—22
本多主水著
手写
1通　17cm
寺社奉行より能州郡奉行宛の書簡の写。内容は享保16年（1731）～寛保3年（1743）の間のこと。
旧書名「石動山盗木ニ付書翰」。

7493　〔石動山論所死人請取方願〕　16.72—23
多根村肝煎武右衛門等著
自筆　元文4年（1739）
1通　24cm
能州郡奉行不破忠大夫及び村井安左衛門宛。石動山と多根村の論所で発見された遺骸を預っている多根村より，武部村の十村弥左衛門を通じて郡奉行へ訴えたもの。

7494　〔石動山関係書類披見覚〕　16.72—24
槻喜左衛門・神保縫殿右衛門著
寛政7年（1795）
2通　16cm
算用場から提出された書類の請取。原本と写。
旧書名「石動山論所関係書類覚」・「石動山関係提出書目覚」。

7495　〔石動山より菜種苅取に異論申すにつき達書〕　16.72—25
神保縫殿右衛門等著
3通　16cm
寛政7年（1795）のものか。神保等4名の算用場宛の文書，及びその下書。そして算用場のそれに対する返答よりなる。内容は，能州蟻ヶ原村の百姓が作り置いた菜種を苅入れようとしたところ石動山と争いになり難儀しているので，寺社奉行中から石動山に申付けるようにしてほしいというもの。
旧書名「石動山菜種畑村ニ付歎願之達書」。

7496　〔松木盗伐に付蟻ヶ原村肝煎断書〕　16.72—26
1通　24.5cm
蟻ヶ原村肝煎等より武部村弥左衛門宛。弥左衛門より神保縫殿右衛門・槻喜左衛門宛の奥書を付す。神保・槻は寛政3～9年（1791～7）に能州郡奉行として同役であった。
旧書名「蟻ヶ原村より盗伐などに付断書」。

7497　石動山論所一件　16.72—27
手写
4冊　23cm
①
○例言と目録
○石動山神領地由緒等書出候帳面，文化3年（1806）其外微妙院様御条目等
○石動山衆徒へ公事場ヨリ相尋候趣ケ条書控
○右尋之答并石動山縁起暨右縁起之添状等写帳　文化3年（1806）
○公事場ヨリ再往衆徒へ尋之ケ条書控。文化3年（1806）
○右答書帳　文化4年（1807）
○右答方ニ付公事場より寺社奉行へ相尋候趣有之紙面之控
○右紙面ニ付明和九年御室御所より御当家様へ奉書到来其御返翰之写等公事場へ指越候紙面
○御室御所より御当家様へ之奉書并其御返翰之写等帳面
②
○明和九年綸旨有之節，京都詰人を以御室御所役人へ寺社奉行ヨリ申入置候趣之留書写
○右綸旨有之節奉書到来御返翰も被為在候得者

公事場最初之詮議方品違可申哉と寺社奉行より申越候紙面
○右綸旨有之節京都所司代ヨリ同所詰人へ之口達書，并綸旨之写，御室御所ヨリ衆徒へ之下文，并宝永元年寺社所ヨリ石動山へ尋之趣有之節之答書写等
○宝永元年之答書抜迄ニ而ハ不相分，并慶安年中境内地詰之様子書出候と申義尋ニ遣候寺社奉行へ之紙面控
○石動山堂寺屋鋪地詰帳，慶安2年（1649）のものの写し
○明和九年御室御所より御当家様へ御頼之義ハ論所ニ抱リ候訳ニ而ハ無之趣衆徒へ可申示旨寺社奉行へ遣候紙面之控
○右紙面ニ付衆徒ヨリ指上候答書等帳面
○右答方ニ付重て公事場ヨリ寺社奉行を以衆徒へ申示候紙面之控
○右示方答延引ニ付公事場へ可召出旨申遣候紙面控
③
○召出候之義申渡候上ニて衆徒ヨリ指出候答書帳
○衆徒之内山目代召出候節之口上書
○衆徒之内三ヶ寺召出候節之口上書
○右四ヶ寺於公事場会得之趣，帰山之上外衆徒へ申談候処，外衆徒会得之否難申旨之書付
○右会得之儀難申と衆徒書付出候節不在合者共重て同様之書付
○右ニ付申示方寺社奉行へ之紙面控
○右ニ付衆徒答方帳
○衆徒六ヶ寺召出候節之口上書
○右六ヶ寺会得之趣申ニ付牢揚屋へ入候義者指宥預遣之趣いさゐ寺社奉行へ之紙面控
○衆徒一統公事場理解会得之請書出候義寺社奉行ヨリ申越候紙面
④
○衆徒一統会得之趣受書調出候之処，文面不宜ニ付調替之儀寺社奉行より申渡候へ共，先会得之義公事場へ為承知，右受書其まゝ指越候故写取本紙ハ寺社奉行へ調替ニ遣候，右最初之受書写
○衆徒より寺社奉行へ指出候口達書
○右口達書ニ付公事場より寺社奉行へ申遣候紙面之控并衆徒之請書継立
○公事場理解衆徒一統得と会得仕候旨受書
○十村共へ論所内しらべ申付候節衆徒主付相極候て罷出候様申渡候処其儀ハ指支候間替々罷出度旨願書
○御室御前ヨリ此度寺社奉行并衆徒へ到来之芳札写
○右御所へ衆徒より之御受并寺社奉行より之返書写。
○論所糺方之書キ物御算用場奉行へ遣百姓之方ニも不肖いたし論所分方納得いたさせ候様申遣候上右奉行之返書
○寛文年中論所之内石動山へ上り口七口之所丁数しらへ置候書キ物を以此度十村共へ右道之丁数為改候処相しらへ指出候書き物
○論所双方へ分ヶ方之義改作奉行ヨリ内分十村へ申談為見図候処十村より指出候紙面
○村方之者共論所分方公事場裁判之通可畏旨之書付并御算用場奉行紙面
○論所之内石動山へ上り候口々之丁数しらへ候節衆徒ヨリ指出候帳面，但旧誌之義も調有之候
○論所分ヶ方之義調候絵図
○右分ヶ方衆徒一統承知仕て奉得其意旨請書帳面并寺社奉行紙面
○村方一統右分ヶ方承知仕難有奉存候旨書付其外御算用場奉行等之紙面
外に大宮坊住持を御門主と唱候義ニ付糺方之帳面。

7498　石動山惣村々争論一件　16.72—28
前田家編輯方手写　明治年間
97丁　23cm
真館氏所蔵の写。「石動山論所一件」の抄録。

7499　〔石動山伐木ニ付書翰〕　16.72—29
加納村兵左衛門著
自筆
1通　29.5cm
11月付兵左衛門の芹川村兵衛・武部村弥左衛門宛の書翰。石動山奥院はちたい山の大槻の木を角間村の者が末寺の用材に伐ったとの届が石動山より兵左衛門の所へ来たが，角間村は否定している。石動山から構えの木だから伐らないよう縮を角間村肝煎に申しつけたと述べる。

7500　〔石動山・二宮村論所林下刈ニ付届書〕　16.72—30
大音七左衛門著
1通　16cm
4月付，大音七左衛門の算用場宛書簡。石動山と二宮村の論所林の内に猪鹿がふえたために，衆徒と十村見分の上で下刈をせよとの命を，石動山が納得せず，更には，郡方が論所の木を伐ったと訴えている。そうした事情を算用場に報告し，詮議を要請したもの。
旧書名「石動山山林下刈ニ付達書」。

7501　〔酒井村御林山論所木材伐取之件〕　16.72—31
鵜川村政右衛門著
自筆　寛政10年（1798）
巻子1　24cm
宝暦年中よりの酒井村と永光寺の懸合の場所である字はた谷御林山で，永光寺門前の者が立枯松を伐取った事についての，芹川先組才許である政右衛門の手代を派遣しての見分報告，政右衛門の自筆文書に2通の文書の写を継いだもの。

7502　能州一之宮論地一件　16.72—32
高畠某手写
28丁　11.5×17.5cm
高畠定辟旧蔵。羽咋郡一宮社地と御郡地御林山の論地一件。公事場において吟味の際，御用番横山山城守から渡されていた一件を筆写したもの。

特16.73　漁・猟　業

漁　業

7503　〔大野浜ニテ捕申大魚ニ付言上書〕　16.73—1
淵上村源六著
自筆　元禄8年（1695）
1通　24cm
大魚は「いるか」。永原権丞等宛。

7504　一ノ宮簀網等旧記　16.73—2
66丁　24cm
「黒津船御菜網舟等并猟業旧記」も収録。「一ノ宮簀網等旧記」は宝暦13年（1763）～慶応2年（1866）の能州一宮気多神社神主と一宮漁民等との漁場紛争および簀網仕入銀の借用等については寛記す。「黒津船御菜網等并猟業旧記」政6年（1794）～文久3年（1863）の河北郡黒津船神社の御菜網・舟の仕入銀等の借用，河北潟漁等について記す。

7505　〔能州口郡百海村鱈網場之図〕　16.73—3
手写
絵図1枚　70×106cm
武部村四郎太夫旧蔵。百海村沖の鱈網場の位置を示す絵図と享保14年（1729）6月28日付の奥書の継ぎ立てからなる。庵村枝郷百海の組頭弥五右衛門等より宇出津村源五等宛の新鱈網出願のいきさつと絵図の場所に相違ないことを記す。端裏には「能州奥郡鱈網場」とあるが，誤り。
旧書名「能州奥郡鱈網場之図」。

7506　緩目村網場争論書類　16.73—4
巻子1　24cm
明和6～9年（1769～72），文政8年（1825）の御預所鹿波村，曽根村との争論訴状等13通を継ぎ立てる。

7507　〔煎海鼠方に付主附御用勤向覚書〕　16.73—5
真館弥兵衛著
前田家編輯方手写　明治年間
15丁　24cm
真館氏所蔵の写。表題「煎海鼠方ニ付江戸御役人并長崎会所役人被罷越ニ付主附御用勤向覚書」。天明5年（1785）4月弥兵衛が芹川村兵助等と主附を命ぜられた時の覚書。石川県立図書館真館文庫に原本あり。
旧書名「煎海鼠方ニ付江戸御役人并長崎会所役人覚書」。

7508　網場出入一件　16.73—6
前田家編輯方手写　明治年間
122丁　23cm
内題は「打出村坂面節網場彼方様御領打出本江村蛯江村と網場出入一件留帳」。寛政8年（17

96）富山藩領打出村と加賀藩領打出本江村・海老江村との網場出入一件を記す。

7509　滝村起網等一件　16.73—7
岡部七左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
120丁　23.5cm
原題「滝村起網願御聞届為御仕入産物銀御貸渡返上方并起網退転被仰渡御貸米願返上方等一件」。寛政10年滝村起網願を中心として，元禄10年（1697）～享和3年（1803）の関連文書を収録。

7510　能州宇出津鯨猟図絵　16.73—8
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　24cm
宇出津村肝煎太次兵衛・藤右衛門書上げの文化9年（1812）「鯨捕様等巨細ニ御尋ニ付書上申帳」と，捕鯨漁具・ながす・真鯨の図。

7511　殺生方一件　16.73—9
4丁　11.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。天保4年（1833）大潟（河北潟），森本川，津幡川における魚殺生方についての既出法令の確認を行ったもの。

7512　鳳至郡内浦村網場出入訴状　16.73—10
肝煎六兵衛等著
自筆　天保5年（1834）
巻子1　24.5cm
鳳至郡内浦村が御預所川嶋村との網場出入につき川嶋村の答書に反駁したもの。
旧書名「内浦村肝煎六兵衛願書」。

7513　当年潟之内鮹等多死流出候付注進書等留　16.73—11
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
坂井忠左衛門所蔵の写。嘉永5年（1852）8月の河北潟の死魚事件についての潟縁村々，十村等の注進等。享保6年（1721）の同様の事件についての留書も付す。

7514　〔潟魚毒気有之風説ニ付達〕　16.73—12
手写
1通　16.5cm
町奉行・御横目宛。魚売買禁止等の達書。
旧書名「海魚之毒気ニ付達」。

7515　〔エコ草天草イギス買入方并他国出津方等一件〕　16.73—13
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　24cm
十村真館家所蔵の写。原題「エコ草天草イギス右之品買入方并右品他国出津方等一件」。嘉永5年（1852）の7通の文書より成る。内容は，能登の浦々でとれるエコ草等を御預所黒崎村弥三兵衛が買い集め他国出をしているが，その数量が紛らわしいので十村が雑津印で確認する，エコ草買い集め他国出の許可を求める願書，鹿島郡千野村浅之助の買い集めたエコ草を大坂，中国筋へ売捌たいとの願書と千野村肝煎，十村，郡奉行の奥書など。

7516　河北郡内潟猟業相用候網等之外猟業不致義被仰渡御請帳　16.73—14
43丁　24.5cm
安政4年（1857）成立。最初に文化2年（1805）8月の河北郡内潟猟業相用候網員数長短并役銀取立方定を記載し，安政4年7月再度規定外の猟具使用を禁止した時の請書を記す。粟崎，西蚊ヶ爪，北間，五郎嶋村の肝煎・組合頭・百姓・猟師の署名がある。

7517　練合村曳網役銀等留　16.73—15
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23.5cm
文久元年（1861）より同3年の練合村曳網詮義方一件。

7518　能州浦鯨網場図　16.73—16
巻子3　65.5cm
文久2年（1862）能州鹿島郡灘浦の庵村と江泊村の網場争論についての御預所方御用の裁許状と絵図。安政2年（1855）庵村においてたふの木三百尋沙下り鯨網を設置しようとしたのに対して，江泊村より新網と訴えたため争論とな

り，庵村の網は以前中断していたものを復活したものと認められたが，汐下に対する影響が大きいとして，網を指止め，その代償として庵村の運上米7石を用捨し，その代り江泊村より毎年8石宛上納すると決している。他2本は文化3年（1806）鯨網場絵図の写と安政5年（1858）の写。

7519 〔中波村鯨網卸し日限に付伺書〕　16.73—17
今村五郎兵衛・中川丈之助著
自筆
1通　15.5cm
戌閏8月28日付，戌は文久2年（1862），今村五郎兵衛・中川丈之助より関屋八平・磯松勘左衛門宛伺書。藩領中波村（越中）と御預所大泊村（能登）の鯨網卸しには双方立会って卸していたが，大泊村から何らの連絡がないため，来月5日限に卸すことについて伺い。
旧書名「能州中波村網場一件」。

7520 〔鯨網立会方和順に付口上書〕　16.73—18
大泊村庄屋佐次兵衛等著
1通　24cm
文久2年（1862）9月大泊村庄屋佐次兵衛等より御預所役所宛に出されたもの。藩領中波村鯨網への立会い方等に付納得した旨を記す。前号と関連。旧書名「鯨網御詮議ニ付口上書」。

7521 越中岩瀬猟場諍論記　16.73—19
手写
15丁　24cm
東岩瀬と西岩瀬との長年の漁場争論につき証拠文書・諍論経過等を収録したもの。宝永5年（1708）に作成。

7522 〔煎海鼠仕候村々覚書等〕　16.73—20
手写
2丁　13.5×19.5cm
富田権六郎旧蔵。付箋に「たもと草之内ニはさみ有之候分也」とあり。献上串海鼠漁の村10カ村，煎海鼠漁の村11カ村，その他預所村等を記す。その他物成等の名目も記す。

7523 〔才川御用之鮎簗場取締に付達〕　16.73—21
奥村伊予守著
1通　17cm
中川典克旧蔵。8月22日付奥村伊予守より奥村内記宛達書。鮎簗場付近の見廻り強化について記す。旧書名「才川御用之鮎ニ付奥村伊予守書翰」。

7524 旧富山及大聖寺領漁業一件書類　16.73—22
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　25cm
明和8年（1771）4月富山領古川尻の魚殺生停止の立札一件と，大聖寺藩の水産沿革（土田貞調査）を収録。

捕　鳥

7525 御城より三里四方小鷹天網停止之村々書上帳　16.73—23
前田矩正（式部）手写　天保11年（1840）
3丁　12×17.5cm
前田栄次郎旧蔵。宝暦4年（1754）田井村喜兵衛等が天網禁止の石川・河北郡118カ村の村名を書上げたもの。後年奥村丹後守の指摘で不審箇所を調査し訂正している。

7526 石川郡山入村々之内作物ニ障候鳥類等打捕申村名書上申帳　16.73—24
手写
3丁　24cm
嘉永元年（1848）9月，広瀬太郎衛門など5名が御郡所に宛てたもの。60か村の村名書上げと添小紙よりなる。書上げた60カ村が作物に障りのある鳥類などを打ちとらえる事を許可されるよう願ったもの。旧書名「石川郡村々之内鳥類等打捕申村名書上申帳」。

7527 河北郡山入村々之内作物ニ障候鳥類等打捕申村名書上申帳　16.73—25
3丁　24cm
嘉永元年（1848）伊藤源次・喜多市十郎・渡辺与兵衛が御郡所宛に河北郡86カ村の村名を書上げたもの。旧書名「河北郡村々之内鳥類等打捕申村名書上申帳」。

7528　鳥構場伐木について達書　16.73—26
手写
1通　16cm
申8月付，加州御郡奉行よりの鳥構場取縮りについての達書。申8月は嘉永元年（1848）かあるいは万延元年（1860）。

7529　〔鳥構場之松小枝下し願覚〕　16.73—27
寺西蔵人著
手写
1通　15cm
御郡所宛。河北郡牧・山上村の構場にて松木がはびこり，鳥構に支障があるため枝下しの願。

7530　〔宮保村等にて鳥猟に付百姓共口上之覚書〕　16.73—28
1通　24.5cm
中川典克旧蔵。2月5日付，山田伝之佑・山辺勘右衛門より中川八郎衛門・津田源右衛門宛。鳥猟をした侍・小者などについての百姓の口上を伝えている。中川・津田は万治～延宝期の大横目。旧書名「宮保村内等にて鳥猟に付百姓共口上之覚書」。

7531　〔越中三郡鳥猟御免願方等留〕　16.73—29
29丁　11.5×17.5cm
富田権六郎旧蔵。原題「越中三郡鳥猟御免願方等之儀ニ付被仰出等之留」。文政13年（1830）～天保6年（1835）にわたっての越中三郡の鳥猟御免に関しての，算用場・郡奉行・御勝手方などの主張，筆者の覚など。農作物に害を与えることを理由とした御免を求める主張と不縮りを理由とした御留場の主張があって，藩側の意見は一貫していない。

特16.74　製　塩　業

7532　御塩方一巻　16.74—1
筒井成則編
前田家編輯方手写　明治年間
112丁　23cm
筒井成孝所蔵の写。寛永7年（1630）～天保6年（1835）の塩方関係の法令・旧記を，弘化3年（1846）に筒井成則が編集したものの写。巻末に「御塩稼方諸道具之図」をつける。
刊本「近世社会経済叢書」第3巻。

7533　御塩概覚　16.74—2
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
上田源助旧記中の「先年以来御塩概覚」の抜書。寛文2年（1662）～天保13年（1842）の塩概の変遷を記す。塩概とは米と塩の交換比率。

7534　御領国中出来塩高　16.74—3
1通　16cm
宝暦4年（1754），5年（1755）分を記す。

7535　御塩方定式留　16.74—4
前田家編輯方手写　明治年間
64丁　23cm
加藤又八郎所蔵の写。能州口郡における天保6年（1835）～嘉永2年（1849）の記事を載せる。目録は次の通り。
洩塩見谷達方并代銀被下候ニ付請書。升廻御定欠，御改作所ニて御塩方御主附様へ御達可申上ケ条，焼揚候塩さまし候日数等御定，御塩仕舞懸之節実塩有之ニ付達方控，釜仕舞御役人中御指向之節 実塩有之 御詮義方 并右実塩 見図り書等，塩稼退転願并定式御米之内減石願，釜仕廻後御役人中被付置候御封損失断方，相見人より御塩懸手合割書上，相見人より月々出来塩書上并惣目録，御預所敷波村御塩指引等達方，御廻塩送り紙面，加越能廻村并御塩御奉行御廻村之節談方，追御塩手米願并御蔵向願共，新塩稼願，御塩手米拝借人別御請帳，損釜断并潰釜宮腰へ届方断，御仕入釜年限相満被下切願，御塩仕訳目録，過上代米書上，翌年御塩手米書上帳，御塩手米御蔵向願，過上代米御蔵向願，塩士村々出来御塩仕訳書上帳，御廻塩之節欠立并塩御達方，御塩手米御印請書，御塩小売願。
刊本「近世社会経済叢書」第3巻。

7536　御塩方御用留　16.74—5
岡部勇作（直造）編
前田家編輯方手写　明治年間
17冊　23cm

羽咋郡荻谷村岡部氏所蔵の写。編者は天保14年（1843）以降御塩方吟味人を勤めたが，その御用留。口郡（羽咋・鹿島郡）における塩生産，流通全般について記す。①は欠。②嘉永元年 ③同2年 ④同3年 ⑤同4年 ⑥，⑦，⑧同5年 ⑨，⑩同6年 ⑪，⑫安政元年 ⑬，⑭同2年 ⑮同3年 ⑯同4年 ⑰，⑱同6年。②，③は刊本「日本塩業大系」史料編近世2に所収。

7537 奥郡御塩方万雑書上申帳　16.74—6
3冊　24.5cm
慶応4年（1868），明治2年（1869），明治3年（1870）に筒井内記等奥郡の十村から改作所・郡治局へ書上げたもの。慶応3～明治2年の能登奥郡塩方関係の万雑を十村組毎に記す。
旧書名「御塩方万雑書上申帳」。

7538 能州奥口郡出来塩升廻等見分控　16.74—7
29丁　25cm
井上如苞旧蔵。明治3年(1870) 9～10月に井上某が能州口奥郡の製塩村々を廻り，収納された塩の目方・升目を計り，欠塩を調査した記録。製塩村一ヵ村毎に出来塩高，払高，残高，懸日，一俵当たりの貫目・量目を記す。
刊本「日本塩業大系」史料編近世2に所収。

7539 塩稼雑具之記　16.74—8
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　24.5cm
製塩道具を絵で示し解説を附す。

特16.75 鉱　　業

鉱　　山

7540 越中礦山雑誌　16.75—1
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
①文化8年（1811）の長棟山，虎谷山，河原波山，下田山，亀谷山，吉野山，松倉山の各由来書上申帳，かね山（吉野・長棟かね山）由来書上申帳（文化8年）及び古文書写，長棟山之内池ヶ原銀山一巻留帳（文化10年），新川郡かね山方願書帳
②銀山万帳（亀谷銀山の由来，安永9年成立），亀谷銀山御定書并運上書等追加（慶長2～正保4年），吉野山，松倉山，河原波山，長棟山等由来および新川郡金銀山六ヶ所并長棟鉛山共運上帳（宝永6年），宝永4年正月21日より長棟山鉛中買役及頭被指除ニ付自分より山師自拵依御召鉛願上申処願之通被仰渡候ニ付諸事留帳。

7541 越中礦山由来記　16.75—2
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　24cm
吉野山一巻，松倉山一巻等，吉野山・松倉山・河原波山・長棟山の由来，寛永年中中納言様間夫，新川郡金銀山六ヶ所并長棟鉛山共運上帳（宝永6年）を収録。「越中礦山雑誌」（前号）収録のものと同内容。

7542 御国鉛山之考　16.75—3
津田亮之助（鳳卿）編
6丁　28×20.5cm
天保10年（1839）成立。鞍ヶ嶽金礦，亀谷鉛山等に関する利家，利長らの書状を掲げ，鳳卿の考察を朱筆で示す。

7543 金平村遊泉寺村鍋谷村金山濫觴　16.75—4
前田家編輯方手写　明治年間
24丁　25cm
北村与平所蔵の写。「金平村領金山遊泉寺村領銅山共濫觴并遊泉寺銅山御次山ニ被仰付候委曲暨沢村故源次代之御扶持高之写」等。

7544 〔長棟山御鉛引渡し願〕　16.75—5
光昌院寺内わたふや孫兵衛著
手写
1通　25cm
中川典克旧蔵。寛文5年（1665）光昌院寺内わたふや孫兵衛より算用場宛の願書。長棟山鉛買請のため山師に前銀を渡したが，鉛を引渡さないため願い出る。
旧書名「長棟山鉛山について口上書」。

7545　倉谷村等銀山旧記　16.75—6
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
文政3年（1820）村井村六左衛門手写本の写。内容は承応3年(1654)～文政元年(1818)の倉谷銀山関係のもので，石川郡奥4ヵ村（二俣，倉谷，見定，日尾）の書上げ，由来書等。

7546　〔小原村領西谷山色見請願〕　16.75—7
亀谷山三右衛門等著
自筆
1通　23.5cm
元禄11年(1698)。越中上新川郡小原村領内西谷で銀鉱発見に付亀谷山三右衛門の山色見請願，小原村佐藤右衛門の口上書，横山左衛門の添書の3通を継合せたもの。
旧書名「小原村領西谷銀山等書上」。

7547　〔越中かね山普請願等一件〕　16.75—8
今井源五兵衛等著
手写
巻子1　24cm
元禄11～13年（1698～1700）における越中小原村西谷・小川原，砺波郡刀利村西ヶ嶺の銀鉱，新川郡平沢村牛ヶ首の金鉱，砺波郡五ヶ山の内桂村・大勘場入水無村の銀鉱などの色見・自普請願，勘定奉行荻原近江守（重秀）よりの銅山所在の有無の問合せなどの写を継ぎ立てる。
旧書名「越中銀山覚書等」。

7548　〔松倉山肝煎給銀に付願〕　16.75—9
松倉山肝煎弥右衛門著
手写
1通　24cm
元禄12年（1699）2月，松倉山肝煎弥右衛門より分部半丞宛に，肝煎給銀を吉野山・亀谷山肝煎なみに200匁の支給を願出たもの。末尾に前田対馬の意見を添える。旧書名「河原波金山ニ付口上書写」に含まれていたものを分離。

7549　〔松倉山肝煎給銀に付願〕　16.75—10
松倉山肝煎弥右衛門著
手写
1通　24cm
松倉山肝煎弥右衛門より分部半丞宛願書。前号と同内容。
旧書名「松倉山肝煎弥右衛門願書」。

7550　〔河原波かね山山師居屋敷拝領願〕　16.75—11
河原波山肝煎権右衛門著
手写
1通　24cm
元禄12年（1699）2月，河原波山肝煎権右衛門より分部半丞宛に，八ヶ所かね山なみに山師居屋敷の拝領を願出たもの。前田対馬の添書および裁定書を付ける。旧書名「河原波金山ニ付口上書写」。

7551　〔河原波かね山山師居屋敷拝領願〕　16.75—12
河原波山肝煎権右衛門著
手写
1通　24cm
元禄12年（1699）2月，河原波山肝煎権右衛門より分部半丞宛の願書。前号と同文。但し，前田対馬等の添書は欠。旧書名「河原波金山山師居屋舗一件」。

7552　宝達かね山旧記并問掘願一件　16.75—13
岡部七左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
30丁　24cm
岡部氏所蔵の写。天明5年（1785）の宝達山金山の旧記書上げおよび古文書の写と，天明元年宝達村喜兵衛金山跡問掘願等一件を収録。

7553　不動山金山御縮方等仕法帳　16.75—14
沢村源次著
手写
10丁　27cm
天明8年（1788）金山主附十村沢村源次の水原五左衛門宛書上げ。不動山金山は能美郡金平金山のこと。この年金平金山が藩の御手前山になったことにより山法御縮方を書上げたもの。

7554　長棟山年中行事　16.75—15
35丁　24cm
文政4～9年（1821～26）のもの。内容は長棟山出来鉛御召上取捌方，長棟山師共飯米取捌，

山師共飯米渡方，御払米請取切手等覚，長棟山師喰塩取捌方，御塩請取切手等之覚，山師共喰塩渡方，長棟山出来御召上鉛請取方，東岩瀬御蔵鉛納取捌方，鉛納切手等之覚，竿鉛運送賃等之覚，猪谷口役銭，文政4年9月猪谷御番人へ申渡ヶ条之覚，猪谷出方御口銭，猪谷入方御口銭，長棟山御門御柵御蔵牢屋御修覆方，長棟山肝煎給銀等之覚。

7555　〔宝達村拝領居屋敷御印物につき願書〕　16.75—16

天保13年（1842）

2通　16cm・24cm　包紙

包紙表題「宝達村御印願書付等」。羽咋郡宝達村肝煎より御印物調理に際し以前取揚げの御印物返却の願書，及び五十里村庄助（十村）等の改作奉行宛添書。旧書名「宝達村肝煎等願書」。

7556　〔長棟村仕法方等に付諸書物〕　16.75—17

6冊・30通・絵図1枚　24cm・16.5～24cm　24×35cm　包紙・袋

＜帳冊＞

①長棟詰勤向御書附写（安政3年9月，御郡奉行より長棟詰割場附足軽中宛）

②越中新川郡長棟村御仕法方見聞書（慶応3年5月，越野左助より産物方御役所宛）

③長棟村取続方仕法に付意見書（慶応3年7月天正寺村十次郎等より新川御郡所宛）

④長棟村へ附越米等に付一件書物留（慶応3年8月～4年3月）

⑤長棟詰之人々へ詰中菜物貯用送り帳（慶応4年8月）

⑥長棟村にて心付の趣伺書（慶応4年9月，越野左助より産物方御役所宛）

＜一紙＞

⑦長棟村御仕法方に付口上並に添書（2通，慶応3年8月，伊東文七郎より越野佐助宛）

⑧長棟村御仕法に付意見書並に添書（3通，慶応3年8月，伊東文七郎より越野佐助宛）

⑨御用吹所地元歩数等書上（慶応3年12月，銅方縮役横田村算用聞津兵衛等3名より産物方御役所宛）

⑩長棟村御蔵より瀬戸村御蔵所へ持届ヶ候銅鉛目形并員数覚等

⑪長棟仕入米高書上（2通，卯2～8月）

⑫長棟山詰番人に付願書（卯8月，河村吉兵衛外1名より産物御会所宛）

⑬長棟山改御番所渡御道具并諸品渡り物等しらべ書（卯8月，同上）

⑭長棟村御米塩等請渡方并勘定役申附書（卯8月）

⑮諸荷物問屋役任命に付請書（卯8月，長棟村与合頭平兵衛より御産物方御役所宛）

⑯御扶持方残銀請取書（卯9月，河村吉兵衛より産物方御役所宛）

⑰長棟村取続方仕法飛州交易並びに洩物縮り方の達に付請書並に添書（2通，卯10月，八崎源次等8名より九里覚右衛門等宛，九里覚右衛門より御算用場宛）

⑱五ヶ山御仕入紙方能州口郡出来楮蒸場主附指止願（卯10月，石崎市右衛門等6名より御産物方宛）

⑲新川郡瀬戸村等辺洩物改役免除願（辰3月，長棟村長吉より天正寺村十次郎宛）

⑳洩物改役代り人任命願（辰5月，天正寺村十次郎より新川御郡所宛）

㉑洩物改役代り人願提出に付添書（辰5月，真田佐次兵衛より御算用場宛）

㉒長棟村拝借米返上の方に銅鉛上納に付書上（辰5月，長棟村組合頭甚六外1名より御産物方御役所宛）

㉓長棟村出来鉛蔵納方承知に付書状（辰8月，山森十之助より早川庄助宛）

㉔渡し銀払切に付渡し方願（調理役吉兵衛より産物方御役所宛）

㉕鉛等代銀の内米銀子払底に付書状（調理役吉兵衛より越野佐助宛）

㉖長棟村取続方仕法作徳米買入方に付書状（吉野善八郎より石黒堅三郎宛）

㉗六～十二月上納高書上

㉘長棟村詰割場附足軽勤向に付書上（産物方より長棟村詰割場附足軽宛）

㉙長棟村出来鉛弾薬所へ渡し方依頼（後欠）

㉚産物方御用長棟村出張に付書上（後欠）

㉛長棟鉱山略図。

附○長棟村仕法ニ付諸書物入袋（慶応3年8月より）

○長棟山詰人御達物包紙。

7557　〔長棟村取続方仕法一件〕　16.75—18
加賀藩産物方編
手写
28丁　24.5cm
慶応3年（1867）新川郡長棟村取続方仕法を産物方に申し渡したことに関しての一件文書。道路新開，喰塩并燈油現銭買入方，飛州へ米塩等交易に付洩米，瀬戸村に中出蔵建設，作徳米買入方申付け，米塩と交易した飛州山出し銅の吹分け場所を射水郡横田村に建設するのについての一件などを収録。

7558　〔遊泉寺山々師御給銀等人別調理書〕　16.75—19
4丁　36×12cm
原題「辰四月分遊泉寺山々師御給銀并夜番間時等人別調理書上申帳」。慶応4年（1868）4月分の山師61人の給銀・夜番賃銀等を記す。

7559　〔金平山山師御給銀等碁紙〕　16.75—20
1枚　47×43cm
慶応4年（1868）10月分について，横に56人の山師と給銀，たてに日付をとり，碁盤目の中に出勤日と作業内容を記した一覧表。表裏共に記載あり。

7560　金平山惣御入用銀等調理書上申帳　16.75—21
2冊　24cm
明治元年(1868)10月分の入用銀等を書上げたもので，1冊は調理役半右衛門・次作が入用銀・飯米高等をかね山方役所へ届けたもの，他は入用の油・炭等の納入切手16枚を綴ったもの。

7561　〔金平山山師給銀并余番間時等人別調理書〕　16.75—22
3丁　12×35.5cm　袋入
表題は「辰十月分金平山々師御給銀并余番間時等人別調理書上申帳」。明治元年（1868）11月の書上げで，56人の山師の給銀等を記す。
旧書名「金平山御給銀并余番間時等人別調理書上申帳」。

7562　能州宝達山より御金被為掘候ニ付人足賃銭等造用方出道仕法帳　16.75—23
金山方調理役子浦村嘉兵衛著
手写
5丁　24.5cm
森可参旧蔵。明治2年（1869）金山方調理役子浦村嘉兵衛より金山方御役所に提出された仕法書。領内の蔵入・給人米の蔵敷米の半分を取揚げ，その代銭で宝達山にて金採掘のための人足を雇うというもの。

7563　金山方諸事留帳　16.75—24
商法局編
自筆
24丁　24cm
明治3年（1870）の藩内の鉱山関係の記録を収録したもので，金平山出来灰吹金越野左助へ売払，鳳至郡谷内村鉄製造所中居村へ引渡し等。

7564　長棟山鉛山図并御番所絵図　16.75—25
絵図2枚　28×40cm・34×24cm　袋入
金谷氏旧蔵。金山と鉛吹床場，御蔵，御番所等を記し，他の1枚は御番所の平面図。

7565　有峰銀山図　16.75—26
絵図1枚　彩色　68×67cm
越中有峰山麓の小見村分・亀谷分・小見村亀谷入会分・小見村亀谷の外他村を4色に色分けした境絵図。

7566　〔近江国海津の内にて銅採掘願一件〕　16.75—27
手写
14丁　23.5cm
加賀藩領近江国海津のうち中村町の石灰山から銅分を含む石を発見し，その採掘願と算用場達を収録。甚右衛門は近江領の代官。旧書名「今津甚右衛門書付等写」。

7567　能登国鉱礦調理記　16.75—28
手写
3丁　24cm
「七尾県へ可引送控」とあり，明治5年（1872）の書上げ。金，銀，鉄，硫酸鉄，鉛，石炭，酸化満俺について産地名と休山を記す。

7568　越中国鉱礦調理記　16.75—29
3丁　24cm

「新川県へ可引送控」とあり，明治5年（1872）の書上げ。金・銀・銅・鉛山，硫黄，石炭山について産地名，掘出願の聞届状況，休山を記す。

7569　三州内郡別鉱山記　16.75—30
鉱山方編
手写
11丁　24cm
明治4年（1871），金，銀，銅，鉛，鉄，石炭，硫黄，マンカンニース，硫酸鉄の各鉱山地名を郡別に記す。

7570　能登国金石産出所調　16.75—31
手写
2丁　23.5cm
「石川県勧業課宮崎豊次ヨリ差越分」とあり，鉱物名と産出村名を記す。

硫黄・石灰・呉須

7571　〔富山硫黄御改御横目之書付請取等〕　16.75—32
宮川安右衛門・高田弥右衛門著
自筆
2通　17cm
中川典克旧蔵。2通とも宮川・高田より中川八郎右衛門宛。表題の請取状と富山硫黄改渡辺弥平書付の返書添状。12月付。
旧書名「富山硫黄御改之書付」。

7572　立山硫黄之事并河原波山師屋敷之事　16.75—33
手写
19丁　24cm
「立山硫黄之事」は元禄12年（己卯，1699）豊嶋藤兵衛が立山で硫黄試掘した時の入用覚と奥村淵兵衛の添書，および同13年2月の御用番宛の立山硫黄採掘の伺。「河原波山師屋敷之事」は同13年河原波山肝煎権右衛門等の居屋敷拝領願等と算用場奉行の御用番宛の伺。

7573　古記臆写本　16.75—34
手写
21丁　24cm
文化14年（1817）の養子願2点のほか，安政2～元治元年（1855～64）越中砺波郡庄下組における硝石製造方床下の土売買，硝石製造方望人関係の記事を収録。

7574　〔石灰焼立方等一件〕　16.75—35
前田家編輯方手写　明治年間
113丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。内題は「羽咋郡宝達村等石灰焼立方並石灰石川郡等へ屎物ニ指遣候一件等」とあり，嘉永4年（1851）の石灰方留帳および石灰方書類（12通）からなる。

7575　〔楽焼・硝石製造等一件〕　16.75—36
114丁　24.5cm
天保5年（1834）羽咋郡火打谷村領に呉須土を発見し小山村西性寺より楽焼願。硝石製造の件は白山神社，能美郡湊村願隆寺等，年代は天一保以降か。なお巻首部分に「御刑法者通行指止件」（6丁）があり，御刑法者の神社前通行指止めに関する内容。
旧書名「別当職之調等」。

特16.76　製　造　業

7576　茜染一件書類　16.76—1
前田家編輯方編
明治年間
58丁　25cm
金沢古蹟志第14，国事雑抄，表御家老諸事控，前田貞直手記，温故集録よりの抜書を集めたもの。茜屋理右衛門のことなどを知りうる。元禄3～元文2年（1690～1737）の記事を集録。

7577　加賀絹沿革記　16.76—2
手写
3丁　24cm
加越能新聞第2247号の写。加賀絹は大聖寺藩領江沼郡庄村を起源とするとして，元禄から明治初期までの盛衰を記す。

7578　〔古酒来由覚書〕　16.76—3
手写
1通　16cm　包紙

貞享元年（1684）に生産された古酒の古備前焼の壺に入ったものを元禄元年（1688）に鶴来飛騨屋故宗右衛門から曽祖父に送られ，135年後の今日，原田幽翁が所持していることを記す。従ってこの書の成立は，文政2年（1819）か。包紙には，「原田幽翁所持延享元年古酒来由」とあるが，延享は誤りか。

7579　能登国酒造屋敷并酒造米高帳　16.76—4
柘植一平太著
手写
3丁　24.5cm
成瀬正居旧蔵。安永8年（1779）5月御名内柘植一平太より御勘定所宛。

7580　小松茶商長谷部家の茶業沿革　16.76—5
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　25.5cm
明治21年（1888）9月20，21，22日の北陸新報の写。小松の茶商長谷部理右衛門が自家の開業沿革を記したもの。元録初年の創業にして北陸最古とある。

7581　小松町等茶問屋仕法帳　16.76—6
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　25cm
癸酉4月の仕法。主に茶売買にともなう口銭の徴収の方法を記す。「板津組駒持立方仕法書上申事」もあり，嘉永期御郡所から駒の所有が申渡されたのに対し，駒を飼うための銀子の借用を願ったもの。糞物が高値になったので，駒を飼うことが有利であるとしている。

7582　於能美郡茶焙炉相立候箇所等　16.76—7
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
各製造所とその産額，産額を記す。材木町二丁目砺波屋嘉兵衛・同小杉屋和助による書上げ，亥6月とある。

7583　綿種油絞方株商売願書付等写　16.76—8
前田家編輯方手写　明治年間
28丁　25cm
北村与平所蔵の写。原本は安政6年（1859）成立。文化13年（1816）石川郡末正村六右衛門・松任町車屋伊三郎の綿種油絞り株立願と，文政元年（1818）算用場の許可の達書（絞上製法，種買入売捌方値段，綿種油商売人の書上げを含む）。および安政4年（1857）六右衛門の孫の株立外商売指留願と，同6年（1859）それに関し株立休臼元の書上げ。末尾に「改作所旧記」「上田旧記」より綿種記事の抜書を収録する。

7584　呉座問屋仕法書上申帳　16.76—9
前田家編輯方手写　明治年間
20丁　25cm
嘉永元年（1848）3月能美郡呉座問屋仕法書上申帳，小松畳表内詮議一件，呉座問屋之儀ニ付御入紙面并仕法帳写，弘化3年（1846）呉座問屋之儀ニ付仕法方書上申帳を収む。

7585　松前行目形莚一件　16.76—10
前田家編輯方手写　明治年間
69丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。「松前行目形莚濫觴より之一件写」と「産物方御役所御指止ニ付松前行目形莚問屋立方等御詮議一件」よりなっている。天保9年（1838）10月の仕法の始りから，嘉永5年（1852）7月までの仕法に関する記録。

7586　御国産菅笠一件　16.76—11
手写
12丁　24cm
真館氏所蔵の写。天保4，5年（1833，34）江戸拾組問屋・江戸産物取扱人・加州笠屋棟取・産物方主付の指紙等を収録。菅笠の外に城端紬の上納御替金も記す。

7587　他国出菅笠問屋仲間株割　16.76—12
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　23.5cm
慶応3年（1867）の菅笠問屋仲間株割と笠問屋仕法，慶応2年の国産菅笠棟取兼帯取締役申付状を収む。旧書名「菅笠問屋仲間株割」。

7588　〔紫雪売出し差留願〕　16.76—13
手写
3丁　24cm

酉5月付，鶴来村薬種商米屋次郎左衛門の紫雪販売に対して，中屋彦右衛門・亀田伊右衛門・福久屋伝六が三家相伝であることを申立て，次郎左衛門の販売差留を願ったもの。
旧書名「覚書」。

7589　加能越所産薬種考　16.76—14
坂井泰順等著
47丁　20cm
坂井泰順の他，堀部養叔・山脇玄悦による加越能三州に産する薬種書上げ及び流通について記す。貞享2年（1685）成立。

7590　長生殿落雁家伝製菓略系　16.76—15
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
内題は「稟告江湖諸君」。砺波郡井波町板倉広方が製菓の濫觴と家伝製菓略系を記す。正保年間長生殿製法を金沢菓子師に伝授。

7591　越中陶器調理書　16.76—16
片岡長信著
前田家編輯方手写　明治年間
27丁　23cm
越中婦負郡丸山焼，砺波郡福光焼，城端焼，安居窯，射水郡小杉焼，常滑焼，下新川郡舟見焼，経田焼，上新川郡瀬戸焼の調理書。筆者が明治年間，現地を訪れたり焼物を手にしたり，あるいは聞取りによって，沿革，陶土の品質，採取地，釉薬の産出地などを整理したもの。

7592　輪島漆器開業沿革書　16.76—17
手写
4丁　28×20cm
表紙に遐福社とある。輪島漆器の開業沿革史。明治10年（1877）内国勧業博覧会に出品，受賞したのを機会にまとめられものか。応永年間輪島の住人福蔵なる者が紀州根来より技術を伝習してきたこと。寛文の頃，近傍の山で地ノ粉を発見。元録・正徳年間販路が広がり，蒔絵，沈金をはじめる。大黒講が天明年間に結成され漆工の方法を定める。明和の頃，館順助によって沈金彫が始められ，後，館雅水がこれを発展させる。天保年間に漆工が合同して遐福講をつくる。領主前田家の保護及び年行司の設置等，その濫觴から博覧会での受賞までを記す。

7593　越中城端小原家譜　16.76—18
前田家編輯方編
明治年間
8丁　25cm
城端の漆工小原家の沿革及び系図。6代の徳左衛門信好は承応3年（1654）畑宜安より五彩の色漆を使う技術を伝授されたといわれ，代々白漆塗で知られていた。末尾に永代記抜萃を併録し，明治18年（1885）現在の小原家の様子も記す。

7594　中居鋳物師伝書　16.76—19
前田家編輯方手写　明治年間
20丁　24cm
仁安2年（1167）正月の蔵人所牒以下慶長20年（1615）までの文書写および鋳物師略由来書。

7595　河北郡吉原村へ御渡置候焼刃土取場一件旧記　16.76—20
真館弥左衛門編
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
真館弥左衛門の留記の写。刀鍛冶5人が焼刃土を取る際の土取見合札の覚，嘉永6年（1853）4月。

7596　加賀藩所轄兵庫製鉄所始末　16.76—21
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
兵庫製鉄所は明治2年（1869）創設，4年に工部省に移った。
①製鉄所創立已来之本末取調書類，負債取調書類，負債処分方書類，取立金銭処分書類
②在品物取調書類，雇入外国教師処分書類，機械場地所返上書類，伺書類，県地へ往復等書類，横浜地所一件書類，浅草平右衛門町家屋一件書類，浮田一族引送方書類（但し，浮田一族引送方書類は未収録）。

7597　〔水車ニテ出来仕候品々〕　16.76—22
手写

1通　15.5cm　包紙
七社村太助所持の水車で製造する煎粉，さなた織，くくり，付木の生産量，金額，利潤を1日あたりで見図り，計算したもの。

特16.77　金　融・商　業

金　　融

7598　為替所上納書　16.77—1
為替所編
自筆
1通　24cm
巳12月（明治2）商法局宛。四商会（益亀組，起業組，鳴鶴組，此花組），為替所借庫方の家賃等の書上げ。

7599　借用証文　16.77—2
七左衛門著
自筆
2通　35cm
安永6，9年（1777，80）の七左衛門の市郎右衛門宛の借用証文。年貢の方に金子を借用し，米・大豆を以てその時の相場で返済することを約している。

7600　野村伊兵衛御取立之頼母子返り銀ニ付書付　16.77—3
御門前町目貫屋清二郎著
手写
1通　24cm
中川典克旧蔵。「延宝元年野村伊兵衛御取立之拾貫目頼母子返り銀之儀ニ付て従伊兵衛様被上候御書付拝見仕候て御尋ニ付申上候御事」とあり，延宝6年（1678）5月，町奉行宛の答書。

7601　大賀祢加志津気帳　16.77—4
10丁　12.5×18cm
明治5年（1872），為替会社・長瀬・筵宮屋・秋田屋・その他への金の貸付帳。「おかねかしつけ帳」と読むか。

7602　〔祠堂金協成舎并要用会社沿革略記〕　16.77—5
手写
2冊　26.5cm
明治16年（1883）成立。「祠堂金協成舎沿革略記」・「祠堂銭取扱所証書書換草案等」と，「要用会社沿革略記」からなる。

物　　価

7603　物価〔についての文献索引〕　16.77—6
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
寛永～正徳の大工作料について享保3年（1718）室鳩巣書翰をあげる外，延享以降の米価について記載する文献をあげる。特に天明～寛政が詳細。旧書名「延享弘化間米価文献索引并弘化二年ヨリ明治廿二年迄米価」。

7604　米高直之砌御算用場よりの紙面　16.77—7
手写
83丁　23.5cm
前田貞醇旧蔵。内題「丙子年御領国中米高直之砌御算用場より所々へ申遣候紙面之写帳」。丙子年は元禄9年（1696）で，2～8月の算用場の触達を収録したもの。

7605　諸色高直払底之品有之等之義ニ付書取　16.77—8
手写
3丁　26cm
宇野富良旧蔵。正徳6年（1716）11月，享保2年（1717）2月の触を収録。

7606　諸物直段考　16.77—9
有沢武貞著
自筆　享保5年（1720）
36丁　23cm
享保3年（1718）成立。本書は同5年に再書したもの。目録は，序，凡例，諸物上代米直段通計，夫米夫銀考，普請役考，出銀考，大工日雇等一日之雇手間考，下々奉公人給米給銀考，若党奉公人大概考，足軽切米之考女奉公人給銀之考，諸細工人扶持切米考，馬牛等飼料考。

7607 〔油直段相調書上申帳之控〕 16.77—10
前田家編輯方手写　明治年間
28丁　24cm
青木氏所蔵の写。表題「享保年中より宝暦六年迄之油直段相しらへ書上申帳之控」。恒川七兵衛の内分の御尋に返答するために，寛政３年(1791)に調査，書上げたもの。油値段決定の諸事情及び菜種平均相場，おろし油値段，小売値段などが記されている。油臼本のある松任の肝煎と金沢町油肝煎，算用場との関係の中で菜種相場を基準としつつ，油値段が決定されている。

7608 〔油直段相調書上申帳之控〕 16.77—11
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　25cm
表題「享保年中より宝暦六年迄之油直段相しらへ書上申帳之控」。奥書に「右ハ恒川七兵衛様御内分御尋ニ付相しらへ六月廿七日に指上申候」とあり。表紙に「寛政三年亥六月相しらへ申候」とあり。前号に同じ。

7609 魚野菜商売月定 16.77—12
手写
１通　16cm
中川典克旧蔵。寛保３年（1743）の触。魚，野菜等36品目につき売初めの月を定め，高値に売らないように触れ出す。

7610 諸色直段書上等留 16.77—13
前田家編輯方手写　明治年間
82丁　23.5cm
加藤又八郎所蔵の写。内題「諸色直段仕立方ニ付被仰渡等抜書」。寛政元年（1789）～安政２年（1855）の主に越中砺波郡関係の米・酒・油・菜種・蠟燭等の直段仕立方に関する留。「北窓瑣談」抜書も収録。

7611 〔弘化二年以降明治二十二年迄米価に付抜書〕 16.77—14
前田家編輯方手写　明治年間
４丁　23.5cm
北陸自由新聞第68号（明治24年９月17日刊）の抜書。原本は石川郡出城村字平木の道上次郎右衛門の手記による。旧書名「延享弘化間米価文献索引并弘化二年ヨリ明治廿二年迄米価」。

7612 〔高畠勘兵衛書状写〕 16.77—15
６丁　12×18cm
原題・旧書名「京都町人従高畠勘兵衛御当地真野宗古方ニ来候紙面之写」。天保14年（1843）商品価格や京都の様子を知らせたもの。

商　業

7613 商売格并他国出入品々留 16.77—16
20丁　24cm
久保阿以所蔵の写。諸商売人上納銀高，諸商品商い高についての他，「金沢用米之覚」と「非人小屋入之者へ渡り方」を含む。

7614 〔米代銀請取証文〕 16.77—17
国府孫左衛門著
自筆
１通　24cm
元禄９年（1696）４月付国府孫左衛門より岩野市左衛門宛の請取証文。石原茂左衛門知行坪野村の去収納引免米代銀を請取ったことを記す。旧書名「米代銀受領証」。

7615 米仲買等へ被仰渡 16.77—18
片岡孫作手写
71丁　23.5cm
享和元年（1801）～天保９年（1838）の米仲買等への布達を収録。

7616 所々米方仕法聞合書 16.77—19
７丁　24cm
文化８年（1811）４月の書上げ。帳合米商・大坂米市場（堂島）の変遷と大坂江戸堀現銀店・京都七条米市場・その他畿内・越前福井における米売買，および領内小松・松任・石動・高岡における米延商等の状況について記す。

7617 米中買心得方之条々 16.77—20
前田家編輯方手写　明治年間
７丁　24cm
久保三郎助所蔵の写。中買組合頭から天保15年（1844）６月に出されたもの。

7618　現銭御払米値段〔等〕　16.77—21
7通　12～15.5cm
午9月（明治3年）に元治元（1864）～明治2年（1869）の現銭御払米値段を書上げたもの。石川・河北・口郡（羽咋・鹿島）・砺波・射水・新川郡の6通と番代平七の添書1通。
旧書名「現銭御払米値段」。

7619　金沢町米商成立濫觴等取調御届書　16.77—22
手写
92丁　15.5×11.5cm
表題「金沢町米商成立濫觴」。明治9年（1876）12月旧米市締役巌六平・杉野長松・橘長次郎から石川県権令桐山純孝に提出されたもの。延宝9年（1681）より記載するが，明治以降の商法会社千秋組の記録を多く収録。

7620　越中米商八ケ所　16.77—23
手写
1通　16cm
米商八ケ所として，滑川・魚津・岩瀬・氷見・高岡・放生津・泊・横山の地名を書いたもの。

7621　魚問屋定書并仕法方塩料理商売人定書等　16.77—24
前田家編輯方手写　明治年間
63丁　24cm
久保阿以所蔵の写。外題「魚問屋定書等」。振売雑魚定等寛文3年(1663)以降の金沢魚問屋，商売人に関する定の留。
旧書名「魚問屋定書等」。

7622　七尾町魚問屋定書等　16.77—25
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　25cm
故新録（特16.27—25）六之抄で，寛文～寛政の所口魚問屋定書等を収録。

7623　魚口銭ニ関スル書類　16.77—26
前田家編輯方手写　明治年間
97丁　25cm
改作所旧記，上田源助旧記，兼山麗決秘策，筒井旧記，岡部旧記，郡方御触，能州郡方旧記，筒井触留，上田触留，御用儀品々留帳，産物方御用留からの抜書。内容は，万治～元治。

7624　魚口銭浦口銭旧記　16.77—27
前田家編輯方手写　明治年間
75丁　23cm
杉本弥五郎所蔵の写。内容は「魚御口銭方旧記」（文化11年新川郡魚物御口銭御免写等書上申帳文政2年魚御口銭御取立方御仕法一巻，文政6年諸魚御口銭方奉願上申帳），「浦々津出入之品々口銭取立申定帳写」（文政元年），「浦口銭取立定帳」（文政2年）。

7625　能州御公領黒嶋村へ罷越四十物商売仕候銀高御尋ニ付書上ケ申候覚　16.77—28
宮腰松任屋勘七等著
自筆
巻子1　24cm
享保5年（1720）9月付，宮腰松任屋勘七・越前屋五郎右衛門・赤土屋善右衛門より宮腰町奉行宛の書上げ3通を継立てたもの。享保3，4，5年に黒島において買上げた四十物代銀額を書上げる。旧書名「能州御公領黒嶋村ニテ四十物商売之銀高書上帳」。

特16.78　陸　　運

道　路・里　程

7626　加越能三州道程記　16.78—1
前田家編輯方手写　明治年間
65丁　23cm
内題は「(微妙院様御代)正保四年加越能三州之官道及裏道之道程并海岸湊々船入之都合海路里程等取調被仰付節書上帳之控也」とあり，正保4年（1647）幕府へ進達した三州輿地図に添えたもの。享保11年（1726）の写本を明治期に森田平次(柿園)が手写した。内容は加能越三国の大道・脇道の各村間の距離・道幅・道路状況，河川・湊の状況を記す。

7627　御領内諸方道程記　16.78—2
手写
61丁　24cm

正保4年（1647）12月の書上げ。「加越能三州道程記」（前号）と同内容。

7628 三州道程大概　16.78—3
前田家編輯方手写　明治年間
46丁　23.5cm
正保4年（1647）12月の書上げ。加能越の記載の順は異なるが，「加越能三州道程記」（特16.78—1）と同内容。

7629 加州三御郡稼往来道橋并渡船道川除等ケ所間数調帳　16.78—4
前田家編輯方手写　明治年間
16丁　24cm
天明7年（1787）5月の書上げ。能美，石川，河北の3郡の道，橋，渡船のうち，御郡打銀により普請している箇所，間数を書上げ，請負銀高35貫文で請負うことを願出ている。橋の種類・間数を詳細に書上げる。

7630 北陸道往還道程等書上申帳　16.78—5
6冊　24cm
天保8年（1837）改作方郡奉行所宛の書上げ。近隣宿駅への道程，本馬・軽尻・人足賃銭について記す。
①能美郡粟生，寺井駅　②石川郡水嶋，下柏野，野々市宿　③河北郡津幡，竹橋宿　④砺波郡埴生，立野宿　⑤表題「御上使往還道并所々往来道筋之内射水郡宿駅等人馬賃銭等書上申帳」（天保7年）射水郡小杉宿　⑥表題「五街道之外往還宿駅人足継立候ケ所書上申帳」（天保8年）新川郡富山町，滑川町，魚津町，三日市村，入膳村，泊町，浦山村，舟見村宿について記す。

7631 加州能州越中枝街道宿々道程并間村書上申帳　16.78—6
手写
31丁　25cm
明治2年（1869）6月の書上げ。各枝街道の宿村等間の距離とその沿道の村名を記す。

7632 三州道程仕出シ　16.78—7
手写
79丁　23cm
三州道程仕出シ，越中国新川郡北国街道間数書，越中国新川郡北国街道丁数調書，越中国新川郡岩瀬街道丁数調書，越中国新川郡富山より東岩瀬往還丁数調書，越中国新川郡入膳街道丁数調書，越中国新川郡飛州街道丁数調理帳，越中国新川郡従滑川上市往来丁数調書，越中国新川郡従魚津生地往来丁数調書，越中国新川郡従三日市生地往来丁数調書，越中国新川郡従入膳横山往来丁数調書を合わせたもの。いずれも明治3年（1870）3月の書上げ。

7633 加越能諸街道里数帳　16.78—8
金沢藩編
145丁　23cm
明治3年（1870）4月金沢藩による書上げ。内題は「加賀国越中国能登国諸街道里数取調帳」。北陸道本街道・同脇街道・同枝街道，同能登国諸街道における各村領間の里数を記す。「加越能諸街道絵図」（次号）の各村領間の里数と同じ。

7634 加越能諸街道絵図　16.78—9
金沢藩編
74丁　26cm
内題は「加賀国越中国能登国諸街道里数并領附村取調絵図」。加越能諸街道（北陸道往還と脇街道并枝街道に区分）の宿村，往還人家，領附村川等とその間の距離を記す。成立は明治初期。

7635 金沢道橋帳　16.78—10
道橋方編
42丁　24cm
嘉永5年（1852）作事所より道橋方へ引送りの道，橋等修理場所及びその幅，長さを記す。

7636 金沢道橋帳写　16.78—11
道橋方編
25丁　24cm
作事所の修理にかかる，川溝，橋，悪水樋，坂道等の場所及び各々の幅，長さ，及び安永年間より文政年間の修理記事。

7637　金沢両大橋架始・架替之件　16.78—12
手写
5丁　25cm
温故集録からの抜書。天正から元禄頃の才川浅野川大橋に関するもの。

7638　宮腰道筋村々道の里の御帳　16.78—13
正保3年（1646）
3丁　24.5cm
淵ノ上村源五，三ツ屋村平兵衛が金沢から宮腰（金石）までの村々の道のりを記して奉行に提出したもの。
旧書名「宮腰道筋村々道程帳」。

7639　加賀国江沼郡街道調　16.78—14
手写
3丁　27cm
明治初めの書上げ。江沼郡の諸街道について領境，村落間の距離，橋の長さ等を記す。

7640　鶴来ヨリ吉野マデ道ノ記　16.78—15
5丁　8×18cm
末尾に彩色略図を付す。

7641　石川県加賀国河北郡里程表　16.78—16
河北郡役所編
11丁　27cm
河北郡役所よりの書上げ。河北郡各村より郡役所・県庁・大聖寺・越中伏木港迄の距離表。
旧書名「加賀国河北郡里程表」。

7642　河北郡二俣村より井波町・八ツ尾を経て石掛迄之見取絵図并道程書　16.78—17
2冊　24cm
表題「河北郡二俣村ヨリ砺波郡井波町夫ヨリ金屋岩黒村覗戸峠通八ツ尾町へ入込土玉生村花房村夫ヨリ富山御領境字石掛マテ之道筋見取絵図」と同断道程書。見取絵図・道程書共に道路状況を詳細に記す。

7643　〔土清水製薬所囲外往来道ニ付願書〕　16.78—18
手写　明治7年（1874）
1通　24cm
元製薬所囲外部分と地内の往来道幅拡張について記す。土清水村組長等より地租改正係宛。絵図附。

7644　能州道筋巨細書帳　16.78—19
21丁　24cm
坂井氏旧蔵。金沢より外浦，内浦廻りで再び金沢迄のもの。街道筋名所等の記事を付す。

7645　能登路程等記　16.78—20
前田家編輯方手写　明治年間
103丁　23cm
天明年間筆記能登路御定賃銭等留帳写（定賃銭，行程，作食蔵等，元禄年間御収納米運搬に関する諸文書を附す）。多田六蔵所蔵能州道之記并郷庄社寺領等之覚帳（道程，寺社，定賃銭，郷村名その他定書等）を収録。

7646　能州内外駅々道程附　16.78—21
6丁　12×18cm
横山隆幹旧蔵。今浜より外街道・内街道を通り再び今浜へ至る道程。

7647　能登国小廻五里外村々海陸道法附　16.78—22
2丁　24cm
寅8月の書上げ。羽咋郡安部屋浦船積所迄海陸道法附と鳳至郡大町浦船積所迄海陸道法附。前者は羽咋郡の3ヵ村，後者は鹿島郡の14ヵ村いずれも幕府領からの道程を記す。

7648　〔石動山々道々普請之時分絵図〕　16.78—23
寛延4年（1751）
絵図4枚　彩色　24×136cm
石動山の道筋が洪水で崩れたので，鹿島郡二宮村より能登御郡奉行に普請を願いでたときの絵図。
①寛延4年（1751）道普請之時分絵図
②，③，④は①の写図。
「道普請之時分絵図ニ付き居申小札之由也」として，附札45枚がある。

7649　御普請橋并百姓自普請書上申帳　16.78—24
10丁　24cm
文化12年（1815）能登奥郡の橋名，橋の長さ，所在地を御普請及び百姓自普請に分類し書上げ

たもの。

7650　越中国道程書　16.78—25
98丁　27cm
金沢および越中の主要箇所から越中各地への距離を記す。越中の基準箇所は埴生，蓮沼，今石動，小矢部，福町，立野，金屋本江，杉木新町，津沢，福光，城端，福野，戸出，中田，中野，三日市(砺波)，町新庄，和田，猪谷，高岡，大門，小杉，大白石，氷見，伏木，仏生寺，吉久，放生津，水戸田，嶋村，東岩瀬，滑川，魚津，三日市(新川)，浦山，舟見，泊，岩峅寺，上市，芦峅，愛本，入膳，横山，雑。

7651　越中国道程帳　16.78—26
手写
2冊　32×23cm
正保4年（1647）12月の書上げで，幕府へ提出したものの控と草稿。越中における大道・脇道毎に主要部落間の里程，道路・河川等の状況について記すが，草稿と思われるものは道路状況等についての記載は詳細。「加越能三州道程記」（特16.78—1）と関連。

7652　越中御普請所絵図　16.78—27
高畠厚定手写　天明8年（1788）
絵図1枚　28×78cm
高畠定辟旧蔵。越中領内の主要な町，村間の里程を記す。

7653　往還筋橋々相調書上申帳　16.78—28
手写
18丁　24cm
文化13年（1816）9月の書上げ。新川郡内の東岩瀬往来，生地往来の各橋名と寸法・架橋費用の出所等について記す。

7654　小松より上口越前境迄之記〔等〕　16.78—29
44丁　12×18cm
小松より上口越前境迄之記，小松より広瀬橋通金沢迄之記の2つを記す。附録として吉崎道之記，小塩橋立道之記・吉竹村道之記を含む。

7655　〔富山ヨリ二俣越外三筋道懸リ駅村等見取絵図〕　16.78—30
万延元年（1860）
絵図1枚　彩色　28×56cm
二俣越外三筋道とは熊野往来，高岡より戸出往来，大門新町より庄川々筋戸出道。

7656　亀谷ヨリ有峰マデ道程見取之図　16.78—31
絵図1枚　40×53cm
安井顕比旧蔵。表題は「従亀谷到有峰道程見取之図」。安政2年（1855）9月の書上げ。「亀谷ヨリ有峰村マテ和田川通新道ニ可相成ケ処伐分間数大綱記之」と亀谷より牧谷までの間数を記し，絵図には古道・伐分道・見分道・野宿小屋・昼食所・休処を記入する。亀谷・有峰間に新道を伐開く際の見分図。

7657　従加州羽州秋田迄道程等之覚　16.78—32
9丁　12×18cm
宝暦3年（1753）10月の書上げ。金沢より越後新潟迄の道程と旅行案内を記す。新潟より秋田迄の部分欠。

7658　越後寺泊ヨリ江戸表へ清水峠新道之記　16.78—33
清三郎著
手写　嘉永7年（1854）
5丁　12×35cm
中川典克旧蔵。寅3月越後寺泊において支配清三郎が田中屋弥兵衛・弥三郎に宛たものを嘉永7年(1854)4月御算用場達留から写したもの。公儀禁道が解けた清水峠新道における米荷通行の可能性について報告し，本道三国峠越えの場合とも比較する。

7659　下通細註　16.78—34
有沢永貞著
正徳5年（1715）
33丁　15.5×21cm
越中・越後境より越後高田迄を記す。永貞の自筆か。

7660　東海道駅路図　16.78—35
巻子1　24cm
江戸より金沢迄の駅名と宿駅間の道程を記す。

7661　江戸道中覚書　16.78—36
手写
3丁　8.5×09.5cm
申の9月16日に金沢出立，26日に江戸に到着するまでの武士の簡略な道中日記。

7662　江戸至金沢図　16.78—37
1帖　21cm
東海道経由江戸・金沢間の道中絵図。名所・旧跡の解説を記す。

7663　金沢江戸間山川記　16.78—38
片岡孫作手写
67丁　23.5cm
木沢源五郎所蔵の写。金沢から江戸（下街道）までの地名，距離，山川，名所，旧蹟等を和歌などを交えた紀行文風の地誌。

7664　下街道行程記　16.78—39
94丁　24.5cm
金沢より江戸までの道程をいくつかに分け，それぞれの景観，村名，風俗，名所，旧蹟等を記している，明和2年（1765）の記述がある。

7665　下通山川駅路之図　16.78—40
1帖　彩色　18cm
宿駅間の距離も記す。

7666　下通山川駅路分間之図　16.78—41
沢田員矩著
宝暦10年（1760）
巻子1　彩色　27cm
宿駅間の本馬駄賃を付す。沢田(矩員)は京都森謹斎門人。

7667　江戸至金沢北陸道駅路記　16.78—42
93丁　21cm
江戸本郷から金沢御城（中仙道経由）までの行程，旧蹟等を記す。
旧書名「北陸道駅路記」。

7668　江戸より金沢迄の道しるべ　16.78—43
90丁　14.5×19.5cm
江戸より中仙道，新井を経て金沢迄の下道中の道しるべと，道中之節諸事聞書（旅行心得）。

7669　中仙道木曽路通リ金沢迄行程記　16.78—44
手写　弘化5年（1848）
28丁　12×18cm
広瀬氏旧蔵。宿ごとの領主・代官・本陣などとともに村名・名所なども記す。

7670　従武州江戸至加州金沢中仙道山川駅路之図　16.78—45
1帖　彩色　19cm
縮尺は1里1寸。
旧書名「中仙道山川駅路之図」。

7671　従武州江戸至加州金沢中仙道山川駅路之図　16.78—46
巻子1　彩色　24cm
有沢采女吉旧蔵。前号と同一内容。ただし，街道沿いの見聞記事を付箋にて記す。
旧書名「中仙道山川駅路之図」

7672　金沢板橋間駅々里程表　16.78—47
有沢永貞（梧井庵）著
手写
1通　37cm
髙畠定辟旧蔵。有沢永貞の作図を寛政11年（1799）田辺政巳が校訂したもの。金沢・板橋間の宿駅間の距離を記し，翌日の宿泊地までの行程計算の便に備えたもの。

関所・宿駅・人足

7673　境御関所御条目等写　16.78—48
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
境関所は越中新川郡にあり，越後との領境に位置する。内容年代は寛文11年（1671）～天明8年（1788）。天明4年（1784）越中境奉行勤方帳を含む。

7674　〔境関所等之図〕　16.78—49
絵図1枚　26×108cm
中川典克旧蔵。境（越中），市振（越後），関川（越後），碓水（上野）の各関所の絵図と心得を

記す。旧書名「境関所之図」。

7675　木滑御定書　16.78—50
手写
14丁　24.5cm
木滑は白山麓幕府領境との関所で，寛永17年（1640）石川郡吉野村に建てられたが，のち木滑に移った。亥6月付の横山左衛門等より富永伝左衛門宛の覚（関所定書，貼紙に寛永12年とあるが，寛文11年の誤か）と木滑・河原山・別宮口留付足軽の誓詞を収録。

7676　都テ宿村送等ニ付一件　16.78—51
手写
37丁　24cm
表紙には「御郡奉行在勤中高畠善左衛門所持」と記されている。旅人煩人や境関所通行人等の宿送りに関して，寛文年間より文久年間迄の定めや事例を載せる。

7677　〔飛騨守様御上使宿調口上書〕　16.78—52
大聖寺屋喜右衛門著
1通　25cm
宝永元年（1704）飛騨守（大聖寺藩三代利直）の金沢御出の節，一行の泊所，人数，供等に付口上書。小松御町会所宛。

7678　他国往還送者之儀御覚書を以被仰渡候御請帳　16.78—53
手写　宝永6年（1709）
9丁　24cm
富田権六郎旧蔵。往還煩人の扱方定めに対する請書。これは元禄8年（1695）の定めを改めたもの。

7679　二俣道往来一巻　16.78—54
手写
16丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。津幡・竹橋両宿より諸荷物脇道附越し禁止の願いにつき，二俣道は先規の通り往還同事とし，小原道は荷物附越し禁止の決定を下した一件を記す。享保16年（1731）9月～同17年（1732）4月の記事を収めるが，明暦4年（1658）の先規等も収録する。

7680　〔道中人馬先触之件達書〕　16.78—55
手写
1通　18cm
宝暦8年（1758）11月付菅浪下野守の人馬先触は五街道と水戸佐倉道往来に限るとの達と，文政4年（1821）9月道中奉行石川主水正の役人に五街道について問合せた内容を記す。

7681　〔江州今津駅荷問屋株立に付算用場達〕　16.78—56
手写
1通　25cm
文政6年（1823）5月，近江今津領代官今津甚右衛門宛の達。今津駅の9軒の荷問屋を問屋株に申付けるというもの。旧書名「今津甚右衛門口上書」。

7682　脇往還筋行程取調之儀従公辺被仰渡之御書上留帳抜書　16.78—57
19丁　24cm
表題は「脇往還筋行程取調之儀従公辺被仰渡天保四年御書上ニ相成候一件副書所留帳之内抜書」とある。天保4年（1833）幕府より脇往還筋行程取調について領内より江戸表への通行の道筋・里数・継場小名等を書上げた一件を記し，幕府に提出した「加賀守領分往還筋道程等調理帳」の写を収録する。

7683　脇往還道筋調方一件留帳　16.78—58
62丁　24.5cm
天保7年（1836）幕府から五街道以外の脇往還の人馬継立の宿駅調査を命ぜられたのに対し，各奉行にその旨を達し，各奉行から調査した結果を報告した一件を綴る。

7684　北国脇往還人馬継立帳　16.78—59
今津村肝煎次郎兵衛等著
自筆
2冊　24.5cm
天保7年（1836）今津村肝煎次郎兵衛等と海津中村町肝煎治郎兵衛等の書上げの2冊。両村とも近江高嶋郡にあり，加賀藩領。宿駅の状況，近隣宿への道程，本馬・軽尻・人足賃銭，助郷村について記す。

7685 北陸道往還越前国ヨリ越中能登国へ之道筋等書上申帳　16.78—60
小松町肝煎平左衛門等著
自筆
8丁　25cm
小松町より上下諸宿等への人馬定賃割増の書上げ。小松町肝煎等6名より算用場宛。天保7年（1836）の書上げ。

7686 粟生往来指支候節等不時宿継場所　16.78—61
7丁　27.5×20cm
天保7年（1836）の脇往還筋人馬継立宿駅調査の際の書上げか。手取川舟渡が差支え，粟生往来通行不能の際，柏野・小松間は長屋(蝶屋)，本吉，湊，福島，浜開発，下江，高坂，大島，上牧，梯出を迂回するが，その際の本馬・軽尻・人足の賃銭と里程を記す。

7687 人馬賃銭并道程書上申帳　16.78—62
湊村肝煎市郎右衛門・本吉町肝煎名兵衛等著
自筆
2冊　24cm
2冊とも天保7年（1836）崎田達之助宛の書上げ。崎田より算用場に提出されたもの。
①能美郡湊村肝煎市郎右衛門の書上げ。湊より長屋（蝶屋）村，福嶋村までの道程及び本馬・軽尻・人足の賃銭を記す
②石川郡本吉町肝煎名兵衛・久次郎の書上げ。本吉より湊までの本馬・軽尻・人足の賃銭を記す。
両者とも手取川出水で粟生村渡舟が利用できない時の脇道往来として利用された。

7688 松任ヨリ上宿下宿道程并賃銭書上申帳　16.78—63
松任町肝煎孫次・転馬肝煎伊右衛門著
自筆
3丁　24.5cm
天保7年（1836）松任町肝煎孫次・同所転馬肝煎伊右衛門の書上げ。松任より柏野，水嶋，野々市の各宿までの道程，本馬・軽尻・人足賃銭について記す。

7689 金沢町人馬賃銭并道程書上申帳　16.78—64
伝馬肝煎九六著
自筆
3丁　24cm
天保7年（1836）10月伝馬肝煎九六より町奉行所へ書上げたもの。北国往還金沢町より野々市，津幡への距離と本馬・軽尻・人足賃銭を書上げる。

7690 五街道之外往還宿駅人馬継立候ケ所書上申帳　16.78—65
町年寄橘蔵等著
自筆
4丁　24cm
天保7年（1836）11月魚津当番町年寄橘蔵等より魚津町奉行宛の書上げ。全国的宿駅調査に答えたもので，魚津宿より滑川宿・三日市宿までの距離と本馬・軽尻・人足賃銭等について記す。

7691 越中今石動宿上下モ継場賃銭等書上申帳　16.78—66
今石動町問屋静兵衛著
自筆
5丁　24×18cm
天保8年（1837）10月今石動町問屋静兵衛より今石動奉行宛に提出されたもので，同奉行明石主計から御算用場へ進達された。内容は今石動宿より埴生・竹橋・立野・高岡への本馬・軽尻・人足の賃銭等について記す。

7692 往還人馬継立宿駅書上申帳　16.78—67
高岡町肝煎半左衛門等著
自筆
4丁　24cm
天保9年（1838）3月町肝煎半左衛門等より高岡町会所宛の書上げ。越中射水郡高岡町より今石動・立野・小杉新町までの距離，本馬・軽尻・人足賃銭等について記す。

7693 脇往還筋書付　16.78—68
本保平太夫編
手写
29丁　27.5×20cm
表題「松平加賀守領分内脇往還筋書付」。天保9年（1838）幕府へ提出したものの控か。北国往

還のうち，加賀藩領分の泊，舟見，浦山，三日市，魚津，滑川，小杉，高岡，立野，今石動，埴生，竹橋，津幡，金沢，野々市，松任，柏野，水嶋，粟生，寺井，小松，入善，海津，今津の各宿について，近隣宿駅への道程，本馬・軽尻・人足賃銭，草高，宿人馬数等を記す。

7694　脇往還筋書付　16.78—69
手写
29丁　24.5cm
表題「松平加賀守領分内脇往還筋書付」。天保8年（1837）の書上げ。幕府へ提出するための草稿か。内容は前号と全く同じ。

7695　脇往還筋書付雛形　16.78—70
3丁　24cm
前号の雛形。

7696　〔江戸三度揺取伊勢彦兵衛届〕　16.78—71
巻子1　15cm
付箋「未三月廿四日信州大地震」。未（弘化4年）4月2日江戸三度揺取伊勢彦兵衛より御会所宛。御台所御用の飛脚より信州地震の見聞届書。

7697　金沢御城下より京都迄西街道筋御備人足御仕法書　16.78—72
小沢一仙著
手写
6丁　24cm
井上如苞旧蔵。慶応3年（1867）7月付小沢一仙より加州御算用方役人宛の仕法書。カケ所の備人足175人の飯米・給銀等を書上げる。著者は甲州八代郡上黒駒村神産山武神主武藤少記別家。旧書名「金沢より京都迄西街道筋御備人足御仕法書」。

7698　〔御蔵米等馬下駄賃銭の方に通用銭拝借願〕　16.78—73
戸出村平左衛門等著
自筆
1通　24cm
明治元年（1868）10月付。城端御蔵米馬下方下才許戸出村平左衛門等から御扶持人衆中に銭五千貫文の借用願。旧書名「御蔵米等馬下駄賃直上ニ付願書」。

7699　下道中産物并人馬賃銭記　16.78—74
19丁　13×19.5cm
渡辺庸旧蔵。下道中（信越経由）江戸往来の各宿駅間の人足・本馬・軽尻の賃銭と宿駅の特産物について記す。

7700　御蔵米川下馬下賃償之覚　16.78—75
手写
1通　17cm
城端などの蔵米を川や馬で運搬する時の賃償願高の覚。

7701　魚津奉行宿渡帳　16.78—76
8丁　12×17cm
成瀬正居旧蔵。佐分儀兵衛等大聖寺藩士，上・下446人の宿割りを記す。

7702　品川宿荷物賃目記録　16.78—77
山崎加右衛門著
手写
2丁　24cm
前田貞醇旧蔵。子4月，山崎加右衛門の書上げ。品川宿における本馬・軽尻・人足持の荷物の賃目の制限重量について記す。

7703　〔御馳走出役書〕　16.78—78
1通　16cm　包紙
牧野遠江守領小諸町の御馳走役人数（下目付永井次右衛門以下15人）を列挙。

7704　旅行之節諸事聞書　16.78—79
手写
39丁　15×21cm
富田権六郎旧蔵。表題は「旅行覚紀」。旅行の際の手続，心得，持参品等について記載し，早使・早追道中・早飛脚についても記す。

7705　鉄道会社条例新定並該社利益保証法発行之儀建白　16.78—80
安場保和等著

手写
7丁　24.5cm
明治14年（1881）安場保和ら6人の建白書を中心に，日本鉄道会社創立の経緯を略記。

特16.79　水　　運

出　入　津

7706　宮腰粟崎出入一巻　16.79—1
手写　寛政元年（1789）
13丁　26cm
高畠定辟旧蔵。享保3年（1718）商売荷物水揚の権限をめぐる争論。

7707　大野粟ケ崎湊之義ニ付詮義書等写　16.79—2
手写
18丁　23.5cm
内容は寛政4年（1792）入津荷物取捌方をめぐる宮腰と大野村・粟ケ崎村との訴答関係文書を収録。

7708　御国産他国産小木湊積入等之品有増　16.79—3
手写
2丁　12×32cm
中川典克旧蔵。「海運方小木ノ分」とあり，積入れられる国産品・他国産品を書上げる。

難　船

7709　難船取捌及船数録　16.79—4
前田家編輯方手写　明治年間
86丁　23.5cm
○難船取捌方格帳　寛文11年（1671）～寛政5年（1793）多田六右衛門所蔵の写
○難船方　多田氏所蔵の写
○諸船員数調理帳　嘉永2年（1849）鹿島郡小竹村九平所蔵の写。能登口郡における村毎の渡海船・猟船・耕作通船・潟猟船数と所有者名を調査したもの。羽咋市加藤家所蔵本の写か。

7710　〔難舟一巻御定并今津米難舟之事〕　16.79—5
高畠厚定手写　安永5年（1776）
12丁　11×17cm
高畠定辟旧蔵。原題「難舟一巻御定并明和八年今津米難舟之事」。寛文11年（1671）御定及び明和8年（1771）小松沖での難船記録。

7711　安部屋浦ニテ御城米積船致破損申ニ付出役始終二人番〔留書〕　16.79—6
真館弥左衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24cm
寛政5年（1793）4月，能州安部屋浦で幕府の御城米船が破損した時，鹿島郡の十村真館弥左衛門・笠師村喜八郎が出役した一件を記す。同日加賀藩の大坂登せ米積船が難風のため，安部屋浦へ流寄った一件も記す。旧書名「安部屋浦ニテ御城米積船致破損申ニ付出役始終二人番」。

7712　越後高田御役人中より到来紙面之写并口書　16.79—7
手写
10丁　24cm
前田栄次郎旧蔵。天保6年（1835）4月越後高田榊原式部大輔内柴田金右衛門より，加賀藩士12人が名立宿より海路能生宿へ向ったところ難船し，今町浦へ荷物が流れ寄ってきたことを伝えたときの一件を記す。

7713　公義御城米難船取捌之記　16.79—8
高畠定辟手写　文久2年（1862）
35丁　17×12.5cm
高畠定辟旧蔵。内題「文久二年五月廿九日夜珠洲郡森腰浦於沖合難船同所へ上陸及届候ニ付注進之上出役取捌一件」。

7714　漂流并無人島より帰着の次第　16.79—9
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。天明7年（1787）鳳至郡鹿磯村市之丞，石川郡大野村長兵衛が乗組んだ御城米屋船が犬吠崎沖で難船し，八丈島付近の無人島に漂着した後，寛政9年（1797）6月自力で脱出して八丈島まで帰着した一件。八丈島役人

へのロ書の写とロ郡番代与四兵衛が市之丞より事情聴取した調書収録。

7715　無人島へ漂着之者於八丈嶋口書写　16.79—10
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　23.5cm
真館氏所蔵の写。前号と同事件。市之丞・長兵衛が加賀藩会所へ提出したロ書と八丈嶋役人に出したロ書を収録。

7716　摂州兵庫高田屋嘉兵衛ヲロシヤ船之者ニ被召捕候一件　16.79—11
手写　明治初年
10丁　24cm
真館氏所蔵の写。文化9年（1812）の事件で，高田屋嘉兵衛船観世丸水主であった鳳至郡劔地村仁衛ロ上書写（文化9年12月，馬場村喜右衛門宛）。および同年12月付の伊藤氏（馬場村喜右衛門か）の「附記」，「船手より写取虚実如何」を付ける。

7717　高田屋嘉兵衛等漂流一件　16.79—12
手写
10丁　24cm
原題「文化九年十二月摂州兵庫高田屋嘉兵衛等五人異国船之者捕連行候次第写」。前号の仁兵衛ロ上書写の部分と同一内容。

7718　理之助漂流一件　16.79—13
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23cm
羽咋郡冨木村之内地頭町村百姓理助弟理之助の漂流一件記録。理之助は酉2月出船，戌10月房州沖で難船し，中国船に助けられ，丑10月長崎へ送還され，金沢へ引き取られた。ここには丑11月28日付の理之助引取に関する奥村典膳書状と，丑11月16日付の理之助の申上書をのせる。

7719　加賀高松村浜へ漂流之舟様子書并絵図　16.79—14
酒見村八三郎・森村藤蔵著
手写
巻子1　28cm　包紙
酉2月，酒見村八三郎・森村藤蔵より高山表五郎・杉山新平宛の漂流船の見分書および絵図。旧書名「高松村浜へ漂流之舟様子書并絵図」。

運　河　計　画

7720　鹿嶋郡一青組舟尾村等入海ヨリ邑知潟迄川筋等絵図面　16.79—15
巻子1　37cm
元治元年（1864）6月作成。「鹿嶋郡一青組舟尾村等入海ヨリ邑知潟迄川筋船通行江川筋等分間絵図々式百間曲尺三寸磁石目盛三百六十度」とある。舟尾村川尻・川尻村川尻より二宮川およびその支流を遡行し，末坂，一青村領の堀割を経て長曽川に出，邑知潟まで到る運河の計画絵図。堀割，河川改修箇所，距離，深さ等を記入する。

7721　〔舟路切通し等詮議ニ付存寄書〕　16.79—16
巻子1　16cm
辰11月（明治元年）所口御馬廻中山良蔵等が心付の趣を書上げたものに対し，改作奉行が意見を記したもの。所口より邑知潟舟路切通し，河北潟乗用解禁，河北潟水吐切通し，浅野川水吐切通し，往還浜方へ付替，二俣越往来指解，能登島流刑地廃止，舟路新堀川について記す。
旧書名「能登開発ニ付心附書」。

7722　神保半之丞心附書　16.79—17
巻子1　17cm　袋入
交通の便宜のため河北郡津幡より石川郡水嶋迄の陸路に替えて，水路を建てるべき旨の上申書

7723　能登国内海鹿島郡大津村湾堀割口造り上ケ之図　16.79—18
絵図1枚　彩色　184×315cm
明治6年（1873）4月付，3,000分の1の図。大津村から羽咋郡堀松村，安部屋村まで運河開削を計画した時のもの。

特16.8 学　　問

特16.80 宗　教・哲　学

総　　記

7724 寺社帳　16.80—1
金地院著
土師某手写
3冊　20.5cm
別名「天下寺社帳」。寛文8年（1668）成立。上巻は神社，中・下巻は寺院よりなり，各地の寺社の朱印高・開基等が記されている。

7725 諸事雑録　16.80—2
手写
100丁　14.5×20cm
茶湯・教女子法・諸宗宝鏡の項あり，宗教・道徳等に関する日常的諸知識等を記す。

7726 日本諸家人物志鈔　16.80—3
手写
8丁　24cm
以下の学者についての簡略な事蹟・記録。松永昌三・林羅山・平岩仙桂・木下順庵・新井白石室鳩巣・南部景衡・兵仲道・服南郭・釈無隠東洞・稲若水・大雅堂・新井白蛾。

7727 幽谷先生遺稿　16.80—4
藤田幽谷著　男彪編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
乾坤の2冊。表・論・書・記・碑碣・祭文・告文・題跋・雑・伝・詩の部よりなる。

神　　道

7728 三教之道　16.80—5
有沢某手写　正徳2年（1712）
1通　17cm
三教の道は時代により変化するが，神武の法のみは古今変わることがないと記されている。

7729 山王行麻呂記　16.80—6
祝部行丸著
今枝直方手写　享保7年（1722）
45丁　27cm
山門首楞厳院本の写。天正10年（1582）原本成立。日本国大小神祇調の追加の部。日吉神社神道秘密記等，元亀2年（1571）9月の大乱により焼失した分の再調であるとしている。

7730 中臣祓記聞　16.80—7
田中知顕著
寛保3年（1743）
22丁　12.5×17.5cm
寛保3年（1743）田中知顕講義の講述筆記で玉淵某が記したもの。

7731 中臣祓聴書　16.80—8
手写
22丁　22cm
「中臣祓トハ祓，各也此祓ハ天児屋根命ノ岩戸ノマヘニテ宣玉フ御詞也」とあり。

7732 寛坐之大事伝受之記　16.80—9
奥村尚寛著
寛政4年（1792）
5丁　22.5cm
著者は藩士奥村宗家10代で，青山九郎兵衛知親から伝授された事情について記したもの。

7733 白山禅頂私記　16.80—10
僧勝慶編
森田平次手写　嘉永4年（1851）
44丁　24cm
永正5年（1508）原本成立。別名「白山禅頂御本地垂跡由来私伝」本地垂迹説に基づく白山信仰論。刊本「白山比咩神社文献集」参考。

7734 〔越前国南条郡川濯大権現〕社記　16.80—11
菅原為弘編
手写
5丁　24cm
内題「越前国 南条郡 府中高瀬郷 川濯大権現社記」。

7735　群書襍抄別巻　神社考　16.80—12
手写
9丁　24cm
林道春著「本朝神社考」の抜萃で，主に北野天満宮関係の資料。

7736　田中平亟書翰　16.80—13
田中式如(平亟)著
1通　16cm
8月19日付，永井伝七郎宛。御神酒すすの口にさす紙の折形について問に答えたもの。

7737　神祇道服忌令　16.80—14
4丁　18×25.5cm
父母の死の場合の服忌期間など神祇道として守るべき事を記す。

7738　〔服除護符〕　16.80—15
1枚　12×5cm　包紙
袋書「服除御守護」。

7739　南部祇知書翰等　16.80—16
手写
3通　23cm　袋入
①5月11日付横山宮司宛南部祇知書状写。内容は二の丸御殿襖絵，表御式台の彫物龍などについて
②横山宮司宛祇知書状写。内容は佐那武大明神と八幡宮の縁起について
③某書状写，細川侯・薩摩侯・水戸侯の屋形号等について記す。
横山宮司は気多神社宮司・白山比咩神社宮司となった横山政和のことか。

仏　教

7740　釈氏往来　16.80—17
今枝直方手写　宝永7年（1710）
27丁　21.5cm
僧侶の消息往来集。難句等に註解を附す。

7741　御懺法伝記　16.80—18
今枝直方手写　享保5年（1720）
36丁　26cm
元禄11年（1698）に権大僧都実観が写したものの写。文安2年（1445）時房公記・文明8年（1476）尭胤法親王記・文亀2年（1502）藤原元長記の御懺法の部類記なり。

7742　興福寺伽藍焼失之数量　16.80—19
巻子1　17cm
中川典克旧蔵。興福寺焼失場所及面積等が記されている。治承4年（1180）の件か。

7743　運心巡礼秘記　16.80—20
光宗著
今枝直方手写　享保5年（1720）
20丁　27cm
比叡山楞厳院所蔵の写。正和元年（1312）原本成立。比叡山延暦寺の各塔頭，日吉神社各社の縁起。

7744　叱枳尼尊天大秘法　16.80—21
之韶著
宝暦4年（1754）
1通　34.5cm
真言密教の呪法のひとつで，この法を修得すれば通力を得るという秘法書。

7745　真言経教書留　16.80—22
巻子1　17cm
経の功徳を説き読経を勧めたもの。

7746　相陽鎌倉郡腰越万福寺略縁起　16.80—23
万福寺編
文政3年（1820）　刊
2丁　24.5cm
外題「瑠璃峯万福寺略縁起」。「明治二十八年腰越村にて求」と書入あり。
旧書名「鎌倉田代観世音，腰越万福寺略縁起」。

7747　田代堂観世音菩薩略縁起　16.80—24
相州鎌倉田代寺編
刊
4丁　25cm
「阪東第三番札所」の朱印あり。浄土宗安養院。
旧書名「鎌倉田代観世音，腰越万福寺略縁起」。

7748　和語四十八願　16.80—25
道円著
22丁　24cm
第一「無三悪趣」の願以下阿弥陀佛の四十八願を記す。

7749　宝勝寺千岳和尚啓書写　16.80—26
僧千岳著
手写
巻子1　28cm
中川典克旧蔵。宝勝寺は金沢市寺町の臨済宗寺院で，寛永8年（1631）に僧千岳が建立。千岳が寛永12年（1635）に浄土宗如来寺蒲右に送った啓書2通の写し。

7750　心源禅師諸稿　16.80—27
玉室等著
手写
79丁　24cm
内題「直指心源禅師偈頌」。「芳春書院所蔵」とあり。心源の画賛文等を集めたもので，奥書に「此是直指心源禅師一生之閑葛藤就于古紙中輯之……」とあり。

7751　極秘一ケ条　16.80—28
奥田勝政著
巻子1　17cm
「其根本ヲ知テ其理致ヲ窮メシ来由之事」とあり，法華四諦について記す。

7752　至徳元季法事記　16.80—29
手写
11丁　24cm
延宝7年（1679）中院前大納言通茂手写の再手写。崇光天皇の母である陽禄門院（正親町公秀の女）の法事見聞記。

7753　年忌帳　16.80—30
手写
35丁　12×18cm
法事，献立書など，明治11年（1878）のもの。

儒　　学

7754　釈菜記　16.80—31
林春斉著
今枝直方手写　元禄11年（1698）
30頁　20cm
寛文4年（1664）成立。湯島聖堂における釈菜の際の講義録。

7755　釈菜問答　16.80—32
手写
12丁　20cm
寛文12年（1672）成立。春秋隠公元年春王正月章を論題とした講義及問答書。

7756　鳩巣不亡鈔　16.80—33
室直清(鳩巣)著
手写　文政8年（1825）
4冊　24cm
①学問の事，学書の事，礼楽の事，師範の事，朋友并故人の事
②孝養の事，一家の事，閨門の事，育子の事，忠義の事，諫言の事，致仕并隠遁の事
③主君の事，農工商の事，水土の事，税法の事，制禁の事，賞罰并養士の事，諸官人の事，奉行并執権の人事
④武士平常の事，武士戦場の事，葬喪祭の事，追腹の事。

7757　鳩巣小説　16.80—34
青地礼幹編
2冊　24cm
今枝氏旧蔵。鳩巣小説は，可観小説の最初2冊にあたるといわれている。巻頭に「鳩巣室先生所著駿臺雑話大行千世余敬服其学識久矣頃獲顕鳩巣小説者其書以国字録多係友用往返之言間雑以識見無一不興起士気維持風教者寔為先生手録也必厳謹繕写蔵諸篋笥附以此言。
安永壬辰之冬，備前後学井上正俠識」とある。
特16.28—177と関連あり。

7758　〔新井白蛾の書簡〕　16.80—35
新井白蛾著
安永6～7年（1777～78）

3丁　28.5×20cm
安永6年（1777）「医則序」，安永7年（1778）「徂来手書」からなる。

7759　奥村・新井問答書　16.80—36
奥村尚寛・新井白蛾著
手写　寛政2～3年（1790～91）
45丁　27cm
新井白蛾と奥村尚寛の師弟間の儒学問答書。「奥村問書」・「古易館答書」よりなる。

7760　問答録別集　16.80—37
16丁　23cm
巻頭に「此集辛亥十月ヨリ後回答等ノ事ヲ筆」とあり。新井白蛾儒学問答集。

7761　通卦五隣伝精義　16.80—38
新井祐登（白蛾）著
38丁　24cm
易書。白蛾は，朱子学者，寛政3年聘せられて学校学頭となり侍読を兼ね，寛政4年78才没。

7762　慎斎襍著　16.80—39
奥村尚寛著
自筆　寛政4～9年（1792～97）
10冊　23cm
①大学管窺草藁，孝経管窺草藁　②中庸管窺　③論語愚鈔(乾)　④論語愚鈔(坤)　⑤孟子略説　⑥易学類篇講録　⑦読易秘説　⑧古周易経断私解　⑨管窺筆録初編草藁　⑩読書筆記。

7763　射覆断　16.80—40
新井白華・新井致堂著
自筆　文化12年（1815）
20冊　11.5×18cm
「射覆記」「射覆断纂」などともいう。1～14は白華，14～20は致堂。寛政4年（1792）～文化12年（1815）にかかる日々の易断書。

7764　射覆断　16.80—41
新井白華著
自筆
8冊　11.5×18cm
「断書」ともいう。易断書。各占い毎に評断を附す。

7765　新井白蛾・雍州先生伝　16.80—42
小林白蛾著
前田家編輯方手写　明治年間
6丁　25cm
天保9年（1838）成立。易傳天眼通・書古易館易傳後より成る易書。旧書名「易伝天眼通」。

7766　老子俚解　16.80—43
上田耕著
手写
2冊　24cm
老子の解釈，注釈書，原本成立は安政3年（1856）。

7767　大学末章講義跋　16.80—44
河合萬編
自筆　安政4年（1857）
3丁　24cm
「大学」末章の解釈。「長国家節」国家・君主について記す。

7768　河図洛書　16.80—45
文久元年（1861）
5枚　18×24cm・18×28cm
菅野久兵衛旧蔵。易経の基となったといわれる河図4枚，洛書1枚よりなる。河図洛書とは中国の古代の神亀の背模様，龍馬の施毛をかたどったものといわれる。
旧書名「河図等」。

7769　大学私考　16.80—46
加藤義孝著
手写　文久3年（1863）
70丁　24cm
「大学」につき，経籍来由・作者・名義等についての私考。

7770　亥軒文稿　16.80—47
永山平太著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
永山平太の遺稿。漢文体の論文随筆等，亥軒は

平太の号，儒を修め明倫堂で教え，幕末に謎を得たが，明治になって集議院に参じ・ついで金沢藩少属となり，置県以後は教師となったが，明治12年没65才。
①菅公画像記，竹月堂記，孔子誅少正卯弁等
②故賜致仕馬廻番頭江守君墓碣銘，卯辰山開拓録序等。

7771　木下順庵書翰集　　16.80—48
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　24cm
諸書物に関する依頼・質問の返答書翰・書物考等よりなる。

7772　中江氏書翰　　16.80—49
手写
61丁　22cm
藤樹書簡・中江先生教化状等と呼ばれるものと同種で，中江藤樹より門下の者達に送った倭文書簡集。

7773　大学国字解　　16.80—50
淡山鶴剛夫編
19丁　23cm
戸水信義旧蔵。「淳熙己酉2月甲子新安朱熹序す」。
「大学」解義，各章句毎に解義を附す。

7774　易経大義考　　16.80—51
陸義猶著
5冊　24cm
易経の解義。
①提要・数義・蓍義・卦義・筮法・上経
②下経
③上繫辞傳・下繫辞傳
④文言・説卦傳・序卦傳・雑卦傳・卦象傳
⑤大傳よりなる。

7775　醫語榜文　　16.80—52
3丁　25cm
大野木克征旧蔵。大学・論語・左伝・荘子・中庸などから抜粋した醫語を集めたもの。

7776　天地瑞祥志・天文要録・六関記　　16.80—53
22丁　28.5×20.5cm
標目の3記の他，後二条関白記，深心院基平公記，猪隈関白記等書目。

7777　心理談　　16.80—54
陸義猶著
自筆
94丁　24cm
性と神と心及び感通と知覚の別，知覚の諸作用，霊魂説など。心理学の誤謬とその本質について記す。

7778　生理談　　16.80—55
陸義猶著
自筆
36丁　24cm
西洋性理説の批判書。西洋生理説の誤謬，生出の理に於る誤謬・生長の理に於る誤謬よりなる。

7779　性理談　　16.80—56
陸義猶著
自筆
109丁　24cm
和漢道学者，西洋哲学者の論ずる性命の理につき諸説をあげ，その当否につき所見を述べる。

7780　駁利学　　16.80—57
陸義猶著
61丁　24cm
「利学の大意及共由来」他，7編13章よりなる。教育を興し，風俗を矯正するという目的をもって道学の誤謬について記す。

7781　駁老仏　　16.80—58
陸義猶著
自筆
70丁　24cm
儒学の立場から老，仏二教は空無の説であるとして批判したもの。空無・寂滅・中道・妙・因果等の項よりなる。

7782　抱玉談　16.80—59
陸義猶著
明治39年（1906）
3冊　24cm
明治維新後流入した西洋思想に対する批判書。
①誠・自然・善美・天地・鬼神・陰陽
②空無・寂滅・中道・差別・生滅・因果等
③道徳の世界・善美の世界・快楽の世界等の項目よりなる。

7783　附評大疑録　16.80—60
大野通明校　陸義猶評
明治42年（1909）
68丁　27.5×19.5cm
貝原篤信が朱子学に対する疑問を体系的に述べた「大疑録」に陸義猶が評を附したもの。

7784　大島柴垣上書等　16.80—61
大島桃年(清方・柴垣)等著
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　23cm
大島多計比古所蔵の写。大島清太言上物控5通・井上熊蔵等書簡22通。

7785　家相方位図　16.80—62
森川甚作手写　天保8年（1837）
1枚　38×37cm

国　学

7786　高津鳥之事　16.80—63
田中知顕（朋如・通称平丞）著
寛延2年（1749）
巻子1　17cm
有沢致貞宛。知顕は加賀藩士，小瀬優庵の3男で，加賀藩士田中式如の養子となり家学の国学に通じた。享保20年300石を継ぎ，出銀奉行，近習番を勤めたが，非行あって明和7年五ヶ山に配流，同年没64才。

7787　高津鳥之勘文　16.80—64
有沢致貞著
脇田尚方手写　文政6年（1823）
巻子1　20cm　袋入
脇田尚保旧蔵。田中知顕「高津鳥」の奥秘相伝書。

7788　高津鳥之勘文　16.80—65
有沢致貞著
手写　寛政4年（1792）
1通　17cm　包紙
田中知顕「高津鳥」の奥秘相伝書。

7789　客窓雑記　16.80—66
横山蔵人著
慶応2年（1866）
28丁　25cm
横山政和旧蔵。洋学批判，佐野鼎と横山蔵人との問答形式にまとめてある。

7790　国学雑記　16.80—67
19丁　12×34.5cm
日本書（ヤマトフミ），神日本等の語の解説書。各解説毎に4月3日～6月3日の日付が附されている。

倫　理・道　徳

7791　伊勢貞近家訓　16.80—68
伊勢貞近著
手写　延宝4年（1676）
17丁　24cm
内題「為愚息教訓一札」伊勢貞近の子息貞宗に与えた教訓書。長禄年間（1457～60）原本成立。

7792　和漢諸氏訓誡　16.80—69
大野木克明編
天和3年（1683）
3冊　26cm
①漢馬援「誡兄子書」ほか漢諸氏訓誡
②「十七条憲法」ほか和諸氏訓誡
③斯波義重「竹馬抄」ほか和諸氏訓誡。

7793　仮設補正成下諸士教二十箇条　16.80—70
室直清(鳩巣)著
手写
35丁　22cm

元禄5年（1692）成立。時代と共に人心も変化するに及び自他のいましめとして記す。楠正成壁書附。教訓書。

7794　藤樹先生遺訓　16.80—71
有沢武貞手写　元禄10年（1697）
14丁　21cm
末尾に「此一冊両編者藤樹先生欤滋山氏之作畢」とあり。孝養を説く。

7795　あふむの噛り　16.80—72
遠藤高璟著
手写
42丁　27cm
人生における因果応報・礼義作法等を記した教訓書。文化4年（1807）大乗寺湛堂の序あり。

7796　鑑戒談叢　16.80—73
藤克明著
2冊　26cm
奉信仰神徳可恐天道事外33項よりなり，樵談治要・大学等種々の例をあげ戒めを記す。

7797　教家要語　16.80—74
藤克明著
1帖　21cm
原題「教家要語，訓戒数類左右銘」。大野木克征旧蔵。生活上の訓戒となる古語，座右銘を記す。

7798　形影問答初録　16.80—75
40丁　24.5cm
士の心懸，軍・国家等についての問答録。

7799　西明寺殿教訓　16.80—76
手写
76頁　22cm
西明寺殿（鎌倉幕府五代執権北条時頼）が子息左馬頭時宗に与えた教訓書。

7800　嗟歎支亡録　16.80—77
前田家編輯方手写　明治年間
27丁　23cm
奥村栄滋所蔵の写。武士としての生活規節，教訓を記す。

7801　道徳書　16.80—78
陸羲猶著
自筆
13丁　26.5cm　帙入
儒学思想にもとずく道徳論，明治期の成立。物の所以・欲・仁・愛等につき記す。

7802　道徳談　16.80—79
陸羲猶著
2冊　23.5cm
明治維新後，流入した西洋思想に対し，その弊を述べ，世道の頽廃を正すとして記されたもの。一連の教育・風俗・思想第について記されたものに「性理談」・「心理談」・「生理談」・「駁利学」・「駁老荘」あり。

特16.81　武　　学

軍　学　書

7803　甲陽軍鑑附甲陽武田之系図　16.81—1
高坂昌信編　有沢永貞校
手写　宝永8年(1711)
24冊　27cm
①総目　②～⑧合戦之巻　⑨，⑩勝頼之記　⑪～⑬集書　⑭～⑰聟牛之巻　⑱，⑲石水寺物語　⑳，㉑公事之巻　㉒軍法之巻　㉓備定之巻　㉔甲陽武田之系図。流布本の18～39品を合戦之巻，50～59品を勝頼之記とするなど永貞の独自の解釈で編纂している。永貞筆は首巻のみ，本文は別人の手写，甲陽軍鑑清書（特098.0—65）を参照。

7804　甲陽軍鑑註解　16.81—2
有沢永貞著
自筆　正徳2年(1712)
38丁　27cm
表題「軍鑑註解」。自序と凡例。凡例は「甲陽軍鑑」の書誌的解説。甲陽軍鑑時代，作者，古事古語，事蹟精粗他家之伝，再伝之異本，世上流布并転作，本旨発明古戦場国絵図古城当城，

合戦迫合大小変化について述べる。

7805　甲陽軍鑑註解自序　16.81—3
有沢永貞著
手写
4丁　23cm
今枝氏旧蔵。正徳2年(1712)原本成立。前号の自序と同じ趣旨を述べるが，表現はかなり異なる。

7806　甲陽軍鑑略譜　16.81—4
有沢永貞著
自筆　貞享3年（1686）
4冊　22cm
①，②，③は合戦之巻略譜。①は大永元～天文16年（1521～47）②は天文17～永禄4年（1548～61）③は永禄5～天正元年（1562～73）④は勝頼之記略譜，天正元～10年（1573～82）。

7807　甲陽軍鑑略譜　16.81—5
有沢永貞編
自筆　貞享3年（1686）
4冊　24cm
表題は「略譜」。前号と同内容。旧書名「甲陽軍鑑合戦之巻略譜」。

7808　甲陽軍鑑略譜　16.81—6
有沢永貞編
手写
2冊　27cm
今枝氏旧蔵。前号と同内容。表題は「略譜」。①大永元～永禄4年（1521～61）。②永禄5～天正10年（1562～82）。旧書名「甲陽軍鑑合戦之巻略譜」。

7809　甲陽軍鑑略譜　16.81—7
有沢貞庸著
自筆
3冊　27cm
有沢永貞の「甲陽軍鑑略譜」（前号）のうち，合戦之巻略譜3冊を引用しながら解説を加えたもの。

7810　甲陽軍鑑軍法之巻暁困抄　16.81—8
有沢永貞著
手写
3冊　23cm
内題には「甲陽軍鑑旅亭暁困抄」とあり。原本成立は正徳元年(1711)。第三巻末尾に軍法之巻を学んだ次第を記し，18才の時から学び，25才で試註を作り免許を得たが，心にかなわず，改めて註を加えたとする。

7811　甲陽軍鑑軍法之巻抄　16.81—9
有沢永貞著
3冊　26cm
外題「軍濫之巻抄」。内題「旅亭暁困抄」。内容は前号に同じ。旧書名「甲陽軍鑑軍法之巻」。

7812　甲陽軍鑑軍法之巻三箇条合戦備定輯説　16.81—10
有沢永貞編
有沢貞庸手写　寛政11年(1799)
19丁　23cm
正徳2年(1712)原本成立。表題は「三箇条備定輯説」。「甲陽軍鑑」軍法之巻中の「三ケ条合戦備定之事」に関する「兵法雌鑑」・「兵法雄鑑」（北条氏長撰）・「士鑑用法」・「兵法神武雄備集」・「武教全書」（山鹿義昌編）等の諸書の注釈を集めたもの。

7813　甲陽軍鑑軍法之巻三箇条合戦備定輯説　16.81—11
有沢永貞編
16丁　28×19.5cm
外題「三箇条合戦備定輯説」。今枝氏旧蔵。前号に同じ。

7814　甲陽軍鑑軍法之巻三箇条合戦備定輯説　16.81—12
有沢永貞編
23丁　23cm
今枝氏旧蔵。前号に同じ。

7815　甲陽軍鑑抜要抄　16.81—13
有沢永貞著
自筆　貞享3年（1686）
44丁　24cm
表題「軍鑑抜要抄」。内題に「備定始末極意」とあり，甲州備之伝授につき「甲陽軍鑑」末書

の諸説を集めたもの。末尾に貞享4年（1687）佐々木四郎兵衛秀乗の有沢九八郎（永貞）宛の奥書あり。永貞・梧井庵の印があるが，末尾に「享和三癸亥歳孟夏下旬朱点成」とあり，あるいは永貞以外の手写か。

7816　甲陽軍鑑抜要抄　16.81—14
有沢永貞著
44丁　26cm
今枝易直旧蔵。備定始末極意。奥書に「此一巻ニ備ノ説々ヲ集テ其利ヲ一貫ス」とあり。

7817　甲陽軍鑑抜要抄　16.81—15
有沢永貞著
46丁　24cm
前号に同じ。

7818　甲陽軍鑑末書大絵図　16.81—16
有沢永貞著
自筆　元禄3年(1690)
絵図8枚　彩色　53×48cm　袋入
吉崎尚佳旧蔵。①七筒条之図　②無馬出之図　③後堅固城図　④真丸馬出邪曲輪　⑤真丸馬出之図　⑥横矢之図　⑦平城本図　⑧図は「此両図旧伝七枚之図内有，末書を以相改為外之者也」とあり。

7819　甲陽軍鑑末書下巻下　16.81—17
有沢永貞校
2冊　26cm
表題は「末書下巻下」。9巻2冊よりなり，1～5巻は城取・陣備等，6～9巻は寡戦・衆戦等を記し，甲陽軍鑑中の軍制に関する中心部となっている。元禄4年（1691）の有沢永貞による校訂本。

7820　甲陽軍鑑末書下巻下　16.81—18
有沢永貞校
手写
2冊　24cm
今枝氏旧蔵。原本は元禄4年（1691）成立。表題は「甲陽軍鑑末書下巻下九品」「甲陽軍鑑末書下巻」とあるが，内容は前号と同じ。
旧題名「甲陽軍鑑末書」。

7821　甲陽軍鑑末書〔通解〕　16.81—19
有沢永貞著
自筆　元禄16年(1703)
9冊　22cm
表題は「下巻下」，内題は「末書」とあるが，甲陽軍鑑末書下巻下の注解書。末書下巻下は一～九品で構成され，本書の各冊をあてる。元禄16年(1703)成立。永貞の自筆草稿。
旧書名「甲陽軍鑑末書」。

7822　甲陽軍鑑末書通解　16.81—20
有沢永貞著
手写
9冊　26.5cm
表題は「末書通解」。原本は元禄16年（1703）成立。前号を清書したもの。

7823　軍鑒末書鈔　16.81—21
有沢永貞著
今枝直方手写　宝永元年(1704)
4冊　27cm
今枝氏旧蔵。「甲陽軍鑑末書」下巻下の注解。内容は前号に同じ。下巻下九品の内，①に1～3，②に4・5，③に6・7，④に8・9の各巻を収録する。

7824　甲陽軍鑑末書結要本　16.81—22
有沢永貞校
2冊　26cm
9巻2冊よりなり，甲陽軍鑑，同末書の奥旨を記したものとされ，1～6巻には古今名将生質・功業等が，7～9巻には軍法・術策・事業の奥儀とされるものがまとめられている。奥書に「于時元禄辛未之仲夏下旬金沢堀川之住宅去歳類焼之後仮営茅屋而書之畢」とあり，元禄4年(1691)成立。

7825　甲陽軍鑑結要本〔通解〕　16.81—23
有沢永貞著
自筆　元禄16年(1703)～宝永元年(1704)
11冊　22cm
表題は「結要本」。甲陽軍鑑結要本の注釈書。第一巻は元禄16年（1703）12月に起筆し，第十一巻は宝永元年（1704）12月に完成。①～⑦は

結要本の各巻に合わせ，⑧⑨は第八巻，⑩⑪は第九巻を収録。有沢永貞の自筆草稿。⑪の末尾の永貞の奥書に「堀川暁困抄ト名付ヘシ」とあり，「堀川暁困抄」と題するつもりであったようである。旧書名「甲陽軍鑑結要本」。

7826　甲陽軍鑑結要本通解　16.81—24
有沢永貞著
手写
9冊　27cm
表題「結要本通解」。前号を清書したもの。但し，有沢永貞筆ではない。原本成立宝永元年(1704)。①～⑨は結要本の各巻に合わせる。

7827　三品甲陽軍鑑結要九之内　16.81—25
小幡景憲著　有沢永貞校
3冊　26cm
表題は「三品」とのみあるが，「甲陽軍鑑結要九之内三品」のこと。三品は①龍韜品　②虎略品　③豹業品。本書は元禄7年(1694)に有沢永貞が校訂したもの。

7828　甲陽軍鑑三品解　16.81—26
有沢永貞著
有沢貞庸手写
4冊　27.5×19.5cm
表題は①龍韜品前　②龍韜品後　③虎略品全　④豹業品全。この三品は甲陽軍鑑結要本に加えたもので小幡景憲の作。それを永貞が註解したもの。永貞の原本成立は元禄7年(1694)。

7829　三品龍韜抄　16.81—27
有沢永貞著
91丁　25cm
今枝氏旧蔵。「甲陽軍鑑結要九之内三品」のうち龍韜品について註を加えたもの。正徳5年(1715)成立。三品とは龍韜品・虎略品・豹業品をさし，以下2冊は一連のもの。

7830　三品虎略抄　16.81—28
有沢永貞著
50丁　25cm
今枝氏旧蔵。「甲陽軍鑑結要九之内三品」のうち虎略品について註を加えたもの。正徳5年(1715)成立。

7831　三品豹業抄　16.81—29
有沢永貞著
46丁　25cm
今枝氏旧蔵。「甲陽軍鑑結要九之内三品」のうち豹業品について註を加えたもの。正徳5年(1715)の成立。末尾に小幡氏伝と有沢永貞の「三品豹之巻抜」を収録。

7832　軍法出所　16.81—30
有沢永貞著
今枝直温手写
2冊　23cm
元禄8年(1695)原本成立。甲陽軍法名儀制法中興之品目として，軍法之巻，末書，結要本および三品(龍韜品，虎略品，豹業品)の品目を解説する。

7833　甲陽軍法出所　16.81—31
有沢永貞著
手写
2冊　22cm
前号に同じ。

7834　甲陽軍法出所　16.81—32
有沢永貞著
67丁　26.5cm
前号に同じ。

7835　甲陽軍鑑攻戦地理之図　16.81—33
有沢永貞著
絵図1枚　62×105cm
甲陽軍鑑に関係した関東・東海・信濃・美濃・飛騨地方の図。町村・山岳・城郭・社寺・峠・古戦場名等を記す。永貞が延宝・天和間に調査し，貞享年中に完成したが，その後，それを縮小したもの。

7836　甲陽四将之伝　16.81—34
有沢永貞著
自筆
12丁　18×24cm

甲斐武田四家の武田信繁，高坂昌信，山本晴行（勘介），馬場信房の4人の伝記をまとめたもので，甲陽軍鑑考証の一つ。

7837　甲陽軍鑑拾遺書翰　16.81—35
32丁　22cm
甲陽軍鑑所載の書翰抜萃。宝永7年（1710）成立。有沢永貞の編か。

7838　軍配之秘説　16.81—36
佐々木秀乗著
手写
2通・絵図5枚18cm・18×19cm　袋入
封書上書に「貞享丙寅孟夏初六佐々木氏秀乗印可牒伝受之次而ニ軍配之秘説尋聞伝之」とあり貞享3年(1686)有沢永貞が伝授されたものか。内容は「軍配之内私之覚書」の一部に関連するもの。

7839　兵法諸軍配自註　16.81—37
有沢永貞著
自筆
25丁　24cm
「甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目」について註解したもの。奥書で有沢貞庸が「右正本無相違所如件」と記し，永貞の自筆本であることを確認している。

7840　諸軍配自註　16.81—38
有沢永貞著
手写
43丁　24cm
前号と同内容。旧書名「甲陽軍鑑諸軍配自註」。

7841　軍配増註秘解　16.81—39
有沢永貞著
脇田直方手写
25丁　24cm
脇田尚保旧蔵。永貞の「兵法諸軍配自註」の写本。

7842　諸軍配解　16.81—40
19丁　24cm
前号とはそれぞれ同じ品目について解説するが，内容は少しずつ異なる。旧書名「甲陽軍鑑諸軍配解」。

7843　諸軍配極秘　16.81—41
有沢永貞著
30丁　24cm
今枝氏旧蔵。宝永3年(1706)成立。甲州流相伝の軍配の説を記す。題簽に要本とあるが，前号とは内容は大幅に異なる。

7844　甲州流軍配極秘伝集　16.81—42
75丁　23cm
脇田尚保旧蔵。甲陽軍鑑軍法之巻及び末書の軍配の項目に関し，有沢永貞が武貞門弟に伝授した内容を記す。

7845　甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目　16.81—43
有沢武貞著
1帖　18cm
甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目(宝永2年)，甲陽軍鑑本末二書并龍虎豹之三品等に出る軍配之内私之覚書(宝永2年)，大星(宝永2年)，十一段太鼓（元禄8年有沢永貞が記したものを享保20年有沢武貞が清書)，采牌伝授(元禄8年成立，享保20年武貞改める)，氏長軍配之伝（宝永2年永貞が記したものを享保20年武貞改める)，山鹿義昌（矩カ）先生奥秘之口伝（享保20年)，新品之内奥秘（享保20年)，七種三重之相伝（享保20年)，九箇条裏之伝（享保20年)，日本書紀巻第三（神武本紀)。軍配に関する秘伝書。

7846　兵法諸軍配　16.81—44
有沢武貞著
宝永2年(1705)
巻子1　18cm
甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目，甲陽軍鑑本末二書并龍虎豹之三品等に出る軍配之内私之覚書，大星(大星二乗伝)。軍配に関する秘伝目録。
旧書名「甲陽軍鑑兵法諸軍配」。

7847　軍配之内私之覚書　16.81—45
有沢武貞著
巻子1　21cm
「甲陽軍鑑全部并三品等軍配之内私之覚書」の

品目のみ。五気・廿八宿繰様・三九十字七字之根元・旺相門・八節・破軍・三宝三天所在之方。旧書名「甲陽軍鑑軍配之内私之覚書」。

7848　軍配口解　16.81—46
有沢武貞著
自筆
38丁　23cm
宝永2年(1705)成立。「甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目」の各条を解説したもの。

7849　三品軍配秘註　16.81—47
有沢致貞著
手写
14丁　24cm
今枝氏旧蔵。有沢致貞が「甲陽軍鑑結要九之内三品」の抄を書いた時，別に奥秘として正徳5年（1715）表わしたものを享保7年（1722）に再書したもの。龍韜品・虎略品の軍配に関する品目を註解。

7850　諸軍配記聞　16.81—48
16丁　23cm
「甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目」の注解。奥書に文化5年(1808)有沢貞庸より津田長八郎宛に「右正授之記聞見届之所如件」とあり。
旧書名「甲陽軍鑑諸軍配記聞」。

7851　甲陽軍配品目秘抄　16.81—49
村上清貞著
脇田尚方手写　天保4年(1833)
55丁　23cm
脇田尚保旧蔵。原本は文政13年（1830）成立。「甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目」の各条を解説する。前号と内容が異なる。

7852　諸軍配聞書　16.81—50
27丁　23cm
今枝氏旧蔵。前号と同じ品目について注解するが，内容は異なる。甲陽軍鑑の軍法之巻・末書・結要本などにみえる軍配について解説する。

7853　大星二乗之伝　16.81—51
有沢武貞著
1通　20cm
宝永2年(1705)原本成立。秘伝書目録。旧書名「甲陽軍鑑大星二乗之伝」。

7854　大星二乗之伝　16.81—52
1通　17cm
文化9年(1812)有沢貞庸・師貞より奥村左京・今枝内記宛の秘伝書目録。裏に文化9年貞庸・師貞より前田修理宛の免状もあり，下書きか。
旧書名「甲陽軍鑑大星二乗之伝」。

7855　二乗之伝口解　16.81—53
有沢武貞著
自筆
21丁　23cm
宝永2年(1705)成立。大星は太陽のこと，神武天皇以来，古今の武将がそれを利用して戦ってきたとし，その極秘を説く。前号の註解書。末尾に寛政2年(1790)梧井庵現主の「右正本之処如件」の記載があり，原本か。

7856　二乗之伝口解　16.81—54
有沢武貞著
手写
16丁　27cm
今枝氏旧蔵。前号の写。

7857　大星二乗之伝解　16.81—55
有沢武貞著
22丁　24cm
「二乗伝口解」と同内容。旧書名「甲陽軍鑑大星二乗之伝解」。

7858　大星秘伝抄　16.81—56
脇田尚方手写　天保4年(1833)
23丁　23cm
脇田尚保旧蔵。大星は甲州流軍学の軍配に関するもので，有沢永貞が五カ条の大綱を立て，その子武貞が宝永2年(1705)にその伝を作成したとする。その口伝目録を註解するが，武貞の「二乗之伝口解」とは内容が異なる。

7859　大星二乗伝解　16.81—57
8丁　23cm

前号と同様逐条的に解釈を加えるが，内容は異なる。旧書名「甲陽軍鑑大星二乗伝解」。

7860　武貞末書纂註　16.81—58
有沢武貞著
手写
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。「甲陽軍鑑末書下巻下九品」の纂註。一・二巻を欠き，①三～七巻　②八，九巻を収録。有沢武貞口授の書を文政8年(1825)松架堂吉岡宏が記したものの写。表題「永貞末書纂註」は「武貞末書纂註」に訂正してあり。

7861　軍法図解　16.81—59
有沢致貞著
24丁　23cm
宝永7年(1710)原本成立。甲陽軍鑑軍法之巻の内容を図示したもの。

7862　略譜小解　16.81—60
有沢致貞著
自筆
4冊　23cm
甲陽軍鑑合戦之巻と同勝頼之記の略譜の註解。①～③合戦之巻　④勝頼之記。享保6年(1721)成立。①大永元～天文16年(1521～47)，②天文17～永禄4年(1548～61)，③永禄5～天正元年(1562～73)，④天正元～同10年(1573～82)。旧書名「甲陽軍鑑略譜小解」。

7863　略譜小解　16.81—61
有沢致貞著
手写
3冊　24cm
今枝氏旧蔵。前号の写本。①～④のうち②を欠く。旧書名「甲陽軍鑑略譜小解」。

7864　略譜小解　16.81—62
有沢致貞編
手写
4冊　23cm
前田利嗣旧蔵。特16.81—60の写本。

7865　甲陽軍鑑九ケ条粗註　16.81—63
有沢致貞著
手写
24丁　24cm
享保6年(1721)原本成立。武貞が定めた「甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目」のうち城取九ケ条の註解書。末尾に「右九ケ条は宝永元年六月中旬武貞聞書する所の一書なり，今其に因て少々前後文字を置替増減して以て九ケ条の大意を述ぶ……」とある。

7866　軍法巻講解　16.81—64
有沢致貞著
手写
65丁　23cm
脇田尚保旧蔵。寛保2年（1742）原本成立。「甲陽軍鑑」の軍法之巻を解説したもの。軍法之巻講解は有沢永貞が行なっているが，致貞はさらに理解しやすいように表わした。

7867　甲陽軍鑑軍法之巻正解　16.81—65
41丁　24cm
脇田尚保旧蔵。表題は「軍法之巻正解」。軍法之巻の逐条を解説する。本文には著者の記載はないが，「加能郷土辞彙」によれば有沢致貞とする。

7868　甲陽軍鑑軍法之巻集註　16.81—66
2冊　23cm
本文には著者の記載がないが，「加能郷土辞彙」によれば有沢致貞とする。

7869　三品抄　16.81—67
有沢致貞著
手写
3冊　26.5cm
正徳5年(1715)原本成立。三品は①龍鞜品　②虎略品　③豹薬品を指し，甲陽軍鑑結要本9冊の内の要文を抜き書きしたものと，書き洩れの要文を補ったものの2説がある。本書はその注釈書。享保6年(1721)今枝恒明手写本の写。

7870　甲陽軍鑑私考　16.81—68
有沢盛貞著

手写
16丁　23cm
宝暦９年（1759）原本成立。「甲陽軍鑑」末書結要本等の構成と成立について従来の見解を否定し私見を述べる。

7871　甲陽軍鑑奥秘之口伝　16.81—69
有沢有貞著
自筆
１通　19cm
寛政10年(1798)有沢有貞が木村惣左衛門に宛てた秘伝書。甲陽軍鑑の城取九カ条を列記するが前欠のため最初の一カ条を欠く。

7872　五行方角之図　16.81—70
手写　宝永３年(1706)
絵図１枚　54×52cm
甲陽軍鑑末書下巻下四により作図。

7873　新品甲陽軍鑑抜書　16.81—71
今枝直方手写　正徳５年(1715)
６冊　27cm
今枝氏旧蔵。表題は，①新品暑到来寒到来　②新品前集　③新品後集　④新品彼巻此巻　⑤新品中興源記　⑥新品折本。

7874　新品甲陽軍鑑抜書　16.81—72
手写
９冊　26cm
表題は，①新品寒到来上　②新品寒到来下　③新品前集　④新品後集　⑤新品武備軍要（後集之内）⑥新品彼巻　⑦新品此巻　⑧新品中興源記前(巻一，二）⑨新品中興源記後(巻三，四)。

7875　甲陽軍鑑軍法之巻　16.81—73
有沢師貞手写　天保２年(1831)
14丁　24cm
「甲陽軍鑑」軍法之巻のうち，信玄公御出陣前三ケ条ならしの事から城取の事まで抜書したもの。永貞の印があるが，奥書によれば師貞の手写。

7876　甲陽軍鑑軍法之巻　16.81—74
手写
14丁　24cm
内容は前号に同じ。

7877　〔甲陽軍鑑〕軍法之巻裏書　16.81—75
小幡景憲著
手写
10丁　22cm
表題は「軍法之巻裏書」。末尾に尾畑(小幡)勘兵衛尉景憲の名で「右広瀬美濃守景房早川弥三左衛門尉幸豊物語之通聞書是也」と記す。

7878　甲陽軍鑑軍法之巻演義　16.81—76
２冊　23cm
脇田尚保旧蔵。表題は「軍法之巻演義」。「甲陽軍鑑」のうち第十五巻軍法之巻を逐条的に解説したもの。末尾で永貞について言及しており，有沢門下の著。

7879　甲陽軍鑑軍法之巻演義　16.81—77
手写
２冊　24cm
成瀬正居旧蔵。表題は「軍法之巻演義」。前号と同内容。

7880　甲陽軍鑑軍法之巻聞書　16.81—78
26丁　24cm
軍法の巻の逐条を解説するが，内容は特16.81—64に類似する。

7881　甲陽軍鑑軍法之巻聞書　16.81—79
手写
72丁　23cm
今枝氏旧蔵。表題は「軍法之巻聞書」。軍法之巻の逐条を註解する。

7882　軍法之巻註　16.81—80
11丁　23cm
「甲陽軍鑑」軍法之巻を部分的に要点をまとめたもの。

7883　甲陽軍鑑末書辨略　16.81—81
９冊　27cm
表題には「末書辨略」とあり，虚心斎の草稿。元治元年(1864)～慶応元年(1865)成立。末書下巻

の下九品の内容を逐条的に註解する。

7884　甲陽軍鑑末書聞書清書　16.81—82
木村某著
76丁　22cm
甲陽軍鑑末書下巻下九品のうち一～三を逐条的に解説。

7885　甲陽軍鑑末書師説集　16.81—83
手写
2冊　23cm
末書下巻下九品を逐条的に解説したもの。①巻一～巻四　②巻五～巻九。

7886　甲陽軍鑑結要本等城之図　16.81—84
手写
絵図1冊(18枚)　38cm×27cm
甲陽軍鑑結要本，同下巻，真の習，行の習の城郭図を収録。旧書名「甲陽軍鑑結要本城之図」

7887　甲陽軍鑑抜書戦功巻　16.81—85
河嶋義絶編
手写
25丁　23cm
表題は「戦功巻」。慶安3年(1650)河嶋義絶の奥書あり。小幡景憲の講釈を筆録したとする。

7888　甲陽軍鑑編輯由来記等　16.81—86
清水錦郷著
手写　文政8年(1825)
19丁　23cm
脇田尚保旧蔵。「甲陽軍鑑編輯由来記」「甲陽軍鑑伝来之事」の外，「隠密之事」，「本朝礼剣之本拠之事」を収録。

7889　甲陽軍鑑諸家系図　16.81—87
85丁　22cm
今枝氏旧蔵。表題は「軍鑑之諸家」。「甲陽軍鑑」に名の出る源氏・平氏より尼子・宇喜多までの主要なる34家系図。

7890　軍鑑諸家系図　16.81—88
手写
88丁　23cm
甲陽軍鑑に出る諸家の姓名を抜き出し，それぞれについて系図を作ったもの。系図は著者自身の考証に拠るものであり，甲陽軍鑑に出てくる人名には朱線を施している。前号と同内容。表紙に「雑録」173とあり，有沢氏の旧蔵か。

7891　甲州家之系図　16.81—89
手写
20丁　23cm
武田家の系図と，武田家一族，有力家臣の系図を収める。有沢氏の甲陽軍鑑考証作業の一つ。表紙に「雑録」174とあり。

7892　甲陽軍鑑合戦之年月　16.81—90
1通　12cm
甲陽軍鑑中の合戦の年月日を抜書したもの。大永元年(1521)武田信玄誕生日の福島合戦から天正10年(1582)勝頼の死まで29の合戦を列記。

7893　〔甲陽軍鑑合戦之巻并石水寺物語読仮名〕　16.81—91
手写
2丁　17×12cm
甲陽軍鑑合戦之巻三之上・下，石水寺物語上・下より抜書した語句に読み仮名をつけたもの。

7894　武田備要抄　16.81—92
有沢永貞（九八郎）著
手写
3冊　22cm
梧井庵の印あり，有沢家の旧蔵か。武田備要抄は「此三巻は甲州信玄公御備定手組手分之大概且軍役出立人品等追加之是軍鑑末書ニ出ル所猶其伝受ヲ集考テ記之」としたもの。永貞が寛文7年（1667）初筆，同10年中案を作り，貞享2年（1685）校正・追加し，同3年清書したもので，同年佐々木四郎秀乗より伝授されたことを記した奥書を受けた。
①甲陽備定之図并其断之事
②旗本手組諸道具諸役者之事
③軍役・出立・人品。

7895　武田備要抄　16.81—93
有沢永貞著

手写
3冊　20cm
今枝氏旧蔵。前号と同内容。
①甲陽備定之図并其断之事
②旗本手組諸道具諸役者之事
③軍役・出立・人品。

7896　武田備要抄　16.81—94
有沢永貞著
脇田尚方手写　天保9年(1838)
82丁　23cm
脇田尚保旧蔵。貞享3年(1686)4月佐々木四郎兵衛秀乗より有沢九八郎(永貞)に伝授されたもの。甲陽備定之図并其断之事，旗本手組諸道具諸役者之事，軍役・出立・人品を合冊する。

7897　武田備要抄　16.81—95
有沢致貞著
有沢貞庸手写
3冊　27cm
武田備要抄は貞享3年(1686)4月佐々木四郎秀乗より有沢九八郎(永貞)に伝授されたもの。表題に「武田備要抄」とあるが，内容は「備要小解」と同一。
①甲陽備定之図並其断之事
②旗本手組諸道具諸役者之事
③軍役・出立・人品。

7898　備要小解　16.81—96
有沢致貞著
自筆　享保6年(1721)
3冊　22.5cm
「武田備要抄」を註解したもの。享保3年(1718)に一応完成したが，その後補訂し，同6年に清書したとする。

7899　備要小解　16.81—97
有沢致貞著
手写
3冊　24cm
今枝氏旧蔵。前号と同内容のものであるが，享保3年(1718)成立のものの写。

7900　備要抄小解　16.81—98
有沢致貞著
手写
3冊　23cm
享保6年(1721)原本成立。「武田備要抄」に註解を加えたもの。特16.81—96の写。
①甲陽備定之図并其断之事
②旗本手組諸道具諸役者之事，先手々組之大概，備定大法諸道具諸役者之事
③軍役・出立・人品。

7901　兵法抜書疋夫抄　16.81—99
有沢永貞著
寛文4年(1664)
5冊　24cm
兵法解説，①軍詞之巻　②軍礼之巻　③撰功之巻　④兵器之巻　⑤武功之巻。次号の原本か。⑤に寛文4年記とあり，①に寛文年中記とあるも，③に「有沢永貞著自筆元禄二年閏正月」と後世の朱書付箋あり。

7902　兵法抜書疋夫之抄　16.81—100
有沢永貞著
5冊　21.5cm
①軍詞之巻　②軍礼之巻　③撰功之巻　④兵器之巻　⑤武功之巻よりなる，前号を書写したもの。

7903　兵法抜書疋夫之抄　16.81—101
有沢永貞著
5冊　22cm
①軍詞之巻　②軍容之巻　③撰功之巻　④兵器之巻　⑤武功之巻。寛文4年(1664)作成のものを，元禄2年(1689)に永貞自身が校正・清書したもの。前号とはかなり相違がある。

7904　兵法抜書匹夫鈔　16.81—102
有沢永貞著
今枝直温手写　元禄13年(1700)
5冊　24cm
今枝氏旧蔵。仁—軍詞巻，義—軍容巻，礼—撰功巻，智—兵器巻，信—武功巻よりなる。本書には「故直温自聞自書之解註」が附されている。直温は直方の早逝した子。

7905　匹夫之抄五城之図　16.81—103
有沢永貞著
自筆
絵図4枚　35×87cm　袋入
①左右両図之平城　②平城　39cm×37cm　③平山城　43cm×36cm　④山城　42cm×36cm。
旧書名「甲陽軍鑑匹夫之抄五城之図」。

7906　兵法抜書疋夫抄　16.81—104
有沢武貞著
今枝直温手写
50丁　24cm
今枝氏旧蔵。内題「兵法抜書疋夫抄撰功之巻」とあるが，実は「疋夫之抄私解」の写。

7907　兵法抜書匹夫之抄私解　16.81—105
有沢武貞著
22冊　23.5cm
有沢永貞の「兵法抜書疋夫之抄」（特16.81—101）についてその長子有沢武貞が解説したもの，正徳4年（1714）成立。「軍詞之巻」上中下，「軍容之巻」前後，「撰功之巻」天地人，「兵器之巻」1～6，「武功之巻」智仁勇，秘伝，加文，「斥候之巻」視観察の22冊よりなる。

7908　兵法抜書匹夫之抄私解　16.81—106
有沢武貞著
5冊　23.5cm
「軍詞之巻私解」の中下2巻と「武功之巻私解」上中下の計5冊のみ。享保年間に玉甫が校合した由の朱書がある。

7909　〔匹夫之抄桃水私解巻之四〕　16.81—107
有沢永貞著　有沢武貞補
45丁　27.5cm
「軍容之巻」の一部（特16.81—105の「軍容之巻」前）。桃水は武貞の号。旧書名「兵法抜書疋夫之抄」。

7910　〔兵法抜書疋夫之抄〕図解　16.81—108
有沢武貞著
7冊　26cm
表題「図解」。宝永4～5年（1707～08）原本成立。①軍詞前　②軍詞後　③軍容・撰功　④兵器上　⑤兵器中　⑥兵器下　⑦武功。「疋夫之抄私解」の図解編。

7911　武功秘伝　16.81—109
有沢武貞著
手写
20丁　24cm
内題「武功之巻之内秘伝」。正徳4年(1714)武貞輯。今枝氏旧蔵。「忍ノ緒早キ結様，具足着用而刀抜様」など馬術・鎗・刀の奥秘を記す。特16.81—105の一部。

7912　武功加文　16.81—110
有沢武貞著
手写
31丁　24cm
内題「武功之巻加文」。宝永5年(1708)永貞輯，正徳4年(1714)武貞校正。今枝氏旧蔵。武功をあげるための心得，諸道具の取扱い等に付き，古例をあげて記す。特16.81—105の一部。

7913　兵法雄鑑　16.81—111
北条氏長著
手写
25冊　23.5cm
全52巻よりなるが，7・8巻が欠。北条氏長は甲州流兵学者小幡景憲の高弟で北条流兵学をおこす。原本は正保2年(1645)成立と言う。巻1軍法本，巻2人用捨，巻3～巻12城築，巻13前習，巻14武者分，巻15重習，巻16制法，巻17・18手柄批判，巻19出軍，巻20戦地，巻21・22営法，巻23・24物見，巻25足軽，巻26三戦，巻27五戦，巻28座備，巻29備変，巻30寡戦，巻31衆戦，巻32客戦，巻33主戦，巻34城攻，巻35守城巻36騎戦，巻37船戦，巻38計策，巻39夜戦，巻40夜戦，巻40夜守，巻41勝闘，巻42八字，巻43用思，巻44～巻50兵具，巻51覆伏，巻52武功の項よりなる。

7914　兵法雄鑑　16.81—112
北条氏長著
手写
2冊　24cm
巻11～20，巻21～30の2冊よりなり前後欠。

7915　兵法雄鑑　16.81—113
北条氏長著
手写
22丁　25cm
第41巻より第46巻を含む。

7916　兵法雄鑑　16.81—114
北条氏長著
今枝直方手写　元禄5年(1692)
14丁　24cm
今枝氏旧蔵。表題「雄鑑微妙至誠巻」。「兵法雄鑑」の第53巻微妙の巻と54巻至誠(善)の巻を収録。

7917　兵法雄鑑　16.81—115
北条氏長著
手写
巻子2　17.5cm
兵法雄鑑は全52巻よりなるが，①は巻53微妙の項として「大将可存五十ケ条」が箇条書きされ，②は巻54至善の項として，天理之事・方角之事等9項が記されている。

7918　兵法雄鑑　16.81—116
北条氏長著
2冊　30×37.5cm
巻53微妙，巻54止善。

7919　兵法雄鑑抄　16.81—117
手写
3冊　22.5cm
外題「雄鑑抄」。兵法雄鑑は北条氏長著。徳川家光上覧のため寛永18年(1641)に「師鑑抄」42巻として作したものに，正保2年(1645)に補遺・校正を加えたもの。本書は兵法雄鑑に解説を加えたもの。
①兵法雄鑑集作之来由，1～20巻　②21～30巻　③31～52巻よりなる。

7920　士鑑用法　16.81—118
北条氏長著
有沢永貞（俊貞）手写　寛文13年(1673)
43頁　16.5×18cm
北条氏長の「士鑑用法」を写したもの。途中一部を欠く。旧書名「匹夫之功・士鑑用法」。「身働ヲナス者心カクヘキ作法」である匹夫之功と，士法(軍法)としての士鑑用法からなる。

7921　士鑑用法　16.81—119
北条氏長著
手写
48丁　27cm
正保3年(1646)原本成立。末尾に承応2年(1653)遠山信景の跋あり。

7922　用法抄　16.81—120
今枝直方手写　元禄5年(1692)
5冊　24cm
今枝氏旧蔵。北条氏長の「士鑑用法」の註解書。山本重純から借用，筆写したもの。福嶋国隆・山本重純の註の外に，自註も加える。9冊本を5冊にまとめたもの。
①三箇条，序，治内，知外，応変，城取序　②自陣営用法迄　③従出軍五戦迄・寡戦・衆戦　④従騎戦用間行人迄　⑤従応戦匹夫功迄。

7923　士鑑用法抄　16.81—121
山本重純著
11冊　19cm
北条氏長の「士鑑用法」に注釈を加えたもの。貞享元年(1684)成立。
①三箇条，序，治内，知外，応変，城取
②撰地形より雑制まで
③陣・行列・営法
④習・武者分・制法
⑤高名不覚・出陣・戦地
⑥物見・足軽・三戦・五戦
⑦寡戦・衆戦・主戦・客戦
⑧攻戦・守城
⑨騎戦・船戦・用間
⑩夜戦・夜守・覆戦・川戦・逆風逆雨・退追・放火・凱声・匹夫功
⑪賞罰・用思・人用捨・勝負・跋。

7924　用法自鈔　16.81—122
今枝直方著
自筆

2冊　24cm
内題「士鑑用法講談聞書」。北条氏長著の「士鑑用法」を基として諸戦法等を記した兵法書。延宝年中に山本氏（重純か）より聞き，元禄年中に書いたとする。

7925　師監抄聞書　16.81—123
片山了庵著
手写　寛文元年(1661)
20丁　22cm
武士の戦場での心得を記す。若党小者中間出立・陣中可持物ノ事・川越水練道具・血留之薬（その他薬の解説）・修羅鞍并馬，武者堅并一騎武者心得など。末尾に「私ニ云右一冊は越前片山了庵ヨリ二木治部右衛門伝之ヲ弟子ニ授ク所ノ聞書也，然ヲ奥村氏正富ヨリ借之テ写置，粗正富私考之加筆有」などとある。

7926　兵法神武雄備集　16.81—124
山鹿高祐（素行）著
手写
25冊　21.5cm
序文は「壬午春正月某日，杏陰散人正意序」。自序に「慶安辛卯某月某日渉筆曳尾堂」とあり，序文は寛永19年（1642），自序は慶安4年（1651年）。①惣目録并序　②～⑤城制　⑥～⑯武備　⑰～㉕戦律の25冊51巻からなる。

7927　兵法神武雄備集　16.81—125
山鹿高祐（素行）著
手写
5冊　21.5cm
外題「雄備集」。慶安4年(1651)成立。
①城制1～13　②・③武備1～20，④・⑤戦律1～17よりなり，前号の注釈部分を除いたもの。

7928　兵法神武雄備奥儀抄　16.81—126
山鹿高祐（素行）著
手写
65丁　27cm
陰陽兵源，察機，創業篇，守成篇，秘伝目録，地割の5篇よりなる。書名のごとく，兵法神武雄備集の極意奥義の書として兵の本源を示したもの。

7929　兵法神武雄備集奥義　16.81—127
山鹿高祐（素行）著
手写
69丁　21cm
前号と同内容。

7930　兵法神武雄備集第九品軍本総結　16.81—128
手写
158丁　21cm
兵法神武雄備集（特16.81—124）とは内容が異なる。1巻軍本総結・三要，2巻兵法大例結要第一，3巻結要第二，4巻結要第三及び撰将・用士の項よりなる。

7931　孫子講註　16.81—129
有沢武貞著
手写
13冊　24cm
原本は享保3年(1718)草稿なり，翌年再書。①始計　②作戦　③謀攻　④軍形　⑤兵勢　⑥虚実　⑦軍争　⑧九変　⑨行軍　⑩地形　⑪九地　⑫火攻　⑬用間。

7932　孫子十三篇　16.81—130
有沢武貞校
手写
33丁　26cm
今枝氏旧蔵。享保4年(1719)原本成立。孫子の十三篇（始計，作戦，謀攻，軍形，兵勢，虚実軍争，九変，行軍，地形，九地，火攻，用間）に改正点を加えたもの。

7933　陣宝抄聞書　16.81—131
大橋全可著
有沢永貞手写　貞享3年(1686)
5冊　27cm
内題「孫子陣宝抄聞書」。
①始計上，始計下，作戦
②謀攻，軍形，兵勢
③虚実，軍争
④九変，行軍，地形
⑤九地上，九地下，火攻，用間。

7934　孫子記聞　16.81—132
室直清(鳩巣)著
手写　正徳6年(1716)
20丁　23cm
奥書に「奥村子復大兄先年鳩巣先生孫子講説之記聞也」とあり，宝永5年(1708)室鳩巣が奥村脩運(子復)・青地斉賢(伯孜)・石黒知幾(慎徽)・小寺遵路(与義)等に講じたものの聞書。奥村子復所蔵のものを巽之甫が手写したもの。朱書が多いが，享保元年(1716)青地伯孜の記聞で補ったもの。

7935　三略講註　16.81—133
有沢武貞著
手写
5冊　25cm
脇田尚保旧蔵。享保8年(1723)原本成立。享保20年(1735)今枝恒明が手写したものの写。①序跋等　②上略前　③上略後　④中略　⑤下略。

7936　三略諺解　16.81—134
林道春著
手写
52丁　26cm
寛永3年(1626)成立。元禄6年(1693)有沢永貞が書肆で買求め，朱筆を加えている。三略は上略・中略・下略の三巻で，黄石公が前漢の張良に授けたといわれている兵法書。

7937　三略諺解　16.81—135
林道春著
手写
43丁　24cm
前号と同内容。

7938　黄石公三略　16.81—136
橘忠敬手写　享保14年(1729)
25丁　26cm
今枝氏旧蔵。黄石公は漢の高祖の臣張良に兵書を授けたという人物。黄石公三略はその兵書を指すが偽作。末尾に山本基庸，有沢武貞の跋文があり，有沢永貞がこれを校訂し，尊信していたことを記す。

7939　三略私考秘説　16.81—137
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。内題は「黄石公三略私考」。①上略　②中略・下略を註解したもの。

7940　枢密要論　16.81—138
有沢永貞著
手写
4冊　24cm
①首，軍学事理本末流義之弁。貞享3年(1686)原本成立
②干，甲～癸の10編にわける。内容は序段，主本・撰将・武者分・撰功・内習・軍礼・制法・法令・天官・地形・山戦，河戦・斥候・用間・練陣・行軍・営法・城築。元禄5年(1692)成立
③支，子～亥の12編にわける。内容は，主客，攻城・守城・衆寡・歩騎・侍用武功・舟戦・伏戦・火戦・夜戦・夜守・雑戦・戦法・篇題部立之弁。元禄5年(1692)成立。
④末，自修之抜。元禄5年(1692)成立
②，③は武教全書に篇題をとり，永貞と門弟5人と議論して作成したもの。特16.81—152，153参照。

7941　枢密要論　16.81—139
有沢永貞著
手写
24冊　17cm
貞享3年(1686)，元禄5年(1692)原本成立。①首巻　②～⑪は甲～癸　⑫～㉓は子～亥　㉔末巻。内容は前号と同じ。

7942　枢密要論之抄　16.81—140
有沢致貞著
手写
22冊　25.5cm
有沢永貞の「枢密要論」を子致貞が注釈したもの。原本は享保12年(1727)成立。
①甲—序段・主本・撰将　②乙—武者分・撰功・内習・軍礼　③丙—制法・法令　④丁—天官　⑤戊—地形　⑥己—士(侍)用武功　⑦庚—斥候・用間　⑧辛—練陣　⑨壬—行軍・営法　⑩癸—城築　⑪子—戦法・主客　⑫丑—攻城　⑬寅

—守城　⑭卯—衆寡　⑮辰—歩騎・足軽　⑯巳—山戦・河戦　⑰午—舟戦　⑱未—伏戦・火戦　⑲申—夜戦・夜守　⑳酉—雑戦　㉑戌—戦法　㉒亥—篇題部立之弁。本書では序跋を欠く。

7943　枢密要論之抄　16.81—141
有沢致貞著
手写　文化10年(1813)
23冊　23.5cm
前号の22冊に序跋を加える。序は有沢武貞，跋(枢密要論自註之跋)は致貞本人。文化10年(1813)梧井庵四世現主(貞庸か)より吉田又八郎に書写し，授与されたもの。

7944　枢密要論之抄　16.81—142
有沢致貞著
23冊　23.5cm
享保10年(1725)～同12年(1727)にかけて記された序1巻，幹10巻，枝12巻からなる兵書。内容は前号に同じ。

7945　枢密要論之抄　16.81—143
有沢致貞著
手写
23冊　23.5cm
特16.81—140の22冊に序跋を加える。

7946　枢密要論纂註　16.81—144
脇田尚方(澹如亭)著
手写　天保5年(1834)
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。原本文政3年(1820)成立。①枢密要論の甲～癸の纂註　②同，子～亥の纂註。

7947　十役之抄　16.81—145
有沢武貞著
自筆　享保元～7年(1716～22)
34冊　22.5cm
兵法書。①序・目録　②諸士之巻　③使番之巻　④武者奉行之巻　⑤諸之旗奉行之巻　⑥鎗長柄奉行之巻　⑦徒頭中間頭之巻　⑧目付横目之巻　⑨組頭番頭之巻　⑩足軽大将之巻　⑪侍大将之巻　⑫～⑰兵糧方之巻　⑳～㉞小役人之巻　㉟幼若之士之巻　㊱主将之巻(⑱・⑲陣場奉行之巻は欠本で，本来は全36冊のもの)。
享保20年(1735)に朱点を施す。甲州流軍学に従って諸士～侍大将を十役としてその沿革，職務内容，心得を記す。兵糧方以下は追加として記述。

7948　十役之抄　16.81—146
有沢武貞著
手写
19冊　25cm
今枝氏旧蔵。表題に「十役之抄」とあるが，内容は「十役之抄自解」。原本は享保5～7年(1720～22)成立。①諸士之巻　②使番之巻　③武者奉行之巻　④諸之旗奉行之巻　⑤鎗長柄奉行之巻　⑥目附横目之巻　⑦徒頭中間頭之巻　⑧組頭番頭之巻　⑨足軽大将之巻　⑩侍大将之巻上　⑪侍大将之巻下　⑫兵糧方之巻上　⑬兵糧方之巻下　⑭陣場奉行之巻　⑮小役人之巻上　⑯小役人之巻下　⑰幼若士之巻　⑱主将之巻　⑲序跋凡例。享保7年(1722)今枝直方手写の写。

7949　十役之抄　16.81—147
有沢武貞著
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　23cm
表題は「十役之鈔」とあるが，内容は前号と同じく「自解」。
①諸士之巻・使番之巻・武者奉行之巻・諸之旗奉行之巻・鎗長柄奉行之巻　②目付横目之巻・徒頭中間頭之巻・組頭番頭之巻・足軽大将之巻　③侍大将之巻　④兵糧方之巻　⑤陣場奉行之巻　小役人之巻　⑥前編幼若之士之巻・後編主将之巻・序跋之巻。

7950　十役之抄諸士之巻自解　16.81—148
有沢武貞著
手写
75丁　23.5cm
士とは何か，士の心得，士の勤め，武儀，俸禄，武功，生活態度等について説明したもの。旧書名「十役之抄自解」。

7951　十役之抄足軽大将之巻自解　16.81—149
有沢武貞著

手写
37丁　24.5cm
足軽大将のおこり，任務，戦略などを記したもの。

7952 武教小学　16.81—150
山鹿高祐(素行)著
有沢永貞手写　寛文12年(1672)
32頁　16.5×18.5cm
門人等が素行の講義中より編録した武士の日常規範書。明暦2年(1656)門弟等による序あり。門人藤忠之(布施源兵衛)校正，藤可慶(千田治太夫)句読となっている。

7953 武教小学　16.81—151
山鹿高祐(素行)著
手写
16丁　24cm
夙起夜寝・燕居・言語応対・行住座臥・衣食居・財宝器物・飲食色欲・放鷹狩猟・與受・子孫教戒の項よりなる。明暦2年(1656)弟子達の序あり。前号と同内容。

7954 全書篇題之論目　16.81—152
有沢永貞著
自筆　元禄5年(1692)
5冊　19.5cm
最初に「武教全書篇題ニツイテ兵法本末論旨之条目」とあり，山鹿素行の「武教全書」の篇題について述べる。
①主本，撰将，武者分，制法，関声，旌旗，火，撰功，内習，軍礼，法令，天官，地形
②斥候，侍用武功，用間，練陣，行軍
③営法，城築，戦法，主客，攻守
④衆寡，歩騎之戦略并足軽，足軽，山戦，河戦，舟戦，伏戦，火戦，夜戦，夜守，雑戦
⑤戦法，枢密要論兵法篇題之序，枢密要論自修之抜。

7955 武教全書解　16.81—153
有沢永貞著
手写
6冊　23cm
脇田尚保旧蔵。表題は「永貞師武教全書解」。山鹿素行の「武教全書」に有沢永貞が註解を加えたもの。
①自序，序段，主本，撰将，用士，武者分，制法，高名誉ノ批判，内習，軍礼，法令
②天官，地形，斥候，侍用武功，用間
③練陣，行軍，営法
④城築
⑤客戦，主戦，攻城，守城，寡戦，衆戦，歩戦，騎戦，山戦
⑥河戦，舟戦，伏戦，火戦，夜戦，夜守，雑戦，戦法，奇正，虚実。

7956 永貞先師案見　16.81—154
有沢永貞著
手写
40丁　23cm
(巻1)侍・足軽・長柄・侍大将自分手廻の侍歩者諸道具等の事　(巻2)弐百石四分役の事，下々着用木綿羽織等の事，自分道具品々ノ百石四分役の事　(巻3)備人数軍役の積　(巻4)備定道具，普請道具等よりなる。元禄9年(1696)成立。「軍旅の御考にも成へきかと数十年取扱申候書籍の力にて愚意の趣粗書付申候」とあり。

7957 兵法修鑑抄　16.81—155
有沢永貞著
手写
54丁　24cm
脇田尚保旧蔵。元禄13年(1700)成立。武備巻，定戦巻，常備巻，重習巻，戦習巻，城取，陣法，寡戦などの心得を記す。

7958 軍学七徳　16.81—156
有沢永貞著
手写
8丁　25cm
宝永2年(1705)原本成立。「軍学達道之七徳」として，軍法・城取・古今・軍配・儒学・仏法・神道をあげ，永貞がそれに細註を加えている。「軍学七徳」とあるが，正しくは「軍学七徳試註」。

7959 軍学七徳試註　16.81—157
有沢永貞著

手写
12丁　24cm
前号と同じ。

7960　軍学七徳試註　16.81—158
有沢永貞著
手写
12丁　22cm
前号と同じ。

7961　堀河暁困雑集　16.81—159
有沢永貞著
今枝直方手写
54丁　29.5×21cm
内題「堀川暁困雑集　軍学大基」。宝永5年(1708)原本成立。歴史上の合戦等を題材に軍法を解説。

7962　堀川暁困雑集　16.81—160
有沢永貞著
手写
43丁　25cm
外題「堀川暁困軍学大基」。内題「堀川暁困雑集　軍学大基」。今枝氏旧蔵。前号に同じ。

7963　軍学受用　16.81—161
有沢永貞著
自筆　宝永6年(1709)
38丁　27cm
内題は「旅亭暁困雑記　軍学受用」。軍学を学ぶ心得を記す。永貞の自筆とする有沢貞庸の奥書あり。

7964　軍学受用　16.81—162
有沢永貞著
手写
26丁　23cm
内題「旅亭暁困雑記 軍学受用」。内容は前号に同じ。

7965　軍学受用　16.81—163
有沢永貞著
手写
25丁　24cm
今枝氏旧蔵。表題「暁困雑記軍学受用」，内題「旅亭暁困雑記　軍学受用」。内容は前号に同じ。旧書名「暁困雑記」。

7966　宿直拾隙抄　16.81—164
有沢永貞著
自筆　宝永7年(1710)
102丁　27cm
内題「直宿拾隙抄」。宿直の暇々に兵法に関して記したもので，10カ条，9カ条，5カ条の三部に分けて述べる。

7967　宿直拾隙抄　16.81—165
有沢永貞編
手写
80丁　24cm
表題「直宿拾隙抄」。前号に同じ。

7968　宿直所廻記　16.81—166
有沢永貞著
前田家編輯方手写　明治年間
89丁　23cm
末尾に「正徳元年ヨリ同三年ニ至テ宿直所ニ於テ聊事ナク独居ノ時懐中ノ矢立ヲ以テ綴之一書ヲ不考一図ヲ不開唯心情ノ向ニ任セテ思所ヲ書梧井庵」とあり。天文之事，地理之事，日本国史記録，武備始成，備定，行列之事，陣取之事，城取，撰功，兵器，軍用精粗，三教実用の12項目について記す。

7969　兵法急務要用　16.81—167
有沢武貞著
自筆　享保19年(1734)
52頁　16×19cm
軍法の内大事，秘の趣のあるものとされる内より急務，要用のものを記す。「諸勝負勝方向背奥秘」他18ケ条。

7970　兵法五問自答　16.81—168
有沢武貞著
自筆　元文元年(1736)
56丁　22.5cm
巻首「当時兵法修行之輩差当り心意に論じ定むべきの品々五問の事」。城普請・見立の心得，

出勢の用法・人馬の度量等の心得，武義を心得ない武士の扱い，当世治国の士風のあり方，大名在府中の騒動の際の心得を五問としてそれに答える。

7971　兵法五問自答　16.81—169
有沢武貞著
手写
26丁　23cm
前号に同じ。

7972　軍法伝来之次第　16.81—170
有沢致貞(惣蔵)著
5丁　23cm
原本は「辛未初冬」に成立。表紙に「元禄四年初冬」とあるのは誤り。宝暦元年(1751)致貞63才の時のもの。小幡景憲・佐々木秀乗を通じて有沢永貞に甲州流軍学が伝えられた次第を述べる。

7973　〔兵法伝書〕　16.81—171
有沢致貞著
1通　16.5cm
高津鳥之奥秘伝授のため記した下書。

7974　有沢貞庸筆記　16.81—172
有沢貞庸著
前田家編輯方手写　明治年間
32丁　23cm
内題「貞庸先生筆記」。文政4年(1821)8月成立。築城の事，行列の事，陣取の事，備立の事，戦法の事の5項目について記す。
旧書名「筆記」。

7975　甲州流兵学雑話録　16.81—173
手写　明治初年
18丁　23cm
甲州流兵学に関し有沢永貞・武貞を中心に諸氏の談話，諸書の抜書を収録する。表紙に「有沢永貞撰元禄二年二月」と朱書するが，これは抜書の一部であり，本書の成立をしめすものではない。

7976　恩地聞書　16.81—174
恩地正俊著
34頁　15×18.8cm
内題「軍用秘術聴書」。末尾に建武3年(1336)恩地左近丞正俊より和田民部丞に奏上したものとある。

7977　石原主膳正等家康公へ入御覧候軍法等写　16.81—175
手写
巻子1　40cm
井伊万千代(直政)に付けられた石原主膳正等三人が天正16年(1588)に家康に書き上げた軍法等の写，および曲淵宗在斎等が慶長元年(1596)に井伊兵部(直政)に書き上げた箇条の写。

7978　〔慶長〕軍法〔書写〕　16.81—176
玄隆著
松原十左衛門・大村五郎左衛門手写　元禄8年(1695)
巻子1　35cm
慶長19年(1614)の玄隆の「軍法」。元禄8年(1695)の奥書には小瀬甫庵から伝来し，坂井順元に伝わったとする。原本提出者坂井勘七郎の断り書，書写・再校した松原十左衛門・大村五郎左衛門の断り書が継ぎ立てられている。

7979　訓閲集　16.81—177
岡本宣就(半助)編
有沢永貞手写　元禄3年(1690)
18冊　15×22cm
原本成立は寛永8年(1631)。手写，序文は有沢永貞。
①目録序文
②第1，天官(軍略，天全集)
③第2，天官(虎巻，虎巻勝負，獅子巻等)
④第3上，天官書(軍略三時取，軍略四方取)
⑤第3下，天官書(破軍，大星，引切等)
⑥第4上，軍気の巻
⑦第4下，軍気の図
⑧第5，軍気秘伝巻，軍気灌頂巻，諸雑図等
⑨第6，人事書(城取巻，破城巻等)
⑩第7，人事書(権化集，発向巻等)
⑪第8，人事書(錯轄巻，武略巻，武明論等)

⑫第9，扇巻，鷹巻，幕巻，旗巻，六具巻等
⑬第10上，団巻，団十二威，団八箇条，策巻等
⑭第10下，縅巻上中下，縅七手懸，縅七徳巻
⑮第11，毛沓巻，白沓巻，沓切巻，中夭巻等
⑯第12上，兵法秘法巻
⑰第12中，最極大秘法巻，日想観，軍神祭
⑱第12下，四十二箇条秘法上下，兵法極秘術。

7980　村上流山田軍書　16.81—178
今枝直方手写　元禄6年(1693)
3冊　20cm
今枝氏旧蔵。備前藩の臣山田入道道悦の軍書。
①物見法，五代自見物之法
②物見秘伝，小物見法，小物見書
③廻船功者之巻，武功覚書，螺之次第。

7981　兵教法鑑　16.81—179
東武散人重央著
手写　享保丑年〔1721・1733〕
10丁　28.5×20cm
内題は「兵教法鑑鈔」。喜多城幽軒斎務楽所蔵の写。體本・用事・知変・期節について略述するほかは目次のみ。

7982　軍学事理本末流義之弁　16.81—180
上村正之著
手写
23丁　23cm
脇田尚保旧蔵。寛延3年(1750)原本成立。「枢密要論」の首巻（特16.81—138参照）を註解し，有沢貞幹に献じたもの。

7983　九字秘伝抄　16.81—181
手写〔豊臣子諒〕　寛政5年(1793)
20丁　23cm
今枝氏旧蔵。総論，九字太公望伝，四縦五横伝，九字仏家伝，九字兵家伝よりなる。

7984　兵法妄言　16.81—182
富田景純著
菊英手写　天保14年(1843)
42丁　23cm
内題「武備妄言」。脇田尚保旧蔵。梧井庵の門弟であった富田景純が先師永貞の兵法八元品目要論をもって武備について述べる。

7985　兵法五綱弁義　16.81—183
手写　天保15年(1844)
42丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。城制，行軍，営法，備立，戦略の項よりなる甲州流軍学を基とした兵書。

7986　意筌録　16.81—184
5冊　28×18.5cm
戦斗用の防具，武具一般，灯火，食糧，首桶，首帳，築城，馬，血祭，降伏の作法などについて解説。
①，②表題「意筌録伝解」
③，④　〃「意筌録秘伝書」
⑤　　〃「意筌録種子行法」。

7987　意筌録名目　16.81—185
1帖　18.5cm
意筌録の目録のみ。

7988　押前制法巻　16.81—186
市五郎兵衛尉景難等編
手写
22丁　14×20.5cm
表題「要門切紙秘伝之内押前制法巻口義」。押前制法巻と司卒両令巻があり，前者は行軍の制度法令等，後者は足軽大将等の心得を述べる。上杉謙信の臣加治景英・景治等から相伝するとして市五郎兵衛尉景難・市至楽斎景當等が奥書する。

7989　楠流抜書　16.81—187
3冊　15×18.5cm
今枝氏旧蔵。
①黄帝八陣一円之元儀，起悟終一輪之元儀，奇正変化之元儀，奇正変談之論等
②大道三権，兵用道之三権，軍励之三権，攻戦篇，初伝計諫論
③陣法大意之篇，行軍大意之篇，営法大意之篇城築大意之篇，天官取捨之論，地形知変之論，物見真見之論，軽卒軍器之論。

7990　楠三巻書　　16.81—188
今枝直方手写
100頁　15×18.5cm
今枝氏旧蔵。「楠正成所伝息正行之書也」とする。三妙無尽法，神道正授巻，軍元立将之法の三巻を収録。

7991　軍旅本紀　　16.81—189
手写
2冊　27.5×19.5cm
旧事本紀第67・68の軍旅本紀。
①軍旅本紀上，天文・地利・人芸・物用・一道・理一・軍宗・五綱・行征・謀計
②軍旅本紀下，得死・得勇・得人・得忍・強弱・盛衰・陣方・戦法・乗気・元運。

7992　玉　杖　　16.81—190
手写
3冊　28.5×20.5cm
兵学に関し門人が得心あるいは疑点を書き抜いたものに，師の重央が加筆したもの。

7993　軍談問答　　16.81—191
14丁　24cm
師弟の問答体で軍談を論ずる。

7994　勝関対面実検見知　　16.81—192
1枚　彩色　49×71cm
戦争でとった首をあらためる時の配置図。

7995　石野主殿助書翰　　16.81—193
石野主殿助著
自筆
3通　16cm
有沢才右衛門宛。年代不明。藩主と思われる人物からの命をうけて石野主殿助が才右衛門に問い合せたもの。①「軍中ニ而費を嫌ひ候品々」②武家諸法度中の居城隍塁・石壁等と櫓・屏・門以下の修補の際の規定の違いの意味 ③「古代名将良将之内ニ禅法を被学候方」について問い合わせる。

7996　武律枝莖　　16.81—194
手写
24丁　28×18.5cm
侍大将智行，組頭継行，武者奉行初行，旗奉行明行，鑓奉行権行，足軽大将当転，使武者隠見徒頭翼衛，目付準吏など各軍事職制の心得。

7997　兵学私曇　　16.81—195
窪田左兵衛著
94丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。
○御先手物頭之部
当役ヲ勤ル者其身ノ矩ヲ可知事，当職ノ趣意ヲ可知事，組足軽弓鉄砲業之度量之事，武具用意之事，役騎馬役筒役弓役長柄役旗普請人足等ノ事，当役武備之大綱，当職采幣床机之事，組足軽数手分並臨時増人手配等之事，出立之次第，組足軽並自分人数行列備立並指揮方之事，自分組之備立，足軽備立品々，同組備立人馬数，足軽大将自身ノ働之事，与力子弟従臣ニ下知シテ働ヲナサシムル品々之事，陣中品々心得等之事，足軽大将陣中之勤品々之事，足軽大将可勤働之品之事，出立品々之事(本章20品・附章5品)。

7998　足軽之巻　　16.81—196
北条氏長著
今枝直方手写　元録6年(1693)
19丁　24cm
今枝氏旧蔵。原本正保4年(1647)成立。孫弟子山本重純より借りて写すとある。与力同心申渡候条々，与力同心可致走廻心得之事，足軽武功などからなり，足軽の用い方・足軽を用いて陣備の方法などを記す。

7999　彩剪花談　　16.81—197
28丁　24cm
脇田尚保旧蔵。足軽頭(役料知共1,150石)の指揮法について，人数割，出陣，教戦法，心得に分けて記す。末尾に「丙午八月」とあり。

8000　武芸小伝抄　　16.81—198
前田家編輯方手写　明治年間
23丁　24cm
砲術・射術・弓術・刀槍術等の武芸者の小伝・由緒を記す。

8001　武道雑談集　16.81—199

1冊　~~12×17cm~~15×22.5cm　~~23.5cm~~

16.84-302 重複

①加越能三州旧跡記事（武道雑談集38）29丁

~~城跡，屋敷跡，塚，~~地名由来等を記す。

16.84-82 と重複

②長谷観音祭礼一巻留帳（武道雑談集四十）（~~岡田氏旧蔵）47丁~~

~~長谷観音祭礼一巻留帳，寺中佐郡武明神祭礼能ニ付罷出候覚帳，因幡鳥取御使一巻，他国御使并早打御使心得帳，吉田茂平高山藤右衛門喧嘩追懸者役相勤申内喧嘩之沙汰ニ而罷出候覚書，磔被仰付者検使ニ罷出候留，寛保2壬戌年10月19日御老中方御控書之節御白洲奉行相勤候留帳~~を収録，元文3～寛保2年（~~1738～42~~）

16.82-182 重複

③御当家諸侯家立（武道雑談集44）~~44丁~~

~~武家昆目集~~よりの抜萃，各大名家の出自を記す。

①　㊙兵法要語抜萃（武道雑談集69）　12丁

副題「奇正虚実之論」

16.82-452 重複

~~㊙大清康熙六十年台湾朱一貴乱覚書（武道雑談集八十八）8丁~~　有沢武貞手写

~~享保6年（1721）6月長崎に入港した南京船等よりの風説書。~~

なお，武道雑談集五十三（御家日記），同八十五（御家由来書物）については，特16.28—43，特16.11—22を見よ。

8002　見聞雑記　16.81—200

島田相保編

手写

82丁　24cm

島田孝郷旧蔵。島田相保は弓術御稽古御用をつとめ，200石，元治元年没。諸書の抜書。武学に関する記録が多いが，和歌集の抜書，著名人の言なども含む。

8003　采幣并太鼓十一段之伝　16.81—201

手写

11丁　24cm

十一段太鼓と采牌伝授を解説する。末尾に元禄8年(1695)とあるが，これは有沢永貞が伝授された時であり，文中に有沢命貞の説を引用していることから，成立は18世紀後半以降。十一段太鼓は甲陽軍鑑結要本八之巻により，采牌伝授は甲州流の伝授による。

8004　十一段太鼓　16.81—202

6丁　24.5cm

有沢家の伝書，甲州流の太鼓の打ち方について記す。末尾に「右正徳四年甲州流太鼓ノ打様永貞ニ御聞被遊改テ被仰渡之趣如此」とあり。

8005　采牌・十一段太鼓伝授書　16.81—203

巻子1　18cm

采牌伝授と十一段太鼓を継ぎ立て，道鬼流伝来之裏とする。梧井庵の印あり。目録のみ。

旧書名「采牌伝授」。

8006　采牌・十一段太鼓伝授書　16.81—204

4通　21cm

采牌伝授2通(同文)，十一段太鼓2通(同文)。采牌伝授は目録のみ。十一段太鼓は太鼓の打ち方12ヵ条を記す。旧書名「采牌太鼓伝書」。

8007　太鼓采牌記聞　16.81—205

11丁　18.5×13cm

成立は己酉年。十一段太鼓，采牌伝授等，元禄8年（1695）に有沢永貞に伝授された甲州流の太鼓・采配について註解する。

8008　〔采幣御伝受一件〕　16.81—206

享和3年（1803）

仮綴1（6通）　包紙

封書上書に「兵法御伝受一巻享和三癸亥歳八月廿三日昼過，大君斉広公采牌太鼓御伝受御居間にて御人払を以奉侍講之節指上候切紙弐通控并口解一冊」とあり。関屋中務より有沢数馬（貞庸）宛の呼出状など。旧書名「兵法御伝受一巻」。

8009　采幣伝授之師説　16.81—207

有沢武貞著

脇田尚方手写　天保14～15年(1843～44)

12丁　23cm

脇田尚保旧蔵。采幣伝授之師説は天保15年(1844)河島愛敬所蔵の写。采幣伝授は有沢永貞・武貞に伝授されたもの。別に天保14年(1843)手写の武羅伝授を収録。武羅伝授はは縄七手掛弛之

事，武羅，武羅之名称等を含む。

8010　太鼓采牌口解　16.81—208
手写　嘉永3年(1850)
19丁　24cm
奥書「右両伝之口解小幡氏伝来之趣謹書」とあり。十一太鼓，采牌伝授を註解する。

8011　兵法免状　16.81—209
巻子1　18cm
甲陽軍鑑末書結要本并龍虎豹之三品を伝授したことを記し，末尾に「右小幡勘兵衛景憲免状也」とある。

8012　有沢家城取免状　16.81—210
有沢武貞著
自筆　享保16年(1731)
1通　26cm
有沢武貞より渡部忠右衛門宛の城取免状。甲陽軍鑑之末書結要本并龍虎豹之三品が授けられている。文面は「兵法免状」の本文と同じ。

8013　有沢家免状并罫紙　16.81—211
有沢新右衛門(貞正)著
手写　文久元年(1861)
3通・1枚　40cm
甲陽軍鑑末書結要本并龍虎豹之三品を教授したことの免状案紙。同文の3通と罫紙1枚。

8014　兵法免状自註　16.81—212
有沢永貞著
自筆　宝永3年(1706)
20丁　23.5cm
小幡景憲より関屋政春等を経て有沢永貞に伝わる兵法免状(特16.81—209)に註を加えたもの。「右正本無相違所如件，文化改元之夏」と有沢貞庸の奥書あり。

8015　兵法免状自註　16.81—213
有沢永貞著
手写
21丁　24cm
前号と同内容。

8016　兵法免状自註　16.81—214
有沢永貞著
手写
20丁　25cm
今枝氏旧蔵。前号に同じ。

8017　免状大星相伝巻　16.81—215
有沢貞幹著
手写
11丁　25cm
今枝氏旧蔵。内題「兵法免状抄并軍配極秘」。明和2年(1765)成立。

8018　伝附解　16.81—216
有沢永貞著
32丁　23cm
奥書に宝永6年(1709)永貞が次男の致貞(惣蔵)に宛てたものであることを記す。伝附は印可に準するもので，甲州流軍学伝授の証拠として致貞に与えた。

8019　伝附状解　16.81—217
有沢永貞著
脇田尚方(金岱)手写　天保2年(1831)
22丁　23cm
脇田尚保旧蔵。表題は「従来極秘伝附状解」，奥付は「甲州兵法従来極秘伝附状解」とあり。宝永7年(1710)に有沢永貞が本多図書に宛たもの。甲州流軍学の相伝について記す。
旧書名「従来極秘伝附状解」。

戦史・戦陣訓

8020　四戦場之図断　16.81—218
有沢永貞著
26丁　24cm
原本は元禄13年(1700)成立。姉川，簗瀬，長湫(長久手)，関ヶ原の各合戦の記と別図の説からなる。

8021　革命四戦図断　16.81—219
有沢永貞著
36丁　23cm
脇田尚保旧蔵。元禄13年(1700)原本成立。内題

は「四戦場之図断」。四戦は姉川，柳瀬，長湫（長久手），関ヶ原の各合戦。前号と同内容だが，諸将の年齢・領国を付記する。

8022　四戦略譜　16.81—220
有沢永貞著
手写
4冊　23cm
宝永2～4年(1705～07)原本成立。
①姉川合戦前後略譜，柳瀬合戦
②長湫合戦
③関原合戦諸記抜萃
④関原合戦諸記抜萃追加。

8023　四戦前後問議　16.81—221
有沢永貞著
手写
19丁　23cm
脇田尚保旧蔵。表題「姉川合戦前後問議」。しかし，表題の外に「柳瀬合戦前後問議」，「長湫合戦前後問議」，「関原合戦前後問議」を収録。宝永2～4年(1705～07)原本成立。各合戦に関する戦法上の問いのみを記す。

8024　四戦前後書翰　16.81—222
有沢永貞編
自筆　宝永4年(1707)
2冊　27cm
姉川，柳瀬，長湫(長久手)，関ヶ原合戦前後の武将の書翰集。①姉川，柳瀬，長湫　②関ヶ原。

8025　四戦書翰　16.81—223
有沢永貞編
自筆　宝永4年(1707)
120丁　23cm
内題「四戦前後諸方書翰雑集」。四戦は姉川，柳瀬，長湫，関ヶ原の合戦を指すが，この巻は前三合戦の諸武将の書翰等を収録。本書は永貞の草稿。

8026　四戦前後書翰　16.81—224
有沢永貞編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　24cm
外題「四戦書翰」。内題「四戦前後諸方書翰雑集」。特16.81—222と下巻は同一であるが，上巻に順序・内容の差異がある。

8027　四戦記聞　16.81—225
木村高敦編　樋口栄芳補
手写
4冊　23cm
①姉川戦記　②味方(三方)原戦記　③長篠戦記　④長久手戦記を収録。

8028　姉川合戦前後略譜　16.81—226
有沢永貞著
自筆　宝永2年(1705)
53丁　26.5cm
永禄8年(1565)5月の将軍義昭の遷俗から天正3年(1575)9月の信長の越前平定による各武将の配置までの年譜。

8029　四戦姉川答辞　16.81—227
有沢永貞著
自筆　正徳2年(1712)
82丁　22cm
「四戦問議」のうち姉川合戦に関する問いに対する答を記す。永貞の草稿。旧書名「四戦問議」。

8030　姉川合戦前後問議　16.81—228
有沢永貞著
61丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。原本は正徳2年(1712)成立。表題は「姉川問議」。「四戦問議」の中「姉川合戦」をとりあげたもの。前号と同内容。

8031　柳瀬合戦略記　16.81—229
有沢永貞著
自筆　宝永3年(1706)
48丁　22cm
柳瀬の合戦の記事と前半に本能寺の変の記事を収む。「柳瀬合戦前後略譜」（次号）の草稿。

8032　柳瀬合戦前後略譜　16.81—230
有沢永貞著
自筆　宝永3年(1706)

53丁　27cm
柳瀬合戦は天正11年(1583)の賤ケ嶽の戦いを中心とする柴田勝家と秀吉の対決のこと。本能寺の変から勝家の滅亡までを記す。

8033　梁瀬合戦略譜解　16.81—231
有沢永貞著
手写
36丁　23cm
原本成立は宝永3年(1706)。表題は異なるが,「柳瀬合戦前後略譜」と同内容。「天保七年二月中旬正本需再校正之　脇田尚方」とあり。

8034　長久手合戦略記　16.81—232
有沢永貞著
自筆　宝永3年(1706)
58丁　22.5cm
「長湫合戦前後略譜」（次号）の草稿。旧書名「長久手合戦前後略譜」。

8035　長湫合戦前後略譜　16.81—233
有沢永貞著
自筆　宝永3年(1706)
65丁　27cm
長湫は長久手とも書く。天正12～18(1584～90)の事項を記す。

8036　関原合戦略記　追加共　16.81—234
有沢永貞著
自筆　宝永3～4年(1706～07)
4冊　22cm
「関原合戦前後略譜」（次号)の自筆草稿。
①表題「関原合戦略記」上
② 同「関原合戦略記」下
③ 同「関原略記追加」東国
④ 同「関原略記追加」西国。
旧書名「関原合戦略記追加東国西国」

8037　関原合戦前後略譜　追加共　16.81—235
有沢永貞著
自筆　宝永3～4年(1706～07)
4冊　27cm
内題「関原合戦諸記抜萃」。
①表題「関原合戦前後略譜」上，慶長3～慶長5年(1598～1600)8月
②同「関原合戦前後略譜」下，慶長5年(1600)7月～慶長8年(1603)7月
③同「関原合戦略譜追加」東国，上杉征伐を中心に東北の戦況を記す
④同「関原合戦略譜追加」西国，九州の戦況を中心に記す。
旧書名「関原合戦諸記抜萃追加共」。

8038　関原合戦前後書翰　16.81—236
有沢永貞編
92丁　23cm
秀吉の遺言，諸将の書状，御陣中控など。

8039　難波問答　16.81—237
有沢永貞著
手写　文政4年(1821)
49丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。内題「大坂冬夏両役二十問」。原本成立は貞享4年(1687)。大阪冬・夏の陣について各10問に答えたもの。

8040　難波二拾問答　16.81—238
有沢永貞著
吉田員輝手写　文政13年(1830)
2冊　23cm
前号と同内容。
①難波役冬十問　②難波役夏十問。

8041　古戦一覧　16.81—239
風詠亭主人編
刊
1枚　33.5×44.5cm　袋入
脇田尚保旧蔵。天文元年(1532)～寛永14年(1637)の合戦69例を列挙した一枚の刷物。弘化3年(1846)脇田尚方が入手したもの。

8042　笛吹峠勝関之式図　16.81—240
脇田尚方手写　天保6年(1835)
1枚　56×39cm　袋入
脇田尚保旧蔵。上杉謙信とその17人の武将図の写。

8043　武経考証　16.81—241
17丁　28×19cm

天文16年(1547)織田信秀の稲葉山城攻撃以下諸戦につき「信長記」等を出典として考証。

8044　往事盛衰記　16.81—242
35丁　18.5×26cm
寛保の初め頃国主としての治世論，武士の規範等について問われたままを答えたものを，森田某が冊子に仕立てたとする。

8045　〔武士訓〕　16.81—243
手写
1通　15cm
「士たるものは節義を守り……」に始まり，武士たる者のいましめを説く。

8046　諸士心得　16.81—244
有沢致貞(荊棘斎)著
手写
18丁　23cm
脇田尚保旧蔵。士は農工商三民の上に立ってそれを治める役とし，その心得を説く。

8047　政春古兵談　16.81—245
関屋政春著
手写
6冊　23cm
前田恒敬旧蔵。天正以降武功を顕した古老の説話を延宝元年（1673）から7年（1679）にかけて輯録したもの。末尾に有沢武貞が関屋政嗣より政春自筆覚書を借用して写したとあり，また，所々に朱筆による武貞の注記がある。但，陰之巻は有沢致貞より借用して写す。本書は享保21年（1736）武貞手写本の写。

8048　政春古兵談陰之巻　16.81—246
関屋政春著
手写
82丁　23.5cm
巻首「関屋新兵衛平政春覚書共之内抜萃也」。享保21年（1736）有沢武貞手写本の写。

8049　政春古兵談抜萃　16.81—247
有沢武貞編
手写
2冊　24cm
「政春古兵談」のうち①剛，柔，仁，義，陰之部②陽之部を抜粋したもの。所々に武貞の考察を記す。編著の記載はないが，「加能郷土辞彙」では武貞とする。旧書名「古兵談抜萃」。

8050　古兵談抜萃抄　16.81—248
関屋政春著
仮綴1（5丁）　24cm
政春古兵談から尾張前田氏に関したものを書き抜いたもの。

8051　古兵談残嚢拾玉集　16.81—249
有沢武貞編
手写
2冊　23cm
表題「永貞古兵談残嚢拾玉集」。関屋政春著「政春古兵談」にならって，有沢永貞が天正以来の諸合戦に武功をたてた古老の説話を書きとめておいたものを，享保21年(1736)その子武貞が編集したもの。別名「永貞古兵談」。

8052　古兵談残嚢拾玉集　16.81—250
有沢武貞編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
原本は享保21年（1736）成立。前号と同じ。

8053　古案記等三種　16.81—251
前田家編輯方手写　明治年間
44丁　23cm
古老兵談（大坂の陣，浅井縄手合戦），古案記（雑記），故実留書（藩主に関する記事など）。前二者は森田平次手写。

8054　武功覚書　16.81—252
35丁　10.5×15.5cm
大坂の陣・島原の乱などで武功をたてた人々を例に戦闘技術等の聞書。

8055　盛庸覚書抜萃　16.81—253
手写
9丁　12.5×18cm
有沢氏旧蔵。大坂の役等の戦陣覚書。加賀藩関

係の記事が多い。

8056　覚　書　　16.81—254
手写
18丁　16×11.5cm
前田貞醇旧蔵。文禄・慶長の役，大坂の陣等の合戦話を中心に収録。加賀藩関係者の著作か。

8057　三河聞書　　16.81—255
今枝直方手写
22頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。32条よりなる武田弾正左衛門義重・服部半蔵等よりの実戦上の教訓的聞書。

8058　越後謙信軍歌　　16.81—256
手写
20丁　22.5cm
上杉謙信が歌に託して作ったといわれる将兵の心得，築城上の心得など200首を収載。

8059　義貞軍記　　16.81—257
今枝直方手写
81頁　15.5×18cm
今枝氏旧蔵。新田義貞が制定したといわれる軍規・戦陣における心得等を記したもの。

8060　安宅遺訓　　16.81—258
手写
10丁　22.5cm
内題「安宅武功の書」。原本は寛永13年(1636)成立。巻末に「右は安宅四郎左衛門嫡子三郎左衛門へ自筆を以書渡秘書之写也」とあり，実戦における教戒を記す。

8061　正三記　　16.81—259
26丁　24cm
末尾には「右大将ノ常ノ心持ニ入事之由，古来ヨリ申シナラハシタル間アラマシ書付候」とあり，大将の心得を記す。

8062　評判秘伝　　16.81—260
46頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。大将たるものの心得を記す。正三記(前号)と同内容。

8063　大将合戦心持　　16.81—261
手写
14丁　24cm
法度書・組頭心持・弓鉄砲頭心持・弓頭心持・鑓奉行心持・旗奉行心持・武者奉行心持・使番之者心持・普請奉行心持・馬廻心持・備之心持・敵城攻心持・篭城心持・押太鼓・鐘・貝・夜軍之心持を含む。
旧書名「大将合戦之時心持」。

8064　一騎武者受用之巻　　16.81—262
有沢永貞著
卓把手写　寛文12年(1672)
14丁　16×18cm
外題「疋夫受用之巻」。今枝氏旧蔵。一騎武者の戦闘方法と心構えが万端に渡り記されている。奥書「此書は従岡部氏求写之者也其題号一騎武者受用トアレトモ(中略)予号ヲ改テ疋夫受用之巻トス」。卓把筆千省屋とあり。

8065　一騎武者受用之巻　　16.81—263
19丁　27.5×20cm
表題「一騎受用之巻」。戦陣における武士の心得を記す。前号と同内容。

8066　微塵集覚書　　16.81—264
手写　宝永2年(1705)
29丁　19.5cm
内題「小身之士可心懸品々」。元禄6年(1693)成立。山本新兵衛，福島伝兵衛口訣の筆記。戦陣・戦場における諸士の心得を述べる。有沢永貞の筆か。

8067　独　歩　　16.81—265
21丁　23cm
横山政和旧蔵。若輩者に対して軍装・合戦時の心得を中心に述べる。

8068　独　歩　　16.81—266
21丁　28×18.5cm
前号に同じ。

8069　月指集　　16.81—267
斎藤利治（新五郎）等編

手写
2冊　26cm
第一巻末に「右之一冊は濃州之大守斎藤山城入道々三夜話之折々対長子示之者也，道三半白須乾近臣記之」とあり，斎藤新五郎利治，斎藤織部正高治，斎藤玖兵衛尉治直，斎藤弥三郎の名を記す。実戦における技術・教訓を述べる。
①巻1～5　②巻6～10。

8070　嘉明記　16.81—268
手写
45頁　16×18cm
今枝氏旧蔵。戦場における心得を記す。

8071　武事十十箇条　16.81—269
47丁　19.5cm
「甲の忍緒可付様」「同可着様」など武具取扱い及び戦場における行動など百箇条について記す。作者は有沢永貞か。旧書名「武事二十箇条」

8072　翁襃　16.81—270
2冊　28×18.5cm
合戦に関する語句，心得，装備などについて記す。

軍　役・陣　備

8073　黔韜秘策　16.81—271
有沢采女右衛門(永貞)著
手写
24丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。原本成立は元禄9年(1696)。
軍役・備定の変遷を戦国時代から当代まで通覧し，変化の意味を詳述する。侍，足軽，長柄，旗，小荷駄に分類して述べる。

8074　黔韜秘策類編　16.81—272
有沢武貞著
手写　天保9年（1838）
13丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。「條々」「鐘貝太鼓之制法」「内心得事」「先其用意可仕事」よりなる。

8075　軍役考　16.81—273
有沢武貞著
8丁　23cm
渡辺永一旧蔵。「條々」「鐘貝太鼓之制法」「内心得之事」等よりなり，前号と同内容。享保10年(1725)以後の成立。

8076　黔韜秘蔵　16.81—274
有沢致貞著　脇田直方校
5冊　23.5cm
脇田尚保旧蔵。「脇田直方編校」とあり。
①主将并小役人之部　②組頭之部　③諸士心得之部　④足軽射手異風之部　⑤兵粮方之部。

8077　有沢武貞覚書　16.81—275
有沢武貞著
手写
19丁　25cm
享保3年(1718)原本成立。知行当り四分役増減相考候図り，役附之者有之時役料知ト合テ人高并夫馬図り，組頭出立心得之事など，軍役・軍装に関する覚書。旧書名「覚書」。

8078　貫知行軍役内考　16.81—276
有沢武貞著
18丁　22.5cm
享保6年(1721)原本成立。奥書によれば，「軍役通解」の追加を作成するために記したとする。武田家の甲州信州出陣の軍役貫知行を「甲陽軍鑑」などに依りながら考察。

8079　人数積　16.81—277
有沢致貞著
手写
25丁　22cm
今枝氏旧蔵。享保8年(1723)成立の軍役人数積書。五万石之主知行割之事，先手一備人数小積，旗本一備人数小積などよりなる。

8080　人数積　16.81—278
29丁　28×18.5cm
表題「従壱万石百万石迄人数積」。「軍鑑極要集」三による。

8081　軍役応時論　16.81—279
富田景純編
嘉永２年(1849)
41丁　23cm
脇田尚保旧蔵。目録は発端，田地割ノ粗解，貫積ノ粗解，一万石丸軍役ノ考，竊ニ論テ六分役ニ定ル事，改作ヲ土着ノ趣ニテ軍役ヲ勤ル論，主客急緩ノ論，小荷駄并兵糧米之事，具足着用ノ時節ノ事，雑兵甲冑ノ論，客戦ニ陣取并行列ノ事，大筒ノ論。末尾に「来舶私考」を附す。「来舶私考」は嘉永２年(1849)閏４月付，差出南涯より甲門様宛。

8082　軍役応時論　16.81—280
富田景純著
手写
５丁　25cm
富田景純は幕末の有沢門下の兵学者。本書は「発端」と「田地割之粗解」からなる。

8083　軍役の定　16.81—281
手写
32丁　24.5cm
総論，軍役・四歩役増減之図り，役器之品々，出陣，出陣之作法具足着する次第，行軍等の項よりなる。

8084　〔軍役内考等抄〕　16.81—282
牧忠輔著
脇田尚方手写
14丁　22cm
脇田尚保旧蔵。表題「牧忠輔軍役内考等抄」。内題「牧昌左衛門橘忠輔先生軍役内考」。奥書「右陳場出立之壱冊は牧氏忠輔前田氏孝矩之為ニ考之由嗣子矩正ヨリ借用写」とあり。天保６年(1835)成瀬正敦が手写し，更に天保14年(1843)脇田尚方が手写。外に「夫城等之習…」(寛政13年嫏斎稿)・「復讐状」・「牧忠輔先生三段三所之弁」(文化３年の講席聞書を弘化２年脇田尚方手写)を併録。

8085　出陣廼積　16.81—283
有沢永貞著
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23cm
成瀬吉勝所蔵の写。元禄９年(1696)原本成立。文中に「自作之備要抄等」とあり，侍，足軽，長柄，旗，大筒，小荷駄馬などについて意見を述べる。

8086　当戦按稿　16.81—284
有沢武貞著
19丁　23cm
内題「武貞先生当戦案稿」。横山政和旧蔵。当州軍律兵賦之大段，鐘貝太鼓之制法，軍役人数と軍装備の説明などの項よりなる。

8087　六歩壱小荷駄積私考　16.81—285
６丁　17.5×12.5cm
軍勢の人数に応じての小荷駄の数量について解説する。

8088　小身者出陣人馬積　16.81—286
有沢永貞著
永原孝和手写　正徳６年(1716)
18丁　23cm
横山政和旧蔵。延宝９年(1681)原本成立。出陣の際の諸士が召連れるべき小身者の数，武具，諸道具について記述する。

8089　安間人数積　16.81—287
手写　延宝５年(1677)
19丁　28×20.5cm
二郡之領主人数積備定など陣備と人数を記す。

8090　案間自作覚書　16.81—288
有沢永貞著
手写
21丁　28×19.5cm
元禄４年(1691)成立。陣備の案間図について，自らの研究歴を記す。

8091　象図案間人数積　16.81—289
有沢永貞著
正徳元年(1711)
24丁　26.5cm
内題「象図案間人数諸道具積」。侍六十騎に対する人数・諸道具数の書上げ。「右諸騎馬諸役者

召連下々小役付之覚」「象書御屏風人数積」を付す。

8092　象書御屏風人数積　16.81—290
有沢永貞著
正徳元年(1711)
14丁　24cm
甲州流軍学による陣中人数配，備立等を解説。

8093　〔人数異同〕　16.81—291
有沢致貞著
手写　天保10年(1839)
32丁　23cm
表題「有沢致貞先生人数異同」。脇田尚保旧蔵。享保7年(1722)成立。人数積について，壱万貫之領主軍役知行割，地方知行三万石之領主軍役知行割，平均知行三万石軍役・知行割などの場合を算出する。

8094　陣取人数割　16.81—292
吉岡宏著
仮綴1(6丁)　28×44cm
一ノ手(正兵)・二ノ手(奇兵)の人数割と陣屋・行列・籠城図。文化3年(1806)年成立。

8095　象画行列之図　16.81—293
1帖　彩色　16×21.5cm　帙入
外題「象画行列，地言」。奥書に「右行列図百折但一折ニ付左右十四間宛，合千四百間，町ニテ廿三町廿間也，右人数弐千三百余之行列，一行之町間大積如斯」とあり，先足軽四組の足軽大将から始まり，跡備組頭までが描かれている。各兵は版画。

8096　甲州流備　16.81—294
絵図1枚　36×72cm
脇田尚保旧蔵。先筒・先弓・人持組を先頭に御馬廻組・惣君備・御旗本之組衆等の配列を記す。

8097　武田家備定之図　16.81—295
有沢永貞著
自筆
絵図3枚　130×67.5cm
①武田家備定之図
内題「甲陽武田信玄晴信惣軍備之図」
②武田信玄公惣軍備之図。(140×56cm)
内題は①に同。正徳6年(1716)有沢永貞著。
①と同図
③武田備立図。(24×35cm)。高坂弾正昌信年譜附。
①，②は武田信玄が遠州・参州発向の際の軍備図であるとし，甲陽軍鑑末書下巻の図を改正し，同結要本八の旗本道具配の説を加えたものであるとしている。次の特16.81—296，297も内容は同じ。

8098　甲陽武田信玄公軍備之図　16.81—296
絵図1枚　58×130cm
「元亀年中遠州参表発向　甲陽武田信玄晴信公軍備之図　軍鑑末書下巻下第五ノ図改正而作之同結要本八旗本道具之説加之」
とある。表題「備要抄之図」。

8099　武田備要抄図　16.81—297
有沢貞庸手写　享和3年(1803)
絵図1枚　56×140cm
内題「武田信玄晴信公総軍備之図」。「元亀年中遠州参州発向，甲陽武田信玄晴信公惣軍備之図，軍鑑末書下巻下第五ノ図改正而作之，同結要本八旗本道具配之説加之」とあり。特16.81—295の写。

8100　甲州備定之図　16.81—298
有沢永貞著
今枝直方手写　寛文10年(1670)
155頁　16×15.5cm
今枝氏旧蔵。信玄公御備定之図并其断之事，旗本手組諸道具諸役者之事，先手手組之大概，備定大法諸道具諸役者之事，軍役，出立，人品について，甲陽軍鑑末書に拠って記載。寛文7年(1667)原本成立。

8101　武備実用治世私考之巻　16.81—299
有沢永貞著
貞享4年(1687)
26丁　23cm
内題「備定下書」。備定の利などについて，「甲陽ノ書ニ載スル所ヲ基トシテ，古今ノ国風武備

ノ雑事聞見スル所ヲ以テ私ニ考」えたもの。永貞の草稿か。

8102　備之図　16.81—300
有沢武貞著
絵図1枚　46×60cm　包紙
包紙の表題は「有沢森右エ門製備之図」。享保頃の有沢森右衛門(武貞)作製の図。三奉行（武者・旗・槍奉行）が立てられていないことについての解説がある。

8103　陣取方向魚鱗同異之辨　16.81—301
有沢致貞著
手写
20丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。原本享保6年(1721)成立。甲州流の陣取の作法には，方，向(円)，魚鱗の三様あるとして軍法之巻，末書結要本によって抜書，解説したもの。

8104　理尽抄四隊之陣取　16.81—302
関屋政春著
手写
絵図1枚　42×49cm
「太平記第十三，名越時兼加州大聖寺城ニ対シ構ル所ノ四隊之陣取」とあり。陣立図。

8105　備定陣取下書　16.81—303
6枚　12×28cm～12×156cm 包紙
包紙の表題は「軍政類要之内備定陣取下書急用」とある。貞享3年～元禄3年(1686～1690)頃のもの。備定陣取の人数・配置図。

8106　〔備立諸図〕　16.81—304
手写
絵図7枚　19.5×28.5cm～71.5×48cm
①御備建之図　②備立之図　③畳備之図　④立備之図　⑤座備図，前田貞醇旧蔵　⑥陣取之図，貞享2年(1685)知清とあり　⑦大陣取之図。

8107　備立之図　16.81—305
手写
絵図3枚　40×28cm
①備立之図(下図)　②足軽・長柄二行騎馬・旗一行之図　③備立之図(彩色)，石黒政言手写。

8108　陣取分間図　16.81—306
絵図2枚　54×30cm・41×46cm
一部欠。足軽，長柄，侍，近習等の配置を記す。

8109　備立之図　16.81—307
脇田尚方手写　弘化2年(1845)
絵図3枚　35×48cm　袋入
脇田尚保旧蔵。①御旗本備立略図　②御馬廻一組備立　③全軍の図，安井頭比旧蔵。

8110　〔備立之図〕　16.81—308
新敬近著
嘉永6年(1853)
1枚　115×32cm　包紙
包紙「新九郎三郎敬近備立之図」。内題「新九郎三郎敬近考フル所ノ備立ノ図」。脇田尚保旧蔵。敬近については「梧井庵ノ門人ニテ最城築ノ法ニ委シ」と記あり。

8111　象図備立之図　16.81—309
絵図1枚　彩色　177×361cm
陣立の各部に兵の図を配し，備立の様子を具体的に示す。各兵は版画。

8112　象図備立地割　16.81—310
絵図1枚　彩色　73.5×70.5cm
陣立図。

8113　方円大陣取之図　16.81—311
絵図1枚　96×75cm
寛永18年（1641）原本成立。「諸葛亮八陣為六旧法」。とあり。

8114　方円旗本座備〔之図〕　16.81—312
絵図1枚　71×56cm
内題「方円旗本座備三千之図」。「前後二町余，左右二町計」に展開した陣立図。

8115　小陣取図　16.81—313
絵図1枚　彩色　83.5×68cm

本陣を中心とした陣立図。「右之人数割并小屋色付等委曲営法之図有之」とある。

8116　連陣取図　16.81—314
手写
絵図1枚　120×98cm
陣立図。「連陣取之格人数一万弐千計」と記す。

8117　方円山陣城陣取之図　16.81—315
絵図2枚　彩色　56×54cm・32×24.5cm
表題「山陣城図」。本図は色分けのみ，付図に役名を記す。

8118　御備図　16.81—316
手写
絵図5枚　27.5×38cm～35×94.5cm　袋入
横山政和旧蔵。御家嗣君御備之図，御旗本・惣軍御備之図，御旗本備立略図，惣軍備之図，甲州流五拾騎備立の図。

8119　五行座備正図　16.81—317
北条政相著
絵図1枚　53×45cm
「五行座備人数八百余，前後左右百間方余」と記し，士大将を中心に足軽大将・長柄奉行・組頭・使番・目付・旗奉行・惣馬の配置を記す。

8120　五行座備変図　16.81—318
北条政相著
絵図1枚　53×45cm
士大将を中心に足軽大将・組頭・長柄奉行・旗奉行・殿足軽大将・惣馬の配置と人数(合計500人）を記す。前号と対になる。

8121　五行座備之図　16.81—319
絵図4枚　21×34cm
御後備，御旗本，御先手，御先手（武者凡例を付す）の4図。

8122　五行座備方円五色絵図　16.81—320
絵図1枚　彩色　94×70cm
軍の陣立図。

8123　八陣覚書　16.81—321
鈴木藤作著
自筆
4丁　23.5cm
諸葛明孔の八陣につき質問に答えたもの。「諸葛亮魚腹江八陣」の図付。鈴木藤作の「御備立につき意見書」は特16.53—43にあり。

8124　八陣自註附八陣図説　16.81—322
有沢永貞著
脇田直方手写　天保10年(1839)
26丁　23cm
脇田尚保旧蔵。表題には「永貞先生八陣自註」とあるが，「永貞先生八陣自註」と「八陣図説」を合わせたもの。八陣自註は有沢永貞著，正徳3年(1713)に原本成立，八陣図説は向陽林子著，寛文3年(1663)成立。前者には「甲陽軍鑑石水寺物語下唐国諸葛孔明八陣之図」とあり，魚鱗・鶴翼・長蛇・偃月・鋒矢・方向・衝軛・雁行の八陣を解説する。

8125　〔八陣之図〕　16.81—323
絵図1枚　106×104cm
端裏書「寛永十八辛巳六月十八日作之，同廿二日本図成，諸葛亮八陣為六旧法」とあり。

8126　営法陣取図註解　16.81—324
北条政相著
絵図1枚　彩色　124.5×111cm
表題「改正私記営法陣取図註解」。図と註解。

8127　営法諸手座備図　16.81—325
北条政相著
絵図1枚　42×36cm
陣備の略図。

8128　営法陣取之図　16.81—326
北条政相著
絵図1枚　76×80cm
営法陣取（四方篠垣迄百五拾間余，小屋敷前後百四十八間，左右百四十六間の図)。陣備の図。

8129　野営本陣備立図　16.81—327
絵図3枚　92×176cm

○野営本陣図(彩色)
○同各陣配置図，間数・坪数書上げ　51×35cm
○同各陣配置図　50.5×37.5cm。

8130　大陣取図　16.81—328
手写
絵図1枚　彩色　77×81cm
有沢氏旧蔵。前後210間・左右224間の大陣取小屋敷図。

8131　御旗本諸番制　16.81—329
北条氏長著
手写
6丁　22cm
旗本の勤番割。表題に「氏長作」とあり，北条氏長の作案か。

8132　旗本先備〔之図〕　16.81—330
絵図1枚　591×54cm
職名と人数を記す。

8133　旗本陣図　16.81—331
絵図1枚　彩色　164×263cm
備立の俯瞰図。各陣営の様子，旗指物・兵糧の位置なども記す。

8134　旗本陣取之図　16.81—332
絵図1枚　彩色　150×94cm
備立八陣の図。諸役配置を示す。

8135　旗本備押之次第　16.81—333
30丁　23cm
表題「筑前守様御分，旗本備押之次第」。行列図。

8136　旗本備立図　16.81—334
絵図3枚　55×38.5cm～65×58cm
旗本備立図三種。「疋夫の抄」「武田備要抄」などに記載の備立図・理論を参考として作成。

8137　旗本備之図　16.81—335
絵図4枚　48×35cm～78×118cm　袋入
袋書「御旗本備之図」。1枚に加賀藩士名を入れる。

8138　旗本〔備立〕并五十騎一備之図　16.81—336
絵図1枚　彩色　42×58cm
「旗本或大備」「五十騎一備」の2種を収録。
旧書名「旗本並五十騎一備之図」。

8139　先組相備人数積　16.81—337
有沢永貞著
自筆　正徳5年(1715)
32丁　23cm
内題には「備先手人数諸道具の事」とある。

8140　先手相備組合五百騎一構相陣取之図　16.81—338
絵図1枚　彩色　59×86cm
備頭本陣を中心に，一番～八番の相備などの配置図。

8141　一二之先備営図　16.81—339
手写
絵図4枚　彩色　32×41.5cm～79×56cm袋入
①「五百騎坐備図」②有沢命貞「五百騎相陣取之図」天和元年(1681)改作之　③有沢命貞「二先百五十騎坐備図」④「二ノ先百五十騎陣取図」天和元年改作之。有沢命貞の署名があるが，作成年代とは合わず，彼の手写か。

8142　一二之先手人数積并行列　16.81—340
今枝易直手写　文化10年(1813)
23丁　27.5×20cm
今枝氏旧蔵。一二之先手人数と配置を記し，一之先手五百騎行列，二之先手百五十騎行列の配置図をつける。

8143　一二之備行列　16.81—341
手写
1帖　15.5cm
今枝氏旧蔵。前号と同内容。

8144　遊軍三備　16.81—342
1枚　57×42cm
陣立配備図。旧書名「遊軍三備之図」。

8145　五百騎案見書　16.81—343
有沢永貞著
脇田直方手写　文政13年(1830)

9丁　22cm
脇田尚保旧蔵。表題「永貞先師五百騎案見書」。

8146　五百騎相陣取之図　16.81—344
吉田員輝（路水文庫）手写　文政10年(1827)
絵図1枚　81×57cm
陣の配置図。図の下には天和元年(1681)10月付陣屋割之事として間数・人数積を記す。有沢命貞の署名があるが，命貞は寛政6年(1794)38才で没しているので，原著者ではなく，命貞の筆写を文政10年(1827)写したものか。

8147　五百騎座備図　16.81—345
絵図1枚　109×80cm
500騎を一番～八番組と備頭200騎に分けた陣立図。

8148　四百騎案見之図　16.81—346
脇田尚保手写　天保10年(1839)
絵図4枚　26.5×38.5cm～82.5×63cm
脇田尚保旧蔵。①一之先三百拾騎坐備図　②一之先三百拾騎相陣取之図　③二之先九拾騎座備之図　④二之先九拾騎陣図。

8149　三百騎之陣取図　16.81—347
絵図1枚　彩色　91×84cm
配陣図。300騎の場合の各配置の人数を記し，総人数4,374人，馬数581疋とする。

8150　二先百五十騎陣取図并坐備図　16.81—348
絵図2枚　46×40cm・44×40cm
「天和元年(1681)十月下旬改作之」とあり。
①二先百五十騎陣取図。二先は二の先陣の意。
②二先百五十騎坐備図。「自一先三町 或五町退テ立之」とあり。

8151　百騎二備案見図断　16.81—349
有沢永貞著
手写　天保12年(1841)
34丁　24cm
脇田尚保旧蔵。巻尾に「観念洞蔵書」とあり。百騎案間之内「備頭一隊」同「相備一隊」の知行高，軍役，人数積，小荷駄人夫割等を記し，又備立，行列，陣取，城取，城内人数，虎口三備，軍器積を記し，最後に「加文」を記す。

8152　九拾六騎備行営城分間略図　16.81—350
矢田尚賢著
天保10年(1839)
絵図1冊(4枚)　彩色　28×40cm
陣立・行列・陣屋・籠城の図。

8153　六十五騎陣取之図　16.81—351
有沢竣政（小太郎）著
絵図1枚　41×28cm
著者が13才の時に記した小屋備・人数配の陣取図。

8154　五十騎一備一陣取之図　16.81—352
絵図2枚　25×34cm
侍大将を中心とした配陣図。2枚とも同内容。

8155　五十騎一手座備之図　16.81—353
刊
絵図1枚　117×210cm
人物は木版で印し，職名・人数を墨書する。

8156　五十騎一備屈伸之図附馬出広狭秘説断　16.81—354
手写
21丁　23cm
五十騎一備屈伸之図は陣配置の変化について図解する。馬出広狭秘説断は天保13年(1842)新氏敬（敬近）の著。城郭における馬出の間数・坪数について論ずる。

8157　五十騎一備屈伸之図　16.81—355
手写
6丁　23cm
前号の抄録。

8158　五十騎一手人数積　16.81—356
有沢武貞著
手写
22丁　23cm
今枝氏旧蔵。原本成立は享保9年(1724)。内題は「五十騎一備案間人数積」。甲州流軍学において，1万2千石を九軍役にあてた時の人数積。

8159　五十騎一手畳備之図　16.81—357
有沢武貞著
自筆　享保9年(1724)
絵図2枚　57×213cm
前号を図に表したもの。①は下図で人物を木版刷し　②はそれに着色したもの。

8160　五十騎一備之図　16.81—358
絵図2枚　60×83cm・58×84cm
①侍大将を中心とした彩色配陣図
②侍大将を中心とした配陣図であるが，①と配置にはやや相違があり，「軍勢惣合四百拾壱人，馬六拾五疋」として，それぞれの人数を記入する。

8161　座備三番組四十騎一備之図　16.81—359
絵図1枚　73×80cm
配置人物は版画。大将・長柄奉行・足軽大将などを記入。

8162　当家御旗本之備図　16.81—360
手写　寛文10年(1670)
4頁　15.5×18.5cm
内題に「源家綱公御旗本之備図」とあり，徳川4代将軍家綱時代の旗本陣立図。
旧書名「家綱公御旗本之備図」。

8163　将軍家斉公御猪狩之節御備等絵図　16.81—361
絵図4枚　93×40cm
脇田尚保旧蔵。寛政7年(1795)の際のもの，猪鹿を追う陣立を絵にしたもの。

8164　吉田六左衛門秘書　16.81—362
1枚　38.5×28cm　包紙
包紙に「前田主水所持」とあり，内容は家康幕下の布陣の図。

城　　取

8165　城取本元抄　16.81—363
有沢永貞著
手写
2冊　24cm
上巻は城之地形知事・城縄張之事・城間数之事・虎口之習之事・城普請之事・城取成就之事，下巻は天下主居城之事・国主居城之事・郡取居城之事・屋敷構之事・境目城之事・取出城之事・付城并向城之事・陣城之事・留守居城并旅城之事。
原本は万治4年(1661)成立。署名の俊貞は永貞の初諱。

8166　城取本元抄　16.81—364
有沢永貞著
手写
44丁　26cm
今枝氏旧蔵。万治4年(1661)原本成立。上，下を1冊とする。(上)城之地形知事・城縄張之事城間数之事・虎口之習事・城普請之事，城取成就之事　(下)天下之主居城之事・国主居城之事・郡取居城之事・屋敷構之事・境目城之事・取出城之事・付城并向城之事・陣城之事・留守居城并旅城之事。

8167　城取本元抄　16.81—365
有沢永貞著
手写
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。前号と同内容。上，下を2冊にわける。

8168　城取離格問答　16.81—366
有沢永貞著
手写
25丁　23cm
脇田尚保旧蔵。成立は万治4年(1661)。

8169　城取私考　16.81—367
有沢永貞著
自筆　元禄3年(1690)
9丁　27cm
城取の大綱として地形，縄張，普請の三つをあげ，さらに城築大躰について述べる。

8170　城取私考　16.81—368
有沢永貞著
手写
9丁　25cm

今枝氏旧蔵。元禄3年(1690)原本成立。城取の大意を地形・繩張・普請に求め，これを説いている。

8171　城取私考　16.81—369
有沢永貞著
手写
9丁　23cm
前号に同じ。

8172　城捕品節抄　16.81—370
有沢永貞著
手写　寛政2年(1790)
19丁　23cm
元禄13年（1700）原本成立。内容項目は城捕序図，天下之居城，国主居城，郡主居城，境目城，取出，陣城，付城・向城，屋敷構。

8173　城取品節抄　16.81—371
有沢永貞著
手写
20丁　26cm
今枝氏旧蔵。内容は前号に同じ。

8174　城取奥秘九箇条　16.81—372
有沢永貞編
今枝直温手写　宝永2年(1705)
19丁　21cm
宝永元年(1704)原本成立。今枝直温が宝永2年に有沢永貞，武貞より伝授を受けたもの。
○敵ノ資ルニ資ニククト取返スニ手間不取繩
○大軍籠テ不狭小勢籠テ不広繩
○山城馬出間数不同大角馬出大丸馬出
○近クニ高山有テ内見ユルニ蔀様
○本有之曲尺
○重々之曲尺
○十字卍字之曲尺
○膝梭之曲尺
○人心之曲尺
以上を九箇条として註解を施し，巻首に「此九ケ条之傳ハ山本晴幸入道道鬼公ヨリ往々口傳ニ仕来ルノ故不書著ノ由也，故ニ傳受ノ前日ヨリ精進シテ受之尤衣服ヲ改メ上下ヲ着シ是ヲ受ルノ法ナリト先師佐々木秀乗ヨリ申傳フル所也」とあり。

8175　城取奥秘九箇条疎註　16.81—373
有沢永貞著
手写
19丁　24cm
今枝氏旧蔵。表題「九箇条疎註」。宝永元年（1704）原本成立。前号と同内容。

8176　城取奥秘口解　16.81—374
有沢永貞著
手写
18丁　24cm
前号と同内容。

8177　城取四対八城品目　16.81—375
有沢武貞・有沢永貞著
手写
24丁　23cm
今枝氏旧蔵。新営と改旧，早築と漸修，廃掃と再興，急防と変形を四対・八城とする。宝永7年（1710）成立。武貞が書いたものに父永貞が細註を加えたもの。

8178　四対八城　16.81—376
有沢永貞・有沢武貞著
手写
2冊　26cm
今枝氏旧蔵。原本宝永7年(1710)成立。上巻永貞，下巻武貞の作。四対八城は新営と改旧，早築と漸修，廃掃と再興，急防と変形を意味し，築城について記す。武貞が定めた四対八城に永貞が細註を施す。前号と同内容。

8179　四対八城論　16.81—377
有沢武貞・有沢永貞著
手写
20丁　23cm
表題「永貞武貞両先生四対八城」。築城方法四対にして八城（新営と改旧，早築と漸修，廃掃と再興，急防と変形）を論じ，有沢武貞が定めたもの。武貞の「四対八城」と，同年の父永貞の解説からなる。前号と同内容。

8180 城縄註解　16.81—378
有沢武貞・有沢永貞著
今枝直温手写　宝永8年(1711)
52丁　25cm
今枝氏旧蔵。有沢永貞著「十二城」・「八城」，武貞著「四対八城」を収録。「十二城」は宝永8年(1711)原本成立。内容は，天下之居城，国主居城，同屋敷構，郡主守城，同防戦，同屋敷本城，境目守成，同防戦，同侍大将居城，同番手，取出主戦，向城の12項目。「八城」・「四対八城」は「城取四対八城品目」(特16.81—375)と同内容。

8181 八城自註　16.81—379
有沢永貞著
自筆　宝永7年(1710)
31丁　22cm
八城とは新営，改旧，早築，漸修，廃掃，再興，急防，変形を意味し，永貞の子武貞が定めたもの。特16.81—376の上巻と同内容。

8182 八城自註　16.81—380
有沢武貞著
自筆　宝永7年(1710)
10丁　22cm
表題には「庚寅八城自註」とあり，内題は「四対八城」と記す。特16.81—376の下巻と同内容。

8183 月次之城序抜草案　16.81—381
有沢武貞著
自筆　元禄15年(1702)
15丁　24cm
表題「元禄拾五壬午年月次之城序抜草案」。表紙に「一日ニ作之者也初草ハ破却スル再稿也」とあり。正月より12月迄城について故事来歴を引き，城の有効性を説く。武貞の草稿。

8184 城取練習仕様抄　16.81—382
有沢武貞著
手写
55丁　25cm
今枝氏旧蔵。享保20年(1735)原本成立。城取の業を修行しようとするものを対象にまとめたもの。

8185 城取練習仕様抄　16.81—383
有沢武貞著
津田信敦手写　寛政元年(1789)
51丁　23cm
原本成立は享保20年(1735)。前号と同内容。

8186 九ケ条粗註　16.81—384
有沢致貞著
手写
12丁　24cm
享保6年(1721)原本成立。宝永元年(1704)有沢武貞が聞書した書に手を加えたもの。

8187 城取大意　16.81—385
有沢致貞編
脇田尚方手写　文政5年(1822)
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。表題「改正城取大意」。原本は享保7年(1722)成立。脇田尚方が田辺正巳より借用して筆写したもの。目次は，上巻は城取練習大意，城地品々，城品々，下巻は縄張之部，普請之部，造作之部，城取流義之弁。

8188 城取大意　16.81—386
有沢致貞著
77丁　27cm
城取練習大意・城地品々・城品々・縄張之部・普請之部・造作之部・城取流義之弁よりなる。前号と同内容。

8189 城取練習大意　16.81—387
有沢致貞著
今枝易直手写　享保11年(1726)
91丁　24cm
今枝氏旧蔵。表題「城取習練大意」。享保7年(1722)原本成立。特16.81—385と同内容。

8190 城　取　16.81—388
41丁　23cm
脇田尚保旧蔵。城の種類・構造について解説する。

8191　城取間数之弁　16.81—389
12丁・2枚　12×18cm・19.5×24cm・27.5×37cm
城取間数之弁（城地・敷地・郭の大きさなどを論じたもの）と附図2枚（土居・堀などの大きさの早見表）。

8192　九箇条裏之伝之内　16.81—390
2冊　24cm
今枝氏旧蔵。
①五之規矩として，地生度・度生量・量生数・数生称・称生勝について述べる
②表題「九箇条裏之伝之内極秘」。座備，行列，畳備の変化図を記す。有沢武貞の著か。

8193　九箇条秘伝精解　16.81—391
脇田尚方手写
41丁　24cm
脇田尚保旧蔵。城取9カ条に関するもの。

8194　九ケ条聞書　16.81—392
安達公績編
31丁　24cm
城取奥秘について記す。末尾に有沢致貞・武貞・馬場政乗の繩張の城郭図10枚あり。

8195　九ケ条記聞　16.81—393
36丁　24cm
表題は「貞幹師再講九箇条記聞」。貞幹師は有沢貞幹。九ケ条とは，城取奥秘4ケ条と五之曲尺（5ケ条）を意味する。

8196　五矩秘解等　16.81—394
30丁　23cm
脇田尚保旧蔵。五矩秘解，致貞先生朱書九ケ条解，九ケ条集解，運気指南抄。五矩は五つの曲尺，城取により顕われるとする。五矩秘解は文政4年（1821）駒井守儀編。致貞先生朱書九ケ条解は城取九ケ条を記したもので，石田明信の記すものに宝永7年(1710)有沢致貞が朱筆を加えたもの。九ケ条集解は享和2年(1802)成立。運気指南抄は文政12年（1829）脇田尚方手写の写。

城　　図

8197　城取分間之図　16.81—395
絵図2枚　108×99cm・54×74cm
①は本城，二之郭，三之郭，北之郭を描き，土居・石垣の高さ，堀の幅等を記入。②は城の図のみで説明は一切ない。

8198　城取古法　16.81—396
絵図6枚　54×28cm～120×104cm
表題「城取方法七枚之内」。本丸，二ノ丸，三ノ丸等を描き，簡単な解説をつける。

8199　百城之図　16.81—397
有沢永貞著
自筆　寛文8年(1668)
1帖　彩色　22.5cm
外題「永貞先生百城」。平城30・平山城28・山城29・取出3・付城3・陣城4・屋敷構3の合計100の城の図案。見返しに「右百城寛文八戊申秋冬於越中高岡作之，有沢俊貞」とある。俊貞は永貞の初諱。

8200　百城之図　16.81—398
有沢永貞著
河地某手写
1帖　彩色　22.5cm
前号に同じ。

8201　十五城之図　16.81—399
有沢永貞著
絵図1冊(15枚)　28×40cm
15の城図をもって建物配置・構・地形等の関連を示す。奥付に天和3年(1683)の記あり。

8202　平城之図稿　16.81—400
有沢永貞著
自筆　貞享3年(1686)
絵図1枚　101×90cm
「丙寅九月四日ニ小図作之，同月十五日分間草図作之，同十月朔日清書作之」とあり，平城分間之図。次号の下書。
旧書名「平城之図」。

8203　平城分間之図　16.81—401
有沢永貞著
自筆　貞享3年(1686)
絵図1枚　彩色　103×89cm
各地形・施設を色分けで示す。

8204　築城守防全図　16.81—402
有沢永貞著
手写
絵図1枚　彩色　69×95cm　袋入
袋表題「永貞先生 築城守防全図」。脇田尚保旧蔵。「貞享丙寅(3年)始冬中旬作之，平永貞」とあり。城郭とそれを守備する武者を色分けで示す。

8205　五城之図　16.81—403
有沢永貞著
手写
絵図6枚　40×55cm
毛利左次馬旧蔵。原本は元禄2年(1689)，同4年(1691)成立。
○山城，「軍詞之巻城取為証 名目改作之，元禄辛末季夏下旬」
○山　城　同上　40×56cm　上記と同内容。
○平山城　同上　39×55cm
○平　城　同上　39×55cm
○平　城　同上　39×55cm
○「左右両図之 平城は平易険固之 躰習之格作之加之置者也」「元禄己巳 中冬於 武陽江府此両城之」とあり。　39×108cm

8206　匹夫之抄五城之図　16.81—404
有沢永貞著
元禄2～4年(1689～91)
絵図4枚　彩色　40×42cm　包紙
「軍詞之巻城取為証名目改作之」とあり。平城図2枚(40×42cm・40×83cm)，平山城図1枚(40×56cm)，山城図1枚(40×42cm)よりなる。前号と同内容。

8207　平城並平山城図　16.81—405
有沢永貞著
絵図4枚　彩色　33cm×47.5cm～34cm×48cm
匹夫之抄五城之図のうち山城の図を欠く。

8208　平城之図　16.81—406
有沢永貞著
自筆　元禄2年(1689)
絵図2枚　彩色　52×38cm・38×104cm
①平城図。各部名称を朱筆で附記
②平城図。「元禄己巳中冬於武陽江 府此両城作之，永貞」「左右両図之平城は平易険固之躰習之格作之加之置者也」とあり。

8209　平城之図　16.81—407
有沢永貞著
手写
絵図1枚　彩色　39×83cm
有沢永貞「匹夫之抄五城之図」のうちの1つ。元禄2年(1689)原本成立。前号の②の写。

8210　平山城之図　16.81—408
有沢永貞著
絵図1枚　彩色　37.5×52cm
「軍詞之巻城取為証名目改作之，元禄辛未(元禄4年)季夏下旬」とあり。軍詞之巻は有沢永貞著「兵法匹夫之抄」中にあり。

8211　山城之図　16.81—409
有沢永貞著
自筆　元禄4年(1691)
絵図1枚　彩色　38×53cm
「軍詞之巻城取為証名目改作之」とあり。

8212　山城之図写　16.81—410
有沢永貞著
手写
絵図1枚　彩色　33.5×47.5cm
前号に同じ。

8213　城　図　16.81—411
有沢永貞著
絵図1枚　160×40cm
表題「有沢永貞城図」。山城，平山城，平城を立体的に(象図として)描く。大図の略図として元禄2年(1689)に書いたもの。

8214　五城之図　16.81—412
手写
絵図1冊(5枚)　36×25cm
城の略図と周囲の景観を沼，泥土，足入，池などと記すのみ。

8215　先手組相備連城之図　16.81—413
有沢永貞著
絵図1枚　彩色　70×201cm
「…其国郡ノ先方ノ諸将郡郷所々ニ在住ノ備頭ニ随テ出陣ノ彼ヲ勤ム其大躰ヲ図ス…」とあり，製作は元禄4年(1691)。

8216　先手組相備連城之図　16.81—414
有沢永貞著
脇田尚方(金岱)手写　文化9年(1812)
絵図1枚　207×71cm
元禄4年(1691)成立。題僉は「永貞先師連城図」八つの城の配置を記す。前号と同内容。

8217　平山城之図　16.81—415
有沢永貞著
元禄9年(1696)
絵図1枚　82×66cm
表題は「分間平山城之図」。前年作った図を分間に改めて作製したと記す。一部欠。

8218　十躰三十城之図　16.81—416
有沢永貞著
自筆　宝永2年(1705)
1帖　27cm
築城の際の地形・郭・門・塀などについて30例をあげて説明。十躰は和歌の十躰に倣う。

8219　十躰之城図序附城図　16.81—417
有沢永貞著
手写
7丁　絵図15枚　彩色　22cm・24×34.5cm
脇田氏旧蔵。「十躰三十城図」の序文と絵図。ただし絵図は15城分。宝永2年(1705)原本成立。

8220　四対八城図　16.81—418
有沢永貞・有沢武貞著
手写
絵図1冊(21枚)　彩色　28×40cm
脇田尚保旧蔵。表題「両貞先生四対八城図」。宝永7年(1710)原本成立。有沢武貞の「四対八城」と，永貞の「八城」を作図したもの。

8221　城築旧伝新製之図　16.81—419
有沢永貞著
脇田尚方手写　文政9年(1826)
絵図1冊(54枚)　彩色　28×40.5cm
脇田尚保旧蔵。表題「有沢永貞旧伝新製城図」。正徳2年(1712)原本成立。山本晴幸(勘介)旧伝の趣旨を56城に新製したとする。早(草)習・行習・真習・末書(甲陽軍鑑)・結要本(同)などに区分し，城郭図56例を収載。

8222　九城之図等　16.81—420
有沢永貞等著
脇田尚方手写　文政9年(1826)
1冊(図11枚・文書2通)　29×41cm
有沢永貞の「品目九城之図」(正徳2年成立)，有沢貞幹の「駿州清水城地奥秘之躰」(明和5年成立)，牧忠輔の「城形方円図断并向背之理」(寛政8年成立)を手写したもの。

8223　平城之図　16.81—421
絵図1枚　彩色　153×176cm
城郭の俯瞰図。有沢永貞「五城之図」のうち平山城に似た構図をもつ。

8224　城取七枚之図　16.81—422
有沢永貞著
自筆
絵図8枚　47.5×52cm
①「第一城取七ケ条」，②「第二無馬出之図」47.5×47　③「第三後堅固之城図」47×47　④「第四真丸馬出邪曲輪」52.5×47　⑤「第五真丸馬出之図」52.5×47　⑥「第七平城本図」52.5×47，⑦35×46，⑧36×47.5。

8225　四十七城之図　16.81—423
有沢永貞著
1帖　22cm
表題は「梧井庵先生四十七城」。城取の習いのため五十城を作図し，添削を請うたもの。

8226　九十城之図　16.81—424
有沢永貞著
脇田直一手写　嘉永3年(1850)
絵図1冊(図35枚・文書2通)　28×40cm
脇田尚保旧蔵。表題「永貞先生九十城」。坤のみ。

8227　五十五城之図　16.81—425
有沢武貞著
元禄14～15年(1701～02)
絵図1冊(55枚)　29×41cm
草図。「甲陽軍鑑末書城取之伝大概如不漏作之也」とある。有沢永貞の「九十城」にならって作図し，永貞の添削をうけたもの。

8228　二十一城之図　16.81—426
有沢武貞著
自筆　享保14(1729)
1帖　彩色　34cm
大国之主居城・国主居城・国持屋敷構・郡主居城防戦・郡主居城守成・郡主居城守防相兼・境目之城守成・境目之城防成・境目之城番手・境目之城居住・侍大将宿城・侍大将根小屋・侍大将山中小屋城・取出主・取出客・出丸・附城・向城・陣城・心之城耳不労陣城・野陣の図よりなる。巻頭「六箇年来役務繁多而不為城取之清図今春初作之城図従仲春上四為草案時々浄書而到中五拾官暇及脱稿」とあり，また城取についての自叙あり。表題「己酉廿弐城之図」。

8229　境目之十弐城図　16.81—427
有沢武貞著
享保17年(1732)
巻子1　23cm
内題は「壬子境目之十弐城」。享保17年(壬子歳1732)に武貞が境目の城の繩張を試みたもの。

8230　九城之図　16.81—428
有沢武貞著
自筆　享保17年(1732)
巻子1　30cm
国主居城，郡主居城，境目之城，各々平山城，平城，山城，都合九城之図。勝丸様(宗辰か)の依頼によって作図したものの控。

8231　十五城之図　16.81—42 9
有沢武貞著
自筆　元文2年(1737)
絵図1冊(17枚)　彩色　28×39.5cm
築城の地取り配置16例。国主居城・郡主居城・境目之城・執（取）出城・附城・陣城・屋敷構の7種に分類し，図中に朱筆あり。「武貞城図」ともあり。子貞幹（藍水堂）のために作図したもの。

8232　十五城之図　16.81—430
有沢武貞著
脇田尚政手写
絵図1冊(18枚)　彩色　28.5×42.5cm
脇田尚保旧蔵。表題「有沢武貞十五城」。前号の写。

8233　十城之図　16.81—431
有沢武貞著
自筆　元文2年(1737)
巻子1　27.5cm
築城の地取り郭配置10例。表題に「厚父伯赴十城」とある。内題「丁巳十城」。

8234　城之図　16.81—432
有沢重澄著
絵図1枚　91.5×93.5cm
表題「有沢弥三郎重澄城図」。城郭配置見取図。郭・門・塀・濠のそれぞれについて長さ・幅などを入れてある。寛文13年（1673)に作成。「師乞添剝令見之然城取形理分間師不叶心故不及清書」とあり。重澄(弥三郎)は致遠のことか。

8235　分間城下之図　16.81—433
有沢小三郎著
自筆　元禄16年(1703)
絵図1枚　彩色　59×135cm
城下地割を二分拾間の縮尺で記したもの。

8236　平城分間之図　16.81—434
有沢小三郎著
自筆　元禄16年(1703)
絵図1枚　彩色　59×134cm
前号の城郭部分を拡大したもの。小三郎は次号

有沢武正のことか。

8237　平城分間之図　16.81—435
有沢武正著
自筆　元禄16年(1703)
絵図1枚　彩色　98×97cm

8238　城之図　16.81—436
有沢致貞著
自筆
巻子1　27.5cm
習躰，実城躰として山城図2，平城図2，平山城図1を記載。享保6年(1721)作図。題僉「有沢致貞習躰山城等」。

8239　城取之図　16.81—437
有沢致貞著
絵図1枚　122.5×188.5cm
表題「致貞先生城取」。城地内(平城)の城郭配置俯瞰図であるが，城内・櫓・塀・濠・郭の位置形状などが詳細に描かれている。

8240　三十三城之図　16.81—438
有沢致貞著
1帖　28cm
甲陽軍鑑下巻，軍法之巻，結要本などから作図した32城。原本は享保20年（1735）成立。

8241　十躰城図　16.81—439
佐藤元知著
自筆　天保9年(1838)
巻子1　28cm
外題「佐藤元知十体城図」。第一幽玄躰，郡主居城，地形自然ノ勢ヲ用ル躰から第十鬼拉躰，境目之城，初郡主居屋敷構転作之躰よりなる。佐藤元知の前書あり。武貞百回忌に際して，有沢致貞の十躰の城取にならって作図したもの。

8242　一城七致之図　16.81—440
8丁　28×19cm
麁図・城下之図・城地近辺之図・分間略図・分間本図・象書庸図・象書本図。一つの城を7通の図に記したもの。「有沢致貞作之欤」とあり。

8243　十五城之図　16.81—441
有沢貞幹著
自筆　元文3年(1738)
絵図1冊(16枚)　彩色　24.5×35cm
脇田尚保旧蔵。表題「貞幹先師城図」。築城の地取り郭配置15城，平城8城，山城3城，平山城4城。

8244　城之図　16.81—442
有沢貞幹著
絵図1冊(20枚)　28×38.5cm
築城にかかる地取り郭配置図。表題「貞幹先醒（生）城図」とあり。

8245　城図序　16.81—443
有沢貞幹著
2丁　23.5cm
表題「藍君城図序」。藍君は藍水堂を称した有沢貞幹のこと。城図序とあるが大半は叔父致貞の業績について述べる。

8246　十城之図　16.81—444
有沢貞幹著
有沢師貞手写　文化6～7年(1809～10)
絵図2冊　24.5×36.5cm
表題は「梧井庵三世貞幹君之十城」。各々築城の城取り郭配置10例を記す。

8247　百城之内二十図　16.81—445
文政10年(1827)
絵図2冊　33×46cm
表題「文政丁亥百城之内廿図」。「於江府幸麻呂作之」とある。各20枚の城図案，その大半に俳句を記している。なお，有沢才右衛門宛などの時候挨拶の書状の紙背を利用している。年代から考えて有沢貞庸か師貞。

8248　城之図　16.81—446
有沢師貞著
絵図7枚　彩色　24×35.5cm～28×100cm
城郭配置模式図。
①大国主之居城(平山城)丁亥(文政10年か)幸麻呂作図　②天保10年(1839)平(有沢)師貞作図　③，④丁酉(天保8年か)師貞作図。他3点は記

載なし。

8249 〔城之図〕 16.81—447
有沢師貞著
自筆　天保8年(1837)
巻子1　24cm
外題「平師貞城図」。28例からなる城郭立地構想図。

8250 城之図 16.81—448
有沢師貞著
自筆　天保14年(1843)
絵図1枚　24cm×107cm
城郭配置図。「右之図は慈父淡水君(貞庸)之七回忌碑前謹テ備之」とあり。

8251 城之図 16.81—449
有沢貞延著
絵図2枚　24.5×35cm
城郭配置模式絵図。郭配置のみのものと沼・池・樹木なども記したものと2図ある。元治元年(1864)作図。

8252 城　図 16.81—450
有沢貞正手写
絵図1枚　27.5cm×38cm
平城(水城)の郭配置模式絵図。

8253 平城分間之図 16.81—451
有沢之貞著
絵図3枚　彩色　28×40cm
端本。城郭図の部分3枚のみ。

8254 〔北条氏長分間之城図等〕 16.81—452
北条氏長著
手写
絵図2枚　96×106cm・50×35cm
①北条氏長作分間之城図。平城の図
②北条氏長　奉献木形図。
北条氏長は江戸初期の兵学者。小幡景憲によって武田家の兵法を学び，北条流兵学を始めた。
旧書名「城之図」。

8255 城之図 16.81—453
手写　寛文13年(1673)
絵図1枚　28cm×40.5cm
平城における城郭配置図模式図。

8256 城形之絵図 16.81—454
中多伝兵衛著
手写
11丁　23.5cm
山城，平山城，平城の20例。寛文年間原本成立

8257 〔分間城草図〕 16.81—455
延宝5年(1677)
絵図1枚　80×100cm
特16.81—400に関連するか。

8258 分間之城図 16.81—456
延宝8年(1680)
絵図2枚　彩色　72×84cm・57×54cm
分間之城図（断簡）と二之曲輪の図。

8259 平山城居城躰 16.81—457
貞享3年(1686)
絵図1枚　32×47cm
城図の下絵。

8260 平城境目躰 16.81—458
貞享3年(1686)
絵図1枚　48cm×33cm
「山平ノ三城半図ニ欲作之，草案之繩張設之」とあり。

8261 城之図 16.81—459
安達弼亮(周蔵)著
自筆
絵図1枚　33×135.5cm
寛政8年(1796)有沢貞幹の7回忌に当って作製したもの。題僉「安達周蔵製城図」。

8262 城之図 16.81—460
岡本善行(周助)著
自筆　寛政11年(1799)
絵図1枚　92×80.5cm
平山城の分間図。本丸，二之丸，外郭の面積，

守人数，旗本人数，小屋面積なども記載。題僉「岡本周助製城図」

8263　国君御城図写　16.81—461
手写
絵図2枚　46×34cm
「中将様」の作図の写し。「乙丑六月」の作図，文化2年(1805)か。

8264　二十七城之粗図　16.81—462
新敬近著
自筆　文政10年(1827)
絵図1冊(24枚)　彩色　28×40cm
別名「新敬近廿七城」。脇田尚保旧蔵。国主五城・郡主七城・境目十五城の城築縄張図。

8265　城　図　16.81—463
新敬近著
天保7～10年(1836～39)
絵図3枚　彩色　51×63cm
○連城の図(51×63cm・62.5×84cm)
「予去秋於東武本郷邸舎作地勢接続連城得梧井庵先生訂正……連城中郡主一城象画之更計分間欲試守兵配当已」とあり
○郡境両城図(29.5×133)。

8266　城之図　16.81—464
鈴木菊英著
文政2年(1819)
絵図1枚　94.5×84cm
城郭配置模式図。題僉「鈴木菊英城図」。

8267　〔城図〕　16.81—465
佐藤元知著
自筆　天保2年(1831)
巻子1　彩色　29cm
外題「佐藤元知城図」。脇田尚保旧蔵。

8268　牧忠輔先生自筆六城　16.81—466
牧忠輔著
脇田尚方手写　天保11年(1840)
巻子1・絵図5枚 26.5cm・28×40.5cm 袋入
脇田尚保旧蔵。自筆とあるが，同門神谷氏から借用して写したもの。
○牧忠輔先生弗蔀并弁解。これは梧井庵高弟牧忠輔子城築法蔀弗之弁，梧井庵高弟牧忠輔子城形満字膝之弁よりなる。
旧書名「六城之図」。

8269　郡主境目居城之図　16.81—467
富田景純著
脇田尚方手写　弘化5年(1848)
絵図6枚　28×41cm～35×24cm
脇田尚保旧蔵。表題には「郡主居城之心持ニて境目也」とある。富田景純の弘化2年(1845)の作図2枚，同4年の作図3枚，および駿州江尻城図1枚。註記に「富田九内景純ハ梧井庵ノ門人ニテ」とあるが，景純は幕末の人であり，梧井庵門人は有沢永貞の門人を意味するわけではなく貞庸門下であることを意味するか。

8270　城之図　16.81—468
清水錦郷著
嘉永2年(1849)
絵図1枚　31×59.5cm
城郭配置図と賦一首。有沢貞庸13回忌の日に作成したとある。

8271　城之図　16.81—469
清水錦郷著
嘉永5年(1852)
絵図1枚　31×114cm
城郭配置図の下図。「淡水堂(有沢貞庸)・若水堂両先生当御年忌日図而備之」とある。

8272　〔百城図〕　16.81—470
横山政和著
嘉永6年(1853)
仮綴1(99枚)　25×35cm
嘉永5年11月から同6年12月にかけて著者が考えた城地配置図案，それに新先生，鈴木先生が朱を加えて添削。

8273　七城之図　16.81—471
鈴木菊英著
脇田尚保手写　安政7年(1860)
絵図1冊(8枚)　27×39cm
脇田尚保旧蔵。表題「鈴木菊英師七城図」。安政

5年(1858)原本成立。「甲陽軍鑑」等により七つの城を作図したもの。

8274　一郡之主領分方境略図　16.81—472
野田成貞著
絵図1枚　47×68cm
城と城下をめぐる川・山などの配置図。

8275　一聚之図　16.81—473
絵図1枚　35×48cm
山城之図。城制を初めて学ぶ者のため一城の形をまとめたもの。

8276　旧伝城取七枚之図　16.81—474
絵図9枚　57×53cm・28×53cm　袋入
第一城取七ケ条，第二無馬出之図，第三後堅固之城図，第四真丸馬出邪曲輪，第五真丸馬出之図，第六横矢之図，第七平城本図の7枚。附図2枚は旧伝七枚の図内にあり，末書を以て改めたとする。

8277　象書之城分間之図　16.81—475
絵図1枚　92.5cm×91cm
平城の配置・寸法図。

8278　城習作図　16.81—476
絵図1冊(21枚)　28cm×78.5cm
築城にかかる地取り，郭配置など21例をあげている。

8279　城取本丸書　16.81—477
20丁　23.5cm
本丸の基本72型を図示。

8280　城等零図　16.81—478
絵図22枚　彩色　77×33cm　袋入
城図・町図等のうち零図を前田家編輯方が一括したもの。袋書の旧表題は「実城地理草案零図等」とあり。

8281　城　図　16.81—479
絵図1枚　47cm×35.5cm
平城の郭配置模式図。

8282　城　図　16.81—480
富田景章手写
絵図8枚　28×40.5cm
富田捨松旧蔵。城郭配置模式図。

8283　城之図　16.81—481
池守文一著
絵図1枚　55×78.5cm　袋入
脇田尚保旧蔵。平城の一型式を示す。本丸・広式・隠居郭・嫡子郭・連子屋舗などを記載。袋の表に「池守文一先弟城図」とあり。

8284　城之図　16.81—482
高畠定位著
絵図1枚　58.5×80cm
城郭配置図。題僉「高畠定位製城図」。

8285　城之図　16.81—483
手写
絵図1枚　73×59cm
「入江左源太直良取之」とあり。

8286　城之図　16.81—484
絵図8枚　62×66cm
①津田信成所持か
②天守之図，42.5×30cm
③122×82cm
④72×80cm
⑤57×40cm
⑥惣屏数925間，守人2,770人とあり，55×72cm
⑦41×66cm
⑧70×68cm。

8287　真丸馬出註解　16.81—485
絵図1枚　47×37cm
内題「真丸馬出分間之正図」。「坪詰之伝書ヲ以利物画之」とあり，大聖寺藩主第7代前田利物画か。

8288　山城図　16.81—486
手写
絵図1枚　40×52.5cm
表題には「梅雪作山城図」とあり。

武　　術

(弓　術)

8289　弓道秘伝書　16.81—487
松田長次著
巻子1　18cm
「六具番大事」と題し，ほろ・箙・ゆかけ・付テ幡・扇・鞭を解説する。奥書に承暦元年(1077)源頼義等，文明元年(1469)小笠原頼長等，天文2年(1533)小笠原長時等と相伝関係を記し，末尾に正保3年(1646)松田勘左衛門長次が田丸掃部に宛てたことを記す。

8290　射場社礼書　16.81—488
小笠原持長等著
手写
巻子1　18cm
末尾に，応永2年(1395)の日付と小笠原持長，同持清等8名の署名あり。地祭之次第，繩張之事，方角之事と射場の図を記す。秘伝書。

8291　弓道群規矩之書　16.81—489
小笠原持長等著
手写
巻子1　15cm
奥書に応永24年(1417)小笠原持長等によってなったものを，寛永5年(1628)上原定宣等が父高通より相伝して写し置いたとある。弓之規矩弓之性事，弓柄巻様ノ事，群白弓・側白弓等を記す。

8292　群規矩之書　16.81—490
小笠原持長等著
巻子1　彩色　17cm
弓之性事，弓柄巻様之事等の口伝書。応永24年(1417)，寛正5年(1464)の記あり。

8293　弓法聞書条々　16.81—491
80丁　27cm
礼法，弓，矢，的，うつぼなどについて記す。途中「多賀豊後守殿より相伝聞書之事」(文明18年・1486)の一節を含む。

8294　射御拾遺抄　16.81—492
小笠原持長著
手写
33丁　24cm
大永5年(1525)8月16日付(杉原)伊賀守孝盛より大津留左衛門尉に宛てたものの手写。流鏑馬，笠懸，犬追物の方法を中心に述べる。

8295　弓道三国相伝　16.81—493
巻子1　18cm
弓は天地開闢よりのこととして，天竺・大唐・日本での弓の歴史を述べる。多賀豊後守高忠，小笠原備前守長持の活躍にも触れる。

8296　弓矢来歴　16.81—494
手写
巻子1　17.5cm
弓矢の来歴につき，日本神話・仏教・陰陽説等により，絵入りで説明した秘伝書。末尾に小笠原氏歟の名を記す。

8297　弓矢来歴　16.81—495
巻子1　18cm
前号と同内容。

8298　弓之本地　16.81—496
松田長次著
自筆　正保3年(1646)
巻子1　17.5cm
小笠原流。田丸掃部宛，弓の来歴・本源について記す。

8299　奉射之次第并的絵図　16.81—497
小池貞成等著
巻子1　16.5cm
奉射の際の所作・作法及び用例を示す秘伝書。

8300　奉射之次第并的絵図　16.81—498
松田長次著
正保4年(1647)
巻子1　17.5cm
田丸掃部宛。前号に同じ。

8301　小笠原流弓始之次第　16.81—499
小笠原長時(大膳大夫)等著
手写
巻子1　19cm
題僉は「当家弓始之巻」。初春4日の弓始之儀礼覚書。

8302　〔小笠原流矢開之次第〕　16.81—500
巻子1　16cm
矢開之次第・餅之次第并役人之事，餅之絵図等の各儀ロ伝よりなり，巻末に「矢ロ祭事」問答書を附す。旧書名「矢開之次第附矢ロ祭事」。

8303　〔弓法書中之不得意箇条ニ付答書〕　16.81—501
1通　12cm
弓法書中の編成・用語等についての質問に答えたもの。小笠原流か。

8304　小笠原流弓藤之遣様之次第　16.81—502
伴六郎四郎・竹内自休斎著
手写
巻子1　16cm
内題「当家弓藤之遣様之次第」。各種の藤の弓の遣様の秘伝書。寛文8年(1668)成立。

8305　小笠原流弓藤遣様之次第　16.81—503
手写
巻子1　18.5cm
各種の藤の弓の遣様の秘伝書，小笠原大膳大夫長時等の相伝書。前号と同内容。旧書名「弓藤遣様之次第」。

8306　小笠原流張弓之大事秘術　16.81—504
小池貞成(甚之丞)等著
手写
巻子1　17cm
題簽には「六孫王張弓之巻」とある。張弓は弓の張り方。六孫王は源経基のことで，小笠原流祖小笠原大膳大夫等はその子孫とする。小池甚之丞貞成・竹内見良等の発した秘伝書。

8307　矢違之衛　16.81—505
手写
巻子1　19cm
戦闘の際の護身用の守札のことを記す。小笠原大膳大夫長時秘等伝書。

8308　小笠原流的場之次第　16.81—506
小笠原長時(大膳大夫)等著
手写
巻子1　18cm
的場設置儀礼等の秘伝書。

8309　闔的之次第　16.81—507
小池貞成・鈴木正成等著
巻子1　17cm
闔的(籤的)は射手を上矢と下矢の2組にわけ的を射て勝負を争う射芸。寛文12年(1672)小池貞成等から嶋武右衛門に宛てられた小笠原流弓術の秘伝書。

8310　小笠原〔流〕的之書　16.81—508
伴六郎四郎著
手写
巻子1　18cm
正保3年(1646)成立の秘伝書。貴人の前での弓矢の射法を図入りで解説する。

8311　的之書　16.81—509
伴六郎四郎・竹内自休斎著
巻子1　18.5cm
的場作法を図解した秘伝書。小笠原氏義らの名があり，小笠原流のもの。前号と同内容。

8312　巻藁射様之事　16.81—510
田辺勘次郎著
巻子1　18cm
巻藁弓射の時の装束・作法についての秘伝書。

8313　犬追物射場之図　16.81—511
手写　文化5年(1808)
巻子1　24cm
犬追物の際の弓・馬・装束・繩張等について記し，室町幕府9代足利義尚(常徳院)の時の犬追物の図を載せる。図中に小笠原民部少輔，同刑部少輔の名がみえる。

8314　小笠原平兵衛殿御入門一件　16.81—512
手写
2冊　24cm
前田貞醇旧蔵。①は文政9年(1826)6月4日庄田監物致孝の入門　②は同年6月9日前田図書が村井又兵衛を以て入門した際の目録誓詞等の写。小笠原氏は騎射を教えた。
旧書名「小笠原平兵衛入門一件」。

8315　小笠原平兵衛宛書状写　16.81—513
手写
1通　16.5cm
前田貞醇旧蔵。年代不詳。差出人は不明。平兵衛宛暑中見舞状と，入門の世話人青山四郎左衛門へのつけとどけ（菓子1箱）の添状の写。

8316　日置流弓条々　16.81—514
27丁　15×20cm
「足踏定之事」より「弓馬上にて射様之事」まで75条よりなる日置流弓術口伝の解説書。

8317　日置流弓之条々等　16.81—515
手写
巻子1　24cm
「日置流弓之条々」「同秘哥」「日置流弓法度之条々」よりなる。寛永12年(1635)吉田久馬助重信より竹内見良宛。巻尾に「此判形之本巻元禄七年五月ニ木村重右衛門方へ遣ス者也」とあり。旧書名「日置流弓法度之条々等」。

8318　弓道日置流許目録　16.81—516
河合重代著
巻子1　23cm
寛文11年(1671)河合四良左衛門尉重代が有田金右衛門に宛てた21カ条の秘伝目録。

8319　日置流巻藁前書　16.81—517
巻子1　17.5cm
日置流弓術の巻藁弓射についての作法書。

8320　大蔵流伝書　16.81—518
16丁　25cm
弓術秘伝の解説書。大蔵流は日置流の分派，加賀藩に仕えた吉田大蔵茂氏を祖とする。

8321　重之書秘伝　16.81—519
手写
32丁　15×20.5cm
吉田流弓術の由来(日置流分派)及び弓術秘伝の解説。日置流を継承し，前田利長に仕えた吉田左近茂武・同大蔵茂氏が新たに工夫して吉田流を称するようになったとする。

8322　〔吉田流弓道相伝之次第記〕　16.81—520
巻子1　19cm
日置流弓術来往の次第・濫觴を，当流の元祖とする吉田上野入道道宝の業積を中心に記す。
旧書名「吉田流弓道由来」。

8323　〔当家弓道私記〕　16.81—521
81丁　28×20.5cm
外題「極秘伝吉田流三光之書」。弓道を志す者に対する，弓の各部の名称，弦の名称等から始まる入門書。旧書名「吉田流三光之書」。

8324　吉田流弓法目録　16.81—522
吉田源吾茂郷手写　安永5年(1776)
巻子1　19cm
次号と同内容。ただし，目録条数45ケ条。

8325　吉田流弓法目録　16.81—523
吉田九兵衛暖茂等手写　安永6年（1777）
巻子　117.5cm
序・吉田流弓条々73ケ条と吉田流印可之条々10ケ条。吉田暖茂・茂行・茂雅が発行した秘伝目録。

8326　吉田流弓法目録　16.81—524
吉田左門茂厚手写　文久元年(1861)
巻子1　18cm
表題「弓書」。序・吉田流弓条々71ケ条よりなる弓術伝授の条々目録。

8327　弓目録註解　16.81—525
55丁　28×19.5cm
表題「吉田印西派秘事聞書，弓目録註解」。内容は「七ツのあしふミの事」以下50項目について註解を記し，そのあと「吉田印西流書物之覚」，津田左内の書状，日置流弓道が吉田氏に伝わった

次第，小笠原流の「三巻之書之事」（延宝7年滝本大夫著）などを収録。印西派は吉田出雲守重綱の弟子吉田源八郎重氏に始まる。

8328　吉田流大意要法　16.81—526
吉田茂陸(左近右衛門)著
巻子2　17cm
①「射芸大意」　宝永7年(1710)
②「射芸要法」　宝永7年(1710)。

8329　吉田流目録諸合留　16.81—527
前田利物編
自筆
24丁　15×20cm
内題「弓術秘書聞書」。吉田九兵衛・吉田郡司・吉田丹右衛門等より伝わる弓術秘術80ケ条をまとめたもの。前田利物は大聖寺藩主第7代，天明8年（1788）29才で没。

8330　吉田流手前之条初篇　16.81—528
前田利物手写　安永4年(1775)
11丁　15×20.5cm
「次第之事」など25ケ条を註解。巻末に「右ニ記ス所手前之条之初篇ノ註也猶更再篇之註ニ詳也」とあり。

8331　吉田流弓手前之条々　16.81—529
吉田源吾茂郷手写　安永4年(1775)
巻子1　19cm
吉田流弓術伝授。条々目録25条。

8332　吉田流弓手前之条々　16.81—530
手写
2通　23.5cm・17cm
嶋田孝郷旧蔵。
①吉田流弓手前之条々の内「次第之事」註解。
②前号25ケ条の簡単な註解。

8333　吉田流印可之条々　16.81—531
吉田源吾茂郷手写　安永6年(1777)
巻子1　18cm
神妙射術之事以下10項の目録。

8334　〔弓道初心者心得〕　16.81—532
吉田茂貞著
巻子1　18cm
射術の心得を述べる。末尾に「吉田郡司茂貞工夫」とあり。

8335　吉田流件之巻聞書　16.81—533
巻子1　17.5cm　袋入
「吉田流弓件之条々」として「澄濁之事」以下の解説及び極意を記す。

8336　吉田氏弓書叙〔等〕　16.81—534
巻子2・3枚　20.5cm・24×36cm
①弓術の心得書
②嶋田孝郷旧蔵。吉田氏弓書叙（寛文8年，木下順庵），唯受一人跋（平岩仙桂），鳴弦跋（同）の写
③八嶋八右衛門弓術書状写
④天明3年(1783)，御皆中の書（御矢数2本，36間）
⑤同上，御皆中の書（御矢数2本，50間5尺)。
旧書名「吉田流弓書叙等」。

8337　〔矧寸法定等〕　16.81—535
手写
5通・1枚　17cm・34.5×25.5cm
吉田流の矧寸法定・射術工夫，五伝書目録など。
○惣長二尺七寸五歩矧寸法定
○吉田郡司射術工夫之まき
○吉田流弓術の本意
○火矢射ル時敵キシリタル時射様の事
○古実的。大的之事等22ケ条の目録
○弓の事等13項の材質・技術の解説。

8338　吉田射法系譜　16.81—536
荒川早之丞著
手写
9丁　8×18cm
島田孝郷旧蔵。宝暦3年(1753)原本成立。吉田流元祖日置弾正忠豊秀以下の系譜。

8339　吉田家系図　16.81—537
手写
巻子2・1枚　18cm・24cm・80×56cm　袋入

嶋田孝郷旧蔵。
①吉田三家之系図。袋書「文政四巳年七月」とあり
②日置弓之伝系図。文化4年(1807)島田常保手写
③日置弓之伝系図。「右一巻柏木重兵衛方より書取也，元禄五年七月十日」とあり。

8340 〔吉田流歴代名判之書〕 16.81—538
4丁 8×17cm
表題「藻塩草」。吉田茂方以下25名の名判帳。

8341 吉田流弓法免状 16.81—539
1通 41.5×56.5cm 包紙
安永6年(1777)前田主水(利物)の弓法免状の自筆控。利物は大聖寺藩主第7代。

8342 吉田流弓村之書 16.81—540
前田利物手写 安永5年(1776)
8丁 15×20cm
奥書「右一巻は弓之村為秘書先祖道法より代々此道之器用を撰伝之旨吉田大蔵茂氏相伝之所也其所村之道鍛錬深被相極候故毛頭無秘事令伝受所如件」。内題「吉田流弓村之條々」。次号目録の註解。

8343 吉田流弓村之目録 16.81—541
吉田源吾茂郷手写 安永5年(1776)
巻子1 19cm
「木竹を見立る次第之事」等28ケ条の目録秘伝書。

8344 弓法相伝申免状之事 16.81—542
上杉清之(普斎)著
巻子1 18cm
寛文4年(1664)上杉普斎清之が竹内見良に宛てた15カ条の相伝目録。武田太郎19代末孫若狭守武田三郎入道相伝の通りと断る。上杉普斎は武田入道吸松斎の流れを組む。

8345 弓法免状 16.81—543
竹内正信著
巻子1 17cm
内題「弓法相伝申免状之事」。寛文10年(1670)竹内自休斎正信が竹内又一郎に宛てたもの。内容は前号と同じ。自休斎は上杉普斎の弟子。竹内自休斎は小笠原流とも(特16.81—509)，吉田流とも(特16.81—569)相伝関係があった。

8346 流鏑馬之次第 16.81—544
上杉普斎・竹内自休著
手写
巻子1 18.5cm
内題「矢馳馬次第」とあり，流鏑馬に関する秘伝書。寛文8年(1668)竹田又市郎宛に相伝したもの。武田小笠原両流とあり。

8347 躰拝之書 16.81—545
竹内自休斎著
手写
3冊 22cm
寛文9年(1669)竹内自休斎より竹内又一郎に宛たもの。弓術の極意書。

8348 軍陣弓矢要法注解 16.81—546
竹内自休斎著
竹内玄閑手写 享保年間
41丁 26cm
竹内自休斎が「数年所見聞留書」したものを竹内玄閑が伝え，竹内右仲に伝授したもの。

8349 軍陣弓矢要法目録 16.81—547
大井市正手写
巻子1 22cm
大井市正が竹内右仲に与えた秘伝書。内容は前号の目録100ケ条のみ。

8350 弓法聞書 16.81—548
今枝直方編
元禄7年(1694)～宝永2年(1705)
10冊 27cm
今枝氏旧蔵。内題は「伊勢家弓法聞書」。直方が伊勢貞意・貞広から伝授された事柄を記す。

8351 弓法書 16.81—549
今枝直方手写 宝永2年(1705)
4冊 20cm
今枝氏旧蔵。伊勢家伝来之軍詞，公方家式，駿

河守貞順聞書，婚礼之記の4巻よりなる。公方家式は文明15年(1483)伊勢貞宗，婚礼之記は寛正5年(1464)伊勢貞親の執筆。

8352　闔的記　16.81—550
伊勢貞親編
今枝直方手写
19丁　27cm
今枝氏旧蔵。原本成立は寛正6年(1465)。内題は「闔的躰拝并逆羽之次第」。

8353　闔的聞書　16.81—551
伊勢貞親編
今枝直方手写　正徳元年(1711)
46丁　27cm
今枝氏旧蔵。原本成立は寛正6年(1465)。内題「闔的体拝并逆羽之次第」。伊勢貞広の口訣を得たことを註記する。

8354　大和流弓書　16.81—552
手写
60丁　24cm
外題「大和流弓書天地之巻」。正徳2・3年(1712，13)にかかる。大和流弓道一段天之巻1～6・二段天之巻1～5・三段天之巻1～6・四段天之巻1～6・五段地之巻1～8・六段地之巻1～8・七段地之巻1・2よりなる目録伝授書。

8355　作箭之書　16.81—553
中西重雄編
今枝直方手写　享保5年(1720)
3冊　27.5×20cm
①中西重雄編「小川流本式之次第矢拵之目録」，宝永元年(1704)
②①に今枝直方が註を加えたもの
③今枝直方編「作矢之書」。

8356　〔弓道〕請書　16.81—554
3丁　25cm
表題は「御請書」。弓の種類をはじめ弓に関する諸事項についての解説と伝授の状況を述べる。

8357　弓道神道之大事　16.81—555
13丁　11.5×17cm
神道之事・秘歌・印西自秘歌・その他弓に関する覚書。

8358　彀射法委細　16.81—556
10丁　15×20cm
彀射は弓を射ること。弓術の道具・射法・心得を記す。前田利物の手写か，印あり。

8359　射義指南秘歌　16.81—557
10丁　15×20.5cm
弓術の指南法を112首の歌にまとめたもの。

8360　射形直方書　16.81—558
手写
37丁　14×19cm
面目之部并てる面の事，うつむくおもての事など弓を射る形の説明。

8361　弦衣之事　16.81—559
田辺勘次郎手写
1通　18cm
弦衣の事，矢文の事よりなる相伝書。

8362　摘要　16.81—560
手写
5丁　12×18cm
柱(版心)には弓矢之弁とあり，弓矢の図解と師伝の極意を記す。

8363　箭代之書　16.81—561
11丁　15×20cm
矢代とは射芸の勝負などで射手を2組に分け上矢と下矢に編成すること。矢代の手順・方法等を記す。

8364　弓初聞書　16.81—562
巻子1　18cm
弓初聞書・弓初之日記(明暦4年)，弓初役人の項よりなる相伝書。

8365　弓矢請取〔渡しの〕法　16.81—563
巻子1　17.5cm

貴人，同輩等への弓矢の請け渡しの作法等を図示・解説したもの。

8366　忍要弓　16.81—564
安永5年(1776)
巻子1　28.5cm
忍要弓は夜軍や馬上において用いる弓で，桀5尺3寸。定桀の弓よりは短く，足軽の稽古等に適当な弓とする。その射法を記述し，弓の寸法図を示す。

(鳴弦・蟇目)

8367　狐鳴弦之事　16.81—565
上杉清定著
巻子1　15cm
寛文6年(1666)上杉清定が倉知加兵衛に与えた鳴弦に関する秘伝書。病気平癒の呪法。

8368　鳴弦之事　16.81—566
宮野正通著
自筆　寛文7年(1667)
巻子1・1通　17cm・13.5cm
村木五兵衛宛の鳴弦の儀における呪文・作法の秘伝書。

8369　鳴弦隠之巻　16.81—567
中川六郎左衛門矩典手写　安永7年(1778)
巻子3　18cm
上中下3巻よりなり，原本は正徳2年(1712)成立。鳴弦とは悪魔を払い，国家を鎮め，事心を安んずるものとされ，上巻には四方詰鳴弦・東方射哥，西方射哥，中巻には鎧着鳴弦・怨敵調伏鳴弦等，下巻には生霊鳴弦・死霊鳴弦等を記す。

8370　真鳴弦　16.81—568
竹内正房等著
自筆　享保14年(1729)
巻子1　17.5cm
吉田茂氏・伴信綱・竹内正信・竹内正房より竹内右仲に宛てられた弓術秘伝書。

8371　九足三半并鳴弦之書　16.81—569
大井市正等著
享保18年(1733)
巻子1　18cm
題簽「鳴絃書」。九足三半之大事と極秘鳴弦之大事を記す。吉田大蔵・伴六郎四郎・竹内自休・竹内玄閑・大井市正より竹内右仲宛の秘伝書。

8372　直鳴弦　16.81—570
巻子1　18.5cm
弓による呪法を記し，道具立を図解する。

8373　魔性之絃鳴之大事　16.81—571
手写
巻子1　18.5cm
魔性之絃鳴之大事・猩々礼鋤之大事・狐子大事・八幡太郎義家絃鳴大事よりなる弓矢による悪霊ばらいの儀式伝書。

8374　鳴弦年竹之大事　16.81—572
巻子3・1枚　18cm・36.5×42.5cm　袋入
○年竹之伝。調伏儀法相伝書，中川六郎左衛門等
○霊気ヲ幣ニ移ス事
○鳴弦檀飾図，屋越蟇目塒飾図
○祭檀図。

8375　鳴弦之聞書　16.81—573
巻子1　18cm
狐之鳴弦之事・産処之鳴弦之事等よりなる弓による妖魔降伏の相伝書。

8376　鳴弦之次第　16.81—574
巻子1　16.5cm
鳴弦之次第十二条の伝授書。小池甚丞貞成他4名連署。

8377　鳴弦之次第　16.81—575
手写
巻子1　16cm
内容は前号に同じ。前号署名者のうち竹内見良はなし。

8378 鳴弦矢之図　16.81—576
竹内正信(自休斎)等著
自筆　寛文8年(1668)
巻子1　15.5cm
竹内又一郎宛。矢之図と矢合作法の秘伝書。末尾に小笠原流の相伝関係を記す。

8379 鳴絃引目相伝楷次第　16.81—577
水野重次(意休斎)等著
手写
31丁　18.5×11.5cm
悪霊払い等の鳴絃の儀式相伝書。

8380 蟇目　16.81—578
巻子1　15cm
蟇目(ひきめ)とは，朴，桐などで作った大形の鏑(矢)。音を発するので妖魔降伏するとして弓弦を鳴し蟇目を射る。蟇目儀式の秘伝書。

8381 蟇目之巻　16.81—579
巻子1　18.5cm
蟇目之大事。前号の前半と同内容。

8382 蟇目御作法に付伺　16.81—580
鶴見与一著
自筆
1通　16.5cm
巳7月27日付。鶴見与一が三上将曹に対し，蟇目の作法を伝えるために，その手続について伺ったもの。朱筆で裁可の内容が記されている。旧書名「蟇目御作法等」。

8383 神道蟇目之秘術　16.81—581
竹内見良等著
巻子1　18cm
小笠原家流の蟇目の射様の秘伝書。

8384 神道蟇目之大事　16.81—582
巻子1　15cm
蟇目作法について記載。後欠。

8385 神道蟇目周行七歩之巻　16.81—583
巻子1　18.5cm
出生などの際に蟇目の矢を射ち悪魔調伏を行う一種の呪術の仕方を記述。

8386 誕生蟇目之作　16.81—584
奥村内膳著
手写
12丁　23cm
渡辺庸旧蔵。文政3年(1820)奥村内膳が蟇目作法を尋ねたものの写し。内膳は奥村惇叙。

8387 誕生蟇目之次第　16.81—585
竹内見良等著
手写
巻子1　17cm
外題「小笠原誕生蟇目巻」。

8388 当流蟇目鳴弦年竹目録　16.81—586
巻子1　9cm　包紙
包紙「当流極秘伝之巻」。四方詰鳴弦之事など19項の秘伝目録。

8389 蟇目図　16.81—587
竹内正信等著
巻子1　15cm
宿直・生誕用蟇目矢を図解。寛文8年(1668)成立

8390 蟇目之図　16.81—588
竹内正信等著
巻子1　17cm
蟇目寸法図のみ。寛文8年(1668)成立。

8391 蟇目之図　16.81—589
竹内見良等著
巻子1・仮綴1(3枚)　17.5cm・15.5×13.5cm
蟇目の図。前号に同じ。その他
○甲弓山鬼明王札2枚
○天照大神宮札の口伝書。元禄の聞書とあり。

8392 蟇目之図　16.81—590
巻子1　18cm
産所蟇目，宿直蟇目，笠掛蟇目等。鏑及び矢7種の寸法・名称を記す。

8393 蟇目図　16.81—591
手写
巻子1　彩色　19cm
前号に同じ。

8394 明顕逆射之事　16.81—592
文化6年(1809)
仮綴1(2丁)　24cm
奥書に「右逆射の躰拝は寛政四年八月八日尚寛公御勤被遊候也」とあり，尚寛は奥村尚寛。最初に「躰拝惣して産屋乃引目にかはる事なし，只しさる足つかひ替るまてなり」とあり，蟇目の作法書。

8395 三国無二極伝之弓法巻　16.81—593
巻子1　18cm
元禄3年(1690)竹内自休斎正信が竹内自伯老に宛てた秘伝書。本来之次第以下を解説。

8396 三国無二極伝弓法之巻　16.81—594
巻子1　19cm
弓による呪法の秘伝書。前号と同内容。

8397 産所箆之巻　16.81—595
遠藤幸宣(七五三)等著
手写
巻子1　18cm
箆は矢柄のこと。子供の出生の際，成長を祈って行う儀式の内容を記す。末尾に小笠原長時から伝授された秘伝と記す。

(刀・槍術)

8398 剣術諸流評論　16.81—596
八嶋重隆著
手写
10丁　24cm
小原応義所蔵の写。原本享保4年(1719)成立。末尾に朱書で「于時明治十九年八月吉日兄制剛喜多岡勝巳氏ヨリ伝来シテ写之，小原応義丈山書㊞行年十歳五ヶ月」とあり。

8399 剣術諸流評論　16.81—597
八嶋重隆(半蔵)著
手写　明治初年
7丁　24cm
八嶋重隆より熊谷忠右衛門宛。享保4年(1719)6月付。天保7年(1836)好静庵手写の写。前号と同内容。

8400 剣術本職三問答　16.81—598
木村久甫著
手写
32丁　23cm
内題には「本識三問答劔術本識」とあり。末尾に，宝暦2年(1752)，「運籌流隣実門人加州金城下一小子源久甫著」とある。著者については付紙があり，「横山隆平元家来木村嘉平次ノ著欤」としている。慶応3年(1867)源正公手写の写。

8401 剣術不識篇　16.81—599
木村久甫著
連孝手写
28丁　24cm
原本は明和元年(1764)成立。その後同2年8年など数回写されたもの。久甫の師堀金太夫隣実が剣術諸流の得失を論じた時，聞書したもの。

8402 剣術不識篇　16.81—600
木村久甫著
14丁　25cm
島田孝郷旧蔵。前号に同じ。

8403 平法覚書　16.81—601
有沢貞渉著
自筆　天明4年(1784)
7丁　12×17cm
隠剣・浮舟・命車・遊雲・蜻蛉帰り・手之外・横太刀・夜之太刀・西陰・十人一徳・指合などの太刀の技法を記す。有沢貞渉は貞庸の初諱。

8404 笠間儀左衛門家剣術之由緒　16.81—602
笠間九兵衛著
手写　嘉永3年(1850)
7丁　17×12cm
渡辺庸旧蔵。新影流の剣術家で，柳生の門弟であった加賀藩士笠間清兵衛の略伝。享和3年(1803)清兵衛の子九兵衛が又兵衛宛に書上げたも

のの写。嘉永3年(1850)笠間儀左衛門2男飯尾吉太夫より借用写置とあり，儀左衛門は九兵衛の子。

8405　心明剣印可　16.81—603
深町邦正(十蔵)等著
自筆　文久2年(1862)
巻子1　17.5cm
心明剣の真印伝授書。

8406　心陰事理自問自答抄　16.81—604
8丁　14×20cm
心陰流の剣の心得について記す。

8407　心陰流手数目録　16.81—605
1通　18cm
目録は丸橋之次第，表之次第，中段之次第，小太刀之次第，極意目録之次第，高上極意に分かれる。

8408　中条流之系図　16.81—606
1枚　140×39cm
端裏書「山崎剣術流義ノ系図」。中条流兵法の開祖奥山慈音から富田流・山崎流と称される剣術流派の流れを示す系図。略伝を付す。

8409　関剣術伝書　四種　16.81—607
前田家編輯方手写　明治年間
67丁　23cm
愚意文章歌，武術論，水鏡，機流早柏免状中段等術書の4種。

8410　〔剣師関新三郎巻軸之讃〕　16.81—608
河合方助著
1通　24cm
関新三郎手書の巻軸を得た時の讃。関流は中条流の流れを組む加賀藩士関善左衛門重堅を祖とする剣法。

8411　事理心抄　16.81—609
手写
5丁　14×20.5cm
剣術の理を問われて答えたもの。

8412　芸術二葉始　16.81—610
古萱軒緑水著
13丁　24cm
剣術の初心者の心得を説く。

8413　〔剣道口伝之書〕　16.81—611
1通　12cm
ムカハキノ口伝，トンホウカヘリノ口伝，旅宿の心得等を記す。

8414　裏手下り　16.81—612
10丁　12.5×18cm
帆掛船，越浮船，立横太刀，舞太刀など打太刀の技術について説明

8415　祈禱太刀受用法等　16.81—613
仮綴1(4丁)・3枚　12×35.5cm
○呪詛・呪文・儀式書(4丁)
○護身法呪文(21×22cm)
○真祈禱太刀受用法(16cm)
○祈禱太刀斎事(15.5cm)。

8416　〔脇刺扱い様心得〕　16.81—614
1通　26cm
平生脇刺帯之様心得，髪月代抔仕時分脇刺置ヤウ心得事，柄袋掛ル心得之事，馬上ニテ脇刺抜様事，大小寸尺之事からなる。
旧書名「平生脇刺帯之様心得等」。

8417　〔槍術〕得道和歌　16.81—615
原田種成著
巻子1　18cm
寛政元年(1789)原田又右衛門種成が有沢数馬(貞庸か)に宛てたもの。21首あり。
旧書名「弓法得道和歌」。

8418　〔槍術〕内田氏工夫之巻　16.81—616
巻子1　19cm
題箋は「内田氏工夫之巻」。内田氏は内田清右衛門のこと。寛政11年(1799)橋本助六国久が利考公に宛てた秘伝書。利考は大聖寺藩8代藩主。
旧書名は「弓道内田氏工夫之巻」。

8419　正智流白鑓　16.81—617
深町邦正(十蔵)等著
自筆　文久元年(1861)
巻子1　17cm
正智流槍術の秘伝目録。

8420　鎗術規矩　16.81—618
田中正信著
44丁　23.5cm
前田貞醇旧蔵。大鳴流の槍術のあつかい方，規則を解説。大鳴流槍術は大鳴雲平吉綱より始まり，鳴沢家に伝わり，長高連・連起・連愛も承けた。田中正信は鳴沢清兵衛政徳から伝授されたとある。

（馬　術）

8421　手綱目録　16.81—619
守能直政著
手写
1通　18cm
大坪流馬術手綱扱い方伝授目録。承応4年(1655)宇野弥三兵衛宛。

8422　徒鞍御伝雑志　16.81—620
小野趙無等著
今枝直温手写
20丁　23cm
今枝氏旧蔵。明暦元年，万治4年(1655，1661)に小野趙無長真，成田平左衛門尉光綱，岩根六左衛門尉が書いたもの。七段駿馬三疋之書，七段駿馬四疋書，先心九ケ条，脇心九ケ条，跡心九ケ条，悪馬十一疋之書を収録。

8423　貴人高人之前ニテ馬乗様之次第聞書　16.81—621
有沢貞渉著
自筆　天明4年(1784)
3丁　25cm
内題「主人之前ニテ馬場乗」とあり。有沢貞渉は貞庸の初諱。

8424　十九ケ条　16.81—622
有沢貞渉(貞庸)著
自筆　天明4年(1784)
19丁　11×17.5cm
巻末に「右十九ケ条は天明四甲辰春之頃より田中博早先生ニ聞，同秋迄ニ聞終者也」とあり。馬術口伝の解説。
旧書名「兵法十九ケ条」。

8425　〔馬術初段免許状〕　16.81—623
田中博早(源五左衛門)著
自筆　寛政3年(1791)
巻子1　18cm
外題には「十九ケ条」とあり，「当流初段第一」として19カ条をあげる。有沢数馬宛（貞庸か）馬術伝授目録。前号の目録のみ。

8426　十九ケ条目録　16.81—624
巻子1　18cm
馬術の秘伝目録。前号と同内容。

8427　大坪庵主極秘百問答　16.81—625
今枝直温手写
73丁　28.5×20cm
今枝氏旧蔵。大坪流馬術の極秘を問答体で記したもの。今枝直方の奥書では直温が伊勢貞広から借りて写したとある。

8428　大坪御書雑志　16.81—626
今枝直温手写
47丁　24cm
今枝氏旧蔵。大坪流馬術について，大坪流手綱歌巻，大坪流馬抄強弱之巻，馬書七十箇条を載せる。

8429　大坪流馬之書　16.81—627
20丁　24.5cm
今枝氏旧蔵。手綱の取り様について略述する。

8430　大坪流馬乗形　16.81—628
17丁　13.5×20cm
「大坪流馬乗形斎藤好玄家伝之書」とあり。銜之伝，轡之伝，鞍之伝，鐙之伝，鞦之伝，纏之伝，礼儀之次第を記す。

8431　大坪・斎藤両家荒木家へ之伝記　16.81—629
手写

1帖　16cm
渡辺永一旧蔵。大坪流馬術（往古馬術十二流の一つ）が斎藤家を経て，荒木家に相伝されたことを述べる。

8432　曲馬乗形　16.81—630
1枚　16×23.5cm
中川典克旧蔵。乗馬方法の名を9つ記す。

8433　馬之歌百首　16.81—631
巻子1　15.5cm
巻頭に「私詠馬の歌百首」とあり，馬の稽古方法を歌に詠んだもの。61～89番までの29首欠。

8434　〔乗馬心得等〕　16.81—632
巻子2　16cm
①種々の場合の乗馬心得を記す。②83～90番の歌を記載。

8435　夢想要馬　16.81—633
3冊　24cm
馬術書。①は表題を夢想要馬とするが，内題は鞍固夢想要馬とし　②はいずれも夢想要馬　③はいずれも要馬とする。②，③の項目立てはほぼ同じであるが，記載内容に違いがある。
旧書名「馬術書」。

8436　馬書　大坪流八条流吟味之抜書　16.81—634
斎藤安芸守等著
今枝直温手写
38丁　28.5×20.5cm
今枝氏旧蔵。奥書に斎藤安芸守，栗生市郎左衛門尉，栗生甚兵衛尉，灰屋次郎右衛門尉，上田吉之丞，溝口弥次右衛門尉，竹田善兵衛尉の連名で，大坪流并八条流の内吟味抜書を伝授する旨の記載あり。

8437　馬書　16.81—635
手写
2冊　27.5×20.5cm
今枝氏旧蔵。馬医書。「第一馬の見やうの事」以下243項目にわたって記載。安驥集に基づくものか。手写は今枝直方か。

8438　馬医書　16.81—636
桑嶋綱直編
手写
97丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。奥書に天文23年(1554)6月桑嶋新右衛門尉仲綱直が中野常陸介に宛てて「安冥の秘薬を集如此あミ進候事」と記しており，安驥集を抜萃したものであることがわかる。末尾に文禄5年(1596)6月書写と記しているが，それをさらに手写したもの。手写は今枝直方か。

（火　術）

8439　〔塩瀬甚太夫秘伝書〕　16.81—637
塩瀬甚太夫著
自筆　万治2年～寛文2年（1659～61）
10冊　16×22.5cm
竹内見良宛の鉄砲・火箭の秘伝書。①水月巻（内題水月悟道之巻）　②水月悟道巻　③飛行煙火巻　④本末巻　⑤覧性巻　⑥～⑨出生巻一～四　⑩眼照巻。①は寛文元年(1661)　②は寛文2年　③～⑩は万治2年(1659)成立。
旧書名「塩瀬甚太夫覚書」。

8440　〔安見流砲術〕　16.81—638
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（2丁）　24.5cm
「諸芸雑誌十二之抄」の内。安見隠岐元勝，昆小兵衛長知の略伝，および寛文7年（1667）楢林小助が昆小兵衛から安見流砲術を免許されたことを記す。

8441　〔数火矢之巻〕　16.81—639
竹内正信著
自筆　延宝5年(1677)
巻子1　17cm
延宝5年(1677)竹内自休斎正信より竹内又一郎宛に出された相伝書。数火矢之序・箭挿・百目筒箱寸方之事・火数之事・矢倉薬込之事を記す。末尾に継ぎ立てて享保14年(1729)竹内自休斎・同玄閑から竹内大仲宛となっている。

8442　鳥銃家秘録　16.81—640
手写

34丁　24cm
附題「御鷹野御供心得之事記」。狩猟を家業・家芸とする者への相伝書。明和2年(1765)の記あり。

8443　神器渉筆　16.81—641
吉岡安致(皆右衛門・西台)著
自筆　文政3年(1820)
17丁　24cm
神器は明代の神器譜にならい，鉄砲のこと。目録は神器起源，神器名儀，神器流伝，神器小説，神器実制，大礒伝来。吉岡安致は加賀藩士。

8444　火術相伝之次第写　16.81—642
小川群吾郎・小川権之助著
手写
1通　16cm
小川群吾郎，小川権之助の出した火術相伝盟の写。頬附，抱討，車台の筒等を相伝したことを記す。

8445　自得流砲術伝来系図　16.81—643
早川正名編
手写　明治初年
1丁　24cm
早川正名の書上げ。和州(大和)郡山大野字右衛門武矩，江州鉄砲鍛冶国友藤兵衛能当，玉井故勘解由家来早川理兵衛正身の名を記す。

8446　鉄炮小目当十五ケ条口訳　16.81—644
11丁　19cm
鉄砲の構え方・心得15ヵ条について記す。

8447　〔矢并鉄炮之事〕　16.81—645
仮綴1(3丁)　16.5×43.5cm
矢并早矯之事，握革之事，早鰾之事，篠張之事，猿頭之事，鉄炮敵合打初之事等よりなる。
旧書名「矢并早矯之事等」。

8448　吉田流極々秘伝肝要箭揃集　16.81—646
7丁　25cm
十三段之火箭之図，箭文五段之図，殺生秘伝之矢図。旧書名「吉田流所要箭揃集」。

8449　高島四郎大夫先生肖像　16.81—647
1枚　26×21.5cm
高島流砲術創始者，高島秋帆の写真を印刷したもの。

8450　火矢打申覚　16.81—648
1枚　34×101cm
中川典克旧蔵。大橋彦兵衛の火矢16放の試射結果の記録。

(水　学)

8451　一品流軍船水学集　16.81—649
村上武慶著
手写
32丁　27cm
内容は天文22年(1553)村上流水学（軍船戦法，船行列，滸入等）について家伝水学集に村上武慶が私考を加え，上覧に備えるため，鵜飼新右衛門，磯兼左近太輔に提出したもの。

8452　天野海賊書　16.81—650
今枝直方手写
29丁　20cm
下巻舟乗前の巻。航海法について記し，末尾に西国大名舟印并知行高居城之事も収録。

8453　御関船之図　16.81—651
絵図4枚　27.5×41cm～66×92cm
寛永13年(1636)，徳川家光が建造させた安宅丸・天地丸・鳳凰丸・八幡丸の軍艦図。艙数・惣長等の記載あり。
旧書名「安宅丸御船之図」。

(平　法)

8454　平法玉心流組打伝　16.81—652
手写
4丁　24cm
表紙に「元祖平左衛門武者修行とは」とあり，上泉伊勢守秀綱・孝綱・令倶三代の武功記及び長尾景治の祖平左衛門秘薬の記よりなる。

8455 極秘伝忍書　16.81—653
手写　安永5年(1776)
10丁　15×21cm　包紙
忍ひてへいを越事，灯燄持セ様之事，我屋敷え大勢夜盗来ル時の事，忍ひ人内に入たるをやさかしする事など忍びの術に関する秘伝書。包紙には「中将流平法手術之次第」とある。

武　　具

(弓　矢)

8456 三国弓寸法　16.81—654
小笠原長持・小笠原貞慶著
手写
巻子1　20cm
享保17年(1732)伊藤幸氏，伊藤幸允，森万平が発した秘伝書。天竺（倶舎論抄），唐（五経正義），日本（神代以降）の弓の寸法について記す。

8457 一張弓之図　16.81—655
小笠原長時等著
手写
巻子1　18cm
小笠原一張弓の図。小笠原長時，同貞慶，小池貞成が発した弓，弦，矢の秘伝図。

8458 一張弓書　16.81—656
手写
巻子1　18cm
小笠原一張弓の図。内容は前号と同一であるが，註釈が加えてある。

8459 小笠原流八張弓之図　16.81—657
田辺勘次郎著
自筆　安永6年(1777)
巻子1　18cm
小笠原流八張弓之図式についての秘伝書。一番の大平弓以下，蛇形弓・四維形弓・相位弓・四足弓・陰陽弓・福蔵弓・世平弓の8種を図解。

8460 万箭之次第　16.81—658
小笠原持長等著
手写
巻子1　彩色　18cm
諸種の矢に関する図解。応永24(1417)小笠原持長等の署名及び寛正5年(1464)上原定宣等の署名あり，秘伝書。

8461 鏃模集　16.81—659
水島卜也等著
巻子1　28cm
矢尻の形を103図集めたもの。水島卜也，伊藤甚右衛門，同隼太，森万平，鶴見伝助が後学のため伝授する。

8462 小笠原流矢本并羽形之書　16.81—660
日置意得斎等著
手写
2冊　15×20.5cm・25cm
小笠流矢本并羽形之書と小笠原流羽形之書図解の2冊。前者は日置入道意得斎等の秘伝書。後者は著者不詳，矢羽の図柄を記す。

8463 矢代口伝　16.81—661
松田長次(勘左衛門)等著
自筆　正保3年(1646)
巻子1　17.5cm
田丸掃部宛。「矢代口伝有之」とあり，矢代図解の秘伝書。

8464 靱之巻　16.81—662
小笠原持長等著
手写
巻子1　20cm
末尾に応永24年(1417)小笠原持長，同持清，多賀高長，同高忠，寛正5年(1464)水嶋之成，伊藤幸氏，同隼太の名を記す。靱之巻として，靱の図と鞘箭刺様之次第を記す。

8465 当家靱箭之次第　16.81—663
小笠原長時等著
巻子1　19cm
外題「靱矢次第」。的矢・中刺等の図解及び各用途の秘伝書。

8466 当家箭叡之次第　16.81—664
正保3年(1646)
巻子1　17cm
松田勘左衛門尉長次が田丸掃部宛に出した秘伝書。内容は前号に同じ。
旧書名「小笠原流靱箭之次第」。

8467 箙之巻　16.81—665
小笠原持長等著
手写
巻子1　19.5cm
箙，平胡籙，靱の図と使用法を記す。応永24年(1417)小笠原持長・持清・多賀高長・高忠，寛正5年(1464)上原定宜，水鳴之成，延宝2年(1674)伊藤幸民，幸充，享保17(1732)森義倫，早川貞停の名を記す。享保17年に発行された秘伝書の写。

8468 箙之図　16.81—666
小笠原長持等著
手写
巻子1　19cm
箙は矢を入れて背負う具。当家箙之図，当家革箙の図を記す。末尾に享保17年(1732)森義倫，早川貞停の名があり，秘伝書の写。

8469 〔矢取台之図〕　16.81—667
小笠原長時・小笠原貞慶著
手写
巻子1　18cm
「当家矢取台之図」とあり，矢取台の秘伝書。矢取台の寸法等を記す。

8470 草鹿之次第　16.81—668
楠田重勝(儀兵衛尉)著
巻子1　19cm
草鹿は歩射の的のことで鹿が草の中に伏した状態に擬して作ったもの。寛文12年(1672)楠田重勝が鳴武右衛門に宛てた小笠原流の秘伝書。

8471 日置流羽本　16.81—669
巻子1　19cm
矢羽根の種類と模様を記す。慶安4年(1651)成立。

8472 本朝之五段之弩之秘図　16.81—670
前田主水著
手写　安永6年(1777)
巻子1　18cm
弩之図，笈筋弩之図，田村弩，翳筋弩，射玉弩の5種よりなる弩の図解。前田主水は大聖寺藩主7代前田利物のこと。

8473 一張弓之秘伝　16.81—671
吉田一水軒著
自筆
絵図1枚　28×343cm
吉田一水軒より宮沢七郎兵衛宛。吉田流の一張弓の秘伝図。

8474 吉田一流村矩名秘書　16.81—672
巻子1　18cm
享保13年(1728)4月15日付。吉田大蔵茂氏・伴六郎四郎信綱・竹内自休斎正信・竹内玄閑斎が出した弓一張の矩名の定の秘伝書。

8475 吉田流五行弓矢　16.81—673
吉田源吾茂郷手写　安永4年(1775)
巻子1　彩色　19cm
水金土火木の5種の弓と5本の矢の図。

8476 根之巻　16.81—674
6丁　25cm
弓の根部の図解，寸法等解説書。旧書名「吉田流弓法根之巻」。

8477 根濃巻手覚　16.81—675
3丁　25cm
弓の根部図解。第百十一巻内とあり，前号と別図。
旧書名「吉田流弓法根之巻手覚」。

8478 吉田流極秘事弾品々小図　16.81—676
絵図4枚　24.5×33cm
○「吉田流附革寸法」。弓附革寸法型紙
○「吉田流極秘韜之巻筈摺当革小図」。付革・筈摺当革型紙
○「弦打当革之小図・早弾之小図」
○「矢縄進タル図」。

旧書名「吉田流弾品々之図」。

8479 尻籠矢繋之巻　16.81—677
前田主水著
手写
巻子1　18cm
安永6年(1777)原本成立。藤之花からみ，青海からみ，あつしからみ，輪ちかいからみ，叶からみについて記す。主水は大聖寺藩主7代前田利物のこと。

8480 大弓図　16.81—678
竹内玄閑著
自筆　享保14年(1729)
巻子1　18cm
竹内玄閑より竹内右仲に宛てられた秘伝書。大弓の各部の名称，宿星，諸仏を記す。

8481 大弓図　16.81—679
手写
巻子1　18cm
内容は前号に同じ。

8482 廿壱張弓聞書　16.81—680
竹内右仲著
手写
12丁　27cm
末尾に「竹内右仲聞書」とあり，21張の弓の用法，材質，寸法などにつき図解。表題「廿壱張弓蔵書」。

8483 矢細工之事　16.81—681
竹内自休(一庵)著
自筆
巻子1　17.5cm
竹内又一郎宛。各種の矢羽に関する秘伝書。

8484 射御蠡測集　16.81—682
巻子2　19cm
両方とも同内容。靫，鏑矢，箙(えびら)などについて記す。

8485 弓馬初心集　16.81—683
21丁　22cm
弓，矢，うつほ，的，鞍，鐙，馬等の図と各部の名称を記す。

8486 五行弓矢之口訣　16.81—684
4丁　15×20.5cm
五行説で弓矢を説明し，水躰黒色北円形，金躰白色西半月，土躰黄色中四角，火躰赤色南三角，木躰青色東団形について解説。前田利物の手写か。

8487 〔弓矢の書〕　16.81—685
巻子1　18cm
弓と矢について仏教・陰陽説で説明する。旧書名「弓之由来」。

8488 弓矢惣名　16.81—686
巻子1　18cm
弓と矢の各部名称図。

8489 弩之寸法之図　16.81—687
手写　安永6年(1777)
1枚　41×122cm　袋入
袋上書「当流秘伝弩寸法之図」。

8490 楊弓あらまし聞書　16.81—688
手写
10丁　25cm
楊弓の歴史，寸法，作法を記し，「楊弓名所付道具之寸法之事」として，諸道具の名称，寸法を図解する。

8491 重藤弓　16.81—689
巻子1　彩色　19cm
重藤弓の秘伝書。矢摺，末，鏑，本，吹寄，村，追，中，褄の各重藤の寸法・体裁を図解する。

8492 〔塗弓之事〕　16.81—690
巻子1　彩色　17cm
弓にほどこす彩色部分の説明と糸掛の説明。

8493 〔弓之図〕　16.81—691
巻子1　18cm
8種類の弓の図。

8494 矢拵書註志　16.81—692
今枝直方著
自筆　享保5年(1720)
16丁　21cm
今枝氏旧蔵。「矢拵様之条々」を註解。

8495 羽揃之巻図解　16.81—693
手写
43丁　15×20.5cm
鷲など生鳥の羽模様による名称を記す。前田利物の手写か。

8496 当家弓本　16.81—694
手写
15丁　25cm
的矢，誕生之蓜目，犬射蓜目等26例の矢図と解説。

8497 箙矢略記　16.81—695
手写　文化13年(1816)
1枚　33×46cm
箙に入れる矢(躰矢，中刺，征矢，上刺等)について解説する。

8498 当家靱箭之次第　16.81—696
巻子1　18cm
特16.81—663と同内容。旧書名「靱矢之次第」。

8499 靱矢其外矢本之次第　16.81—697
手写
巻子1　18cm
表題は「当家靱矢其外矢本之次第」。矢の種類を図示。

8500 根之図　16.81—698
手写
巻子1　18cm
鏃の説明と図。

8501 的之次第　16.81—699
巻子1　18cm
射場立入の節の作法など57条よりなる弓術作法書。

8502 的之類〔抜書〕　16.81—700
手写
12丁　25cm
表題「的之ルイヌカ書」。各種の的の図に解説を付す。「ヌカ書」は抜書の意味か。

8503 〔的書〕　16.81—701
手写
仮綴1(4丁)　20.5cm
「丸物可射次第」など標的について丸物，草鹿，四季挟物，立物別に記す。
旧書名「丸物可射次第」。

8504 奉射之的之図　16.81—702
竹内見良等著
巻子1　18cm
丸物，草鹿，笠掛，八的，小串等の矢的十種図。

8505 丸物可射次第　16.81—703
楠田重勝著
寛文12年(1672)
巻子1　19cm
丸物とは円形の標的のことで五種の丸物的とその寸尺・射方について解説。

8506 〔丸物并草鹿之図〕　16.81—704
巻子1　18.5cm
題簽「武田草鹿」。的の図六種・鞭の図四種。寸尺と説明を附す。

8507 草鹿発射様之事　16.81—705
手写
巻子1　19cm
草鹿発射様之事，笠掛的之事，日之八的之事，曲節之八的之事を記す秘伝書。

8508 四季挟物之事　16.81—706
巻子1　19cm
弓稽古において矢の的に挟み，あるいは立てるものを描く。四季挟物として木の葉，花，立物としてくつ，あしなか，小刀，こうがい，扇，あわびについて解説する。

8509　胴締射様之次第　16.81—707
遠藤七五三等著
手写
巻子1　18cm
胴締(矢の的)製作秘伝書。

8510　射場之図　16.81—708
手写
絵図1枚　38×95cm
射場の見取図。

8511　箙之図　16.81—709
田辺勘次郎著
絵図1枚　99×36.5cm
箙の立体寸法図。「右箙図あらましかくのことし，矢からみやう并おひやう口伝極秘事之由承伝在之候者也」とある。

8512　箙寸法之図　16.81—710
絵図2枚　91.5×32cm
右ノ方とウシロの実物大図。

8513　胡簶之図　16.81—711
手写
絵図1枚　19×50cm
胡簶はやなぐい(胡籙)のこと。型と寸法を記す。

8514　空穂之図　16.81—712
手写
絵図1枚　41×115cm
各部の寸法を記す。

8515　靫附緒留之図　16.81—713
前田主水著
自筆
巻子1　18cm
うつぼ(靫・空穂・羽壺)は矢を入れて背腰に背負う用具。靫之巻之内，一対之靫，十穂飾之時の三形式などの附緒の留方を図解する。

8516　靫弓台寸法之図　16.81—714
手写
絵図3枚　31×116cm～40×23cm
①靫弓台寸法之図　②入窪・直窪の図　③道様靫之蓋(実寸図)。「三印」とあり。

8517　壱張掛之靫台之寸法之図　16.81—715
手写
絵図1枚　38×130cm

8518　蔓尻籠寸尺之図　16.81—716
1通　31cm
尻籠は胡籙のことで，蔓尻籠は蔓を使用したもの。寸法図。安永5年(1776)の成立。

8519　蔓尻籠弓台寸法之図　16.81—717
手写
巻子2　31cm
包紙に「一ノ字印蔓尻籠寸法弓台共ニ此方至テ古之形ナリ」とあり。蔓尻籠と弓台の寸法図。旧書名「蔓尻籠寸法之図」。

8520　割尻籠弓台寸法之図　16.81—718
巻子1　30.5cm　包紙
「四印」とあり。

8521　割尻籠弓台附寸法之図　16.81—719
巻子1　30.5cm　包紙
包紙「二ノ字印割尻籠寸方弓台共ニ此尻籠当家ニ専用也」とあり。内題には「四印」あり。

8522　刎尻籠寸法之図　16.81—720
絵図1枚　31×128cm
尻籠一対の図。「二ノ字印」とあり。

8523　琵琶尻籠寸法図　16.81—721
絵図　31×129cm
尻籠図。

8524　矢籠建之巻　16.81—722
巻子1　19cm
類聚150巻よりの記載。巻き方について述べる。

8525　尻籠形等　16.81—723
絵図20枚　21.5×6cm～24.5×34.5cm　包紙
尻籠の図3枚，尻籠形の図16枚，その他1枚。

8526 尻籠弓台寸法　16.81—724
巻子1　30cm
「二ノ字印」とあり。

8527 箭筒弓台寸法之図　16.81—725
絵図2枚　30×113cm・30×115cm　包紙
①箭筒寸法之図。弓台附　②箭筒弓台寸法の図。いずれも「六印」とあり。

8528 天鼠之濫觴并秘方　16.81—726
手写　安永5年(1776)
2丁　12×17cm
表題「天鼠之濫觴并天鼠秘方」。弦之巻の抜書。天鼠之濫觴之事，天鼠煉様之事，五色天鼠煉練の事，金銀之天鼠ノ事を記す。くすね（薬練・天鼠子）は松脂と油をまぜ煮て練って作る。粘着力が強いので糸・弓弦などに塗り，補強するのに使われる。

8529 舟弦〔雛形〕　16.81—727
こより3本　12～23cm　包紙
嶋田孝郷旧蔵。舟弦の結び方をこよりで示す。

（刀　　槍）

8530 太刀之大事等一巻　16.81—728
鈴木権八著
手写
巻子1　18cm
太刀の目利，銘の鑑定上の要点を実例をあげ解説する。旧書名「太刀之大事等」。

8531 〔刀剣鑑定に付書上げ〕　16.81—729
鈴木権八著
巻子1　18.5cm
末尾に「御鑑定甚御上達ニて奉恐入候」とあり，貴人の刀剣鑑定を批評したもの。旧書名「本阿弥伝系図等」。

8532 刀剣御葛籠入御書物〔目録〕　16.81—730
1通　16cm
「校正古刀銘鑑」など刀剣についてかかれた12種の書物目録。

8533 刃剣御葛籠入之内御目録　16.81—731
1通　15.5cm
刀剣に関する目録をかかげたもの。古刀おし形，小鍛冶長刀おし形，霜刃漫録，一見刃劔録，鈴木権八紙面，本阿弥喜三次紙面，児龍伝書切紙・刀之掟等，本阿弥光徳伝書など。

8534 御長刀図　16.81—732
手写
絵図1枚　19×150cm
「但御柄寸尺縮図」。長刀図と柄の装飾の解説。

8535 石州貞行掟附之覚等　16.81—733
4通　17cm
石州貞行の刀剣等の装飾こしらえに関する覚書

8536 古刀梵字之覚　16.81—734
巻子1・2枚　16cm・12.5×20.5cm
13×26cm　包紙
古刀に刻まれた梵字を写したもの。包紙に「観音院え尋可遣品，古刀大図ノ中梵字寄」とあり。

8537 槍掟之図等　16.81—735
仮綴1（6丁）　25cm
中川典克旧蔵。寸法図。源為朝の箭根の図を含む。

（甲　　冑）

8538 甲冑兵器身度量之書　16.81—736
有沢武貞著
手写
33丁　23cm
元文3年（1738）の成立。武具の歴史，材質の変遷を記し，人体の各寸尺について述べ，武具の作成について身度との関係を記す。

8539 甲冑兵器身度量之書　16.81—737
有沢武貞著
手写
33丁　24cm
脇田尚保旧蔵。前号に同じ。表題「身度量」。

8540　左近男聞書　16.81—738
左近男重安(市松)著
18冊　23cm
別名「武具左近男聞書」。
①（奥ノ書として各種鎧・左近男家について記す）
②（各種鎧威について記す）
③　心持書。
④　日本神武天皇始十五領
⑤　左近男神武天皇拾五領
⑥　倭南村上天皇始九領
⑦（武具の出生・生地について記す）
⑧（漢綾織威など各種鎧解説）
⑨（具足相生ノ威之弁など武具・兵法に関する24項）
⑩（間者忍ノ弁など26項）
⑪（軍吉日ノ事など吉日・年・方角について記す）
⑫（武将ノ弁など28項）
⑬（腹巻威紅下濃など解説）
⑭　左近男家之書
⑮（極秘家之書）
⑯　倭南村上天皇始九領
⑰（具足諸口伝）
⑱　極秘書。
1〜18巻の連続性はなく，1冊完結形式になっている。左近男家は「神宮皇后ノ左座ヨリ出テ腹巻ヲケンズル故ニ左ニ近キ男ト書，其レヨリ以後左近男トハ云也」とあり。

8541　二十四伝　16.81—739
手写
8丁　15×19.5cm
内題「意筌録甲冑名目之内・廿四伝」。甲冑各部の解説書。

8542　甲冑三職誌　16.81—740
脇田尚方編
2冊　23cm
脇田尚保旧蔵。黔韜秘蔵之部乾・坤とあり，黔韜秘策特16.81—271の一部か。三職とは今世では鍛ヒ・威シ・金具師であるとして，甲冑全般各部に至る由来・構造等が示され，甲冑以外の諸武具・城備えにまで論がおよぶ。

8543　甲冑辨　16.81—741
3冊　23cm
脇田尚保旧蔵。甲冑の歴史や構造を記す。

8544　甲冑良工諸家系図　16.81—742
手写　嘉永3年(1850)
5丁　24cm
前田恒敬旧蔵。甲冑良工の系図（明珍系図・常州住早乙女系図・小田原明珍玄津系図・三輪系図・小松住中屋・越前馬免・成井・松永・加州明珍の各家を収録)。

8545　具足着様之次第　16.81—743
10丁　24cm
末尾に「梧井庵蔵書」とあり，有沢家旧蔵か。具足の着用方法を順を追って記す。

8546　御籠手・御踏込・御臑当図　16.81—744
1枚　27×40cm
こて・ふみこみ・すねあての図解と材質等の説明。

8547　鎧の胴并袖之図　16.81—745
絵図2枚　彩色　42×29cm・42×47cm
中川典克旧蔵。材質・仕様図。

8548　由比勘兵衛所持之冑由来書并紙面　16.81—746
由比定清著
手写
2通　16cm・81cm　包紙
由来書と承応3年(1654)の跋文の写。

（火　　器）

8549　鉄炮道具寸法之書　16.81—747
2丁　25cm
酒井流。鉄炮袋と鉄炮笈の寸法図。

8550　鉄炮玉拵并薬之秘方之書　16.81—748
手写
32丁　24cm
玉拵之事と薬の部からなる。末尾に慶長15年(1610)5月吉日とあり。

8551　火箭書　16.81—749
手写
2冊　18×24cm
火薬製法(飛行煙火)と火箭製法(出生煙火)を記す。

(その他)

8552　武具要説　16.81—750
高坂弾正著
手写
24丁　24cm
表題は「武道心鏡武具要説」。末尾に天文5年(1536)「高坂弾正書置之」とあるが，これ以降の年代の記述もあり。馬，鎧，刀，脇指柄，刀柄，脇指，鍔，目釘，鎗，長刀，弓，矢，鉄炮について，信玄家臣の体験を記し，若者への教訓としたもの。

8553　要器詳伝　16.81—751
14丁　15×20cm
武羅，幕，旗，采幣，扇，団，策，太鼓，螺貝，鐘等の図解および解説。

8554　武具考　16.81—752
6丁　12.5×18.5cm
弓矢，鞭，鎗などについての考証。

8555　武具短歌　16.81—753
5丁　24cm
武具の名称を歌にならべる。

8556　甲州流竹束之事　16.81—754
有沢才右衛門著
2通・1枚　15cm・28×51cm
有沢才右衛門より関屋一右衛門宛書状と解説の下書および図。竹束は弓矢・鉄砲に対する楯として用いる。

8557　〔甲州流竹把に付達書〕　16.81—755
1通　15.5cm
関屋一右衛門より有沢才右衛門宛書状。甲州流竹把仕形の絵図，竹の丸さ，把の厚さ，寸尺等について書上げるように依頼する。前号と関連あるか。関屋一右衛門は政知・政恒・政良が，有沢才右衛門は貞幹・貞庸・師貞が考えられるが，年代不明のため確定できない。
旧書名「関屋政知達書」。

8558　上古采幣之図　16.81—756
脇田伊世幾手写　嘉永3年(1850)
1枚　24×69cm
「本朝軍器考図式」に記載されている采幣(采配)と伊藤平太夫家に伝わる采幣を描く。

8559　〔竹小屋之図〕　16.81—757
北条政相著
手写
絵図1枚　37.5×93cm
竹小屋掛の口伝書。柱・梁等の尺寸，細工法を記す。

8560　熊手仕込幕串〔図〕　16.81—758
横山筑後著
1枚　12×23cm　包紙
「熊手弐本石突胴金共」とあり。幕串は，幕を張るためにたてる細い棒。図解寸法書。

海　　防

8561　籌海儲言附録　16.81—759
佐藤信淵著
手写　嘉永3年(1850)
35丁　23cm
弘化3年(1846)原本成立。飄卞(ボンベン)説と自走火船説について述べる。飄卞は弾丸の名，それを打ち出す大砲を莫児蹄尓(モルチール)と称すると記す。

8562　浦賀奉行見込申上候書付　16.81—760
浦賀奉行戸田伊豆守・浅野中務少輔著
手写
6丁　23cm
嘉永2年(1849)浦賀奉行よりの浦賀沖における対異国船対策について述べたもの。

8563　異国船渡来対策建白書　16.81—761
鶴峰彦一郎著

手写
13丁　28×20cm
嘉永2年(1849)成立。著者は林家門人。異国船渡来の状況と，従来日本が異国に対してきた事情などを取りあげ，敬神，軍備充実等の対策を述べる。

8564　海防備論　16.81—762
藤森弘庵(大雅)著
手写
47丁　24cm
嘉永6年（1853）原本成立。ペリー来航の危機に，制夷の要を論じ，大改革の策を述べ，惣論・処置之宜論・当務の急論等11項を記す。
刊本「日本海防史料叢書」第1巻。

8565　国防献策書　16.81—763
利倉盛幹著
嘉永6年(1853)
7丁　24cm
攘夷論による海防の強化を訴える。

8566　異国船渡来に関する献策書　16.81—764
3丁　23.5cm
攘夷論者による異国船を火船により撃退させる旨の献策書。

8567　異国船来航之図　16.81—765
手写
絵図1枚　48cm×135cm
二隻の異国船とそれに備える海上の浦賀奉行・松平大和守・松平下総守船，陸上の大久保加賀守・酒井安芸守・米倉丹後守・保科能登守・松平大和守の陣立，台場等を描く。

8568　斎藤篤信斎往復書　16.81—766
斎藤福松著
前田家編輯方手写　明治年間
64丁　23cm
斎藤篤信斎弥九郎は，越中射水郡出身の幕末の兵学者。江川英龍の後援等を受けて練兵館を始め，諸侯に近代的兵学を進講した。本書には江川担庵・高島秋帆・武田耕雲斎・水戸斉昭らの書簡も収められている。

8569　楠可廼夢等四種　16.81—767
金谷孔彰等著
手写
47丁　23cm
楠河廼夢(金谷孔彰著)，城取之論(鈴木藤作著)菊英子海防論（慶応元年，鈴木藤作著)，狂子（村上与一筆記)。城取之論以外の三種は日本古来の兵学と西洋兵学の得失を論ずる。

8570　楠可の夢　16.81—768
陲々庵主人(金谷孔彰)著
手写
22丁　24cm
「吾嘗テ海防ノ策ヲ論シテ四箇ノ大綱ヲ立ツ」とあり，第一綱，堡砦ヲ要地ニ築キ砲台ヲ海港ニ設ク，第二綱，戦艦ヲ製シ海岸堡砦ヲ救応ス，第三綱，大小ノ熕砲ヲ鋳造シ大薬弾丸ヲ製ス，第四綱，操練ヲナシ兵制ヲ改革ス，につき私見・考察を記す。

洋　式　軍　制

8571　船中打筒之図　16.81—769
絵図2枚　28×40.5cm
題簽は「銃術角打図」。進行中の軍船から砲を打つ場合の軍船の位置図を示す。船中乗組打方として下曽根金三郎等9名の名があり，幕府船の訓練の際のものか。特16.53—88の④「西洋炮術業書」と関係するか。

8572　兵家須知戦闘術門　16.81—770
大村益太郎(益次郎)訳
刊
5冊　19.5cm
小木貞正旧蔵。6巻5冊。題簽には「活字兵家須知戦闘術門」とあり。
①，②格能被氏戦闘略解　③格諾布氏戦闘略解　④，⑤格能布氏戦闘略解とあり，オランダ人クノープの戦術書の訳。

8573　軍術叢談　16.81—771
15丁　24cm
渡辺庸旧蔵。仏式兵術。陸軍の兵制・兵器を解説する。

8574　阿蘭陀船陸戦大略　16.81—772
12丁　24cm
「かぴたんえ御尋被為成候御書取写」とあり。阿蘭陀軍船による船戦・陸戦法の大略和解。

8575　騎兵操練書等　16.81—773
4冊　24cm
渡辺庸旧蔵。①騎兵操練書の馬上教練のうち乗馬生兵教練2冊，②騎兵操練書附属，新馬ノ乗込，吉木順吉訳，③号令控，慶応3年(1867)10月仏人教師より伝授。

8576　騎兵徒歩演習　16.81—774
45丁　24cm
渡辺庸旧蔵。騎兵徒歩演習の第2巻第3教・第4教。第3教は「剣ヲ帯テ武器ノ使用・武器ノ検査，武器ヲ帯テ（諸歩度）行進」，第4教は「剣ノ使用，槍ノ使用」。

8577　騎兵徒歩演習　16.81—775
32丁　24cm
渡辺庸旧蔵。小隊教練について述べる。

8578　乗馬生兵教練　16.81—776
46丁　17.5×12cm
渡辺庸旧蔵。洋式の馬術教練法を図解する。

8579　乗馬生兵教練運動図　16.81—777
20丁　22cm
表題「生兵教練運動図」。洋式馬術の運動法を図解する。

8580　仏人フリー伝習〔馬術〕　16.81—778
11丁　22.5cm
渡辺庸旧蔵。乗馬姿制・轡の操作，馬術用語・号令などを記す。

8581　木馬之書　16.81—779
林正十郎訳
手写
12丁　27.5×19.5cm
渡辺庸旧蔵。林正十郎は開成所教授職並陸軍三兵調訳で本書は仏国兵学校身体運動学の抄訳。

特16.82　歴　　史

総　記・通　史

（日　本　史）

8582　類聚国史　16.82—1
菅原道真編
手写
55冊　27cm
類聚国史は寛平4年(892)成立。六国史の記事を神祇・帝王等の項目に分類し，年代順に編さんしたもので，もと本史200巻，目録2巻，系図3巻あるといわれるが，欠失本が多く，文化12年仙石政和の校刊した61巻を最も善本とする。昭和8・9年刊の国史大系本では，仙石本61巻を底本とし，これに抄本1巻を加えている。
本書は54冊と目録1冊から成る54巻本であり，その内容は下記のとおりであるが，各冊における欠失状況から，仙石本に劣る。明応9年跋のある巻が6巻ある。
①目録　②巻1
③巻2　④巻3
⑤巻4「建長元年十月二日見了」の跋あり
⑥巻5　⑦巻8
⑧巻9　貞享2年の前田綱紀の「右第九巻者借西三条家蔵之旧本挙写之加再校者也」という跋あり　⑨巻10
⑩巻11　⑪巻14（巻首欠）
⑫巻16　⑬巻19
⑭巻25　⑮巻25（此巻重複）
⑯巻28　⑰巻31
⑱巻32　⑲巻33（巻尾欠）
⑳巻34　㉑巻35
㉒巻36　㉓巻40
㉔巻54「明応九年」の跋あり
㉕巻71「明応九年」の跋あり
㉖巻72　㉗巻73
㉘巻74「大治元年」の跋あり
㉙巻75「明応九年」の跋あり
㉚巻77「明応九年」の跋あり
㉛巻78「明応九年」の跋あり

㉜巻80「明応九年」の跋あり
㉝巻83（巻首欠）　㉞巻84（巻首欠）
㉟巻86（巻首欠）　㊱巻87
㊲巻88・89（巻尾欠）　㊳巻101
㊴巻107　㊵巻147
㊶巻159　㊷巻165
㊸巻171　㊹巻173
㊺巻177　㊻巻178
㊼巻179　㊽巻180
㊾巻182　㊿巻185
(51)巻186　(52)巻187
(53)巻190　(54)巻193
(55)巻194。

8583　類聚国史　16.82—2
菅原道真編
手写
12冊　28×19.5cm　袋入
12冊を入れた袋の表紙には「類聚国史十一冊，仙石本ニ漏レタル分五冊，異本ト見ル可キ分五冊，重複ト思ハルヽ分一冊，明治二十九年三月十日調」と上書しており，「実ハ十二冊アリ異本ト見ルヘキ分ヲ六冊ト改ムベキカ」との付箋あり。内訳は次のとおり。
①巻45
②巻52
③巻86　仙石本の巻数と異る
④巻92
⑤巻137 仙石本の巻数と異る
以上5冊は「仙石本ニナシ」とされる分で狩谷棭斎の「類聚国史補」に拠るもの。
⑥巻88
⑦巻89
⑧巻179
⑨巻189
⑩巻189「重複ト思ハルヽ分」
⑪巻199
⑫巻83・84の目次。
以上7冊は「類聚国史」の異本の写である。

8584　類聚国史　16.82—3
菅原道真編
手写
8冊　23cm
「類聚国史」の写本。もとになった本は不明だが，仙石本(61巻本)に漏れている巻を数多くのせている。内訳は次のとおり。
①巻1・2・7・12・22・23
②巻24・27・29・37・38・39・41・43
③巻46・48・49・56・57・62
④巻65・67・68・76・81・82
⑤巻96・97・98・103・108
⑥巻109・111・116・117
⑦巻118・119・124・125・126・127・128・129・130・131・132・135・136・141・146
⑧巻164・167・170・188・192・195・196。
このように仙石本または前号54巻本（特16.82—1）に欠失する巻を意図的に集めたものであり，その多くは巻首欠・巻尾欠・中欠の著しいものである。

8585　類聚国史補　16.82—4
狩谷棭斎等編
手写
25冊　27cm
安政4年3月21日前田斉泰の命により類聚国史を補うのに撰んだもの。稿本は尾山神社に所蔵。
①序・巻1・2　②巻3・4・5
③巻6・7　④巻8・9・10・11
⑤巻12・13・14・15・16・17
⑥巻18・19・20　⑦巻28
⑧巻33・34・35　⑨巻不明。賜姓
⑩巻不明。賜姓6～8　⑪人部
⑫人部薨卒5～7　⑬人部薨卒8～11
⑭巻79・83・84　⑮巻86・88・89
⑯職官部叙位一　⑰職官部叙位二～四
⑱職官部叙位五・巻186　⑲職官部補任
⑳職官部補任6～9　㉑職官部補任10～12
㉒巻178・182・186・187・189・190・193・199
㉓付録今枝家本薨卒部　㉔付録考異（諸本目録との校合）　㉕付録新目録。
なお本文中の校訂を加えた箇所には「補」という朱印を捺印している。また巻数の指示のない部分は，新たに六国史から撰集し復原したものであろう。

8586　類聚国史補　16.82—5
狩谷棭斎等編
手写
23丁　26.5cm
類聚国史の欠失部を補い，異本との校訂・補訂を行った類聚国史補の一部である。本書には巻45・52・86・92・137をのせているが，このうち巻86を除く4巻は仙石本に欠失するものである。なお次号と関連するものである。

8587　類聚国史補　16.82—6
狩谷棭斎等編
手写
10冊　26.5cm
類聚国史補の一部分の写本。本の装幀・内容から前号に関連するものであろう。収録内容は次のとおりである。
①巻52　②巻92
③巻110　④巻111
⑤巻112　⑥巻113
⑦巻114　⑧巻115
⑨巻116　⑩巻137。

8588　類聚国史抄出　16.82—7
手写
9丁　29×20cm
類聚国史巻171・194からの抄出書。

8589　類聚国史残缺惣目録　16.82—8
手写
15丁　24cm
類聚国史の目録。内容は次のとおり。
①巻1・2　②巻3・4
③巻5・8・9　④巻10・11・14・15・16
⑤巻19・25　⑥巻28・31
⑦巻32・33　⑧巻34・35・36
⑨巻40・54・66・67　⑩巻71・72
⑪巻73・74　⑫巻75・77・78
⑬巻79・80　⑭83
⑮巻84　⑯巻86・87・88・89
⑰巻99　⑱巻101・107
⑲巻147・159　⑳巻165
㉑巻171　㉒巻173・177
㉓巻178・179　㉔巻180
㉕巻182・185・186　㉖巻187・189・190・193
㉗巻194・199。

8590　本朝尊卑過去帳　16.82—9
今枝直方手写　宝永元年（1704）
3冊　27cm
馬渕氏蔵本を写したもの。天皇，公家，武家，僧，茶人など過去帳の抜書。
①上旬　朔日～十日迄
②中旬　十一日～廿日迄
③下旬　廿一日～晦日迄。

8591　〔足利氏歴代法号〕　16.82—10
手写
1枚　16×44cm
足利尊氏～義昭まで16代の法名書上。

8592　続法号普志　16.82—11
今枝直方著
元禄14年（1701）
45丁　20cm
法号普志に洩れた人の法号をいろは順に記載したもの。なお「法号普志」の正編にあたるものを欠く。

8593　近世扶桑国郡領主法号　16.82—12
60丁　20cm
今枝氏旧蔵。織田，豊臣，前田，伊達，島津，細川，池田家などの近世大名の法号を収録。

8594　〔林大学頭前田綱紀公問答書写〕　16.82—13
手写
3丁　24cm
古書の真偽，歴史的諸事項に関する問答。

8595　補校上宮聖徳法王帝説証註　16.82—14
狩谷掖斎（望之）注　平子尚補
大正2年（1914）刊
22丁　28×16.5cm　帙入
聖徳太子の伝記「上宮聖徳法王帝説」についての注釈書。

8596　東鑑識弁　16.82—15
鈎深子著

手写　宝永元年（1704）
22丁　22cm
元禄16年（1703）成立。吾妻鏡中，著者の理解困難な語句について田中式昭等に質問した答を集録したもの。

8597　大日本史賛薮　16.82—16
安積覚著
手写　明治２年（1869）
５冊　23cm
「大日本史」の本紀・列伝の末尾に記してある賛辞を抄集したものである。延享３年（1746）の写本を写したもので，５巻５冊のうち１巻目が本紀（神武～後小松天皇）の賛を収め，２巻目以後が諸列伝の賛を収める。なお本書の冒頭に長岡恂醒卿の序がある。

8598　本朝通鑑外九記録　16.82—17
手写
60丁　28.5×20cm
本朝通録抄，清原業賢日記，小槻時元日記，扶桑略記，蟬冕魚同，天地瑞祥志目録，李鳳天文要録，岡屋兼経記，御堂関白記，深心院基平記の10種の古記録のごく一部を抜きだしてまとめたもの。跋に「訥斎田宗堅撰」とある。

8599　本朝通鑑編さん書類　16.82—18
江口直躬手写　安永７年（1778）
９丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。林春斎が日本通鑑の編撰を命ぜられ古戦場事跡を調査した時，上杉家より幕府へ提出した書類の写。信州川中嶋両度合戦，後之川中嶋合戦ノ次第，前ノ川中島合戦之証文などを収録。
旧書名「従上杉家合戦之上書」。

8600　古史通　16.82—19
新井白石著
７冊　27cm
正徳６年（1716）成立。神代から神武天皇までの古代史考証の歴史書。読法・凡例を記す初巻（一冊），本文４巻（二～五冊），付録の或問３巻（六～七冊）の全８巻。

8601　皇朝百代通略草稿　16.82—20
津田鳳卿等編
仮綴84　28×20cm
前田斉広が，津田鳳卿等の儒臣に命じて編さんせしめ，斉泰の代に至りほぼ完成したといわれる皇朝百代通略の草稿。
○本紀（10冊）
○列伝（37冊）
○百官通略（16冊）
○国郡通略（４冊）
○芸文通略（９冊）
○食貨通略（１冊）
○古記録・日記抄等（７冊）。

8602　伝聞雑録　16.82—21
前田家編輯方手写　明治年間
49丁　23cm
渡辺氏所蔵の「伝聞雑録」２巻の写本。内容は仲哀天皇より天正までの略史。

8603　旧　記　16.82—22
今枝直方手写　享保９年（1724）
88丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。内容は養和元年（1181）～嘉禎３年（1237）の編年体による歴史書。朝廷，公家をめぐる諸事件，源・平２氏の闘争と鎌倉幕府をめぐる諸事件等が主。末尾に「享保甲辰春於江府令僕写之」という楽木（今枝直方）の跋文あり。

8604　泰平年表　16.82—23
忍屋隠士著
手写
120丁　17.5×12.5cm
天文11年（1542）から天保８年（1837）までの徳川家を中心にした編年体の歴史記録で，天保12年（1841）成立。

8605　貴賤花押目陸　16.82—24
87丁　21cm
将軍家・諸大名・戦国大名・織豊大名・万石以下平組迄幕府諸役人・諸国陪臣・公家・僧中・社人・文人・加賀藩主・藩家臣等の判および印の収集目録。判・印そのものは別に収められて

おり，ここには収集された判・印の人名と数量のみ記す。

8606　往時諸侯羅馬文字ノ印ヲ用ヒシ事　16.82—25
三好保弘著
明治38年（1905）
4丁　24cm
諸侯羅馬文字印の用例を示し，その使用理由として耶蘇教の信仰によることを説く。

8607　内外国事記　16.82—26
手写
7冊　23.5cm
藩国内外の諸事にわたる要点をまとめたもの。幕末に編さんされたものと思われるが，各巻の内容は以下のとおり。
①巻一　京師・将軍家・三箇国并江州・改作・斗代・大豆板銀・夫銀・俵升廻・役料・御制法之者収納・作食・飯田忠左衛門郡奉行・十村・御造塩・高俵詰免・人役町歩・町老九十歳者御扶持のほか守随・諸大夫・諸侯・日本領知高并役附等々
②巻二　孝子長寿・奇事・天竺徳兵衛・琉球人参府登城・朝鮮信使来聘等・紅毛船長崎入津・譜厄利船長崎浦侵掠・魯西亜人長崎浦着岸・海辺領分有之面々被触
③巻三　松前侯所替・蝦夷地
④巻四　聚事
⑤巻五　聚事
⑥巻六　吉宗公上意・年号改元・菅家来裔国事略弁
⑦巻七　菅家来裔国事略弁。

8608　内外国事記　16.82—27
手写
5冊　23.5cm
山崎範淑所蔵「内外国事記」の写。全7冊のうち1・2を欠く。内容などは前号と同じ。

8609　北三州略記　16.82—28
桜井政次編
手写　明治14年（1881）
61丁　24cm
成立は宝暦3年(1753)。内容は，六国史・類聚三代格・旧事紀等の古代史料から加越能三国関連記事を抜萃集録したもの。上中下の3巻から成り，上は加賀国，中は越中国，下は能登国の記事を各々収録する。神祇管領学舎長の松岡如茂が校閲し序文を書いた。末尾には上山真名の跋あり。

8610　加州名跡記　16.82—29
前田家編纂方手写　明治年間
14丁　25cm
横山成之所蔵の写。内容は弘仁年間から慶長年間にわたり，加賀国の国司，守護，及び一向宗等について記した史書。特に富樫氏と一向一揆との対抗，富樫氏滅亡後の一向一揆等を詳しく記す。

8611　肯構泉遡録　16.82—30
野崎雅明著
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23cm
古代より藩初までの越中の歴史叙述。全15巻。冒頭に文化12年正月付の富山藩岡田英之の序がある。刊本はあるが，本書と少異あり。

8612　史料稿本　16.82—31
前田家編輯方手写　明治年間
272丁　24.5cm
天正2年（1574）正月より12月にかかる諸国，諸将の動勢，事件などを諸記録類から抄出，編年体としたもので，本来は天正2・3年にかかる全30巻よりなるものであり，これは天正2年分のみの抄録である。特16.28—86と関連。

8613　史談会速記録　16.82—32
高沢忠義等編
明治26～44年（1893～1911）刊
合綴44（226冊）　21cm
史談会速記録第1輯から第226輯までが44分冊に各々合綴されている。内容は史談会での会合の速記録であり，維新の功労者からの聞書が大半を占める。

8614　史談会速記録　16.82—33
高沢忠義等編

明治26～37年（1893～1904）刊
合綴27（140冊）・197冊　21cm
第1輯～140輯が27冊に合綴され，他に3・4輯各13冊，5輯14冊，6輯13冊，8輯4冊，9輯5冊，10輯2冊，11・13～18・24～29・31～37輯各1冊，38～48輯各3冊，49輯1冊，50～54・57・58輯各3冊，59・60輯各2冊，61輯1冊，62・63輯各2冊，64・66～69輯各1冊，70輯2冊，73・74・76・78・80～84・86～88輯各1冊より成る。

8615　近世史料編纂綱領　16.82—34
史談会編
明治34～37年（1901～04）
合綴1（8冊）　21cm
史談会速記録の附録を合綴したもので，天保2年（1831）～明治3年（1870）の各藩事蹟などを編年体で記す。
旧書名「史談会速記録」。

8616　近世史料編纂事業録　16.82—35
高沢忠義編
明治26～28年（1893～95）刊
合綴1（3冊）　21cm
1輯，2輯上・下よりなり，附として「史談会設立顛末」等があり，史談会の設立・構成などが知れる。史談会は明治21年（1888）宮内省より，島津，毛利，山内，徳川の四家に対して，嘉永6年（1853）から明治4年（1871）までの国政上の重要事を編録上呈するよう命ぜられ，明治22年（1889）にできた維新史料編纂会である。旧書名「史談会速記録」。

8617　史談会紀事　16.82—36
史談会編
合綴1（5冊）　21cm
1～5輯よりなり，史談会の運営・構成などについて記されてある。
旧書名「史談会速記録」。

8618　堀四郎談話聞書　16.82—37
前田家編輯方編
明治年間
31丁　24cm
成立は，明治24年（1891）。幕末の政情について。聞き手は野口之布，書記は，石崎謙。

（外　国　史）

8619　史記考異　16.82—38
大島維直著
前田家編輯方手写　明治年間
15冊　24cm
維直字は無害，通称忠蔵，号は贅川，寛政4年（1792）明倫堂助教，文政12年（1829）都講となり大小将組に列して140石を受けた。本書は「史記」の諸異本を校合したもの。
①首巻　史記考異目録・凡例・序次考
②巻1　史記目録・本紀等
③巻2　本紀　④巻3　本紀
⑤巻4　三代世表～漢興以来諸侯年表
⑥巻5　高祖功臣年表～漢興以来将相名臣年表
⑦巻6　礼書～平準書
⑧巻7　世家　⑨巻8　世家
⑩巻9　世家　⑪巻10　列伝
⑫巻11　列伝　⑬巻12　列伝
⑭巻13　列伝　⑮巻14　列伝。

8620　鄧皇后紀　16.82—39
手写
11丁　24.5cm
後漢書巻十上（皇后紀第十上）の鄧皇后記の書写。鄧皇后は後漢の和帝（89～106）の皇后。

8621　馬皇后紀　16.82—40
手写
7丁　25cm
後漢書皇后紀第十上の明徳馬皇后記の写。

8622　宋史日本伝　16.82—41
手写
3丁　24cm
「宋史列伝外国之篇」の「日本伝」の写。

8623　皇明詔制・皇明詔令　16.82—42
手写
7丁　24.5cm
明の英宗帝，憲宗帝，宣徳帝の詔勅を収録したもの。

8624　求言勅抜書　16.82—43
手写
3丁　24.5cm
明の永楽帝，清の洪熙帝の詔勅各一篇を収録したもの。

8625　靖台実録　16.82—44
今枝直方手写　享保8年（1723）
18丁　26cm
台湾での朱一貴の乱（1721）の関係書。

8626　大清康熙六十年台湾朱一貴乱覚書　16.82—45
田中如玉父著
有沢武貞手写
7丁　12×18cm
有沢貞庸旧蔵。表紙に「武道雑談集八十八」と貞庸の副題がある。
内容は，台湾での朱一貴の乱（1721）についての聞書である。享保6～7年（1721～22）に長崎表での風聞をもとに田中如玉父が書き置いたものを写したものである。
旧書名「武道雑談集」。

8627　徹法考並同図　16.82—46
奥村栄実著
前田家編輯方手写　明治年間
44丁　23cm
文政11年（1828）原本成立。周室の田法・兵賦の説を録したもの。奥村栄実（ひでざね）は，加賀藩老臣奥村宗家の11代。

8628　魯都英仏戦記　16.82—47
24丁　24cm
魯都英仏戦記第2編巻の1。クリミヤ戦記の内「三国同盟の軍勢魯国キリム島に進発の事」等よりなる。

8629　合衆国年表　16.82—48
6丁　24cm
安永5年(1776)，ワシントンの独立軍総司令官就任より，嘉永6年（1853）ペリー浦賀来航に至るアメリカ合衆国の略年表。

（雑　　史）

8630　諸邦諸品雑志　16.82—49
有沢武貞編
今枝直方手写
34丁　20cm
○諸邦之沙汰
上州坂本駅 付小田原陣雹氷耳之話，ゑそ之詞少々，ゑそのしこたんへ漂泊舟之話
○諸伝雑々
堀家略談，薄緑太刀，烏丸吉光，小野藤四郎
○古書之写
頼朝長信連へ下文，大江広元自筆文，輝元自筆文，親鸞自画自賛 付佐々木盛綱高綱覚明画賛。

8631　自撰雑録　16.82—50
今枝直方編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
今枝氏所蔵の写。①古事類，会津雑誌，蜂須賀家変，柴垣詞，蓮華寺略志，加州御蔵，大組足軽略志，大坂回録略志　②武功雑志，宗祇忌月会始，和漢百韻，拈香，受衣之記，増上寺什物写，三越路志，歌詞抜書，薫衣香方を収録。

8632　種々雑志　16.82—51
今枝直方編
自筆　享保7年（1722）
15丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。蹴鞠略記之写，江府高札之写（享保7年），同所被仰出紙面之写二品（同年），台湾朱一貴乱覚書（享保6年）を収録する雑志。

8633　襍纂録　16.82—52
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
①今川了俊授息女教訓文，葛巻有禎松風亭仮名記など43項目。前半は「雑観談叢」と同じ
②白山長吏紙面，煎海鼠一件，森山安養寺事など41項目
③大納言常空より小松中納言殿への書翰，利常公御書の写など86項目
④公方様御実母等，太閤様并権現様等御遺物御

拝領の事など60項目。

8634 雑観談叢　16.82—53
大野木克寛編
手写
116丁　23cm
前半は前号第一本の前部分と同じ。後半は享保10年（1725）成立。元文5年（1740）手写の「魚津御馬廻組小川忠左衛門覚書之写」をのせ，天正9年（1581）利家能登国入部より大阪両陣までの武功逸話を記す。小川氏筆記以外の部分は「関屋政春記聞」により補足追加したもの。

8635 精腥雑記　16.82—54
手写
99丁　23cm
天草四郎，三州孝子，烈婦孝女，大塩平八郎の乱，赤城忠二などの雑録。

8636 倦鳥亭叢書抜書　16.82—55
工藤精義編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
石崎謙所蔵の写。①老の繰言，千島疆界考，文珠九助伝，高田屋嘉兵衛伝，農家困難　②栗園諭吉ニ与フル文及論答之文，東京大火，徳川家臣布告清矩演記，御普請地形文句書上，松平越中守書取，烟草歴史，祭彰義隊文，松寿院碑銘，石油試験。

8637 擢萃録　16.82—56
山森鉄次郎編
手写
3冊　27cm
①閑友雑記・可観小説井上三太夫話　②採花録・小説書・三州志来因概覧　③可観小説・厳秘録・採花録中の正慶日記，讃州志，君則，兵家茶話，寛永小説，尚遺草，記聞，文会雑記，遺老物語，蘭学階梯，白石叢書，北窓瑣談・五事略などより抜粋編さん。

8638 小木貞正所蔵旧記　16.82—57
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23.5cm
内容は，日本建命の劔の図，茶道御尋の事，元禄4年不破甚佑等刎首一件等一括，宝暦7年中将様御入国等，寛政9年本多悠々斎老病云々，文化2年本多安房守殿へ御使勤云々，早縁帳類寄。

8639 順庵墓図等六種　16.82—58
前田家編輯方手写　明治年間
29丁　27cm
○木下順庵墓図（岸本勝敏所蔵の写）
○附新井白石詩
○錦里先生自題肖像（七言絶句の詩）
○亭閣台榭等字考
○御大礼寿詞考徴（横山政和所蔵の写）
○御即位宣命文私考（横山政和所蔵の写）。

8640 近藤兵作雑鈔　16.82—59
前田家編輯方手写　明治年間
52丁　23cm
「応永二十六年七月明国江被遣候御書」他10項目を収録。主に藩政時代の法令，災害，騒動等を記す。近藤兵作は藩政末期の藩臣。

8641 桂田行忠書状等　16.82—60
2通　18cm
1通は桂田行直（陸軍歩兵中尉）の石川県との関係照合に対する実父行忠の返状，9月1日付早川千吉郎宛。1通は前欠文書で遺族の母飛田さくの署名あり，加越能倶楽部発起人各位宛。加越能倶楽部の戦史調査資料。早川千吉郎は早川随勝の甥か。
旧書名「桂田行忠等書翰等」。

8642 〔江戸城御本丸焼失記〕　16.82—61
手写
1通　14cm
南部祗知旧蔵。弘化元年（1844）5月10日本丸御広式長局の一室から出火した時の記録。延焼の順序，消火の手配などを記す。
旧書名「金沢城御本丸焼失記」。

文　書・記　録

（文　　書）

8643　東大寺開田地図　16.82—62
前田家編輯方手写　明治22年（1889）
絵図1枚　91×153cm
大島多計比古所蔵の写。原図は，天平宝字3年（759）。
旧書名「越中射水郡鳴戸野古図写」。

8644　石清水八幡宮文書　16.82—63
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（94丁）　25cm
大治4年（1129）6月22日「左弁官下文」以下，延宝4年（1676）までの古文書102通写。

8645　石清水文書・碧山日録・喜称軒日記・師茂記　16.82—64
手写　文化7年（1810）
48丁　28×20cm
善法寺文書，碧山日録，喜称軒日記，師茂記等の古文書・古記録を抄録。

8646　能登国四郡公田々数目録写　16.82—65
手写　明治8年（1875）
巻子1　32.5cm
承久3年（1221）9月6日の能登国大田文の写。跋によると，能登部下村能登比咩神社神官某氏所蔵の写本で，教部省の調査の際に提出したものを写したものである。筆写は橿邨と称す。徴古楼抄別本よりの写。

8647　田券牒　16.82—66
手写
9丁　28×20cm
鹿島郡熊木院宮前村久麻加夫都阿良加志比古神社蔵の貞応3年（1224）10月1日の田券の写。刊本「加能古文書」73号文書。原文書の影写と思われる。

8648　天龍寺真乗院文書　16.82—67
手写
14丁　24cm
安貞2年（1228）8月16日付文書ほか13通。

8649　〔越中国〕石黒庄弘瀬雑掌記　16.82—68
手写
仮綴1（23丁）　24cm
弘長2年（1262）3月1日の，円宗寺領越中国石黒庄弘瀬雑掌等の争論に関する関東下知状の写。松雲公採集遺編類纂（121）に収められている「円宗寺北条裁判書」と同じ文書。

8650　東福寺文書　16.82—69
前田家編輯方手写　明治年間
89丁　25cm
弘安3年（1280）9月5日付文書など，東福寺所領関係文書写。

8651　南禅寺文書写　16.82—70
手写
26丁　25cm
南禅寺塔頭慈聖院領所務関係文書写。貞治5年（1366）4月27日「寄進状」から永禄2年（1559）10月13日のものまで。

8652　後撰芸葉　16.82—71
今枝直方編
自筆　貞享2年（1685）
18冊　19cm
今枝氏旧蔵。鎌倉期～江戸初期までの武家の書状・朱印状・制札等645点を撰し収録。①序・凡例　②目録　③～④寺社法度類　⑤恩賜　⑥褒章　⑦羽柴家制禁等　⑧諸家制法　⑨書翰・誓盟　⑩～⑬軍事贈答　⑭説道書札贈答　⑮～⑰常道贈答　⑱堂上。

8653　古状集　16.82—72
手写
30丁　24cm
源頼朝，梶原景時，秀吉朱印状，五大老連署状，家康書状等戦国大名，近世大名，武家の書状写を集めたもの。真偽に疑問のある文書も含む。

8654　大島氏蔵古文書　16.82—73

前田家編輯方手写　明治年間
87丁　23.5cm
大島多計比古氏所蔵の中世文書の写本。荘園関係文書のほか，同音入正理論三十頌，宝徳3年（1451）よりの拝殿方諸日記を収む。

8655　飯尾文書　16.82—74
前田家編輯方編
明治年間
53丁　24cm
室町幕府奉行人飯尾家文書の写本。南北朝時代から戦国時代までの文書を収める。

8656　蜷川文書　16.82—75
手写
仮綴1（25丁）　24cm
足利将軍家の財政吏僚として著名な蜷川家文書の一部の写本。蜷川氏の出自が越中大田庄蜷川村にあると伝えられているため，本書が成されたのであろう。

8657　籠手田文書　16.82—76
前田家編輯方編
明治年間
82丁　24cm
籠手田家所蔵の写。

8658　美濃国前田村古文書　16.82—77
立沢六左衛門手写　明治18年（1885）
巻子1　35cm
美濃国安八郡前田村に旧蔵されていた中世文書15通（久安3年～明徳2年）の影写。

8659　前田半三郎文書目録等　16.82—78
前田家編輯方手写　明治年間
27丁　23.5cm
愛知県下尾張国葉栗郡東浅井村の前田半三郎氏所蔵古文書および古文書目録の写。

8660　宗福状・松若物語　16.82—79
手写
81頁　15×18.5cm
今枝氏旧蔵。応仁の大乱後の室町幕府を中心とする諸侯の動向に関する記録。宗福状は永正5年（1508）下村五左衛門宗福より太平山城守宛の書状。

8661　加州本家領謂付日記　16.82—80
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　24cm
天文2～6年（1533～37）の加賀における荘園所領の領有状況を記したもの。

8662　諸名将等感状集記　16.82—81
手写
29丁　22.5cm
脇田当保旧蔵。徳川氏・豊臣氏・後北条氏などの感状を主にした軍令等の古文書写を集めたもの。

8663　古文書写　16.82—82
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　23.5cm
戦国期～江戸初期，諸武将の書状等写。手鑑を原本とするものが多い。

8664　清正感状之写　16.82—83
25丁　24cm
有沢氏旧蔵。加藤清正宛の秀吉書状・朱印状を集めたもの。

8665　〔佐々成政知行宛行状写〕　16.82—84
手写
1通　24cm
小野宗右衛門宛佐々成政知行宛行状写，天正12年9月3日付。300俵扶持。
旧書名「佐々成政知行書写」。

8666　大神君様より台徳院様之御台様へ被進候御文之写　16.82—85
手写
15丁　24cm
徳川家康より秀忠の妻（正室）に宛てた2月25日付の心得などを記した書状写。

8667　陽徳院女房奉書写　16.82—86
前田家編輯方手写　明治年間
81丁　24.5cm

中川典克旧蔵。陽徳院宮(永崇尼王)は後陽成天皇の娘，慶長14年(1609)生元禄3年(1690)没。寛永元年大聖寺に入りて薙髪し，天和3年寺務を辞して東御所に戻る。

8668 〔松平直良知行所付目録〕 16.82—87
永井伊賀守・小笠原山城守著
手写
1通 23cm
寛文4年の所謂寛文印知に伴って発行された知行所付目録。越前大野藩主松平但馬守直良宛。幕府役人は永井伊賀守尚庸・小笠原山城守長頼の両名。
旧書名「越前国郡村目録」。

8669 頼言上卿下知案 16.82—88
36丁 23cm
中川典克旧蔵。権中納言藤原頼言が上卿として作成にかかわった宝暦7～12年（1757～62）の宣旨・口宣案等の草案の覚書。

8670 池田慶徳書状写 16.82—89
池田慶徳著
手写
2通 36cm
1通は4月4日付前田正三位(斉泰)・前田従四位（慶栄）宛池田従二位（慶徳）書状写。1通は8月5日付前田従四位（慶栄）宛池田従二位慶徳書状写である。

8671 佐竹義堯・義修書状 16.82—90
佐竹義堯・佐竹義脩著
手写
2通 44cm
1通は前田従四位（大聖寺藩主利鬯カ）宛佐竹義堯書状，6月28日付。1通は前田従四位宛佐竹義脩書状，6月28日付。ともに時候挨拶，御気嫌伺を内容とする。

8672 東条琴台書牘 16.82—91
東条耕著
前田家編輯方手写 明治年間
84丁 23cm
逸見文久郎所蔵の写。内容は東条耕(琴台は号)の文久2年（1862）～明治元年（1868）の書翰をまとめたもの。

（記　　録）

8673 座主記 16.82—92
今枝直方手写 享保元年（1716）
2冊 27cm
原題「天台座主記」。比叡山根本伝教大師より第88代前大僧正澄覚までの天台座主記録。

8674 園太暦 16.82—93
中園洞院公賢著
忠山居士手写
19丁 27cm
今枝直道旧蔵。太政大臣洞院公賢の日記の1部。奥書に「此一冊忠山石屋居士在世ニ家臣ニ写シサセヲカルヽ者也……寛延三中春末之九日如此少冊ニ致置物也」とある。

8675 洞院系図 16.82—94
忠山居士手写
36丁 27cm
今枝氏旧蔵。洞院公賢の南北朝時代の日記。「園太暦」に付されるもので，洞院系図と園太暦目録より成る。寛延3年迄に手写か。

8676 康富記抄 16.82—95
中原康富（師茂）著
手写
39丁 28×22cm
日向守権大外記，中務権少輔を歴任し，正五位に叙せられた中原康富が記した応永8年(1401)から康正元年（1455）までの日記の抄出写本。

8677 蔭涼軒日録抄 16.82—96
30丁 29×20cm
蔭涼軒日録より抄出したもの。蔭涼軒日録は相国寺鹿苑院蔭涼軒主の公用日記。季瓊真蘂・亀泉集証の筆録。現存65冊。

8678 慈照院殿御代日録抄 16.82—97
前田家編輯方手写 明治年間
79丁 25cm

慈照院は足利義政。「慈照院殿日録」から抄出編さんしたもの。長禄2年（1458）正月から長禄3年12月までの記事を収める。

8679　天文日記抄　　16.82—98
本願寺証如著
前田家編輯方手写　明治年間
15冊　23cm
天文5年（1536）より天文23年（1554）までの19年間にわたる本願寺第10世証如の筆録「天文日記」（または「本願寺日記」，「証如上人日記」）の一部。ただし1巻目は「従諸家音信并返札等之儀記之」と題する天文4年・5年・6年の書札の覚書。刊本では外してある。
2～15巻目は「天文日記」の前半部，天文5年正月～天文8年閏6月までを記録。各巻春（正～3月）・夏（4～6月）・秋（7～9月）・冬（10～12月）ごとに分冊。

8680　上杉氏上洛日帳　　16.82—99
上杉家編輯方編
手写
7丁　25cm
明治31年（1898）4月16日上杉家編輯員伊佐早謙寄贈本。内容は，天正14年（1586）上杉景勝が前田利家などの仲介により秀吉に服属するため上洛したときの日録である。5月20日春日山出立から7月6日帰府までを簡潔に記す。

8681　山階家記録　　16.82—100
44丁　25cm
中川典克旧蔵。在京の医師山科了安の子補安の享保15年（1730）正月から12月までの日記。なお本書の表紙に中川家よりの献本である山階家記録八種の目録が付されている。

8682　長谷勘奏記　　16.82—101
手写
22丁　24cm
①長谷勘奏記（内題「長谷寺司等謹勘言上」，別名「密巻記」）②大納言入道灌頂記を収む。

軍　記・家　記

8683　最上軍記　　16.82—102
今枝直方手写
3冊　20cm
今枝氏旧蔵。最上義光を中心に，その死までを記す。

8684　最上記追加　　16.82—103
有沢永貞著
手写
45丁　22.5cm
表題は「最上記抜萃」，内題は「羽州最上記追加」。近世初頭出羽国主最上氏の家記である「最上記」に漏れた事実を拾いあげて記す。

8685　蒲生家録　　16.82—104
今枝直方写　宝永7年（1710）
3冊　19.5cm
今枝氏旧蔵。内容は蒲生氏郷の軍記。

8686　氏郷覚書　　16.82—105
手写
21丁　23.5cm
蒲生氏郷の戦歴を記す。

8687　氏郷記　　16.82—106
手写
56頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。前号と同内容。

8688　伊達記　　16.82—107
伊達成実著
今枝直方手写
237頁　16×18.5cm
今枝氏旧蔵。「伊達日記」「伊達成実記」「政宗公御軍記」等とも呼ばれる伊達政宗の軍記物語の写本。

8689　仙台家中伊達安芸・原田甲斐公事由来　　16.82—108
手写
40丁　23.5cm
伊達騒動の通俗的な記録。

8690　奥州会津四家合考　　16.82—109
向井吉重著

今枝直方手写　享保5年（1720）
6冊　26cm
戸田氏所蔵の写。明暦3年より寛文3年までの6年間に書かれたもので，奥州会津を順次治めた葦名氏・伊達氏・蒲生氏・上杉氏の4家の歴史を合述したもの。

8691　奥羽軍記　16.82—110
手写　寛文6年（1666）
61頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。「後三年合戦絵巻」の詞書。貞和2年（1346）法印権大僧都玄慧の序文がある。末尾に手写者（今枝直方カ）の跋があり，平宰相忠雄卿所蔵の絵巻物で絵師は飛騨守惟久，上巻仲直，中巻保脩，下巻行忠の筆なることを記す。

8692　奥羽軍談　16.82—111
23頁丁 15.5×18cm
慶長5年（1600）9月の上杉景勝と伊達政宗の合戦記。

8693　結城戦場記　16.82—112
手写
24丁　27cm
永享の乱（1439）から結城合戦（1440～41）にいたる戦記と鎌倉府の古河への移転について記す。

8694　湘山星移集　16.82—113
今枝直方手写　寛文11年（1671）
29頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。内題に「永享記一禅秀記一」とあるが，内容は「湘山星移集」。奥書に「寛文十一辛亥稔雉雊中旬豊臣唐綴筆於金沢茅屋者也（朱印）」とある。旧書名「永享記」。

8695　軍論之巻　16.82—114
上泉孝綱・直江兼継編
手写
7丁　24cm
関ヶ原合戦前後の東北の戦乱について記す。

8696　輝虎軍記　16.82—115
今枝直方手写　寛文12年（1672）
102頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。永正3年（1506）長尾為景が上杉為義（為能）を討ってから，天正6年（1578）上杉謙信（輝虎）の死去までを記す。

8697　富樫観知物語抜粋　16.82—116
竹松隼人編
手写
7丁　23.5cm
外題「竹松隼人覚書」。富樫観知物語は，富樫観知なるものの語ったことを家臣の竹松隼人がまとめたもので，元禄期成立の「越賀記」（大谷大学所蔵）に若干の引用があるのみで，原本・写本ともに伝えられていない。本書は，その抜粋であるが，「官知論」との関連が考えられる「富樫観知物語」の唯一の遺存部分である。刊本「蓮如・一向一揆」（日本思想大系17）に収録。

8698　畠山氏并長氏略記　16.82—117
手写
8丁　23.5cm
畠山氏の能登領有，上杉謙信の進攻から長連龍が利家に臣従するまでを記す。

8699　畠山家旧記　16.82—118
中邑周次編
前田家編輯方手写　明治年間
32丁　23.5cm
七尾戸長役場所蔵の写。天正2年（1574）「畠山義則国出奔の事」から天正10年「石動山并荒山合戦之事」および「石動山造営并能登国静謐之事」までを記した能登畠山氏の略史。

8700　畠山軍記評註　16.82—119
杉本孔碩著
手写
40丁　23cm
別名「翁物語評註」。能登七尾町山王社大森氏所蔵本を森田良郷が嘉永7年（1854）に手写したものの写。文政13年（1830）原本成立。著書は所口（七尾）の医師。

8701　長谷部信連記　16.82—120

前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23.5cm
長谷部信連より寛文7年（1667）浦野事件までの長家の記録。刊本「長氏と畠山氏」（石川県図書館協会）所収。

8702　加越闘諍記　16.82—121
手写
84頁丁 15.5×18cm
今枝氏旧蔵。本願寺門徒越前国ニ繁昌之事，加州国主富樫助滅亡之事，三ヶ国一揆越前へ乱入ノ事并越前一揆蜂起事，於諸口合戦之事并一揆敗軍之事，越前一揆牢人豊原寺へ打出ル事并石河玄任帝釈堂口へ出ル事，帝釈堂怨霊千部経読誦ノ事，朝倉孫五郎景総以千小太郎教景於相撲場喧嘩ノ事，敦賀郡司朝倉孫四郎謀叛ノ事并貞景被寄馬落馬ノ事，孫五郎賀州ヨリ出張ノ事并敗軍ノ事，国主朝倉貞景逝去ノ事，下津間筑前守賀州波佐谷若松房主誅謬之事，朝倉太郎左衛門尉教景加州入国ノ事，加州牢人トモ越前へ落来事，山科寺ヲ六角方法華宗同事ニ退治有之事，越前国主孝景逝去ノ事，唐船湊へ着岸ノ事から成る軍記。

8703　加越和睦記　16.82—122
48頁丁 15.5×18.5cm
「加越闘諍記」のうち「公方様越州御下向之事并越賀和睦之事」に相当するが，内容的には豊富。永禄8年（1565）より同13年（1570）信長の越前入国と天筒城合戦まで収録。

8704　朝倉始末記　16.82—123
今枝某手写　元禄7年（1694）
4冊　16.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。「朝倉由来之事」から「義景嫡子逝去附義昭公移美濃事」まで，朝倉氏を中心とした戦記。堀氏所蔵の写で，異本系統については刊本「蓮如・一向一揆」（日本思想大系 17）に詳しい。
①朝倉始末記序・巻一
②朝倉始末記巻二
③朝倉始末記巻三
④朝倉始末記巻四。

8705　越州軍記　16.82—124
有沢武貞手写　元文2年（1737）
3冊　22.5cm
有沢氏旧蔵。朝倉氏の軍記。内容はほぼ前号と同じ。
①越州軍記上
②越州軍記中
③越州軍記下。

8706　義景記　16.82—125
今枝直方手写
2冊　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。内題は「越州軍記」。今枝直方は本書を越前軍記（＝越州軍記）と同一のものと考えている。刊本「蓮如・一向一揆」（日本思想大系17）。
①義景記上
②義景記下

8707　義景記　16.82—126
手写
22頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。「御成之記」。「蓮如・一向一揆」（日本思想体系17）の「越州軍記一」と対応するもの。

8708　朝倉義景亭御成之記　16.82—127
前田家編輯方手写　明治年間
9丁　24cm
永禄11年（1568）5月17日，将軍足利義昭の一乗谷朝倉義景邸御成の記録。

8709　宗滴雑談　16.82—128
朝倉教景著
手写
32丁　24.5cm
越前の武将朝倉教景（宗滴）の訓話的雑談。「朝倉宗滴話記」，「宗滴夜話」とも称す。「宗滴御雑談トモ端々荻原覚之事」，「朝倉先祖之次第」，「京都御台戦之後孝景御感状（大永元年）」，「天文廿四従宗滴越後江被遣状」を収録。

8710　宗滴夜話　16.82—129
朝倉教景著

手写
50頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。前号の内容のほかに，「朝倉英林入道子孫へ一昼有夜朝倉金吾物語イタシケルヲアラアラ思出シ」，「当国御陣之次第」，「英林様御兄弟」などを加える。

8711　鎌倉兵乱記　16.82—130
手写　寛文8年（1668）
49頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。3巻のうち初めの部分を抜書。後半は小田原記と同一として省略。鎌倉公方足利持氏の永享の乱から北条早雲の出現までを記す。

8712　小田原記　16.82—131
今枝直方手写
2冊　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。後北条氏の盛衰を記す。上下2冊。上は巻1～4，伊勢平氏の由来から氏長の上総支配まで。下は巻5～9，永禄7年（1564）臼井城合戦から天正18年（1590）氏政・氏照の最期までを記す。

8713　今川記　16.82—132
斉藤道斉著
今枝直方手写　元禄7年（1694）
53丁　20cm
今枝氏旧蔵。富麓記ともいう，今川氏歴代の記録。今枝直方が伊叟監物貞意の嫡子右京貞広より借りて写したもの。

8714　豊臣記　16.82—133
大村由己（法橋）著
今枝直方手写　貞享2年（1685）
76丁　19cm
今枝氏旧蔵。内容は天正13年（1585）までの豊臣氏の戦記。著者の自筆本を写した素絹の筆写本を直方が写したもの。

8715　参川記　16.82—134
今枝直方手写
3冊　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。内題は「三河物語」。上中下3冊。三河時代から大坂の陣までの徳川家の戦記。元和8年4月11日の大久保彦左衛門の跋あり。大久保家秘蔵の系統に属するものを今枝直方が入手し，写したもの。

8716　関ケ原記　16.82—135
今枝直方手写
3冊　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。内題「関ヶ原軍記」。慶長3～5年（1598～1600）にわたる関ヶ原合戦記録。

8717　関ケ原軍記　16.82—136
今枝直方手写　寛文11年（1671）
107頁丁 15.5×18cm
今枝氏旧蔵。内題「関ヶ原記」。慶長5年（1600）～元和3年(1617)にわたり，関ヶ原合戦記録を中心に，その後の政治動向も記す。末尾には「細川越中守忠興内室自害事等」を追加する。

8718　関原大成私記　16.82—137
手写
136丁　26cm
副題「慶長始末雑話」。秀吉の薨去より藤堂氏などの東軍諸将の勲功を記す。

8719　関原御一戦覚書　16.82—138
5丁　24cm
関ヶ原合戦における9月14日・15日の石田・小西・宇喜多らの動勢など戦役の様子を簡単に記す。

8720　誓文日記　16.82—139
可児才蔵著
前田家編輯方手写　明治年間
72丁　23cm
かつて前田氏の家臣であった可児才蔵が，自ら参戦した末森合戦・関東征伐(天正19年)・筑紫名護屋出陣・関ヶ原合戦等について記した戦記。元禄8年（1695）の敬義堂主人写本の写。

8721　故語聞書附浪速冬夏戦記　16.82—140
手写
67丁　23cm
天正10年（1582）から同13年（1585）にわたる

北陸の動向を中心に記した戦記。そのうち主要な項目は，能州石動山一揆之事，柴田勝家謀逆柳ヶ瀬陣之事，柴田佐久間亡死，末森補擲，佐々成政隠謀，成政敗軍起西国事，大地震越中木布祢城沈入之事。寛文4年（1664）薪斎の奥書があり，「委者利家卿夜話・末森記ヲ可看ト云々」と記す。「浪速冬夏戦記」は天王寺表惣攻同落城之事，秀頼卿御生害之事，秀頼卿愛子并落人搦捕之事，武家古法書大樹江被授之事を記す。

8722　姉川軍記　　16.82—141
手写
74頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。元亀元年（1570）4月信長が越前へ発向してより，6月姉川の戦いに勝利し，7月6日上洛するまでを記す。

8723　伊勢軍記　　16.82—142
神戸良政著
今枝直方手写　宝永7年（1710）
97丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。（巻上）勢州諸家・武家執権・乱世形勢・国司権威・義賢兵乱（巻中）信長出張・勢南兵乱・信長治世（巻下）具教騒動・諸国退治・光秀騒動・信孝兵乱・信雄兵乱・秀吉治世・天下太平。

8724　伊勢軍記略録　　16.82—143
僧把包著
手写
51頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。表題は「伊勢軍記」。内題は「伊勢軍記略録」。伊勢国の北畠・工藤・関氏の家系から書き始め，弘治・永禄の合戦から天正12年（1584）信雄・秀吉不和の事までを記す。

8725　長禄記　　16.82—144
今枝氏手写
45頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。長禄4年（1460）から寛正5年（1464）の畠山義就・政長の畿内における対立等を記した軍記。

8726　畠山記　　16.82—145
手写
17丁　22.5cm
内容年代は明応2年(1493)～永正16年(1519)にわたり，応仁の乱後の畠山氏と細川氏の合戦等を描いた軍記。

8727　高国記　　16.82—146
手写
27丁　22.5cm
戦国期の武将細川高国の軍記。足利季世記の第3巻にあたるものである。

8728　細川記　　16.82—147
手写
34頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。「被対御当家故越中守忠興(ママ)御忠功覚」と「源氏細川家」略系図から成る。

8729　細川頼之記　　16.82—148
今枝直方手写　元禄14年（1701）
2冊　20.5cm
今枝氏旧蔵。南北朝時代の有力守護大名で，室町幕府の管領(執事)を勤めた細川頼之の家伝。

8730　三闘記　　16.82—149
今枝直方手写　元禄15年（1702）
2冊　20.5cm
今枝氏旧蔵。応仁の乱後の細川氏・畠山氏を中心にした軍記で，畠山記・舟岡記・高国記をまとめたもの。
①畠山記（明応2～永正18年）・舟岡記
②高国記（永正7～享禄4年）。

8731　舟岡記　　16.82—150
手写
19丁　22.5cm
有沢氏旧蔵。内容は政元生害之事，澄之最後之事，澄元没落之事，義尹御武勇之事，義晴御誕生之事，瀧屋合戦之事，佐々木定頼之事，舟岡山合戦之事，近江九里被誅事，池田高名之事。舟岡記は足利季世記の第2巻のこと。

8732　船岡山軍記　　16.82—151
手写
46頁丁　15.5×18.5cm

今枝氏旧蔵。内容年代は永正8年（1511）～天正8年(1580)。舟岡山合戦之事，細川高国奔于江州事，細川晴元与三好不和事，将軍義晴薨逝事，佐々木与三好勝軍合戦事，播州三木落城事を記す。

8733　難波戦記　　16.82—152

万年頼方・二階堂行憲著

手写

2冊　15.5×18.5cm

今枝氏旧蔵。

①秀頼上落之事，大仏再興之事，大久保忠隣御改易之事，彗星出事付大坂妖怪之事，大仏供養評定之事，片桐大野駿州下向之事，片桐大坂立退事，石河伊豆守大坂退事，大坂騒動之事，板倉関東注進之事，茨木城加勢之事，中嶋一揆之事，大坂軍評定之事，大坂定持口付構於砦事

②両将軍家駿府御進発御用意之事，大坂城中不和之事，前将軍家駿府御出馬之事，矢野和泉被召出秀頼之幕下事，大野治長与渡辺糺口論之事，長曽我部恨秀頼下知事附大地震，家康公諸大名被仰付於責口事，槇嶋玄蕃有回忠之沙汰事，松平左衛門督乗取於中嶋事，南条中務大輔被討事，真田左衛門佐方被遣真田隠岐守事，乗取於穢多崎之砦事，城中謀書之使被生捕事，野田福嶋合戦之事，正宗捕秀頼使者和久事，今福合戦之事，鴫野合戦之事，前将軍家陣場御巡見之事，小栗又市与山本新五左衛門口論之事，斥候衆言上之事，大斥候之事附兵糧増被下事，福嶋備後守献隠謀状事，抜伯楽淵之砦附平子討死事，乗取於福嶋事，乗取於船場町事，城和泉守御改易之事。

刊本「通俗日本全史」11巻。

8734　難波記　　16.82—153

今枝直温手写

32頁丁　15.5×18.5cm

内題「難波軍記」。大坂の陣の戦記。元和元年（1615）正月2日～5月6日までを日録風に記す。旧書名「難波軍記」。

8735　浪波軍記　　16.82—154

手写

111丁　22cm

大坂冬の陣を中心に，慶長19年（1614）春～翌20年2月までを記す。

8736　浪花記　　16.82—155

手写

78頁丁　15.5×18.5cm

今枝氏旧蔵。内題は「若江 道明寺 八尾合戦之覚」。元和元年（1615）5月大坂夏の陣の戦記。

8737　嘉吉乱記　　16.82—156

今枝直方手写　寛文12年（1672）

45頁丁　15.5×18.5cm

今枝氏旧蔵。嘉吉の乱を中心にした赤松氏の戦記。末尾に今枝直方撰の赤松氏略系図を追加収録。

8738　嘉吉乱記　　16.82—157

手写

24丁　24cm

前号と同内容。

8739　別処記　　16.82—158

来野弥一右衛門著

手写

2冊　15.5×18.5cm

今枝氏旧蔵。播磨三木城主別所長治と信長・秀吉との攻防から三木落城にいたる軍記。

8740　吉備戦話戦録　　16.82—159

今枝直方手写　宝永8年（1711）

108丁　26cm

今枝氏旧蔵。明応2年(1493)～文禄2年(1593)にわたる中国路の戦記。備前日置氏より借りて写したもの。

8741　備前文明乱記　　16.82—160

目黒祐欣著

今枝直方手写　宝永3年（1706）

31丁　20.5cm

今枝氏旧蔵。原本成立永禄元年(1558)。備前における応仁の乱前後の戦乱を記す。

8742　松田記　　16.82—161

目黒祐欣著

今枝直方手写　宝永3年（1706）
31丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。永禄9年（1566）成立。備前文明乱記を改編したもの。

8743　宇喜多直家軍記　16.82—162
今枝直方手写　宝永年間（1704～10）
49丁　20.5cm
直家は秀家の父。宇喜多家の家系にはじまり，天正9年（1581）直家の死までを記す。内容項目は，直家立身，三村家親傷害，三村一門叛毛利，妙善本城落城，松山城没落，全門城落城，竜口城落城，岡山城没落，常山城没落，上月城没落，忍山城没落。

8744　宇喜多略伝　16.82—163
今枝直方手写　宝永3年（1706）
5丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。内題「宇喜多伝」。備州日置忠昌所蔵の写。豊臣氏の五大老の一人宇喜多家の略伝。

8745　浦上宇喜多両家記　16.82—164
今枝直方手写　宝永年間
34丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。はじめに宇喜多家の主家である浦上家の略伝をのせるが，大半は宇喜多家の家記。今枝直方の生家である備前国池田家老臣日置忠昌所蔵の写。

8746　備中兵乱記　16.82—165
今枝直方手写　宝永4年（1707）
59丁　19.5cm
今枝氏旧蔵。天正2・3年（1574・75）の備中松山城主三村元親と毛利・小早川の合戦記。

8747　応永記　16.82—166
手写
31丁　20cm
大内義弘の応永の乱を題材にした戦記。

8748　毛利家記　16.82—167
手写
31丁　23.5cm
毛利元就の戦記にはじまり，毛利輝元が秀吉に属するまでの軍記。内容は，「毛利元就由来并所々合戦之事」「吉川ヵ事」「小早川ヵ事」「元就与陶尾張守不快并大内滅亡之事」「御即位付隆元補任之事」「浦兵部文字ノ関合戦之事」「元就撃九州事」「再発向雲州之事并秀吉公与輝元戦」「同和睦之事」から成る。
なお本書の表紙は，4月19日付の「長左兵衛元連書状(到来物礼状)」を用いてある。今枝氏旧蔵本か。

8749　毛利秀元記　16.82—168
三吉規為著
手写
6冊　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。慶安4年（1651）成立。毛利秀元は，元就の5男徳田治部輔元清の息であるが，叔父小早川隆景の先見により宗家輝元の跡を受け，朝鮮の役総督として活躍。のち関ヶ原戦，大坂の陣でも働いた。軍記のほか茶事に堪能であったことまで記す。

8750　豫章記　16.82—169
一忍居士編
手写
65丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。神代から南北朝時代までの伊予国守護河野氏の歴史を記す。今枝直方の写か。

8751　八島軍伝　16.82—170
手写
7頁丁15.5×18cm
今枝氏旧蔵。内題「源平八島軍伝」。源平屋島の合戦の軍記。

8752　九州紹運記　16.82—171
藤原一蓑(伊藤一蓑)著
今枝直方手写
166頁丁15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。外題「九州兵乱記」。慶安4年(1651)成立。天正期の高橋紹運を中心にした九州の軍記，全53項。高橋家の由緒よりはじまり，秀吉の九州国割までを記す。高橋紹運は豊後大

友宗麟の重臣，島津に攻められて戦死。

8753　大友興廃記　　16.82—172

杉谷宗重著

今枝直方手写

16冊　15.5×19cm

今枝氏旧蔵。豊前の大友義鎮家の戦記，神代から関ヶ原合戦までを22巻（ほかに序一巻）にまとめたもの。

8754　大友興廃記抜書　　16.82—173

手写

巻子1　15cm

杉谷宗重著の軍記「大友興廃記」の6巻・12巻の写し。

8755　嶋原記　　16.82—174

遠山信春著

今枝直方手写

5冊　27cm

今枝氏旧蔵。別名「島原合戦記」。

①耶蘇宗門制禁之由来，嶋原吉利支丹一揆之起，深江村合戦同一揆等嶋原城下ニ而敗軍之次第，隣国加勢注進以後一揆弥蜂起之次第，三江村兵粮取入候時軍之次第，肥後国天草一揆蜂起与嶋原一揆成合之事，嶋子本戸合戦之次第，富岡城両度城攻之事，同時寺沢家中討死并手負之覚，大矢野小左衛門口書之写，10月15日上総村寿庵廻状之写，嶋原一揆初発之時於村々松倉勢討死覚，嶋原領城下より方々道程之覚

②板倉内膳正父子并石谷十蔵西国下向之次第，松倉兄弟其外御暇西国下向一揆等原之城再興之次第，一揆等原城楯籠勢賦之次第，上使御目付并西国原之城取詰候次第，12月20日原城東西貰寄候次第，同日寄手討死手負之覚，其頃嶋原表落首之写，松倉長門守同右近原之城陣立覚書，同書翰并村々人数覚書，年内陣中矢文之写，四郎時貞試筆之写

③寅正月元日城責板倉内膳正討死次第，同時寄手討死手負之覚，松倉長門守家老共書出候写，石谷十蔵板倉主水より板倉周防守へ書状之写，其頃嶋原表江相立候落首之覚，其後追々立ル落首之覚，寄手旅馬印指物之覚

④上使并寄手之面々着陣寄口仕寄之次第，2月21日従城中夜討之次第，夜討之時味方討死手負之覚，豆州左門申渡候覚，大矢野村小左衛門書状并口書之写，矢文之写弐通，嶋原城中鉄砲并外ヶ輪明地之覚，吉利支丹立帰候者共同吉利支丹ニ而無之者共惣寄帳之写，上使并御目付之家来覚

⑤2月27日総攻次第并榊原左衛門一番乗同28日落城之次第，山田右衛門佐返忠并落人斬罪次第，同両日寄手討死手負之覚，山田右衛門佐就御尋申上候覚書，落城以後御仕置之次第，板倉主水佑同甚太郎出身之次第，野村治右衛門感状之写。

8756　寛永賊罰往来諸章　　16.82—175

手写

102丁　19cm

島原の乱に際しての諸将と幕閣等との書簡集。寛永15年（1638）正月朔日～2月12日のものを集録。

8757　肥後兵乱覚書　　16.82—176

有動某著

手写　元禄3年（1690）

20丁　27cm

内題「肥後山鹿郡ノ内城村籠城之次第覚書」。天正15年（1587）佐々成政に抗して隈部鎮安等が城村城中に籠城した一件を中心に記す。

系　図・家　譜

（武　　家）

8758　歴代将軍略評　　16.82—177

有沢永貞著

宝永5年(1708)

76丁　22cm

脇田当保旧蔵。内題は「古来ノ大将当代共ニ批判九ヶ条」であるが，平清盛から足利尊氏までの六ヶ条を収める。本書は有沢永貞著「甲陽軍鑑末書結要本」の補論をなすものである。

8759　将軍家歴代略評　　16.82—178

有沢永貞著

自筆　宝永5年（1708）

79丁　27cm
甲陽軍鑑にならって，源頼義，義家，平清盛，頼朝以下，北条氏，新田義貞，鎌倉・室町幕府将軍の事蹟を評したもの。

8760　京都将軍家譜略評　16.82—179
有沢永貞著
自筆　宝永2年（1705）
42丁　27cm
足利氏代々将軍の事蹟などを記し，論評する。

8761　京都将軍家譜略評　16.82—180
有沢永貞著
今枝直温手写
33丁　29×21cm
今枝直方旧蔵。宝永2年(1705)成立。前号と同じ。

8762　京都将軍家譜略評　16.82—181
有沢永貞著
手写
51丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。跋文に「干時宝永乙酉(2年)仲夏中旬書也　永貞」とある。

8763　京都将軍家譜之内抜書　16.82—182
前田家編輯方手写　明治年間
45丁　25cm
足利将軍代々の事蹟を記した家譜と「陽岩様(津田玄蕃)ヨリ沢田悟安(津田家家老)江御尋之御請」という題のある津田家の家譜を収める。

8764　侯伯諸家略伝　16.82—183
今枝直方著
自筆　元禄8年（1695）
106丁　20.5cm
古今の武家・大名家の略伝を集成したもの。

8765　姓氏由来　16.82—184
手写
38丁　17.5×12cm
諸大名・武家の由来等を姓別に簡単に記したもの。「侯伯列読」よりの抜萃。

8766　武家昆目集　16.82—185
馬淵高定編
前田家編輯方手写　明治年間
45冊　23.5cm
正徳2年（1712）成立。武士の事蹟，将軍の興廃，古戦の武功，系譜家伝，神社仏閣，山川名勝等細大もらさず記したもの。正徳2・3年の序がある。全160巻，別名「馬淵本藩録」。
①巻1賀陽御年譜(一)～巻3賀陽御年譜(三)
②巻4賀陽御年譜(四)～巻6賀陽御年譜(六)
③巻7　雑　品　～巻9　雑　品
④巻10　称号士伝　～巻11　将士伝
巻12　雑　品　～巻13　雑　品
⑤巻14　雑　品　～巻15　雑　品
巻16　近代家立　～巻17　古将士伝
⑥巻18雑品，巻19亡家，巻20諸家，巻21苗氏
⑦巻22雑品，巻23霊社，巻24古戦場，巻25国分称号，巻26暦代，巻27国郡一宮
⑧巻28～30路駅班覧
⑨巻31戸類，巻32古今家主，巻33諸城主，巻34当時城主
⑩巻35名題和歌，巻36雑品，巻37名所名寄，巻38雑品，巻39存命大名
⑪巻40～42雑品
⑫巻43異字称号，巻44雑品，巻45花押略伝
⑬巻46書目，巻47北城雑記，巻48雑品
⑭巻49軍歌，巻50弓馬等之歌，巻51雑品，巻52武義等之歌
⑮巻53諸家少伝，巻54弓馬名目，巻55～56雑品
⑯巻57～58略名伝略，巻59雑品
⑰巻60雑品，巻61東武時破，巻62～63雑品
⑱巻64名所歌，巻65名所称号，巻66鎌倉士名
⑲巻67座右一助，巻68当武雑集，巻69陪臣，巻70百戦奇法
⑳巻71～72将束名乗，巻73～74合戦月日
㉑巻75雑品，巻76鍛治銘，巻77～78名乗詞
㉒巻79～80元祖顕名
㉓巻81神社国戸，巻82荘園村里
㉔巻83補任抜粋，巻84～85掘翫抜粋
㉕巻86～87雑品
㉖巻88～89雑品
㉗巻90～92雑品
㉘巻93～95諸宗僧略
㉙巻96諸伝雑録，巻97～98諸法用歌

㉚巻99雑品，巻100地蔵利益，巻101～102狂言綺語
㉛巻103列譜抜粋，巻104勝名号伝，巻105一品経和歌，巻106諸士教迂
㉜巻107佳言雑記，巻108～109雑品，巻110自讃歌
㉝巻111雑品，巻112～113名将略伝
㉞巻114～115時鳥物語，巻116船路之記
㉟巻117～119守城領主，巻120雑品
㊱巻121柳営式略，巻122記録和歌，巻123～124高名記略
㊲巻125～126雑品，巻127諸州在略
㊳巻129～130雑品，巻131諸国方角
㊴巻132～133譜録抜粋，巻134武家系譜略，巻135西行行脚集
㊵巻136～140賀陽御年譜，巻141同追加
㊶巻142交名抜粋略(源平両家)，143交名抜粋略(藤橘諸家)，巻144雑品，巻145在名略言
㊷巻146法号録，巻147行脚抜粋，巻148雑品
㊸巻149～150雑品，巻151一目玉鉾，巻152雑品
㊹巻153姓氏初祖，巻154杉本夢記，巻155雑品　巻156～157渡部談話
㊺巻158渡部談話，巻159～160雑品。

8767　御当家諸侯家立　　16.82—186
手写
43丁　17.5×13cm
有沢貞庸旧蔵。表紙に「武道雑談集四十四」と有沢貞庸の副題あり。内容は武家混目集の抜粋で，徳川諸大名の家祖の略系。武家混目集は，馬淵高定編百六十巻で，正徳2年成立。
旧書名「武道雑談集」。

8768　武士勝負交名　　16.82—187
今枝直方手写　正徳5年（1715）
56丁　26cm
表題「昆目抜萃武士勝負交名」。「武家昆目集」165・6巻より「敵ヲ討取者ト被討者ヲ集テ勝負交名ト号シタ」もので，上段に被討者，下段に討取者の名を列記。流布本の「武家混目集」は160巻本であり，本号および次号文書分を含まない。

8769　武人隕命之稔月　　16.82—188
今枝直方手写　正徳5年（1715）
62丁　26.5cm
表題「昆目抜粋武人隕命之稔月」。馬淵高定編「武家昆目集」よりの抜粋で，「戦場に命を隕す人々又ハ武義の向ふ処に因て死せる武家の卒日年号月日」を記す。

8770　昆目集抜萃　　16.82—189
今枝直方編
自筆
2冊　27cm
今枝氏旧蔵。馬淵高定編「武家昆目集」を抜萃したもの。直方の注記あり。

8771　諸城主記　　16.82—190
有沢永貞著
有沢俊貞手写　延宝4年（1676）
230頁　15×17cm
江戸時代前期までの城と城主の移りかわりを記載。内題は「近代諸城主次第」。

8772　諸国諸城主記　　16.82—191
長久保正之著　有沢永貞補
今枝直方手写　元禄3年(1690)・6年(1693)
5冊　21cm
今枝氏旧蔵。2巻～5巻の4冊は畿内，東山，北陸・山陽・山陰・南海，西海道の諸城主の略伝。貞享4年(1687)成立。1巻は今枝直方が調べた城館目録，諸国所々御米之事等を収録し，成立は元禄3年(1690)。

8773　城主記附録　　16.82—192
有沢永貞著
手写　元禄5年(1692)
6冊　20.5cm
今枝氏旧蔵。天正から慶長にかけての諸国の城主とその略譜を列記。①御当家御治世以前御領国城主帳　②慶長5年治部少輔乱節五畿内徒党方　③天正18年北条家滅亡以来東海東山北陸国々所々城主従秀吉被定分　④慶長5年三成謀反節御当家方五畿内之城　⑤天正18年以前三河遠江等之間御当家御家人衆居住之諸城地帳　⑥慶長5年濃州乱落居以来国所庄園賜之面々。

8774　寛永系図抄〔等〕　16.82—193
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　25cm
寛永系図，小笠原系図よりの抄写。医師宗巴，大沢基頼，久保正之，桑山重晴，加藤貞泰，小笠原貞隆の系図を集める。
旧書名「寛永系図医師抄等」。

8775　侯伯凶家類聚　16.82—194
今枝直方著
自筆　宝永2年（1705）
58丁　20cm
慶長5年(1600)関ヶ原の戦以降，改易・減封・転封・切腹・斬首等により，廃絶・失国した大名家・幕臣等の略伝を集成。

8776　越前国主記　16.82—195
10丁　20cm
奈良時代より徳川綱吉時代までの越前国主および関連する武官名等を記す。

8777　越前朝倉後城主覚書　16.82—196
大原武清著
手写
10丁　22.5cm
内題は「越前国朝倉義景ヨリ以来代々国守之覚」とあり，義景以後，松平綱昌就封までの越前国主の交替を記録した雑史。後には福井藩大身の一覧が付されている。

8778　朝倉家系図　16.82—197
石川県地理課地誌掛手写　明治13年(1880)
5丁　24cm
珠洲郡松波村朝倉作左衛門所蔵の写。朝倉義景に系譜を求めた松波朝倉氏の系図。

8779　有馬〔家系〕　16.82—198
手写
11丁　19cm
今枝氏旧蔵。村上源氏赤松末流有馬兵部少輔法印系図。最後に寛永19年5月19日の日付で太田備中守宛，有馬玄蕃頭の置名あり。

8780　池田譜　16.82—199
今枝直方手写　寛文12年（1672）
66頁　15.5×18cm
今枝氏旧蔵。備前国池田氏系図。

8781　浮田中納言家系　16.82—200
1枚　39.5×83cm
慶長11年(1606)，八丈島に配流された宇喜多秀家(浮田中納言)の子孫の系図。

8782　浮田中納言家来村田一家続書　16.82—201
1枚　40×56cm
慶長11年(1606)，宇喜多秀家とともに八丈島に配流された秀家の家来村田助六の子孫の系図。

8783　八丈嶋宇喜多一類人別書上并起本之事　16.82—202
手写
合綴1（2冊）　24cm
関ヶ原合戦後慶長11年(1606)に八丈島に配流された宇喜多秀家を祖とする宇喜多一族の人別調書の写。表題は元文4年の人別調書の表書であるが，外に寛保3年の「人別明細帳」を合綴。

8784　〔宇喜多家一件〕　16.82—203
手写　明治後期
仮綴1(34丁)　24.5cm
八丈島配流の宇喜多秀家とその子孫に関する記事を，老人雑話（史籍集覧本），桑華字苑，多賀信渡日記，十錦雑志等より抄録。また「明治十九年五月十一日浮田久三郎編輯方へ出頭之節聞取書」も収められている。
旧書名「宇喜多家系図等」。

8785　宇喜多家旧記四種　16.82—204
前田家編輯方手写　明治年間
103丁　23cm
浮田久三郎所蔵の写。宇喜多家旧記并系図目録。
○宗祖記
○宇喜多家旧記
○故中納言秀家八丈島在世ノ口伝ノ事蹟
○浮田氏系図付八丈島浮田氏系譜。

8786　浮田家一件　16.82—205
57丁　28×20cm
関ヶ原戦後，八丈島へ流された宇喜多秀家とその子孫について，可観小説・古跡文徴・参議公年表・前田之御家雑録・随意禄録・松雲公御親筆などを引用して記録したもの。

8787　大久保家譜　16.82—206
手写
26丁　22.5cm
有沢氏旧蔵。小田原藩主大久保忠隣家の系図・家譜。

8788　大久保系図　16.82—207
手写
22丁　20cm
大久保忠隣家の系図。

8789　岡部系図　16.82—208
手写
7丁　20cm
今枝氏旧蔵。泉州岸和田藩主岡部氏の系図。

8790　奥平家系　16.82—209
手写
21頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。宇都宮城主奥平家系図。

8791　織田信秀系図　16.82—210
手写
巻子1　24cm
織田信長の弟信秀の子孫の系図。

8792　小幡氏家系　16.82—211
3丁　27cm
有沢氏旧蔵。小幡氏は甲州出身，江戸時代は旗本の家系。

8793　金森家譜　16.82—212
手写
13丁　20cm
織田信長の部将金森長近にはじまる金森家系図。

8794　菊池家系図并肥後仕置始終之覚書　16.82—213
前田家編輯方手写　明治年間
35丁　27cm
菊池侃二(大阪市在住)所蔵の写。内容は，肥後菊池氏系図と略譜および赤星氏系図，天正15年肥後一揆と佐々成政仕置一件から成る。末尾には菊池侃二氏の編輯方宛の書簡が添付されている。

8795　熊谷家系図　16.82—214
今枝直方手写　宝永2年（1705）
10丁　20cm
今枝直方旧蔵。熊谷直実の系図及び事蹟録。

8796　斉藤家譜　16.82—215
手写
6丁　22.5cm
斉藤道三の略伝。「斉藤之家系」。

8797　斉藤之家系　16.82—216
手写
12頁丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。斉藤道三の略伝。前号と同じ。

8798　佐野家系　16.82—217
手写
3丁　19cm
今枝氏旧蔵。下野国佐野城主佐野宗綱家の系譜。

8799　斯波文明家譜　16.82—218
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(10丁)　25.5cm
文明13年7月成立の「斯波家伝」の写。斯波高経（建武）から斯波義良(文明)までの略譜を記す。本書は斯波氏の末裔である津田玄蕃家旧蔵のものであり，これを文政3年正月富田景周が書写したものの写である。
旧書名「斯波家伝」。

8800　斯波家系譜三種　16.82—219
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴3　25.5cm
①「斯波家氏以来系譜」

②「陸奥守義氏ヨリ正勝マデの斯波家譜」
文化13年7月3日富田与六郎所持
③「清和天皇ヨリ斯波家氏マデの系図」。

8801 〔斯波譜脱漏考〕 16.82—220
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(10丁)　25cm
文化15年(1818)2月17日，津田玄蕃に宛てた富田景周の斯波家譜の脱漏并所誤を考証した書類。旧書名「斯波家譜愚考」。

8802 菅沼系図 16.82—221
菅沼定芳編
手写
12丁　20cm
今枝氏旧蔵。菅沼織部正定芳の家系図，源頼光系，元祖三州額田郡菅沼里を領す。関ヶ原の戦いの際，江戸御城御留守番を勤め，のち勢州長島を領す。

8803 武田家系図 16.82—222
有沢永貞編
手写　貞享3年(1686)
12丁　26.5cm
武田晴信(信玄)の傍系，徳川家臣河窪武田氏(信俊・信雄)の系図。

8804 武田家系図 16.82—223
有沢永貞編
手写　寛文12年(1672)
40頁丁15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。源頼義から武田勝頼に至る武田源氏28代の系図の一部と武田家の一族・有力家臣の略系図を併せて編したもの。甲陽軍鑑等に依拠したものと思われる。

8805 鶴田系図附上木系図 16.82—224
前田家編輯方手写　明治年間
33丁　24cm
佐竹氏家臣前田氏(鶴田氏)の系図と，鳳至郡藤波村狩野恒方家所蔵の前田安勝系に属する上木氏系図の写本。

8806 藤堂之家系 16.82—225
18頁丁15×18.5cm
今枝氏旧蔵。藤堂高虎の事蹟を記した略譜。

8807 公義御代々 16.82—226
片岡孫作手写
16丁　24cm
徳川家康より11代将軍家斉までの11人の将軍の官位，代替年月日，将軍宣下年月日，薨御年，御生母，御台所，子息女等を列記したもの。

8808 御系譜略 16.82—227
〔文政末～天保期〕刊
1帖　18cm
家康から家慶までの徳川家系図。
旧書名「徳川家御系譜略」。

8809 武家肇要 16.82—228
文政13年(1830)刊
29丁　7×15cm
広瀬知良旧蔵。東照宮から孝恭院までの忌日年中出仕衣服・上使御定之家等を収録。

8810 徳川家嫡庶譜略 16.82—229
手写
16丁　25cm
徳川秀忠の子息女の略譜を記した系図。

8811 畠山家歴代 16.82—230
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
真館氏所蔵の写。能登守護畠山家の略譜写。

8812 久松家譜抄録 16.82—231
手写
2丁　28×20cm
朱書仮題「元松山久松家系譜抄録」とあり。伊予松平(久松)家系の支族の系譜抄録。

8813 細川家系 16.82—232
手写
16頁丁15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。細川義家から熊本藩主綱利までの家系を記す。特に藤孝(幽斎)の項においては略

歴の外，信長，秀吉発給の感状をのせる。

8814　前田信濃守長泰家系　16.82—233
手写
12丁　24cm
前田長泰家の系譜。前田長泰は宝永4年(1707)に初めて徳川綱吉に仕官し，家宣・家継・吉宗・家重に順次仕え，高家として朝廷との取次の任にあたり，千石の禄を受けた。菅原道真を祖とし家紋は剣梅鉢である。

8815　〔前田長年〕先祖書　16.82—234
手写
14丁　24cm
宝永4年（1707）にはじめて幕府に召抱えられた前田長泰家の家譜。天保の6代目長年までを記す。菅原姓前田家の調査の一環をなすものであろう。旧書名「先祖書」。

8816　松平庶流諸家十三伝　16.82—235
有沢永貞編
手写
15丁　24cm
今枝氏旧蔵。正徳3年（1713）成立。新田義重より徳川家康までの新田源氏系図と，その間に分出した松平庶流十三家（大河内松平，竹谷松平，形原松平，大草松平，御油松平，深溝松平，長沢松平，能見松平，大給松平，岩津松平，福嶺松平，桜井松平，藤井松平）とその他久松松平・戸田松平・津平松平の三家の系図をまとめたもの。なお「時正徳三癸己閏五月有沢永貞書之」という跋は今枝直方の筆か。

8817　村上家系　16.82—236
今枝直方手写
4丁　19cm
今枝氏旧蔵。内題は「村上家系図ノ写」，村上源氏の系図。

8818　森家記　16.82—237
手写
9丁　20cm
織田信長の部将である森可成家の系図。可成・可正から長継(寛永期)までを記録する。

8819　山本道鬼由緒　16.82—238
手写
5丁　20cm
今枝氏旧蔵。内題は「山本勘介晴幸入道々鬼」。武田家々臣山本勘介の系図と略譜を記す。今枝直方が写させたもの。

8820　〔横山家系図之写〕　16.82—239
横山知哲手写
仮綴1(15丁)　24cm
武蔵国江都の旗本横山氏の系図。
旧書名「系図書写」。

（武家以外）

8821　本朝尊卑分脈図　16.82—240
前田家編輯方手写　明治年間
19丁　25cm
藤原南家分脈系図。

8822　東家系　16.82—241
手写
9頁　15×18cm
今枝氏旧蔵。東常縁家の系図並に事蹟覚書。東家は古今伝授の家柄。

8823　大鳥居家譜　16.82—242
大鳥居長量編
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　23.5cm
亀井戸神官大鳥居良信所蔵の写。大鳥居家は華族高辻家のこと。刊本「亀戸天満宮史料集」に収載。

8824　京都加賀屋十右衛門続書　16.82—243
1通　7cm
京都出水千本東入ル加賀屋十右衛門家の家族を列挙したもの。十右衛門は111才，妻98才で，嫡子夫婦，孫夫婦が揃い，曽孫3人と同居している。そして，外に血縁あって同居しないものは80人余と記している。

8825　菅家系図　16.82—244
手写

巻子1　28cm
野々村定教氏の系図。宇庭に始り，菅原道真を先祖にもつ。

8826　阪槙氏譜略　16.82—245
中邨元恒著
天保12年（1841）
16丁　25.5cm
儒家阪槙久庵とその子藤堂藩医吉川長庵の略伝と系図をのせる。

8827　阪槙氏譜略ノ抄　16.82—246
3丁　24.5cm
前号より一部抄出したもの。

8828　松任城丸家之系図　16.82—247
手写
3丁　12×35cm
渡辺庸旧蔵。旧松任城主鏑木頼信の系譜を引くと伝える松任の城丸家の由緒を記す。末尾に能美郡土室村十村六郎兵衛悴与三右衛門の，丑4月付父六郎兵衛事蹟書上げを収録する。

8829　中邨家乗　16.82—248
手写
21丁　26cm
松本の御典医中村家の家譜。天正～嘉永まで。

8830　〔大津町〕西川孫左衛門系図　16.82—249
手写
12丁　24.5cm
藤原秀郷の子孫と伝える西川家の系図。表紙に「文久元年御次より為考御渡ニ付模置」とある。

8831　前田藤太先祖書　16.82—250
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　23cm
静岡県下伊豆国那賀郡中ノ郷村字大沢23番地，依田佐二平方在籍，静岡県士族前田孝蹟長男前田藤太の由緒書の写。

8832　江州千田村居住横山惣三郎方系図并書類　16.82—251
手写
仮綴1（22丁）　24cm
元治元年正月横山蔵人が江州千田村通行の際，同姓の千田村横山惣三郎に所蔵古文書・系図等の書上・差出しを命じたのに対し，元治2年2月に差出された江州横山家の系図・古文書等の写。
旧書名「江州千田村居住横山惣三郎方系図」。

8833　江州千田村居住横山与三右衛門方系図　16.82—252
横山与惣右衛門兼明著
手写
4丁　24cm
元治2年（1865）2月の書上げ。与三右衛門家は加賀八家横山家初代長隆の父時隆を同じく祖とする家柄。敏達天皇より記載。

8834　至聖譜系図　16.82—253
中沢倹編
21丁　16.5×24cm
至聖譜系図，至聖文宣王，通鑑綱目などを抄出したもの。

伝　　記

（武　　家）

8835　列伝部草稿　16.82—254
179丁　28×19.5cm
山名，土岐，世保，浅井，斉藤，京極，六角，朝倉氏などの伝記草稿。

8836　校合雑記　16.82—255
小花和源五右衛門編
6冊　23cm
全8冊中，1冊目と6冊目欠。信長・秀吉時代から寛永の頃までの諸合戦をめぐる武家領主の逸話等を集めたもの。全40巻。

8837　事跡抜書　16.82—256
手写
2冊　23cm
早崎信太郎旧蔵。武家を中心にした古今の諸事蹟を集めた雑録。巻一は秀吉・利家・三成等の

事蹟，巻二は慶長以来の減封・改易大名等の略説が記され(以上1分冊目)，巻三・四は鎌倉以来の諸武将，孔子・孟子・僧侶等の事蹟が雑然と記される（以上2分冊目)。

8838　元禄比迄聞書　　16.82—257
前田家編輯方手写　明治年間
73丁　23.5cm
成瀬正居所蔵の写。戦国時代～江戸初期の武家・合戦等に関する軍功・逸聞等の聞書ないしは覚書。
旧書名「聞書」。

8839　武臣雑話　　16.82—258
手写
31丁　23.5cm
横山隆幹旧蔵。表紙の貼紙に「明治廿八年二月十四日加藤氏来候而，重複物之内検閲此数冊ハ先ツ存し直候方可然と談し有之分也」とある。徳川秀忠・前田利長・伊達正宗・前田利常・伴八矢・石田三成・徳川家康・豊臣秀吉・織田信長・横山家陪臣・曲直瀬養安院・井伊掃部等々の武家逸話を集めた雑記。

8840　武辺咄聞書　　16.82—259
手写
3冊　27cm
今枝氏旧蔵。戦国時代～江戸時代の合戦・名将に関する逸話等を集めたもの。
①巻1～3 ②巻4～6 ③巻7～9。

8841　続武家閑談抜萃　　16.82—260
手写
56丁　23cm
木村高敦著「続武家閑談」(20巻20冊，「武家閑談」の続編)より抜萃してまとめたもの。戦国から近世初頭の武家の逸話などを箇条書に収録する。

8842　小幡景憲夜話　　16.82—261
手写
60丁　23cm
戦国時代から江戸初期にかけての合戦にまつわる逸話などを集めたもの。

8843　慶長記抜萃　　16.82—262
今枝直方手写　宝永2年(1705)
42丁　20cm
今枝氏旧蔵。慶長年間の大名・武家の逸話見聞を集めた「慶長記」の記事を抜萃編集。

8844　諫忍記　　16.82—263
今枝直方著
自筆　正徳3年(1713)
3冊　26cm
今枝氏旧蔵。諸大名・武家の政治能力・人物・才能等を評したもの。全十八巻の外に，序并国法一巻と教法之書一巻があり，武家の守るべき道が説かれている。
①序并国法，教法之書，巻之第1～第3
②巻之第4～第10
③巻之第11～第18。

8845　武田信勝・仁科盛信之伝　　16.82—264
8丁　21.5cm
武田信玄の孫，勝頼の甥にあたる武田信勝と，武田信玄の5男仁科盛信の略伝。表題は「武田信勝・仁科信盛之伝」とあるが，盛信は一に信盛と記す。

8846　高坂弾正昌信年譜　　16.82—265
23丁　20.5cm
武田氏の臣高坂弾正昌信（虎綱）の大永6年(1526)～天正6年(1578)の一代伝記と陣立を記したもの。

8847　友町大膳武功　　16.82—266
友町大膳幸定著
今枝某手写
16頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。寛永19年(1642)成立。上野国高崎の住で，のち水戸侯に仕えた友町大膳幸定が小姓衆に披露した武功書。

8848　〔最上義光改易等聞書〕　　16.82—267
手写
仮綴1(13丁)　24cm
織豊期～近世初頭の出羽山形（57万石）の大名最上義光改易（元和8年）に関する古老談，な

らびに寛永17年の播磨山崎藩池田輝澄の移封（減封），正保２年の播磨赤穂藩池田輝興改易に関する浪人談，能州七尾町人尾鴫左次兵衛の逸話を書き留めたもの。
旧書名「山形出羽守義光之旧記」。

8849　最勝公御一代略記　16.82—268
手写
29丁　25cm
寛永17年(1640)に上杉藩で作製したものの写。明治31年(1898)伊佐早謙により寄贈されたもの。伊佐早謙は上杉家編輯員。

8850　長尾家雑志　16.82—269
手写
12丁　19cm
今枝氏旧蔵。越後長尾家の家伝・家臣略歴および謙信の事蹟等を記す。

8851　全長記　16.82—270
斉藤了真著
28丁　22cm
本庄越前守繁長(全長)の天文７年(1538)より慶長18年(1613)までの一代記。

8852　堀直寄覚書　16.82—271
手写　明暦３年(1657)
11頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。堀直寄の略伝，堀直寄は越後本庄城主。秀吉，家康，秀忠に仕えた勇将。

8853　堀家定書　16.82—272
14丁　24cm
堀家の軍役定・御出陣組中掟・陣立編成図などを記したもの。

8854　植村家伝　16.82—273
植村正行編
手写　貞享２年(1685)
15頁　15×18cm
今枝氏旧蔵。植村大膳先祖覚書。植村大膳正行が，先祖の武功・諸事蹟を内藤出羽守に天和４年正月27日付で差し出したもの。

8855　西山遺事　16.82—274
三木之幹等編
手写
３冊　23cm
今枝氏旧蔵。水戸藩主光圀(西山公)の伝記。宝永７年(1710)の写本の写。

8856　東照宮御年譜　16.82—275
徳川義直著
今枝直方手写　寛文13年(1673)
３冊　15×18.5cm
今枝氏旧蔵。徳川家康の伝記。内題「御年譜」。
①御年譜序(正保３)，巻一(天文11～天正２)
②巻二(天正３～天正12)，巻三欠除
③巻四(慶長５～慶長15)，巻五(慶長16～元和３)。

8857　〔家康公略譜抄〕　16.82—276
手写
１通　16cm
天文11年(1542)出生から永禄３年(1560)信長の桶狭間合戦があった19才までの伝記。

8858　武埜燭談　16.82—277
有沢武貞手写　元文２年(1737)
８冊　22cm
家康より６代家宣に至る歴代将軍・老中以下の幕府重臣・御三家その他諸侯の言行録・逸話逸事が中心だが，政治に関するものが多いので，近世前期の政事要略ともいうべきもの。全30巻。多く伝存する写本の一つ。刊行本としては，「江戸史料叢書」・「国史叢書」・「日本随筆大成」(３期12)などがある。
①序・凡例・目録②巻１～巻５③巻６～巻９④巻10～巻13⑤巻14～巻16⑥巻17～巻20⑦巻21～巻25⑧巻26～巻30。
旧書名「武野燭談」。

8859　三王外記　16.82—278
野史汎洋・野史若無著
手写
92丁　23.5cm
徳川家光(憲王)，綱吉(文王)，吉宗(徳王)の事蹟を漢文体で記したもの。

8860　秀康卿行状　16.82—279
大原武明編
寛文10年(1670)
63頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。結城(徳川)秀康の系譜およびその事蹟・行状について記す。

8861　明良洪範抄　16.82—280
前田家編輯方手写　明治年間
50丁　24cm
「明良洪範」を抄出書写したもの。「明良洪範」は真田増誉著。慶長・元和期から徳川綱吉の初めごろまでの徳川家とその関係の武将・家臣の言行・事蹟の見聞を記録したもの。

8862　中興源記　16.82—281
小幡景憲著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
徳川家の三河以来の伝記,兵法等を記したもの。①乾は巻之一・二　②坤は巻之三・四。

8863　中興源記　16.82—282
小幡景憲著
手写
24丁　30×21cm
全4巻のうちの巻之二下・巻之三よりなる。

8864　三州武功　16.82—283
手写
11丁　22.5cm
三州は三河。徳川家家臣の武功伝。

8865　慶長雑話　16.82—284
手写　元禄7年(1694)
44丁　22cm
末尾に，作者不明，慶長前後の戦功談を多く載せ，天正以降近年までの事蹟も粗々載せるとの跋文あり。関ケ原，大坂の陣における徳川方の人々の動きを中心に記す。

8866　徳河御家衆聞書　16.82—285
今枝直方手写　元禄初年
53丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。内容は天正・慶長・元和期における徳川譜代の武家衆の軍功・逸話を収集したもの。

8867　徳河御家衆聞書　16.82—286
前田家編輯方手写　明治年間
54丁　24cm
別名「慶長雑話」・「御家衆物語」。今枝直規所蔵の写。慶長前後の戦功談。前号の写。

8868　渡辺幸庵小伝　16.82—287
1通　17cm
江戸時代初頭の幕臣渡辺幸庵の伝記。

8869　幸庵問答　16.82—288
杉本三之丞義隣著
賀古清安手写　寛政元年(1789)
24丁　24cm
宝永年間に御城定番御歩杉本が，江戸在役中綱紀の命により，渡辺幸庵という108才の老人から聞いた話を収録。松原貴忠再写の写。

8870　松越記　16.82—289
松平定信著
手写
8丁　25cm
小木貞正旧蔵。内題に「老中松平越中守殿申談之写」とある。

8871　富田彌六伝　16.82—290
手写
1通　24cm
富田権六郎旧蔵。権六郎の5世之祖という富田弥六長繁の事蹟を書き留めたもの。弥六長繁の事蹟は定かではない。

8872　畠山伝記　16.82—291
前田家編輯方手写　明治年間
17丁　23cm
別名「能州国司畠山殿伝記」。本書は加越能史談会所蔵本を底本にした石川県図書館協会刊行本（「長氏と畠山氏」所収）と異る写本。畠山氏の出自，能登入国をはじめに軽くふれて，すぐに上杉謙信の能登侵攻，能登畠山氏の滅亡，

石動山合戦を描いているが，史実に相当の粉飾が施されている。

8873　能州畠山氏伝記二種　16.82—292
前田家編輯方手写　明治年間
39丁　23.5cm
村松俯平所蔵「能登国司畠山伝」と岡部直造所蔵「能州畠山氏略記」の写。

8874　福井君行状　16.82—293
手写
20丁　24cm
越前藩主松平慶永の事蹟・逸話などを記した雑録。

8875　安宅武功　16.82—294
安宅四郎左衛門著
手写
25頁丁 16×18cm
今枝氏旧蔵。山中之城責，小田原之城責をはじめ，関ヶ原合戦・大坂城責に至る15度の戦における武功を書きあげた，松倉豊後守宛の安宅四郎左衛門書状写等を収める。

8876　六角高頼及一類記録　16.82—295
手写
10丁　28.5×20cm
六角高頼・定頼・義賢の3代にわたる六角氏の略伝。

8877　藤堂家由緒　16.82—296
9丁　22.5cm
有沢氏旧蔵。藤堂高虎一代の伝記。豊臣氏・徳川氏の高虎宛の古文書を多く採録。旧書名「藤堂家」。

8878　秀頼事記　16.82—297
桑原求徳著
手写
3冊　25cm
有沢永貞旧蔵。豊臣秀頼の伝記。数種伝存する写本の一つ。刊本としては，「改定史籍集覧」13，「続群書類従」20輯下がある。
①巻之上，代々之大略～志貴野合戦之事
②巻之中，宗夢問答之事・母北方夢相并浅井家之事
③巻之下，洛中騒動～秀頼公生害。

8879　永日記　16.82—298
永井直清著
手写
93丁　20cm
今枝氏旧蔵。摂州高槻城主永井日向守直清が父直勝の武功等の故事を近傍の者に語ったことを書き留めた書の写。

8880　永日記　16.82—299
永井直清著
前田家編輯方手写　明治年間
55丁　23.5cm
今枝直規所蔵の写。奥書に「此三巻者永井日向守直清聞触古事談話傍士書留也，假号永日物語云々」とあり。前号に同じ。

8881　出石墻内記録　16.82—300
多芳楼手写　天保7年(1836)
49丁　23.5cm
伯州出石の城主仙石家のお家騒動の記録。野村円平(空翠)の写本の写。

8882　黒田如水記　16.82—301
今枝直方手写
110頁丁 15×18.5cm
今枝直方旧蔵。黒田孝高の伝記。天文4年(1535)から天正7年(1579)までの前半生を記す。

8883　黒田如水伝　16.82—302
手写　延宝4年(1676)
32頁丁 5.5×18.5cm
洛東常在庵主無格より和文の草本を借り，漢文に訳したもの。内容は慶長5年(1600)の関ヶ原戦の黒田孝高・長政父子の事蹟を記録。

8884　如水記　16.82—303
黒田水翁編
手写
12丁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに呼

応した黒田如水（孝高）の活躍を記す。

8885 黒田之家系　16.82—304
今枝直方手写
16頁丁 15.5×18.5cm
黒田如水(孝高)・長政父子の武功伝記。

8886 黒田長政武功　16.82—305
手写　慶安元年(1648)
46頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。黒田長政の武功伝記。

8887 大内記　16.82—306
手写
58丁　22.5cm
大内義隆の一代伝記。

8888 柳菴雑筆　巻四抄　16.82—307
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　25cm
栗原信充(柳庵)著，嘉永元年刊の「柳菴雑筆四巻」のうち，巻四の「浮田中納言秀家関ヶ原に敗れ薩摩に遁れたりし」の条を抄出し写したもの。柳庵雑筆は，「日本随筆全集」8および「日本随筆大成」3期2に所収。
旧書名「浮田秀家系図等」。

8889 吉晴武功　16.82—308
手写　寛文11年(1671)
13頁丁 15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。内題は「堀尾帯刀吉晴働之覚」。堀尾吉晴の武功伝記。

8890 長宗我部元国・元親伝記　16.82—309
手写
11丁　28×20cm
「土佐軍記」等に拠り編さんされた元国・元親の略伝記。

8891 立花宗茂略伝　16.82—310
立花惟与編
25頁丁 15.5×18.5cm
豊臣秀吉の家臣立花宗茂(筑前柳河城主)の略伝と，秀吉の立花宗茂宛感状之写を併せて編したもの。

8892 江藤・島等処刑書及辞世　16.82—311
手写
2丁　24cm
安井顕比旧蔵。佐賀の乱の主謀者である江藤新平・島義勇・副島義高などに対する処刑の申渡書と江藤等6人の辞世を収録。

8893 小竹常五郎書置紙面　16.82—312
小竹常五郎正克著
3通　16cm
①母上様宛小竹正克書状　②倶行君宛小竹正克書状　③小竹正克書状。以上遺書3通。

8894 維新俊傑聖代名臣言行録　16.82—313
17丁　12×17.5cm
明治維新に活躍した俊傑の逸話・言行録などを集めたもの。

(武家以外)

8895 菅相公逸伝　16.82—314
狩谷棭友著
手写
4丁　24cm
菅相公は菅原朝臣是善。是善の事蹟を三代実録・扶桑略記等により考証したもの。安政5年(1858)に注を加える。

8896 増訂菅神年譜略　16.82—315
手写
11丁　24cm
内容は，菅原道真の父是善と，道真の年譜。

8897 源満雅・俊廉・藤原兼定・基綱伝　16.82—316
手写
19丁　29×20cm
源満雅など4名の事蹟を抄録編さんした伝記。

8898 鎌倉宮御伝記鈔　16.82—317
明治初年　刊
5丁　20cm
官幣中社鎌倉宮の祭神護良親王の伝記と明治2

年鎌倉宮創設の由緒を記す。

8899 浪合記　16.82—318
手写　享保6年(1721)
22丁　26cm
今枝氏旧蔵。南北朝時代～室町時代の宗良親王の子伊良親王および伊良親王の子良王君の略伝。原本成立は長享2年(1488)と推定されている。本写本の伝来は，天文2年(1533)筆写されてのち，宝永6年(1709)崇厳院羽林蔵本を天野信景が写し，この天野氏写本を前大僧正実観が享保5年(1720)に写し，享保6年に実観写本を今枝直方が借り，配下が写したもの。

8900 並合之記　16.82—319
手写　享保6年(1721)
10丁　26cm
今枝氏旧蔵。内容は「浪合記」に付される「浪合記抄」・「浪合記略」と同じもの。「浪合記」より主要人物を抽出し略伝を記す。凌雲院前大僧正実観より今枝直方が借り受け，配下のものに写させたもので，跋文は今枝直方の自筆。

8901 宗良親王紀事　16.82—320
森田平次(良見)編
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23.5cm
越中の古蹟調査のため，著者が，南北朝時代に越中に潜行した後醍醐天皇の皇子である宗良親王に関する諸文献を考証したもの。大日本史・南朝記伝，開田耕筆，三州志，明治4年取調書，三州地理雑説，新葉和歌集，李花集などからの引用により考証をすすめている。

8902 中山瑞夢伝　16.82—321
子温手写　文化13年(1816)
38丁　24cm
今枝氏旧蔵。東叡山寛永寺の造立等に関わる朝廷と幕府の交渉記録。

8903 諸門跡伝　16.82—322
手写　寛文元年(1661)
123丁　27cm
内題「諸門蹟系図目録」。貞享3年(1686)の校合朱入。

8904 慈眼大師伝　16.82—323
僧東源著
今枝直方手写　享保3年(1718)
2冊　25cm
西養教寺所蔵の写。慈眼は東叡山寛永寺の開祖であり，名は天海南光坊と称す。寛永20年10月2日没。
①慈眼大師青年時代(天文期)より寛永9年までの伝記
②寛永10年より慶安3年8月2日までの伝記。

8905 久遠寿院准后公海伝　16.82—324
公辨法親王著
今枝直方手写　享保5年(1720)
13丁　26.5cm
今枝直方が前東叡山学頭大僧正凌雲院実観より借り写したもの。公海は左少将藤原忠長朝臣の子。母は東本願寺教如の長女。慶長12年生。

8906 守澄法親王伝　16.82—325
僧実観編
今枝直方祐筆手写　享保5年(1720)
14丁　26.5cm
前大僧正凌雲院実観より借りて写したもの。原本は宝永7年(1710)成立。内容は，前寛永寺門跡守澄法親王(寛永11～延宝8)の年譜。

8907 熊沢了介伝　16.82—326
菱賓大観著
10丁　23cm
熊沢蕃山の伝記。「古易館」の罫紙使用。

8908 先考土田得入居士墓誌　16.82—327
手写
仮綴1(2丁)　24cm
土田次平所蔵の写。土田得入は金沢の人，諱は敏信，享保元年(1716)2月生。幼より好学にして数術に秀で詩歌を詠む。天明5年(1785)71才没。土田得入の死を追悼するため，天明8年に編まれた墓誌。天明8年(1788)成立か。
旧書名「土田得入居士墓誌」。

特16.83　官　職・典　故

朝　廷・公　家

8909　典薬頭補任次第　　16.83—1
　手写
　12丁　24cm
　延暦11年（792）～貞治５年(1366）の典薬頭補任一覧および略歴。

8910　施薬院使補任例　　16.83—2
　手写
　２丁　24cm
　康平２年（1059）～元弘元年（1331）の補任一覧。

8911　職事補任　　16.83—3
　今枝直方手写
　４冊　28×20cm
　今枝氏旧蔵。嵯峨天皇から霊元天皇までの蔵人所役人(蔵人頭・五位蔵人・五位職事)の補任記録。蔵人補任とも別称される。
　①嵯峨天皇弘仁元年～近衛天皇久安６年
　②後白河天皇久寿２年～光厳天皇正慶元年
　③光明天皇建武３年～後西天皇寛文２年
　④後西天皇承応３年～霊元天皇廷宝９年。
　本書は，頭右大弁藤原淵定所蔵本を天和４年に前右兵衛大尉藤原為貞が写したものを，今枝氏が写したものである。
　刊本「群書類従」(補任一～四)に所収。

8912　弘安礼節　　16.83—4
　一条内経等著
　手写
　37頁丁15.5×18.5cm
　今枝氏旧蔵。弘安８年(1285)成立の有職故事の書の写。内容は百官名・書札礼等。

8913　侍中群要　　16.83—5
　橘広相著
　手写
　10冊　26.5cm
　今枝氏旧蔵。嘉元４年(1306)の水谷大蔵大輔清有の写本の写。有職故実の書。刊本「続々群書類従」七。

8914　禁秘御鈔　　16.83—6
　順徳天皇著
　今枝直方手写　享保４年(1719)
　95丁　26.5cm
　今枝氏旧蔵。「禁秘抄」「建暦御記」と通称される有職故実書の異写本。建暦３年(1213)成立。正和３年(1314)禁裏の原本筆写以降の伝来に関する跋文として，参議右大弁宣秀(文亀２年)，特進通秀，也足子素然(慶長８年)等の跋がある。

8915　職原抄　　16.83—7
　北畠親房著
　今枝直方手写
　３冊　20.5cm
　今枝氏旧蔵。官位の沿革・補任の次第等を記した有職故実の書。なお末尾には慶長13年(1608)の清原秀賢の跋と，貞享年中の今枝直方の跋がある。本書は，直方が中原職俊に職原抄の講義を受けた際に書写し，併せて加点も行ったものである。①上巻　②③下巻。

8916　職原抄口決秘事　　16.83—8
　中原職俊著
　手写
　16丁　27cm
　今枝氏旧蔵。職原抄の註釈・考証書。清原秀賢から中原職忠へ，職忠から中原職俊へと伝受された秘事を，貞享３年(1686)に職俊が書き留め，それを職俊に師事した今枝直方が入手し，書写せしめたもの。

8917　職原抄口決秘事　　16.83—9
　中原職俊著
　桜井直興手写　寛政２年(1790)
　15丁　27.5×20cm
　中原職俊の子孫である平田内匠から借りて写したもの。前号と同じ写本。

8918　職原家伝秘録　　16.83—10
　平田職俊著

桜井直興手写　寛政2年(1790)
12冊　27.5×20cm
今枝氏旧蔵。北畠親房の「職原鈔」の注釈書。直興の跋文あり。貞享3年（1686）成立。
①上の1　序文，神祇官
②上の2　太政官
③上の3　中務省
④上の4　式部省・治部省，民部省，兵部省，刑部省
⑤上の5　大蔵省，宮内省
⑥下の1　弾正台，左京職，東市司，右京職，西市司，東宮坊，斎宮寮，斎院司，修理職，勘解由使，鋳銭司，修理宮城使，造寺史，防鴨河使，施薬院史
⑦下の2　検非違使，藤氏長者，源氏長者，奨学院別当，淳和院別当，学館院別当内豎所別当，内教坊別当，内膳別当御厨子別当，大歌所別当，記録所，楽所別当，大学別当，蔵人所
⑧下の3　諸国附太宰府
⑨下の4　左右近衛府，左右兵衛府，左右衛門府，兵庫寮，左右馬寮，外武官（鎮守府，征夷使）
⑩下の5　親王，諸臣，諸王，奥書
⑪追加并後附之1　位階以下
⑫追加并後附之2　院司以下。

8919　職原家伝秘録　16.83—11
平田職俊著
手写
12冊　26.5cm
上巻5冊，下巻5冊，追加并後附2冊よりなる。前号に同じ。

8920　有職聞書　16.83—12
今枝直方編
自筆　元禄8年(1695)
2冊　27cm
今枝氏旧蔵。前文に「前少外記正五位下平田内匠大允中原職俊，職原講談ノ時尋聞申教品品等如左不論序誌焉」とあるように，平田職俊との対談問答にもとずき職原抄の要点を百四十条にまとめたもの。第2冊目は，同書の次巻として後に追加されたものであろう。

8921　江次第鈔　16.83—13
一条兼良著
今枝某手写
3冊　27cm
今枝氏旧蔵。大江匡房編著「江次第」の要点を解説・考証した有職故実の書。「江家次第鈔」ともいう。全七巻。
①江次第鈔第一～第二
②江次第鈔第三～第四
③江次第鈔第五～第七。

8922　北山行幸記　16.83—14
今枝直方手写　享保6年(1721)
39丁　26cm
伊勢貞広所蔵の写。応永15年(1408)北山殿（足利義満）御幸の記録。

8923　上卿筒要抄　上　16.83—15
手写
仮綴1(12丁)　24cm
上卿を中心にした有職故実の書。大永元年(1521)8月23日松木宗藤書写本の写。松木書写本の跋は「右抄者以広橋亜相本中御門羽林宗藤朝臣借筆写之自愛々々」とある。

8924　官職浮説或問　16.83—16
壺井義知著
今枝直方手写　享保7年(1722)
19丁　27.5×19cm
今枝氏旧蔵。古代・中世の官職・法制に関する問答形式による故実書。今枝直方の跋文あり。

8925　有職問答　16.83—17
大内義隆・三条西実隆著
今枝直方手写　元禄7・8年(1694・95)
59丁　27cm
今枝氏旧蔵。多々良問答とも通称される。大内義隆と三条西実隆との問答形式による有職故実書。

8926　慶長以降改元書類　16.83—18
前田家編輯方編
明治年間
45丁　25cm

徳川十五代史，国事雑抄，庁事通載，公用雑纂録，改作所旧記，加州郡方旧記，司農典等々の諸書から改元に関する記事を抜粋しまとめたもの。

8927　寛永行幸記　16.83—19
以心崇伝著
手写
4丁　19cm
今枝氏旧蔵。寛永3年(1626)成立。後水尾天皇の行幸記録。

8928　大嘗会次第　16.83—20
一条冬経著
手写
13丁　23cm
貞享4年(1687)11月17日の大嘗会の儀式次第を記す。内題には「大嘗会卯目次第 無行幸儀 摂政冬経公作進」とある。

8929　女御入内供奉行列書立　16.83—21
手写
11丁　16×8cm
元禄10年（1697）2月，女御入内の際の行列内容。

8930　堂上方官位職家領　16.83—22
平田忠次郎手写　元禄11年(1698)
17丁　17×23cm
今枝氏旧蔵。元禄11年(1698)ごろの公家の氏名とその年令，官位，前・現職，石高等を記録したもの。末尾に今枝直方による朱の追記があり，本書入手に至った経過等を記した元録11年(1698)の直方の跋文も付されている。

8931　当時禁廷諸事合志　16.83—23
今枝直方手写　元禄15年(1702)
29丁　20cm
今枝氏旧蔵。宮中行事・節会・譲位等に関する典礼記録。

8932　類聚苗字録　16.83—24
馬淵某著
今枝直方手写　元禄16年(1703)
5冊　27cm
今枝氏旧蔵。約27,000の苗字を，源，平，橘などその源流で分類しつつあげている。
①称号譜録巻之上　(イ)〜(ナ)
②　〃　巻之下　(ラ)〜(ス)
③源氏，平氏，藤氏，橘氏，(諸氏別の諸姓)
④諸国諸姓史(国別の諸姓)
⑤不撰前後但前族党後国士同散在部略志（諸武家別の諸姓)。

8933　諸品受取渡披露等覚書　16.83—25
今枝直方編
宝永3年(1706)
20丁　20cm
今枝直方の家臣阿岸氏が，伊勢意広父子から口伝された贈答作法の覚書。

8934　近代稔中行事　16.83—26
柳原資廉編
今枝直方手写　享保7年(1722)
85丁　28×19cm
今枝氏旧蔵。朝廷の典礼・儀式等に関する有職故実書。宝永6年(1709)河合重淳写，正徳3年(1713)某義知写，との跋のある河嶋正郷氏所蔵写本の写。

8935　御即位之次第　16.83—27
今枝直方編
今枝某手写
12丁　24cm
宝永7年(1710)11月11日に行われた中御門慶仁天皇御即位式の式次第。この時加賀藩からの御祝使者として京都へ遣わされたのが，今枝直方であった。

8936　当時禁裡行事二品　16.83—28
平田職資・職俊著
今枝直方手写　宝永7年(1710)
25丁　21cm
今枝氏旧蔵。有職故実の書。

8937　当時諸官人職掌　16.83—29
中原職資編
今枝直方手写　宝永7年(1710)

52丁　26cm
今枝氏旧蔵。中原職資の祖父職忠が編集した「職掌録略」の脱漏を補い考証を加え元録8年(1695)成ったものである。今枝直方の有職故実の師匠である中原職資をつうじて借覧し写す。

8938　御元服次第　16.83—30
今枝直方編
今枝某手写
10丁　24cm
今枝氏旧蔵か。表題は「御元服之記」。内容は，宝永8年(1711)正月に行われた宝永7年即位の中御門天皇の元服式の式次第。この時の加賀藩からの御祝の使者は今枝直方であった。

8939　正徳帝御元服御即位改元定聞書　16.83—31
有沢永貞編
今枝直方手写　正徳3年(1713)
24丁　26.5cm
今枝氏旧蔵。正徳帝は中御門天皇のこと。元服，即位，改元はいずれも宝永8年（正徳元年)。

8940　正徳改元記　16.83—32
手写
7丁　23.5cm
正徳の改元に関する記録。朝廷で改元を評議する公家名列，元号の案，条事定次第，改元定次第を収める。

8941　桃花家記録　16.83—33
今枝直方手写　享保4年(1719)
79丁　27cm
「当家着用装束以下事」，「当家相伝十二合文書事」，「当家相伝正記事」，「家門末子入室，門跡等事」，「家門管領寺院事」など有職故実を記したもの。

8942　院御所御幸于九条前関白第之雑記　16.83—34
手写
17丁　21.5cm
脇田氏旧蔵。享保7年(1722)3月の前関白九条邸への院御所行幸に関する典礼等の記録。

8943　〔譲国式等目録〕　16.83—35
手写
1通　17cm
享保20年(1735)の譲国式・即位式，享保21年の宣下次第等に関する文書目録。

8944　大嘗会由緒　16.83—36
元文3年(1738)
15丁　23.5cm
元文の大嘗会に際し御禊行幸，大嘗会の由来，由緒等を記録したもの。

8945　大嘗会由来　16.83—37
23丁　27cm
前号の写。

8946　日　次　16.83—38
2冊　24.5cm
中川典克旧蔵。宮中の日記写
①元文4年(1739)正月～12月
②寛延2年(1745)正月～12月。

8947　亜相黄門参議鈔　16.83—39
有沢永貞著
白筆
38丁　26cm
今枝氏旧蔵。大納言(亜相)，中納言(黄門)，参議等の官職の考証。

8948　穂井田忠友答書　16.83—40
穂井田忠友著
手写
4丁　23cm
渡辺庸旧蔵。内題には「加賀渡辺氏御問条三件」とあり，渡辺氏から質問された，斗帳・幌・翠簾の三点について，各々穂井田忠友が解説を加えて返答した有職故実の書。日付は8月5日。

8949　和宮様御参幸御行列附等　16.83—41
前田家編輯方手写　明治年間
28丁　25cm
文久元年(1861)御行列附のほか，中仙道御下向御休泊御本陣附，道筋御固，江戸泰平御固場所附，従講武所御出役御名前附，和宮様御着之節

御道筋御固御大名附などを収録。

8950　御親征行幸中行在所日誌　16.83—42
御用御書物所　慶応4年(1868)　刊
7冊　22.5cm
天皇行幸の際の随臣名，その序列，日程などについて記した日誌，慶応4年3月21日から同年閏4月6日にわたって記されている。

8951　平安紀年祭行列図　16.83—43
明治28年(1895)　刊
絵図1枚　39cm×54cm
平安遷都1100年の記念祭(時代祭)の行列図。

武　鑑・官　職

8952　武家任叙記　16.83—44
土師正庸編
今枝直方手写　延宝4年(1676)
31頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。原本成立は延宝3年(1675)。諸太夫，四品・侍従・少将・中将・宰相など武家の任用について記す。

8953　当将軍家諸列　16.83—45
今枝直方手写　宝永2年(1705)
10丁　20cm
今枝氏旧蔵。5代将軍綱吉時代(貞享・元禄)の諸官位，諸職を記したもの。

8954　武家補任　16.83—46
関正玄著
手写　享保12年(1727)
3冊　20cm
今枝氏旧蔵。元禄～享保期の五位以上の武家の官職補任記録。平田氏(平田大匠か)所蔵本を今枝直方が借用し写したもの。
①右大臣，内大臣，大納言，中納言，参議，中将，少将，侍従，従四位下
②従五位下　③従五位下。

8955　御大名官位年齢席分　16.83—47
手写　寛保2年(1742)
34丁　13×19.5cm
成瀬正居旧蔵。諸大名の官位・家格・年令，江戸城中における座席(部屋)等を記載。

8956　武家官位略記御昇進次第　16.83—48
前田家編輯方手写　明治年間
1枚　40×55cm
「原書ハ嘉永四年辛亥明倫堂助教今川胖蔵ノ所蔵ヲ戸水信義ノ謄写保存セシ者ナリ」との跋あり。右大臣・内大臣・大納言以下，侍従・四品・諸大夫に至るまでの官職・官位に相当する大名・武家の一覧表。

8957　諸侯伯家格等幕府制度当用集　16.83—49
前田家編輯方手写　明治年間
29丁　25cm
御三家以下の諸大名・諸武家等の家格・溜間・職制などを簡単に摘記した武家の有職故実書。

8958　暇勒長鑑　16.83—50
栄春編
山口屋権兵衛　享保7年(1722)　刊
1帖　15cm
中川典克旧蔵。国守大名・外様大名・譜代大名の参勤年月・献上物等を一覧にしたもの。

8959　〔松平之称号について〕　16.83—51
有沢才右衛門・佐々木孫兵衛著
2通　17cm
大名の松平称号に関する質疑応答の書状。旧書名「松平之称号について佐々木孫兵衛と有沢才右衛門応答書写」。

8960　懐宝略武鑑　16.83—52
江戸　須原屋茂兵衛　弘化3年(1846)　刊
70丁　7×16cm
「諸家御所号御屋形号御方様銘々記之」とあり，各大名の領国・官職・官位・紋所等の一覧。

8961　懐宝略武鑑　16.83—53
江戸　須原屋茂兵衛　元治元年(1864)　刊
73丁　7×16cm
渡辺庸旧蔵。元治元年当時の諸大名・武家の名鑑。

8962 大成武鑑　16.83—54
刊
21丁　15.5×11.5cm
大成武鑑全5冊の内「西御丸御役人衆・巻之四」。表紙に「慶応三年（1867）」の朱記あり。裏表紙の書込に「小買物小池方肝煎宗吉持主」とあり。

8963 大成武鑑　16.83—55
刊
21丁　15.5×11.5cm
前号と同じ。同版だが一部修正あり。

8964 大成武鑑　16.83—56
刊
15丁　15.5×11.5cm
成瀬・竹腰・安藤・水野・中山の5大名の系図付武鑑。幕末期の刊と思われる。全12冊の内の1冊。

8965 〔榊原〕御続書〔附御両敬〕　16.83—57
仮綴1（9丁）　28×19.5cm
榊原氏一族の名前と同格の大名・藩主名を書きあげたもの。

8966 役人前録　16.83—58
手写
66丁　27cm
慶長～天明の大老・老中・御側御用人等幕府の諸役人名を記す。

8967 公儀御役列　16.83—59
手写
7丁　8×16.5cm
中川典克旧蔵。徳川幕府の各役人の扶持・役料等を記したもの。

8968 袖玉武鑑　16.83—60
江戸　須原屋茂兵衛　天保15年(1844)　刊
40丁　7×16cm
天保期幕府役人の一覧。

8969 石野八兵衛殿与力頭組下田御番代諸事裁許人等　16.83—61
山辺勘右衛門著
自筆
1通　25cm
伊豆下田代官所に関する諸役人名簿書上。

8970 館住群伯　16.83—62
48丁　14×19cm
今枝氏旧蔵。1万石以上の城主の系譜，石高，江戸までの距離などを記す。初筆元禄4年（1691）。

8971 諸大名家臣禄高番附　16.83—63
1枚　35×24cm
森可参旧蔵。全国大名の家臣を知行高の多寡によって番附したもの。加賀藩では本多家5万石ほか10家をのせてある。

8972 浅野長矩之侍帳　16.83—64
今枝直方手写　元禄16年(1703)
25丁　21cm
浅野長矩は播州赤穂藩五万石藩主。赤穂浅野家の侍帳。

8973 宇喜多秀家士帳　16.83—65
今枝直方手写
74丁　21cm
今枝氏旧蔵。宇喜多家の慶長初年の侍帳。

8974 石河瞞之丞・濱中三右衛門訴書　16.83—66
石河瞞之丞・浜中三右衛門著
手写
25丁　24.5cm
徳川家旗本石河瞞之丞・浜中三右衛門が，甲府勝手小普請組入を命ぜられたのに対し，その免除を鳥井甲斐守に嘆願した文書2通を収める。いずれも「卯十一月」の日付である。

8975 醫家録　16.83—67
手写
30丁　19cm
今枝氏旧蔵。寛永11年（1634）成立。検校の由緒，職務規定・身分規定などを記したもの。

8976　江戸惣検校へ従御公義被仰付候云々　16.83—68
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　24cm
真館氏旧蔵。「江戸惣検校へ従御公義被仰付候諸法度相改候旨，京都従御十老衆被仰触候ニ付致巻物ニ相記遣之覚」と題する元禄6年2月6日付の二十四ヶ条触書（山沢・政木・君山差出，金沢手代中宛）と，元禄11年8月4日付の追加三ヶ条（山沢・政木・君山・橋爪差出，金沢手代中宛）の写。この外慶安5年9月15日付の寺社奉行連署の寺社方触書写等も収める。

8977　太政御職明鑑　16.83—69
京都　御用御書物所　慶応4年(1867)　刊
31丁　8×16cm
渡辺庸旧蔵。議定官以下，太政官制下の各官名別の役人名簿。

8978　官員録　16.83—70
京都　御用御書物所　明治元年(1868)　刊
31丁　12×18cm
小木貞正旧蔵。明治新政府の議政官から各府県知事までを記す。

8979　〔太政官職員録〕　16.83—71
東京　須原屋茂兵衛　明治2年(1869)　刊
108丁　12×18cm
神祇官から按察使までを記す。表紙欠。

8980　〔太政官職員録〕　16.83—72
東京　須原屋茂兵衛　明治3年(1870)　刊
88丁　9×18cm
下巻のみ，兵部省以下が記されている。端本。

8981　陸軍省官員録　16.83—73
明治8年(1875)　刊
23丁　8×19cm
小木貞正旧蔵。陸軍卿山県有朋以下，役職・氏名・出身地等を記載。

8982　〔岩倉特使一行姓名録〕　16.83—74
手写
7丁　28cm
外題は「明治四辛未冬十一月十二日太平海邦船亜米利加号発航，特命全権大使岩倉公等乗込姓名録」。一行107名の名を記す。
旧書名「太平海邦船亜米利加号乗込姓名録」。

武　家　典　礼

8983　厳有公御元服記　16.83—75
民部卿法印道春著
今枝直方手写　元禄16年(1703)
29丁　20cm
正保2年（1645）原本成立。厳有公とは将軍家綱。

8984　殿中年頭式　16.83—76
今枝直方著
47頁　15.5×18.5cm
今枝氏旧蔵。寛文12年(1672)正月朔日・2日・3日から20日までの幕府殿中における年頭儀式・典礼次第を記録した武家故実書。

8985　関東御儀式　16.83—77
29丁　19cm
今枝氏旧蔵。貞享2年(1685)正月朔日より2月朔日までの江戸城中儀式を記す。

8986　関東御規式　16.83—78
47丁　24cm
今枝氏旧蔵。徳川幕府における江戸城中での年中規式を記す。

8987　元禄甲戌御成記　16.83—79
今枝直方編
自筆　元禄7年(1694)
26丁　20cm
元禄7年，将軍綱吉の大久保邸臨御等の記録。

8988　御養君御昇進略記　16.83—80
今枝直方著
自筆　宝永2年(1705)
35丁　20cm
宝永元年冬から宝永2年春にわたり，徳川家宣が5代将軍綱吉の御養君に昇進するまでの経緯を記録。

8989 家継公御元服御職之聞書　16.83—81
有沢永貞著
今枝直方手写　正徳3年(1713)
16丁　27cm
今枝氏旧蔵。正徳3年(1713)将軍家継元服儀式の記録。

8990 家継公将軍宣下之次第　16.83—82
手写
14丁　22cm
有沢氏旧蔵。正徳3年(1713)4月の将軍家継宣下の儀式・典礼の記録。

8991 正徳御代易略志　16.83—83
今枝直方著
自筆　正徳3年(1713)
78丁　19.5cm
今枝氏旧蔵。正徳2年（1712）将軍家宣の死から，翌3年の家継の将軍宣下までの記録。

8992 正徳御代易略志　16.83—84
前田家編輯方手写　明治年間
70丁　23cm
今枝直規所蔵の写。内題「文昭幕下御他界前後略志」。内容前号に同じ。

8993 東照宮造替勅裁雑記〔等〕　16.83—85
今枝直方手写　享保7年(1722)
72丁　26cm
「東照宮造替勅裁雑記」，「大猷院殿一周御忌修善雑誌」，「奥仙台東照宮迂宮雑記」をまとめて収録。

8994 年中行事　16.83—86
112丁　23.5cm
徳川幕府における年中諸行事の規式。

8995 公辺御婚礼御式帳　16.83—87
小笠原平兵衛著
寛政元年(1789)
4冊　26cm
渡辺庸旧蔵。①三百八十御餅五種五荷絵図　②御婚礼御式法之次第　③御盃事御給仕之御次第　④御婚礼御規式次第。寛政元年の徳川11代将軍家斉と島津重豪3女との婚礼について。

8996 公辺御婚礼御式帳　16.83—88
4冊　27cm　袋入
渡辺庸旧蔵。①御婚礼相済三ツ目御五ツ目御祝　②御盃事御給仕之御次第　③五百□□□種十荷絵図　④御結納十種十荷絵図。天保年間，右大将婚礼時の記録。小笠原平兵衛の控。

8997 〔愷千代殿と淑姫君様御婚礼次第〕　16.83—89
渡辺満手写
16丁　27cm
渡辺庸旧蔵。婚礼の式次第を記したもの。愷千代（やすちよ）は尾張徳川家第10代斉朝，淑姫は第11代将軍家斉の女。寛政11年（1799）11月結婚。
旧書名「御具桶請取渡之事」。

8998 文姫君様御引移ニ付御式正御道具御行列帳　16.83—90
手写
20丁　12×34.5cm
渡辺庸旧蔵。文姫は徳川11代将軍家斉の女で，高松城主松平頼胤と文政2年（1819）婚礼の記録。
旧書名「佐渡守様御婚礼一件留等」。

8999 文姫君様御引移之節御行列　16.83—91
7丁　34.5×12cm
渡辺庸旧蔵。内容は前号に同じ。

9000 高松家御祝建別紙之写　16.83—92
矢田左門編
手写
14丁　24cm
渡辺庸旧蔵。文政2年(1819)12月徳川家斉の女文姫が，高松侯松平頼胤に嫁した時の留書。

9001 〔峯姫様御婚礼御式〕　16.83—93
渡辺佐大夫手写
3冊　26.5cm　袋入
渡辺庸旧蔵。外題は「御婚礼御座敷 御祝建」。文化11年（1814）峯姫（徳川家斉の女）の水戸斉脩と婚礼の記録。なお成立は文化9年。

9002　晴姫様御結納御次第覚　16.83—94
手写
25丁　28cm
家斉の女晴姫，井伊家入輿に先立つ御結納儀式の御結納目録，御結納御式，御結納次第，御結納行列を記す。

9003　〔将軍家御使書〕　16.83—95
手写
巻子1　27cm
中川典克旧蔵。諸大名・武家が幕閣へ献上する品物・目録・御書および奉書などの取次目録。なお前欠文書。

9004　〔御使者迎送取持之覚〕　16.83—96
1通　17cm
前田貞醇旧蔵。迎送取持に関する小笠原右近将監等の役割付覚。

9005　〔佐渡守様御使者登城絵図書并服付〕　16.83—97
1通・絵図1枚　24cm・24×34cm　袋入
横山政和旧蔵。寛政4年(1792)正月，佐渡守使者織田主税の御太刀目録献上における作法に関する書類。

9006　亡備録　16.83—98
前田家編輯方手写　明治年間
82丁　23.5cm
細川忠興家の家中式法・江戸詰格式・軍備・細川越中守家来長岡帯刀先祖旧記抜書・知行方目録・家中先祖大略・主要武士并知行高・年始作法などを記した雑録。

9007　〔松平池田より一條家へ繰組一件〕　16.83—99
慶安2・3年(1649・50)
4冊・4通　14.5×40.5cm・30×21.5cm・16.5～33.5cm
袋の表書「松平池田新太郎殿御息女一条様へ御縁組一件，大猷院様御養女ニ被為成，慶安二年御入輿也」。池田新太郎は池田光政。
①姫君様御婚礼ニ付御上洛之諸事覚書
②御姫様御祝言御道具之帳
③姫君様御平道具帳
④御召御呉服御長持ニ入覚帳
⑤慶安3年7月8日付物成一条殿御内室江渡方覚
⑥4月28日付今枝民部日置徳右衛門書状
⑦一条姫君様へ御附人名書
⑧7月10日付日置徳右衛門より今枝民部宛書状
旧書名「浮田家ヨリ一条家へ縁組一件」。

9008　鷹司左大将殿へ阿州御息女津具姫御婚姻次第并御膳部　16.83—100
手写
15丁　25cm
渡辺庸旧蔵。明和3年（1766）の阿波藩主息女津具姫，鷹司家入輿の記録。婚姻の御膳に関する絵図も付く。

9009　鍋島殿御住居〔御婚礼〕御当日御飾　16.83—101
手写
絵図1枚　16×59cm
渡辺庸旧蔵。婚礼当日の各部屋の飾付図面。

9010　御給事方心覚　16.83—102
堀善膳著
佐藤直房手写　文化10年(1813)
101丁　23cm
原本成立寛政5年(1793)。大名・上使等の接待につき，料理作法・給仕人心得・衣服など22項目にわたり詳細に記す。

9011　〔浅野長澄於三好御人数下習図〕　16.83—103
絵図1枚　40×80cm
今枝氏旧蔵。三吉の城下町図に朱で「御人数下ならし行列立の図」と書き入れる。浅野長澄（1671～18）は備後国三次の藩主。

9012　介錯切腹短胴附　16.83—104
手写
16丁　23cm
渡辺庸旧蔵。介錯・切腹の作法と規式を記す。文化11年(1814)沢一郎が江戸から送ってきた写本の写。沢一郎は金沢の人。江戸に出て三宅肥後守に仕えた。

9013　〔諸侯道中作法について〕　16.83—105
手写

8丁　24.5cm
前田貞醇旧蔵。諸侯が御三家・日光御門主などと道中で行逢った場合の作法に関する書状と覚書を収める。旧書名「春寒之処」。

9014　肥田十蔵より来候書付之写　　16.83—106
手写
37丁　24cm
「将軍御成仰出に付き御成御殿新築の事」,「御成之節献上物目録」,「御成付用意道具書上」などを記した留書。肥田十蔵は幕府勘定奉行か。

9015　自事在府志　　16.83—107
今枝直方編
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　23.5cm
内題「享保八年自事在府志・献賜類」。内容は,享保8年(1723)在府中に見た珍しい贈答品のことを記録。

9016　浄光院様遺物聞書　　16.83—108
手写
14丁　24cm
「浄光院様御遺物」と「芳心院様御遺物」より成る。各々,遺品の諸大名以下女官への配分目録。

特16.84　地　　誌

地　誌　一　般

(領　　内)

9017　総国風土記抜萃　　16.84—1
手写　明治初年
11丁　24cm
森田所蔵の写。嘉慶2年(1388)原本成立。藤原元隆著。第84加賀国石川郡と第85同加賀郡の分。跋文に「以駿河国惣社神司志貴氏本比校,文化十三年子六月,伴信友」とある。
旧書名「総国風土記」。

9018　加越能山川記　　16.84—2
土屋又三郎(義休)著
有沢武貞手写　享保15年(1730)
45丁　22cm
「加越能三州大路水経」・「加越能三州山川記」・「加越能大路水源記」とも呼ばれ,加州8川,越中13川,能州15川の水源,水脈,支流等を詳記し,河流に接続する山嶽の路程をも記す。

9019　加越能山川記　　16.84—3
土屋又三郎(義休)著
手写
37丁　24cm
「此書ハ加越能三州水経ナリ」と付箋あり。上・中・下巻に分かれ,各々加賀・越中・能登の河川の水源・水路等が説明されている。

9020　重修加越能三州大路水経　　16.84—4
土屋又三郎(義休)著　大沢君山校
手写
34丁　22cm
正徳4年(1714)原本成立。加越能三州の主要な河川について,その水源,流路,橋梁等を記している。全体は上・中・下の3巻に分かれ,㊤加州8川　㊥越中14川　㊦能州16川,となっている。著者土屋又三郎は,石川郡御供田村の十村で,著書に「耕稼春秋」などがある。

9021　重修加越能大路水経　　16.84—5
土屋又三郎(義休)著　大沢君山校
手写　明和2年(1765)
39丁　23cm
石川県図書館協会刊「重修加越能大路水経」参照。本書は別の手写本である。

9022　増補大路水経　　16.84—6
石黒信由(藤右衛門)著
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
天保7年(1836)原本成立。正徳の土屋義休著「加越能三州大路水経」を増補したもので,河川だけでなく潟,温泉,国郡境等についても解説している。
①三州大路

②加賀国水経，能登国水経
③越中国水経
④三州大川・潟・温泉，諸国地面積広狭。

9023　越登賀三州志　本記　　16.84—7
富田景周著
手写
17冊　27cm
原本は寛政10年（1798）成立。別名，「鍵鑰余考」。富樫氏がはじめて加賀に封じられてから，松雲公が中将に任ぜられるまでの三州の歴史を考証を交え，概括的に記す。異本として，石川県図書館協会本（益智館本，同協会より刊行），慈雲寺本，森田本，辻本がある。
①○富樫氏創めて加賀州に封食す
○近藤師高涌泉寺を毀く，諸芯劵白山神輿を発して京に入る
②○木曽義仲信濃に起つ，越賀諸雄募に応ず
○大将軍平維盛帥振旅して北に嚮う
○源軍潰散す。平将羽書を皇都において報捷す
○義仲越後を進発して越中国府に来る，大夫坊覚明をして霊神書願文をなさしむ
○義仲兵部を分け，火牛を用う，王師敗績し蹂躙す，偃尸倶利迦羅壑填つ
○平陣防備を安宅に設けて追路を断つ
○源兵累嬴たり，斎藤実盛篠原に殊死す
維盛身を挺して還洛す
③○富樫泰家左衛門尉に叙す
○前大納言時忠能登国に配流さる
○長谷部信連能登国鈴庄を賜う
○源義経微服し安宅関を伴過す
○東兵越兵を破って入京す
○白山金剣両廟を撃斃せしむ
④○越中守護名越時有等自裁す
○名越時兼兵を起す，桃井直常之を伐つ
普門蔵人利清国司中院定清を撃つ
○新田義貞柚山城に兵を発す
○吉見氏頼と越将たびたび能越に抗す
○富樫氏春直常を撃つ
○直常駆けて越中を撃つ，半国を隷す
○足利義将直常を撃つ
○新田義宗安宅関を強過す
○桃井直常直和と氏頼義将接戦す
○富樫成春泰高と守護職を争う
○赤松政則加賀半国を賜う
⑤○加越能三州土寇蜂起す，富樫氏社稷を失う
○畠山義統越中を併呑せんとす。上杉顕定越中を取る。
○朝倉元景越中より師を出し，朝倉貞景を撃ち，かえって敗る
○長尾為景越中の三城を抜き，上杉房義を殺す
○加能釈賊南越を寇め克たず
○上杉顕定長尾為景を撃って三年の役に報い，高梨摂津守顕定を撃つ
⑥○下間筑前賀州に来り，再び土寇発す
○朝倉孝景賀州に師を出す
○河合州崎の徒私卒を率いて加州を襲うも勝たず
○佐々木定頼江州山科を焼き，富樫族国に帰る
○畠山義統姦臣游佐続光を逐う
○長尾為景越中梅檀野に闘死す
○長尾景虎七年の役に酬いんとし，海年軍を越中に出すも克たず，軍を分ける
○遊佐続光十二年役に酬いんとし能登を侵す克たずして退く
○飯田利忠城生城を走る
○上杉謙信越中魚津城を囲み，利無く囲みを解いて去る
○朝倉宗滴加州の土賊を伐つ，宗滴陣中に病死す，謙信たびたび能登奥郡を侵す
○足利大樹越賀を講和せしむ
○畠山義則温井紹春を伴殺す，温井の族七尾を侵す
○謙信たびたび神保椎名諸雄と戦って置かず
⑦○賀賊南越に畔き，越将明智光秀等賊を破る
○謙信江波族を越中に斬り，梅檀野の役に報いる
○武田信玄の将飯富昌景越中に侵入す
○畠山義則出奔し義隆立つ
○謙信増山城を攻む
○飛騨牛丸重親越中に遁来す
○越賀二国和解し四堡を焚く
○畠山義隆八代安芸を殺す
○富樫泰俊社稷を失う，神保氏春小出城を囲む

○白屋秋貞二城を抜く，二宮三宅村塚山に敗れ，斎藤新五津毛城を攻む
○謙信富山城を屠る
○三木広瀬中地山を改め，江間輝盛戦死す
○謙信木舟城を陥す
○賊臣游佐続光其君義隆を弑す
○織田信長公大師を帥い，北賊を伐つ
⑧○戸次右近寇賊を敷地山に拒む
○謙信越中の蓮沼富山二城を陥し，賀賊を撃って却って敗績し，又能登を襲う
○謙信越将を能登の五堡に置く
○長綱連熊木堡を屠る，畠山義春病死す，游佐長父子を屠殺す
○越雄割拠し謙信来攻す，信長公斎藤新五をして撃たしむ
○孝恩寺越中に徴走す
○孝恩寺越中二堡を陥す
○温井三宅能登を奪領す
○柴田勝家等賀賊を討って，佐久間盛政を御山に置く
○長連竜大捷を菱脇に得，父仇に報い，我が国祖高徳公初めて能登州に従う
○上杉景勝河田豊前をして小出城を攻めさしめ，賀賊又起る，柴田佐久間之を撃つ
○姦賊游佐の族党を誅戮す，温井三宅亡命す
○信長公国祖を能登州に封じ，翁主を我が世子に嫁す
⑨○信長公我が国祖鑒び諸鋭将をして魚津松倉を抜かせ，長連竜棚木を屠る
○石動山兇僧上杉景勝と謀って能登州を侵奪せんとす，国祖之を斃す
○佐々成政土肥政繁とたびたび兵を交う
○秀吉公国祖に加州二郡を加封す
○神保佐々城尾城を陥す
⑩○佐々成政姦謀し，旭山の寨を攻む，国祖之を援く
○前田良継君等勝山を攻む
○成政末森を囲み，奥村永福等固守す，二公急援し奇捷を得
○成政鳥越を取る
○七尾の諸将再び勝山を囲む
○土肥政繁境城を攻む
○国祖鳥越城下を焼く
○秀継君佐々某と俱利迦羅竜峰に会戦す
⑪○国祖蓮沼城辺を燬く
○成政鷹巣旧堡辺を焼き，蓮沼の敗に報う
○二公再鳥越城を攻め奮闘す，菊池武勝父子我に降す
○国祖阿尾城を得，越軍怒れども及ばず
○奥村永福等伊香子某を殺す
○佐々前野今石動近郷を焚し，我軍撃ちてこれを敗る
○神保父子氷見に出撃し，菊地等兵子潰之村井長頼これを援して功有り
○豊主北征し，成政地を裂きて降を乞う
○豊主成政の提封越中三郡を削り，国祖に加封す，世子越中守山に転従す
○国祖少将を拝し，世子侍従に任ず
⑫○佐々成政越中を去り，丹羽長重松任に入る
○国祖中将に任ず，世子少将に任ず，且つ東州の役封内諸城に留守を置く
○国祖参議従三位に任ず
○国祖西観す，世子尾山城塁を修す
○徹妙公金沢城に生まる，前田利秀下世す
○大夫士履端早朝拝年儀を立つ，国祖権中納言に昇進し，前田安勝君捐館す
○国祖阿尾城を除く
○国祖大納言に任じ，清花に准ず，世子参議に任ず，溝口秀勝・村上義明越後に移る，山口宗永大聖寺に入る，丹羽長重小松に転ず
○国祖養老し，二世瑞龍を公嗣に立て中納言に転任す
○国祖薨し遺書有り，二世国に就き，利政君七尾に入る
○横山長知浪華に到り，訛言を勧解す
⑬○毋堂芳春君武州江戸に質す
○我軍大聖寺を抵たんとするの道，丹羽氏の水兵に会し，丹羽氏の塘士，自家の伏兵を謬候して敵となす
○大聖寺城を陥し，山口父子城に殉ず
○公南越に到り，俄然軍を大聖寺にわかつ
○長連竜浅井畷を苦撃し，松平康定鎗功有る
○丹羽氏降服し，交に質す，公・神君に大津に謁す
○神君・公に賀州二君を益封す，又利政君能登の封地を除き，併せ賜う
⑭○徹妙公婦人金城に来嫁す

○瑞龍公始めて東観す，大田但馬を殺す，金城を火く
○徴妙公首服し侍従に任ず，始めて松平氏を冒し即位す，瑞龍公富山に養老す
○土方雄久の采邑を能州に転ず
○富山鬱攸たり，瑞龍公高岡城に従う
○徴妙公尾張に到る，篠原一孝金城の外堅を疏鑿す，加越に無頼の少年横行す，采邑の民始めて夫銀を出す
○織田左門高岡に来る
○養老の封入及び従臣を減じて，金沢に返す，亀谷の銀を献ず
○高山南坊等を阿嬬港に放ちて，天主の党を禁断す，君夫人亀鶴姫を産む，瑞龍公薨す，徴妙公駿武に到り，左少将に転ず
⑮○浪華の役，我師金沢を発す，并攻城大略
⑯○浪華再役，金城を発す，并功士挙名
○徴妙公参議に転じ，金城に栄旋す
○陽広公金城に生まる
○東照神君の遺物を賜う，前田利孝君を七日市に封ず，滝某をして府内の官道・街巷を改めしむ，寺院を聚めて藩士の下第を賜う
⑰○君夫人利次君を産む
○大樹龍口邸に賁臨す，江州二邑を返上す，富姫生まる
○大樹再び江州二邑を賜う
○大樹諸侯に令して大坂城を修す，冬，金城を火く
○金城造営す
○君夫人・大夫人並びに殂ぬ，徴妙公上洛す諸公子姫武に到る，天徳院を建つ
○徴妙公上洛し，権中納言に転任す，神田邸度を興造す
○大樹書を我に賜いて，今年の東観を優す
○世子首服し左少将を拝す
○両大君神田邸賁臨す
○浪華の役にかつて戦亡せしところの功臣を以て，牌位を宗朝の傍に置く
○寿福孺人下世す，夏，金城延燎す，冬，我二公遽かに武に到る，横山康玄解訛す
○金城に巽水を引通す，大猷大君の養翁主嫁を許す
○利政君捐館す，世子の夫人来嫁す
○二公入洛す，秋，三州全封書を賜う
○江都筋違橋圜閣を修す，世子猟に従って猛猪に刺さる，前田利孝君捐館す
○大樹賁臨す，海内諸城を廃して，一国に一城を置く
○公，国を世子に譲る。利治君入封す
○徴妙公小松城に養老す，利次君入封す，大僊松永昌三を徴す
○陽広公即位後初めて国に就く
○世子，竜口邸に生まる，東照神廟之を金城に建つ，世子孩提にして大樹に拝謁す
○陽広公殂す，世子松雲公立つ
○瑞龍寺千僧を供養す，利治君侍従に任ず
○智忠親王本郷邸に光臨す，葭島に大亭を造る，本郷邸延焼す
○大猷大君薨御す，三州田制を立つ，神田邸大廈落成す
○両支封より属臣を本藩に返す
○松雲公首服して左少将に任ず，秋，税法成前田孝矩出身す
○加越白山社地を論ず
○清泰孺人殂す，瑞龍寺落成す
○竜口邸延燎す，且つ邸地を徙す
○大樹天主台二基を我に嘱す，徴妙公薨す，松雲公左中将に任ず，且つ徴妙公養老の遡封及び小松城を賜う。

9024　越登賀三州志　鼇窠余考　16.84—8
富田景周著
手写
15冊　27cm
「金沢学校」の印あり，内容は，前号に同じ，②～⑤を②～④，⑥～⑨を⑤～⑦におさめる。

9025　越登賀三州志　鼇窠余考　16.84—9
富田景周著
寛政10年(1798)
17冊　27cm
「大賚」の印あり，特16.84—7と内容は同じ。

9026　三州志鼇窠余考々証目録　16.84—10
森田平次(良見)編
14丁　23.5cm
「越登賀三州志」を読む人の便をはかって，編まれた目録，富田景周の著書目録を合わせて収

載している。

9027　越登賀三州志　16.84—11
富田景周著
手写
4冊　27cm
鞬櫜余考(9・10・11)と故墟考(102)で，端本であるが，前者は景煥の跋文が寛政8年(1796)なので，初稿本の写しと考えられる。旧蔵者は何れも石川県勧業博物館で，㊞印がある。

9028　越登賀三州志　来因概覧　16.84—12
富田景周著
寛政11年(1799)
6冊　27cm
「富田景周」，「大賚氏」の印あり。
加越能三国について，その国・郡・郷の成立及び沿革と，国守，守護及び封侯の享歴を記す。
①越中国郡郷来因
②越中国守享歴
③能登国郡郷来因
④能登国守享歴
⑤加賀国郡郷来因
⑥加賀国守享歴。

9029　越登賀三州志　来因概覧　16.84—13
富田景周著
手写
6冊　27cm
内容は前号に同じ。

9030　越登賀三州志　来因概覧　16.84—14
富田景周著
手写
6冊　27cm
「金沢学校」の印あり。内容は，前号に同じ

9031　越登賀三州志　来因概覧附録　16.84—15
富田景周著
手写
4冊　27cm
金沢城及び城下，小松・富山・大聖寺各城の歴史地理的考察，能登における幕府及び幕臣の領土，白山山上及び山麓の管轄，近江における前田領の沿革，各地の前田居城などを記す。石川県図書館協会本には，江戸における加賀藩諸邸等の記述を別に，「附録巻の5」としている。

9032　越登賀三州志　来因概覧附録　16.84—16
富田景周著
手写
4冊　27cm
内容は前号に同じ。

9033　越登賀三州志　故墟考　16.84—17
富田景周著
手写
5冊　27cm
原本寛政13年(1801)成立。内容の一致する別写本が存在する(次号)。加越能三国内の古城跡を各郡毎に列挙し，考証を施す。

9034　越登賀三州志　故墟考　16.84—18
富田景周著
手写
5冊　27cm
内容は前号に同じ。

9035　温故足徴　16.84—19
富田景周著
手写
2冊　23.5cm
加越能三国の社寺・藩臣家等に所蔵する古文書を蒐集したもの。景周の古文書に対する注記，考証も一部施されている。配列は不斉一であり，古文書所蔵者はわからず，編年もなされていない。古文書の原写の別は，「御判」「黒印」という表示と花押影・印影で区別できる。「三州志」編さんの目的で作成されたもの。

9036　温故足徴抜萃　16.84—20
富田景周原著　森田平次選
前田家編輯方手写　明治年間
64丁　23.5cm
前号の抜萃。

9037　加賀国旧蹟記四種　16.84—21
手写

49丁　23.5cm
○仏御前事蹟記，安永8年(1779)成立
○笹塚歌并和歌，北村惇著
○河北郡津幡弘願寺へ冷泉家よりの御消息并びに御返答の詠歌及び由来の写，宝暦3年(1753)成立
○広塚細記。

9038　加越能三州山川旧蹟志　　16.84—22
森田平次手写
5冊　23cm
①○宝暦14年(1764)能美郡山川旧跡等書上申帳
古跡，川，潟，往還道，城跡，神社仏閣，産物，渡舟，橋等について記す
○宝暦14年(1764)能美郡草木類書上申帳
郡内の草本・木本類を記す
○宝暦13年(1763)石川郡古跡等書上申帳
城跡，神社仏閣，等の古跡について記す
○宝暦13年(1763)押立申草木并川々等書上申帳(石川郡)
白山草木，森林，岩石，沢，産物，川，用水，橋，渡舟，往還道等について記す
②○宝暦14年(1764)河北郡山川旧跡等書上申帳
古跡，諸産物，大石，池，川，橋，往還道等について記す
○宝暦14年(1764)羽咋鹿島郡名所旧跡等書上申帳
古跡，境村，神社仏閣，寺院の屋敷未進高，古城跡，海岸名所，名石，諸産物等について記す
③○宝暦14年(1764)羽咋鹿島郡山川等書上申帳
入江，温泉，潟，川，橋，閑道，高札場，収納蔵，作食蔵等について記す
○宝暦14年(1764)鳳至郡名所旧跡等書上申帳
名所，寺院，城跡，境村，収納蔵，橋，川，間道，島，渡舟
○宝暦14年(1764)鳳至郡草木類書上申帳
木，草，海草，名物等について記す
④○宝暦14年(1764)珠洲郡名所旧跡等書上申帳
名所，寺院，城跡，境村，収納蔵，橋，川，間道，高札場
○宝暦14年(1764)珠洲郡草木類書上申帳
木，草，海草等について記す
○宝暦14年(1764)砺波郡古城跡山塚寺社古跡等書上申帳
旧跡，城跡，山，塚，神社仏閣等について記す
○宝暦14年(1764)砺波郡草木土石産物道橋川淵深沼所等書上申帳
木，土，産物，池，川，滝，籠渡，渡舟橋等について記す
⑤○宝暦14年(1764)射水郡古城跡并名所旧跡等書上申帳
名所，城跡，塚，潟等について記す
○宝暦14年(1764)射水郡之内草木産物川々沼田所等書上申帳
産物，川，橋，往還道，沼田等について記す
○宝暦14年(1764)新川郡古城跡名所旧跡等書上申帳
名所，城跡，鉱山，神社仏閣等について記す
○宝暦14年(1764)新川郡之内草木産物川々沼田所等書上申帳
川，橋，往還道，温泉，木，岩石，原野，深沼等について記す。
旧書名「三州山川旧蹟志」。

9039　燕蹤覧古　　16.84—23
立川惇仲篤申編
手写
29丁　23cm
安永3年(1774)成立。加越能三国の旧蹟，神廟仏閣についての解説。

9040　金砂子秘鑑　　16.84—24
手写
10冊　24cm
寛政2年(1790)成立。能登・越中の地理，村，町，古城，神社仏閣を記し，解説を加えた総合地誌。
①能登国羽咋郡　今浜，飯山，一ノ宮
②能登国羽咋郡　堀松，福浦，富木
③越中国砺波郡　今石動，佐賀野，戸出
④越中国砺波郡　城端，井波，中田
⑤越中国射水郡　永見，伏木，守山
⑥越中国射水郡　高岡，放生津，水戸田
⑦越中国婦負郡　富山，八尾，四方

⑧越中国新川郡　東岩瀬，町新庄，岩峅
⑨越中国新川郡　上市，滑川，魚津
⑩越中国新川郡　三日市，生地，泊町。

9041　寺院来歴等　16.84—25
手写
26丁　28.5cm
版心に文化7年(1810)とあり。加賀・能登，越中，越前の社寺来歴，城館，古蹟等を記す。

9042　越中能登名跡志　16.84—26
手写　文化11年(1814)
56丁　21cm
越中，能登の寺社，町村来歴，古蹟等を記す。

9043　三州地理志稿　16.84—27
富田景周著
前田家編輯方手写　明治年間
7冊　23cm
加越能三州につき，沿革，地理，景勝，風俗，租税，郷名，山川，土産，寺社，旧蹟等について記す。
①加賀国(1)
加賀国(2)江沼郡
②加賀国(3)能美郡
加賀国(4)石川郡
③加賀国(5)河北郡
越中国(1)
④越中国(2)砺波郡
越中国(3)射水郡
⑤越中国(4)婦負郡
越中国(5)新川郡
⑥能登国(1)
能登国(2)羽咋郡
⑦能登国(3)鹿島郡
能登国(4)鳳至郡
能登国(5)珠洲郡。

9044　郷荘考　16.84—28
五十嵐篤好著
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　23.5cm
天保6年(1835)原本成立。上・下2巻。
上一郡郷里の規模について，古典を引用した考証
下一加賀，越中各郡の領域とその名称。

9045　三州志　16.84—29
手写　明治24年(1891)
175丁　26.5cm
別名「加越能名跡志」。加越能三国の古城，神社仏閣，名所と，その来歴を記す。

9046　加越能三州旧跡記事　16.84—30
手写
27丁　23.5cm
有沢貞庸旧蔵。表紙に「武道雑談集卅八」と貞庸筆の副題あり。加越能三ケ国の旧跡を郡別村別に略記したもの。
旧書名「武道雑談集」。

9047　加越能地誌　16.84—31
前田家編輯方編
明治年間
仮綴2冊(28丁)　25cm
三州沿革，名所古蹟・館跡由来等，地理に関する諸書よりの抜萃集。
①三州沿革之伝，三州橋梁名及間数，名所補遺集之抄，三州旧蹟，能美郡邑名来歴，小松城南城北賦他
②能美郡緩帯篇，石川郡邑名来歴，寛文～元禄鶴来村旧記写，犀川淵等之ケ所，金沢古蹟，河北郡邑名来歴，三州村数他
③石川・河北・能美郡緩帯篇。城館蹟，郡郷村来歴，寺社等を記す。

9048　地理分類拾補三州封彊等　16.84—32
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23cm
加越能三ケ国のうちから選んだ村里・用水・山川・名所旧跡等の地誌。土糧倉，塩倉，邦守，新今井村，長坂村等々を収める。

9049　三州道の草　16.84—33
一桃庵里斉編
前田家編輯方手写　明治年間
115丁　23cm
三州の村況，沿革を記しているが，神社，仏

閣，城郭，金沢町について詳述している。

9050　越遊行嚢鈔　16.84—34
江間氏親著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
農商務省所蔵の写。越前，加賀，越中三ケ国の名所，史蹟，町村，寺社等を記す。
①越前　②加賀　③越中。

9051　郡郷国府考　16.84—35
手写
25丁　28×18.5cm
「郡郷国府考」他の項目について，六国史等より引用した加賀国地誌。

9052　賀州志〔三州地理志〕　16.84—36
6冊　27cm
太梁院(11代治脩)の命により作成。1巻より7巻まででうち第2巻を欠く。
①加賀国之一　建置沿革，疆域
②　同　三　神社，蕃客，仏刹，氏族，文苑
③　同　二　江沼郡郷名，村里，山川，関梁，土産，藩封，神廟，陵墓，仏刹，古蹟，氏族，文苑
④　同　三　能美郡，内容は③と同じ
⑤　同　四　石川郡，内容は③と同じ
⑥　同　五　河北郡，内容は③と同じ。
旧書名「賀州志」。

9053　金砂子　加賀　16.84—37
前田家編輯方手写　明治年間
102丁　23.5cm
「金砂子」より加賀の部を写したもの。加越能における古来の城主の由来，名所旧蹟，神社仏閣等についての解説。

9054　国事拾遺抄　16.84—38
57丁　23.5cm
江沼，能美，石川各郡，及び金沢の主な事蹟を記述。

9055　金沢古蹟志　16.84—39
森田平次(良見)著
自筆　明治24年(1891)
34冊　23cm
金沢城の沿革，並びに，金沢城下の各町毎にその沿革，藩士の旧邸，藩の各役所，神社仏閣等について解説している。
①緒言，附録惣論
②城郭総論
③城郭諸曲輪　上
④　同　中
⑤　同　下
⑥城東小立野台　上
⑦　同　中
⑧　同　下
⑨城外堂形辺
⑩城外大手辺
⑪城外新堂形辺
⑫城南本多町笠舞筋
⑬城南柿木畠百姓町筋
⑭城南堅町筋
⑮城南河原町犀川河上筋
⑯城南片町伝馬町筋
⑰城南野町筋
⑱城南泉寺町筋
⑲城南野田寺町筋
⑳城南石坂台
㉑城西法船寺町筋
㉒城西長町筋
㉓城西堤町筋
㉔城西宗叔町筋
㉕城西三社台
㉖城西宮腰口
㉗城西木新保筋
㉘城北堀川筋
㉙城北浅野川口
㉚城北田町筋
㉛城北浅野町筋并大衆免
㉜城北卯辰台　上
㉝　同　下
㉞城北大樋口。

9056　金沢古蹟誌抄　16.84—40
前田家編輯方手写　明治年間
308丁　25cm
金沢古蹟志の4～34巻中より人物伝を中心とし

て，抄録したものである。抄録記載巻数は金沢文化協会版「金沢古蹟志」とは多少異なる。

9057　亀適尾適記　16.84—41
柴野美啓著
2冊　23.5cm
金沢の町名由来，神社仏閣の来歴，高禄藩士の系譜，家伝等，さらに近郊農村の旧蹟等の解説。①1～5巻　②6～10巻。刊本「郷土図書叢刊」。

9058　加府事跡実録　16.84—42
堀多宮編
19丁　24cm
金沢城・町の地名，寺社，旧跡等の来歴を述べたもの。

9059　〔金沢才川々下之景〕　16.84—43
手写　明治39年(1906)
絵図1枚　彩色　43×79cm
「此図ハ加賀国金沢市才川々下ノ景也，社ハ宝久寺ノ春日社，今才川神社，花ノ様ナルハ蠟ノ木ノ紅葉ナリ後考ノ為ニ記」とあり。

9060　加賀国江沼志稿　16.84—44
手写
9冊　23cm
① (1)建置沿革　(2)政事　(3)疆域　(4)同付録　(5)同
② (6)租庸調　(7)郷荘　(8)村里城東　(9)同城西
③ (10)村里城南　(11)村里城北　(12)同付録城東　(13)同城西　(14)同城西　(15)城北
④ (16)山　(17)同付録　(18)川　(19)同付録　(20)池溝　(21)関梁
⑤ (22)土産　(23)製造
⑥ (24)神社　(25)仏閣　(26)古蹟　(27)古蹟之図　(28)文苑　(29)同付録
⑦ 加賀国江沼志稿拾遺1，2
租庸調附録　城東，城西
⑧ 同3，4
租庸調附録　城南，城北
⑨ 同5，6
坂場，稲田耕。
旧書名「江沼志稿」。

9061　江沼紀聞　16.84—45
塚谷五明著
手写
39丁　23cm
北村与平旧蔵。別名「茨憩紀聞」。享和3年(1803)成立。江沼郡の古城名所旧跡の解説。

9062　茨憩記聞　16.84—46
塚谷五明著
前田家編輯方手写　明治年間
58丁　23.5cm
原本は享和3年(1803)成立。大聖寺藩領内諸村の名所，神社，仏閣，古城，及びその由来について記す。

9063　山代志稿　16.84—47
源友海編
手写　嘉永7年(1854)
50丁　23.5cm
○山代の沿革，古事，租庸調，山，用水等について記す
○同地の土産，温泉，神社，仏閣等について記す。

9064　白山史　16.84—48
金子有斐著
42丁　26.5cm
白山の五渓(雌河内・円石・中・雄河内・仙女)と，それぞれに属する滝等を絵図を付して解説したもの。

9065　加賀国白山実測図　16.84—49
石川県地理課編
松原一記手写
絵図1枚　彩色　55×97cm
明治17年(1884)調整の1/12000地図。社地官有地の部分を示す。

9066　能美郡山川旧跡等書上申帳　16.84—50
手写
29丁　24cm
安井頭比旧蔵。宝暦14年(1764)，御扶持人十村今江村源助等よりの書上。

9067　能美郡小松近辺粗図　16.84—51
絵図2枚　彩色　112×80cm
2枚は同一内容。安宅より大聖寺領境辺の海沿部分を詳述。

9068　安宅浦宮ニツ堂ヨリ遠近之山見取図　16.84—52
安政5年(1858)
絵図2枚　彩色　18.5×108.5cm・45.5×48cm
安井顕比旧蔵。
①御台場築造に関するもの。二つ堂より白山等の方位を記す
②二つ堂は近景観図。

9069　浜村御腰掛所ヨリ遠近之山見取図　16.84—53
絵図1枚　18×94cm
安井顕比旧蔵。安政5年(1858)作成。能美郡浜村から遠近の山等の方角を画いた図。

9070　串茶屋之記　16.84—54
手写
4丁　24cm
「加越能新聞」明治19年2月27日の記事より抜萃したもの。前田利常のゆかりの地として串茶屋村の濫觴を記している。

9071　手取川々上之図　16.84—55
絵図1枚　24×36cm
安井顕比旧蔵。鶴来より三坂峠辺。

9072　石川郡雑記　16.84—56
手写　文化元年(1804)
28丁　23cm
脇田尚保旧蔵。中古一揆蜂起並静謐略記，郷庄，村名，古蹟，寺社，手取川水経略，犀川水経略等を収録。

9073　緩帯篇　16.84—57
手写
38丁　26.5cm
石川郡の旧事，郷庄，古今地名付古城跡，延喜式内神社付村々神社故事，寺院古跡付釈門故事雑事伝説，名所付山川，古今産物について記している。

9074　犀川淵名録　16.84—58
1帖　彩色　13cm
三宝ヶ嶽付近大滝より末村辺迄を記す。別に内川淵名，及び犀川大橋より上流各地への里程大概を付す。次号と同一の筆法。

9075　内川淵名誌　16.84—59
巻子1　13cm
犀川支流内川の淵名，橋の名を記す絵図。

9076　犀川大橋ヨリ大滝マテ里程之覚　16.84—60
巻子1　13cm
三宝ヶ嶽付近より犀川大橋迄の里程の大概を記す。

9077　〔北安田村春日社古松之絵図〕　16.84—61
手写
絵図1枚　17×39cm
安井顕比旧蔵。「石川郡中奥組 山鳴郷北安田村春日社古松目廻ニ丈根本ヨリ一丈一尺上ニテ三本トナリヌ数本ニワカル，余木ニ勝タルユエ海辺ニアラネトモ遠ク船人是ヲ見テ標的トスト云」と説明あり。

9078　為広塚の細記　16.84—62
24丁　23.5cm
別名「広塚の記」。河北郡津幡町にある塚。

9079　能登誌　16.84—63
太田道兼著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　27cm
安永6年(1777)成立。
①高松，今浜，一之宮，神代川尻，冨木，釼地，道下，浦上，円山，縄又，輪島，惣領，名舟，時国，真浦，片岩，大谷，高屋，折戸，狼煙の20ヶ町村
②寺家，本村，正院，飯田，鵜飼，松波，石動寺，山中，宇出津，波並，鵜川，前波，甲，山中，中居，七海，乙ヶ崎，曽，小牧，中島，川崎，大津，田鶴浜，所口，二宮，高畠，飯山，子浦の28ヶ町村。
なお巻頭に，能登4郡村名，御扶持百姓，名所，寺社等を記す。

9080　能登名跡志　　16.84—64
太田頼資著
手写
3冊　23cm
安永6年本。石川県図書館協会刊「能登名跡志」参照。
①乾之巻上・中
②乾之巻下，坤之巻上
③坤之巻中・下。

9081　能州御郡方由来有之所々書上申帳　　16.84—65
生駒伝助・今村源六郎著
手写
4丁　24cm
本多政以所蔵の写。宝永元年（1704）郡奉行より御算用場への能登4郡内の古蹟地等調理報告書。

9082　三州名処記 能登国之部　　16.84—66
前田家編輯方手写　明治年間
17丁　24cm
能登四郡について，寺社を中心に記述。

9083　能登乃海　　16.84—67
九淵斎由己著
前田家編輯方手写　明治年間
78丁　23.5cm
北村彦次所蔵の写。能登国風，能州故事談，能州神名略記，鳳至郡の神社，名勝，産物等を記す。

9084　能州所口ヨリ奥郡迄遠景之略絵図　　16.84—68
絵図1枚　彩色　41×82cm
穴水・甲付近迄を見通した景観図。

9085　能登国鳳至郡大屋庄之全景　　16.84—69
絵図1枚　彩色　160×40cm
鳳来山付近より珠洲岬を見通す景観図。御霊地山(別名神山)を詳細に描く。

9086　越中国誌　　16.84—70
杉木有一編
前田家編輯方手写　明治年間
5冊　23cm
①　越之起原越中名義，郡之沿革，郷庄村数，商数并税額等，戸数，人口，駅路，港湾，嶋嶼，暗礁，湖沼，瀑布，温泉，橋梁，船渡，徒渡，鉱山，名邑，名池，四郡産物并佳品，越中土地，四郡気候，地質，風俗，界域，越中国神祇鎮座，越中国仏閣，越中国造・国司・国守・郡司・大領・小領・領家・守護・地頭之享歴，皇国治乱沿革図越中国，加越能三州沿革図説之内越中部
②○大野路，渋谷等，万葉集の内名所45
○越，越ノ浦等，歌に詠まれた名所104
○新川，婦負，射水，砺波四郡の山川原野
③○富山古城等，新川郡故墟50跡
○呉服山陣跡等，婦負郡故墟22跡
○高岡古城等，射水郡故墟14跡
○一乗寺古城等，砺波郡古墟33跡
○越中勇将，土着ノ郷士戦士
○越中鍛冶
○儒仏神者等古今有名佳士
④越中国四郡戦争略記
○木曽義仲，平維盛と倶利加羅に戦う
○源義経の微行越中を過ぎ奥州に到る
○東兵越兵を破り京に入る
○越中守護名越時有等自害す
○名越時兼兵を起こし，桃井直常之を伐つ，并びに普門蔵人利清，国司中院定清を撃つ
○大井田弾正少弼越中に到り，普門利清と戦う
○吉見氏頼越将と，しばしば能越を抗す
○桃井直常越中半国を駆せて撃ち之を隷す
○足利義将，直常を撃つ
○桃井直常直和，氏頼義将と接戦す
○加州富樫氏，火宅僧のため社稷を失うにつき，越中の将々加州征伐
○畠山義統，越中上杉顕定を并呑し越中を取らんと欲す
○長尾為景，越中三城を抜き，且つ上杉房義を殺す
○上杉顕定，長尾為景を撃って三役に報い，高梨摂津守，顕定を討つ
○長尾為景梅檀野に闘死す
○長尾景虎，七年の役に酬いんとし越中に出軍するも克てず，軍をかえす
○飯田利忠，城生城に走る

○謙信越中魚津を囲み，利無く囲いを解いて去る
○上杉謙信，しばしば神保椎名諸雄と戦ってやめず
○謙信，江波族を越中において斬って，栴檀野之役に報いる
○武田信玄，越に侵入し，飯富昌景を助ける
○畠山義則出奔し，義隆立つ
○謙信，増山城を攻める
○飛騨牛丸重親越中に遁げ来る
○神保氏春小出城を囲む
○白屋秋貞二城を抜き，并びに，二宮三宅村山塚山に敗る
○斎藤新五津毛城を攻める
○謙信，富山城を屠る
○三木広瀬，中地山を攻め，江間輝盛戦死す
○謙信，木船城を陥す
○謙信越中蓮沼・富山二城を陥す
○越雄割拠景勝来攻し，且つ信長，斎藤新五を撃たせ，孝恩寺越中に徴走す
○孝恩寺，越中二堡を陥す
○佐々成政，越中の領主と成る
○上杉景勝，河田豊前に小出城を攻めさせ，賀賊又起こり，佐久間これを撃つ
○姦賊遊佐族党を誅戮し，温井・三宅亡命し，石黒左近等誅死す
○信長，前田利家及び諸銃将に魚津松倉を抜かせ，佐々成政，土肥政繁としばしば兵を交える
○神保，佐々，城尾城を陥す
○佐々成政，姦謀し，且つ，旭山寨を攻め，前田利家これを援ける
○前田孫左衛門良継等勝山を攻める
○成政，末森を攻め，奥村永福等固く守り，二公が急援し，かつ
○成政，鳥越を取る
○土肥政繁境城を攻める
○前田利家，鳥越城下を焼く
○前田秀継，佐々平左衛門と倶利迦羅龍ケ峰で会戦す
○前田利家，蓮沼城辺を焼く
○前田二公，再び鳥越城を攻め奮闘す
○国祖阿尾城を得，越軍怒るも及ばず
○佐々前野，今石動近郷を焼き，加軍撃ってこれを敗る
○神保父子，氷見に出撃し，菊池等兵子潰乱するに，村井これを援け功をなす
○豊公北征，成政降伏を乞う
○豊主成政食封越中三郡を削り，前田利家に加封し，世子利長越中守山に転従す
○佐々内蔵助成政越中を去る

⑤諸籍の内に越中という名議の有る所を抜萃する等交々雑の部。

9087　越中古跡記三種　　16.84—71
前田家編輯方手写　明治年間
65丁　23cm
「越中古跡鈔」享和3(1803)年。富山城の藍觴，その他諸古城跡の解説。
「天文至天正婦負新川両郡守護并古城」享和3(1803)年。富山城その他諸城の城主とその解説。
「富山邑伝記」越中国婦負郡新川郡の古城跡并びに館跡等の由来。
○天文～慶長期の婦負新川両郡の高名古百姓，その他天文以来の加越能の雑事
○慶長～寛永期の庄官村名姓名，慶長末～寛永期の郷頭，寛永末～慶安期の十ケ村肝煎，慶安～明暦期の十村名前と郷庄名。
旧書名「越中古跡記」。

9088　越中古實記　　16.84—72
97丁　23cm
内容は，富山城の藍觴。寛文5年頃の富山町の状況，その他，諸古城跡の解説。越中諸旧跡の解説。

9089　越中古跡粗記　　16.84—73
95丁　23cm
越中の古城，名所旧跡に関する解説。安政5年(1858)の地震の被害記録を含む。

9090　越中名所記　　16.84—74
手写　明治21年(1888)
22丁　23.5cm
高嶋庄助所蔵の写。海岸・島嶼・野・山川，その他の名所旧蹟を記している。

9091　越中旧事記　16.84—75
手写
98丁　23cm
新川郡，婦負郡，射水郡，砺波郡の神社仏閣名所旧跡。

9092　〔越中国〕皇子皇女御墳墓取調書〔附絵図等〕　16.84—76
明治４年(1871)
55丁・絵図７枚　24.5cm・77×108cm　袋入
①越中各村より金沢藩庁に提出された書上げ以下絵図７枚の内容は
②射水郡氷見町西念寺境内絵図
③氷見西念寺信濃宮親王御墓之図(55×46cm)
④砺波郡安川村，淳良親王御陵絵図　彩色(28×59cm)
⑤砺波郡五位組舞谷村領之内親王塚絵図　彩色(36×47cm)
⑥砺波五位庄舞谷村領之内親王塚見取絵図　彩色(28×39cm)
⑦安居村安居寺長慶院様御陵絵図(35×24cm)
⑧安居村安居寺崇光院様御陵・長慶院様御陵絵図(35×24cm)。

9093　砺波郡古城跡山塚寺社古跡等書上申帳　16.84—77
手写　宝暦14年(1764)
29丁　24cm
安井顕比旧蔵。「宝暦十四年 砺波郡草木土石産物川淵深沼等書上申帳」も含む。

9094　古跡道程　16.84—78
手写
11丁　24cm
富田権六郎旧蔵。今石動，城端，氷見周辺の地誌。

9095　五箇山巡回記〔附越中国五箇山図〕　16.84—79
森田外與吉著
明治20年(1887)
34丁・絵図１枚　23.5cm・54×77cm
著者が富山県収税属派遣吏として五ケ山を巡回した時に記した地誌。父平次（良見）が序を記している。
旧書名「五箇山巡回記・絵図共」。

9096　射水通覧　16.84—80
川上三六編
明治14年(1881)　刊
43丁　19.5cm
地形，荘郷類名，古蹟，寺社，交通路，産物，町景況等を記す。

9097　二上山ヨリ四方遠山見渡之図　16.84—81
手写　嘉永５年(1852)
１帖　彩色　19.5cm
越中二上山から富山湾より内陸部山々，能登石動山付近までの遠望俯瞰図。

9098　越中国雄神川射水川古覧ノ図　16.84—82
五十嵐豊次著
森田平次手写
絵図１枚　27×38.5cm
庄川，小矢部川(射水川)と雄神川の古川趾の位置を示したもの。森田氏の地誌考を朱で加筆している。

9099　越中旧事記　16.84—83
手写
20丁　23.5cm
婦負郡の神社・仏閣・名所・旧跡を村ごとに記す。巻末に，新川郡婦負郡の寺院数を付載。

9100　越中第三大区地誌　16.84—84
手写
53丁　23cm
岡本昭似所蔵の写。明治11年(1878)原本成立。第三大区，即ち婦負郡について，その範域，戸数，人口，学校数，古城，仏閣，山川等を記した地誌。「富山藩支配道程取調書」をあわせて収録している。

9101　神通川水脈図　16.84—85
絵図１枚　彩色　28×19cm
高畠定辟旧蔵。越中・飛騨境より海迄，沿岸村名，用水口，橋等を記す。

9102　〔越中〕愛本橋上流図　16.84—86
絵図１枚　彩色　67.5×105cm
高畠定辟旧蔵。愛本橋とその上流河川，材木伐

出場所。山岳の図。

（領　　外）

9103　日本総国風土記　16.84—87
5冊　26cm
①「日本総国風土記第七十七～八十四」，武蔵国
②「　同上　第五十三～五十八」，駿河国
③「尾張国風土記」
④「肥前国」
⑤「出雲国風土記」，「風土記豊後国」。

9104　日本国郡名　16.84—88
手写
14丁　24cm
各国について，郡名と国の総石高を記す。

9105　新刻日本輿地路程全図　16.84—89
安永4年(1775)　刊
絵図1枚　彩色　64×98cm
阿波国儒者讃岐柴邦彦の序を付す。

9106　日本国総図　16.84—90
絵図1枚　65×175cm
日本沿岸航路と航程，主要街道と道程，主要宿駅等を記す。

9107　北条懐中道程記　16.84—91
北条氏長編
今枝直方手写　元禄4年(1691)
23丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。有沢永貞より借りて写したもの。江戸～大阪，大阪～下関，桑名～南海道，二条～中国(山陰)・四国・九州，江戸～東国の各城地道程，舟路などを記す。

9108　蝦夷地一件　16.84—92
石黒堅三郎著
手写
27丁　24cm
時期は不明であるが，蝦夷地への労働力移動等について記している。

9109　近代出羽疏誌　16.84—93
今枝直方手写　寛文11年(1671)
18頁丁　16×18.5cm
列国雑誌より出羽の分を抜書したもの。「右列国雑志抜書也寛文十一年五月十八日直方草印」という直方の跋文あり。

9110　〔羽州鶴岡領駅路図〕　16.84—94
絵図1枚　58×72.5cm
駅名及び道程を記す。

9111　羽後国山本郡八森銀山略図　16.84—95
絵図1枚　彩色　90×111cm

9112　南部野・五戸・七戸・仙台・会津・出羽地名　16.84—96
手写
3丁　8×18cm
会津・出羽地方については各城下名と藩主名が記されている。

9113　津軽道程　16.84—97
今枝直方手写　元禄4年(1691)
22丁　20cm
今枝氏旧蔵。江戸から奥州津軽，弘前までの道程，距離，駅の家数，一里塚等を記す。

9114　平泉中尊寺案内記　16.84—98
2冊　24cm　刊
原題「奥州平泉関山中尊寺案内記」上下。

9115　松島案内記　16.84—99
寺田能円著
文化8年(1811)　刊
6丁　26cm
松島来歴，名所案内記。

9116　専対秘鑑　16.84—100
伊藤伯陽著
36丁　23cm
前田貞醇旧蔵。文化3年(1806)成立。幕府・徳川氏・諸侯家来のこと。また江戸の町，地名産物のこと，朝廷公卿のことなどについての見聞を述べ，加賀の産物にも触れている。内容項目

は，御城御曲輪暨分野之事，東土風之事，御役人等并出家之事，国産之論。

9117 〔新潟より秋田まで道中案内〕 16.84—101
手写
19丁　12×18cm
各宿間の里程及び宿，道中筋案内。端本。

9118 江戸ヨリ会津迄駅路之記 16.84—102
有沢致貞手写　享保8年(1723)
6丁　24cm
有沢氏旧蔵。享保8年青地礼幹が使者として江戸より会津に赴いた際の覚書を抜書したもの。

9119 〔信州松本より和田までの駅路図〕 16.84—103
絵図1枚　彩色　48×104cm

9120 〔上州倉ケ野より江戸までの道之記〕 16.84—104
有沢武貞著
自筆　享保13年(1728)
36丁　12×28cm
原題「上州倉ケ野ヨリ野州日光山に到り宇津宮通千住へ出江戸迄之道之記并間道脇道附」。

9121 江府御屋敷ヨリ之方角〔図〕 16.84—105
手写
2枚　32.5×42.5cm・36.5×38.5cm
本郷屋敷を中心とした町々等の方角図。2枚は同一内容。
①横山政和旧蔵　②中川典右衛門旧蔵。

9122 駿州久能之図 16.84—106
絵図1枚　彩色　28×29cm
旧書名「駿州久能山絵図」。

9123 飛州略志 16.84—107
今枝直方著
自筆　元禄6年(1693)
2冊　20cm
①高山廃城，飛騨国の知行高，郡数，村数，家数，人数，地理的位置，古城，古跡，仏閣等を記す
②北陸より高山を経由して，江戸，尾張に至る諸道の道程を記す。地図を付載。

9124 〔尾州〕下之一色誌 16.84—108
手写
28丁　24.5cm
尾州一色村の地誌。大正2年8月15日の通行人・車数調査も記載。

9125 越前国諸郡切絵図 16.84—109
絵図5枚　彩色　28×38cm
大野郡2枚・今立・吉田・南条郡の各図。

9126 淡海録抜萃 16.84—110
今枝直方手写　正徳5年(1715)
4冊　27cm
今枝氏旧蔵。原田蔵六著の「淡海録」を手写するにあたり抜萃したもの。淡海は近江の意。
①淡海録中，第一海陸記，第二山川水石記，第三旧都并武将附古今御城記，第四古戦場記の部分
②同，第五近江村高記，第六給所及湖船記，第七海陸行程，同土産記の部分
③同，第八日吉，同仏閣，同山記，第九長等同興廃記，第十竹生石山記の部分
④同，第十一神社，同仏閣附年中行事記，第十二遺事雑録の部分。
旧書名「淡海録」。

9127 江州湖之図 16.84—111
手写　延宝7年(1679)
絵図1枚　彩色　101×141cm　袋入
脇田尚保旧蔵。琵琶湖の図。湖岸の地名及び周辺の山名を記す。

9128 琵琶湖東北西際之図 16.84—112
湯浅進良手写　文化14年(1817)
絵図1枚　彩色　39×70cm
表題「江州東西湖見取絵図」。加賀藩領今津・弘川両村を中心に描いた景観図。
旧書名「琵琶湖東北西際見取図」。

9129 平安城記 16.84—113
貝原篤信(損軒)著
7丁　22.5cm
平安京の地理・変遷について記す。

9130　都羽津根　16.84—114
元治元年(1864)　刊
56丁　11×15.5cm
古川・西沢氏旧蔵。内題は「元治改正都羽津根大全」。巻一のみ。内容は，京都の諸絵図・沿革・京都在住大名・所司代・町奉行・公家朝廷付侍・諸職人・学芸者・名所・神社等々を記録する年鑑。

9131　聞見雑記寄書　16.84—115
中井主水著
手写　延宝7年(1679)
16丁　25cm
京都，大坂等の城郭，寺社，橋梁の規模，及び京都の町数。

9132　維新前ノ京都御所之図　16.84—116
絵図1枚　彩色　80×160cm
間取図。各部屋の名称，帖数等を記す。
旧書名「京都御所之図」。

9133　〔鞍馬山図并天狗杉図〕　16.84—117
刊
2枚　35×25cm・28×20cm
鞍馬寺境内図。鞍馬山名木天狗杉由来并図。

9134　大阪府管轄市街区分細見縮図　16.84—118
山村保介著
赤志忠七　明治10年(1877)　刊
絵図1枚　彩色　73×54cm
官庁・社神・学校・警察等，大阪府管轄郡村縮図附。

9135　播陽室津図記　16.84—119
手写
4丁　19.5cm
今枝氏旧蔵。江戸時代以前に渉として栄えた「室津」について記す。漢文。現・兵庫県揖保郡御津町。

9136　吉備前鑑　16.84—120
今枝直方手写　宝永3年(1706)
38丁　21cm
吉備地方の史蹟，名勝，氏族，案内記。

9137　因幡民談抄　16.84—121
前田家編輯方手写　明治年間
15丁　25.5cm
小泉友賢著の因幡国の地誌「因幡民談」を抄出したもの。

9138　石州雑記　16.84—122
手写
23丁　23.5cm
元禄14年(1701)夏，石見国温泉津へ旅行したときのもの。14年冬より翌年秋まで。

9139　讃岐之国の図　16.84—123
絵図1枚　彩色　71×47cm
地名，街道，川等を記す。

9140　九州上使巡見懐中行程　16.84—124
今枝直方手写　元禄4年(1691)
20丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。九州巡回の行程を記した巡見使懐中書と，九州諸国各大名の知行高，さらに筑前，肥前の郡別知行高を記したもの。

9141　熊本俚談　16.84—125
亀井道斉著
手写　文化3年(1806)
2冊　24cm
内容は熊本の人情・風俗を土地の俚談・鄙言に託してのべた地誌。道斉は筑前の侍・儒者であり，日頃肥後国の善政徳化を慕っていたので，筑前国の治政に益する良法・美談を肥後に遊学し採集したものである。道斉は秋蔵，吐月先生とも号した。江戸在住の加賀藩士，藁偶子が手写。

9142　熊本俚談　16.84—126
亀井道斉著
松柏丸手写　文化7年(1810)
55丁　24cm
前号下巻の写。文化3年(1806)藁偶子の写本を再写したもの。
徒刑之事・籃刑之事・熊本刑法之事・長岡主水出銀ヲ触返事，郷校之事，賄賂追従道塞る事，経界を正し農民安堵之事，捨子捨馬罪法之事，

長岡主水雑劇を能民に仕立る事等よりなる。

城　跡・城　図

（領　　内）

9143　三州古城跡略記　16.84—127
手写
16丁　24cm
元禄9年(1696)原本成立。加越能三国の古城について，その城主等を記す。

9144　加越能城跡略記　16.84—128
増田半助著
手写
11丁　23cm
前号と同じ。

9145　御領内古城略志　16.84—129
今枝直方著
自筆　宝永2年(1705)
13丁　21cm
加越能三国の古城の来歴を記す。

9146　加越能三州古城考　16.84—130
田辺正己(吉平)著
手写
40丁　23cm
寛政13年(1801)原本成立。加越能三国，特に加賀における古城跡の解説。

9147　加越能三州古城考　加賀州　16.84—131
田辺政己(吉平)著
手写
42丁　23cm
外題「加賀州古城考，発以国事中書」。加越能三州古城考巻の一，加賀州の部を収める。奥書に「寛政13年(1801)正月，田辺吉平謹考」とあり，巻末に加越能三州，紀事暨古城考引用書目を附す。

9148　賀越能古城考　16.84—132
賀古清廉著
津田道賢手写　〔嘉永2年(1849)〕
17丁　24cm
安永7年(1778)原本成立。加越能三国の古城を各郡に分けて記したもの。

9149　三州城跡集　16.84—133
吉岡宏編
手写
45丁　23cm
加越能三国の城数，各城の来歴を記す。

9150　古城考五種　16.84—134
79丁　23.5cm
加越能古城考，三州古城蹟，三箇国古城，松任城趾図，三州廃城考。

9151　加能城址集覧　16.84—135
吉岡宏編
29丁　23.5cm
脇田尚保旧蔵。上巻のみ。加能各郡の古城について，その成立事情，城主，関連諸事件を記す。

9152　加賀国〔古城跡〕之図　16.84—136
絵図1枚　彩色　51×75cm

9153　大聖寺古城図　16.84—137
手写
絵図2枚　94×92cm・99×96cm
各屋敷地・郭の間数・面積を記す。2枚とも同内容であるが，1枚には貼紙があり，「右大将御出陣之跡之人数高」等を記す。

9154　大聖寺城絵図　16.84—138
深町景仰手写　寛政12年（1800）
絵図1枚　43×32cm
原氏所蔵の写。太平記，関ヶ原軍記を引用し来歴を略記する。前号に同じ。

9155　〔大聖寺古城跡山等歩数并絵図〕　16.84—139
1丁・絵図5枚　24cm・25×32cm
原題は「大聖寺古城跡山等五ヶ所凡歩数並概略之図」古城跡山，元県庁跡，第20区学校内空地，向数，救恤跡の歩数調査。

9156　〔江沼郡〕月津辺古墟之図　16.84—140
絵図1枚　32×55cm

表題「江沼郡大正寺御領月津之辺，鵜目氏屋敷跡ニ城地設ケタル躰」。
脇田尚保旧蔵。月津附近の鵜目左門屋敷跡と古墳を利用して築城を仮想した想定図。

9157　鳥越記　16.84—141
6丁　24cm
「越登賀三州志故墟考」のうち「鳥越」の項を抜萃したもの。

9158　能美郡今江古城之図　16.84—142
絵図2枚　28×40.5cm・26.5×37.5cm
①天保15年(1844)脇田尚方手写
②①とほぼ同一内容。
旧書名「今江古城之図」。

9159　今江村御幸塚古城跡之図　16.84—143
絵図1枚　彩色　23.5×36.5cm
安井頭比旧蔵。

9160　石川郡鞍ケ嶽古墟之図　16.84—144
脇田尚方手写　弘化2年(1845)
絵図1枚　彩色　35.7×50.5cm
脇田尚方旧蔵。

9161　〔石川郡倉ケ嶽古墟之図〕　16.84—145
絵図1枚　彩色　39.5×55.5cm
前号と同じ。

9162　加州石川郡松任鷹巣両城遺跡〔考〕　16.84—146
富田景周著
手写　天保15年(1844)
1通　24cm　袋入
枚任・鷹巣両城の城主その他について記す。

9163　加州石川郡松任城跡図　16.84—147
牧忠輔著
手写
絵図1枚　35×24cm
寛政5年(1793)成立。

9164　加州石川郡西市瀬村領鷹巣古城大略分間図　16.84—148
脇田尚方手写　弘化2年(1845)
絵図1枚　彩色　37×49cm
「文化元年(1804)桃花園主人検之」とある。城主考を付す。
旧書名「加州石川郡鷹巣古城大略分間図」。

9165　城趾書上申帳〔河北郡〕　16.84—149
5丁　24cm
河北郡の城跡を記す。

9166　加州河北郡五ケ庄朝日山之城跡〔附城由来〕　16.84—150
大石秀直著
手写
絵図1枚・1通　24×35cm・24.5cm　包紙
明治2年(1869)成立。佐々成政の攻入に村井長頼が抗した城とする。

9167　河北郡松根古城〔図〕　16.84—151
脇田真興著
絵図1枚　27×35cm
脇田尚保旧蔵。俯瞰図。「於山上真興図之」とあり。

9168　加州河北郡松根古城図　16.84—152
絵図1枚　23×68cm

9169　加州河北郡鳥越古城図　16.84—153
富山六左衛門著
手写
絵図1枚　彩色　28×38cm
脇田尚保旧蔵。寛文2年(1662)成立。城跡考を付す。

9170　〔奥郡古城跡之図〕　16.84—154
絵図1枚　23.5×34cm
脇田尚保旧蔵。穴水，中居近く入海のそば，地形のみ記した俯瞰図。

9171　越中四郡古城跡　16.84—155
巻子1　17cm
新川郡，婦負郡，射水郡，氷見之庄，砺波郡の45の古城について，その現状，由来を記す。
旧書名「越中四郡古城略記」。

9172　越中三郡城跡　16.84—156
手写
24丁　24.5cm
金谷孔彰旧蔵。砺波・射水・新川三郡の古城跡について，その規模，位置，由来を記す。

9173　越中砺波射水両郡古城等覚書　16.84—157
寛保2年(1742)
8丁　11.5×35cm
富田権六郎旧蔵。砺波・射水両郡の古城についての解説。朱書でさらに詳述している。

9174　従増山城跡四方眺望之図　16.84—158
巻子1　彩色　8cm
安井頭比旧蔵。増山城は，砺波郡般若郷増山村領にある旧城跡。中世において越中神保氏代々この城に拠ったという。別に亀山城とも呼ぶ。東は婦負郡長沢に通じ，西は和田川を隔て芹谷野につづく。背後は黒川野の山続き。この城からの眺望を，医王山から二上山・立山連峰とつづけて描いたもの。

9175　〔越中〕長沢之旧塁図　16.84—159
安達直章著
絵図1枚　彩色　28×40cm
南北朝頃の越中婦負郡の豪族長沢氏居館跡。

9176　〔越中〕安田古城之図　16.84—160
安達直章著
絵図1枚　彩色　28×40cm
婦負郡井田川沿の古城。

9177　〔越中〕大峪之古城分間之図　16.84—161
安達直章著
絵図1枚　彩色　31.5×43.5cm
大谷城は別名「伊賀城」，片山伊賀の居城という。婦負郡井田川沿いの古城。
旧書名「越中大峪古城之図」。

9178　越中富山領大ガケ古城〔図〕　16.84—162
手写
絵図1枚　28×39cm
脇田尚保旧蔵。

9179　新川郡郷庄古城　16.84—163
手写
12丁　22cm
○越州新川郡之郷庄付——新川郡各郷の範囲を記す
○新川郡古城付——新川郡諸古城の来歴と位置及び規模を記す
○新川郡古城館由来之事——新川郡の14の古城・館の由来を記す。
旧書名「越州新川郡郷庄古城」。

9180　〔越中〕蜷川館跡之図　16.84—164
安達直章著
絵図1枚　彩色　28×40cm
蜷川館は室町後半に越中に在国した蜷川一族の居館，新川郡にあり最勝寺館跡ともいう。蜷川氏代々之墳墓俗名を付す。

9181　越中小塚之城跡ヨリ方境図　16.84—165
絵図1枚　彩色　81×83cm
下新川郡泊町と境の間にある小塚城跡より望遠される越中，能登，佐渡の山々の方位を図示したもの。

（領　　外）

9182　諸城記　16.84—166
手写
87丁　19.5×13.5cm
有沢氏旧蔵。「御当家御治世以前御領国城主帳」「天正十八年北条家滅亡以来東海東山北陸国々所々城主従秀吉被定分」「天正十八年会津城賜蒲生飛騨守氏卿以来令城地氏卿家臣等置之」「天正十八年以前三河遠江等之間御当家人衆居住之諸城地帳」「慶長五年三成謀反節御当家方五畿内之城地」「慶長五年関東筋所々要害御当家御持領」「慶長五年治少乱時東山道御味方城」「慶長五年石田反逆節北国御味方衆」「慶長五年御当家方南海道諸城主」「慶長五年御当家方山陰道城地」「慶長五御当家方西海道城地」「慶長五治少方徒党之城五畿内，東海道筋，東山道，北陸道筋，南海道，山陽道，山陰道，西海道」「慶長五関原乱後以来国所庄園場之面々」「慶長五年以来身上減少之面々」。

9183　諸国城図附録集　16.84—167
有沢永貞著
脇田尚方手写　弘化2年(1845)
39丁　23cm
貞享4年(1687)，元禄5年(1692)原本成立。有沢永貞の諸国居城之図集，右凡例，諸城主記跋，五畿七道諸城箇所を収録したもの。

9184　盛岡城之絵図　16.84—168
手写
絵図1枚　105×82cm
城内，塁，堀，川，屋敷地を記す。石塁には高さを注記し，北つみ川の川岸の土手等寛永14年(1637)等の洪水で破損したこと等を記す。

9185　会津征伐陣図　16.84—169
手写
絵図1枚　27×40cm
慶長5年(1600)，上杉景勝征伐の陣取図。直江山城の陣及び周辺各陣間の距離が記されている。門天村・中野等の地名がみられる。

9186　和州郡山城図等　16.84—170
手写
絵図6枚　28.5×39cm
①出雲松江粗図
②羽州山形(26.5×41cm)
③和州郡山城図(31.5×44.5cm)
④伊予之国丸亀之城図(44.5×55.5cm)
⑤下総国国府台(29.5×44cm)
⑥遠州高天神古城(28×38cm)。

9187　〔江戸城之図〕　16.84—171
手写　明和9年(1772)
絵図4枚　41×55cm
前田貞醇旧蔵。①西ノ丸（41×55cm）②内曲輪（27.5×51.5cm）③外曲輪（54×82cm）④紅葉山（27.5×41.5)。

9188　〔江戸城之図〕　16.84—172
高畠厚定手写　安永4年(1775)
絵図1枚　28×40cm
高畠氏旧蔵。江戸城下外町名近村等の図。

9189　江戸城西之丸図　16.84—173
手写　享保7年(1722)
絵図2枚　74×81.5cm・28×41cm
1枚は享保7年(1722)に源秀潤が鳥海俊忠所蔵図を写したもの。

9190　武州類従図覧之部　16.84—174
手写　天保15年(1844)
絵図10枚　彩色　36×41cm　袋入
脇田尚保旧蔵。
①江戸御城図
②二枚之内御本丸中御間取細見之割　(40×54.5cm)
③　同　上　(28.5×60cm)
④御城下外町名近村等之図　(40.5×55cm)
⑤江戸名所旧跡神社仏閣等之図(版本)　(30×81.5cm)
⑥御本丸・二之御丸・西御丸御城御郭配之全図　(28×41cm)
⑦二之御丸之図　(40×52cm)
⑧西之御丸全図　(47×39cm)
⑨紅葉山之全図　(27.5×40cm)
⑩東叡山御宮等之略図　(27×29.5cm)
旧書名「江戸城図」。

9191　江戸小石川御殿之図　16.84—175
手写
絵図1枚　彩色　30×43cm
小石川御殿は，延宝8年(1680)家綱のとき，綱吉の邸として建てられ，正徳2年(1712)家宣のとき廃城となる。

9192　公辺御城略図　16.84—176
手写
図1枚　彩色　26×38cm　包紙
高畠定辟旧蔵。江戸城本丸殿舎内の諸大名の詰めている付近のみの間取り。
旧書名「江戸城略図」。

9193　江戸丸之内大名屋敷図　16.84—177
手写
絵図1枚　25.5×46cm
島田孝郷旧蔵。江戸城下の大名屋敷配置図。

9194 芝御屋敷御茶屋粗絵図　16.84—178
手写
絵図1枚　彩色　42×120cm　袋入
屋敷全体の間取り図と，その中の茶室の写生図
加賀藩邸には芝御屋敷はないが，3代利常の女熊姫，10代重教の女穎姫はともに会津侯に嫁し，いずれも芝御前と呼ばれたので，その邸宅か。

9195 上野国沼田之城図　16.84—179
手写
絵図1枚　80×70cm
沼田城の本丸・曲輪，周辺の城の配置を記す。ただし「此城図悉ク偽図也」とあり。

9196 上州安中居館之図　16.84—180
絵図1枚　94.5×140cm
元禄10年(1697)成立。上州安中堀田氏居館を中心にしたもの。

9197 信州松城之図　16.84—181
手写
絵図1枚　55.5×49cm
信州松代城の図。本丸を中心とする城郭部と周辺の村々・街道・山を記す。

9198 飛騨国高山城図　16.84—182
森田平次(良見)手写　嘉永6年(1853)
絵図4枚　100×56cm
元禄年間（1688～1711）成立。①は総図　②は本丸の図　③は二之丸屋形の図　④は二ノ丸の内庭樹院殿屋敷の図。袋の表に嘉永6年(1853)8月付森田平次の覚書があり，写図の由来と宰相様(斉泰)の供覧に浴したことを記す。

9199 駿府城之図　16.84—183
手写
絵図1枚　67×68cm
城郭図。本丸・二の丸，三の丸を記し，三の丸には成瀬隼人，安藤帯刀，永井右近，石川主殿頭，西尾丹波の屋数が記されている。

9200 大垣城之絵図　16.84—184
手写
絵図1枚　67×67cm
寛永18年(1641)2月5日付の写。
松之口升形石垣築直し，同立門等について幕府の普請許可の際の絵図。

9201 三州刈谷之城図　16.84—185
絵図1枚　彩色　144×99cm
一部分のみ。

9202 尾州名古屋城之図　16.84—186
手写
絵図1枚　78×100cm
「慶長十五年尾張名護屋御普請書付二月より十二月廿三日迄」とあり，石垣，櫓，郭櫓の間数を記す。

9203 勢州津之城図　16.84—187
絵図1枚　100×82cm
輪郭のみを記す。

9204 山城国淀城之図　16.84—188
手写
絵図1枚　71.5×73cm
城域と木津川・淀川・京川の川筋等を記す。

9205 丹後宮津城図　16.84—189
絵図1枚　48×71.5cm
堀・城壁等の配置と周辺の状況を概略。

9206 肥前名古屋城陣取図　文禄之役　16.84—190
巻子1　彩色　120cm
「肥前名古屋城陣取図，当所大庄屋」とある。文禄の彼における肥前名護屋の配陣図。成立は不明であるが，裏書に安政6年(1859)大庄屋代役松尾直太郎，慶応4年(1868)松尾恵が補修したとある。

漂　流　記

9207 海外漂流年代記　後編　16.84—191
芥子屋重兵衛著
江戸　大和屋喜兵衛　刊
巻子1　38cm
文永～嘉永迄の海外からの来国，海外への遣船及び漂着船等を年代順に記す。

9208　清朝沙汰　16.84—192
国田曽右衛門等著
26丁　20cm
寛永20年(1643)越前三国浦新保村の者58人の船が嵐のため漂流，猩狙国に漂着した後，明，朝鮮，対馬の経路で帰国した際の言上書。

特16.85　法　政・経　済

政　治　論

9209　夢中禄　16.85—1
杉野多助著
加須屋玄在手写　安永９年(1780)
５丁　24cm
小木貞正旧蔵。杉野多助は加賀藩士，名は盟。明和２年養父の遺知300石を継ぎ，御馬廻，改作奉行を勤め，のち昇進して文政７年定番頭に至り，同年致仕，天保９年没90才。儒教による治政論。

9210　讒語秘策　16.85—2
上田耕著
手写
44丁　23.5cm
上は王公から下は乞食にいたるまで相応の言行あるべきを説いたもの。巻之上は，儒，僧，医，農，商売，乞食，巻之下は言行，利害，正奇，雑事に分かれる。

9211　塡移小議　16.85—3
永山平太著
前田家編輯方手写　明治年間
46丁　23cm
弘化３年(1846)成立。国体・士・農・人君等につき所見を記す。

9212　加藤豊房意見書等　16.85—4
前田家編輯方編
明治年間
38丁　23.5cm
加藤甚左衛門豊房は，知行100石定番組，天保７年より明倫堂にて講ず。「刑律意見書」などを収む刑法論。

9213　上書集　16.85—5
成瀬正敦手写
48冊　24cm
成瀬正居旧蔵。全50冊のうち第45，46を欠く。天保～明治９年(1876)にわたる海防，外交，政情等についての上書・意見書・覚書などを集めたものである。内容は雑然と収録されている。題名は，巻によって付されていないもの，あるいは主な収録史料名を以て代えたものなどがあり，整理されていないが，以下のごとくである。
①浦賀表異国船渡来見聞日記(嘉永２年)，嘉永２年５月於新部屋伊勢守殿備前守殿御直渡御書取，同年同月火番頭九鬼式部少輔組中江申渡書付，弘化３年３月異国船之儀ニ付申上候書付，水戸斉昭公御書之写
②嘉永２年５月伊勢守殿御直三奉行へ御渡，嘉永２年12月浦賀奉行上書，防海策附抄（御目付方より御達書極密書也），外船写，秘本海防上書等
③水戸老公御密書，山鹿素水小原仁兵衛問答，海防急務上書（山鹿素水），海岸防禦一策（天外仙人）等
④内密答問録(嘉永２年，鶴峯彦一郎)，調練説(嘉永３年，藤川憲)，官湊私記(素蓮)，献芹微衷(大槻清崇)，嘉永６年筒井政憲の記，うたたねの目覚(嘉永７年)
⑤秘本上書写(嘉永６年，山鹿素水)
⑥亜美理駕書翰５通，秘書—異国書翰和解等(修志堂蔵)，魯西亜書簡写(嘉永7年正月2日)
⑦嘉永五子歳別段風説書，嘉永７年７月和蘭風説書和解
⑧天保３年10月塵浜村清兵衛異国江漂着之口書，亜墨利加ヨリ帰国聞書，嘉永６年漂流人地頭町村百姓理助弟理之助口書
⑨佐久間修理上書(天保13年)
⑩防海集説(天保13年，八木千之)
⑪海防要器論(弘化４年，柿園川猷)，海防三策(大島桃年)
⑫於長崎魯西亜船乗組糺之節申口，伊勢守殿御直諭書大意写，魯西亜船へ乗込候ニ付申合書
⑬安政３年７月下田ニて亜人応接之始末，安政３年９月２日応接
⑭水府公献策(上，下)

⑮浦賀日記(安政３年８月)
⑯異国船見聞録，浦賀市中模様并近在共，諸家様より御老中へ御届之写，江戸模様，泉沢弥太郎紙面抜書，続江戸模様
⑰浦賀表等異船渡来一件(一)
⑱同(二)
⑲嘉永７年正月ヨリ浦賀表異船渡来一件等(三)
⑳異国船渡来一件等(四)
㉑同(五)
㉒同(六)
㉓同(七)
㉔同(八)
㉕秘書之分亜墨利加登城一件等
㉖守衛或門（上・下，安政３年，信州松本　清水義洋著）
㉗読夢人檄文(弘化元年)，兵一大活物論（山鹿素水)，高島喜平秋帆上書，水府老公御書翰（嘉永６年海防愚存）
㉘風説雑記(一)
㉙同(二)
㉚上書集（水戸斉昭卿朝廷へ存意書，外桜田の変事覚など）
㉛同（外桜田の変関係，安政５年６月水戸老公御書之写など）
㉜同（東禅寺襲撃関係，水戸源烈公墓枕石文，水戸浪人扱い方，外国人への書翰など）
㉝同（文久２年坂下門前の変関係，水浪所持之斬奸趣意書，東都名産魚類尽し，京都風説書長州毛利大膳大夫殿上書など）
㉞同(上書風説，京都風説書など)
㉟同（藤堂和泉守上表，土州内乱聞書，亜魯英仏四品盟約書，細川侯へ魚住等より指上候建白写。松平阿波守上書など）
㊱同（佐野鼎書面，文久２年松平大膳大夫伺書，論孟聞書，将軍家上洛御行列附，御沙汰書など）
㊲同（文久２年海防基元，神奈川新聞・横浜新聞の写，下関にて仏蘭西舟打払聞取書，いろはたとへ，宮腰輪島屋弥兵衛下関にて承候風評并見聞，松平大膳太夫・毛利右京亮上書，夢中問答，杞憂譚など）
㊳同（文久３年８月～４年２月大和五条の乱，大和行幸，長州・薩州・土州より言上之趣，河内日記，宸翰写など）
㊴同（元治元年６月～９月の風説，長州浪人京都へ入込に付召捕等，竜野建言，水口建白など）
㊵同（福井国政風説書并評，日本貿易新聞第六十号など）
㊶同（開国論，鎖国略弁，無識卑論，行軍繰出帳，蛙の問答，など）
㊷同（慶応２年薩州侯建白之写，日本新聞外編巻25，巻19抄日本新聞刊者呈す，など）
㊸同（奉勅始末，日本新聞外編巻30抄，中外新聞巻３抄，など）
㊹同（朝鮮国与外夷戦闘書契，東山道鎮撫総督之農商江布告，於熊谷駅忍索繰人平塚与申者より承合候風説書，布村周輔書状，日新通志第１・第３抄，など）
㊺㊻欠 → 16、29-175
㊼同（明治２年秋月右京亮檄文，防長藩治職制職員令，能州総持寺謹奉建言，耶蘇防禦之法則，学校則，など)。
㊽同（知医論，太政官日誌写，明治２年大学校規則，大学規則，中小学規則，学課　舎中条規，生徒心得，仮小学第四校規則，釈奠詔写，宣布大教詔写，宣教長官宣命写，宣教使心得書，など）
㊾同（西郷吉之助今度出京申立之由風聞，官制案，皇国総人員等，明治４年金沢中学西校改正普通学規則，新県取計心得，県治職制，法普戦争志略
㊿同（新聞雑誌・日新真筆・郵便報知新聞の抄，明治５年金沢石浦町橋健堂私塾教授之学名并生徒人員，相生橋共立学校規則，東京日々新聞の抄，開成学校科目表，神仏混淆改正，議，愛知師範学校入学検査科目等，文論，など)。

9214　炎々論　　16.85—6
臥虎隠士著
手写
11丁　24cm
西丸炎上の際，上納，冥加金賦課は良策ではないと匿名で意見を述ぶ。

9215　[大郷巻蔵上書]　　16.85—7
手写

9丁　25cm
大郷巻蔵の名は穆，間部詮勝の家臣。安政6年(1859)詮勝への上書。

9216　画灰書　16.85—8
羽倉用九著
思斎源有邑手写　安政6年(1859)
57丁　23cm
内題「画灰書隔靴論」。開港に伴なう外国との交渉に対する意見を述べる。

9217　桑名侯上書　16.85—9
手写
4丁　23.5cm
アメリカとの開国反対を述べた意見書。

9218　水府斉昭公御書　16.85—10
手写
5丁　24cm
「北亜米利幹三十一州共和治政庁長官より之書翰江御返答相成可然儀見聞ニ随い，縮ニ書綴候事」。旧書名「水府公御書」。

9219　水府公献策　16.85—11
手写
20丁　24cm
水戸の徳川斉昭による，言路，宝貨，互市，邪教，蘭学，船艦，北地，御書簡に関する見解。

9220　攘夷愚策　16.85—12
忍海著
手写
2丁　24cm
ペリーの開国要求に対する意見書。

9221　杞憂譚　16.85—13
5丁　24cm
外国船来航の情勢の中で，彼我の軍事力・戦力について述べ，軍事対決の方向を憂うもの。

9222　〔薩州幕府へ届書写〕　16.85—14
手写
1通　16cm
坪内氏旧蔵。文久2年（1862）の寺田屋騒動に関する，松平修理大夫（島津茂久）家来，西筑右衛門書状写。

9223　京都向等上書之写　16.85—15
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。奥村栄通の手留。外題の箇所に「極秘」と記され，文久3年(1863)と元治元年(1864)の諸侯・諸士等の上書・建白などを記す。

9224　蛙の問答　16.85—16
11丁　24.5cm
青蛙と山蛙の問答体にした文章で幕末政情や海防の問題を論ず。文久4年(1864)成立。

9225　〔列〕藩士より天朝・幕府へ建言写　16.85—17
手写
9丁　24cm
列藩之士による元治元年(1864)の建言写。
旧書名「天朝・幕府へ建言写」。

9226　越前侯建白等　16.85—18
手写
5丁　24cm
安井顕比旧蔵。長州征伐についての越前侯（松平慶永）建白文および慶応元年風説書から抜粋の長州征伐に関する檄文。

9227　〔亀井隠岐守上書〕　16.85—19
手写
3丁　25cm
表題「朝廷ニ上ルノ書」，禁門の変後における長州藩の処置について寛大を願う上書。亀井隠岐守玆監(これかね)は津和野藩主。

9228　〔近藤勇等建白書〕　16.85—20
手写
仮綴1（4丁）　24cm
鳥取藩主池田慶徳建白書，仙台侯建白書も綴る。
旧書名「近藤勇建白書并仙台侯建白書」。

9229　真木保臣建言草按　16.85—21
真木保臣著
前田家編輯方手写　明治年間
55丁　23.5cm
真木和泉の息子保臣の建白書や上書文などの写。

9230　異香田野遊女　16.85—22
12丁　24cm
午睡の一夢に託して佐幕的立場から書かれた幕末の政治評論。

9231　上言書　16.85—23
手写
3丁　25cm
幕末期政争に関する意見書。

9232　上意振拝写他　16.85—24
手写
2丁　12×34cm
斯波氏旧蔵。国政に関する意見を求める表題の文書のほか，「老中演述之趣写」等を収む。

9233　〔島津・板垣・木戸建白書写〕　16.85—25
手写
5丁　24.5cm
安井顕比旧蔵。「左大臣従二位島津久光誠恐惶謹言」・「参議木戸孝允建白」「参議板垣退介」と題する3通の建白書写。

9234　桐野利秋談話　16.85—26
桐野利秋著
石川九郎・中村俊次郎手写　明治7年(1874)
20丁　24cm
安井顕比旧蔵。本文の前に「鹿児島ニ於テ桐野利秋氏ニ面談シ征韓討湾之事由及ヒ今後内外ノ変勢ニ処シ有志輩尽力スヘキノ機期目的ヲ叩窮センと件々ヲ筆記ス」とあり，談話筆記の事情および内容がわかる。

9235　革政大意〔板垣退助談〕　16.85—27
手写
仮綴1(5丁)　24cm
富国強兵による国家に対する四民平均の革制，禄券の事，帰農帰商の事などについて記す。巻末に「右ハ高知藩福井藩米沢藩鳥取藩徳島藩五藩の参事同意論ニて米沢参事出張す。右ハ板垣退助ト云当時参議之人議論之よし也」とあり。

9236　蝦夷地開拓意見書　16.85—28
安井和介(顕比)著
前田家編輯方手写　明治年間
18丁　25cm
著者が軍防局御用掛，越後府判事であった時に太政官総裁，弁事御伝達所に宛てた戊辰3月，同5月，同6月(2通)，同7月，同8月11日付の6通の意見書を収む。

9237　井口嘉一郎対策論　16.85—29
井口嘉一郎著
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　23cm
内容は明治元～2年(1868～69)の仮建御所対策，衣服章程対策，駅逓之章程対策，対策一篇(造貨幣)，定権量，その他郡県議などに関する意見。井口の貢士としての意見。
旧書名「対策」。

9238　義熟兵舎開建願之事　16.85—30
手写
5丁　24cm
明治5年(1872)，明治政府に対して軍備充実のため，外国の例にならって義勇兵舎を開設することを促したもの。

9239　窮試〔下巻〕　16.85—31
佐田介石著
明治初期
65丁　24cm
耶蘇・浮屠の項からなり，政府の宗教政策に関する献諫草稿。

9240　加藤恒意見書　16.85—32
明治23年(1890)
12丁　24cm
華族のあり方についての意見書。加藤恒の字は久也・松塢。置県後学務課長，明治12年石川県議会議長，能美郡長，金沢区長を歴任，明治14

年前田家に入り家令となり，同32年57才没。

9241　大槻磐渓書簡　16.85—33
大槻磐渓著
手写
39丁　23.5cm
大島多計比古所蔵の写。大槻磐渓(清崇)は幕末～明治の儒者。海防に関する意見等を記す。

9242　間窓筆娯　16.85—34
陸義猶著
手写
6冊　24cm　帙入
明治期の成立（一説に明治40年（1907）成稿とする)。著者の漢詩，書簡，日記，政論，時論などを収む。

9243　間窓筆娯余録　16.85—35
陸義猶著
〔大正初期〕
104丁　24cm
答三善東瀛・興森静一・興江川良知・答野村直彰・寄四元老議革政書・革政私議等よりなる。

法　　規

9244　堂上方法度書　16.85—36
手写
29丁　25.5cm
今枝氏旧蔵。慶長18年(1613)～承応4年(1655)の「公家衆法度」「禁中并公家諸法度」など堂上方に対する幕府の法度書，および嘉慶2年（1388）～寛文3年（1663）にわたる飛鳥井家古文書写を収む。

9245　制札之式　16.85—37
手写
15丁　22cm
有沢氏旧蔵。室町時代以来の制札の規式。

9246　武家厳制録　16.85—38
10冊　28×18.5cm
①巻一（禁裏院中并公家中御条目)，巻二（武家御条目之部)
②巻三（御陣中付御上洛并日光御成御条目之部)，巻四（日光御成御条目)，巻五（所々御番城御条目之部上)，巻六(同下)
③巻七（諸宗寺院僧中御条目部）～巻十（同)
④巻十一（神社御条目部）～巻十八（福嶋左衛門大夫領国被召上候時御制法之部)
⑤巻十九（京極丹後守御預之節御掟之次第）～巻廿四（万札之部)
⑥巻廿五（万札之部）～巻卅一（雑部)
⑦巻卅二（雑部）～巻卅五（雑部)
⑧巻卅六（雑部）～巻四十（家綱公御本丸御移徙之時御条目部)
⑨巻四十一（家綱公御元服之次第上）～巻四十六（所々御番所之次第)
⑩巻四十七（所々御名代付上使之次第）～巻四十九（公帖并御内書之次第等)。

9247　備藩典刑録　16.85—39
湯浅元禎著
手写
2冊　28×20.5cm
内題「新太郎様御世被仰出候覚」。天明5年(1785）の四明井潜の序あり。内容は新太郎すなわち岡山藩主池田光政治世下で発布された寛永11年（1634)～寛文8年（1668)にわたる藩法集。
①寛永11年～明暦2年
②明暦2年～寛文8年。

9248　〔諸法度考案之覚〕　16.85—40
有沢才右衛門著
仮綴1（7通）　15cm
○武家諸法度の内城郭新築の義に付口上書
○徳川松平の御称号の義に付書上
○軍中費ヲ娚ヒ申品々等につき覚書等
旧書名「武家諸法度等覚」。

9249　公辺御聞合之品　16.85—41
2冊　23cm
元禄13年(1700)～寛政3年(1791)の幕府における規式・刑罰等に関する法例，および法令に関する質問とその返答（法解説）を収む。
①元禄13年～寛政3年　②寛政3年。

9250　御法度書　16.85—42
手写
2冊　27cm
寛政2年（1790）4月の幕府法令。寺社・町・勘定三奉行宛に執政上の心得のため元文5年松平左近将監被仰出をふまえて評議の上定めたもの。

9251　公事訴訟取捌　16.85—43
乙幡源手写　寛政7年(1795)
2冊　23cm
内容は，主として安永期以降の幕府法令153項を雑然と集録したもの。第1冊巻頭に目次あり。

9252　橘爪御門并三之御丸留帳　16.85—44
横山某著
手写　文化元年(1804)
20丁　8×17.5cm
横山隆太旧蔵。御定書，触達，関係役職名等の留書。

9253　東北風俗厳令雑記　16.85—45
112丁　23.5cm
天保12年(1841)・13年の江戸町触等を収録。一部に徳川家奥御儒者成嶋邦之丞の上書，詩歌等を収む。

9254　他藩刑法・幕府刑法・刑事参考書　16.85—46
前田家編輯方編
明治年間
合綴1（2冊）　27.5×19.5cm
刑法類と処刑実施例等を収録。
①他藩刑法（水戸藩に関し「太陽」11号記事の転載）。幕府刑法（己卯雑志・袖裏雑記からの抜書）
②刑事参考書(宝暦～幕末の御仕置例等)。

9255　太政官日誌　16.85—47
太政官編
慶応4年(1868)～明治7年(1874)　刊
合綴12　20～22.5cm
①第1～18　慶応4年2月～5月　18冊
②第19～43　慶応4年5月～7月　25冊
③第44～67　慶応4年7月～8月　24冊
④第68～89　慶応4年8月～9月　22冊
⑤第90～110　明治元年9月～10月　20冊
⑥第112～133　明治元年10月～11月　22冊
⑦第134～158　明治元年11月　25冊
⑧第159～178　明治元年11月～12月　20冊
⑨第30～62　明治2年3月～6月　27冊
⑩第21～40　明治5年3月～5月　20冊
⑪第1～165　明治6年1月～12月　158冊
⑫第42～110　明治7年3月～8月　45冊

9256　江城日誌前編　16.85—48
太政官編
京都　御用御書物所　慶応4年(1868)　刊
合綴1（16冊）　22cm
慶応4年江戸城明渡直後から上野彰義隊事件の頃の新政府の公文書記録集。
①江城日誌前編　4月21日～閏4月24日
②江城日誌第一　閏4月29日～5月3日
③　〃　第二　5月6日
④　〃　第三　5月8日～13日
⑤　〃　第四　5月14日～15日
⑥　〃　第五　5月15日～16日
⑦　〃　第六　5月16日
⑧　〃　第七　5月16日
⑨　〃　第八　5月16日
⑩　〃　第九　5月17日～20日
⑪　〃　第十　5月21日～24日
⑫　〃　第十一　5月25日
⑬　第十二　5月25日～28日
⑭　第十三　5月29日
⑮　第十四　5月29日
⑯　第十五　5月30日。

9257　東京城日誌　16.85—49
太政官編
京都　御用御書物所　明治元年～2年（1868～69）　刊
19冊　22×15cm
旧江戸城を皇居と定め，東京城と称したが，本書は東京城における政務記録
①東京城日誌第一(明治元年10月)
②　〃　第二(　〃　10月)
③　〃　第三(明治元年11月)
④　〃　第四(　〃　11月)
⑤　〃　第五(　〃　11月)
⑥　〃　第六(　〃　11月)
⑦　〃　第七(　〃　11月)
⑧　〃　第八(明治元年12月)
⑨　〃　第九(　〃　12月)

⑩　〃　第十(　〃　12月)
⑪　〃　第十一(　〃　12月)
⑫　〃　第十二(　〃　12月)
⑬　〃　第十三(　〃　12月)
⑭　〃　第一(明治2年正月)
⑮　〃　第二(　〃　正月)
⑯　〃　第三
(　〃　正月27日～2月7日)
⑰　〃　第四
(明治2年2月8日～2月15日)
⑱　〃　第五
(　〃　2月19日～2月30日)
⑲　〃　第七
(明治2年3月8日～3月9日)。

9258　〔太政官布告并諸官省御達等〕　16.85—50

太政官等著

金沢藩手写　明治年間
605　23
60通・23冊・7枚・仮綴2　16～22cm

太政官および民部，兵部，刑部，大蔵，外務，工部の各省，東京府などから発令された明治2年～4年の布告の写が主。金沢藩からの伺書，願書などもある。

1　神祭・神務

①正月式布告　12月　太政官
②正月式布告　〃　〃
③軍神祭神事　正月　〃
④祈年祭告文　〃　〃
⑤神祇官行幸延引　〃　〃
⑥神武天皇御祭典　3月　〃
⑦神官御神拝　12月
⑧元日朝拝仰出取消　12月28日　弁官
⑨八神殿御祭典　12月　太政官
⑩神祇官行幸　〃　〃
⑪神祇官行幸　〃　〃
⑫神祇官御親祭土民一同参拝　12月　太政官
⑬軍神御祭　正月　太政官
⑭元日朝拝　12月　〃
⑮孝明天皇御陵御遙拝　12月　太政官
⑯浜殿行幸延引　9月　〃
⑰孝明天皇御祭典　12月　〃
⑱神殿御鎮座・鎮魂祭　〃　〃
⑲神祇官行幸還幸　3月　〃
⑳仁孝天皇廿五御祭日　正月23日　〃
㉑天皇賀茂祭拝下　4月　〃
㉒軍神祭執行　正月　〃
㉓天神地祇霊御祭　12月　〃
㉔内侍所御神楽　〃　〃
㉕元日朝拝　〃　〃
㉖忌済ニ付着服礼出仕　明治3年正月　〃
㉗神祇官行幸　正月12日　太政官
㉘神祇官行幸　正月　〃
㉙四帝御崩日ヲ祭日ト定　〃　〃
㉚軍神祭祝砲　〃　〃
㉛節朔参賀不参者届出　明治3年午5月　太政官
㉜氷川祭御神事　午6月　〃
㉝三帝御諡号拝領御神事　午7月　〃
㉞三帝御諡号拝領御神事　〃　〃
㉟三帝御諡号拝領御神事　〃　〃
㊱男山祭御神事　午8月　〃
㊲元服願書并昇殿参朝事　〃
㊳中秋祭男山祭ト改称　〃　太政官
㊴神宮例幣御神之事　〃　〃
㊵鹿島社香取社御遙拝　午9月　〃
㊶天長節ニ付重服者参朝停止　午9月　〃
㊷天長節衆庶一同奉祝令　〃
㊸招魂社大祭ニ付境内競馬執行　9月13日　兵部省
㊹天長節衆庶一同奉祝令重而仰出ス　9月　太政官
㊺氷川社行事　午10月　太政官
㊻賢所臨時御神楽祭典　午10月　〃
㊼氷川神社行幸小休所　10月　金沢藩→弁官御中
㊽朝集割仰出　10月　太政官
㊾氷川神社行幸小休所
10月19日　金沢藩→弁官御中
㊿氷川神社行幸作法　10月22日　〃
(51)氷川社行幸　10月　太政官
(52)氷川社行幸　〃　〃
(53)諸祭参勤之節衣帯之儀　辛未正月　太政官
(54)内侍所御神楽　午11月
(55)孝明天皇御祭典　午12月　〃
(56)神祇官行幸・神事執行　午12月　〃
(57)勅祭神社等年始拝賀之賀表提出規則
午12月　太政官(1冊)
(58)勅祭神社等年始拝賀之賀表提出規則(1冊)
午12月　太政官
(59)元日朝拝　午12月　太政官
(60)孝明天皇御祭典　〃　〃

㊶元日四方拝式改定　〃　〃
㊷元日朝拝服装令　〃　〃
㊸孝明天皇御祭典　〃　〃
㊹2月4日祈年祭執行神事　未正月　太政官
㊺19日神祇官行幸　〃　〃
㊻2月4日祈年祭休暇　〃　〃
㊼神祇官行幸御延引　〃　〃
㊽神祇官行幸　〃　〃
㊾御祭典ニ付地方官勅任以上出仕
未正月　太政官
㊿神祇官正月3～4日祭典　午12月　太政官
(71)神祇官神祭後庶民参拝　〃　〃
(72)神務天皇御祭典　未3月　〃　（1冊）
(73)神務天皇御祭典　〃　〃
(74)神務天皇御祭典ニ付行事　〃　〃
(75)賀茂祭神事　未4月　〃
(76)大嘗会御祭典神事　未5月　〃
(77)氷川社祭神事　未6月　〃

2　天皇・皇族

＜宮内務＞
(78)隠居嫡子天機伺
12月20日　金沢藩→大聖寺藩等
(79)親王家用来菊紋改　3月　太政官
(80)諸御礼宮内省当番言上　11月　〃
(81)天機伺口達書
(82)神祇官内諸陵寮設置　9月　太政官
(83)別紙十通宣旨相成達
10月9日　弁官→金沢藩知事
(84)仁和寺宮東伏見宮ト改ム　明治3年2月太政官
(85)梶井宮改称　午12月　〃
(86)新規取立親王二代目ヨリ華族　午12月　〃
(87)照高院宮北白川家改称　午12月　〃
(88)刀剣宮内省江差出事　未正月
御剣鑑定本阿弥中川南門次→金沢藩御用人中
(89)宣旨書式別紙通達　未3月　太政官
(90)参賀任叙御礼天機伺等　未5月　弁官
(91)(90)の関連)参賀之布告取消　5月14日　〃
(92)　(90)の別添書　未5月　〃
(93)天機伺・参朝日伺　未5月2日
前田慶寧→弁官御中
＜典礼・儀式＞
(94)官服之節襪着用　12月　太政官
(95)新政府公卿・官吏行列次第　（6枚）
(96)平常内外供連之儀伺　午11月
金沢藩→弁官御中
(97)正月式　午12月　太政官
(98)来春賀正順序取調　12月23日
(99)年始ニ奏任官へ祝酒下付事
12月24日　弁官・太政官
＜皇居＞
(100)外宮・末社遙拝所焼失　12月　太政官
(101)外桜田門等通行門限　3月　〃
(102)江戸皇居御門通行之規則　兵部省
(103)皇居御門通行鑑札締　3月　太政官
(104)各藩皇居警衛兵員等調査　〃　兵部省→各藩
(105)皇居出入鑑札改渡　〃　太政官
(106)皇居通行鑑札拾得届　〃　〃
(107)御門締切後通行者取締　〃　〃
(108)外宮・末社・遙拝所焼失　12月　〃
(109)御所近火　明治3年正月　〃
(110)皇居御門警衛兵規律　3月　〃
(111)皇居御門警衛兵規律　午5月　（1冊）
(112)竹橋等五門通行許可　午6月　太政官
(113)皇居諸御門夜間通行改　明治4年未正月　〃
(114)皇居諸御門通行印鑑締り　〃　〃
(115)皇居御門警備　〃　〃
(116)皇居御門通行取締　〃　〃
(117)皇居御門御規律　〃　〃
(118)皇居諸御門警衛兵規律　〃　〃(仮綴1)
(119)皇居御門普請ニ付通行止　未2月　〃
(120)馬場先門通行止　未4月　〃
(121)赤坂門通行止　〃　〃
(122)皇居警衛赦免　未4月24日　兵部省
(123)神田橋御門修理出来　未5月　太政官
(124)半蔵御門通行止解除　〃　〃
(125)神田橋御門修理ニ付片側通行　未5月太政官
(126)馬場先御門通行止解除　〃　〃
(127)筋違御門通行止解除　〃　〃
(128)山下御門等通行止解除　〃　〃
(129)赤坂御門通行止解除　〃　〃
(130)市ケ谷御門通行止解除　〃　〃
(131)市ケ谷御門取払通行止　未6月　〃
(132)外桜田門通行止　〃　〃

3　官　職　制

＜太政官制＞
(133)綸旨ヲ宣旨ニ御改　4月　太政官

(134)諸藩大参事一人参朝御用　2月25日　弁官
(135)官省江伺願書式　正月
(136)諸官員提灯印等定　4月
弁官→右大臣殿公務人中
(137)諸官省・府藩県判任仮宣旨書式　9月太政官
(138)公文書干支使用禁止　4月　〃
(139)判任官提刀出司禁止　11月晦日
岡山藩公用人→金沢藩公用人
(140)提灯朱印定　3月
(141)宣旨書式等案紙　(1枚)
(142)太政官出司之地方官提刀之事　11月　太政官
(143)参朝之節地方官席次取調
(144)華族・親王官員拝借住宅　9月　太政官
(145)官用略紙定式定　巳12月　〃
(146)塗笠挑灯規則の添書　明治3年正月　〃
(147)諸藩官員藩印，紋所下ニ付ケルコト　正月〃
(148)諸書類書式弁官伝達所ト改ム　2月　〃
(149)書籍新刻許可ハ史局担当　〃　〃
(150)日帰出張・宿泊出張心得　3月　〃
(151)藩士，民部省権少佑ニ任ス　3月
民部省→金沢藩
(152)弾正大少巡察ニ権官設置　午4月太政官
(153)地方官より刑部省差出罪案書式　〃　〃
(154)留主官禁中へ引移　午6月　留主官
(155)近火時親王諸官員供連規定　〃　太政官
(156)七月十四日休暇之事　午7月　〃
(157)民部省霞ヶ関へ移転　〃　民部省
(158)大蔵省中ニ営繕司設置事　〃　太政官
(159)民部省・大蔵省分省　〃　〃
(160)「何藩公用人」を「何藩」に書式改メ
午7月9日　民部省・大蔵省
(161)上納金・囚人護送中之宿駅不寝番人足賃之事
午8月　太政官
(162)藩士中より民政熟練者一人差出事
午8月　太政官→前田金沢藩知事
(163)諸書類一切藩名ニテ差出事　午9月　太政官
(164)藩大属以下の官位相当制定　〃　〃
(165)去13日布告書面の誤字訂正　午10月25日
(166)諸願・伺・届之書式　午10月　民部省
(167)弾正台纓・挑灯・陣笠印定事　〃　太政官
(168)太政官中ニ弁務使大少記新設　〃　〃
(169)民部省内ニ1寮4司新設　〃　〃
(170)民部・大蔵両省城内移転　〃　〃
(171)諸願・伺・届等官省弁官差出事　〃　〃
(172)民部省庶務司ニ藩士採用出仕申付
午11月　民部省→金沢藩知事
(173)旧官人・元諸太夫等位階廃止　午11月
太政官
(174)太政官中ニ舎人局等新設　〃　〃
(175)大舎人以下官位階定　〃　〃
(176)官位相当着服制度
11月15日　月番三藩→弁官御中
(177)官員免職之節名代召出事　午11月　太政官
(178)12月26日御用仕舞　午12月　太政官
(179)寺院寮設置　〃　〃
(180)在官之輩署判書式　〃　〃
(181)吏官帯刀取締　〃　〃
(182)宮内省，留主官ト合併　〃　〃
(183)留主官御廃止ニ付役委任之事
午12月　太政官→留主官
(184)在官・有位者，官位苗字実名使用事　午12月
太政官
(185)官・苗字，実名使用事　午12月　太政官
(186)官・苗字，実名使用事　〃　〃
(187)弾正台大少疏権官設置　明治4年正月　〃
(188)在京之奏任以上官員調査　未正月　弁官
(189)藩士，官位階返上願　〃　金沢藩→弁官
(190)在京出張官員取調　未正月　太政官
(191)藩士，御用ニ付出頭令状
未2月27日　工部省→金沢藩
(192)寺院寮民部省内へ移転　未4月　弁官
(193)判任官示談転任之儀　未5月　弁官・太政官
(仮綴1)

＜集議院＞

(194)集議員公用人呼立　4月
(195)集議院開院議員召集〔明治3年〕3月　太政官
(196)　〃　議員選任　3月
(197)集議院江行幸　9月　太政官
(198)諸藩議員出院之事　午5月　集議院→淀藩
(199)集議院開院召集　午5月
太政官→集議院→淀藩
(200)集議院議員参朝事　午5月　〃　→　〃→〃

4　地方制度

＜府下治政＞

(201)京都藩邸跡荒蕪取締　2月　太政官
(202)東京府下武家地東京府管轄　11月　〃
(203)柔遠隊附属申付　巳12月　東京府→金沢藩

(204)筑地藩邸接収代地之事
明治3年午5月　〃　→　〃
(205)鑑札拾得者京都府届出　午6月　留主官
(206)東京市中取締地区変更　〃東京府→金沢藩
(207)府下諸藩邸一ヶ所ニ定　午7月　太政官
(208)市中取締区域変更　〃東京府→金沢藩
(209)火盗消防費家税之税則　午9月　東京府
(210)家税定之添状　〃　太政官
(211)家税定書　午9月　東京府
(212)東京一円明細測量事　午10月　太政官
(213)京都市中火元見役人陣笠提灯定
午10月　細田守宮・堀江又蔵(1冊)
(214)東京府下取締区別等取調
〔明治4年〕未正月　太政官
(215)市中橋之上商売など禁止
未正月10日　東京府→金沢藩
(216)前号の添状　未正月12日　〃　→　〃(1冊)
(217)東京府出仕申付状等二点　未2月　〃(1冊)
(218)東京府道路修繕費調達　未5月　太政官

＜府藩県制＞
(219)大宮県，浦和県に改名　9月　太政官
(220)藩士越後府判事補仰付
4月　行政官→前田宰相中将
(221)相模津久井県，郡ニ改ム　2月　太政官
(222)八戸県，三戸県ト改ム　9月　〃
(223)諸務改革取調方猶予願　12月13日　金沢藩
(224)府典事等官位相当　12月　太政官
(225)在東京隠居等藩ヨリ可通
(226)水原県知事越後国按察使兼役
10月　太政官→越後国藩
(227)在東京知事隠居嫡子調査
明治3年〔正月〕〔弁官〕
(228)大森県，浜田県ト改称　正月　太政官
(229)大和五条県新設　2月　〃
(230)府藩県庁ト改称　〃　〃
(231)水原県ヲ移シ新潟県設置
明治3年3月　太政官
(232)旧藩施設利用許可　3月　〃
(233)越後触下諸藩へ別紙達
午4月　民部省→金沢藩
(234)越後国按察使廃止　午6月　太政官
(235)各藩監察掛調査　〃　弾正台
(236)盛岡藩廃止，盛岡県新設　午7月　太政官
(237)諸藩知事一門之位階定　午9月　〃
(238)藩制綱領之事　〃　〃
(239)酒田県廃止，山形県設置　〃　〃
(240)触頭藩，触下藩献上之事　〃　民部省
(241)伊那県分割，中野県新設　〃　太政官
(242)藩制改革ニ付参事宣下事　〃
(243)府県ニ庁掌設置　〃　太政官
(244)藩制改革ニ付大参事一人江戸出張
午10月　太政官
(245)長岡藩廃止(ほか神祭・外務など)
午9・10月　〃(1冊)
(246)藩庁・藩灯・御紋幕等使用規定　午10月　〃
(247)土方氏旧領取締申付　〃　民部省→金沢藩
(248)土方氏旧領高・村名書上　〃　(1冊)
(249)地域別藩名一覧(西海道～北海道)
正月～4月　(1冊)
(250)鎮魂祭・新嘗祭執行　午11月　太政官
(251)藩制改正之始末明細書上　〃
(252)福本藩廃止　〃　太政官
(253)狭山藩知事辞職之事　午12月
(254)金沢藩御預所(旧土方領)高山県ニ仰付
午12月　太政官
(255)能登御預所(旧土方領)石高書付　(1冊)
(256)高須藩廃止　午12月　太政官
(257)守山藩ヲ松川藩ト改称　午12月　太政官
(258)守山藩ヲ松川藩ト改称　〃　〃
(259)府藩県，宮華族取締　明治4年正月〃
(260)柴山藩，松尾藩ト改称　未正月　〃
(261)越前国，本保県設置　〃　〃
(262)県官定員ニ権大参事設置　〃　〃
(263)谷田部藩，茂木藩ト改称　未2月　〃
(264)多度津藩廃止　〃　〃
(265)大網藩，龍崎藩ト改称　〃　〃
(266)大網藩転庁，水戸藩触下ニ入ル
未2月23日　→忍藩
(267)丸亀藩廃止，丸亀県設置　未4月　太政官
(268)徳山藩廃止　未6月　〃
(269)大溝藩廃止　未6月　太政官
(270)竜岡藩廃止　〃　〃
(271)前田慶寧藩知事免官書類綴
未7月15日　太政官等(1冊)
(272)前田慶寧直垂着用ニテ参朝申付
未10月7日　東京府→前田慶寧

5 財　　政

＜財政・租税＞

(273)諸藩勘定帳記録　　3月　民部・大蔵省
(274)石高拝借之金札上納
　　12月10日　金沢藩公用人→富山藩等
(275)軍資金上納　　2月17日　大蔵省
(276)川往来船筏定税取調　3月　民部省→府藩県
(277)府藩県租税調査　　明治3年午5月　太政官
(278)府藩県より米金受取調べのため印影差出
　　午8月　大蔵省
(279)諸藩支配地潰地代米永之事　午8月　大蔵省
(280)前々号と関連。印影差出之内大印除
　　午8月28日　〃
(281)歳出入表等大蔵省へ渡方　午10月　太政官
(282)諸藩支配地潰地引高之事　午11月　〃
(283)租税制度確立之布告　明治4年正月　太政官
(284)諸上納金為替方預リ　未正月　大蔵省
(285)旧幕中御城詰米高取調　〃　太政官
(286)租税掛出納勘定仕上規則　〃　〃(1冊)
(287)山形県専断ニテ雑税免除差留　未2月　〃
(288)金沢藩大積明細帳差出　〃　大蔵省
(289)前号の添状カ　〃　民部省
(290)府藩県潰地代米渡方等箇条　未3月　〃
(291)商工物品取締収税法　未4月　太政官
(292)無地高并引高当来年免税　未5月　〃

＜禄制・秩禄＞

(293)賞秩米渡方分割　　午10月　太政官
(294)宮華族・旧官人以下一般禄制改革
(295)上地居住之士卒家禄納所方　未2月太政官
(296)府藩県帰属替之家禄渡方　未5月　〃

6 軍　　事

＜軍事一般＞

(297)駒場野練兵天覧　　4月　太政官
(298)京都警衛藩兵兵部省管轄　正月　太政官→
　　兵部省
(299)京都兵部省廃止　　12月　〃
(300)京都兵部省廃止　　〃　〃
(301)陸軍兵学寮開校入学　　4月　兵部省
(302)軍事編成・兵卒の定
(303)運送御用ニ付藩船差廻　10月太政官→金沢藩
(304)海軍操練所入学者差出令
　　9月　兵部省→金沢藩等
(305)北越官軍兵粮立替高調査　12月　兵部省
(306)東京滞在兵員繰練　　10月　〃
(307)兵学寮設置　　2月　〃→各藩
(308)築地海軍所出司者調査
　　11月25日　兵部省→金沢藩公用人
(309)陸軍操練所玉放差留　2月8日　兵部省→
　　各藩
(310)陸軍操練所設置　　10月　兵部省
(311)市中取締出勤　10月　兵部省→金沢藩三小隊
(312)駒場野練兵天覧延引　　4月　太政官
(313)外国型船艦所有者調査　4月22日　兵部省
(314)軍事演習日割
(315)鹿児島藩へ軍艦開運丸御預　巳10月　兵部省
(316)京都警衛兵進退ニ付添状
　　明治3年正月　兵部省
(317)除隊復籍者受取之事　　午5月　〃
(318)藩兵市中取締申付　〃　兵部省→金沢藩
(319)東京市中取締申付　午6月　〃　→　〃
(320)東京市中取締兵員出張申付　〃　〃　→　〃
(321)東京市中取締場所入替　〃　〃　→　〃
(322)戊辰戦争記録差出　〃　〃
(323)東京第一大区八区取締申付　〃　東京府
(324)藩邸内滞留の海軍操練所生徒差出事
　　午7月　兵部省→金沢藩等
(325)市中取締兵増員申付　〃　〃　→金沢藩
(326)兵学寮教官之官位定　　午8月　太政官
(327)海軍御旗章并国旗章制定　午9月　〃
(328)管轄地方非常異変届出之事　〃
　　弾正台→諸藩監察掛
(329)越中島練兵天覧　　午9月　太政官
(330)越中島練兵達書　　午9月7日　〃
(331)越中島練兵準例ニ付三条右大臣代覧
　　午9月　〃
(332)各藩一万石ニ付60人常備兵員設置之事　〃　〃
(333)陸・海軍費上納方定則　〃　〃
(334)陸海軍大佐以下官位定　〃　〃
(335)新潟県軍艦差遣に付出兵申付
　　午10月　兵部省→金沢藩
(336)英国式(海軍)・仏国式(陸軍)の常備兵制採用
　　午10月　太政官
(337)海軍資金上納石代相場定書　〃　大蔵省
(338)海軍操練所出仕申付
　　午10月　兵部省→金沢藩林謙三郎
(339)馬懸出仕申付　　午10月　兵部省→金沢藩

(340)林謙三郎海軍操練所出仕申付　〃　〃→〃
(341)高杖治郎海軍兵学寮退寮　午11月　〃→〃
(342)海軍兵学寮ト改名　午11月　太政官
(343)藩士沢田兵学寮出仕免除
11月17日　兵部省→金沢藩
(344)海軍兵学寮入寮規則　午11月　兵部省
(345)兵制改革ニヨリ第一遊軍隊解散
午12月　兵部省→金沢藩
(346)兵学寮退寮者処遇　〃　海軍兵学寮→金沢藩
(347)諸藩海軍資金上納　〃　太政官
(348)大森六郷警備藩兵交替
正月11日　兵部省→金沢藩
(349)海軍兵学寮規則　未正月　太政官
(350)海軍兵学寮入寮規則　〃　兵部省
(351)前号の添状　未正月29日　兵部省→金沢藩
(352)海軍兵学寮入寮規則別紙通定　未2月太政官
(353)海軍水卒検査ニ付漁民募集　〃　〃
(354)藩士海軍兵学寮出仕申付　〃兵部省→金沢藩
(355)藩兵横浜出張　未2月19日　兵部省
(356)藩士病気ニ付兵学寮退寮事
未2月12日　金沢藩→海軍兵学寮
(357)海軍留学生英国派遣
未2月兵部省→土師・佐双
(358)会計権大佑辞令　〃　〃　→猪山成之
(359)船艦用良木材取調　未3月　太政官
(360)東海道府藩県徴兵延期　未5月　〃
(361)藩士三名御用ニテ出頭令状　未6月　兵部省
(362)兵器差出　未6月8日　〃→金沢藩
(363)藩士二名陸軍少尉任命　未6月9日〃→〃
＜預置人＞
(364)金沢藩預置人赦免　2月　兵部省
(365)各藩預置人・謹慎人調査　12月9日
(366)金沢藩預人之事　10月26日　刑部省
(367)御預人・謹慎人調査
12月10日　金沢藩(公用人)→高田藩等
(368)御預人請取人差出　12月26日刑部省→金沢藩
(369)官軍江反抗者引渡　10月　兵部省
(370)官軍江反抗者引渡　〃　〃→金沢藩
(371)当藩御預謹慎人赦免願　2月　金沢藩→弁官
(372)金沢藩御預上原十助赦免
午9月13日　刑部省→金沢藩
(373)飯野藩御預人脱走　未正月　太政官
(374)飯野藩御預人脱走　〃　〃

7　治　安

＜治安・警察＞
(375)出火時馬上乗入禁止　2月　太政官
(376)脱走人探索
(377)無提灯夜行の禁止　11月　太政官
(378)宝貨偽造の刑罰
(379)大村益次郎事件探索　9月　太政官
(380)郭内外諸邸宅内発銃禁止　明治3年5月　〃
(381)府藩県監察掛ニ弾正台ヨリ探索申付
午5月　〃
(382)諸邸宅中ニテ揚火花火禁止　午6月　〃
(383)諸邸宅中ニテ揚火花火禁止　午6月　〃
(384)築地関門通行規則　午7月　〃
(385)貨幣贋造者厳罰之事　〃　〃
(386)貨幣偽造人取締　午11月　太政官
(387)弾正台等の名を借りる俳徊者取締　〃　〃
(388)廿三日夜の士卒外出人取調　〃　〃
(389)馬車等無灯火通行禁止　〃　〃
(390)養母殺し探索人相書　午12月　〃
(391)養母殺し探索人相書　〃　〃
(392)市中治安公序良俗等七種　〃　〃(1冊)
(393)諸官員・宮華族等召抱人之取締　〃　〃
(394)宮華族等家来取調　〃　〃
(395)諸官員・宮華族等家人陪従取締
明治4年未正月　〃
(396)　〃　未正月　太政官
(397)9日暁広沢参議遭難探索　未正月　〃
(398)9日暁広沢参議遭難探索　〃　〃
(399)三府下取締　〃　〃
(400)官員盗難遭遇　未2月28日　弾正台→金沢藩
(401)亀田藩内ニテ馬鈴薯ヲ以酒等製造者結社帯刀不届取締　未2月　太政官
(402)広沢大臣傷害事件賊徒捕獲促進詔書　未2月
(403)前号の添状　未2月　三条実美
(404)弾正台朱印紙盗難ニ付調査依頼
未2月25日　弾正台→金沢藩
(405)印紙照鑑ノタメ弾正台差出事　未5月
太政官
(406)死骸を以て刀剣利鈍試禁止　4月
＜刑事・裁判＞
(407)弾例取調方　2月　太政官
(408)弾例(奏弾・訴追規則)
(409)刑法新律立案ニ付財産没籍法停止

正月　太政官
(410)弾例仰出之添状　明治3年5月〃
(411)准流法新設ニ付徒場之事定　午11月　〃
(412)五徒之外ニ准流法定　〃　〃
(413)犯科人入牢者之経費負担之事　午12月
(414)新律綱領訂正　〃
(415)北海道流所規則確立迄准流法定立　未正月
(416)華族家士・藩士等公事出入取扱　2月　太政官
(417)　〃　12月　〃
(418)府藩県交渉准判規程　午11月　〃(1冊)
(419)買掛代金未払訴訟取扱　未6月　〃

8　外国人・外交・貿易

(420)外国ヨリ借金銀等禁止　2月　太政官
(421)西洋船買入製造許可　10月　〃
(422)西洋船買入製造許可　〃　〃
(423)アメリカ公使参朝　10月　太政官
(424)英国人殺害人探索　4月　弁官
(425)外国人乱妨禁止　10月　太政官
(426)アメリカ公使参朝　〃　〃
(427)伊・英提督来朝　3月　〃
(428)蘭国公使参朝　3月　太政官
(429)英人キング人相手配書
(430)スペイン国使節参朝　2月　太政官
(431)蘭国公使参朝　〃　〃
(432)横浜外人居留地襲撃　11月　民部省
(433)スペイン国使節参朝　明治3年2月　太政官
(434)イタリア公使等参朝　3月　〃
(435)府藩県対外負債調査　4月
(436)外務省中文書司新設　午5月　太政官
(437)別冊英国博覧会規則頒布　午6月
(438)英国ツールーズ博覧会出品受付　〃　太政官
(439)普仏戦争ニ付外国人国内旅行許可午8月2日
(440)普仏戦争ニ付新潟箱館通行事
(441)仏人・プロシア人横浜迄陸行許可書案紙
(442)丁抹国使節参朝事　午8月　太政官
(443)丁抹国使節坂下門通行事　〃　〃
(444)在留支那人による人身海外売買禁止
午8月　太政官
(445)米国前執政参朝之事　午9月　〃
(446)プロシャ公使参朝之事　〃　〃
(447)白耳義国公使参朝事　午10月　〃
(448)英国人刃傷ニ付家塾吟味　午11月　〃
(449)外国人居留地関門出入通行規則
11月17日　彦根藩等→弁官中
(450)英国人二名暗殺ニ付取調　午11月　太政官
(451)京都物産興隆のため外人雇入　〃　留主官
(452)御雇外入，上方・東海道見物　〃　〃
(453)外国船碇候節官員旅費等事　〃　太政官
(454)海外視察旅行吏員之事　午11月　太政官
(455)帯刀者外人居留地通行規制　〃　〃
(456)翻訳通弁課文書司出司辞令　12月17日　外務省
(457)雇入外国人等取調　12月20日　〃→前橋藩等
(458)各藩留学生免状発行　午12月　〃→淀藩
(459)外務省霞ヶ関移転　午12月10日〃→前橋藩等
(460)英国人金沢藩へ相越
〔明治4年〕未正月　太政官→金沢藩
(461)外国人居留地出入取締　〃　太政官
(462)英国人金沢藩罷越　〃　外務省
(463)難船海外漂流者帰国之事　未2月　太政官
(464)北海道上陸者，外人居留地通行検閲　〃　〃
(465)英国人殺傷ニ付府藩県取締　未3月　〃
(466)英国人殺害人探索　3月　太政官
(467)米国公使参朝　未4月　〃
(468)新潟県ニテ外人傷害ニ付探索　未5月　〃
(469)米国公使参朝　未6月　〃
(470)諸官省外国人雇入約定書　〃　〃

9　産業・交通・通信

＜農　業＞
(471)無水岡田開発　正月　民部省
(472)諸国高取調　巳10月　〃→各藩
(473)去年畑方貢米引方多分　明治3年午正月
(474)堤防・用水修築畚石高割　午5月　民部省
(475)信濃川分水路工事課役金
午6月　民部省→新発田藩等
(476)　〃　〃　〃　→　〃
(477)信濃川分水路工事課役金水損場藩に申付
〃　〃→高田藩等
(478)　〃　〃　〃　→　〃
(479)府藩県開墾願届規則　午9月　太政官(1冊)
(480)隠開調査経界糺明　未正月　〃
(481)羽前越後国内荒蕪地規則　未2月　民部省
(482)前号の添書　〃　民部省→高田藩等
＜鉱工業＞
(483)輸出用蚕種紙生産取調　3月　民部省
(484)民部省産物会所蚕糸
10月15日　金沢藩→大聖寺藩等

(485)養蚕業興隆仕法　明治3年3月　民部省
(486)輸出用蚕卵紙製作員数届出　午5月　〃
(487)今年豊年ニ付酒造免許　午9月　太政官
(488)養蚕業興隆の新技術発明届出之事
午10月　大蔵省
(489)蚕種規則付録書　〃　太政官(1冊)
(490)工部省設置　〃　〃
(491)各藩管内石炭等産出場所調　〃　民部省
(492)鉱山司廃止，鉱山掛設置　午12月　太政官
(493)工部省御鑑旗章等法令集　午12月(1冊)
(494)鉱山司，鉱山掛ニ改ム　〃　太政官
(495)長崎製鉄所工部省管轄　未4月　〃
496 (499)横須賀并長崎製鉄所改名　〃　弁官
(497)工部省官員御用出張　〃　太政官
(498)生糸製造売買者収税高取調　未5月　〃
(499)管内鉱山堀出高取調
<金融・商業>
(500)銭相場規定厳守　9月　太政官
(501)新銅銭鋳造　10月　〃
(502)新貨鋳造　3月　民部省
(503)金札小札製造　9月　太政官
(504)北海道等ヨリ入津産物商売取締
12月　民部省
(505)新貨鋳造　4月　太政官
(506)悪金引替　3月　〃
(507)宮華族之名目ヲ以金銀貸付禁止　2月　〃
(508)米穀勝手津留禁止　9月　〃
(509)金札・正金引換分延納
明治3年午正月　民部省
(510)旧幕期の貸付金銀示談済方　〃　〃
(511)朱座・受領地廃止　明治3年正月　太政官
(512)牛馬売買渡世人鑑札　3月　民部省
(513)銭安ニ付金1両銭10貫のレート時相場ニ改ム
午6月　大坂出張所・民部省
(514)　〃　午7月　太政官
(515)銀台弐分金引替期限之事　午9月　大蔵省
(516)為替会社手形引替延期　午12月　太政官
(517)為替会社手形引替延期　〃　〃
(518)銀台貳金引換期限　〔明治4年〕未正月　〃
(519)金銀貸付利足相対之事　〃　〃
(520)御一新後製造紙幣使用禁止　未6月　〃
<交　通>
(521)近江国湖上交通取締　正月　太政官
(522)船出入港調査案紙
(523)藩蔵物運送駄賃金　9月　民部省
(524)横須賀港修船場　3月　太政官
(525)諸国廻米積船改方　巳9月　民部省
(526)諸国貢米積船改方　〃　〃
(527)郵船・商船規則　明治3年正月　太政官
(528)外国航海規則　〃　〃
(529)不開港場，難船救助規則の添状　2月　〃
(530)江戸川通船番所引払　午4月　民部省
(531)諸港民家数積荷量等取調　午7月9日　民部省
(532)管内廻船出入港調査　午7月　太政官
(533)剣崎燈明台建設　午12月　〃
(534)剣崎燈明台建設　〃　〃
(535)灯明台猥リニ取建ベカラズ　未2月　〃
(536)近江国湖上通船取締　〃　〃→大津県
(537)剣崎燈明台建設　〃　〃→金沢藩等
(538)燈明台新設　未5月　太政官
(539)燈明台新設など　〃　〃(1冊)
<駅逓郵便>
(540)駅法改正　3月　民部省
(541)成田駅逓権正本官罷免　2月　弁官
(542)駅逓規則仰出　明治3年3月　太政官
(543)伏見～守口間四駅規則改添状　午6月　〃
(544)民部省転省ニ付駅逓司御用状進退等取扱
午10月　民部省
(545)大蔵省へ駅逓出張所移転　午10月　〃
(546)宿駅本陣之名目廃止　〃　太政官
(547)駅逓運輸物資ニ付伺
午10月23日　金沢藩→民部省
(548)駅法改正規則　午11月　太政官
(549)駅逓司郵便所設置并ロシア人教師等之事
〃　留主官(1冊)
(550)東海道駅法改正　〃　太政官
(551)郵便飛脚之規則等　明治4年正月　〃(1冊)
(552)郵便方法発行　未2月　民部省
(553)前号の添状　未2月8日　弁官→金沢藩
(554)民部省出張所駅逓司移転　未3月　太政官
(555)駅逓司大坂出張所設置　未5月　〃
<北海道開拓>
(556)開拓使新設職員　4月　太政官
(557)開拓地支配仰付　8月　〃→金沢藩
(558)西蝦夷地船運上取立廃止　9月　〃
(559)北海道宗谷郡地所御用　8月　〃→金沢藩
(560)宗谷郡内開拓使支配分仰付　正月〃→金沢藩

(561)北見国三郡支配免除
明治3年午6月　〃→金沢藩知事
(562)開拓使管下預所租税勘定帳取調　未5月
太政官

10　教育・宗教

＜教　育＞
(563)大学南校ニ外国人教師御雇　午7月　太政官
(564)東京府下中学校開校入学許可　午9月　〃
(565)学校制度布令　午11月　留主官(1冊)
(566)諸技芸師家私塾開設許可　午12月　太政官
(567)家私塾入塾者身元調査事　〃　〃
(568)諸技芸師家私塾取締　〃　〃
(569)石坂某大学小助教赦免　〃　大学
(570)大学少得業生辞令　未2月　〃
＜宗　教＞
(571)永平寺総持寺相論　12月　太政官→永平寺
(572)永平寺本山之事仰出　巳12月　太政官
(573)僧侶官位御札献上事　午6月　〃
(574)檀那寺離檀・宗旨替ニ付伺
午10月8日　金沢藩→弁官御中
(575)管内廃寺・合併寺院等調査　午11月　太政官
(576)管内社寺領現収納高取調　〃　〃
(577)寺院宗規紊乱取締　午12月　〃
(578)国内大小神社調査猶予願
12月23日　金沢藩→弁官御中
(579)輪番地若松県示現寺名目事
未正月　弁官→惣持寺
(580)異宗徒巡察使派遣　2月28日
(581)総持寺住職争論沙汰書　未4月太政官(1冊)
(582)寺社領収納高取調　未5月　〃
(583)僧尼ニ成度者之免許　未6月　〃
(584)気多社・射水社国幣中社仰付　〃　〃
(585)前号の添書　〃　〃→金沢藩
(586)諸国神社取調　2月　太政官
(587)楠中将社造営寄付金受付　明治3年6月　〃
(588)天社神道差止事　午10月　〃
＜教宣・国家神道＞
(589)宣教使博士と改名　4月　太政官
(590)宣教使設置ニ付人選　3月　〃
(591)神祇官ニ宣教使設置　10月　〃
(592)宣教使設置人材選考　3月　〃
(593)宣教講議聴聞仰付
午6月25日　金沢藩等→水戸藩等
(594)宣教使出京之事　午11月　太政官
＜修　史＞
(595)維新の有志事蹟調査　4月　太政官
(596)御記録編輯御用　〃　〃
(597)御一新以来朝官記録御用　午12月　弁官
(598)御一新以来朝官記録御用　〃　〃
＜暦　法＞
(599)頒暦授時取締　4月　太政官

11　身分・民生

＜華　族＞
(600)華族隠居有位者参朝　2月　太政官
(601)有位華族参朝時提刀許可　〃
(602)親王華族学校修業許可　午5月　〃
(603)前号の添状　〃　〃
(604)親王華族学校遊学心得　〃　〃
(605)華族家人職員定員定　午9月　〃
(606)華族姓名御書出取調　午10月
(607)華族隠居ニ付定　〃　太政官
(608)華族の士族借受事　午11月　〃
(609)華族の士族借受事　〃　〃
(610)華族，士卒相対抱禁止　午12月　〃
＜士族・卒族・平民＞
(611)無刀ニテ乗馬者取締　11月　太政官
(612)卒族之呼称改ム　明治3年10月
(613)士族隠居願　午10月　太政官
(614)平民苗氏許可令　午9月　〃
(615)華・士・平民縁組規則　午11月　〃
(616)百姓・町人服装取締　〃　〃
(617)平民乗馬許可　未4月　〃
＜民生・民事＞
(618)国事による死者の妻女調査　10月　太政官
(619)東京府中乞食非人旧里へ帰ス　9月　〃
(620)脱籍者復籍保護　明治3年正月　〃
(621)府藩県ニテ種痘実施之事　午4月　〃
(622)脱籍無産者復籍方御規則
午9月19日　〃　(1冊)
(623)前号写并軍事・外務規則等
午9月10日　(1冊)
(624)復籍者賄方　午10月　太政官
(625)種痘之新苗渡来ニ付分苗　未5月　〃
(626)溺死人引揚埋葬之事　〃　〃
(627)脱籍逃亡者復帰規定　〃　〃
(628)遊女売婦商売新店禁止　未5月　民部省

(629)前号の添状　　未5月　民部省→秋田藩
(630)前号の添状　　〃　太政官→民部省
(631)棄児救育費下付　　未6月　太政官
(632)廻状入手之事
9月14日　佐竹従三位→前田従三位
(633)刀剣差出目録　　正月　本阿弥徳郎
(634)鍛治職人二名書付
(635)別紙十二之添状　　10月10日
(636)太政官御達伺等指令書類一箱返納(126品入)
明治33年3月　太政官カ(1枚)。

9259　鎮台日誌　　16.85—51
太政官編
京都　御用御書物所　明治元年(1868)　刊
12冊　22.5cm
①明治元年6月1日～
②　〃　6月7日～
③　〃　6月14日～
④　〃　6月24日～
⑤　〃　7月1日～
⑥　〃　7月4日～
⑦　〃　7月9日～
⑧　〃　7月10日～
⑨　〃　7月11日～
⑩　〃　7月17日～
⑪　〃　7月21日～
⑫　〃　7月23日～27日。
いずれも，戊辰戦争関係の記録を収める。

9260　明治元年御達覚書等　　16.85—52
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(43丁) 25cm
慶応4年（明治元年）の朝廷側からの布告，通達文などを写し綴じ込んだもの。
旧書名「御達覚書」。

9261　〔蝦夷地開拓教導ニ付達書〕　　16.85—53
手写
1通　16.5cm
箱館平定後開拓教導の方法を立てるべく，その利害得失の意見を述べよと命じた（太政官）達書。

9262　天長節被仰出書控　　16.85--54
太政官監察局著
明治3年(1870)
1通　16cm
天長節の趣旨貫徹のため府藩県あて通達書。

9263　外務省日誌　　16.85—55
外務省編
東京　御用御書物所　明治4年(1871)　刊
合綴1(2冊)　22cm
明治初期外務省の往復書翰を載せた官報第7号（明治4年4月2日～15日）と第8号（明治4年4月15日～30日)。

9264　〔明治六年家禄奉還布告抄〕　　16.85—56
手写
仮綴1(4通)　16cm
太政官布告の抜書。

9265　民法文則　　16.85—57
前田家編輯方手写　明治年間
20丁　25cm
明治初年政府が民法典制定の作業を進めた時に作った法文の用字・用語・文法等，国語表記に関する規式案。明治16年の書き入れがあるので，民法草案成立(明治20年)前のものである。

政　情・民　情

9266　談海略志　　16.85—58
今枝直方編
自筆　貞享元年（1684)
95丁　25cm
慶長10年(1605)～寛文13年(1673)にわたり江戸で見聞した諸事件を記録する「談海」を，直方が校訂修正しつつ編さんしたもの。

9267　公辺向廻状之写　　16.85—59
前田家編輯方手写　明治年間
40丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。内容は，元禄9年(1696) 9月朔日から晦日までの，幕府の政務および諸大名・武家の動向等を覚書したもの。

9268　己卯雑志　一　　16.85—60
今枝直方著
自筆　元禄12年(1699)
39丁　20cm
今枝氏旧蔵。内題「第一公儀古今御沙汰之一」。主に元禄10年～12年の江戸城内での諸事を記す。

9269　己卯雑志　　16.85—61
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
28丁　24cm
今枝直規所蔵の写。内題「元禄己卯雑誌一」。表紙に「元禄十二年(1699)」と朱記。前号の写本。

9270　続己卯雑志　　16.85—62
今枝直方著
自筆　元禄13年(1700)
86丁　20.5cm
全99条，江戸城中諸式，諸侯幕臣の卒去，任免御礼，制法，火事制，水難，火難，地震等を記す。巻末に「元禄十三年仲秋自志」として著者の印あり。

9271　続己卯雑志　　16.85—63
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
79丁　24cm
今枝直規所蔵の写。表紙に「元禄十三年」と朱記。前号の写本。

9272　元禄九種府談　　16.85—64
今枝直方著
元禄15年(1702)
87丁　20cm
今枝氏旧蔵。元禄13年(1700)～15年(1702)の江戸幕府の政務・典礼等を，御仕置類，格式禁制法度類，新知加増死去跡目隠居養子御礼，官位御礼，一位尼公御沙汰，御成，御成，世上風説，水火地難の9種に分け，追加分を合わせ146品を記録。

9273　元禄九種府談　　16.85—65
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
68丁　23cm
今枝直規所蔵の写。表紙に「元禄十五年(1702)冬」と朱記。前号の写本。

9274　江府沙汰集畧　　16.85—66
今枝直方著
自筆　宝永2年(1705)
74丁　19cm
今枝氏旧蔵。元禄15・16年(1702・03)から宝永2年までの江戸における見聞の聞書。全国的な政情および武家・大名の動向，災害等を記録する。

9275　江府沙汰集畧　　16.85—67
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
71丁　23.5cm
今枝直規所蔵の写。内容は，元禄15年(1702)から宝永2年(1705)までの，幕府法令，諸大名の隠居・死去・相続，諸国での火災・洪水等の災害を記録。前号の写。

9276　江府京駿雑志　　16.85—68
今枝直方著
自筆
73丁　19.5cm
今枝氏旧蔵。元禄16年(1703)～宝永5年(1708)の江戸，京都，駿河の大名諸侯を中心とした見聞記。

9277　江府京駿雑志　　16.85—69
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
64丁　23cm
今枝直規所蔵の写。表紙に「宝永五年(1708)頃」との朱記あり。前号の写。

9278　他邦辛卯雑志　　16.85—70
今枝直方著
自筆　正徳元年(1711)
43丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。大友家系，宝永即位諸国使談略，備前岡山大火，琉球来聘談略を収録。

9279 他邦辛卯雑誌　16.85—71
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
43丁　23.5cm
内題「他邦辛卯雑誌，附堀直寄覚書」。大友家系・備前岡山大火・宝永即位諸国使談略・琉球来聘談略を収録。前号の写本

9280 壬寅妄志　16.85—72
今枝直方著
自筆　享保7年(1722)
139丁　19.5cm
今枝氏旧蔵。享保7年に江戸で見聞した諸大名の動向，幕府法令，朝廷の動向等を記録したもの。

9281 壬寅妄志　16.85—73
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
139丁　23.5cm
今枝氏旧蔵。前号の写。

9282 江府沙汰　16.85—74
今枝直方著
自筆　享保8年（1723）
57丁　20.5cm
今枝氏旧蔵。江戸在府中の今枝直方が，享保8年(1723)5月から翌年6月まで江戸で見聞した江戸および諸国でおきた諸事件を記録した日録。諸国で起きた火事・洪水や幕府法令等を比較的正確に記録。

9283 江府沙汰　16.85—75
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　23.5cm
今枝直規所蔵の写。今枝直方の在江戸中（享保8年5月～12月）の日録・雑記録。前号の写。

9284 丁未雑誌　16.85—76
今枝直方著
自筆　享保12年(1727)
31丁　20cm
今枝氏旧蔵。別題「都鄙之事」。内容は享保12年江戸在府中に見聞した諸事件，および幕府典礼，有職故実等を書き留めたもの。

9285 丁未雑志　16.85—77
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
34丁　23.5cm
内題「丁未雑志　都鄙之事」。今枝直規所蔵の写。表紙に「享保十二年(1727)」と朱記。前号の写。

9286 享保紀聞　16.85—78
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
筆者の見聞した諸事件，僧侶，武家等の逸話などを，雑然と記したもの。

9287 甲子夜話抄　16.85—79
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(69丁)　25.5cm
平戸藩主松浦静山（清）の著名な随筆「甲子夜話」(全百巻）から加賀藩に関連する記事を抄出し書写したもの。末尾には，今枝直方の随筆「甲子聞書」から抄出した記事を一項のせている。

9288 禁裏御所へ乱心躰之者入込候一件書附　16.85—80
手写
3丁　14×41cm
内容は，文化15年(1818)正月11日夜中に禁裏御所へ怪しき者が侵入した一件に関する書状等の写である。

9289 五月蝿能佐夜疑　16.85—81
手写
26冊　25cm
幕末～明治初年の雑記録。「編輯所用」の印が各冊にある。また「三宅氏記」の印も散見する。
①寛政元年～弘化3年，「国姓爺大冤ガリ国ヲ領ゼシ事」，「天保八年二月大坂騒動記」ほか
②安政4年，「亜墨利加使節食料用意書」，「安政4年12月亜墨利加使節申シ出シ書」ほか
③安政5年，「米利堅交易税則和文并午正月12日於蕃書調所使節応接書」ほか

④安政６年，「未三月十六日 栄木園より来書抜萃」ほか
⑤万延元年，桜田の巻上，「三月三日井伊家より御届書」
⑥万延元年，桜田の巻中，「三月四日掃部頭殿家来願書」ほか
⑦万延元年，桜田の巻下，「水戸無銘書，奉歎願候口上之覚」ほか
⑧万延元年，桑田の巻，「桜田の事を咏る歌ども」ほか
⑨文久元年，津嶋の白浪の巻，「二月勅諚」ほか
⑩文久２年春，坂下門外の変等の記事
⑪文久２年夏，「毛利家より細川家江文通」ほか
⑫文久２年秋上，「文久二年七月 改正御役人略記」ほか
⑬文久２年秋下，「仏国新聞紙」ほか
⑭文久２年冬，「十月幕府江御達ニ相成候勅書」ほか
⑮文久３年正月２日，「因州侯建白」ほか
⑯文久３年３月，「大樹公御参内御規式次第」ほか
⑰文久３年４月，「四月朔日被仰渡」ほか
⑱文久３年５月～７月，「五月朔日 攘夷拒絶御触書」ほか
⑲文久３年８月９日，「筑後真木和泉守 保臣建白」ほか
⑳文久３年，攘夷巻，「二月十九日 英国ヨリ差出候書面之大意」ほか
㉑元治元年春，「幕府御達書」ほか
㉒元治元年夏，「常州一挙浪士役割」ほか
㉓元治元年秋，「一橋家江幕令」ほか
㉔元治元年冬，「尾州前公江御沙汰書」ほか
㉕元治元年，附録，「常南紀聞摘要」
㉖別録，迦羅綾合巻。

9290　幕府及諸藩ニ属スル書類抄録　16.85—82
前田家編輯方編
明治年間
２冊　23.5cm
幕末維新期の幕府および諸藩に所蔵する書類からの抜書集。
①上巻「安政見聞雑記ノ抄」ほか14種の書類からの抜書
②下巻，「大日本第十一号抄録」ほか10種の明治期の新聞・記録よりの抜書。

9291　大塩平八郎一件　16.85—83
手写
２通　16cm
大塩平八郎の乱に関する書状写。１通は，２月24日付の大橋作之進・奥村友左衛門宛長又三郎書状等の写。１通は，２月20日付の松久左衛門等宛村田小右衛門・安田永次郎連署書状写等。

9292　評判草　16.85—84
手写
24丁　24cm
天保頃の風説８種収録。ちょんがれ，兵庫一揆，長崎ニ而近藤岩五郎切腹一条風説等。
旧書名「社寺御奉行所御掛等八種」。

9293　公辺政記　16.85—85
手写
119丁　17×12.5cm
小木貞正旧蔵。天保12年(1841)～弘化４年(1847)の幕府を中心とした政治上の覚書。加賀藩関係の記事も一部あり。政務手帳。

9294　嘉永・慶応風説書目録　16.85—86
前田家編輯方編
明治年間
27丁　24cm
嘉永・慶応風説書，西東風説書巻之一・二・六の目録。

9295　殿中御沙汰書々抜等　16.85—87
奥村栄通著
自筆
32冊　11×17cm
幕府から諸侯への沙汰書，諸侯から幕府への上申書，外交文書などを収録。
①嘉永４年（1851），篠島鍛治郎甚不行状についての一件
②「殿中御沙汰書々抜一」　安政３年（1856）正月～４年（1857）正月
③「同二」　安政５年（1858）正月～６年（1859）正月
④「同三」　万延元年（1860）正月～文久元年

（1861）正月
⑤「同四」　文久２年（1862）正月～同年12月
⑥「同五」　文久３年（1863）正月～同年12月
⑦「同六」　文久４年（1864）正月～同年12月
⑧「同七」　元治２年（1865）正月～同年12月
⑨「同八」　慶応３年（1867）正月～同年９月
⑩「同附録一」　安政３年（1856）２月～４年６月（1857）
⑪附録２，安政５年(1858)
⑫附録３，安政６年(1859)
⑬附録４，安政７年(1860)正月～３月
⑭附録５，万延元年(1860)３月～８月
⑮附録６，万延元年(1860)８月～12月
⑯附録７，文久元年(1861)正月～６月
⑰附録８，文久元年(1861)６月～９月
⑱附録９，文久２年(1862)正月～５月
⑲附録10，文久２年(1862)５月～７月
⑳附録11，文久２年(1862)７月～閏８月
㉑附録12，文久２年(1862)閏８月～11月
㉒附録13，文久２年(1862)11月～12月
㉓附録14，文久３年(1863)正月～４月
㉔附録15，文久３年(1863)４月～６月
㉕附録16，文久３年(1863)６月～７月
㉖附録17，文久３年(1863)８月～12月
㉗附録18，文久４年(1864)正月～４月
㉘附録19，元治元年(1864)４月～７月
㉙附録20，元治元年(1864)７月～８月
㉚「殿中御沙汰書書抜」　元治２年（1865）～慶応２年（1866）12月
㉛「追加殿中御沙汰書附録下書」　慶応３年（1867）
㉜「追加殿中御沙汰書附録下書」　慶応３年（1867）。

9296　〔安政元年宣旨写〕　16.85—88
手写
１通　24cm
安井顕比旧蔵。海防・大炮鋳造のため，安政元年(1854)12月23日に発せられた寺院梵鐘供出の宣旨写。

9297　堀田殿へ水戸老君よりの御書写　16.85—89
安政４年(1857)
５丁　24.5cm
水戸斉昭から老中堀田正睦への11月15日付書状写。

9298　水戸藩主騒動聞書　16.85—90
手写　安政６年(1859)
36丁　24cm
横山隆幹旧蔵書。嘉永７年(1854)から文久４年(1864)までの水戸藩の動向を聞書によってまとめた記録。

9299　落し文写　16.85—91
手写　安政６年(1859)
４丁　24cm
開港後の経済を主とした民情を記す。

9300　安政・文久雑集　16.85—92
３冊　23.5cm
安政期から文久期にかけての幕閣・公家・大名・志士等の書翰，上書，建白書，存意書，日記・記録の抄出写，世事一般の留書。

9301　水戸様一件　16.85—93
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴１(31丁)　25cm
横山政以所蔵の写。「但御附方内状も記す」とあり。水戸藩主徳川斉昭処分（安政の大獄）の際の水戸藩士出府に関し，加賀藩家老横山蔵人政和と年寄衆との往復書簡。江戸における警備，斉昭以下の処分等を記録。

9302　水戸浪士一件記録　16.85—94
手写　安政６年(1859)
３丁　25cm
水戸藩士長田兵庫家来細川大八などが，老中間部を上野寛永寺において暗殺せんとした事件に関連する彦根派の某藩主に差出された諷諫状の写。

9303　水戸浪士自訴并檄文　16.85—95
手写
100丁　23.5cm
安政７年（1860）～元治元年（1864）にわたり，桜田門外の変より天狗党事件にいたる各事件に関する趣意書・檄文・届書・風説書などをあつ

めたもの。その大半は幕末の外交ならびに政治情勢一般に関するもの。なかには能美郡虫害の願書，小川幸三書簡，武田耕雲斎より藩士永原甚七郎宛書状等あり。

9304　〔筑波山戦記〕　16.85—96
手写
14丁　24cm
元治元年(1864)水戸尊攘派（天狗党）筑波山蜂起事件につき，幕府側・天狗党側の陣容，戦闘の様子を記す。

9305　筑波山水戸浪士陣営図　16.85—97
手写
絵図1枚　89×29cm
「筑波山浪士等揆籠備配遠見」の図。「武田友信ヨリ指出ノ分写也」とあり。

9306　常賊追討士書状　16.85—98
酒井直次郎著
手写　元治元年(1864)
6丁　24cm
水戸天狗党との戦いについて記した元治元年10月付の在江戸岡田為八宛書状。

9307　〔水戸浪士追討一件〕　16.85—99
手写
仮綴1(2丁)　24cm
元治元年（1864）11月の，中山道を逃走する武田耕雲斎一党追捕に関する廻状・達書等3通を収める。表紙に「大井宿問屋廻状・両伝奏両侯へ御達・戸田侯江御達并願書」とある。

9308　〔水戸浪士追討ニ付調書〕　16.85—100
横山五郎著
7丁　22.5cm
横山勇太郎旧蔵。外題は「元治元年十二月二日水府浪士脱走ニ付 追討被仰付候大抵調書」。武田耕雲斎の天狗党の乱と加賀藩出兵・鎮圧の記録の写。旧書名「水府浪士脱走ニ付追討被仰付候条大抵調書」。

9309　公卿諸侯武田正生等を寛典に処せんことを請う　16.85—101
手写
3丁　24.5cm
加賀藩によって捕えられた天狗党水戸浪士の刑の寛典を鳥取藩主池田慶徳他4名より朝廷に願ったもの。

9310　松原墳墓由来記略　16.85—102
明治42年(1909)　刊
5丁　24cm
原題「越前敦賀水戸浪士松原墳墓由来記略」。武田耕雲斎以下の水戸浪士の行動とその最期，ならびに明治以降に諸方より贈られたる香花料等を記す。

9311　長防一件並武田伊賀一件風説　16.85—103
手写
仮綴1(62丁)　24cm
安井顕比旧蔵。第一次長征頃の長州藩関係の書状等写，および天狗党の乱関係の書類写を収集したもの。幕末政情把握の資料か。
旧書名「風説」。

9312　京都并江戸表など変事風説書等　16.85—104
183丁　24.5cm
早川随勝旧蔵。万延元年（1860）～元治元年（1864）にわたる江戸・京における政局動向を知らせる書類を集録。

9313　宮北集書　16.85—105
前田家編輯方編
明治年間
9冊　28cm
宮北才一郎所蔵古文書を集めて編さんしたもの。内容は万延元年(1860)の桜田門外の変関係史料の写からはじまり，長州征伐，鳥羽伏見の戦，北越戦争等の政治情勢のほか，ちょぼくれ節，風聞書など社会情況の資料まで収む。
①諸藁写(万延元年～元治元年)
②諸藁写(元治元年八月～慶応四年正月)
③聞集書(文久二年中)
④聞集書(　〃　)
⑤御尋ニ付申上候(元治元年～明治元年)

⑥丁卯耳袋(慶応二年十二月～明治元年正月)
⑦丁卯耳袋(明治元年正月～九月)
⑧卯辰風説(慶応三年二月～明治元年六月)
⑨御横目所(明治元年正月～六月)。

9314　桜田門外之変井伊掃部守切害事件之顛末書　16.85—106
手写
3通　16.5cm
万延元年3月の桜田門外の変に関するもので，1通は申3月付で事件の顛末を述べたもの，1通は「御国替之沙汰」と題する覚書，もう1通は3月3日付でより精しい事件の様子と波紋を述べたもの。

9315　水藩士黒沢忠三郎口話　16.85—107
手写
6丁　24cm
野口之布旧蔵。黒沢忠三郎は桜田門外の変に加った者で，稠松様（前田利同）家来へ御預になり，その勤番人に井伊大老暗殺の様相などを物語ったものの聞書。なお「癸丑以来事蹟取調方」の朱印がある。

9316　〔万延二年雑記〕　16.85—108
手写
100丁　24.5cm
万延2年(文久元年)の政治情勢に関する書簡・留書・風説書等を集めたもの。水戸浪士の動向，宗対馬守の書状，オールコック宛の幕閣書状等々を収める。旧書名「雑記」。

9317　内桜田安藤公一件　16.85—109
手写
17丁　24.5cm
安井顕比旧蔵。文久2年(1862)正月坂下門外の変の一件記録。

9318　安藤殿変事一件　16.85—110
手写
14丁　24cm
井上如苞旧蔵。文久2年(1862)正月の坂下門外の変に関する諸調書をまとめたもの。

9319　安藤対馬守狼藉一件　16.85—111
仮綴1(7通)　16cm
文久2年（1862）の坂下門外の変に関する裁判記録・書簡・風説等の留書。

9320　〔風説書〕　16.85—112
手写
仮綴1(~~99~~通)　16cm
文久年間(1861～1863)京都における政局・政情等を記録。

9321　京都ヨリ出る所ノ書　16.85—113
2冊　24.5cm
京都在留諸藩々士・町人等からの風説書・書状，および朝廷，幕府，異国関連の公文書を収集編さんしたもの。
①文久2年(1862)1月～7月
②同年8月～12月。

9322　奥村栄通手記風説書　16.85—114
奥村栄通著
前田家編輯方手写　明治年間
13冊　23.5cm
①文久2年4月5日比京都向等風説等留写
②文久2年7月至9月京都向等風説等留写
③文久3年2月至7月京都向等風説等留写
④文久3年9月ヨリ12月ニ至ル京都向等風説等留写
⑤（同　上）
⑥元治元年7月ヨリ9月ニ至ル京都詰中風説書等之内写
⑦元治元年10月ヨリ慶応元年4月ニ至ル風説等略留
⑧慶応元年9月ヨリ11月ニ至ル風説等略留
⑨慶応2年正月ヨリ9月ニ至ル風説書等写
⑩慶応2年8月ヨリ慶応3年2月ニ至ル風説書等写
⑪慶応3年8月比風説書等写
⑫明治元年4月比風説書等写
⑬明治元年6月比風説書等写。
旧書名「手記」。

9323　〔松平長門守面会之節可有周旋様被仰含覚書〕　16.85—115
手写
2丁　24cm
安井顕比旧蔵。文久2年（1862）8月の擾夷推進等に関する書状写。

9324　京師新報　16.85—116
手写
27丁　24.5cm
榊原氏旧蔵。表題は「文久二年秘物京師新報」となっているが，内容は文久2年9月～11月の京都の政治動向を日を追って記録したもの。

9325　京都風説　16.85—117
4丁・4通　23cm・16cm
文久2年(1862)～明治元年(1868)。

9326　京都御所司代御式台留之抜書　16.85—118
43丁　24.5cm
文久3年3月～8月の，京都所司代に報告された政治動向報告書を集録したもの。向井清次よりもたらされた京都の新報が大半である。

9327　文久三年風説　16.85—119
文久3年(1863)
56丁　24.5cm
文久3年7月から12月までの政局にかかわる書状類の写，風説・記録の写などを集めたもの。副題は「八月後浪士諸所張文等」。旧書名「風説」

9328　和州金剛山ニ浪士立籠り一件　16.85—120
手写
1通　16cm
御横目代・御使番代等宛の割場挙行書状の写。大和金剛山にたて籠った尊攘派浪士および長州浪人等征伐出張に関するもの。

9329　諸事留　16.85—121
手写
仮綴1(140丁)　24cm
近岡屋旧蔵。内容は文久3年(1863)～慶応元年(1865)の公文書類や風説書などを綴り合せたもの。京都の政情，藩主等上京一件などの記事が多い。

9330　〔京都ヨリ申来書写〕　16.85—122
手写
1通　17cm
文久3年(1863)の風説等を記す。

9331　御老中御演達之品写　16.85—123
手写
1通　16cm
幕末将軍家の上洛についての書状写。

9332　勅書并徳川家茂御請書写　16.85—124
手写
仮綴2　12×34cm・15×18.5cm
坪内某旧蔵。
①文久4年正月付勅書写(2丁)
②文久4年正月宸翰写并同年2月徳川家茂請書写等(3丁)。

9333　償金一件・薩打払等　16.85—125
手写
66丁　24cm
文久3年(1863)の下関外国船砲撃事件，薩英戦争，生麦事件賠償金交付等に関する記録を収録。横浜新聞記事等を引用。

9334　長州藩暴動見聞録　16.85—126
前田家編輯方手写　明治年間
39丁　23cm
元治元年(1864)7月 闕下ニ於テ 長州藩士 暴動(禁門の変)ノ節探索書等（横山政和録），同年同月京都在勤中記録(帰山仙之助録)の2種を収録。

9335　諸事見聞記　16.85—127
手写
30丁　14×20cm
井上如苞旧蔵。元治元年(1864)長州征伐・天狗党事件に関する諸記録，甲府柳町売女仕法書，会津表より江戸表迄往返荷御仕法等を収録。

9336　長州浪士山崎出張之書附　16.85—128
手写
12丁　24cm
青木富太郎旧蔵。元治元年（1864）禁門の変に

関するもの。

9337　毛利敬親父子一件覚等　16.85—129
手写
8丁　12.5×36cm
安井顕比旧蔵。幕末の長州藩主毛利敬親に関する書状・聞書等を抜粋した幕末の政情覚書。

9338　〔長州藩士小島弥十郎京都脱出一件〕　16.85—130
手写　〔明治26年以降〕
5丁　25cm
内題は「元治元年京都ノ変旧長州藩留守居役タリシ小島弥十郎(故椿孝之)ヲ九門外ヘ脱セシメタル顕末及ヒ同人ヨリ預リシ短檜ノ由緒」とあり，元治元年の禁門の変において加賀藩士徳田昌蔵が，護送中の長州藩士小島の脱出を助け，維新後その功が顕彰されるに至った事情を記している。旧書名「長藩小島彌十郎」。

9339　〔五卿筑前へ御渡海覚〕　16.85—131
手写
6丁　12×36cm
慶応元年の三条実美ら5卿の大宰府渡海下向の手配について，長府の森田治兵衛より届けられた（同年）正月14日付書付覚書。荷物人足の覚・宿割・行列附船列附等を記す。
旧書名「長府より森田治兵衛を以御知させ候五卿筑前御渡海覚」。

9340　京都詰中風説書　16.85—132
前田内蔵太編
前田家編輯方手写　明治年間
89丁　23cm
加賀藩家中役人より差出された慶応元年(1865)ごろの風説書，公文書の写等を収録。

9341　維新前後書類　16.85—133
前田家編輯方手写　明治年間
25丁　23cm
温敬公明細書，慶応4年8月御感状，恭敏公へ光格天皇御書拠下賜云々，鹿児島県下ノ景況ニ付元八家へ告諭云々，職掌書，行政官被達書，新旧秩禄禄券公債調理，給禄渡云々，会津公与家老書，行政官より真田信濃守へ達書，崇厳碑文，東京図書館略況を収録。

9342　御城内御門御締一件上書　16.85—134
4丁　24cm
水戸殿家来出府などの治安の乱れ，および江戸城の御門取締りについて，風聞を報告したもの。
旧書名「御城内御締一件上書」。

9343　近聞雑記〔目録〕　16.85—135
11丁　25cm
近聞雑記(幕末における諸事件記録)巻1～巻22の各巻内容目録。

9344　〔異国船ニ付聞合之書状〕　16.85—136
(縦1)　8通　16.5cm
粟崎肝煎中島屋太郎治と氷屋庄三郎が，越前を経て若狭小浜迄旅をし見聞したことを，酉8月9・10・12・15・26日付で報告したもの。得能覚兵衛・石崎市右衛門宛。書状提出の際の添書もあり。
旧書名「粟崎肝煎中島屋太郎治書状」。

9345　〔京都風説書〕　16.85—137
手写
2通　15cm
幕末政情などを記した書状。
①8月4日付，義門宛奏蔵書状
②7月29日付，義門宛奏蔵書状。
旧書名「此節之形勢荒増」。

9346　上京留守中之定　16.85—138
手写
6丁　24cm
内容慶応4年(1868)。臨時に上京する場合に備えて，留守の人々の名前，役割，勤方心得を記す。加賀藩以外のものか。

9347　京都一件　16.85—139
手写　明治2年(1869)
2冊　24cm
明治元年9月より2年10月までの京都での政務に関する書類の留。

①(甲)，箱館府之変事見聞書，箱館府江御積下御米并御艦等一件，箱館事情等見聞書取のほか，天皇・官位・貨幣・米払など。
②(乙)，総持寺歎願一件，公家との交流，領国出身の流民の死体処理，新政府役所との政務・財政・貨幣などに関する書類を収める。

9348　会津等降伏御所置　16.85—140
手写
26丁　24cm
明治元年(1868)12月，松平容保等奥羽越列藩同盟の諸藩主への罪状書。この外，会津藩攻撃に関連した諸記事を附す。

9349　神津十蔵書簡写　16.85—141
神津十蔵著
手写
仮綴1(2丁)　24cm
安井顕比旧蔵。軍艦奉行勝安房守と大坂において会談した神津十蔵が，兵庫港の舟持「ささ倉・永井」両氏に，有事に備えて出動体制をとるように指示した書状。

外　　交

9350　三国処置大早計考証書類　16.85—142
前田家編輯方編
明治年間
23丁　25cm
豊臣秀吉の朝鮮の役関係編年史料稿本の写し。公卿補任・系図纂要・上杉家文書等を用いた史料稿本であり成立は新しい。

9351　雑纂　16.85—143
前田家編輯方手写　明治年間
48丁　23.5cm
朝鮮征伐云々二条，嘉永7年寅年来朝之唐人共ヨリ差出候真之物和解，支倉六右衛門常長羅馬行ノ始末，東蝦夷地小笠原源吾書状等の対外交渉に関する記録・書状を雑然と集め写したもの。南部太郎吉所蔵写の長防豊絵図あり。

9352　水侯公国韓客贈答書　16.85—144
今枝直方手写
12丁　21cm
天和2年(1682)に徳川光圀と朝鮮通信使との間で交換された書簡の写。
旧書名「水戸公韓客贈答書」。

9353　朝鮮聘使志　16.85—145
今枝直方著
貞享2年(1685)
2冊　20cm
①内題「天和壬戌(1682)仲穐二十一日朝鮮来使初終略志」。諸本による編さん書。
②朝鮮聘使志追加。

9354　宝永琉球来朝記　16.85—146
有沢永貞編
手写　正徳3年(1713)
120丁　27cm
宝永7年5月の琉球からの来朝の詳細な記録。使節の配置，行列の状態，装備の様子など図入で記述。旧書名「琉球来朝記」。

9355　践好録　16.85—147
桂川元厳編
今枝直方手写　享保5年(1720)
161丁　28cm
今枝氏旧蔵。正徳2年成立の2巻2冊を筆写。正徳元年(1711)の朝鮮来聘使に関する宗対州寄朝鮮国洪参判書，告諭条目などを収録。

9356　〔琉球人登城献上物等控〕　16.85—148
前田家編輯方手写　明治年間
5丁　25cm
享保3年(1718)，琉球王国中山王よりの献上物，また，使節一行名も記す。

9357　中山王献上之品々　16.85—149
手写
巻子1　16cm
琉球王国中山王より幕府への献上物書上。

9358　〔外舶来港等書類〕　16.85—150
3冊・16通・絵図1枚・絵1枚

12.5×35cm・24cm・15×22cm　包紙
①文化6年（1809）6月18日入津，長崎渡来和蘭風説書　9丁
②捧江府ニ候魯西亜書翰之文意阿蘭陀語ニ飜訳仕候積文字和解等　12丁
③辰阿蘭陀船弐艘脇荷物書附　67丁
④宗対馬守より松平加賀守宛書状（包紙）
⑤公義奥御医師桂川甫周老初諸家医者和蘭陀人江対談日割書御渡之分
⑥阿蘭陀人筆仮名附并委曲断書
⑦⑧阿蘭陀船脇荷物云々
⑨⑩和蘭陀人献上物書並御暇之節両御丸ヨリ被下物書
⑪人相書（オランダ人ピウースケンなど）絵図（28×35cm）
⑫川崎宿附近絵図（25×40cm）
⑬水野筑後守長崎奉行兼帯等仰付書
⑭風説書に関する覚書
⑮松前藩への異国船乗入など加賀藩郡奉行宛十村狩野恒方報告書状
⑯嘉永3・4年（1850・51）海防掛への達書など
⑰⑱アメリカ船浦賀来航に関するもの，（⑱は松平加賀守宛）
⑲ロシア，アメリカ，イギリスなどの条約締結に関する達書
⑳開港に関する達書
㉑安政2年（1855）伊勢彦兵衛等より御会所宛書状。江戸地震の状況を報ずる。

9359　紅毛船年々荷物書并風説書等品々　16.85—15i
10冊・12通　11.5×18cm～15.5×35.5cm
包紙　袋入
①卯紅毛弐艘分積物控　6丁
②卯紅毛壱番船弐番船積荷物并脇荷控　13丁
③紅毛渡来本方荷物写　5丁
④辰紅毛弐艘分差出し　8丁
⑤（文化10年阿蘭陀船等積荷控）9丁
⑥（文化4年紅毛船弐艘積荷控）13丁
⑦文化4年和蘭陀船荷物書　13丁
⑧蘭船（改）荷物附（文政4年）4丁
⑨文化14年阿蘭陀船来船風説書并荷物目録　14丁
⑩阿蘭陀人風説書荷物目録等　13丁
⑪文政4年和蘭陀船篤斉ヨリ指出候風説書
⑫卯紅毛弐番船風説書
⑬蘭物品書
⑭寅紅毛船弐艘分本差出し
⑮卯壱番船脇荷物差出し
⑯巳夏紅毛持渡
⑰阿蘭陀船風説書
⑱阿蘭陀人献上物
⑲阿蘭陀船風説書
⑳御本丸江献上品書
㉑卯紅毛弐番船積荷控
㉒壱番船脇荷控。

9360　外国船相見へ候儀ニ付松平肥後守殿等ヨリ之届書写　16.85—152
手写
12丁　12×36.5cm　包紙
内容は文政元年（1818）の5月，松平肥後守領相模国三浦郡野比村海鹿嶋あたりに外国船（イギリス船）来航した時の注進書および乗船検分の報告書。

9361　七島之内宝嶋へ異国船漂着之一件　16.85—153
手写
10丁　27.5×19cm
文政7年(1824)，イギリス船の薩摩宝島上陸事件に関するもの。

9362　異国船雑記　16.85—154
西喜津太夫等訳
天保13年（1842）
37丁　24cm
表紙貼紙「別段風説書，自天保十一年子至同十三寅年」。内題「異国船雑記，御内密申上候別段風説書」。天保11年（1840）～同年12月及び天保12年（1841）～天保13年（1842）の「唐国にてエケレス人阿片商売停止ニ付記録」。オランダ商館長から提出された風説書の飜訳書。

9363　異国船雑記・清国英吉利戦争等雑集　16.85—155
46丁　24cm
清国戦争風説・紀阿片煙之変等よりなる清国船などからの阿片戦争風説集(天保11～14年)。天保15年（1844）西蛮払朗察国人琉球漂着中書，

辰（天保15年）6月15日入津阿蘭陀船積荷物も収録。

9364 〔北陲杞憂等〕 16.85—156
得屈窩陳人手写　嘉永3～4年（1850～51）
68丁　23cm
ロシア船南下と北辺防備等を論じた「北陲杞憂」（大塚唯助＝東洋鯤叟著）のほか，アヘン戦争に関する「鴉片始末」・「鴉片始末考異」・「鴉片考」なども収録。旧書名「北陲杞憂・鴉片始末・同考異等」。

9365 外国書翰和解 16.85—157
手写
102丁　23cm
天保14年(1843)～安政4年(1857)のオランダ，アメリカ，ロシアとの書翰・条約等の和訳書。

9366 異国船一巻 16.85—158
手写
49丁　23.5cm
弘化3年（1846）フランス船・イギリス船琉球来航，アメリカ船（ビッドル）浦賀来航の際の報告書・達書等を収録。付図として「北亜墨伽船遠見之図」あり。

9367 上疏類篇 16.85—159
手写
3冊　23cm
別名「上書類篇」。弘化3年（1846)～嘉永2年（1849）期の海防策等をまとめたもの。
①異国船等について筒井紀伊守の上書など
②「読粤人檄文」，塩谷宕陰「籌海私議」・「海防策」，羽倉外記「海防私策」等よりなる
③「佐藤（邦貞）防海策」，「佐久間修理上書」，「江川太郎左衛門上書」よりなる。

9368 勅教褒建嘉永明治史鑑 16.85—160
清田嘿編
明治26～27年（1893～94）刊
7冊　24cm
嘉永6年（1853）ペリー来航に関する外交資料集。ペリー来航時の外交担当奉行等の公文書および，大名から百姓・町人にいたるまでの建白書を収む。
①浦賀奉行届書など12種の公文書
②側衆石原美濃守など7名の建白書
③田安慶頼など11名の建白書
④松平斉韜など11名の建白書
⑤松平猷など19名の建白書
⑥加納久徴など8名の建白書
⑦小普請組鶴峰彦一郎など6名の建白書ほか。

9369 浦賀備場之図 16.85—161
前田貞事手写　嘉永3年（1850）
絵図1枚　38×56cm
前田貞醇旧蔵。三浦・房総両半島の地名・台場・陣屋等と距離を記す。

9370 異国船渡来について松平薩摩守届書 16.85—162
松平薩摩守著
手写
4丁　24cm
内容は嘉永5年（1852）閏2月，薩摩領八重島へ漂流してきた中国船に関する一件記録書上（6月28日付書状）と，嘉永4年(カ)11月の異国漁船琉球漂来に関する記録書上（6月28日付書状）の2通を写したもの。

9371 合衆国伯理璽天徳書翰和解 16.85—163
手写
21丁　28×21cm
嘉永6年（1853）ペリーが持参したアメリカ大統領フィルモアの親書などの和訳書。

9372 合衆国書翰和解 16.85—164
手写
27丁　28×21cm
前号と同じもの。ただし訳文は異る。

9373 亜美理駕書翰和解 16.85—165
17丁　25cm
前号・前々号と同じもの。そのほか，ペリー来航時の落首，防備等の記録も付す。

9374 亜墨利幹書翰并和解写 16.85—166
17丁　24.5cm
榊原氏所蔵の写。特16.85—163，164号と同じ

フィルモア親書和解等の写

9375 外国書翰和解　16.85—167
手写
90丁　26cm
嘉永6年合衆国書翰并彼理書翰和解，合衆国伯理璽天徳（プレジデント）書翰和解，合衆国副翰和解，合衆国水師提督（ペルリ）上書和解，合衆国水師提督口上書和解2通，安政元年亜墨利加条約，英吉利条約文，魯西亜条約等，安政2年北亜墨利加合衆国測量船より差出候横文字和解を収録。

9376 亜墨利加船より指出候書翰和解相渡之書状并添書　16.85—168
松平陸奥守著
2通　16cm　包紙
松平陸奥守より松平筑前守宛7月5日付書状写，ならびに塩表隆三郎の添状写。内容は浦賀表渡来のアメリカ船からの書翰について評定を行うため，書翰の和文訳を関係諸大名等に送付することについて。旧書名「亜墨利加船より指出候書翰和解之添書」。

9377 那加佐幾遠鏡　16.85—169
手写
58丁　23cm
内容は，嘉永6年（1853）のロシア使節プチャーチン長崎来航の記録。「長崎表江罷越候御目付方相勤候者」より借用し，極秘に書写したもの。

9378 長崎奉行言上書附　16.85—170
大沢豊後守・水野筑後守著
手写
5丁　24.5cm
ロシア船の長崎沖滞航より出航までの処置に関する長崎奉行よりの嘉永6年（1853）9月付言上書3通の写。

9379 長崎奉行言上書附　16.85—171
手写
5丁　24cm
前号の写。

9380 異国船渡来ニ付上書等　16.85—172
手写
7冊　24cm
異国船渡来に関する情勢および風聞等を知らせる書状の写。
①嘉永7年2月付書状写
②未8月付風聞申上書写
③9月付風聞申上書写
④未10月付書状写
⑤10月18日付国難に付御奉公願之書状写
⑥10月付外国貿易開始已後諸色高値之事に付書状写
⑦8月付通司堀達之助吟味一件風聞申上書写。

9381 亜船箱館へ渡来魯船大坂へ渡来風説書　16.85—173
手写
40丁　23.5cm
榊原氏旧蔵。嘉永7年（1854）寅5月箱館江亜船渡来一件，同年9月大坂江魯船渡来一件を収む。

9382 〔ペルリ来航之節応接覚書〕　16.85—174
手写
3丁　25cm
内容年代は安政元年(1854)。ペリー来航のときの幕府覚書，ペリー書状等を収む。

9383 〔異国船一件〕　16.85—175
手写
13丁　25cm
安政元年（1854）のペリー来航時の報告書等。

9384 小永井藤左衛門伜より同人へ差越候極秘物　16.85—176
手写
5丁　24cm
安政元年（1854）ペリー再来航の際，幕府に提出した文書を，オランダ通詞が和訳した心覚などの写。

9385 小永井藤左衛門伜より同人へ差越候紙面　16.85—177
4丁　24cm
原題「大秘物小永井藤左衛門せかれより同人江

差越候紙面」。ペリー来航の節，応接取斗方であった小永井藤左衛門せがれよりの状況報告書。前号に関連。

9386　魯西亜条約　16.85—178
手写
10丁　24.5cm
安政元年（1854）12月下田にて取交した日露和親条約文写。

9387　咈囉晒船琉球国渡来記　16.85—179
上田可貞手写
7丁　25.5cm
安政2年（1855）の琉球とフランスの約定書及び安政3年約定に関する薩摩藩主の達書を収録。安政3年。

9388　〔外夷条約開港ニ付覚書〕　16.85—180
手写
6丁　24.5cm
慶応元年（1865）10月の条約勅許と兵庫開港延期についての，内蔵太等2名から前田弾番宛の報告書。

9389　内密聞書　16.85—181
手写
6丁　23.5cm
ペリー・アダムスらと日本との交渉記録の聞書。

9390　別段風説書　16.85—182
手写
67丁　26cm
「安政二年（1855）和蘭甲比丹ヨリ指出分」とある。オランダをはじめヨーロッパ，アジア，アメリカの情勢を記すオランダ風説書。

9391　〔亜米利加船浦賀表へ渡来絵図〕　16.85—183
神谷政武手写　嘉永6年（1853）
絵図2枚　28×37cm
内藤伴蔵所蔵の写。嘉永6年ペリー来航時の絵図。
①6月3日日本側陣立と米船位置図
②米船浦賀より品川沖進入日程入り絵図。

9392　浦賀日記　16.85—184
山脇正準著
手写
26丁　23.5cm
山脇正準は郡上藩の家臣，安政3年（1856）8月浦賀で君沢形船の操練をうけたときの日記。

9393　浦賀日記其他　16.85—185
手写
62丁　24cm
榊原氏旧蔵。浦賀日記（前号と同じ），安政5年6月江戸へ異邦船渡来中日記抜萃，安政5年8月仏朗西船渡来中之記などを収録。安政3～6年（1856～59）のもの。

9394　仙台様ヨリ御内願書　16.85—186
藤田仁左衛門編
安政3年（1856）
13丁　24cm
松平陸奥守の東蝦夷地警固に関する上書等の留書。

9395　薩州より御届之写　16.85—187
手写
2丁　24cm
琉球開国をめぐる朝鮮・フランス等の対立に関する島津氏の書上。日付は安政3年（1856）5月14日付。

9396　風説書　16.85—188
安政4年（1857）
11丁　25cm
副題として「安政四年二月於長崎和蘭領事差出ス書面和解並同国甲比丹対話書但清英戦争事件」とある。

9397　〔日米安政条約勅許一件留〕　16.85—189
手写
48丁　24.5cm
表紙に「安政四巳年十二月より安政五年戊午」「極秘書」とある。内容は，安政5年（1858）日米修好通商条約締結にともなう幕府と朝廷の

交渉を示す文書の写，天皇の条約調印拒否の勅答に対する幕府の対応を示す文書写，京都からの書状中にある京都政情の抜書，安政5年午2月羇中日記（扈従川路左衛門尉のもの）の写などである。
旧書名「京都見聞日記」。

9398　亜国一件　16.85—190
40丁　24cm
和親条約から通商条約へと進む，安政4年（1857）のアメリカとの交渉記録。下田奉行宛公儀書状，アメリカ官吏との書翰等を収録。

9399　亜墨利加応接　16.85—191
54丁　24.5cm
榊原氏所蔵の写。安政4年（1857）12月の幕府とアメリカの交渉記録。対話書，アメリカ提出条約案等を収録。

9400　〔亜墨利加条約ニ付書状〕　16.85—192
手写
1通　16cm
嘉永7年（1854）の神奈川条約締結にあたり勅許を求めた書状。
旧書名「亜墨利加条約之次第」。

9401　魯西亜国等条約并税則　16.85—193
前田家編輯方編
明治年間
146丁　24cm
安政5年（1858）締結のロシア，イギリス，オランダ，フランス，アメリカとの安政5ヶ国条約と税則を記す。

9402　五箇国条約并税則　16.85—194
手写
14丁　29×21cm
安政5年（1858）のアメリカ，オランダ，ロシア，イギリス，フランスとの通商条約および税則。

9403　〔開港場所にて商売・蒸気帆船買入許可の公儀被仰渡通知状〕　16.85—195
手写
1通　16.5cm
長大隅守より薄井丹助・早川徳三宛。神奈川・長崎・箱館の開港に伴ない出稼移住勝手，商売に蒸気帆船買入不苦事につき公儀被仰渡通知状。
旧書名「神奈川・長崎・箱館へ出稼又は商売致度ものニ付達」。

9404　魯西亜使節へ武鑑渡方之儀申上候書付　16.85—196
堀利熙等著
仮綴1（2丁）　24cm
内容は幕府外国奉行堀織部正利熙等4名の書状。ロシア使節ムラビヨフの武鑑購買要求に対する対処の伺い。日付は安政6年（1859）7月。この伺書の返書の写も付されている。

9405　〔英人に売渡したる武具品書〕　16.85—197
手写
4丁　24cm
安政6年（1859）芝青松寺門前町古道具屋安五郎の取引品目書上。

9406　〔ヒユースケン事件覚〕　16.85—198
手写
3丁　24.5cm
万延元年（1860）ヒュースケン殺害事件後のハリスと老中安藤対馬守との交渉記録。
旧書名「生麦事件覚」。

9407　異国船来航一件について宗対嶋守より願書　16.85—199
手写
6丁　24cm
英人の対馬への渡来・上陸について報告，ロシア船渡来についての報告等書状3通の写し。いずれも宗氏から幕府宛で，日付は各々，4月14日，5月17日，4月12日である。

9408　青山家記録　16.85—200
前田家編輯方手写　明治年間
9冊　23cm
内容年代は文久2年（1862）～慶応2年（1866）。主に幕府の外交・撰夷政策に関する被仰出，触書，書状，風聞書などを書留めたもの。

加賀藩関係のものは含まれていない。
①文久２年10月～元治元年９月
②文久３年正月～同年11月
③文久４年正月～慶応元年正月
④文久４年正月～同年６月
⑤文久４年６月～同年12月
⑥元治元年２月～慶応２年12月
⑦元治元年６月～同年７月
⑧元治元年７月～同年８月
⑨慶応元年４月～同２年12月。

9409 〔異国交易につき異国人へ答振留〕 16.85—201
12丁 26cm
表紙には「英国コンシユルセネラール江此後対話之節去月十五日外国奉行江打合候ケ条申出候節答振」とあり，異国人への応答方法を例示したもの。旧書名「異国交易につき外国奉行と打合一件留」。

9410 〔英国よりの書翰大意留書〕 16.85—202
5丁 25cm
内題は「英国コンシユルセネラールより差出候書翰の大意」。英国領事の老中会見要請をうけて外国奉行がその必要を上申した書状留書。
旧書名「外国奉行より差出候書翰之大意奉差上候事」

9411 〔御国方役人様腰掛台見取絵図〕 16.85—203
絵図１枚 24.3×35.4cm
外国人接待のための日本側および外国人の腰掛設計図。

9412 異人応接所ニ付内密書簡 16.85—204
手写
１通 16cm
２月９日付（中川）八郎右衛門・石之助宛岡三五左衛門書状写。内容は横浜応接所設置等に関するもの。

9413 宇野直作より申来候紙面等之写 16.85—205
宇野直作著
手写
４丁 24cm
生麦事件の賠償問題等に関する書状の写し。５月11日付大目付・御目付宛書状，５月12日付御達書，５月14日付御聞番方より御達書を収む。

9414 〔亜米利加人渡来ニ付意見書写〕 16.85—206
１通 16cm
品川沖のアメリカ船（ペリー乗船か）について和親のある旨を記す書状写。

9415 〔外国和親交易ニ付心得書〕 16.85—207
１通 16cm
朝廷側に立ち，開国と外国貿易を批判する覚書。

9416 皺変鯨誌 16.85—208
手写
２冊 24.5cm
明治７年（1874）清国との台湾問題条款調印に関する諸記録。

9417 朝鮮近況紀聞 16.85—209
陸軍参謀局編
手写 明治９年（1876）
20丁 17.5×12cm
渡辺庸旧蔵。朝鮮の自然，地理，官制，兵制等についての調査書。

経　　済

9418 秀吉公御検地帳 16.85—210
手写
５丁 22.5cm
有沢氏旧蔵。秀吉の検地による各国別石高を記す。

9419 府藩県表高石高集記 16.85—211
手写
18丁 24cm
森可参旧蔵。全国諸藩を大藩・中藩・小藩に分け表高を記し，次に諸府県石高（旧幕領）を記したもの。明治２年（1869）版籍奉還直後の石高一覧であるが，数値の正確さは疑問。

9420 〔領知宛行状并目録写〕 16.85—212
巻子1　23cm
寛文4年(1664)越前藩主松平光通宛。所謂寛文印知の写。足羽郡，今立郡の全部，および吉田・丹生・南条・坂井・大野5郡の各々一部をのせた所付目録も付す。
旧書名「越前領村々相改写」。

9421 甲州村高附 16.85—213
有沢致貞著
手写　享保2年（1717）
46丁　22.5cm
甲州707ヶ村の村高を各村ごとに記している。

9422 常陸国新治郡西郷大割帳 16.85—214
安永3年（1774）
47丁　24.5cm
御献上，蔵番給，飛脚代，組賄入用，年番諸懸など地方入用の割当を記したもの。

9423 〔田畑年貢等〕皆済手形 16.85—215
庄三郎著
自筆
2通　33.5cm
寛政5・6年（1793・94）の庄三郎より七右衛門宛の皆済状。田畑年貢（金納）の外，永銭，国役銭，15年賦等がある。旧書名「借用金皆済手形」。

9424 課役考 16.85—216
五十嵐篤好著
手写
18丁　23.5cm
嘉永6年（1853）成立。著者は越中砺波郡島村の十村。外国船渡来につき村々から沿岸防備の人夫を出したことを契機に古来よりの課役を考察。

9425 出銀夫銀起原 16.85—217
手写
1通　17cm
前田恒敬旧蔵。夫銀徴収の由来を考証。

9426 地理細論集 16.85—218
冥壁用秀著
宝暦9年（1759）
4冊　27cm
宝暦9年（1759）成立。別名「地方細論集」，「地理根元記」。著者は幕府の代官を勤めた人。流布本と構成に違いがある。
①検見三段并色取検見之事など27項目
②国郡境川附飛地秣場等之事，取上ヶ地并地方答集弁之事，古今租税之事ほか
③検地根元并新田願吟味之次第事など16項目
④地方根元記御取箇之次第など31項目。

9427 〔備荒倉等抜書〕 16.85—219
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（18丁）　25cm
社倉，救荒の食糧等について，「地方凡例録」，足代弘訓著「おろかおひ」からの抜書。
旧書名「社倉抜書」。

9428 衣食并預證文融通之図 16.85—220
天保8年（1837）
1枚　24×35.5cm
農・工・商について，その金銭等の流れを図式化したもの。

9429 国事経緯弁略 16.85—221
海保鶴（青陵）著
手写
64丁　23cm
別名「経済話」。海保皐鶴（かいほこうかく）は青陵と号し，著名な経世家，宝暦5年(1755)生。文化2年（1805）金沢に来て，同3年京に出，同14年（1817）63才で没。商業経済の学に深く書画詩にも造詣あり。本書は加賀藩を素材に経済政策を論じた経世書。刊本　日本思想大系44「本多利明・海保青陵」。

9430 経済話 16.85—222
海保鶴（青陵）著
手写
88丁　23cm
別名「国事経緯弁略」。前号に同じ。

9431　済急問答　16.85—223
上田耕著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
天保7年の凶作の様子と救済策，藩政の改善，経済の調節などに関し問答形式で記したもの。
①烏有老人論急問答，救荒問答，済急問答を収録
②済急問答餘譚3巻を収録。

9432　済急問答附余談　16.85—224
上田耕著
3冊　23cm
内容は前号と同じ。
①烏有老人論急問答　救荒問答
②済急問答　済急問答餘譚1巻
③済急問答餘譚2巻を収録。

9433　辨　書　16.85—225
佐藤亮直著
2丁　22.5cm
「長国家而務財用者云々」という一節について字義・註釈を加えたもの。

9434　八木音羽之風　16.85—226
有沢武貞手写　享保20年（1735）
35丁　22.5cm
巻頭に仙赴の署名・印あり。能州飯田の後楽亭所蔵の写。佐渡の住人某が，所用で越前浅生津（麻生津）に止宿した際，同宿の近江の商人と東国の僧との会話を聞書きしたもの。米値段，金銭，当時商人覚悟などについて記す。

9435　三州宝貨録　16.85—227
森田平次著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
文久3年（1863）成立。この殆んどが「大日本貨幣史」に収録された。のち森田自身が改訂を加えて，「加藩貨幣録」（五巻）を著した。上・中・下の3巻に分れ，上・中巻は加賀藩の貨幣制度をほぼ年代順に記し，下巻で，幕府貨幣，加賀藩貨幣，銀札等を図入で解説している。
旧書名「加藩宝貨録」。

9436　公儀御貯用金之図　16.85—228
手写　天保14年（1843）
1枚　48×36cm　袋入
脇田尚保旧蔵。天保13年（1843）12代将軍家慶の時，非常貯用として宝金25員（34万両余）を製した宝金形様図。

9437　銅貨之儀ニ付再応申上候書付　16.85—229
天野喜三郎著
4丁　25cm
開港に伴う銅銭・銅器の国外流失を防止する策をのべたもの。

9438　本丸炎上ニ付諸式直段覚書等　16.85—230
6丁　25cm
安政6年（1859）10月の江戸城本丸炎上後の京都における金銭，地金，糸，綿，蝋，呉服太物等の相場についての報告。その他，幕府から朝廷への2万両の献金，兼田伊織・入江雅楽頭・若松本権頭の帰京，入江・若松・村岡の処分について報告する。

9439　河道考　16.85—231
本多利明（魯鈍斎）著
手写
35丁　23cm
寛政12年（1800）11月の成立。安政4年(1857)三園の手写したものの写。常陸国鹿島郡天野原の堀割開鑿計画を中心に論じた経世書。

9440　地租新論　16.85—232
富街処士著
前田家編輯方手写　明治25年（1892）
84丁　23cm
明治の地租を論じたもの。第1章地主と小作人，第2章地租の性質，第3章地租と農業，第4章将来土地収利の増減，第5章地租改正の概評，第6章地租主義の得失，より成る。

9441　清国貨幣種類并名目　16.85—233
手写
5丁　24cm
明治7年（1874）横浜東洋銀行管子代理ジョセフフロッセルより大蔵卿大隈重信宛。清国にお

ける貿易通貨に関する書翰。

9442　金沢挽回策　16.85—234
手写
13丁　24.5cm
北陸線の鉄道敷設を控えて，米作と機業による産業育成，富国策を論じたもの。

特16.86　教　育・社　会

教　育

9443　大学寮職員令　16.86—1
40丁　27cm
日本，中国における学制及び藩校に関する資料を収録。令義解職員令のうち大学寮規式，唐書百官志・明史職官志等よりの引用，熊本時習館など藩校の諸機構等を記す。

9444　足利学校絵図　16.86—2
手写　大正10年（1921）
絵図1枚　彩色　130×138.5cm　袋入
田辺仙三郎旧蔵。寛文年中（1661～72）幕府へ大修理出願時の絵図の写しで，大正10年史蹟指定となった区域を示すものという。

9445　御幼君之学問勘方について意見書　16.86—3
手写
巻子1　16cm
富田権六郎旧蔵。林大学頭と会談記録覚。

9446　中野随庵ヲ以御尋ニ付申上之留　16.86—4
大島忠蔵著
手写
3丁　24cm
内容年代は寛政4年(1792)。幕府学問所の啓事役・講師・読師・司餐等の扶持方および役向内容に関し，大島忠蔵が尋ねに応じ取りまとめたことを具申したもの。

9447　〔聖堂御囲中井戸数等絵図〕　16.86—5
横山引馬手写　寛政12年（1800）
絵図1枚　28×40cm
横山勇太郎旧蔵。不破半蔵所蔵の写。湯島聖堂の図。

9448　聖堂新図　16.86—6
手写　明治23年（1890）
絵図1枚　28×40cm
奥村栄滋所蔵の写。湯島聖堂の図。

9449　聖堂之図　16.86—7
高畠定辟手写
絵図1枚　24×35cm
高畠定辟旧蔵。「御下乗並御供残所」の部分図。

9450　〔聖堂釈奠ニ付披露所等絵図〕　16.86—8
文化13年（1816）
絵図1枚　48×36cm
横山勇太郎旧蔵。「聖堂釈奠ニ付 御名代御太刀銀馬代御献備組頭相勤候ニ付披露所等絵図」。

9451　拠遊館学則　16.86—9
上田耕著
13丁　23.5cm
拠遊館は上田耕の塾の名。天保3年，学則として学問に対する彼の態度を記す。

9452　拠遊館学則　16.86—10
上田耕著
手写
9丁　24cm
原題「学則」。前号に同じ。

9453　拠遊館学則　16.86—11
上田耕著
手写
仮綴1（14丁）　24cm
前号に同じ。

館

9454　拠遊館雑集　16.86—12
上田耕著
手写
25丁　24cm
内容年代文政10年(1827)～嘉永6年(1853)。日々の雑感を記す。

9455　聖学俚諺　16.86—13
上田耕著
天保8年（1837）
64丁　23cm
緒言，巻之一学原，巻之二受業規則よりなる。学問をする態度等について記す。

9456　諸藩学制　16.86—14
手写
45丁　27cm
諸藩藩校の学規・機構等を収録。時習館学規（肥後），甘棠館学規(筑前)，成章館学規（肥前・寛政3），芸州広嶋学館（天明6），若松学制，熊本学校堂館の機構，維新館功令（天明3），仙台養賢堂之図他，明善堂（久留米）の機構などを記す。

9457　仙台学校図　16.86—15
大田雄五郎手写
絵図1枚　56×35cm　包紙

9458　〔富山藩学等〕参考書　16.86—16
前田家編輯方編
明治年間
83丁　25cm
富山藩学，本朝学制考，林家関係書類，儒者流外入流沿革，北条家伝来鶴麻呂太刀，那須與市鞍，義経籠手，武田画像，種子嶋鉄砲伝来事蹟を収む。「日本教育史資料」，「葛巻昌興日記」等からの抜書。

9459　御筆被仰出之写　16.86—17
手写
5丁　24cm
島津家の藩校，造士館・演武館に関する法令の写しで，戊4月の日付あり。

9460　崎陽蘭人伝習日割　16.86—18
手写
3丁　24cm
嘉永・安政年間（1848～59）の，海軍伝習生の日課表。

9461　講武所銃陣号令語等　16.86—19
前田家編輯方手写　明治年間
51丁　23cm
講武所西洋銃陣号令語，安政4年9月下旬於東都芳山下曽根殿門弟西洋流調練御老若方御見置有之図并巳9月4日7日於芳山調練隊列，中隊図式（五行座備・箕手・雁行目安書抜および中隊図式）よりなる。

9462　加藤恒三郎心覚　16.86—20
加藤恒三郎著
手写
42丁　23.5cm
内題「古々路於保江」。慶応4年（明治元年），四民教導のために設置された講解席関係の覚書が中心で，「訓導被仰付候一件」「入学生会読講解割合」および書札留等から成る。旧書名「心覚」。

9463　〔督学の辞〕　16.86—21
手写
1通　24cm
「五礼通考」等より，督学の項目等を抜書したもの。

9464　徳川家兵学校規則　16.86—22
西周助著
手写
26丁　23cm
小木貞正旧蔵。別名「徳川兵学校掟書」。明治元年（1868），沼津に設置された兵学校の84ケ条よりなる規則書。及び「徳川家兵学校附属小学校掟書」31か条よりなる。著者は兵学校頭取。

9465　海軍兵学寮規則　御達書共　16.86—23
手写
50丁　24.5cm
明治3年(1870)，東京に設置された海軍兵学寮規則102条の写。幼年学生予科・本科・壮年学生科目表を付す。

9466　大阪兵学寮ニ関スル御手留抜書　16.86—24
前田家編輯方編

明治年間
29丁　25cm
「御手留」の中から，明治2年(1869)より同4年に至る，大阪兵学寮の加賀藩関連記事を抜書。

9467　松塢文稿　16.86—25
加藤恒著
手写
34丁　23cm
内題「明治七年（1874）十二月，六弊一件書類」。文部省が教育をすすめるにあたり，六つの障害があることを指摘し，各県に諮問した「興学之六幣」に関する石川県の答申書等を収む。

生　活・礼　法

9468　黒札之大事　16.86—26
上杉清定手写　寛文6年（1666）
巻子1　15cm
倉知加兵衛宛秘伝書。子供誕生の際の産所檀，盛物次第など諸儀式に関するもの。

9469　難産之時祈禱之次第　16.86—27
手写
巻子1　19cm
内容は寛文8年（1668）。難産之時祈禱之次第，難産死胎之大事を収む。方角，護身法，祈禱の説明。

9470　四条流七五三図　16.86—28
手写　慶応4年（1868）
19丁　22.5cm
小島為善旧蔵。祝言の際の料理配膳，飾りつけについて。彩色絵図を載せる。

9471　七五三献立　16.86—29
33丁　24cm
渡辺庸旧蔵。作法書。諸道具も図示する。

9472　当流七五三并五五三配膳次第　16.86—30
6丁　26cm
渡辺庸旧蔵。作法書。

9473　祝言之書　16.86—31
水島伝左衛門卜也著
塙亘手写　享保14年（1729）
12丁　25.6cm
原本成立は延宝3年（1675）。作法書。

9474　年竹之大事　16.86—32
簀子稽助之進著
手写
巻子1　17cm
明暦3年（1657）成立。秘伝書。年竹は印を結ぶと年令の数を告げるという竹。

9475　歳竹之大事　16.86—33
竹内正信著
手写
巻物1　17cm
寛文8年（1668）成立。

9476　歳竹之秘伝　16.86—34
手写
巻子2　19cm
2巻とも同内容。

9477　昔の十二ケ月　16.86—35
35丁　14×20.5cm
南部祇知旧蔵。加賀藩士のみた金沢の年中行事を記し，参勤交代時の諸行事も記す。

9478　蓬莱三宝之飾自詠解　16.86—36
遠藤高璟著
手写
9丁　24cm
天保15年（1844）成立。正月に飾る蓬来三宝を天保7年（1836）に改めたことについて解説。

9479　九月節句小袖品書　16.86—37
1通　16.5cm
節句着用小袖の明細。

9480　百八十之御餅二種一荷積方図　16.86—38
渡辺佐大夫手写　安政5年（1858）
3丁　26cm
渡辺庸旧蔵。作法図。

9481　百八十御餅御披露之分一対之内亀絵図　16.86—39
手写
絵図1枚　24cm

9482　女礼集　16.86—40
水島元成等編
手写
10冊　24cm
①女中しつけ方品々
②万通の次第
③酌の次第
④五節供の次第
⑤女中文法品々
⑥縫物の事
⑦女中装束の事
⑧産所の次第
⑨女中方祝の次第
⑩女中躾。

9483　燕饗　16.86—41
小笠原長時等著
手写
2冊　27.5cm
①酌法式　②酒礼法式。

9484　食饗　16.86—42
小笠原長時等著
2冊　28cm
作法書。①通法式　②食礼法式。

9485　礼法御入門之記　16.86—43
渡辺弼著
手写
46丁　23cm
天保15年（1844）成立。藩校師範方を命ぜられた渡辺次左衛門（弼）が，寛政5年（1793）より天保元年（1830）まで江戸詰の時，小笠原平兵衛より礼法を伝授された際の記録。稽古方入用，諸事入用等に関する公文書を主に収録。

9486　吉凶贈答及賓客饗応改良按　16.86—44
加藤恒著
手写　明治23年（1890）
6丁　24cm
吉凶事に関する贈答・饗応の作法を記す。

9487　引渡草引渡之次第　16.86—45
手写　弘化3年（1846）
6丁　26.5cm
渡辺庸旧蔵。作法書。原本「真式三献引渡草引渡之次第」のうち，真式三献を省いたもの。

9488　真式三献之次第　16.86—46
弘化3年（1846）手写
12丁　26cm
渡辺庸旧蔵。作法書。

9489　棚飾　16.86—47
手写
11丁　18×13.5cm
屋敷の棚飾についての礼法。

9490　不言録　後編　16.86—48
明治初年
73丁　23cm
村松修平旧蔵。後編は上・下より成る。蚊を焫る法，胎内の子男女を知る法，塩漬の物早出の法などを記す生活便利帳。諸書，口伝等をまとめたもの。

9491　江府山王祭渡物　16.86—49
今枝直方手写　享保11年（1726）
16丁　14×19.5cm
今枝氏旧蔵。江戸の二大祭礼のひとつ山王祭の御渡行列の順序及び人数などを記す。

9492　深谷の駅嫁入を見るの図　16.86—50
絵図1枚　25×34cm

9493　私立窮民撫育所規則　16.86—51
窮民撫育仮本所編
明治11年（1878）刊
9丁　18cm
撫育所創立のための寄附金要請のため作られた書類。撫育仮本所は，第2大区5小区芝公園地53にある。発起人は福岡県士族吉田道外，山本信己。

奇談・仇討・犯罪

9494　加越能之内珍敷事とも御尋に付書上ル写　16.86—52
手写
4丁　22.5cm
横山政和旧蔵。宝永3年(1706)算用場へ書上げの写。

9495　三州奇談　後編　16.86—53
堀樗庵(麦水)編
岡田退翁手写　寛政元年(1789)
3冊　23.5cm
①巻之一～巻之六
②巻之七～巻之十二
③巻之十三～巻之十五
刊本「三州奇談」石川県図書館協会参考。

9496　聖城妖怪奇談　16.86—54
48丁　23cm
別名「聖城怪談録」。大聖寺城下に於ける怪談奇談99条を集録したもの。奥書に「乙巳晩夏上浣傭書堂主人書」とある。刊本「聖城怪談録」(石川県図書館協会刊「大聖寺藩史談」)参考。

9497　金沢才川仇討話　16.86—55
前田家編輯方手写　明治17年(1884)
26丁　23.5cm
別名「加賀羽二重」。著者は長天者一水とあるが不詳。内容は，慶長元年（1596）石川郡曽谷村の百姓三平とその子三五平が，藩士山田権左衛門に殺され，のち孫の仁太が返り討となり，仁太の弟三太が元和元年7月19日に仇を討ったという架空の物語。

9498　復讐黒装束　16.86—56
橘児竜著
手写
36丁　23.5cm
金沢での明和5年（1768）の赤尾権平の仇討事件について物語とその附録である実録とを収む。物語の成立は文化9年（1812），実録の成立は文化12年（1815)。

9499　磐船仇討実録　16.86—57
79丁　24cm
大久保加賀守足軽，浅田鉄蔵・門次郎兄弟の仇討一件記録，文政7年（1824）常陸国鹿島郡にて仇討。

9500　〔大久保殿家来敵討之件写〕　16.86—58
手写
1通　15cm　包紙
浅田兵助の養子鉄蔵(21才)と実子門次郎が父の仇，成瀬万助をうつため，文政3年(1820)に許可をうけた際の文書等3点の写。
旧書名「相州小田原大久保加賀守家来復讐之件写」。

9501　復讐藤英伝　16.86—59
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
天保9年（1838）5月，高岡町で近藤忠之丞が父曇田忠太郎の仇山本孫三郎を討つまでの顛末を記す。天保9年曇山亭の序あり。

9502　敵討加賀風呂敷　16.86—60
手写
12丁　23.5cm
天保9年(1838)5月13日朝，金沢高岡町における敵討の始末記。足軽近藤忠之丞が父の敵，御馬廻組山本次太夫の弟学校読師孫三郎を討った記録。

9503　復讐論　16.86—61
大田信寛著
手写
3丁　23cm
南部祗知旧蔵。天保9年成立。同年高岡での敵討に関し評論したもの。

9504　於信州善光寺駅変事一件　16.86—62
早川某著
弘化2年(1845)
21丁　24.5cm
早川随勝氏旧蔵。弘化2年正月4日善光寺駅において信濃藩士馬渡場役南部永吉が善光寺町本陣の藤井平五郎親昌平，宿年寄久八を殺害した

事件に関する文書写などを集めた記録。

9505　松平外記刃傷一件覚　16.86—63
18丁　24cm
早川随勝旧蔵。事件当時の西丸詰当番等への役務不行届につき申渡書。

9506　鍋島肥前守より御達書写　16.86—64
羽室平左衛門著
天保7年(1836)
2丁　11.5×18cm
前田貞醇旧蔵。鍋島肥前守帰国の途中，川崎宿の本陣において建置いた関札を，川崎大師参詣中の民部卿が無暴に撤去した事件について，肥前守家臣羽室平左衛門より，幕府御用番水野越前守忠邦(老中)に宛てた天保7年3月7日付訴状の写。

9507　江嶋一党処罪之品　16.86—65
今枝直方著
22丁　19.5cm
正徳4年(1714)の江戸城奥女中絵島事件に関する文書類を収集編纂。今枝氏旧蔵か。

9508　〔建仁寺殺害事件之覚〕　16.86—66
手写
巻子1　25cm
中川典克旧蔵。京都建仁寺内での輪番僧による権力争いから起った殺人事件に関する覚書。

9509　〔女芸者追剝一件上書〕　16.86—67
河野忠蔵等著
9丁　24cm
小普請組諸士の不行跡について，御徒目付の報告書。

9510　江府回禄記　16.86—68
三宅可三著
今枝直方手写
28丁　20cm
今枝氏旧蔵。寛文8年2月江戸大火の見聞記。

9511　相模屋武兵衛一件上書　16.86—69
3丁　23cm
房相近海の漁民と江戸魚問屋との争論記録。

9512　石屋之一条一応取調申上書付　16.86—70
2丁　25cm
相州天野海蔵の御台場建造につき，小田原石屋善左衛門との建築請負い代金をめぐる争論の覚書。

特16.87　和算・天文・気象

算法・測量

9513　唐算式　16.87—1
手写
19丁　12×18.5cm
宝暦11年(1761)成立。学習の覚書。

9514　関流算盤　16.87—2
絵図1枚　78×101cm
脇田尚保旧蔵。関流伝来の算盤で文政5年(1822)中野庄兵衛統従ヨリ脇田吉太郎宛授与されたもの。

9515　算法地方之巻　16.87—3
会田安明編
河合某手写　嘉永7年(1854)
36丁　24cm
関東郡代伊奈半左衛門家の秘書を編纂したもの地方支配の参考書。

9516　算方覚　16.87—4
3丁　12×17.5cm
加賀藩地方支配のための覚。

9517　町見便蒙鈔　16.87—5
有沢武貞著
手写
33丁　23cm
永貞が遠近道印藤井半知から伝授された測量法に工夫を加えて，その子武貞に伝え武貞が又工夫して完成したもの。宝永8年(1711)原本成立。

9518 領絵図製法二種 16.87—6
手写
56丁 23.5cm
○領絵図仕様之事(五十嵐孫作)
○御検地領絵図仕立様(石黒信由)。

暦

9519 甲子循環六十之図 16.87—7
刊
1枚 38×32cm
干支による年号早見表。

9520 暦の註 16.87—8
有沢致貞編
手写
28丁 23cm
高畠辟旧蔵。享保11年(1726)成立。天文道，算道，陰陽道の三家合一の立場より論じたもの。

9521 右三左参皆中之図 16.87—9
天明3年(1783)
1枚 45×45cm 包紙
包紙には「天明三癸卯六月廿七日右三左三御皆中之御図一枚，同七月八日江戸御屋敷於御居間加賀守様御手自従中将様拝領被仰付……以御意拝戴」とあり，有沢才右衛門(貞幹)が拝領したものか。「天明三癸卯歳六月廿七日 朝六九分，右三左参(ウサササン)出御皆中甚奇妙，伍状也」とある。

9522 改暦辨 16.87—10
福沢諭吉著
明治6年(1873) 刊
11丁 22cm
小木貞正旧蔵。慶応義塾蔵版。

9523 明治三十三年暦 16.87—11
東京帝国大学編
神宮司庁 明治32年(1899) 刊
46丁 25.5cm
東京天文台測算の暦。各地の経緯度，平均気温官幣社例祭日等を付す。旧書名「暦」。

9524 替毛之馬乗馬等ニ成分或ハ吉凶ヲ尋シ留 16.87—12
手写
2丁 24cm

9525 〔つゆに入る日御答〕 16.87—13
1通 15cm

気 象・地 震

9526 晴雨寒暖〔抜書〕 16.87—14
前田家編輯方編
明治年間
42丁 25cm
内容年代は安永・天明・寛政期のもの。異常気象に関する政鄰記よりの抜萃記録。

9527 〔信州路大地震之記〕 16.87—15
前田貞事著
自筆 弘化4年(1847)
38丁 11.5×17.5cm
前田貞醇旧蔵。弘化4年3月24日の地震について，同年4月より8月迄の記録。「信濃越後大地震に付追々申越候趣等見聞にまかせ略記置」とある。

9528 御江戸大地震大破并出火類焼場等書上之写 16.87—16
要石堂 刊
9丁 23cm
小木貞正旧蔵。安政2年(1855)10月2日大地震の被害記録等を記したもの。白鳳5年以来の地震年次の一覧も付されている。

9529 〔駿州大地震御届書等〕 16.87—17
手写
3丁 24cm
11月4日下田沖地震について駿河国元よりの届書。

9530 〔魚津蜃気楼之図〕附喜見城之図断 16.87—18
絵図1枚(変化図6枚付)・6丁 24cm
52×73cm
寛政9年(1797)4月，藩主治脩一行が江戸より

の帰路，魚津で蜃気楼を見た際の記録。喜見城とは魚津蜃気楼を綱紀が命名したもの。「喜見城の図断」(明治17年手写)には，諸本よりの蜃気楼に関する諸説を付す。

9531　関東筋出水一件　　16.87—19
9丁　12×36cm
江戸町廻り役，徳田喜兵衛等の報告を収録。

特16.88　本草・医薬

本　　草

9532　庶物類纂　　16.88—1
稲生若水等編
手写
213冊　25.5cm　箱入
動・植・鉱物等3500種を，草・花・鱗等26属に分け，それぞれに，小学書，本草書を始め多様な漢籍文献から関連記事を抄出し，収集したもの。
編者稲生若水は加賀藩に仕え，元禄10年(1697)藩主綱紀よりこの編纂を命ぜられた。はじめ26属1000巻を完成する予定であったが，正徳5年(1715)若水が病没した時は，9属362巻が成立していた。その後，編集は加賀藩内で続行の動きもみえたが，享保9年(1724)綱紀の死で一旦停止された。同17年(1732)将軍吉宗の命令で編集が再開され，加賀藩より召された若水の子稲生新助と藩医内山覚仲，及び幕府の医官丹羽正伯がこれを担当した。元文3年(1738)続修17属638巻を完成し，ここに当初の目標だった26属1000巻が達成された。その後，延享2年(1745)丹羽正伯が26属のうち8属について54巻を追加し，合せて26属，1054巻の庶物類纂が成立した。本図書館の213冊本は，幕府が編集完成後写本を前田氏に贈ったものといわれている。庶物類纂は本図書館の他内閣文庫所蔵465冊本，国立国会図書館所蔵415冊本等がある。
巻首上　庶物類纂惣目録
〃　自叙
〃　叙
〃　序
正補庶物類纂凡例
巻首下　増補庶物類纂序
〃　草属総目
〃　木属総目
〃　花属総目
〃　果属総目
〃　羽属総目
〃　毛属総目
〃　鱗属総目
〃　介属総目
①～⑤火属　⑥～⑭水属
⑮～⑰土属　⑱～㉛石属
㉜～㊴金属　㊵～㊽穀属
㊾～㊿菽属　(52)～(55)造醸属
(56)～(57)蔬属　(58)　海菜属
(59)・(60)水菜属　(61)～(63)菌属
(64)～(68)玉属　(69)～(74)蛇属
(75)～(82)竹属　(83)　蔬属総目
(84)～(116)蔬属　(117)～(130)虫属
(131)～(148)花属　(149)～(170)草属
(171)～(179)木属　(180)～(187)果属
(188)～(190)羽属　(191)～(195)毛属
(196)～(198)鱗属　(199)・(200)介属
(201)　味属　(202)・(203)増補草属
(204)　増補木属　(205)　増補花属
(206)・(207)増補果属(208)～(210)増補羽属
(211)　増補鱗属。
なお，各巻の細目は，647頁以降に載せた。

9533　庶物類纂抜萃　　16.88—2
2冊　28×17.5cm
①巻一・同二上・下，木部果部
②巻三～同七花部，草部・竹部。

9534　庶物類纂図翼　序・目録　　16.88—3
文化14年(1817)
81丁　27cm
安永7年(1778)幕府小普請組戸田要人が著した庶物類纂図翼，草本別録の序と目録を記したもの。前者は25巻，後者は上・中・下3巻。庶物類纂図翼は薬草図で，戸田要人献上後，便宜のため庶物類纂に添え置かれることとなり，この題名を得た。

9535 〔庶物類纂編集に関する書翰集録〕 16.88—4
手写　天保10年(1839)
93丁　27cm
内題「稲若水庶物類纂編集ニ付諸言上並同書御献上ニ付 戸田山城守殿等 御贈答竝御目六 御下書」幕府御書物役高木多仲が，考証のため書留等数十通を集録したもの。

9536 庶物類纂一件 16.88—5
手写
89丁　23.5cm
「庶物類纂御献上之儀ニ付留」と「庶物類纂御拝借之書面留」。前者は享保4年(1719) 9月に稲若水の編した362巻を幕府へ献上した経緯。後者は若水の没後，内山覚仲，丹羽正伯らがその補修をする迄の関係文書。
旧書名「庶物類纂御献上之儀ニ付留」。

9537 物産の儀稲若水御穿鑿言上書 16.88—6
稲生若水著
前田家編輯方手写　明治年間
8丁　25cm
温故集録三十八の抄。末尾に森田平次（良見・柿園）の解を付す。
旧書名「物産之儀穿鑿言上書」。

9538 〔莱菔之事〕 16.88—7
5丁　23cm
原題「本草綱目・汝南圃史・物理小識・本朝食鑑・本草哲蒙・莱菔之条合集」。

9539 梅乃花形の部 16.88—8
8丁　23cm
梅の花の種類を列挙したもの。

9540 白麿記 16.88—9
宇野富素著
手写　明治19年(1886)
8丁　28×20cm
宇野富業旧蔵。安政6年(1895)原本成立。白麿記附言，白麿履歴大略，白麿生図博物館江献納之事を加える。

9541 〔鶴飼ニ付書翰控〕 16.88—10
1通　15cm
中川典克旧蔵。中川某より脇田又八郎宛。

9542 〔麿毛数等書上〕 16.88—11
手写
2通　17cm
中川典克旧蔵。旧書名「麿毛数等覚」。

9543 奇魚之図 16.88—12
1枚　彩色　28×40cm
寛政10年(1798)伊勢長嶋出現の奇魚の図及び覚書。

9544 青琅玕珠記 16.88—13
今枝直方著
自筆　享保3年(1718)
38丁　26cm
青琅玕珊は瑚の類の奇玉。宮腰商人が所蔵したもので，その献上をめぐる経緯，玉の鑑定等について記す。

9545 〔石之名詮議留書〕 16.88—14
手写
1通　16cm
享保5・6年(1720・21)石詮議について中村典膳覚書。

9546 諸金属能毒記 16.88—15
舎密方編
手写
10丁　24cm
安政3年(1856)原本成立。能毒有無御尋ニ付書上。

医　・　薬

9547 医行格合如何御尋ニ付調書 16.88—16
手写
20丁　26cm
横山隆幹旧蔵。藩医，町医等の格式，規範等を記す。宝永年間より延享年間の規範等を引用する。

9548　医者御尋覚書　16.88—17
前田家編輯方手写　明治年間
18丁　25cm
前号と同一内容。

9549　黒川良安先生小伝　16.88—18
中新川郡教育会編
手写　大正9年(1920)
11丁　28×20cm
良安の諱は弼。号は静淵，医をシーボルトに学び，弘化3年(1846)13代斉泰の侍医で80石。佐々間象山と親交あり安政元年(1854)壮猶館教授慶応元年(1865)種痘所棟取，同3年(1867)卯辰山養生所主附 180石，金沢医学館教師，明治23年(1890)9月28日74才没。

9550　医員勤功書　16.88—19
214丁　25cm
幕府御用医師の勤務状況の報告を集録したもの天保12年(1841)より安政6年(1859)の分。

9551　病院仕法書　16.88—20
三浦八郎左衛門著
手写
4丁　24cm
藩営の病院建設に関する慶応3年(1867)の計画書，敷地，看病人，諸費用等を記す。

9552　萬病回春序　16.88—21
手写
6丁　24cm
万暦15～16年(1573～1574)(明朝暦)の撰がある。

9553　〔御薬種目録〕　16.88—22
延宝8年(1680)
巻子1　36cm
唐，朝鮮渡来の薬種，日本にて育成種，貿易品薬種等書き上げたもの。香具師，商人等よりの書上げ19通を一括したもの。

9554　御医書　16.88—23
今枝直方手写　元禄13年(1700)
9丁　20cm
今枝氏旧蔵。馬の薬に関するもの。

9555　安　驥　16.88—24
今枝直方手写　元禄13年(1700)
32丁　26cm
馬の病理措置に関するもの。直方祖父の蔵書の写しで，直方はこの原本成立を文禄頃とみている。

9556　麻疹ニ付御食禁方相調候帳面　16.88—25
丸山了悦著
文政7年(1824)
10丁　12cm
丸山了悦は加賀藩御医師。「御平生惣被召上物之内」とあり，経過による食禁の品々を書上げる。

9557　攪腸沙療法等品々　16.88—26
14丁　12×18cm
安政5年(1858)夏，江戸等コレラ流行に関する諸記事を収録。

9558　養生訓　16.88—27
2丁　24cm
南部祇知旧蔵。「和語陰隲録」・「夜船閑話」等の宗教書・教訓書を引用し，養生について記す。

9559　蓮湖魚毒説　16.88—28
黒川良安著
手写
5丁　28×20cm
嘉永5年(1852)成立。河北潟の魚が死んだ原因を考察，湖水が腐ったためと説いてある。

9560　〔アジヤコレラを避る薬方等〕　16.88—29
榊原守典著
手写　安政5年(1858)
19丁　24cm
榊原氏旧蔵。原題「アジアコレラを避る薬方並病発之後療養薬方等」。病状，処置方法の他，「安政五年八月十三日亜細亜コレラ流行一件」・同年八月小石川御門外水野施板「コレラ病治法並予防」(木版刷)，金沢材木町薬店石見屋の処置方木版刷紙面等を一括する。

9561　バイ疫済急法　16.88—30
手写
3丁　24cm
博施堂が文久2年(1862)に発行したコレラの救急法。旧書名「社寺御奉行所御尋等八種」。

9562　〔公儀より相渡候朝鮮人参等之儀ニ付覚書〕　16.88—31
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1(39丁)　25cm
公義御触に対する江戸留守居の請印に関するもの。後半は，諸入用払米，貸米，借知等の覚。旧書名「朝鮮人参に関する覚書」。

9563　容体書記録　16.88—32
仮綴1(13通)　18cm
病気の容体を記した治療者への書状。

9564　病馬薬方　16.88—33
手写
13丁　25cm

9565　薬価即納簿　16.88—34
傳済医院佐々木薬局編
明治31～33年(1898～1900)
69丁　23cm
金沢市伝済医院佐々木薬局における，明治31年12月より，同33年1月迄の薬代支払者名とその金額を記したもの。

特16.89　建　　築

9566　鎌倉流家之指図　16.89—1
絵図1枚　50×68cm
屋敷の配置，間取り図の見本。
旧書名「鎌倉流屋形之図」。

9567　御囲絵図　16.89—2
文化2年(1805)
絵図1枚　76×50cm　袋入
前田貞醇旧蔵。袋表に「文化二乙丑二月堀越ヨリ指越　可秘図也」とあり。

9568　御居間廻御取畳ニ付云々絵図　16.89—3
文政7年(1824)
絵図1枚　127×107cm
二の丸御殿の部分図。

9569　御居間向廊下付之詮議之図　16.89—4
文政7年(1824)
絵図1枚　106×134cm
二の丸御殿御居間廻り図。前号とほぼ同一図面

9570　御居間廻リ等絵図　16.89—5
前田貞事(図書)手写　文政11年(1828)
絵図1枚　78×80cm　帯封
前田貞醇旧蔵。二の丸御殿部分図。

9571　甲府御館屋作分間之図　16.89—6
手写
絵図1枚　31×68cm
部分図(西半分)。

9572　御楽屋多門二間出シの図　16.89—7
絵図1枚　52×122cm
10分の1図。屋根部分構造図。

9573　御楽屋多門之図　16.89—8
絵図1枚　80×150.5cm
10分の1図。壁・屋根図。

9574　御楽屋多門屋称遠図　16.89—9
絵図1枚　77×87cm

9575　廐部屋図　16.89—10
手写　弘化2年(1845)
絵図1枚　27×119cm
前田貞醇旧蔵。大工中村屋理助所蔵の写。建築見取図。

9576　〔河北・石川与力番所図〕　16.89—11
絵図1枚　76×106cm
原題「河北石川与力番所十分一之割」番所建物の構造図。

9577　〔尾坂御堀捨水前田弾番屋敷内取入一件並絵図〕　16.89—12
慶応3年(1867)
8通・絵図2枚　23.5cm・50×43cm
①慶応3年7月　普請費用ニ付山崎縫殿達書
②同年6月　前田弾番より堀立図添紙面
③，④同年9月　普請代銀請取
⑤～⑦同年7月　普請代銀見積書
⑧普請費用ニ付（断簡）
⑨前田弾番屋敷水取込図
⑩前田弾番屋敷捨水ニ付博労町付近埋樋等図。
旧書名「尾坂御堀捨水を用心水として屋敷内取入一件并絵図」。

9578　〔江戸邸土蔵〕煉化石塀御積リ帳　16.89—13
明治17～18(1884～85)
2丁・10通　24.5cm・24cm
①煉瓦石塀見積帳（岡野利助　自筆）　②土蔵瓦葺見積（瓦師吉野太三郎　自筆）　③石工見積（手写）　④材木見積（手写）　⑤石工見積（土蔵）（田辺三五郎自筆）　⑥，⑦，⑧人足見積（⑥⑦は塀，⑧土蔵）（窟頭松島彦八　自筆）　⑨，⑩，⑪石工見積（⑨は土蔵，⑩，⑪は塀）（田辺三五郎　自筆）。

9579　〔江戸邸〕土蔵并煉化等図帳　16.89—14
田辺三五郎著
明治17年(1884)
7枚　27×55cm　袋入
江戸前田邸の塀と土蔵の基礎を煉瓦積みにするための計画書。田辺三五郎は，本郷竹丁の石工
①27×55cm
②③上口，中口煉化積図（28×40cm）
④屋根棟迄惣高サ九尺（32×24cm）
⑤裏之控石垣下迄煉化積之図（32×24cm）
⑥煉化石塀地絵図外側（32×24cm）
⑦煉化塀土台石垣。

9580　天守御居間絵図　16.89—15
脇田金岱手写　天保11年(1840)
絵図1枚　52×50cm
「御天守二重二間一尺，石垣，上ノ方二間ニ三間，下の方四間ニ五間，右惣高台ヨリ上棟マテ五間壱尺」とあり。

9581　〔御殿絵図〕部分　16.89—16
絵図3枚　彩色　80×80cm～48×35cm　包紙

9582　高山御亭図　16.89—17
絵図1枚　29×41.5cm
富田権六郎旧蔵。間取り図。

9583　平河邸御広式図　16.89—18
手写
絵図1枚　23.5×35cm
島田孝郷旧蔵。「平河邸広式図欤」の貼紙があるが，不詳である。

特16.9　文　　芸

特16.90　総　　記

9584　燕台風雅　　16.90—1
富田景周著
手写
11冊　27.5×19.5cm
加賀・能登に関する文学一般を集大成したもの。全20巻と目録1冊。富田景周は加賀藩士，禄高 2,500石。経学詩賦を学び，国史に精通して博覧強記。この書は寛政3年（1791）原撰，のち追記を加えて文政8年（1825）藩侯に献じた。「文政丁酉秋七月男景煥拝書」と跋あり。景煥（かげあき）は景周の子。
①目録
②首巻（詩来歴），2巻（三州古代詩，菅丞相，陽広公，松雲公嗜学叙事）
③3・4巻（諸大夫士小伝）
④5・6巻（学士伝）
⑤7・8巻（僧医陪臣暨布衣韋帯市井草莽之徒，或女流書画伝，富聖両支封学士小伝）
⑥9巻（五七言古詩），10・11巻（五言律，五言排律）
⑦12・13巻（七言律）
⑧14巻（五言絶，七言絶），15巻（七言絶）
⑨16巻（賦序），17巻（論記）
⑩18巻（賛銘説）
⑪19巻（賀文，祭文，碑文、碑跋、附言、疑問、引訳文），20巻（書牘）。

9585　燕台風雅　　16.90—2
富田景周著
手写
11冊　23.5cm
岡田棣旧蔵。全20巻と目録1冊。「文政丁酉秋七月男景煥拝書」とあるが前号の手写と思われる。
①目録，大正元年（1912）手写
②1・2巻　③3・4巻
④5・6巻　⑤7・8巻
⑥9・10・11巻　⑦12・13巻
⑧14・15巻　⑨16・17巻
⑩18・19巻　⑪20巻。

9586　筆　　叢　　16.90—3
子徳編
185丁　12.5×18.5cm
大野木克征旧蔵。内容は「書籍考」上，下。なお紙背文書あり。

9587　校正御用留　　16.90—4
手写
21丁　27cm
内題「校正御用言上留」。大島維直の二十一史及汲古閣十七史の校合・校正に関する文化13年（1816）から安政3年（1856）の御用留。

9588　見聞録文事　　16.90—5
奥村白羽編
手写
39丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵の写。作詩・作歌のために和歌・漢詩・物語・随筆などからメモしたもの。白羽は奥村氏宗家10代尚寛（ながのぶ）宝暦7年生，享和3年没47才。

9589　読書筆記　　16.90—6
安政4年（1857）
31丁　11.5×18cm
読書に際して作成したメモ帳。

9590　備忘記抄　　16.90—7
前田家編輯方編
明治年間
140丁　23.5cm
奥村栄滋所蔵本の抄。内容は，射論（吉田茂雅），江府戯書（奥村），御養生宣訓（白井玄升），射水郡角間村地震，貫知行，日本ニ紋ヲ用井ル事，能州海辺ノ奇石，能海鋤鯉皆一目，越中ノ奇魚，朝鮮書目，匹夫急務，白蛾先生春興詩歌等，朔旦冬至，米銀論，珍石数十品，蝿蠶，福善禍悪問答（室鳩巣），奥村氏鑑銘并序（室鳩巣），鳩巣和歌，板津検校和歌，経書講義式，歴史訳義・対問式，対問式，文章紀事・復文式，投壺今解。

9591　〔占　　筮〕　16.90—8
7枚　12×9cm
札は「い～と」まであり，各々政用，武学，易学，留帳等，皇国学，経伝等，修身とあり。

9592　野村円平書簡并詩稿　16.90—9
野村円平著
自筆
11通　14.5～17cm
野村円平は金沢の商人で屋号は八田屋，酒造業，日傭頭を営む。空翠・栖霞と号して学を好み詩をよくし諸技に通じていた。年40にして家を弟にゆずる。文客の訪れるもの多く，勤皇の志あり。慶応元年没，82才。

9593　葛巻筆記抜書　16.90—10
前田家編輯方編
明治年間
90丁　23cm
葛巻昌興の日記の抄本で，延宝8年（1680）から元禄6年（1693）の和歌類をはじめ，遊芸学芸関係が主である。

9594　葛巻昌興筆記抜書　16.90—11
手写
53丁　27cm
前号と同じものであるが収載項目は少ない。

9595　葛巻昌興日記抄　16.90—12
前田家編輯方手写　明治年間
24丁　25cm
音律，絵図，刀剣などの関係記事の抜書。

9596　〔文　藻　類〕　16.90—13
手写
仮綴1（261丁）　25cm
前田貞醇所蔵の写。

9597　〔諸氏詩文等写〕　16.90—14
手写
仮綴1（189丁）　25cm
漢詩，書状，記文，墨蹟，覚書など雑多なものを一括す。旧書名「諸氏詩文集」。

9598　校合雑記　16.90—15
前田家編輯方手写明　治年間
24丁　24cm
細川幽斉，榊原古八兵衛，黒田如水の項などを抜萃したもの。

9599　改正五経一件〔上書〕　16.90—16
手写
4丁　25cm
差出，宛所不明，安政6（未）年（1859）の書上げか。嘉永3年（1850）寄合西尾主水家来西尾寿閑の「改正五経」を江戸吉川町佐助等が販売しようとしたところ，大坂南久宝屋町炭屋五郎兵衛から異議の申し出があり、寺社奉行裁決の結果数か所を削除して許可されたが，五郎兵衛の工作により販売が延引されていることを記す。

9600　魯西亜人買上書目書上帳　16.90—17
岡田屋嘉七・和泉屋吉兵衛著
自筆
7丁　24cm
安政6年（1859）江戸の書物問屋岡田屋嘉七，和泉屋吉兵衛がロシア人に売った書籍と代金の書上げ。江戸絵図は一切売らなかったと記している。

9601　〔春琴論画詩〕　16.90—18
手写
77丁　27cm
原題「春琴論画詩・孔石邨画訣・竹田山中饒舌」天保13年（1842）～15年（1844）に成立。

9602　止斎雑著　16.90—19
奥村栄実著
33丁　23cm
「花茂」文政4年（1821）の紀行文。「寿賀考略」文政10年（1827）栄実慶寿のことにつき旧典により考証。「衣延弁」「にえ」の語原につき考証，からなる。止斎は栄実の号。

9603　世世七条雑記　16.90—20
今枝直方編
自筆　貞享元年（1684）
42丁　25cm

和・漢の漢籍「漢武帝不乏臣」他，69条を写したもの。

9604 和漢珍書考　16.90—21
手写
18丁　27cm
水戸史館考叙

9605 両京新記　16.90—22
手写
12丁　24cm
両京新記のうち，丙部，中華之書一巻金沢文庫蔵書の写。

特16.91 詩　　歌

歌論・詩歌集

9606 賦物傳授　16.91—1
松雲庵瑞順著
今枝直方手写　元禄11年（1698）
23丁　20.5cm
瑞順は小松城下菅神社宮司，貞享2年成立。連歌初学抄の賦物篇も収む。

9607 奈良の蕤越のしおり　16.91—2
富田景周著
文化9年（1812）
3冊　27.5cm
奥村慎猷旧蔵。上・下・附録の3冊。越中の万葉歌にゆかりの地名を考証。

9608 元良斎様御詠歌并御歌合評之写　16.91—3
之行手写　文政10年（1827）
10丁　24cm
歌合，元良斎の歌および和歌稽古録を細字で写している。

9609 当流口伝直道歌之書　16.91—4
深町十蔵編
自筆　文久元年（1861）
巻子1　17cm

9610 御詩写　16.91—5
梅遊手写　慶応2年（1866）
14丁　12.5×18cm
横山和（政和）の漢詩に送りがなを附して読下し文にしてある。旧書名「横山和詩写」。

9611 有磯遺草附源康正和歌　16.91—6
横山政和編
明治3年（1870）
24丁　23.5cm
千秋藤範の遺草を編集したもの。詩87首，和歌26首を収録。なお，源康正の和歌を附録。藤範は愷字，愷爾とも称し，号は有磯または顧堂。

9612 多賀直清歌集　16.91—7
前田家編輯方編
明治年間
87丁　23.5cm
内容は，多賀直清歌集，勅選作者私考，直清随筆，能順独吟連歌，多賀賢三郎漢詩（明治3年作）。直清は多賀与一右衛門，加賀藩士，歌人文政4年（1821）没，62才。旧書名「歌集」。

9613 世子東京遊学餞送　16.91—8
手写
2冊　23cm
第14代藩主慶寧の長子，利嗣が明治4年（1871）11月14才で渡米英。その際，明倫堂教師と学友多数が壮行の詩歌を読み，それを集めたもの。

9614 世子の東京遊学を祝う詩歌　16.91—9
手写
17丁　23cm

9615 経緯機用　16.91—10
前田家編輯方編
明治年間
104丁　23.5cm
岡本昭必所蔵の写。漢字の読みがなを解したもので，用例として前田利保の和歌を引用した歌書。

9616　渡辺幸庵和歌考　16.91—11
狩谷金吾（麐友）著
手写
3丁　24cm
和歌一首が幸庵の詠か否かについての問合せに対する狩谷金吾の回答状，青木良左衛門宛。渡辺幸庵は宝暦頃に128才まで江戸に生きたという人。

9617　越中万葉遺事　16.91—12
森田平次（良見・柿園）著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
上・中・下，万葉集中の越中の官吏の事蹟・作歌中の地理考証，大伴家持の年譜・作歌の考証よりなる。「越中万葉遺事」3冊は附録4冊と共に明治12年に成る。刊本「萬葉事實餘情　越中萬葉遺事」に所収。

9618　郷土に関する和歌俳句等　16.91—13
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（32丁）　24.5cm

9619　菊園遺芳　16.91—14
田中躬之著
横山政和手写　明治15年（1882）
30丁　23.5cm
安政6年（1859）狩谷麐友写本の写。新古今集ノ和名抄，中務集，伊勢物語等の中の用語について各々考証したもの。

詩

9620　〔一如孝順偈并和歌〕　16.91—15
一如孝順著
自筆　享保17年（1732）
1枚　29×39cm　包紙
原題「護国老衲順一如偈并和歌」。一如は宝円寺15代の住職。

9621　盛徳頌　16.91—16
有沢武貞（桃水軒）手写　享保20年（1735）
8丁　22.5cm
徳川家康頌詩集。

9622　瓊敷玉藻　16.91—17
賀清廉伯操編
手写
13丁　23.5cm
明和辛卯〔8年〕（1771）の序文あり，跋文は富田景周。

9623　砆塢遺稿　16.91—18
横山政孝（致堂主人）編
文化5年（1808）
15丁　11.5×17.5cm
「文化戊辰（5年）冬十月二十四日，致堂主人黄孝撰」とあり。砆塢は8才にして致堂主人の側に仕え，詩を能くしたが16才にして死去，よって遺稿を編すと，草稿のまま。

9624　春遊十絶　16.91—19
横山政孝著
文化5年（1808）
6丁　11.5×16.5cm
政孝は，字致堂，海裳園主。易を好み学を能くす。加賀藩士，世禄1万石，前田斉泰の傅たり。天保7年（1836）没，49才。

9625　芝草僊園聯吟　16.91—20
横山政和編
3丁　24cm
政和の父，横山政孝（致堂主人）とその後妻蘭畹（らんえん）女史の詩を収む。

和歌・連歌

9626　河西遊記　16.91—21
懋道人著
手写
15丁　24cm
岡田棣旧蔵。天保13年（1842）頃の成立か。河西とは越中神通川以西の意，漢文の紀行文と漢詩。

9627　〔野村円平詩稿〕　16.91—22
野村円平著
手写
3丁　23.6cm

原本は，嘉永５年（1852）の成立。

9628　天柱詩草　16.91—23
北渓居士（津島佶）著
自筆　安政２年（1855）
12丁　17×11.5cm
岡田棣旧蔵。

9629　高岡詩話附補遺　16.91—24
北渓居士著
自筆
２冊　17×12cm
岡田棣旧蔵。第１冊は１巻～３巻，第２冊は４５巻および補遺，越中の高岡に関係のある漢詩人について記す。

9630　先孝逸詩　16.91—25
横山政和編
慶応４年（1868）
20丁　12×18cm

9631　陽広公遺訓附録　16.91—26
横山政和編
明治６年（1873）
４丁　24cm
林羅山詩集から詩二篇を収め，これを陽広公遺訓の附録に加えんとしたもの。

9632　登嶽詩草　16.91—27
横山政和著
４丁　24cm
白山比咩神社宮司横山政和が明治17年（1884）白山に登った際の詠詩。

9633　漫遊唱和録　16.91—28
横山政和（蘭洲）編
22丁　22.5cm
政和とその詩友の作品を収む。

9634　再遊漫録　16.91—29
横山政和編
13丁　24.5cm

9635　呈蕪調　16.91—30
石埼謙著
自筆　明治16年（1883）
１枚　28×28cm
癸未９月２日従四位前田公自香山還京恭賦此以呈。七言絶句。

9636　金城風藻　16.91—31
榊原守典編
２冊　23.5cm
庚申，辛酉，壬戌などの年に作詩されている。

9637　苔岑小稿　16.91—32
安富均（国民）著
２冊　23.5cm
安富均は小松辺の人，壬申晩春の横山政和の朱筆が入っている。

9638　雙岳詩草　16.91—33
東方履著
手写
10丁　23.5cm
東方は大聖寺の人。未定稿。

9639　〔陸原大次郎〕詩稿　16.91—34
陸原大次郎著
手写
23丁　23.5cm
大次郎は越中の人，之淳（ゆきあつ），初号蒼崖，後号藤陰といい，金沢の書店に勤め，のち京，江戸で苦学して天保２年(1831)明倫堂助教となり，のち教授，藩侯の侍読を兼ね，禄140石，職俸70石を受く。旧書名「詩稿」。

9640　一之和尚呈法皇詩　下　16.91—35
釈文守著
３丁　20cm
禅僧一絲和尚（文守）の漢詩10篇と太上皇に呈する漢文の献辞。

9641　江忠囿文草　16.91—36
江忠囿編
手写
５丁　25cm

横山政和所蔵の写。忠圃は字は子園，号は南溟。

9642　雑集詩遍・艸稿　16.91—37
2冊　24cm
華府君時代もの，白華府君時代のものと朱書あり。旧書名「雑集詩篇」。

9643　百華吟　16.91—38
5丁　11.5×17.5cm

9644　詩稿等　16.91—39
3丁　19.5×13.5cm

9645　御詩稿写　16.91—40
手写
2冊　12×18cm

9646　〔林門諸氏詩文集〕　16.91—41
手写
仮綴1（131丁）　24.5cm

9647　菅家御詠集　16.91—42
天渕手写　元禄6年（1693）
55丁　22.5cm
北野実成院明順自筆本を長享3年（1489）正月4日に写したものの写本。

9648　天神御詠歌抜書　16.91—43
手写
14丁　24cm
天神は菅原道真。延宝6年（1678）摺写本の手写。

9649　三拾六歌仙　16.91—44
手写　文久2年（1862）
18丁　12×8cm

9650　三十六人歌仙　16.91—45
手写
7丁　23cm

9651　曽理乃綱手　16.91—46
前田家編輯方編
明治年間
63丁　23cm
越中各地（砺波山，卯花山，二上山，立山等）で詠まれた和歌，万葉集のうち大伴家持を中心とした和歌などを採録。

9652　武家百人一首　16.91—47
手写
14丁　22.5cm
平安，室町期の著名な武士の詠んだ和歌。

9653　古今名婦百人一首　16.91—48
手写
12丁　22.5cm
古今の名婦を題材にした和歌。

9654　奉納千句連歌序文之抜・万句連歌人名之抜　16.91—49
手写
13丁　23.5cm
夢想ありて白山神前に千句の連歌を勧進したという北村三郎右衛門入道宗甫の慶長10年(1605)9月27日の序文，および同11年，12年の万句連歌帖からの人名書抜。

9655　夢想之連歌　16.91—50
寛文4年（1664）
4丁　17.5×48cm
詠者は能順など。

9656　板津検校百韻連歌　16.91—51
板津検校（巽一）著
手写
4丁　24.5cm
寛文8年（1668）板津検校が利常の武運を祈るため白山権現の前に独吟百句を詠んだ際の前文と末尾を収む。板津正的（しょうてき），通称巽一，盲人にして検校となる。国学，連歌に通じ，前田利常に近侍，10人扶持，延宝7年（1679）没。

9657　〔連歌〕花何　16.91—52
手写
7丁　24cm

元禄16年（1703）9月18日横山外記へ贈ったもの。

9658 大嘗会歌　16.91—53
藤原資時・藤原光栄編
元文3年（1738）
12丁　23.5cm
桜町天皇即位の際の大嘗祭の和歌集。

9659 独吟之連歌　16.91—54
奥村伊豫守（有輝）著
享保10年（1725）
8丁　20cm

9660 自讃歌　16.91—55
有沢武貞編
享保20年（1735）
19丁　22.5cm
天皇，親王，摂政，大僧正などの和歌を集む。

9661 〔香樹院様等御詠歌〕　16.91—56
明和3年（1766）
巻子1　15cm　包紙
横浜宇八旧蔵。原題「守拙様御筆也香樹院様守拙様御詠歌并国泰寺先住青地蔵人詠歌」。

9662 〔越中御泊御鷹野御旅宿ニテ御詠歌〕　16.91—57
手写
1通　17.5cm
安永9年（1780）10月中旬，越中に鷹狩の時旅宿にての御詠歌なりと，詠人不詳。

9663 中越布勢湖八勝　16.91—58
閘郁編
富田景周手写　文化6年（1809）
16丁　26.5cm
奥村慎猷旧蔵。閘郁は越中射水郡勝興寺住。和歌のほか，布施湖八勝考その他を収む。

9664 詠草　16.91—59
集花・集国編
文化7～8年（1810～11）
2冊　19cm

9665 幕朝年中行事歌合　16.91—60
北村季文編
かせきの屋あるし手写　明治16年（1883）
8丁　22cm
文政年間に季文が幕府年中礼式を題として詠んだもの。

9666 源氏　16.91—61
瓊葉（けいずい）著
天保9年（1838）
10丁　12.5×18.5cm
源氏物語の章名を題とした和歌および12カ月を題とした和歌。

9667 詠草　16.91—62
天保10年（1839）
3丁　12×17.5cm

9668 琉球人詠歌　16.91—63
中山朝意編
手写
4丁　18×12cm
中山氏は「天保十三年十一月八日江府来着」とあり。

9669 菊花譜　16.91—64
手写
30丁　11×17.5cm
内容年代は嘉永5年(1852)～元治元年(1864)。

9670 〔道中詠草〕　16.91—65
嘉永7年（1854）
7丁　12×18cm
江戸へ行く道中の詠歌。

9671 蘆城風藻　16.91—66
榊原守典編
手写
50丁　23.5cm
安政7年（1860）原本成立。守典は字子常，号拙処，三痴，蘭所，夢松，逸翁，梅下書屋。実は上田耕の弟で，加賀藩士今枝氏の臣榊原に養となる。好学，作詩，南宗画，書に巧みであった。明治8年（1875）没，85才。

9672　明治七年御製等　16.91—67
手写
25丁　12×18cm
御製のほか，明治18年（1885）までの歌会初の次第と詠歌，月次歌会御題を留む。

9673　春霞集　16.91—68
横山政和編
安政6年（1859）・万延2年（1861）
3冊　12×18cm
乾，坤および「春霞集中點の洩たる分」の3冊①は万延2年2月清書　②は安政6年12月輯とあり。なお田中躬之の朱点あり。

9674　〔横山政和〕詠草　16.91—69
横山政和編
元治元年（1864）・明治7年（1874）
3冊・5通　11.5×17.5cm・24.5～32cm
元治元年「歌品々」，明治7年「詠草」また寄道祝，春旅，花始開，夏岡，庭菊の各題を付した5通，なお春旅の一紙には明治24年本郷での歌合メンバーの留書あり。

9675　〔横山竜子〕詠草　16.91—70
横山竜子著
6冊　12.5×17cm・14×37cm・22.5cm
①明治7年より詠草
②③詠草
④點取の留
⑤秋夕傷心
⑥詠草。

9676　〔横山家歌会披講〕　1 .91—71
横山政和編
明治17年（1884）
5丁　24.5cm

9677　詠草七拾首　16.91—72
横山政和著
手写
6丁　23.5cm
白山比咩神社宮司横山政和，明治23年（1890）の作。

9678　〔横山竜子哀悼歌〕　16.91—73
手写
9丁　23.5cm

9679　寄蛍懐旧歌　16.91—74
手写
10丁　23.5cm
明治21年（1888）横山竜子（たつこ）1周年祭寄蛍懐旧歌および同23年，3周年祭悼歌。

9680　玉簪女史詠草抄録　16.91—75
横山政和編
明治21年（1888）
2冊　24cm
玉簪女史は吉野雪子，横山政和の妻，その5回忌に際し，次男隆起の輯しておいた遺詠を編したもの。

9681　道のこと草　16.91—76
松平忠敏著
前田家編輯方手写　明治年間
11丁　24cm
松平忠敏は三河国長沢城主，和歌集。戸水信義が「乙丑」すなわち慶応元年（1865）に手写した本の写し。

9682　妙音集評　16.91—77
狩谷竹窩著
横山政和手写　明治8年（1875）
28丁　11.5×18cm
和歌集「明治妙音集」の批評。巻末に横山政和の批評も記す。妙音集は御製や親王，公郷，女官の歌を収む。

9683　真弓園集　16.91—78
奥村栄通編
前田家編輯方手写　明治年間
69丁　26cm
狩谷鷹友の和歌集，編者はその弟子，明治7年（1874）10月に編す。初篇1の巻より6の巻までを収む。鷹友は田中躬之門下で明倫堂皇学訓導を勤む。前田斎泰の命で類聚国史補を監修す。明治11年没，57才。

9684 〔奥村家和歌雑集〕 16.91—79
明治８年（1875）
９丁　25cm

9685 白山比咩神社歌会披講 16.91—80
手写
３丁　26cm
明治17年（1884）６月１日披講。

9686 千代のかさし 16.91—81
杉本藤平　明治28年（1895）刊
50丁　22.5cm
和歌集，なお朱筆の書込みあり。

9687 国風十一種 16.91—82
前田家編輯方編
明治年間
86丁　23.5cm
目録—三世類集（横山政和編），春霞集（横山編），福居の詠（奥村栄通著），詠大乗寺山眺望八景（奥村栄実著），栄実卅三回忌追悼歌（横山政和等十人著），詠史百首（横山政和），詠史三十六首（狩谷竹輌著），米積和歌集（高畠米積著），藤園会類抜書（高畠米積手輯より抜書），詠花百首（奥村栄実著），詠史歌仙（同人著）。

9688 〔蘭草賦〕 16.91—83
１枚　34×50.5cm
富田権六郎旧蔵。色紙。

9689 歳旦〔詠歌〕 16.91—84
東梅等著
１枚　32×44cm
詠者は他にかつ女，三輪女，玉女，政女，みさほとあり。

9690 増補和歌題林抄 16.91—85
手写
12丁　12×18cm
巻十一雑部下を写したもの。
旧書名「和歌題林抄・雑部」。

9691 小倉山荘色紙和歌 16.91—86
手写
22丁　22cm

俳　　句

9692 〔由比勝生発句集〕 16.91—87
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　24.5cm
勝生は長次郎，寛文元年（1661）前田綱紀に仕え，禄400石，のち500石，書を好み，筆禄を「たもと草」と称した。享保４年（1719）没，84才。

9693 丙辰千句 16.91—88
有沢武貞（桃水軒）著
自筆　元文元年（1736）
59丁　22.5cm

9694 千代尼発句集序跋 16.91—89
手写
６丁　24cm
蓮二坊（支考）の千代女宛書状，伝千代女書（享保10年本五舎人字中誌之），麦林（乙由）の千代女宛書状，対加陽千代女（句作）加州金陵半化坊（蘭更）後序（宝暦13年）南越藤松園の句集跋（宝暦14年）を収む。なお宇中は小松の人で千代女の先輩。

9695 郷土俳人伝抄 16.91—90
能順等著
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　25cm
堀麦水，千代女，北枝の俳人伝について，漸得雑記，続漸得雑記，政鄰記，耳目甄録よりの抄写。

9696 郷土俳人句集抄 16.91—91
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　24.5cm
立花北枝，高桑蘭更，成田蕎虬，僧凡兆，井波浪花，野々口立圃，千代女。

9697　発句稿　16.91—92
2通　15cm
桜室，海荘，枝室の作句など。

9698　俳句評点集抄　16.91—93
手写
6丁　24cm

今　　様

9699　源氏今やう　16.91—94
横山政和著
4丁　23cm
源氏物語の巻名を題としたもの。

6700 9　四季今やう　16.91—95
手写　明治5年（1872）
5丁　11.5×18cm
正月より12月までに分つ。

9701　今やう　16.91—96
15丁　12×18cm

狂　歌・風俗歌

9702　堀越左源次狂歌集　16.91—97
前田家編輯手写　明治年間
57丁　23.5cm
政鄰記のうち，文化4年12月，同7年6月，12月の記事の抄と朱注あり，左源次は加賀藩御用の壁塗職，父子2代とも狂歌を善くす。初代は文化7年8月16日没，64才。2代は万延元年，83才で没。旧書名「狂歌集」。

9703　上田門人狂歌十六歌仙　16.91—98
手写
1通　15.5cm

9704　狂歌等写　16.91—99
奥村栄実手写　天保8年（1837）
2冊　23cm

9705　狂歌　16.91—100
3通　14.5cm
歌のなかに「天保の八つのとし」云々とあり。

9706　狂歌一首　16.91—101
1通　16cm

9707　加藩御座舟歌集　16.91—102
前田家編輯方編
明治年間
2冊　23cm
加賀藩領域を歌った風俗歌。

9708　邪々無邪集　16.91—103
初代堀越左源次著
17丁　23cm
表紙に「阿北斎独吟邪々無邪集　加陽金府住無手勝敝皮」とあり，文中に「五足斎円明」「賀沢山左源寺」とあり。

特16.92　小説・文章

小　　説

9709　難太平記　16.92—1
今川了俊著
手写　〔江戸初期〕
26丁　15.5×18cm
応永9年原本成立。

9710　太平記秘伝理尽鈔　16.92—2
有沢永貞手写
14冊　23cm
原本は，奥書に文明2年（1470）8月今河駿河守入道心性が家伝の書を写して名和肥後刑部左衛門に謹呈したと記す。

9711　太平記来由書之写　16.92—3
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25cm
帝国大学編年史編纂掛所蔵本の写。

9712　陸奥話記　16.92—4
今枝直方手写　元禄6年（1693）
30丁　20cm
別名「陸奥物語」。

9713　あま夜物語　16.92—5
手写　正徳6年（1716）
59丁　24.5cm
「あま夜物語」「太閤記之内瀬川妻艶書写」「増田甚之介物語」（甚之介は黒田筑前守家中で衆道の事で喧咄）の3本を収む。

9714　〔三国水滸合伝〕　16.92—6
金聖嘆批点　毛宋崗評
清国　老会賢堂　刊
24冊　18×11.5cm
別名，「繍像漢宋奇書」（英雄譜），「四大奇書第一種」（聖嘆外書）。内容は「三国志演義」120回20巻と「忠義水滸伝」114回17巻とを合刻したもの。
旧書名「繍像漢宋奇書英雄譜」。

9715　遠州小夜中山由来誓三種　16.92—7
刊
6丁　24.5cm
「遠州小夜中山夜啼之石孕婦男子音八敵討之由来全」「遠州小夜中山無間之鐘川中宗仲鶴見因幡之由来全」「遠州小夜中山化鳥刃之雉子上杉三位卿退治之由来全」。

9716　忠臣二月雪　16.92—8
手写
14丁　24.5cm
武州金沢の城主米倉某の家臣永村伴右衛門が悪事をたくらみ，源蔵なる者を殺害して処罰される筋の物語。

文　章

9717　閑窓記跋　16.92—9
手写
6丁　15.5×18cm
大野木克征旧蔵。なお，「閑窓記」は大野木克明の著。

9718　謙光斎ノ記　16.92—10
室直清（鳩巣）著
脇田尚方手写　弘化3年（1846）
巻子1　30.5cm　袋入
脇田尚保旧蔵。元禄14年（1701）室鳩巣の著した加藤子厚（謙光斎）についての記文。

9719　〔大伴家持卿碑文等〕　16.92—11
手写
6丁　24cm
内容は，文化13年（1816）直孟温撰「中納言大伴家持卿碑」，正四位下伊予守加茂県主直兄「射水郡放生津町八幡社境内ニ建設有之家持卿碑文」，宝永5年（1708）鳥氏藤原永能鋳「長朔寺（在放生津）梵鐘銘」，元禄3年（1690）平時成謹勤「長朔寺墓地中ニ建アル奥村殿碑石ノ裏」野口忠五郎旧蔵。

9720　作詩作文草稿　16.92—12
明倫堂編
享和元年（1801）
12丁　24.5cm
明倫堂学生の作品集か。

9721　柴垣文草　16.92—13
大島柴垣（清太・桃年）編
前田編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
①柴垣文稿　②謙堂先生删正鄙文三首，拙文五章（安積艮斎批閲），精里侗庵両先生點正詩文稿，侗庵古賀先生删正詩文稿，拙文五章，詩文稿，戊子詩稿　③山園日渉，濯纓会文詩，三古堂図題等四種，附，林蘂坡尺牘・対島島府中八幡宮架鐘銘并跋・大島多計比古所蔵の写。

9722　柴垣文章（草）　続　16.92—14
大島柴垣編
前田家編輯方手写　明治年間
55丁　23cm

9723　閑田文章（草）　16.92—15
伴蒿蹊著　伴直樹等編
手写　天保13年（1842）
3冊　23.5cm
原本は享和3年（1803）3月成立。資規の序文あり。①巻1～2②巻3～4③巻5。

9724　狩谷之文　16.92—16
狩谷竹鞆（麐友）著
5丁　12×18cm
仮名文字の文章と和歌。

9725　天馬賦大意　16.92—17
津田亮之助（鳳郷）訳
4丁　25.5cm

9726　致堂詩集序　16.92—18
横山政孝（致堂）・柴竹著
天保4年（1833）刊
4丁　22cm
柴垣の序と横山政孝（致堂）の自序。
外題「致堂二藁序」。

9727　〔公愷跋文〕　16.92—19
手写
3丁　24cm
文政8年（1825）の作。横山政孝自筆の批評文の書き込みあり。旧書名「致堂意見書」。

9728　〔石野右近〕送序一章　16.92—20
下村貫孝著
手写　天保7年（1836）
3丁　28.5cm
岡田棣旧蔵。石野右近の越中の氷見，城端への巡視行を送るはなむけの文。

9729　帯螺閣記　16.92—21
金谷武英著
手写　天保11年（1840）
1通　15cm
天保11年，大聖寺藩主利保の世子の館「闔閭諸室圏」の東の厨房に井戸を掘ったところ螺貝が多く出た奇事から名づけたことを記した478字の記文案。金谷武英は大聖寺藩士。書は市川三亥。

9730　蛍雪小記　16.92—22
村井長道（浩翁）著
手写，
16丁　24cm
小木貞正旧蔵。文政13年（1830）成立，天保2年（1831）刊の写。漢籍，学問について。

9731　〔亀田綾瀬書蹟〕　16.92—23
亀田綾瀬著
自筆　嘉永6年（1853）
巻子1　44cm

9732　〔横山蘭洲書蹟〕　16.92—24
横山政和著
自筆
巻子1　26cm
蘭洲は横山政和の号。

9733　〔薬庵金先生と〕筆語　16.92—25
横山政和編
手写
2冊　23.5cm
同文のもの2冊。明治4年（1871）横山政和が名古屋に住む清国人全薬庵と会った際の筆談を記す。巻末に漢詩あり。
旧書名「筆語」。

9734　丙子筆語　16.92—26
横山政和編
2冊　24cm
清書と原稿。開成学校支那学教授葉松石との筆談，書簡，詠詩などを記す。明治9年丙子（1876）の成立か。

9735　文章綴物　16.92—27
前田家編輯方手写　明治年間
仮綴1（31丁）　25cm
湯浅木堂，海保儀平（青陵），横山政和，鈴木平雄，文山道人，藻寄東方殿，湯川正路，高沢達，安井顕比，山県有朋の漢文の文章集。

9736　前大僧正祐清書簡　16.92—28
成瀬当昆（主計）編
前田家編輯方手写　明治年間
49丁　23cm
成瀬吉勝所蔵の写。

9737　石台遺文　16.92—29
伊藤椒編

手写
4丁　24cm
岡田棣旧蔵。石台(奥村尚寛か)の叙文，跋文，墓記などを収録。

9738　白石先生紳書　16.92—30
新井君美（白石）著
手写
11冊　25.5cm
第1巻より第11巻迄。文章集。第3，9，11巻をのぞいて各巻頭に目次あり。

9739　白石先生紳書　16.92—31
新井君美（白石）著
手写
5冊　24.5cm
今枝氏旧蔵。各冊に2巻分づつ。巻10迄。

9740　黄蘗木庵之書簡〔等〕　16.92—32
手写
仮綴1（23丁）　24.5cm
木庵その他の人の書簡，漢詩，和歌など。

9741　〔蔵頭蔵尾集偈〕　16.92—33
手写
1枚　21.5×82cm　包紙
「詩文集第九十一番」と朱書あり。

9742　黒田漢風之追悼文　16.92—34
1通　16cm

特16.93　随筆・風刺

随筆・日記・紀行

9743　菅公須磨記　16.93—1
富田景周校
手写　文化10年（1813）
11丁　27.5cm
「松雲公採集遺編類纂」175にもあり。

9744　幽斎道之記　16.93—2
細川幽斎著
今枝直方手写　正徳6年（1716）
26丁　26cm
秀吉の大友征伐に従って九州へ行ったときの紀行文。天正15年（1587）成立。

9745　越後在府日記ひろい草　16.93—3
中原秀種著
前田家編輯方手写　明治年間
3冊　23.5cm
原本成立慶長9年(1604)。著者が関ヶ原戦後，越後へ流されていた折の日記。内容は雑多であるが，越後の民俗をはじめ故事の解説枕草子，古今集等の文学書の解説。

9746　老の慰　16.93—4
手写
18丁　24.5cm
慶長9年（1604）小瀬甫庵の随筆で人の性格や生活態度につき問答体に記す。1本は真斎（前田式部矩正）の写本，又1本は真島某の安政2年（1855）晩秋の写本を底本とした写。

9747　紀行五種　16.93—5
前田家編輯方編
明治年間
75丁　23cm
○「己酉道中覚」中川重良著，写本，寛文9年（1669）著者が相州扇谷海蔵寺に遊んだ時記した紀行文
○「東海道紀行」浅井権ヤ郎著，寺西直英手写　菊池大学の名が見え，内容は天和以前のもの
○「花のしおり」南部清定著，原本，著者は仏学に精し，俳諧を好んだ
○「北行集」児島景范著，享保元年（1716）原本成立，天保4年（1833）存斎陸原淳手写。前集は江戸から金沢，後集は金沢から江戸（いづれも信越経由）の道中の紀行，漢文
○「岐蘇紀行」金谷武英著，写本，嘉永4年の記述がある。

9748　列国雑雑のさた　16.93—6
今枝直方著
元禄2年（1689）
33丁　21cm

9749　壬申紀行　16.93—7
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
79丁　23.5cm
今枝直規旧蔵。元禄5年（1692）原本成立，著者が藩主の命により，使者として江戸に赴いた際に，途上の様子，江戸の状況等を記した紀行。

9750　有沢紀行集　16.93—8
有沢永貞・有沢武貞著
9冊　17.5×12cm
金沢から江戸の往復及び江戸在住記録。
①甲戌紀行（元禄7年）
②元禄9年丙子年紀行
③丁丑紀行（元禄10年）
④下向紀行（元禄10年）
⑤元禄14年7月15日ヨリ御指図自分覚書
⑥享保10年従江戸金沢迄紀行
⑦延宝4年
⑧延宝5年
⑨寛文13年8月ヨリ。

9751　甲戌旅行日記　16.93—9
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
今枝直規所蔵の写。元禄8年（1695）原本成立著者が，年頭礼の使節として江戸へ出向した際の道中日記。

9752　三日月の日記　16.93—10
浅香久敬（通郷）著
森田平次手写　明治31年（1898）
123丁　23.5cm
原本は元禄9年（1696）成立。久敬は加賀藩の国文学者。

9753　能北日記　16.93—11
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
67丁　23.5cm
今枝直規所蔵の写。元禄16年（1703）原本成立。今枝恒明が義父民部直方と和倉湯治に向かう途上，能登各地の風景，放鷹の様子，それらを題材として詠んだ詩歌を書き記した紀行文。旧書名「能州日記」。

9754　能州紀行二種　16.93—12
森田盛昌著
手写
58丁　23cm
宝永元年（1704）の能登巡見（能登一覧記），享保2年（1717）出船御用として能州内浦へ赴く（能州紀行）を収録。

9755　東北道記　16.93—13
前田知頼著
前田家編輯方手写　明治年間
42丁　23cm
今枝直規所蔵の写。宝永元年（1704）著者が中宮温泉に遊んだ時の発句，日記と観明軒能順の読後の感想文を収録。別巻として今枝直方の連歌と観明軒の添削あり。

9756　老ての京のぼり　16.93—14
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
104丁　23.5cm
今枝直規所蔵の写。中御門天皇の即位（宝永7年11月），祝儀の使者として，京へ上った時の記録。

9757　唐崎松之記〔等〕　16.93—15
今枝直方手写　享保7年（1722）
10丁　26.5cm
「唐崎松下影向之記」と「中堂立柱宣旨写」を含む。

9758　青地紀行　16.93—16
青地礼幹著
手写
44丁　21cm
享保8年（1723）著者が使者として会津へ出張したときの公私にわたる覚書，会津へ至る行程を詳述している。著者青地礼幹（1674～1744）は役料200石を受け，小将組頭を勤めた，著書に「可視小覚」，「浚新秘策」等がある。

9759 咄随筆　16.93—17
森田盛昌著
前田家編輯方手写　明治年間
90丁　23.5cm
原本は上巻は享保11年（1726），下巻は同12年の成立。聞書を収録。

9760 木曽路記　16.93—18
竹田昌忠著
森田平次手写
94丁　23.5cm
「木曽路紀行」「路中名所和歌」「附録道程記」「道中見聞雑記」を収録。著者が寛延4年（1751）8代藩主重熙の参勤交代の供人として江戸へ行った時の紀行文など。

9761 宝暦十二年御記　16.93—19
手写　宝暦12年（1762）
11丁　24cm
中川典克旧蔵。宝暦12年（1762）10，11，12月の公家の日誌。

9762 道乃記　16.93—20
通萓著
手写
21丁　23cm
成瀬正居所蔵の写。同年11代藩主前田治脩が官位を受けた際の京への進物の使者として7月22日出立，8月17日帰沢の紀行文。明和8年（1771）原本成立。

9763 能登路記　16.93—21
太田道兼著
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23cm
安永6年（1777）成立。特16.84—63と同時期に記された紀行文。
①高松よ狼煙　②寺家よ子浦。

9764 東海道通行記　16.93—22
森田平次手写
2冊　23.5cm
享和2年（1802）原本成立。写本を写したもので，再写に当り誤字を訂正し，上下2冊本とした。11代藩主治脩致仕後，東海道を経て帰藩したときの供人の記録，行程とともに古蹟，詩歌を収録。
①江戸より遠江国掛川までの記録
②袋井より帰城までの記録。

9765 能登游記　16.93—23
金子有斐著
手写
38丁　23cm
岡田棣旧蔵。文化13年（1816）3月能登を旅行した漢文記録。

9766 お庭牒　16.93—24
瀬玉葬著
自筆　文政7年（1824）～明治4年（1871）
3冊　12×18cm
庭の木や花の状態を書き記し，その他趣味も書きのせている。

9767 お庭牒　16.93—25
横山蘭腕著
文政7～10年（1824～27）
2冊　12×18cm
庭の木や花の状態を書き記す。その他趣味についても記す。

9768 白山遊覧図記　16.93—26
金子有斐著
文政12年（1829）
126丁　26.5cm
白山とその周辺についての紀行。形勢，小説を記し，登路，渓谷の絵図を付している。

9769 白山史図解譜　16.93—27
金子有斐著
横山政和手写　明治17年（1884）
29丁　26cm
前田孝央旧蔵。鶴来から白山までの案内書。途中の諸村の状況，地形等を絵図を付して解説している。

9770 登立山記　16.93—28
源士業著

天保11年（1840）
6丁　24cm
岡田棣旧蔵。漢文。

9771　木曽路乃記　16.93—29
広瀬某著
27丁　11×16cm
広瀬知良旧蔵。金沢より中仙道経由江戸までの道中記，弘化4年の記述がある。

9772　続咄随筆　16.93—30
森田良郷編
前田家編輯方手写　明治年間
101丁　23.5cm
原本は嘉永3年（1850）の成立。内容は，文化10年京都四条雑劇騒動，幽霊之妻楠，止直に果報あり，蛛蜘の糸に釣あけらるる話，窮鼠却而犬を食，猿丸と銘せし脇刺，孝子異人より得一巻富貴となる。廻国修行者悪愧物語，壮士の水入等々を収む。児女子の目覚し草にありし咄，奇事怪談，近頃の奇談を抜粋して茶話に供すと記す。

9773　道中名所記　16.93—31
嘉永7年（1854）刊
46丁　8.5×17cm
内題「金沢より京都まて道中名所記」，「洛中月次参詣記」，「大和めぐり」を付す。末尾に「金府　等願精舎蔵」とある。

9774　木曽路紀行〔等〕　16.93—32
横山政和著
5冊　12×18cm
①安政5年（1858）「木曽路紀行」
②「慶応二年九月二十八日よりの紀行」
③「慶応三年十月二日よりの紀行」
④慶応2年（1866）「江沼郡奥山遊覧之記」
⑤「慶応四年二月上京紀行」。

9775　両毛紀行　16.93—33
加藤恒著
18丁　24cm
明治17年（1884）成立。前田利嗣（慶寧の子）の妹衍子等が，日光を経て，伊香保温泉逗留中の利嗣に合流すべく，東京より旅行した際の随行記録。野口之布の評を付す。

9776　紀行七種　16.93—34
前田家編輯方編
明治年間
38丁　23cm
「小松近郷巡覧記」「小松往来道中記」「小松より越前国境迄の記」「小松より広瀬橋を経て金沢ニ帰の記」「吉崎道の記」「小塩橋立道の記」「吉竹村道の記」以上7篇を収載。それぞれ，道中の村々の名所，旧蹟等を記した紀行文。

9777　游記等七種　16.93—35
手写
62丁　23.5cm
江沼郡奥山游覧之記，山中湯由来，山中温泉縁起，湯治養生巻，山中十景詩，越乃海さと，能登島廻記の七篇。

9778　訪古游記　16.93—36
津田鳳郷著
田中正義手写　明治14年（1881）
42丁　23.5cm
石川訪古游記，大野郷訪古游記，遊梅田洞記，椋部考古游記，笠間郷游記，粟谷郷游記を収録。

9779　大野郷訪古遊記　16.93—37
津田鳳卿著
21丁　27.5cm
金沢近郊の大野郷，梅田，椋部，笠間等の旧蹟を記す。遊梅田洞記，椋部考古遊記，笠間郷游記を収録。

9780　山中行記　16.93—38
60丁　彩色　24cm
金谷孔彰旧蔵。金沢から山中温泉までの道程を村々，川，橋，温泉の宿名，名所などを含めて記す。

9781　吉野邨領十景記行　16.93—39
矢田四如軒著
手写

18丁　彩色　24cm
寛政4年（1792）著者が石川郡吉野谷村を探勝するために金沢を発し，白山麓の山岸十郎右衛門（大庄屋）宅にいたる間の道中記。前書，あとがきの文書のほかはすべて彩色画である。別名「吉野十景巡見記」。

9782　登嶽紀事　16.93—40
前田家編輯方手写　明治年間
21丁　25cm
明治17年（1884）白山比咩神社宮司正八位横山政和の白山登山の紀行記録。末尾に明治21年の藤田維正潜批の跋あり。

9783　能登周環壮観記　16.93—41
4丁　13×18cm
輪島から時国村，真浦村辺の記事。能登半島紀行の一部か。

9784　蟹谷郷游記　16.93—42
津田凪郷著
41丁　27.5×19.5cm
岡田俶旧蔵。越中砺波郡蟹谷郷の位置，沿革を記したもの，漢文で記されている。他に，「梧崗文稿」，「賀能登淡斎橋本叟六十帖序」等収載。著者は享和年間から天保年間に活躍した人で，漢学を修め，明倫堂助教，書物奉行加人等を勤めた。

風　刺・滑　稽

9785　享保革命略志　16.93—43
今枝直方編
享保2年（1717）
25丁　26cm
内題「享保革命前後略志，付其頃之江戸沙汰落書集」巻末に享保2年，仲秋反古より撰出して記した旨の源懋遷喬子の跋文，署名，印あり，延宝～享保期の江戸の落書を集めたもの。

9786　困窮百人弐首　16.93—44
17丁　22.5cm
「享保七壬寅年（1722）江戸之落書」とあり，

9787　黒羽織之節之童謡等　16.93—45
手写
6丁　24.5cm
黒羽織党についての風刺歌，および諷刺歌「六歌仙風流物」。

9788　チョボクリ武士　16.93—46
1通　14.5cm
浦賀へ黒船来航に際し武士の騒ぎを風刺したもの。

9789　〔ないない尽しとものはづけ〕　16.93—47
2通　15.5cm
貧困，生活物資不足，疾病などを題材にした風刺文。

9790　〔八嶋巷歌讖文秘解〕　16.93—48
手写
仮綴1（16丁）　24cm
菅原広喜手写の写。
旧書名「八嶋巷歌　文秘解」。

9791　佛道諷刺歌　16.93—49
手写
18丁　23.5cm

特16.94　日　本　語

9792　諸字訓意　16.94—1
今枝直方手写　宝永7年（1710）
37丁　20.5cm
「性理大全」の抜写，漢字の字意を述ぶ。

9793　貴号・貴字・御別号　16.94—2
河合萬著
天保9・15年（1838・44）嘉永5年（1852）
3通　36cm　包紙
貴人の名，称号のあり方を考察。

9794　なでしこ　16.94—3
富田景周著
手写　弘化3年（1846）

81丁　23cm
言葉の解説。

9795　〔書簡文言考証等〕　16.94—4
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　24.5cm
岡島忠四郎等の書状および書状文言の考証等。
旧書名「岡島忠四郎書簡等」。

9796　延喜式字註聞書　16.94—5
48丁　23.5cm
今枝氏旧蔵。延喜式にみえる文字の解義。

9797　和漢千字文集　16.94—6
長崎健（浩斎）編
合綴1（2冊）　24.5cm
「越中高岡瘍医浩斎長崎健確狀編輯」5編分の総目をあげ，叙古千文，続千文，広千字文を記した1冊と，「祭祝寿千字文」を記した1冊を合綴。

9798　漢隷字源　16.94—7
3冊　25cm

9799　字鏡集　16.94—8
菅原為長編
手写
47丁　25cm
字鏡集20冊の内第十巻。字典。

9800　書札礼法　16.94—9
手写
91丁　19.5cm
臼井憲成旧蔵。

9801　当用書札　16.94—10
手写
2冊　23cm
益知館旧蔵。上・下書状かき方字典。

9802　文章草案　16.94—11
前田貞事編
自筆
11冊　20cm
前田貞醇旧蔵。書状文例集。

9803　政頼流鷹方文字之事　16.94—12
手写
4丁　8×18cm
鷹という文字の使用方法について記す。

9804　殿文字御調方格式〔等〕　16.94—13
手写
3通　17.5～20.5cm　袋入
殿の文字の相手によって書く位置の説明。

9805　短檠之義考案書　16.94—14
津田亮之助鳳卿著
2丁　2.45cm　包紙
短檠の名称について述ぶ。短檠は背の低い燭台，鳳卿は御馬廻250石，文化元年以降明倫堂助教，文政5年書物奉行となり尊経閣文庫を管理す。和漢の書を渉猟して士庶典故に明らかであった。弘化4年（1847）没，69才。
旧書名「短檠之義」。

特16.95　彫刻・工芸

木工・家具什器

9806　御式正御枕之図　16.95—1
手写　安政5年（1858）
5枚　27.5×33cm　袋入
渡辺甫旧蔵。枕について，台，表生地などの図。
①御祝之枕・天之図
②　〃　・平之図　27.5×40cm
③　〃　・貘図　28×20cm
④　〃　・南天図　28×20cm
⑤長御枕之図　28×20cm。

9807　表納戸道具由来　16.95—2
前田家編輯方手写　明治年間
122丁　23.5cm
嘉永2年（1849）前田図書貞事が加須屋十左衛門所持の留帳を，津田兵三郎を通じて借用して写したものの写。

9808 調度掛寸法図式　16.95—3
手写
5枚　83×30.5cm　包紙
調度掛の部分寸法図
①前
②後　83×30.5cm
③脇　63×30.5cm
④面之図　30.5×34.5cm
⑤請板之図　30.5×32.5cm。

9809 衝立之図絵　16.95—4
3枚　彩色　54×38.5cm
衝立の表裏の装飾図柄。

9810 〔姫君様御住居御式台懸さほ寸法絵図〕　16.95—5
手写
絵図1枚　28×39cm　包紙
渡辺庸旧蔵。

9811 積物　16.95—6
巻子1　18.5cm
上巻のみ。木具台に各種の衣類，魚，鳥，武具，馬具等の載せ方を図で示し解説したもの。

9812 御置物台前通り御絵形唐木等惣彫物仕立　16.95—7
巻子1　53cm
置物台の設計図。

9813 膳等食物居台見取絵図　16.95—8
手写
絵図1枚　24×35cm
杉材の台の見取図。

9814 〔籠細工絵本〕　16.95—9
播磨屋五郎兵衛・和泉屋宇作　刊
3丁　彩色　21cm
大坂四天王寺西門横で催された籠細工の涅槃像などの見世物案内書。
別名「大阪於天王寺籠細工為見物之図」。

9815 〔雪隠并剣掛〕見取絵図　16.95—10
絵図1枚　24×36cm

9816 松平越前守殿御飾附写　16.95—11
手写　文政9年（1826）
8丁　25cm
渡辺庸旧蔵。

9817 黒棚三棚飾り様の大略　16.95—12
5丁　24cm
渡辺庸旧蔵。

9818 〔三宝図〕　16.95—13
平井源丞著
絵図1枚　17.5×18cm

石　工

9819 〔梅花硯図〕　16.95—14
天保9年（1838）刊
3丁　27.5×20cm
図と御賜梅花硯記。前田恒家旧蔵。

9820 〔盆石について返書〕　16.95—15
手写
1通　15cm
理兵衛宛。盆石説明書状。

鍛　冶

9821 加越能鍛冶系図　16.95—16
手写
3冊　24cm
加越能刀剣鍛冶系図で貞享4年（1687）成立。

9822 加越能刀鍛冶略伝　16.95—17
前田家編輯方手写　明治年間
33丁　23.5cm
藤島友重及び宇多国光の家譜，御領国刀鍛冶由緒帳（享保5年）を収む。

9823 粟田口国光刀之由来　16.95—18
駒井守惰著
自筆　明和6年（1769）
1通　38cm　包紙
駒井家伝粟田口国光刀1腰所持由来。

9824　御家刃御物志　16.95—19
今枝直方著
自筆
21丁　19.5cm
前田家代々の参勤，御成，婚礼の時に拝領，進上のもののうち名剣，高価のものを記す。

9825　御太刀并千貫以上之御刀脇刺　16.95—20
手写
7丁　23.5cm
江戸土蔵に所蔵のものと，そうでないものと区別して記す。

9826　〔大伝太御太刀・小鍛冶御薙刀由来書写〕　16.95—21
本阿弥光甫著
手写
3丁　23.5cm
刀剣由来（鑑定，極付），今枝民部宛。

9827　〔刀剣之名書由来等覚〕　16.95—22
駒井五左衛門等著
手写
6通　16.5～27cm
刀剣の名書由来，刀剣目録，研屋弥太郎の鑑定による刀剣値段定。

9828　〔刀銘鑑定覚書〕　16.95—23
鈴木権八著
手写
巻子1　17cm
刀剣の銘鑑定書と刀剣所持者由来書。

9829　〔粟田口国光之刀ニ付書状〕　16.95—24
駒井五左衛門著
手写
1通　17cm
粟田口国光刀所持由来と本阿弥家の鑑定年などを示す。富永五郎左衛門宛。

9830　墨定書　16.95—25
島田某手写　文政7年（1824）
17丁　7×18cm
島田孝郷旧蔵。鑑定基準になる刀剣部分等の造りや，名刀を書上げてある。

9831　〔刀剣ニ付書上書〕　16.95—26
鈴木権八著
手写
巻子1　17cm
刀の鑑定書。

9832　刀剣焼刃ノ図　16.95—27
11丁　23cm
図を載す。中川典克旧蔵。

9833　石州貞行之刀拵之覚　16.95—28
手写
1通　16cm　包紙

9834　〔千手院短刀覚書之控〕　16.95—29
手写
1通　17cm　包紙
包紙に「石州貞行治部金重兼定平城城之覚書之控」と表記あり。千手院短刀拵の説明書。

9835　刀剣御葛籠入御書物目録　16.95—30
手写
1通　17cm
古刀鍛冶国形大概。三州鍛冶集など書物名の目録。

9836　相州康国御脇指之札　16.95—31
1枚　30×5cm　包紙
相州康国脇指金壱枚なりの札。

9837　〔刀剣図等小紙〕　16.95—32
手写
12枚　6×15cm

陶　　冶

9838　加賀国陶器史料　16.95—33
前田家編輯方手写　明治年間
合綴1（5冊）　24.5cm
「加藤恒撰・明治21年写・加賀国陶器史料（九谷焼について）」「五品共進会追賞授与証の写」，「九谷陶窯沿革（農商務省報告）」「九谷

陶窯沿革物 産沿革中の抜書)」「能美郡陶窯沿革」。

9839 春日山陶器場之図　16.95—34
手写
絵図1枚　68×40cm　袋入

9840 武田秀平指出候書類之内集録　16.95—35
前田家編輯方手写　明治年間
12丁　24.5cm
武田秀平は信興，号有月，民山焼の祖という。姫路城主酒井雅楽頭家臣花井四郎兵衛の11男，文化11年金沢に来り，春日山持地にて陶器を焼く。銘に民山と記した。
旧書名「武田有月ヨリ指出候書類之内集録」。

9841 楽焼系図　16.95—36
手写
1枚　24×18cm
又新斎日録三の抄。元祖長次郎より2代吉左衛門に至る。

9842 星野宗以書状　16.95—37
星野宗以著
自筆
1通　32cm
壺の値段についての書状，藤岡宗碏宛。

染　　織

9843 笠袋図　16.95—38
手写
1枚　18.5×48cm
笠袋作成解説図。

漆工・箔工

9844 五十嵐道甫為代云々等　16.95—39
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
蒔絵師御用勤め関係の記録，町奉行所宛の文書など。

9845 〔御硯箱并五十嵐系譜〕　16.95—40
手写
2丁　24cm
硯箱と製作者について記す。

9846 御櫛箱図　16.95—41
手写
1枚　24×17.5cm　包紙
渡辺甫旧蔵。梅輪内御紋廿五摺箔。

9847 〔御髪置御箱見本絵図〕　16.95—42
天保6年（1835）
絵図1枚　38×27cm　包紙
渡辺甫旧蔵。土肥権六郎献上之下絵とあり。
「白髪入御箱上絵」(紺着置上金泥筋書)。

9848 浅黄御椀之図　16.95—43
手写　弘化4年（1847）
1枚　28×38.5cm　包紙
渡辺甫旧蔵。清水九郎右衛門より差出候写。

9849 箔の紋様見本　16.95—44
絵図1枚・箔2枚　27.5×39cm・8.5×7cm・7.5×4.5cm　包紙
渡辺甫旧蔵。幸菱形，亀甲形模様2枚の箔片を含む。
旧書名「盛菓子図」。

9850 〔小刀蒔絵下図〕　16.95—45
手写
2枚　27×40cm

特16.96 書　　画

書　画　論

9851 手鑑目六　16.96—1
手写
71丁　19.5cm
勅筆など書道家の人名目録，寛永11年（1634）の書の写。

9852 書体例書　16.96—2
山本基庸手写　享保2年（1717）
12丁　31.5×21.5cm

9853 〔書道相伝之誓紙前書〕　16.96—3
富田織人著
手写
1通　24cm
富田権六郎旧蔵。安永4年（1775），山本流書道相伝につき伝受内容の誓約。

9854 書画論　16.96—4
榊原守典手写　弘化2年（1845）
84丁　27cm
内容は「淳化秘閣法帖考正」「佩文齋書畫譜鈔」。

9855 書画論合集　16.96—5
榊原守典手写
124丁　27cm

9856 書体雑録　16.96—6
67丁　25cm
漢字の書体を集めたもの，印も含む。

9857 書法　16.96—7
河内貞侯編
3冊　24cm
手習をする心得之事。筆持様之事以下70条ばかりの書法を記す。

9858 秉燭談　16.96—8
山崎雲山著
前田家編輯方手写　明治年間
13丁　24cm
北村愛三郎所蔵の写。

9859 古書画文房器物〔所蔵目録〕　16.96—9
横山致堂著
文政11年（1828）～嘉永年間
3冊　12×18cm
書，絵画，文房具，遊芸具などの目録。

9860 酔古堂剣掃　16.96—10
榊原守典手写　安政6年（1859）
2冊　27cm
11巻よりなり，史記・漢書・唐書を原典とした画賛用例集。

9861 図絵宗彝抄録　16.96—11
榊原守典手写　天保14年（1843）
89丁　27cm
張彦遠「叙画源流」，郭若虚「論製作楷模」郭熙「画訓」等絵画に関する諸論抄録。

9862 猿田彦鉏女命両神霊感得賦　16.96—12
聴雪窓寂樵著
自筆　明治11年（1878）
巻子1　25cm
猿田彦・鉏女命の尊像を得るの記，猿田彦神再考，両尊像作者について記す。

書　　道

9863 〔高田流系譜覚〕　16.96—13
手写
1通　16cm
書道高田流を始祖賀茂甲斐から高田翰司良までの系譜。

9864 坊城入道・金森宗和・小堀遠州書状写　16.96—14
手写
仮綴1（2丁）・2通　24cm　16.5・24cm

9865 謙徳公画像賛　16.96—15
僧石蘭著
関渓堂主人高憲英手写　宝暦7年（1757）
巻子1　33cm
富田権六郎旧蔵。謙徳院は8代藩主重熙，宝暦5年宝円寺石蘭の賛の写。

9866 晩香堂蘇帖　16.96—16
榊原守典手写　天保13年（1842）
3冊　27cm

9867 蜨帖　16.96—17
榊原守典手写　天保13年（1842）
3冊　27cm

9868 諸法帖合集　16.96—18
榊原守典手写　天保13年（1842）
54丁　27cm
碑銘の写。

9869 秘閣帖　16.96—19
榊原守典手写　天保14年（1843）
3冊　27cm

9870 戯鴻堂帖　16.96—20
榊原守典手写　天保14年（1843）
5冊　27cm

9871 淳化帖　16.96—21
榊原守典手写　天保14年（1843）
10冊　27cm
中国の皇帝，書家の書を集む，第10巻に「右軍書，淳化帖逸本」とあり。

9872 星鳳楼帖　16.96—22
榊原守典手写　天保14年（1843）
3冊　27cm

9873 趙帖合集　16.96—23
榊原守典手写　天保14年（1843）
59丁　27cm

9874 停雲館帖　16.96—24
榊原守典手写　天保14年（1843）
4冊　27cm

9875 清華齋趙帖　16.96—25
榊原守典手写　天保15年（1844）
3冊　27cm

9876 滋蕙堂墨宝　16.96—26
榊原守典手写　天保15年（1844）
2冊　27cm

9877 李北海帖　16.96—27
榊原守典　手写　天保15年(1844)・弘化3年(1846)
53丁　27cm
漢文の書写。「逸翁」「三痴」は守典の号。

9878 顔魯公帖　16.96—28
榊原守典手写　弘化2年（1845）
2冊　27cm
顔真卿の書を写す。

9879 黒縁亭鑒定宋四大家帖　16.96—29
榊原守典手写　弘化2年（1845）
45丁　27cm

9880 諸法帖雑集　16.96—30
榊原守典手写　弘化2年（1845）
73丁　27cm
天子廟堂碑，奥州松島記，多宝寺道因法師碑。

9881 顔柳二公合集　16.96—31
榊原守典手写　弘化3年（1846）
83丁　27cm

9882 皇国碑文合集　16.96—32
榊原守典手写　弘化3年（1846）
38丁　27cm

9883 集古帖　16.96—33
榊原守典手写　弘化3年（1846）
2冊　27cm

9884 集古続帖　16.96—34
榊原守典手写　弘化3年（1846）
43丁　27cm

9885 快雪堂法帖　16.96—35
榊原守典手写　弘化3年（1846）・嘉永元年（1848）
3冊　27cm

9886 白雲居米帖　16.96—36
榊原守典手写　嘉永3年（1850）
47丁　27cm

9887 法帖　16.96—37
刊
10帖　31.5cm　箱入
①歴代帝王法書　②～④歴代名臣法帖　⑤諸家古法帖　⑥～⑦諸家法帖。

9888　二王真蹟帖　16.96—38
92丁　27cm

9889　永平寺太白禅師書写　16.96—39
手写
1枚　32×74cm

9890　京都金石文集抄　16.96—40
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　24.5cm

絵　画・銘・篆　刻

9891　日光御廟十六善臣木像之写　16.96—41
脇田尚方手写　天保6年（1835）
1枚　78×56cm
脇田尚保旧蔵。東照大権現（家康）を上位にして，重臣の鎧姿の人物を配置。「天保六年三月下旬写之」として脇田尚方の印あり。

9892　御本丸御普請御表奥向共御張付御杉戸之御絵様筆者取調　16.96—42
手写
18丁　11.5×18.5cm
前田栄次郎旧蔵。内容は天保15年（1844），城中部屋，廊下仕切など杉戸絵様と筆者名を書上げている。

9893　〔永貞先師画像〕　16.96—43
1枚　40×33.5cm
脇田尚保旧蔵。下書きである。

9894　巻物包図　16.96—44
1枚　40×94cm
巻物包の表図。

9895　鷹巣子図　16.96—45
手写
2枚　87×48cm
鷹に巣子の掛図のデッサン。

9896　東叡山石燈籠銘　16.96—46
手写
29丁　23.5cm

9897　古印秘説　16.96—47
新厚景編
手写　文化13年（1816）
12丁　24cm
岡田隷旧蔵。印章製作由来と印字，印形，印彫等に関する説明。

特16.97　歌　舞・音　曲

音　曲・舞　踊

9898　要聚鈔　16.97—1
胆恵著
手写
16丁　24cm
原本は文永8年（1271）成立。羯鼓，一鼓，鉦鼓の拍子取についての説明。

9899　残夜抄　16.97—2
藤原家基（浄妙寺）著
手写
32丁　24cm
貞享2年（1685）左僕射写の写。別名「迷路抄」舞楽の諸事を記したもの。刊本「群書類従」巻第347。

9900　幸若舞曲考　16.97—3
森田平次著
手写
18丁　23cm

9901　越天楽并今やう　16.97—4
手写
14丁　11.5×17.5cm
龍笛（横笛の一種）の譜，篳篥（ひちりき）の譜を記す。旧書名「横笛譜越天楽并今やう」。

9902　琴譜　16.97—5
手写　明治4年（1871）
16丁　11.5×17.5cm
歌詞を記す。

9903　絃上琵琶ノアタリ　16.97—6
手写

4丁　22cm

9904　〔御下屋敷へ紀伊守様外御招之節御合奏之品目〕　16.97—7
手写
1通　14cm
合奏品目と演奏者名を記す。

9905　川上芝居書類九種　16.97—8
前田家編輯方手写　明治年間
22丁　25cm
長瀬成太郎所蔵の写。内容は文政2年（1819）の町人による芝居の演者，見物，勝手方等の記録。

9906　金沢俳優伝記　16.97—9
綿津屋政右衛門著
前田家編輯方手写　明治年間
107丁　23.5cm
別名「綿津屋政右衛門自記」。文政3年（1820）卯辰茶屋町に遊廓が開かれた事情，経営状態と天保2年（1831）禁止後に俳優を招いて芝居興行を計画したが失敗した経緯を記したもの。刊本「芝居と茶屋町」。

9907　川上芝居一件抜書　16.97—10
前田家編輯方編
明治年間
41丁　23cm
額彦四郎所蔵の写。川上芝居は金沢町犀川上新町にあった歌舞伎劇場の芝居で，文政元年（1818）から天保9年(1838)まで開場されていた。その関係文書の抜萃。

9908　遊所歌舞伎等御尋之御請　16.97—11
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　25cm
別名「正文雑記抜書」。町方にはやる遊所，遊びについてのお尋ねについて。

9909　〔人形浄瑠璃〕番組　16.97—12
手写
巻子1　18.5cm
中川典克旧蔵。人形，操師，語り，三味線の各々を記す。

9910　〔大象の図〕　16.97—13
野村芳国画
刊
1枚　彩色　36×51cm
見世物の広告。太夫元田中政直。

能

9911　花伝書　16.97—14
柳川孝永手写　寛政5年（1793）
63丁　23.5cm
明治11年8月七尾にて柳川金作呈上のもの。

9912　花伝書　16.97—15
手写
30丁　29×21cm

9913　能楽記　16.97—16
前田家編輯方手写　明治年間
2丁　25cm
能の起源，推移について記す。

9914　能優之事　16.97—17
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　27cm
葛巻昌興筆記抜粋。能楽成立期の諸派についてのべ，また演者の動作，道具の説明。

9915　翁仕舞附　16.97—18
手写
1枚　24×35cm
踊り方注意書。

9916　能楽翁仕形附　16.97—19
1帖　21cm

9917　能仕舞作法考　16.97—20
手写
5丁　8×18cm
演能の際の衣装・道具等についての注意書。

9918 番附次第書類　16.97—21
手写
7通　16cm　包紙
①寛永12年（1635）正月28日於二ノ丸将軍家光公へ仙台政宗御膳献上之節御能番組集
②文化6年（1809）於金谷御慰ニ被仰付
③文政4年（1821）佃島烽火之番附
④⑤能番組ノ類
⑥松平越中守殿頼ニテ書物表題調候大名々書
⑦今年ヨリ5ケ年云々献立。

9919 公方様御疱瘡御祝儀御振廻御能被仰付覚　16.97—22
明暦2年（1656）
53丁　23cm
能拝見の大名らの名書と献立，役者への下賜物などを記す。

9920 二之御丸ニテ御能被仰付覚書　16.97—23
寺岡与兵衛編
手写
7丁　12×18cm
内容は貞享元年（1684），能拝見を仰せつけられた大名衆の名書き。

9921 幕府営中ニテ松雲公等御能御勤記録　16.97—24
手写
3通　17cm　包紙
内容は貞享3年（1686）。千代田城にて上意による能仕舞勤方記録と徳川綱吉の能仕舞の拝見記録。

9922 宝生大夫勧進能一件　16.97—25
前田家編輯方手写　明治年間
61丁　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。内容は貞享4年（1687）。勧進能御桟敷詰人之事，料理，諸色等作法。

9923 〔能楽番附〕　16.97—26
5冊　11.5×18cm
有沢氏旧蔵。
①御能御囃子（元禄9年）
②御能御囃子（元禄13年）
③江戸御能番付（元禄14年）
④金沢御能番付（元禄15年）
⑤御能御囃子御番附帳。

9924 〔能楽雑記〕　16.97—27
前田家編輯方編
明治年間
49丁　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。
○元禄4年9月26日江戸於御中屋敷新御舞台出来初而被仰付御能并役附等
○元禄14年11月6日備後守様御招請被遊候砌御客付并御餝付覚書
○5月21日御客
○2月27日宝円寺初御寺方御招請御能之刻御作法
○元文2年21日神田御前様被為入御囃子。

9925 記録　16.97—28
手写
11丁　10.5×15cm
能役者，番組，膳部，拝見人等を記す。表紙には元禄年間の記録とあり。

9926 〔御入国御祝能相勤候役者等〕　16.97—29
手写
13丁　7×17.5cm
表題「享保十乙巳年御入国以後之御祝御能被仰付候時分相勤候江戸京御当地御役者且亦御細工方人々覚」。江戸，京都の能役者，狂言師，地謡方人々の扶持方記載。

9927 御能一巻控帳　16.97—30
6丁　24cm
中川典克旧蔵。享保13年（1728）2月19日・5月15日。

9928 御能一巻　16.97—31
前田家編輯方手写　明治年間
51丁　23cm
内容は享保19年（1734）のもの。

9929 〔御能番付帳〕　16.97—32
手写
12丁　12×35.5cm

内容は宝暦5年（1755）の能番組と演者名。

9930　御能番附　16.97—33
天明4年（1784）
1通　17.5cm　包紙
前田貞醇旧蔵。

9931　御能番附　16.97—34
天明5年（1785）
1通　19.5cm　包紙
前田貞醇旧蔵。

9932　〔金谷御殿御能番附〕　16.97—35
天明6年（1786）
1通　16.5cm　包紙
前田貞醇旧蔵。

9933　御能等御番附帳　16.97—36
金谷御殿右筆部屋編
自筆　文化6年（1809）
62丁　12×37cm
文化3年（1806）から6年（1809）藩主の能舞台記録。

9934　〔御城御造営御成就ニ付御祝御能番組〕　16.97—37
手写
7丁　12×17cm
成瀬正居旧蔵。内容は文化8年（1811）のもの

9935　御規式御能御作法附〔等〕　16.97—38
手写
44丁　17×12cm
成瀬正居旧蔵。文化8年（1811）の規式作法附役附書上げ，寺方振廻之節作法附役附書上げ。

9936　御規式能一件　16.97—39
前田家編輯方手写　明治年間
37丁　23cm
内容は文化8年（1811）。

9937　御規式御作法書　16.97—40
有沢才右衛門著
手写
47丁　11.5×18.5cm
内容は文化8年（1811），城造営，家督，入国祝いのため演能の作法書。

9938　〔御能拝見覚帳〕　16.97—41
前田恒固編
前田家編輯方手写　明治年間
14丁　24cm
内容は文化9年（1812）。
原題「御能拝見覚帳并九月廿二日勝千代様御宮参之節御酒等被下候義留置十二月廿二日めん類等頂戴之義も記置」。

9939　宝生八左衛門罷出稽古之心覚　16.97—42
手写
2丁　14×41cm
内容年代は文化13年（1816）。

9940　勝千代様初テ被遊候御能組　16.97—43
手写
1通　17cm　包紙
勝千代は斎泰。内容は文化14年（1817）の能番組と演者名を記す。

9941　御表御能方諸事留抜書　16.97—44
手写
24丁　12×17cm
中山直方旧蔵。内容は文化14年～弘化2年（1817～45）の勝千代様（斎泰）初めて御能演者につき御祝下さるものにつき，御手附役者演能につきなど。

9942　御謡拝聴方留帳　16.97—45
手写　文政5年（1822）
3丁　11.5×18cm
謡拝聴者と能番組を記す。

9943　御能御番附　16.97—46
手写
32丁　11×18cm
横山政和旧蔵。内容は文政8年～安政6年（1825～59）。

9944　翁立御能覚　16.97—47
手写
1通　23cm
南部祇知旧蔵。天保11年（1840）の演能次第を記す。

9945　御本復御祝御能組　16.97—48
弘化2年（1845）
12丁　21×57cm　包紙

9946　御能為拝見罷出候人々名書帳　16.97—49
弘化2年（1845）
2冊　12×35cm
①2月11日13日御能為拝見罷出候人々名書帳②2月18日24日26日29日御能為拝見罷出候人々名書帳。

9947　〔御能拝見人等名書〕　16.97—50
弘化2年（1845）
10冊　12×35.5cm
①5月11日人持・本多刑部ほか
②5月14日人持・横山中務ほか
③5月16日人持・富田治部左衛門ほか
④5月19日人持・永井志津磨ほか
⑤5月21日沢田義門ほか
⑥5月24日寺社・御歩・御算用者・家柄町人ほか
⑦5月26日頭分・御附御大小将ほか
⑧5月28日御馬廻・御医者・与力ほか
⑨6月朔日本多刑部弟他美矢ほか
⑩6月2日御側小将ほか。

9948　勧進能番組　16.97—51
手写　嘉永3年（1850）
6丁　12×33cm
嘉永元年於筋違門外晴天15日之間勧進能興行（宝生太夫）。

9949　御表御能被下方抜書　16.97—52
手写
26丁　12×18cm
南部祇知旧蔵。内容は嘉永3年～安政5年（1850～58）の町役者，細工方など芸人への扶助金額の書上げ。

9950　御能御番組初見被仰付候分留書　16.97—53
手写
11丁　12.5×34cm
早川随勝旧蔵。嘉永4年（1851）の演目と演者を記す。

9951　天満宮九百五十歳御神忌ニ付御能組　16.97—54
嘉永5年（1852）
11丁　21×57cm　包紙
天満宮は菅原道真。

9952　御能拝見被仰付候神主共名書　16.97—55
1通　21cm　包紙
嘉永5年（1852），「天満宮（菅原道真）御神忌ニ付竹沢御鎮守御用相勤候神主共へ同年四月廿九日能拝見被仰付候名書」。

9953　増上寺出張人御能拝見御能組　16.97—56
手写　安政元年（1854）
巻子1　24cm　包紙
米艦渡来につき防備のため芝増上寺へ出張した人々の観賞した能番組。

9954　増上寺出張人御能拝見等之名書　16.97—57
手写　安政元年（1854）
25丁　28×22cm

9955　〔江戸増上寺へ出張之人々御料理御能拝見名書等〕　16.97—58
竹中某編
安政元年（1854）
14丁　24cm
小木貞正旧蔵。原題「安政元年十二月江戸増上寺江出張之人々江御料理御能拝見被仰付候節名書等諸事留」。江戸増上寺出張人の料理頂戴御能拝見の際の記録。

9956　〔御能番付帳〕　16.97—59
手写
37丁　12×35.5cm
小木貞正旧蔵。内容は安政2年～文久2年（1855～62）。

9957 御能拝見方一件　16.97—60
前田家編輯方手写　明治年間
36丁　23.5cm
多田氏所蔵の写。内容は安政3年（1856）。

9958 御能御番附　16.97—61
手写
30丁　10.5×17cm
横山政和旧蔵。内容は万延元年～文久2年（1860～62）。

9959 御能番組　16.97—62
手写
1通　12cm
5月11日の分。

9960 御能御番組　16.97—63
手写
1通　14.5cm

9961 〔能楽番組〕　16.97—64
手写
仮綴2　12×36cm・16×75cm

9962 〔御能番附〕　16.97—65
手写
2通　16.5cm

9963 御講釈御仕舞御能組　16.97—66
手写
2丁　12×36cm
論語講釈と能演目，役者。

9964 御能拝見之絵図　16.97—67
絵図1枚　40×56cm
前田貞醇旧蔵。能舞台，拝見席の図。朱書・付札あり。

9965 御能方　16.97—68
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　23cm
前田貞醇所蔵の写。

9966 宝円寺初御寺方御招請御能之刻御作法　16.97—69
手写
巻子1　15.5cm
宝円寺，天徳院，瑞竜寺の僧を招請した能舞台の作法。

9967 御能方勤功願　16.97—70
天保3年（1832）
33丁　12×18cm
富田権六郎旧蔵。

9968 〔江戸御能役者御扶持高等〕　16.97—71
手写
1通　17cm
江戸左府中御抱之役者の扶持高書上げ。

9969 御規式能并役者姓名　16.97—72
前田家編輯方手写　明治年間
47丁　23cm
小木貞正所蔵の写。

9970 〔京都江戸能役者名書〕　16.97—73
手写
1通　12cm
名と扶持高を記す。

9971 手役者召抱一件　16.97—74
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
前田貞醇所蔵の写。

9972 御国居住御手役者并町役者名前留記帳　16.97—75
手写　大正元年（1912）
18丁　12.5×18cm
波吉宮門所蔵本の写。内容は安政5年（1858）宝生流能役者の名書き。

9973 出目家面之系図　16.97—76
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
大島多計比古所蔵の写。出目家面の系図，出目家系図，文書の写を収録，出目家は能面師。

謡　曲・狂　言

9974　謡言粗志　16.97—77
佐久間寛台著
文化6・9年（1809・12）
42冊　27cm　帙・箱入
宝生流謡曲210番の註釈で，世に行われる謡抄の誤を正し，更に故事故実を勘考して審かに解説したもの。

9975　謡言粗志拾遺　16.97—78
3冊　27cm　帙入
謡言粗志を補ったもの。

9976　謡言粗志訂補　16.97—79
渋谷重武等補
自筆
4冊　27cm
佐久間寛台の謡言粗志における解釈上の難点を訂補。

9977　謡言粗志漏脱　16.97—80
3冊　23cm

9978　盆正月　16.97—81
前田家編輯方手写　明治年間
7丁　24cm
弘化2年（1845）7月藩主斉泰の脚気平癒を祝った「盆正月」の擬謡曲の台本。

9979　謡曲口伝鈔　16.97—82
前田利保著
手写
28丁　23.5cm
宝生流謡曲口伝鈔（一名，七宝秘蔵鈔）および謡曲替手等口伝箇条について記す。

9980　好文木　16.97—83
手写
6丁　24cm
謡本。旧書名「謡本好文木」。

9981　謡本舟立合　16.97—84
4丁　23cm
弓矢立合も含む。

9982　〔謡独吟集〕　16.97—85
55丁　23cm
熊野，柏崎，花筐など27。

9983　謡番文章　16.97—86
巻子1　15cm
謡曲の題目をおりこんだ一種の歌謡文。

9984　〔謡要律等〕　16.97—87
2冊・4通　24cm　箱入
安江喜作旧蔵。①謡要律（菅野恭忠・自筆・153丁）②富田好礼，田中朋如の略伝（2丁）③菅野延栄手紙など（安江喜作宛・4通）。

9985　〔謡初之覚〕　16.97—88
手写
巻子1　24cm
早川随勝旧蔵。内容は宝永4年～寛延4年（1707～51）の謡初役人等の記録。なお裏文書あり，文化6年の富永右近右衛門組支配人馬数書上げの断簡。

9986　御謡初之御作法　16.97—89
手写
巻子1　17cm
横山大膳所蔵本の写。内容は宝暦7年（1757）のもの。

9987　御謡初御給仕之次第　16.97—90
前田家編輯方手写　明治年間
4丁　24cm
内容は嘉永2年（1849）。

9988　御謡初一巻留　16.97—91
前田家編輯方手写　明治年間
59丁　23cm
波吉宮門所蔵の写。内容年代は嘉永3年（1850）。

9989 御謡初之節御規式絵図　16.97—92
手写
絵図1枚　32×43cm
小島為善旧蔵。大広間における謡初めの規式指図。

9990 長久集再記并諸事留写　16.97—93
手写
32丁　24cm
後東八郎兵衛所蔵の写。内容は享保10年（1725），宝生流地謡同心中間寄合謡合について。

9991 卒都婆小町形稽古抜書　16.97—94
5丁　13×19.5cm
「文化十二年十一月十三日卒都婆小町形初テ稽古弥三ヨリ申聞之事共覚書」とあり。

特16.98 遊　芸・行　楽

茶　道・香　道

9992 台子ノ手前之覚　16.98—1
小堀遠州著
手写
4丁　24cm
内容は寛永16年（1639）の茶道礼法の覚記。

9993 小堀遠州書状写　16.98—2
手写
巻子1　24cm
茶道(道具，作法など)について筑前様宛書状。

9994 御茶湯記録　16.98—3
手写
10丁　19.5cm
天保4年（1833）大広間で催された茶の湯の記録。

9995 茶道雑録　16.98—4
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　24.5cm

9996 前田家名物御道具記　16.98—5
森田平次（良見）手写
12丁　23.5cm
内容は享保10年（1725）の茶道具類（茶碗，香炉，一行書など）の記載。

9997 御道具寄帳十三冊目録　16.98—6
弘化2年（1845）
17丁　12×18cm
前田栄次郎旧蔵。

9998 増補六国弁書　16.98—7
葆光斎宜豊編
藤野昌章手写
19丁　18×13.5cm
香および産出国についての記述，原本は享保3年（1718）成立。

9999 香之書　16.98—8
伊藤甚右衛門・遠藤七五三著
手写
12丁　25.5cm
原本は寛延元年（1748）成立。

10000 系図香之馥　16.98—9
88丁　24cm
内容は系図香之馥，古今香之馥，煙竟香之馥，忍香之馥，住吉香之馥，新月香之馥，三友香之馥，星合香之馥，三夕香之馥，一二三香聞，草木香之馥，郭公香之馥，鳥合香之聞，鶯香之馥，三躰香之馥，宇治香之馥，哥合香之聞，四節香之聞，山路香之馥，五色香記，雨月香馥，蛬香馥，雪月花香之馥，四季香之馥，雲月香之聞，三景香之聞，寝覚香之馥，時雨香聞，春秋香聞，千鳥香之馥。

10001 志野家香道十三ケ条　16.98—10
手写
5丁　24cm
刊本「日本庶民文化史料集成」10巻に収載。

10002 〔聞香類聚〕　16.98—11
10冊　24cm
香道の組香の種類，名，題を記す。

10003 香道書　16.98—12
手写
2冊　18×13.5cm・13.5×19cm

10004 香道一切聞書　16.98—13
手写
6丁　24.5cm

10005 外盤物十種　16.98—14
19丁　24cm
香道関係。

10006 香会式　16.98—15
手写
8丁　24cm

10007 銘香目録　16.98—16
手写
30丁　24cm
名種香名の書上げ。

10008 香炉炭走之様　16.98—17
手写
5丁　23.5cm

10009 米川常白炷合之伝書并葆光斎附録　16.98—18
藤野昌章手写
4丁　23.5cm
炷合は香合せのこと。朱筆あり。

料　理・将　棋

10010 真砂子集　16.98—19
2冊　23cm
小島為善旧蔵。料理本。
①摺身之部，玉子之部，麸之部，塩辛之部，漬物之部，柚之部，梅之部，味噌之部，香之物部
②月別の献立例を記す。

10011 御料理調進方　16.98—20
小島為善著
自筆
2冊　12×17cm
小島為善旧蔵。魚，鳥，貝についての材料の扱いと調理法を記す。(1)魚，(2)魚，鳥，貝。

10012 真砂子集聞書　16.98—21
慶応3年（1867）
58丁　12×16.5cm
小島為善旧蔵，料理献立の解説書。

10013 開口風流御能御料理帳　16.98—22
3丁　12×18cm
成瀬正居旧蔵。料理献立を記す。

10014 庖丁礼　16.98—23
宮田八右衛門有之著
自筆　天明5年（1785）
65丁　23cm
小島為善旧蔵。内容は，山川新平への相伝書。庖丁使用順序の秘伝書。

10015 庖丁絵形　16.98—24
長谷川弥太郎勝之著
自筆　慶応3年（1867）
17丁　22.5cm
小島為善旧蔵。鶴，鴨，鰹，鯛など庖丁使用絵形で長谷川勝之より小島為善に伝授されたもの。

10016 式三献　16.98—25
手写
4丁　23cm
渡辺庸旧蔵。配膳，膳上の品々の配置に関する記。

10017 三汁十菜配膳次第　16.98—26
手写
7丁　26.5cm
渡辺庸旧蔵。

10018 棋僧快禅小伝　16.98—27
小川英著
前田家編輯方手写　明治年間
3丁　24cm
快禅は小松の人，金沢に出て棋名あり，のち東都に住して名顕わる。

蹴　鞠・相　撲・狩

10019 〔蹴鞠之由来〕　16.98—28
手写
2丁　24cm
蹴鞠の遊技の由来を記す。

10020 打毬御勝負書　16.98—29
手写
2通　17・24cm　包紙
前田貞醇旧蔵。内容は天明4年（1784）。篠原織部宛。

10021 七海村にて大相撲興行方　16.98—30
前田家編輯方手写　明治年間
10丁　24cm
北村愛三郎所蔵の写。天保15年（1844）の角力興行の願書類。また力士阿武松緑之助の伝記である。なお七海（ひつみ）村は鳳至郡能都町七見。

10022 相州新戸村猪御狩の次第　16.98—31
手写
4丁　24cm
内容は寛文7年（1667），猪狩の場所の図と供人名前，役掛りを記す。

10023 小金御鹿狩絵図　16.98—32
享保10年（1725）
絵図1枚　36×54cm
鹿狩り場所の図。

10024 柳営御鹿狩図　16.98—33
手写
5枚　30×42cm～42×90cm　袋入
島田孝郷旧蔵。将軍家鹿狩りの勢子，供の大名などの配置図。

10025 捕鴨表并放鷹獲柄表　16.98—34
13冊　37.5×28cm
不破順命旧蔵。東京四谷，四谷邸，深川邸，溜池黒田氏別邸，大塚伊達氏別邸などでの鴨取り実態報告書。
①捕鴨表　明治6・12・12～12・5・9　3冊
②　〃　12・9・28～18・5・5　3冊
③　〃　18・9・15～20・5・21　3冊
④放鷹獲柄表　7・5・2～12・6・30　2冊
⑤　〃　17・6・19～20・7・15　2冊。

10026 平尾御別荘合奏之記　16.98—35
石黒千尋著
藤原正敦手写　嘉永3年（1850）
8丁　24.5cm
「ひらをのおんなりどころみあそびのき」とふりがながあり。著者は田中躬之らに学び，明倫堂で国学を教える。明治5年（1872）没69才。

補　　遺

特16.0 総　　記

特16.03 叢書・全集

10027 拾遺温故遺文　　16.03—3

森田平次（良見）編

手写

198丁　27cm

温故遺文の続編として，それに載らなかった奈良時代以降の古文書を採録，編集したものとの奥書がある。

10028 加能越古文叢　　16.03—4

森田平次（良見）編

自筆　明治22年（1889）

51冊　23.5cm

前田家編輯方の要請を受けた森田平次が，加賀・能登・越中三ヶ国に関連する古文書，記録，金石文等を奈良時代～慶長期にわたり編年により収集・編さん。各々に考証もある。

①文武天皇4年(700～延暦12年(793)
②天平宝字3年(759)～建武元年(1334)
③承和6年(839)～承平7年(937)
④天暦6年(952)～延久4年(1072)
⑤応徳2年(1085)～久安6年(1150)
⑥平治元年(1159)～文治2年(1186)
⑦養和元年(1181)～元暦元年(1184)
⑧元暦2年(1185)～建久8年(1197)
⑨元久2年(1205)～文暦2年(1235)
⑩嘉禎3年(1237)～天文元年(1532)
⑪弘長元年(1261)～嘉元3年(1305)
⑫徳治3年(1308)～元享4年(1324)
⑬正中元年(1324)～建武5年(1338)
⑭興国2年(1341)～暦応5年(1342)
⑮康永元年(1342)～貞和5年(1349)
⑯正平4年(1349)～文和3年(1354)
⑰延文元年(1356)～貞治6年(1367)
⑱応安元年(1368)～永和4年(1378)
⑲康暦元年(1379)～康応元年(1389)
⑳明徳元年(1390)～応永21年(1414)
㉑応永24年(1417)～正長元年(1428)
㉒永享元年(1429)～康正3年(1457)
㉓長禄元年(1457)～寛正6年(1465)
㉔寛正6年(1465)～文明18年(1486)
㉕文明16年(1484)～明応10年(1501)
㉖文亀元年(1501)～永正17年(1520)
㉗大永5年(1525)～大永7年(1527)
㉘享録2年(1529)～享録4年(1531)
㉙天文元年(1532)～天文23年(1554)
㉚天文14年(1545)～天文15年(1546)
㉛天文17年(1548)～天文24年(1555)
㉜弘治元年(1555)～弘治3年(1557)
㉝永録元年(1558)～永録5年(1562)
㉞永録6年(1563)～永録13年(1570)
㉟元亀2年(1571)～天正8年(1580)
㊱天正5年(1577)～天正10年(1582)
㊲天正8年(1580)～天正17年(1589)
㊳天正10年(1582)
㊴天正11年(1583)
㊵天正12年(1584)
㊶天正12年(〃)～天正13年(1585)
㊷天正13年(1585)～天正16年(1588)
㊸天正17年(1589)～天正20年(1592)
㊹文禄2年(1593)～文禄5年(1596)
㊺慶長2年(1597)～慶長4年(1599)
㊻慶長4年(1599)～慶長5年(1600)
㊼慶長5年(1600)～元和4年(1618)
㊽慶長8年(1603)～慶長11年(1606)
㊾慶長11年(1606)～慶長16年(1611)
㊿慶長16年(1611)（なお按文には元和～寛文の資料も引いている）
(51)慶長17年(1612)～慶長20年(1615)
（　〃　）。

特16.05 雑　　記

10029 雑談集書　　16.05—30

今枝直方編

前田家編輯方手写　明治年間

44丁　23.5cm

今枝直規所蔵の写。享保11年(1726)編記の写。享保十年公方御狩之略志，同年長福公始御鷹野略志，同年紀伊国屋等諸国売買之願，同年於営中水野乱心儘毛利氏前後略談，同11年越前勝山領山崩之変異，唐船阿蘭陀舟雑略談，西国筋関

所有之所之談，豊後国日向村八歳強力童之談収録。

10030 甌　窶　　16.05—31
〔今枝直方編〕
前田家編輯方手写　明治年間
82丁　24cm
聞書詩文等。

特16.1 藩　　主

特16.10 系　　譜

家　　督

10031 勝興寺御帰俗之儀ニ付書附　　16.10—86
明和5年（1768）
巻子1　26.5cm　包紙
藩主前田重教が，越中古国府勝興寺往職として出家していた実弟治脩（賜真）を環俗させて嗣子にしようと交渉させていた際の文書。環俗の内諾を得たのち，老臣たちが書き留めたもの。包紙に「明和五年子九月廿九日，長九郎左衛門宅ニ於テ，執政本多安房守，前田駿河守，横山山城守，長九郎左衛門，村井又兵衛，用番奥村主水，列座野呂源左衛門，原田八郎兵衛へ内々申聞被上被相渡候，書立壱通」とある。

特16.11 年　　譜

累　　代

10032 菅君栄名記　追加　　16.11—147
21丁　23.5cm
城地，軍制に関する編年体史書。

10033 菅君栄名記　追加二　　16.11—148
手写
28丁　23cm
「御分国中百姓御知行被下者共」を追加した他内容は前号と同じ。

10034 毎日帳之内書抜　　16.11—149
手写
58丁　24cm
寛政2年(1790)8月～3年2月迄の分。項目に分けず，日付順になっている。10代重教の子，教千代様（斉敬・勝丸・犬千代・又左衛門・利博）の記事を抜粋している。

10035 〔毎日帳之内書抜〕　　16.11—150
手写
104丁　24cm
外題は「太梁公御代亀万千君記・寛政八年九月廿五日～同九年三月三日迄 毎日帳之内書抜」。太梁院は11代治脩。亀万千は，12代藩主斉広の幼名で，亀万千関係の記事を抜書したもの。寛政8年10月出府。11月4日叔父治脩の養子となり，12月3日勝丸と改名，同日犬千代と改名，翌日又左衛門利厚と称した。翌9年2月正四位下筑前守に叙任。

10036 加陽諸士本末系譜略記　　16.11—151
有沢永貞編
自筆　正徳3年（1713）
12丁　26cm
別名「加陽諸士系略記」。序・凡例・前田家御年表よりなり，本文欠。特16.11—15と同じ。

位　　記

10037 但馬守様御持鑓二筋御願被仰出一巻　16.11—152
大槻内蔵允（朝元）編
延享元年（1744）
11丁　24cm
延享元年(1744)。前田吉徳から，2男（のち8代重熙）が去年従五位但馬守に叙爵したので，持槍二筋の幕府への願いが許可された際の一件書類。

印　　譜

10038 歴代華押譜　　16.11—153
1帖　26.5cm　包紙・箱入
初代利家から15代利嗣に到る。

特16.12 事　　蹟

初・2代　利家・利長

10039 貞郷記録　16.12—140
前田家編輯方手写　明治年間
2冊　23.5cm
前田家に関する合戦記録を収録。特16.12—41の写で8冊本を2冊にまとめる。
①前田家系図，歳月考，信孝秀吉就不和利家上洛事等5条，佐々成政東美濃打越事等15条，蓮間表焼働事等12条
②豊州岩酌城落去事等2条，石田西国下向事等14条，大坂陣事。

特16.13 交　　際

献上・進物

10040 御留守中日記　16.13—150
133丁　16×23cm
外題は「日記一」。内容は元禄13，14年(1700，1701)。藩主，一門の贈答関係の留書。

10041 松平往来申聞候趣等　16.13—151
坂田（松平）往来著
8丁　24cm
中川典克旧蔵。天保4年(1833)4月大千代（14代慶寧）が初めて登営将軍家斉に謁した。その際必要な献上品の注文の仕方について，13代斉泰の時の先例を述べたもの。松平往来康敬は献上品の用意方主付。成立天保3年。

応接・送迎

10042 表目類集　16.13—152
6丁　12×36cm
元禄～宝暦期の内容。藩主の寺社参詣，他藩よりの使者迎接等の規式の事例についての覚書。

10043 〔二条様使者到着につき見廻り等之留〕　16.13—153
手写
4丁　17×11.5cm
外題・旧書名「二条様御使者隠岐幡摩守罷越候付旅宿江為見廻罷越候節等之留」。前田恒敬旧蔵。文化15年(1818)4月2日～17日の日記で，御使者到着につき，年寄，家老各1人が「見廻」として旅宿へ赴いた件の記録。

10044 備後守様御使者御用部屋まで申述候覚書　16.13—154
手写
巻子1　16cm　包紙
備後守は大聖寺藩主。「御高増」の内願の件。ちなみに，10万石格を得たのは文政4年12月である。

書　　札

10045 御上京中御書留　16.13—155
手写
111丁　23.5cm
別名「御隠居御書留 下」。慶応2年(1816)～明治3年(1870)の前田斉泰（加賀中納言正三位）と武家公卿等との往返状の留帳。

特16.15 出　　行

行列・御供

10046 御供方雑記附録　16.15—136
前田家編輯方手写　明治年間
85丁　23.5cm
内容は元禄～寛政期の旧記や心得。

10047 御供方手控　16.15—137
前田家編輯方手写　明治年間
88丁　23cm
近藤篤之所蔵の写。内容は天明2年(1782)～文化2年(1805)。

10048 御供方旧記　16.15—138
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23cm
近藤篤之所蔵の写。
①寛政9年6月～享和2年10月
②享和2年10月24日～文化4年12月
③文化5年正月～同10年12月
④文化11年正月～同14年10月

10049 御供人於御横目所披見物写　16.15—139
手写
1通　15cm
真龍院（斉広の正室）登輿の行列，御供立について。真竜院は天保9年に江戸より金沢入りしている。

10050 大浦氏留記　16.15—140
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
大浦信行所蔵の写。
①御供押留帳（文政5年5月）
②御供押御在京中并御道中御用留（元治元年）
③京都并御道中記録集
④御上京御行列附
御備押御作法并御行列附
火事御行列附帳
火事御行列帳
火事之節手控
安政2年10月2日夜大地震翌3日御老中へ御勤ニ付御行列附。

10051 御泊附　16.15—141
12丁　12×17cm
横山政和旧蔵。慶応3年(1867)11・12月金沢～京都間(慶寧)，同4年(1868)6月京都～金沢間(斉泰)，明治2年(1869)7月東京～金沢間（慶寧)の通行の際の宿泊地。小休・中休地を記す。

子　女　出　行

10052 〔礼姫様・多慶若様末村領山へ御出之絵図〕　16.15—142
手写
絵図2枚　28×39cm
末村は金沢近郊（石川郡）にあり。遊行の際の締り方，休所，幕張りなどの間数指図。

特16.16 吉　　凶

婚　　礼

10053 御献上物代銀取立廻状帳　16.16—459
手写
26丁　24cm
前田貞醇所蔵の写。内容は元文5年(1740)～寛保元年(1741)の繁姫（6代吉徳の養女・元文5年南部信貞に嫁す，広尾御前）結納祝儀，御任官祝儀，喜代姫（6代吉徳の女，寛保元年4月浅野宗恒に嫁す，桜田御前）婚礼祝儀などの書類。

10054 御用所伺紙面之書抜　16.16—460
手写
157丁　25cm
元文～宝暦期の藩主子女の婚礼，輿入また進物等に関する記事を集めたもの。

病　　気

10055 相公様御所労之御覚書　16.16—461
手写
5丁　12.5×35cm
富田権六郎旧蔵。「相公」は6月12日死去したとの記事があるので，6代藩主吉徳であり，年代は延享2年(1745)と知れる。6月17日～23日の早打使者の出入，幕閣からの見舞などについての記録。

特16.17 御　　書

10056 申楽免廃論　16.17—61
前田斉泰著
前田家編輯方手写　明治年間
18丁　25cm
奥書「故正二位公（斉泰）御自ニシテ尤御自筆ノモノナリ薨去後秋芳様御見出ニテ御内々拝見被命候御本邸御手許江御差上ニ相成ルニ付内々拝写ス。臣山田有近謹書」とある。能の功能を礼義，健康の面から記す。特16.17—52に同じ。

特16.2 藩　　制

特16.20 領　　知

郷　　村　　名

10057 石川県下市邑名便覧　続市町村名数　16.20—112

金沢田中善兵衛　明治5～6年(1872～73)刊
2帖　15.5cm
渡辺蕃旧蔵。
①石川郡，河北郡，江沼郡，能美郡市邑名数。
②鹿島郡，羽咋郡，鳳至郡，珠洲郡市邑名数。
特16.20—20 ①②に同じ。

郷　村　高

10058 砺波射水両郡知行高目録　16.20—113
手写
4丁　24.5cm
酉5月22日付津田宇右衛門よりの目録。砺波郡484村202,111.84石，射水郡218村130,256.44石

領　　界

10059 白山争論記　16.20—114
森田平次手写
80丁　23.5cm
内題「明暦元年加賀国白山山域争論記事概略」
別名「加州白山争論一件抜粋」。
明暦元年(1655)に始まる白山争論に関する加賀藩の往復文書。刊本「白山所属争議」に含まれる「白山争論一件」と「白山収公一件」の2冊を要約したもの。

10060 白山一巻　16.20—115
手写　寛文6年（1666）
42丁　28×20cm
明暦元年(1655)に始まる白山争論の関係文書7通を写したもの。
○7月11日付，今枝民部書状（明暦元年）
○9月12日付，今枝民部宛，奥村因幡等年寄衆5人の書状（明暦元年）
○8月15日付，奥村因幡等年寄衆5人宛，今枝民部書状（明暦元年）
○8月12日付，前田対馬等年寄衆3人宛，今枝民部書状（明暦元年）
○尾添村百姓訴状の写
○明暦2年(1656)6月3日付，前田対馬等年寄衆3人宛，尾添村百姓等3人書状
○同年6月12日付，尾添村百姓等書状。
以上，刊本「白山史料集」上巻に所収。7月11日付，8月15日付，8月12日付は刊本「白山所属争議」にも所収。

10061 白山復古記　16.20—116
森田平次（良見）著
手写　明治9年（1876）
2冊　23cm
明治5年(1872)白山麓18ケ村の足羽県から石川県への移管に関する記録と神仏分離に伴う明治6年(1873)～同7年(1874)の白山山頂からの仏体下山の記録。刊本「白山所属争議」所収。

国絵図〔文書〕

10062 〔今枝民部書翰写〕　16.20—117
手写
1通　29.5cm
津田玄蕃宛。正保3年(1646)11月23日付，国絵図作成の件。

国絵図〔絵図〕

10063 三州測量図籍　16.20—118
高木村藤右衛門著
自筆　天保4年（1833）
12冊　27cm
射水郡高木村藤右門が藩命によって作成し，御領国図籍調方の遠藤数馬高璟・有沢才右衛門貞庸より指上げたもの。大聖寺藩・富山藩領も含む三州全域についての町間測量図で，藤右衛門は文政2年（1819）より4年の測量に基づき，同7年，諸郡御絵図，道程帳，村名帳を提出した。本書は天保3年（1832）に，測量時の野帳の清書を更に命ぜられて作成したもの。
①江沼郡　②能美郡　③石川郡　④河北郡　⑤羽咋郡・鹿島郡　⑥鳳至郡・珠洲郡　⑦，⑧砺波郡　⑨射水郡　⑩婦負郡　⑪⑫新川郡。

特16.21 勤　　役

巡　見　上　使

10064 〔幕府御目付巡見接待等に付書上げ〕　16.21—81
山本弥次右衛門・渡辺弥平著
巻子1　25cm

中川典克旧蔵。山本・渡辺より中川八郎右衛門・前田七郎兵衛宛。年代不詳，園田佐七・山本清三郎の名があり，寛文頃（寛文7年）か。御目付衆の江戸帰城後，越中境迄の道橋の掃除，接待の状況，加州・越中の作毛状況，利(砺)波郡中田村での一歩刈りの必要等について記す。旧書名「江戸ヨリ御帰御道中越中国作毛調書」。

10065〔巡見上使宿木銭請取書〕　16.21—82
手写
4通　24.5cm
享保2年（1717）4年幕府の巡見上使一行が能美郡原村に宿泊した際の木銭・米・味噌代の請取書。原村惣左衛門，左次兵衛，又八より鳥居権之助内大原兵衛，天野伝兵衛内金子善右衛門，薬料兵蔵，小菅猪右衛門内中黒丈右衛門宛。旧書名「宿屋木銭請取書」。

10066〔諸諸留抜書〕　16.21—83
手写
13丁　24cm
中川典克旧蔵。宝暦11年(1761)巡見上使の金沢着，発足についての令達，報告留。

10067 北国筋御見分ニ付江戸表伺之写　16.21—84
手写
巻子1　27.5cm
幕府巡見使の応接に関する武田喜左衛門の伺書。旧書名「道中ニ付江戸表伺之写」。

10068〔遠田勘右衛門書状〕　16.21—85
遠田勘右衛門著
自筆
1通　16cm　包紙
午12月16日付渡瀬三郎治，丹羽第次郎宛，外国奉行木銭米代の件につき。

10069 外国奉行一巻　16.21—86
手写
6冊　23.5cm
幕府外国奉行による領国海岸巡見一件留で，慶応3年(1867)7月より同4年(1868)7月までの記事。①慶応3年外国奉行菊地伊予守（隆吉）御領国海岸巡見中之節十村等ヨリリ休泊等之義ニ付伺并達之件等②同上③同上，慶応3年外国奉行巡見中之節宿村人数等取調書，外国奉行休泊等并石高交人口戸数産物等書上之義十村等ヨリ伺并達書等④外国奉行休泊等之義十村ヨリ伺之件，三州湊々高数等取調理ケ条書，三州湊々小物成銀取調理書⑤越後今町陣屋ヨリ外国奉行へ指出タル同所石高并小物成銀取調書，越後今町廻船取調理書，外国奉行休泊并行列附等，御郡方湊々他国出入之船数等品々取調理書及草案等，所口町家業体取調書帳，同町地子取立方等調理書，鹿島鳳至両郡七拾四ケ村田畑取調理書所口ヨリ三室村迄田畑町反取調書⑥所口ヨリ津田村マテ田畑町反取調理書，所口ヨリ続湾中海岸附等村名高人別取調理書，島之地村名高人別取調理書，加越能湊々米高并諸産物調理草拵，外国奉行休泊中諸雑用調理書。

特16.22 参　　勤

道　　中

10070 御廻道那谷寺等御道筋の図　16.22—169
手写
2丁　12×25cm
安井顕比旧蔵。13代斉泰が安政5年(1858)5月領内を廻道通行した時のもの。那谷～金沢間里程表(宿泊，休息宿も記す)と大聖寺～松任間の発着刻限表。旧書名「御廻道図帳」。

10071 御廻道筋手絵図　16.22—170
12丁　12×19cm
安政5年(1858)5月13代斉泰が東海道廻りで帰国した際，領内を廻道通行した時のもの。石川郡の道程（本吉～金沢有松町），沿道の村況(高・免・家数)，川，橋，寺社，領境，高札等を認す。

10072 御廻道筋見取絵図（能美郡）　16.22—171
絵図1枚　35×68cm
安井顕比旧蔵。安政5年（1858）5月斉泰が東海道廻りで帰国した時，領内を廻道通行したが，この絵図は能美郡内の那谷から湊までの巡路をしめす。旧書名「小松城下御廻道筋見取絵図」。

10073 御廻道筋書上申帳　16.22—172
手写
2冊　24cm
安井頭比旧蔵。安政5年(1858)3月の書上げ。同年5月13代藩主前田斉泰が東海道廻りで帰国し，領内を廻道通行した際の書上。能美郡と石川郡の2冊あり，能美郡は那谷から手取川まで，石川郡は本吉から松任までを記し，その間の泊所・小休所，沿道村名，名所旧跡等を記載する。

10074 宿割帳　16.22—173
16丁　12×16.5cm
成瀬正居旧蔵。万延元年(1860)4月13代藩主前田斉泰帰国の際の宿場での2,272人の宿割を記したもの。

10075 宿札員数　16.22—174
19丁　18×12cm
参勤交代の際の宿割に関するもので，前田佐渡津田玄蕃，奥村兵部等藩士の上下人数と乗馬数を記す。旧書名「宿札欠数」。

特16.26 職　　制

職制一般

10076 家司職制　16.26—186
手写　〔明治初年〕
6丁　24cm
前田家における家令以下の家司達の職務を規定
特16.26—11 と同じ。

特16.27 勤方制規

勤方一般

10077 若狭守様附面々覚　16.27—233
享保3年(1718)
4丁　7×18cm
中川典克旧蔵。6代藩主前田吉徳の就封前の吉徳待臣名簿。

10078 内廻状物等留　16.27—234
高畠厚定著
寛政8年(1796)
9丁　11.5×17.5cm
高畠定胖旧蔵。出船奉行，小石川御前様御用人亀千代殿御抱守人等の石高，履歴書出等留。

10079 年寄中見届之誓詞御前書　16.27—235
10丁　25.5cm
御用人役・御近習頭・御代官小払役・御台所所奉行・御作事奉行・御横目役・御武具方・御医師の各天罰起請文。

組　　方

10080 奥村丹後守栄実組ノ人持中へ演述書　16.27—236
手写
5丁　24cm
奥村・村井両太夫組衆教戒書。

特16.28 藩　　史

史書・史料

10081 沢田直温在勤中取調書　16.28—231
沢田直温編
自筆　明治年間
仮綴3　25cm
沢田直温が太政官出仕を罷めて以後(明治21～29年)前田家編輯方のために史料を点査し，修史した時の下書。内容は①筑前守様御用諸事留抜粋(安政5年，6年)②文久2～3年の京都御守衛③甲子元治紀表(若林要輔編)等(明治3年迄)をもとにして，注記考証を加えたもの

見聞記・雑記

10082 魚津御馬廻組小川忠左衛門覚書之写　16.28—232
鏑木左兵衛手写　享保10年(1725)
70丁　24.5cm
天正の利家入国の頃より明暦期にいたる時期の前田氏とその家中の事蹟についての覚書。

10083 随　筆　16.28—233
前田家編輯方手写　明治年間

ほぼ七丁分が小川氏の記録。あとは聞至録から抄出。筆者は渡辺崋山(酥孔鈔)

6冊　23cm
慶長期から元文期までの加賀藩政の諸事，特に江戸在府中の出来事や典礼，儀式等々を年次を追って遂次記録。中には古文書等の引用もあり。
①巻1（慶長元年～延宝二年）
巻2（延宝二年八月～同八年）
巻3（延宝九年～天和元年）
②巻4（天和二年～天和三年）
巻5（天和四年～元禄三年）
巻6（元禄四年～元禄七年）
③巻7（元禄八年～〃十一年）
巻8（〃十二年～〃十三年）
巻9（〃十四年～〃十五年）
巻10（〃十六年～宝永二年）
④巻11（宝永三年）
巻12（宝永四年）
巻13（宝永五年）
⑤巻14（宝永六年～正徳六年）
巻15（享保二年～〃　四年）
巻16（〃　五年～〃　九年）
⑥巻17（〃十三年～〃十三年）
巻18（〃十四年～〃十九年）
巻19（元文二年～元文九年）。

10084 宝永年間雑覚書　16.28—234
前田家編輯方手写　明治年間
93丁　23cm
前田貞醇所蔵明和9年の写本の写。内容年代は宝永元年(1704)～正徳元年(1711)。内容は藩侯家の吉凶交際，家中大身の者の任免などを中心にした簡単な叙述の編年体。旧書名「雑覚書」。

10085 正徳丙午集書　16.28—235
今枝直方著
前田家編輯方手写　明治年間
77丁　24cm
今枝直規所蔵の写。巻首付箋「丙午ハ丙申ノ誤リ丙申ハ正徳六年（1716）享保元年ナリ」とあり。「公方家継公御縁組之大略并御由緒之事，付江戸沙汰」等24条からなる。特16.28—156の写。

10086 可観小説　16.28—236
青地礼幹編
手写
55丁　24cm
題箋「可観小説，第四，零本」とあり，表題として「戸田清太夫ハ伊賀流ト云々」と文中の第一項に関する表記がなされている。金沢文化協本の7・8巻にあたる部分収録。
特16.28—177関連。

10087 可観小説　16.28—237
青地礼幹編
手写
43丁　23.5cm
金沢文化協会本の17・18巻にあたる部分を収録端本。特16.28—177関連。

10088 可観小説　16.28—238
青地礼幹編
手写
28丁　23.5cm
表紙付箋「此巻元十一十二ノ巻二合巻ニ成居候」とあり，題箋には「拾」という号数が朱記されてある。金沢文化協会本。第19巻にあたる。端本。

特16.3 藩　　士

特16.31 家格・系譜

系　譜・由　緒

10089 御家諸士系　16.31—266
有沢貞庸編
45丁　22cm
内題「武道雑談集 第七十八」。イロハ順に49名の藩士の系図を収録。内容は「諸士系譜」（特16.31—46）の後半部分にあたる。

特16.32 相続・縁組

家　督　相　続

10090 〔中川清六郎改名届下書〕　16.32—60
中川清六郎著
手写

1通　23.5cm
中川典克旧蔵。清六郎は顕忠（1774—1815年）か。先祖代々の八郎右衛門に改名届。津田玄蕃等宛

特16.33 規式・勤仕

規式・心得一般

10091 元文服忌令　16.33—136
手写　文政2年（1819）
56丁　23cm
横山政和旧蔵。内題「元文御改服忌令」。内題添書に「是書ハ元文服忌令ヲ本文トシテ御家ノ服忌ヲ種ニ書入タルモノナリ　頗ル異本也」とある。旧書名「服忌令」。

10092 服忌令　16.33—137
21丁　9.5×17.5cm
横山隆太旧蔵。元文元年（1736）の服忌令を記し，それ以前の令則と，その後文化12年(1815)迄の増補等を記す。また天保3年(1832)迄の旧例等覚を附す。

10093 服忌令附録　16.33—138
117丁　23cm
本多政以旧蔵。天保期頃迄の加賀藩の事例を記す。

10094 類聚服忌令　16.33—139
小幡和平著
手写
51丁　24cm
嘉永4年(1851)成立。山崎常山編の「服忌令新製」にその後の新例等を増補したもの。元禄・元文の服忌令を元とする。

10095 類聚服忌令　16.33—140
手写
59丁　24cm
嘉永4年(1851)成立。山崎常山翁編「新制服忌令」をもととしてその後の新例等を増補したもの。

10096 服忌令集覧　16.33—141
玉造隆晃注
2冊　26cm
玉造宗吉旧蔵。長山庄右衛門「服忌令撰註」に加賀藩の事例より傍註を加えたもの。
①元禄6年(1693)服忌令
②元禄以降追加，削除等。「御家之御定」（天保15年迄）を附す。

10097 服忌考・御問合服忌集　16.33—142
横山元侍手写　文化10年（1813）
43丁　12×17cm
山崎籍侃所蔵の写。横山隆太旧蔵。天和3年（1683）～享和元年(1801）の留書等を収録。

10098 下学老談　16.33—143
富田景周著
手写
2冊　27cm
加賀藩主の先祖代々の徳義武功等に始まり，藩史の概略から，藩士の日常の心得などに及ぶ10項67条からなり，藩士として心得ておくべき事柄につき説明したもの。上巻には文化10年（1813）本多政養の序及び著者の自序が，下巻には，文化6年（1809）奥村尚之の跋と文化7年（1810）前田孝始の複跋がある。

10099 下学老談　16.33—144
富田景周著
40丁　23cm
序文「……富田貞行・石野英氏二兄の需につき日用常行まつ拠便こころえん品々を集め口授せむとす…」とあり。「御先祖様御代々御徳義御武功等の項」等第十迄箇条に記す。文化6年（1809）奥村尚之の跋あり。前号に同じ。

10100 異本下学老談　16.33—145
富田景周著
手写
80丁　27cm
表紙付箋「文化六年(1809)十一月此書異本とあれとも撰者自筆本に同じきもの也」とあり，前号に同じ。

特16.34 家伝・旧記・列伝

家伝・旧記

10101 金沢文書　16.34—194
前田家編輯方手写　明治年間
6冊　23cm
①前田晋所蔵文書
②　〃
③奥村栄滋書類
奥村庄左衛門家書類
馬場雅乗所蔵書類
馬場外男所蔵書類
横山政和所蔵御書写
④国府賤六郎所蔵文書
小瀬直吉書類
小瀬貞庵記
本多政好書類
斉藤喜久松所蔵〔文書〕
慶応4年9月高島文蔵戦状御届書等
同年遠藤茂孝越後路出張中諸控
明和6年光現院様五十回御忌留帳
⑤不破順命所蔵不破源六へ被下候御書等写
⑥笹島卯三郎所蔵文書
青山徳次所蔵文書
亀田伊右衛門〔所蔵文書〕
亀田乙鉄郎〔所蔵文書〕
中田庄三郎〔所蔵文書〕
紙屋庄右衛門〔所蔵文書〕。

10102 金沢市中古文書　16.34—195
前田家編輯方手写　明治年間
4冊　23.5cm
内容
①多賀鯱文書，越前屋（片岡）喜右衛門文書
②神保三文書，横山政和文書，横山隆幹文書，織田艶文書，倉知新吾文書，森田小三郎文書
③成瀬正居文書，品川浜文書，長克連文書，近藤新文書，片岡孫作文書，中屋彦十郎文書，松岡忠平文書
④小幡造次文書，宇野親孝文書，神保三文書，藤懸重男文書，前田権佐文書，茨木家等文書，小堀牛右衛門文書。

列伝

10103 北越凱陣賞典録　16.34—196
87丁　24cm
己巳（明治2年）正月16日於御前被仰渡の今枝民部以下北越凱陣の者共賞功録。特16.34—121に同じ。

10104 今枝重直大夫墓碑記　16.34—197
木下貞幹編
巻子1　37cm
前欠，寛文六年（1666）孝孫近義立とあり。今枝重直の元亀元年（1570）姉川の合戦参陣より寛永4年（1627）没までの事蹟を記す。特16.03—1松雲公採集遺編類纂（153）に完全なものあり。旧書名「大坂夏陣之覚書」。

特16.38 私記録

10105 日記　16.38—62
大野木克明著
手写
46丁　14.5×21cm
大野木克征旧蔵。内容を大別して，加賀算事，従公義御尋書籍事，江戸殿中御沙汰事。最後の項目には享保6年(1721)9月26日の日付あり。旧書名「大野木克明日記」。

10106 諸色御用之留　16.38—63
手写
97冊　26cm
横山隆起旧蔵。内容は，横山多宮政礼，蔵人政寛の代の横山家の御用留。横山氏の家臣・与力小者の人事一般をはじめ，藩庁への諸届，横山家としての勤仕などの記録。
なお，政礼は養父正従が宝暦9年12月11日死去後，家督をつぎ，天明3年正月3日死去43才。あとを政寛がつぎ，享和元年正月25日死去32才。従って第19冊迄は政礼の代。20冊以降は政寛の代。
①宝暦10年（1760）　②宝暦11年
③〃12年　④〃13年
⑤〃14年　⑥明和2年
⑦明和3年　⑧〃4年

⑨ 〃 5年　⑩ 〃 6年
⑪ 〃 7年　⑫ 〃 8年
⑬ 〃 8年　⑭安永元年
⑮安永2年　⑯ 〃 3年
⑰ 〃 4年　⑱ 〃 5年
⑲ 〃 6年　⑳ 〃 7年
㉑ 〃 8年　㉒ 〃 9年
㉓ 〃 10年　㉔天明2年
㉕天明3年　㉖ 〃 4年
㉗ 〃 5年　㉘ 〃 6年
㉙ 〃 7年　㉚ 〃 8年
㉛ 〃 9年　㉜寛政2年
㉝寛政3年　㉞ 〃 4年
㉟ 〃 5年　㊱ 〃 7年
㊲ 〃 8年　㊳ 〃 9年
㊴ 〃 10年　㊵ 〃 11年
㊶ 〃 12年　㊷ 〃 13年
㊸享和2年　㊹享和3年
㊺ 〃 4年　㊻文化2年
㊼文化3年　㊽ 〃 5年
㊾ 〃 6年　㊿ 〃 7年
(51) 〃 8年　(52) 〃 9年
(53) 〃 10年　(54) 〃 11年
(55) 〃 12年　(56) 〃 13年
(57) 〃 14年　(58) 〃 15年
(59)文政2年　(60)文政3年
(61) 〃 4年　(62) 〃 5年
(63) 〃 6年　(64) 〃 7年
(65) 〃 8年　(66) 〃 9年
(67) 〃 10年　(68) 〃 11年
(69) 〃 12年　(70) 〃 13年
(71)天保2年　(72)天保3年
(73) 〃 4年　(74) 〃 5年
(75) 〃 6年　(76) 〃 7年 7月より
(77) 〃 8年　(78) 〃 9年
(79) 〃 10年　(80) 〃 11年
(81) 〃 12年　(82) 〃 13年
(83)安政2年　(84)安政3年
(85) 〃 4年　(86) 〃 5年
(87) 〃 6年　(88) 〃 7年
(89)文久2年　(90)文久3年
(91) 〃 4年　(92)元治2年
(93)慶応2年　(94)慶応3年
(95) 〃 4年　(96)明治2年
(97)明治3～7年。　旧書名「諸事留帳」。

10107 長五郎様御分入日記　16.38—64

手写
6丁　24cm

中川典克旧蔵。長持，つづら，上下箱などに入れた衣類，刀などの品物の覚。長五郎は系図の上で詳かではないが，中川家の人と推定できるので，ここにおく。

10108　伊須流岐枢要　　16.61-424
　前田家編輯方手写　明治年間
　76丁　23.5cm
・枢要一巻
・要書写一巻
・一山要書写私記
・宝暦五年二月石動山書上
・天明六年正月石動山境内堂社寺院鑑
・寛政九年丁巳十一月石動山由来

10109　寺社由来　　16.61-425
　手写
　179丁　23.5cm
藩から社領等を与えられた寺社の由緒書を貞享4年（1687）に寺社奉行が年寄に提出したものの写。

10110　社寺書類　　16.61-426
　前田家編輯方手写　明治年間
　140丁　23cm
社寺の由緒等を加賀国、越中国、能登国、他国の別に編纂したもの。

庶物類纂細目

本草・医薬

本草

庶物類纂

稲生若水等編

手写

213冊 25.5cm箱入

動・植・鉱物等3500種を、草・花・鱗等26属に分け、それぞれに、小学書、本草書を始め多様な漢籍文献から関連記事を抄出し、収集したもの。

編者稲生若水は加賀藩に仕え、元禄10年(1697)藩主綱紀よりこの編纂を命ぜられた。はじめ26属1000巻を完成する予定であったが、正徳5年(1715)若水が病没した時は、

9属362巻が成立していた。その後、編集は加賀藩内で続行の動きもみえたが、享保9年(1724)綱紀の死で一旦停止された。同17年(1732)将軍吉宗の命令で編集が再開され、加賀藩より召された若水の子稲生新助と藩医内山覚仲、及び幕府の医官丹羽正伯がこれを担当した。元文3年(1738)続修17属638巻を完成し、ここに当初の目標だった26属1000巻が達成された。その後、延享2年(1745)丹羽正伯が26属のうち8属について54巻を追加し、合せて26属、1054巻の庶物類纂が成立した。本図書館の213冊本は、幕府が編集完成後写本を前田氏に贈ったものといわれている。庶物類纂は本図書館の他内閣文庫所蔵465冊本、国立国会図書館所蔵415冊本等がある。

卷首上，庶物類纂惣目録
〃　自叙
〃　叙
〃　序
正補庶物類纂凡例
卷首下，増補庶物類纂序
〃　草属総目
〃　木属総目
〃　花属総目
〃　果属総目
〃　羽属総目
〃　毛属総目
〃　鱗属総目
〃　介属総目
第ノ冊，火属
総目（ 72種 ）

卷1，火総

卷2，火総

卷3，陰火附地火・水中火・燧火・烽

卷4，桑柴火・櫟柴火・茅柴火・蘆竹火・茄柴火・樺柴火・麦穂火・稲穂火・松柴火

卷5，炭・煤炭・竹炭・獣炭

第2冊，火属

卷6，薪・煙・艾火・神鍼火・火鍼

卷7，燈

卷8，燈・燈花

卷9，燈油・菜油・胡麻油・烏桕油

卷10，柴蘇油・豆油・玫瑰油・素馨油・楂油・桐油・大楓子油・枸杞子油・大麻油・魚獣油

第3冊，火属

卷11，燭

卷12，燭燼・発燭・炬・曊火・庭燎

卷13，灰・冬灰・香炉灰・鍛竈灰・瓷甌中白灰

卷14，百草霜・釜臍墨・梁上塵・煴閣

卷15，墨

第4冊，火属

卷16，墨

卷17，墨経・墨記

卷18，寒火・火井・火穴・湯井

卷19，石脳油附地脂・地漿

卷20，火山・火浣布附石絨・鎖鎖帽・火禽

第5冊，火属

卷21，聖燈・聖火・異火

卷22，燐火・墓火・狐火・諸物火光・火

災・防火・火化

卷23，雷火附震焼木

第6冊，水属

総目（145種）

卷1，水総

卷2，水総

卷3，雨

卷4，禱雨

第7冊，水属

卷5，梅雨‥液雨水・無雲而雨・神水・半天河水・潦水

卷6，明水・節気水・屋漏水・簷頭水・黒雨・赤雨

卷7，雨諸物

雨魚・雨獣・雨肉・雨璧玉・雨黄丹・雨水銀・雨石炭・雨薬

雨粉・雨中小児・雨亀鑿・雨絳羅・雨杵臼・雨熱湯・雨膳・雨刀剣・雨箭

卷8，雨諸物

雨骨・雨繞・雨花・雨灰・雨沙石・雨舍利・雨綿絮・雨銭幣・雨金鉄・雨虫

第8冊，水属

卷9，雨諸物

雨墨・雨血・雨毛・雨草・雨木果黒子・雨諸穀・雨氷・雨火・雨塵土

卷10，雪

卷11，雪・禱雪・臘雪水・霰

卷12，霜

第9冊，水属

卷13，雹

卷14，露·朱露·五色露·薔薇水·甘露蜜

卷15，甘露

卷16，甘露

卷17，氷

卷18，氷·氷柱·夏氷·氷窖·木介

第10冊，水属

卷19，海·死海

卷20，潮汐

卷21，潮汐

卷22，潮汐

卷23，潮汐

第11冊，水属

卷24，潮汐

卷25，潮汐

卷26，湖水・江水・潭水

卷27，流水・千里水・東流水・急流水・逆流水・甘瀾水

卷28，池水・澤水・弱水・黒水・白水

第12冊，水属

卷29，紫水・赤水・緑水・二色水・五色泉・石駝溺・酸水・若水・甘水・香水

卷30，井水

卷31，井水

卷32，井水・木飲・新汲水・井華水

卷33，玉井水・温井・酒井・氷井・粉井・浪井・天井・雲井・風井・響井・沸井・九井・海井

第13冊，水属

卷34，瀑布・溪澗水・山岩水・藥水・毒

水

卷35，地漿水・生熟水・塚井水・糧甕中水・銅壺滴漏水・磨刀水・繅糸湯・塩膽水・車轍中水・浸藍水・洗手足水・洗児湯

卷36，泉水

卷37，泉水

卷38，醴泉・瑞應泉・分流泉・知時泉

第14冊，水禹

卷39，陰陽泉・雌雄泉・趵突泉・沸珠泉・五熱泉・若泉・灰泉

卷40，應潮泉・應潮池・潮溪・咄泉・撫掌泉・縮泉

卷41，乳穴水・硃砂泉・雲母泉・茯苓泉

卷42，温泉

卷43，温泉

第15冊，土属

総目（69種）

巻1，土総・地嚢・地鏡・地気

巻2，壁土・太陽土・天子籍田三推犁下土・道中熱土・千歩峰土・鬼屎・土墾・市門土・戸限下土・柱下土

巻3，白墐・白脆・赤土・青土・黄土・黒土・五色土・包金土

第16冊，土属

巻4，甘土・香土・観音粉・貴妃粉・泥総・六一泥・蚯蚓泥

巻5，田中泥・簷溜下泥・井底泥・烏爹泥・白鱓泥・螺螄池・犬尿泥・驢尿泥・尿坑泥・糞坑底土

巻6，竈・竈突・伏龍肝・土龍眼・自然灰・石鹼・茭葑土・土皷・弾丸土

桑根下土

第17冊・土属

巻7，胡燕窠土・蟻垤土・土蜂窠・蜣螂転丸・鼠壌土・鼢鼠壌土・屋内壖下虫塵土・猪槽上垢土・車轄土・門臼塵・鞋底下土・焼尸場上土・塚上土

巻8，陶併陶青

巻9，窑・青瓷・白瓷器・甘鍋・砂鍋

巻10，瓦・磚

第18冊，石属

総目（281種）

巻1，石総

巻2，石総

巻3，丹砂

巻4，丹砂

卷5，水銀

第19冊，石属

卷6，水銀・水銀粉

卷7，粉霜・天硫・銀朱・朱砂銀

卷8，霊砂・雄黄

卷9，雌黄・石膏・玉火石

卷10，理石・長石・方解石・滑石・不灰石・不灰木・不燼木

第20冊，石属

卷11，石炭・木煤・燃石

卷12，赤石脂・白石脂・黄石脂・青石脂・黒石脂・五色石脂・桃花石

卷13，爐甘石・井泉石・無名異・蜜栗子

卷14，石鍾乳

卷15，孔公孽・殷孽・土殷孽・石花・石肪・石骨・石髄

第21冊，石属

卷16，石灰·蠣灰·海石即浮石·温石
陰陽石

卷17，潜英石·石脳·石炱·石芝

卷18，燋米石·石米·石麦·石粟·石豆
石麻·石餅·石桃

卷19，磁石·玄石·鳥石·紫石

卷20，白石·白玉石·代赭石·玄黄石·
五色石

第22冊，石属

卷21，青石·空青·曽青·扁青·白青

卷22，試金石·協金石·緑青·石膽

卷23，石肺·石脾·砒石·土黄

卷24，礬石·特生礬石·握雪礬石·鸐石

卷25，禹餘糧·太一餘糧·石中黄子·鈴
鐺石

第23冊，石屬

卷26，金星石・銀星石・摩娑石・礞石・花藥石・白羊石・黑羊石

卷27，金牙石・金剛石・合玉石・昆吾石・砭石

卷28，石砮・礪石・質石・青摩石・麦飯石

卷29，硯石

卷30，硯石

第24冊，石屬

卷31，硯石

卷32，硯譜・沈仕・硯譜・蘇易簡・硯譜・業樾

卷33，硯譜・洪景伯・硯説・曹継善・硯説・曹継善

卷34，磬石・石鼓

卷35，鳴石・響石・占雨石・熱石・冷石

第25冊，石属

卷36，息石・縮石・動石・無根石・香石・摩香石・馬肝石

卷37，塩

卷38，塩

卷39，塩

卷40，食塩

第26冊，石属

卷41，食塩

卷42，戎塩・光明塩・井塩

卷43，池塩・陸塩・塩石・傘子塩・樹上塩・鹵鹹

卷44，飴塩・紅塩・紫塩・黒塩・緑塩・塩藥・凝水石

卷45，太陰玄精石・礪砂・蓬砂・湯瓶内

14

鹼

第27冊，石属

卷46，朴消附芒硝·盆硝·馬牙硝·風化硝·懸石

卷47，玄明粉·消石即焰消

卷48，硫黄·水硫黄·石硫青·石流赤

卷49，礬石·礬精礬華

卷50，緑礬·黄礬·絳礬·金線礬·茶礬·陽起石

第28冊，石属

卷51，文石·紫斑石·寶母

卷52，錦石·花石·虢石·青白菜石·金精石·金石·印石·薑石·彙石

卷53，石器·石屏·石帆·石柏·石梅·上水石

卷54，石花·石燕·石蟹

卷55，石魚・石蛇・石鴈・石鼈・石龜

第29冊，石属

卷56，石蚕・燕窩石・石像・石人・石樹・連理石

卷57，石簡・石廩・鬆石・石版・石柱・竹石・石筍

卷58，竹葉石・木葉石・石棋子・石秤・石果・鉄網石

卷59，燕石・鏡石・川石

卷60，石銭・走水石・鳥精石・荷葉盤・釜石・嫩石・冷油石・釘官石

第30冊，石属

卷61，蛇黄・魚魷石・龍精石・龍駒石・霹靂礎附雷斧・雷鎚・雷鑽・雷環・雷珠・雷錐

卷62，雷墨・雷磨石・化石・癖石・淋石・

石汁・石脉

卷63，落星石・龍窠石・金雞石・阻声石・平泉石

卷64，火石・靈巖石・菉山石・石磕・松化石・青州石

卷65，林慮石・鎮江石・登州石・英石・崑山石・武康石

卷66，点蒼石・太湖石・靈壁石・兗州石

第31冊，石属

卷67，階石・無為石・靈符石・壽山石・通遠石・桐柏石・永石・南陽石

卷68，飯石・湖山石・郡石・桂川石・道州石・融州石・臨安石・将楽石

卷69，南平石・松林石・研屏石・假山石・沙

卷70，棗箟沙・金沙・銀沙・銕沙・白沙・

杓上沙・玉女沙・珠璣石

卷71，異石

卷72，異石

第32冊，金属

総目（106種）

卷1，金総

卷2，金総

卷3，金総

卷4，金総

卷5，礦石・麩金・沙金・金屑・金泥・瓜子金・顆塊金・金箔・種金

第33冊，金属

卷6，白金・赤金・紫金・辱金・假金・禁侈靡

卷7，銀総

卷8，銀総

卷9，銀礦・黃銀・赤銀・鳥銀・銀薄・
銀屑・銀膏・錢銀・假銀
卷10，銅
第34冊，金属
卷11，錢総
卷12，錢総
卷13，錢総
卷14，錢総
卷15，錢総
第35冊，金属
卷16，錢総
卷17，泉志・錢譜
卷18，錢法
卷19，金錢・銀錢・鉄錢・鉛錢・紙錢
卷20，交子・鈔
第36冊，金属

卷21，鏡総

卷22，鏡総

卷23，陽燧・水心鏡・異鏡

卷24，金鏡・鉄鏡・水銀鏡・火齊鏡・玻璃鏡

卷25，透光鏡・凹凸鏡・三方鏡・軒轅鏡　鏡臺・錫銅鏡鼻・鏡鏽

第37冊，金属

卷26，銅礦・銅粉・銅青・白銅・銅佛・銅弩牙・銅鈷鉚・銅秤錘・銅匙柄

卷27，鐘・銅鼓・鉄馬・諸銅器

卷28，自然銅・鍮石・密陀僧

卷29，鉛・鉛丹・鉛霜

卷30，粉錫・倭鉛・錫・斗錫

第38冊，金属

卷31，鉄総

卷32，鉄落・鉄華粉・鉄繡・鉄漿・鉄埿
鋼鉄・聖鉄
卷33，鑌鉄・錠鉄・耎鉄・古鋳・鉄銃・
鼎・鑊
卷34，釜・鐺・鎗鎚・銚・鑪・鉄鼓
卷35，刀剣
第39冊，金属
卷36，刀剣
卷37，刀剣録・名剣記
卷38，木剣・匕首・矛・戈・鉄鏃・斧
卷39，鉞・鉄甲・鉄鐔・鉄鎖・車轄・馬
銜・馬鐙・大刀環・剪刀股
第40冊，穀属
総目（77種）
巻1，穀米総
巻2，穀米総

卷3，禾総

卷4，梁禾・木禾・大禾・楊禾・感禾・畬禾・魚禾・弐禾

第41冊，穀属

卷5，嘉穀附嘉粟・瑞麦・聖米

卷6，稲総

卷7，稲総

卷8，稲総

第42冊，穀属

卷9，占城稲・陸稲・香子稲

卷10，秔

卷11，糯・馬眼糯・呉興米・紫米・桃花米・玉米・大人米

卷12，稷

第43冊，穀属

卷13，黍

卷14，黍

卷15，秬·秠·丹黍·野黍

卷16，蜀黍·玉蜀黍·粱総

卷17，青粱·白粱·赤粱·黄粱·秫

第44冊，穀属

卷18，粟

卷19，粟

卷20，穆子·稊·稗·莠

卷21，麦

卷22，麦

第45冊，穀属

卷23，小麦·大麦

卷24，白麦·穬麦·鬱麦·穭麦·雁爪麦
管麦·五葉麦·穲麦

卷25，碧麦·金麦·稗麦·瞿麦·燕麦·
雀麦

卷26，蕎麦・苦蕎麦

卷27，薏苡仁・菩提子・老鴉珠・蓆

第46冊，穀属

卷28，罌子粟・阿芙蓉・東廧・蒴草

卷29，茼草・蓬草子・穀奴・粟奴・麦奴・大麻

卷30，胡麻

卷31，胡麻

第47冊，穀属

卷32，白油麻・赤油麻・亜麻・麻枯餅・西国米

卷33，辟穀

卷34，諸田

卷35，恤政

第48冊，穀属

卷36，恤政

卷37，恤政

卷38，恤政

卷39，恤政

第49冊，菽属

総目（46種）

卷1，菽総

卷2，菽総

卷3，大豆・黒大豆

第50冊，菽属

卷4，大豆黄巻・白大豆・白豆・青豆・緑豆

卷5，赤小豆・腐婢

卷6．藊豆・白藊豆・黒藊豆・山藊豆・豆莢

卷7，豌豆・褐豆・柴羅豆・穭豆・騎草豆・畬豆

第51冊，菽属

巻8，刀豆・蚕豆・九月豆・梅豆

巻9，豇豆・落花生・繞明豆・雲南豆

巻10，香珠豆・僧衣豆・回回豆・虎豆・馬豆・白馬豆・黎豆・山黧豆

巻11，零鳥豆・山黒豆・米豆・山菜豆・回鶻豆・大霊豆・小豆・霊光豆・野雞斑・豆芽

第52冊，造醸属

総目（92種）

巻1，造醸総・飯・青精乾石餲飯・麦飯

巻2，粥

巻3，飧・糝・麪・餈・糒・餚・麨・糕・餌

巻4，糍・寒具・飣餖・巧果・円子・冷丸・油堆・餛飩

卷5，餅・河漏・饅頭・煎餅・畢羅・牢丸

第53冊，造醸属

卷6，陳廩米・米粃・糠・藥米・飴糖

卷7，大豆豉・豆黄・豆炙・粉総・豆粉豆麵・粉皮

卷8，豆腐・雪花菜・麻腐・麪・黄蒸・女麹

卷9，麪筋・麦粉・麩・麦蚕・切麪・餺飥・肺膜・血餡・麹

卷10，紅麹・神麹・豆油・醤油・楡仁醤・燕麦醤・醢

第54冊，造醸属

卷11，醤・漿・羹・飲・煎

卷12，湯・熱湯・生熟湯・蒸露法

卷13，炊湯・甑気水・糊・米汁・銅器蓋

食器上汗・薹

卷14，甘蔗・苦蔗・糖霜

卷15，氷糖・黑糖・梅蘇・蜜漬梅花・青塩陳皮・鹹杭子

第55冊，造醸属

卷16，酒

卷17，酒

卷18；酒

卷19，酒

卷20，焼酒・白酒・醴・葡萄酒・糟・醋

第56冊，蔬属

総目（32種）

卷1，蔬総

卷2，壷盧

卷3，壷盧・蒲盧・瓠蓄

卷4，懸瓠・苦瓠・匏・扁蒲

第57冊，蔬屬

卷5，冬瓜・南瓜・番南瓜

卷6，越瓜・菜瓜・黄瓜・糸瓜

卷7，生瓜・倭瓜・北瓜・石瓜・番瓜・枕瓜・龍肝瓜・早青瓜・雪瓜

卷8，握青瓜・奇瓜・括樓・土瓜・広東瓜・地黄瓜・金鵝蛋・馬絞児・異瓜

第58冊，海菜屬

総目（38種）

卷1，藻総・海藻

卷2，大葉藻・馬尾藻・牛藻・柳葉菹・藍菜・牛毛菜・龍鬚菜・線菜・鵞腸菜・水松・神黛

卷3，裙帯菜・海帯・海衣・石蓴・海蘊・陟釐・溪菜・紙菜

卷4，昆布・苔菜・紫菜・苔垢菜・石花菜・仙草

卷5，鹿角菜・虎栖菜・羊栖菜・鷓鴣菜・蠣菜・石鮭・候潮草・冥菁藷

卷6，澁苔菜・越王餘算・海粉・燕窩菜

第59冊，水菜屬

総目（36種）

卷1，蒲筍・蘆筍・泥菖蒲・溪蓀・水葱・磚子苗・水馬歯

卷2，菰・澤瀉・蘚草

卷3，藕・芡

第60冊，水菜屬

卷4，荇菜・蓴・水鏡草

卷5，眼子菜・蘋・萱・水豆児・萍蓬草・睡菜・糸花菜・扁菜

卷6，勃膾・慈姑

卷7，菱·牛尾蘊·浮蕎·真珠菜·羞菜·
天藕児·苓菜·荅菜·穀菜·高河
菜·藕菜

第61冊，菌属

総目（55種）

卷1，芝

卷2，芝

卷3，芝

卷4，木芝·草芝·肉芝·五色芝·妖草

第62冊，菌属

卷5，菌総

卷6，石耳·地耳·木耳·桑耳·槐耳·
柳耳·柘耳·楊櫨耳·松蕈·羊脂
菜·榆肉

卷7，雷蕈·麦蕈·天花蕈·雚菌·杉菌
阜角蕈·鬼筆·鬼蓋·地芩·鬼矢·

出隧・木肉・馬勃・牛屎菰

第63冊，菌属

卷8，重菰・鷄膏蕈・笑矣乎・泥笋・水蕈・稠膏蕈・紅菰・白蕈・紫蕈黄蕈・玉蕈・栗殼蕈・四季蕈・合蕈・舵菜・靼蕈

卷9，竹蓐・竹肉・雞㸆・香蕈・葛花菜

卷10，蘑菰蕈・土菌・毒菌

第64冊，玉属

総目（92種）

卷1，玉総

卷2，玉総

卷3，玉総附洗玉

卷4，璞附種玉・玉泉・玉脂・玉屑・軟玉・玉璽

第65冊，玉属

卷5，青玉·緑玉·黄玉·赤玉·白玉·黒玉·紫玉·菜玉·五色玉

卷6，珠総

卷7，珠総

卷8，夜光珠·明月珠·如意寶珠·青鳳子·火齊

卷9，辟珠·諸物珠

卷10，水珠·火珠·澄水珠·履水珠·青泥珠·蠟子·滴翠珠·木難·莫難珠

第66冊，玉属

卷11，馬價珠·翡翠·碧靛子·寶石·猫睛石

卷12，璋·璧·璜

卷13，圭·琮·瓚·瑁·沙子玉·鑵子玉

卷14，玕琪·玫瑰·碧·水碧·璢瑰·武

夫・瑤・璊・珉・璇玉

卷15，琉璃・玻瓈・玻瑠母

第67冊，玉属

卷16，雲母石・菩薩石・碾石

卷17，珊瑚・琅玕

卷18，琦璒・虎玉・鬼功石・紅糸石

卷19，瑪瑙

卷20，竹葉瑪瑙・土瑪瑙・緬鈴・靺鞨・
石榴子・萬年蛤

第68冊．玉属

卷21，琥珀・墜

卷22，水精・石英・白石英・紫石英

卷23，硝子・鼸鼬・遠鏡・五綵石・料糸・
花羊角・紅猪牙・螺子黛

卷24，金勝・珠樹・玉器

卷25，舎利附佛牙

第69冊，蛇属

総目（94種）

巻1，龍総

巻2，龍総

巻3，龍総

巻4，龍総

巻5，龍総

第70冊，蛇属

巻6，龍総・龍卵

巻7，龍骨・龍歯・龍角・龍皮・龍髯

巻8，龍毛・龍涎・火龍・塩龍・諾龍

巻9，鯪鯉・鼉・弔・虬・螭

巻10，蜃附山市・霧市

第71冊，蛇属

巻11，蛟・蛟筍

巻12，十二時虫・蛤蚧・師蛇・沙攤・雷

公馬・龍盤魚

卷13，守宮

卷14，蜥蜴

卷15，蛇総

第72冊，蛇属

卷16，蛇総

卷17，蛇総

卷18，蛇角・蛇蜕・蛇骨・斗牛・天蛇・神蛇・青霊蛇・水蛇・蛇婆

卷19，蚺蛇

卷20，巴蛇・蟒・長蛇・苟印

第73冊，蛇属

卷21，蝮・千歳蝮・爛芋茭・両頭蛇

卷22，虺・岐尾蛇・青竹蛇・青蝰蛇・緑蛇・青蛇・碧蛇

卷23，赤蛇・白蛇・白花蛇

卷24，黃花蛇・黃頷蛇・穀蛇・赤蠕蛇・烏蛇・黑蛇・金蛇附銀蛇・錦蛇・土錦蛇・翠蛇兒

第74冊、蛇屬

卷25，肥遺・七寸蛇・爆身蛇・脆蛇・青蔥・鱗蛇・蝻蛇・箭幹蛇

卷26，螣蛇・山鳥蠽・青竹標・土圭・灰蛇・檀蛇・水橫蛇・樹容蛇

卷27，金帶蛇・猫蛇・藍蛇・花地遍・夜虎・冷蛇・人面蛇・報冤蛇・理耨蛇・雞冠蛇

卷28，佛蛇・泥蛇・師蛇・簸箕甲・犁頭蛇・危杆・紅簸箕甲・量人・藤蛇・蛇蠱

第75冊，竹屬

總目（182種）

卷1，竹総

卷2，竹総

卷3，竹総

卷4，竹総

卷5，竹譜・続竹譜・竹総

第76冊，竹属

卷6，種竹

卷7，筍

卷8，筍・聖筍

卷9，筍譜

卷10，筍譜

第77冊，竹属

卷11，竹瀝・竹筎・籜・竹葉・竹根・竹紙・鳥金紙

卷12，竹實竹花・竹黄・雷丸

卷13，淡竹・苦竹・筋竹・扶竹

卷14，箭竹・射竹・箭竹・利竹・箑竹
弓竹

卷15，斑竹・黄竹・黄侯竹・黄蠟竹・紫竹

第78冊，竹属

卷16，白竹・蓋竹・紅竹・丹竹・丹青竹・緑竹・青竹・黒竹・烏歩竹

卷17，象牙竹・牙竹・白耀竹・蘄竹・簞竹・単竹・箇竹・白箇竹

卷18，實竹・桃枝竹・鄰竹・石竹・篌簇竹・篁竹・檳榔竹

卷19，龍公竹・篠竹・南竹・径尺竹・爨器竹・車竿竹

卷20，筌竹・笪竹・海桃竹・簜竹・由梧竹・疎節竹・火竹・雲母竹・江南竹

第79，竹屬

卷21，瑞竹，人面竹·鶴膝竹·莽竹·虫竹·蚱蜢竹·野竹

卷22，猫竹·猫児竹·金猫竹·狗竹·毛竹·龍頭竹·龍芽竹·龍鬚竹

卷23，十二時竹·月竹·四季竹·孤竹·慈竹

卷24，方竹·三稜竹·篔簹竹·箊笋竹·含竹·通竹

第80冊，竹屬

卷25，巨竹·大節竹·大夫竹·湍竹·篥竹·篩竹·鏽竹

卷26，筆竹·蘇麻竹·娑摩竹·石麻竹·思摩竹·老竹·大頭竹·牛角竹

卷27，篠竹·苦油竹·茨竹·棘竹·鉄籬竹·箊竹·笀竹

卷28，清江県竹・燕竹・節竹・鉤端竹・篤竹・粉竹・箊篥竹・簢竹・晋竹

卷29，閃竹・秋竹・箕竹・護居竹・扁竹・定光杖竹・霧雨竹

第81冊，竹属

卷30，凝波竹・豁竹・仲竹・玉泉竹・雷竹・雷斑竹・相迷竹・蘆竹・箬・筴竹

卷31，篁竹・柯亭竹・筆竹・花節竹・花竹・澧竹・万竹・平南竹・馬蹄竹

卷32，青皮竹・剛竹・禿竹・曲竹・折尾竹・結竹・新婦竹・癭竹

卷33，台竹・丁香竹・燕竹・垂糸竹・調糸竹・蒲竹・横枝竹

卷34，雞脛竹・千歳竹・千里竹・石邃竹・公孫竹・観音竹・水竹

第82冊，竹屬

卷35，鳳尾竹・空涵竹・角竹・七絃竹・梅緑竹・龜紋竹・長壽竹・童子寺竹

卷36，文武竹・絲篛竹・篛竹・娑羅竹・越王竹

第83冊，蔬屬

総目（637種）

第84冊，蔬屬

卷1，蔬総

卷2，蔬総

卷3，蔬総附鬱養強熟

卷4，韭

第85冊，蔬屬

卷5，韭

卷6，山韭附孝文韭・水韭・柴韭・野韭・

背韭

卷7，蔥總

卷8，蔥總

卷9，冬蔥・漢蔥・沙蔥・綿蔥・胡蔥

卷10，茖蔥・龍爪蔥・水晶蔥・藠

第86冊，蔬屬

卷11，薤・勃

卷12，蒜總

卷13，大蒜

卷14，小蒜・山蒜・独脚蒜附五辛菜

卷15，蕓薹

第87冊，蔬屬

卷16，菘即白菜

卷17，菘・紫菘

卷18，夏菘菜・烏菘菜・四月薹・箭稈菜
牛肚菘・水菜

卷19，白頭菜・四月梵・梵菜・盤科菜・雪裏蕻・山白菜・黄芽菜

卷20，芥総

第88冊，蔬属

卷21，芥総・白芥

卷22，紫芥・青芥・雞脚芥・南芥菜・水芥菜・春菜・銀糸芥

卷23，馬芥・花芥・黄農芥・苦芥・百頭芥・芥藍

卷24，蕪菁即蔓菁

卷25，蕪菁

第89冊，蔬属

卷26，蕪菁

卷27，菲・水蔓菁・野蔓箐・矮黄・春不老・燕子不来香

卷28，菜菔

卷29，萊菔

卷30，菜菔・水蘿蔔・紅蘿蔔

第90冊，蔬屬

卷31，楊花蘿蔔・沙蘆菔・夏蘿蔔・野蘿蔔・山蘿蔔・根子菜・茄蓮・円根

卷32，胡蘿蔔・野胡蘿蔔・勞翁菜

卷33，生薑

卷34，生薑・乾薑・天竺乾薑

卷35，水芹・紫堇

第91冊，蔬屬

卷36，渣芹・荻芹・馬芹・款冬・橐吾

卷37，茴香・野茴香・蒔蘿・羅勒・香薷

卷38，蘘荷・廉薑・杜若

卷39，菠薐・石菠薐

卷40，茼蒿・野茼蒿・薇

第92冊，蔬屬

卷41，蕨·蕨粉

卷42，水蕨·紫蓁·蒲公英

卷43，蘡·香蘡

卷44，青蘡·赤蘡·紫蘡·白蘡·菰草·水蘡

卷45，藍菜·木天蘡·落葵·油灼灼

第93冊，蔬屬

卷46，萹蓄·竹葉菜即鴨跖草·淡竹葉·竹菜·麦藍菜·鴈児腸

卷47，萵苣·苦苣

卷48，紫苣·白苣·水萵苣·山萵苣·銀條菜·剪力股

卷49，苦菜

卷50，苦蕒·山苦蕒·東風菜

第94冊，蔬屬

卷51，菪蓬·玉篸

卷52，芋総

卷53，芋総

卷54，芋総

卷55，紫芋・青芋・白芋・水芋・生葉芋・
槫果芋・蠻芋

第95冊，蔬属

卷56，野芋・天芋・雀芋・博土芋・香芋・
土芋

卷57，薯蕷

卷58，薯蕷

卷59，野山薬・大薯・薑薯・佛掌薯・柱
薯・竹根薯・香蕷

卷60，蜜薯・馬鈴薯・薯榔・黄独・零餘
子

第96冊，蔬属

卷61，番薯

卷62，番薯

卷63，甜薯·百合·山丹

卷64，茄総

卷65，茄総·紫茄·青茄

第97冊，蔬菜

卷66，銀茄·水茄·海茄·番茄·渤海茄·
顛茄·緬茄

卷67，藜·秦萩黎

卷68，灰藋·泥胡菜·歪頭菜

卷69，蘇

卷70，回回蘇·野紫蘇·水蘇·魚蓼·荏

第98冊，蔬菜

卷71，薤菜·茅苣

卷72，姑娘菜·苦蕺·天茄児

卷73，大薊·小薊·苦芙·白英

卷74，冬葵

卷75，冬葵

第99冊，蔬屬

卷76，蜀葵・錢葵・章柳根

卷77，菊

卷78，菊・艾・野艾蒿

卷79，蓽蒿・邪蒿・鉄桿蒿・齊頭蒿

卷80，茵蔯・青蒿・莪蒿

第100冊，蔬屬

卷81，蔺蒿・蓬・皤蒿

卷82，鼠麴草・鼠菊・鬱臭苗・鼕菜

卷83，莧総

卷84，莧総・赤莧・白莧・紫莧・五色莧

卷85，馬歯莧・灰莧・人莧・猪莧即野莧

第101冊，蔬屬

卷86，石莧・青箱莧・雞冠菜・望江南・

莣芒決明

卷87，苜蓿・酢漿草・碎米薺

卷88，堇堇菜・黃瓜菜・獐牙菜・紅藍菜

卷89，萱草・老鴉蒜

卷90，豆芽菜・鹿豆・蚕豆苗・黃豆苗・刀豆苗

第102冊，蔬屬

卷91，緑豆芽・野菉豆葉・眉児豆苗・豇豆苗・紫豇豆苗・匏葉

卷92，蕹菜・番椒・胡椒附蒟醬・辣火

卷93，馬蘭頭・六月菊・雞児腸・鶯児腸・雞腸草

卷94，蘩縷・鶏眼草・蕺菜

卷95，蓁耳・蒼耳菜・稀薟・地榆

第103冊，蔬屬

卷96，胡荽

卷97，天蒜荽・野園荽・羊蹄・酸模

卷98，薺

卷99，蘄蓂·翹搖

卷100，草石蚕·地瓜児苗·綿棗児·佛指甲

第104冊，蔬属

卷101，地筍·茅芽根·荻笋·菅·猪殃殃·猫児朶

卷102，黄精

卷103，萎蕤·王不留行·伽藍菜·木薑

卷104，葛·蘿摩

卷105，野苗即何首烏·天門冬·百部·金剛刺·野木瓜即木通

第105冊，蔬属

卷106，糸瓜苗·地角児苗·土茜苗·菌子根·水胡蘆苗·狗棹尾苗

卷107，陵苕·金瓜児·藤花·馬兜鈴·葛

勒子

卷108，蛇葡萄·牛嬭菜·野西瓜苗·木鼈子·含水藤·鼠藤

卷109，甘藤·甜藤附天馬祖卦·金銀花·生瓜菜·寒心菜·犁頭菜

卷110，僊人草·佛土菜·花蒿·鹿蕨菜·酸桶笋·椶筍

第106冊，蔬屬

卷111，醋林子·芭蕉·雞腿児·委陵菜

卷112，黃耆·沙參·細葉沙參·山蔓菁·地參·桔梗

卷113，薺苨苗·朮·防風附防葵·独活

卷114，白芷·前胡·芍藥·山菜·川芎芽藁本

卷115，地黃苗·麥門冬·遠志·菖蒲

第107冊，蔬屬

卷116，薄荷・荊芥・龍膽・紫苑・蛇床子

卷117，竊衣・旋覆花・白鮮・漏蘆・威霊仙・野生薑・夏枯草

卷118，天名精・蠡實・紅豆蔻花・山柰・木蘭芽・白薇

卷119，敗醤・玉簪花・苧麻・藜菜・蒺藜・澤漆・連翹

卷120，火焔菜・三白草・鉄掃箒・地銭児・山宜菜・看麦娘・雀舌草

第108冊，蔬属

卷121，金雀花・金荳児・青杞・鴉脚花・狗脚跡・猢猻脚跡・牛塘利

卷122，糸蒿蒿・鹹蓬・金盞菜・蒟蒻

卷123，胡麻苗・莧葵・牻牛児苗・兎児苗・薔蘼・旱藕

卷124，野蜀葵・蕺草・藩籬頭・水辣菜・

景天・芸香・紫雲菜

卷125，芽児拳・山梗菜・石芥・地槐菜・螺鱉児・老鸛筋

第109冊，蔬属

卷126，柿娘蒿・絞股藍・天藕児・鵝観草・草鞋片・楓楓児・禹餘糧

卷127，金針菜・權耳菜・柳葉菜・柳葉菜・山芥菜・山蒜菜

卷128，狗筋蔓・地花菜・杓児菜・虎尾草・星宿菜・水蓑衣・小虫児卧單

卷129，兎児尾苗・地錦苗・香茶菜・透骨草・毛女児菜・山小菜・耬斗菜・

卷130，和尚菜・変豆菜・甌菜・鴉蔥・匙頭菜・牛尾菜

第110冊，蔬属

卷131，綿糸菜・米蒿・舌頭菜・紫香蒿・

費菜・千屈菜・仙靈脾

卷132，婆婆指甲菜・山甜菜・風花菜・粉條児菜・辣辣菜・毛連菜・青莢児菜

卷133，八角菜・耐驚菜・地棠菜・雨點児菜・白屈菜・扯根菜・草零陵香

卷134，水落藜・凉蒿菜・粘魚鬚・節節菜・接続草附問荊・婆婆納・蠍子花菜・野粉團児

卷135，蚵蚾菜・過藍菜・兎児傘・菽薥根・雞児頭苗・地稍瓜

第111冊，蔬菓

卷136，蓬子菜・米布袋・苦馬豆・草三柰・藤長苗・牛皮消・大蓼

卷137，牛耳朵菜・鷩児菜・猪尾把苗・胡枝子・毛女菜・襪児花

卷138，争春菜·優殿·莫菜·葟菜·蓳菜·
蠻菜

卷139，羅漢菜·金花菜·木桃児樹·芸薇·
小白菜·槦菜

卷140，看燈菜·蓮花白菜·瓢児菜·白花
菜·劉隠菜·金糸菜·簾

第112冊，蔬属

卷141，孟娘菜·醍醐菜·雞侯菜·醋菜·
春踏菜·牛唇菜

卷142，断続藤·野落籬·烏英·羊耳禿·
黄花児·蒿柴薺

卷143，雀児綿單·燈蛾児·苦麻薹·狗耳
草·黄連頭·鳳仙花梗

卷144，蕎麦苗·綿絮頭·茉莉葉·窩螺薺·
倒灌薺·江薺

卷145，烏藍担·板蕎蕎·胡蒼耳·金盞児

花·山苋菜·水棘鍼苗·沙蓬

第113冊，蔬屬

卷146，女婁菜·独行菜·山藜·葛公菜·鯽魚鱗·尖刀児苗

卷147，珍珠菜·杜當帰·風輪菜·挌白練苗·胡椒菜·苔·樹衣

卷148，杜仲·茶樹·黃櫨·椋子樹·杏樹棗樹·桃樹

卷149，沙果子樹·丹桂花·芙蓉花·錦帶花·松花蕊·木槿花

卷150，竹葉椒·崖椒·秦椒·蜀椒

第114冊，蔬屬

卷151，報馬樹·椵樹·臭蕤·堅茨樹·臭竹樹即臭梧桐·馬魚児條

卷152，老婆布勒·欅樹葉·青楊樹·龍柏芽·兜櫨樹·青岡樹·檀樹芽·山

茶科附山茶

卷153，楸樹・花楸樹・刺楸樹・白辛樹・木欒樹・烏稜樹

卷154，省沽油・回回醋・南燭葉・女児茶

卷155，五加・桑・柘樹

第115冊，蔬属

卷156，柏樹・櫟・阜莢樹

卷157，枸杞

卷158，槐葉・楡

卷159，白楊・木羊角科・青檀樹・楮・欒齒花

卷160，馬棘・棠梨樹・文冠花・石榴・木葛

第116冊，蔬属

卷161，椿・樗・臘梅花

卷162，梔子花・楨桐芽・合歓・孩児拳頭

黄糸藤

卷163，山格刺樹・筅樹・黄連茶・鵲不踏・雲葉

卷164，食茱萸・冬青

卷165，黄棟樹・蘵芽樹・槭樹芽・月芽樹老葉児樹

卷166，窠菜・乳草・蕎花頭・荳葉菜・黄凉茶・棹・僊人菜

第117冊，虫属

総目（266種）

卷1，虫総

卷2，蜂総

卷3，蜜蜂

卷4，蜂蜜

卷5，羊刺蜜・紅蜜・若蜜・蜜蠟

第118冊，虫属

卷6，露蜂房·土蜂·大黃蜂·白蜂·穿木蜂·木蜂

卷7，竹蜂·独脚蜂·赤翅蜂·七里蜂·蛤蜂·菌蠭·螟蛉

卷8，蠐螬

卷9，虫白蠟

卷10，紫鉚·五倍子·雀甕併蛄蝌

第119冊，虫属

卷11，蟷蜋·桑螵蛸

卷12，蚕繭

卷13，蚕繭

卷14，蚕繭

卷15，原蚕·原蚕沙·蚕女·蚕退·殭蚕

第120冊，虫属

卷16，蛹·繭·野蚕·氷蚕·火蚕

卷17，海蚕·地蚕·土蚕·石蚕·雲師雨

虎・九香蚕・樟虫・楓蚕糸・沙柳虫・沙蚕

卷18，蛾・灯蛾・天蛾

卷19，青蚨・龐降・樗雞・砂挼子

卷20，蛺蝶

第121冊，虫属

卷21，鳳子・鬼蛺蝶・蜻蛉附赤卒・馬大頭

卷22，紺蝶・蜉蝣・天牛・飛生虫・麦魚

卷23，斑蝥即斑猫・芫青・地膽・葛上亭長

卷24，蜘蛛総

卷25，赤蜘蛛・黒蜘蛛・白蜘蛛・山蜘蛛・草蜘蛛・長蚊

第122冊，虫属

卷26，蠑螈・蠅虎・壁銭・水黽・水遊即・

豉虫

卷27，蠍·火蠍

卷28，蛭·石蛭·草蛭·雷蜞

卷29，蟻

卷30，蟻

第123冊，虫属

卷31，蟻漆·赤蟻·白蟻·馬蟻·蟻虎·天蝦

卷32，青腰虫·滾水虫·蛆·水蛆·海蛆·鉄蛆·水虫·石尤

卷33，蠅

卷34，青蠅·狗蠅·木虻·蜚虻·扁前

卷35，蝨

第124冊，虫属

卷36，牛蝨·竹蝨·水蝨·沙蝨·沙虫·壁蝨

卷37，蚤·蚋·蟆子·含毒·孑孓

卷38，蚊

卷39，豹脚·浮塵子·悪核·没子·微塵·
鼷鼠·蠛蠓

卷40，蠐螬·葛虫·軟骨虫·縊女虫

第125冊，虫属

卷41，木蠹虫·桑蠹虫·柳蠹虫·桃蠹虫·
柘蠹虫·棗蠹虫·棗猫

卷42，茶蛀虫·橘蠹虫·桂蠹虫·皁莢蠹
虫·竹蠹虫·蘆蠹虫·蒼耳蠹虫·
青蒿蠹虫·屋蠹虫

卷43，菊牛·藘香虫·守瓜·蓼虫·它虫·
禾虫·露花虫·蝋蛄

卷44，蚣蝮·風虫·鐫花娘子·倏蝠·蠋

卷45，蟬総

第126冊，虫属

卷46，蟬総

卷47，蚱蟬・螗蜩即蟬花・蠐母・寒蜩・蠮蛄

卷48，蟭・茅蜩・蜋蜩・琵琶蟬・復育・蟬蛻

卷49，蜣螂・蒼螂・龍虱

卷50，蜚蠊・行夜・蝤蛑・結草虫

卷51，螻姑

卷52，叩頭虫・食膠虫・乳虫

卷53，螢火

卷54，螢火・放光

卷55，衣魚

第127冊，虫属

卷56，鼠婦・丹戝・竊虫

卷57，蠷虫・金亀子・吉丁虫・朕顆虫

卷58，蠹虫

卷59，蠱虫

卷60，金蚕・石中蠐螬・猫鬼

卷61，蟋蟀・螽斯・蚱蜢

卷62，竈馬附佗負虫・草虫・莎雞・龍眼雞・金鐘児

卷63，蟾蜍・蟾酥・土檳榔

卷64，蝦蟇

卷65，蝦蟇・白蝦蟇

第128冊，虫属

卷66，龜

卷67，龜・蝌蚪

卷68，田父・山蛤附溪狗・樹蛤・雨蛤・蛙蛤

卷69，蜈蚣

卷70，蜈蚣

卷71，蚰蜒・山蛩虫・馬蚿

卷72，蠼蝬・蝎牛

卷73，長生蝎・緣桑蠃・蛞蝓

卷74，蚯蚓

卷75，蚯蚓・山蚓・夜虎

第129冊，虫属

卷76，度古・刺螫・溪毒・鬼彈

卷77，射工・蜮

卷78，驢竜・風驢肚内虫・土肉・蛇公・沙鼈虫・謝豹

卷79，脹牛虫・両頭虫・唼臘虫・疥中虫

卷80，人身中虫

卷81，人身中虫

卷82，蚘虫・砕車虫・獷・媚蝶・灰藥

卷83，隊隊行・数丸虫・五穀虫・強蚌

卷84，蠹螽総

卷85，蠹螽総

第130冊，虫属

卷86，蠶蠶総

卷87，蠶蠶総

卷88，蠶蠶総

卷89，蠶蠶総

卷90，蠶蠶総

卷91，蠶蠶総

卷92，蝤虫・蜞・蟘・蝨

卷93，蝻虫・横虫・綿虫・賊

卷94，花虫・諸虫害稼・山荒黒虫

卷95，雑虫

第131冊，花属

総目（312種）

卷1，牡丹

卷2，牡丹

卷3，牡丹

卷4，牡丹

第132冊，花属

卷5，牡丹

卷6，牡丹

卷7，牡丹

卷8，山茶花·滇茶·寶珠茶·白寶珠茶·日丹茶

第133冊，花属

卷9，白山茶·千葉白山茶·千葉紅山茶·瑪瑙茶·一擘紅·楊妃茶·粉口茶·檳榔茶·石榴茶·錢茶·白錢茶·蠟蒂茶·茶梅花·白茶梅·千葉茶梅花·茗花

卷10，杜鵑花·白杜鵑花·紫杜鵑花·四時杜鵑花·川鵑花·石巖花·山躑躅·紫躑躅·羊躑躅·紅羊躑躅

卷11，繡毬花·麻葉繡毬·碧繡毬·雪毬·滾繡毬·山丹·八仙花

第134冊，花屬

卷12，迎春花·棣棠花·金盌喜水·紫荊花·錦帶花·笑靨花·胡枝花·白花胡枝·細葉胡枝花

卷13，瑞香総·紫瑞香·白瑞香·結香·臘梅

卷14，梔子花·水梔·四季梔子花·徽州梔子花·玉樓春

第135冊，花屬

卷15，玉蘭花·白木蘭·紫木蘭·辛夷·白辛夷·望春

卷16，紫薇·大紅薇·淡紅薇·合驩·楝花

卷17，連翹·小翹·芫花·金糸桃·蔓荊·

鷹爪・赬桐・野梧桐・白桐・紫桐

第136冊，花属

卷18，扶桑総・金木蘭・木槿総・大紅千葉槿・千葉白槿花・蕣英・重臺木槿花・白花紫心槿・粉紅槿花・紫槿

卷19，木芙蓉総・大紅芙蓉・二色芙蓉・浅紅芙蓉・白芙蓉・單辨芙蓉

卷20，山礬・枸骨・赤楩

卷21，桂花総・金桂・銀桂・丹桂・梔子葉巖

第137冊，花属

卷22，薔薇総・朱千薔薇・荷花薔薇・紅薔薇・白薔薇・紫薔薇・金沙

卷23，十姊妹・野薔薇・粉紅野薔薇附薔薇露

卷24，金桜刺・茶蘼・雲實

卷25，月季花・長春・粉紅長春・牙春・月継

卷26，垂糸海棠・多葉垂糸海棠

第138冊，花屬

卷27，櫻桃・郁李・千葉紅郁李・千葉白郁李・山樝

卷28，海棠・杜海棠

卷29，紅棠梨・白棠梨・貼梗海棠・上元紅

卷30，木瓜・林檎

卷31，江梅附古梅・早梅・消梅

卷32，官城梅・緑萼梅・黄香梅・重葉梅・玉蝶梅・照水梅

卷33，紅梅・朱梅・紅香梅・品字梅・鴛鴦梅・紫梅・單辨紅梅・墨梅・六

辨梅

第139冊，花属

卷34，杏花·千葉杏·李花

卷35，桃花

卷36，美人桃·千葉碧桃·單辨碧桃·日月桃·二色桃

卷37，絳桃·緋桃·鴛鴦桃·李桃·瑞香桃

卷38，梨花·紅梨花

卷39，石榴花

卷40，千葉石榴花·黄榴·白榴，紛紅榴·四季榴

卷41，芍藥

第140冊，花属

卷42，芍藥

卷43，芍藥

卷44，菊

卷45，菊

卷46，菊

第141册，花属

卷47，菊

卷48，菊

卷49，菊

卷50，菊

卷51，菊

第142册，花属

卷52，蘭

卷53，蘭

卷54，蘭

卷55，蘭

卷56，蘭

卷57，蘭

第143冊，花屬

卷58，独頭蘭・風蘭・吉祥蘭・杜蘭・筈蘭・麦門冬・珍珠蘭

卷59，蜀葵総・千葉白葵・千葉紅葵・千葉浅紅葵・千葉緋葵・千葉紫葵・墨葵・鋸口葵・單辨葵・錦葵・白銭葵・紅銭葵・秋葵・天葵

卷60，錦被花・麗春花

卷61，石竹・洛陽花・鷙毛石竹・翦春羅・白翦春羅・翦夏羅・翦秋羅・白翦秋羅・翦紙花

第144冊，花屬

卷62，鳳仙花・重辨鳳仙花・午時花・金盞花・千日紅・蒿菊

卷63，秋海棠・玉簪花・紫玉簪・小紫・間道花

卷64，水仙・千葉水仙・紅水仙

卷65，美人蕉・鬱金・曇花

第145冊，花禽

卷66，百合・夜合・麝香・沃丹・鶴頂紅・黃山丹・卷丹

卷67，萱花・蜜萱・金萱

卷68，秋牡丹・藍菊・鉄桿蒿・柳葉菜・荷包牡丹・綿棗児・滴滴金・旋蕆花・海根・毛茛

卷69，升麻・柴胡・紫桔梗・白桔梗・紫沙參・白沙參・細葉沙參・地參・龍膽・威靈仙・紫菀

第146冊，花禽

卷70，金燈花・銀燈花・宮人草・一枝箭・山慈菇

卷71，鷄冠花総・掃帚鷄冠・纓絡鷄冠・

二色鶏冠・三色鶏冠・五色鶏冠・
扇面鶏冠・壽星鶏冠・青箱花附老
少年・十様錦・鴈来黄

卷72，杜若・雙鸞菊

卷73，水紅花・曼陀羅花・迎陽花

第147冊，花属

卷74，綏草・紫花地丁・碎米薺・百脈・
景天・金線草・山黧豆・歪頭菜・
薰草・蘭草・白花蘭・碧蟬花・狗
舌草・鴛鴦草

卷75，鉄線蓮・鼓子花・牽牛花・金銀花

卷76，凌霄花・紫藤花・白藤花

卷77，紫蝴蝶・白蝴蝶・玉蝴蝶・蛺蝶花・
馬蘭花

第148冊，花属

卷78，燕子花・紫花蓀・白花蓀

卷79，浮蕾・睡蓮・金蓮・銀蓮・萍蓬草・慈姑花

卷80，芙蕖花総・紅蓮・白蓮・青蓮・千葉蓮・錦辺蓮・灑金蓮・竝頭蓮

第149冊，草属

総目（318種）

卷1，甘草・黄耆・薺苨

卷2，蒌蒿・黄精・偏精

卷3，朮総・白朮・蒼朮

卷4，白芷・藁本・木香

第150冊，草属

卷5，蘼蕪・大葉芎藭・當帰

卷6，羌活・前胡・防風・防葵

卷7，三蔓草・三枝九葉草・小草・黄連総・菊葉黄連・雉尾葉黄連

卷8，苦参・白頭翁・三七・玄参

第151冊，草屬

卷9，杜蘅·細辛·及已·鹿蹄草

卷10，赤箭·地黃·牛膝

卷11，書帶草·繡墩草·車前·知母·白薇

卷12，豨薟

第152冊，草屬

卷13，菜耳·天名精·羊屎柴

卷14，白茅·菅茅·茜·石苞·青茅

卷15，虎薊·大薊·小薊·雞項草

卷16，飛廉·苦芙

卷17，著草·合歡草

第153冊，草屬

卷18，艾·蓧蒿·牛尾蒿·齊頭蒿·蓬蒿

卷19，青蒿·黃花蒿

卷20，茵蔯蒿·皤蒿·白蒿

卷21，劉寄奴草·徐長卿·鬼督郵·山芹·
萴藁

卷22，苜蓿·望江南·茳芏决明

第154冊，草屬

卷23，皮弁草·苦蘵·六月柿

卷24，芭蕉·霸王

卷25，千年薑·冬葉

卷26，茈草·蘆草

卷27，紅藍花

第155冊，草屬

卷28，藍綬·蓼藍·菘藍

卷29，苧

卷30，苧·野苧

卷31，大麻·菌麻

第156冊，草屬

卷32，棉

卷33，棉

卷34，棉

卷35，酸桶·毛蓼·馬蓼·蚕繭草

卷36，荏·水蘇·赤車使者·爵牀·薺薴

第157冊，草屬

卷37，荊芥·薄荷·香薷

卷38，葵

卷39，龍葵·龍珠·続断·萹蓄·桃朱術·螺厲児

卷40，羌蔚·鼈菜·馬鞭草·鬼釵草

第158冊，草屬

卷41，蛇牀·馬蘄·龍牙草·淡竹葉·牛扁

卷42，瓊田草

卷43，芸草·蘼香·蒔蘿·羅勒

卷44，紫金牛·千年矮·木賊·接続草·

麻黄

第159冊，草属

卷45，蛇含·蛇莓·鼠麴草·連銭草·積雪草·雀舌草·翦刀股·蓆耳

卷46，半辺蓮·夜光草·紫花地丁·匙頭菜·碎米薺·紫花児·酸梅草·赤孫施

卷47，金糸荷葉草·山萩·兎児傘·雞眼草·苦麻薹·馬唐·鼈白草·委陵

卷48，結縷草·雀麦·燕麦·狼尾草·狗尾草·鵝観草·地楊梅·水蔓菁

第160冊，草属

卷49，翠雲草·佛甲草·百乳草·陰地厥·漆姑草·蕺草

卷50，蒺藜·黒蒺藜·田麻

卷51，莎草·山莎·鵝不齧草·荸薺

卷52，大黃・羊蹄・酸模・藁吾

第161冊，草屬

卷53，虎掌・天南星・斑杖

卷54，半夏・由跋

卷55，大戟・続隨子・五鳳草

卷56，蒺藜・牙子・蓖麻・博落廻・藝草

卷57，毛建草・黃堇

第162冊，草屬

卷58，蕨附蕨粉・毛蕨・薇

卷59，貫衆・格注草・紅茂草・仙人掌草

卷60，鳳尾草・石長生・卷柏・千年柏・
萬年松・石松・地柏

卷61，澤蘭・益孀草

第163冊，草屬

卷62，白前・莪蒿・戴星草・長梗穀精草

卷63，河白草・烏杷・金陵草・石龍芮

卷64，三白草・守田

卷65，蘆荻綜・蘆・荻・蒹

第164冊，草屬

卷66，石菖蒲

卷67，石菖蒲

卷68，石菖蒲

卷69，小菖蒲・水菖蒲

卷70，芟草

卷71，香蒲・水燭・莞

第165冊，草屬

卷72，京三陵・草三陵・磚子苗

卷73，龍鬚草・燈心草・蓆草・蒉・水蔥草

卷74，澤瀉・蘄草・龍舌草・睡草

卷75，蓧草・青薾・水馬歯・水竹葉・苦草

卷76，蓴

第166冊，草屬

卷77，苔·水栗·水鏡草·鱟舌·浮蕾·萍蓬草

卷78，水萍·紫藻·田字草

卷79，箬·柳葉菹·陟釐·水綿

卷80，骨碎補·石韋·杏葉石韋·瓦韋·金星草·金雞脚·七星草

卷81，莓苔綵·石蕊·地衣·垣衣·屋遊·土馬騣·桑錢·艾納·紫衣

第167冊，草屬

卷82，女蘿·白龍鬚

卷83，黃糸草

卷84，天門冬

卷85，天瓜附天花粉·王瓜附王瓜粉·菟瓜

卷86，葛附葛粉

第168冊，草屬

卷87，蘿摩草·雀瓢·女青

卷88，仙沼子·青木香·馬兜鈴

卷89，茜草

卷90，烏蘞苺·葎草·紫葛·水胡蘆

卷91，雪下紅·雪裏珊瑚·海金沙·牛尾

第169冊，草屬

卷92，萆薢·大藜·犁藤

卷93，鷺鷥藤

卷94，釣藤·防己·通草

卷95，何首烏

卷96，五味藤·金剛藤·黏魚鬚

第170冊，草屬

卷97，薜荔·絡石·扶芳藤

卷98，常春藤·石血·螺厴草·地錦

卷99，南藤・藤天蓼・榼藤・相思藤

卷100，冶葛・藤繡毬

第171冊，木属

総目（114種）

卷1，松総

卷2，松附茯苓・松化石

卷3，柴松・赤松・天目松・五鬚松・白松・海松・落葉松・羅漢松・水松・杜松・矮松・鳳尾松

卷4，柏総

卷5，千枝柏・側柏・扁柏・羅漢柏・竹柏

第172冊，木属

卷6，檜総

卷7，刺柏・花柏・二色檜・矮檜

卷8，杉総

卷9，赤杉・白杉

卷10，櫟

卷11，娑羅樹

卷12，柳絲

卷13，垂柳・宮柳

卷14，楊

第173冊，木屬

卷15，白楊

卷16，桑絲

卷17，桑絲

卷18，白桑・雞桑・子桑

卷19，楮・構・漆

第174冊，木屬

卷20，女貞

卷21，冬青・水冬青・女真・枸骨

卷22，烏臼・婆羅得

卷23，桐総・紫桐・白桐

卷24，梓楸総・梓・楸・刺楸・荏桐・臭梧桐

第175冊，木属

卷25，梧桐

卷26，桂総・菌桂・木蘭

卷27，椶櫚・蒲葵

卷28，鳳尾蕉

卷29，槐総・槐・櫰・檀

卷30，枌楡・榔楡

第176冊，木属

卷31，梓楡・繋迷

卷32，樟附樟脳・釣樟

卷33，檗木・楠木・皁莢樹

卷34，菩提樹・木穂・木欒

卷35，欅総・栲欅・柞欅・大葉欅

第177冊，木属

卷36，櫧総・甜櫧・苦櫧・柯

卷37，楮・棟・苦棟

卷38，椿

卷39，丹青樹・黄楊・水黄楊・柞木・杜仲

卷40，小檗・鬼箭・桃葉鬼箭・枸橘

卷41，槲木・接骨木・蚊子樹・強木・木桃児

卷42，山茱萸・五加

第178冊，木属

卷43，枸杞・枸棘

卷44，南燭天

卷45，壽庭木・映山紅・山茶科・水蠟樹

卷46，吳茱萸・食茱萸

卷47，秦椒・蜀椒・竹葉椒・崖椒

第179冊，木屬

卷48，茶

卷49，茶

卷50，桑寄生・松寄生・柳寄生・海苔樹

第180冊，果屬

総目（167種）

卷1，梅総

卷2，緑萼梅・早梅・江梅・消梅・麗枝梅

卷3，官城梅・鶴頂梅・摇梅・冬梅

卷4，杏総

卷5，金杏・沙杏・木杏

卷6，桃総

卷7，金桃・銀桃・柰桃・臙脂桃・碧桃

卷8，崑崙桃・壽星桃・尖嘴桃・早桃・寒桃・毛桃

第181冊，果屬

卷9，李總

卷10，麥李·臙脂李·青蔥李·青皮李·白李

卷11，梨總

卷12，香水梨·紫花梨·乳梨·青梨·鵝梨·拒霜梨·夏梨·鹿梨

卷13，安石榴總

卷14，玉榴·甜榴·富陽榴·柴榴·黃榴

卷15，林檎·黑林檎·栲

卷16，海棠總·海紅·南海棠·山海棠·棠梨

第182冊，果屬

卷17，木瓜·榠楂·楹楴·山楂子

卷18，櫻桃·郁李

卷19，橘總

卷20，綠橘・黃橘・朱橘・蜜橘・包橘

卷21，自然橘・盧橘・凍橘・壺橘・猴橘

卷22，金橘・金豆・牛嬭金柑

卷23，柑総

第183冊，果属

卷24，真柑・饅頭柑・洞庭柑・甜柑・朱柑

卷25，佛酥柑・生枝柑・白柑・先柑

卷26，海紅柑・蜜羅柑

卷27，柚・回青橙

卷28，香櫞・佛手柑

卷29，柿総・柿餅附

卷30，方蒂柿・八稜柿・榹柿・朱柿・君遷子・猴柿

卷31，火珠・凍柿・大榹・烏榹・漆柿・塔柿・著蓋柿

第184冊，果屬

卷32，棗總

卷33，大棗・壺棗・南棗・酸棗

卷34，栗總

卷35，版栗・山栗・莘栗・茅栗・旋栗

卷36，榛・椎

卷37，娑羅・橡・槲

卷38，櫧總・甜櫧・石櫧・苦櫧

第185冊，果屬

卷39，枇杷・焦子・楊梅・白楊梅

卷40，榧・柀子・銀杏・核桃・山核桃・胡桃

卷41，龍眼・金果・海松子

卷42，梧桐・無花果・枳椇・梓榆

卷43，桑・枸杞・枹棘・胡頹子・野櫻桃

卷44，葡萄總

第186冊，果属

卷45，紫葡萄・水晶葡萄・馬乳葡萄・野葡萄

卷46，蕳子・木饅頭・獼猴桃・燕覆子

卷47，蓬蘽・小麦苺・薔薇葉蓬蘽・桑苺懸鉤子・割田藨・耨田藨・藨苺子

卷48，西瓜

卷49，甜瓜・通瓜・蒜同瓜

第187冊，果属

卷50，錦荔枝・洛神珠

卷51，荷総

卷52，紅蓮・小紅荷・白蓮・錦辺蓮

卷53，菱総

卷54，折腰菱・水紅菱・青菱・大菱・蝙蝠菱・雁来紅・刺菱

卷55，芡

第188冊，羽属

総目（92種）

巻1，鸛・灰鸛・陽鳥

巻2，鸛・禿鶖闕

巻3，白鵠・鴻・鴈・白雁・鴇

巻4，鳧・沈鳧・冠鳧・鸂鶒

巻5，青鵜・漫画・白鷺・白鶴子・紅鶴

巻6，鵜鶘・鸕鷀・白鮫・白鴎・水鴈・鷗・雎鳩

巻7，水鶏闕・護田雞・蘆虎・竹雞・鷓鴣告天子

第189冊，羽属

巻8，鷄雉・白雉・鴒鶏・鷩雉閻・白鵬

巻9，緑鳩・青鳩・鶻鳩・鶏鳩・鴿

巻10，鵲・鷾・山鳥・山胡・白頭公・櫻桃鳥・蠟嘴・斲木鳥・山斲木

卷11，杜鵑・黃鳥

卷12，雀・白雀・黃雀・突厥雀闕・蒿雀・画眉

卷13，繡眼児・巧婦・金翅・白鵯鳥・十二紅附十二黃・桃雀

卷14，鵾鴴・鴟・翡翠・翠闕・嘐鳥

第190冊，羽属

卷15，紫燕・白燕・胡燕

卷16，鵞・鴨

卷17，鷄附丹鷄・蜀雞・矮鷄・烏骨鷄

卷18，慈鳥・白烏・烏鴉・鳶

卷19，鵬・猫頭鷹・鴟鵂・鵂鶹

卷20，鷹・白兎鷹・鷂・鶻・雕

第191冊・毛属

総目（50種）

卷1，馬

卷2，馬

卷3，牛

卷4，牛

第192冊，毛属

卷5，羊

卷6，羊

卷7，豕

卷8，犬

卷9，猫

第193冊，毛属

卷10，果下馬・水牛・獒・拂菻狗・金糸狗・山猫・蒙頌・附牛黄・鮓答・狗宝

卷11，麋・鹿

卷12，熊

卷13，豺・狼・白狼・野猪

卷14，麢羊

卷15，兎·白兎

第194冊，毛属

卷16，獼猴·蜼

卷17，狐·白狐

卷18，貍·貛·貙·黑眚

卷19，獺·獾獺

卷20，膃肭·海豹

卷21，鼠·銀鼠·香鼠·鼷鼠·鼸鼠·水鼠

第195冊，毛属

卷22，貂鼠·松鼠

卷23，黄鼠·鼬鼠·鼹鼠

卷24，鼫鼠·彙

卷25，蝙蝠·鼯

第196冊，鱗属

総目（63種）

巻1，赤鯉魚・鯽魚

巻2，鯰魚・鱸魚・過臘魚

巻3，香魚・鰷魚・白魚・鱭魚・石鮅魚・石斑魚・重脣

第197冊，鱗属

巻4，鱠残魚・銀魚

巻5，鰻鱺魚・金糸鰻鱺・箭鰻・鱧魚・鮠魚・海鰻

巻6，鯖魚・鯢魚

巻7，金魚

巻8，棘鬣魚・赤鬃・黄穭魚・方頭魚・烏頬魚

巻9，鰈鮽魚・板魚・綏魚・鯧魚・馬鮫魚・帯魚

巻10，鮸魚・竹筴魚・火魚・竹麦・梭魚・

鱖魚・彈塗魚・文鰩魚・鱟魚

第198冊，鱗屬

卷11，水母・石鏡・沙噀附海參・海牛・魚虎・海馬・海燕

卷12，烏賊魚・鎖管・猴染・石拒・海和尚・章擧・塗螅

卷13，海鷄魚・鱭魚・海狵魚・胡魨

卷14，河豚魚

卷15，海鮖附龍涎香

第199冊，介屬

總目（67種）

卷1，石決明・牡蠣・黃蠣

卷2，江珧・西施舌・蠁・石蠁・竹蠁

卷3，文蛤附海蛤・紫蛤・蛤蜊・蠯蜆・白蛤

卷4，貝子・紫貝・珂・車渠・真珠

卷5，仙人掌・海膽・海蛹・寄居虫

卷6，海鏡・郎君子・石蛇

卷7，馬刀・蚌・黄蜆・田螺・溪螺・米螺

第200冊，介属

卷8，海蛭・鳥蛤・魁陸

卷9，花螺・藪螺・紅螺・刺螺・指甲螺・馬蹄螺・吹螺

卷10，龍蝦・大脚蝦・蚕蝦・泥蝦・梅蝦・苗蝦・蝦姑

卷11，蛸蚌・蠘・沙蟹・招潮・擁剣・鱟

卷12，稲蟹・石蟹・彭蜞・蟛蜞・蘆虎

卷13，水亀・秦亀・緑毛亀・蠵蠵

卷14，鼈・黿

卷15，和尚魚・水唐

第201冊，味属

總目（3種）

卷1，茶

卷2，甜葉·淡芭菰

第202冊，增補草属

卷1，人參

卷2，人參

卷3，拳參·黃芩·延胡索

卷4，肉蓯蓉·鎖陽·列當·貝母

卷5，秦艽·白附子·草豆蔻·肉豆蔻

卷6，白豆蔻·紅豆蔻·縮砂·益智

第203冊，增補草属

卷7，薑黃·莪朮·藿香

卷8，山慈姑附野茨菰·白鮮皮·補骨脂·大青

卷9，百部·白芨·山豆根·独活·火枚·鴛鴦草

卷10，土茯苓・白斂・仙人綿即羅漢條・使君子

卷11，附子附烏頭

卷12，甘遂・藜蘆

卷13，海芋・蚤休・狼毒・鬼臼

第204冊，增補木属

卷1，楓附秋楓・雅楓

卷2，猪苓・安息香・烏藥

卷3，牡荊

卷4，蕪荑・樗・山桂・密蒙花

卷5，訶黎勒・石楠・虎刺・鉄樹・塔松

第205冊，增補花属

卷1，櫻・瑪哩芥即天掛祖児・満天星・佛桑

卷2，素馨

卷3，茉莉・胭脂

巻4，鶴蘭・米蘭・樹蘭・賽蘭・掛蘭・
夾竹桃
巻5，転枝蓮・指甲花・鶴子草・蓮蕉・
綺羅紅
第206冊，増補果属
巻1，荔支
巻2，荔支
巻3，荔支
巻4，荔支
巻5，荔支
第207冊，増補果属
巻6，橄欖附烏欖・方欖・橄欖香
巻7，椰子
巻8，檳榔附紫檳榔・山檳榔・土檳榔
巻9，桄榔子・枳実・胡椒・山胡椒・蕃
澄茄

第208冊，增補羽屬

卷1，鷓雞·鷸雉·鸛雉·鞫雉·鷩雉

卷2，吐綬雞·反毛雞·青雞·金錢鷄·
秧雞·鷷·沙雞·豁雞

卷3，鵁鶄即鳽·旋目·吐蚊鳥即蚊母鳥

卷4，鷓鴣·百舌

卷5，伯勞·念佛鳥·烏鳳·突厥雀

第209冊，增補羽屬

卷6，鴝鵒·花雞·山鵲·鷓鴣

卷7，鳵鳩附搗棄鳥

卷8，鷓鴣·戴勝附九頭鳥

卷9，報春鳥·桐花鳳即倒掛鳥·石燕·
乞飯鳥即海鷗

卷10，鴛鴦

卷11，鸚鵡

第210冊，增補羽屬

卷12，白鸚鵡・赤鸚鵡・黃鸚鵡・五色鸚鵡

卷13，秦吉子・駝鳥即大雞・孔雀・角鷹

增補毛属

卷1，象

卷2，象・山馬

第211冊，增補鱗属

卷1，魚苗附海魚・印魚・大口魚・松魚

卷2，鰣魚・魴魚・梳鰺魚・甲魚・烏魚子・鱓頭魚・斑魚

卷3，抱石魚・白刀魚・赤魚・短魚・鱓即善魚

卷4，鮶魚・油魚・鐮刀・鯊・土附魚・鰱魚・泥魚・鰕虎魚・楓葉魚

卷5，麦魚・牛魚・箏殻・地青魚・鱘魚鹿沙・海和尚

增補介属

卷1，蜊姑・石華・蜷・蠙附海豆芽

卷2，千人擘即千人揑・石磷・吐鉄・蝨蟹・塘蠶

書名索引

書名索引　凡例

1. 標目として採った書名のほか原題・内題・別名・叢書・合綴書の細目や旧書名（稿本目録での書名）からも引けるようにした。
2. 表音式による50音順排列を原則としたが，冊次・巻次等を有するものはそれに従った。
3. 「ぢ」「づ」は「じ」「ず」の順位に，助詞の「は」「へ」「を」は，「わ」「え」「お」の順位に排列した。
4. 濁音・半濁音は清音とみなした。
5. 促音・拗音を表わす小字は直音を表わすものとみなした。
6. 長音符号は直前（の音節）の母音をくり返すものとした。
7. 同一排列順位は一連番号に従った。
8. 目録本文中の題名に付した〔　〕の記号は索引では省いた。
9. 一連番号の後の「標」は標目，「旧」は旧書名，（算用数字）は「松雲公採集遺編類纂」の冊次を表わす記号である。

目　次

あ…… 1
い…… 4
う…… 9
え……11
お……17
か……32
き……46
く……51
け……54
こ……57
さ……76
し…… 81
す…… 94
せ…… 96
そ…… 99
た……100
ち……106
つ……109
て……110
と……112
な……117
に……119
ぬ……121
ね……121
の……122
は……126
ひ……128
ふ……132
へ……136
ほ……137
ま……140
み……145
む……147
め……149
も……149
や……150
ゆ……152
よ……152
ら……155
り……155
る……156
れ……156
ろ……157
わ……157

あ

相改候御作事所仕法帳……2416標
挨拶方仕出……3227標
会津征伐陣図……9185標
会津等降伏御所置……9348標
会津風土記……30(55)(56)
相対請地ニ付金浦町口書并絵図……6623標
相対卸地調理ニ付届書……6630標
治姫様垉姫様等御髪置一件等…… 804標
白馬節会次第…… 30(6)
粟生往来指支候節等不時宿継場所……7686標
青木新兵衛書状……3676標
青地系図帳……2944標
青地氏祖先肖像図記…… 30(153)
青地太郎兵衛家督相続之申渡……3170標
青地牛之助物語……5406標
青地紀行……9758標
青山織部等書状……3677標
青山家譜……2947標
青山家々譜……2948標
青山家記録……3367，9408標
青山四郎左衛門書状……3678標
青山徳次所蔵文書…… 10101
赤井直善手録……3953標
赤井直喜手控……3829標
赤井直喜葉原記……5519
赤座甚七郎家系等略記……2949標
明石数右衛門系図帳……2950標
赤地金襴織物質入・売買縮り触并に請書……4564標
県召除目竟夜次第…… 30(6)
県召除目次第…… 30(6)
茜染一件書類……7576標
赤浜八幡縁起……30(12)
上り知之分ニ付達書……2866標
上ル御帳……4597標
阿岸本誓寺事務方自往古御掟控……6157
阿岸本誓寺并触下寺号帳……6178
安芸守様御父子等御出之節御作法附…… 555標
秋元喜三右衛門書状……3679標
秋元但馬守宛書状……3680標
秋元但馬守宛松平某書翰……3680旧
亜国一件……9398標
浅井源右衛門覚書…… 30(187)
浅井戦図覚図…… 30(166)
浅井主税書状……3681標
浅井繩手合戦覚書…… 30(166)
浅井畷合戦記纂……5387標
浅井畷合戦に関する図等……5389標
浅井畷合戦之記……5386標
浅井畷合戦之容子書付……5379標
浅井繩手合戦文書…… 30(148)
浅井繩手合戦略記……5381標
浅井畷聞書……5377標
浅井畷古戦場之図……5388標
浅井繩手小林秀備等墓所之図……5392標
浅井畷古墳之古図…… 30(166)
浅井畷古墳碑文之写…… 30(166)
浅井繩手迫合略志……5384
浅井繩手之図……5390標
浅井繩手辺図……5391標
浅黄御椀之図……9848標
夙君様御行列附…… 895標
朝倉系図…… 30(156)
朝倉家系図……8778標
朝倉始末記……8704標
朝倉義景亭御成之記……8708標
浅野家義士書翰写…… 30(186)
浅野佐平手留……6653標
浅野内匠頭喧嘩記…… 30(186)
浅野長澄於三好御人数下習図……9011標
浅野長矩之侍帳……8972標
夙姫様御結納之儀覚…… 893標
アジアコレラを避る薬方並病発之後療養薬方等……9560
足利学校絵図……9444標
足利家局方文書…… 30(136)
足利氏歴代法号……8591標
足軽組地面当分才許覚……3548標
足軽組屋敷（浅野川々除通）図……3567標
足軽組屋敷（浅野町）図……3568標，3569標
足軽組屋敷（安藤町）図……3570標
足軽組屋敷（石浦新町）図……3571標
足軽組屋敷（石坂本間町）図……3572標
足軽組屋敷（石坂町）図……3573標
足軽組屋敷（石坂町，助九郎町）図……3574標

足軽組屋敷（石引町）図……3575標，3576標
足軽組屋敷（御歩町）図……3577標
足軽組屋敷（木新保）図……3578標
足軽組屋敷（玉泉寺辺）図……3580標
足軽組屋敷（玉泉寺後）図……3579標
足軽組屋敷（小立野，石引町）図……3582標
足軽組屋敷（小立野）図……3581標
足軽組屋敷（犀川川上，富山町）図……3583標
足軽組屋敷（犀川主馬町）図……3584標，3585標
足軽組屋敷（桜畠五番丁）図……3586標
足軽組屋敷（三社町）図……3587標
足軽組屋敷（十三間町）図……3588標，3589標
足軽組屋敷（主馬町）図……3590標
足軽組屋敷（新竪町後）図……3592標
足軽組屋敷（新竪町）図……3591
足軽組屋敷（杉浦町）図……3593標
足軽組屋敷（千日町）図……3594標
足軽組屋敷（竪町・池田屋小路）図……3596標
足軽組屋敷（竪町）図……3595標
足軽組屋敷（寺町玄光院前）図……3603標
足軽組屋敷（寺町，犀川川除町）図……3598標
足軽組屋敷（寺町）図……3597標
足軽組屋敷（寺町杉木林続）図……3600標
足軽組屋敷（寺町等）図……3599標
足軽組屋敷（寺町八番丁）図……3601標
足軽組屋敷（寺町融山院後）図……3602標
足軽組屋敷（早道町）図……3604標
足軽小者へ申渡候趣……2334旧
足軽小者并蠟燭料紙等減方帳……5138標
足軽射手異風之部……8076
足軽中定書……2331標
足軽通考……2937標
足軽同心へ可申渡案文……2330標
足軽中村覚平太打擲の件……3507標
足軽之巻……7998標
芦舗寺絵図……6436標
アジヤコレラを避る薬方等……9560標
亜相公遺誡……30(169)
亜相公御夜話……324，329，333
亜相黄門参議鈔……8947標
亜相公夜話譚……330標，331，332，334
飛鳥川記……2809
東鑑識弁……8596標
東家系……8822標
東路記……343標
東間村手速比咩神社神職酒井良万呂……6322
亜船箱館へ渡来魯船大坂へ渡来風説書……9381標
亜船風説聞書……5821標
安宅遺訓……8060標
安宅浦出船御用勤方覚帳……6856標
安宅浦宮二ツ堂ヨリ遠近之山見取図……9068標
安宅武功……8875標
安宅舟に乗合敦賀へ罷越一件箇舎申付状……4678標
安宅村，安宅新村と江沼郡日末村領堺図……6086
安宅丸御船之図……8453旧
安宅村船頭新四郎等覚……4678旧
愛宕神社并旧神職愛多地多喜雄邸地等旧藩寄附地絵図……6489
愛宕神社文書（加賀国）……30(111)
安達周蔵製城図……8261
安達隼太書状……3682標
安達寛栗略歴……3467標
熱田加藤氏系図……2973標
熱田神宮御師松岡斎宮太夫由緒……6310標
厚姫様江戸御着府より御婚礼一巻……921標
厚姫様御縁組被仰合候一件……919標
厚姫様御婚礼一件書抜……923標
厚姫様御婚礼一件留……922標
厚姫様御婚礼御道具并御勝手御道具御衣類帳……929標
厚姫様御婚礼御用御問合……925標
厚姫様御婚礼御祝儀物御取遣并都而被下方帳……926標
厚姫様御婚礼御用御問合御結納一件等……925旧
厚姫様御婚礼御用留……924標
厚姫様御婚礼ニ付御結納被進候節御作法帳…920標
厚姫様御入輿之砌肥後守様より被遣候絵図面写……931標
厚姫様皆子餅御双方御取遣之節御作法并御行列附……927標
跡式譲高改名願等留……6814標
阿閉善左衛門等覚書……6716標
跡目相続等留書……3163標
跡目相続申渡之覚……3167標
跡目等年月之調……3150標
跡目養子之儀定……3144標

跡戻り記……5540標
穴水大町村辺津比咩神社神職関越後政尚……6325
穴水川崎村美麻奈比古神社神職四柳三河秀定…6326
穴水白山社文書（能登国）…… 30(113)
穴水辺津比咩神社位記……6206標
穴水町弘誓寺由緒……6219
姉川合戦前後問議……8023，8030標
姉川合戦前後略譜……8022，8028標
姉川軍記……8722標
姉川戦記……8027
姉川問議……8030
穴太寺観音縁起（丹後国）……30(14)
安部屋浦ニテ御城米積船致破損申ニ付出役始
終二人番……7711旧
安部屋浦ニテ御城米積船致破損申ニ付出役始
終二人番留書……7711標
油銭根帳……5194標
油直段相調書上申帳之控……7607標，7608標
油小路家書目録……30(91)
阿部判官能登珠洲郡堺定書……30(54)
天草一戦記…… 30(168)
天野海賊書……8452標
天野道之輔同役願一件……6337
天野文書…… 30(135)
天野屋伝兵衛由緒帳……6673標
あま夜物語……9713標
網方旧記……6851標
網場出入一件……7508標
亜墨利加応接……9399標
亜墨利加条約ニ付書状……9400標
亜墨利加条約之次第……9400旧
亜墨利幹書翰并和解写……9374標
亜美理駕書翰和解……9373標
亜米利加人渡来ニ付意見書写……9414標
亜米利加船浦賀表へ渡来絵図……9391標
亜墨利加船より指出候書翰和解相渡之書状并
添書……9376標
亜墨利加船より指出候書翰和解之添書……9376旧
新井白蛾講書之図……5914標
新井白蛾の書蹟……7758標
新井白蛾・雍州先生伝……7765標
新井白石・室鳩巣等書簡……3675標
荒木六兵衛書状……3683標
荒子御伝来御普代……2918標
荒子城址取調書…… 311標
荒子村誌一端…… 312
荒子府中衆家柄大阪ニ役等戦死姓名……3456標
有賀家文書……3342標，3343標
蟻ヶ原村より盗伐などに付断書……7496旧
有賀文書…… 30(137)
有沢紀行集……9750標
有沢九八郎書状……3684標
有沢家覚書……2951標
有沢家城取免状……8012標
有沢家免状并野紙……8013標
有沢家文書……3344標
有沢才右衛門口上書……3963旧
有沢才右衛門御親翰請書調達につき口上書…3963標
有沢貞庸筆記……7974標
有沢私考……5628標
有沢森右ェ門製備之図……8102
有沢惣蔵留書……3835標
有沢武貞覚書……8077標
有沢武貞十五城……8232
有沢武貞年譜……3833標
有沢武貞，山本基庸両先生往復書記……3685標
有沢永貞旧伝新製城図……8221
有沢永貞城図……8213
有沢永貞日記……3831標
有沢永貞年譜……3468標
有沢永貞年譜附湯涌雑筆……3469標
有沢永貞筆記……2662標
有沢致貞習躰山城等……8238
有沢致貞先生人数異同……8093
有沢文書…… 30(137)
有沢倚貞日記……3839標
有栖川宮博物館へ御臨席之次第等……7440標
有磯遊草附源康正和歌……9611標
在高改極リ高目録……7118旧
有田義一物語……3474標
有馬家系……8779標
有峰銀山図……7565標
有山七郎右衛門先祖并親類附帳……2952標
荒所起返等請書帳……7378標
粟ヶ崎御鷹野御供附…… 741標
粟ヶ崎御旅屋之絵図……1395標

粟ケ崎御旅屋之図……1396標
粟ケ崎御亭絵図……1394標
粟崎肝煎中島屋太郎治書状……9344旧
粟倉文書……6898標
淡路守御使者取扱方之件…… 561標
淡路守様富山御領知替堺目百姓中判形有之絵
図添書……2694旧
淡路守殿領分ニ被建候孝子之碑写……7282標
粟田口国光刀之由来……9823標
粟田口国光之刀ニ付書状……9829標
安永九年ヨリ文化八年マデ御在府御留守共御
用所日記書抜……4134
安永五年年頭御礼次第……3250標
安永天明間御用留……4496標
安永飛州高山御代官所え百姓共乱妨一件……5503標
安永４年乙未７月御尋ニ付町年寄次郎兵衛へ
差出候書……5076
安永四年ヨリ天保十四年迄金沢両銀座并遠所
六ケ所封賃銀請払之事……5087
案間自作覚書……8090標
安間人数積……8089標
安醐……9555標
鞍工伊勢系図…… 30(159)
鞍工伊勢家次第…… 30(159)
安国寺文書（美濃国）…… 30(125)
安居寺観音堂記（越中）……30(17)
安居寺文書（越中国安居）…… 30(131)
安居寺古文書并旧記写……6289標
安政火災絵図等……7304旧
安政元年十二月江戸増上寺江出張之人々江御
料理御能拝見被仰付候節名書等諸事留……9955
安政元年宣旨写……9296標
安政洪水変損地一件……7316標
安政五年二月廿五日夜大地震ニテ山々動崩もし
常願寺川水源淀水同三月十日四月廿六日両度
押出シ入川泥置等変地之場所見取絵図……7113
安政地震山崩一件……7314標
安政大火類焼しらべ絵図等……7304標
安政大地震ニテ常願寺川流域欠壊之図……7317標
安政度江府大地震記……7318標
安政ニ乙卯年三月十六日御城方江被呼立横山
遠江守殿御渡候書取……5661
安政二年九月十九日筑前守様東光院江御立寄
御用絵図……6423
安政・文久雑集……9300標
安政四年御改作所書上　御扶持人十村等略由
緒……6890
安政四年十一月書上帳之表　口郡類役由緒等
写……6892
安政四年二月於長崎和蘭領事差出ス書面和解
並同国甲比丹対話書但清英戦争事件……9396
安藤猪左衛門書状……3688標
安藤対馬守狼藉一件……9319標
安藤殿変事一件……9318標
安藤文書……3345標
安楽行院事……30(15)

い

飯尾文書…… 30(136)，8655標
飯田文書…… 30(137)
飯田村春日社葛原従五位……6327
医員勤功書……9550標
家柄町人由緒略書并家列……6649標
家継公御元服御職之聞書……8989標
家継公将軍宣下之次第……8990標
家綱公御旗本之備図……8162旧
家康公略譜抄……8857標
硫黄着改申覚……5729標
医王精舎観世音菩薩霊像記……6239標
異香田野遊女……9230標
伊賀国風土記……30(47)
五十嵐家系……6654標
五十嵐五考并補遺……7449標，7450標
五十嵐主膳書状……3689標
五十嵐道甫為代云々等……9844標
医行格合如何御尋ニ付調書……9547標
育徳園記…… 30(189)
育徳園之書類……1447標
郁姫様御卒去ニ付諸事留等……1060標
池田系図…… 30(156)
池田譜……8780標
池田慶徳書状写……8670標
池守文一先弟城図……8283
意見書……2529旧
意見書簒……4007標
異国交易につき異国人へ答振留……9409標

異国交易につき外国奉行と打合一件留……9409旧
異国船一巻……9366標
異国船一件……5820標，9383標
異国船御手当御曜御用諸事留……5847標
異国船御手当方御用申談之写……5840標
異国船御手当御用人馬受取覚……5839標
異国船御手当ニ付達……5801標
異国船見聞録……5818標
異国船雑記……5825標，9362標
異国船雑記，御内密申上候別段風説書……9362
異国船雑記・清国英吉利戦争等雑集……9363標
異国船手当一件……5800標
異国船渡来一件……5819標
異国船渡来海防方仰出之儀ニ付伺書……5810標
異国船渡来対策建白書……8563標
異国船渡来に関する献策書……8566標
異国船渡来について御手当方願書……5844標
異国船渡来について松平薩摩守届書……9370標
異国船渡来ニ付上書等……9380標
異国船ニ付聞合之書状……9344標
異国船渡来之儀ニ付御出府写草稿等……1877標
異国船等雑記……5817標
異国船并海防等書類……5843標
異国船ニ付御親翰写……5804標，5805標，5809標
異国船来航一件について宗対嶋守より願書…9407標
異国船来航・京都風説等……5822標
異国船来航之図……8567標
生駒勘右衛門覚書……4023標
生駒伝吉書状等……3690標
石浦郷社来歴考……6234標
石浦神社文書（加賀国）…… 30(111)
石浦長谷観音縁起……30(17)
石浦長谷観音訴状写……30(17)
石浦町近辺之図……6028標
石川河北御門足軽番所図……2084標
石川河北能美郡由来帳……5992標，5993標
石川河北両郡御鷹場色分図……4789標
石川・河北両郡用水方材木代銭并運賃等一件
……7472標
石川郡絵図……6067標
石川郡金川庄善福寺縁起并文書……6222
石川郡鞍ヶ嶽古墟之図……9160標
石川郡倉ヶ嶽古墟之図……9161標
石川郡鞍月組田井村之内福久屋次郎左衛門へ
相対卸地打立帳等……6622旧
石川郡五郎嶋村小浜神社絵図……6494
石川郡五郎嶋村小浜神社地并七十六番地所元
神職斎藤政明居宅地略絵図……6494
石川郡五郎嶋村小浜神社地并七十六番地所元
神職斎藤政明邸地地子免除地絵図……6494
石川郡五郎嶋村小浜神社々地并元神職斉藤政
明宅地等分間略絵図……6494
石川郡五郎嶋村七十六番地所小浜神社境内絵
図……6494
石川郡雑記……9072標
石川郡三宮村志……6250
石川郡三宮村白山姫神社地区分略絵図……6494
石川郡寺中大野湊神社并河崎沙同常男居宅地
共略絵図……6494
石川郡諸村之内枝村垣内……6058
石川郡白山村元神職居宅地略絵図……6494
石川郡田井村相対卸地一件……6622標
石川郡徳用村八幡宮縁起等……6264標
石川郡中里草高五百石計云々……6998
石川郡成村行善寺由緒書……6203標
石川郡之内おもだち申川橋帳……6058
石川郡広岡山王縁起……6263旧
石川郡古田村名唱替等書上申帳……6009標
石川郡大豆田村等用水附替大野庄用水之内分
水一件附絵図……7219標
石川郡村御印并当時御物成等相調理書上申帳
……7023標
石川郡村々之内鳥類等打捕申村名書上申帳…7526旧
石川郡本吉絵図……6043標
石川郡本吉図……6042標
石川郡山入村々之内作物ニ障候鳥類等打捕申
村名書上申帳……7526標
石川郡涌波村并大桑村領之内土清水製薬所御
用地分間打立縄入之図……5753
石川県加賀国河北郡里程表……7641標
石川県下市邑名薮便覧　続市村名薮…… 10057標
石川県勧業博物館創立十年略記……7439標
石川県教育沿革史料中異同の件取調書……5884標
石川・新川県下市村名薮……1525標
石川・河北領知方村付写……2768標
石川県下市村名薮　同続……1525旧

石川県勧業博物館図書室規則…… 1標
石川県区制……1526旧
石川県大小区々分……1526標
石川県ヨリ文部省へ出ル和漢書籍ノ内国書目
……22標
石河畷之丞・濱中三右衛門訴書……8974標
石川・富山採集文書所蔵社寺人名録……23標
石川訪古游記……9778
石崎氏旧記繰出目録……6827標
石堤村氏神出入書類……6209標
石田三郎兵衛書状……3691標，3692標
石立浜之図……6088
石立村絵図……6089
医師寺文書…… 30(138)
石野右近送序一章……9728標
石野雅楽等連署状写……3327標
石野主殿助書翰……7995標
石之名詮議留書……9545標
石野八兵衛殿与力頭組下田御番代諸事裁許人
等……8969標
石原主膳正等家康公へ入御覧候華法等写……7977標
医者御尋覚書……9548標
石屋之一条一応取調申上書付……9512標
亥十月岩屋寺衆徒中より高円称念寺宝物弘通
ニ付請書……6373
衣食住之儀ニ付覚書……1947標
衣食并預證文融通之図……9428標
遺書調方ニ付年寄中被仰聞趣……3951標
遺書留……3151標
維新以来御達等……3967標
異人応接所ニ付内密書簡……9412標
異人館土蔵・商社建上ケ其外略帳……4720標
維新後戦争日記……5459標
維新俊傑聖代名臣言行録……8894標
為人鈔抜書…… 30(172)
維新前後書類……9341標
維新前ノ京都御所之図……9132標
出石塙内記録……8881標
伊豆国神階帳…… 30(9)
居すへ御印御成替願……7170標
和泉国風土記……30(47)
泉野神社文書（加賀国）…… 30(111)
泉野菅原神祠来歴……30(13)
泉野寺町妙立寺願書等……6416旧
泉野寺町妙立寺門附替一件綴……6416標
泉野村・田井村肝煎願書……6630旧
泉野村等拾九ケ村御用地歩高等覚書……6637標
出雲国風土記……30(44)
伊須流岐比古神社文書（能登国）…… 30(114)
伊須流岐比古神社由緒等三種……6273標
伊勢御師等指上申御印物写等……6312標
伊勢軍記……8723標，8724
伊勢軍記略録……8724標
伊勢家弓法聞書……8350
伊勢外宮御師福井土佐由緒書…… 125標
伊勢御神領被付候由来書……6312
伊勢貞近家訓……7791標
伊勢神領ニ付書上書……6523旧
伊勢神領文書（能登国・越中国）…… 30(114)
伊勢内宮御師最花銀一件……6539標
伊勢内宮御師堤刑部大夫之最花銀ニ付書翰…6539旧
伊勢内宮御師堤大夫由緒……6311標
伊勢国安濃郡……30(49)
伊勢国員辨郡……30(49)
伊勢国風土記……30(47)
異船渡来之節行列之大概……5845標
意筌録……7986標
意筌録甲冑名目之内，廿四伝……8541
意筌録名目……7987標
医則序……7758
磯野平左衛門書状……3693標
石部神社文書（加賀国）…… 30(110)
板倉佐渡守等書状写…… 579標
板倉伝右衛門廻状……3947標
板津検校百韻連歌……9656標
板橋口御門御成之節御門縮方……2455標
板橋下屋敷之図……1462標
板橋筋御成之節御中屋敷御門方留帳…… 478標
板橋邸絵図……1463標
一郡之主領分方境略図……8274標
一三四之手御備建場之図……4968標
一聚之図……8275標
一城七致之図……8242標
一條殿御内室へ云々……9007
一條姫君様へ御附人名書……9007
壱弐参火事(御)行列附……4962標

一二三之手御人数台紋并板相図之事……4966標
一二三之手御人数合紋并板相図之事……4967標
一二之先備営図……8141標
一二之先手人数積并行列……8142標
一二之備行列……8143標
一如孝順偈并和歌……9620標
市ノ坂村八幡宮神職細川和泉宗久……6325
一宮御社領高之内御蔵入等書上申帳……6504標
一宮御社領高之内百姓持高之分寛政八年ヨリ
御蔵入ニ被仰付代御所附指引合等書上申帳……6504
一宮気多神社神職亀山長一郎……6322
一宮気多神社神職亀山久磨……6322
一宮気多神社職調理帳……6322
一宮神事鵜田充行状写……6503旧
一宮神事之為鵜田充行状写……6503標
一ノ宮贄網等旧記……7504標
櫟原北代比古神社文書（能登国）…… 30(113)
壱歩銀・正金・金札利足会計書上納之分……5195標
壱歩銀・正金・金札利足会計書上納之分留書
……5195旧
一丸諸事記……6655
一丸諸事帳……6655標
従壱万石百万石迄人数積……8080
一門并執政参政履歴書……2895標
遺著十七種……1479旧
一類付之覚……2921標
一巻帳大概……4632標
一騎受用之巻……8065
一騎武者受用之巻……8064標，8065標
一見備忘編……4417標
一向宗寺号帳……6178標
一作上納根帳……5235標
一之和尚垦法皇詩　下……9640標
一世記事……6665旧
一村建ニ付舟場島と名唱願……6000標
一村建村々之儀ニ付達書等……6012旧，6013旧
一統へ可申渡趣覚書……5002旧
一統へ可申渡趣等……5002標
一統御定書箋解……1891標，1892標
一統定書通解……1891
乙卯集録併辛酉癸亥集録…… 301標
一品流軍船水学集……8451標
出雲松江粗図……9186
乙夜之書物……2569標
乙酉集録……2967標
伊東家系譜……2953標
伊藤甚右衛門書状……4833標
伊藤主殿書翰外……3962旧
伊藤内膳書状……3694標
伊藤文書…… 30(138)
威奈大村墓誌…… 30(152)
因幡様御出御対顔御刀被送候節御作法…… 560標
因幡鳥取御使一巻……4640
因幡守様御養子等一巻…… 999標
因幡民談抄……9137
井波瑞泉寺・城端善徳寺并配下寺号帳……6178
井波瑞泉寺城端善徳寺無住中月番名列旧記……6143
井波瑞泉寺太子講一件……6391標
井波町瑞泉寺配下与力寺格并同寺於旅屋死亡
人取置方一件……6191
犬追物射場之図……8313標
戊五月十三間町妙源寺僧大玄之儀御尋ニ付……6373
犬千代様御宮参御祝方…… 792標
犬千代様御元服御祝之次第，将軍様相国様両
度御成之次第…… 815
犬千代様御元服御祝之次第等…… 815標
犬千代様御元服並将軍様御成之節進物等…… 817標
犬千代様御元服并将軍様相国様御成之時之覚
書…… 816標
犬千代様御元服之節御成之記…… 814標
犬千代様御誕生より之御祝方等書抜控…… 775標
犬千代様御用諸留写……4325
犬千代様御用略写……4325標
犬千代様・万菊様御袴着御祝儀之帳…… 805標
犬千代丸君御年表…… 772標
犬千代丸様御有封ニ付御拝領之御品等留……1008標
犬千代丸様御髪置書立…… 799標
犬千代丸様御髪置記録…… 798標
犬千代丸様御附等交代之節被下方……2211標
犬千代丸様御宮参御行列附…… 794標
犬千代丸様御誕生御祝儀ニ付書付…… 773標
犬千代丸様御誕生ニ付金沢城下町中奉祝一統
賑之覚書…… 774標
犬千代丸様御着袴御作法絵図…… 806標
犬千代丸様御用諸事留……4326標
犬千代丸様初テ御礼被仰上候御作法書…… 588標

稲若水庶物類纂扁集ニ付諸言上並同書御献上
ニ付戸田山城守殿等御贈答竝御目六御下書……9535
井上井之助達書……3557標
井上組川尻村新開願場所申分詮義一件……7076標
井口嘉一郎対策論……9237標
射場社礼書……8290標
射場之図……8510標
茨木家等文書…… 10102
異風之御鉄砲刀ためし覚……5728標
異風之御鉄砲ためし覚……5728旧
異風之序……5727標
衣服御改革ニ付定……3220標
衣服ニ付定……3220旧
異変頭留……4635標
伊福吉部徳足比売墓誌…… 30(152)
異本下学老談…… 10100標
異本官地論…… 30(162)
異本三守御譜…… 188標
異本日本総国風土記上……30(49)
異本日本総国風土記下……30(50)
異本　武家昆目集…… 155標
今石動御役屋敷平図……2074標
今石動関係記……6708標
今石動郡代格式改覚……6680標
今石動御地子米并諸役銀等之義書上申帳……7161標
今石動御用勤方帳……6681標
今石動留書……6705標
今石動等支配留帳……6706標
今石動氷見城端支配留帳……6706旧
今石動由来……6711標
今江組巨細掌記……5944標
今江古城之図……9158旧
今江・柴山潟絵図……6082標
今枝系図…… 30(158)
今枝重直大夫肖像賛伝…… 30(153)
今枝重直大夫墓碑記…… 30(153)
今枝重直大夫墓碑記…… 10104標
今枝重直墓碑銘……3475標
今枝氏古文書等写……3351標
今枝氏文書……3350標
今枝近義ニ申聞覚書……4048標
今枝万之佐家督相続之申渡……3169標
今枝民部書翰写…… 10062標

今枝民部書状……3695標，3696標
今枝民部殿より頼之弓出来之覚書……5726標
今枝民部等書状……3697標
今江村等新川川除ニ付取極書……7225標
今江村御幸塚古城跡之図……9159標
今川記……8713標
新熊野神社文書（山城国）…… 30(104)
今津甚右衛門書付等写……7566旧
今津甚右衛門口上書……7681旧
今津甚右衛門由緒書……6906標
今津甚四郎口上書……7062標
今津甚四郎書状外……6524旧
今やう……9701標
射水郡一町五厘分限絵図……6077
射水郡絵図之儀御答書……6054標
射水郡海岸図……6116標
射水郡海辺村々家数人数等書上帳……5970標
射水郡草高書上帳……7146標
射水郡草高等書上……7144標
射水郡草高等并租税書上帳……7145標
射水郡五十八村草高等書上帳……7146
射水郡小杉村法福寺観音鎮守八幡宮一件……6190
射水郡西条組太田村・西田村領茅場役銀地打
立帳並絵図……7163標
射水郡七組草高等覚……7144旧
射水郡勝興寺明細帳……6297標
射水郡新開一村立高免年号等相調書出申帳…6007相
射水郡高岡町総絵図……6049標
射水郡二口村御収納蔵相建候ニ付引高願……7188標
射水郡二口村領引免願……7188旧
射水郡分間絵図……6077標
射水神社文書（越中国）…… 30(115)
射水郡氷見町西念寺境内絵図……9092
射水通覧……9096標
射水・砺波・新川三御郡しらべ……5952標
忌波神社旧神職吉田稲人邸旧藩寄附絵図……6489
忌波神社境内旧藩寄附地絵図……6489
居屋敷についての上申書……3555標
居屋敷引高願添書……7117標
伊与田六右衛門等書状……3698標
伊予守叙爵御礼御作法附……2909標
伊予守新屋敷へ御立寄之節御作法等之覚…… 647標
伊予之国丸亀之城図……9186

伊予国湯岡碑文…… 30(152)
以来作損見立格相極一件并田地割一件……6998
以来見立格取極申渡帳……7039
煎海鼠方ニ付江戸御役人并長崎会所役人覚書
……7507旧
煎海鼠方ニ付江戸御役人并長崎会所役人被罷
越ニ付主附御用勤向覚書……7507
煎海鼠方に付主附御用勤向覚書……7507標
煎海鼠仕候村々覚書等……7522標
入払帳……5186旧
衣類等定書……1924標
磐衡別命御墓所一件……6430旧
磐衡別命御墓所確定願一件……6430標
岩峅寺等身分支配方に付御内達物控……6147旧
岩倉特使一行姓名録……8982標
石倉比古神社文書（能登国）…… 30(112)
石清水神領文書（能登国）…… 30(114)
石清水八幡宮旧記抄……30(65)(66)
石清水八幡宮護国寺略記……30(11)
石清水八幡宮古文書目録……30(10)
石清水八幡宮文書……8644標
石清水八幡宮文書（山城国）…… 30(98)～(101)
石清水八幡法童坊由来書……6525旧
石清水名目書……30(11)
石清水文書・碧山日録・喜称軒日記・師茂記
……8645標
岩瀬野開之絵図添紙面……7093標
岩田嘉久平書翰……3558旧
岩田嘉久平達書……3558標
岩田内蔵助達書……4399旧
岩田伝左衛門盛照筆記……3853標
岩原恒六心附書……4041標
磐船仇討実録……9499標
印鑑見合に及ばず城中御門往来通抜の家来名
書出状……4523標
隠居被仰付候以後要用抜粋……2281標
隠居家督留書……3159標
隠居交名帳……2878標
隠居料等覚……2877標
因州公御養子之件…… 999
因州公養子一件…… 997標
院御所御幸干九条前関白第之雑記……8942標

う

従上杉家合戦之上書……8599旧
上杉氏上洛日帳……8680標
上田源助旧記……6821標
上田門人狂歌十六歌仙……9703標
上野御供所図……6443
上野御霊屋絵図……6441，6444標，6455
上野御宮裏通ノ絵図……6442標
上野御宮之裏通并御霊屋絵図……6441標
上野寛永寺境内之図……6452
上野近所火事之刻罷越人図……4971標
上野御廟絵図……6443標
上野御本坊黒門前下谷広小路出火御近隣火消
言上紙面等一巻……7308
上野常照院御知行由来に付申上書……6321
上野常照院由来……6320旧
上野常照院由来・金沢東照宮起之元由……6320標
上野新村旧弾薬所并牛村旧試検場絵図……5765標
上野新村領弾薬所増御用地打立帳并絵図……5764標
上野新村領出町家地子商売方調帳……6619標
上野新村領等弾薬所新江筋潰地打立帳等……5763標
上野新村領等之内弾薬所繰入之図……5761標
上野図……6443
上野并御近隣火消等……4972標
上野之図……6454
上野火消裁許与力二組之内一組行列……4970標
上野法事之節香典等披露之絵図……1172標
上野法事之節之絵図……1172旧
上野文書…… 30(138)
飢人御救ニ付境町中吟味帳……7324標
飢人御救之儀ニ付郡方へ被遣候与力共書付…7322標
植村家伝……8854標
魚御口銭方旧記……7624
魚口銭浦口銭旧記……7624標
魚口銭ニ関スル書類……7623標
魚御用留……6722標，6727標
魚津御馬廻組小川忠左衛門覚書之写…… 10082標
魚津郡代御巡見方并所口津田修理殿等御巡見
方暨他役所より十村直宛之紙面に付御郡所御
引合方等一巻……6701
魚津古今記……6596標
魚津御用言上留地……6720標

魚津御用雑記……6719標
魚津御用品々……6721標
魚津御用諸事留帳……6718標
魚津御用勤方心得書……6723標
魚津御用勤方心得書等……6724標
魚津在住御用方日記……6729標
魚津在住御用勤方帳……2457標
魚津在住言上抄……7315標
魚津在住日記抜書并勤方……6725旧
魚津在住前田式部より指上候旧記抜書并勤方
……6725標
魚津下才許斎藤貞蔵居屋敷拝領の地引高一件
等……6645標
魚津諸事留帳……6717標
魚津蜃気楼之図附喜見城之図断……9530標
魚津奉行宿渡帳……7701標
魚津町御台場等御尋ニ付書上申帳……5977標
魚津町惣絵図……6051標
魚津役屋敷絵図……2075標
魚問屋定書等……7621旧
魚問屋定書并仕法方暨料理商売人定書等……7621標
鵜飼妙厳寺書上書控……6519旧
鵜飼妙厳寺并触下寺号帳……6178
伺書御指令留……4062標
窺物并被仰出且又言上等留之内……4311標
宇賀祭之考……6390標
鵜川天神文書（能登国）……30(113)
鵜川村天満宮神職梅田豊後連鰭……6325
宇喜多家一件……8784標，~~8786標~~
宇喜多家旧記四種……8785標
宇喜多家系図等……8784旧
浮田家ヨリ一条家へ縁組一件……9007旧
浮田中納言家系……8781標
浮田中納言家来村田一家続書……8782標
宇喜多直家軍記……8743標
浮田秀家系図等……8888旧
宇喜多秀家士帳……8973標
宇喜多略伝……8744標
請状之事……4561標
請高新開所之内当年内検地可被仰付ケ所奉伺
上帳……7081標
請地証文綴……6631標
請地屋敷地変更見取図……3565標
請取申御地子米代銀之事……6620標
羽後国山本郡八森銀山略図……9111標
右三左参皆中之図……9521標
宇佐八幡宮文書（豊前国）……30(102)
牛ケ首用水小竹江筋分間杭帳……7232標
牛首村并土清水村領弾薬所御用水新江筋之内
抜物打立書上申帳……5772
牛首村領弾薬所御用水新江筋潰地打立帳……5771標
牛首村領土清水村領弾薬所御用水新江筋之内
抜物打立帳……5772標
氏郷覚書……8686標
氏郷記……8687標
宇出津白山社神職棚木従五位雅枝……6326
宇出津新村地所見立頭振屋舗ニ願上云々……7110標
宇出津町酒垂宮神職加藤従五位常彦……6326
羽州鶴岡領駅路図……9110標
羽州最上記追加……8684
羽州山形……9186
又新斎日録……43標
又新斎日録抄……44標
臼井氏見聞雑記……2512標
右大将様御広式へ被為成候ニ付御献立……535標
右大将様御婚礼為御祝儀上使若年寄衆御出之
節御作法等……536標
謡独吟集……9982標
謡初之覚……9985標
謡番文章……9983標
謡本舟立合……9981標
謡要律等……9984標
卯辰寺院組合附……6223
卯辰全性寺思玄院口上書写……6345標
卯辰八幡宮文書（加賀国）……30(111)
卯辰村養生所御用地一件……6641旧
卯辰山辺ニテ角揚地所詮義之件……5792標
卯辰山角場地所ニ付田井村肝煎答書……5793標
卯辰山招魂社絵図……6420旧
卯辰山招魂社祭文……6382標
卯辰山招魂社図……6422標
卯辰山招魂社設立之件……6198標
卯辰山招魂所実測図……6421標
卯辰養生所御用地引高願一件……6641標
打出村坂面鮪網場彼方様御領打出本江村蛯江
村と網場出入一件留帳……7508

内浦村肝煎六兵衛願書……7512旧
内廻状物等留…… 10078標
内川淵名誌……9075標
内桜田安藤公一件……9317標
内田氏工夫之巻……8418
打它弁次郎へ御扶持被下候一件……2837標
内帳抜書……4060標
内調理……6694標
内留……4294，4734標
打毬御勝負書…… 10020標
内山寛仲へ可申渡趣……2845標
打渡絵図牒……3564標
打木浜調練御備建之図……5696標
於打木浜小川家火術御覧等之次第……5681標
宇都宮大明神文書（下野国）…… 30(105)
靱附緒留之図……8515標
空穂之図……8514標
靱之巻……8464標
靱矢其外矢本之次第……8499標
靱矢次第……8465
靱矢之次第……8498旧
靱弓台寸法之図……8516標
卯年大坂ヨリ下シ荷物控……5163標
卯年為登荷物払代金勘定帳……5162標
妥女氏墓地碑文…… 30(152)
宇野親孝文書…… 10102
宇野直作より申来候紙面等之写……9413標
宇野兵次郎書状……3699標
生神村肝煎久右衛門前々より之様子書上申帳7273標
生神村久右衛門孝心之趣書上候様被仰渡候ニ
付御郡所御改作所へ書上申帳……7272
生神村久右衛門孝心之趣書上控……7272標
馬坂新町元下屋敷図……3628標
午七月ヨリ同九月迄江戸御入用中勘図帳……5109
馬大豆相渡ニ付申達……4839旧
馬大豆渡し手形……4839標
馬之歌百首……8433標
右馬頭様御家指図……3626標
馬之名……5751標
馬廻頭勤留帳……4495標
馬廻組之者相続願方ニ付窺……3156標
宇美宮文書（筑前国）…… 30(102)
梅御殿惣御絵図……1435標
遊梅田洞記……9778
梅御居宅惣絵図……1434標
梅之御殿図……1436標
梅乃花形の部……9539標
浦々津出入之品々口銭取立申定帳写……7624
浦賀表へ異国船渡来ニ付被仰出之趣等留……5807標
浦賀備場之図……9369標
浦方御定……6849標
浦方御定書……6852標
浦方御定御高札之御帳……6850標
浦方御用留……6853標
浦方宿方御高札之趣違背仕間敷旨御触……6858標
浦賀日記……9392標
浦賀日記其他……9393標
浦賀奉行見込申上候書付……8562標
浦上宇喜多両家記……8745標
浦口銭取立定帳……7624
裏手下り……8414標
占籤……9591標
浦野一類所刑一件……2676標
売渡証文……7244旧
漆木植付方等仕法帳……7476
漆苗植付方等仕法書……7476
漆苗植付方并漆掻等仕法方一件……7476
漆苗并楮等一件……7476
漆苗并楮等一件三種……7476標
漆苗蒔立雑用書上申帳……7475標
羽鹿両郡新開一件……7132標
羽鹿両郡高免記……7130標
胡乱之者召捕ニ付達……5558旧
嶺巌和尚へ名代指越状……4375標
雲巌和尚へ名代参詣之達……4375旧
運気指南抄……8196
運心巡礼秘記……7743標

え

栄岳院様御三回忌御茶湯留……1167標
栄岳院様御四十九日御茶湯留……1166標
詠帰公・孝順公江御夜話之写……3403標
永享記……8694旧
営業税他郡照会……7438標
英国コンシュルセ子ラール江比後対話之節去
月十五日外国奉行江打合候ケ条申出候節答振

……9109
英国人為測量御領海可致渡来旨等被仰渡一件
……5830標
英国測量船所ロ入港一件留……5833標
英国よりの書翰大意留書……9410標
栄曜雑記……2912標，2913標
英新式天覧私記……5707標
英人に売渡したる武具品書……9405標
英船方為御内御用越後路へ罷越候雑用書上申
帳……5832標
英船方為御内御用上方へ罷越候雑用書上申帳
……5823標
英船為測量可致渡来ニ付会議方一件……5831標
英船渡来之節伏木肝煎彦五郎等書状……5824標
英船渡来之節伏木放生津浦心得書……5814標
英船渡来之節伏木・放生津云々……5814旧
詠草……9664標，9667標
栄操院様御法事留……1161標
詠草七拾首……9677標
永代御扶持高被下候人々……7264標
永伝寺文書（越中国今石動）…… 30(130)
永日記……8879標，8880標
穎姫様御縁談御猶余之書…… 879標
穎姫様御婚礼御道具御行列帳…… 884標
穎姫様御婚礼方御用一巻…… 880標
穎姫様御婚礼御出輿御行列帳…… 883標
穎姫様御婚礼之節御供方等御作法…… 882標
永平寺玄透禅師因事寄加州大乗寺書……6372
永平寺玄透禅師寄加州大乗寺書……6372標
永平寺祖規再興願書等写……6371標
永平寺太白禅師書写……9889標
永平寺通行一件……6149
営法諸手座備図……8127標
営法陣取図註解……8126標
営法陣取之図……8128標
江上村武右衛門手帳抜書……6840標
易学類篇講録……7762
易経大義考……7774標
易伝天眼通……7765旧
恵眼寺文書（能登国七尾）…… 30(130)
エコ草天草イギス買入方并他国出津方等一件
……7515標
エコ草天草イギス右之品買入方并右品他国出津等一件……7515
江差表御下シ米代金等惣勘定帳……5168標
江差表御米代等残金上納方仕訳帳……5165旧
江差表ニ而胴鯡等買入仕切表写書上帳……5170標
江嶋一党処罪之品……9507標
絵図指出につき添状……5979標
絵図為取替相成事……6058
絵図ニ付達書覚……1576標
蝦夷地一件……9108標
蝦夷地開拓意見書……9236標
蝦夷地開拓教導ニ付達書……9261標
越後瞰信軍歌……8058標
越後在府日記ひろい草……9745標
越後路戦争注進聞取書……5439標
越後出陣中井上忠左衛門心覚……5452
越後出陣中滅禄之者覚……5488標
越後出陣中日記……5452
越後出張日記……5458標
越後出兵書類抜萃……5449標
越後出兵ニ付留……5475標
越後筋風説書……5440標
越後筋より凱陣之面々江御意并御料理等被下
ニ付しらへ一件……5484
越後戦況等届書……5456標
越後高田御役人中より倒来紙面之写并口書…7712標
越後鎮圧為官軍出兵各隊戦争実検書……5466標
越後鎮圧為官軍出兵私附属実効書……5467標
越後鎮圧為官軍初発出兵各隊等級調理書
……5469標，5470標
越後鎮圧為官軍初発出兵各隊陪臣等級并人夫
交名書……5468標
越後寺泊ヨリ江戸表へ清水峠新道之記……7658標
越後国高田之城為御請取留書……2714標
越後屋舗御絵図……1323標，1324標
越後屋舗囲御絵図……1322標
越後屋舗式日留……4229標
越後屋敷図……1325標
於越後屋敷知行申渡人々……2848標
越後屋敷ニ而口上ニテ申達候覚書……4063標
越後屋敷之義ニ付間違之趣有之御勝手方ヨリ
御用番へ掛合之一件……5033標
越後より凱陣之面々へ御意等調一巻……5484標
越後浪士一件……5527旧

越前朝倉後城主覚書……8777標
越前加賀一揆追討文書…… 30(143)
越前屋(片岡) 喜右衛門文書…… 10102
越前侯建白等……9226標
越前国主記……8776標
越前路出張之人々兵糧等之義も少々記之……5531
越前高瀬宝円寺由緒書……6210標
越前敦賀水戸浪士松原墳墓由来記略……9310
越前国朝倉義景ヨリ以来代々国守之覚……8777
越前国廻米欠請負升廻仕用帳……5074標
越前国郡村目録……8668旧
越前国欠請負升廻仕用帳……5074旧
越前国諸郡切絵図……9125標
越前国南条郡池田村前田又左衛門由緒……6309
越前国南条郡川濯大権現社記……7734標
越前国南条郡府中高瀬郷川濯大権現社記……7734
越前国内神明帳…… 30(9)
越前領村々相改写……9420旧
越前浪士一件……5527標
越加能川除波除間数……7210標
越州軍記……8705標，8706
越州産物帳……7405標
越州新川郡郷庄古城……9179旧
越中愛本橋上流図……9102標
越中明日村肝煎等書状……6482
越中明日山法福寺畑新開願状……6482
越中井波大工伝書…… 30(141)
越中今石動宿上下モ継場賃銭等書上申帳……7691標
越中今石動埴生駅立記……6058
越中射水郡鳴戸野古図写……8643旧
越中射水郡二上山御登山御道筋之図等…… 653標
越中岩瀬猟場諍論記……7521標
越中越後国境争論記……1559標
越中越後国境目御改ニ付境村迄罷越候役付并
書状証文言上之控留帳……1558旧
越中越後国境目御改留帳……1558標
越中大岩山日石寺願状……6482
越中大窪大工伝書…… 30(141)
越中大峪古城之図……9177旧
越中大峪之古城分間之図……9177標
越中御蔵絵図添紙面……7192標
越中御蔵囲地之覚……7192標旧
越中御泊御鷹野御旅宿ニテ御詠歌……9662標
越中小矢部御蔵御囲地面絵図……7193標，7194標
越中各郡定散小物成銭書上申帳……7160標
越中かね山普請願等一件……7547標
越中記等三種……5013標
越中記抜書等……5013旧
越中銀山覚書等……7547旧
越中旧事記……9091標，9099標
越中国高帳……7140標
越中礦山雑誌……7540標
越中礦山由来記……7541標
越中国誌……9086標
越中護国寺由来書……6299旧
越中古事記……2705標
越中古賀記……9088標
越中小塚之城跡ヨリ方境図……9181標
越中古跡記……9087旧
越中古跡記三種……9087標
越中古跡鈔……9087
越中古跡粗記……9089標
越中御普請所絵図……7652標
越中米商八ヶ所……7620標
越中古文書……2565標
越中西田国泰寺并加州伝燈寺……6207旧
越中三郡鳥猟御免願方等留……7531標
越中三郡鳥猟御免願方等之儀ニ付被仰出等之
留……7531
越中三郡絵図橋付札云々……6065標
越中三郡城跡……9172標
越中三郡高免……7139標
越中三郡延払米取立根帳……5229標
越中四郡組分村名相調理書上申帳……1519標
越中下飯野村字新浜在番達物等留帳
……5854標，5855標
越中下飯野村字新浜在番留……5856標
越中下新川境村文書…… 30(142)
越中常願寺川筋変地之場所見取絵図……7113標
越中城端御蔵御囲地面絵図……7197標
越中城端小原家譜……7593標
越中神号帳……6182
越中真言寺院号郡所附帳（波着寺）……6177
越中筋御巡見所々役人附……1657標
越中筋就御巡見所々役人等罷出候名書帳…… 636標
越中筋持場臨時出張ニ付諸事窺書……5850標

越中等三大区地誌……9100標
越中大門新町新御蔵屋敷等略絵図……7202標
越中高岡片原町日蓮宗八品派本光寺由来……6219
越中高岡古城図……1380標，1383標，1385標
越中高岡関野社伝来……6058
越中戸出御蔵御囲地分間絵図……7200標
越中戸出御蔵御囲地面絵図……7198標
越中陶器調理書……7591標
越中砺波射水郷分図……6075標
越中砺波射水両郡古城等覚書……9173標
越中利波郡木舟大地しんの事……5356
越中砺波郡五ケ山々中絵図……6106標
越中砺波郡八講田村本覚寺願状……6482
越中富山魚津城資文書……30(143)
越中富山ヨリ越後高田発向之行列……5476標
越中富山領大ガケ古城図……9178標
越中長沢之旧墨図……9175標
越中中田御蔵見取絵図……7201標
越中長棟村肝煎故山崎甚右衛門奇特篤志之儀ニ付請願……7279標
越中新川郡佐伯来歴……6903標
越中新川郡境町・宮崎村・泊町・生地村家数人数調……5976標
越中新川郡図籍……1605旧
越中新川郡新浜泊両地在番中留……5857標
越中蜷川館跡之図……9180標
越中婦負郡野積谷地絵図……6107標
越中能州葉たばこ口銭銀取立御算用帳……7455標
越中国石黒庄弘瀬雑掌記……8649標
越中国越後国境目御改ニ付稲葉丹後守殿御家来堺村迄罷越候ニ付此方ヨリ罷出候役人付并書状証文且亦言上之控留帳……1558
越中国皇子皇女御墳墓取調書附絵図等……9092標
越中国雄神川射水川古覧ノ図……9098標
越中国御蔵番御門番等名書……2194標
越中国高岡山瑞龍閣記……6293標
越中国鉱礦調理記……7568標
越中国古文書……2565
越中国境町宮々由来につき書上……6299標
越中国雑書記……30(183)
越中国四郡坊主文書……30(132)
越中国図……1615旧
越中国高岡町図之弁……6593標，6594標
越中国知行所付……2690標
越中国道程書……7650標
越中国道程帳……7651標
越中国所々御制札場等其外産物等種々聞合方道中留……6058
越中国砺波・射水・新川郡之内郷村高帳……7141標
越中国砺波郡高瀬神社明細等……6291標
越中国泊町長寿一覧……7289標
越中国富山古城之図……1481標
越中国新川郡常願寺川見取絵図……7239標
越中国新川郡高物成帳……7009旧
越中国別小物成銭調理帳……7432標
越中国変地其外相改之候目録……6063旧
越中国宮崎浦図……6109標
越中能登加賀海岸宿村家数人数等取調理書……5959標
越中能登名跡志……9042標
越中飛騨境之図……1562標
越中氷見上日寺由緒留書之写……6296標
越中福野鋳物師伝書……30(141)
越中福野御蔵御囲地面絵図……7196標
越中福野御蔵見取絵図……7199標
越中福光御蔵御囲地面絵図……7195標
越中二口村領新御蔵屋敷等絵略図……7202旧
越中万葉遺事……9617標
越中村々寺庵等書上……6189標
越中名所記……9090標
越中守山城位置図……1389標
越中森山城位置図……1534旧
越中安田古城之図……9176標
越中屋伝兵衛・丹波屋伊平受地願……6621標
越中四郡古城跡……9171標
越中四郡古城跡略記……9171旧
越登賀三州志……9027標
越登賀三州志　鞬蠹余考……9024標，9025標
越登賀三州志　故墟考……9033標，9034標
越登賀三州志　本記……9023標
越登賀三州志　来因概覧…9028標，9029標，9030標
越登賀三州志　来因概覧附録……9031標，9032標
越年使役日記……2611標
越遊行襲鈔……9050標
越天楽并今やう……9901標
江戸急御用道中人馬指支一件……4765標
江戸急発足大概……4182標

江戸一巻触留等……4534標
江藤・島等処刑及辞世……8892標
江戸へ罷越御小性火事之砌頼置候人付之帳…4800標
江戸御居間廻絵図懸紙云々絵図…… 602標
江戸御厩之惣図……1445標
江戸御作事御門御定書……2454標
江戸御定書……1919標
江戸御式台仲間勤方申送帳……4739標
江戸御使一巻覚書之写……4381標
江戸御使書控……4394旧
江戸御使御用覚書……4380標，4384標
江戸御着之刻御作法……3302標
江戸御供中御法度触……1844標
江戸御供之頭役より誓詞見届之御前書……1850標
江戸御能役者御扶持高等……9968標
江戸御発駕之節御作法……2732標
江戸御広式御用足軽取捌壱巻……2451標
江戸御広式御用組足軽取捌壱巻……4555標
江戸表へ御供之日記等……1836標
江戸表御定書并申談之覚之留……1931標
江戸表御手当方御内習御備等抜粋……5841標
江戸表聞合書類……1870標
江戸表御省略方に付心付之趣申達……5066標
江戸表御借金利下ケ一件……5034標
江戸表定書等二種……1931旧
江戸表等人高御触抜書……2181標
江戸表并御国許御広式年中御祝方…… 601標
江戸表并金沢共諸向雑巾等渡り方調理……5149標
於江戸表御省略方等之義云々……5066旧
江戸表ニ而高小頭申付候節金義振覚書……4946旧
江戸表発足之儀ニ付御内談之趣一件……1786標
江戸御屋敷御居間書院御書院ニテ御礼人等有之節絵図……3243標
江戸御屋敷火事之節御行列寄場之絵図……4956標
江戸御屋舗御番帳写……2056標
江戸御留守居伺等留帳……4740標
江戸御留守中御定并御発駕之節御作法附……2265標
江戸御留守詰日記……4139標
江戸御小屋故障取捌等帳……3921
江戸御使進物等一巻……4385標
江戸御中屋敷御殿御絵図……1454標
江戸御中屋敷図……1455標
江戸御中屋敷等絵図……1452標
江戸於御中屋舗家作御柱建御上棟御観式方等留……1460標
江戸御留守中之儀伺等之一巻……4074旧
江戸火事御行列等……4894標
江戸火事御定書……4875標
江戸火事覚書……7306標
江戸火事ノ覚書……7307標
江戸方御用留……7421
江戸至金沢図……7662標
江戸至金沢北陸道駅路記……7667標
江戸上御台所座席之儀御印御絵図之写……2456標
江戸上屋敷御貸長屋図……1407標
江戸上屋敷近傍図……1402標
江戸上屋敷御居宅絵図……1417標
江戸上屋敷小屋絵図……1406標
江戸上屋敷式台前図……1421標
江戸上屋敷中之口御玄関前御供揃之図…… 628標
江戸上屋敷ニテ一二三四之手御行列建場之図……4969標
江戸上屋敷東御居宅絵図……1418標
江戸近海御手当方……5842標
江戸小石川御殿之図……9191標
江戸御家老方留……4144標
江戸御参勤并方々被遣物其外被下物品々留帳……1697旧
江戸御出府一件……5560標
江戸御守殿御内評ニ付松原牛兵衛出候絵図…1415標
江戸御殿容之図……1409標
江戸御入用入払本勘指引覚……5099標
江戸御入用大概書……5097旧
江戸御入用中勘図帳……5109標，5117標
江戸御普請ニ付私組下より出申御役人付帳…7157標
江戸御本宅御広式御住居御取繕等之絵図……1424標
江戸御本宅御広式御間絵図……1426標
江戸御本宅広式囲取広絵図……1425標
江戸三度梯取伊勢彦兵衛扇……7696標
江戸山王并増上寺等絵図……6452標
江戸下屋敷絵図……1464標
江戸出府御使人之手先へ申渡覚……4388標
江戸城大手御門下馬之図……1626標
江戸城大手之絵図……6452
江戸城桔梗御門下馬之図……1627標
江戸城下馬之図等……1628標

江戸城御本丸焼失記……8643標
江戸城図……9190旧
江戸城殿中進退之絵図……1632標
江戸状留……4748標
江戸状留書抜……4749標
江戸城西之御丸下乗図……1629標
江戸城西之丸下馬之図……1630標
江戸城西之丸図……9189標
江戸城西丸惣縮下馬之図……1630旧
江戸城之図……1634標，9187標，9188標
江戸城番所絵図……1638旧
江戸城本丸・西丸下乗下馬之図……1637標，1638標
江戸城略図……9192旧
江戸諸事旧記之内抜書……4321標
江戸詰諸役人心得方覚書……2450標
江戸詰中覚帳……4174
江戸詰中御用諸事留……4219
江戸詰中諸事略留……4175標
江戸詰日記……4139
江戸惣検校へ従御公義被仰付候云々……8976標
江戸増上寺へ出張之人々御料理御能拝見名書等……9955標
江戸大地震一件……7319標
江戸辻番一巻……4729標
江戸詰人御扶持方渡り月帳……1931
江戸詰人御上屋敷，御中屋敷并御下屋敷在住書……2180旧
江戸邸御近隣絵図……1403標
江戸邸御門勤方……2453標
江戸邸土蔵并煉化等図帳……9579標
江戸邸土蔵煉化石塀御積り帳……9578標
於江戸邸鶴披露之図……521標
於江戸邸雲雀披露之図……522標
江戸天守台修築日記……1644標
江戸道中覚書……7661標
江戸当番御小姓に付口上書……4806標
江戸中屋敷方境図……1448標
在江戸中御奥小将横目在勤之内御触等諸事自分留……4861旧
在江戸之面々御扶持方之義ニ付本多図書紙面等写……2834標
於江戸御馬廻頭勤方……2306標
於江戸奥向御殿詰装束覚……2452標
於江戸歳末より年始御殿へ御出之節服等控…3279標
於江戸毎日帳等書抜早繰留内書抜……4751
江戸日記……3832標，4137旧，4330標，4536標
江戸にて御横目誓紙跡書……2443標
於江戸勤方……2449標
江戸入用中勘図帳……5108標
江戸御居間廊下御湯殿等図り……1441標
江戸乗物誓詞一巻……2448標
江戸本郷上屋敷御殿之図……1411標
江戸本郷上屋敷之図……1404標
江戸本郷邸年寄中之小屋図……1442標
江戸毎日書立書抜……4746標，4747標
江戸毎日帳早繰……4751標
江戸丸之内大名屋敷図……9193標
江戸屋敷御居間書院絵図……1310旧
江戸屋敷大書院之図……1427標
江戸屋敷大広間ニテ跡目之節之図……3160標
江戸屋敷御小書院之図……1429標
江戸屋敷北之御居宅図……1439標
江戸屋敷在住書……2180標
江戸屋敷詰等名書……2182標
江戸屋敷総図……1400旧，1401標
江戸八筋七手御小屋図……1444標
江戸八筋七手ニノ御小屋図……1443標
江戸ヨリ会津迄駅路之記……9118標
江戸ヨリ御帰御道中越中国作毛調書…… 10064旧
江戸より金沢迄の道しるべ……7668標
江戸万留……3834標
江沼紀聞……9061標
江沼郡奥山遊覧之記……9774
江沼郡奥山游覧之記……9777
江沼郡，御公領堺図……6086
江沼郡敷地天神縁記……6240標
江沼郡図……2726標
江沼郡大正寺御領月津辺，鵜目氏屋敷跡ニ城地設ケタル躰……9156
江沼郡月津辺古墟之図……9156標
江沼郡并能美郡之内村々組合絵図，大聖寺御領……2719旧
江沼郡之内十八箇村松山凡歩数并概略之画図……7480標
江沼志稿……9060旧
鰒目村網場争論書類……7506標

箙寸法之図……8512標
箙之図……8468標，8511標
箙之巻……8467標
箙矢略記……8497標
江守九左衛門書付……2220標
炎々論……9214標
沿革書輯……5934標
燕間総目等御屏風写……11標
延喜式字注聞書……9796標
燕饗……9483標
延享至寛政間日記……6674標
延享元年・二年状留之内……4067標
延享元年・宝暦十一年御結納皆子餅之留…… 863標
延享弘化間米価文献索引并弘化二年ヨリ明治
廿二年迄米価……7603旧，7611旧
延享等記録抜書……4552標
延享四年組分帳……2109標
縁組・跡目立新番頭等奉達書覚……3154標
縁組口上書……3177標
縁組ニ付御用番仰渡書等……3182標
縁組願……3147標
縁組願等……3148標
縁組養子等抜書……3192標
縁組養子等申渡之写……3924旧
遠州小夜中山由来書三種……9715標
円宗寺北條裁判書…… 30(121)
遠州高天神古城……9186
塩焔御蔵御絵図……5752標
円乗寺へ御出御用絵図…… 697標
円乗寺へ御出之図…… 697旧
縁城寺縁起（丹後国）……30(15)
遠所居住人等根帳……2193標
遠所蔵米等之義覚……6993標
遠所ニテ不計入用品覚書……2221標
燕蹤覧古……9039標
燕石十種抄……31標
燕台上疏類編……4011標
燕台風雅……9584標，9585標
園太暦……8674標
遠藤数馬系図帳……2954標
遠藤次左衛門書状……3700標
延宝至文政加州郡方旧記……6751
延宝元年三月三ケ国替儀共御穿鑿ニ付御算用
場ニ而取集覚書……6058
延宝弐年社寺由来書……6211
延宝年中加越能社寺来歴……6211
延宝六年七月利波郡本領村百姓太兵衛と申者
来り御先祖隼人様ニ御奉公申上候次第物語有
増書付之覚……5431

お

御預所川島村六右衛門凶年之節窮民為救御預
地役所へ銀子指出候節願書之写……7325
御預所宗門改覚帳……7367標
御預地方江被仰渡候御書立留帳……2760標
御預地方御用御手帳之内相分り候分抜書……2756旧
御預地方由来書帳，能登国……6058
御預地御用方手帳……2756標
御預地書類目録……7388標
御預所御取扱方一件……2758標
御預所御改革ニ付心覚手帳……2755標
御預所御算用者勤方帳……2751標
御預所御用勤方帳……2750標，2752標
御預所御用之儀窺紙面……2748標
御預所千路村等御村替記録……2744標
御預所勤方明細帳……2753標
御預所之内天明五年村替旧記……2743標
御預所之儀御私領へ打込御取扱被仰渡候一件
……2758旧
御預所能登国村々百姓等行状之儀被仰渡之趣
申渡候届書付……2763旧
御預所変地吟味覚書……7377標
御預所村々五拾ケ年賦返上銀帳……2757標
御預所村々百姓行状書付……2763標
御預所村々不時見廻役人被遣候義ニ付被仰渡
候一件……2754標
御預所村々前々より質田地之義云々等……7385標
御預弥助一件調書……4668標
御預人小倉多門一巻留……3334標
御預ケ人有之節留……3333標
御預人古屋八郎兵衛一件留……3335標
おあん咄…… 30(165)
御家一巻…… 434標
御家旧記…… 303標
御家御年譜之内抜萃…… 162標
御家雑等……2651標

御家雑録……2650標
御家衆物語……8867
御家諸士系…… 10089標
御家并御一門方御親族大概…… 107標
御家并御一門様方親族大概…… 108標
御家日記……2502標
御家刃御物志……9824標
御家由来書物…… 170標
蘭草賦……9688標
御医書……9554標
老ての京のぼり……9756標
御暇乞之為御参内御手続控…… 452標
老の慰……9746標
老濃道草……3854標
老の道種　再々篇……3855標，3856標
御居間先奥御納戸御土蔵後之方破有之三十人
頭達之一件……4553標
於御居間書院諸大夫被仰付候節伺公所之絵図
……3296
御居間書院ニ御料理被進候節之絵図…… 598標
御居間書院ニテ御印物頂戴之留……2777標
御居間書院にて諸大夫伺公所之絵図……3296標
御居間書院之絵図……1309標
御居間廻御取畳ニ付云々絵図……9568標
御居間廻リ等絵図……9570標
御居間向廊下付之詮議之図……9569標
御色直御箸初御祝式…… 780標
御祝日御献立御器物書立帳…… 600標
追分口御門勤方帳……2428標
奥羽越出陣之人々賞罰之しらべ一件
……5489標，5490標
奥羽軍記……8691標
奥羽軍談……8692標
応永記……8747標
往還人馬継立宿駅書上申帳……7692標
往還筋橋々相調書上申帳……7653標
御請跡留……6818旧
御請御届紙面等留……4426標
御請紙面等留……4918標
御請之面印判之儀奉伺……4309標
応斎屑函内留……4292標
往時諸侯羅馬文ノ印ヲ用ヒシ事……8606標
往事盛衰記……8044標
奥州会津四家合考……8690標
奥州馬之様子留……7464標
奥州後三年記…… 30(160)
奥州平泉関山中尊寺案内記……9114
御謡拝聴方留帳……9942標
御謡初一巻留……9988標
御初御給仕之次第……9987標
御謡初之御作法……9986標
御謡初之節御規式絵図……9989標
邑知潟廻リ之義ニ付江戸御役人御越一件留帳
……6770標
黄蘗木庵之書簡等……9740標
御馬方並御鷹方御用……4776旧
御馬御鷹御拝領之節取捌等……524標，525標
御馬・御鷹帳…… 752標
御馬名書…… 750標
御馬之名…… 751標
御馬乗初并御謡初之節御省略方詮議之一件…5056旧
御馬廻頭相組預ル御用留……4503標
御馬廻頭相勤候節内廻状留……4499旧
御馬廻頭相勤之節内密御用留……4501旧
御馬廻頭内廻状留……4499標
御馬廻頭馬印等……5343標
御馬廻頭へ被下候御条目等之写……2310標
御馬廻頭就被仰付組用等当座諸事自分留……4508
御馬廻頭御小将頭町奉行江御直ニ御渡之御書
立等覚書留……2309標
御馬廻頭旧記……4510標
御馬廻頭旧記・手留……4490標
御馬廻頭中へ被仰出候覚書……2308標
御馬廻頭中へ被成下候御書立控……2307標
御馬廻頭勤方帳……2305旧
御馬廻頭留記……4492標
御馬廻頭早繰……2098標
御馬廻頭密事御用留……4502標，4528標旧
御馬廻方年中行事……2304標
御馬廻組頭御用番記録抜萃共三冊，并当職人
記録中可為故事者摘出附之……4488
御馬廻頭内密御用留……4501標
御馬廻組頭内密留……4498標，4502標旧
御馬廻組記録抜萃……4488標
御馬廻組軍装図解……5319標
御馬廻組軍装之図解……5320標

御馬廻組知行并人数覚……2103標
御馬廻組外一件……2111標
御馬廻御軍装并人馬割御定之内抜粋……5326標
御馬廻古例抜書……4489標
御馬廻十二組碁割……2099標，2100標，2101標
御厩方旧記……4773標
御馬廻役名書……2102標
御厩方勤功願……2209標
御厩方歳附帳……2189標
御厩方人々知行御扶持方御切米御給銀并役儀
歳附帳……2189
近江国浅井郡……30(50)
近江国海津の内にて銅採掘願一件……7566標
近江国高島郡之内郷村高辻帳……1529旧
近江国高嶋郡之内郷村高辻帳……1540標
近江国高宮絵巻物……30(12)
往来奉札等覚……582標
御餌柄拝領之覚書……3319標，3320標
御餌指一件留……4795標
御餌指方旧記……4794標
御絵図方一件留帳之内要用抜書……1592標
御絵図方留記……6058
御絵図能州之分不審之所々……1600標
御絵図之儀ニ付書状……1591標
御絵図不審之所々加州石川郡之分……6058
御絵図不審之所々，加州江沼郡之分……6058
御絵図不審之所々，加州河北郡之分……6058
御絵図不審之所々，加州能美郡之分……6058
御江戸大地震大破并出火類焼場等書上之写…9528標
大井帯刀書状……1588標
大岩山不動堂御作事入用銀請払算用帳……6435
大岩山不動堂材木帳……6434標
大岩山不動堂入用帳……6435標
大内記……8887標
大浦氏留記……10050標
大垣城之絵図……9200標
大家系図……30(159)
大形文書……30(138)
邑知潟諸方より新開願潟水掘抜或ハ新川を掘
為引可申旨色々願書上候ニ付水矯見分等被仰
渡一件留書……6998
大久保家譜……8787標
大久保系図……8788標
大久保殿家来敵討之件写……9500標
大組御持筒足軽鉄砲指南役……5666標
大組等足軽江戸増詰并石川河北御門勤番相省
申義ニ付伺之趣并右頭紙面等控……2427
大組等足軽江戸増詰并石川河北御門勤番并右
頭紙面等控……2427旧標
大桑村相対請地願一件……6625標
大桑村請地ニ付口上書添書……6626標
大桑村請地願添書……6627標
大桑村領御用地打立帳……6640標
大小将組軍役等之定……5287標
大小将組前録……2096標
大小将同日書前録……2094標
大小将略譜……2095標
大小将六組総帳等……2093標
往古十村相勤候節之御印物等書上申帳……6902
大坂為御登米寺井御蔵御米川下造用等書上申
帳……5073旧
大坂御払米一件……5067標
大坂御払米一件定書帳等……5067
大坂覚書并浅井啄合戦雑記・長家由緒書写…5416標
大坂表御陣之覚……5413標
大坂表先納等之義ニ付岡田又兵衛等紙面之写
……5252標
大坂表夏陣之覚……5412，5414標，5415標
大阪表にて調達銀并廻米覚……4006旧
大坂表働之様子面々書付抄……5427標
大坂御屋敷勤方存寄書上書……4853標
大坂御借財根帳……5257標
大坂廻米等留書……4811標
大坂御陣覚書……5407標，5412標
大阪御陣御役附……5397標
大坂御陣御役附雑記……5398標
大坂御陣首帳并討死交名記……5429標
大坂御陣後御尋ニ付申上候写・青地牛之助物
語……5406
大坂御陣御軍法聞書……5395標
大坂御陣の書附大聖寺御陣……5405標
大坂御陣之節御家中諸士討捕首帳并討死人交
名記……5429
大坂御陣之時御定集書……5400標
大坂御陣働帳……5423標
従大坂御陣以前之御譜代之人々子孫之有無等

之品相考置分……2919標
大坂御調達方仕法に付申談方紙面之写……5254標
大坂御調達方仕法之義ニ付村井又兵衛等紙面之写……5254旧
大坂再度城責文書……30(149)
大坂初度城責文書……30(149)
大坂詰人江上清左衛門より来状并奥継返書控……5255標
大阪於天王寺籠細工為見物之図……9814
大坂夏御陣之図……5402標
大坂夏御陣御備……5401標
大坂夏之陣前夜平野きわ書状……3766標
大坂夏之陣覚書……10104旧
大坂日帳……5408
大坂御陣御軍制集書……5393標
大坂陣一巻横山如雲覚書……5407
大坂陣討死覚書……5428標
大坂陣討死子孫考……5430標
大坂陣聞書……5419標
大坂陣軍法聞書……5394標
大坂陣功名覚帳……5424旧
大坂陣戦死之様子承伝覚書……5428
大坂陣之書……5418標
大坂陣之節御家中功名覚帳……5424標
大坂浜役勤方并覚留帳……5071標
大阪払米について口上書……4853旧
大坂播磨屋宇兵衛御廻米一巻覚……5069標
大阪府管轄市街区分細見縮図……9134標
大阪冬夏陣加賀藩戦死者法号……5421標
大坂冬夏両役二十問……8039
大阪冬御陣図……5403標
大坂冬陣加州長如庵一手陣取之図……5404標
大坂冬陣加陽日記……5408標，5410，5411標
大阪冬の陣出陣日記……5400
大阪兵学寮ニ関スル御手留抜書……9466標
大坂褒美帳……5422標
大坂両御陣討死之士子孫有無……5430
大坂両御陣賀州之士討死之衆様子承伝候通覚書……5424
大坂両御陣加州之士討死之衆様子承伝之通覚書……5428
大坂両御陣賀陽侯御陣日次之覚……5420標
大坂両度御出馬雑録……5399標
大坂両度御陣御軍粧并高名等之人々交名……5425標
大阪渡銀調理帳……5191標
大沢村静浦神社神職宮崎従五位千行……6326
大沢文書……30(137)(138)
大塩平八郎一件……9291標
大島希軒上書等……4022標
大島柴垣上書等……7784標
大島氏蔵古文書……8654標
於大書院三之御間御盃頂戴之図……3321標
大陣取図……8130標
被仰出之趣書立……1940標，1941標
被仰出之品三様合記……2037標
被仰出之品等書抜……1982標
被仰出之品等抜書……1980標
大象の図……9910標
大地縫左衛門書状写……3781旧
大塚長系図……30(157)
大槻一巻落着之写……2679標
大槻一件……2680標
大槻内蔵允一件……2681標
大槻内蔵允落首刑付小紙写……2682標
大槻朝元事実談・大槻朝元年表……2683標
大槻磐渓書簡……9241標
大坪庵主極秘百問答……8427標
大坪御書雑志……8428標
大坪・斎藤両家荒木家へ之伝記……8431標
大坪流馬之書……8429標
大坪流馬乗形……8430標
大坪流馬乗形斎藤好玄家伝之書……8430
大津町西川孫左衛門系図……8830標
大津両屋敷絵図……1393標
大友興廃記……8753標
大友興廃記抜書……8754標
大伴氏系図……30(154)
大伴家持卿碑文等……9719標
大鳥居家譜……8823標
大野栗ケ崎湊之義ニ付詮義書等写……7707標
大野織人等連署状写……3326標
大野木克明日記……10105旧
大野木克寛日記……3987標
大野木日記抜萃……4336標
大野木隼人再縁願聞届書……3180標
大野木隼人再縁願許可之達状……3179標

大野木隼人再縁願之件達……3179旧
大野木良之助勝手向之儀ニ内々紙面……3643標
大野郷訪古游記……8778, 9779標
大野浜ニテ捕申大魚ニ付言上書……7503標
大野湊神社文書（加賀国）……30(110)
大野村五社宮神職水上高蔵……6325
大橋歴代記……30(161)
大姫君様并広嶋御前様御婚礼之節御定書之写……823標
大姫様御入輿次第……824標
大広間御小書院披露方絵図……1311標
於大広間頭分以上御礼所等之絵図……3238旧
於大広間元日人持并組頭等御礼之図……3241標
大麻止乃小野氏川勾神秘系図……2970旧
大的皆中之書付……5669標
近江国高島郡之内旧領地租税録……7150標
あふむの噺り……7795標
大弓図……8480標, 8481標
弩之寸法之図……8489標
大横目書状等写……4822標
御貝桶請取渡之事……8997旧
御替村地境田畑等吟味記録……7372標
御抱鳶御仕法書……4948標
御書立等写……2433標
御書立之写……1936標
御書付等留……1958標
御楽屋多門二間出シの図……9572標
御楽屋多門之図……9573標
御楽屋多門屋称違図……9574標
御囲絵図……9567標
岡崎記……30(167)
御傘指太兵衛一件……3505標
小笠原信濃守書状……3701標
小笠原誕生蓑目巻……8387
小笠原殿手合騎戦調練覚書……5692標
小笠原平兵衛宛書状写……8315標
小笠原平兵衛殿御入門一件……8314標
小笠原平兵衛入門一件……8314旧
小笠原流靱箭之次第……8466旧
小笠原流張弓之大事秘術……8306標
小笠原流的之書……8310標
小笠原流的場之次第……8308標
小笠原流八張弓之図……8459標
小笠原流矢開之次第……8302標
小笠原流矢本并羽形之書……8462標
小笠原流弓始之次第……8301標
小笠原流弓藤之遣様之次第……8304標, 8305標
御貸銀之覚……5082旧
御貸米等書上帳……5243標, 5244標, 5245標
御貸附銭証文……7435標
岡島忠四郎書簡等……3964旧, 9795旧
御貸屋敷并請地判帳……6615標
陸蒸気器械類註文約定書写并目録……5156標
岡田氏征長日記之写……5537標
岡田助右衛門心得書写……5811旧
岡田助右衛門心附書写……5811標
岡田文書……30(138)
岡田雄次郎書状……3702標
御歩方旧記……4545標
御歩方組用早繰……2324標
御歩並以上御在府詰人名書……2184標
御歩並以上長寿一覧……3466標
御歩並以上身柄之先例等留……4647標
御歩並留……2119標
御歩行横目足軽被下銀之覚等……3958旧
御歩横目之覚……2121標
御歩行横目役懸之覚……2120標
御勝手御払方大綱図……5100標
御勝手方へ引送り并取替金帳……5192標
御勝手方御蔵許共懸合一件等……4983標
御勝手方御図り書……5102標
御勝手方覚書……5037標, 5038標
御勝手方心覚……5039標
御勝手方御内用控……5026標
御勝手方御用年寄中等前録……5024標
御勝手方諸事覚書……5029標, 5028標
御勝手方調理帳……5124標
御勝手方留書……5031標
御勝手方年寄中等前録……5024旧
御勝手方等へ御達申候品々留帳……4992標
御勝手方之儀ニ付被仰出書……5054標
御勝手方申渡控……4073旧
御勝手方より引送り請取金帳……5202標
御勝手向大要雑録……4982標, 5040標
御かね入払凡図……5105標

大賀祢加志津気帳……7601標
岡野七右衛門先祖并親類附帳……2955標
岡部旧記……6766標
岡部旧記十種……6765標
岡部系図……8789標
岡部御用留……6775標
岡部氏御用留……6764標
岡部氏小紙留……6776標
岡部直造由緒書……6895標
岡本周助製城図……8262
御借上金之義ニ付陳情……5271標
御借入銀調達ニ付口上書控……5247標
御借入銀ニ付口上書……5247旧
小川幸三・大野木克敏書翰等……3480旧
小川幸三書状等写……3479標
小川七太夫覚書……5720標
小川尽忠録……3478標
小川靖斉上疏……4033標
小川清太見聞録……2646標
小川清太実歴話……3482標
小川清太実歴話稿……5461標
小川仙之助隊戦場之図……5465標
小川隊北越出兵軍人交名表并戦闘図……5464標
小川隊北越出兵録附録附属砲隊交名書……5481標
小川隊北越出兵録……5478標
小川忠篤・大野木克敏書翰等……3480標
小木貞正所蔵旧記……8638標
御規式御作法書……9937標
御規式御能御作法附等……9935標
御規式仮家……1335
御規式能一件……9936標
御規式能并役者姓名……9969標
沖辰右衛門一件控……4658標
翁仕舞附……9915標
翁立御能覚……9944標
翁喪……8072標
沖波村神目伊豆岐比古神社神職四柳李之介……6325
翁物語評註……8700
御騎馬之面々控……1849標
御客方……436標
御客之節飾付……606標
荻谷村志乎神社神職渡辺正直……6322
御給事方心覚……9010標
御給仕方勤法……2442標
御給事役雑記……4540標
御給銭留……7263標
御給人切手買入・現銀払米願等覚……7209旧
御給人切手買入・現銀払米願等聞届書綴……7209標
荻生村領内操練所御用地図面……5705
御行列附……1040標，1780標
御行列附等……1023標
御行列帳……620標
御行列道具調……1761標
御切米請取方等……2342標
御切米指出帳……2340標
御切米取立帳……2341標
御切米渡方控帳……2836標
奥御取次当分加人起請文前書写……2212標
奥御横目方覚……4859標，4860標
奥郡御貸米五拾ヶ年賦日印帳……5224標
奥郡御郡万雑書上申帳……7167標
奥郡御塩方万雑書上申帳……7537標
奥郡海辺村々家数人数等書上帳……5966標
奥郡古城跡之図……9170標
奥郡御用留帳……6963標
奥郡新開方万雑書上申帳……7168標
奥郡村々歩刈手帳……7059標
奥郡元御預所高免蔵入所書上帳……7376標
御髪置御箱見本絵図……9847標
御櫛箱図……9846標
於奥書院年寄中等へ御判物被下候節之絵図…4069標
奥御納戸方手帳……4768標
奥平家系……8790標
御下シ米運賃并筒鮒諸懸リ物等払方書上帳…5175標
御国絵図以後為御用延宝五年絵図就被仰付諸事調様并書付等記申帳……1582
御国絵図以後為御用延宝五年絵図就被仰付諸事調様并書付等記申帳……6058
御国絵図御用ニ付国境村道筋町間之覚……1584標
御国絵図彩色仕立等覚書……1587標
御国絵図十六ヶ村之儀ニ付仰達候趣……1557旧
御国絵図白山公領ニ付書状……1589旧
御国絵図ニ付有馬左衛門殿役人ヨリノ返書…1598標
御国絵図ニ付榊原式部大輔殿御役人柴田金右衛門ヨリノ返書篠原織部等宛……1593旧

御国絵図ニ付大聖寺役人ヨリ之来状……1595標
御国絵図ニ付富山御役人ヨリ之来状……1596標
御国絵図ニ付幕府役人ヨリ返書……1593標
御国絵図ニ付飛州御役人ヨリ富山御役人への書面……1597標
御国絵図ニ付松平越前守殿御役人ヨリ之返書……1599標
御国絵図之儀ニ付書付……1586旧
御国絵図之義ニ付口上書……1586旧
御国絵図船路之覚書……5955標
御国絵図目録……1583標
御国江戸表勤方帳……4408旧
御国鉛山之考……7542標
御国御目付衆え御答帳……5935標
御国方御役人様腰掛台見取絵図……9411標
御国貴賤諸事雑志……2595
御国居住御手役者并町役者名前留記……9972標
御国御軍役之儀御定云々……5298標
御国古談……437標，438標
御国産菅笠一件……7586標
御国産他国産小木湊移入等之品有増……7708標
御国寺社附……6175標
御邦諸談……2620標，2621標
御国勤方控……2250標
御国留帳……619標
於御国御馬廻頭勤方……2305標
於御国御馬廻頭勤方覚……2305
於御国勤方……2239標
於御国勤方之帳……2235標
於御国勤方之帳控……2236標
御国ニ而火事御行列并御定書覚書……4903標
御国目附衆小松表へ御越に付諸事御用留帳…4461標
奥野家系譜……2957標
奥之間示談物等覚書……4099標
奥之間示談物等品々覚書……4099旧，4100標
奥向祝日并平生共膳部向之覚控……593標
奥向女中等扶知給覚……2844旧
奥向の者扶持の覚……2844標
奥村・新井問答書……7759標
奥村壱岐覚書……4133標
奥村壹岐庸礼墓碑記……30(153)
奥村因幡守書状……3706標
奥村因幡易英墓碑記……30(153)
奥村伊予宅へ初而被為懸御膳儀覚書下帳……645標
奥村伊予守書状……3705標
奥村伊予守新屋敷へ御成被仰出等覚書……646標
奥村家祖予州永福墓碑記……30(153)
奥村家譜……2959標，2960標，2962標
2963旧，2964標，2965標
奥村家老日記……4159標
奥村河内守宅絵図……3620標
奥村系図……30(158)
奥村家記録……3352標，3353標
奥村家系図……2965旧
奥村家和歌雑集……9684標
奥村源左衛門由緒写……2966標
奥村氏記録……2958標
奥村氏雑覚書……3946標
奥村氏神道碑文……30(153)
奥村氏末森役鉄炮記……30(153)
奥村氏席珍研銘……30(153)
奥村庄左衛門家書類……10101
奥村助右衛門書状……3703標
奥村助右衛門等書状……3704標
奥村丹後守殿家中へ申渡ノ写……4111標
奥村丹後守栄実組ノ人持中へ演述書……10080標
奥村村丹波守恵輝墓碑記……30(153)
奥村栄滋書類……10101
奥村栄通集記……4104標
奥村栄通手記風説書……9322標
奥村栄通存意書……5555標
奥村栄通手留……4040
奥村栄通手留・京都一件帳之内抜書……5578
奥村内膳書状……3707標，3708標
奥村内膳殿并組中御先手共備立之図他……5644標
奥村内膳返書案……3709標
奥村永福大夫肖像賛……30(153)
奥村温良書状……3710標
奥村栄実意見書……4015標
奥村栄実言上書……4012標，4014標
奥村栄実言上状……4013標
奥村栄実書翰……4013旧
奥村兵部明敬墓碑記……30(153)
奥村福松家譜……2963標
奥村・村井両大夫組衆救戒書写……2318標
奥村問書……7759

奥村・山崎家臣由緒言上之写……3662標
奥山御境目等之秘書……1565標
御鞍鐙等御用目録……5716標
御蔵入米等仕法書……4036標
御蔵方留帳・御詰米方格帳……7185標
小倉山荘色紙和歌……9691標
御蔵所覚書……7187旧
小倉多門御預り被成候一巻……3334旧，3335旧
御蔵ニ付紙面……7190標
小倉日記抄……6656標，6657標
御蔵米川下馬下賃償之覚……7700標
御蔵米等馬下駄賃銭の方に通用銭拝借願……7698標
御蔵米等馬下駄賃直上ニ付願書……7698旧
御蔵米等売附の覚……7189標
御蔵米払方に付報告書……4824標
送方案文法則帳……2257標
御軍役品々集書……5303標
御系図……68旧
御系譜……67旧
御郡絵図面能越境里数丁間不同等御尋之品相
調理書上申帳……6056標
御郡方有増覚書……5942標
御郡方家数人数調理帳……7258標
御郡方御定ニ可相成品々書上申帳……6683標
御郡方御仕法一件……6695標
御郡方御仕方書御請帳……6691標
御郡方旧記……6998標
御郡方検地永引高物成并年季引免物成等之覚
……7102標
御郡方御仕法一件……6692標
御郡方御仕法被仰付濫觴……6688標
御郡方御仕法被仰付濫觴并出役所附組名唱…6689標
御郡方御仕法書御請帳并内調理帳……6690標
御郡方天明安政間日記抜書……6684標
御郡方人数御縮方申上候帳……7259標
御郡方万雑之立方是迄御郡万雑等云々……7164旧
御郡寺院拝領地之事……6194
御郡宗旨寺院数之事（富山藩領）……6194
御郡所格合……6806標
御郡所簞笥番方勤方帳……6679標
御郡所年中行事……6676標
御郡所向旧記……6733標
御郡神社并神主之事……6194
御郡典……6768標
御郡奉行へ年寄衆ヨリ被申渡候写等……6686標
御郡奉行・改作奉行取捌年中行事……6678標
御郡奉行勤方……6675標
御郡奉行年中行事……6677標
御郡保庄郷名乗之事（富山藩領）……6194
御郡廻之節為読聞御ケ条……6739標
御郡万雑書上申帳……7167旧
御小将頭へ仰渡之覚……2314標
御小将頭被仰付候節之覚……2316標
御小将頭当用抜書……2315標，4533標
御小人小頭并御小人人数等帳……2175標
御米図帳……5111標
御米代荷物積登目欠弁金取立書上帳……5179標
御米図帳……5101標
御米并御入用御符合図帳……5104標
御米払之目録に付書状……5021標
御米払之目録ニ付吉田惣兵衛書状……5021旧
御献立覚書……596旧
御献立留……595標
御献立留帳……597標
御献立等留帳……594標
御献立之覚帳……596標
御細工方勤功願……2208標
御細工所御用品々代銀しらべ帳……5142旧
御細工所格式帳……2424標
御細工所御用内留……4736標
御細工者小頭願并御用勤御内聴……4733標
御細工者本役兼芸歳附帳……2177標，2178標
押前制法巻……7988標
尾坂足軽番所図……1689旧
尾坂足軽番所妻図……2085標
御界目為御用苗鳴村久左衛門所々へ差遣申一
巻紙面覚書等……6755標
尾坂御堀捨水を用心水として屋敷内取入一件
并絵図……9577旧
尾坂御堀捨水前田弾番屋敷内取入一件並絵図
……9577標
御盃事御給仕之御次第……8995，8996
御先女中并御長持等行列……1798標
御先手足軽并聞番附足軽等組屋敷絵図……3607標
御先手物頭安永飛州御手当一件留……5509標
御先手物頭江戸勤方……532

御先手物頭被仰付諸事心覚留物頭並砲隊物頭等云々……4546
御先手物頭勤方留帳……2319標
御先手物頭直組前隊帳……4639
御先手弓筒二十一組合紋帳……5328標
御作事御定銀減方大綱……5135標
御作事方格帳……2418標
御作事方御門御成之節御門縮方…… 480標
御作事方御門御往来之御面々等……4519標
御作事方不時御入用銀請払帳……5133標
御作事所絵図……1334旧
御作事所御歩横目交代御貸家図……2086標
御作事所御定并押紙面等写……2419標
御作事奉行格帳……2415標
御沙汰書写……2213標
御定書……1872標，1882旧，1886標，1887旧
1888標，1911標，1915旧，1920標
1928標，1939標，1944標，3533標
6730旧
御定書写……1913標，1950標，2228標，5286標
6734標
御定書々抜……1883標
御定書考索附録……1895標，1896標
御定書雑事……1900標
御定書等触状留……1901標
御定書之写……1885標，2301旧
御定書類……1926標，2251標
御定書類纂……1910標
御定書類聚……1912標
御定銀不足等之義ニ付御作事奉行紙面并右図リ書写……5134標
御定軍役武備図解……5324標
御定等留……2254標
御定・飛州一巻……5299
御作法書……277標，583標
御三方様御出之節之図…… 558標
御産所御移徒ヨリ御七夜迄御祝式御献立控… 770標
御産所御移徒より御七夜迄御祝式控…… 769標
御塩概覚……7533標
御塩稼方諸道具之図……7532
御塩方一巻……7532標
御塩方御用留……7536標
御塩方定式留……7535標
御塩方万雑書上申帳……7537旧
御仕置留十種……4629標
御仕置之類……4625標
小塩橋立道の記……9776
御時宜方之覚……3207標
御式正御飾方御用品々…… 992標
御式正御道具順番…… 930標
御式正御道具順番等……990旧，991旧
御式正御枕之図……9806標
御式台御見舞御使者取次方覚…… 563標
御式台勤方留帳……2350標
御式台取次折本写抜帳……2355標
御式台等諸事留帳抜書……4763標
御式台申送帳等……4764標
御使者迎送取持之覚……9004標
押留……3536標，3969標
押野村十村差出之替歩覚等……6636標
御支配方諸事留帳……2054標
大嶋村意富志麻社神職岩尾信広……6322
御縮方触留抄……5059標
押水組各村草高并定納口米定……7135標
御借知割合等定……5006標
御儒者・御医師・与力名書……2188標
御寺料附御副印帳抜書……6477標
御城方御貯用銀貸附残り元根帳……5239標
御城方御内用銀請取状……5158標
御城御警衛方御達……5661標
御城御巡見御道筋…… 637標
御城御造営仮屋之図……1335標
御城御造営御成就ニ付御祝御能番組……9934標
御城焼失記録四種……1277標
御城当番近火之定書……4871旧
御城等之御出之節御着服之覚…… 616標
御城并市中近海御手配内考……5663標
御城之内七拾間長屋御馬道具紛失一件……4828標
御城番衆近火之定書……4871標
御城向御警衛御手配……5662標
御城より三里四方小鷹天網停止之村々書上帳……7525標
小槻時元日記（抜粋）……30(69)
御煤払・御追儺等留牒…… 608標
御煤払御規式御煤払竹之図，御具足餅御飾方図・所トモ留控…… 609

御煤払御規式および御具足餅御飾図…… 609標
御煤払御規式等…… 609旧
御硯箱等書付……3750旧
御硯箱并五十嵐系譜……9845標
御巣鷹三ケ所停止之書……4817標
御巣鷹仕立ニ付御触……4816標
御巣鷹仕立に付達書……4815標
御住居御附方名帳……2152標
御住居見分出役名前……4088標
御住居地面富士山之方云々絵図……1430標
御住居并惣部屋等之図……1431標
御住居向惣御絵図……1432標
御角入御式之次第…… 807標
御角入・御袖留御略式之次第…… 809標
御角入御用相勤其節之御作法留帳…… 808標
御関船之図……8453標
小瀬貞庵記…… 10101
小瀬直吉書類…… 10101
御膳方年中行事旧記……4771標
御膳方年中行事旧記一巻……4772標
御土蔵金銀入払帳……5130標
御葬式御法語……1056標
尾添伝来系図…… 30(159)
御袖留御祝儀之御式…… 821標
御備押并御行列等……5650標
御備押之次第……5653標
御備図……8118標
御備立につき鈴木藤作意見書……5649標
御側小将留帳抜書……4538標
御側附人役懸表……2148標
御側廻之人々目形帳……2150標
尾添村ニ有之系図……6262標
御代々御祥月写…… 103旧
御台所方留……4769標
御台所御入用銀高帳……5139標
御台所奉行交名……2186標
御大名官位年齢席分……8955標
御鷹方御縮之儀に付年寄中附札之紙面写上申帳……4793標
御鷹方交名帳……2191標
御鷹方勤功願……2210標
御鷹方御用留帳抜書……4791標
御鷹方御用控帳……4777旧
御鷹方諸事控帳……4777標
御鷹方勤方覚書……2458標
御鷹御入用中勘図り……5143標
御鷹匠御餌指巣見鳥見并自分共知行高切米高歳附帳……2190標
御鷹匠，御鷹役，御歩並御餌指，御鷹巣見，御鳥見并自分共知行高御切米高御扶持高等歳附帳……2191
御鷹帳并御馬毛附帳……4784標
御鷹野御行列……4783標
御鷹野御行列附並火事之節御行列附…… 739標
御鷹野御行列帳……4780標，4782標
御鷹野御供一件……4785標
御鷹野御供心得之事記……8442
御鷹野中納言様御同道御出之節御行列附……4790標
御鷹野之節御行列帳……4778標
御鷹場一件…… 744標
御鷹場等一巻手控…… 746標
御鷹場之覚等…… 737標
御鷹控心覚……1076標
御鷹部屋見分詮議留……2082標
小竹常五郎書置紙面……8893標
織田神社文書（越前国）…… 30(104)
就御尋書上申由緒帳……6673旧
御尋ニ付申上候由緒……2920標
御尋者并割場御改法一件……6191
御尋者について吟味方御達……4563旧
御尋者に付組中請書……4563標
御尋者人相書写……4594標
御太刀并千貫以上之御刀脇刺……9825標
御達覚書……9260旧
御達書……6992旧
御達留……6985標
御達申候書取……4040標
織田艶文書…… 10102
織田鉄七等家督相続之申渡……3165標
御種人参培養方主意書……7458標
織田信秀系図……8791標
小田原記……8712標
於千葉秋……5077
御茶献上次第…… 507標
御鋳造場御用水新江筋堀立被仰付候ニ付潰地

歩数打立帳并絵図面……5782
御使一巻覚書之写……4381旧
御使一巻覚書之写と書記帳面控　控抜書……4381
御使一巻装束等之覚……4378標
御使一巻書類……4392標
御使一件四種……4379標
御使書控……4394標
御使方……4377標
御使帳……513標
御使番方覚書……2359標
御使番方諸事心得方等自分留……4415標
御使番代一巻……4407標
御使番代一巻　一ノ手御集奉行　三ノ手御使番方……4407
御使番代方等……4403標
御使番勤方帳……4408標
御使番勤方帳等……2359旧
御使番富田次太夫取次書類……4404旧
御使番富田彌六覚書……4406旧
御使番取次書類……4404標
御使番等知行高歳附帳……2147標
御使番日記……4400標，4409標
御使番代心得一巻……3921
御附方御親翰帳写……2014標
御附方御用自分留……4322標
御附方御用留……4324標
御附方手留……4343標
御次為御用神戸蔵人等より取揚候品々調帳…5198標
御次為御用神戸蔵人より取揚候品々調帳別帳……5199標
御附御用部屋日記抄……4329標
御次問合小紙写……4114標
御着之節伺候之図……587標
御着之節御用留……1717標
御続書……111標，114標，115標，118標，119標，120，121
御続書帳……114旧
御続柄帳……3135旧
御筒代金等出入勘定帳……5188標
御勤方等留……3913標
御詰米方等格帳……6682標
御図り書……5125標
御図方之覚……5110標，5112標，5114標
御出入衆御間附并坊衆名前……2192標
御手木足軽組格等之儀ニ付御達……2333標
御手木足軽中村覚平太打擲の件返書之写……3507旧
御鉄砲打初御規式作法図……5700標
御鉄砲出来并御修覆筒直段極帳……5709標
御鉄砲所大筒并尺筒員数留……5745標
御鉄砲所御用日記……5744標
御鉄砲所調方就任ニ付演述之写……5743標
御鉄砲所ニ付達書写……5743旧
御鉄砲奉行覚書……5723標
御出張行軍之次第……5657標
御手役者并御用聞町人一件……4730標
御寺方へ御参詣之刻云々等……448標
御寺方御名代勤方覚……4366標
御寺方御名代勤方帳……4368標，4370標
御寺方御名代役勤方留帳……4369標
御寺御参詣等之覚……660標，661標
御寺御参詣等之帳……662標
御寺等御位牌……1192標
御寺由来抜書……6224標
御寺ヨリ野田江之葬式御行列附……1024標
御道具御行列……834標
御道具目録……613標
御道具寄帳十三冊目録……9997標
大音家旧記……3355標
大音氏家系……2969標
大音氏系図……2968標
大音七左衛門等役附……3465標
大音鉄男家督相続之申渡……3161標
御通抜御用留……479標
御通抜御用留并雑記……4332標
御科被仰付候者之親類遠慮之覚等……3337標
御咎之留書等……4665標
御床飾……607標
落し文写……9299標
御土蔵入等御武器員数帳……5742標
御土蔵ヨリ御出被遊候金銀之内大坂ニ而為御登米払代銀之内を以御土蔵江納返可申分入并
御国江相越候員数記候帳……5130
御届書綴……1977旧
御泊附……1827標，10051標
御留場に於て狩猟停止之触……743標
御供方絵図……694標

御供方旧記…… 10048標
御供方雑記附録…… 10046標
御供方手控…… 10047標
御供方等心覚…… 625標
御供方略記…… 626標
御供衆作法書…… 627標
御供道中覚書品々書抜等……1833標
御供道中心得等……4080標
御供日記……4314標
御供人覚書…… 749標
御供人於御横目所披披見物写…… 10049標
御供人帳……1799標
御供人勤方…… 706標
御取上無之山願書写……4706旧
御取箇調理小寄……7122標，7123標
御取次方御返翰案文帳……4308標
御鳥見之儀ニ付調理書……6792標
御長持指札調之件……5023標
御成一巻……471標，472標
御成献上物之帳…… 476標
御成御殿地図……1412標
御成次第…… 464標
御成次第等写…… 460標
御成東叡山贈進帳…… 469
御成留帳…… 468標
御成之記……459標，462標
御成の次第…… 467標
御成之節御道具御掛之儀等…… 473標
御成之節御門縮方覚書……2436標
御成之刻御献上物御用之留帳…… 475標
御成之刻品々留帳…… 474標
御納戸銀勘定帳……5217標
お庭牒……9766標，9767標
御人足被仰付云々……6592
御願奥力法度之覚書……2322標
御年貢金取立触帳……7383標
御年貢取立帳……7382標
御能一巻……9928標
御能一巻控帳……9927標
御能御番組……9960標
御能御番組初見被仰付候分留書……9950標
御能御番附……9943標，9958標
御能方……9965標
御能方勤功願……9967標
御能等御番附帳……9933標
御能拝見被仰付候神主共名書……9952標
御能拝見覚帳……9938標
御能拝見覚帳并九月廿二日勝千代様御宮参之節御酒等被下候義留置十二月廿二日めん類等頂戴之義も記置……9938
御能拝見方一件……9957標
御能拝見人等名書……9947標
御能拝見之絵図……9964標
御能為拝見罷出候人々名書帳……9946標
御能番組……9959標
御能番附……9930標，9931標，9962標
御能番附帳……9929標，9956標
小野家横山家略譜……3423標
小野家略譜……3423旧
小野氏（村氏）系図……2970標
小野戦功……3424標
小野毛人墓誌…… 30(152)
小野道風真筆写…… 30(182)
小野政寛印章控……3356標
小幡右京届書……2219標
小幡景憲夜話……8842標
小幡宮内一巻……3483標
小幡宮内口上書……4436旧
小幡宮内申渡書……4436標
小幡氏家系……8792標
小幡社文書（近江国）…… 30(105)
小幡忠左衛門悴豹三張文之事……4432標
小幡造次文書…… 10102
小幡平三書状継立……3711標
小幡又助由緒帳……2971標
御旗本御備押絵図等……5698標
御旗本御備立図……5625標
御旗本諸番制……8131標
小幡和平口上書……7117旧
小幡和平書状……3712標
小浜神社地并七十六番地所元神職斉藤政明居宅地略絵図……6494
小浜神社文書（加賀国）…… 30(110)
御林跡地開発申付書……7090標
御林山薮等字場所丁間書上申帳……6847標
御払高等調理入御覧候控等……5116標

御払米代勘定帳類……5075標
御払米代本勘帳……5075旧
小原村領西谷銀山等書上……7546旧
小原村領西谷山色見請願……7546標
小原余所右衛門等扶持覚……2835標
御番頭覚書……4416標
御番方不念并掛合等之品近例抄書……4518
御番引書付……3921
御引移御婚礼御祝建等之帳面并御親父様御示教之留置……3152標
御引移御婚礼御祝建等之帳面致拝見一々御親父様ヨリ御示教被成下候義を留置……3152
御引移御当日頭分御用高等調理書…… 932標
御引移御当日頭分御用高并在詰之頭分暨御大小将其外御歩足軽小者御用高調理…… 932
御引替所御仕法……5092標
御膝直之節頭分初御人御用高調理…… 899標
御姫様御道具行列…… 834
御姫様御婚礼相整長九郎左衛門登城之刻御祝之御儀式…… 847標
御姫様御祝言御道具之帳……9007
御広式御対面所絵図等……1420標
御広式向御二階之分絵図……1312標
御奉行所腰掛台見取絵図……2088標
御武具方留帳之内抜書……5718標
御武具銀志らべ書……5734標
御武具所御道具留……5732標
御武具所格帳等……5731
御武具土蔵格式帳……5731標
御武具奉行口達之覚……5733標
御武具奉行手合御土蔵等書上……5735標
御武具奉行手合御土蔵ニヶ所等……5735旧
御扶持方代乗馬飼料代等改……5220標
御扶持方等渡り方……2838標
御扶持被下置候十村等死去仕候刻上之候御印物之覚……6882標，6883標
御扶持高之御印物調理帳……6893標
御扶持高之御印物等写書上申帳……6894標
御扶持人十村鳴尻村十村刑部手帳抜書留……6839旧
御扶持人十村等御礼人惣列名書……6881標
御扶持百姓由緒……6871標
御扶持百姓由緒帳二種……6871旧
御触写……1945標，3954標
御触書写……5062旧
御触書立写……5060標
御触項目……3956旧
御触大略……6829標
御触緊……3952標
御触留……1874標，1964標，6777標
御触留帳……5816標
御触等諸事自分留……4861標
御触并御返書留……3639標
御触抜書……6822標
御触之写……5048標，6164標
御触要用抜書……6812標
覚書…… 248標， 446標， 517標， 650標， 989
1753標，2256標，2263標，2625旧，2629標
2675旧，3300標，3910標，3928標，3935標
3959標，4092旧，4132旧，4147 ，4156旧
4196 ，4224旧，4237標，4254旧，4262旧
4272旧，4287標，4288標，4367旧，4418旧
4419旧，4462標，4546旧，4732標，5296標
6360旧，6757旧，7588旧，8056標，8077旧
覚書四種……2268標
覚書之抜書……2587旧
覚書類聚……3985旧
覚聞書……3939標
覚帳……4196，4264標
覚帳六種……3921標
覚留帳……4157標，4421標
覚抜書……4073標
御堀并町夫留……4469旧
御廻道筋并御見渡ニ相成候村々高免家数調理帳……5961標
御見立格取極申渡帳……7039標
御宮請取火消請取所控……4958標
御宮江御参詣御用絵図…… 655標
御宮絵図……6402標
御宮御参詣伺公所図……6404標
御宮之図……6403標
御宮参御祝方…… 793標
御宮参御献立……795標，796標
御召方帳…… 615標
御召御呉服御長持ニ入覚帳……9007

御召料注文ニ付達書……5714標
御目見等絵図……3216標
御持方足軽大小十組之与力指物覚書……5321標
御持弓御持筒之儀ニ付控……5713標
表方示談物覚……4097標，4098標
表方留……4151標
表方留抜書……4138標
表方にて示談之趣并奥之間之様子等之覚書…4084標
表方ニテ示談之趣并奥之間之様子等之覚留帳
……4084旧
表納戸道具由来……8907標
表向御用披見物等控……4142
御役儀方諸事留……4424標
御役儀中執筆廻状留……4864標
御薬種目録……9553標
御役所へ指上候控……6365標
御役并知行等仰付控……2142標
御役人附……2139標
御屋敷方跡々格仕勤来候品之帳……3532標
御屋敷方格帳ニ相洩申品并近年年寄中申渡候
品等帳……3542標
御屋敷方留……3534標
御屋敷所願判帳……3540標
御屋敷拝領判帳……3538標，3539標
小柳火薬御土蔵番所ニ付篠島左平等達書……5768標
小柳製薬所合盛米ニ付口上書……5769標
小柳土清水製薬所御用地詮義之件……5767標
小柳村製薬所御土蔵御用地日御子村領御松林
地元打立分間絵図……5770標
雄山神社御神供米社地等書上帳……6474
尾山神社社格一件……6199標
雄山神社文書（越中国）…… 30(115)
御弓矢奉行覚書……5722標
御落髪等御納一件……6530
阿蘭陀国へ送る御世譜写……77標
阿蘭陀船陸戦大略……8574標
折懸包上書……4064標
折戸村次左衛門先祖由緒書上申帳……6900標
織物規式御触……4564旧
御料理調理進方…… 10011標
御料理等被下候御作法附…… 599標
御留守居方御用留……4743標
御留守居詰御用留……4744標
御留守覚書……4170旧
御留守中御馬配并御人払帳……4934標
御留守中大村肴次郎等席御用兼帯就被仰付候
当座心覚留……4301標
御留守中御定写……1915標
御留守中火事御定……4939標
御留守中火事之節御定……4923標，4932標
御留守中近海江御人数出張御城向御警衛御手
配……5662
御留守中近海へ御人数出張後御城向御警衛御
手配……5664標
御留守中御入用中勘図帳……5119標
御留守中御入用中勘図月割……5120標
御留守中御用窺控等……1763標
御留守年御台所御入用図り銀帳……5141標
御留守中留……4148標，4149標
御留守中日記…… 10040標
御留守中之儀伺等之一巻……4074標
御留守中之儀伺之品……4071標
御留守中之義御発駕前奉伺品々并申渡候留…4079標
御留守中之儀御発駕前奉伺品々并申渡候留…4081標
御留守中之儀御発駕前奉窺品々并申渡候留…4101標
御留守年正月より十二月迄十二ヶ月分御台所
御入用図り銀帳……5141
御留主留……3879標
御礼次第……3245旧，3246旧，3250旧，3251旧，3253標
御礼次第帳附家政職員録……3256標
御礼次第并家政職員録……3255標
御礼所絵図……3242標，3244標，3322標
御礼所之絵図等……3238標
御礼席御小書院御大広間之図……3239標
御礼人帳……3247標，3249標
御礼之次第……3252標，~~3253標~~，3254標
御渡被成御覚書……6564標
御渡米江差表にて売払仕切表書上帳……5169標
御渡米三千石之内八百五拾石江差表ニテ売払
仕切表書上帳……5169
尾張熱田松岡氏伝記……3406標
尾張様御用人へ懸合申述べき趣…… 888標
尾張大納言様御招請一件…… 554標
尾張国荒子村・前田村事蹟略書…… 312標
尾張国内神名牒…… 30(9)
尾張国風土記……30(48)

御請御届紙面留帳……3948標
御請書……8356
御うつぼの覚……5715標
御産刀等入御箱絵形……759標
御産刀之覚……760標
御馬方・御厩方附御飼鳥方……4776標
御胞衣納方……758標
御大小将御定……2313標
御大小将方江戸留抜書……4531標
御大小姓組御定書之写……2311標
御大小将組定書等覚……4528標
御大小将勤向……4540
御大小将名列……2097標
御大横目へ被仰出書覚……3038標
御置物台前通り御絵形唐来等惣彫物仕立……9812標
於御奥書院御馬廻頭御小将頭町奉行江御直ニ
御渡之御書立并年寄中ヨリ申渡候覚書留……2309
御奥向御二階家建物御図り帳等……1336標
御表御能方諸事留抜書……9941標
御表御能被下方抜書……9949標
御表方日記……4151
御ケ条書を以御尋之品々書上申帳……5939標
御上屋敷御囲并惣御小屋割図……1405標
御上屋敷建場図……1422標
御上屋敷詰等名書……2182旧
御吉事御案内之所名書留……3652標
御記録焼失ニ付維新以来御達等謄写可指出御
達ニ付而之調也……3967
温敬・恭敏両公任紋等書類……282標
温敬公帰国道中留……1795標
温敬公親翰案文……2009標
隠顕名籍……3451標
御小小姓御用之覚……4527標
温古雑帖序……30(189)
温故雑録……2597標，2598標
温故集録……2530標
温故集録抄……2532標
温故集録之抄……2531標
御小書院絵図……3237標
御小書院御礼所之図……3236標
御小書院に於て諸大夫年寄中等御礼所之図……3240標
温故足徴……9035標
温故足徴抜萃……9036標
温故知新……2526標
御籠手・御踏込・御腰当図……8546標
御小物成方御改作所へ御附属被仰付候ニ付諸
郡定散小物成等書上一件……7431
御三棚御道具付……939標
御山麓田畑反別改下帳……7246標
御仕入酒造根元并願書……6592
御詩写……9610標
恩賜宇津保物語上笈之記……30(153)
恩賜絵巻記……30(153)
御式台取次御定……6129旧
御詩稿写……9645標
御地子米代銀請取綴……6639標
御下屋敷へ紀伊守様外御招之節御合奏之品目
……9904標
御下屋敷絵図……1465標
御下屋敷御出仰之節絵図……3301標
御借地等定……5006旧
園城寺文書（近江国）……30(125)
御添印帳之内ヨリ抜出之部……6399標
御高御仕法記……6754標
御高方留……7005標
御高免并定納口米夫銭等去ル子年迄年々分書
上之申帳……6613標
恩地聞書……7976標
御知行平均免被下方士列以上ニ而茂壱免下り
を以被下候分等之事……6998
御貯用米銀之覚等雑綴……4076旧
温知斉漫録……46標
御茶湯記録……9994標
御手留抄……4001標
御寺請取火消心得之覚書……4886標
御寺方御名代心覚帳……4374標
御寺方御名代留帳……4373標
御寺方御名代役前田図書覚書……4367標
御寺方等祠堂銭借請申証文帳等……5211標
御寺ヨリ野田マデ御行列附……1024旧
御長柄奉行勤方覚……4766標
御中屋敷辺火事に付御使番等へ被仰出候御触
……4401標
御中屋敷へ被為入候節御行列附……629標
御中屋舗近辺出火三ノ手罷越候一巻抜書……1461標
御中屋敷近辺若火事之刻御定……4872標

御中屋舗近辺若火事之刻御定書一巻……4874旧
御中屋敷諸事記……4745標
御中屋敷建場図……1456標
御中屋敷辻番所絵図……1458標
御長刀図……8534標
女芸者追剝一件上書……9509標
御根役所留帳抜書……6970標
御墓坊渡辺道清・岩崎裕玄・河合珎斉跡式願一件……6343標
御葬替遷宮旧記……6429標
御武具方……5746標
御仏殿等口上書……6397標
御筆被仰出之写……9459標
御間飾等之記……610標
御廻道筋覚書（石川県）……5946標
御廻道筋覚書（能美郡）……5943標
御廻道筋書上申帳……10073標
御廻道筋手絵図……10071標
御廻道筋見取絵図　能美郡……10072標
御廻道那谷寺等御道筋の図……10070標
御目録格……486標，488標
就御車山御書御印等写并古来より由緒書上申帳……6595標
御横目書付留帳……4798標
御横目方伺等之書抜……4857標
御横目方留帳……4858標
御横目公事場へ出役并言上古等手留……4862標
御横目心得方……2321標
御横目心得并御法度御定書……1899標
御横目所抜萃……2444標
御四代陽広院様御代以来小松町御奉行……6545
隠楽斎随意集……63標
蔭涼軒日録抄……8677標
御脇付御祝義方々より上ル帳……811標
御脇付御祝儀被遣帳……810標，811旧

か

外夷条約開港ニ付覚書……9388標
海外漂流年代記　後編……9207標
海岸為御意見分御公儀御役人堀織部正殿等御通行一件……1670標
海魚之毒気ニ付達……7514旧
外勤留……2234標
皆銀役仕法帳……5009標
海軍兵学寮規則　御達書共……9465標
会計局持南京米代指引帳……5203標
懐恵夜話……2633標
亥軒文稿……7770標
戒光院様御葬式御作法書……1059標
開港場所にて商売・蒸気帆船買入許可の公儀被仰渡通知状……9403標
開口風流御能御料理帳……10013標
外国御奉行御宿普請方并御朱印人馬余荷銀等諸雑用銀書上申帳……1673標
外国御奉行所御通行ニ付御台場等書上申帳…5978標
回国雑記（抄出）……30(176)
廻国上使一件……1654標
外国書翰和解……9365標，9375標
外国船相見へ候儀ニ付松平肥後守殿等ヨリ之届書写……9360標
外国奉行一巻……1668標，10069標
外国奉行通行之節右一巻ニ付テ之紙面及書出等入……1669標
外国奉行より差出候書翰之大意奉差上候事…9410旧
外国和親交易ニ付心得書……9415標
皆済状……5206旧
改作御吉例申渡等……6983標
改作方伺書……6992標
改作方覚書……6951標
改作方格帳……6909標，6910標，6911標
改作方旧記等三種……6929標
改作方旧記附録……6931標
改作方旧例……6958標
改作方勤仕帳……6912標，6913標
改作方公用集……6960標
改作方五考……7449
改作方御仕方留……6957標，6971標，6972標
改作方御条目之部……6934標
改作方雑記……6944標
改作方雑留……6954標
改作方諸法度……6908標
改作方諸文書覚……6956標
改作方書類綴……6991標
改作方其外諸事覚帳……6922標
改作方其外諸事留……6946標
改作方根元之儀取捌方伺状……6924標

改作方之儀ニ付笠間九兵衛一存……6918標
改作方之儀ニ付笠間九兵衛一存之趣調出候内
密之覚書……6918
改作方之儀根元之処いか様に取捌云々……6924旧
改作方類聚雑記……6955標，6959標
改作記録四種……6942標
改作雑集録……6928標
改作仕方書……6699標
改作始末聞書……6962標
開作仕様……7452標
改作所方書類綴……7379標
改作所旧記……6945標
改作所御仕法等一件……6698標
改作所諸届雛形……6923標
改作所達留……6984標
改作初年号等……5937標
改作枢要記録……6947標
開作内考……6998
改作根元旧記類集……6930標
改作奉行詮義書等……6988旧
改作奉行達書……6628旧
改作奉行勤方等留……6916標
改作奉行等達書……5835標，6645旧
改作奉行年中行事……6919標
改作奉行役儀之事……6914標
改作要録……6987標
介錯切腹壇囲附……9012標
海住山系図……30(156)
華夷十辨……4026標
廻状等留……4414標
会所銀御貸渡高并他国御使金高等……5214標
会所御用留……4724標
会所支配御扶持方御給金相渡帳……5219標
会所向等御入用誠精僉儀之義重而申渡候ニ付
向々ヨリ指出候紙面留……5035
海津駅より運送之諸品請取覚……4725標
海津御屋敷附邸地考……1392標
貝塚義右衛門先祖并親類附帳……2972標
海津藩第之記等……1542標
海津藩第之記等附絵図……1542旧
改正・御遠忌調理……3118標
改正五経一件上書……9599標
改正私記営法陣取図註解……8126
改正城取大意……8187
改正年頭御作法口決　同附録附図共……3267標
快雪堂法帖……9885標
開禅寺文書（加賀国金沢）……30(129)
鹿磯・黒島海境出入一巻……1573標
鹿磯深見両村山境海境絵図……1575標
鹿磯村等黒崎村海境争論一件……1574標
改田粂之助等養子願……3197標
懐中必用辨……3923標
開帳旧記・宝物弘通旧記……6376標
甲斐国巨麻郡……30(50)
甲斐国都留郡……30(50)
甲斐国八代郡……30(50)
改派旧記……6369旧
改派旧記・院林村常願寺改派一件……6369標
外舶来港等書類……9358標
懐秘要略……3943標，3991標
懐風藻（抄出）……30(177)
海防方一件……5852標
海防方御席ヨリ為御詮儀御尋ニ付絵図御達申
候写……5791標
海防方御手当就被仰付候諸事留……5846標
海防方愚考……5812標
海防方留帳書抜……5853標
海防基元……5815標
海防ニ付御意書等……5806標
海防備論……8564標
懐宝略武鑑……8960標，8961標
外務省日誌……9263標
海門寺々領給付状写……6513標
海門寺々領付写……6513旧
海門寺文書（能登国太田）……30(130)
改暦辨……9522標
戒和尚昔今録……30(87)
戒和尚之記……30(76)
嘉永・慶応風説書目録……9294標
嘉永三庚戌歳異国船雑記……5817
嘉永三年十月鹿島郡熊木組白浜村宇左衛門三
男巳之助ト申者稀成小児ニ付御広式へ御召出
手遊物等品々頂戴被仰付候一件……7290
嘉永四・五年吉崎村清四郎新開願所同村弥五
兵衛先達而願御聞届見込場所之旨同人申聞双
方詮義口書等一件　絵図弐枚添……7082

嘉永七年七月土川村忍性寺法話内講仕ニ付答書……6373
嘉永七年寅五月・当年大坂為御登米寺井御蔵御米川下造用等書上申帳……5073
嘉永四年亥三月御供人帳……3921
嘉永六丑年御軍役之義重而相伺候留并懸合一件……5308
嘉永六癸丑三月晦日於竹沢蓮池御大小将備押之次第……5687
嘉永六年七月御軍役之儀相伺候書取并控等入，留帳相添……5306
課役考……9424標
替毛之馬乗馬等ニ成分或ハ吉凶ヲ尋シ留……9524標
替地渡方しらべ帳……3535標
加越新開高覚……7070標
加越邨名……6014標
加越闘諍記……8702標
加越闘諍記写……6290
加越能え御領内扶持米給銭等調理高……7262標
加越能絵図調様品々帳……1581標，1582標
加越能絵図ニ添上リ申帳面之外御好之覚……1579旧
加越能絵図ニ添申帳……1579標
加越能御絵図被仰付候覚書……1578
加越能御絵図覚書……1578標
加越能御絵図ニ書記申川幅并深サ之覚等……1577旧
加越能御国絵図ニ関スル書類……1586標
加越能御郡方御定……6735標
加越能海岸港取調書写……5958標
加越能改作方旧例……6958
加越能各町戸数寺社等調……7255標
加越能鍛冶系図…… 30(159)，9821標
加越能刀鍛冶略伝……9822標
加越能軍記……5354標
加越能郡県録……1516標
加越能故事問答……2527標
賀越能古城考……9148標，9150
加越能古城跡略記…… 30(183)
加越能小物成帳……7154標
加越能古文書写……2560標
加越能三箇国絵図……1602標，1603標
加越能三ケ国社領寺領被下置候御印等之写……6474
加越能三ケ国宿駅御定之馬数……6058
加能越三箇国高付帳……1528標
加能越三箇国高物成帳……7021標
加越能三ケ国地理志料……6221
加越能三ケ国変地其外相改候目録……6063標
加越能三国郷村高六ケ年平均……7126標
加越能三州漆掻取事……7474標
加越能三州絵図……1611標，1612標
加越能三州御蔵橋社寺修覆等御入用一ケ年分調理帳……4718標
加越能三州御蔵橋等御入用調理帳……4717標
加越能三州御蔵橋并社寺方等御修覆御入用壱ケ年分調理帳……4718
加越能三州旧跡記事……~~8001~~，9046標
加越能三州銀座入払留……5078旧
加越能三州郡分略絵図……1608標
加越能三州御修理地神社仏閣并御寄附之社寺領高……6058
加越能三州古城考……9146標
加越能三州古城考　加賀州……9147標
加越能三州米銀納等并引免方之事……6998
加越能三州小物成調理……6602標
加越能三州細密絵図……1613標
加越能三州山川記……9018
加越能三州山川旧蹟志……9038標
加越能三州寺社家惣高并御国寺社領等……6473旧
加越能三州寺社方記……6468標
加越能三州寺社家惣高并御国寺社領暨御祈祷料……6473標
加越能三州諸郡町立并宿駅家数等……6058
加越能三州諸宗寺号イロハ早繰牒……6180標
加越能三州神号帳……6182標
加越能三州道程記……7626標
加越能三州之図……1604標
賀越能三州部分略絵図……1609標
加越能山川記……6058，9018標，9019標
加越能社寺来歴……6211標
加越能定小物成散小物成用米并酒造米高帳……6998
加越能城跡略記……9144標
加越能浄土宗寺号帳（如来寺）……6177
加越能諸街道絵図……7634標
加越能諸街道里数帳……7633標
加越能諸郡切絵図……1614標
加越能諸郡組分絵図……1607標
加越能諸郡組分絵図附越中四郡組分村名相調

理書上申帳……1519旧，1607旧
加越能諸郡図籍……1605標
加越能諸事考……5013
加越能諸寺々領等につき願書……6482標
加越能諸品出産根源録……7409標
加越能書籍一覧……10標
加越能諸湊家料人数等調……5957標
加越能神社考草稿……6214標
加越能神社帳江戸表江御遣候一件……6530
加越能租税資料……6996標
加越能村数覚……1523標
加越能村名記……5985標，5986標
加越能大全……2516標
加越能大全附総目録……2516旧
加越能大路水源記……9018
加越能地誌……9047標
加越能地理志料・社寺部……6221標
加越能同名村々帳……5987標
加越能等扶助人由来記……6874標
加越能之内替義共郡々致吟味書上申帳……6058
加越能之内数ケ村入会新開地所書上申帳……6061標
加越能之内珍敷事とも御尋に付書上ル写……9494標
加越能之内珍敷事共算用場江御尋ニ付書上ル写……6058
加越能本草調……7400標
加越能水野善政録……3896
加越能湊々高数等取調書……5956標
加越能名跡志……9045
加・越国高物成帳……7009標
加越和睦記……8703標
華押印譜……290標
加賀石川郡宿町記……5947標
画灰書……9216標
画灰書隔蘚論……9216
加賀一州式内社校正愚論……6236標
加賀越中境諸城里程図……5360標
加賀越中境取出里程図……5360旧
加賀越中能登湊々高数等取調理ケ條書……5956
加賀越中両国図……1615標
加賀春日山少彦名命刷碑……6379標
加賀金沢前田利家家譜……197標，198標
加賀記……2519標
加賀絹沿革記……7577標
家格之覚……2882標
下学老談……10098標，10099標
加賀古文書……2561標
加賀様御代附并富山様之御代々附之御事……6194
加賀司農庁年代摘要……6950標
加賀高松村浜へ漂流之舟様子書并絵図……7719標
加賀守様御参勤之節心覚……1860標
加賀守様御参勤之節於御旅館御尋等之趣心覚……1860旧
加賀守様御祝言付云々……831旧
加賀守様御祝言付方々ヨリ中納言様へ被進ル進物……831標
加賀守様御転任之節前田兵庫・松平大弐奉書……278標
加賀守様御領菅沢村・須能村・麻生村・黒崎村・多根村・平村・吉岡村・脇村・石動山ト土方河内守様御領糸境塚数之帳……1571
加賀守様御領土方河内守様御領糸境塚数之帳……1571標
加賀守様溶姫君様御婚礼一件……900標
加賀守領分往還筋道程等調理帳……7682
加賀国石川郡……30(50)
加賀国石川郡字土清水旧製薬所内三山平造開墾地同人払下願之絵図……5774
加賀国石川郡字寺津用水々路先堰等見取略絵図……7217標
加賀国石川郡河北郡，能登国羽咋郡鹿嶋郡凪至郡珠洲郡，越中国砺波郡射水郡婦負郡新川郡，近江国高嶋郡，之内寺料等郷村高其外取調帳……6479
加賀国石川郡三宮古記……6253
加賀国石川郡土清水村旧製薬所絵図……5756
加賀国永代御扶持高被下候人々……7264旧
加賀国越中国諸郡田地米ノ図……7064標
加賀国越中国能登国諸街道里数取調帳……7633
加賀国越中国能登国諸街道里数并領附村取調絵図……7634
加賀国江沼郡街道調……7639標
加賀国江沼郡高物成帳……7009旧
加賀国江沼郡能美郡之内郷村高辻帳……2715標，2716標
加賀国江沼志稿……9060標
加賀国海岸宿村家数人数等取調理書……5960標

加賀国寺社旧蔵寄附地絵図　6487標

かかの一かけは

加賀国加賀郡……30(50)
加賀国加賀郡小浜神社記……6268標
加賀国金沢区地誌・石川郡村誌……5938標
加賀国金沢之絵図……6019標，6020標
加賀国河北郡里程表……7641旧
加賀国旧蹟記四種……9037標
加賀国郡村仮名附帳……1517旧
加賀国郷村高辻帳……1538旧
加賀国郷村帳……1530標
加賀国古城跡之図……9152標
加賀国小松絵図……6034標
加賀国小松之絵図……1346
加賀国古文書……2561旧
加賀国産物志……7397標
加賀国所々天神社由来調書……6237標
加賀国神社録……6184標
加賀国図……1615旧
加賀国第三区石川郡上野新村旧弾薬所并牛坂村旧試検場絵図……5765
加賀国第三区石川郡野田村火薬庫地所絵図……5778
加賀国第十五区河北郡下田上村塩硝蔵地所分間絵図……5777
加賀国第十五区河北郡鈴見村旧鋳造所潰地絵図……5785
加賀国大聖寺絵図……7360標
加賀国大正持絵図……7360
加賀国大聖寺古図……7360旧
加賀国天神社由来……6237旧
加賀国陶器史料……9838標
加賀国能美郡赤瀬村用水二ヶ所并江筋見取絵図……7213標
加賀国能美郡内長田村御検地帳……6998
加賀国白山実測図……9065標
加賀国物産志……7398標
加賀国変地其外相改之候目録……6063旧
加賀州古城考，発以国書中書……9147
加賀能登之温泉……7412標
加賀羽二重……9497
加賀藩御定書……1890標
加賀藩勤王殉難士伝……3461標
加賀藩郡村仮名附帳……1517標
加賀藩刑事記録索引……4628標
加賀藩郷村高辻帳書式……1545標
加賀藩史一班……2537標
加賀藩史稿……2538標
加賀藩史稿批評……2558標
加賀藩所轄兵庫製鉄所始末……7596標
加賀藩史料……2541標，2544標，2547標，2548標，2549標，2550標，2551標
加賀藩史料索引……2546標
加賀藩史料編年目録……2539標
加賀藩史料編年目録（初稿）……2540標
加賀藩史料目録……2543標
加賀藩税法考……6994標
加賀藩忠魂録……3452標
加賀藩北越軍事輯録……5443標，5444標
加賀藩北越軍事輯録附属戦地図写真……5446標
加賀藩北征軍戦地図……5443
加賀藩領内寺料等郷村高之内山林迄取調帳…6484標
加賀藩領湊之絵図ニ付御達……5836標
加賀山代温泉記……30(60)
加賀渡辺氏御問条三件……8948
可観小説…… 2636標，10086標，10087標，10088標
書付略帳・江戸……4812標
書付之跡書……4797標
嘉吉乱記……8737標，8738標
書抜……2647標
柿本寺勧進帳……30(18)
書物留……5799旧
各願寺記（越中長沢）……30(17)
就学政修補櫓古定等……5900標
革政大意板垣退助談……9235標
客窓雑記……7789標
学則……9452
角谷与一郎等口上書……5979旧
格帳……2289標
於角場怪我人人高并痛所附……5797標
神代村神代神社神職水野春建……6322
革命四戦図断……8021標
鶴鳴先生記録……3495標
鶴林寺聖霊院縁起（播州）……30(14)
景勝公御一代略記……8849標
花月百首…… 30(178)
梯神社旧神職梅林郁太郎邸地旧藩寄附地絵図…6489
梯神社境内旧藩寄附地絵図……6489

梯天神社文書（加賀国）…… 30(110)
梯天神上梁文……30(11)
梯天神霊験記……6242旧
梯天神連歌（小松）…… 30(181)
勘解由内蔵助相達シ江府支配方諸役人名帳…2179旧
籠細工絵本……9814標
火災地震記録四種……7303標
河西遊記……9626標
笠師村喜八郎口上書等……4656旧
重之書秘伝……8321標
笠袋図……9843標
笠舞村相対卸地ニ付答書……6624標
笠舞村・上野新村御用地引高願……5766標
笠舞村組合頭口上書……6643標
笠舞村組合頭五兵衛等願書……5766旧
笠舞村組合頭三郎右衛門願書……6624旧
笠舞村地内飛地町元小人并小者方持地并屋舗
地歩数打立分間絵図……3608標
笠間儀左衛門家剣術之由緒……3357標，8404標
笠間郷游記……9778
笠松文書…… 30(138)
笠間村絵図……~~6099~~ 6090
火事一件書類……4975旧
家事一件帳……4606標
火事御行列御中屋舗ニ而建所絵図……4899標
火事御行列附……4898標，4904標，4911標
火事御行列附之内……4901標
火事御行列建方……4959標
火事御定……4869標
火事御定書……4876標
火事御出役御定書抜書控……4878標
火事方……4879標，4880標
火事方覚書等……4873標
火事方覚書并御参勤御道中御供之面々勤方等
……4890標
火事方旧記……4883標
火事方留帳……4889標
火事方武州本郷屋敷御製場図……4868標
遐邇貫珍……34標
貸金返納ニ付書付……3646標
火事御番之覚……4837旧
火事御番之割……4837標
家司職制…… 2053標，10076標
火事手建場中之口御門前図……4915標
火事ニ付小西吉左衛門書等……4799旧
火事ニ付堀与左衛門書等……4807旧
火事人夫立場之図……4973旧
火事家御貸米定……7296標
火事之節一ノ手へ罷出候御家老故障之節云々
……4900旧
火事之節御定……4940標
火事之節御定書之写……4877標
火事之節御人数被指出候儀従公儀被仰渡等之
趣等……4881
火事之節御留守中御定……4947標
火事之節御中屋敷御人数建方図……4909標
火事之節警備之回状写……4907旧
火事之節心覚……4950標
火事之節御前様御立退御行列……4960標
火事之節指出人数被仰渡趣等……4881標
火事之節定……4887標，4954標
火事之節四ノ手へ罷出候人々申談之留……4902
火事之節四之手御行列建方絵図……4908標
火事之節定人数配……6570標
火事之節新請取所絵図回状写……4907標
火事之節盗賊改役勤方帳……2373標
火事之節人数立場之図……4973標
火事之節罷出申覚……4951標
火事之節可罷出手向に付被仰出覚……4900標
火事之節申談之留……4902標
中屋敷近辺火事之刻御定書一巻……4874標
火事之刻非番出向之達……4836標
火事之刻非番之達……4836旧
鹿嶋郡鐙ヶ原村御救米願一巻……6967標
鹿島郡向田村籔目村四社旧記書上申帳……6281標
鹿島郡酒井永光寺屋敷囲墓地未進地御取上山
境筋并未進地境羽咋郡本江村地崎分間番杭帳
……6509
鹿島郡酒井村領字奥ヶ平御取上山境□同村永
光寺未進地境通りおよび円通院屋敷境等羽咋
郡本江村地崎分間番杭帳……6509
鹿島郡酒井永光寺境内除地文化元年の追加……6509
鹿島郡酒井永光寺屋敷囲墓地未進地御取上山
境筋分間番杭帳……6509
鹿島郡寺社先祖由緒并一類付帳……6323旧，6324旧
鹿島郡須曽村絵図……6100標

鹿島郡土川村忍性ニ法話指留ニ付
請書並長福寺添書…6373

鹿島郡須曽村八景之図……6101標
鹿島郡石動山社家先祖由来并一類附帳……6323標
鹿島郡石動山社家等先祖由緒并一類附帳……6324標
鹿島郡田尻村絵図……6102標
鹿嶋郡一青組舟尾村等入海ヨリ邑知潟迄川筋
等絵図面……7720標
鹿嶋郡深浦村五兵衛忰与六・三郎一件留……7386標
鹿嶋郡鳳至郡海岸測量方之届書……5837標
鹿島郡吉田村平次郎新開願ニ付指構申分一件
……7084標
鹿嶋図……6087
鹿嶋半郡御替地御蔵入ニ相成候節御仕置御條
数等御請帳面五冊目録壱通并宗門御改方案紙
共写……6783
鹿島村鹿島宮神職東四柳従五位政信……6325
歌集……9612旧
加州浅井縄手覚書……5378標
加州仇討濫觴……3506標
加州石川郡倉谷銀山之事……6058
加州石川郡鷹巣古城大略分間図……9164旧
加州石川郡西市瀬村領鷹巣古城大略分間図…9164標
加州石川郡松任城跡図……9163標
加州石川郡松任鷹巣両城遺跡考……9162標
加州石立浜之図……6088標
加州石立村絵図……6089標
加州御次日記……4286標
加州笠間村絵図……6090標
加州鹿嶋之図……6087標
加州金沢鋳物師伝書…… 30(141)
加州金沢学校張紙之写……5864標
賀州金沢城下町割正極之図……6021標
加州河北郡五ヶ庄朝日山之城跡附城由来……9166標
加州河北郡図……6068標
加州河北郡鳥越古城図……9169標
加州河北郡之内御絵図不審之所々……6058
加州河北郡松根古城図……9168標
加州北安田村絵図……6094標，6095標
加州家御次日記…… 172標
加州献納記…… 324
加州郡方旧記……6751標
加州少将殿馬記録等……5736標
加州小松城絵図……1342標，1344標，1345標
加州小松城画図……1345旧
加州小松城の図……1341標
加州小松八幡宮并能州羽喰郡一ノ宮由緒……6145標
加州三御郡稼往来道橋并渡船道川除等ヶ所間
数調帳……7629標
加州産物帳……7404標
賀州志……9052旧
賀州志三州地理志……9052標
加州寺社御普請所……6401標
加州松寿林中興碑記……30(17)
加州少将筆包紙……1266標
加州神号帳……6182
加州大乗寺来歴……6228標
加州津幡駅等伝書…… 30(142)
加州徳橋郷三十ヶ村等図……6084標
於加州改方咎申付候罪軽重并賊物取捌方等留
…… ……4604標
加州能州越中枝街道宿々道程并間村書上申帳
……7631標
加州能州越中寺社方并山伏等惣帳 ……6172標
加州能州海岸村々海立丁間等見取絵図……5828標
加州能州海岸村々村建等見取絵図……5828旧
加州能州新開御検地帳……7069標
加州能州水くさり御見立御検地帳……7047標
加州能美郡村松村物成之事……7020標
加州白山争論一件抜粋…… 10059
加州平加之図……6091標
加州本家領謂付日記……8661標
加州松任絵図……6092標
加州湊村文書…… 30(142)
加州宮保之図……6093標
加州名跡記……8610標
従加州羽州秋田迄道程等之覚……7657標
火術相伝之次第写……8444標
家乗……257旧，267旧
頭寺心得書……6165旧
頭寺心得之旨触状……6165標
花心院様御三回忌御香典云々等……1108標
花心院様御三回忌御香典等留……1108旧
春日於免男手合吹谷村出張交名帳……5452
春日社記……30(11)
春日社家日記抄……30(61)～(63)
春日神社由来記……6213
春日大明神垂跡小社記……30(11)

春日山陶器場之図……9839標
和宮様御参幸御行列附等……8949標
数火矢之巻……8441標
加須屋伝兵衛等書状……4820標
葛巻権佐一件……3486旧
葛巻権佐昌興一件……3486標
葛巻筆記抜書……9593標
葛巻昌興日記……3984標
葛巻昌興日記抄……9595標
葛巻昌興筆記抜書……9594標
葛巻昌興履歴并書翰等……3485標
葛巻昌俊墓碑……3484標
葛巻有禎伝……3487旧
葛巻有禎昌興伝……3487標
加勢火消中一手行列……4964標，4965標
紺方御仕法御触渡に付御達……7416標
紺方御仕法之御達……7416旧
紺方御仕法御触渡＝付心附之趣左＝御達奉申上候……7416
仮設楠正成下諸士教二十箇条……7793標
火箭書……8551標
家相方位図……7785標
片岡家所蔵旧記……3358標
片岡碧光所蔵日記……3358旧
片岡孫作筆録……5936標
片岡孫作文書……10102
片岡孫兵衛古文書……6658標，6659旧
片岡孫兵衛由緒帳抄……6659標
方々御屋敷之内若出火之刻公義火消衆＝御断可申入儀其外上野并御請取場へ罷出火消之儀被仰出留……4870
方々様御名等覚書……113標
方々様御引取一件……735標
敵討加賀風呂敷……9502標
潟魚毒気有之風説＝付達……7514標
徒鞍御伝雑志……8422標
勝閧対面実検見知……7994標
家中へ御貸銀に付達書等……5014標
家中御貸米・指上米・借知等覚……5209標
家中給人壱人前本高所付之帳……3663標
家中倹約方等御書立……4497旧
家中倹約に付定書……5043標
家中借銀高書上候様申渡書……4984標
家中之人々風儀に付御達……5052標
家中振舞之定……1925標
家中・町方風俗等取締触……6568標
家中屋敷内外にて喧嘩有之節之掟……4608標
勝尾半左衛門書状……3713標
学況沿革……5886標
学況沿革考拠書……5887標
学校へ御出之節絵図……5924標
学校へ御出之節伺公所図……5926標
学校沿革取調書……5885標
学校御定写……5863標
学校御定等……5870標
学校御触等留……5862標
学校方被仰出之写等……5871標
学校方覚書……5866標
学校方雑纂……5867標
学校方日記……5895標
学校記……5868標
学校図并表……5920標
学校惣囲絵図……5922標
学校等御出之節御行列附……630標
学校并武学校御開＝付御作法之次第……5865標
学校に関する達書……5873標
甲子聞書……2589標，2590標
甲子循環六十之図……9519標
甲子夜話抄……9287標
合衆国書翰和解……9372標
合衆国年表……8629標
合衆国伯理璽天徳書翰和解……9371標
勝次郎様附坊主由諸一類附帳等……2936標
勝次郎様附坊主由緒一類附并宗門帳……2936旧
合戦備押……5626標
甲冑三職誌……8542標
甲冑兵器身度量之書……8538標，8539標
甲冑辨……8543標
甲冑良工諸家系図……8544標
勝千代様御附被仰付……2151標
勝千代様御附等覚書……2151旧
勝千代様御縁組＝付御使相勤候節之覚書……959標
勝千代様御参府見聞志……2648旧
勝千代様御誕生日記……415
勝千代様御年表……415標，416標，417標
勝千代様御用絵図……791標

勝千代様初テ被遊候御能組……9940標
勝千代様宮腰へ御鷹野御出之図…… 745標
勝千代様両学校へ御出之節御次第……5925標
勝姫様御婚礼御規式御用一巻……867標，868標
勝姫様御婚礼御結納皆子餅留帳書抜…… 870標
勝姫様御婚礼留帳……874標，875標
勝姫様御入輿御当日御客…… 876標
勝丸様御宮参御作法…… 781標
勝丸様御宮参御作法書・御行列附等之控…… 784標
勝丸様御宮参御作法書等…… 784旧
勝丸様御宮参ニ付諸事伺等之留…… 783標
勝丸様御宮参之記…… 782標
勝丸様・亀次郎殿・御姫様方・繁姫様・勢之佐殿御目録格…… 447
勝丸様・亀次郎殿等御目録格…… 447標
勝丸様出府御供表勤方留帳……1755標
勝丸様初而御出府御供相勤候節表方留帳抜書……1755旧
蔓尻籠寸尺之図……8518標
蔓尻籠寸法之図……8519旧
蔓尻籠弓台寸法之図……8519標
桂田行忠書状等……8641標
桂田行忠等書翰等……8641旧
花伝書……9911標，9912標
角家調理絵図……6026標
加藤覚書……6782標
加藤覚書四種……6784標
加藤系図…… 30(157)
加藤家系図……2974標
加藤家祖伝……3359標
加藤恒意見書……9240標
加藤氏日記……6785標
加藤治兵衛口上書……3633旧
加藤治兵衛願書……3633標
加藤恒三郎心覚……9462標
加藤豊房意見書等……9212標
加藤豊房大学講案……5903標
加藤豊房留記……5868
家督被仰付覚……3176標
家督相続一巻……3146標
家督ニ付口上書……3184旧
河図等……7768旧
河図洛書……7768標
金石庄町丸屋伝四郎方絵図……6672標
金石町旧記……6591標
金浦町組合頭喜兵衛願書……6623旧
神奈川沖に於ける英船之状勢報告写……5826標
神奈川・長崎・箱舘へ出稼又は商売致度ものニ付達……9403旧
鋳河宮書物……6286
金沢穴生方伝書…… 30(141)
金沢家柄町人由緒……6650標
金沢泉野寺町宝集寺由来書……6222
金沢板橋間駅々里程表……7672標
金沢江戸間山川記……7663標
金沢・江戸間止宿調方日記……1743標
金沢江戸御平生等御合紋帳……2047標
金沢御城御焼失一件……6837標
金沢御城之図……1281標
金沢表御布告大概……1961標
金沢火事方覚書……4893標
金沢学校創立記……5876標
金沢観音町西源寺願状……6482
金沢京師へ之御用状繋……1975標
金沢御城下より京都迄西街道筋御備人足御仕法書……7697標
金沢古蹟志……9055標
金沢古蹟誌抄……9056標
金沢古蹟志目録等……25標
金沢古蹟志目録外……25旧
金沢後藤系図…… 30(159)
金沢後藤象眼師系図…… 30(159)
金沢才川仇討話……9497標
金沢才川々下之景……9059標
金沢雑記……2284標
金沢侍帳……2795旧，2796旧
金沢寺院由来……6216標
金沢市中旧記……6575標
金沢市中古文書…… 10102標
金沢市中町名寄……5981標
金沢城石垣ニ関シ幕府へ上申覚書……1292旧
金沢城石垣につき幕府へ上申覚書……1292標
金沢城絵図……1291標
金沢城絵図覚書……1293旧
金沢城絵図仕立につき覚書……1293標
金沢城御作事所絵図……2079標

金沢城覚……1279旧
金沢城金谷御厩図……2081標
金沢城下堀川口之図……6027標
金沢城下町之図……6022標
金沢城下町割之大図……6024標
金沢城下ヨリ越中国境川迄名所道程……6058
金沢城玉泉院様御丸絵図……1321旧
金沢城源録……1271標
金沢城御本丸焼失記……8642旧
金沢城作事所絵図……2078標
金沢城三之御丸絵図……1314旧
金沢焼失図……7298標
金沢城下台所并会所割場等絵図……2071標
金沢城焼失記……1276標
金沢城図……1295旧
金沢城薪丸絵図……1319標，1320標
金沢城建物起絵図　甲号……1285標
金沢城建物起絵図　乙号……1286標
金沢城建物起絵図　丙号……1287標
金沢城建物起絵図　丁号……1288標
金沢城中地面高低附……1294標
金沢城中地割絵図　甲号……1282標
金沢城中地割絵図　乙号……1283標
金沢城中地割絵図　丙号……1284標
金沢城土橋御門并御番所絵図……2068標
金沢城等覚……1279標
金沢城二之丸御式台絵図……1304標
金沢城二之丸御守殿御供建方絵図…… 728標
金沢城二ノ丸御殿御次内巨細絵図……2066標
金沢城二之丸御殿図……1301標
金沢城二ノ丸御殿文化焼失以前之図……1299旧
金沢城二ノ丸座舗之図……1298標
金沢城二之丸転席方絵図……2067標
金沢城二之丸二重塀鉄砲挟間之図……1316旧
金沢城二ノ丸之図……1302標
金沢城之図……1280標，1290標
金沢城橋爪御門・鶴之丸塀鉄砲挟間之図……1316標
金沢城東之御丸・御本丸絵図……1296標
金沢城本丸・東之丸の図……1295標
金沢城本丸・東丸之図……1297標
金沢城類焼後御普請等被仰付候絵図……1289標
金沢図……6023標
金沢専光寺并隠居所等寺号帳……6178
金沢善福寺・瑞泉寺并配下寺号帳……6178
金沢大工伝書…… 30(141)
金沢舘紺屋文書…… 30(142)
金沢田町通附近図……6032標
金沢長寿録……7284標
金沢町人家蔵文書……6651標
金沢堂後屋文書…… 30(142)
~~金沢等御寺絵図……6139標~~
於金沢御発駕前奥御納戸兼帯被仰渡候者心附
可申品々……4768
於金沢御供方…… 624標
金沢西末寺并触下寺号帳……6178
金沢俳優伝記……9906標
金沢藩御届書綴……1977標
金沢挽回策……9442標
金沢藩学校絵図……5919標
金沢藩管轄中式内神社調帳……6183標
金沢藩御扶持人帳……7267標
金沢藩職制……2052標
金沢藩知事賀正状控……3975標
金沢藩知事前田慶寧御伺並達書……1978標
金沢藩知事前田慶寧履歴等…… 262標
金沢藩内外御扶持下賜人及扶持高記録……7267旧
金沢藩之内社料等郷村高其外取調帳……6487標
金沢藩銘士記……2811
金沢東末寺并配下寺号帳……6178
金沢人持五組長……2089標
金沢方角之図……5984標
金沢町御扶持人……7268標
金沢町会所御用留……4723旧
金沢町方御用留……6580標
金沢町方諸法度……6562標
金沢町肝煎裁許分ケ之図……6600標
金沢町米商成立濫觴……7619
金沢町米商成立濫觴等取調御届書……7619標
金沢町中御法度之帳……6560標，6561標，6563
金沢町中法度書等……6563標
金沢町人馬賃銭并道程書上申帳……7689標
金沢町数人口調……7256標
金沢町惣家数等……7257標
金沢町名寄……5981旧
金沢町奉行……6540
金沢町奉行旧記……6540標

金沢町奉行達書……3550標
金沢廻御用地村々銭納奉願申帳……6642標
金沢道橋帳……7635標
金沢道橋帳写……7636標
金沢文書…… 10101標
金沢安江神社由緒調査書……6235標
金沢山之上町三丁目二十七番春日社地并元神
職高井真幸居宅地絵図……6494
金沢山之上町三丁目二十七番屋敷春日社地并
元神職高井真幸居宅地共略絵図……6494
金沢山之上町三丁目二十七番屋敷神田社元神
職高井真幸境内区分略絵図……6494
金沢より京都まて道中名所記……9773
金沢より京都迄西街道筋御備人足御仕法書…7697旧
金沢より到来書留……5585標
金沢両大橋架始・架替之件……7637標
金沢六家戦……7353標
金平村遊泉寺村鍋谷村金山濫觴……7543標
金平山御給銀并余番間時等人別調理書上申帳
……7561旧
金平山惣御入用銀等調理書上申帳……7560標
金平山山師御給銀等碁紙……7559標
金平山山師給銀并余番間時等人別調理書……7561標
金広日記留……7331標
鹿波村八幡社神職森川伊勢政富……6326
金森家譜……8793標
金森系図…… 30(157)
金森氏略年譜…… 30(157)
金谷御広式絵図……1326標
金谷御文庫辺粗図……1332標，1333標
金谷御屋舗御亭平起絵図……1331標
金谷御屋舗諸事覚書……4316標
金谷御殿絵図……1327標，1330標
金谷御殿御能番附……9932標
金谷御殿近辺火事之節定書……4906標
金谷御殿御門番勤方……2434標
金谷御殿出席日記……4318標
金谷御殿并御広式惣御絵図……1328標
金谷御殿に於て頂戴物等図……3316標
金谷御番所并七疋建御厩等絵図……2070標
金谷御門御番所留帳写……4515標
金谷文庫巡見之留……4361標
金山方諸事留帳……7563標
従金谷被成下御親翰等之控……1254標
鐘貝太鼓制法……5623標
金川宮記全……6286
金子氏覚書……2582標
加能越郷村高辻帳附近江国高嶋郡之内……1545旧
加能越古文叢…… 10028標
加能越三箇国郷帳……1529旧
加能越三ヶ国高辻帳原稿……7007標
加能越三箇国并近江国高嶋郡之内郷村高辻帳
……1529標
加能越三ヶ国并近江国高嶋郡之内郷村高辻帳
……1531標，1532標，1533標，1534標
1535標，1537標，1539標，1541標
加能越三箇国村御印之留……7019標
加能越三州海辺筋村建等分間絵図……6110
加能越産物方自記……7413標
加能越所産薬種考……7589標
加能越里正由緒記……6870標
加能七郡高免……7120標
加能城址集覧……9151標
加能十村等由緒……6873標
加納村常通寺居屋敷打渡一件……6521標
加能両国絵図……1610標
加能両国郷村高辻帳……1538標
加能両国高物成帳……7008標
加能両国当寺配下寺院改帳……6177
鹿野村天満宮森井長門……6327
蒲御厨神明社文書（遠江国） …… 30(105)
加藩月暦譜……2465標
加藩国初遺文……2533標
加藩国老叙爵考……2898標，2899標
加藩御座舟歌集……9707標
加藩雑記……2671標
加藩諸事雑記……2535標
加判并江戸御留守詰被仰付候日より諸事聞合
覚書……4191標
加藩宝貨録……9435旧
家譜……2990旧，3079
加府大坂陣日記……5409標，5410標
加府事跡実録……9058標
家譜抄録……3056旧
甲村加夫刀比古神職大橋従五位久盛……6325
貨幣大概……5077標

河北・石川・橋爪御門繰出方之事……2431旧
河北石川与力番所十分一之割……9576
河北・石川与力番所図……9576標
河北潟御鷹野御休所…… 748標
河北潟水戸川形之義ニ付取極書……7222標
河北郡請高新開根帳……7074標
河北郡絵図……6069標
河北郡太田・中条村之図……6097標
河北郡御貸米五拾ケ年賦日印帳……5231標
河北郡御貸米日印帳……5232標
河北郡海辺村々家数人数等書上帳……5963標
河北郡潟端新村全図……6098標
河北郡苅安村百姓持宮一件……6190
河北郡川尻村新開田刈込一件……7078旧
河北郡川尻村新開願……7077標
河北郡川尻村新開場所稲刈込一件口書……7078標
河北郡河原市用水図……7223標
河北郡七組之内御絵図面相洩申村々并相違之ケ所等書上申帳……6059標
河北郡新開高免帳……7075標
河北郡図……6068旧
河北郡第十五区村々変地絵図……7108標
河北郡津幡弘願寺へ冷泉家よりの御消息并びに御返答の詠歌及び由来の写……9037
河北郡内潟猟業相用候網等之外猟業不致義被仰渡御請帳……7516標
河北郡二俣村より井波町・八ツ尾を経て石掛迄之見取絵図并道程書……7642標
河北郡二俣村ヨリ砺波郡井波町夫ヨリ金屋岩黒村覗戸峠通八ツ尾町へ入込土玉生村花房村夫ヨリ富山御領境字石掛マテ之道筋見取絵図…7642
河北郡松根古城図……9167標
河北郡御門村広勝寺江同人妹引請方一件……6530
河北郡村高帳……7075旧
河北郡村々之内鳥類等打捕申村名書上申帳…7527旧
河北郡薬師村本興寺絵図……6428標
河北郡山入村々之内作物ニ障候鳥類等打捕申村名書上申帳……7527標
河北郡吉原村へ御渡置候焼刃土取場一件旧記……7595標
河北御門下城之節駕籠居所之図……4524旧
鎌倉田代観世音，腰越万福寺略縁起……7746旧，7747旧
鎌倉宮御伝記鈔……8898標
鎌倉兵乱記……8711標
鎌倉頼朝奏状案…… 30(8)
鎌倉流家之指図……9566標
鎌倉流屋形之図……9566旧
神尾系図……2975標
神尾氏系図……2976標
神尾氏系図抄……2977標
神尾氏等判物写……2934標
神尾文書……3360標
上方諸寺院捜索書……6151標
上河内組村々巨細書……5945標
上清水村等寄肝煎三郎兵衛書付写……6000旧
上新川郡最勝寺宝物并蜷川家由来書……6298標
上新川郡八拾八歳以上之者扶持宛行名書等…7288標
神谷家譜……2978標
紙屋庄右衛門所蔵文書…… 10101
嘉明記……8070標
亀井隠岐守上書……9227標
亀田綾瀬書蹟……9731標
亀田伊右衛門所蔵文書…… 10101
亀田乙鉄郎所蔵文書…… 10101
亀田大隅守武勇事并感状等……5426標
亀田氏旧記……6660標
亀田純蔵由緒帳……6661標
亀田豊善系図……6662標
従亀谷到有峰道程見取之図……7656
亀谷ヨリ有峰マデ道程見取之図……7656標
亀鶴姫様御事蹟旧記抜書…… 379標
亀廼尾廼記……9057標
亀丸殿御髪置記録…… 800標
亀山久磨朝延江御礼献上方一件……6337
蒲生家録……8685標
加茂社家日記抄附加茂社領旧記調書……30(64)
賀茂別雷神社文書（山城国）…… 30(104)
加陽足軽由緒記……2938標
加陽隠見抜萃……2520標
加陽御備定……5632，5633，5634標
加陽旧伝……2673
加陽金府……2505標
賀陽御軍相……5323標
加陽小姓組……2312標
加陽御年譜……154標，155

加陽細工所始末……2176標
加陽史記……2463標
加陽袖珍略記……83標
加陽諸家系図……2925標
加陽書札留……576標
加陽諸士系譜……2924標
加陽諸士系略記……10036
加陽諸士言行筆記……3450標
加陽諸士言行筆記抄……3444標
加陽諸士本末系譜略記……163標
加陽諸士本末系譜略記……10036標
賀陽真家嫡庶類葉法号菩提所……1184
加陽備考……5632標，5633標，5634
加陽染手綱古今御城煙焼記……1275
加陽忠孝実録夢……3496標
加陽年代要覧……2460標
加陽抜萃……2643標
加陽人持先祖……2916標
加陽分限帳……2792旧
加陽武将……2812標
加陽風土記……2637標
加陽宝録……3221標
加陽老臣武功……3454標
加陽老臣武功之抄……3453標
唐崎松の記……30(176)
唐崎松下影向之記……9757
唐崎松之記等……9757標
烏丸家文書……30(133)
狩谷之文……9724標
家老并人持組家譜……2915標
家老若年寄等前録……2128標
家禄減俸之義留……2874標
暇勒長鑑……8958標
下禄難渋人救恤に付被仰出書……5011標
家禄奉還人名伊呂波寄……2821標
河合覚書……6828標
河合録……6927標
川上芝居一件抜書……9907標
川上芝居書類九種……9905標
川上伝書……30(139)
河上文書……30(138)
川口常吉歎願書……5222標
川砂利取候一件……6191
蛙の問答……9224標
河瀬雑記……160標
河瀬氏由緒帳……2980標
為替所上納書……7598標
河瀬新左衛門先祖由緒一類附控……2979標
河瀬六郎左衛門隠居仰付書……2981標
河地三弥口上書写……4676標
河内守様・内匠様御名御判物等奉頂戴覚書等……4075標
河内国高安郡……30(49)
河内国風土記……30(47)
河地平左衛門書状……7016旧
谷内村樫原北代比古神社六社大明神神職鷲嶽出羽定俊……6326
河波有道事蹟……3488標
河原波金山山師居屋舗一件……7551旧
河原波山師屋敷之事……7572
川水源流末橋々名所旧跡等調理廻状等留……5950標
河道考……9439標
河村昌守書状……3714標
河原系図帳……2982標
河原波金山ニ付口上書写……7548旧，7550旧
河原波かね山山師居屋敷拝領願……7550標，7551標
川渡場役人勤方帳……1855標
官員録……8978標
寛永卯月廿六日於江戸御下屋敷両上様中納言様御成次第御道具御飾之目録……464
寛永間古文書写……2567標
寛永元年侍帳……2802標
寛永紀聞……2575
寛永行幸記……8927標
寛永系図……74
寛永系図医師抄等……8774旧
寛永系図抄等……8774標
寛永寺文書（武蔵国東叡山）……30(125)
寛永十九年々頭御礼帳……3257標
寛永正保間年譜……2462標
寛永賊罰往来諸章……8756標
寛延弐年二月由来御改帳……6255
寛永前田家系図伝……30(155)
寛永四年侍帳……2798標，2799標
寛延四年留……3754標
鑑戒談叢……7796標

管窺筆録初編草藁……7762
菅君栄名記……158標，159標
菅君栄名記　異本…… 147標
菅君栄名記　追加…… 10032標
菅君栄名記　追加二…… 10033標
菅君雑録…… 297標
菅家遺誡…… 30(169)
菅家一類続柄補…… 106標
菅家浦壁系図伝…… 30(155)
菅家系図……8825標
菅家系譜…… 180標
菅家見聞集……2499標，2500標
菅家見聞集追加……2502
菅家見聞続集……2501標
菅家御詠集……9647標
官家御応接方…… 537標
観月亭記…… 30(175)
菅家之御系図……73標
菅家文草并後草…… 30(177)
菅家要録…… 298標，5370，5372標
菅家要録大正寺浅井縄手軍記……5372
菅家累譜…… 178標
菅家類符集…… 151標
菅家累譜抜萃…… 179標
翫亟…… 42標，10030標
菅綱記……226標，227標，3145
菅公丞相并菅祖正伝…… 150旧
菅公須磨記……9743標
菅公正伝…… 150標
寛坐之大事伝受之記……7732標
元治改正都羽津根大全……9130
元治元年京都ノ変旧長州藩留守居役タリシ小島弥十郎（故椿孝之）ヲ九門外へ脱セシメタル顚末及ヒ同人ヨリ預リシ短槍ノ由緒……9338
官私随筆……4199標，4200標，4214標
官事拙筆……4245標
官事拙筆　目録……3859標
元日御太刀御献上絵図…… 511標
観樹院御葬式之記……1047標
観樹院様御葬式絵図……1050旧
観樹院様御葬送一件……1048標
観樹院尊骸天徳院着棺前後留……1049標
館住群伯……8970標
観樹公御葬式御法事留……1142標
観樹公御夜話…… 408
観樹公言行録……408標，409標
勧修寺縁起……30(14)
勧修寺家文書…… 30(133)
菅儒侍読臣之年譜…… 30(8)
監職秘稿……2383標
官職浮説或問……8924標
官署私徴……2870標
感神院文書（京都）…… 30(121)
観心寺縁起実録帳……30(15)
観心寺文書（河内国）…… 30(125)
勧進能番組……9948標
寛政十年詰人高しらへ帳……5212標
寛政中御郡方留……7351標
寛政度御刑法帳……4616標
寛政二年長谷観音祭礼之節御固罷遣候一巻……4639
寛政八年十月指急候御用ニ付江戸表江発足之砌道中中仙道追分宿等人馬指支候ニ付御届ニおよび候所道中御奉行根岸肥前守殿江御呼出一件留……4765
寛政文化間日記……4167標
寛政六年以来諸郡御貸米調理等……5225標
寛政六年御郡奉行へ年寄衆より被申渡候写并右之趣前方公事場へ内談有之ニ付相達候紙面之写……6686
寛政六年僉儀ニ而取捌方相改候以後追々僉議を以向後之事相極候趣此帳ニ記置可申候事……4582
艦船修理につきロレイロの書簡……5157標
観前堂ヨリ御火屋迄被為入候御行列……1015標
閑窓記跋……9717標
菅相公逸伝……8895標
間窓筆娯……9242標
間窓筆娯余録……9243標
間窓夜話……52標
緩帯篇……9073標
神田御上屋敷等考……1400標
甕谷郷游記……9778，9784標
神田御前様入用帳…… 838標
神田神社及摂社別宮末社記……6213
貫知行軍役内考……8078標
官地論…… 30(162)
鑑定書……9830標

寒天一条下書……5183標
閑田文草……9723標
関東御規式……8986標
関東御儀式……8985標
関東筋出水一件……9531標
菅利家卿語話…… 329
管内寺院取調書……6187標
諫忍記……8844標
神主跡職願帳……6332標
神主受領等願添翰留帳……6529標
神主職願・御許状写……6334標
観音寺中祭礼ニ付申渡等留……6386標
観音院へ御参詣御帰路奥村伊予守屋敷へ御立
寄御道筋之図…… 648標
寛文以降御定書……6730標
寛文御定書……1927標
寛文格・貞享格仕立申目録……7012旧
寛文九年従加賀守様佐々木道求ニ大坂一巻御
尋ニ付申上ル覚書……5416
寛文九年佐々木氏大坂物語……5417
寛文五年諸事覚書……3911標
寛文三年牢舎人帳之内抜書……4682標
寛文十一年士帳……2803標
寛文中役割等……2045標
寛文東行記…… 30(180)
寛文弐壬寅年，寛文七丁未年，寛文十一辛亥
年三度御城石垣崩口之儀公儀へ被仰上候覚……1292
寛文年中御請留抜書……6817標
寛文四年より貞享元年迄村名付申新開所之覚…5988
寛平御遺誡…… 30(1)
神戸家系譜……2983標
神戸文書写……2984標
寛保二壬戌年十月十九日御老中方御招請之節
御白洲奉行相勤候留帳……4640
寛保宝暦間覚書……4147標
顔柳ニ公合集……9881標
漢隷字源……9798標
顔魯公帖……9878標
甘露寺家文書…… 30(133)

き

祇園執行日記…… 30(161)
聞合之品諸事留帳……4190標，4216標
聞書……2579標，8838旧
奇魚之図……9543標
儀礎記二種……7320標
菊園遺芳……9619標
菊花譜……9669標
菊池家系図并肥後仕置始終之覚書……8794標
菊池文書并系図……2985標
寄蛍懐旧歌……9679標
貴号・貴字・御別号……9793標
紀行五種……9747標
紀行七種……9776標
戯鴻堂帖……9870標
熙康暦……2891標
熙康暦附熙康小鑑……2891旧
癸巳救荒録……7327標
癸巳甲午越年使役日記……2612標
癸巳雑志……2609標，2610標
騎射中日記……5671標
騎射願書……5898標
紀州様御使者一巻…… 553標
義熟兵舎開建願之事……9238標
起請文前書……2271標
貴人高人之前ニテ馬乗様之次第聞書……8423標
貴賤花押目陸……8605標
貴賤当国雑志……2595標，2596標
棋僧快禅小伝…… 10018標
岐蘇紀行……9747
木曽路記……9760標
木曽路紀行等……9774標
木曽路御帰国御遷中御行列帳……1748標
木曽路乃記……9771標
木曽願書写……6250
木曽義仲白山願書写……30(11)
木曽義仲願書写……30(11)
北川亥之作君弔文……3489標
北川系譜……2986標
北州略記……8609標
喜多志神事考……6389標
木多師神事考……6389
祇陀寺文書（加賀国）…… 30(129)
祇陀寺由来等調書……6225標
来田新左衛門書翰……3715旧
来田新左衛門書状継立……3715標

北野大茶湯之記……30(183)
北御居宅御住居替絵図……1438標
北之御居宅諸事留抜帳……4317標
北御居宅惣絵図……1437標
北野神社文書（武蔵国）……30(104)
北野神社文書（山城国）……30(105)
北野天満宮御宝剣御箱等御図り書……6316標
北村母米寿祝之札……7291標
北村与右衛門等願書……7170旧
北安田村絵図……6094，6095旧
北安田村春日社古松之絵図……9077標
北山行幸記……8922標
吉凶贈答及賓客饗応改良按……9486標
喫茶養生記……30(172)
狐鳴弦之事……8367標
祈禱太刀受用法等……8415標
木滑御定書……7675標
絹御仕入銀利足之内御用捨等之義ニ付御書立
を以被為仰渡之御請帳……7417標
木下順庵書翰集……7771標
紀広純女吉継墓誌……30(152)
騎馬御供之節御行列附……1040旧
木場潟周辺大聖寺藩界図……6086
吉備戦話戝録……8740標
吉備前鑑……9136標
貴布禰神社文書（山城国）……30(105)
騎兵操練書等……8575標
騎兵徒歩演習……8576標，8577標
己卯雑志……9269標
己卯雑志一……9268標
奇妙譚……3642標
客間飾付……3630標
旧加賀藩勤王殉難士事蹟添書……1268標
旧加賀藩士前田晋等勤王事蹟及添書……3462標
九箇条裏之伝之内……8192標
九ヶ条聞書……8194標
九ヶ条記聞……8195標
九ヶ条集解……8196
九箇条疎註……8175
九ヶ条粗註……8186標
九箇条秘伝精解……8193標
旧金沢藩事蹟文書類纂……2559標
旧金沢藩士由諸抜書……2933標
旧金沢藩証印物写……6486標
旧金沢藩諸師範人姓氏録……5896標
旧金沢藩兵警衛出張持場等調書……5597標
旧金沢藩元鋳造所外六ヶ所地取調……5781標
旧記……2328標，2644標，4707旧，6540旧
6547標，6780旧，8603標
旧記・御作事方留帳……4707標
旧記御定写……2044標，2259標
旧記帳……6685標
旧記等抜書……2761標
旧記并書籍調帳……13標
旧記抜書……2578標，2642標
求旧紀談……30(164)，351
旧気多社宮司桜井家文書……6270標
九州紹運記……8752標
九州上使巡見惣中行程……9140標
九州兵乱記……8752
九拾六騎備行営城分間略図……8152標
弓術御覧所絵図……5790標
弓術秘書聞書……8329標
旧条記……4609標
久昌寺記（金沢堀川）……30(17)
九城之図……8230標
旧神職由緒帳……6322
鳩巣小説……7757標
鳩巣不亡鈔……7756標
杞憂譚……9221標
旧伝城取七枚之図……8276標
弓道請書……8356標
弓道内田氏工夫之巻……8418旧
弓道群規矩之書……8291標
弓道三国相伝……8295標
弓道初心者心得……8334標
弓道神道之大事……8357標
己酉道中覚……9747
弓道秘伝書……8289標
弓道日置流許目録……8318標
旧富山及大聖寺領漁業一件書類……7524標
旧富山侯家乗……1471
旧富山侯家譜等三種……1473標
旧富山藩学制……5933標
旧富山藩士佐脇氏譜略……3895標
旧富山藩水損凶荒留記……7355

緒

旧七日市藩悄一斑……2735標，2736標
己酉廿弐城之図……8228
弓馬初心集……8485標
旧藩遺文……2534標
旧藩士本多政以等万石以上十二家祖先以来事跡……3338標
弓法相伝申免状之事……8344標
旧邦記……2661標
弓法聞書……8350標
弓法聞書条々……8293標
弓炮三隊操練図式……5686標
弓法書……8351標
弓法書中之不得意箇条ニ付答書……8303標
弓法相伝申免状之事……8345
弓法得道和歌……8417旧
弓法免状……8345標
旧本題享保録……2632
旧本和名類聚抄（駅家部自畿内至西海道）…30(52)
旧本和名類聚抄（郷里部自畿内至西海道）…30(53)
給糞中勘銭請取帳……3659標
旧領地租税録……7129標
旧例抜書……3204標
禦夷愚策……9220標
御意帳……552標
御意之趣書抜……2025標
教育沿革史……5883標
教育史料……5883
経王寺境内絵図……6417標
狂歌……9705標
狂歌一首……9706標
狂歌集……9702旧
狂歌等写……9704標
教歌百首……30(171)
教家要語……7797標
教家要語・訓戒数類左右銘……7797
享元塵餘志……7395標
校合雑記……8836標，9598標
暁困雑記……7965旧
暁困雑記　軍学故受用……7965
凶作ニ付納米吟味方之達書……7169標
行状并倹約御書出筮拝借書上云々……5042標
京都一件……9347標
京都一件帳抜書……5578標
京都江戸能役者名書……9970標
京都御借財根帳……5260標
京都御立寄之一巻……1745標
京都御所司代御式台留之抜書……9326標
京都加賀屋十右衛門続書……8824標
京都金石文集抄……9890標
京都建仁寺図……5582標
京都見聞日記……9397旧
京都御警衛出張等之荒増……5551標
京都御公辺書之内書抜……451標
京都御守衛御備向御内定御絵図……5572標
京都御守衛覚書……5562標
京都御守衛御条目……5581標
京都御守衛御人数配絵図……5574標
京都御守衛諸事覚書……5561標
京都御守衛ニ罷登候ニ付諸事覚書……5561，5562
京都御守衛之達書……5579標
京都御守衛要用書抜……5583標
京都御所之図……9132旧
京都御用相勤申節之日記……4752標
京都御用状等内写……4756標
京都守衛雑記……5550標
京都守備一件の書状……5526標
京都将軍家譜之内抜書……8763標
京都将軍家譜略評……8760標，8761標，8762標
京都詰中御用留……4548標
京都詰中手留……4758標
京都詰中内状等留……4753標
京都詰中日記……4758旧
京都詰中風説書……9340標
京都大変長州一条風評書……5552標
京都知恩院宮御使僧御国通行一件……6149
京都町人従高畠勘兵衛御当地真野宗古方ニ来候紙面之写……7612旧
京都并江戸表など変事風説書等……9312標
於京都御認上ニ成候御国情之写……3965標
郷土に関する和歌俳句等……9618標
於京都御届等品々……5577標
郷土俳人句集抄……9696標
郷土俳人伝抄……9695標
京都引取ニ付筑前守様へ被渡候書付写……5559標
京都風説……9325標
京都風説書……9345標

京都法華宗妙顕寺等通行旧記……6149
京都向等上書之写……9223標
京都ヨリ出る所ノ書……9321標
京都ヨリ由来書写……9330標
凶年之節窮民為救出候願書写……7325標
経念村古麻志比古神社青木助之充……6327
恭敏公御詩……1265標
恭敏公賀正書控……3975旧
恭敏公帰国覚書……1831標
恭敏公勤王一件聞書……423標
恭敏公御家乗草稿……260標261標
恭敏公御帰国日記……1829標
恭敏公御参府書類……1816標
恭敏公御事蹟しらべ……421標
恭敏公御上京一件……5587標
恭敏公御昇進一件……284標
恭敏公御退去一件書類……5553標
恭敏公御東行可否一件……5546標
恭敏公参府覚書……1819標
恭敏公参府泊附等……1825標
恭敏公私印用法……292標
恭敏公手蹟等……1264標
享保革命前後略志，付其頃之江戸沙汰落書集…9785
享保革命略志……9785標
享保元年二条内府様江府へ御参向之刻被進物控，同弐年三条様御参向之刻被進物之控……499
享保元年丙申九月廿六日江戸へ参着，其以後よりの御客并丁酉一年御在江戸中御客御飾附…606
享保紀聞……9286標
享保九年以来御奏者所留帳之内早速可相考品年号等抜書帳……4347
享保九年士帳……2806標
享保元文年間諸事留……4633標
享保雑誌……2634標
享保雑誌抄……3437標
享保七年，享保五年御収納御詰古米同六年御収納新米越中伏木浦ヨリ江戸大坂江為積登申出船御算用帳……6058
享保十一年与力方帳抜書……4559標
享保十乙巳年御入国以後之御祝御能被仰付候時分相勤候江戸京御当地御役者且亦御細工方人々覚……9926
享保十九・二十年覚書……4065標
享保十七年石川郡水島村源兵衛島村下柏野村江被為下置候御印写書上申帳……6058
享保十六年七月十四日御参詣之節伝通院絵図…6452
享保十六年七月十四日増上寺御仏殿桂昌院様御仏殿江茂御参詣被遊内通御道筋之図……6452
享保十六年二俣道往来一巻……6058
享保天明間家中喧嘩刃傷控……4634標
享保二十年役附……2133標
享保二年砺波郡福野村藤吉同所二吹場相願鋳物仕義ニ付始終之書通書上申帳……6058
享保年間之記……2632標
享保年間分限帳……2808標
享保年中より宝暦六丙子之汕直段相しらへ書上申帳之控……7607…7608
享保八年自事在府志・献賜類……9015
享保戊戌輯書……2617標
享保録抄……2631標
享保六年十二月九日奥村内記殿以御紙面を春出船奉行相勤答之旨被仰渡委曲別帳ニ記……6058
交名帳（天台宗立山芦峅寺）……6177
崎陽蘭人伝習日割……9460標
行列格……1862標
行列附……1864標
行列之大概……5845
享和御婚礼記……887標
享和三年御用留……6771標
享和三年名附帳御書出云々仕立帳……5995旧
享和三年八月朔日鶴御抜之御絵図之儀ニ付御座敷奉行組頭且御横目より懸合一件主付御家老へ相達候覚書等……523
享和二年三月ヨリ相公様火事手建場中之口御前絵図……4915
旭桜雑誌……5512標，5513標
玉杖……7992標
玉泉院様御法事惣御奉行……1093標
玉泉院様百五十回御忌御法事之節玉泉寺絵図…1092
玉泉院丸絵図……1321標
玉泉寺絵図……1092標
玉泉寺天満宮由来……6233標
玉泉寺由緒書上帳……6232標
玉泉寺由来書……6232
曲馬乗形……8432標
虚実雑記……2686標

居城之所々……1390標
居宅焼失ニ付仰出書……7295標
喜代姫君様御袖留御祝儀一件……818標，819旧
喜代姫君様御袖留之節入用之品…… 819標
禦侮儲言附録……8561標
清正感状之写……8664標
清水寺縁起……30(14)
拠遊館学則……9451標，9452標，9453標
拠游舘雑集……9454標
桐沢氏旧記……6842標
切支丹詮議書類……6156
切支丹類族調……6156標
切拾人検使覚書……4670標
桐野利秋談話……9234標
記録……2626旧
記録……9925標
記録之長歌…… 30(175)
訓閲集……7979標
近海御手当ニ付御達……5802標
銀替御引替等旧記……5077
金格秘書……2638標
金銀入払帳……5161標
金銀銅山八村分界精図……5998旧
金銀払帳……5155標
金銀品位価附帳……5093標
禁闕御守衛ニ付御沙汰写……5557標
銀座一件……5076標
銀座江相渡り候本多安房守様等御定書写……5076
銀座御定書等……5077
銀座定書一巻追而得与可相調理……5076
銀座諸事覚書……5085標
銀座代々……5076
銀札貸渡之覚……5082標
銀座勤方帳……5076
銀札并災事記……5089標
銀札日記……5077
銀座等封賃銀留……5087標
銀座濫觴等……5076
金城旧記……1274標
金城古定書……1882
銀鈔指止めに付達書……5084標
金城深秘録……1272標
金城風藻……9636標
金城風相分野之図……5983標
鈎次郎殿御誕生ニ付奥村内膳差目御用絵図… 776標
鈎次郎殿姫君様御再度御産御用留…… 777標
金子借用書……3641標
金砂子　加賀……9053標
金砂子秘鑑……9040標
銀子等拝領書付……3324標
近世史料編纂綱領……8615標
近世史料編纂事業録……8616標
近世扶桑国郡領主法号……8593標
金銭入払帳……5185標，5189標，5190標
金銭出入算用帳……5187標
近代諸城主次第……8771
近代出羽蹤誌……9109 標
近代稔中行事……8934標
禁中方名目鈔…… 30(7)
銀手形御取扱一件……5091標
金都柱石史……3431標
銀仲札と正銀引替座御仕法一件……5076
近稔御進物之格…… 503標
勤王諸士事蹟書類……3460標
金藩分限記……2811標
禁稔御鈔……8914標
禁稔御抄…… 30(1)
金秘録……4626標
琴譜……9902標
金府旧記……2527
金峰山本縁起……30(12)
金府町名……5980標
金府勤方帳……2243標
金府宝鈔一年民乱記……5076
金府略譜…… 161標
近聞雑記目録……9343標
金峰寺文書（能登国鵜飼）…… 30(130)
吟味方等留帳……4693標
吟味人預状……4650標
吟味未決言上書……4584標
吟味未決者書上等……4700標
吟味未決者書付……4598旧，4700旧
吟味見届書……4650旧
吟味者口書頭書下留帳……4698標
吟味者口書頭書留帳……4697標
吟味者名書并年寄衆聞届名出之記……4690標

吟味落着年寄届届相済言上下留……1575標
禁門の変に付胡乱之者可召捕達書……5558標
禁裏御所へ乱心躰之者入込候一件書附……9288標
金龍院様御十七回忌御参詣御作法……1154旧
金龍院様御十三回忌就御法事御参詣之刻御作法……1154標
金龍院様御十七回忌就御法事御参詣之刻御作法……1155標
金龍院様御十七回忌就御法事両日御参詣之御作法御先立勤方記……1156標
金龍院様御家督一件……142標
金龍院様御系図草稿……116標
金龍院様御葬儀ニ付御作法……1054標
金龍院様御法事御参詣之節勤方……1157旧
金龍院様御法事御参詣之節勤方絵図……1157標
金龍院様十七回忌御参詣御作法御先立勤方記……1156旧
金龍院様第十七回忌御参詣御作法……1155旧
金龍院様等御葬式御用意等之記録……1055標
金龍公御入之節南部邸飾附並献立等……571標
金龍公御法事留……1153標
金龍公年譜……249標
金龍公墓誌并銘……430標
金龍公墓誌銘……431標
禁牢等申付留帳……4685標

く

愚意之趣可調上草案……4015
久遠寿院准后公海伝……8905標
久我建通書翰……578標
九月節句小袖品書……9479標
陸原先生大学説聞書……5901
陸原先生孟子講説巻一……5901
陸原先生孟子講説巻二……5901
陸原先生論語講説……5901
陸原大次郎詩稿……9639標
陸原惟厚備忘録……3968標
陸原之淳留記……5889標
公卿諸侯武田正生等を寛典に処せんことを請う……9309標
求言勅抜書……8624標
愚考物追加草稿……5663旧
草鹿相勤候人々名書……5676標
草鹿之次第……8470標
草鹿発射様之事……8507標
草高定納夫銀口米并斗代等之訳……6999標
草間列五郎，隠密御用之者探索之計策に付書付……4759標
草間列五郎儀隠密御用相勤居候者を探索可致計策之意内合相聞候廉申上候書付……4759
草間列五郎儀隠密御用相勤居候者ヲ探索云々書付……4759旧
草間列五郎儀九条殿御家来ヲ探索致候云々書付……4760旧
草間列五郎儀九条殿御家来を探索いたし候手続手先之者相糺候趣申上候書付……4760
草間列五郎九条殿家来探索之趣書付……4760標
草間列五郎ニ引合有之候池内大学妻相糺候趣等申上候書付……4761標
公事方覚帳……4589標
公事方手留……4620標
公事近例見聞記簿……3212標
公事雑記……1902
公事訴訟取捌……9251標
公事訴訟取捌等……1875標
公事訴訟之捌……6801標
串茶屋之記……9070標
公事場足軽引足知上願……4598標
公事場絵図……2072標
公事場御刑法者言上書等留……4692標
公事場御定書等……2362標
公事場御定書等之写……2363標
公事場御定書之写……2375標
公事場方……4576標
公事場方旧記……4578標
公事場方御用記簿……4586標
公事場方留……4596標
公事場関係達書……4565標
公事場規矩大綱……2385標
公事場規矩附書法……2374標
公事場旧記抜書……4583標
公事場吟味覚……4699標
公事場吟味書上……4843標
公事場御刑法者仰出書……4592旧
公事場御刑法之品々……4621標，4622標
公事場・御算用場・御普請会所御定考索附録
└公事場へ之達書……4652旧

……2277標
公事場御条目書上帳……2384標
公事場御条目等書上候帳……2364標，2365標
公事場御用廻状留帳……4569標
公事場御用方記臆……4577標
公事場御用言上并達方之留……4579標
公事場御用品々覚……4567標
公事場御用定文録……2382標
公事場御用諸記抜萃……4624標
公事場御用諸事抜書早繰……2381標
公事場御用留下帳……4588標
公事場御用取啥方略帳……2372標
公事場御用之儀ニ付泰雲院様ヨリ被下候御親翰并御請写……2155標
公事場御用番附渡文庫之内留帳等抜書……4636標
公事場言上書……4843旧
公事場裁判状之留……6518標
公事場定写……2366標
公事場締り方御親翰并御請書之写……4581標
公事場諸事留……4587標
公事場諸事抜書早繰……2381旧
公事場諸事覚留……4590標
公事場附役人勤方帳……2379標
公事場達書写等……4560標
公事場留書より書出候留……4571標
公事場留書より年寄衆へ指出帳……4570標
公事場取捌方僉議……4582標
公事場等へ達書……4593旧
公事場に付意見書……4593標
公事場にて決裁の覚……4591標
公事場奉行相勤候人々名前覚帳……2153標
公事場奉行被仰付候一件等……2157標
公事場奉行覚書写……2368標
公事場奉行諸事心覚留帳……2380標
公事場奉行前録……2154標
公事場奉行勤方帳……2369標，2370標，2376標，2377標，2378標
公事之場へ之達書……4652旧
公事場役人名簿……2156標
公事場横目方旧例考……2367標
公事場割符之儀単寄番迄内分承り候書立之控……4599標
九字秘伝抄……7983標
閫的記……8352標
閫的聞書……8353標
閫的躰拝并逆羽之次第……8352，8353
閫的之次第……8309標
九十城之図……8226標
九城之図等……8222標
天鼠之濫觴并天鼠秘方……8528
天鼠之濫觴并秘方……8528標
楠三巻書……7990標
楠流抜書……7989標
九足三半并鳴弦之書……8371標
具足着様之次第……8545標
為愚息教訓一札……7791
九谷陶窯沿革……9838
ロ奥御林伐木等一件留……7478
ロ奥両郡御林伐木等一件……7478標
ロ郡納方仕法一件……7415標
ロ郡御預所村々草高帳……7370標
ロ郡御貸米日印帳……5233標
ロ郡海辺村々家数人数等書上帳……5965標
ロ郡組々下調……5949標
ロ郡組々割替下タしらへ……5949
ロ郡寺庵御印高調理等……6499標
ロ郡寺庵由来等……6499旧
ロ郡之内御預所と御替村々高辻帳之表書改方届書……7371標
ロ郡村々歩刈手帳……7058標
ロ郡矢筈竹御薮所見分仕詮議書上申帳……5738旧
ロ郡矢筈竹御薮所見分仕詮議之趣書上申帳…5738標
ロ郡類役由緒……6892標
ロ郡霊泉寺・泉龍寺々領之覚書……6510標
邦姫様へ前田与十郎より御結納御祝儀物指上候節御作法……877標
久能吉太夫江戸表へ早打御使一巻……4412標
九里系図……2987旧
九里系図并旧記……2987標
九里夕庵等覚書……2675標
九里丈書……3362標
公方様御代替ニ付判物頂戴之作法……1510標
公方様御疱瘡御祝儀御振廻御能被仰付覚……9919標
公方様御近習之面々へ御書出之写……1967標
公方様御参詣日，場所等に付御報書……6321
九本寺文殊之縁起（袖志山）……30(14)

熊谷寺書籍一件（武州）……30(96)
熊甲神社文書（能登国）……30(112)
熊谷家系図……8795標
熊沢了介伝……8907標
熊手仕込幕串図……8560標
熊本俚談……9141標,9142標
組足軽方常変取捌留……2332標
組替覚……2206標
組頭記簿……4487標
組頭御条目……2287標
組頭御条目等之部……2286標
組頭衆日記……4610標
組頭席留帳抜書……4504標
組頭溜手帳……4500標
組頭之部……8076
組頭へ内々口達ニ而申聞候趣……4433標
組方掌……5944
組支配者之行跡心得ニ付被仰出候書立……4484旧
組支配者之行跡心得に付被仰出之書立……4484標
組中誓詞之儀ニ付御書立……2297標
組外武山治部左衛門嫡子太次兵衛浪人者久木
綱之丞ヲ及殺害候節検使方一件留……1666
組地軒数并絵図……3606標
組中誓詞ニ付覚書……2296標
組名帳……2110標
組外御番頭留記……4542標
組外御番頭要用記……4542
組別定紋図……5346標
組別役名等……2114標
組名列……2113標
組用近例合集……2285標
組用留記抜書……4494標
組用等覚帳……4428標
組用類聚……4539標
組分帳……2109旧
組分之儀ニ付伺紙面写……5635標
久米田文書……30(137)
倉谷村周辺谷図……6086
倉谷村等銀山旧記……7545標
倉知新吾文書……10102
鞍月庄十六ヶ村等之図……6096標
椋部考古游記……9778
蔵米津出等留……7183標
鞍馬寺文書（京都）……30(121)
鞍馬山図并天狗杉図……9133標
蔵宿方要用留……7204標，7205標
蔵宿記録抜萃……7206標
蔵宿要元録……7203標
倶利伽羅山縁記……30(13)
倶利伽羅村手向神社地十握喬居宅地略絵図…6496標
倶利伽羅村手何神社元拝領山分間絵図……6496標
栗毛口之書解……5750標
繰越銀等覚……5201標
拘留如来縁起……30(15)
黒川良安先生小伝……9549標
黒島鹿磯海堺一件……1572標
黒島村名願寺了伝僉議一巻……6349標
黒田漢風之追悼文……9742標
黒田長政武功……8886標
黒棚三棚飾り様の大略……9817標
黒田如水記……8882標
黒田如水伝……8883標
黒田之家系……8885標
黒津船御菜網舟等并猟業旧記……7504
黒津舟旧地絵図……6494
黒羽織之節之童謡等……9787標
黒札之大事……9468標
桑田開拓会社定款……7457旧
桑田開拓之結社願并規則……7457標
桑名侯上書……9217標
桑原文書……30(137)
軍学七徳……7958標
軍学七徳試註……7959標，7960標
軍学受用……7963標，7964標，7965標
軍学事理本末流義之弁……7982標
軍鑑諸家系図……7890標
軍鑑註解……7804
軍鑑之諸家……7889
軍鑑末書鈔……7823標
群規矩之書……8292標
軍器積……5313標
郡郷国府考……9051標
軍功夜話抜書……5386
郡境両城図……8265
軍事御達書……5432標
群書襍抄別巻　神社考……7735標

郡主境目居城之図……8269標
軍術叢談……8573標
軍陣弓矢要法注解……8348標
軍陣弓矢要法目録……8349標
軍制に関する達書……5615標
軍制之義ニ付申渡書……5615旧
軍政類要之内備定陣取下書急用……8105
軍装御定自分拵之分……5725標
軍粧方之儀伺留……5331標
軍粧方之儀ニ付窺之趣写留……5330
軍粧方之儀ニ付窺之趣等留……5331
軍粧方筆記……5330標
軍装図解……5338標
軍談問答……7993標
軍配口解……7848標
軍配増註秘解……7841標
軍配之内私之覚書……7847標
軍配之秘説……7838標
軍備ニ付達書……5618標
軍法出所……7832標
軍法図解……7861標
軍法伝来之次等……7972標
軍法之巻裏書……7877
軍法之巻演義……7878，7879
軍法之巻聞書……7881
軍法巻講解……7866標
軍濾之巻抄……7811
軍法之巻正解……7867
軍法之巻註……7882標
軍法法度書写……5608標
薫墨集……1216標
軍務官布達写……5592標
軍役相伺候ニ付知行附交名帳……5307標
軍役窓時論……8081標，8082標
軍役御定……5299標
軍役考……8075標
軍役古今通解……5292標
軍役雑録……5310標
軍役内考……5293標，5294標，5297標
軍役内考等抄……8084標
軍役内考秘書……5341標
軍役内習……5288標
軍役内帳……5290標
軍役に関する制規……5610標
軍役に関する題書……5300標
軍役之儀相伺候控……5301標
軍役の定……8083標
軍用人馬出銀等図り……5639標
軍用秘術聴書……7976
軍旅本紀……7991標
軍論之巻……8695標

け

慶安日記　追加……6743標
慶安二年之記……2574
経偉機用……9615標
形影問答初録……7798標
慶応三年十月二日よりの紀行……9774
慶応三年正月より四月迄佐久間久佐等椴道方
為御用敦賀表江出役および御呼寄者等惣御入
用金請払帳……5600
慶応出陣記……5447標
慶応二年九月二十八日よりの紀行……9774
慶応二年日誌……4342標
慶応四年還藤茂孝越後路出張中諸控……10101
慶応四年九月高島文蔵戦状御届書等……10101
慶応四年二月上京紀行……9774
敬槻両御簞笥御入方等一巻……14標
慶元大坂御陣記……5396標
桂香院口上覚……6152標
桂香院地面調理絵図等……6463標
桂香院地所絵図……6464標
桂香院類焼前絵図……6462標
稽古之次第書……5899標
警語榜文……7775標
経済話……9429，9430標
京師・御国へ之御用状槧……3966標
京師御守衛御人数銃隊御編制ニ付諸事留……5576標
京師新報……9324標
芸術二葉始……8412標
系図……76標
系図書……2999旧
系図書写……8820旧
系図香之馥……10000標
系図帳……3011旧，3070旧，3089標
系図帳并御筆之物添書……2953旧

系図簿……2988旧
蛍雪小記……9730標
迎送取持方覚……562標
慶長以降改元書類……8926標
慶長以来御定書……1882
慶長以来御上洛並御出府御帰国覚……1725標
慶長・延宝加陽分限帳……2792標
慶長覚書……30(164)
慶長寛永間定書……1882
慶長寛文間書類四種……6759標
慶長記抜萃……8813標
慶長金銀吹替ヨリ元文元年文字金銀吹替迄ノ
大概相場ノ覚書……5077
慶長軍法書写……7978標
慶長軍役遺事……5279標
慶長元和攝州大坂御陣黄門公御進発之記……5396
慶長定書……1882
慶長雑話……8865標，8867
慶長十九甲寅季摂州大阪江利光公御出勢之聞
書并藤原氏武備聞書……5394
慶長十九年以後御軍制集書……5393
慶長十九年大坂落城以後元和元年開元五月大
坂表夏陣之覚……5407
慶長十年利長様富山江被召連候人々……3889
慶長十年富山侍帳……3889標
慶長十八年諸寺院江十五ヶ条被仰出之写……6194
慶長年中御法度抜書一葉……1914標
慶長之侍帳……2790標，2791標
景徳院様御葬式御用之品々等御用留……1063標
景徳院様御葬式より御百ヶ日迄諸払結算簿…1064標
経徳書院著書目……20標
敬之御簞笥御入方目録……5730標
系譜……84旧
系譜異聞……2961標
系譜及伝記……271旧
系譜及伝記雑……58標，2921旧
経武館射場ヘ御出之節御先立之図……5929旧
経武館射場へ御出之節御先立落所并伺公所図
……5929標
経武館射場え御先立并伺公所図……5929旧
経武館・壮猶館トノ関係……5877標
於経武館諸師範人隔月稽古割……5896
瓊敬玉藻……9622標
刑法沿革誌稿……4616標
刑法心得留九種……2392標
刑法志稿……4615標
刑法について調書控……4618旧
華厳院様百回御茶湯留……1123標
華厳院殿五十回御茶湯留……1122標
華厳院殿御卒去一件留帳……1029標
華厳院殿三回忌御茶湯御法事留……1117標
華厳院殿三拾三回忌留……1121標
華厳院殿十三回御茶湯御法事留……1118標
華厳院殿拾七回忌御茶湯留……1119標
華厳院殿二十五回諱御茶湯留……1120標
下城之節河北門駕籠居所之図……4524標
気多神社古文書……6271標
気多神社文書（越中国）……30(115)
気多神社文書上（能登国）……30(106)
気多神社文書下（能登国）……30(107)
気多宮歌合……30(177)
気多本宮記（能登）……30(13)
気多本宮文書（能登国）……30(107)
月光公子御法事留……1163標
月指集……8069標
結要本……7825
結要本通解……7826
気比神社文書（越前国）……30(104)
蹴鞠之由来……10019標
気屋大王社文書（能登国）……30(113)
喧嘩追掛者役覚書……4600標
喧嘩口論之刻之掟……4607標
喧嘩等有之節之定……2393標
喧嘩にて死人吟味に付呼出状……4845標
玄関之定等……2352標
建迎院文書（京都）……30(125)
謙光斎ノ記……9718標
建国御進言写……425標
諺語秘策……9210標
献言類……4003標
幻斉遺訓……3857標
現在高辻帳目録……1527標
源氏……9666標
源氏今やう……9699標
検使格帳……2390標
検使方……4645標

検使方一巻……2389標
検使方一件……4637標
検使方箇条書……4572標
検使方旧記……4644標
検使方定帳……2386標，2388標
検使方先例……4646標
検使方留記……6774標
元治元年十一月十二日・為長州追討京都建仁寺より御人数出張之節途中等ニ而之岡田務右衛門手当之日記等之写……5537
元治元年十二月二日水府浪士脱走ニ付追討被仰付候大抵調書……9308
検使心得……2391標
検使断有之節夫々申渡方并御用番ニ而取捌方格帳……2387標
剣師関新三郎巻軸之讃……8410標
検使取捌先例後鑑……4642標
元治二乙丑年日記……5912
幻住院様廿五回御忌ニ付赦可被仰付哉之者…4566標
乾州岡田君行状……3476標，3477標
剣術諸流評論……8398標，8399標
剣術鎗術形等御覧目録……5701標
剣術不識篇……8401標，8402標
剣術本職三問答……8400標
献上金交名帳……5268標
絃上琵琶ノアタリ……9903標
献上物につき内意伺……4398標
賢心御物語……6290
賢心作意書……6290
現銭御払米値段等……7618標
検地格式帳……7031旧
検地方格式覚帳……7032標，7035標
検地方算法……7043標
検地図帳等三種……6761標
検地繩張仕様図……7044標
検地繩張之図……7045標
検地ニ付書上……7030標
検地願帳等六種……7001標
倦鳥亭叢書抜書……8636標
検地割図……7061旧
剣道口伝之書……8413標
黔軺秘稿……2291標，2292標
黔軺秘稿書抜……2293標
黔軺秘策……8073標
黔軺秘策類編……8074標
黔軺秘蔵……8076標
謙徳院御廟参詣図……670標
謙徳院様御親翰……3836標
謙徳院様御親翰来由之覚……3687標
謙徳院様御入国之節抜書……1759標
謙徳院様十三回御忌御法事四月十二日於宝円寺御執行留帳……1134
謙徳院十三回忌法事留帳……1134標
謙徳院殿追善和歌写……1133標
謙徳公御代内留……4285標
謙徳公御代日記……3941標
謙徳公御夜話……402標，404標，405標
謙徳公御夜話　異本……406標
謙徳公画像賛……9865標
謙徳公御意覚……402，403標，404旧
謙徳公御意之覚……405
謙徳公御書写……132標
謙徳公・天珠公・泰雲公年表……244標
見得書目……18標
元和元年五月大坂御陣之刻倍臣御褒美之覚……5422
元和弐年御軍役御定，万治三年御武道具御書付，延宝弐年御軍用御親翰并御請写……5282
元和之始金沢侍帳……2795標
元和之初金沢侍帳……2796標
元和之始頃侍帳……2793標，2794標
元和八年連歌巻写……30(181)
建仁寺御旅館御門勤方……2459標
建仁寺殺害事件之覚……9508標
建白稿……4024旧
建白書藁……4024標
巌秘録……4611標
元文御改服忌令……10091
元文服忌令……10091標
見聞録文事……9588標
源平盛衰記（抄出）……30(176)
源平八島軍伝……8751
原本公事根源……30(8)
元明天皇御陵碑文……30(152)
見聞記……30(88)
見聞雑記……8002標
見聞雑志……2599標，2600標

見聞集……2670標
見聞袋群斗記草稿…… 200標
見聞録抄……47標
倹約被仰出覚等……5046標
倹約御定書之御請……5044標
倹約御触書写……5062標
倹約方御達……5063旧
倹約方達書……5063標
倹約方御達添書写……5058標
倹約に付縮方定……5045標
倹約之義被仰出之写……5055標
倹約之儀に付達書……5065標
倹約之儀ニ付横目中心得……2447標
倹約申渡写……5053標
厳有公御元服記……8983標
賢良公子御夜話…… 411標
賢良公子御法事留……1164標
元良斎様御詠歌并御歌合評之写……9608標
元禄以来御請跡留……6818標
元禄寛政間手記……3936標
元禄寛政享和高方申渡……6957
元禄元年侍帳……2804標
元禄季間国民困窮之留……7321
元禄己卯雑志一……9269
元禄九種府談……9272標，9273標
元禄九年飢人御救奉行被指立候一件……7323標
元禄九年八月より年寄中席江御横目相詰候節
御横目方伺等之書抜……4857
元禄享保間留記……6807標
元禄至享保覚書……2625標
元禄甲戌御成記……8987標
元禄比迄聞書……8838標
元禄雑記……4529標
元禄三庚午年六月ヨリ同四辛未年三月マテ内
帳之内抜書……5290
元禄三年御礼次第諸役人付……3245標
元禄三年加賀宰相様飛州高山之城御預ニ付城
勤番方御定書之写并高山侍中交名其外聞書等
記……1678
元禄七年拾人組高写……6592
元禄拾五壬午年月次之城序抜草案……8183
元禄十三年より安永八年迄年々御詰米高……6998
元禄十二年ヨリ享保十年マテ御在府中迄御用
所日記書抜……4134
元禄十四辛巳暦御成一巻…… 471
元禄十六年年頭御礼次第……3246標
元禄中救恤留……7321標
元禄年間記録……2626標
元禄年中安房守依願菩提所大乗寺替地被仰付
候趣并文政八年磐松願ニ依而同寺是迄百姓相
対請山之分拝領地ニ被　仰付候一件……6490
元禄八年乙亥従二月至七月御親翰加筆物も有
之留……1691
元禄四年被渡下候御定書之写……2301
元禄六年士帳……2805標
元禄六年より同九年迄被仰出之趣留帳……4310標

こ

古案記等三種……8053標
古案一徴妙公一…… 490標
梧井庵三世貞幹君之十城……8246
梧井庵先生四十七城……8225
御遣骸通行留記……1498標
御遣書御下物……3636標
小伊勢広田社文書（能登国）…… 30(113)
御一門様御名書等……123標，124標
御一門様御戒名……1187標
御一門様等従勤事御差略詮議一件…… 617標
御一行留……2770標
御一行之留……2771標
御印写……7018標
御隠居御書留　下…… 10045
御隠居後御書留……1261標
御隠居・御家督御願御発起要文略控…… 139標
御隠居・御家督御拝任御入国之留…… 143標
御隠居御家督日記…… 129標
御隠居・御家督ニ付御親翰留…… 144標
御隠居・御家督之節留…… 250標
御隠居御両殿御登城一件……1633標
御印紙類写上申帳……6707標
御印留之写……1918標
古印秘説……9897標
御印物御触物等写……6809標
御印物調候節之伺紙面……3925標
御印物并覚……2040標
御印之物写……2773標

幸庵問答……8869標
弘安礼節……8912標
皇胤紹運録（古本抜粋）…… 30(154)
庚寅八城自註……8182
香会式…… 10006標
航海日記……5539
公憲跋文……9727標
弘化三年諸郡収納蔵等調理帳……7186標
高臥槃……3840標
高臥槃日積録……4294標
高臥亭之記……3472標
弘化度御婚礼記…… 963標
弘化二年以降明治二十二年迄米価に付抜書…7611標
弘化二年十一月鹿島郡土川村忍性寺法話指留
ニ付請書……6373
高厳寺名ニ付口上書……6196標
弘願寺文書（加賀国津幡）…… 30(132)
公儀へ被上候御城并御国絵品々帳……1580標
公儀へ懸リ候御勤方寄帳……1617標
公儀へ献上之祝儀并作法…… 495標
公儀御作事御普請方御役人附覚書帳……4711標
公義御定等公事場ニ有之品々等……2361標
公儀御代替御礼之節御献上御馬等一件…… 510標
公儀御代替御礼之節御献上御馬并将軍宣下相
済上使へ被遣候御刀御指一件…… 510
公儀御貯用金之図……9436標
公義御触……1867標
公儀御変革御書付等留……1879標
公儀覚書帳……4541標
公儀御役列……8967標
公義御代々……8807標
公儀軍役覚……5311標
公儀献上物覚書…… 514標
公義御城米難船取捌之記……7713標
公儀御法度之覚……1881標
公儀御用留書……4809標
公儀書状……1971標
公義二十七ヶ条御定……1873標
公儀に対しての覚書……3929旧
公義毎月御日柄之覚等……1071標
孝経管窺草薬……7762
考拠摘録……2468標
考拠摘録目録……2467標
公儀より相渡候朝鮮人蔘等之儀ニ付覚書……9562標
従公義関三刕へ被仰達并日本中寺院へ教諭触
達書……6158旧
光現院様御法事御用控帳……1112標
光現院様二十三回御忌御法事帳之内書抜……1113標
光現大夫人御守殿御間絵図……1414標
高岡山瑞龍閣記等……6292
高岡山瑞龍寺入院開堂法語等……6392旧
交合説記……2521
肯構泉達録……8611標
孝行人等行状書……7275標
皇国碑文合集……9882標
高坂弾正昌信年譜……8846標
上坂文書…… 30(138)
耕作馬御仕入御仕法書上帳……7461標
耕作私記……7441標，7442標
耕作仕様考……7451標
高山寺古文書（栂尾）……30(40)
公私覚書……4152標
公私心覚……3994標
江次第鈔……8921標
孝子伝……7277標
公私日録……3994旧，4266標
侯爵前田家系譜弁……64標
侯爵前田氏歴世略記……195標，196標
侯爵前田氏歴世略記稿本…… 194標
弘射法委細……8358標
香樹院様等御詠歌……9661標
江州今津駅荷問屋株立に付算用場達……7681標
江州今津甚右衛門伝書…… 30(140)
江州今津等三ヶ村御縮方書類……7176標
江州今津弘河御領の件……6017標
江州今津村肝煎長五郎等願書……5241標
江州今津村拝借銀等覚……5246標
江州今津村拝借銀ニ付達書……5246旧
江州今津領由来記……6018標
江州海津松屋孫兵衛文書…… 30(140)
江州海津迄御内御使として御出の節御内用帳
……5556標
甲州家之系図……7891標
江州御領今津弘川海津中村町三ヶ村御高方帳
……7149標
江州御領分諸上納帳并切手留……7178標

江州高嶋郡今津・弘川両村并海津之内中村町
収納帳……7177標
江州高嶋郡之内今津村・弘川村・海津之内中
村町三ヶ所田畠町歩仕立帳……7063標
江州御領分拝借銀等請取状……5240標
江州御領分冥加金請取状等……5240旧
江州志津獄合戦聞書……5355
江洲千田村居住横山惣三郎方系図……8832旧
江州千田村居住横山惣三郎方系図并書類……8832標
江州千田村居住横山与三右衛門方系図……8833標
甲州備定之図……8100標
江州多賀法印親筆伝書…… 30(172)
江州出張兵粮方留……5525標
後住願一件……6331標
江州東西湖見取絵図……9128
甲州兵法従来極秘伝附状解……8019
江州湖之図……9127標
甲州身延山記……30(60)
甲州村高附……9421標
甲州流軍配極秘伝集……7844標
甲州流備……8096標
甲州流竹束之事……8556標
甲州流竹把に付達書……8557標
甲州流兵学雑話録……7975標
黄熟香銘…… 30(153)
庚戌北遊記…… 30(180)
甲戌旅行日記……9751標
光昌院使僧名附……6357標
郷荘考……9044標
行粧ニ付月番御演述之写……3303標
江城日誌前編……9256標
甲辰聞書……2618標，2619標
甲辰紀行…… 30(179)
甲申雑書……2601標，2602標
甲申雑書抄……3442標
孝心者等扶持米書上……7266旧
孝心者等へ御賞典……7278標
洪水変損地一件……7316旧
上野国山名碑文…… 30(152)
上野国神名帳…… 30(9)
上野国多胡碑文…… 30(152)
上野国沼田之城図……9195標
神津十蔵書簡写……9349標
校正御用言上留……9587
校正御用留……9587標
黄石公三略……7938標
黄石公三略私考……7939
孔石邨画訣……9601
光禅寺文書（越中国氷見）…… 30(130)
光専寺文書（能登国米出）…… 30(132)
耕作大要……7446標
楮方都而一件……7476
公族譜……2883標，3066旧
公族譜（前田源兵衛）……2886標
公族譜（前田左兵衛）……2885標
公族譜（前田三左衛門）……2884標
公族譜・前田志摩……3071旧
公族譜・前田甚五郎……3067旧
公族譜・前田民男……3084旧
公族譜・前田対馬守……3063旧
公族譜（前田主殿）……2887標
公族譜・前田兵太郎……3085旧
高祖妣御記…… 343
郷村御高帳御書上一件留帳等之内抜書……1536標
郷村社明細帳……6186標
郷村高帳御指出留帳要用抜書……1549標
郷村高辻仕立方一件……7013標
郷村高辻仕立方覚書……7013旧
郷村高辻帳一巻諸事留帳……1550標
郷村高辻帳一件諸事留……1552標
郷村高辻帳覚書……1547旧
郷村高辻帳仕立方について口上書……7371旧
郷村高辻帳出来ニ付紙面……1547標
郷村高辻帳ニ付達書……7014標
郷村高等下調案文……7125標
郷村高六ヶ年平均帳冊綴……7127標
郷村帳御指出之節書類……7015標
郷村帳作成につき達書……7016標
交代之節被下方……5215標
向田神明社文書（能登国）…… 30(112)
口達之覚……4787標
幸田孫右衛門書状……3716標
江忠圃文草……9641標
皇朝百代通略草稿……8601標
香道一切聞書…… 10004標
香道書…… 10003標

高徳院様御刺物長持入之事…… 612標
高徳院様御法事……1086標
高徳院様御法事役付……1080標
高徳院様瑞龍院様徹妙院様御代々十村由緒……6873
高徳院様二百回忌御参詣御作法……1082標
高徳院様二百五十回忌相済候御祝御能組……1087標
高徳院様ヨリ御郡中十村百姓ニ御扶持被下来
者共由緒帳……6870
高徳院瑞龍院石龕并墓図……6424標
高徳院瑞龍院徹妙院様御代々十村由緒……6872
高徳院瑞龍公御家臣武功陽広公御意ニ而脇田
如鉄書上候写……3455
高徳院戦功残遊覚書…… 341
高徳院殿嘗従一位菅卿之年譜……211，212標
高徳院より西方寺村へ被下御印物写等……7173旧
広徳館絵図……5930標
広徳館内柔術稽古所絵図……5931標
高徳君御問答之語等……1224標
高徳公遺誡鈔……1228標
高徳公御夜話…… 331標
高徳公見聞事記…… 340旧
高徳公御事蹟…… 321標
高徳公御事蹟旧記二種…… 322
高徳公御年表…… 207標
高徳公御年譜…… 208標
高徳公事蹟二種…… 322標
高徳公・瑞龍公遺書……1226標
高徳公瑞龍公御家臣武功云々……3455標
高徳公於末守御詠歌……1225標
高徳公戦功記…… 320標
高徳公等御事蹟…… 321
高徳公二百回忌一巻……1084標
高徳公武功書…… 30(163)
高徳公面頬記…… 30(153)
高徳公夜話……324，332
広徳寺御廟絵図……1207標
広徳寺所々一式絵図……6458標
広徳寺惣絵図……6456標
広徳寺廟役参詣之図…… 698旧
広徳寺墓地図……1208標
耕農之外所作在之村々寄帳……7389
耕農之外所作有之村々寄帳……7390標
香之書……9999標
河野文書…… 30(138)
侯伯凶家類聚……8775標
侯伯諸家略伝……8764標
高卑雑談……3445標，3446標
高卑雑談抄……3439標
江府御供方雑志覚書手帳……1618標
江府御供方等留……1721標
甲府御館屋作分間之図……9571標
江府御屋敷ヨリ之方角図……9121標
江府回禄記……9510標
公武合体之義につき覚……4027標
公武合併之義について覚……4027旧
江府京駿雑志……9276標
興福寺伽藍焼失之数量……7742標
興福寺寺中書籍目録……30(91)
興福寺東金堂金銅碑文写……30(85)
興福寺東金堂金銅碑文（附東金堂修正之記）
…… 30(152)
江府京駿雑志……9277標
江府御親翰帳書抜……2003標，2015標
江府沙汰……9282標，9283標
江府沙汰集書……9274標，9275標
江府山王祭渡物……9491標
江府支配方諸役人名帳……2179標
講武所銃陣号令語等……9461標
江府中金銀銭入払帳……5213標
江府詰中諸事覚帳……4174標
江府天守台修築日記……1643標
於江府金府取啎旧記……2280標
厚父伯赴十城……8233
公譜要略……182標，183標，184標，185標
公譜要略抄…… 186標
好文木……9980標
公辺御婚礼御式帳……8996標
公辺へ御礼御登城之節心得等……1624標
公辺御聞合之品……9249標
公辺御城略図……9192標
公辺御使之儀に付達書等……4396標
公辺向廻状之写……9267標
公辺御婚礼御式帳……8995標
公辺政記……9293標
公辺触等後来可見合留帳……6917標
光明皇后御真筆大般若経裏書…… 30(182)

光明寺文書（相模国鎌倉）……30(125)
公務旧格録……6732標
公務当用記……6788標
皇明詔制・皇明詔令……8623標
紅毛船年々荷物書并風説書等品々……9359標
項目史料……2553標，2554標
高野山御廟一件……1210標
高野山祠堂金御借用可有之ニ付僉儀之趣并御勝手方之人々僉儀之趣等留帳……5248
高野山祠堂金御借用之儀に付詮議留帳……5248標
高野山天徳院縁起……6318旧
高野山天徳院口達書……6437標
高野山天徳院由来等綴記……6319標
高野山天徳院由来之覚……6318標
高野山文書（紀伊国）……30(125)
高野蓮養坊文書（山城国）……30(125)
甲陽軍鑑奥秘之口伝……7871標
公用雑纂録……3926標
公用要鑑……2230標
甲陽軍鑑合戦之年月……7892標
甲陽軍鑑合戦之巻并石水寺物語読仮名……7893標
甲陽軍鑑合戦之巻略譜……7807旧，7808旧
甲陽軍鑑九ケ条粗註……7865標
甲陽軍鑑軍配之内私之覚書……7847旧
甲陽軍鑑軍法之巻……7811旧，7875標，7876標
甲陽軍鑑軍法之巻褒書……7877標
甲陽軍鑑軍法之巻演義……7878標，7879標
甲陽軍鑑軍法之巻聞書……7880標，7881標
甲陽軍鑑軍法之巻暁困抄……7810標
甲陽軍鑑軍法之巻三箇条合戦備定輯説……7812標，7813標，7814標
甲陽軍鑑軍法之巻抄……7811標
甲陽軍鑑軍法之巻正解……7867標
甲陽軍鑑軍法之巻集註……7868標
甲陽軍鑑結要本……7825旧
甲陽軍鑑結要本城之図……7886旧
甲陽軍鑑結要本通解……7825標
甲陽軍鑑結要本通解……7826標
甲陽軍鑑結要本等城之図……7886標
甲陽軍鑑攻戦地理之図……7835標
甲陽軍鑑三品解……7828標
甲陽軍鑑私考……7870標
甲陽軍鑑拾遺書翰……7837標
甲陽軍鑑諸軍配解……7842旧
甲陽軍鑑諸軍配記聞……7850旧
甲陽軍鑑諸家系図……7889標
甲陽軍鑑諸軍配自註……7840旧
甲陽軍鑑全部軍配相伝之品目……7845標
甲陽軍鑑全部并三品等軍配之内私之覚書……7847
甲陽軍鑑大星二乗之伝……7853旧，7854旧
甲陽軍鑑大星二乗伝解……7859旧
甲陽軍鑑大星二乗之伝解……7857旧
甲陽軍鑑註解……7804標
甲陽軍鑑註解自序……7805標
甲陽軍鑑附甲陽武田之系図……7803標
甲陽軍鑑伝来之事……7888
甲陽軍鑑抜書戦功巻……7887標
甲陽軍鑑抜要抄……7815標，7816標，7817標
甲陽軍鑑匹夫之抄五城之図……7905旧
甲陽軍鑑兵法諸軍配……7846旧
甲陽軍鑑編輯由来記等……7888標
甲陽軍鑑末書……7820旧，7821旧
甲陽軍鑑末書大絵図……7818標
甲陽軍鑑末書聞書清書……7884標
甲陽軍鑑末書下巻……7820
甲陽軍鑑末書下巻下……~~7198~~ 7819標，7820標
甲陽軍鑑末書下巻下九品……7820
甲陽軍鑑末書結要本……7824標
甲陽軍鑑末書師説集……7885標
甲陽軍鑑末書通解……7821標，7822標
甲陽軍鑑末書辨略……7883標
甲陽軍鑑略譜……7806標，7807標，7808標，7809標
甲陽軍鑑略譜小解……7862旧，7863旧
甲陽軍鑑旅亭暁困抄……7810
甲陽軍配品目秘抄……7851標
甲陽軍法出所……7833標，7834標
甲陽四将之伝……7836標
公用集……6795標
甲陽武田信玄公軍備之図……8098標
甲陽武田信玄晴信惣軍備之図……8097
康楽寺来歴（信州塩崎）……30(16)
~~千浦村志乎神社神職志尾数馬……6322~~
郡方旧記……6780標
香隆院様御法事留……1151標
広隆寺来由記……30(15)

香林寺天苗一件……6344標
後例帳……6571
香炉炭走之様……10008標
幸若舞曲考……9900標
古易館答書……7759
郡方御触留帳……6748標
郡方御触目録……6747標
郡方旧記……6808標
郡方古例集……6742標
郡方御用留……6752標
郡方産物帳……7396標
郡方役人沿革概略……6869標
氷献上其の他の献上物……515標
郡廻秘記……4402旧
郡万雑組万雑村万雑の内組万雑指止ニ付達…7164標
御遠忌大赦附札之覚……1871標
御改革ニ付御親翰写竝官江御届之品々等留記
……2656標
御改革ニ付御親翰写等……2656旧
御改作御奉行より小百姓頭振等癖付悪敷罷成
候段被仰渡之留……6961旧
御改作御奉行所より小百姓頭振等癖付悪敷罷
成候段御書立を以時々被仰渡之留……6961
御改作御修補被仰付候一巻覚……6696標，6697標
御改作草創之節三州十村物語之覚書
……6939標，6940標
御会所御用留……4723標
御会所向指出紙面留……5035標
御廻道図帳……10070旧
五街道之外往還宿駅人馬継立候ケ所書上申帳
……7690標
御改法後被仰出候品々留帳……2371標
御改法御条目……1937標
御改法ニ付金谷於御殿石野主殿助ヲ以相窺候
品々言上等之趣写置……4468標
御改法ニ付泰雲院様被仰出候品々……1935標
御廻米御雇舟船頭請合証文并運賃極写帳……5068標
御廻米出船等留帳……5072標
御戒名帳……1183標，1186標，1190標
五箇国条約并税則……9402標
御家政向御改革聞届帳……3971標
御家政向諸事留……4110標
御家中御普請役相勤候役定等之帳……4701
古格便覧……3215標
小頭御横目平同心勤方之覚……2323標
小頭勤方等之内抜書……2320標
御家臣千石以上禄高番附……2822標
御加増御引足知等……2855標
御家中御裁許外諸事御用……2145標
御家中御判物格……2776標
御家中御判物格帳……2787標
御家中古分限帳……2815標
御家中御普請役之事……5013
御家中侍町人日用雇候定事等……6565標
御家中姓氏大略……2930標
御家中女房衣類直段之定……3203標
御家中之人々上下着用之靡々……3219標
御家中武具ニ付玉井勘解由殿御申渡御口上覚
書写……5710標
御家中武具之儀ニ付元禄十三年庚辰十二月廿
八日玉井勘解由殿御申渡御口上之御覚書之写
……5710
御家中分限帳……3674標
御家中奉行人定……2832標
御家中由緒書之儀并奉行人之儀ニ付御触……2879標
御家中より指上銀調等……5269標
御勝手方銀子調達存意書……4006標
御勝手方御用……5025標
御家督御祝御作法御手控……148標
御家督御郡総代御礼留……1474標
御家督為御祝儀御老中方御招請ニ付前窺等留
帳……133標
御家督御入国御能御番組御作法書……1758標
小金御鹿狩絵図……10023標
御家譜書次之控……253標
御家譜方目録調理方帳……3111標
五ケ山焔焔出来之次第書上申帳……6058
五箇山御納所定書……7174旧
五ケ山御納所等覚書……7175標
五箇山古文書写……2566標
五ケ山下梨村市助願書等……6905標
五箇山巡回記・絵図共……9095旧
五箇山巡回記附越中国五箇山図……9095標
五ケ山廻覚帳……6831標
五ケ山村廻り帳……6830標
五箇山両組御納所方等定書……7174標

御家老覚書……4083標
御家老方ゟ被仰出御軍役之儀ニ付各心得方一件……5305標
御家老方覚書……4197標
御家老方覚帳……1199
御家老方御留守諸事之内抜書……4206標
御家老方隠密之留……4082標
御家老方旧記五種……4122標
御家老方旧記抜書……4120標
御家老方九品御書出等諸事留帳之内抜書……4047標
御家老方御密用覚……4178標
御家老方御用諸事留帳……4219
御家老方御用等控帳……4141
御家老方執筆へ申渡控……4056標
御家老方執筆へ申渡候品……4057旧
御家老方諸事……4215標，4226標
御家老方諸事写……4208標
御家老方諸事覚書……4181標
御家老方諸事留……4217標
御家老方諸事之分迄書抜……4185標
御家老方勤向等品々政寛覚書……4168
御家老方留帳……4263標
御家老方取捌等諸事覚之帳……4046標
御家老方等諸事留……4219標
御家老方等……4219
御家老方等手留……4219
御家老方并若年寄方御用諸事留……4192標
御家老方取捌等諸事覚書……5724標
御家老方・若年寄方御省略ニ付簡易ニ可相成品々等大綱しらべ……5057標
御家老方若年寄方日記之内抜書……4176標
御家老執筆へ此趣申渡控……4056旧
御家老前録書抜……4049標
御家老手留……4256標
御家老若年寄支配方借銀等并除知米之控……5210標
御家老若年寄前録……2127標
御家老若年寄履歴……2914標
御家録……8975標
御家禄方調書之内抜萃……5487標
御帰還御道中覚……1854標
御帰国御供諸事留……1784標
御帰国御供并交代ニテ罷帰候節被下方覚書…5215旧
御帰国御供人帳…1779標，1794標，1802標，1818標
御帰国御延引御在府一巻……1744標
御帰国御道中御行列附……1810標
御帰国御道中御泊附等……1783標
御帰国御道中御供之面々勤方帳……1801標
御帰国御道中覚……1788標
御帰国御道中諸事留……1793標
御帰国御道中手控……1807標
御帰国御道中日記……1772標，1796標
御帰国御入用しらべ帳……5107標
御帰国前御用……1707標
御規式一巻……3211標
御規式留……1702標
御規式之節御場所へ罷出御仮屋ニ於テ御祝頂戴之人々……3921
御祈禱御札等旧記外……6374標
古記謄写本……7573標
御饗応次第四種……549標
五行座備正図……8119標
五行座備之図……8121標
五行座備変図……8120標
五行座備方円五色絵図……8122標
五卿筑前へ御渡海覚……9339標
五行方角之図……7872標
五行弓矢之口訣……8486標
御居宅請新出来ニ付テ之絵図……1446標
御近火之節御立退御建込御行列附……4931標
御近火之節役所等へ罷出候人数帳……4953標
古金銀新金銀引替に関する触書……5079旧
古金銀引替令等請書……5079標
古銀座留帳抜書……5080標
御近習御土蔵入葛籠之内入之覚……4307標
御近習頭見届之誓詞御前書……2348標
御近習方日記……130標
御近習取次ノ者へ被遊御渡候御口書写等……4276標
御近習役掛并勝千代様御附等……2149標
御近所火消并御使役勤方留……2356標
古銀為引替銀座相回候一巻……5077
御近辺火消仕法帳……4924標
黒縁亭鑒定宋四大家帖……9879標
国学雑記……7790標
国君御城図写……8263標
国産抄……7391標
国事異蹟綱領……2469標

国事経緯弁略……9129標，9130
国事雑誌……2666標
国事雑抄……2536標
国事拾遺抄……9054標
国事昌披問答……2664標，2665標
国司二十一侯之建白……1968標
国政雄略……346標
国政雄略附タリ三郡戦記并先祖由来家門之品覚書……346
国祖遺言……345標
国泰寺伝燈寺争論一件……6207標
国泰寺文書（越中国西田）……30(130)
極内聞合之趣書上申帳……5827標
極秘一ケ条……7751標
五矩秘解等……8196標
極秘愚存心付之趣筆記……5555
極秘伝忍書……8455標
極秘伝吉田流三光之書……8323
国風十一種……9687標
国府家系図簿……2988標
国譜捷径附国公家譜暦略……101標
国府賤六郎所蔵文書……10101
国譜附御遺誡等……173標
国府孫右衛門書状……3717標
国辺防備ニ付上意仰渡之覚……5813標
国防献策書……8565標
古組帳抜萃……2801標
国名風土記……30(57)
極楽寺縁起（越中守山）……30(17)
国令分類……1898標
国令漫録……1897標
御軍制御改正之義ニ付愚存書……5617標
御軍装之一件留……5332標
御軍装方諸事留……5337標
御軍装方目録……5340標
御軍装集覧……5327
御軍装調理書……5336標
御軍役御定等写……5282標
御軍役定……5312標
御軍役次第等……5281標
御軍役之儀相伺候書取并控等……5306標
御軍役之儀被仰出之留……5314標
御軍役之儀重而相伺候留并懸合一件……5308標
御軍役之儀ニ付各心得方一件……5305標
御警衛等抜書……5590標
御系図……75標
御系譜……1486標
御系譜書継ニ付調書……2881標
御系譜原稿……102標
御系譜等書継御用ニ付御用席へ時々相達候紙面等并相渡候紙面等……102
御系譜略……8808標
御刑法御尋に付書上控……4618標
御刑法者磔之節為検使御用罷遣候一巻……4639
御刑法者被仰出に付調べ書……4592標
御刑法帳……4616旧，4623旧
御刑法并公事場吟味之義伺書……4580標
御刑法抜書……4617標
御刑法者言上等留……4574標
御結婚式ニ付聞合覚書……989標
御家人旧条記……3226標
御献方……505標
御献賜之御刀等其外之儀ニ付御次問合記来候品々等……4114
御献上方留……3330標
御献上御進物等壱ケ年凡図り書……5197標
御献上物代銀取立廻状帳……10053標
御献上物之品御伺被成候御書立御附札物之写……477標
御献上物萬控帳……3329標
御兼任御祝儀等……482標
御元服御進物帳……812標
御元服次第……8983標
御元服之記……8938標
御倹約一巻御触之写……5051標
御倹約方御年寄衆へ指出紙面之控……5049標
御倹約方奉行勤方心得……5064標
御倹約ニ付江戸詰之人々徒者減少之儀被仰出覚書写……5050標
御高札等写……1954標
御高札并誓詞御前書写……1953標
御講釈御仕舞御能組……9963標
御講釈御能御仕舞等其外公儀へ懸り候御勤方寄帳……1617旧
御口上之覚……841標
御行歩御行列附……621標

御公領界，尾小屋，西俣村御口留所図……6086
御公領界，川原山関所周辺図……6086
故語聞書附浪速冬夏戦記……8721標
護国院様御葬式御行列……1016標
護国院様御葬式御忌應一巻……1019標
護国院様御葬式儀行列附……1018標
護国院様就十七回御忌宝円寺ニテ御法事中，
巣福寺へ御出張ニ付篠嶋典膳様御家来申談之
紙面等之写并諸事御入用割符物壁御人別之調
物等諸事留帳……1110
護国院葬儀之節宝円寺ヨリ野田迄之御行列附
……1017標
護国院殿吉徳公之記…… 398
護国公御記…… 398標
護国公御入国交節留……1754標
護国公御年表…… 231標
護国公御年譜…… 236旧
護国公参勤覚書……1757標
護国公時作役懸帳……2132標
護国公十七回忌法事留帳……1110標
護国公葬儀御行列……1018旧
護国公任叙書類…… 276標
護国公年表　異本…… 237標
護国公年譜……234 235標
護国公略御年譜…… 236標
護国老衲順一如偈并和歌……9620
心得方数件……4638標
心覚……3869旧，9462旧
古々路於保江……9462
心覚留帳……6169
心覚留帳抜書……3870標
心覚抜書……3870旧
古今一巻帳目録……4118標
古今御定書……1884標
古今御城煙焼記……1275標
古今記（抄出）……30(89)
古今雑纂……2584標
御婚式御献立…… 996標
古今名婦百人一首……9653標
御婚礼相済三ツ目御五ツ目御祝……8996御
御婚礼御客御間飾附…… 974標
御婚礼御座敷御祝建……9001
御婚礼御作法留……864標，866旧
御婚礼御式御献立……972標，973標
御婚礼御式書…… 995旧，3153標
御婚礼御規式次第……8995
御婚礼御式法之次第……8995
御婚礼御道具建……928標，930旧
御婚礼方買上物覚…… 995標
御婚礼関係雑文書…… 985標
御婚礼記……881標，887旧
御婚礼御規式帳…… 987標
御婚礼御用塗物御道具書上帳…… 982標
御婚礼済御老中上使并女使・姫君様御膝直御
登城之節御作法…… 917標
御婚礼当日之次第…… 832標
御婚礼之節御間飾之御道具調理書……896標，897標
御婚礼之節御厨子・御黒棚附御道具等…… 975標
御婚礼之節御厨子棚附御道具…… 975旧
御在京中御守衛御備御人配絵図……5573標
御在国覚書……4121標
御在国御用留……4290標
御在国中御寺御参詣并御代香之記…… 664標
御在国中御横目方雑記……4863標
御在国中火事之節御定……4882標，4892標，4922標
御在国中火事之節御定等……4940旧
御在国中御参詣帳…… 666標
御在国中御用留……4279標
御在国中日記……4203標，4218標
御在国中日記写……4209標
御在国留帳……4183標
御在国日記……4172標，4298旧
御祭典方日録……1068標
御在府・御留守壱ヶ年分江戸御入用大概書…5097標
御在府中覚……4198標
御在府中御入用中勘月割……5121標
御在府中御入用勘図書……5118旧
御在府中御入用中勘図表帳……5118標
御在府中諸色御入用高帳……5145標
御在府中諸事留……4255標
御在府中詰被仰付候一件……4305標
御在府中臨時不時御入用書抜……5106標
御在府中被渡下御直封之品写……3847標
御在府中割場附足軽詰人名書帳……2183標
御在府日記……4261標，4475標
御在府毎日帳二種……4145標

御在府未七月より同九月迄御入用中勘図帳……5115
御財用常度分配等仕法大綱……5129標
小坂神社文書（加賀国）……30(111)
呉座問屋仕法書上申帳……7584標
御参勤御行列附……1751標
御参勤御泊附……1858標
御参勤御供被仰付候留……1797標
御参勤御供就被仰付候自分月切覚帳一巻……1769標
御参勤御供留……1762標，1800標
御参勤御供人帳……1741標，1821標，1837標
御参勤御供之覚…1728標，1729標，1730標，1731標
1732標，1733標，1734標，1735標
1736標，1824標，1838標，1853標
御参勤御供之覚　御道中全……1737標
御参勤御供之節乗物御免一件……3304標
御参勤木曽路通御道中日記……1760標
御参勤御帰国御行列方留帳……1752標
御参勤御帰国御供被仰渡候留……1805標
御参勤御帰国諸事心得……1709標
御参勤御帰国之記……1698標，1727標
御参勤御在府中覚書……1846標
御参勤御道中御行列附……1767標，1789標，1817標
御参勤御道中御行列附等帳……1768標
御参勤御道中御供之面々勤方帳……1812標
御参勤御道中川々御役人へ相渡候帳……1815標
御参勤御道中供仕歩横目可存条々等……1851標
御参勤御道中日記……1770標，1771標
御参勤御用諸事留……1708標
御参勤道中御泊……1861標
御参勤道中心得……1847標
御参勤年御台所御入用御図り銀高帳……5140旧
御参勤年御台所御入用図り銀高帳……5140標
御参勤前取忠らべ方帳……1715標
御三家等名代御礼所図……1622標
御三家並諸大名等作法……439標
御参内次第書……449標
御参府以来臨時不時御入用調帳……5113標
御参府等手帳……1941標，618標
御算用場絵図……2073標
御算用場御書出免許ニ付書状……6932標
御算用場御定書等……4977標
御算用場覚書……4985標，6933標
御算用場隠密方留……4981標
御算用場改作奉行御郡奉行御定書之写……2401標
御算用場書付上申帳……2404標
御算用場格帳……2395標，2396標，2397標
2398標，2399標，2402標
御算用場格帳之内書入候覚……2405標
御算用場旧記抜書……4990標
御算用場近火之節心得……4926標
御算用場御印之物……5208標
御算用場米高図り書写……5123標
御算用場御用番宅ニ而取捌抜萃……4997標
御算用場御用番中自分留……4989標
御算用場諸事御用留帳……4993標
御算用場諸事留帳……4999標
御算用場達書……2866旧，5208旧，6896旧，7090旧
御算用場達書等……5783標
御算用場勤方帳……2403標
御算用場留書……5123旧
於御算用場ニ格々相立置申品書付上申帳……2404旧
御算用場ニ而相勤候格品々……2402旧
御算用場ニ而相勤申候格品々……2395
御算用場ニテ相勤申格……2400標
御算用場奉行へ指出候紙面写……5251
御算用場奉行へ内々申談候趣覚書等写……5003標
御算用場奉行中自分留……4988標
御算用場奉行等へ申渡候控……5030標
御算用場奉行懸合之紙面写……5251標
御算用場奉行より指出候惣御借財高等調理帳之写……5258標
御算用奉行懸合紙面之写……5251旧
御算用者小頭・同小頭並・御算用者人数帳…2162標
御算用者小頭等名列帳……2160標
御算用者小頭并御算用者知行高人数覚帳……2161標
御算用者住所記……2164標
御算用者名列帳……2159標
御直書御格……574標
御直筆御書留……1255標
故紙雑鈔……2580標
越路かがみ……2684標
越路廼手引……5438標
越路のかがみ……2685標
五師職方日記抄……30(70)
可及御示談箇条……4116旧
古史通……8600標

五十騎一備案間人数積……8158
五十騎一手畳備之図……8159標
五十騎一手人数積……8158標
五十騎一手座備之図……8155標
五十騎一備一陣取之図……8154標
五十騎一備屈伸之図……8157標
五十騎一備屈伸之図附馬出広狭秘説断……8156標
五十騎一備之図……8160標
越乃海さと……9777
越の山布美…… 412
御仕法高御用留……6981標
御仕法留……2417標
御仕法復元留等三種……6974標
御借金御仕法書等三種……5250標
御社用并公用留帳……6255
御社領知収納帳……6474
御社領并坊数帳（天台宗立山岩峅寺）……6177
御朱印一件等……6481標
古周易経断私解……7762
御祝儀御能并御家中御振舞御入用留……5131旧
御祝儀御能并御家中振舞御入用覚……5131標
五十五城之図……8227標
故従三位慶寧御達願伺御届書写等…… 264旧
御収納蔵調理ニ付届書……7187標
御収納正米書出し……5018標
御収納正米等覚書……5018旧
御収納米俵拵等留……7181標
御収納米等覚……5008旧
御出京一件……1843標
御出馬之節御行列之大概……5656標
御出府御供人帳……1840標
御守殿一巻……4742標
御守殿御間絵図……1416標
御守殿方御用……2269標
御守殿殺材木傳通院江被遣候義戸田山城守殿
江被仰達候義并御役人衆江聞番等より承合候
紙面之写……4742
御守殿雑志…… 850標
御守殿廻惣御絵図……1413標
御入輿御当日御客…… 876
御入輿御当日御作法……898標，905標
御入輿并御先女中行列帳…… 940標
古酒来由覚書……7578標
御巡見御道筋書上申帳…… 631標
御巡見御道筋古跡聞伝覚書……1671標
御巡見御道筋手絵図……1672標
御巡見方等紙面留……6701標
御書井上筑後殿へ被遣候留……1965標
小書院ニテ御茶整候次第等…… 507旧
御城下町割付……6037
御上京一巻留帳……1746標
御上京一件等記録写……5545標
御上京御供人帳……5569標
御上京御参内之御首尾等……5544標
御上京御守衛并長州征伐一件……5547標
御上京御出府等記録……5549標
御上京中御書留…… 10045標
御上京中自分日記……3828標
御上京中日記……5566標
御上京帳……5586標
古城考五種……9150標
古状集……8653標
御上水並土清水村領等新江筋見取之図……7215標
御条数等写……6783標
御招請記…… 551標
御城代方覚書……1437標，4438標
御城代方寛文御定等……2335標
五條大納言様御使者旧記…等……6149
御城中五ヶ所四番御番割概……2063標
御城中御見分之筋道筋并罷出候人々名書等… 638標
御城中勤方覚……2262標
御城中焼金具等拾様……4975標
御上棟御規式……5915標
御上棟御規式御用之品々……5916標
御城内御締一件上書……9342旧
御城内御門御締一件上書……9342標
御城内調書覚……1278標
五城之図……8205標，8214標
御乗馬口・御庭口等之指図……1423標
小性廻……2317標
御条目等書上帳……6550標
御条目等帳……6160
御定目拝見相済候人々覚帳……3938標
御城門縮に付達……4521標
御定紋之考……293標，294標
御上洛御行列附……5543標

御上洛御供之面々……5567標
御上洛御供之面々等抄……5568標
御書格式……572標，573標，1212標
古書画文房器物所蔵目録……9859標
御書校合立合之儀ニ付被仰出之写……3912標
御書御口上留……577標
御書留……3976標
御書等之写……1218標
御書抜書……1957標
御書之覚留……3920標
御寺領御社領并御祈禱料一件旧記……6472標
御寺領高竝寺庵拝領屋敷高相調理書上申帳……6474
御寺領高御印写書上申帳……6474
御寺料附御副印帳抜書……6478標
御親翰……5808標
御親翰請書……4061標
御親翰請書写……2041標
御真翰写……1988標
御親翰写……2022標，2039標，3861標，3867標
3872標，3873標，5803標
御親翰写帳抜書……1990標
御親翰写等……1350旧，1493旧，1998標
2004標，2024標
御親翰写并有沢才右衛門返書控……3686標
御親翰写并御請控……4770旧
御親翰御請控……4493旧
御親翰御請控等……1996標
御親翰御定書写……2439標
御親翰を以仰出之趣演述覚書写……3947旧
御真翰御加筆之留帳……1986標
御親翰言上控留……4655標
御親翰帳……2027標，2032標
御親翰帳書抜……1981標，1991標，2031標，2042標
御親翰帳抜書……1999標
御親翰帳之内跡目諸願之分書抜……1995標
御親翰帳之内写……1989標
御親翰帳之内書抜……2005標，2006標，2017標
御親翰帳之内書抜且御親翰御請之書抜……5284
御親翰帳之内書抜・御軍役……5284標
御親翰帳之内書抜・雑之部……2001標
御親翰帳之内書抜附録……2030標
御親翰帳之抜書……2012標
御親翰留……1997標，2007標，2033標，3942標
3944標，3945標，4713標，6543標
御親翰留其外密事豊内廻状留……4505標
御親翰内帳抜書……2013標
御親翰等写……3866標，3878標
御親翰等御請控……2018標
御親翰等留……2029標
御親翰等之写……2035標
御親翰等拝写……2028標
御親翰并御請書……4581旧
御親翰並御請書写……4544標
御親翰并御請之写，奉達御内聴候写，御勝手
方江相達候写，御城代江相達候写……4460
御親翰并御請之写等……4460標
御親翰并御請之留……1994標
御親翰并御請控……4154標
御親翰并御定書之内……2036標
御真翰并御加筆之留帳……1985標
御真翰并御加筆物御前へ上候節写置之……1985
御親翰并言上品々留帳……4994標
御親翰并言上其外内密留……4506標
御親翰并言上留……4602標
御親翰に付廻状并請書写……4493標
御親翰之写……1984標，1987標，1992標
1993標，5285標
御親翰写……2011標
御親翰写等……2010標
御親翰拝写……2016標，2021標，2023標
御親翰拝写且又頭々引取書共……2020標
御親翰拝写示達下書……5612標
御親翰拝写等……2019標
御親翰拝写并御請写下物……2008標
御親翰類……3868標
御親翰類十二種……2034標
御親征行幸中行在所日誌……8950標
御真筆等写……1983標
御進物御用ニ可成品々難斗御座候ニ付私共組
々ニ御座候品々書上申帳……7392標
御進物所・御奏者所勤方之覚……4350標
御進物所勤方之覚……4350
御進物目録仕法……487標
故人物語抜書……45標
故新録……2252標
故新録抄……2253標

御垂跡由来……6250
梧井庵先生墓碑銘……3473標
梧井庵年譜……3470標，3471標
御制禁品之義ニ付相伺候書付……1878標
御制札旧記・下馬札旧記・釣鐘鋳直旧記……6163標
御政事向ニ付言上書……4089標
梧井文庫蔵書目録……17標
古跡道程……909-1標
古戦一覧……8041標
後撰芸葉……8652標
御前様御附分限帳……2850標
御膳所御徒横目に付口上書……4848標
御先祖様方御戒名覚書……1189標
御先代御下乗并御供残所之図但付札之通相極… 701
御先代入御覧候節御留置被遊候御書之写……1214標
御先代様以来御入国御能一件……1701標
御先代様御印物等写……6273
御先代様より前田姓へ被下置候御判物等しらべ
……2890標
御先納加越能所々入目録……2781標
御膳部之次第…… 592標
御儀法伝記……7741標
御膳米等定書……2441標
御前的等覚書……5668標
従御前出与力同心知格式御書面之留帳……4130 4128
御造営方日並記……4714標
御奏者方覚書……4357標
御奏者方廻状留帳……4353標
御奏者方旧記抜萃……4345標
御奏者方記録……4344標
御奏者方諸事心得……4364標
御奏者方留書……4360旧
御奏者方留帳写……4360標
御奏者方留帳抜書……4355標
御奏者方日記……4358標
御奏者所旧記之内……4359標
御奏者所御条目……2343標，2344標
御奏者留書勤方帳……4351標
御奏者所留帳……4354標，4356標
御奏者所留帳之内抜書……4347標
御奏者所日記抜書……4352標
御奏者所張出之条々留……4348標，4349標
御奏者番覚書……4356旧
御奏者番諸事留帳之内要用之ケ条抜書……4365標
御奉者番先録……2146標
御奏者番留帳……4362標
御総督府ゟ御届書留……5474標
御即位御献上次第…… 500標
御即位次第…… 30(5)
御即位之次第……8935標
御代香之次第……1111標
御奏者番前録……2146旧
御代々写…… 103標
御代々御知行御判印物并所附等留帳……2767標
御代々御書等……1966標
御代々様御紋任口宣等控…… 273標
御代々様并御連枝様方御略譜……201標，202標
御対面所等絵図…… 952標
御対面所之図…… 990標
居多神社文書（越後国）…… 30(105)
小立野口弐拾参番組絵図……3612標
御誕生一巻之帳…… 753標
御誕生御祝儀目録……3332標
御誕生之節弓矢御献上覚書……3331標
御誕生之節弓矢御献上之事……3331旧
御誕生蚕目御用留…… 761標
御誕生引目射式概…… 764標
御誕生蚕目之覚…… 761旧
御誕生蚕目之式，享保以来軽重差別之事…… 762標
御誕生より御家督迄覚書…… 396標
御知行当り御軍役内考……5302標
御知行割格式等勘之覚……2831標
御馳走出役書……7703標
御着帯御祝式御献立…… 756標
御着帯御祝等…… 757標
御着帯御産物等御式下書…… 755標
御着帯御式…… 754標
御着府之節中之口絵図……1440標
御調達金覚……5261標
御調達銀根帳……5259旧
御調達根帳……5259標
御貯用銀并格別御詰米入払之覚帳……5096標
五智輪院文書（筑前国糟屋）…… 30(125)
御追賞請願人名……3463標
御通路諸候…… 440標

御通路帳……441標，442標，443標，444標
国格旧例抄……2267標
国格類聚……1908標，1909標
籠手田文書……8657標
御殿絵図部分……9581標
御殿御用之留帳……3874標
御殿向惣御絵図……1408標
御殿より御寺へ之御行列……1038旧
御殿ヨリ御寺迄被為入候御行列……1038標
後藤異本系図……30(159)
後藤系図……30(159)
御当家御備立図……5643標
御当家御備立之図……5642標
後藤家旧記……6663標
御当家御代之御事記……168標
御当家様仁和寺家御往複書翰写……6273
御当家諸侯家立……3001，8767標
後藤家文書……6664標
後藤四郎兵衛分銅相改候仕法之写并相渡候紙面之写……5077
御同心見届次第……4648標
御当代記事……391旧，397標
御当代御家中へ被下候知行高之覚……3673標
伍堂卓爾一世紀事……6665標
於御当地若火事之節御出馬被遊候刻御行列…4961標
御道中御行列附帳……1863標
御道中御定書……1790標，1791標
御道中御時宜方……1814標
御道中御取次帳……1764標
御道中方心覚帳……1845標
御道中御用役頭等名書……1803標
御道中宿駅調書……1856標
御道中日記……1775標
御道中日記抜書……1740標
御道中ニテ御歩行之節御行列帳……1813標
御道中奉行等触留……1776標
御道中奉行等より之触書留……1773標
後藤平八郎書状……3718標
古刀梵字之覚……8536標
御登城等之御作法留……3299標
琴姫様御婚礼留……890標
琴姫様御婚礼之節御盃事之次第控……891標
御内御用留……4085標
御内達紙面等……6968標
御内達趣意書……6364標
御内談帳……4570
御内々御尋并申上候品等覚……4108標
御内々御尋之品等控……4107標
御内用一件留……1078標，4423標
御内用御書付等写……131標
御内用方留……4537標
御内用ニ付黒部奥山へ罷越候日記……6702標
御内用之品御親翰等之留……4072標
小永井藤左衛門伜より同人へ差越候極秘物…9384標
小永井藤左衛門伜より同人へ差越候紙面……9385標
小西吉左衛門届書……4799標
御入国以後御能御家中一統見物被仰付候留帳……1703標
御入国一巻留……1706標
御入国御祝能相勤候役者等……9926標
御入国御祝之節御席附……1712旧
御入国御使一巻……4383標
御入国御供人帳……1841標
御入国御礼被為請候御作法附……1719標
御入国御礼御作法……1711標
御入国御礼御作法附……1718標
御入国御礼御使書并御返答書控……1705標
御入国御礼之節御席附……1712標
御入国御祝儀御能初之覚書……1704標
御入国御祝儀御料理被下候節小頭列之事…… 134標
御入国為御祝儀淡路様より御使者被遣候節御作法……1714標
御入国為御祝儀両本願寺より御使者登城之節御作法……1713標
御入国御着城之節御作法……1710標
御入国御道中御定書……1749標，1766標
御入国式次第……1722標
御入国ニ付御作法附……1720標
御入用壱ケ年分大概御図方帳……5095標
御入用金請払帳……5159標
御入用銀中歩等両種……5094標
御入用中歩図帳……5108旧，5115標，5117旧
御入用中歩等且古詰人高并諸郡前々変地場所引免立帰之年銀等……5031旧
御入用帳付札之写……5098標
御任官諸事留……2215標，2216標

御年表……174標，176標，189標，190標，3931標
御年表・御夜話抜書…… 304標
御年表頭書…… 243
御年表新写草稿…… 177標
御年表并御系図……98標
御年表抜書…… 252標
御年表附録…… 165標
御年譜……8856
御年譜ト称スル二冊中抜萃…… 162
御年譜并雑観談叢抜萃…… 314標
御年譜之内抜書…… 156標
御年譜之中抜書…… 171標
近衛様御守殿等松平薩摩守殿より被仰付候様子見分之儀等留……4312標
此書者享保十二丁未年九月六日勝丸様御宮参より同七日右ニ付而之儀記有之…… 782
此節之形勢荒増……9345旧
今度鈎次郎殿御誕生ニ付奥村内膳蚕目御用被仰付於御居間書院御刀被下之候絵図…… 765
御拝領御鷹於御国許御頂戴一件…… 527標
御拝領之御品々…… 518標
御拝領之御鷹相渡候砌御作法書等…… 520標
御拝領之鶴御披一巻之留……3314標
御拝領之鶴御披之節御作法書并役付等……3315標
御拝領物目録……3323標
小橋天神縁起……30(11)
小橋天神社文書（加賀国金沢）…… 30(110)
御発駕御当日并名古屋福井御通行之節御行列附……1864旧
御発駕之節御間囲等之絵図……1792標
御八講次第…… 30(6)
御法度書……9250標
小林治部右衛門口上書……2227標
小林伝右衛門・石田勇左衛門指上紙面写……4038標
小林伝書…… 30(139)
小林伝介・石田勇左衛門書状写……4038旧
小林文書…… 30(138)
御番方手帳……4514標
互繁舞閑当止芽……5480標
古判金潰引替之儀等雑留……5088標
御判御印物返上之分願ニヨリ被返下候名書…2786標
御番衆へ申渡覚……2295標
御番衆申渡覚等……5043旧
御番所定書……2438標
御番所宝永・安永留書……4512標
御番之次第……2064標
御判物写……3414標
御判物写被仰付候一巻……2779標
御判物御印物御作法書等頂戴被仰出寛惣列帳……2785標
御判物等之写……2772標
御判物并御書等写……1215標
御判物并領知目録……1509標
五百騎座備図……8147標
五百種十荷絵図……8996
小百姓頭振等癖付悪敷罷成候段仰渡之留……6961標
五百騎相陣之図……8146標
五百騎案見書……8145標
御廟伝通院絵図……6447標
御披露状留……5485標
五品共進会追賞授与証の写……9838
故豊後守長頼様御代之有増其外大正持村井又兵衛殿より来覚書一冊……3518
御判印…… 291標
御布告留……1963標
五武志……5384標
御普請会所宛願紙面等……4705標
御普請会所割場御定書之写……2422標
御普請方出船方一巻留帳……6799標
御普請諸職人等仕拂記……6411
御普請入用金……4716標
御普請橋并百姓自普請書上申帳……7649標
御普請奉行諸事留……4703標
御普請奉行勤方留……4704標
御普請役御定等之帳……4701標
御普請役御定並格例部類寄之帳……4702旧
御普請役並格例部類寄之帳……4702標
御扶持人十村等御扶持高調帳……6880標
御扶持米書上書……7266標
御扶持米等被下置候姓名帳……7265標，7266旧
御分国中朱染紙封之分……5076
古文章大全…… 575標
古兵談残叢拾玉集……8051標，8052標
古兵談抜萃……8049旧
古兵談抜萃抄……8050標
故伯耆守名和君碑陰記…… 30(153)

御法事方大要覚書……1072，1073標
御法事方大要抜書……1072旧
御法事方大要抜書帳……1075標
御法事方大要抜帳……1072標，1074標
御法事方日記……1085標
御法事留帳……1138標
御法事日記……1083標
御法事之節御屏風囲等絵図……1137標
御法事之節御両家様より御代香御使者之覚…1158標
御奉書御火消御勤留帳……7299標
御奉書等写……3340標
御墓誌等……427標
小堀牛右衛門文書……10102
小堀遠州書状写……9993標
御本姓御系図……66標
御本宅御間絵図等……1410標
古本日本紀以下国史類書写一件……30(93)
御本復御祝御能組……9945標
御本丸御登城之節平川口御門内御供建所絵図
……1639標
御本丸御普請御表奥向共御張付御杉戸之御絵
様筆者取調……9892標
御本丸等城内御番之次第……4517標
駒井家系附赤松家系……2989標
駒井重勝日次記　抄……2572標
故前田直信已来之系図並系譜……3081標
駒方御仕法等留……7463標
駒込御数寄屋之指図……1457標
駒込御中屋敷名目……1859標
小松辺迄御鷹野行列帳……4792標
小松稲荷五穀寺略系譜……6243標
小松遺文……6585標
小松絵図……6034旧，6035標
小松へ之上使，金沢へ之上使名書并御分国宿
々御馳走衆中等……1651旧
小松御馬廻御番頭達書……3549標
小松御馬廻知行高帳等……2829標
小松往来道中記……9776
小松御侍衆之名付御知行并所書……2830標
小松御城絵図……1369標
小松御城御土蔵入御武具員数小松御貯用弓抱
矢玉薬数但小道具員数鉛御貯用員数共記……5740
小松御城御土蔵入御武具員数等……5740標
小松御城御堀石垣高サ并渡り間数控御絵図…1368標
小松御城御薮之図……1374標
小松御城格之覚帳……2414標
小松御城方旧記抜書……4439標
小松御城近在七十五ヶ村戚打願御達村名帳…6926標
小松御城御巡見画図……643標
小松御城御巡見留帳……640標
小松御城御巡見道筋絵図……642標
小松御城御用方諸事心覚留帳……4465標
小松御城御用留帳之内抜書……4447標，4458標
小松御城図……1364標，1367標，6037標
小松御城附御武具并御弓御鉄砲其外品々残物
之帳……5712標
小松御城図并町割……6036標
小松御城地并町中等絵図……6041標
小松御城附足軽御暇被下代人被召抱候御格之
覚帳……2414旧
小松御城附足軽并葭嶋居番人御切米高組分役
附歳附帳…2169旧，2170旧，2171旧，2172旧2173旧
小松御城并富山御城間数之留……1391標
小松御城之図……1365標
小松御城番勤方覚帳……4466標
小松御城文化録……4480標
小松御城町割附之図附小松城来歴……1361標
小松御詰中役附……2174標
小松御泊……4096標
小松覚書……4479標
小松梯天神霊験記……6242標
小松・金沢へ之上使名書……1651標
小松旧記……6582標
小松旧記十種……6584標
小松旧記二十六種……6583標
小松御記……354標
小松近郷巡覧記……9776
小松宮寺御書等之留……6241標
小松群談……371標
小松軍談……5383標
小松黄門御夜話……371
小松五穀寺稲荷社略系譜……6243旧
小松御在番中御用留帳……4474標
小松御算用場奉行達書……3549旧
小松御城廓之絵図……1363標
小松御城御人数配御内定……5652旧

小松御城御人数配御内定図等……5652標
小松御城代被遊付諸事御用之品控留帳……4440標
小松御城代方御丸番人より支揚小押紙面之内
御巡見之分書抜…… 641旧
小松御城代方旧記抜書……4441標，4445標
小松御城代方御用古き反古之内書抜……4444標
小松御城代方御用　前田無尽庵老方古き反古之
内書抜……4444
小松御城代方諸事覚……4443標
小松御城代方之儀ニ付被仰出等……2406標
小松御城代御城番旧記覚書……4483標
小松御城代并御城番……2165標
小松御城代之儀ニ付御親翰控……2411標
小松御城代之時分之留記……4446標
小松御城地之内開拓地元歩数調理之図……1375標
小松御城中石垣破損ニ付公義へ被上候絵図之
写……1343標
小松御城中絵図……1351標
小松御城中御館之絵図……1386標
小松御城中御定目抜書等勤方等留……2408標
小松御城中并侍屋舗町共之絵図……1346標・1347標
小松御城中并外構総絵図……1352標
小松御城中并町図……1359標
小松御城中并町共地割之絵図……1348標，6033標
小松御城中之内こぼさせ申義被仰出候覚書…1379標
小松御城番一巻聞合覚……2412
小松御城番一巻旧記等……2412標，2413標
小松御城番一巻承合覚……4471標
小松御城番窺書……4454標
小松御城番覚書……4449標
小松御城番御貸家之絵図……3616標，3617標
小松御城番方旧記抜書……4470標
小松御城番方御本丸旧記抜書……4451標
小松御城番方御本丸旧記之内百姓騒動一件抜
書……7333標
小松御城番方雑記……4477標
小松御城番方達留……4481標
小松御城番北御貸屋絵図……3618標
小松御城番交代等覚書……2167標
小松御城番心得覚書……4462旧
小松御城番御用方留日記……4478標
小松御城番上申書……4454旧
小松御城番勤方帳……2409標，2410標
小松御城番等年代……2168標
小松御城番之名書……2166標，6545旧
~~小松御本丸画図……1371旧~~
小松御本丸旧記抜書……4450標
小松御用方覚書……4464標
小松御用方留帳……4472標
小松士帳……2827標
小松重堅訴訟之記……3933標
小松習学所勤方帳……5875標
小松習学所勤方附見廻り方心覚……5875
小松修道館定……5906標
小松城絵図……1349標
小松城御堀并町夫留……4469標
小松城下絵図……6040標
小松城下御廻道筋見取絵図…… 10072旧
小松城廓廻等書出之帳……1378標
小松城廓廻櫓数等之帳……1377標
小松城記録二十三種……4452標
小松城御殿之絵図……1356標
小松城御本丸絵図……1371標
小松城御本丸御家指図……1353標，1354標
小松城御本丸御櫓絵図……1360標
小松城御本丸画図……1371旧
小松城御本丸御殿之絵図……1358標
小松城御本丸御殿之図……1357標
小松城図……1340標
小松城代口上書……4455旧
小松城代留帳旧記に付返書……4455標
小松城中三左衛門自分より相立申候所々并石
木之覚……1376標
小松城内土蔵等図……1362標
小松城内分間絵図……1350標
小松城等絵図……6038標
小松城二ノ丸番人より取揚候古き押紙面之内
御巡見之分書抜…… 641標
小松城之図……1370標，1372標
小松城番覚書……4448標
小松城番勤方帳……2407標
小松城番ニ関シ奥村内記ヨリ前田近江守へノ
書……~~2143~~ 3710旧
小松城番年代等四種……4482標
小松城番前田市正等書状……4456標
小松城本丸石垣崩之図……1373標

小松城本丸絵図……1355標
小松城附足軽等歳附帳……2169標，2170標，2171標
2172標，2173標
小松助右衛門訴状一件留……3934標
小松詰之節之留記……4467標
小松総絵図……6039標
小松茶商長谷部家の茶業沿革……7580標
小松町下代進書……6546標
小松於御用方留帳……4473標
小松之儀ニ付御用番方留帳書抜……4442標
小松梅林院天満宮宝物之記……6245標
小松八幡社三白鳥大長刀由来書……6246標
小松八幡社社領高相調理書上申帳……6493標
小松武鑑……2828標
小松本蓮寺并触下寺号帳……6178
小松町請地ニ付地方組合頭口上書……6634標
小松町地請地ニ付願書……6633標
小松町組合頭塩原屋平右衛門等願書……6633旧
小松町検使留記……4630標
小松町等茶問屋仕法帳……7581標
小松町奉行名書帳……6545標
小松八日市町地方組合頭久右衛門等口上書…6634旧
小松八日市町等請地願……6635標
小松より越後屋舗へ来状留帳……4453標
小松より越前国境迄の記……9776
小松より上口越前境迄之記等……7654標
小松より広瀬橋を経て金沢ニ帰の記……9776
虚無僧掟……6153標
米売附之覚……7189旧
米代銀請取証文……7614標
米代銀受領証……7614旧
米高直之砌御算用場よりの紙面……7604標
米中買心得方之条々……7617標
米仲買等へ被仰渡……7615標
米町川々除普請願……7225旧
小者落人給銀に付指紙……4585標
小者欠落人ニ付達書……4585旧
小物成取立之義ニ付覚書……6998
小者ニ関スル書類……2939標
御門往来許可依頼状……4522標
御門外御行列建場之図……5660標
御門格弁妄……2426標
御門方繰出方有無之事……2431
御門方帳……2423標
御門方留帳……4520標
古文書写……3341標，8663標
古文書系図等……2568標
御門前西町より袋町までの絵図……6030標
御紋散御仕舞道具……994標
御門番近例鈔……4518標
御門より式台の図……1334標
御結納御次第覚……988標
御結納行列……833標
御結納御答礼之節駿河守様ニ而之御作法……878標
御結納十種十荷絵図……8996
御結納被為済為御祝義従鷹司様等御使者諸大
夫罷越并就御婚礼御客有之御間飾附……974
御結納皆子餅御行列……873標
御結納皆子餅之留……872標
御用内留……4496
御用内留帳……4731標
御用鑑……6813標
御用方覚書帳……6769標
御用方手留……3996標
御用方手留　第四十二巻……3997標
御用方手留附録……3999標，4000標
御用方手留附録目次……3998標
御用方手留目録……3995標
御用方留帳……6773旧
御用儀品々大綱抜書留帳……6741
御用銀上納帳……5267標
御養君御昇進略記……8988標
御幼君之学問勤方について意見書……9445標
御用所伺紙面之書抜……10054標
御用小紙類写……4059標
御用所日記抄……4134標
御用書物目録……19標
御用大綱抜書……6741標
御用地仰付一件……6644標
御用地并相対卸歩数等調理書五種……6614標
御用留……4269標，4327標，4547標，4895標
6771旧，6823旧，6976標
御用留帳……4164標，4179標，4267標，4280標
4281標，4283旧，5741標
御用留并私用留……4189標
御用留抜書……6746標

御用日記……4135旧
御用人等出仕方心得覚書……2360標
御用番覚書……4170標
御用番方出紙面写……4102標
御用番方留帳……4129標
御用番方并御城方御勝手向御用之覚抄……4201標
御用番方并御城方御用之覚……4195標
御用番方毎日書立書抜……4243標，4244標
御用番記……4042標
御用番可心得覚書……2337標
御用番定等……2339標
御用番手記抜萃……4070旧
御用番可承知書……2336標
御用番諸事留……4268標
御用番中御城へ罷出指引等之覚……4166標
御用番中心覚留……4222標，5001標
御用番中心覚留帳……4207標
御用番中雑記私録……6130標
御用番中留……4189旧，6124標
御用番長甲斐守へ申渡書……3166標
御用番月之外覚書……4228標
御用番等へ為見候書取写……5019標
御用番等覚書……2337旧
御用番等より被相渡候付札物等之留抜書……6728標
御用番并御勝手方より御渡之覚書等……4995標
御用番日記……4146旧，4158旧，4160旧，4163旧
4165旧，4238旧，4302旧，4304旧
4400旧，4409旧
御用番日記抄……4251標
御用番日記帳……4136標
御用番日省記……4204旧，4248旧
御用番毎日袖裏記……4258旧
御用番前田内匠雑記……4227旧
御用番前田内匠留書……4213旧，4241旧
御用番前田内匠日記……4240旧
御用番ヨリ御渡之品々并御達申品々諸事留帳
……4996標
御用部屋へ遣べき覚……4112旧
御用部屋へ可遣分……4112標
御用部屋御次御買上物調帳……5148標
御用部屋見聞留……4865標
御用部屋為御用御買上物帳……5146標
御用部屋等へ御買上物書抜……5147標
御用部屋日記……4302標，4303標，4304標
御用部屋日記抄……4329旧
御用向書翰綴……6554標
御用申送帳……3970標
御予参一巻……569標
御予参之節絵図……568標
暦……9523旧
暦の註……9520標
古来ノ大将当代共ニ批判九ケ条……8758
古来ヨリ銀座勤方并銀座旧記……5076
御両家様御調達金此方様御引請御調達証文留
……5007標
御領国海辺略図……1616標
御領国産物方御用就被仰付候諸事留……7427
御領国寺社方江被附置候寺社領御先代様御判
物并御印物等帳……6470
御領国諸事御書上帳……2525標
御領国神社来歴……6212標
御領国水損風損之覚……7101標
御領国中寺社御普請所并御収納蔵御貸家覚書
……4719標
御領国中村名附帳……1518標，1521標
御領国中村名帳覚書等……1520標
御領国中出来塩高……7534標
御領国通用銀ニ付御達……5084旧
御領国之内小物成諸運上之義ニ付紙面之写…7152標
御領国村附帳……1514標
御領国山伏調帳……6176標
御領社家寺院来歴抜萃，但貞享ニ年就御尋書
出候分……6221
古畳図説……4980標
御領知目録御改草案之覚……1511標
御領内古城略志……9145標
御領内諸方道程記……7627標
御領内防備之為上書……5611標
御領分次第……1507標
御両方様御続柄帳……3134旧
御旅行方日記……1787標
御累譜……255標
古例集書……1921標，1922標
御霊堂御再建諸記……6411
御霊堂御再建諸一件……1203標
古例共……1930旧

古例控……1930標
御歴代御実名等写…… 286標
御歴代御書写……1217標
御歴代御墓標草案之写…… 428標
攪腸沙療法等品々……9557標
御老中方御招請…… 550旧
御老中方御招請御作法書込…… 550標
御老中御演達之品写……9331標
御老中御招請一巻……546標，547標
御老中御招請役付等…… 548 549 標
御老中上使之節御作法…… 542標
御老中水野出羽守殿より聞番御呼立御渡之御書付之写…… 580標
古老伝説集録…… 30(187)
胡籙之図……8513標
困窮百人弐首……9786標
権現様・利常様・光高様御軍役之覚……5280標
混見摘写……2523標
混見摘写抄……3441標
金剛寺文書（河内国）…… 30(123)
言上書……4014旧
言上書概記……3957標
言上留……7245標
言上留其六……6726
近藤新文書…… 10102
近藤勇建白書并仙台侯建白書……9228旧
近藤勇等建白書……9228標
近藤家譜……2990標
近藤三郎左衛門書状……3719標
近藤集書……2653標
近藤小左衛門書翰……4825旧
近藤小左衛門等書状……4825標
近藤兵作大桑村請地ニ付達書……6626旧
近藤兵作雑鈔……8640標
近藤兵作手記風説書目録……2652標
近藤兵作上書稿……4029標，4030標
近藤兵作願書等……6625旧
近藤松五郎稽古料申渡書……2225標
近藤用政系図……2991標
近藤錬作・東馬知行給付状写……2784標
今度御改之御廐場一件留等……4788標
今日御礼人帳……3248標
今般足軽小者へ申渡候趣……2334標
今般被仰渡候御規制之内御改有之度御ケ条…5872標
今般御勝手方御省略等之義ニ付云々……6563
今般従御上被仰渡之趣覚……4944標
今般於公事場經持共へ改テ御縮方申渡有之以後召仕方等之定……4921旧
今般御隠居御家督一件…… 147
今般御軍役相伺候ニ付同席共知行附交名帳……5307
今般初而御絵図面御書載之村々村建場所書上申帳……1594標
今般復元御潤色之趣ニ付御窺并組々年中行事御窺申上御附札を以被仰渡之一件……6762
昆目集抜萃……8770標
昆目抜萃武士勝負交名……8768
昆目抜萃武人隕命之稔月……8769
婚礼御規式飾付等…… 991標

さ

砂場遺稿……9623標
柴垣文章　続……9722標
柴垣文草……9721標
犀川浅野川々除御普請之様子并私共勤方之帳……7211標
犀川淵名録……9074標
犀川大橋ヨリ大滝マテ里程之覚……9076標
才川御用之鮎ニ付奥村伊予守書翰……7523旧
才川御用之鮎簗場取締に付達……7523標
犀川桜畠下立札立替願……7105標
才川寺町火事届書……7305標
才川中川除町家作川除往来道へ押出一件……6646標
才川中川除町若松屋爨等儀川除往来道開一件……6646旧
済急問答……9431標
済急問答附余談……9432標
西京御かね出入勘定帳……5193標
西京御調達金証書写……5262標
西行撰集抄（抄出）…… 30(176)
西京・東京等御扶持方之覚……5221標
救許米ニ付口上書……6952旧
西光寺文書（能登国南志見）…… 30(131)
再後住旧招・後見後住旧記等……6330標
歳々略暦……2639標
最勝寺文書（越中国石黒）…… 30(130)
宰相書翰写……1258標

財政難渋に付意見書写……400-1標
彩剪花談……7999標
西大寺文書（大和国南都）…… 30(120)
西台渉筆……5382標
歳旦詠歌……9689標
斉藤篤信斎往復書……8568標
斉藤家譜……8796標
斉藤喜久松所蔵文書…… 10101
斎藤実盛胄銘…… 30(153)
斉藤貞蔵居屋敷ニ付願書……3552標
斉藤之家系……8797標
斎藤文書…… 30(137)
再度就御上洛御法令・御下知状写……1880標
歳入租税等調理……5128旧
西念寺文書（越中国四屋河原）…… 30(132)
采幣御伝受一件……8008標
采牌・十一段太鼓伝授書……8005標，8006標
采牌太鼓伝書……8006旧
采牌伝授……8005旧
采幣伝授之師説……8009標
采幣并太鼓十一段之伝……8003標
催馬楽…… 30(174)
西明寺殿教訓……7799標
西明寺文書（近江国）…… 30(125)
才村家譜……2992標
材木代銭並運賃等願書一綴……7472旧
斉勇館規則……5882標
再遊漫録……9634標
在与力知并明知村分帳……2860標
祭礼旧記等……6378標
祭礼・法事・醫固等留帳……4639標
境御関所御条目等写……7673標
坂井三郎兵衛書状……3720標
坂井甚九郎自分留……4410標
境関所等之図……7674標
坂井日記并坂井留記抄……2669標
酒井村御林山論所木材伐取之件……7501標
境村肝煎九郎右衛門等願書……5703旧
境村御用地代り地引高願……5703標
境目之十弐城図……8229標
酒井永光寺文書……6274標，6275様
榊原御続書附御両敬……8965標
魚野菜商売月定……7609標
坂府兵学校御規則ニ模擬シ相定候大綱……5882
阪槙氏譜略……8826標
阪槙氏譜略ノ抄……8827標
相模国足柄郡……30(50)
相模屋武兵衛一件上書……9511標
佐川良助筆記……2657標
先組相備人数積……8139標
先手相備組合五百騎一構相陣取之図……8140標
先手組相備連城之図……8215標，8216標
前大僧正祐清書簡……9736標
作方覚書帳……7453標
作事木小屋等之図……2080標
作詩作文草稿……9720標
作州殿御配知御願之一件留……3069標
作箭之書……8355標
昨辰年等御入費部分調理……5127標
朔旦冬至次第…… 30(6)
作難ニ付取治方諸事留……7326標
作毛見立一巻……7036標
桜田門外之変井伊掃部守切害事件之顛末書…9314標
左近男聞書……8540標
佐々木鋼之助家督相続之申渡……3162旧
佐々木定国より借写覚書……2641標
佐々木氏大坂物語……5417標
佐々木四郎左衛門系図并由緒帳……6666標
篠島卯三郎所蔵文書……3363標
笹島卯三郎所蔵文書…… 10101
篠嶋左京紙面等写……4463標
篠嶋遺書覚書……2993標
笹波村藤掛社神職平田勝伊……6322
指急候御用ニ付江戸表へ発足ノ砌云々……4765旧
指物合印等之定……5347標
座主記……8673標
鎖窓談・心付之趣申達候控……4019標
鎖窓談等……4019旧
座備三番組四十騎一備之図……8161標
左大臣従二位島津久光誠恐惶謹言……9233
佐竹義堯・義修書状……8671標
貞郷記録…… 10039標
貞庸先生筆記……7974
定書……1889標，2423標
定書条目等……1943標

境関所之図……7674旧

笹波歌并和歌……9037

貞幹師再講九箇条記聞……8195
貞幹先師城図……8243
貞幹先醒(生)城図……8244
嗟歎支亡録……7800標
座中秘書……30(182)
雑覚書……3946旧，10084旧
雑観談叢……8634標
雑観談叢抜書……3514標
雑記……2655標，3862標，4223標，4227標
4529旧，4530標，5000旧，5103標
9316旧
佐々征伐文書（越中富山）……30(145)
佐々主殿之助屋敷につき届書……3556標
佐々成政知行宛行状写……8665標
佐々成政知行書写……8665旧
佐佐成政與秀吉公矛盾文書（越中）……30(144)
雑纂……9351標
襍纂録……8633標
雑詩聚年文海……30(180)
雑集詩篇……9642旧
雑集詩遍・艸稿……9642標
薩州幕府へ届書写……9222標
薩州より御届之写……9395標
雑抄六種……2667標
雑談集書……41標，10029標
雑著十種……55
雑著六種……55標
雑留……2630旧
雑目録……4485標
雑文書……30(150)(151)
雑用記……4425標
雑録……61標
雑録備考抄附録……2668標，3930標
雑和志……2622標
佐藤儀左衛門上書……4031標
茶道雑録……9995標
佐藤帯刀書状……3644標
佐藤元知十体城図……8241
佐藤元知城図……8267
佐藤文書……30(137)
佐渡越湖之記……30(60)
佐渡守様御使者登城絵図書并服付……9005標
佐渡守様御婚礼一件留等……860旧，863旧，865旧
867旧，869旧，871旧
885旧，8998旧
佐渡守様御婚礼御規式之次第等……860標，861標
佐渡守様御参府ニ付所々へ詰人名書……1756標
佐渡守様御出府之節御道筋縮方達書等……4986標
佐渡守様就御逝去前後取啓之覚……1046標
佐渡守様御年譜……238
佐渡守様初御礼所絵図……586標
佐渡国郷村帳……30(58)
佐渡百首……30(178)
里村住吉宮神職中川里見直則……6326
佐那武絵縁起屏風記……30(11)
佐那武社縁起……6267標
佐那武神社古文類聚……6265標
佐那武明神文書写……6266標
讃岐之国の図……9139標
佐野家系……8798標
佐野鼎書状……3721標
五月蝿能佐夜疑……9289標
侍五十騎一備ノ積……5641標
侍帳……2797標，2798旧，2799旧，2804旧，2809旧
2819標
士帳……2802旧，2803旧，2805旧，2806旧，2814標
2817標，2818標
左武良以帳……2816標
侍名書……2797旧
佐山様より来簡集……960標
去卯年江差表御米代等残金上納方仕訳帳……5165標
去卯年箱館表残金上納方書上帳……5166標
申楽免廃論……1262標，10056標
去辰年御下シ米運賃并筒餌等諸懸リ物払方書
上帳……5174
去辰年次郎右衛門松前下リ并福山城下等往返
諸雑用書上帳……5174
去辰年神力丸幾太郎等福山阿部屋伝次郎御米代
荷物積登目欠弁金取立書上帳……5179
去辰年八右衛門松前下リ雑用書上帳……5174
去辰年松前表御下シ米三千石売捌方書上帳……5174
猿田彦細女命両神霊感得賦……9862標
去ル子以来諸国警衛出兵持場人数記……5499
佐脇譜略……3895旧
沢田直温在勤中取調書……10081標
沢橋兵大夫入道常珍伝……30(188)

衍姫様御縁組被仰進状…… 986標
三箇国古城……9150
三ケ国御領分之次第……1507
三箇国寺社方寺領等并御代々御建立被仰付寺
号所之改帳……6476
三箇国寺社領并建立修理所控……6476旧
三ケ国斗代等覚書……7002標
三ケ国斗代等之覚……7003標
三箇条合戦備定輯説……7813
三箇条備定輯説……7812
参議板垣退介……9233
参議木戸孝允建白……9233
参議公年表… 219標，220標，221標，222標，223標
224標
参議公年表（青地本）…… 227
参謀公年表　異本…… 225標
参議公年表附録……3145標
参議御昇進御位階御昇進并御代替将軍宣下之
砌御献上之覚…… 275標
三教之道……7728標
参勤御供覚……1808標
参勤ニ付被遣物・被下物品々留帳……1697標
三君諸事御条目類聚……1933
三公御上京日記……5584標
三公年譜…… 167標
三国処置大早計考証書類……9350標
三国水論合伝……9714標
三国村名……1513標
三国無ニ極伝弓法之巻……8396標
三国無ニ極伝之弓法巻……8395標
三国名物志……7410標
三国弓寸法……8456標
三御門繰出方之事……2431標
三御門勤方録……2430標
三才図会抜萃……29標
暫時預り金入払留等……5181標
三州沿革拾弐図并伝……1601標
三州御固場所人数配……5631標
三州海岸測量之図……6110標
三州海辺図断草稿……5829標
三州刈谷之城図……9201標
三州奇談　後編……9495標
三州紀略……2517標
三州銀座入払留……5078標
三州銀座諸入用書……5086標
三州検地出高手上高等書出……7046標
三州国政に関する対策書……4034標
三州古城跡……6058
三州古城蹟……9150
三州古城跡略記……9143標
讃州坂出ニ而買入下り物江指ニ而売捌書上帳
……5178
讃州坂出ニ而買入下り物江指ニ而売捌筒鯡買
入方書上帳……5178
三十三城之図……8240標
三州山川旧蹟志……9038旧
三州産物改分調理……7408旧
三州産物改分并蝦夷地産物調理……7408標
三州志……9045標
三州寺庵志……6179標
三州地方聞書……7041標
三州志鞬橐余考々証目録……9026標
三州寺号帳……6171標
三州事実文編目録……24標
三州寺社牒……6173標
三汁十菜配膳次第…… 10017標
三州城跡集……9149標
三州図譜村籍……1512標
三州制法等書上控……1656標
三州測量図籍…… 10063標
三州村名……1515標
三州治畧録……6704標
三州地名由来記……6058
三州地理雑誌……6058標
三州地理志稿……9043標
三州道程大概……7628標
三州道程仕出シ……7632標
三州斗代之覚……7004標
三十人頭一件……4554標
三十人頭指物之儀覚書……5315標
三十人組居屋敷図……3611旧
三十人組居屋敷図（犀川々除町）……3611標
三十人組小頭等三十人組之者并御手木頭同足
軽人数御充行高帳……2116
三十人組小頭等人数御切米等歳附帳……2117標
三十人組并手木組人数充行高帳……2116標

三十人組屋舗所附帳……3610標
三州内郡別鉱山記……7569標
三州廃城考……9150
三州復飾神職分神祇官御許状写……6334
三州武功……8864標
三州宝貨録……9435標
三州道の草……9049標
三州名処記能登国之部……9082標
三州良民言行録……7274標
三十六人歌仙……9650標
三拾六歌仙……9649標
三守御譜……187標
三条家蔵書古本名記国史等之儀付往復親簡写
……30(93)
三条様へ御助力金ニ付廻状留……5017標
三条様へ之御助力金覚……5017旧
三条西家文書……30(133)
産所篦之巻……8397標
讃続千字文詩……30(177)
散田村天神社神職金山金道……6322
三闘記……8730標
三殿様御通行古典……1782標
三王外記……8859標
三王寺参御下乗所并御供残所之図……700標
山王社御先代御下乗并御供残之図……6452
三王社之図……701標
残嚢拾玉集・淡新秘策之抄……3432標
山王行麻呂記……7729標
三之御丸絵図……1314標
三之御丸旧例書集覚書帳……3921
三之御丸腰掛図……2087標
三之御丸御番方壱巻……2437標
三ノ御丸御番方手帳……4516標
三之御丸御番所図……2083標
三之御丸御番割帳……2061標
三之御丸等御番割次第……2060標
三之丸御番方壱巻……4513標
三宮村地内白山比咩神社々地ノ内山地見取絵
図……6494
三宮村元神職三神直居宅地絵図……6494
三宮村元神職三神直居宅分間略図……6494
三百二条旧記……6832標
三百八十御餅五種五荷絵図……8995
三百万軍役考……5294
三百騎之陣取図……8149標
三品之諸士へ誓紙仰付之書……2290標
産物江戸方御用留……7421標
産物方旧記……7434標
産物方・小物成方御土蔵へ御役銀上納仕候ロ
々……7424標
産物方小物成方諸方御土蔵え御役銀上納仕候
覚書……7424旧
産物方御用留……7419標，7424標
産物方仕法帳……7429標
産物方証紙……7436標
産物方諸事留……7427標
産物方并諸口銭および津方要々留……7430標
産物方抜書……7428標
産物記四種……7399標
産物金入払帳……5160標
産物五穀之分書上申帳……7394標
産物仕入等証書写……7437標
三宝院聖護院御門主御入峰一件……6395標
算方覚……9516標
算法地方之巻……9515標
三宝図……9818標
算法田税録……7042標
三品軍配秘註……7849標
三品甲陽軍鑑結要九之内……7827標
三品虎略抄……7830標
三品抄……7869標
三品豹業抄……7831標
三品豹之巻抜……7831
三品龍韜抄……7829標
三明杢右衛門変死請事留帳……4659標
残夜抄……9899標
算用聞勤方書上申帳……6867標
算用場覚書等……5020標
算用場通知状等……5008標
算用場奉行篠島左平達書……6627旧
三餘雑志外篇……7334標
三略諺解……7936標，7937標
三略講註……7935標
三略私考秘説……7939標

し

寺庵違失之趣被仰渡御請帳……6142，6474
寺庵違失之趣御糺方御ヶ条抜書……6474
寺庵違失之趣御糺方御箇条抜書……6142標
寺庵御触……6157旧
寺庵方御触二種……6157標
寺庵由来……6219標
寺庵由来書等写……6222標
椎名左衛門由緒書……2994標
寺院御答書等……6373標
寺院方諸事留……6139標
寺院御印拝領地等記……6194標
寺号帳（宝幢寺）……6177
寺院号所附御改帳（国泰寺）……6177
寺院明細帳……6185標
寺院来歴……6218標
寺院来歴等……9041標
塩稼雑具之記……7539標
塩瀬甚太夫覚書……8439旧
塩瀬甚太夫秘伝書……8439標
子浦村肝煎勘九郎等口上書……7270標
地方細論集……9426
私家農業談……7443標
自家秘記……3347標
自家秘記抄……3348標
師監抄聞書……7925標
士鑑用法……7920標，7921標
士鑑用法講談聞書……7924
士鑑用法抄……7923標
四季今やう……9700標
職原家伝秘録……8918標
時宜考……4010標
史記考異……8619標
直言上之品等目録写……3865標
式三献……10016標
式日留……4249標
式日等御用留……4250標
敷地天神社記……6240
職事補任……8911標
直乞書格……1211標
職事録……4186標
式台取次送迎一条……564標
敷波村本泉寺地中看司一件……6337
四季挟物之事……8508標
直鳴弦……8372標
字鏡集……9799標
嗣君年表……232標，233標
慈渓寺文書（能登国津向）……30(130)
滋蕙堂墨宝……9876標
重藤弓……8491標
繁姫様御婚礼一件……858標
繁姫様御婚礼御行列……859標
重熙公御夜話……402
重熙公御親翰之写……3190標
重熙公御年譜……245標
重熙公林泉寺御中休之事……649標
四家前田家譜……1470標
重教公大御的御中附……5670標
慈限大師伝……8904標
詩稿……9639旧
寺号改旧記……6174標
寺号書上帳（神護家寺）……6177
寺号帳……6177標
寺号帳（観音院）……6177
寺号帳（玉泉寺）……6177
寺号帳（明王院）……6177
寺号所附知行高帳（天台梅林院）……6177
詩稿等……9644標
尻籠形等……5825標
自国辛卯随筆……2605標，2606標
矢籠建之巻……8524標
尻籠矢槨之巻……8479標
尻籠弓台寸法……8526標
止斎雑著……9602標
自讃歌……9660標
芝山東方先生小伝……3909標
地子銀方留帳……6610標
地子銀方触紙面留帳……6609標
地子銀勘定御算用場書替写……6608標
自事在府志……9015標
私事拙筆……3860標
地子地判帳……6606標
地子引出来根帳……6607標
寺社御貸米日印帳……6333旧
寺社御奉行御式台取次御定……6129標

子浦村志子神社神職之巨書写…6332　一寺号帳(長福院)…6177

寺社御奉行御式台取次御定等……6126標
寺社御奉行中支配方取次役勤方……6120
寺社会取次勤方之覚……6120
寺社方被仰出之御控写……6159標
寺社方御礼帳……6166標
寺社方旧記抜書……6122標，6128標
寺社方記録……6138標
寺社方記録雑之部……6140標
寺社方御印物写……6471標
寺社方心覚帳……6125標
寺社方御条目帳……6161標，6162標
寺社方御条目帳之写……6162
寺社方御用日記……6134標，6135標
寺社方勤方之覚……6120
寺社方等勤方覚書……6121標
寺社方留帳之内神社向抜萃……6137標
寺社方等御用番中心覚留帳……6133標
寺社方等勤方覚書……6119標
寺社方并支配方御条目……6160標
寺社方并支配方勤方之覚……6120標
寺社方年頭御礼次第……6167標，6168標，6169標
寺社方年頭等御礼次第帳……6170標
寺社方早引……6118標
寺社方門前地願并寺社諸事留……6528標
寺社方由来書指出の義ニ付一札……6321
寺社家開帳等并臨時之神事願……6377標
寺社御印物等写……6474標
寺社号所附知行高帳（真言宗白山長吏）……6177
使者指出方案内状……4399標
寺社帳……7724標
寺社奉行被仰付誓詞仮留……6123旧
寺社奉行被仰付誓詞仕廻当日ヨリ之役留……6123
寺社奉行被仰付候節之心覚留帳……6132
寺社奉行心覚留帳……6132標
寺社奉行支配濫觴……6117標
寺社奉行勤方諸雑……6131標
寺社奉行留記……6400標
寺社奉行并寺社方支配方取次与力附与力明知代寺社奉行等勤方帳……6127旧
寺社奉行并寺社方支配方取次与力勤方帳……6127標
寺社奉行役留……6123標
寺社村気多社水島石見……6327
寺社門前町奉行へ引渡方留……6532標
寺社・山伏・町人等衣類之定……6559標
寺社山伏法衣装束定之達書……6559旧
寺社由来并古蹟……6220標
寺社領御先代様御判物并御印物帳……6470旧
寺社領御判物并御印物帳……6470標
寺社領につき調書……6512標
寺社料之外地子免除之内ニテ私ニ田畑等取開候分之伺帳……6488標
四十七城之図……8225標
慈照院殿御代日録抄……8678標
自生山那谷寺記……30(14)
四条流七五三図……9470標
地震度数等……7313標
地震ニ付御親翰拝写……2026標
至聖譜系図……8834標
事跡抜書……8837標
紫雪売出し差留願……7588標
使節勤要録……2357標
四戦姉川答辞……8029標
四戦記聞……8027標
自撰雑録……8631標
四戦場之図断……8020標
四戦書翰……8025標，8026
四戦前後書翰……8024標，8026標
四戦前後諸方書翰雑集……8025，8026
四戦前後問議……8023標
四戦問議……8029旧
四戦略譜……8022標
芝草僊園聯吟……9625標
四大奇書第一種……9714
自他群書……2476標
自他国寺庵宝物并法談願旧記……6375標
自他変異記并附録……7297標
下谷桂香院絵図……6460標
下谷桂香院門番所修復願絵図……6461標
下谷広徳寺焼失御達之控絵図……7309標
下谷広小路出火御近隣火消言上紙面等一巻…7308標
史談会紀事……8617標
史談会速記録……8613標，8614標，8615旧
8616旧，8617旧
七ヶ用水図り帳……7233標
七五三献立……9471標
七城之図……8273標

七高紺屋文書…… 30(142)
七島之内宝嶋へ異国船漂着之一件……9361標
七木御格帳……6845標
七木ニ係ル文書類……6846標
七木の制……6844標
七面堂縁起（金沢卯辰）……30(17)
寺中大野湊神社境内絵図……6494
寺中大野湊神社地等絵図……6494
侍中群要……8913標
寺中祭礼之節御固罷遣候一巻帳……4639
寺中佐那武明神祭礼能ニ付罷出候覚帳……4640
四対八城……8178標，8182
四対八城図……8220標
四対八城論……8179標
質疑……4293標
実性院様御遺物被遣帳・御継目御祝儀被遣控
……1492標
実性院様御遺物被遣帳等……1492旧
質素倹約之儀に付被仰出候達書……5047標
十躰三十城之図……8218標
十躰城図……8241標
十躰之城図序附城図……8219標
質地証文……7243標
執筆回状留……4103標
執筆心得方の覚……4057標
執筆中等遣物等控帳……2349標
七宝秘蔵鈔……9979
七海村にて大相撲興行方…… 10021標
祠堂金協成舎并要用会社沿革略記……7602標
祠堂銀古来ノ一件……6526標
祠堂銀等元高帳……6527標
至徳元季法事記……7752標
自得流砲術伝来系図……8445標
品川左門勤仕向記録……2995標
品川宿荷物貫目記録……7702標
品川町辺弐拾番組地絵図……6031標
品川浜文書…… 10102
信濃国風土記……30(48)
死人吟味方達書……4845旧
司農庁壁書……6935標
司農庁年代摘要……6949標
司農典……6763標
志野家香道十三ヶ条…… 10001標
篠原系図帳……2996標
篠村八幡宮文書（丹波国）…… 30(102)
支配頭分并御儒医記……2112標
支配方行事大要……2294
支配方行事帳……2294標
支配方御条目帳……2231標
支配方御用留帳……6709標
支配方諸御礼廻勤等之覚……2249標
支配方勤方之覚……6120
支配之人々役懸帳……2138標
芝御屋敷御茶屋粗絵図……9194標
斯波家伝……8799旧
斯波家譜愚考……8801旧
斯波家系譜三種……8800標
斯波蕃系図……2997標
斯波蕃祖先以来事蹟書……2998標
柴田追討文書（越前）…… 30(143)
死馬の説……7468標
斯波譜脱漏考……8801標
斯波文明家譜……8799標
柴屋宗与書状……3722標
柴山弥一郎書状……3723標
四百騎案見之図……8148標
事品要略……4511標
紫塵雑纂……54標
自分人馬数之帳……3664標
自分留帳……4282標
仕法調達銀取捌方内存書……4998標
嶋尻村刑部手帳抜書留……6839標
嶋尻村刑部手帳之内抜書……6839
嶋新村と改名一村建之願……6016標
島津・板垣・木戸建白書写……9233標
嶋田勝摩御糺記……3491標
島田家系図……2999標
島原合戦記……8755
嶋原記……8755標
嶋原軍談…… 30(168)
締り項目覚……3956標
清水伊太夫刃傷始終[秀]取留帳……4657標
清水作左衛門書状……3724標
持明院家書目録……30(91)
持明院家楽譜伝書…… 30(174)
持明院家文書…… 30(133)

持明院殿書物之内書目…… 30(7)
持明院殿蔵書目録…… 8標
地面絵図目録……6632標
下街道行程記……7664標
下白山ニ付口上書……6201標
下田上村塩硝蔵地所分間絵図……5777標
下野国鉄塔婆之文…… 30(152)
下道中駅路御宿之覚……2731標
下道中御泊附……1859標
下道中産物并人馬賃銭記……7699標
下通細註……7659標
下通山川駅路分間之図……7666標
下通山川駅路之図……7665標
下新川郡十二貫野新開所総絵図……7095標
下白山本社近辺略図……6425標
下総国槻取郡……30(50)
下総国国府台……9186
赦過宥罪……4631標
射義指南秘歌……8359標
射御拾遺抄……8294標
射御蠡測集……8484標
借銀高等ニ付覚書……4984旧
借銀等覚……5201旧
借銀願等諸覚書……6911旧
釈菜記……7754標
釈菜問答……7755標
釈氏往来……7740標
借知之事等覚書……5010標
借用銀請取書等……5205旧
借用金皆済手形……9423旧
借用証文……7599標
射形直方書……8360標
社家継目ならびに社号等願書控……6333標
社号御調理ニ付被為仰渡御条目……6188標
社寺へ旧藩寄附地調帳……6501標
社寺御奉行所御尋等覚書……6363標
社寺御奉行所御尋等八種……6164旧，6363旧
9292旧，9961旧
社寺境内上地御拂下願絵図面比例表……6494
邪々無邪集……9708標
社寺領・御扶持高等ニ付伺書……6144標
借金返済延期願……3647標
社頭の図……6420標
射覆記……7763
射覆断……7763標，7764標
射覆断纂……7763
社領地耕作并御蔵米等願出之件……6485標
入院法語等……6392標
拾遺温故遺文…… 10027標
十一段太鼓……8004標
酬恩庵縁起……6314旧
酬恩庵関係文書一巻……6313標
酬恩庵宗柱書状……6313旧
酬恩庵歎願書附化縁簿……6440標
酬恩庵并江州曽沢寺由来一巻……6313
酬恩庵由来……6314標
集外拾遺集…… 30(178)
十九ケ条……8424標，8425
十九ケ条目録……8426標
袖玉武鑑……8968標
秋月記…… 30(175)
祝言之書……9473標
舟弦離形……8529標
集古雑話……2583標
集古雑話抄……3438標
十五城之図……8201標，8231標，8232標，8243標
集古続帖……9884標
集古帖……9883標
拾纂雑録……2673標
拾纂名言記……368標，370
拾纂名言記抜書…… 369標
宗旨寺替之儀ニ付被仰出留……6370標
集珠……1700標
重修加越能三州大路水経……9020標
重修加越能大路水経……9021標
重輯雑談……2593標，2594標
重輯　当邦諸侍系図……2923標
十城之図……8233標，8246標
繍像漢宋奇書……9714
繍像漢宋奇書英雄譜……9714旧
重蔵神社記録……6287標
重蔵神社年中行事略記……6287
襲知仰付書……2857標
衆徒牒状録……6250
拾弐貫野新開濫觴……7094標
鮫変鯨誌……9416標

宗門之儀ニ付御定……6154標
十役之抄……7947標，7948標，7949標
十役之抄足軽大将之巻自解……7951標
十役之抄自解……7950旧
十役之抄諸士之巻自解……7950標
従来極秘伝附状解……8019旧
袖裏規矩鈔等三種……2240標
袖裏愚考……2498標
袖裏見聞別録……2497標
袖裏見聞録……2496標
袖裏雑記……2479標，2480標，2481標
袖裏雑記外集附録……2494標
袖裏雑記　後集……2482標，2483標
袖裏雑記　後集（抄）……2484標
袖裏雑記之抄……2485標
袖裏雑記附録……2486標
袖裏雑記別集……2495標
袖裏雑記便索目録……2477標
袖裏雑記補綴……2487標
袖裏雑記目録……2478標
袖裏雑記零餘後録……2491標，2492標
袖裏雑記零餘前録……2490標
袖裏雑記零餘別録……2493標
袖裏雑記零餘録……2488標，2489標
袖裏日記……3880標
袖裏便索録……2477
十六日節会次第……30(6)
手簡……3885旧
手記……3936旧，9322旧
宿村鳥毛社文書（能登国）……30(114)
寿光院様御葬式等一件手留書……1045旧
寿光院様御葬式等一件手留書抜……1045標
寿光院様御懐妊之節調方……768標
寿光院様御結納御婚礼之御時節之仰出御作法……874旧
従三位様御年表……258標
従四位様御手廻小頭代并御手廻之者人数御切米高歳附帳……2839標
朱子遺書修覆之儀覚……4標
種々口訣……2645標
種々雑志……8632標
銃術角打図……8571
主将并小役人之部……8076
酒食論……30(175)
守拙様御筆也香樹院様守拙様御詠歌并国泰寺先往青地蔵人詠歌……9661
守澄法親王伝……8906標
出銀御定……4978標
出銀夫銀起原……9425標
十間町近江町火事等……7302標
十間町等非常用水一件……7294標
出陣人馬兵粮等覚　書式……5640標
出陣之節御条目等……5548標
出陣廼積……8085標
出張帰国覚……6865標
出馬之節行列之大概……5655標
出兵守衛一件抄……5591標
出兵守衛一件并追加……5460標
出役日記……5004標
朱封銀引替記……5081標
順庵墓図等六種……8639標
巡廻上使饗応覚書……1647標
春霞集……9673標
淳化帖……9871標
春寒之処……9013旧
春琴論画詩……9601標
春琴論画詩・孔石邨画訣・竹田山中饒舌……9601
巡見上使一件……1646標，1662標
巡見上使御触写……1663標
巡見上使御用一巻……1658標
巡見上使衆金沢御着之節覚書……1661標
巡見上使衆御通行一件留……~~1959~~1659標
巡見上使昼所一件……1665標
巡見上使并御定書写帳……1660標
巡見上使并巡見役人被指遣候ニ付公義ヨリ相渡候御定書写帳……1660
巡見上使之節玉泉寺前へ出向等之留……1664標
巡見上使宿木銭請取書……10065標
惇信院様二十三回御忌法事御予参之絵図……1174標
浚新斉手記……3830標
浚新斉手記抄……3440標
浚新秘策……2635標
淳正公年表稿……270標
春遊十絶……9624標
純六郎殿御髪置記録……802標
聖安寺文書（越中国高岡）……30(132)

攘夷趣意書写……4032標
上意振拝写他……9232標
文照院様御法事之節御寺御門御固一巻帳……4639
正院村桜井従五位……5327
松塢文稿……9467標
松雲院・護国院法号……1195標
松雲院様熱海御入湯一巻……644標
松雲院様以降御代々之御条目……1923標
松雲院様御一周忌御法事ニ付拝礼被仰出留
……1101標，1102標
松雲院様御一周忌諸事留帳……1100標
松雲院様御一周忌於天徳院御法事之節町屋へ
御詰前後諸事留帳……1100
松雲院様御三回忌ニ付御触之留……1104標，1105標
松雲院様御三周忌御法事天徳院ニおいて在之
ニ付諸事留帳……1103
松雲院様御近習御取次相勤中村典膳覚書之写
……4272，4274
松雲院様御近習中村典膳覚書之写…4272標，4273標
松雲院様御近習向留帳抜萃……4270標
松雲院様御病中之覚書……1014標
松雲院様三周忌諸事留帳……1103標
松雲院様・泰雲院様御隠居御願書被指出候砌
役所留帳……127標
松雲院様ヨリノ御判物ニ相洩候七手組以下之
奥書之控……2775標
松雲院殿五拾回忌留帳……1106標
松雲院他書簡写……1219標
松雲公遺編古文類纂……30
松雲公御続書……109標
松雲公御坐右銘浅解……394標
松雲公御夜話……392標
松雲公御夜話抄……3436標
松雲公御夜話追加……393標
松雲公硯銘……30(153)
松雲公御手沢遺書……12標
松雲公御手沢遺書写……2574標
松雲公御書翰写……1243標
松雲公御伝略……230旧
松雲公御伝略下物……230標
松雲公採集遺編類纂……30標
松雲公採集遺編類纂総目録……30(190)
松雲公採集記録七種……12
松雲公尺牘……30(189)
松雲公と新井白石との関係……395標
松雲公等御続書……108
松雲公等御参府留……1742標
松雲公年表……30(189)，229標
松雲公初而御入国ニ御家中へ御成之刻飾物御
献立写……1699標
松雲公墳前奉燈記……30(153)
松雲公より二条様へ御使御口上書……842旧
松雲公林家往復書簡……1245標
松雲公林家御贈答書翰抜書……1248標
松雲公林家贈答書簡……1247標
松雲公林家贈答書簡抜書……1246標
松越記……8870標
庄園名主職補任状案……30(133)
承応明暦御印写……7018標
定押留……3972標
性海寺文書（尾張国）……30(124)
象画行列・地言……8095
象画行列之図……8095標
正月城内行事……2264標
正月殿中御作法廻状之写……4153
正月初寄合申渡ヶ条請書……6737標
正月礼之次第……3258標
城ヶ端町御定……6731標
城下町金沢方位書……5982標
尚寛雑著二種……48旧
正巌寺邪儀ニ付口上之覚……6368標
自用記……30(88)
常喜院記……30(89)
常喜院諸要記……30(89)
常義倉仕法ニ付願書……7330標
常義倉ニ付願書……7330旧
証器団扇采幣免状……5637標
貞享元年以来村名付申新開所之覚……5990標
貞享元年四月在高改極り高目録……7118標，7119標
貞享五年記事……391標
貞享三年日記……4551標
上京ニ付口上之大意……5580標
貞享二年寺院由来書……6223
貞享至元禄記録……2581標

上京留守中之定……9346標
償金一件・薩打払等……9333標
将軍家斉公御猪狩之節御備等絵図……8163標
将軍家御使書……9003標
将軍家歴代略評……8759標
小君・公子・公女伝…… 206旧
小君・公子・公女伝稿本…… 206標
将軍様御成等覚…… 465標
将軍様御成之節献上物等覚書…… 466標
将軍様相国様御成之次第…… 463標
将軍様相国様両度御成之次第…… 815
将軍宣下御祝儀御給事等之者へ被下候覚等… 485標
将軍宣下に付御登城之節御作法方伺下物…… 484標
将軍宣下之節覚書…… 481標
将軍水戸様へ御成之節作法覚…… 470標
上卿筒要抄　上……8923標
城形方円図断并向背之理……8222
松月寺ニ住職仕候霊瑞入牢一件……6531標
松月禅寺由緒伝説記……6226標
証券写……5249標
象賢紀略…… 348
上言書……9231標
定検地格式帳……7031標
定検地方品留……7028標
定検地方当要……7033標
定検地所旧記要用抜書……7040標
定検地所川除方詮儀之覚……7037標
聖護院文書（京都）…… 30(125)
浄光院様遺物聞書……9016標
相公様御続…… 120
相公様御中屋舗・御下屋舗へ被為入候節御行列附…… 623標
相公様火事御行列建場絵図……4913標
相公様御隠居之儀ニ付留帳之内書抜…… 128標
相公様御所労之御覚書…… 10055標
相公様常御行列帳…… 622標
勝興寺御帰俗之儀ニ付書附…… 10031標
勝興寺後住御内意ニ付書状……6355標
勝興寺後住ニ付書翰……6355旧
勝興寺光昌院云々……6297
勝興寺御帰俗一巻…… 138標
聖興寺鐘銘（松任）……30(18)
勝興寺証文……6356標
勝興寺闔真願書…… 137標
勝興寺闔より年寄中へ願書…… 137旧
勝興寺伝書写（古国府）……30(41)
勝興寺願書……6537標
紹光寺文書（越中国池田）…… 30(130)
勝興寺文書（越中国古国府）…… 30(132)
譲国式等目録……8943標
相国寺文書（京都）…… 30(122)
相国歴名…… 30(8)
上古采幣之図……8558標
定小物成并散小物成銀取立之儀ニ付御改作所等御入御紙面之類留一件……7159標
正三記……8061標
松山寺境内歩高一巻……6222
松山寺御造営一巻留……6222
湘山星移集……8694標
上使…… 533標
上使池田帯刀殿就御越宿々御振舞之献立……1650標
上使への御答書…… 544標
上使御刀直之次第…… 538標
上使御作法附…… 541標
上使御使番間部主殿頭殺を以云々…… 545標
城址書上申帳河北郡……9165標
尚志軒雑録抄……56標
尚志軒夜話……57標
上使御通行ニ付拝領物……1667標
上使御来国日付……1652標
上使御老中水野和泉守殿上意振写……1970標
上使等通行留……1653標
上使之記録……1649標
上使之節御門外出所絵図…… 540標
上使之節御門外出所等絵図…… 539標
浄珠院様御遺物……1182標
浄珠院様御使者之件……4382旧
浄珠院様消息写……1251標
上州安中居館之図……9196標
上州倉ケ野より江戸までの道之記……9120標
上州倉ケ野ヨリ野州日光山に到り宇津宮通千住へ出江戸迄之道之記并間道脇道附……9120
城主記附録……8773標
松樹林大乗寺由来……6230旧
上書……4018旧，4031旧
常照院御知行被遣の年号に付一札……6321

常照院寺領所附之事……6321
常照院知行所付之事……6321
常照院継目願等及御札方に付伺書……6321
常照院根元・筋目に付申上添書……6321
常照院亮潤書状……6358標
清浄光寺文書（相模国藤沢）…… 30(125)
少将様初而御上京御往来御道中日記竝御供人帳等……5588
将様初而上京道中日記并供人帳……5588標
象書御屏風人数積……8092標
上書稿……4030旧
上書集……2654標，9213標
上書等……4022旧
象書之城分間之図……8277標
上書類篇……9367
上使来国留記三種……1648標
小陣取図……8115標
小身之士可心懸品々……8066
小身者出陳人馬積……8088標
小身者出陣人馬積附小身者出立諸道具……5627標
象図案間人数諸道具積……8091
象図案間人数積……8091標
象図備立地割……8112標
象図備立之図……8111標
小説類集…… 305標
常泉寺文書（越中国魚津）…… 30(130)
上疏……4033旧
常賊追討士書状……9306標
上疏類篇……9367標
松台遺墨……4556標
招提寺記……30(85)
城築旧伝新製之図……8221標
城中御用日録……4422標
城中勤方帳……2260標
常通寺居屋敷山拝領状写……6516標
正的筆記…… 30(183)
小刀蒔絵下図……9850標
正徳御代易略志……8991標，8992標
正徳改元記……8940標
正徳享保間江戸日記……4137標
正廣甲午雑筆……2613標
正徳甲午雑筆……2614標
正廣壬辰雑志……2607標
正徳壬辰雑志……2608標
正徳帝御元服御即位改元定聞書……8939標
正廣丙午集書……2615標
正徳丙午集書…… 10085標
自正徳至天保雑留……2630標
浄土宗寺院来歴……6218
城内御作法之覚書……2261標
小南伝書…… 30(139)
上日寺往古ヨリ伝来候留書之写……6296
上日寺争論一件……6190
証人御奉行へ被遣候御書付跡書……3660標
上納革日印帳……4722標
定納口米等七項写……5012標
上納取立方達……5041旧
上納取立方通知状……5041標
商売格并他国出入品々留……7613標
松梅語園抄…… 373標
乗馬心得等……8434標
乗馬御覧之次第……5674標
乗馬生兵教練……8578標
乗馬生兵教練運動図……8579標
城端古文書写……5953標
城端善徳寺配下寺号帳……6178
城端惣家高人数書上申帳……7260標
城端ニ而鷹捕ル一件……6191
城端町絵図……6105標
城端町旧記……6736標
定番御馬廻御番頭へ被仰出候御端書写等……3155標
定番御馬廻衆歳附所附帳……2107標
定番御馬廻八組碁割……2104標，2105標，2106標
定番御馬廻番頭へ可申渡覚……2300標
定番御馬廻番頭江可申渡覚……2301標
定番御歩並小原順之助御長前往来ニ而切害之節検使口答口書等控……4669
定番御歩並小原順之助切害之節検死口上等控……4669標
定番頭覚抜書……4491標
定番頭等へ御渡御条目……2303標
定番頭等御条目……2299標
定番御番頭へ被仰出之留……2298標
定番御番頭へ御親翰等之私記……2302標
定番御番頭勤方之内差配近例合集……2285
定番御番頭当用雑誌等……3953旧

定火消方覚帳……4929標，4936標
定火消御用方留帳……4914標
定火消勤方帳……4938標
定火消役古来より相勤候人々之覚……4952標
定火消役勤方心得覚帳……4912
松風亭記……30(175)
松風要鈔　上巻……30(3)
松風要鈔　中巻……30(4)
松風要鈔　下巻……30(5)
松風要鈔目録……30(3)
庄兵衛様御初御招請之節於奥方々様御盃事之次第……3654標
消防方詮議一件留……4943標
消防方之儀御用番より尋之趣有之同役詮義之趣答方等一件留……4943
正保二年二月ヨリ同三年七月迄・江戸御参勤并方々被遣物其外被下物品々留帳中納言様ノ分……1697
正保之御絵図ニ書記申川幅并深サ之覚等……1577標
正保・万治御遣物帳……1177標
称名寺文書（武蔵国）……30(124)
証文写追而御届可申者交名……5266標
将門記……30(160)
正文雑記……4008標
正文雑記抜書……9908
証文留……5153標
条約等ニ付廻状写……1969標
諸浦商物口銭御定帳……7420標
上洛道之記……30(176)
省略方申渡并借財向御手当方図リ……5061標
照了院様御三回忌御茶湯留……1168標
照了院様御七回忌御茶湯留……1169標
照了院様御十三回忌御茶湯留……1170標
松嶺院様衆給金請書ニ載不入分等……2847標
松嶺院様百五十回御忌御茶湯一巻……1107標
定例指出物覚……7373標
鈔録合集……2557標
抄録目録原帳……2542標
諸会式々衆出仕并読師記……30(89)
諸御定并仰出書……2229標
諸角場御詮議物留帳……5798標
諸頭前録拾遺……2130標
諸頭全録之内……2131標
諸頭前録目録……2129標
書画論……9854標
書画論合集……9855標
書簡文言考証等……9795標
暑気御尋御礼使者之儀達……581標
暑気御尋御奉書御礼御使一巻……4391標
諸切手留帳……5154標
諸旧記抜萃……2704標
諸記類聚……3231標
諸金属能毒記……9546標
食饗……9484標
職原家伝秘録……8919標
職原抄……8915標
職原抄口決秘事……8916標，8917標
職事日記……3990旧
職掌軌範……2288標
職制改正諸達書……2050標
職制改正布令留……2049標
職制御改革之際辞令書……2214標
職制御改正一巻……2051標
続潜告私記　（二）……5739標
食物私説……30(173)
諸軍配解……7842標
諸軍配聞書……7852標
諸軍配記聞……7850標
諸軍配極秘……7843標
諸軍配自註……7840標
諸系図纂要大全・菅原部……100
諸刑詮議書留……4643標
諸刑雛型……4627
諸家家伝稿本……3339標
諸家所蔵文書……2555標
諸家所蔵文書写……2556標
諸侯道中作法について……9013標
諸侯伯家格等幕府制度当用集……8957標
諸郡一村建并村名唱替調理……6002標
諸郡一村建村々調理帳……6011旧
諸郡御貸米調理……5225旧
諸郡草高定納口米等調理帳……7124標
諸郡御用留……6749標
諸郡収納蔵等調理帳……7186旧
諸郡新開御物成増減帳……7121標

諸郡詮義御郡所御改作所へ窺上候定書……7166標
諸郡十村拝領物相記……6879標
諸郡変地御償米引免ニ仕立申定納口米并年季を以立帰草高等仕分ケ帳……7104標
諸郡変地村々之内千石ニ五拾石御定不行届村々御償米仕立帳……7103標
諸国警衛出兵持場人数記……5499標
諸国古風土記逸文……30(46)
諸国城図附録集……9183標
諸国諸城主記……8772標
諸国灰吹銀位附帳……30(182)
書庫総目……21標
諸雑……4297標
諸雑留……3922標，4077標
書札礼法……9800標
諸事……4215旧
諸事跡書……4801標
諸事意保栄……6652標
諸事被仰出等記……3940標
諸事被仰出日記……2640標
諸事御定書……1951標
諸事覚書……3911旧，4130標，4202標，4271標，4420標，4557標，4568標，4590
諸事覚留帳……6841標
諸事覚日記……6590標
諸事御礼御定……2346標，3233標
諸事御礼勤之覚……3234標
諸事為御礼登城仕品……2347標
諸事御礼等御条目并御門方御定……2345標
諸事御礼之為登城仕候品留……3230標
諸士御礼列覚書……3158標
諸事記……5196標
諸色御入用高帳……5144標
諸色御用之留……10106標
諸式雑録……3206標
諸色高直払底之品有之等之儀ニ付書取……7605標
諸色直段書上等留……7610標
諸色直段仕立方ニ付被仰渡等抜書……7610
諸事記之内抄……5486標
諸事起本……2524標
諸事旧記等抜萃……3978標
諸事旧例等……3217標
諸字訓意……9792標
諸士系譜……2927標
諸士言行録抄……3449標
諸事見聞記……9335標
諸事見聞雑録……3915標
諸士心得……8046標
諸士心得之部……8076
諸事心覚……2282標，4306標，6162
諸事御条目類聚……1933標
諸事御用留……6789標
諸事御用留帳……4757標
諸事御用留帳々長州発向一件……5534標
諸事混集……49標
諸事雑録……7725標
諸氏詩文集……9597旧
諸事自分留……4508標
諸氏詩文等写……9597標
諸事紙面写……7387標
諸士先祖由緒并一類付帳……2926標
諸事帳……6655旧
諸事留……3949旧，3988標，4196，~~4199~~，4337標，6579標，9329標
諸事留帳……2464標，3950標，4196標，4252標，4253標，4259標，4260標，4277標，6587標，10106旧
諸事留抜書……10066標
諸品受取渡披露等覚書……8933標
諸品暫時貸借留……5182標
諸士並十村等由緒書……2931旧，6875旧
諸士難渋ニ付仰出……5005旧
諸士難渋に付御取扱の旨被仰出覚……5005標
諸事日記……3841標，3842標，3843標
諸事日記・金府……3844標
諸事抜書……2283標，6786標
諸寺願出之件令達目録……6215標
諸支配方取捌留……2055標
諸士風俗等に付心得書……3228標
諸士風俗に付被仰出候覚書……4507標
諸士風俗之儀ニ付御達写……1949標
諸士風俗之儀ニ付御達并請書控……1946標
書籍鑑定方等書札写……30(92)
諸借財書上并御貸附等被仰渡……4987標
書籍捜索方書札等写……30(97)
諸社寺領等……6475標

諸士由緒帳……2917標，2931標
諸城記……9182標
諸城主記……8771標
諸事要用雑記……4296旧，4299標
諸事要用日記……4300標
諸々御国大社ニテ公方様御祈禱被仰付候覚…1692標
所々御門定……4476標
諸書物留……6793標
諸士列伝……3428標
如水記……8884標
書籍目録……15標
書体雑録……9856標
諸大夫御取次所等……2354標
諸大夫由緒書……2897標
諸大名家臣禄高番附……8971標
書体例書……9852標
諸大夫等履歴……2896標
書道相伝之誓紙前書……9853標
諸日記……3877標
為諸人五穀成就等并都而触付一件……6191
諸願并都テ御達方旧例取捌之品々……3224標
諸願申渡之留……3924標
諸願目録書抜……3916標
諸場御定書等……2245標
諸旗指物等之図……5348標
諸法度考案之覚……9248標
諸藩学制……9456標
諸物直段考……7606標
庶物類纂……9532標
庶物類纂一件……9536標
庶物類纂御献上之儀ニ付留……9536-8
庶物類纂御拝借之書面留……9536
庶物類纂図翼　序・目録……9534標
庶物類纂抜萃……9533標
庶物類纂編集に関する書翰集録……9535標
諸返上打込被仰付候義ニ付御算用場挙行紙面等控……5032標
書法……9857標
諸方へ返書等之抜書……3917標
諸方書上御書写并由緒書……6891旧
諸邦諸品雑志……8630標
諸法帖合集……9868標
諸法帖雑集……9880標
諸方調理御絵図……6025標
諸向へ返書等之抜書……3918標
諸向御借入根帳……5264標
諸向より差出候御書類并古文書……2560
諸名将等感状集記……8662標
諸門蹟系図目録……8903
諸門跡伝……8903標
諸役懸帳……2141標
諸役交名調理帳……2140標
諸役前録……2059標
諸役名書……2137標
諸役人へ申渡方儀ニ付別紙写……5061旧
諸役人月番表……2057標
諸役人附帳并格帳……2143標
諸役人勤方帳標箋……2255標
諸役向格縮方触留帳……2244標
諸要事留帳……1785標
書類四種……6759旧
諸礼式心得覚留……3232標
諸例留……5216標
白岩川大曲之場所就直切分間絵図……7235標
志良根のつの久美……5442標
白山一巻……10060標
白山一巻ニ付公辺へ御達方等発端之書付写…1556旧
白山一件ニ関スル往復書状等……1555旧
白山川，尾谷川，河内川，中川筋流入谷図……6086
白山川流入谷，木滑，河原山御関所周辺図……6086
白山記録十種……6250標
白山山麓領界争論一件……1556標
白山祠文書……6253標
白山社蔵紫色石硯銘……30(153)
白山社蔵真柄太刀記……30(153)
白山社頭御修覆之節御作事所役人止宿之義神主ト村方懸合一件……6146
白山社頭鰐口銘……30(18)
白山衆徒牒状録……6385標
白山荘厳講衆徒牒状録……30(67)
白山荘厳講中記録……30(67)
白山諸雑事記……6200標
白山神社古記……30(68)
白山争論記……10059標
白山争論記抜萃……6255
白山大権現縁起……6250

白山太神宮社号書上帳……6202標
白山太神宮服忌令……6251標
白山太神宮奉加帳写……6384標
白山太神宮由来書……6257標
白山泰澄大師縁起……6252
白山地不足願并倶利迦羅長楽寺落着一件……6530
白山長吏同神主中跡職等帳……6346標
白山長吏同所神主諸事集合一件等……6146標
白山長吏補任次第……30(68)
白山之縁起……30(12)，6252標
白山之記……30(12)，6253
白山比咩神社歌会披講……9685標
白山比咩神社縁起……6258標
白山比咩神社改正社記……6255
白山比咩神社神主三神多宮旧記……6256標
白山比咩神社旧記……6255標
白山比咩神社記録……6248標
白山比咩神社古文書……6247標
白山比咩神社并摂末社明細図書……6426標
白山比咩神社宝剣銘并額面……6213
白山比咩神社文書（加賀国）……30(108)，(109)
白山比咩神社神廟記……6253
白山復古記…… 10061標
白山麓十六ヶ村之義ニ付被仰達候趣……1557標
白山麓村々支配方名ニ付返書……1589標
白山本宮神主職次第…… 30(159)
白山本宮同禅頂御出現次第……6253
白山本地堂鐘銘……30(18)
白山村白山比咩神社旧神職宅地等絵図……6494
白山村建部瑞雄より差出候旧書類……6261標
白山村地内元社領御締高絵図……6494
白山村元神職邸地絵図……6494
事理心抄……8411標
私立窮民撫育所規則……9493標
飼料方……5749標
史料稿本……8612標
史料稿本目録……2545標
寺領寺号改帳……6476標
寺領高并社領高村御印高之内外之儀および皆
済状相調理書上申帳……6483標
寺料等郷村高書上……6479標
士林雑話…… 30(183)
次郎右衛門京廻り帰国雑用書上帳……5174
城形之絵図……8256標
城習作図……8278標
城図……8213標，8252標，8265標，8267標，8281標
8282標
城図序……8245標
城取……8190標
城取奥秘九箇条……8174標
城取奥秘九箇条疎註……8175標
城取奥秘口解……8176標
城取間数之弁……8191標
城取古法……8198標
城取私考……8169標，8170標，8171標
城取七枚之図……8224標
城取四対八城品目……8177標
城取習練大意……8189
城取大意……8187標，8188標
城取之図……8239標
城捕品節抄……8172標
城取品節抄……8173標
城取分間之図……8197標
城取本元抄……8165標，8166標，8167標
城取本丸書……8279標
城取離格問答……8168標
城取練習仕様抄……8184標，8185標
城取練習大意……8189標
城等零図……8280標
城縄註解……8180標
城之図…8234標，8238標，8244標，8248標，8249標
8250標，8251標，8254旧，8255標，8261標
8262標，8266標，8270標，8271標，8283標
8284標，8285標，8286標
自論記…… 30(171)
壬寅妄志……9281標
新開方御触留……7067標
新開方御用留……7083標
新開方三種……7071標
新開詮議方一件……7100標
新開詮議之趣申渡覚……7065標
新開等之件……7006標
新開根帳……7079標
心陰事理自問自答抄……8406標
心陰流手数目録……8407標
新歩横目五人之親類附帳……2932標

真偽一統志……2659標
真偽一統志抄……3443標
神祇官神主職御許容状御請黙名連印公用方江
指出控……6334
神祇官願書留控加州能州越中等五拾五通……6334
神器渉筆……8443標
神祇道服忌令……7737標
新京升についての触……4979標
新敬近廿七城……8264
刃劔御葛籠入之内御目録……8533標
心源禅師諸稿……7750標
新興寺文書（因幡国）……30(125)
信光寺文書（越中国手洗野）……30(130)
壬寅妄志……9280標
清国貨幣種類并名目……9441標
人国記……30(57)
新刻日本輿地路程全図……9105標
書新刻仏生会講式後……30(189)
新古御借金残高并御当借金しらべ帳……5253標
神護寺絵図……6405標
神護寺御参詣伺公所図……696標
神護寺御仏殿へ御参詣御用絵図……695標
神護寺御仏殿并別当屋敷請取留抜書……6222
真言経教書留……7745標
真言律宗注解……30(182)
慎斎樑著……7762標
辰四月分遊泉寺山々師御給銀并夜番間時等人
別調理書上申帳……7558
真式三献之次第……9488標
壬子境目之十弐城……8229
壬子雑記……2570標
壬子雑記之抄……7466標
壬子集録……2571標
進士修理亮文案……30(136)
神社境内上地御払下願絵図……6494標
神社号等調理方主附一件等……6191標
神社由来等四種……6213標
心樹院様茶湯法事帳……1116標
辰十月分金平山々師給銀并余番間時等人別調
理書上申帳……7561
新修菅家逸譜……65標
信州路大地震之記……9527標
於信州善光寺駅変事一件……9504標
信州松城之図……9197標
信州松本より和田までの駅路図……9119標
壬戌十月ヨリ切用之触留……1902
神主録……1194標
真照院書状写……1237標
壬申紀行……9749標
壬申雑篇……2591標，2592標
神通川水脈図……9101標
神通川古川跡新開境目絵図……7092標
新製御附方諸事雑録……4341標
新製服忌令……3205標
新撰青地氏本末家譜……2945標，2946標
新撰御系図略……105標
新撰百人一首……30(178)
真俗習聴抄……30(76)
神代系図……30(154)
神代神号証考……30(154)
新知留書……2852標
新知召出之者等覚……2853標
陣中銘心録……5494標
信長記・亜相公御夜話・太田旧記・土方家系
……309標
信長記等旧記抄……181旧，309旧
清朝沙汰……9208標
新出来初覚書……30(183)
新田永荒之覚……7072標
新田永荒之所抜書……7010標
新田開発御仕法方留……7066標
新田裁許勤向帳……7068標
進藤丈信書状……3725標
神道蕤目周行七歩之巻……8385標
神道蕤目之大事……8384標
神道蕤目之秘術……8383標
慎徳院御法事之節覚……1176標
陣取人数割……8094標
陣取分間図……8108標
陣取方向魚鱗同異之辨……8103標
陣羽織図……5345標
人馬賃銭并道程書上申帳……7687標
新番頭組中共軍粧留帳抜書……5316標
新番方留帳……4543標
新番組御歩名書……2108標
新番組軍装御定等……5317標

真福寺書目録（尾張大須）……30(91)
新福寺鎮守鰐口銘（備中）……30(18)
神仏混淆調理方留帳……6336標
臣普略記……2893標
新聞論破湊川濯余……33標
新兵組前録……5570標
新兵組総名列帳……5571標
新兵組名列並前録……5571
新編御系譜需備抄録……199標
陣宝抄聞書……7933標
神保三文書……10102
神保氏系図……3000標
神保氏不破氏伺書等……3726旧
神保氏・不破氏書状等……3726標
神保舎人系図帳……3001標
神保半之丞心附書……7722標
新品甲陽軍鑑抜書……7873標，7874標
真丸馬出註解……8287標
真丸馬出分間之正図……8287
真鳴弦……8370標
心明剣印可……8405標
新山田畔書……2471旧，2473標，2474標
新山田畔書之抄……2475標
忍要弓……8366標
心理談……7777標
真龍院君七拾御賀菊園社中献上和歌……1005標
真龍院様御国入御供道中覚書……711旧
真龍院様御国入之節金谷御殿御間飾之図……605標
真龍院様御葬式之節御作法……1066標
真龍院様御使書……4389旧
真龍院様御続……117標
真龍院様御供にて帰着届之覚……712標
真龍院様御供之覚書……712旧
真龍院様御引移御中屋敷御飾附……603標，604標
真龍院様御迎御供ニ付江戸表へ御出府御行列附……705標
真龍院様御賀御祝ニ付従中納言様被進候御屏風和歌等……1006旧
真龍院様御賀御屏風和歌・狩谷金作献上歌…1006標
真龍院様御七十歳御賀之御祝御能組……1004標
真龍院様紀行等……413標
真龍院様御参詣之節天徳院御縮絵図……675標
真龍院様御入輿之節鷹司様ヨリ御心入ニ而被進候御教訓……894標
真龍院様御卒去之節諸事留帳……1065標
真龍院様御道中御行列附帳……709標，710標
真龍院様御道中御供之定……708標
真龍院様御道中方ニ付御横目ヨリ触出之写…707標
真龍院様御道中向帳……711標
真龍院様御墓誌……432標
真龍院様七十之賀御祝ニ付御献立……1007標
真龍院様等近火之節御立退行列附等……4930標
真龍院様等御近火之節御立退御建込行列附等……4930旧
真龍院様・姫君様碑文附鷹司文思恭公小伝…414標
真龍院殿御追悼百五十首……1159標，1160標
真龍夫人遺詠……412
真真龍夫人御葬式等留……1067標
真龍夫人小伝……412標
親類縁組願ニ付達……3149旧，3156旧
親類附帳四種……2894標
心蓮社鐘銘（金沢卯辰）……30(18)
心蓮社眼明如来縁起（金沢卯辰）……30(17)

す

水旱川除普請等抜書……7234標
薬香院御葬式御法事留……1058標
薬香院御葬式之節御作法……1057標
薬香院様御葬式等留……1058
酔古堂剣掃……9860標
水車ニテ出来仕候品々……7597標
瑞泉寺勧進帳（越中井波）……30(18)
瑞泉寺記録……6290標
瑞泉寺代々の系図……6290
瑞泉寺配下寺号帳……6178
瑞泉寺文書（越中国井波）……30(132)
瑞泉寺由来記……6290
瑞泉寺略縁記……6290
垂統別史……316旧
垂統別史異同考……318標
垂統別史抄……319標
垂統別史・同考拠……316標
水藩士黒沢忠三郎口話……9315標
随筆……10083標
随筆軍装之事……5339標
随筆軍装之書……5339旧

水府公献策……9219標
水府公御書……9218旧
水府斉昭公御書……9218標
水府浪士脱走ニ付追討被仰付候条大抵調書…9308旧
瑞陽院殿御法名……1196標
瑞龍院・高徳院様等ヨリ堤源介へ被下候御判物等写并提刑部・福井土佐紙面……6312旧
瑞龍寺院様〆百回御忌御法事絵図……1091標
瑞龍院様百五拾回御忌宿割帳……1090標
瑞竜公御年表…… 214標
瑞竜公世家…… 216標
瑞竜公年表…… 215標
瑞龍公百回忌御法会儀式……1089標
瑞龍寺へ御参詣之節御先詰之絵図…… 689標
瑞龍寺関係文書抜書……6294標
瑞龍寺御参詣御道筋之図…… 687旧
瑞龍寺御参詣之絵図…… 687標，688標，689旧
瑞龍寺参詣御名代御作法之図…… 692標
瑞龍寺之図……6433標
瑞龍寺文書（越中国高岡）…… 30(130)
枢密要論……7940標，7941標
枢密要論纂註……7946標
枢密要論之抄……7942標，7943標，7944標，7945標
図絵宗奭抄録……9861標
末森後詰始末抜書……5357標
末森後詰之図……5363標
末森御後巻始末……5358標
末森合戦絵図……5364標
末森記…… 30(164)，5350標，5351標
5352標，5353標，5354
末守記……5349標
末森後援文書（能登国）…… 30(144)
末森古城之図……5362標
末森古図……5365標
末森図……5366標
末森役甲冑記…… 30(153)
末森評……5367
紀末森赴援事……5359標
末森問答……5367標
末吉村山王社神職吉井美作……6322
周防守叙爵一件……2911
図解……7910
菅生石部神社御願神事抄……6383標—
菅沼系図……8802標
菅原神社旧神職愛野関邸地等旧藩寄附地絵図…6489
菅原神社旧藩寄附地境内線図……6489
菅原村天満宮神職菅野直人……6322
巣鴨御中屋敷方境図……1449標
菅原家古文書目録…… 271標
菅原氏系図…… 30(155)，69標
菅原氏御系図……68標
菅原氏御系譜……67標
菅原天神社文書（能登国）…… 30(114)
菅原直養覚書……3871標
杉木氏小留帳抄……6836標
杉木氏御用方雑録……6833標
杉木氏小番帳……6834標
杉木手帳……6838標
杉本成章日誌……4550標
杉山五左衛門書翰……3229標
菅笠問屋仲間株割……7587旧
菅作之法……7448標
亮麻呂殿城端善徳寺へ御引移御行列等……1003標
亮麻呂殿城端善徳寺へ御引移御行列并御道具被遣候節御行列等……1002標
菅生石部神社文書（加賀国）…… 30(110)
鈴木官兵衛伝……3492標
鈴木菊英師七城図……8273
鈴木菊英城図……8266
鈴木系図…… 30(157)
珠洲郡柵原村妙厳寺記録抜書……6219
珠洲郡寺社先祖由緒并一類附帳……6327旧
珠州郡下町野組郷村高物成調理帳……7138標
珠洲郡神職先祖由緒并一類附帳……6327標
珠洲郡高屋村高谷刀祢所蔵古文書写……6820
珠洲郡築山法住寺願状……6482
珠州郡長橋村亀山神職先祖由緒并一類附帳…6328標
珠洲郡三崎高勝寺書状……6482
須須神社口上書……6520標
須須神社古文書……6288標
須須神社文書（能登国）…… 30(112)
寿々姫様御輿渡絵図…… 957標
寿々姫様御附人撰詞前書写…… 954標
寿々姫様御引移之節御作法附等…… 955標
寿々姫様御気滞薬目一件等……1010標
寿々姫様御婚礼一件…… 941標

寿々姫様御婚礼一件留…… 943標
寿々姫様御婚礼御作法等…… 948標
寿々姫様御婚礼御式…… 950標
寿々姫様御婚礼御式正御献立…… 951標
寿々姫様御婚礼御給事役割　下物…… 947標
寿々姫様御婚礼御出輿御行列…… 958標
寿々姫様御婚礼留…… 947旧
寿々姫様御婚礼之際御規式等絵図…… 949標
寿々姫様御結納御祝儀御作法附…… 946標
寿々姫様初而御登城於御奥御饗応等御作法…… 953 標
寿々姫様本多播磨守へ御守殿御引移御作法書
一巻…… 956標
鈴見製薬所前橋懸ニ付口上書……5776旧
鈴見鋳造場用水江筋切替ニ付潰地歩数打立帳
并絵図面……5782標
鈴見村旧鋳造所潰地絵図……5786標
鈴見村製薬所合盛米ニ付口上書……5784旧
鈴見村鋳造所合盛米ニ付口上書……5784標
捨子一件等留書……6136標
砂川健次郎・平塚飄斎儀土屋采女正殿家来大
久保要二男杢之助ニ引合之廉申上候書付……4762標
都テ宿村送等ニ付一件……7676標
須磨記…… 30(175)
住吉神社文書（摂津国）…… 30(105)
相撲免許状……6592
駿河清見浦記…… 30(176)
駿河国安倍郡……30(49)
駿河国伊穂原郡……30(49)
駿河国有渡郡……30(49)
駿河国止駄郡……30(50)
駿河国駿河郡……30(50)
駿河国富士郡……30(49)
駿河国益頭郡……30(50)
駿州大地震御届書等……9529標
駿州久能山絵図……9122旧
駿州久能之図……9122標
駿州清水城地奥秘之躰……8222
駿府城之図……9199標

せ

晴雨寒暖抜書……9526標
聖学俚諺……9455標
清華齋趙帖……9875標
芹川村明運寺一件……6190
誓願寺鐘銘（京都）……30(18)
清業賢記（抜粋）……30(69)
清見寺記…… 30(176)
成業問答……4017標
税歛括要……6920標
清斉尽忠録……3481標
制札式……1952標
制札之式……9245標
西山遺事……8855標
世子東京遊学奉送……9613標
誓紙之案紙……2273標
世子の東京遊学を祝う詩歌……9614標
姓氏分脈……71旧
姓氏分脈抜書……71標
誓詞前書……2272標
勢州津之城図……9203標
姓氏由来……8765標
聖城怪談録……9496
聖城妖怪奇談……9496標
誠心院殿御入院の砌御本山より寺院役人同行
等へ被仰渡の事……6290
精腥雑記……8635標
正説起本……2513標
清操院殿詠草……1257標
清泰院様御輿入之次第…… 826標
清泰院様御入輿方々より出候書面之写…… 827標
青泰院様御入輿記…… 825標
清泰院様御逝去之節御葬式之義公辺御聞合等
……1012標
清泰院様御葬礼御法事并諷経御施物御香奠御
雇人之覚……1013
清泰院様御葬礼等覚……1013標
清泰院様御法事之節献上之品被仰出方……1099標
清泰院様二百回御忌御法事於伝通院御修行之
節覚……1098標
清泰院殿御拝領地絵図……6459標
清泰公諸器帳…… 828標
靖台実録……8625標
征長日記之写……5537旧
正智流白鑓……8419標
政典雑志……6787標
聖堂御囲中井戸教等絵図……9447標

聖堂釈奠ニ付披露所等絵図……9450標
聖堂新図……9448標
聖堂并学校請取所控……4974標
聖堂之図……9449標
聖堂火消方被仰出等一巻……1693標
盛徳頌……9621標
聖藩家譜要略……2733標
聖藩年譜草稿……1484標
誠姫様御婚礼一件……835標
聖廟通夜物語……1475標
政府への窺書並指令写……1979標
生兵教練運動図……8579
星鳳楼帖……9872標
政務留……4220標
政務に関する諸届，諸達……4495旧
晢文日記……30(164)，8720標
西洋火術之義ニ付心得之趣御内達書……5622標
西洋火術之義ニ付心附之趣御内達書……5621標
西洋軍制採用の風潮に付達書……5620標
西洋之軍制採用に反対意見書……5619標
西洋之軍制ニ付意見書……5619旧
生理談……7778標
性理談……7779標
政隣記……2470標
青琅玕珠記……9544標
清和院御門御固御人数配大略……5563標，5564標
瀬川五郎兵衛等書状……3727標
瀬川安右衛門，吉江平兵衛家来小者ニ疵付候
ニ付検使等一巻……4664標
関原合戦諸記抜萃……8022
関原合戦諸記抜萃追加……8022
関原合戦諸記抜萃追加共……8037旧
関原合戦前後書翰……8038標
関原合戦前後問議……8023
関原合戦前後略譜　追加共……8037標
関原合戦文書……30(148)
関原合戦略記追加東国西国……8036旧
関原合戦略記　追加共……8036標
関原記……30(165)
関ケ原記……8716標，8717
関ケ原軍記……8716，8717標
関原御一戦覚書……8719標
関原大成私記……8718標
関剣術伝書　四種……8409標
関佐次馬由緒……6348標
関沢明清君碑銘……3494標
関沢明清事蹟……3493標
摂事集録……2505
昔日北華……2507標
昔日北華録……2506標
石州一件……5538標
石州貞行掠附之覚等……8535標
石州貞行之刀拵之覚……9833標
石州雑記……9138標
赤心報国録……5575標
石台遺文……9737標
石動山縁起……30(13)
石動山関係書類綴……7481標
石動山関係書類披見覚……7494標
石動山関係提出書目覚……7494旧
石動山古縁起・新縁起并宝暦由来・寛政由来…6219
石動山々境ニ付口上書……7482旧
石動山々道々普請之時分絵図……7648標
石動山山林下刈ニ付達書……7500旧
石動山寺号帳……6177
石動山衆徒中後住帳……6347標
石動山争議一件……7490標
石動山知識廻之儀ニ付云々……6387標
石動山知識廻之儀ニ付御算用場より相渡り候
紙面等之覚……6387
石動山伝記略書……30(13)
石動山盗木一件ニ付書翰……7492標
石動山盗木ニ付書翰……7492旧
石動山と多根村山境ニ付口上書……7484標
石動山と麓村々と山境諍一巻……7487旧
石動山菜種畑村ニ付歎願之達書……7495旧
石動山等初穂米集方一件……6337
石動山・二宮村論所林下刈ニ付届書……7500標
石動山伐木ニ付書翰……7499標
石動山伐木願之絵図……7473標
石動山麓村々七木伐取論争一巻……7485標
石動山麓村々争論一件……7498標
石動山麓村々山境論所一巻……7487標
石動山々境相論ニ付達書……7486標
石動山々境ニ付口上書……7483標
石動山山境論所ニ付書翰……7489標

石動山より菜種苅取に異論申すにつき達書…7495標
石動山領山林伐荒しに付衆徒訴状……7482標
石動山論所一巻……7485旧
石動山論所一件……7497標
石動山論所関係書類覚……7494旧
石動山論所死人請取方願……7493標
石動山論所ニ付口上書……7488標
関戸覚書……6586標
関屋市右衛門書付……3728標
関屋氏諸系……3002標
関屋政知覚書類聚……3985標
関屋政知達書……8557旧
関屋政知録……2627標
関屋録……2628標
関流算盤……9514標
世間雑日記集……30(89)
世子御座所一件……4715旧
世子御座所普請方御用主附一件……4715標
石灰焼立方等一件……7574標
絶家滅禄雑記……2869標
絶家判印物写……2868標
絶家録……2872標
竊試下巻……9239標
摂州大坂冬陣加州ノ先手長如庵一手陣取之図…5404
摂州兵庫高田屋嘉兵衛ヲロシヤ船之者ニ被召
捕候一件……7716標
摂州道行之記……30(179)
殺生方一件……4786標，7511標
雪隠并剣掛見取絵図……9815標
摂津氏伝書……30(134)
摂津国有馬郡……30(49)
瀬戸町村瀬戸比古社神職瀬戸祐教……6322
瀬波村領内，谷図……6086
銭屋五兵衛一件……2689標
銭屋五兵衛詮議留……2688標
施薬院使補任例……8910標
詮儀方早繰……4727標
千菊抄……2573標
詮議小紙留……6778標
仙渓院様衆等書類……829標
前慶寿丸与三右衛門指引尻上納仕訳書上帳等
……5178標
先孝逸詩……9630標
宣光院様御三回忌御茶湯留帳……1144標
宣光院殿御葬式一巻……1030標
宣光院殿三拾三回御茶湯留……1148標
宣光院殿七回御忌御茶湯留……1145標
宣光院殿拾七回忌御茶湯留……1146標
宣光院殿二十五回御忌御茶湯留……1147標
先公御代々御定御陣御家中諸武具……5325標
善光寺紀行（抄出）……30(176)
千光寺鐘銘（飛州）……30(18)
千光寺記（越中国小川山）……30(16)
千光寺記（飛州袈裟山）……30(16)
千光寺文書（越中国小川山）……30(131)
千光寺文書（越中国芹谷）……30(131)
先考土田得入居士墓誌……8908標
戦功巻……7887
践好録……9355標
仙石氏系図附収書……3004標
仙石庄左衛門並列等之事……4393
千蛾集（抄出）……30(176)
穿鑿人名附……4683標
宣旨位記写……272標
戦士招魂祭祝詞……5473標
戦士并手負性名録……5483
千手院短刀覚書之控……9834標
禅宗済々寺号所附帳（伝燈寺）……6177
善性寺文書（加賀国四十万）……30(132)
全昌武貞問答……5295標
全書篇題之論目……7954標
戦争等巨細録……5462標
戦争風説等……5437標
先祖書……8815旧
先祖功績事蹟拾遺……3415旧
先祖由緒書上申帳……6900旧
先祖由緒并一類附帳……2943標
仙台家中伊達安芸・原田甲斐公事由来……8689標
仙台学校図……9457標
仙台雑記……30(185)
仙台様ヨリ御内願書……9394標
先代侍帳……2800標
専対秘鑑……9116標
船中打筒之図……8571標
全長記……8851標
先手弓筒二十一組合紋帳・同組々配当書……5344標

漸得雑記……37標
漸得雑記抜萃……38標
漸得雑記附録……39標
善徳寺文書（越中国城端）…… 30(132)
膳等食物居台見取絵図……9813標
千日町越中屋伝兵衛百姓地受地町会所引請願
一巻……6621
専念寺文書（越中国放生津）…… 30(132)
従先年於江戸御定書品々……1929標
先年ヨリ十村役等相勤候者其外百姓等之内持
傳候御印物写等志らべ……6901
千羽甫左衛門義ニ付本多周防守書翰写……3775旧
専福寺文書（越中国高岡）…… 30(132)
選仏院様御筆物写……3635標
選仏院様御代……3411標
善法寺僧正等御招請ニ付御客附献立御作法等
控……3653標
遷流記……30(88)
善良院様就御三十三回忌宅拵等覚帳……1115標
善良院様御拾七回忌御茶湯御執行一巻……1114標
善良院殿御詠和歌集写……1252標
前録貞一覚書……2126標

そ

贈亜相公遊誠…… 30(169), 1233
叟岳詩草……9638標
桑華字苑……26標
桑華字苑抄……27標
僧官条目……6359標
僧宮当用詩……宮…… 30(182)
葬儀御行列附……1069標
宗祇独吟連歌…… 30(181)
創業雑記…… 333標
総軍并御旗本御備之図……5660
総国風土記……9017旧
総国風土記抜萃……9017標
惣御軍粧御条目……5342標
惣小者御扶持御給銀等留帳……2843標
荘厳講所廻状……6385
増作食被下控……6953標
総持寺縁記（能登）……30(16)
総持寺置文……30(18)
総持寺旧記……6517標
惣持寺五院現住之次第……6353標
総持寺五院紫衣之事……6350標
総持寺古文書……6282標
総持寺三衣一件……6283標
総持寺三衣一件抄録……6284標
総持寺山内寺院所附帳……6177総
総持寺役ニ付覚書…寺……6354標
惣持寺住番ニ付調書……6351標
惣持寺鎮守図……6431標
総持寺文書上（能登国櫛比）…… 30(127)
総持寺文書下（能登国櫛比）…… 30(128)
総持寺門前諸職人支配方一件……6535標
惣持寺門前之儀ニ付奉願候事……6534標
惣持寺輪番等口上書……6352標
早字節用集……28標
宋史日本伝……8622標
奏者方覚書……4363標
相州御鷹場御拝領以後段々相極申帳……4774
御相州於鷹場延宝元年十一月十六日木曽八幡山
并丸山はら山御狩，同廿一日相武鶴間両所之
笹山道生山はら山丸山坊山御狩諸奉行諸役人
且又なら山忍田山芦山山崎山野津田山霧町田
山小川鴻ケ坂より坊山へ猪鹿移候様ニ追之候
役人等留帳…… 738
相州於御鷹場御狩留帳…… 738標
相州小田原大久保加賀守家来復讐之件写……9500旧
相州御鷹場聞書……4774標
相陽鎌倉郡腰越万福寺略縁起……7746標
籍相州鎌倉書簡等捜索書……30(96)
相州新戸村猪御狩の次第…… 10022標
相州鷹場聞書…… 30(183)
相州康国御脇指之札……9836標
槍術内田氏工夫之巻……8418標
鎗術規矩……8420標
槍術得道和歌……8417標
相承安心正義御役所へ指上候控……6367標
増上寺絵図…… 699標
増上寺御下乗等之図……6452
増上寺御廟所等之絵図……6451標
増上寺御仏殿惣御門并鷹之御門絵図……6449標
増上寺出張人御能拝見御能組……9953標
増上寺出張人御能拝見等之名書……9954標
増上寺等諸社寺之図……6450標
惣女中御扶持方御給金銀万渡り物代御仕着并

御合力銀被下候帳……2833旧
惣女中御扶持方等……2833標
曹沢寺縁起……6301旧
曹沢寺雪聞書状等……6302旧
曹沢寺由来之覚……6301標
曹沢寺由来之覚等……6302標
増訂菅神年譜略……8896標
宗滴雑談……8709標
宗滴夜話……8710標
曹洞一宗院へ教諭触達書之写……6158標
曹洞一宗祖規濫行ニ相成候儀ニ付寛政二年九月十八日従公儀関三刹江被仰達同年十二月日本中一宗寺院ニ教諭触達書之写……6158
曹洞宗寺院来歴……6217標
蔵頭蔵尾集偈……9741標
箏譜……30(174)
宗福状・松若物語……8660標
増補見聞大槻録……2678標
増補関屋氏系譜……3003標
増補大路水経……9022標
増補六国弁書……9998標
増補和歌題林抄……9690標
草木薬方雑記……30(182)
総物成高并公辨入費藩債高等調理帳……5126標
壮猶館へ稽古ニ罷出候人々届方等……5904標
壮猶館大筒員数留并弾数……5910標
壮猶館規則留抜萃……5907標
壮猶館御用隠密達留……5878標
壮猶館御用雑記……5908標
壮猶館御用達留……5879標
壮猶館御用日記……5880標
壮猶館雑記……5909標
壮猶館大砲弾丁……5911標
壮猶館并御鉄砲所御用日記……5912標
壮猶館砲術稽古書……5905標
惣与力人数知行高并明知役付歳付等之帳……2859標
操練所御地面図……5705旧
操練所御用地図面……5705標
曽我文書……30(136)
相書各祖規再興願書等写……6371旧
続己卯雑志……9270標，9271標
即成院縁起……30(14)
族簿訂正願……2942標
続漸得雑記……40標
続咄随筆……9772標
続武家閑談抜萃……8841標
続法号普志……8592標
測量方為御用繩張人等敦賀等へ罷越候料銀等請取帳……5604標
租税略解稿本……6997標
祖宗華押譜……289標
卒替地願并不望者名書……3614標
卒家作地ヶ所附交名……3615標
卒家作地調理名書……3613標
卒戸籍等増減帳等……2941標
卒松本久男等替地面相願候者共名書……3614旧
袖日記……30(41)
外作事勤方帳……4712標
卒都談小町形稽古抜書……9991標
外盤物十種……10005標
備先手人数諸道具の事……8139
備定書……8101
備定陣取下書……8105標
備定人数諸道具之積……5291標
備立諸図……8106標
備立之図……8107標，8109標，8110標
備之図……8102標
訴人取捌方の覚書……4652標
園家文書……30(133)
徂来手書……7758
曽理乃綱手……9651標
存意書……5555旧
尊経閣図書保管法……3標
孫子記聞……7934標
孫子講註……7931標
孫子十三篇……7932標
孫子陣宝抄聞書……7933
存寄之趣御内奉申上帳……6779標
村名替願……5999標
村名付新開所之覚……5989旧
村名付申新開所之覚……5988標，5989標
村名由来……5991標

た

大安寺縁起……30(14)
第一公儀古今御沙汰之一……9268

泰雲院様御葬式絵図……1032標
泰雲院様御葬式御行列付…1034標，1035標，1039旧
泰雲院様御葬式金谷御殿ヨリ宝円寺迄御行列附留……1039標
泰雲院様御葬式金谷御殿ヨリ宝円寺迄御行列帳……1037標
泰雲院様御葬式惣絵図……1031標
泰雲院様御葬式宝円寺迄之御行列附……1034旧
泰雲院様御時代的場出来之節下絵図……5789標
泰雲院様御隠居一件…… 135標
泰雲院様御親翰等御用番中抜萃……4070標
泰雲院様御葬送御忌應一巻等……1042旧
泰雲院様御葬送御忌應一巻并御放鷹等之覚…1042標
泰雲院様御葬送金谷御殿ヨリ宝円寺迄御行列附……1036標
泰雲院様御葬送御葬馬等一巻……1041標
泰雲院様御葬送并御中陰等御法事御用留帳之内御作法等要文……1033標
泰雲院様御中陰御法事御香奠帳……1136標
泰雲院様御法事之覚……1135標
泰雲院様三十三回御法事留……1139標
泰雲公御請書……1631標
泰雲公御取捌御条目……1938標
泰雲公騎射番附等……5673標
泰雲公御事蹟抜書…… 407標
泰雲公御進物帳抜…… 506標
泰雲公御誕生ヨリ後隠居後マデ之覚抜書…… 248旧
泰雲公御年表…… 247標
泰雲公御年譜…… 246標
大永之神書……30(12)，6260標
大円寺文書……6222
大応院御逝去前後覚書…… 401標
大応院様御夜話……399標，400標
大応院様御逝去之節御忌懸之面々……1022標
大応院殿御葬式並諸般留帳……1021
大応院殿三回御忌御法事留帳……1125標
大応院殿二十五回忌御牌前百首和歌……1127旧
大応院殿二十五回御忌御追福奉備御牌前百首和歌……1126
大応院殿二十五回御忌御追福追善和歌百首…1126標
大応院殿二十五回御忌和歌……1127標
大応院殿百回御忌留……1128標
大応公御葬式留帳……1021標
大応公御葬式并諸般留帳……1021旧
大応公・謙徳公略譜……241標，242標
大応公御年譜…… 238標
大応公御法事留……1124標
大応公任官献上等記…… 504標
大応公年表…… 240標
大学管窺草薬……7762
諦嶽公追慕録……1489標
大学国字解……7773標
大学私考……7769標
大学説聞書・論語講説・孟子講説……5901標
大学末章講義跋……7767標
大学寮職員令……9443標
大機院様・正智院様御略歴……1493標
大疑録……7783
大工作料之極并小物成……7153標
大工山上系図…… 30(159)
泰君へ上畳之写……4005標
太閤素性記…… 30(157)
太閤并将軍御成記…… 458標
大郷巻蔵上書……9215標
太鼓采牌記聞……8007標
太鼓采牌口解……8010標
醍醐雑抄（抄出）…… 30(177)
醍醐寺縁起……30(14)
醍醐寺文書（京都）…… 30(121)
対策……9237旧
大参事等被見候節御飾付御道具記控…… 566標
題紙留……2780標
第十七大区村々古高拝領高共明治五年分草高拾石当定納口米塩諸入用米引去手取作徳米書上帳……7146
大樹寺文書（三河国）…… 30(125)
大嘗会歌……9658標
大嘗会次第……8928標
大嘗会由緒……8944標
大嘗会由来……8945標
大将合戦心持……8063標
大将合戦之時心持……8063旧
大正寺・浅井表印書……5376標
大乗寺永平寺懸合一件……6197標
大聖寺へ御加勢一件抜書……5531標，5532標

大聖寺之御加勢一件抜書・越前路出張之人々兵粮等之義も少々記之……5532
大乗寺絵図……6423
大聖寺絵図……7361標
大聖寺御使一巻……4387標
大乗寺替地願証文并由緒書控……6222
大聖寺家臣役付等……3902標
大乗寺旧記……6227標
大正持軍記……5375標
大聖寺郡民倣訴一件……7366標
大乗寺境内等旧藩寄附地絵図……6489
大聖寺侯家譜等……1487標
大聖寺侯系図……1490標
大聖寺御城下全図……7362標
大聖寺古城図……9153標
大聖寺古城跡山等五ヶ所凡歩数並概略之図……9155
大聖寺古城跡山等歩数并絵図……9155標
大正持御陣覚書……5373標
大聖寺御領巨細絵図……2721標
大聖寺御領組合絵図……2719標
大聖寺御領境分間絵図……2720標
大聖寺御領村名帳……2725標
大聖寺実性院由緒……6238標
大聖寺城絵図……9154標
大聖寺城書文書……30(148)
大聖寺図……2722標
大乗寺并東光院絵図……6423標
大聖寺陣覚書……5374標
大聖寺藩御用留……1495標
大聖寺藩士禄高帳……3897標
大聖寺藩中侍分……3901標
大聖寺藩中分限帳……3898標
大聖寺藩略譜……2734標
大聖寺分限帳……3899標，3900標
大乗寺宝円寺御代拝略作法……682標
大聖寺町実性院境内区分略絵図……6491標
大聖寺村井家記……3906標
大乗寺文書（加賀国）……30(129)
大乗寺由緒略記……6229標，6230標
大聖寺領江沼郡奥山詳図……2724標
大聖寺領高辻帳……2718標
大聖寺領村界相極ル絵図……2723標
大事要覧……2466標
泰真院様薨去一巻日記……1026標
泰真院様薨去一件……1027標
泰真院様薨去一件等……833旧
泰真院様御葬送御行列……1028標
大神君様より台徳院様之御台様へ被進候御文之写……8666標
大清康熙六十年台湾朱一貴乱覚書……8001，8626標
苔岑小稿……9637標
大臣拝賀着陣次第……30(7)
台子ノ手前之覚……9992標
大政維新口達書等……1972旧
大政一新ニ付口達書等……1972標
大成殿盥神銘……30(153)
大星二乗伝解……7859標
大星二乗之伝……7853標，7854標
大星二乗之伝解……7857標
大星秘伝抄……7858標
大成武鑑……8962標，8963標，8964標
大山寺文書（伯耆国）……30(125)
大蔵流伝書……8320標
泰澄鏡之巻写……6259標
大伝太御太刀・小鍛治御薙刀由来書写……9826標
退転之寺并高持僧名改一件……6181標
帯刀御免許御押等一件……6885標
大嶺寺記（飛州）……30(16)
大同類聚方……30(172)
大徳寺四派系図……30(159)
大徳寺塔頭興臨院文書（京都）……30(120)
大徳寺文書（京都）……30(120)
台所年中料理之品等ニ付窺碁引之図……591標
台所奉行へ御親翰写并請書控……4770標
台所町図……3609標
大納言入道瀧頂記……8683 8682
大日川流域，阿手関所周辺図……6086
大日本史贊藪……8597標
大念寺新村秋葉社神職若狭勝信……6322
躰拝之書……8347標
タイハイ場等之図……1423旧
~~タイハイ場之図~~……~~1423旧~~
大秘物小永井藤左衛門せがれより同人江差越候紙面……9385
大福寺村六所宮神職福山茂磨……6322
大福寺六所明神文書（能登国）……30(114)

太平海邦船亜米利加号乗込姓名録……8982旧
太平記秘伝理尽鈔……9710標
太平記来由書之写……9711標
泰平年表……8604標
田井村肝煎孫右衛門願書……5793旧，6629旧
田井村次郎吉留帳……6938標
田井村領に家建願一件……6628標
田井村領之内町地等ニ御引渡之事につき答書
……6629標
大文字屋伝書……30(139)
代役申渡書付……2218標
田平氏雑記……2522標
平師貞城図……8249
帝龍寺山号ニ付申達書……6522旧
帝龍寺の義御尋に付答書……6522標
太梁院様御葬式絵図……1052標
太梁院様御尋に付公事場奉行答書……4619標
太梁院様御尋ニ付公事場奉行答申書控……4619旧
太梁院様御三回御忌取越御法事帳……1149標
太梁院様御墓誌并銘附考案……429標
太梁院様三十三回御忌御法事帳……1150標
太梁院殿御贈位勅使下向件等記事……281標
太梁公御入之節尾州邸飾付並献立……567標
太梁公御書立并御請之控……141標
太梁公御代亀万千君記・寛政八年九月廿五日
～同九年三月三日迄毎日帳之内書抜……10035
太梁公帰国覚書……1777標
太梁公帰国記……1778標
太梁公継統事件……136標
太梁公御家督一件……140標
太梁公御親翰留御請控等……2202標
太梁公参勤御供記……1774標
太梁公東海道御通行記一享和二戌十月東海道
御通行御国へ被為入御泊附并名所旧蹟略記一…1778
帯嫺閣記……9729標
髙岡稲荷社文書（越中国）……30(115)
髙岡御墓ニ付御親翰写等……1206標 1209
髙岡木町先宮一件……6190
髙岡旧城図……1382標
髙岡蔵宿市姫屋又右衛門願書……7207標
髙岡古城跡見取絵図……1387標
髙岡古城之図……1386標 1385
髙岡御廟御見隠林新開願詮義口書等……7089標
髙岡御廟御見隠林繁久寺新開願ニ付大野村等
よりも新開願出詮義仕候口書等……7089
髙岡市街全図附城下概説……6048標
髙岡衆分限帳……2823標，2826標
多可遠哥城図……1384標
髙岡称念寺願書……6393標
髙岡城之図……1381標
髙岡詩話附補遺……9629標
髙岡瑞龍寺へ御参詣之節御光詰一件……690標
髙岡瑞龍寺御参詣御道筋……687
髙岡瑞龍寺出張火消方覚……4912
髙岡瑞龍寺へ寿正院様御参詣御縮絵図……691標
髙岡瑞龍寺文書之取調……6295標
髙岡附分限帳……2825標
髙岡繁久寺諸願瑞龍寺之手を離し申付願方……6143
髙岡町年寄役等由来……6601標
髙岡町見取図……6050標
髙方御仕法書……6978標
鷹方覚書類……736標
髙方仕法略記并立毛見立心得書……6998
髙方等御達書……6915標
髙方并質方筮諸指引御仕法被仰付候御触等一
巻……6975標
髙方之儀御尋并言上覚書帳……1544旧
髙方之儀御尋并言上控且又覚書帳……1544標
貴君様御婚礼御式御献立……971標
髙国記……8727標
髙座宮・金分宮遷宮修覆御入用物帳……6432標
髙座宮并金分宮下遷宮奉願上候ニ付御輿等御
入用之品々書上申帳……6432
髙座宮御本地堂御修覆物御入用物帳……6432
多賀系図三種……3005標
多賀家古文書……3364標
鷹毛数等書上……9542標
多賀左近書状……3729標
髙指引寛文格・貞享格仕立申目録……7012標
髙沢税賦考……6947
髙沢録……6945，6948標
多賀氏三家并奥村氏世系……3006標
多賀氏留記……5860標
髙島四郎大夫先生肖像……8449標
髙嶋流砲術稽古業書等……5694標
多賀皷文書……10102

鷹毛数等覚……9542旧

多賀城碑文…… 30(152)
多賀神社文書上（近江国）…… 30(103)
多賀神社文書下（近江国）…… 30(104)
鷹巣子図……9895標
高田・植松切復之記……3500標
高田省吾手記……4547
高田善右衛門書状……3730標
高田善蔵一件……3497標
高田善蔵・植松内蔵太切復一巻……3501標
高田善蔵伝……3496
高田・中村珍事仕抹……3499標
高田・中邨之件……3498標
高田屋嘉兵衛等漂流一件……7717標
高田流系譜覚……9863標
鷹司左大将殿へ阿州御息女津具姫御婚姻次第
并御膳部……9008標
鷹司様へ返書之控……3709旧
鷹司准后様江戸表へ御下向一巻抜書…… 534標
高辻様御通行一件等十一種……6149標
高辻帳原稿……2691標，7007旧
高辻帳并絵図御用ニ付江戸ヨリ来頭書写……1553標
高辻帳ニ付津田宇右衛門上申候紙面之内抜書
……7011標
高辻帳之儀ニ付紙面等写……7017標
高辻帳之義ニ付重村五郎兵衛等紙面写……1546標
高辻帳之儀ニ付前田美作守紙面等写……7017旧
高辻と郷帳違之品々附紙之仕立帳……1548標
高辻殿御妹子一巻…… 845標
高津鳥之勘文……7787標，7788標
高津鳥之事……7786標
多賀直清歌集……9612標
高并小物成手鑑……7353標
鷹野行列附日記抜書…… 740標
高畠厚定職事日記……3990標
高畠家系……3007標
高畠勘兵衛書状写……7612標
高畠旧記……3365，3366標
高畠家系図……3008標，3009標
高畠家系図之抄……3010標
高畠五郎兵衛口上書……5272旧
高畠五郎兵衛届書……5272標
高畠定位製城図……8284
高畠左門留帳……4459標
鈔姫様御縁組一件…… 936標
鷹部屋図……9575標
高松家御祝建別紙之写……9000標
高松村浜へ漂流之舟様子書并絵図……7719旧
田上火薬御土蔵道造之件……5775標
田上火薬土蔵道造直并前橋懸ニ付口上書……5776標
高物成等調理……7142
高柳与左衛門・萩原十之進拝領地について願
書……3546旧
高屋枚人墓誌…… 30(152)
高山右近大輔軍功……3502標
高山御代官所へ百姓共乱妨一件……5503旧
高山御亭図……9582標
高山在番記……1688標
高山在番御親翰御加筆等留……1680旧
高山在番等覚書二種……1687標
高山在番之儀ニ付御親翰御加筆等留……1680標
高山真人書状……3731標
高谷文書……6820標
鷹量之事……7888
田川上書……4020標
滝口系図…… 30(156)
他亀次郎殿御髪匿記録…… 797標
滝谷妙成寺隠居日俊手前不届之条々……6340標
滝谷妙成寺配下寺庵へ為巡説代僧相廻候一件
……6149
叱枳尼尊天大秘法……7744標
滝之御間講釈御聴聞等之節之絵図……5917標
於滝之御間経書講釈御聴聞等之節絵図……5917
滝村起網等一件……7509標
滝村起網願御聞届為御仕入産物銀御貸渡返上
方并起網退転被仰渡御貸米願返上方等一件……7509
沢存…… 302標
竹小屋之図……8559標
武貞先生当戦案稿……8086
武貞末書纂註……7860標
武貞・基庸両先生応復記……3685旧
竹沢御殿ニテ殿御論一件等…… 410標
於竹沢蓮池御大小将備押之次第……5687標
武田草鹿……8506
武田家系図……8803標，8804標
武田家備定之図……8097標
竹田山中餞舌……9601

武田秀平指出候書類之内集録……9840標
武田信玄啃信公総軍備之図……8099
武田友信書類写……5498標
武田友信葉原出張筆記……5518
武田信勝・仁科盛信之伝……8845標
武田備要抄……7894標，7895標，7896標，7897標
武田備要抄図……8099標
武田文書……30(137)
武田有月ヨリ指出候書類之内集録……9840旧
竹千代様御誕生ニ付献上御道具……489標
竹之間御礼所絵図……3235標
建部石見控帳之内……6250
武部家系譜帳……3011標
武部氏家系……3012標
竹松隼人覚書……8698
武山太次兵衛，久木綱之丞殺害一件留……4666標
多慶若様御鷹野泉野調練場へ御出之図……747標
多慶若様卯辰観音院へ御出之節絵図……693標
多慶若様火事之節御行列附……4949標
多慶若様御書留……426標
他国往還送者之儀御覚書を以被仰渡候御請帳
……7678標
他国御使并早打御使心得帳……4640
他国御使并早打心得之覚……2358標
他国御使之事等……4393標
他国出菅笠問屋仲間株割……7587標
他邦辛卯雑志……9278標，9279標
他邦辛卯雑誌，附堀直寄覚書……9279
他国来状一件……6150標
他国割符鑑……2196標
田子島村等寄肝煎清七等付写書……6001旧
田子島村・与九郎嶋村御高打込壱村願……6001標
但馬守様御前髪御祝儀一巻……813標
但馬守様御持鑓二筋御願被仰出一巻……10037標
但馬国風土記……30(48)
太政御職明鑑……8977標
太政官職員録……8979標，8980標
太政官日誌……9255標
太政官布告并諸官省御達等……9258標
太政官ヨリ軍功撰之儀御書取御渡ニ付重而調
方被仰渡書上ケ候分，手合之者戦功書……5454
田代堂観世音菩薩略縁起……7747標
手網目録……8421標
多田院文書（摂津国）……30(124)
直郷之内西方寺年貢算用状之写并添状……7173標
多太神社古曽部神主願書……6492標
多太神社相殿五社之代々記録……6244標
多太神社文書（加賀国）……30(110)
畳屋彌市由緒書……6667標
多田六蔵旧記……6810標
太刀之大事等……8530旧
太刀之大事等一巻……8530標
橘氏見聞鈔……3367標
橘寺勧進帳（和州）……30(18)
立花宗茂略伝……8891標
辰閏四月中入払帳……5186標
辰君様御返事写……1256標
達書之覚……4813旧
辰巳役志……3848標，3849標
立替籾返納方につき願書……6989標
伊達記……8688標
立山硫黄之事并河原波山師屋敷之事……7572標
立山岩峅寺芦峅寺衆徒身分等重而寺社奉行支
配被仰付候一件……6148
立山岩峅寺芦峅寺争論一件於公事場落着申渡
候一巻……6208
立山衆徒支配一件……6148標
立山衆徒支配一件立山絵図……6148
立山争論落着一件……6208標
田中一閑系譜……3503旧
田中一閑伝……3503標
田中左源太由緒書……3504旧
棚飾……9489標
田中主殿頭書状……3732標
田中式如由緒書……3504標
田中平亟書翰……7736標
田辺惣右衛門書状……3733標
種懸生産方仕法一件留……7465標
多根村田畑荒地起帰リ方御仕法一件……6966標
多根村等田畠荒所書上帳……6965旧
多根村等田畠書上帳……6965標
他藩刑法・幕府刑法・刑事参考書……9254標
玉井市正書状……3735標
玉井勘解由口上書……3734標
玉井勘解由書翰……6457標
玉井勘解由達書……3960旧

玉井勘解由・成瀬内蔵助等乗物御願一巻……3308標
玉井家文書……3368標
玉簪女史詠草抄録……9680標
玉ノ浦日記……3490標
瑛姫様御出之節等惣御入用高控……5150旧
瑛姫様并因幡守様等御出之節惣入用高……5150標
手向神社文書（加賀国）…… 30(110)
為広塚の細記……9078標
袂草……3989標
たもと草・同追加……2585標
たもと草抄……2586標
多聞院日記抄……30(77)～(84)
田屋八郎兵衛等新歩横目五人之親類附帳……2932旧
垂仁水書…… 30(138)
短エンピールド等購入之覚等……5747標
談海略志……9266標
淡海録……9126旧
淡海録抜萃……9126標
短檠之義……9805旧
短檠之義考案書……9805標
丹後但馬辺書籍等捜索書……30(96)
丹後国風土記……30(45)
丹後国本庄浦嶋縁起……30(12)
丹後宮津城図……9205標
断書……7764
誕生蓌目之作……8386標
誕生蓌目之次第……8387標
男女挙公人縮方之儀今般於公事場相極候触状等覚……4595標
丹南・京都・芸州・越前敦賀出張一件……5495標
弾薬所御囲内御上水取入新江筋分間絵図……5762標

ち

小子部栖軽墓碑文…… 30(152)
親姫様御婚礼一件……961標，962標
知行歳時帳……2807旧
知行相続書上……2856標
知行相続申渡之写……3167旧
知行高現石人員調帳……2820標
知行高歳附帳……2789標
知行所附役料所附之写……2782標
知行歳付帳……2807標
竹園雑記……2576標
築城守防全図……8204標
筑前守様江戸表において臨時御備図等品々…5651標
筑前守様御歩水練御覧之節御仮屋等絵図……5682標
筑前守様御附御用奉務中大野木良之助日記抜萃……4336
筑前守様御国へ被為入候ニ付諸事触留……1804標
筑前守様御国へ御暇之為上使御老中方御出之節御作法……1716標
筑前守様御城御巡見ニ付相達候御作法書…… 639標
筑前守様御泊附……1835標
筑前守様御供御用方等諸事覚書……1820標
筑前守様御供にて江戸へ相越候記……1811標
筑前守様騎射御覧ニ付諸事留……5695標
筑前守様御縁組御願之通被仰出ニ付御使相勤候一件…… 965標
筑前守様御縁組御願之通被仰出ニ付尾張大納言様御招請一巻…… 889標
筑前守様御帰国御供人帳等……1834標
筑前守様御帰国御道中方御用品々留…1831，1832標
筑前守様御帰国御道中日記等……1830標
筑前守様御軍装一巻書抜……5334
筑前守様御軍装方書抜……5334標
筑前守様御婚礼御用留…… 963
筑前守様御婚礼之節御輿御具桶請取渡之図… 964標
筑前守様御再婚一件…… 966標
筑前守様御再婚之節御作法書等品々覚帳…… 969標
筑前守様御再度御婚礼一件…… 967標
筑前守様御再度御婚礼御表御作法…… 968標
筑前守様御参府御泊附等……1826標
筑前守様御参府御道中御供人帳……1809標
筑前守様御参府御道中日記……1823標
筑前守様御出府御道中川渡御役人へ相渡候帳……1842標
筑前守様御道中御行列帳……1839標
筑前守様御登城等御行列附……1625標
筑前守様御年表…… 259標
筑前守様御拝領御懸御馬一巻…… 529標
筑前守様御拝領之御馬受取之砌御作法…… 530標
筑前守様御発駕之節作法……1723標
筑前守様御分・旗本備押之次第……8135
筑前守様御結納御祝儀目録…… 970標
筑前守様御用方被仰付候以来私記……4335標

筑前守様御用諸事留……4338標
筑前守様御用留……4319標
筑前守様御用留写……4328標
筑前守様御用留抜書……4320標
筑前守様鈴見村より字穴場へ御出之図…… 652標
筑前守様初テ拝領之鷹之雁御披之作法…… 528標
筑前守様吹上御庭御拝見一件…… 531標
竹生嶋花王院宛判物につき調理一件……6524標
竹生嶋花王院縁起……6304標
竹生嶋花王院書状外……6303旧
竹生嶋花王院由来書外……6303標
蓄米始末……6969標
知識結誓碑文…… 30(152)
知事様御供奉御道中日記……5596標
知事様御上京一件……5587
知事様御上京御道中日記……5594標
知事様従三位御昇進一件…… 285標
知事様東京御再幸供奉後駆御道中略記……5595標
縮嶋仕法覚書……7418標
千路村杢兵衛願状……7184標
地租新論……9440標
致堂意見書……9727旧
致堂詩集序……9726標
致堂ニ薬序……9726
池徳院書状……1173標
千年山題八境記……30(60)
地盤方等勘農局へ附候御触等先鑑……6986標
着到方心覚……2351標
嫡流庶流之訳御詮儀之覚等……2880標
茶室記…… 30(183)
中越布勢湖八勝……9663標
中興源記……8862標，8863標
中山王献上之品々……9357標
中将様御代御書立之覚……2002標
中将様御筆之御端書御請之下書……3758標
中将様御的御中附等……3317標
中将様御続…… 115
中将様御手自被渡下候御書立……4497標
中将様御隠居以後火事御行列附……4905標
中将様御親翰并御請控……5638標
中将様御入国御道中御行列并御旅館付……1750標
中将様等へ御使者一巻……4382標
中将様より勝千代様へ御縁組之儀被仰進候御使相勤候節之覚…… 959
中将様より拝領之大的皆中之書付……3318旧
中糸流之系図……8408標
忠臣二月雪……9716標
中隊頭蔟輪知大夫品川県大森村等へ出張中日記抜書……5593標
中堂寺文書（越中国安田）…… 30(130)
中堂立柱宣旨写……9757
中納言御任官御祝御能組…… 283標
中納言様御続…… 121
中納言様御続書…… 118
中納言様御隠居・中将様御家督御吉事一件… 146標
中納言様御在国中方々へ御音信御上屋敷より調被遣分…… 491標
中納言様御在国中御進物被下物帳…… 494標
中納言様御在国中御進物帳…… 492標
中納言様御参内之節御献進物御使者相勤候一件自分留…… 512標
中納言様御分御留守中方々御進物帳…… 493標
中納言様多慶若様御供人之事…… 749旧
中納言従三位兼肥前守利長公御年譜…… 347
中納言従三位御昇進御旧例…… 274標
中庸管窺……7762
長大隅守宛書状……3741標
長大隅守組備立内考略図……5645標
長家記……3371標
長克連文書…… 10102
長家譜……3015標，3016標
町規秘録……6578標
長久寺文書（加賀国金沢）…… 30(129)
長久寺文書（加賀国卯辰）…… 30(131)
長久集再記并諸事留写……9990標
長九郎左衛門遺書并言上一巻留帳……3013標
長九郎左衛門叙爵一件……2905標
長九郎左衛門書状……3737標，3738標
長慶寺文書（駿河国）…… 30(125)
長家聞書……3372標
長家系譜・写本覚書……3014標
長家古文書……3369標
長家事蹟……3373標
長家事跡抄……3370標
朝憲纂要……3208標，3209標
朝憲纂要稿……3210標

長元寺絵図……6165標，6166標
長源寺文書（陸奥国）…… 30(125)
町見便蒙鈔……9517標
長浩院殿一周忌ニ付往復書状控……3656標
長五郎様御分入日記…… 10107標
長氏家譜大要……3018標
朝晴通載……6835標
長寿一覧……3466旧
長州一件覚書……5554標
鳥銃家秘録……8442標
長州雑記…… 30(185)
長州征伐討手懸り口図……5536標
長州征伐御進発之達……5533標
長州征伐配備図……5535標
鳥獣殺生方達書……4115標
鳥獣殺生方法度書……4115旧
長州藩士小島弥十郎京都脱出一件……9338標
長州藩暴勁見聞録……9334標
長州浪士山崎出張之書附……9336標
長松寺様（村井長貞）御続書……3120標
長床坊縁起……6315標
長生殿落雁家伝製菓略系……7590標
朝鮮近況紀聞……9417標
朝鮮信使入朝之記…… 30(183)
朝鮮人蔘に関する覚書……9562旧
朝鮮聘使志……9353標
長宗我部元国・元親伝記……8890標
調達銀について仰渡され候紙面之写……4998旧
調達金利足ニ付願書……5270旧
調達金利足引下げ願……5270標
趙帖合集……9873標
長連愛書状……3736標
長大隅守叙爵一巻……2904標
朝廷ニ上ルノ書……9227
調度掛寸法図式……9808標
長成連系図……3017標
町人由緒帳……6647標，6648標
長藩小島彌十郎……9338旧
帳秘蕃臣録……2813標
寵姫様御道具御用并被為入候時分之留等…… 848標
寵姫様御婚礼御行列附覚帳…… 849標
長福寺記（越中牧野）……30(17)
長福寺文書（能登国七尾）…… 30(132)
長府より森田治兵衛を以御知させ候五卿筑前
御渡海覚……9339旧
朝聘使志……3851標，3852標
長防一件並武田伊賀一件風説……9331標 9311
長将之佐殿叙爵被仰付候御使勤方覚……2910標
長又三郎書状……3739標
長楽寺文書（近江国守山）…… 30(125)
調理銀帳……5184標
調理違有之村々仕立帳……5995標
長隆院横山長隆最後之略記……3527標
長齢寺文書（能登国七尾）…… 30(129)
長齢寺由来書等……6592
調練御備建ノ図……5706標
調練御覧等記録……5684標
調練四十くらが里……5689標
調練躰容……5683標
調練場新建絵図……5704標
長禄記……8725標
勅教奏建嘉永明治史鑑……9368標
勅使一件……453標，454標
勅使御一件等…… 455標
勅使御通行方留帳…… 457標
勅使御通行之節伺帳…… 456標
直指心源禅師偈頌……7750
直宿拾隙抄……7966，7967
勅書并徳川家茂御請書写……9332標
勅本点図等写……30(93)
千代尼発句集序跋……9694標
千代のかさし……9686標
チョボクリ武士……9788標
ちょぼ女書翰……1270標
散小物成覚……7155標
地理根元記……9426
地理細論集……9426標
散算用聞役所留帳……6599標
地理分類拾補三州封疆等……9048標
癡龍雑著……51標
椿樹院様御葬式御法事留……1061標
椿樹院様御葬式之節御作法……1062標
椿樹院様御中陰御法事御作法……1165標
陳善録…… 324，331，332旧，333，334
鎮台日誌……9259標

つ

追繫集……60標
衝立之図絵……9809標
通卦五隣伝精義……7761標
通用銀請取覚……5204標
使番方留記……4766旧
津方一件……6857標
津軽道程……9113標
月切駕籠御免之覚……3309標
月切留……4427標
月次御登城御供控所絵図……1640標
月次之城序抜草案……8183標
月番廻状等写……4117標
積物……9811標
筑波山戦記……9304標
筑波山水戸浪士陣営図……9305標
筑波山神社文書（常陸国）……30（105）
津田・織田由緒の弁・津田譜愚考……3025標
津田家系図……3019標
津田家系譜……3026標
津田家文書写……3374標
津田源右衛門書状……3742標
津田源右衛門等書状……3743標
津田玄蕃へ被下方御料理……3328標
津田玄蕃下屋敷絵図……3621標
津田作次郎・津田六郎兵衛先祖由緒一類帳…3020標
津田氏覚書……2394標
津田重次由緒……3023標
津田重久由緒……3022標
津田重以由緒……3024標
津田次郎左衛門覚書……2575標
津田遠江先祖并自分由緒高名……3021標
津田文書……30(138)
津田弥市右衛門口上書……3744標
土清水旧製薬所囲内歩数記……5759標
土清水製薬所絵図面写……5755標
土清水製薬所御囲内御用地起返入費賃書上書
……5758標
土清水製薬所囲外往来道ニ付願書……7643標
土清水製薬所御用地分間打立縄入之図……5753標
土清水製薬所先達テ御検査之節御絵図面写……5755
土清水製薬所内開懇地払下ニ付三山平造指出
之絵図……5773標
土清水製薬所内開懇地払下願絵図……5774標
土清水製薬所等敷地図面……5757標
土清水製薬所用地歩数調等……5760標
土清水等御蔵筒薬在高調……5754標
土清水村旧製薬所絵図……5756標
土田組村御印写……7026標
土田得入居士墓誌……8908旧
土御門家より越中陰陽家詮議一件……6190
土屋氏系図并由緒……6886標
筒井旧記……6819標
筒井氏跡書……6816標
筒井氏旧記……6815標
堤并橋数調理帳……7230標
津留一巻控……6859標
勤方覚記……4315標
勤方簗……2232標
勤方詮議一巻……1621標
勤方日記……4284標
勤方役掛控……2134標
勤向書上申帳……2241標
勤向縮方ニ付奉行方江申達留……2278標
綱利卿御祝儀ニ付覚書……830標
綱利公へ献御茶道具付并献立……590標
綱利公御代雑記抜書……228標
綱紀公御参勤御帰国上使等之覚……1747標
綱紀公御入国已来御暇御参勤之上使覚書……1726標
綱紀公御入国已来上使覚書……1726旧
綱紀公ヨリ初テ御暇以来当御代迄御参勤御帰
国上使等之覚……1747旧
津幡弘願寺寺号帳……6178
津幡由来書……5948標
坪坂文書……30(138)
詰人高知らべ帳……5212旧
つゆに入る日御答……9525標
鶴御披御作法附……526標
鶴御披之御絵図之儀覚書等……523標
鶴飼ニ付書翰控……9541標
鶴岡八幡宮文書（相模国）……30(102)
敦賀表出張中諸事御用留……5523標
敦賀表出役惣入用金請払帳……5600標
敦賀等ヨリ運送潰物等越坂ニ而請払帳……5598
敦賀并海津より運送之兵粮米請払帳……5598標

土川村忍性寺法話講仕ニ付答書並
長福寺添書，嘉永七年 ---- 6373

綱紀公ヨリ初テ御暇以来御参勤御帰国
上使等之覚 ---- 1747旧

敦賀糧道方御用御算用帳……5599標
弦衣之事……8361標
鶴来村旧記写……6756標
鶴来ヨリ吉野マデ道ノ記……7640標
鶴田系図附上木系図……8805標
鶴見小十郎由緒帳之抄……3027標
鶴見長十郎切懸之件調書……4677標
鶴見文書……30(138)
つれづれ……2588標

て

堤移小識……9211標
停雲館帖……9874標
丁亥集録……1188標
貞卿記録……335標
定式物……6542
丁巳十城……8233
挺秀様御墓誌拓本……433標
丁未雑志……9285標
丁未雑志　都鄙之事……9285
貞婦を訪ふ記……7280標，7281標
丁卯十月ヨリ戊辰十月中故従三位前田慶寧ノ
履歴等先達テ進達及ヒ候処誤且脱漏御座候ニ
付増補等……266
丁未雑誌……9284標
貞里輯録……30(163)
貞琳院様御一周忌御法事一件……1140標
貞琳院様御忌御法事御用主附相勤候節手留…1141旧
貞琳院様御病中よりの一件覚帳……1009標
貞琳院様二十五回御忌御法事御用主附相勤候
節手留……1141標
手鑑目六……9851標
摘要……8362標
鉄五郎様御出之節御作法……559標
鉄道会社条例新定并該社利益保証法発行之…
儀建白……7705標
徹法考並同図……8627標
鉄炮小目当十五ヶ条口訳……8446標
鉄炮玉掩并薬之秘方之書……8550標
鉄炮道具寸法之書……8549標
鉄砲之義ニ付諸郡縮方詮義等留……6925標
鉄砲奉行等名書……2185標
手取川々上之図……9071標
手取川筋村々中勘指引帳……7214標
出張等之人々被下方留……5497標
出番引番書付名書……2062標
手控抜萃……6811標
出目家面之系図……9973標
手役者召抱一件……9971標
寺井御蔵米川下造用等書上帳……5073標
寺嶋随筆……3863標
寺嶋静斉随筆……3864標
寺津用水分間図等……7215旧，7216旧
寺津用水分間之図……7216標
寺西宗寛書翰……3028標
寺西秀澄書状……3745標
鄭虎軍記……8696標
天下寺社帳……~~7723~~ 7724
田券牒……8647標
天守御居間絵図……9580標
天珠公御内御用自分留……5322標
殿上淵酔記（寛正五年）……30(8)
天正録……2511標
天神御詠歌抜書……9648標
天神追善発句……30(181)
典制彙纂……1916標
典制彙纂抜書……~~1915旧~~，1917標
天台座主記……8673
天台宗西巖寺配下寺号帳……6177
天台宗寺院神護寺式台往来旧記等……6143標
天台律宗寺号帳（西方寺）……6177
田地売渡証文……7244標
天地瑞祥志・天文要録・六関記……7776標
殿中御沙汰書々抜等……9295標
天柱詩草……9628標
殿中年頭式……8984標
天長節被仰出書控……9262標
天朝・幕府へ建言写……9225旧
伝通院・広徳寺近辺火事之節御位牌除并取次
方心得秘録……4945標
伝通院御廟所絵図……6448標 6447旧，
伝附状解……8019標
伝灯寺御印物，寺領所附……6222
伝燈寺と配下寺庵座席順……6143
伝燈寺文書（加賀国）……30(129)
伝燈餘光……6277標

伝通院絵図，享保十六年七月十四日御参詣之節 ---6452

伝燈餘録……6277
天徳院へ御参詣之節絵図…… 673旧
天徳院絵図……6413標，~~6415標~~
天徳院御縮絵図…… 675旧
天徳院開山堂普請方に付調理書……6412標
天徳院境内絵図……6414標
天徳院御参詣御先立等之絵図…… 673標
天徳院御造営一件……6411標
天徳院御造営御普請毎日諸職人人足払帳……6222
天徳院御廟等図……1201標
天徳院御霊居御廟所参詣絵図…… 674旧
天徳院御霊堂図……1202標
天徳院殿御入輿於越前国上野御輿御具桶請取候面々 822標
天徳院等四ヶ寺御法号附……1191旧
於天徳院観樹院様御葬式絵図……1050標
於天徳院御法事之節火消方勤留帳……4884標
天徳院・宝円寺・如来寺請取之人々心得之趣御横目中へ相達候紙面……4885標
天徳院方丈志願祠堂銀証文相改借請帳……6222
天徳院御霊屋御廟所御参詣絵図…… 674標
天徳院門前用水替地一件……6638標
天徳院雄道和尚被及大病御医者被下并遷化取捌一件……6341標
点取御詠歌……1269標
天和三年留抜書七木之事……6843標
田畑年貢等皆済手形……9423標
天罰起請文前書……2270標
天秤座四ヶ所惣賃指上申御帳面目録……5076
伝附解……8018標
天保儀簡略留……7329標
天保九年以来一村建之村調理一件……6012標
天保九年以来一村建村々調理帳……6009標
天保九年以来射水郡一村建之村調理一件……6013標
天保九年以来諸郡一村建村々調理帳……6010標，6011標
天保憲令……1876標
天保五年以来一村建高免年号等相調理書出申帳……6005
~~天保五年以来射水郡新開一村立高免年号等相調書出申帳……6007標~~
天保五年以来新開一村立高免年号等相しらべ書出申帳……6006，6007
天保五年以来古田村名唱替等書上申帳……6004
天保五年以来古田唱替并新開一村立等書上申帳……6003，6008
天保五年より同十四年七月迄一村建村々并村名唱替調理……6002
天保七年正月廿五日より之諸事留……3658
天保七年丙申七月四日於竹之御間二間御用番播摩守殿被仰渡……3171
天保中御郡方品々留……7352標
天保十三年今般被仰渡之御触留……6563
天保十二辛丑三月相改候会所銀御貸渡高并他国御使金高等……5214
天保中根役所留……6970
天保二年加賀藩政事蹟概略……2649 様
天保年間渡屋敷帳……3543 様
天保八年改作方御仕法留……6972，6973標
天保六年町方風俗方等之儀被仰渡ニ付猶又町中心得方之儀申渡候覚書……6563標
天保七・八不熟飢饉略留……7329
天馬賦大意……9725標
天満宮九百五十歳御神忌ニ付御能組……9951標
天満宮宝剣絵図等……6317旧
天満宮宝剣箱書文字・折紙題談等写……6317標
天明安政間日記抜書……6684旧
天明五年五ヶ山両組紙屋名前しらへ帳……6058
天明五年五ヶ山両組去年出来皮楮書上帳……6058
天明五年本堂仏具廻等御修覆被仰付候控書……6289
天明三年侍帳……2809標
天明三年女犯破戒寺院再建願一件……6223
天明年間等御定書……4991標
天明八年二月教千ヶ代様御弓初并御具足御召初御作法書一巻……5672
天明文政間諸事留……6841
天明六年鹿嶋郡之内武部村弥兵衛組村鑑帳……5951
殿文字御調方格式等……9804標
伝聞雑録……8602標
天文日記抄……8679標
天文要録……7776
天文至天正婦負新川両郡守護并古城……9087
転役等品替之分……2205標
転役等留……2204標
典薬頭補任次第……8909標
天龍寺住持書翰……6396標

天龍寺真乗院文書……8648標

と

薬庵金先生と筆語……9733標
洞院系図……8675標
桃雲寺絵図……6418標
桃雲寺山絵図……6419標
桃雲寺山旧藩寄附絵図等……6489旧
桃雲寺山旧藩寄附地田畑絵図……6489
桃雲寺文書写……6231標
桃雲寺文書（加賀国野田）……30(129)
洞雲寺文書（能登国山田）……30(130)
東叡山石燈籠銘……9896標
東叡山御成ニ付御進物覚書……469旧
東叡山御宮裏口之図……6455
東叡山常照院由来等……6321標
東叡山十日二十日御霊屋裏口図……6455
東叡山之図……6454標
東叡山御霊屋之図……6455標
当御代御制法并駄賃定之高札写……1869標
当御代々諸法度……1865標
東海道駅路図……7660標
東海道御泊附……1828標
東海道紀行……9747
東海道御道中雑記……1781標
東海道御道中触留……1822標
東海道通行記……9764標
堂形於御馬場乗馬六具掛附……5708標
堂形蔵入写……4976標
銅貨之儀ニ付再応申上候書付……9437標
東京御守衛一件調理附録……5589
東京御守衛出張之諸隊長並兵隊交名等抜書附録……5589標
東京城日誌……9257標
当家靱矢其外矢本之次等……8499
当家靱箭之次第……8465標，8466標，8498標
当家御座備図……5636標
当家御旗本之備図……8162標
当家弓道私記……8323標
当家褒章録……3346標
当家野戦筒可指加ニ付備先見斗家老心得次第……5648標
当家矢本……8496標
当家弓始之巻……8301
当家弓藤之遊様之次第……8304
刀剣御葛篭入御書物目録……9835標
刀剣御道具類小紙……611標
刀劔御葛篭入御書物目録……8532標
刀剣鑑定に付書上げ……8531標
刀剣図等小紙……9837標
刀剣ニ付書上書……9831標
刀剣之名書由来等覚……9827標
刀剣焼刃ノ図……9832標
東光院絵図……6423旧
東行記……30(180)
東幸供奉日記……1696標
鄧皇后紀……8620標
道興寺文書（能登国館開）……30(130)
当国古今雑談……2623標，2624標
当国雑志……2595
当国陪臣分限帳……3661標
藤五物語……30(175)
東金堂記……30(85)
東金堂私日記……30(87)
東金堂修正壇供料所記……30(85)
東金堂修正之記……30(152)
東金堂諸事日記……30(86)
東金堂諸日記……30(88)
東金堂諸篇検旧記抜注……30(86)
東金堂日記……30(76)
東金堂万日記……30(87)
東西手引……6907
東西本願寺使僧被指向候一件……6149
堂山検校記……30(87)
唐算式……9513標
東寺旧記抄（廿一口方引付）……30(71)～(75)
当時禁廷諸事合志……8931標
当時禁裡行事二品……8936標
当時御家中分限帳……2810標
東寺古記録……30(19)
当時御近所火消方御行列附……4935標
当時御在世御一門方等大概……110標
東寺古文書……30(20)～(39)
当時諸官人職掌……8937標
当時珍説秘要録……50標
東寺伝来鋳物師文書……30(141)
胴締射様之次第……8509標

東寺文書（京都）…… 30(121)
藤樹先生遺訓……7794標
堂上方官位職家領……8930標
堂上方法度書……9244標
東条琴台書牘……8672標
東照宮御年譜……8856標
東照宮造替勅裁雑記等……8993標
東営宮二百回忌御法会ニ付神護寺門前等往来
指留達……6380標
当将軍家諸列……8953標
湯治養生巻……9777
頭書日記……4162標
同心壱巻覚書……2125標
同心高島善兵衛雇置候女居宅非戸入相果夫々
取啎方留帳……4661標
桃水軒雑記……53標
同席向留帳……3146旧
当節御取調書……1956標
当戦按稿……8086盗標
盗賊改方御奉行所より被仰渡候者……4601標
盗賊改方日記……4603標
東大寺戒壇院再建勧進帳……30(18)
東大寺開田地図……8643標
東大寺三綱所薬師院蔵文書…… 30(119)
東大寺新造屋文書　上…… 30(117)
東大寺新造屋文書　中…… 30(118)
東大寺新造屋文書　下…… 30(119)
東大寺大仏殿尺寸并私日記……30(86)
東大寺等書籍目録……30(91)
東大寺二月堂縁起……30(16)
東大寺油蔵文書…… 30(116)
斗代等之覚……7003旧
登立山記……9770標
道中詠草……9670標
道中御書留……1739標
道中御供之定……1861旧
道中御供之定等……1738標
道中人馬先触之件達書……7680標
道中ニ付江戸表伺之写…… 10067旧
道中備忘……3838標
道中日雇増銀之事……2200標
道中奉行心得書……4767標
道中名所記……9773標
道中宿札覚書……1857標
東邸沿革図譜……1398標
藤堂家……8877旧
藤堂家由緒……8877標
藤堂之家系……8806標
当道之系図…… 30(182)
東都円歳録……2707標
東都円歳録同用聚記……2707
東都御邸之次第……1397標
道徳書……7801標
道徳談……7802標
東都ニテ上使一件留…… 543標
当廿五日追分於角場怪我人人高并痛所付……5797
当年潟之内鮒等多死流出候付注進書等留……7513標
当春以来御細工所御用品々代銀しらべ帳……5143標
当番御小姓について口上書……4806旧
当藩実制……5327標
当藩分兵護国秘典……5629標，5630標，5631
東武御邸之次第……1399標
東福寺塔頭栗棘庵文書（京都）…… 30(122)
東福寺文書……8650標
東福寺文書（京都）…… 30(122)
東武使役志……3850標
当分御用留帳……4283標
当邦諸侍系図……2922標
東北風俗畧令雑記……9253標
東北道記……9755標
当摩氏所蔵書類……3375標
当東摩氏文書……3376標
当未年中凡御図方之覚……5112
刀銘鑑定覚書……9828標
当門様江御成ニ付御進物覚書…… 469標
当用書札……9801標
当用辨……2246標，2247標
当用申送帳……4686標
当用申贈牒……4687標
当用申贈帳……4688標
当流口伝直道歌之書……9609標
当流七五三并五五三配膳次第……9472標
当流蟇鳴弦年竹目録……8388標
当流秘伝弩寸法之図……8489
燈籠銘…… 30(153)
遠田勘右衛門書翰…… 10068旧

遠田勘右衛門書状……10068標
遠田日記……4278標
遠江国蓁原郡……30(49)
遠江国浜名郡……30(49)
遠江国敷智郡……30(49)
登嶽紀事……9782標
登嶽詩草……9632標
富樫観知物語抜萃……8697標
富樫系図……30(156)
咎人帳……4696標
科人に付口上書……4591旧，4676旧
栂尾古文書目録……30(40)
時国村石倉比古神社神職瀬野従五位忠貞……6325
富来八幡宮文書（能登国）……30(114)
読易秘説……7762
得江文書……30(135)
徳翁寺文書（能登国小嶋）……30(130)
篤学の辞……9463標
徳川家千代君御誕生御祝儀御作法并京都御普請御手伝大名交名書等……498標
徳川家康書状写……1642標
徳河御家衆聞書……8866標，8867標
徳川家御系譜略……8808旧
徳川家書籍捜索駿府政事録（抜粋）……30(94)
徳川家戦争年代記……30(167)
徳川家嫡庶譜略……8810標
徳川家天下鎮定書札類……30(148)
徳川家兵学校規則……9464標
徳川幕府遵奉書札類……30(149)
徳川兵学校掟書……9464
独吟之連歌……9659標
読師役向雑記等……5892標
特殊事業誌原稿……7459標
読書筆記……7762，9589標
読垂統別史……317標
得田系図……30(156)
得田文書……30(135)
得能家伝記写……6904標
兎雞網……6907標
所口御詰米并町方等記録……6552旧
所口支配向留記……6572標
所口并奥郡関係書類……6553標
所口砲台為御用出役之件……5848標
所口町奉行覚書……6556標
所口町奉行元和元年以降姓名等……6592
所口町奉行御用書類……6555標
所口町奉行斉藤中務支配所絵図……6046標
所口町奉行上申書綴……6552標
所口町奉行留記……6511標
所々米方仕法聞合書……7616標
所口小代官拝領居屋敷打渡一件留……3541標
土佐足摺縁起……30(15)
土佐日記（抄略）……30(176)
土佐守へ剣梅輪内之義ニ付被仰出趣……2906標
土佐守仰出之覚……5027標
利家記……329標
利家卿遺書……1221標
利家卿の朝廷に対する事蹟奥典……337標
利家公御代之覚書……324標
利家公御夜話……334標
利家公御遺書写等……1223標
利家公御遺書之写……1222標
利家公御書写……1213標
利家公より利常公迄御働之事……299標
利家利長記……5351
利家・利長・光高公御伝略等之内抜書下書…157旧
利家・利長・光高公御伝略抜書下物……157標
利家夜話……324
利興公以来歴世被仰出書……2709標
利興公等被仰出書……2709
利邑君御所蔵沿革書輯……5934
年竹之大事……9474標
歳竹之大事……9475標
歳竹之秘伝……9476標
利常卿御夜話……361，366標
利常公御定御軍器……5283標
利常公御夜話……364標
利常公御夜話秘録抄……363標
利常公紀事……367標
利常公御伝略下物……218標
利常公盛徳……374標
利常公夜話……365標
利長公越中富山へ御隠居之節被召連人数之帳……2824標
利長公御時代覚書……347標
利長公御代之おぼへ書……348標，349標

利長公御代之おぼへ書抄……3433標
利長公御遺書之写……1232標，1233標
利長様高岡ニテ御逝去之節御書置之写……1234標
利保公遺著五種……1478標
利保公遺著十七種……1479標
登城方達書……3297標，3298旧
登城方達書ならびに請書……3298標
登城等之節万事心得方品々覚書……3295標
登城之節之御作法等……1623標
年寄方留書……4213標，4240標，4241標
年寄席日記……4158標，4163標，4238標
年寄席日記下書……4146標
年寄中可相捌御用大概覚書……2338標
年寄中席旧記抜書……4044標
年寄中取捌候御用聞書……4225標
年寄中等へ可及御示談箇条……4116標
年寄中等并御家中一統へ被仰出候御書立等之控……2000標
年寄中等判印鑑……4045標
年寄中等病気等之節従筑前守様御尋方等一件……2342標
年寄中并執筆共廻状之控……435標
年寄中初諸役人夫々支配之帳……2046標
年寄中見届之誓詞御前書……10079標
年寄共等へ相達候書取写……4015
年寄役日記……4160標
灯台笹村等寄肝煎三郎兵衛書付写……5999旧
富田次部左衛門与力之内自分仕度旨奉願一巻寄帳……2123標
富田勢源流系図……3029標
富田彌六伝……8871標
独歩……8067標，8068標
届書等綴……3962標
届書類……4796標
砺波・射水貸附根帳……5238標
砺波・射水・新川貸附根帳……5226標
砺波射水両郡知行高目録……10058標
利波郡浅地村神明田調書……7491標
砺波郡石堤村氏神一件……6190
砺波郡井口組福野御蔵見取絵図……7199
砺波郡御絵図之面御付札を以御尋之趣書上申帳……6058
砺波郡御貸米五拾ケ年賦日印帳……5234標
砺波郡御蔵代官之者注進書……7182標
砺波郡御蔵米注進書……7182旧
砺波郡開作馬一件……7462標
砺波郡開作馬壱件御勝手方示談物……7462
砺波郡木沢源五郎書類目録但シ御触大略……6829
砺波郡五位組舞谷村領之内親王塚絵図……9092
砺波郡五位庄舞谷村領之内親王塚見取絵図……9092
砺波郡古城跡山塚寺社古跡等書上申帳……9093標
砺波郡権正寺村等高書上……1743旧 7143
砺波郡権正寺村等高増減書上……7143標
砺波郡七社村長岡八幡宮別当職一件……6190
砺波郡新開一村立高免年号等相調書出申帳…6006標
砺波郡沢川村田畑兵衛願書……7271標
砺波郡高宮村法船寺持宮一件……6190
砺波郡高物成等調理帳……7142標
砺波郡十村等持傳候御印物等しらべ……6901標
砺波郡之内往来筋村間道程附帳……6053標
利波郡福光村宗左衛門口上書……7241旧
利波郡二日町村百姓わけ書上……7242標
利波郡本領村太兵衛先祖物語有増書付之覚…5431標
利波郡松原上野村百姓持高書上……7241標
砺波郡見取絵図……6076標
砺波郡安川村・淳良親王御陵絵図……9092
宿直拾隙抄……7966標，7967標
宿直所廼記……7968標
登白嶽賦……6250
土肥家記……3377標
土肥家記　異本……3378標
土肥家有沢氏略伝……3379標
鳶小頭詮議振覚書……4946標
都鄙之事……9384
飛檜明神文書（加賀国）……30(111)
泊在番御用達留……5859標
泊在番御用日記……5858標
泊番定書……2065標
泊町沿革史料……5954標
泊町太兵衛口上書……5022標
裕次郎様御宮参一件……790標
富田覚書……3214標
富田織人宛来状綴……4291標
富田外記宛書状……3747標
富田外記内状草案等……4289標
富田心得……4605旧

富田心覚……4605標
富田貞武御加増一巻留帳……2849標
富田貞直遺書……3634標
富田次大夫書状……3746標
富田彌六御使書控……4406標
富永翁秘録……4612標
十村相勤候節之御印物等書上申帳……6902標
十村御目見例書……6868標
十村旧記留……6740標
十村旧記等之抄……6744標
十村禁牢一件覚書……2687標
十村先祖由緒并一類附帳……6875標
十村勤方類聚……6745標
十村手鑑二種……6760標
十村留記……6825標
十村留帳抜書……6805標
十村中橋村久左衛門覚書……6757標
十村等御扶持一件……5015標
十村等御扶持人名書……6877旧
十村等名書……6876標，6877標
十村苗字帯刀之儀願書……6884標
十村物語……6939旧
十村役儀指除きに付達書……6896標
十村役雑留……6863標
十村由緒……6872標
十村来由等六種……6878標
留書……4334標，4810旧
留記……3992旧
留帳…… 418標，4242標，4459旧，4735標，4928標
留帳鈔録……3964標，4124標
留帳等抜萃……4323標
留帳抜書……3869標，4119標
留帳之内抜書……4124旧
友町大膳武功……8847標
富山硫黄御改御横目之書付請取等……7571標
富山硫黄御改之書付……7571旧
富山一ノ手御人数等……5506標
富山一件書抜……2710標
富山へ御領知分御絵図之次第……2693標
富山御家旧記略……2703標
富山御郡方定書……7350標
富山表へ御名代之御使一件……4371旧，4372旧
富山表へ御名代之御使被仰付候一件
……4371標，4372標
富山表風説書……2713標
富山御役人之演説覚……1570標
富山御役人吉川勘兵衛・椙野覚兵衛東岩瀬御
屋敷迄罷越演説之覚……1570旧
富山火災留……7356標
富山記録十三種……2706標
富山御一巻帳之内書抜等……2711標
富山御一巻帳之内書抜并詰中御用帳之内書抜…2711
富山公家乗……1471標
富山侯家譜……1472標
富山侯家譜等……1473
富山御家中之様子……3894標
富山御条目等写……2699標
富山御条目等六種……2700標
富山御殿詰所等図……1483標
富山御藩中分限帳……3891標
富山御用諸事留……4105標
富山御領絵図面御附札答書……2698標
富山御領界絵図……1564標
富山御領諸寺庵帳……6193標
富山境新開地之図……7091標
富山侍帳……3889旧
富山侍従利保朝臣遺著十七種……1479
富山市の火災……7359標
富山支藩ニ関スル記事抄録……2712標
富山城下図……2695標
富山城図……1482標
富山水火史……7358標
富山水損凶荒留記……7355標
富山水風旱留……7357標
富山藩御郡方留……7351旧
富山藩学制沿革……5932標
富山藩学等参考書……9458標
富山藩支配道程取調書……9100
富山藩年中御定例……2701標
富山藩武鑑……3890標
富山藩分限帳……3892標
富山分限帳……3893標
富山前田家譜……1473旧
富山町方旧記……7345標
富山町方旧事調理……7346標
富山邑伝記……9087

富山ヨリ二俣越外三筋道懸リ駅村等見取絵図
……7655標
富山領境見取絵図並道程書……1569標
富山領村々高免帳……2692標
豊国大明神文書（山城国）…… 30(105)
豊島毅建白草藁……4028標
豊臣記……8714標
豊臣家系図…… 30(157)
鳥居文書…… 30(137)
鳥樴場之松小枝下し願覚……7529標
鳥樴場伐木について達書……7528標
鳥越記……9157標
取捌方相改候以後追々僉義を以向後之事相極
候趣此帳ニ記置可申候事……4582旧
酉正月御用番中心覚留帳……5001旧
取次方……2353標

な

内外国事記……8607標，8608標
内外新聞……32標
内検地一巻等御扶持人勤向大概抄……7034標
内侍所御神楽略次第…… 30(6)
内藤源兵衛先祖并親類附帳……3030標
ないない尽しとものはづけ……9789標
内仏参銭請取……6533標
内密御図書等之写……5256標
内密聞書……9389標
内密僉議……6693旧
内密詮議留……6826標
内密問答書……5616標
内用書状留……3782標
直暢紙面之写……3886標
直姫様へ従中将様御結納之御祝儀被進之為御
使者北小路丹波守就被罷越取持御用被仰付候
時分相勤申品々覚…… 839
直姫様御結納御祝儀被進候時分御使者宿御用
之留…… 839標
直姫様誠姫様御婚礼一件…… 835旧
直姫様宮腰浜へ御出之図…… 733標
中居鋳物師伝書……7594標
中井日吉社文書（能登国）…… 30(113)
永井丕陣覚書……4043標
中居南村奥津比咩神社神職四柳遠江頼次……6326
中居村神杉伊豆伞比咩神社神職神杉尾張茂穂
……6325
中江氏書翰……7772標
長尾家雑志……8850標
中川顕忠日記……4193標，4194標
中川式部宛書状……3748標
中川式部宛達状……3960標
中川氏旧蔵文書……3384標
中川清六郎改名届下書…… 10090標
中川長定覚書……3986標
中川長種書状……3753標
中川日記……4153標
中川修明書状……3749標
中川典克旧蔵文書写……3381標
中川典克所蔵古文書……3383標
中川典克書類之写……3382標
中川八郎右衛門宛書状……3752標，4855標
中川八郎右衛門覚書……4262標
中川八郎右衛門口上書……4847標
中川八郎右衛門書翰……4842旧
中川八郎右衛門書状……4844標
中川八郎右衛門書状等……4808標
中川八郎右衛門・津田源右衛門連署状……4838旧
中川八郎右衛門留書……4810標
中川八郎右衛門長種書翰……4840旧
中川八郎右衛門等書状……4838標
中川八郎右衛門等達書……3559標
中川八郎右衛門願書……3175標
中川八郎右衛門申渡状……4840標，4842標
中川文書……3380標
中川弥左衛門書状……3750標，3751標
中川和平御免之儀ニ付長又三郎示談之紙面写
……3740標
長秋合戦……8022
長秋合戦前後問議……8023
長久手合戦前後略譜……8034旧
長秋合戦前後略譜……8035標
長久手合戦略記……8034標
長久手戦記……8027
那加佐幾遠鏡……9377標
長崎に於て陸蒸気機械類註文ニ付云々……5156旧
長崎奉行言上書附……9378標，9379標
永貞遺訓鈔……3631標，3632標

永貞古兵談……8051
永貞古兵談残裳拾玉集……8051
永貞師武教仝書解……7955
永貞先師案見……7956標
永貞先師画像……9893標
永貞先師五百騎案見書……81.45
永貞先師連城図……8216
永貞先生九十城……8226
永貞先生築城守防仝図……8204
永貞先生八陣自註……8124
永貞先生百城……8199
永貞武貞両先生四対八城……8179
長篠戦記……8027
中仙道木曽路御通行行列附等……1806標
中仙道木曽路通リ金沢迄行程記……7669標
中仙道山川駅路之図……7670旧，7671旧
中田庄三郎所蔵文書…… 10101
長田町越中屋又八方へ御立寄御座所之図…… 654標
長知軍談…… 351
長門守様備後守様御屋敷之儀等控……3183標
中臣祓聴書……7731標
中臣祓記聞……7730標
長棟村仕法方等に付諸書物……7556標
長棟村取続方仕法一件……7557標
長棟山御鉛引渡し願……7544標
長棟山鉱山についてロ上書……7544旧
長棟山鉛山図并御番所絵図……7564標
長棟山年中行事……7554標
中波村鰯網卸し日限に付伺書……7519標
中院内府通茂公書籍鑑定目録……30(92)
中之ロヨリ御上下之節御供建落シ絵図……1641標
中野随庵ヲ以御尋ニ付申上之留……9446標
尚寛雑著……48標
長橋神明宮文書（能登国）…… 30(113)
永原孝治書翰……4849旧
永原左京書翰……6361標
永原土佐守書状……4849標
中村逸角家蔵文書……3385標
中邨家乗……8829標
中村吉五郎拝領地願……3553標
中村次右衛門拝借金一件……3645標
中村七丞書翰……4867旧
中村七丞等書状……4867標
中村小右衛門親類附帳……3031標
中村典膳覚書……4274標
中村典膳覚書之抜書……2587標
中村文安所蔵文書……3386標
中村文書…… 30(138)
中村与次右衛門鴻打の結果に付報告……5702標
中村与次右衛門鴻打之事……5702旧
中屋敷絵図……1451標
中屋敷図……1453標
中屋敷惣絵図……1450標
長屋十太夫書状……4821標
中屋彦十郎文書…… 10102
永山亥軒上書……4025標
永山亥軒（平太）先生行状……3508標
中山主計家譜……6671標
中山家文書…… 30(133)
中山瑞夢伝……8902標
永山平太由緒帳等之抄……3509標
長柄御小人ニ関シ前田対馬之書……4814旧
梨谷小山村年貢皆済状写……7172標
那須国造碑文…… 30(152)
那谷寺縁起……30(14)
那谷寺鐘銘……30(18)
那谷寺通夜物語……7365標
なでしこ……9794標
七尾東地子町河うめ出し出来屋敷歩数帳……6592
七尾町魚問屋定書等……7622標
七尾町旧記……6592標
七尾山之寺文書写……6515標
難波記……8734標
浪花記……8736標
難波軍記……8734旧
浪波軍記……8735標
難波戦記……8733標
浪速冬夏戦記……~~8722~~ 8721
難波二拾問答……8040標
浪速冬夏戦記落城之巻…… 30(167)
難波問答……8039標
七日市家譜書抜……1504標
七日市侯旧記……1503旧
七日市侯旧記三種……1503標
七日市侯系譜……1499標
七日市藩情一斑……2735旧

鍋島殿御住居御婚礼御当日御飾……9009標
鍋島肥前守より御達書写……9506標
生麦事件覚……9406旧
浪合記……8899標
並合之記……8900標
滑川宿浦家数等調……5975標
奈良の葉越のしおり……9607標
成田家記……30(166)
成田家記……3387標
成田三政家伝……3388標
成田三政肖像賛……30(153)
斉泰公御続書……120標，121標，122標
斉泰公御名乗覚……287標
斉泰公家乗……257標
斉泰侯御上洛之覚書……5565標
成瀬市正留記之抄……4275標
成瀬市正生直御近習御執次役，元禄十年被命月者六月頃欤，奥奏者　宝永二年五月廿五日被命正徳五年三月去，勤務中留記之内……4277 4275
成瀬覚書……3390標
成瀬掃部留記……3992標
成瀬監物書状……3961旧
成瀬監物申達状……3961標
成瀬氏所蔵旧記……3389標
成瀬内匠書状……3937標
成瀬種徳日記……4180標
成瀬正敦雑記……5000標
成瀬正敦日記……4257標，4298標
成瀬正居文書……10102
成瀬又六様一類附……3032標
南越陣記……5521標，5522標
楠可の夢……8570標
楠可廼夢等四種……8569標
南宮秘録……1496標，1497標
楠公肖像賛伝……30(153)
楠公父子像賛……30(153)
難産之時祈禱之次第……9469標
難舟一巻御定并今津米難舟之事……7710標
南禅寺文書（京都）……30(120)
南禅寺文書写……8651標
難船取捌及船数録……7709標
難太平記……9709標
南朝記伝（抄出）……30(177)
南部勧化金之義ニ付奥村伊予守等紙面写……6538標
南部信濃守利済書翰……1724標
南部野・五戸・七戸・仙台・会津・出羽地名……9112標
南部祇知書取……1339標
南部祇知書翰等……7739標
南木明神之記……30(13)
南面論……4016旧
南面論草稿……4016標

に

新潟より秋田まで道中案内……9117標
新川御郡絵図御付札之箇所詮儀之趣脇書仕上ケ帳……1590旧
新川御郡絵図御付札之箇所詮儀之趣脇書仕上ケ申帳……1590旧
新川御郡奉行旧記日記之内抜書……6712標
新川御郡奉行手帳……6713標
新川郡岩峪寺等身分支配方之義ニ付心附之趣御内達物控……6147標
新川郡魚津神明諏訪両社社家一件……6190
新川郡へ下置かれ候種馬之子其外駒撰書分帳……7460標
新川郡絵図……6080標
新川郡絵図詮儀之趣書上申帳……1590標
新川郡御絵図面御付札之趣御答書上申帳……6057標
新川郡大岩山不動堂御建立被仰成諸事入用帳…6435
新川郡大布施組宮野開領并用水筋絵図……7240標
新川郡奥山御境目絵図……1566標
新川郡御縮高一件……6977標
新川郡御扶持人十村嶋尻村刑部明暦年中手帳借用抜書留……6839
新川郡海辺村々家数人数等書上帳……5972標
新川郡かね山一村建ニ付定書并領絵図……5998標
新川郡組分図……6078標
新川郡黒崎村へ百姓施願一件……7337旧
新川郡郷庄古城……9179標
新川郡郷庄附村名書上申帳……5997標
新川郡古田新開高物成并夫銭定散小物成等調理帳……7147標
新川郡寺家村専長寺書状……6482
新川郡嶋組郷村高帳……7148標
新川郡清水堂村領縁リ白岩川大曲之場所就直

切之分間絵図……7235旧
新川郡社家歩数等書上帳写……6474
新川郡十二貫野并宮野両御仕立開分間絵図…7097標
新川郡十二貫野并宮野両開分間絵図……7097旧
新川郡十二貫野宮野分間図等……7098標
新川郡十二貫野宮野両開分開絵図……7096標
新川郡常願寺川筋御普請所分間絵図……7238標
新川郡常願寺川筋水損所等御巡見ニ付道筋等
大略見取絵図……7236標
新川郡常願寺川筋水損所等巡見ニ付道筋等大
略見取絵図……7237標
新川郡白岩川水淀之図……7114標
新川郡図……6079標
新川郡高寺村内検地分間之図式……7061標
新川郡高原野等御引揚之地元常願寺川筋自発
地所引越村々等割分之場所分間絵図……7115
新川郡高原野等割分全図……7115標
新川郡知行所付……6998
新川郡友道村肝煎源右衛門願書……7116旧
新川郡友道村之内屋敷地打渡方延期願……7116標
新川郡日中村日置神社祭礼一件……6190
新川郡沼保村彦四郎元組　舟見村，明日村，
栗虫村，下若林村，桑畑新村領絵図……6108
新川郡沼保村彦四郎元組舟見村等領絵図……6108標
新川郡婦負郡境目之儀ニ付書付等之留……1563標
新川郡婦負郡境目之儀ニ付留……1563旧
新川郡之内大三位組五ケ庄組村々家数人数調
……7261標
新川郡之図……6081標
新川郡百姓強願一件……7337標
新川郡布施山開略図……7099標
新川郡古田唱替并新開一村立等書上申帳……6008標
新川郡暴動一件……7339標
新川県下市村名数……1525旧
新川郡奉行心覚秘書……6714標
二王真蹟帖……9888標
仁行村本江村入合神杉伊豆牟比咩神社神職山
崎従五位時宗……6325
西尾隼人宛書状……3755標
西御門格帳……2429標
西坂猪之助書翰……4866旧，7030旧
西坂猪之助誓紙……4866標
西之御殿絵図……1433標
西丸大手御鎰等落シケ所弘化四年五月十五日
建番等承合取定メ絵図出来置之図……6452
西丸御普請御手伝御用相勤之人々へ拝領物之
覚……5680旧
西丸下并桔梗口下馬等之絵図……6452
西丸普請手伝御用相勤候人々へ拝領物之覚…1645標
二十一城之図……8228標
廿壱張弓聞書……8482標
廿壱張弓蔵書……8482
二汁五菜御湯漬之次第等…… 592旧
弐拾参ケ寺後住帳……6329標
二十七城之粗図……8264標
二十四伝……8541標
二十二箇条濫觴記……6362標
二十四人連歌合…… 30(181)
弐拾ケ年御取扱米等書上……7106標
二条様へ御使御口上書…… 842標
二条様へ御使御返答口上控……4376標
二条様へ為御合力被進候金子之一件……5016標
二条様御作事惣御入用一紙帳……4710標
二条様御使者到着につき見廻り等之留…… 10043標
二條様御使者隠岐幡摩守罷越候付旅宿江為見
廻罷越候節等之留…… 10043旧
二条様御婚礼之節御書留等…… 843標
二条様御殿地御地形平均井土堀仮小屋垣等御
入用帳……4708標
二条様御普請一件留……4709標
二条内大臣使者北小路丹波守接待図…… 840標
二条内府様江府へ御参向之刻被進物控等…… 499標
二乗之伝口解……7855標，7856標
二先百五十騎陣取図并坐備図……8150標
日米安政条約勅許一件留……9397標
日暦……6750標
日蓮宗寺院来歴……6218
日蓮宗僧侶上京留……6141標
日課……2279旧
日記…… 497標，3839旧，3884標，3984旧，3987旧
4002旧，4090標，4128標，4173旧，4180旧
4193旧，4194旧，4221旧，4231標，4233旧
4246旧，4257旧，~~4301~~4300旧，4333旧，4340旧
4737標，4738標，4781標，10105標
日記一…… 10040
日記紀行……3831旧

日記・残編五種……3927標
日記断片……3888標
日記頭書…… 243標
日記等抜書……4165標
日記并学校方示談之品覚書……4232旧
日光御使一巻……4386標
日光御参詣御書控等…… 656標
日光御廟十六善臣木像之写……9891標
日光参宮一件…… 657標
日光山之記……30(60)
日光・増上寺・上野・聖堂御宝蔵絵図……6453標
日省記……4204標，4248標，4265標
日石寺文書（越中国大岩山）…… 30(131)
日積録……3837標，3845標，3846標
日積録　拾五畢……4295標
日本諸家人物志鈔……7726標
日本書籍目録……30(90)
日本総国風土記　上……30(47)
日本総国風土記　下……30(48)
蜷川文書……8656標
二之御丸講書録……5897標
二之御丸并御算用場等役人交名帳……2163標
二之御丸ニテ御能被仰付覚書……9920標
二之丸へ材木入申候書付……4434旧
二の丸へ材木入申に付手形……4434標
二之丸御居間書院絵図……1310標
二ノ丸角場絵図……1315標
二ノ丸腰掛図……1313標
二之丸御地面図……1303標
二の丸御殿絵図……1300標
二丸御殿御絵并間数之覚……1338
二丸御殿帳……1338標
二の丸御殿廻リ杉戸留帳……1337標
二ノ丸二重屏鉄砲狭之図……1316
二宮文書…… 30(135)
二百石軍役内考……5294
日本国郡名……9104標
日本国総図……9106標
日本総国風土記……9103標
女御入内供奉行列書立……8929標
女人登白山記并祭歌……6250
如来寺絵図……6408標，6409標
如来寺境内絵図……6410標
如来寺御参詣絵図…… 686標
如来寺御参詣ニ付伺書…… 684標
如来寺御参詣之節絵図…… 685標
如来寺御霊堂図……1206標
如来寺上下御供方絵図…… 683標
女礼集……9482標
丹羽家系……3033標
丹羽家譜伝・大聖寺浅井啄之戦……5385標
丹羽五郎左衛門長秀一件并三ヶ国御領分之次第……2662
丹羽左京大夫殿御通路一件…… 445標
丹羽佐左衛門先祖書……3034標
人形浄瑠璃番組……9909標
人数家数并牛馬数調理帳……7254標
人数異同……8093標
人数積……8079標，8080標
人足役に付返答書ヲ以申上候云々……6592
任大臣大饗御遊…… 30(7)
仁和寺勧進帳（山城国）……30(18)
仁和寺諸堂記……30(16)

ぬ

額氏系図……6670標
抜書……2788標
布判質御触等……7414標
塗弓之事……8492標

ね

婦負郡・射水郡村境目取極分間絵図……1568標
婦負郡絵図……~~2969~~2695標
婦負郡并新川郡之内御絵図面懸紙を以相改候目録……6060標
婦負郡新川郡枝村記帳……6058
婦負郡練合村射水郡三十三ヶ村境目取極分間絵図……1568旧
婦負郡練合村与射水郡三十三ヶ村境目取極分間絵図……1568
婦負郡古沢用水地図……7231標
願書写　御取上無之由……4706
根来系図……3141
根之図……8500標
根之巻……8476標
根濃巻手覚……8477標

練合村曳網役銀等留……7517標
練合村領境争論一件……1567標
年忌帳……7753標
拈香語……1081標
年号等可糺絶家雑々録……2873標
年中行事……30(2)，2258標
年中御献上物并被遣方・被下方……508標
年中雑記……4405標
年中諸日記……30(88)
年中勤方大法書鈔……1619標
年中農事覚書……7444標
年代記并由緒……6250
年中行事……8994標
年頭御作法……3263標，3264標，3269標，3275標
3286標
年頭御作法書……3262標，3274標，3283標，3287標
年頭御作法書写……3268標
年頭御作法書品々并勝千代様御表へ御引移御
作法……3282標
年頭御作法口決……3266標
年頭御作法附……3280標，3284標，3288標，3290標
3291標，3292標
年頭御作法抜書……3289標
年頭御作法別記……3285標
年頭を初都て献上物之覚……3261標
年頭御礼御作法書之写……3259標
年頭御礼献上物等格覚……3270標
年頭御礼出仕御門覚書……3272旧
年頭御礼出仕ニ付被仰出……3272標
年頭御礼等覚書……3281標
年頭御礼披露方之図……3294標
年頭御機嫌奉仕伺之文写……3271標
年頭御規式……3276標
年頭御規式御作法書……3265標，3278標
年頭御規式之様子書立……3260標
年頭其外御礼御定帳并自分覚書留帳……584標
年頭等御礼所之御絵図并覚書……3273標
年頭并諸事御礼献上物等御定……585標
為年頭御祝儀自七尾云々……6592
年頭服附等……3293標
年々御道中方留……1765標
年々地子銀算用一巻……6611標
年表……169標

の

能楽翁仕形附……9916標
能楽記……9913標
能楽雑記……9924標
能楽番組……9961標
能楽番附……9923標
農間雑誌絵図共……7247標
農業大綱……7447標
農隙所作村々寄帳……7389標
能仕舞作法考……9917標
能州後詰之図但末守……5363
能州一之宮論地一件……7502標
能州鵜飼妙厳寺寺領一件控……6519標
能州字出津鯨猟図絵……7510標
能州浦嶋網場図……7518標
能州越中之内野毛地不毛之地箇所附……7055標
能州越中之内野毛地不毛之地見聞之場所覚書
……7055旧
能州御預地方一巻……2747標
能州御預地寺院号郡所附帳（波着寺）……6177
能州御預地巡見御用日記……2749標
能州御預所村名帳……2742標
能州奥口郡出来塩升廻等見分控……7538標
能州奥口無組并御扶持人等名書……6887
能州奥郡海岸図……6113標
能州奥郡鱈網場之図……7505旧
能州奥郡之図……6074標
能州御郡方由来有之所々書上申帳……9081標
能州御郡奉行勤節見要撮記……6703標
能州押水之内所々村付写……2764標
能州海岸御巡見御道筋巨細書……633標
能州海岸御巡見路径詳細……635標
能州海岸図……6112標
能州開発方上書……7425標
能州鹿島郡嶋之内図……6072標
能州鹿島郡之図……6071標
能州方当用雑記……4649標
能州紀行二種……9754標
能州口郡蔵宿覚書……7208標
能州口郡一村建高免年号等相調理書出帳……6005標
能州口郡邑知潟絵図……7080標
能州口郡百海村鱈網場之図……7505標

能州気多神社記録集……6269標
能州公領地等之留……2759標
能州郡方旧記……6781標
能州郡方書状二種……6758標
能州国司畠山殿伝記…… 336標，8872
能州御公領黒嶋村へ罷越四十物商売仕候銀高
御尋ニ付書上ケ申候覚……7625標
能州御公領黒嶋村ニテ四十物商売之銀高書上
帳……7625旧
能州御公領知村々御預地就被仰付候一巻控…2746標
能州御順見御泊附…… 634標
能州御巡見之節御道筋へ罷出候九拾歳以上之
人名……7287標
能州御料所之由来等……2745標
能州在番之儀に付意見書……4035標
能州産物帳……7407標
能州寺庵拝領高等調書……6500標
能州寺院鎮守持宮書上帳……6204標
能州四郡貸附根帳……5237標
能州四郡御判印物写……7269標
能州四郡貯用林御縮方等之儀主附山廻へ申渡
仕法帳写……6848標
能州四郡延払米取立根帳……5227標，5228標
能州島之地海中測量図……5834標
能州諸所絵図……6100
能州諸所絵図　能州鹿島郡嶋之内図……6072
能州所々御蔵所絵図……7191標
能州神号帳……6182
能州真言寺院号郡所附帳（波着寺）……6177
能州真言帳外之寺院号郡所附帳（波着寺）……6177
能州末森御城の事……5356標
能州末森記……5355標
能州末森城跡之図……5361標
能州末森并大坂御陣覚書……5368標
能州筋海岸村々丁間海立浅深調理……6114標
能州筋海岸村々丁間海立浅深調理書……6114旧
能州惣持寺後見芳春院於江戸表関三ケ寺と坐
列旧記……6143
能州総持寺内芳春院由緒書……6535旧
能州代官十村勤方……6860標
濃州通念寺由緒帳……6309
能州所口後例帳……6571標
能州所口ヨリ奥郡迄遠景之略絵図……9081
9084標
能州十村御扶持人等御代官役其外御用勤方帳
……6861
能州十村等勤方帳……6861標
能州十村年中行事……6862標
能州内外駅々道程附……7646標
能州中波村網場一件……7519旧
能州日記……9753旧
能州畠山氏伝記二種……8873標
能州土方河内守知行所高物成之帳……2737標
能州土方御領村名帳……2739標
能州土方領村名……6058
能州百姓之内御扶持被下年号・同先免当免物
成付帳……6888標
能州鳳至郡御公領黒嶋村ト御領鹿磯村海堺一
巻之帳……1572
能州府中霊泉寺由緒……6278標
能州分諸代官本役并品々御用勤方帳……6860
能州宝蔵寺縁起并系図……6219
能州宝達山より御金被為掘候ニ付人足賃銭等
造用方出道仕法帳……7562標
能州本江村三郎右衛門扶持状等能登国文書写
……6899標
能州真脇村枝郷姫村弥右衛門等江戸表へ御召
ニ付諸事留……4654標
能州三崎神領粟津村用水樋修覆に付算用場
達書等……7227標
能州三崎神領知ニ付御算用場達書等……7227旧
能州道筋巨細書帳……7644標
能州無組并御扶持人等名書……6887標
農政……6995標
農政記聞……6962
能北日記……9753標
直海白山社文書（能登国）…… 30(114)
直海村瀬戸比古神社神職案都益貞……6322
農民共願書等仮留……7338標
能優之事……9914標
能化職覚書……6360標
野口之布講述筆記…… 323標
野崎右平次書状控……3756標
野崎次兵衛達書……2226標
野崎弥兵衛達書……7169旧
野田へ為御持被遊候御道具宝円寺へ指遣分…1043標
野田御廟参之絵図……671標，672標

野田御廟之図……667標，668標
野田御墓所絵図…… 669標
野田村火薬庫敷地図……5779標
野田村火薬庫地所絵図……5778標
野田山及天徳院御墓所図……1200標
野田山御廟絵図……1198標
野田山御廟所図……1199標
野田山御廟図……1197標
野田山等御廟所へ御備御切箙之覚……1079標
能登一宮御贄場猟図……6506標
能登字出津棚木城責文書…… 30(143)
能登大沢村内記伝書…… 30(136)
能登大沢村内記文書…… 30(142)
能登奥両郡収納帳……7171標
能登開発ニ付心附書……7721旧
能登神代神社順考祭奠式跋……6389
能登紀行…… 30(180)
能登国鹿嶋郡武部村二宮村用水出入書附等控
……7226標
能登国第1区七尾町見取絵図……6047標
能登古文書……2562標
能登古文書写……6899旧
能州在番所等之儀ニ付覚書……4035旧
能登産馬誌……7469標
能登産馬史……7470標
能登産物諸仕法……7422標
能登誌……9079標
能登路記……9763標
能登四郡御成箇郷帳……7366標
能登四町村文書…… 30(142)
能登路稱等記……7645標
能登島酒記……9777
能登廻地名鼻歌…… 30(175)
能登周環壮観記……9783標
能登諸家文書……2564標
能登石動山荒山合戦文書…… 30(143)
能登長伝書…… 30(136)
能登十村略由緒……6890標
能登中井鋳物師伝書…… 30(141)
能登中居村三右衛門伝書…… 30(142)
能登七尾町伝書…… 30(142)
能登乃海……9083標
能登国伊須流岐比古神社由緒……6273
能登国内海鹿島郡大津村湾堀割口造り上ケ之
図……7723標
能登国御預所御廻米小廻賃掛り候村々米高帳
控……5274標
能登国御預所御廻米村五里之外小廻賃掛り候
村々米高帳……5274旧
能登国御預所御物成皆済目録……7381標
能登国御預所御物成永定免皆金納置御証文写
帳……7380標
能登国御蔵入，正保二酉年以来変地吟味覚書…7377
能登国御取箇郷帳……7368旧
能登国鹿嶋郡小栗村領地絵図……6103旧
能登国鹿嶋郡小栗村領地巨細仕絵図……6103標
能登国鹿島郡七尾港絵図……6111標
能登国鹿島郡之内郷村高帳……7136標
能登国金石産出所調……7570標
能登国口郡奥郡組々村名帳……6015標
能登国口郡寺社領石高等……6498標
能登国鉱礦調理記……7567標
能登国郷村高辻帳……1538旧
能登国郷村高辻帳写……1551標
能登国郡定免御取箇目録……7133標
能登国御領知御預ニ付御代官日野小左衛門
殿ヨリ来ル証文品々并江戸御家老衆紙面且又
御聞番御口上書等写置留……2747
能登国御巡見ニ付御道筋言上写并御行列附… 632標
能登国小廻五里外村々海陸道法附……7647標
能登国産物之内別ニ書出候帳面……7393標
能登国四郡公田田数目録……30(54)
能登国四郡公田々数目録写……8646標
能登之国四郡図籍……1606標
能登国寺社地子免除地絵図……6502標
能登国酒造屋敷并酒造米高帳……7579標
能登国数ケ村請之新田地所書載之候目録……6062標
能登国外浦海岸宿村家数人数等取調理書……5964標
諸登国外浦海岸宿村家人数等調理書……5964旧
能登国地理誌……6055標
能登国田券牒……30(54)
能登国十村等由緒……6889標
能登国七尾港絵図……6111旧
能登国之内御預所去寅御物成皆済目録……7381
能登国羽喰郡鹿嶋郡定免御取箇目録……7133旧
能登国羽咋郡鹿島郡之内郷村高帳……7369標

能登国羽咋郡鹿嶋郡之図……6070標
能登国羽咋郡之内郷村高帳……7134標
能登国土方兼三郎知行所村高帳……2738標
能登国鳳至郡大屋庄之全景……9085標
能登国鳳至郡・珠州郡之図……6073標
能登国鳳至郡六合大社旧記……6285標
能登国物産書上帳……7407標
能登国変地其外相改之候目録……6063旧
能登国村々免状帳……7375標
能登国文書……2563標
能登国四郡中御預所村名書，石高付……6058
能登灰射水郡へ積廻仕法一件等……7422旧
能登幕府領御預所村々高訳等巨細書……6058
能登物産書上帳……7407
能登部上宮文書（能登国）…… 30(114)
能登向諸方書上御書写并由緒書……6891標
能登名跡志……9080標
能登諸橋村文書…… 30(142)
能登游記……9765標
野々市駒市ニ付郡奉行達書……7467標
喬松丸様因幡守様御聟養子御馬行列……1001標
喬松丸様御聟入御道具行列附……1000標
喬松丸様養子一巻写…… 998標
喬松丸殿成長ニ付御会釈方等…… 589標
能美絵図……6066標
能美江沼古城志……6058
能美江沼退治聞書……5380標
能美郡今江木場両湖辺村落図……6083標
能美郡今江古城之図……9158標
能美郡今江村源介組西原村内検地分間領絵図
……7094旧
能美郡今江村源介組日用村内検地領絵図……7051旧
能美郡絵図……6086標
能美郡・越中筋御廻野日記并御道書……4779標
能美郡御貸米日印帳……5230標
能美郡御廻野振ニテ御巡見御行列帳…… 742標
能美郡古田唱替并新開一村立等書上帳……6003標
能美郡小松近辺粗図……9067標
能美郡小物成……7156標
能美郡山川旧跡等書上申帳……9066標
能美郡白山田村鵜川村成立仕法居屋敷替等見
込書……6990標
能美郡草木之類書上申帳……7401標
能美郡陶窯沿革……9838
能美郡内寺領高相調理書上申帳……6493旧
於能美郡茶焙炉相立候箇所等……7582標
能美郡西原村内検地打立并抜物帳……7048標
能美郡西原村内検地分間領絵図……7049標
能美郡之内越前領分十六ケ村御絵図帙申村々
之覚……1522旧
能美郡之内御絵図帙申村々覚……1522標
能美郡日用村内検地領絵図……7051標
能美郡日用村惣打立歩の覚……7052標
能美郡日用村内検地打立并抜物帳……7050標
~~能美郡古田唱替并新開二村立等書上帳……6003旧~~
能美郡湊川中島桑畑百歩割打立野帳……7056旧
能美郡湊久保畑々割三番四拾歩割打立野帳…7056旧
能美郡湊牛蒡畑打立野帳……7056旧
能美郡湊清水屋五兵衛下タ畑打立帳……7056旧
能美郡湊小兵衛先年分持場所野帳……7056旧
能美郡湊人家居屋敷打立野帳……7056旧
能美郡湊出村人家居屋敷野帳……7056旧
能美郡湊所々野毛打立野帳……7056旧
能美郡湊所々薮地打立野帳……7056旧
能美郡湊所々割残リ田形打立野帳……7056旧
能美郡湊浜納屋々敷打立野帳……7056旧
能美郡湊浜畠無年貢場所打立野帳……7056旧
能美郡湊向嶋田割打立野帳……7056旧
能美郡湊向嶋畑割打立野帳……7056旧
能美郡湊村御田地割田形圏引番繰毎割番附留
帳……7248標
能美郡湊村御田地割仕惣歩合盛書上申帳……7252標
能美郡湊村御田地割畑形圏引番繰毎割番附留
帳……7249標
能美郡湊村田形圏割過不足指引仕立帳……7250標
能美郡湊村所々打立野帳……7056標
能美郡湊村畑形圏割過不足指引仕立帳……7251標
能美郡湊村百姓中持高圏組書記申帳……7253標
能美郡湊村前砂畑打立野帳……7056旧
能美郡村御印并当時御物成等相調理書上申帳
……7022標
能美郡村松村々御印写……7020旧
能美郡村々之内垣内分り居申村々字等書記申
帳……5996標
能美郡村々之内村渡り道程附帳……6058
能美郡本江村内検地壱番大角之中抜物并畠折

帳……7053標
能美郡本江村内検地打立并抜物帳……7054標
能美郡山上組三反田村領目留水除自普請願之
場所見取絵図……7212標
能美郡若原村領新開内検地手絵図……7073標
能美郡若原村領并享保八年新開内検地手絵図…7073
野村伊太郎系図……3035標
野村伊兵衛御取立之頼母子返り銀ニ付書付…7600標
野村円平詩稿……9627標
野村円平書簡并詩稿……9592標
野村家文書……3391標
野村五郎兵衛等へ御使御口上書……3757標
野村五郎兵衛等書翰……4651旧
野村五郎兵衛等書状……4651標
野村重猶墓碑記……30(153)
野村新堤御普請奉願上帳……7221標
野村文書……30(137)
野村与三兵衛系図……3036標
乗物御赦免願……3310標
乗物御免之留帳……3311標

は

バイ疫済急法……9561標
梅園院様百回御忌御茶湯留……1132標
梅園院殿一件留簿并御三回忌留帳……1130標
梅園院殿三拾三回御忌留簿……1131標
配下寺号帳（瑞龍寺）……6177
梅花硯図……9819標
梅花無尽蔵……175標
肺肝鈔……59標
梅葵継……3777標
俳句評点集抄……9698標
拝借皆済案内状写……5206標
拝借銀覚写……5218旧
拝借金皆済状等……5242標
拝借銀証文写……5218標
拝借除知米代銀等返納状……5207標
馬医書……8438標
梅城録……30(177)
梅雪作山城図……8288
配膳方等目録……2440標
梅窓院様百回忌御法事御代番被仰附候始終之
留写……1109標
廃藩置県勅詔并前藩知事告諭……1962標
拝領鷹之餌ニ付書付……3325標
拝領地絵図面……3566標
拝領之大的皆中之書付……3318標
拝領之鷹御国へ被遣ニ付覚……519標
拝領物并役義御免……2197旧
羽鹿両郡産物帳……7403
羽喰・鹿島両郡産物書上帳……7403標
羽咋鹿島両郡定散小物成銀取立方書上申帳……6998
羽咋鹿島両郡新開所高物成増減帳……7132
羽咋郡一宮寺家村社領内検地領絵図……6505標
羽咋遠津姫社勧進録……6388標
羽咋郡・鹿島郡村高帳……7131標
羽咋郡願正寺之件……6205標
羽咋郡寺社先祖由緒并一類付帳……6322旧
羽咋郡神職先祖由緒并一類付帳……6322標
羽喰郡末森古城之図……5362
羽咋郡館開村道興寺願状……6482
羽咋郡富来組新入九ケ村へ現銀御払米願等…7384旧
羽咋郡十村組々イロハ寄村名帳……5994標
羽咋郡梨谷小山村古絵図之写……6099標
羽咋郡宝達村等石灰焼立方暨石灰石川郡等え
屎物ニ指遣候一件等……7574
羽咋郡村御印留……7025標
羽咋郡村々御印写帳……7024標
羽咋郡吉崎村清四郎新開願所詮義等口書一件
……7082標
羽咋本念寺并配下寺号帳……6178
羽咋本念寺文書写……6272標
羽咋村羽咋神社神職宮谷国平……6322
白雲居米帖……9886標
博加雑談……2663標
白山奥宮社地ノ図……6427標
白山記考証……6254標
白山記録十七種……6249標
白山史……9064標
白山史図解譜……9669標 9769
白山禅頂御本地垂跡由来私伝……7733
白山禅頂私記……7733標
白山遊覧図記……9768標
伯爵家旧事記……1476標
白石鳩巣等書翰写……3675旧
白石先生紳書……9738標，9739標

博奕宿いたし候禁牢に付伺……1679標
幕朝年中行事歌合……9665標
箔の紋様見本……9849標
幕府営中関係達書……516標
幕府営中ニテ松雲公等御能動記録……9921標
幕府御目付巡見接待等に付書上げ……10064標
幕府及諸藩ニ属スル書類抄録……9290標
幕府・諸侯に関する言上覚……3929標
幕府書籍捜索達書……30(94)
幕末御守衛出陣調書……5496標
白鷹記……9540標
駁利学……7780標
駁老仏……7781標
馬皇后紀……8621標
箱崎八幡宮文書（筑前国）……30(102)
箱館表秋味代金差引帳……5171標
箱館表残金上納方書上帳……5166旧
於箱館表船代金荷物代金等預覚帳……5172標
箱館通宝通用に付触……5090標
箱館通宝之定……5090旧
箱館ニ而啓明丸御船等へ御取替金書上帳……5164標
箱根社文書（伊豆国）……30(105)
麻疹ニ付御食禁方相調候帳面……9556標
橋爪御馬廻御番所図……2069標
橋爪御門手帳……2435標
橋爪御門等御絵図……1317標
橋爪御門并三之御丸留帳……9252標
橋爪御門渡御櫓之図……1318標
馬術師範等拝領物之覚……5680標
馬術師範人等乗馬御覧之次第……5890標
馬術書……8435旧
馬術初段免許状……8425標
馬書……8437標
馬書　大坪流八条流吟味之抜書……8436標
蓮沼焼働文書（越中国）……30(144)
長谷川系図……3037旧
長谷川系図并旧記……3037標
長谷川等伯系譜……6592
長谷勘奏記……8682標
長谷観音祭礼二巻留帳……8001
長谷観音祭礼一巻留帳等……4640旧
長谷観音祭礼御固等留……4640標，4641標
長谷観音祭礼之筋御固罷出候一巻等……4639旧
畑苗植付方……7477標
長谷部系図……30(157)
長谷部神社文書（能登国）……30(113)
長谷部信連記……8701標
畠請證同上書附揃……6617標
畠請願綴……6617旧
畠山記……8726標
畠山軍記評註……8700標
畠山家旧記……8699標
畠山家歴代……8811標
畠山氏并長氏略記……8698標
畠山伝記……8872標
波多野薬師堂文書（相模国）……30(125)
旗本組出立一統之定……5335標
旗本先備之図……8132標
旗本陣図……8133標
旗本陣取之図……8134標
旗本備押之次第……8135標
旗本備立并五十騎一備之図……8138標
旗本備立図……8136標
旗本備之図……8137標
旗本並五十騎一備之図……8138旧
八月後浪士諸所張文等……9327
八拾八歳以上之者御扶持米……7286標
八城自註……8181標，8182標
八丈嶋宇喜多一類人別書上并起本之事……8783標
八丈島贈物記……501標
八丈嶋贈物記……502標
八丈嶋送物目録……30(188)
八丈嶋助力米等書札類……30(188)
八条姫君様被召仕御小人増御給銀付之帳……2195標
八陣覚書……5649旧，8123標
八陣自註附八陣図説……8124標
八陣図説……8124
八陣之図……8125標
八幡法童坊御證文写……6525標
八箇寺置文（洞谷山）……30(18)
八家代々記録……2892標
茨憩記聞……9062標
撥萃録……8637標
八丁内火消御人数押出ケ所之図……4933標
初寄合申渡ケ条……6738標
花前系図……30(159)

咄随筆……9759標
花のしおり……9747
埴生氏覚書……6753標
埴生八幡縁記（越中国）……30(11)
埴生八幡宮文書（越中国）……30(115)
刎尻籠寸法之図……8522標
羽揃之巻図解……8495標
羽野知頭事歴……3510標
馬場崎町近辺図……6029標
馬場外男所蔵書類……10101
馬場雅美所蔵書類……10101
馬表・吹上・歩旗等図解……5324旧
浜方先納口并御家督之口共無利足年賦返済根帳……5265標
浜調練方志得書……5691標
浜村御腰掛所ヨリ遠近之山見取図……9069標
早打御使覚書……4413標
早打御使之節掟之覚……4411標
早川随勝集記……2658標
林小次郎文書写……3511標
林氏系図……30(156)
林大学頭前田綱紀公問答書写……8594標
林伯立聟養子願等……3200標
林文書……30(138)
払銀図り等綴……4076標
原田幽翁書状……3759標
張出帳……2233標
磔被仰付者検使ニ罷出候留……4640
磔申渡方覚……4674標
播磨守殿御結納行列……944標
播磨守殿より御結納御帯三種一荷積方図……945標
播磨国風土記……30(43)
播磨国風土記……30(48)
治脩公御続書……112標
治脩公奉画信像之記……280標
晴姫様御結納御次第覚……9002標
張出留……6687標
藩翰譜抄……198
万吉録……30(88)
判形之品・印形之品等……2274旧
判形之品・印形之品・無判之品……2274標
判形物之品・印形物之品・無判物之品……2275標
藩君初三代御年譜……152標
繁久寺文書（越中国高岡）……30(130)
伴源右衛門口上書……3762標
藩公御屋舗大書院等之図……1428旧
藩侯御書写……1242標，1260標
晩香堂蘇帖……9866標
藩公本記……254旧
藩公本紀下書……254標
藩公歴伝……200旧，315標
藩国官職通考……2043標
藩士へ御貸銀について達書等……5014旧
藩士兵卒等人口戸数帳……2940標
播州殿御頼御婚礼留……942標
万松山鐘銘……6222
藩史料所持御問合に付届書……5標
藩士列伝抄……3429標
番神堂縁起（越中浅井郷）……30(17)
番附次第書類……9918標
藩政日記……4128旧
藩政類聚……2528標
藩祖高徳公遺誡鈔……1228
藩祖盛烈記……316
半田正興書状……3763標
藩知事勅答文写……1976標
藩中諸作法留抄……3671標
藩内諸事留……4633旧
藩の学校日記……5894標
伴八矢書状……3760標
葉原一件覚書……5520標
葉原一件并略図……5528標
葉原記……5519標
葉原事件抄録……5517標
葉原出張之節之覚書・江州出張兵糧方留……5524標
葉原出張筆記……5518標
伴八矢手前之義ニ付被仰渡御請覚……3761標
藩用大石運送願……4706標
播陽室津図記……9135標

ひ

卑意書記候一冊……4015
檜垣御間絵図……1306標
檜垣之御間絵図　他……568旧，1307標
檜垣之間御絵図……1305標
秘閣……3993標
秘閣帖……9869標

東岩蔵寺等文書…… 30(124)
東村石瀬比古神社神職大滝伊波登貞清……6325
東岩瀬西岩瀬猟場争論之義ニ付詮議書……6058
東御前様口上書並返答書……1267標
東本願寺殿御使者登城之節御作法附……1694標
東本願寺拝領材木杣共飯米等旧記……6149
東末寺御七昼夜繰上願一件……6337旧
東末寺為修理之本山ヨリ勧化願一件……6149
東村八幡宮文書（能登国）…… 30(113)
東門跡御国通行一件……6149
引懸者留……4667標
引高引免有之刻足被下寺社領之覚……6480標
蓽目……8380標
蓽目御作法等……8382旧
蓽目御作法に付伺……8382標
蓽目御用方覚…… 763旧
蓽目御用方覚抜書…… 763標
蓽目御用にて奥村内膳於御居間書院御刀被下候絵図…… 765標
蓽目御用之節於御居間書院諸大夫伺公所之絵図…… 765旧，3296旧
蓽目図……8389標，8393標
蓽目之図……8390標，8391標，8392標
蓽目之巻……8381標
引渡草引渡之次第……9487標
火消御道具所仕法帳……4925標
火消方一件……6573標
火消方被仰出留……4870標
火消方御道具等直段附帳……4924
火消方御触等留帳抜書……4942標
火消方覚書……4910標
火消方行列附……4963標
火消方記録……4955標
火消方心得抜書……4937標
火消方達書写……4927旧
火消方届紙面等調形……4912
火消方届紙面等調形……4916標，4917標
火消方役一件……4919標
火消御同役中より御案内所附等覚書……4891標
火消御用自分覚書……4957標
火消勤方諸事留帳……4912標
火消番勤方覚書……4896標
火消番勤方覚帳写……4897標
火消役勤方之覚書……4888標
彦右衛門受取書……7057旧
備荒倉抜書……9427標
肥後守様御抱屋敷之図…… 570標
肥後守様御望入之節年寄中等迄御贈物書立物…… 933標
肥後兵乱覚書……8757標
肥後山鹿郡ノ内城村籠城之次第覚書……8757
久田篤敬書状……3765標
久田清左衛門書状……3764標
寿姫様御婚姻一件…… 836標
寿姫様御婚礼一巻…… 837標
久松家譜抄録……8812標
土方氏旧領考……2741標
土方領境塚之絵図……2740標
土方領能州鳳至郡黒島村御領分境目塚之絵図……2740旧
土方領能州鳳至郡黒島村御領分境目境塚之絵図……2740
尾州荒子奥村家日記等……3354標
尾州荒子村観音寺由緒書……6308標
飛州一巻出府之上言上紙面控……5508標
飛州一件奏達書……5500標
飛州一巻ニ付諸事覚帳……5511標
飛州御境杭一件……1561標
飛州御城御用留……1686標
飛州表之儀ニ付魚津表ニ於テ御用番様等ヘ御文通留帳……5502標
飛州御田地ニ付奏達書……5500旧
飛州在番備考……1681旧
飛州在番備考并金森侯由来書……1681標
飛州境一件書面……1585標
尾州下之一色誌……9124標
飛州騒動加勢御馬廻一組御内しらべ書物之写等……5510標
飛州騒動ニ付御加勢御馬廻一組御内しらべ書物之写并慶長二十年大坂御陣御軍役御定書之写……5510
飛州騒動ニ付言上紙面并小紙等写……5507標
飛州騒動ニ付野村源兵衛一組用意之留帳抜書……5505標
飛州高山在番御普請方御入用帳……1689標
飛州高山在番雑記……1683標

飛州高山品々覚書……1685標
飛州高山城勤番方御定書写等……1678標
飛州高山城在番始終之覚……1684標
飛州高山城中勤方御定……1679標
飛州高山之城御預ニ付城勤番方御定書并高山
侍中交名等写……1678旧
飛州高山廃城日記……1690標
尾州名古屋城之図……9202標
飛州百姓騒動一件につき天正寺村弥三右衛門
注進書……5504標
飛州略志……9123標
肥前名古屋城陣取図　文禄之役……9206標
肥前国風土記……30(45)
備前文明乱記……8741標
飛驒越中両国御境村付方角道程品々帳……1560標
飛驒在番記……1682標
肥田十蔵より来候書付之写……9014標
常陸国新治郡西郷大割帳……9422標
常陸国風土記……30(43)
飛驒守様系譜……1485標
飛弾守様御上使宿調口上書……7677標
飛弾守様分新田高覚……7364標
飛驒国一宮略縁起……30(13)
飛驒国郷村帳……30(58)
飛驒国高山城図……9198標
飛驒国高山廃城一巻……1691標
飛驒国地志略……30(58)
飛驒山より伐出候材木之儀ニ付紙面之写……7471標
筆記……2514旧，7974旧
筆記　別名　丹羽五郎左エ門長秀一件……2662旧
日次……8946標
筆語……9733旧
引越御貸米五拾ヶ年賦日印帳……5223標
筆叢……9586標
逼塞・蟄居・遠慮・流刑等之者……4684標
備中国風土記……30(48)
備中兵乱記……8746標
匹夫受用之巻……8064
匹夫之功・士鑑用法……7920旧
匹夫之抄五城之図……7905標，8206標
匹夫之抄桃水私解巻之四……7909標
七海村白山宮神職宮沢越後時宗……6325
七海村白山宮神職宮沢筑後時貞……6325
必用弁……2248標
秀忠公御家へ御成之記等……461標
秀姫君様御婚礼一件……844標
秀康卿行状……8860標
秀吉公御検地帳……9418標
秀頼事記……8878標
一組軍役内考覚書……5304標
一備軍役……5289標
一柳監物一件等……1677標
一柳監物御預記二種……1675標
一柳監物禁錮一件書類……30(187)
一柳監物始末記……1676標
一柳監物伝略……30(187)
壱張掛之鞍台之寸法之図……8517標
一張弓書……8458標
一張弓之図……8457標
一張弓之秘伝……8473標
人見昌之進家督相続之申渡……3168標
人持頭分堂形於御馬場乗場被仰付候一件始終
留……5678標
人持組々分名書……2091標
人持組調練私考……5685標
人持組武芸御覧ニ付交名等帳……5688
人持組分より仰付候留……2090標
一本種……30(170)
日並記……3883標
火縄打筒三細工御指留ニヨル前銀等年賦返上
根帳……5748旧
火縄打筒鉄鉋御指留につき代銀上納銀年賦返
上根帳……5748標
非人頭並非人小屋抜書……7340標
非人小屋御救方御用方留……7343標
非人小屋裁許勤方帳……7341標
非人小屋主付仰付達書……7342標
非人小屋前ヨリ格ニ相立候品々帳等……2425標
火見番所相図之覚……7293標
火之用心達書請書……4486標，7292標
火之要心ニ関スル触書……7292
備藩典刑録……9247標
日々御用留……4187標
碑文及記類銘讃等並載之……30(153)
備忘……4287 4285
備忘記抄……9590標

P23 左下17へ

備忘小識……4177標
備忘篇……3222標
備忘録……3968旧，4535標
秘本　年中行事……30(2)
秘本　年中行事裏書……30(3)
氷見・石動・城端覚書……6710標
氷見浦等大船寄リ方書付并絵図……6115標
氷見浦等大船寄リ方書付并図……6115旧
氷見西念寺信濃宮親王御墓之図……9092
氷見町御地子米并諸役銀等之儀書上申帳……7162標
氷見町鍛冶屋忠右衛門并同人抱合之者口書控
……4663標
氷見町御巡見御上使覚書……1674標
氷見屋代々へ御墨附御印物之写……6668標
姫君様へ御口上書……4094標
姫君様江戸表へ御引返ニ付諸事御用留……730標
姫君様御行列一巻……714標
姫君様御産御用来状等……778標
姫君様御産用留附公儀御産御祝式品々……771標
姫君様御泊附……726標
姫君様御供一件……719標，723標
姫君様御供一件自分覚書……720標
姫君様御供人従者減方一件……721標
姫君様御平道具帳……9007
姫君様御婚礼ニ付御上洛之諸事覚書……9007
姫君様御住居御式台懸さほ寸法絵図……9810標
姫君様御城外へ御出之節御行列帳……729標
姫君様御葬送御法事御用主付……1020標
姫君様御着輿之節御供落シ絵図……727標
姫君様御登城御行列附……715標
姫君様御登城之節御住居立披図……713標
姫君様御登城之節留……722標
姫君様御入国四品帳并御道中触等……724標
姫君様御本丸御広式へ御登城之節御城内御供
建落絵図……716標
姫君様近々御発輿ニ付為御餞別不押立御招請
一件……731標
姫君様西丸御広式へ御登城之節城内御供建落
画図……717標
姫君様西丸御登城之節御供人数立披等之絵図
……718標
火矢打申覚……5690標，8450標
火矢方小川家由来書等一件……2956標
火矢方役所壮猶館へ打込被仰付候一件……5881標
百城図……8272標
百城之内二十図……8247標
百城之図……8199標，8200標
百八十御餅御披露之分一対之内亀絵図……9481標
百八十之御餅二種一荷積方図……9480標
百華吟……9643標
百騎ニ備案見図断……8151標
日向国風土記……30(48)
ヒュースケン事件覚……9406標
病院仕法書……9551標
苗秀秘録……402
備要小解……7898標，7899標
備要抄小解……7900標
備要抄之図……8098
秘用留……3777
秘要抜萃……4613標
病馬薬方……9564標
評判草……9292標
評判秘伝……8062標
兵部式諸国駅名考　上（自畿内至北陸道）……30(53)
兵部式諸国駅名考　下（自山陰道至西海道）…30(54)
表目類集……10042標
漂流并無人島より帰着の次第……7714標
兵粮方之部……8076
日吉神社境内旧藩寄附地絵図……6489
日吉神社神職橋田政常邸地旧藩寄附地絵図……6489
平泉中尊寺案内記……9114標
平岡野神社文書（加賀国）……30(111)
平尾御別荘合奏之記……10026標
平尾邸拝領一件……1466標
平加図……6091
平河邸御広式図……9583標
平侍役懸組之人高数之内外覚……2115標
平城境目躰……8260標
平城並平山城図……8207標
平城之図……8202旧，8208標，8209標，8223標
平城之図稿……8202標
平城分間之図……8203標，8236標，8237標，8253標
平野神社文書（山城国）……30(105)
平野村八幡宮・平野社神職大森伊賀時賢……6325
平野屋半助由緒帳……6669標
平山城居城躰……8259標

平山城之図……8210標，8217標
披露方等御絵図……3313標
披露状控……3312標
廣岡山王社略縁記……6263
廣岡山王社略記……6263標
広国村加志波良比古神社橘五位……6327
広瀬文書……30(138)
広田神社文書（摂津国）……30(105)
廣塚細記……9037
広塚の記……9078
寛姫様御婚礼一件……934標，935標
寛姫様御婚礼御用留……935旧
琵琶尻籠寸法図……8523標
琵琶湖東北西際之図……9128標
琵琶湖東北西際見取図……9128旧
賓客応接記事……532標
寮告江湖諸君……7590
備後守御願ニ付御内意覚書……2727標
備後守様御使者一件……557標
備後守様御使者御用部屋まで申述候覚書…10044標
備後守様御登城一件……556標，2728標
備後守様平生御心得方之趣被仰進御ケ条書…1244標
備後守利精隠居一件……1494標

ふ

風説……9311旧，9327旧
風説書……9320標，9396標
風俗之儀等御定ニ付申上書……4039旧
風俗之儀等に付申上書……4039標
瘋顚雑録……4767
笛吹峠勝閧之式図……8042標
深川御蔵所図……1469標
深川御蔵米調べ帳……5132標
深川御蔵屋敷絵図……1468標
於武学校馬術御覧之次第……5890
府下長寿録……7283標
武学校之図……5923標
深谷の駅嫁入を見るの図……9492標
歩苅算法捷径……7038標
歩苅定免古算解……7029標
武経考証……8043標
武教小学……7952標，7953標
武教全書解……7955標
奉行勤方……2237標
奉行勤方帳……2276標
夫銀抄……7151標
夫銀上納書……7180旧
福井君行状……8874標
福円寺文書（越中国大浦）……30(130)
福岡義比等小伝……3464標
復元御潤色之趣并組々年中行事窺并付札留…6762標
復元御潤色之趣并組々年中行事窺申上御附札
を以被仰渡之一件……6762旧
武具考……8554標
福嶋武左衛門書翰……3306標
復讐黒装束……9498標
復讐状……8084
復讐藤英伝……9501標
復讐論……9503標
復飾山状社職復帰願之儀神祇官ヱ添翰留……6335標
服除護符……7738標
服制御変革之留……3213標
福泉寺文書（伊勢国）……30(125)
福田新左衛門明保書状……3767標
福田惣社文書（越中国）……30(115)
武具短歌……8555標
福留村六郎右衛門覚書之写……7000標
武具馬具道具帳……5721標
福畠村字古池堤御普請奉願上帳……7220標
福光村宗左衛門口上書……7242旧
武具要説……8552標
婦倉比売神社文書（越中国）……30(115)
福浦村高并家数人数等御尋之品々書上申帳…5967標
武具渡方品目帳……5737標
武芸御覧ニ付交名等帳……5688標
武芸出情人御覧一巻……5679標
武芸小伝抄……8000標
武家官位略記御昇進次第……8956標
武家厳制録……9246標
武家昆目集……8766標
鳳至郡宇出津町村高等相調理書上申帳……5968標
鳳至郡内浦村網場出入訴状……7512標
鳳至郡鹿磯深見村海境論争一件……1574旧
鳳至郡金川宮記録……6286標
鳳至郡草高並引免高覚書……7111旧
鳳至郡寺社先祖由緒并一類附帳……6325旧，6326旧

凧至郡神職先祖由緒并一類附帳……6325標，6326標
凧至郡珠洲郡御用留……6964標
凧至郡村々高免記……7137標
凧至郡村々引高覚書……7111標
凧至郡輪島・宇出津・中居三ケ所町夫代銀上納日印帳……7179標
凧至珠洲旧跡物産書上帳六種……7402標
凧至・珠洲両御郡極高新開根帳……7086標
凧至珠洲両御郡定免新開根帳……7087標
凧至珠洲両郡御用留……6963
凧至珠洲両御郡郷庄村々……6058
武家耳底記……3430標
凧至比古神社号争論旧録……6287
凧至比古神社由来并宝物記……6213
武家諸法度……1866標，1868標
武家諸法度等……6568旧
武家諸法度等覚……9248旧
武家任叙記……8952標
武家百人一首……9652標
武家補任……8954標
武家聖要……8809標
不言録　後編……9490標
武功覚書……8054標
武功加文……7912標
武功秘伝……7911標
武功之巻加文……7912
武功之巻之内秘伝……7911
房田村白山宮森駿河征則……6325
総姫様御婚礼御祝詞之儀……855標
富士御社参御下乗并御供残所図……658標
富士御社参之図……656旧
藤懸重男文書……10102
藤懸某抜書翰写……4755標
藤懸頼善手記……4313標
伏木勝興寺与力寺庵帳……6178
伏木勝興寺与力寺帳外帳入寺庵帳……6178
伏木放生津家数等相調理書上申帳……5971標
伏木湊方ニ付前々旧記……6854標，6855
伏木湊旧記……6855標
武士訓……8045標
冨士祭例見物停止之廻状……4841標
冨士祭例見物停止之達……4841旧
武事十十箇条……8071標
武士勝負交名……8768標
藤瀬熊野神社文書（能登国）……30(114)
藤瀬村藤津比古神社神職尾沢清長……6322
藤田家譜……3038標
藤田内蔵允書状控……1467標
藤田左衛門手留……4331標
藤田左衛門日記……4333標
藤田平兵衛を以申上置控……4087標
藤田平兵衛書状……2217標
藤田求馬手留……4339標
藤田求馬日記……4340標
藤利房一代記抄……30(69)
武事二十箇条……8071旧
藤姫様御道具御行列帳……886標
藤姫様御婚礼一件留……885標
伏見寺縁起（加賀国）……30(16)
伏見宮様御使者登城ニ付御作法附……1695標
富士社参御下乗并御共残所図……659標
従武州江戸至加州金沢中仙道氷川駅路之図……7670標，7671標
武州相州御廐場之由来并村名附……4775標
武州文蔵村書籍捜索書……30(96)
武州類従図覧之部……9190標
不受不施宗旨之義ニ付書類……6155標
武臣雑話……8839標
婦人糞草序……30(175)
凧珠旧跡物産書上帳……7402旧
凧珠旧跡物産帳……7402
布施山御開濫觴一件……7094
豊前殿御尋之趣并返答申候覚書之写……1554標
夫銭等上納書……7180標
扶桑拾葉補闕……30(175)
二上山ヨリ四方遠山見渡之図……9097標
二口村領字樋爪ニテ大門新町新御蔵屋敷等略絵図……7202
二俣道往来一巻……7679標
補陀落山記……30(60)
府中（所口）光徳寺并配下寺号帳……6178
府中（所口）長福寺并触下寺号帳……6178
府中日吉社文書（能登国）……30(114)
呈蕪調……9635標
物価方之事等覚書……5010旧
物価についての文献索引……7603標

服忌考・御問合服忌集…… 10097標
服忌中縁組願ニ付達書……3149標
服忌令……3218標，10091旧，10092標
服忌令集覧…… 10096標
服忌令附録…… 10093標
得古方御用留……6772標
物産の儀稲若水御穿鑿言上書……9537標
物産之儀穿鑿言上書……9537旧
仏生寺縁起（丹後国）……30(14)
仏人フリー伝習馬術……8580標
仏足石碑銘…… 30(152)
佛道諷刺歌……9791標
武道心鏡武具要説……8552
武道雑談集…… 170旧，2502旧，4641旧，8001標
8626旧，8767旧，9046旧
不動山金山御縮方等仕法帳……7553標
不動山霊山寺草創由来……6219
舟岡記……8731標
船岡山軍記……8732標
船方掟帳……5070標
舟路切通し等詮議ニ付存寄書……7721標
武人隕命之稔月……8769標
船氏墓誌…… 30(152)
府藩県表高石高集記……9419標
武備……5278標
武備実用治世私考之巻……8101標
武備百人一首…… 30(178)
武備妄言……7984
附評大疑録……7783標
賦物傳授……9606標
武辺咄聞書……8840標
文姫君様御引移ニ付御式正御道具御行列帳…8998標
文姫君様御引移之節御行列……8999標
武蔓燭談……8858標
武野燭談……8858旧
布山新八ロ上書……4804標
咈唎囵船流球国渡来記……9387標
鮹網御詮義ニ付口上書……7520旧
鮹網立会方和順に付口上書……7520標
武律枝莖……7996標
不慮成儀諸事留帳……6798標
古市主計胤宗碑陰記…… 30(153)
古江要人系図帳……3039標
古城御林山之内ニ而古城村荒地起畑シ仕度旨
ニ而願書付等一件……7085
古城村荒地起畑シ一件……7085標
古高新田高小物成銀等手鑑……7353
触留……1902標，1903標，1904標，1905標，1906標
1907標，1942標，1959標，4091標
布令留……1960標
触留帳……4106標
解留抜萃……1893標
触留抜萃一……1894標
不破家譜……3040標
不破家先祖由来書……3041標
不破家文書……3393標
不破五郎兵衛先祖并親類附帳……3042標
不破五郎兵衛等口上書……4850標
不破順命所蔵不破源六へ被下候御書等写…… 10101
不破富太郎外切腹之交名書……3512標
不破彦三書状……3768標
不破彦三等口上書……4346標
不破武太夫上書……4021標
不破紋左衛門御使書……4389標
不破紋左衛門口上書控……4390標
不破紋左衛門紙面……4397標
不破紋左衛門願書……4397旧
文永安養両寺文書（信濃国）……30(125)
文化九年十二月摂州兵庫高田屋嘉兵衛等五人
異国船之者捕連行候次第写……7717
文化御婚礼記…… 892標
文化五年御付札之趣書上申帳……6058
文化五年河北郡惣村名附并郷庄付等書上申帳…6058
文化五年能美郡村々郷分……6058
文化雑記……3914標
文化七年河北郡御絵図御尋之趣書上申帳……6058
文化七年十一月於宝円寺太梁院様御一周忌御
法事之節御参詣御間囲略図…… 678
文化七年八月三田村紋左衛門等金谷御文庫巡
見之留……4361
文化十一年石川郡御尋ニ付絵図之内御答書……6058
文化十五年能美郡小松石部神社山王社由来帳…6058
文化十三年石川郡之内古城跡書上申帳……6058
文化十三年河北郡城跡并垣内書上申帳……6058
文化十三年子四月御郡絵図面能越境里数丁間
不同等御尋之品相調理書上申帳……6056

文化十亥年能登四郡古城跡館跡書上申帳……6058
文化十三年能美郡村名垣内名相違相しらべ書上申帳……6058
文化十二年能美郡橋々字等相しらべ申帳……6058
文化十年日記抄……4188標
文化十年惑乱記……7336標
文化十四年御直封領国絵図書付……6058
文化十四年三月十五日前田故土佐守叙爵御礼之節御居間書院絵図……1310
文化十四年富山御領婦負郡村名郷庄仮名附ニ而書上申帳……6058
文化十四年能美郡御公領境御書抜御絵図ニ御附札を以御尋之趣相しらべ書上申帳……6058
文化焼失以前二の丸之図……1299標
文化二年四月吉田彦兵衛殿於的場矢代的稽古之節前後自分覚書……5677
文化年間書物留……5799標
文化年間藩侯日譜……251標
文化八年先祖由緒書上申帳……6058
文化六年石川郡絵図之中御附札等之訳書上申帳……6058
文化六年石川郡郷庄村付帳……6058
文化六年江沼郡村名かな付帳……6058
文化六年能美郡御絵図御附札之趣承合申分覚書……6058
文化六年鳳至珠洲両御郡絵図面ニ雑記品々并郷庄村附等書上申帳……6058
文久元年永平寺総持寺衣體争論落着一件……6219
文久三年四月廿日於打木浜御備押御調練被遊候節御備建之図……5696
文久二・三年等覚書……5542標
文久三年風説……9327標
文久二年公義御改革御觸留并富山大聖寺縁組願書留……6563
文久二年五月廿九日夜珠州郡森腰浦於沖合難船同所へ上陸及届候ニ付注進之上出役取捌一件……7713
文久二年等覚書……5542旧
文慶雑録……2660標
聞見交録……2521標
聞見雑記寄書……9131標
聞見雑録……30(183)
聞見事記抄……340標
聞見輯録……36標
分間城下之図……8235標
分間之城図……8258標
分間城草図……8257標
分間平山城之図……8217
聞見目録……3225標
豊後国風土記……30(45)
文章草案……8902標
文章綴物……9735標
文昭幕下御他界前後略志……8992
文政元年家督相続之申渡……3162標
文政九年三州海辺不審之覚……6058
文政五年射水郡産物稲名等相調理書上申帳……6058
文政五年江沼郡村々産物之品々書上申帳……6058
文政五年覚書……420標
文政五年見聞記……2648標
文政五年砺波郡産物之品々書上申帳……6058
文政五年能美郡諸産物品々書上申帳……6058
文政三辰年直姫様宮腰浜江御出之絵図……733
文政七年より天保八年御発駕迄，御親翰帳之抜書六冊之内……2012
文政七年より之御家譜御書継調理……3109
文政十三寅五月御誕生御祝より天保十二丑年四月迄御祝方書抜控五節句御身拵御側用……775
文政十歳五月，赦被仰出候附吟味未決ニ而言上控……4584
文政十二年四月十五日，御住居御用人衆等并御用達，用手伝大岡助太夫へ改而御逢之節御間絵図……1429
文政中御触留抜書……6804
文政中御用方留帳……6773標
文政丁亥百城之廿図……8247
文政天保間諸事要用雑記……4296標
文政度御刑法帳……4623標
文政度御婚記上下……910
文政年間諸事留……3949標
文政年中御符合之御詮議ニテ諸向減銀調帳…5122標
文政八年当公様御角入被為在候節御櫛役沖野長蔵御角入御用相勤其節之御作法今般筑前守様御用に付同人より調べ指上候覚書也……808
文政四年御郡方仕法ニ付内密僉議之抄……6693標
文藻類……9596標
文武師範人紙面写等……5888標

聞老遺事抄…… 339標
文禄以来旧記……1273標
文禄年中以来等之旧記……1273

へ

平安紀年祭行列図……8951標
平安城記……9129標
兵学私蜚……7997標
兵家須知戦闘術門……8572標
兵器集纂……5719標
兵教法鑑……7981標
兵教法鑑鈔……7981
平家物語古本奥書…… 30(182)
平士五百石以下へ御貸渡御触等……3640標
丙子年御領国中米高直之砌御算用場より所々へ申遣候紙面之写帳……7604
丙子筆語……9734標
丙戌随筆……2603標，2604標
秉燭談……9858標
丙申救荒録……7328標
丙寅千句……9693標
平生脇刺帯之様心得等……8416旧
兵賦考略……5276標，5277標
兵賦除知米村附下帳……2867標
平法覚書……8403標
兵法技書匹夫之抄私解……7907標
兵法急務要用……7969標
平法玉心流組打伝……8454標
兵法五綱弁義……7985標
兵法御伝受一巻……8008旧
兵法五問自答……7970標，7971標
兵法修鑑抄……7957標
兵法十九ヶ条……8424旧
兵法諸軍配……7846標
兵法諸軍配自註……7839標
兵法神武雄備集奥義……7929標
兵法神武雄備奥儀抄……7928標
兵法神武雄備集……7926標，7927標
兵法神武雄備集第九品軍本総結……7930標
兵法伝書……7973標
兵法抜書匹夫鈔……7904標
兵法抜書疋夫抄……7901標，7906標
兵法抜書疋夫之抄……7902標，7903標，7909旧
兵法抜書匹夫之抄私解……7908標
兵法抜書疋夫之抄図解……7910標
兵法免状……8011標
兵法免状自註……8014標，8015標，8016標
兵法免状抄并軍配極秘……8017
兵法妄言……7984標
兵法雄鑑……7913標，7914標，7915標
7916標，7917標，7918標
兵法雄鑑抄……7919標
兵法要語抜萃……8001
閉門等御免之者ニ付御達……3336標
批売稼等願取捌方申渡書……6700標
日置徳右衛門ヨリ今枝民部宛書状……9007
日置流羽本……8471標
日置流巻藁前書……8319標
日置流弓条々……8316標
日置流弓之条々等……8317標
日置流弓法度之条々等……8317旧
別口御縮高代銀御算用場へ御頂り御証文等留帳……5263標
別小物成口銭取立候名目書上帳等……7431標
別処記……8739標
別所谷八幡社文書（能登国）……30(113)
別所谷村神明社神職引持龍男……6325
別所谷村神明社引持弓之亟一矢……6326
別所谷村八幡社神主帯壁伊勢清忠……6325
別段風説書……9390標
別当職之謂等……7575旧
紅花作り様覚書帳……7445標
ペルリ来航之節応接覚書……9382標
変事ども抜書……7310標
変死人一件覚書……4660標
編輯方事務報告…… 2標
編輯方書籍目録附録等……16標
辨書……9433標
返上銀請取状等……5205標
変事録……7354標
変地御償米一件……7112標
変地方一件……7109標
変地吟味覚書……7377旧
変地帳仕立……6064標
変地願書……6616標
編年史料……2552標

編年茂久録案…… 209標

ほ

穂井田忠友答書……8948標
宝永・安永留書……4512旧
宝永元年能登一覧記……6058
宝永七年火事御定書御出之後御先代被仰出候
火事方之一巻抜書指上候控……4878
宝永七年六月十九日被仰渡，廻国上使ニ付，
小松へ被遣候一巻之控，附金沢へ御着御立之
儀等書加……1654
宝永中伺書御指令留……4062
宝永年間雑覚書…… 10084標
宝永年中已来御触留之内抜萃……1932標
宝永年中廻状等之写……4741標
宝永四年十月より同五年五月迄之内二條様御
殿地御地形平均井土堀仮小屋仮垣等仕并仕舞
同所ニ而御木作始其外大坂より積登申御材木
三条御屋敷御小屋之内へ積入廻り仮圍仕同御
屋舗之内御貸小屋仮仕切等仕申御入用帳……4708
宝永流球来朝記……9354標
法会神事記……30(88)
方円山陣城陣取之図……8117標
宝円寺請取火消方留帳……4941標
宝円寺へ御参詣御用絵図…… 677標
宝円寺絵図……6407標
宝円寺御縮絵図…… 679標
宝円寺勝手仕送一件等……6530標
宝円寺後席大牛和尚法系ニ付調理報告書……6342旧
宝円寺御参詣絵図…… 678標
宝円寺御霊堂絵図……1205標
宝円寺大牛和尚法系調理書……6342標
宝円寺建方絵図……1044標
宝円寺・天徳院御位牌之覚……1193標
宝円寺天徳院御参詣之図……676旧，680旧
1077旧，1143旧
宝円寺天徳院常御参詣之図……676標，680標
宝円寺・天徳院・瑞龍寺・玉泉寺開山堂一件…6412旧
於宝円寺天徳院就御法事御両家様ヨリ御使者
有之節之図……1077標
宝円寺天徳院如来寺法事之節絵図……1051旧
宝円寺・天徳院・如来寺法事之節等絵図……1078標
宝円寺并御廟之図……1204標
於宝円寺香隆院様三十三回御忌御法事絵図…1152標
宝円寺初御寺方御招請御能之刻御作法……9966標
宝円寺道筋改之図…… 681標
宝円寺文書（越前国高瀬）……30(129)
宝円寺由緒口演書……6406標
方円大陣取之図……8113標
方円旗本座備三千之図……8114
方円旗本座備之図……8114標
抱玉談……7782標
亡家録附滅知……2871標
奉公人の掟……4562標
訪古游記……9778標
奉賛高徳院殿…… 310標
奉射之次第并的絵図……8299標，8300標
奉射之的之図……8504標
法住寺縁起（能登吠木山）……30(17)
法住寺文書（能登国吠木山）……30(131)
砲術稽古ニ付伺書……5913標
砲術之義ニ付達……5624標
芳春院書状写……1230標
芳春院振古録……6307標
芳春院等書翰写……1220標
芳普院百回御忌京都紫野於芳普院御法事就被
仰付寺中御修覆之絵図……1088
芳普寺記録……6300標
北条氏長分間之城図等……8254標
北条懐中道程記……9107標
宝勝寺千岳和尚啓書写……7749標
宝生大夫勧進能一件……9922標
坊城入道・金森宗和・小堀遠州書状写……9864標
宝生八左衛門罷出稽古之心覚……9939標
宝生流謡曲口伝鈔……9979
宝仙院殿御系譜……86標
宝蔵坊文書（摂津国）……30(125)
豊太閤関東北條征伐文書…… 30(146)
豊太閤朝鮮征伐文書…… 30(147)
豊太閤筑紫嶋津征伐文書…… 30(146)
砲隊物頭就被仰付候諸事留……4549標
宝達かね山旧記并問掘願一件……7552標
宝達村肝煎等願書……7555旧
宝達村御印願書付等……7555
庖厨和名本草自序…… 30(173)
絳帖……9867標

法帖……9887標
宝達村拝領居屋敷御印物につき願書……7555標
庖丁絵形…… 10015標
庖丁礼…… 10014標
宝塔寺由来……6279標
法童坊縁起……6305標
奉納千句連歌序文之抜・万句連歌人名之抜…9654標
亡備録……9006標
法福寺文書（越中国明日山）……30(131)
蓬萊三宝之飾自詠解……9478標
法梁院様御葬式御入用しらべ書……1053
法梁院様御逝去ニ付御葬式等一件之留……1053標
法輪寺へ下賜金之義ニ付歎願書……6467旧
法輪寺下賜金願……6467標
法令案文意見書……3955標
宝暦加州火事之記……7301標
宝暦元年御頃所御勘定目録……5273標
宝暦御婚礼留…… 866
宝暦五年御国目附松平頼母殿大河内善兵衛殿
御越之節諸事御尋御答書之写……6058
宝暦五年留帳……5083標
宝暦十一年勝姫様御婚礼御結納皆子餅留帳書
抜…… 869標
宝暦十一年御婚礼御作法留……865標，866標
宝暦十一年辛巳正月諸事留之内四月巡見上使
衆御通行一件留……1659
宝暦十二年御記……9761標
宝暦十年御武具馬具御道具帳……5721
宝暦中上使留……1655標
宝暦度御結納皆子餅御行列…… 871標
宝暦至文化御郡方旧記……6808
宝暦六年御使番より御郡廻被仰付候節之秘記…4402
宝暦六年銀札治乱抜萃……5077
宝暦六年郡廻秘記……4402標
抱鴨表并放鷹獲柄表…… 10025標
保金覚……3648標
北越凱陣賞典録…… 3458標，10103標
北越各隊戦状手控御届控……5454標
北越菅家系譜……84標
北越出陣戦功録……3457標
北越出陣中御用方心控等……5452標
北越出陣中戦争概況……5451標
北越出兵諸調理并記録……5472標
北越出兵総人員高……5483標
北越出兵に関する達書……5434標
北越出兵附属実効書……5471標
北越出師書類抄録……5450標
北越戦記……5443旧，5445標，5448標
北越戦記・加賀藩北越軍事輯録附録……5445
北越戦死者墳墓箇所絵図……5493標
北越戦争各隊出戦表……5477標
北越戦争各隊戦状……5453標
北越戦争関係書目……5441標
北越戦争軍事御届書……5433標
北越戦争御酒料之件達書……5436標
北越戦争功等抜書……3459標
北越戦争戦状御届書……5455標
北越戦争長岡城乗取……5457標
北越戦争等巨細録……5463標
北越之役戦死者墳墓明細表……5491標
北州紀行…… 30(180)
北陲杞憂・鴉片始末・同考異等……9364旧
北陲杞憂等……9364標
北藩広譜…… 211標
北藩諸雑記……2672標
北藩秘鑑……1908標，1909
北陸紀行…… 30(180)
北陸三国志…… 338標
北陸道駅路記……7667旧
北陸道越国之内富山藩支配里程図面帳……2697標
北陸道往還越前国ヨリ越中能登国へ之道筋等
書上申帳……7685標
北陸道往還道程等書上申帳……7630標
補校上宮聖徳法王帝説証註……8599標
保郷庄調書……7344標
星尾寺文書（紀伊国）…… 30(125)
星野宗以書状……9842標
星野伝書（能登国門前）…… 30(128)
捕縄諸型……4627標
戊戌談話集……2616標
戊辰十一月ヨリ癸酉五月四日ニ至ル故従三位
慶寧御達願伺御届書写等…… 264
戊辰北越之役戦死人等墳墓明細表……5492標
細川家系……8813標
細川記……8728標
細川忠興記…… 30(164)

細川頼之記……8729標
穂足内御詰合字津木頼母様御出ニ付御賄諸雑
用書上帳……5174
補短集……6921標
発機丸航海記……5541標
発機丸航海大略并諸港見聞……5541
発機丸航海日記……5539標
発句稿……9697標
法華宗寺院由来等……6223標
法華宗本行寺等寺地拝領書上帳……6511標
北行集……9747
北国紀行（抄出）……30(176)
北国地震記……7311標
北国筋御見分ニ付江戸表伺之写……10067標
北国太平記聞書……2508標
北国鎮定書札類……30(143)～(145)
北国脇往還人馬継立帳……7684標
法生会講式・隋意会并法幢・法事会地顕等一
件……6381標
堀田伊右衛門・武藤平左衛門書翰……4829旧
堀田家系図……3043旧
堀田家系譜……3043標
堀田殿へ水戸老君よりの御書写……9297標
仏御前事蹟記……30(182)
仏御前事蹟記……9037
歩兵一大隊人員……5654
歩砲大隊人員……5654標
歩砲大隊人数……5654
補忘録……3875標
堀内系図……30(157)
堀尾帯刀吉晴働之覚……8889
堀織部正通行一件……1670旧
堀学之丞口上書……3771標
堀学之丞書状等……3770標
堀川角場一件書類……5795標
堀川角場絵図……5796標
堀川角場等見取之図……5794標
堀川暁困軍学大基……7962
堀河暁困雑集……7961標
堀川暁困雑集……7962標
堀川暁困雑集軍学大基……7961，7962
堀家定書……8853標
堀越左源次狂歌集……9702標
堀四郎右衛門書翰……3307標
堀四郎談話聞書……8618標
堀出物取扱方等……6794標
堀直寄覚書……8852標，9279
堀松相談所留帳……6767標
堀文書……30(138)
堀彌右衛門書状……4834標
堀弥右衛門書状……3769標，4851標
堀与左衛門届書……4807標
本阿弥伝系図等……8531旧
本覚寺文書（越中国袋村）……30(130)
本願寺作法之次第……30(42)
本願寺相承略譜（大谷龍谷山）……30(41)
本願寺代代譲状等写……30(41)
本願寺文章弘旧記……6149
本願寺別院文書（加賀国金沢）……30(132)
本願寺末刹伝書写（金沢）……30(41)
本願寺文書（京都）……30(125)
本願寺蓮如上人消息写……30(41)
本行寺長寿寺等寺地拝領書上帳……6511旧
本化別頭仏祖統紀抄……6338標
本郷御住居御飾附等留……907標
本郷上屋舗大書院等之図……1428標
本興寺文書（加賀国薬師谷）……30(131)
本光寺文書（能登国骨躰）……30(130)
本国寺文書（京都）……30(121)
本佐録……30(169)
本識三問答劔術本識……8400
盆正月……9978標
本誓寺文書（加賀国松任）……30(132)
盆石について返書……9820標
本草綱目・汝南圃史・物理小識・本朝食鑑・
本草啓蒙・菜蔬之條合集……9538
本多安房守居宅絵図……3624標
本多阿房守書翰写……7014旧
本多安房守書状……3772標
本多安房守と横山蔵人往返紙面写……3773標
本多安房守等書翰……1543標
本多安房守菩提所大乗寺替地一件……6490標
本多安房守政重事跡抜抄……3513標
本多安房守政長願書等……2862標
本多安房守より横山蔵人往返紙面二通……3773旧
本多・奥村其外御用地絵図……3622標

本多家中給人高所付帳……3663旧
本多家譜……3048標，3055標
本多家譜抄録……3056標
本多家譜鈔録……3057標
本多系図……3049標
本多系譜……3047標，3050標
本多家上屋敷屋形絵図……3623標
本多家寛永物成帳……2769標
本多家古文書等……3395標
本多家代々記録……3044標
本多家物成帳……2769旧
本多家由緒帳七種……3046標
本多家来由緒帳……3058標
本多氏旧記……3394標
本多氏記録……3045標
本多氏心覚……3649標
本多氏蔵親翰写……3396標
本多氏剔抉研銘……30(153)
本多従五位殺害一件……4673標
本多周防守伺書……4429標
本多周防守叙爵被仰付候始終之留……2903
本多周防守書状案……3775標
本多周防守之書附……4429旧
本多等諸大夫一件……2900標
譽田八幡宮文書（河内国）……30(102)
本多播磨守跡組交名帳……2092標
本多播磨守御在国覚書……4210旧
本多播磨守御用番覚書……4210標
本多播磨守書翰……5613旧
本多播磨守書状……3774標
本多播磨守添状……5613標
本多政和覚書……4211標，4212標
本多政和系図……3051標
本多政和公まで系図……3051旧
本多政以系図……3052標，~~3053標~~
本多政以之元祖以来事蹟書……3054標
本多政以・前田直行・横山隆平・斯波蕃祖先
以来事蹟書……2998旧，3054旧，3077旧，3130旧
本多政賀叙爵一件……2903標
本多政礼覚書……5036旧
本多政礼御勝手方覚書……5036標
本多政長書状……4430標
本多政房幾子一件……3191標
本多政通叙爵一件……2911標
本多政行道中日記……4155標
本多政行・政成叙爵一件……2902標
本多政好書類……10101
本多衛政養所蔵書類……3397標
盆中広徳寺御参詣御廟参之節御跡供之絵図…698標
本朝書籍目録……30(90)
本朝書籍目録……6標
本朝書籍目録・同外録……7標
本朝書目……30(90)
本朝尊卑過去帳……8590標
本朝尊卑分脈図……8821標
本朝通鑑編さん書類……8599標
本朝通鑑外九記録……8598標
本朝年代歴……30(7)
本朝之五段之弩之秘図……8472標
本朝文粋等（抄出）……30(176)
本朝礼剣之本拠之事……7888
本阿弥系図……30(159)
本能寺本興寺等末寺之儀ニ付寺社奉行ヨリ由
来覚書……6195旧
本能寺・本興寺末寺之由来調べ覚書……6195標
本藩御家系……94標
本藩御年譜……2503標
本藩雑記……5697標
本藩諸士言行録……3448標
本藩譜略……85標，2504旧
本藩徴妙公御軍制等条々……5609標
本藩歴譜……192標，213旧
本藩歴譜書継……1502標
本藩歴譜草稿……205標
本藩歴譜・同公族譜目録……149標
本封叙次考……1506標
本町地子町地子銀並御役服制縮方……4037標
本町地子町地子銀町役定…6603標，6604標，6605標
本丸炎上ニ付諸式直段覚書等……9438標
本丸御門往来許可証……4522旧
品目九城之図……8222
本隆寺鐘銘（山城国）……30(18)
本蓮寺文書（加賀国小松）……30(132)

ま

毎月御寺御参詣等之覚……665標

一本多政以家系図……3053標

毎月死刑拷問并禁牢吟味控方覚牒……4573標
毎月二日読　追加……6566標
毎日書立書抜……4243旧
毎日記……4230標
毎日雑書留……3881標
毎日袖裏記……4258標
毎日帳……3882標
毎日帳書抜……3980標，3981標，3982標，3983標
毎日帳書抜早繰等内書抜……3979
毎日帳之内書抜……10034標，10035標
毎日帳早繰書抜……3979標
毎年弐百十日後御郡御扶持人組々廻村御注進
書上留……6982標
前田出雲覚書……341標，342標
前田一学聟養子一件……3189標
前田右近大夫利意書翰……1501旧
前田采女家系……1505旧
前田采女孝興家系……1505標
前田右馬系図……104標
前田御家覚書……210標
前田御家記……153標
前田御家雑録……313標，3447標
前田大炊家譜之抄……3065標
前田近江守達書……4457標
前田御系図……90旧
前田家系武略伝記……344標
前田家譜……3059標，3060標，3061標
前田家譜略図……74標
前田内蔵太家系下帳……3072標
前田内蔵助系図附下帳……3062標
前田慶次殿伝……30(183)
前田系図……3903標，3905標
前田系図附由緒……3904標
前田系譜……3083標
前田家表御式台二十分一絵図……1304旧
前田家假字系図伝……30(155)
前田家神主録……1194旧
前田外記宛書翰……4066旧
前田外記宛来状……4066標
前田外記出府之節月切駕籠乗用御願控……3305標
前田家系図……70標，82標，100標
前田家系図四種……78標
前田家系譜……93標
前田家御婚礼行列次第……993標
前田家御代々法号……1184標
前田家雑録……2674標
前田家書籍捜索書上……30(94)
前田家書籍捜索書下……30(95)
前田家世譜……30(155)
前田家草創……91標
前田家代々之御子様方御年表……203標
前田家大略系図……92標，96標
前田家年表……2461標
前田家之記……30(163)，2509標，2510標
前田家判印鑑……288標
前田家姫君婚礼についての手簡綴……902旧，923旧
前田家姫君伝……204標
前田家封国証書集録……1508標
前田家名物御道具記……9996標
前田源左衛門系図帳……3091標
前田監物系図帳……3100標
前田孝事日記……4246標
前田興盛伝記……300標
前田公歴世一覧表……97標
前田御系譜……95標，193標
前田権佐文書……10102
前田才記留記……6726標
前田左京勝手之様子届書……3651標
前田左京被召出候節之覚書等……3399標
前田貞醇所蔵旧記……3404標
前田貞一手記……4161標
前田貞事留帳……4928旧
前田貞親覚書……4132標
前田貞親手記……4123標
前田貞親手留書抜……4125標
前田貞直手記……4141標
前田貞直筆記……4142標
前田貞幹手記……4150標
前田佐渡書状……4435標
前田三郎四郎家譜……3084標
前田三九郎系図帳……3088標
前田山通念寺旧記写……6309
前田氏家系図……72旧，81標
前田氏家乗……1471
前田式部系図帳……3099標
前田氏系図……72標，88標，89標

前田氏系譜…… 191標
前田重靖御親翰写……3861旧
前田重教親翰写……1253標
前田氏御系図……80標
前田七郎兵衛書状……4803標，4854標
前田七郎兵衛直玄書翰……4854旧
前田信濃守長泰家系……8814標
前田主膳殿書付ニ付而拙子共愚案……3786標
前田主膳殿より書付御出候ニ付而為御相談拙子共愚案……3786旧
前田修理覚書二種……4184標
前田修理家譜……3087標
前田修理御用日記……4135標
前田修理由緒……3086標
前田将監家系……3068標
前田将監簑方甥左太夫義御部屋忍出候一巻…3655標
前田諸氏集譜……2888標
前田季明系図……3082標
前田図書印鑑指出書……4523旧
前田図書系図帳……3093標
前田図書家来御城中御門御通者交名書……3665標
前田図書書状……3778標，3779標，4395標
前田晋所蔵文書…… 10101
前田晋旧記……3405標
前田駿河守指紙……4068標
前田駿河守書状……3780標
前田駿河守達書……4068旧
前田姓壱人在番被仰付覚書……2203標
前田姓給禄……2889標
前田清九郎家系……3095標
前田仙太郎系図帳……3096標
前田創業記……295標，296標
前田大学書状……3787標
前田大学舅簑子仰出之書……3196標
前田孝和覚書……3398標
前田孝和（勘解由）系図帳……3070標
前田孝貞書状……3784標
前田孝知家譜……3071標
前田孝友書状……3785標
前田孝矩書状……3650標
前田孝行叙爵一件……2901標
前田弾番後見之件……3201標
前田通念寺由緒等……6309標
前田対馬書状……3666標
前田対馬申達状……4814標
前田対馬守家譜……3063標
前田対馬守達書写……3784旧
前田綱紀御書……1241標
前田典膳系図帳……3094標
前田藤太先祖書……8831標
前田土佐守家政記録……3400標
前田土佐守家譜之抄……3078標
前田土佐守家録……3400旧
前田土佐守書状……3776標
前田土佐守直信家譜……3079標
前田利同書翰……1480標
前田利家印物……2766標
前田利家知行書写……2766旧
前田利家等御書之写……1214旧
前田利昌書翰……1491標
前田利嗣履歴等……99旧
前田利常書状……1236標
前田利幹書状……1477標
前田利意書翰……1501標
前田利長書翰写……1231標
前田利為家伝…… 308標
前田利政略伝…… 213標
前田直時書状……3783標
前田直信系図……3080標
前田直躬覚書写……4156標
前田直躬書抜之内写……4127旧
前田直躬・孝行書抜之内写……4127標
前田直躬内密手記……2677標
前田直行方旧記……3401標
前田直行家譜稿……3076標
前田直行系図……3074標
前田直行家覚書……3075標
前田直行家等伝……3339旧
前田直行書類……3402標
前田直行祖先以来之事蹟……3077標
前田直良家譜……3195標
前田中務宛来状……3781標
前田中務屋敷図……3625標
前田長時家譜……3066標
前田長年先祖書……8815標
前田長知家譜……3067標

前田斉広御官物之請取目録…… 450標
前田斉泰江戸着府御書拝戴之次第……1620標
前田斉泰公隠居内意書…… 145標
前田斉泰事蹟…… 419標
前田斉泰将軍宣下祝賀参列之覚…… 483標
前田斉泰書翰……1259標
前田斉泰書翰写……2022旧
前田斉泰・慶寧・利嗣履歴……99標
前田斉泰履歴等…… 256標
前田年譜…… 166標
前田之系図……79標
前田之譜…… 306標
前田半三郎旧記……6309
前田半三郎文書目録等……8659標
前田備前子女調……3090標
前田備前娘縁組仰出書……3178標
前田飛弾守仰出写……5530旧
前田英丸等家督相続之申渡控……3164標
前田兵五郎家系……3097標
前田兵部系図帳……3064標，3073標
前田兵部孝友系図帳……3073旧
前田備後守利精隠居一件……1494旧
前田平左衛門正次家譜……3085標
前田孫四郎書翰写……1229標
前田政忠復姓願……3202標
前田又勝・村井藤十郎乗物行に付伺……4846標
前田又五郎系譜……3092標
前田弥五作系図……3098標
前田保（安・康）太夫筆記……2509
前田吉徳書翰……1250標
前田慶寧御達願伺御届書写等…… 264標
前田慶寧勤王事蹟大要…… 422標
前田慶寧公履歴の増補…… 265標
前田慶寧履歴増補…… 266標
前田慶寧履歴等…… 263標
前田若狭守於中屋敷御礼之絵図……3277標
前波村神目伊豆岐比古神社神職堀川山城秀近
……6325
前々被仰出御条目等後例可相成品書上帳……6550
従前々席張出之寄之内書抜……2238標
賄方役人同与力交名寄書……2187標
真柄太刀筥之記并太刀之考……6250
牧久兵衛等書状……4586標
牧昌左衛門橘忠輔先生軍役内考……8084
牧忠輔軍役内考等抄……8084
牧忠輔先生三段三所之弁……8084
牧忠輔先生自筆六城……8268標
巻ノ拾壱御長持入之御品之内仮目録…… 9標
牧野備前守書状……1973標
巻物包図……9894標
真木保臣建言草按……9229標
巻藁射様之事……8312標
栄君様御附人并御供女中御扶持方御給金品々
役付留帳…… 846旧
栄君様御婚礼ニ関スル書類…… 846標
真砂子集…… 10010標
真砂子集聞書…… 10012標
政春古兵談……8047標
政春古兵談陰之巻……8048標
政春古兵談抜萃……8049標
政寛覚書……4168標，4169標
政頼流麿方文字之事……9803標
魔性之絃鳴之大事……8373標
桝廻横目書付請取ニ付書状……6952標
従増山城跡四方眺望之図……9174標
真館御触留抜書……6804標
真館覚書九種……6790標
真館旧記……6791標
真館諸書物留……6797標
真館諸事留……6802標
真館留帳抜書……6803標
真館筆記……6800標
真館諸書物留等ノ抄……6796標
町会所御作事会所七尾宮腰御指定書写……6557標
町会所・御作事会所・七尾・宮腰等御定書之
写……6558標
町会所覚書……6574標
町格……6576標
町方御触写……6569標
町方貸附根帳……5236標
町方心得……6577標
町肝煎役向勤方書上申帳……6866標
町吟味所御触留……7348標
町吟味所留之内変事録……7354
町中銀子調達方ニ付被仰出候書立……5011旧
町中二日読御定書之内十七ケ条脇書を以慎方

等申渡書……6567標
町続商売方等相調申帳……6618標
町続ニ罷在候者商売方等相調申帳……6618旧
町年寄歴名并勤方帳……6598標
町奉行心得書……6541標
町奉行達書……3550旧
町奉行勤方帳……6544標
町奉行手帳……6542標
町廻御定書写……4509標
町役所諸事留抜書……7347標
松浦豊太郎書状控……3788標
松岡忠平文書…… 10102
松尾大明神縁起……30(13)
松倉山肝煎給銀ニ付願……7548標，7549標
松倉山肝煎弥右衛門願書……7549旧
松沢庄太夫等書状……3789標
松島案内記……9115標
末書通解……7822
末書辨略……7883
松平淡路守書状外……1477旧，3701旧
松平阿波守殿等御出之節諸向御入用留……5151標
松平伊賀守書状……1974標
松平池田より一條家へ縁組一件……9007標
松平犬千代丸病気に付小嶋安順差遣之儀につき書付……1011標
松平越前守殿御飾附写……9816標
松平往来申聞候趣等…… 10041標
松平加賀守深川抱屋敷……1468
松平加賀守領分内脇往還筋書付……7693，7694
松平亀五郎縁談ニ付御親翰寄…… 862標
松平休悶入道書状……3790標
松平外記刃傷一件覚……9505標
松平庶流諸家十三伝……8816標
~~松平新太郎殿御息女云々……9007~~
松平大弐殿御在住之内出雲守様御通之留……6715標
松平大弐留帳等……4754標
松平大弐・前田兵庫連署状…… 279標
松平直良知行所付目録……8669標
松平長門守面会之節可有周施様被仰含覚書…9323標
松平之称号について……8959標
松平之称号について佐々木孫兵衛と有沢才右衛門応答書写……8959旧
松平飛騨守領分高辻帳……2717標
松平康哉系図……3101標
松田記……8742標
松田左兵衛・斎藤市丞支配新川郡之内へ被下置候種馬之子并其外駒共去年書上候内此度相撰可申分撰申ニ不及分且又金譲次第相撰可申分書分之帳……7460
松任絵図……6092
松任城趾図……9150
松任城測量図……1388標
松任城丸家之系図……8828標
松任町旧記……6588標
松任町間数打立之内引物書抜帳……5940標
松任町人口戸数等明細書……5941標
松任由来書……6589標
松任ヨリ上宿下宿道程并賃銭書上申帳……7688標
松波系図…… 30(157)
松波松岡寺并配下寺号帳……6178
松波村神主等持宮懸合一件……6190
松波村神明社松本大肥隆明……6327
松木枝葉取下達書……7479標
松木盗伐に付蛯ヶ原村肝煎断書……7496標
松木盗伐見届書……4835標
松之御殿図……1329標
松原一信書状……3791標
松原系図…… 30(157)
松原神社祝詞……6394標
松原墳墓由来記略……9310標
松原李右衛門勤功之書上等……5667標
松原安兵衛書状……4830標
松姫君様御入輿一件…… 851標
松姫君様御入輿一件留等…… 854標
松姫君様御入輿之砌御規式御饗応御飾并御次へ出五々三等欠数之帳…… 852標
松姫君様御入輿之砌御規式御饗応御飾并御次出欠数之帳…… 852旧
松姫様御入輿之節御揃道具…… 853標
松前行目形延一件……7585標
松前表御下シ米売捌并筒鯡等買入方総勘定帳……5174標
松前表御下シ米三千石売捌方書上帳……5176標
松前表総勘定書上帳……5173標
松前表総勘定帳……5167標
松前表筒鯡等買入方書上帳……5177標

松本左源太一件覚書……1662標
松本左源太一件，寛政十二庚申歳三月十一日
覚書……4662
松山助右衛門覚書……5412
繩持共以後召仕方等之写……4921標
繩持召仕方等相改候帳……4920標
的書……8503標
的之次第……8501標
的之書……8311標
的之ルイヌカ書……8502
的之類抜書……8502標
澠普一件歎紙面……6536標
馬渕氏本藩譜略……2504標
馬淵本藩録……8766
馬淵友進先祖由緒并一類附……3102標
大豆田村等用水附替分水願写……7218標
真弓園集……9683標
丸物可射次第……8503旧，8505標
丸物并草鹿之図……8506標
稀成小児ニ付品々頂戴一件……7290標
真脇村高倉神社高原従五位……6327
廻箱中緊要留……4095標
廻箱披見覚帳……4093標
万延二年雑記……9316標
満行寺文書（上野国）……30(125)
万行文書……30(136)
万治以前御定書……1882標
万治三年越中検地方書類……7060標
万治三年検地書類……7061旧 7060
万治三年七月十八日，淡路守様富山御領知替
堺目百姓中判形有之絵図……2694
万治三年富山領知替堺目絵図添書……2694標
万治四年宗入自記……30(182)
万雑方窺帳……7165標
政所様薨去一巻留帳……1025標
萬病回春序……9552標
漫遊唱和録……9633標
万葉集（抄出）……30(176)
万葉集長歌（抄出）……30(177)
万龍寺様御代本統百通……3412標

み

三井大幡社文書（能登国）……30(113)
操姫様御離別一件……857標
味方（三方）原戦記……8027
三日月の日記……9752標
三神多宮旧記……6256旧
参川記……8715標
三河聞書……8057標
参治国八名郡……30(49)
三河物語……8715
御木神社来由等詳細記……6058
造酒亟様御詠等……1129標
水侯公国諱客贈答書……9352標
三崎村須々神社猿女鈴雄……6327
三崎村須々神社高山勝見……6327
微塵集覚書……8066標
水上儀一覚書……4546標
水越八郎左衛門口上書……5501旧
水越八郎左衛門返書……5501標
水島右近書状……3792標
水野温故録……3223標
水野善政録……3896標
水原清幽口上書……3545標
水屋文書……30(137)
溝江八左衛門等書状……3174標
溝江平七郎書状……3793標
溝口源右衛門書状……3794標
御田神社文書（越中国）……30(115)
三田村監物不慮之儀ニ付御答書……3515標
三田村神明宮神職中川伊勢真澄……6325
道御案内人等請答方覚帳……1666標
道下町石瀬彦神社神主四柳従五位吉暉……6325
教千代様御色直之御用留帳等……779標
教千代様御色直之御用留帳并安永八年己亥正
月より之覚……779
教千代様御参初御居御膳部……789標
教千代様御参初御膳部……789旧
教千代様御宮参御用覚書帳等……785標
教千代様御宮参之記録……788標
教千代様御宮参之節云々……787標
教千代様御宮参之節御作法書……786標
教千代様御弓初等作法書……5672標
教千代出生届の儀につき伺等……766標
道乃記……9762標
道のこと草……9681標

礼姫君御婚礼御用…… 984標
礼姫様御道具調帳…… 981標
礼姫様縁組一件…… 978標
礼姫様御縁組被仰合候一巻…… 977標
礼姫様御婚礼御道具帳…… 979標
礼姫様御婚礼御用之品調理…… 980標
礼姫様御入輿之節使者手控等…… 983標
礼姫様御入輿之節書状等控……986旧，983旧
礼姫様・多慶若様末村領山へ御出之絵図… 10052標
三日市村等堰之図……7229標
三日町村住吉大明神神職長生佐登臣……6322
光高公御詠歌……1239標
豊之丞殿御髪置記録…… 803標
三壺記……2471
三壺聞書……2471標，2472標，2473旧
三壺記抜書……2473
水戸公韓客贈答書……9352旧
水戸様一件……9301標
水戸様問合御飾付…… 918標
水戸様ヨリ御進物之記…… 509標
未年御勘定目録……5273旧
水戸藩主騒動聞書……9298標
水戸浪士一件記録……9302標
水戸浪士自訴并激文……9303標
水戸浪士追討一件……9307標
水戸浪士追討ニ付調書……9308標
皆子餅御献上行列書……9616標
皆子餅御献上行列等…… 915標
皆月村日吉社神職番場備前政継……6325
湊ヶ所家数人数等御調理ニ付書上申帳……5974標
湊川楠公碑陰記…… 30(153)
湊村高家数等書上被仰渡候ニ付御調理書上申帳……5973旧
湊村高家数等書上可申旨被仰渡候ニ付取調理書上申帳……5973標
南方村柳田社桜井従五位……6327
源道済家集（抄出）…… 30(176)
源満雅・俊廉・藤原兼定・基綱伝……8897標
峯姫様御婚礼御式……9001標
箕浦聞書…… 307標
箕浦五郎左衛門聞書……30(163)，307
美濃国神名記…… 30(9)
美濃国風土記……30(48)
美濃国前田村古文書……8658標
簸輪隊北越出兵録……5479標
三引村肝煎誤リ書等……4656標
三引文書…… 30(138)
微妙院様御直之御意覚書……375標，376
微妙院様御代正保四年加越能三州之官道及裏道之道程并海岸湊々船入之都合海路里程等取調被仰付節書上帳之控也……7626
微妙院様御夜話……357標，358標
微妙院様御夜話抄……3435標
微妙院様御遺物覚等……1178標
微妙院様御遺物之覚……1179標，1180標
微妙院様御印物之写上申帳……6824標
微妙院様御真翰之写等……6941標
微妙院様御逝去後三ヶ国改作方之儀御穿鑿更ニ改作方被仰出一件……6058
微妙院様・陽広院様御遺物帳……1181標
微妙院様落胤一件口上書…… 372標
微妙院殿御夜話…… 360標
微妙院殿御印物写……6824旧
微妙公遺事…… 361
微妙公御遺事…… 357，358，359標
微妙公御直言…… 375
微妙公御直言覚…… 376標
微妙公御夜話……352標，353標，361標，362標
微妙公御夜話　異本…… 356標
微妙公御夜話抄……3434標
微妙公御書写……1235標
微妙公御上洛考……377標，378標
微妙公御年表…… 217標
微妙公御発語……355標，361
微妙公等御書写……3361標
微妙公夜話録……357，359
宮北集書……9313標
宮腰町奉行勤方帳……6549標
都羽津根……9130標
宮崎権太郎所蔵文書……3516標
宮崎神社文書（越中国）…… 30(115)
宮崎弥左衛門書状……4852標
宮腰粟崎出入一巻……7706標
宮腰御舟小屋絵図……6045標
宮腰草高并家数人別および他国より入津の品々等相調理書上申帳……5962標

宮腰高免附之帳……6612標
宮腰町奉行手帳……6548標
宮腰道筋村々道程帳……7638旧
宮腰道筋村々道の里の御帳……7638標
宮保村内等にて鳥猟に付百姓共口上之覚書…7530旧
宮保村等にて鳥猟に付百姓共口上之覚書……7530標
宮保図……6093
宮参献立等記録……781旧
妙音集評……9682標
妙光寺文書（若狭国）……30(124)
微・陽公奉悼詩歌集……1095標
妙厳寺文書（能登国鵜飼）……30(132)
妙成寺所蔵寺庵方御触……6157
妙成寺触下寺庵寺号所附帳……6177
妙成寺文書（能登国滝谷）……30(131)
苗字寄……2928標
明千寺村五社宮神職杉山勇丸……6325
明千寺村明泉寺由来……6219
明珍家伝系図……30(159)
明珍家伝早乙女家系図……30(159)
明珍家伝訂正系図……30(159)
明通寺勧進帳（若州）……30(18)
微陽両公遺事……381標
微陽両公遺事抄……382旧
微陽両公夜話抄……382標
御代廼春鏡……614標
弥勒山安居寺旧記写……6289
三輪家伝書……3407標
三輪氏日記頭書……4532標
三輪文書……30(137)
三輪伝書……30(139)
明帰化人舜水尺牘……30(189)
明故徴君文恭先生碑陰記……30(153)
民政寮宛伺願書綴……6337標
民部省図帳……30(51)
民法文則……9265標

む

昔の十二ヶ月……9477標
六組御歩人高帳……2118標
無外題（書出今様出歌事）……30(174)
無外題（書出神楽譜序）……30(174)
無外題（禁裏御連歌等）……30(181)
無外題（元亀二年記）……30(69)
武蔵鐙系図……30(159)
武蔵国足立郡……30(50)
武蔵国荏原郡……30(50)
武蔵国荏原郡（異本）……30(50)
武蔵国越生報恩寺禁札写……5607標
武蔵国多摩郡……30(50)
武蔵国豊嶋郡……30(50)
無人島へ漂着之者於八丈嶋口書写……7715標
夢想之連歌……9655標
夢想要馬……8435標
夢中禄……9209標
陸奥国高道墓碑……30(152)
陸奥国燕沢碑文……30(152)
陸奥国名取郡……30(50)
陸奥国宮城郡……30(50)
陸奥物語……9712
陸奥話記……30(160)
陸奥話記……9712標
武藤甚助・角尾三右衛門口上書……4672標
武藤甚助等口上之覚……4672旧
武藤平左衛門等書状……4829標
宗良親王紀事……8901標
致貞先生朱書九ヶ条解……8196
致貞先生城取……8239
宗辰公御出生より御官位迄之留……239標
宗良親王詠歌賛辞……30(153)
無名録抜書……225
村井出雲御城代被付帳……2201標
村井出雲書状……3795標，3796旧
村井出雲守書翰写……3187旧
村井出雲養子一件留……3186標
村井家系……3113標，3114標
村井家譜……3106標，3107標，3108標，3115標
村井家譜書継調理……3109標
村井勘十郎筆記……348
村井勘十郎物語……332標
村井勘十郎由緒一類付帳……3907標
村井喜左郎知行宛行状写……2778標
村井喜四郎領知状写……2778旧
村井家宛御書……3408標
村井家縁組・家督相続之覚……3173標
村井家縁組等之覚……3173旧

村井家家中知行宛行状……3667標
村井家々譜……3103標
村井家記……30(158)
村井家軍器定……5329標
村井家系図……3104標
村井家系図并一類付……3105標
村井家雑録……4205標
村井家先祖之感状褒美等之事……3413標
村井家法名帳……3117標，3119標
村家文書写……3410標
村井家文書写九種……3410旧
村井家由緒書等目録……3112標
村井家養子等之留書……3193標
村井家略譜……3110標
村井氏家譜……3116標
村井氏家礼知行書写……3667旧
村井重頼覚書……325標
村井氏略記……136
村井氏聟養子ト相続ニ付申渡書……3194旧
村井主膳書状……3802標，3803標，3804標
村井親長伺書……3187標
村井親長書状……3796標
村井嫡子願一件……3172標
村井長八郎書状……3808標
村井藤十郎勘忍裁許状……2876標
村井藤十郎付置申度人数帳……3670標
村井藤十郎ニ付置申度人数之帳……3669標
村井長在相続一件……3194標
村井長堅覚書……4418標，4419標
村井長貞遺書控……3638標
村井長貞覚書……4092標，4224標
村井長貞・長在覚書……4234標
村井長貞・長在年譜……4234旧
村井長貞日記……4221標，4233標
村井長貞日記并学校方示談之品覚書……4232標
村井長時筆記……2514標
村井長時筆記抄……2515標
村井長祥請書写……3797標
村井長世書状下書……3798標
村井長世日記……4173標
村井長頼伝記並覚書……3518標
村井飛騨守家来知行取侍帳……3668標
村井豊後守実名之覚……3519標
村井豊後守書状……3801標
村井豊後守殿御渡之御覚書等……4086標
村井豊後守働覚書……210
村井平兵衛宛書状……3807標
村井又兵衛宛御書写……3805標
村井又兵衛宛御親翰写……2222標
村井又兵衛請書……2223標
村又兵衛覚書……3157標
村井又兵衛聞書……324
村井又兵衛記録……3517標
村井又兵衛組備立図……5646標
村井又兵衛口上書控……5614標
村井又兵衛書状……2224標，3806標，4431標
村井又兵衛書状之写……328標
村井又兵衛知行宛行状写……2765標
村井又兵衛月番停止之達書……2658標
村井又兵衛長道書状……3799標
村井又兵衛并笠間儀兵衛ヨリ書上候記録写……325旧，327標
村井又兵衛ニ付書翰……3804旧
村井又兵衛之覚書……3908標
村井又兵衛養子一件……3198標
村井又六様御目見一巻・同御縁組一巻……3181旧
村井又六様御目見御縁組一巻……3181標
村井文書……3409標
村井勘負遣書……3637標
村井靱負書状写……3800標
村井靱負聟養子一件……3188標
村鑑帳……5951標
村方諸上納切手留帳……7178旧
村上家系……8817標
村上家系図ノ写……8817
村上流山田軍書……7980標
村肝煎給米并勤方……6864標
村御印写……7027標
村腰斉輔等宅地，畑・山林境図……3627標
紫調緒之記……30(182)
紫野芳春院縁起……6306標
紫野芳春院御修覆絵図……1088標
紫野芳春院様御脇堂御再建諸職人図り書留……6439標
紫野芳春院寺中之図……6438標
村高帳……7131旧
村高等相調理書上申帳……5968

村田平兵衛口上書等……3561標
瓊姫様御婚礼一件……976標
村松標左衛門上申書……4009標
村々五拾ヶ年賦返上根帳……5275標
村領地引高願……7107標
村領地引免願……7107旧
無量光寺文書（相模国当摩）……30(125)
室鳩巣行状之事……3520標
室鳩巣書簡集……3809標
室新助書状……3810標
室直清建白書……30(189)
室直清書簡……30(189)

め

名家由緒伝……2929標
明君家訓……30(171)
鳴弦隠之巻……8369標
明顕逆射之事……8394標
鳴弦年竹之大事……8374標
鳴弦之聞書……8375標
鳴弦之事……8368標
鳴弦之次第……8376標，8377標
鳴絃書……8371
鳴弦引目相伝檀次第……8379標
鳴弦矢之図……8378標
銘香目録……10007標
名産之品々帳……7411標
明治改元之仰出書……1955標
明治元年御達覚書等……9260標
明治元年御礼之次第……3251標
明治三十三年暦……9523標
明治七年御製等……9672標
明治七年十二月・六弊一件書類……9467
従明治二年四月至同四年十二月為東京御守衛
出張之諸隊長其出張順兵隊交名等抜書附録……5589
明治二年御用留……6823標
明治二年分歳入租税等調理……5128標
明治二年ヨリ同四年マテ御醫衛等抜書……5590
明治四辛未冬十一月十二日太平海邦船亜米利
加号発航，特命全権大使岩倉公等乗込姓名録…8982
明治四年雑録……3977標
明治六年家禄奉還布告抄……9264標
名物茶目録……30(183)
明忘録……3876標
明良洪範抄……8861標
明倫堂御規制……5874標
明倫堂訓導等……5893標
明倫堂経武館記録……5902標
明倫堂役料之覚……5891標
明倫堂類表……5869標
明暦改作方旧記……6937標
明暦元年加賀国白山山域争論記事概略……10059
明暦の白山争議……1555
迷路抄……9899
明和五戊子年六月二日八幡新善法寺僧正様法
眼様金沢御出府，同月廿八日御屋敷へ御招請
ニ付御客附御献立御作法付等控……3653
明和七年下博労町々格定書……6563
明和六年光現院様五十回御忌留帳……10101
目坐末之艸……7349標
被召出候者留書……2851標
目見以上七拾歳以上之人々並町在扶持遣置候
九拾歳以上之人々名書……7285標
免状大星相伝巻……8017標

も

申送状……4113標
盲杖録……1848標
孟子略説……7762
申渡之覚……6597標
毛利家記……8748標
毛利敬親父子一件覚等……9337標
毛利秀元記……8749標
毛利六郎左衛門乱心一巻留帳……3521標
最上記追加……8684標
最上記抜萃……8684
最上軍記……8683標
最上義光改易等聞書……8848標
木馬之書……8581標
藻塩草……8340
茂枝雑鈔……62標
持宮決済之分……6192標
持宮等争論一巻……6190標
持弓持筒之儀控……5318標
元御預所高免帳……7374標
元御預所村々現銀御払米返納延引願等……7384標

元御預所村々非常貯用籾ニ付願書等写……7379旧
元御預所村々明細帳一件……2762標
元学校附組地絵図……6032旧
基五郎様御家督御礼被仰上御当日御客御作法
并御同所様御出改而御対顔之節御作法……1488
基五郎様御家督御礼被仰上候御当日御客御作
法等……1488標
基五郎様御発駕之節御作法…… 734標
基五郎殿御髪置記録…… 801標
本吉絵図……6044標
物成請取之覚書等……2774旧
物成并秋夫銀請取之覚……2774標
籾納返上根帳……6979標
紅葉山御供絵図……6445標
紅葉山之図……6446標
木綿屋彦兵衛一件……4680標
百浦村百沼比古神社神主宮谷信一……6322
桃井系図…… 30(156)
桃之助殿御出府御行列附……2729標，2730標
桃花家記録……8941標
盛岡城之絵図……9184標
盛菓子図……9849旧
森家記……8818標
森田小三郎文書…… 10102
森田平次意見書……2529標
盛庸覚書抜萃……8055標
守部系図…… 30(159)
森山熊野神社差出書類綴……6508標
森山熊野神社々領ニ付達書……6507標
森山熊野社文書（能登国）……30(113)
森山泰寛ヨリ差出書類……6508旧
諸岡彦神社文書（能登国）……30(112)
諸橋稲荷社文書（能登国）……30(113)
諸橋文書……6897標
問遣方往書……3974標
問遣方来書……3973標
聞香類聚…… 10002標
門前村櫛比諸岡神社神主四柳栄男……6325
紋槍雛形……5333標
問答録別集……7760標
聞名寺文書（越中国八尾）……30(130)

や

野営本陣備立図……8129標
八木音羽之風……9434標
役員交名帳二種……2158標
役替加増新知家督役掛等記録……2199標
役懸帳……2132旧，2135標，2144標
役掛帳……2136標
薬価即納簿……9565標
役方密談……5717標
役儀等御免拝領物……2197標
薬師寺塔露盤銘文…… 30(152)
役所張出し旧記之写……6936標
役附帳……2133旧
役高陣列略記……5309標
役人附番割等の覚……3958標
役人前録……8966標
役向日記……4750標
役向要用心覚……2279標
役料御加増新知等覚……2198標
役料所附之写等……2782旧
矢拵書註志……8494標
矢細工之事……8483標
屋敷打渡絵図……3563標
屋敷打渡覚控……3554標
屋敷方……3531標
屋敷方新御絵図御入用一件……3562標
屋敷内外にて喧咄有之節之掟……4608旧
屋敷拝領方願書……3547標
屋敷拝領地願……3546標
家地子商売方調帳……6619旧
八島軍伝……8751標
八嶋家伝来御一行物紛失届……2875標
八嶋巷歌識文秘解……9790標
八嶋巷歌□文秘解……8790旧
矢嶋権左衛門由緒等……2875旧
鏃模集……8461標
矢代口伝……8463標
社倉抜書……9427旧
矢代的繩古之節前後自分覚書……5677標
屋代文書…… 30(138)
安井顕比所蔵書簡写……3523標
安井顕比略系并履歴書……3522標

安井系譜……3121標
安井村安居寺崇光院様陵・長慶院様御陵絵図…9092
安井村安居寺長慶院様御陵絵図……9092
慰君様御里入之節御献立書……565標
靖国神社五十年祭一件……6398標
保田文書……30(138)
愷千代殿と淑姫君様御婚礼次第……8997標
箭筒弓台寸法之図……8527標
康富記抄……8676標
安見流砲術……8440標
箭代之書……8363標
矢田勘兵衛等請書写……3811標
矢駄村加茂下上社神職田中政秀……6322
矢田村製鉄所一件……5788標
矢田村製鉄所合盛米ニ付願……5787標
矢田村製鉄所之達書等……5786標
矢田村領等ニ而製鉄所御用地被仰付候一件……5788
矢違之衛……8307標
野帳・領絵図受取目録……7057標
宿札員数……10075標
宿札欠数……10075旧
宿屋木銭請取書……10065旧
矢取台之図……8469標
宿割帳……10074標
柳瀬合戦……8022
柳瀬合戦前後問議……8023
柳瀬合戦前後略譜……8032標
柳瀬合戦略記……8031標
梁瀬合戦略譜解……8033標
柳島妙見へ御参詣之節森川五郎右衛門別荘数寄屋并座敷飾附……651標
柳田八幡宮文書（能登国）……30(113)
柳之御間之図……1308標
矢并早矯之事等……8447旧
矢并鉄炮之事……8447標
矧寸法定等……8337標
八幡村八幡宮小室村諸岡比古神社相神村相見神社神職曽原昌貫……6322
矢開之次第附矢口祭事……8302旧
流鏑馬之次第……8346標
流鏑馬并調練等記……5693標
矢馳馬之次第……8346
山御年寄衆御貸小屋絵図……3619標
山形出羽守義光之旧記……8848旧
山岸七郎兵衛書状……3812標
山口記……5369標，5370標，5371標，5372
山口源五郎願書写……2207標
山蔵縫殿助書状……4818標
山崎家系……3122標
山崎家譜……3123標
山崎軍功記……3524標
山崎左太郎先祖功績事蹟拾遺……3415標
山崎氏切銃刀記……30(153)
山崎氏撰菅家累譜不審答書……181標
山崎長門守家来侍帳……3672標
山崎村天神社河原村神明社神職高崎知数……6322
山階家記録……8681標
山代志稿……9063標
山代社旧神職武田繁囧田地等旧藩寄附地絵図…6489
山代社境内絵図……6489
山城図……8288標
山城国愛宕郡東紫竹大門村芳春院明細帳……6219
山城国兎道郡……30(49)
山城国久世郡……30(49)
山城国風土記……30(47)
山城国淀城之図……9204標
山城之図……8211標
山城之図写……8212標
山城名勝志引書抜粋記……30(51)
山代薬王寺由緒書……6058
山田系図……30(157)
山田新田由緒根帳……7088
山田伝丞・倉知久兵衛書状……4823標
山田野新田由来……7088標
山田正勝系図……3124標
山田村八幡宮神職堀内和泉定業……6325
山田文書……30(138)
大和守利孝君家系……1500標
大和国宇陀郡……30(49)
大和国風土記……30(47)
大和国平群郡……30(49)
大和めぐり……9773
大和流弓書……8354標
大和流弓書天地之巻……8354
山中温泉縁起……9777
山中行記……9780標

山中十景詩……9777
山中湯治日記……3858標
山中湯由来……9777
山伏頭医王寺持宮上野村八幡社一件……6190
山本勘介晴幸入道々鬼……8819
山本久太郎書状……3813標
山本源右衛門覚書……357，358
山本随筆……357
山本案百蔵書翰……3814標
山本道鬼由緒……8819標
山本基庸建言書……30(189)
山本基庸書状……3815標，3816標
山本文書……30(138)
山本弥二右衛門書状……4831標，4832標
山脇節夫碑陰記……30(153)
槍拵之図等……8537標
夜話……383標
夜話抜書……326標

ゆ

湯浅翁手簡……3885標
湯浅三輪両家伝書……3416標
由比勝生発句集……9692標
維摩会記録撰要抄……30(89)
維摩会講師次第……30(89)
維摩会読師記……30(87)
維摩大会撰要記……30(86)
雄鑑抄……7919
雄鑑微妙至論巻……7916
有磯遺草附源康正和歌……9611標
結城戦場記……8693標
游記等七種……9777標
遊軍三備……8144標
遊軍三備之図……8144旧
幽谷先生遺稿……7727標
幽斎道之記……9744標
融山院由来帳……6222
有章院様御法事一件書抜……1175標
遊所歌舞伎等御尋之御請……9908標
有初有終録……3349標
祐仙院様御居宅御絵図……1419標
遊泉寺山々師御給銀等人別調理書……7558標
有職聞書……8920標
有職問答……8925標
雄飛館大砲方渡絵図……5918標
雄備集……7927
夕日神社縁起……30(13)
勇姫様御婚礼一件……937標
勇姫様御婚礼御用留帳……938標
湯川南里墓碑銘……3525標
雪竹の言葉……30(175)
行山新右衛門口上書……5711標
行山新右衛門書状……4805標
湯原氏青山五左衛門へ問合之内抜書……3862旧
由比勘兵衛所持之冑由来書并紙面……8548標
弓書……8326
弓之図……8493標
弓之本地……8298標
弓之由来……8487旧
弓初聞書……8364標
弓初并乗初之節之絵図……5675標
弓藤遣様之次第……8305旧
弓目録註解……8327標
弓矢請取渡しの法……8365標
由美弥二郎書状……3817標
弓矢惣名……8488標
弓矢の書……8487標
弓矢来歴……8296標，8297標
由良播磨守より指越候由緒書……6309

よ

葉役始末……5517
葉役集書……5517
葉役日録……5514標，5515標，5516標，5517
楊貴氏墓誌……30(152)
要器詳伝……8553標
楊弓あらまし聞書……8490標
謡曲口伝鈔……9979標
謡言粗志……9974標
謡言粗志拾遺……9975標
謡言粗志訂補……9976標
謡言粗志漏脱……9977標
陽広院様御歌……1240標
陽広院様御詠歌百首……1238
陽広院殿霊堂遷座一巻……1096標
陽広公偉訓……30(171)，386標，389標

陽広公偉訓附教歌……384標，385標
陽広公遺訓附録……9631標
陽広公遺事……390標
陽広公御夜話……388標
陽広公御夜話—諱訓—……387標
陽広公御法事留……1097標
陽広公道歌百首……1238
陽広公百詠……1238
陽広公百首御歌……1238標
永光寺置文（洞谷山）……30(18)
永光寺関係記録……6187旧，6509旧
永光寺古文書写……6276標
永光寺境分間番杭帳……6509標
永光寺文書（能登国酒井）……30(126)
養蚕方御触抜書……7456標
養蚕規範……7454標
養子縁組願等……3185標
養子ニ付口上書……3184標
要聚鈔……9898標
陽春院様一件……380標
養生訓……9558標
横笛譜越天楽并今やう……9901標
用水方材木代銀等取極書……7224標
用水川除等留七種……7228標
容体書記録……9563標
幼童手引前田御系図……90標
陽徳院女房奉書写……8667標
溶姫君御引移一件……911標
溶姫君様御行列控……906標
溶姫君様御引移一件……909標
溶姫君様御引移御婚礼御用日記……910標
溶姫君様御引移御用……912標
溶姫君様御詠……1263標
溶姫君様御婚礼御用留……902標
溶姫君様御婚礼之節警固建方絵図……908標
溶姫君様御住居定式一ケ年分御入用御省略取調帳……5152標
溶姫君様御入輿一件書抜……901標，903標
溶姫君様御入輿之上御献上并御進物御用之御刀等御用意一件……914標
溶姫君様ヨリ因幡守様へ御手向御詠……1263
溶姫様江戸へ御引返之節御道中御行列附……732標
溶姫様御婚礼一件……904標
溶姫様御婚礼ニ付献上物伺……913標
溶姫様御祝儀献上物留……913旧
楊姫様御結納之儀ニ付小笠原縫殿之助殿御越之節御作法……856標
溶姫様入国一件……725標
庸夫俚談……6280標
用法自鈔……7924標
用法抄……7922標
謡本好文木……9980旧
要門切紙秘伝之内押前制法巻口義……7988
要用抜書……7433標
預玄院書翰写……1249標
除知米代銀之書附……5207旧
除米ニ付算用場奉行へ達書……6980標
横地秀之進北越出兵一件綴……5482標
横目足軽従神奈川之届写……5821
横目方旧記……4802標
横目勤仕方御定覚……2446標
横目勤方……4813標
横山和詩写……9610旧
横山家譜……3126旧，3127標，3128標，3129標
横山家譜并補註……3126標
横山家譜之抄……3128旧
横山義六郎居屋敷拝領願等写……3544標
横山義六郎覚書……3657標
横山義六郎家来磯田半右衛門妻変死一件……4671標
横山義六郎家来磯田半右衛門妻変死届等……4671旧
横山義六郎書状……3821標，3822標
横山蔵人病死之件諸事留……3658標
横山蔵人養子一件……3199標
横山系図……3125標
横山家歌会披講……9676標
横山外記由緒覚書写……3137標
横山家系図等十三種……3133標
横山家系図之写……8820標
横山左衛門書翰……3823旧
横山氏覚書……3418標
横山氏記録……3419標
横山氏記録ヨリ富山支藩ニ関スル記事抄録…2712旧
横山氏系図……3131標，3136標
横山氏所蔵旧記……3420標
横山氏所蔵書状……3819標
横山氏日記……4171標

横山如雲口上之覚……350標
横山新左衛門書状……4819標
横山・多賀手覚……4131標
横山隆平家蔵旧記……3421標
横山隆平家蔵古文書等……351旧，3422標
横山隆平旧記……3526標
横山隆平祖先以来事蹟書……3130標
横山隆幹文書……10102
横山隆盛叙爵一巻……2908標
横山忠次書状……3823標
横山竜子哀悼歌……9678標
横山竜子詠草……9675標
横山遠江守組備立ノ図……5647標
横山長隆公碑銘并長知公伝……3528標
横山長知伝……3529標
横山縫殿屋敷拝領願并図……3551標
横山半喜墓碑銘……30(153)
横山秘冊……3417標
横山政和詠草……9674標
横山政和覚書……4254標
横山政和所蔵御書写……10101
横山政和・前田晋・横山隆淑手留抜萃……4109標
横山政和文書……10102
横山政次郎等家督相続之申渡……3171標
横山政孝御続柄帳……3134標，3135標
横山政寛宛書状写……3818標
横山元僻先祖死後年号等覚……3138標
横山文書……30(138)
横山山城守揚地図……3629標
横山山城守覚書……351標
横山山城守叙爵之留写……2907標
横山山城守書状……3820標
横山大和守口上書……4826旧
横山大和守等書状……4826標
横山蘭州書蹟……9732標
横山略系図……3132標
横山隆平日記……4002標
義詮将軍宣下行列附……30(8)
義景記……8706標，8707標
吉崎鹿鳴絵図……7363標
吉崎道の記……9776
吉崎村新道切明け箇所申分詮議一件……6988標
義貞軍記……8059標
吉田一流村矩名秘書……8474標
吉田家系……3139標
吉田家系図……8339標
吉竹村道の記……9776
吉田氏系図帳　外二種……3140標
吉田射法系譜……8338標
吉田神社文書（常陸国）……30(105)
吉田惣兵衛書翰……4824旧
吉田惣兵衛等書状……4827標
吉田訴状一件……3932旧
吉田大蔵書状之写……3824標
吉田文右衛門訴状一件……3932標
吉田印西派秘事聞書，弓目録註解……8327
吉田茂平高山藤右衛門喧嘩追懸者役相勤申内喧嘩之沙汰ニ而罷出候覚書且又牧彦右衛門相勤候内同事……4640
吉田氏弓書叙等……8336標
吉田流印可之条々……8333標
吉田流弓道相伝之次第記……8322標
吉田流弓道由来……8322旧
吉田流弓法根之巻……8476旧
吉田流弓法根之巻手覚……8477旧
吉田流弓法免状……8341標
吉田流弓法目録……8324標，8325標，8326標
吉田流件之巻聞書……8335標
吉田流五行弓矢……8475標
吉田流極々秘伝肝要箭揃集……8448標
吉田流極秘事弾品々小図……8478標
吉田流三光之書……8323旧
吉田流所要箭揃集……8448旧
吉田流大意要法……8328標
吉田流手前之条初篇……8330標
吉田流目録諸合留……8329標
吉田流弾品々之図……8478旧
吉田流弓書叙等……8336旧
吉田流弓手前之条々……8331標，8332標
吉田流弓村之書……8342標
吉田流弓村之條々……8342
吉田流弓村之目録……8343標
吉田流歴代名判之書……8340標
吉田六左衛門秘書……8164標
吉野拾遺……30(179)
吉野十景巡見記……9781

吉野百首……30(178)
吉野邨領十景記行……9781標
吉晴武功……8889標
吉見伝書……30(136)
吉村金左衛門手負一件……4653標
慶寧公家乗……267標，268，269標
慶寧公小伝逸事并御詠……424標
慶寧公の上書……1524標
豫章記……8750標
与荷米畑山年貢出入訴状写……7158標
米川常白炷合之伝書并葆光斎防録……10009標
世世七条雑記……9603標
寄親附与力御加増の件達……2864標
与力明知代官勤方帳……6127
与力明知村附帳……2861標
与力御定留……2325標
与力御定等……2326標
与力御定等三種……2327標
与力御屋敷拝領判帳……3537標
与力方御親翰等之控……2122標
与力方之留帳……4558標
与力家中侍縮方達書……1934標
与力指物目印紋之定……2048標
与力知行村附……2783標
与力知三之一并三之二・十歩一之事……2858標
与力知之願書願……2863標
与力寺一統法義縮りについて覚……6366標
与力同心知留帳……2865標
与力同心留記……2329標
与力等取捌一件……2124標
与力本末略考……2935標
与力屋敷請取之書……3560標
頼冒上卿下知案……8669標
頼朝卿・前田利光等御判物写……6495標
寄薬草……30(181)
鎧の胴并袖之図……8547標
万跡書帳……4058標
万覚……4525標
万覚書……35標
万皮入払帳……4721標
万聞書……2518標
万留帳……4525旧
万留帳抜書……4526標
万箭之次第……8460標
四ケ寺御法号附……1191標

ら

来月二日学校并武学校御開ニ付御作法之次第……5865
来春御馬乗初并御謡初之節御差略方詮議之一件……5056標
来舶私考……8081
萊菔之事……9538標
洛中月次参詣記……9773
楽焼系図……9841標
楽焼・硝石製造等一件……7575標
楽焼陶家系図……30(159)
洛陽因幡堂薬師縁起……30(17)
洛陽般舟三昧院記……30(15)
藍君城図序……3246
蘭洲筆記……3887標

り

李花集新葉集（抄出）……30(177)
陸軍省官員録……8981標
俚諺譜……3392標，4525旧
理財局通三口分控……5200標
理松院様三百年御忌大法会御披露概意……1094標
理塵集抜萃……6943標
理尽抄四隊之陣取……8104標
立坊学士并浴殿僊……30(8)
理之助漂流一件……7718標
李北海帖……9877標
略譜……7807，7808
略譜小解……7862標，7863標，7864標
柳菴雑筆　巻四抄……8888標
柳営御鹿狩図……10024標
琉球人詠歌……9668標
琉球人登城献上物等控……9356標
琉球来朝記……9354旧
立華院様御法事留……1162標
竜郊君上書……4018標
龍光公以降記録……2702標
龍光公御定書……2708標
流行之病気ニ付御触之趣写……7332標
龍作夜話……370標

龍笛血脉系図…… 30(159)
竜笛血脉并大家系図（系譜部并蛾之）…… 30(174)
龍門寺居屋敷寄進状写……6514標
龍門寺文書（能登国七尾）…… 30(130)
両亜相公治命書……1227標，1233
諒闇中葺菖蒲事…… 30(7)
領絵図製法二種……9518標
両御寺御法事之節席付図……1143標
両御寺等御参詣帳…… 663標
於両御寺御法事之節御両家ヨリ御代香御使者
有之節之覚……1158
楞伽禅寺私記（平安城北建）……30(15)
両学校へ御出之節御先立之図……5928標
両学校へ御出之節先立之図……5927標
両学校絵図……5921標
両京新記……9605標
両寺院取次勤方等御省略不被書出候一件并寺
庵数等之事……6191
両支配諸方紙面大概……3919標
領知宛行状並目録写……9420標
両茶屋町一件……6581標
両貞先生四対八城図……8220
糧道方一件……5606標
糧道方御用出役中諸雑用内輪書上帳……5601標
糧道方御用に付御入用金巨細書上帳……5605標
糧道方為御用敦賀表へ出役等御入用金請払帳
……5600旧
糧道方出役中宿料等御渡金請払書上申帳……5603標
糧道方ニ付敦賀等へ御出役中小遣等諸雑用金
書上申帳……5602標
領内伊勢神領収納方調理一件……6523標
領内浦方絵図面抜書……6052標
領内寺社拝領屋敷調書……6469標
領分高辻帳……2717旧
両毛紀行……9775標
旅行之節諸事聞書……7704標
旅行覚紀……7704
旅亭暁困雑記　軍学受用……7963，7964，7965
旅亭暁困抄……7811
臨時御屋敷内御用一件留……5665標
臨時御出張之節御組中へ御談置等之ヶ条書…5659標
臨時御登城御行列附帳……1635標
臨時御登城之節御行列附……1636標
臨時出馬之節行列之次第……5658標
臨時出張ニ付御達……5850旧
臨時出張之節指物等相伺候ニ付被仰渡候等…5838標
臨時出張之節人馬請取帳……5849標
臨時出張人高員数帳……5851標
林門諸氏詩文集……9646標

る

類聚国史……8582標，8583標，8584標
類聚国史残缺惣目録……8589標
類聚国史抄出……8588標
類聚国史補……8585標，8586標，8587標
類聚御用番記……2340標，2341標
類聚定書……1887
類聚苗字録……8932標
類聚服忌令……10094標，10095標
類族大病之節看病之被仰出書……1948標
類族大病之節之達書……1948旧
流刑人一巻……4681標
留守居翁問答……2266標
瑠璃峯万福寺略縁起……7746

れ

霊鑑院様御十三回忌御法事絵図……1171標
冷泉家文書…… 30(133)
冷泉為和卿集（抄出）…… 30(177)
霊泉寺文書（能登国七尾）…… 30(130)
礼法御入門之記……9485標
歴世襲封一覧…… 126標
歴代華押譜…… 10038標
歴代加賀藩侯及近親系譜……87標
歴代御法号……1185標
歴代将軍略評……8758標
歴代藩公年譜…… 164標
歴代藩主御年忌之表……1070標
列国雑雑のさた……9748標
列伝部草稿……8835標
列藩士より天朝・幕府へ建言写……9225標
連歌花何……9657標
連歌秘抄…… 30(181)
蓮華王院文書（京都）…… 30(125)
蓮江寺文書（能登国輪島）…… 30(130)
蓮湖魚尋説……9559標

蓮昌寺焼之図……7300標
連城の図……8265
蓮心寺住持手前不届之条々……6339標
連陣取図……8116標
蓮池上之御殿等請取火消勤方帳……4927標
廉夫孝子貞婦伝……7276標

ろ

老翁雑記……2577標
浪士一件加勢ニ付仰出書……5530標
浪士一件ニ付請書……5529標
牢舎人帳之内抜書……4682旧
老中外様門前御箱先御供先立之図……6452
老中松平越中守殿申談之写……8870
老中ヨリ案内次第登城之節人数之覚……1635
老子俚解……7766標
老人雑話……30(184)
牢帳……4689標，4694標，4695標
牢帳札・御用番聞届物……4691標
老若問答集……2664
鹿苑院相国准法付諸家……30(8)
六関記……7776
六具番大事……8289
六冊之御定書……1887標
六十五騎陣取之図……8153標
六城之図……8268旧
六孫王張弓之巻……8306
六歩壱小荷駄積私考……8087標
魯西亜国等条約并税則……9401標
魯西亜使節へ武鑑渡方之儀申上候書付……9404標
魯西亜条約……9386標
魯西亜人買上書目書上帳……9600標
蘆城風藻……9671標
六角高頼及一類記録……8876標
六ケ年平均郷村高帳下タ調理……7128標
魯都英仏戦記……8628標
ロレイロより関沢明清への書簡……5157旧
論語愚鈔……7762

わ

若江道明寺八尾合戦之覚……8736
若君様就御誕生城其外御祝儀被造之帳等……496旧
若君様御誕生之祝儀跡書帳等……496標
若御前様御眉直御袖留御用留……820標
若御前様御初観音院へ御出之節御縮図……702標
若御前様御初観音院より向山へ御出之節御縮絵図……703標
若御前様大乗寺へ御立寄之節御縮絵図……704標
若狭守様附面々覚……10077標
若狭国守護職次第……30(59)
若狭国伝記……30(59)
和歌食物本草……30(173)
和歌題林抄・雑部……9690旧
若年寄以上被仰付候儀等記……2846標
若年寄御先立覚書……4054標
若年寄方覚書……4235標
若年寄方御用心覚留……4247標
若年寄方御用留……4143標，4236標
若年寄方古例抜書……4050標
若年寄方諸事頭書抜書……4051標
若年寄方諸事控……4140標
若年寄方諸雑……4239標
若年寄方主付中等留……4236
若年寄方主附留并日記……4236
若年寄方年頭御先立等覚……4052標，4053標
若年寄方控帳御厩方御馬方御道具諸事控置……4140
若年寄留帳……4126標
若原村預飛地絵図……6085旧
若原村領絵図……6085標
若松在陣参謀之通達等……5435標
若老方覚書……4055標
和漢諸氏訓誡……7792標
和漢千字文集……9797標
和漢珍書考……9604標
脇往還筋書付……7693標，7694標
脇往還筋書付雛形……7695標
脇往還筋行程取調之儀従公辺被仰渡天保四年御書上ニ相成候一件副書所留帳之内抜書……7682
脇往還筋行程取調之儀従公辺被仰渡之御書上留帳抜書……7682標
脇往還道筋調方一件留帳……7683標
脇坂中務少輔書目録……30(90)
脇刺扱い様心得……8416標
脇田家伝書……30(188)，3425標
脇田如鉄覚書……3530標
若子様御誕生祝義献上物書抜……767標

若子様御誕生并御七夜御祝義献上物之義書抜 …… 767旧
和語四十八願……7748標
和琴灌頂譜…… 30(174)
和佐系図……3141標
輪島馬廻屋敷見取絵図……2076標
輪島御馬廻十軒屋敷見取図……2077標
輪島河井町領字矢田ヶ谷内ニテ火薬入等御土蔵地元見取絵図……5780標
輪島漆器開業沿革書……7592標
輪島在住心覚留帳……5861標
輪嶋崎天神文書（能登国） …… 30(113)
輪嶋重蔵宮文書（能登国） …… 30(113)
輪嶋総略絵図……6104標
輪島并近浦津波一件……7312標
輪島凪至町神職浅井清之亟則定……6325
輪島町重蔵神社神主能門従五位重連……6325
輪島町村高并産物之品々等書上申帳……5969標
和州郡山城図等……9186標
和州金剛山ニ浪士立籠り一件……9328標
私共勤向書上申帳……2242標
渡銀調理帳……5180標
綿商売・批商売・質商売・薬種商売并合薬商売株立運上被仰付候ニ付調理書上一巻……7423標
綿津屋政右衛門自記……9906
綿種油紋方株商売願書付等写……7583標
渡辺永一所蔵文書写……3427標
渡辺源五郎書状……3825標
渡辺源七口上書……3826標
渡辺幸庵小伝……8868標
渡辺幸庵物語…… 30(184)
渡辺幸庵和歌考……9616標
渡辺所左衛門書状……3827標
渡辺兵大夫加増之覚……2854標
渡辺又作系図帳……3142標
渡辺文書…… 30(137), 3426標
渡辺与右衛門系図并附属之書類……3143標
割尻籠弓台寸法之図……8520標
割尻籠弓台附寸法之図……8521標
割場御貸衣類減之方調帳……5137標
割場御定書御条目……2420標
割場御道具渡り方之儀ニ付御横目所披見物写…6191
割場旧記……4728標
割場稽古所ニテ焰硝燥発之留書……5699標
割場御条目等留……2421標
割場御用指定り請取候定入之義ニ付右奉行紙面写……5136旧
割場御用定入に付奉行紙面写……5136標
割場附小者吉郎右衛門妻変死一件……4675標
割場附小者之妻縊死ニ付達書……4675旧
割場総組地絵図……3605標
割場留帳抜書……4726標
割場等飛脚一件……6530

あ と が き

本目録は，加越能文庫の価値が次第に広く認識され，利用が増加してくることに応えて，稿本『加越能文庫目録上・中・下・補遺』（昭和39～41年刊）を改めて，さらに詳しく分類し，解説も付して便宜に供するために企画されたものであった。

本目録の作成作業は，昭和42年から始まり，昭和50年３月に上巻を刊行したが，その後，下巻収載の分についてさらに念査を加え，今ようやく刊行を完うすることになった。その間の10年に余る期間をふり返る時，調査員の大部分が交代し，また各自の本務の間を縫って進めた作業は，大量で内容の広い資料群を前にして時に息切れを覚え，他方で，より入念であろうと意欲をかき立てることの混り合った経緯であった。それにしても，この遅々とした歩みのために利用者に御迷惑をかけた点はおわびしなければならない。また，昭和54年に図書館が設備の整った玉川町の新館へ移転し，加越能文庫の収蔵，利用も格段に改善されたことを書き添えたい。そして，本目録の完成を機に，10107点に及ぶ資料の一連番号および請求番号はすべて書き変えられることとなった。

本目録は，各資料を主要な内容に即していずれか１つの項目に分類しており，他の項目に再掲することはない。なかには多様な内容を収載した記録類があり，また文書・記録の伝来形態を尊重して，一括されたものをなるべく分割しないようにしたため，１つの資料の内容が２つ以上の分類項目にわたる場合が当然生じたが，それは，より総合的な項目へ配属するか，主要な内容に従って配属してある。たとえば，大横目関係は政務―横目方にあるが，藩士―私文書の中川氏関係にも中川八郎右衛門長種の役務書類が入り混っている。また形態分類による立項をしなかったので，絵図は城絵図，国絵図，郡村絵図，参詣指図などの内容によって配分した等々である。利用者は，各自の課題関心にもとづいて本目録の記載内容を手がかりとして縦横に駆使して活用していただきたい。

なお，下巻の構成は，上巻の緒言で予定した項目区分をいささか変更したことをお断りしておきたい。

最後に，下巻の調査に際して，大谷大学文学部助教授大桑斉氏と当時金沢大学大学院生であった深沢源一・大野充彦・見瀬和雄氏に一部御協力いただいたことを記し，感謝の意を表したい。

資料調査員

主任	高沢裕一	金沢大学文学部教授
	長山直治	石川県立金沢西高等学校教諭
	中野節子	金沢大学文学部助手
	室山　孝	石川県立金沢泉丘高等学校教諭
	木越隆三	石川県立金沢向陽高等学校教諭

事務担当

館長	中村　豊	主事	谷山　央
館長補佐	芝垣　勇	司書	氷見善紀
副参事	吉本澄与治	司書	宇佐美　孝
奉仕係長	忠田敏男	嘱託	嶋田涼子

関係歴代館長	館長補佐	協力者
丸山定雄	高藤一	伊藤　茂
荒木　登	加藤稜威男	中西美紀
宮竹広春	戸田政雄	小川朋子

加越能文庫解説目録　下巻

昭和56年5月20日　第2刷
昭和56年5月30日　発　行

編集発行　金沢市立図書館
〒920　金沢市玉川町2番20号
電　話（0762）21—1960

印　刷　北国書籍印刷株式会社
本　社　金沢市泉本町2丁目155
〒921　電話　金沢(0762)42—3254
工　場　石川郡野々市町太平寺
〒921　電話野々市(0762)48—1151代